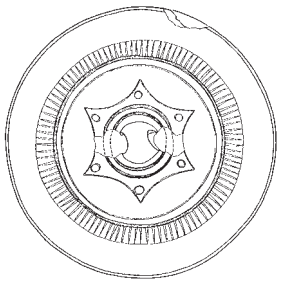
市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第５集

上総国分寺台遺跡調査報告XVIII

市原市御林跡（おはやしあと）遺跡Ⅱ



2008

市 原 市 教 育 委 員 会

市原台地全景（養老川上空付近から北東方向） 1978年度撮影

国分寺台全景（市原市庁舎上空付近から北西方向） 1978年度撮影

巻頭図版 2

根田代遺跡（右上、調査前）、台遺跡C地点（下）、御林跡遺跡（左上） 1978年度撮影

根田代遺跡（右上、調査前）、御林跡遺跡 1978年度撮影

174号遺構出土内行家文鏡

遺跡出土鉄器

（左上から284-16・295-27・5-18・88-18・122-7・75-19・186-9・174-2・99-40・99-39・174-3・153-10・69-4）

巻頭図版 4

遺跡出土石斧

（左上から88-16・61-68・33-22・62-14・235-6・150-7・61-70・272-49・150-8・88-15・203-48・61-69・202-15）

勾玉・管玉類

（左上から28-29・57-3～4・68-24・117-15・130-24・143-28・240-39・246-29・一括28・4-16～17・17-49～50・142-14～15・143-29～31・203-49～50・304-23・一括33・21-10）

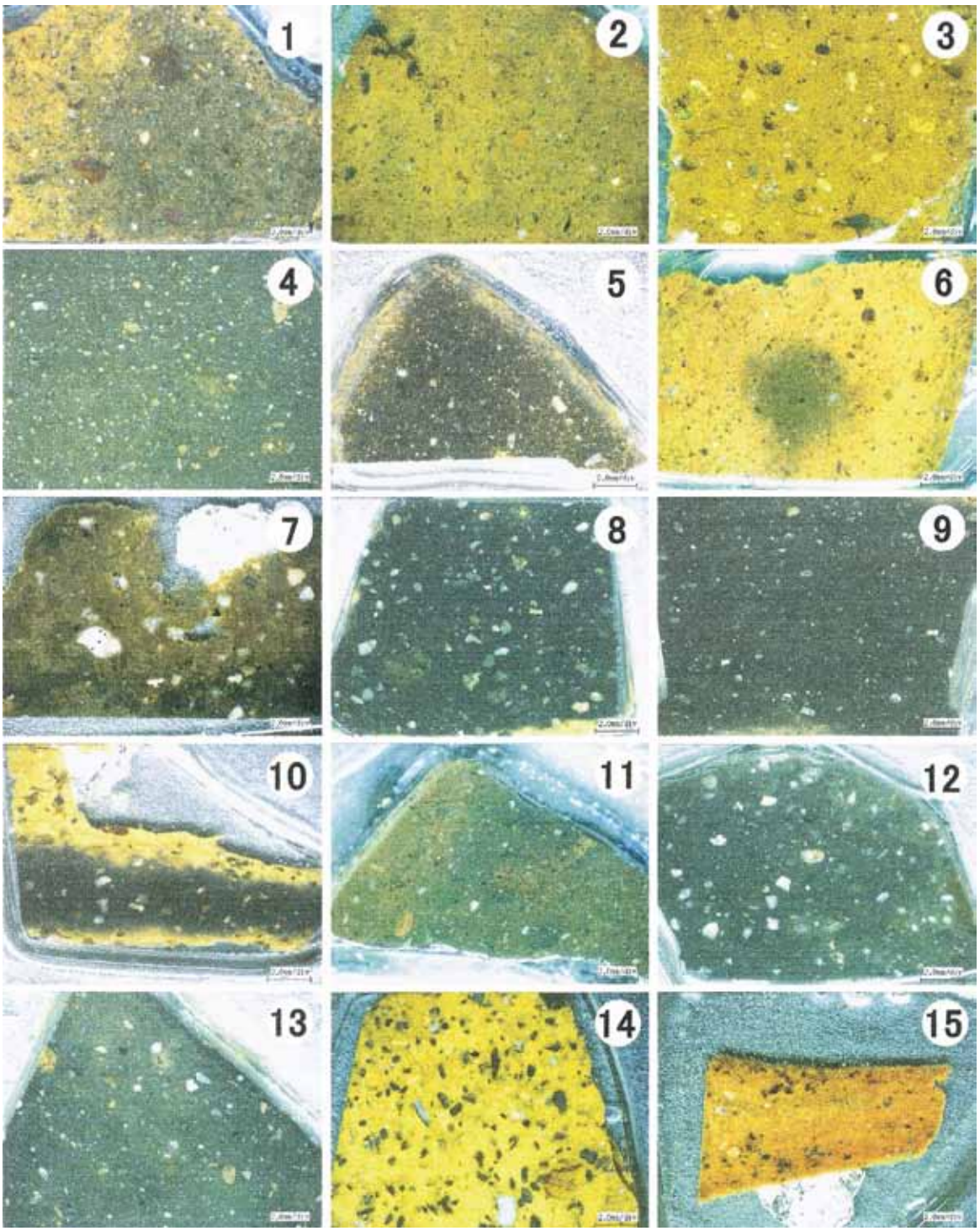
臼玉（50-23～29・34・30～37・92-39～40・110-38・43～47・139-34～48・140-14～17・182-26～30・一括）

ガラス玉（5-14～73・79・80・6-1～3・7-1～12・143-27・一括32・33）

巻頭図版 6

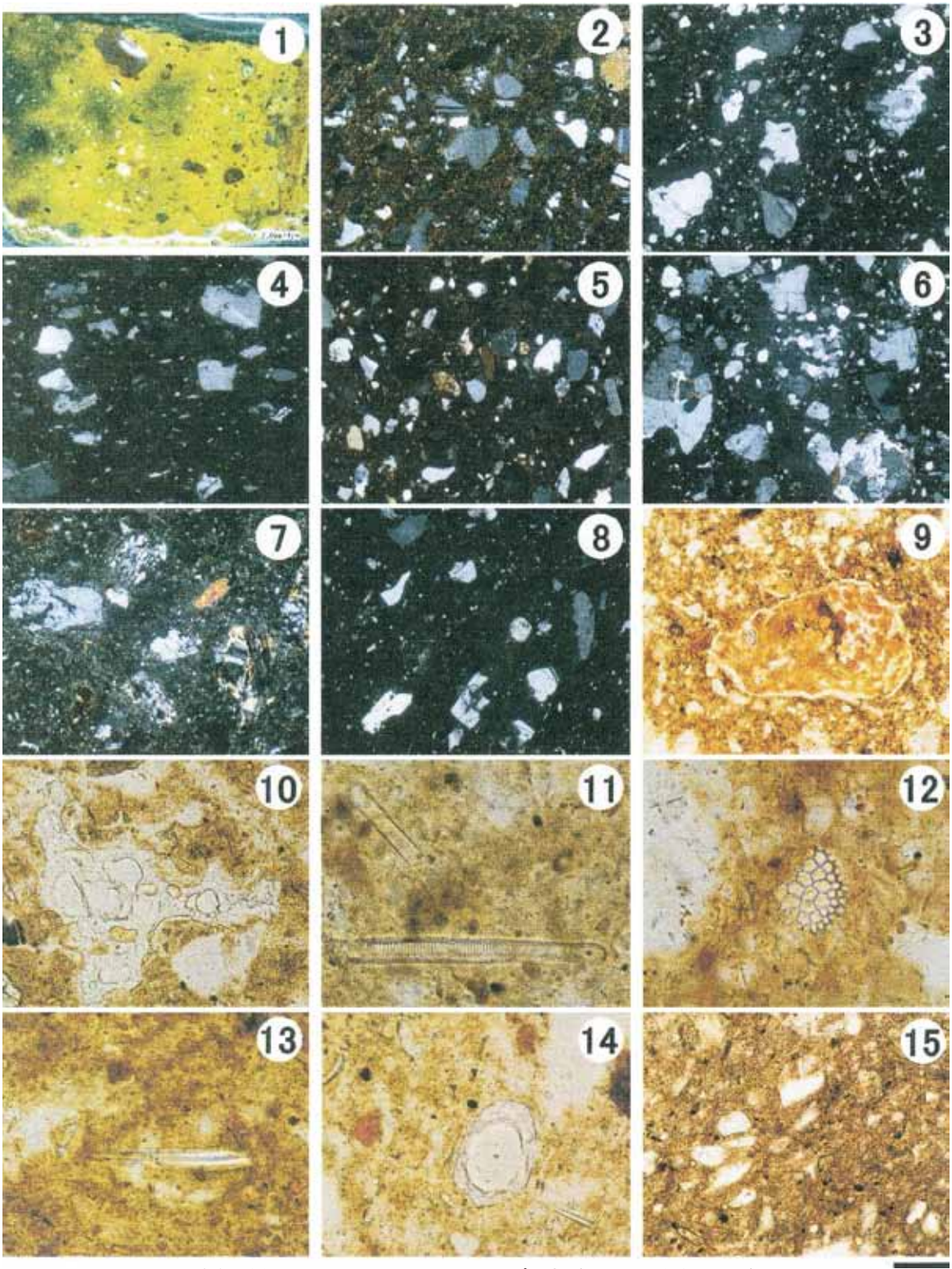
須恵器

土師器



胎土分析１．切断面のマイクロスコープ写真

１．分析No.１　２．分析No.２　３．分析No.３　４．分析No.４　５．分析No.５　６．分析No.６　７．分析No.７　８．分析No.８
９．分析No.９　10．分析No.10　11．分析No.11　12．分析No.12　13．分析No.13　14．分析No.14　15．分析No.15



胎土分析２．切断面のマイクロスコープ写真（２～８は直交ニコル）

（スケール；10・11が0.5㎜、13・15が50㎛、14が20㎛）

１．分析No.16　２．分析No.47　３．分析No.53　４．分析No.54　５．分析No.56　６．分析No.57　７．分析No.59　８．分析No.60

９．粘土塊　分析No.49　10．ガラス質　分析No.48　11．淡水種珪藻化石　*Eunotia biareofera*　分析No.57

12．海水種珪藻化石　*Coscinodiscus* 属／ *Thalassiosira* 属　分析No.48　13．骨針化石　分析No.48

14．ヨシ属珪酸体化石　分析No.47　15．ヨシ属珪酸体化石　分析No.60

序　文

市原市は千葉県の中央部に位置し、「王賜」銘鉄剣や上総国分寺・国分尼寺に代表される埋蔵文化財の宝庫として知られています。

現在「国分寺台」の名で親しまれる住宅地の一帯に、土地区画整理事業が計画されたのは昭和45年のことでした。以後、昭和47年から63年までの17年間にわたって、43遺跡の発掘調査が進められてきました。

今回報告する「御林跡遺跡Ⅱ」は、弥生時代中期から古墳時代中期まで連綿と続く集落跡で、千葉県下でも最大級集落の発掘調査成果をまとめたものです。

本書が、学術的な資料としてはもとより、広く市民の皆様に活用していただけることを願っています。

最後に、発掘調査から整理報告にいたるまで多大なご協力をいただきました旧市原市国分寺台土地区画整理組合の方々、旧国分寺台遺跡調査団の方々をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成20年３月

市原市教育委員会

教育長　山崎　正夫

例　言

1. 本書は、市原市国分寺台土地区画整理事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2. 本書に所収したのは以下の遺跡である。

（１）辺田古墳群　市原市惣社789－１地先（現市原市根田１丁目地先　市原市埋蔵文化財分布地図遺跡番号724－⑨）

（２）御林跡遺跡　市原市惣社字辺田788地先（現市原市根田１丁目地先　市原市埋蔵文化財分布地図遺跡番号723）

市原市埋蔵文化財分布地図によれば、上層としての古墳群を辺田古墳群、下層としての集落跡が御林跡遺跡であるため、厳密にいえば平成15年度刊行「辺田古墳群・御林跡遺跡」から唯一漏れた辺田９号墳を含む本報告範囲の遺跡名は、「辺田古墳群・御林跡遺跡Ⅱ」が正しいのかもしれない。しかし、今回報告範囲の主体はあくまでも下層の集落跡である。したがって報告遺構が１基しか存在しない終末期古墳に、古墳群の冠をつけた報告書名は適正ではないと判断し、本報告書名は「御林跡遺跡Ⅱ」とする。

3. 発掘調査は、市原市教育委員会の委託を受け、千葉県教育委員会・市原市教育委員会の指導のもと、昭和53年度に上総国分寺台遺跡調査団の平野考古学研究所が主体となって行なった。発掘届上の調査総面積は12,000㎡であり、調査期間と面積、及び担当者は以下のとおりである。

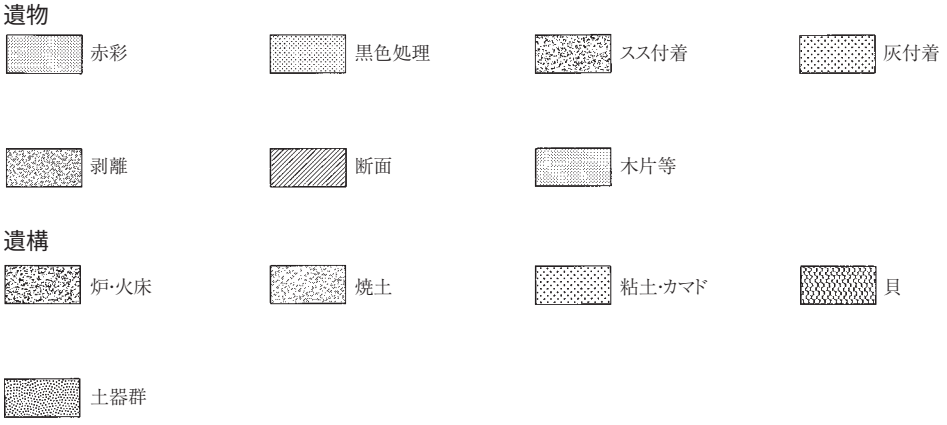
昭和53年度　　12,000㎡。　　担当　平野元三郎　谷島一馬　對馬郁夫　浅利幸一　鈴木英啓

4. 整理・報告事業は平成16年４月１日～平成18年３月まで、（財）市原市文化財センターが実施し、財団廃止後の平成18年４月１日～平成20年３月まで、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターが業務を引き継いだ。体制の変化はあったが、担当は一貫して木對和紀が行なった。
5. 本書の原稿執筆は下記以外を木對和紀が行った。また第Ⅲ章については平成15年度刊行「辺田古墳群・御林跡遺跡」の敲甕・S字甕を含めて本報告所収の敲甕・S字甕の胎土分析結果を藤根久・長友純子が、２号遺構（終末期方墳）主体部出土人骨・歯牙分析結果を渡辺　新が執筆した。また、301号竪穴出土馬歯について、上　奈穂美が、遺跡全体の貝類について鶴岡英一が執筆した。
6. 出土人骨の鑑定・歯牙分析については千葉縄文研究会の渡辺　新氏に、敲甕とS字甕の胎土分析について、株式会社パレオ・ラボに、石質肉眼同定についてはパリノ・サーヴェイに、旧石器時代石器実測・臼玉・ガラス玉・巨大弥生土器実測についてはアイシン精機に、遺構平面図トレースおよび遺跡全体図作成は株式会社パスコに委託した。
7. 断面図土層説明の文書表現は、色調と成分は調査担当者の原文そのままとし、他は文書表現を統一した。
8. グリッドは、10mピッチの任意方眼であったが、平成15年度報告書刊行の「辺田古墳群・御林跡遺跡」に合わせ、真北と公共座標値を持たせた全体図を作成し、グリッド表示は、南に隣接する辺田古墳群・御林跡遺跡本体を網羅するよう表示した。

9. 遺構番号はそれぞれ割り振られていたが、数基の遺構に対しては一部重複した遺構番号が付されていたため、新規に振りなおした。その対照については、新旧番号一覧表に示している。
10. 遺構図版については、紙面の都合上、可能な限り遺構を取りこむ方法で遺構図版を作成した。重複が激しい個所では、スクリントーンや２色刷りなどによる表現方法を用いた。
11. 平面図と土層断面図の「K」は撹乱を表している。
12. 委託以外のガラス玉類の軽量な重量測定には、島津理化器械株式会社製電子分析てんびんAEL－200を使用した。

凡　例

1. 本書で示す北は座標北である。また、水準は海抜からの高さを示す。
2. 本書で使用した国土地理院発行の地図は、１：50,000千葉・姉崎である。
3. 本書掲載の遺構縮尺は、大型方形周溝墓１：200・１：100、古墳・方形周溝墓・住居跡・土壙墓等１：80を原則とした。ただし遺物出土状況等、更に詳細図が必要と判断された遺構については、適時縮尺を変え掲載した。遺物は、土器・支脚１：４、土器断面・瓦・土玉・管状土錘・石器１：３、紡錘車２：３、石鏃１：１、鉄器１：２、旧石器・古銭・鏡・玉類・有孔円盤１：１とした。拓影図は原則１：３としたが、土師器・弥生土器の底部木葉痕など、一部実測図との整合関係で１：４対処としている。
4. 土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖　2001年度版』日本色研事業株式会社発行による。
5. 挿図におけるスクリントーンの用例については下記によるか、または図中に示した。



本 文 目 次

序文
例言
第Ⅰ章　はじめに
1　調査に至る経緯と経過…… 1
2　遺跡の位置と遺跡名…… 2
3　調査・整理の方法…… 4
（1）グリット …… 4
（2）遺物 …… 4
（3）遺物番号について …… 4

第Ⅱ章　遺構と遺物
1　円形周溝…… 40
2　終末期方墳…… 40
3　方形周溝…… 44
4　竪穴・土坑・再葬墓・溝など…… 64

第Ⅲ章　自然遺物および自然科学的分析
1　敲甕およびS字甕胎土の材料分析 …… 516
2　御林跡遺跡301号住居出土のウマ（*Equus caballus*）…… 525
3　御林跡遺跡終末期古墳主体部出土人骨の所見…… 527
4　御林跡遺跡出土の貝類遺体について…… 532

第Ⅳ章　御林跡遺跡５世紀代の土器変遷
1　はじめに…… 538
2　御林跡遺跡における５世紀代の土器変遷…… 538
3　年代…… 553
4　おわりに…… 558
まとめ…… 559
報告書抄録…… 786

表　目　次

第１表　御林跡遺跡遺構別遺物集計表…… 5
第２表　御林跡遺跡新旧番号一覧表…… 18
第３表　胎土材料の検討を行った土器試料…… 516
第４表　土器胎土の粘土と砂粒の特徴…… 521
第５表　胎土中の岩石片の分類と組み合わせ…… 522
第６表　ウマ歯測定値…… 526
第７表　1号人骨歯牙 …… 529
第８表　2号人骨歯牙 …… 530
第９表　出土貝類遺体集計…… 534
第10表　時期別貝類組成…… 534
第11表　ハマグリ殻長計測値　度数分布一覧…… 535
第12表　シオフキ殻長計測値　度数分布一覧…… 536
第13表　アサリ殻長計測値　度数分布一覧…… 537
第14表　御林跡遺跡出土土器観察表…… 560
第15表　御林跡遺跡出土土製品観察表…… 755
第16表　御林跡遺跡出土金属器観察表…… 760
第17表　御林跡遺跡出土玉類観察表…… 763
第18表　御林跡遺跡出土石器観察表…… 776

巻　頭　図　版　目　次

巻頭図版　１　市原台地全景（養老川上空付近から北東方向）1978年度撮影
国分寺台全景（市原市庁舎上空付近から北西方向）1978年度撮影
巻頭図版　２　根田代遺跡（右上、調査前）、台遺跡Ｃ地点（下）、御林跡遺跡（左上）1978年度撮影
根田代遺跡（右上、調査前）、御林跡遺跡 1978年度撮影
巻頭図版　３　174号遺構出土内行家文鏡
遺跡出土鉄器（左上から284–16・295–27・5–18・88–18・122–7・75–19・186–9・174–2・99–40・99–39・174–3・153–10・69–4）
巻頭図版　４　遺跡出土石斧（左上から88–16・61–68・33–22・62–14・235–6・150–7・61–70・272–49・150–8・88–15・203–48・61–69・202–15）
勾玉・管玉類（左上から28–29・57–3 ～ 4・68–24・117–15・130–24・143–28・240–39・246–29・一括28・4–16 ～ 17・17–49 ～ 50・142–14 ～ 15・143–29 ～ 31・203–49 ～ 50・304–23・一括33・21–10）
巻頭図版　５　臼玉（50–23 ～ 29・34・30 ～ 37・92–39 ～ 40・110–38・43 ～ 47・139–34 ～ 48・140–14 ～ 17・182–26 ～ 30・一括）
ガラス玉（5–14 ～ 73・79・80・6–1 ～ 3・7–1 ～ 12・143–27・一括32・33）
巻頭図版　６　須恵器
土師器
巻頭図版　７　胎土分析　１．切断面のマイクロスコープ写真
巻頭図版　８　胎土分析　２．切断面のマイクロスコープ写真

挿　図　目　次

第１図　国分寺台地区の旧地形と調査遺跡（1/12,000）…… 2
第２図　周辺遺跡と旧地形（1/6,000）…… 3
第３図　現地形と保存遺跡・周辺の重要遺跡（1/20,000）……12
第４図　辺田古墳群・御林跡遺跡全体図…… 13 ～ 14
第５図　御林跡遺跡遺構配置図　１……15
第６図　御林跡遺跡遺構配置図　２……16
第７図　御林跡遺跡遺構配置図　３……17
第８図　御林跡遺跡遺構時期別全体図……39
第９図　１号遺構実測図・出土遺物実測図……41
第10図　２号遺構実測図・出土遺物実測図……42
第11図　２号遺構（終末期方墳）玄室実測図及び出土遺物実測図……43
第12図　３号遺構実測図……45
第13図　３号遺構出土遺物実測図……46
第14図　４号遺構実測図……48
第15図　４号遺構出土遺物実測図……49
第16図　５号遺構実測図・４・５号遺構出土遺物実測図……51
第17図　５号遺構実測図・出土遺物実測図……52
第18図　６・７号遺構実測図・６号遺構出土遺物実測図……53
第19図　７号遺構実測図・出土遺物実測図……54
第20図　８号遺構実測図・出土遺物実測図……56
第21図　９・10号遺構実測図……58
第22図　９号遺構出土遺物実測図……59
第23図　９・10号遺構出土遺物実測図……60
第24図　11・12号遺構実測図……62
第25図　10・11・12号遺構出土遺物実測図……63
第26図　13 ～ 16号遺構実測図 ……65
第27図　13 ～ 15号遺構実測図・13号遺構出土遺物実測図……66
第28図　13・14号遺構出土遺物実測図……68
第29図　15・16号遺構出土遺物実測図……69
第30図　17 ～ 19号遺構実測図 ……71
第31図　17号遺構実測図・出土遺物実測図１……73
第32図　17号遺構出土遺物実測図２……74
第33図　17号遺構出土遺物実測図３……75
第34図　17号遺構出土遺物実測図４……76
第35図　20 ～ 25号遺構実測図 ……78
第36図　3・18・20・24・25号遺構実測図・18・20号遺構出土遺物実測図……79
第37図　20号遺構出土遺物実測図……80
第38図　21 ～ 23号遺構実測図・21・22号遺構出土遺物実測図……82
第39図　24・25号遺構実測図・22・24・25号遺構出土遺物実測図……84
第40図　26 ～ 36号遺構実測図 ……85
第41図　26 ～ 28・30号遺構実測図・26・27号遺構出土遺物実測図……87
第42図　28・29・36 ～ 38・42・44号遺構実測図・28号遺構出土遺物実測図……89
第43図　31号遺構実測図・28・29・31号遺構出土遺物実測図……90
第44図　31 ～ 35・45・48号遺構実測図・31 ～ 33号遺構出土遺物実測図……92
第45図　33・35・36号遺構出土遺物実測図……94
第46図　37 ～ 49号遺構実測図 ……96
第47図　37号遺構実測図・36・37号遺構出土遺物実測図……97
第48図　36・38・39号遺構実測図・37 ～ 39号遺構出土遺物実測図……98
第49図　40・41号遺構実測図・39・40号遺構出土遺物実測図…… 100
第50図　42号遺構実測図・41・42号遺構出土遺物実測図…… 102
第51図　43号遺構実測図・42・43号遺構出土遺物実測図…… 104
第52図　44 ～ 46号遺構出土遺物実測図 …… 106
第53図　50・51号遺構実測図・46・48・49号遺構出土遺物実測図…… 107
第54図　50 ～ 56号遺構実測図 …… 110
第55図　50号遺構出土遺物実測図１…… 111
第56図　50号遺構出土遺物実測図２…… 112
第57図　51・53・54号遺構実測図・51 ～ 53号遺構出土遺物実測図…… 113
第58図　53・54・56号遺構実測図・53号遺構出土遺物実測図…… 115
第59図　56号遺構実測図・54・55号遺構出土遺物実測図…… 117
第60図　55 ～ 59号遺構実測図・55・56号遺構出土遺物実測図…… 118
第61図　57 ～ 64号遺構実測図 …… 120
第62図　58号遺構実測図・57・58号遺構出土遺物実測図…… 121
第63図　58号遺構出土遺物実測図１…… 123
第64図　58号遺構出土遺物実測図２…… 124
第65図　60・61・82号遺構実測図・58・61号遺構出土遺物実測図…… 126
第66図　61号遺構出土遺物実測図１…… 127

第67図　61号遺構出土遺物実測図２…… 128
第68図　61号遺構出土遺物実測図３…… 129
第69図　62号遺構実測図・61・62号遺構出土遺物実測図…… 130
第70図　62 ～ 64号遺構実測図・63・65号遺構出土遺物実測図…… 132
第71図　65 ～ 67号遺構実測図・66号遺構出土遺物実測図…… 133
第72図　68 ～ 74号遺構実測図 …… 136
第73図　66・68号遺構出土遺物実測図…… 137
第74図　68・71・351号遺構実測図・68・69号遺構出土遺物実測図…… 138
第75図　71号遺構出土遺物実測図…… 140
第76図　72・73・351号遺構実測図・72号遺構出土遺物実測図…… 141
第77図　73・74号遺構出土遺物実測図…… 142
第78図　75 ～ 92号遺構実測図 …… 143 ～ 144
第79図　75号遺構実測図・出土遺物実測図…… 146
第80図　75・77・79・87号遺構実測図・75・77号遺構出土遺物実測図…… 147
第81図　79・87・88号遺構実測図・78・79号遺構出土遺物実測図…… 150
第82図　80・84・85号遺構実測図・80号遺構出土遺物実測図…… 152
第83図　81号遺構実測図・80・81号遺構出土遺物実測図…… 153
第84図　82号遺構実測図・81・82号遺構出土遺物実測図…… 154
第85図　82 ～ 84号遺構出土遺物実測図 …… 156
第86図　84・86号遺構出土遺物実測図…… 158
第87図　86・87号遺構出土遺物実測図…… 159
第88図　88号遺構実測図・87・88号遺構出土遺物実測図…… 161
第89図　88号遺構出土遺物実測図…… 162
第90図　89・90・96号遺構実測図・89号遺構出土遺物実測図…… 164
第91図　91号遺構実測図・90・91号遺構出土遺物実測図…… 165
第92図　92・351号遺構実測図・91・92号遺構出土遺物実測図…… 167
第93図　89・93・94号遺構実測図・92・93号遺構出土遺物実測図…… 168
第94図　93 ～ 98号遺構実測図 …… 169
第95図　95・96号遺構実測図・93・95・96号遺構出土遺物実測図…… 171
第96図　96・97号遺構出土遺物実測図…… 173
第97図　97号遺構出土遺物実測図…… 174
第98図　97 ～ 99・154 ～ 156・351号遺構実測図・97・98号遺構出土遺物実測図…… 175
第99図　99 ～ 104号遺構実測図…… 177
第100図　99号遺構出土遺物実測図 …… 178
第101図　100・101号遺構実測図・99・100号遺構出土遺物実測図 …… 179
第102図　102号遺構出土遺物実測図１…… 181
第103図　102号遺構出土遺物実測図２…… 182
第104図　102 ～ 104号遺構実測図・103・104号遺構出土遺物実測図 …… 184
第105図　105 ～ 107号遺構実測図・106号遺構出土遺物実測図 …… 185
第106図　107号遺構実測図・出土遺物実測図１…… 187
第107図　107号遺構出土遺物実測図２…… 188
第108図　107号遺構出土遺物実測図３…… 189
第109図　108 ～ 124号遺構実測図…… 191 ～ 192
第110図　108号遺構実測図・出土遺物実測図…… 193
第111図　110・352号遺構実測図・110号遺構出土遺物実測図１ …… 194
第112図　110号遺構出土遺物実測図２…… 195
第113図　111 ～ 114・124・186号遺構実測図・111・112号遺構出土遺物実測図 …… 197
第114図　113・114・117号遺構実測図・113・114・117号遺構出土遺物実測図 …… 199
第115図　118号遺構実測図・117・118号遺構出土遺物実測図 …… 201
第116図　122・123号遺構実測図・120 ～ 122号遺構出土遺物実測図 …… 204
第117図　123号遺構実測図・122・123号遺構出土遺物実測図 …… 205
第118図　92・125・351号遺構実測図・123 ～ 125号遺構出土遺物実測図 …… 206
第119図　125 ～ 143号遺構実測図…… 207 ～ 208
第120図　125号遺構出土遺物実測図…… 210
第121図　125・126号遺構出土遺物実測図 …… 211
第122図　126号遺構出土遺物実測図…… 212
第123図　127・128号遺構出土遺物実測図 …… 214
第124図　129・130号遺構実測図・128・129号遺構出土遺物実測図 …… 215
第125図　130号遺構出土遺物実測図…… 217
第126図　131号遺構実測図・出土遺物実測図１…… 219
第127図　131号遺構出土遺物実測図２…… 220
第128図　133・135号遺構実測図・133号遺構出土遺物実測図 …… 222
第129図　134 ～ 137・352号遺構実測図・134号遺構出土遺物実測図 …… 223

第130図　134号遺構出土遺物実測図…… 224
第131図　136号遺構実測図・134・136号遺構出土遺物実測図 …… 225
第132図　136号遺構出土遺物実測図…… 227
第133図　137号遺構実測図・出土遺物実測図 …… 229
第134図　139号遺構実測図・137 ～ 139号出土遺物実測図 …… 230
第135図　139号遺構出土遺物実測図…… 231
第136図　140号遺構実測図・139・140号遺構出土遺物実測図 …… 232
第137図　127・138 ～ 144・146・352号遺構実測図・141・142号遺構出土遺物実測図 …… 234
第138図　144 ～ 151号遺構実測図…… 236
第139図　143号遺構実測図・142・143号遺構出土遺物実測図 …… 237
第140図　143号遺構出土遺物実測図…… 238
第141図　117・144～146号遺構実測図・143・144号遺構出土遺物実測図 …… 239
第142図　144号遺構出土遺物実測図１…… 241
第143図　144号遺構出土遺物実測図２…… 242
第144図　145・146号遺構出土遺物実測図 …… 243
第145図　148 ～ 150号遺構実測図・146・148号遺構出土遺物実測図 …… 245
第146図　149号遺構実測図・148・149号遺構出土遺物実測図 …… 246
第147図　149・150号遺構出土遺物実測図 …… 248
第148図　152 ～ 170号遺構実測図…… 249 ～ 250
第149図　152・153号遺構実測図・出土遺物実測図 …… 252
第150図　153 ～ 155号遺構出土遺物実測図…… 253
第151図　157・158号遺構実測図・156・157号遺構出土遺物実測図 …… 256
第152図　158 ～ 161・163・164・167号遺構実測図・157 ～ 159号遺構出土遺物実測図…… 258
第153図　159号遺構出土遺物実測図１…… 259
第154図　159号遺構出土遺物実測図２…… 260
第155図　159 ～ 161号遺構実測図・159・160号遺構出土遺物実測図 …… 261
第156図　160・161号遺構出土遺物実測図 …… 263
第157図　135・162・165号遺構実測図・161～163・165号遺構出土遺物実測図 …… 264
第158図　166号遺構実測図・165号遺構出土遺物実測図 …… 266
第159図　159・165・167・168・176・352号遺構実測図・166・167号遺構出土遺物実測図 …… 268
第160図　169・170・173・352号遺構実測図・168 ～ 170号遺構出土遺物実測図…… 270
第161図　169 ～ 177号遺構実測図…… 271
第162図　170号遺構出土遺物実測図１…… 273
第163図　170号遺構出土遺物実測図２…… 274
第164図　172～174・177・352号遺構実測図・171・172号遺構出土遺物実測図 …… 276
第165図　173・174号遺構出土遺物実測図 …… 277
第166図　174 ～ 176号遺構出土遺物実測図…… 279
第167図　176号遺構出土遺物実測図…… 281
第168図　166・177・178・352号遺構実測図・177号遺構出土遺物実測図 …… 282
第169図　178 ～ 182号遺構実測図…… 284
第170図　179・182号遺構実測図・178号遺構出土遺物実測図 …… 285
第171図　180号遺構実測図・179・180号遺構出土遺物実測図 …… 287
第172図　180・181号遺構出土遺物実測図 …… 288
第173図　182号遺構実測図・181号遺構出土遺物実測図…… 289
第174図　182号遺構出土遺物実測図…… 291
第175図　183 ～ 188号遺構実測図…… 292
第176図　111・183・186号遺構実測図・183・184・186号遺構出土遺物実測図 …… 294
第177図　188号遺構実測図・187・188号遺構出土遺物実測図 …… 296
第178図　189 ～ 194号遺構実測図…… 298
第179図　189 ～ 191号遺構実測図・189号遺構出土遺物実測図 …… 299
第180図　190号遺構実測図・189・190号遺構出土遺物実測図 …… 300
第181図　192・193号遺構実測図・190・192号遺構出土遺物実測図 …… 302
第182図　192・193・246号遺構実測図・192・193号遺構出土遺物実測図 …… 303
第183図　194・197号遺構実測図・193・194号遺構出土遺物実測図 …… 305
第184図　195 ～ 200号遺構実測図…… 307
第185図　195号遺構実測図・出土遺物実測図 …… 308
第186図　196号遺構実測図・195・196号遺構出土遺物実測図 …… 309
第187図　195・197～199号遺構実測図・197・198号遺構出土遺物実測図 …… 311
第188図　200・257号遺構実測図・199・200号遺構出土遺物実測図 …… 312
第189図　201 ～ 214号遺構実測図…… 313 ～ 314
第190図　201号遺構実測図・200・201号遺構出土遺物実測図 …… 315

第191図　202・203号遺構実測図・201・202号遺構出土遺物実測図 …… 317
第192図　203号遺構実測図・202・203号遺構出土遺物実測図 …… 319
第193図　203号遺構出土遺物実測図…… 320
第194図　205・209・210号遺構実測図・203・205号遺構出土遺物実測図 …… 321
第195図　206・208・209号遺構実測図・205・206・208・209号遺構出土遺物実測図 …… 323
第196図　210号遺構実測図・209・210号遺構出土遺物実測図 …… 325
第197図　210号遺構出土遺物実測図１…… 326
第198図　210号遺構出土遺物実測図２…… 327
第199図　211 ～ 213号遺構実測図・211号遺構出土遺物実測図 …… 329
第200図　211・212号遺構実測図・212号遺構出土遺物実測図 …… 330
第201図　213号遺構実測図・出土遺物実測図・…… 332
第202図　215 ～ 226号遺構実測図…… 333
第203図　214・215・217～219号遺構実測図・214・215号遺構出土遺物実測図 …… 334
第204図　215号遺構出土遺物実測図…… 335
第205図　218号遺構実測図・215・217・218号遺構出土遺物実測図 …… 337
第206図　219・220号遺構実測図・出土遺物実測図 …… 340
第207図　222・223号遺構実測図・221 ～ 223号遺構出土遺物実測図 …… 342
第208図　224・226号遺構実測図・223・224号遺構出土遺物実測図 …… 343
第209図　227 ～ 237号遺構実測図…… 345
第210図　227・229号遺構実測図・226・227号遺構出土遺物実測図 …… 347
第211図　226・230・231号遺構実測図・227・228・230号遺構出土遺物実測図 …… 348
第212図　230 ～ 232号遺構実測図・遺構出土遺物実測図 …… 350
第213図　232 ～ 234号遺構実測図・遺構出土遺物実測図 …… 352
第214図　235 ～ 237号遺構実測図・235 ～ 237号遺構出土遺物実測図 …… 354
第215図　238 ～ 242号遺構実測図…… 356
第216図　238号遺構実測図・出土遺物実測図・…… 357
第217図　210・239・240号遺構実測図・239号遺構出土遺物実測図 …… 358
第218図　240号遺構出土遺物実測図…… 360
第219図　240 ～ 242号遺構実測図・240号遺構出土遺物実測図 …… 361
第220図　241号遺構出土遺物実測図１…… 362
第221図　241号遺構出土遺物実測図２…… 363
第222図　243 ～ 252号遺構実測図…… 365 ～ 366
第223図　242 ～ 244号遺構実測図・242・243号遺構出土遺物実測図 …… 368
第224図　243・244号遺構出土遺物実測図 …… 369
第225図　246号遺構実測図・出土遺物実測図・…… 371
第226図　248 ～ 249号遺構実測図・246 ～ 248号遺構出土遺物実測図 …… 372
第227図　248号遺構出土遺物実測図…… 374
第228図　244・245・249号遺構実測図・248・249号遺構出土遺物実測図 …… 375
第229図　252・254 ～ 256号遺構実測図・252 ～ 254号遺構出土遺物実測図…… 377
第230図　253 ～ 257号遺構実測図…… 378
第231図　255号遺構実測図・254・255号遺構出土遺物実測図 …… 379
第232図　257号遺構実測図・255 ～ 257号遺構出土遺物実測図 …… 381
第233図　258 ～ 264号遺構実測図…… 383
第234図　259・261号遺構実測図・257・258・259号遺構出土遺物実測図 …… 384
第235図　261号遺構実測図・260・261号遺構出土遺物実測図 …… 386
第236図　262・264号遺構実測図・261・262号遺構出土遺物実測図 …… 388
第237図　263号遺構実測図・出土遺物実測図・…… 389
第238図　264号遺構実測図・263・264号遺構出土遺物実測図 …… 390
第239図　265～270号遺構実測図 …… 392
第240図　268～270・321号遺構実測図・268・269号遺構出土遺物実測図 …… 394
第241図　270号遺構実測図・269号遺構出土遺物実測図 …… 395
第242図　270号遺構出土遺物実測図…… 396
第243図　271号遺構実測図・270・271号遺構出土遺物実測図 …… 398
第244図　271 ～ 276号遺構実測図…… 399
第245図　270・272号遺構実測図・272号出土遺物実測図 …… 400
第246図　272号遺構出土遺物実測図…… 401
第247図　273・274号遺構実測図・272・273号遺構出土遺物実測図 …… 402
第248図　274号遺構実測図・273・274号遺構出土

遺物実測図 …… 404
第249図 274 ～ 277号遺構実測図・275～277号遺構出土遺物実測図 …… 406
第250図 277 ～ 279号遺構実測図…… 407
第251図 278号遺構実測図・277・278号遺構出土遺物実測図 …… 409
第252図 279・280号遺構実測図・出土遺物実測図 …… 410
第253図 280 ～ 286号遺構実測図…… 411
第254図 282・283号遺構実測図・280・282号遺構出土遺物実測図 …… 413
第255図 283号遺構実測図・282・283号遺構出土遺物実測図 …… 414
第256図 284・285号遺構実測図・283・284号遺構出土遺物実測図 …… 415
第257図 287 ～ 300号遺構実測図…… 417 ～ 418
第258図 287号遺構実測図・285～288号遺構出土遺物実測図 …… 420
第259図 288・289号遺構実測図・288・289号遺構出土遺物実測図 …… 421
第260図 290 ～ 292号遺構実測図・290・291号遺構出土遺物実測図 …… 423
第261図 292・293号遺構実測図・292・293号遺構出土遺物実測図 …… 425
第262図 293 ～ 298号遺構実測図・295号遺構出土遺物実測図 …… 428
第263図 295号遺構出土遺物実測図…… 429
第264図 297号遺構実測図・295・297号遺構出土遺物実測図 …… 430
第265図 298・299号遺構実測図・297 ～ 299号遺構出土遺物実測図 …… 432
第266図 300 ～ 303号遺構実測図・300・301号遺構出土遺物実測図 …… 433
第267図 301 ～ 307号遺構実測図…… 436
第268図 304 ～ 307号遺構実測図・301 ～ 303号遺構出土遺物実測図 …… 437
第269図 304号遺構出土遺物実測図…… 439
第270図 304 ～ 307号遺構実測図・出土遺物実測図 …… 440
第271図 308 ～ 320号遺構実測図…… 441 ～ 442
第272図 308・309・311号遺構実測図・308・309号遺構出土遺物実測図 …… 444
第273図 308・310～312号遺構実測図・310・311号遺構出土遺物実測図 …… 446
第274図 312 ～ 315号遺構実測図・312・313号遺構出土遺物実測図 …… 447
第275図 313 ～ 315号遺構実測図・出土遺物実測図 …… 449
第276図 316 ～ 318号遺構実測図・315～317号遺構出土遺物実測図 …… 451
第277図 317号遺構出土遺物実測図…… 453
第278図 319号遺構実測図・318・319号遺構出土遺物実測図 …… 454
第279図 320・321号遺構実測図・320・321号遺構出土遺物実測図 …… 456
第280図 321 ～ 327号遺構実測図…… 457
第281図 322号遺構実測図・321・322号遺構出土遺物実測図 …… 458
第282図 322号遺構出土遺物実測図…… 459
第283図 322・324・325号遺構実測図・322・324号遺構出土遺物実測図 …… 461
第284図 326号遺構実測図・324～326号遺構出土遺物実測図 …… 462
第285図 328・329号遺構実測図・327・328号遺構出土遺物実測図 …… 464
第286図 328 ～ 335号遺構実測図…… 465
第287図 328 ～ 330号遺構出土遺物実測図…… 467
第288図 330 ～ 332号遺構実測図・331・332号遺構出土遺物実測図 …… 469
第289図 333号遺構実測図・332号遺構出土遺物実測図 …… 470
第290図 334・335号遺構実測図・334・335号遺構出土遺物実測図 …… 472
第291図 333・335・336号遺構実測図・335・336号遺構出土遺物実測図 …… 474
第292図 336 ～ 341号遺構実測図…… 475
第293図 336号遺構出土遺物実測図１…… 476
第294図 336号遺構出土遺物実測図２…… 477
第295図 337号遺構実測図・336・337号遺構出土遺物実測図 …… 478
第296図 338号遺構出土遺物実測図…… 480
第297図 339・340号遺構実測図・339号遺構出土遺物実測図 …… 481
第298図 342号遺構実測図・340・341号遺構出土遺物実測図 …… 483
第299図 342 ～ 347号遺構実測図…… 484
第300図 10・343号遺構実測図・342号遺構出土遺物実測図 …… 485
第301図 343号遺構出土遺物実測図…… 486
第302図 11・343 ～ 345号遺構実測図・343・344号遺構出土遺物実測図 …… 488
第303図 346号遺構実測図・345・346号遺構出土遺物実測図 …… 489
第304図 348 ～ 350号遺構実測図…… 491
第305図 348号遺構実測図・346・348号遺構出土遺物実測図 …… 492

第306図　349号遺構実測図・348・349号遺構出土遺物実測図 …… 493
第307図　350号遺構実測図・349号遺構出土遺物実測図 …… 494
第308図　350号遺構出土遺物実測図…… 496
第309図　350 ～ 352号遺構出土遺物実測図…… 498
第310図　352号遺構出土遺物実測図・御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図１ …… 499
第311図　御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図２ …… 500
第312図　御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図３ …… 501
第313図　御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図４ …… 502
第314図　御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図５ …… 503
第315図　御林跡遺跡カマド実測図１ …… 505
第316図　御林跡遺跡カマド実測図２ …… 506
第317図　御林跡遺跡カマド実測図３ …… 507
第318図　御林跡遺跡カマド実測図４ …… 508
第319図　御林跡遺跡カマド実測図５ …… 509
第320図　御林跡遺跡カマド実測図６ …… 510
第321図　御林跡遺跡カマド実測図７ …… 511
第322図　御林跡遺跡カマド実測図８ …… 512
第323図　御林跡遺跡カマド実測図９ …… 513
第324図　御林跡遺跡カマド実測図10 …… 514
第325図　御林跡遺跡カマド実測図11 …… 515
第326図　御林跡遺跡胎土分析土器実測図 …… 524
第327図　２号遺構出土人骨に認められる病状 …… 531
第328図　御林跡遺跡出土の貝類遺体 …… 533
第329図　御林跡遺跡０期（前期）の土器編遷図 … 539
第330図　御林跡遺跡5世紀代Ⅰ～Ⅲ期（中期）の土器編遷図１ …… 540 ～ 541
第331図　御林跡遺跡5世紀代Ⅰ～Ⅲ期（中期）の土器編遷図２ …… 542 ～ 543
第332図　御林跡遺跡5世紀代Ⅳ～Ⅵ期（中期）の土器編遷図３ …… 548 ～ 549
第333図　御林跡遺跡5世紀代Ⅳ～Ⅵ期（中期）の土器編遷図４ …… 550 ～ 551
第334図　御林跡遺跡5世紀代Ⅶ～Ⅸ期（中期）の土器編遷図５ …… 554 ～ 555
第335図　御林跡遺跡５世紀代の遺構分布図 …… 556

図　版　目　次

巻頭図版　1　市原台地全景（養老川上空付近から北東方向）1978年度撮影
国分寺台全景（市原市庁舎上空付近から北西方向）1978年度撮影
巻頭図版　2　根田代遺跡（右上、調査前）、台遺跡Ｃ地点（下）、御林跡遺跡（左上）1978年度撮影
根田代遺跡（右上、調査前）、御林跡遺跡1978年度撮影
巻頭図版　3　174号遺構出土内行家文鏡
遺跡出土鉄器（左上から284-16・295-27・5-18・88-18・122-7・75-19・186-9・174-2・99-40・99-39・174-3・153-10・69-4）
巻頭図版　4　遺跡出土石斧（左上から88-16･61-68･33-22・62-14・235-6・150-7・61-70・272-49・150-8・88-15・203-48・61-69・202-15）
勾玉・管玉類（左上から28-29・57-3 ～ 4・68-24・117-15・130-24・143-28・240-39・246-29・　一　括28・4-16 ～ 17・17-49 ～ 50・142-14~15・143-29~31・203-49~50・304-23・一括33・21-10）
巻頭図版　5　臼　玉(50-23 ～ 29・34・30 ～ 37・92-39 ～ 40・110-38・43 ～ 47・139-34 ～ 48・140-14 ～ 17・182-26 ～ 30・一括）
ガラス玉（5-14 ～ 73・79・80・6-1 ～ 3・7-1 ～ 12・143-27・一括32・33）
巻頭図版　6　須恵器
土師器
扉裏　御林跡遺跡周辺航空写真（昭和36年撮影）
図版　1　御林跡遺跡全景
御林跡遺跡消滅後　手前は台遺跡・右奥は辺田古墳群
図版　2　御林跡遺跡調査前風景（西より）
御林跡遺跡調査前風景（西より）
図版　3　１号遺構（円形周溝全景or円墳）
１号遺構調査前（南より）
１号遺構（東より）
２号遺構終末期方墳全景（南より）
同主体部（地下式横穴墓羨望部全景）（南より）
同主体部（地下式横穴墓羨望部全景）（西より）
同主体部玄室入口部拡大
同主体部玄室内人骨出土状況
図版　4　２号墳人骨供養１
２号墳人骨供養２
玄室内人骨出土状況（天井部除去後）
人骨調査状況
１号人骨全景
１号人骨頭部拡大
１号人骨部分拡大
１号人骨頭部拡大
図版　5　同主体部玄室内人骨出土状況
同主体部玄室内人骨出土状況拡大
図版　6　２号人骨拡大
２号人骨頭部拡大
図版　7　３号遺構（方形周溝墓）全景（南より）
３号遺構東側溝（北より）
４号遺構（方形周溝墓）拡張前（西より）
４号遺構拡張後調査風景（東より）
４号遺構方台部内遺物出土状況
４号遺構遺物出土状況１（南より）
４号遺構遺物出土状況２（東より）
４号遺構西側溝
図版　8　４号遺構南側周溝･線刻画出土状況１
４号遺構南側周溝･線刻画出土状況２
４号遺構南側周溝･線刻画拡大
４号遺構北側周溝遺物出土状況１
４号遺構北側周溝遺物出土状況２
図版　9　４号遺構主体部（北西より）
４号遺構主体部（手前土柱は管玉）（北より）
４号遺構拡張後完掘状況（南西より）
５号遺構（方形周溝墓）全景（東より）
５号遺構西コーナー部付近遺物出土状況
５号遺構主体部全景（東より）
５号遺構主体部･鉄斧出土状況（東より）
６・７号遺構（方形周溝墓）（南より）
図版　10　６・７号遺構（南より）
６号遺構主体部（北より）
７号遺構（方形周溝墓）遺物出土状況１（南側）
７号遺構遺物出土状況２（南側）
７号遺構主体部（南より）
７号遺構主体部（南より）
８号遺構（方形周溝墓）全景（北西より）
９号遺構（方形周溝墓）西側周溝遺物出

土状況１（東より）
図版　11　９号遺構西側周溝遺物出土状況２（西より）
９号遺構西側周溝遺物出土状況３（東より）
９号遺構西側周溝遺物出土状況４（北より）
10号遺構（方形周溝墓）遺物出土状況（北より）
10号遺構西側周溝遺物出土状況（北より）
10号遺構北側周溝遺物出土状況（西より）
10号遺構遺物出土状況（西より）
11号遺構（北より）
図版　12　11号遺構（方形周溝墓）東側溝遺物出土状況
12号遺構（方形周溝墓）（北より）
12号遺構（東より）
13号遺構全景（北より）
14号遺構調査区西端部遠景（北東より）
14号遺構全景（南より）
14号遺構遺物出土状況（東より）
15（中央）・16号（奥）遺構全景（南より）
図版　13　17号遺構全景（南より）
17号遺構遺物出土状況１（北西より）
17号遺構東コーナー遺物出土状況２（南東より）
17号遺構遺物出土状況３（南西より）
17号遺構Ｐ１付近遺物出土状況４（北西より）
17号遺構東コーナー遺物出土状況５（北より）
17号遺構遺物出土状況６（西より）
17号遺構東コーナー遺物出土状況７（南西より）
図版　14　17号遺構完掘状況（東より）
18号（中央）遺構全景（西より）
20（中央）遺構全景（北より）
19（土坑）・21号（中央）遺構全景（南東より）
20号（奥）遺構全景（東より）
22号（奥）周辺遺構（西より）
21（中央）周辺遺構（南東より）
24号遺構全景（西より）
図版　15　25号遺構全景（西より）
25号遺構カマド遺物出土状況（南西より）
26号遺構全景（南東より）
26号遺構カマド遺物出土状況（南東より）
28号（中央）周辺遺構（南より）
27号遺構P3付近遺物出土状況（東より）
28号遺構遺物出土状況（西より）
29号遺構遺物出土状況（北より）
図版　16　31（奥）遺構周辺遺物出土状況（南東より）
31号遺構遺物出土状況（南東より）
32号（中央）遺構全景（南より）
遺構群左手前20号遺構（西側）
33号遺構全景・遺物出土状況（南東より）
33号遺構遺物出土状況・貯蔵穴（東より）
35（中央）遺構全景（北より）
36号（中央）遺構全景（東より）
図版　17　37号遺構遺物出土状況（北より）
37号遺構貝ブロック（西より）
37号遺構貯蔵穴付近遺物出土状況（北より）
36（中央）号（手前）遺構遺物出土状況（南東より）
38号遺構付近作業風景（北西より）
38号（中央左）遺構全景（南西より）
38（中央）・41号（右）遺構遺物出土状況（北西より）
38号（中央）遺構遺物出土状況（北西より）
図版　18　40号遺構全景（南東より）
41号遺構全景（北西より）
42（中央）・43号遺構遺物出土状況（南西より）
42号遺構カマド遺物出土状況（東より）
42号遺構北コーナー付近遺物出土状況（南より）
43（中央）・44号（中央奥）遺構全景（南より）
43号遺構貯蔵穴遺物出土状況（西より）
46（中央）・47号（手前）遺構全景・遺物出土状況（東より）
図版　19　46・47号遺構遺物出土状況（東より）
46（中央）・47号（右）遺構遺物出土状況（南東より）
47号（中央）遺構遺物出土状況（南東より）

48号（中央奥）遺構周辺遺物出土状況（西より）
50号遺構全景（西より）
50号遺構全景（北より）
50号遺構遺物出土状況１（東より）
50号遺構南西コーナー遺物出土状況２（東より）
図版　20　50号遺構カマド付近遺物出土状況３（南より）
50号遺構遺物出土状況４（西より）
50号遺構南西コーナー遺物出土状況５（北より）
51号遺構全景（東より）
52号遺構全景･遺物出土状況（北より）
53号遺構全景（西より）
53号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（東より）
53号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（西より）
図版　21　53（右）・54号（中央）遺構全景（西より）
55（中央）・56（左）・57号（奥）遺構全景（西より）
55号遺構北東コーナー遺物出土状況１（西より）
55号遺構カマド遺物出土状況（南西より）
55号遺構北東コーナー遺物出土状況２（西より）
55（手前左）・56号（中央）遺構全景（北より）
56号遺構Ｐ13付近遺物出土状況１（東より）
56号遺構遺物出土状況２（北東より）
図版　22　57号（中央）遺構全景（北東より）
58・59号（周囲）遺構遺物出土状況（北西より）
58号遺構南コーナー遺物出土状況１（北より）
58号遺構遺物出土状況２（北より）
58・59号（左上）遺構カマド付近遺物出土状況３（北より）
58号遺構カマド遺物出土状況（東より）
61（中央）・66号（奥）遺構全景･遺物出土状況（北より）
61号遺構南コーナー遺物出土状況１（東より）
図版　23　61号遺構遺物出土状況２（北より）
61号遺構遺物出土状況３（北より）
61号遺構完掘状況（南より）
62号遺構全景（東より）
63号遺構全景（北より）
63（左）・64号（中央奥）遺構全景（北東より）
65号遺構付近全景（西より）
65号遺構全景（南より）
図版　24　66（中央）・67号（中央奥）遺構全景（西より）
66号遺構南西コーナー遺物出土状況（西より）
68号（中央）遺構全景（北東より）
68（中央）・69号（中央左）遺構全景（北より）
68号遺構遺物出土状況（北より）
70号遺構（土坑）（北西より）
71号遺構遺物出土状況（西より）
71号遺構完掘状況（東より）
図版　25　71号遺構北コーナー遺物出土状況１（南より）
71号遺構北コーナー遺物出土状況２（東より）
71号遺構東コーナー遺物出土状況（西より）
72号遺構遺物出土状況（北より）
72号遺構Ｐ６付近遺物出土状況（北より）
73号付近遺構群遠景（北側より）
73号遺構遺物出土状況（北西より）
73号（手前）遺構遺物出土状況（北より）
図版　26　74号遺構遺物出土状況（西より）
74号遺構（土坑）遺物出土状況１（南より）
74号遺構（土坑）遺物出土状況２（西より）
75･76号（土坑）遺構全景貯蔵穴（北より）
75号遺構カマド遺物出土状況（西より）
77・78号（中央）遺構カマド付近遺物出土状況（東より）
77（左）・78号（右）遺構遺物出土状況（南西より）
77号遺構カマド付近遺物出土状況１（東より）
図版　27　77号遺構カマド付近遺物出土状況２（東より）

78号遺構（中央）遺物出土状況（東より）
79号（中央）遺構カマド付近遺物出土状況（南より）
80号遺構遺物出土状況（西より）
80号遺構遺物出土状況（南より）
80号遺構遺物出土状況（南より）
80号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（南東より）
80号遺構Ｐ１・Ｐ２間遺物出土状況（南より）
図版　28　80号遺構全景･完掘状況（南より）
81号（中央）遺構付近（南より）
81号遺構全景２（南東より）
81号遺構東コーナー遺物出土状況（西より）
81号遺構西コーナー遺物出土状況（南より）
82号（中央）遺構全景（西より）
82号遺構貯蔵穴遺物出土状況１（北より）
82号遺構貯蔵穴遺物出土状況２（西より）
図版　29　84号（中央)・85号（右）遺構全景（西より）
84号（ベッド状遺構）全景（東より）
84号遺構遺物出土状況（南より）
86号（中央）遺構遺物出土状況（東より）
84･86号（手前）遺構遺物出土状況（南より）
86号遺構付近調査状況（東より）
86号遺構カマド遺物出土状況（南西より）
87号（中央）遺構遺物出土状況（西より）
図版　30　87号（中央）遺構全景（東より）
87号遺構Ｐ３・南西コーナー付近遺物出土状況（西より）
87号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（北より）
88号遺構付近全景（東より）
88号遺構付近全景（南東より）
88号遺構全景（西より）
88号遺構太形蛤刃石斧出土状況（北より）
88号遺構全景（東より）
図版　31　88号遺構短冊形鉄斧出土状況
88号遺構Ｐ４付近遺物出土状況１（西より）
88号遺構Ｐ４付近遺物出土状況２（東より）
89号遺構付近全景（東より）
90号遺構付近全景遺物出土状況（南より）
91号（中央）遺構遺物出土状況（南東より）
91号遺構Ｐ４付近遺物出土状況１（西より）
91号遺構Ｐ４付近遺物出土状況２（東より）
図版　32　92（右)・125号遺構付近全景（南より）
92号（中央）遺構全景（西より）
93号遺構全景（北西より）
93号遺構全景（南東より）
93号遺構貯蔵穴遺物出土状況（北より）
93号遺構内94号土坑全景（東より）
93（右)・95号遺構全景（南東より）
95号遺構（上は94号土坑）遺物出土状況（南東より）
図版　33　96号遺構付近全景（東より）
97号遺構全景（東より）
97号遺構遺物出土状況（南より）
98号遺構全景（西より）
99号遺構付近作業風景（北より）
99号遺構全景（南西より）
100（中央)・101号遺構全景（南より）
100（中央)・101号（右）遺構（北東より）
図版　34　102号遺構遺物出土状況（南東より）
102号（中央）遺構遺物出土状況（東より）
102号遺構遺物出土状況（南西より）
102号遺構西コーナー遺物出土状況１（東より）
102号遺構西コーナー遺物出土状況２（西より）
102号遺構西コーナー遺物出土状況３（北より）
102号遺構Ｐ９付近遺物出土状況（北西より）
103号（中央）遺構全景（南東より）
図版　35　103号遺構貯蔵穴（南西より）
104号遺構全景（西より）
106号遺構（土坑)・遺物出土状況１（北より）

106号遺構（土坑）・遺物出土状況２（西より）
107号付近遺構群（北側より）
107号遺構遺物出土状況（北より）
107号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（南東より）
107号遺構中央部遺物出土状況（東より）
図版　36　107号遺構南コーナー遺物出土状況（北西より）
107号遺構Ｐ10付近遺物出土状況（北より）
遺構群（中央が351号（溝））
108号（中央奥）遺構付近全景（北側より）
108・109号（土坑）遺構全景（東より）
108号（中央）遺構全景（西より）
108号遺構カマド（南東より）
108号遺構内109号（土坑）（南東より）
図版　37　110号（中央奥）遺構付近遺物出土状況（西より）
110号遺構カマド付近遺物出土状況（南より）
110号遺構カマド付近（南西より）
110号遺構カマド調査状況（西より）
遺構群手前から111号遺構遠景（東より）
111号遺構全景（南西より）
111号遺構全景（東より）
111・124号（溝）遺構（南東より）
図版　38　北側から111号遺構を望む
111号遺構カマド全景（北東より）
111号遺構東コーナー遺物出土状況（西より）
111号遺構東コーナー遺物出土状況（南より）
112（中央）・113号遺構全景（北東より）
113号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（北より）
112号遺構カマド調査状況（南東より）
114号遺構Ｐ１・Ｐ２付近遺物出土状況（東より）
図版　39　114号周辺遺構（北東より）
116（中央）・124号（溝）遺構全景
117（奥）・118号（手前）遺構全景（東より）
117号遺構Ｐ５遺物出土状況（北より）
118号遺構全景（東より）
118（中央）・119号（土坑）遺構全景（北より）
117・118号遺構カマド遺物出土状況（南西より）
119号（土坑）遺構全景（南より）
図版　40　120号遺構全景（東より）
121号遺構全景（北より）
121号遺構全景（東より）
122号遺構全景（西より）
122号遺構全景（北より）
122号遺構カマド付近遺物出土状況全景（南西より）
122号遺構南東コーナー遺物出土状況（南西より）
122号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（北西より）
図版　41　122号遺構カマド遺物出土状況（西より）
122号遺構カマド遺物出土状況（西より）
122・123号遺構全景（北より）
123号遺構全景（北西より）
123号遺構Ｐ６付近遺物出土状況（北より）
123号遺構南東コーナー遺物出土状況（北より）
113・124号遺構（溝）全景（東より）
124号遺構（溝）（東より）
図版　42　125号遺構全景（南東より）
125号遺構Ｐ５付近遺物出土状況（遺物所在不明）（東より）
125号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（南東より）
125号遺構カマド付近遺物出土状況（南東より）
125号遺構東側周溝Ｐ５付近遺物出土状況（北より）
126号遺構遺物出土状況（南東より）
126号遺構（中央右）遺物出土状況（東より）
126号遺構遺物出土状況（南東より）
図版　43　126号遺構Ｐ２遺物出土状況（南東より）
126号遺構全景・完掘状況（西より）
127（中央）・132号（土坑）全景（南東より）
127号遺構・炉遺物出土（南東より）
125号・130号（奥）遺構全景（北より）
130号（中央）遺構全景（南西より）
130号遺構（中央右）調査状況（南より）
130号遺構P1付近遺物出土状況（東より）
図版　44　130号遺構遺物出土状況（左側は351号溝）（南より）

130号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（南より）
131号遺構調査状況（貝ブロックが見える）（南東より）
131号遺構遺物出土状況（西より）
125・131号遺構全景（南東より）
131号遺構全景（南西より）
131号遺構遺物出土状況１（東より）
131号遺構遺物出土状況２（南東より）
図版　45　131号遺構遺物出土状況３（南より）
131号遺構周辺の浅利調査員（南東より）
132号（土坑）全景・139号遺構遺物出土状況（北西より）
132号（土坑）全景・139号遺構完掘状況（北西より）
133号遺構全景（南西より）
133号遺構Ｐ２付近遺物出土状況１（西より）
133号遺構Ｐ２付近遺物出土状況２（北東より）
133号遺構Ｐ５付近遺物出土状況（北東より）
図版　46　133号遺構全景・完掘状況（西より）
134号遺構周辺の作業風景（東より）
134号遺構周辺調査状況（東より）
134号（中央）遺構調査状況（西より）
134号遺構全景（西より）
134号遺構貯蔵穴東コーナー遺物出土状況１（南より）
134号遺構貯蔵穴東コーナー遺物出土状況２（西より）
134号遺構北コーナー遺物出土状況（南より）
図版　47　134号遺構カマド（南より）
135号遺構全景（西より）
136号遺構全景（北西より）
136号遺構東コーナー敲甕出土状況（西より）
137号遺構全景（南より）
137号遺構南東コーナー貯蔵穴遺物出土状況（南より）
139号遺構遺物出土状況（西より）
図版　48　139号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（北西より）
141・142号遺構調査状況（141号上層）（北西より）
141・142号遺構全景（北西より）
141・142号遺構全景（北より）
141号遺構遺物出土状況（左は143号貯蔵穴）（北西より）
143号遺構周辺（南東より）
143号遺構周辺遺物出土状況（西より）
143号遺構南コーナー遺物出土状況１（東より）
図版　49　143号遺構南コーナー遺物出土状況２（南より）
143号遺構南コーナー遺物出土状況３（北より）
143号遺構全景・完掘状況（東より）
144号遺構付近調査状況（カマドは197号）（東より）
144号遺構周辺・調査状況（北より）
144号遺構周辺調査状況（東より）
144号遺構周辺（139号は調査中）（北東より）
144号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（北東より）
図版　50　144号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（東より）
144号遺構Ｐ９付近遺物出土状況（北東より）
144号遺構カマド遺物出土状況（西より）
145号遺構全景（東より）
144・146号遺構周辺（西より）
146号遺構全景（南東より）
146号遺構Ｐ４（東より）
146号遺構周辺・完掘状況（東より）
図版　51　147号遺構全景（北東より）
148号遺構周辺（北西より）
148号遺構全景（北東より）
149号遺構調査状況（北東より）
149号遺構Ｐ６付近遺物出土状況（南より）
150・151号遺構（148号に削平）全景（北より）
150号遺構Ｐ４付近太型蛤刃石斧出土状況１（南西より）
150号遺構太型蛤刃石斧出土状況２（北より）
図版　52　152・153号遺構全景（南より）
152・153号遺構・全景調査状況（北東より）
152号遺構Ｐ４付近遺物出土状況１（南より）
152号遺構Ｐ４付近遺物出土状況２（北東より）

153号遺構Ｐ３付近遺物出土状況１（東より）
153号遺構Ｐ３付近遺物出土状況２（南より）
153号遺構北コーナー遺物出土状況（東より）
154号（左奥）遺構（手前は152・153号）全景（北東より）
図版　53　154号遺構南コーナー遺物出土状況（東より）
154号遺構遺物出土状況（北東より）
154号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（北東より）
155号遺構炉検出状況（東より）
155号遺構（土坑）全景（東より）
156号遺構（土坑）（東より）
157号周辺遺構（東より）
157・158号遺構調査状況（南より）
図版　54　157号遺構南西コーナー遺物出土状況（西より）
157・158号（周辺）遺構遺物出土状況全景（南より）
159号遺構周辺（東より）
159号遺構遺物出土状況１（南東より）
159号遺構遺物出土状況２（東より）
159号遺構カマド遺物出土状況（南西より）
160号遺構周辺作業風景
160号（中央）遺構全景（東より）
図版　55　160号遺構カマド付近遺物出土状況（南西より）
160号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（西より）
161号遺構Ｐ５付近遺物出土状況（西より）
161号遺構全景（東より）
162号遺構周辺遠景（北西より）
162号遺構全景（北より）
162号遺構全景（西より）
163号遺構全景（東より）
図版　56　165号遺構付近作業風景（南より）
165・166号遺構全景（東より）
165・166号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（東より）
165号遺構カマド遺物出土状況（南東より）
167号遺構周辺全景１（北より）
167号周辺遺構全景２（拡大）（北より）
167号遺構周辺作業風景（南より）
167号遺構土層断面調査風景（南より）
図版　57　169号遺構周辺（北東より）
169号遺構炉・遺物出土状況（北東より）
170・171号遺構全景（東より）
170号遺構カマド（南より）
170号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（南より）
170号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（東より）
171号遺物出土状況（東より）
172号遺構全景（北東より）
図版　58　172号遺構全景（北東より）
172号遺構炉・遺物出土状況（東より）
173号遺構近景（南より）
173号遺構全景（北より）
173号遺構Ｐ12付近遺物出土状況（南より）
174号遺構全景（南東より）
174号遺構周辺（東より）
174号遺構周辺（南東より）
図版　59　174号遺構Ｐ10付近遺物出土状況（東より）
174号遺構内行花紋鏡出土状況１（西より）
174号遺構内行花紋鏡出土状況２（東より）
175号遺構（土坑）遺物出土状況（東より）
176号遺構全景（奥が166号）（東より）
176号（手前）遺構全景（南東より）
176号（中央）遺構全景（西より）
176号遺構内Ａ・Ｂ貝ブロック（東より）
図版　60　177号遺構周辺（南東より）
178号遺構全景（北西より）
178号遺構Ｐ２遺物出土状況（北より）
179号遺構全景（東より）
178号遺構貯蔵穴遺物出土状況（南より）
179号遺構カマド付近遺物出土状況（北東より）
180号遺構全景（南東より）
180号遺構全景（北西より）
図版　61　180号遺構Ｐ５遺物出土状況（西より）
181号遺構近景（南西より）
181号遺構Ｐ５付近遺物出土状況１（南西より）
181号遺構Ｐ５付近遺物出土状況２（南より）

181号遺構Ｐ５付近遺物出土状況３（北西より）
182号遺構近景（北西より）
182号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（東より）
182号遺構カマド遺物検出状況（北より）
図版　62　183（手前）・184号（奥）遺構（拡張前）全景（西より）
183号遺構カマド・支脚出土状況（南西より）
184号遺構Ｐ６付近遺物出土状況（西より）
186号遺構調査風景遠景（北側より111号方面を望む）
186（中央）・187号遺構全景（北より）
186号遺構Ｐ６付近遺物出土状況（南より）
186号遺構Ｐ５付近遺物出土状況（南より）
186号遺構Ｐ９付近遺物出土状況（北より）
図版　63　188号遺構全景（北西より）
188号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（北西より）
188号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（北東より）
189号周辺遺構全景（南より）
189・191号（手前）遺構全景（東より）
189号遺構南コーナー遺物出土状況（北西より）
189号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（東より）
189号遺構カマド（南より）
図版　64　190・191号（手前）遺構近景（南東より）
190号（カマド）遺構周辺（南西より）
190号遺構Ｐ４遺物出土状況１（南より）
190号カマド調査状況（南西より）
190号遺構Ｐ４遺物出土状況２（南より）
192号遺構全景（南より）
192号遺構東コーナー付近遺物出土状況（南より）
192号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（東より）
図版　65　192号遺構Ｐ３遺物出土状況（北東より）
192号（中央）遺構完掘状況（南西より）
193号（中央）遺構全景（北東より）
193号（中央）遺構全景（北東より）
193号遺構南東コーナー付近遺物出土状況（南より）
194号遺構遺物出土状況１（北東より）
194号遺構北西壁付近遺物出土状況１（南より）
194号遺構北西壁付近遺物出土状況２（南東より）
図版　66　194号遺構北西壁付近遺物出土状況３（南より）
194号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（南より）
194号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（南より）
194号遺構完掘状況（南東より）
195号遺構全景（東より）
195号遺構遺物出土状況（南より）
195号遺構北コーナー付近遺物出土状況（南より）
196号遺構周辺作業風景（北より）
図版　67　196号（中央）（手前195号）遺構全景（南より）
196号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（西より）
196号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（西より）
197（中央）198号（右）遺構遺物出土状況（北より）
197号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（南より）
197（中央）198号（右）遺構完掘状況（北より）
199号遺構全景（南東より）
200号（右）（手前201号）遺構調査状況（南西より）
図版　68　200号遺構全景（南西より）
201号遺構全景（南東より）
201号遺構Ｐ６付近遺物出土状況１（北より）
201号遺構Ｐ６付近遺物出土状況２（南より）
202号遺構全景遺物出土状況（東南より）
202・203号遺構全景（南より）
203号遺構全景（南東より）
203号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（南東より）
図版　69　203号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（南東より）
205号遺構全景（カマドは201号）（南よ

り）
206号遺構全景（南東より）
208（中央）・209号（右）遺構調査状況（南より）
208号遺構炉付近遺物出土状況１（南より）
208号遺構炉付近遺物出土状況２（北より）
208号遺構全景（北より）
209号遺構全景（南より）
図版　70　209号遺構炉付近遺物出土状況１（南より）
209号遺構付近全景（北西より）
209号遺構炉付近遺物出土状況２（西より）
209号（中央）遺構完掘状況（北より）
210号遺構調査状況（南より）
210号遺構遺物出土状況１（南西より）
210号遺構遺物出土状況２（北西より）
210号遺構遺物出土状況３（南西より）
図版　71　210号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（北西より）
210号遺構カマド付近遺物出土状況（北西より）
210号遺構カマド調査状況（南東より）
210号遺構カマド調査中の故鈴木調査員
211（中央）・212号遺構付近遺物出土状況（北より）
211・212号遺構遺物出土状況（南西より）
212号遺構遺物出土状況（西より）
212号遺構遺物出土状況（南より）
図版　72　213号遺構全景（北西より）
213号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（西より）
214号遺構全景（東より）
214号遺構全景（北西より）
215号遺構付近遺物出土状況（東より）
215号遺構全景（東より）
216号遺構（土坑）周辺（北西より）
216号遺構（土坑）拡大（南西より）
図版　73　217号遺構全景（北東より）
217号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（北より）
218号周辺遺物出土状況（東より）
218号遺構周辺（北西より）
219号遺構全景（西より）
220号遺構全景（東より）
220号遺構全景（西より）
221号（中央）遺構全景（南東より）
図版　74　221号（中央）遺構遺物出土状況（東より）
222号遺構遺物出土状況（南東より）
222号遺構全景（北西より）
223号遺構全景（北東より）
223号遺構南コーナー遺物出土状況（北西より）
223号遺構北コーナー付近遺物出土状況（東より）
224（中央）・225号（土坑）遺構全景（東より）
224（奥）・225（土坑）・226号（中央）遺構全景（北東より）
図版　75　226号（中央）遺構全景（北東より）
227号（奥）遺構遺物出土状況（北より）
228号（左）遺構全景（東より）
228号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（西より）
230号（中央）遺構周辺（東より）
230号（中央）遺構周辺（南より）
230号遺構遺物出土状況（東より）
230号（左）遺構周辺（北より）
図版　76　230号遺構Ｐ５付近遺物出土状況（北東より）
230号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（東より）
230（中央）・231号（手前）付近全景（南東より）
231号（手前）遺構全景・遺物出土状況（南東より）
231号遺構南壁付近遺物出土状況（東より）
232号遺構全景（北東より）
233号遺構付近全景（東より）
233号（中央）遺構全景（西より）
図版　77　235（中央）遺構全景（南西より）
235号遺構炉付近遺物出土状況（南より）
236号（中央）遺構周辺（西より）
237号遺構遺物出土状況（東より）
237号遺構炉付近・遺物出土状況（北西より）
238号（中央）遺構周辺遺物出土状況（東より）
238号（中央）遺構遺物出土状況（東より）
238号（中央）遺構周辺（南西より）

図版　78　238号遺構Ｐ５付近遺物出土状況（北西より）
238号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（南西より）
238号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（北より）
239号（中央）遺構全景（南西より）
239号（中央）遺構遺物出土状況（北東より）
240・241号遺構付近調査状況（北東より）
240・241号遺構付近調査状況（北東より）
240号（奥）遺構付近完掘状況（北東より）
図版　79　240号（中央）遺構遺物出土状況（北東より）
240号遺構南コーナー遺物出土状況１（北より）
240号遺構南コーナー遺物出土状況２（北より）
241号遺構遺物出土状況（北東より）
241号遺構カマド遺物出土状況（東より）
241号遺構南コーナー遺物出土状況（西より）
241号遺構カマド遺物出土状況（東より）
241号遺構カマド内高坏出土状況
図版　80　242号（右）遺構周辺遺物出土状況（東より）
242号（中央）遺構全景（南より）
243（中央）・244号遺構付近調査状況（北東より）
243（中央）・244号遺構全景（南東より）
243号遺構Ｐ６付近遺物出土状況（東より）
246号（中央）遺構全景（南西より）
246号（中央）遺構全景（南東より）
246号遺構Ｐ５ピット内遺物出土状況
図版　81　247号遺構全景（南より）
248号遺構付近遠景（北より）
248号遺構遺物出土状況（北東より）
248号遺構南コーナー付近遺物出土状況１（北東より）
248号遺構南コーナー付近遺物出土状況２（北東より）
248号遺構カマド遺物出土状況１（北より）
248号遺構カマド遺物出土状況２（北東より）
248号遺構完掘状況（北東より）
図版　82　249号（中央）遺構遺物出土状況（北東より）
249号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（東より）
249号（中央奥）遺構完掘状況（北東より）
250号遺構（土坑）全景（北西より）
252号遺構遺物出土状況（東より）
252号遺構遺物出土状況（南西より）
252号遺構西コーナー付近遺物出土状況１（南東より）
252号遺構西コーナー付近遺物出土状況２（東より）
図版　83　252号遺構西コーナー付近遺物出土状況（北東より）
252号遺構南壁付近遺物出土状況１（東より）
252号遺構南壁付近遺物出土状況２（西より）
253号遺構完掘状況（西より）
254号遺構遺物出土状況１（北東より）
254号遺構遺物出土状況２（南より）
255号遺構遺物出土状況（北西より）
255号遺構完掘状況（北より）
図版　84　256号遺構西壁付近・遺物出土状況（北より）
256号（中央）遺構付近遺物出土状況（北東より）
257号遺構遺物出土状況１（南東より）
257号遺構遺物出土状況２（南東より）
257号遺構完掘状況（南東より）
257号遺構北西コーナー遺物出土状況（南より）
257号遺構西壁付近遺物出土状況（北東より）
258号（中央）遺構全景・遺物出土状況（南より）
図版　85　258号遺構完掘状況（西より）
259号（中央）遺構完掘状況（南東より）
260号遺構周辺調査風景（南より）
260・262号（中央）遺構遺物出土状況（南東より）
261号遺構全景（南より）
261号遺構西壁付近遺物出土状況（北東より）
262号遺構周辺全景（南東より）

263・264号（中央）遺構遺物出土状況（南西より）
図版　86　263号遺構付近調査状況（南より）
263号遺構遺物出土状況（南西より）
263号遺構完掘状況（南より）
264号遺構付近調査状況（北より）
264号遺構全景（南東より）
265（右）・266（中央）・267号（左）遺構全景（北より）
268号遺構全景（南西より）
268号遺構全景（南西より）
図版　87　269号遺構付近調査状況（南東より）
270号遺構調査状況（北西より）
269号遺構調査状況（南東より）
269（中央）・270号遺構遺物出土状況（南東より）
269（中央奥）・270号（中央）遺構全景（西より）
269号遺構付近調査状況（南東より）
270号遺構全景（北より）
270号遺構炉付近遺物出土状況１（南東より）
図版　88　270号遺構炉付近遺物出土状況２（北東より）
270号遺構東コーナー付近遺物出土状況（東より）
270号遺構貯蔵穴（北東より）
270号遺構炉確認状況（南東より）
270号遺構炉完掘状況（南より）
271号遺構全景（南より）
271号遺構炉遺物出土状況（西より）
272号遺構遺物出土状況１（南東より）
図版　89　272号遺構遺物出土状況２（北東より）
272号遺構付近調査状況（南西より）
272号遺構東コーナー遺物出土状況（北西より）
272号遺構遺物出土状況（東より）
272号遺構炉付近遺物出土状況（西より）
272号遺構炉付近遺物出土状況（東より）
272号遺構炉付近遺物出土状況（北東より）
272号遺構完掘状況（南東より）
図版　90　273号遺構付近調査状況（南より）
273号遺構確認状況（南西より）
273号遺構確認状況（北東より）
273号遺構全景（東より）
273・274号遺構完掘状況（北より）
273号遺構周辺（南より）
275号遺構遺物出土状況（北西より）
276号遺構全景（西より）
図版　91　276号遺構全景（北より）
276号遺構西壁付近遺物出土状況（北より）
277号遺構全景・２号墳主体部調査状況（南東より）
277号遺構遺物出土状況（北東より）
277号遺構炉付近遺物出土状況（南東より）
278号遺構完掘状況（南東より）
279号遺構全景（南東より）
279号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（南より）
図版　92　280号遺構周辺調査状況（西より）
280号遺構遺物出土状況（南東より）
280号遺構完掘状況（南東より）
280号遺構全景（西より）
280号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（南東より）
280号遺構炉付近遺物出土状況（南より）
282号（手前）遺構付近全景（北より）
282号遺構全景（北より）
図版　93　285号遺構全景（東より）
285号遺構全景（北東より）
286（土坑）・287号遺構全景（北東より）
286号（土坑）遺物出土状況・287号遺構全景（南西より）
286（土坑）・287号遺構完掘状況（南より）
288号遺構完掘状況（北西より）
288（中央）・289号（奥）遺構完掘状況（北西より）
288（左）・289号（右）遺構遺物出土状況（南西より）
図版　94　290号遺構全景（西より）
291号遺構完掘状況（奥が１号遺構）（南より）
292号遺構完掘状況１（南西より）
292号遺構完掘状況２（南西より）
292号遺構Ｐ５付近遺物出土状況（南より）
293号遺構遺物出土状況（南より）
293号遺構炉付近遺物出土状況（南西より）
294号遺構周辺調査状況（南より）
図版　95　294・295号遺構遺物出土状況（南より）
295号遺構カマド周辺遺物出土状況（南よ

り）
296号（中央）遺構遺物出土状況１（東より）
296号遺構遺物出土状況２（南より）
296号（手前）遺構付近完掘状況（南より）
297号遺構周辺（北西より）
297号遺構全景（南西より）
297号遺構周辺遺物出土状況（南西より）
図版　96　298号遺構遺物出土状況１（南西より）
298号遺構遺物出土状況２（南西より）
299号遺構周辺（南より）
299号遺構付近遺物出土状況（南西より）
299号遺構全景（西より）
299号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（東より）
300号遺構全景（南西より）
296 ～ 300号遺構付近完掘状況（北より）
図版　97　301（中央）・302号（左）遺構全景（南より）
302（中央）・303号（奥）遺構全景（西より）
304（中央）・305号（中央奥）遺構全景（南西より）
304号遺構東コーナー遺物出土状況（南西より）
304号遺構Ｐ９遺物出土状況（北より）
307号遺構全景（南東より）
308号遺構全景（東より）
309号遺構調査状況（南西より）
図版　98　309号遺構遺物出土状況（南より）
309号遺構完掘状況（西より）
310号（左）遺構周辺完掘状況（東より）
310号（中央）遺構遺物出土状況（西より）
310号遺構完掘状況（南東より）
311号（右）遺構完掘状況（東より）
311号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（北西より）
312号（中央）遺構全景（西より）
図版　99　313号（中央）遺構全景（東より）
313号遺構遺物出土状況１（南西より）
313号遺構遺物出土状況２（南西より）
313号（中央）遺構周辺（北より）
313号（中央）遺構完掘状況（北より）
313（中央）・314号（右）遺構周辺（西より）
313（中央）・314号（手前）遺構遺物出土状況（南より）
315号（中央）遺構遺物出土状況（北西より）
図版　100　315号遺構Ｐ１付近遺物出土状況（北西より）
315号遺構炉遺物出土状況（北西より）
315号遺構完掘状況（南西より）
316号遺構完掘状況（北西より）
317（左）・318号（右）遺構遺物出土状況（西より）
317号遺構貯蔵穴遺物出土状況１（東より）
317号遺構貯蔵穴遺物出土状況２（東より）
317号遺構炉遺物出土状況（北東より）
図版　101　317号遺構Ｐ４付近遺物出土状況（北より）
317・318号遺構遺物出土状況（北より）
317・318号遺構遺物出土状況（北東より）
319号遺構遺物出土状況（北東より）
320号遺構付近調査状況（南より）
320号遺構遺物出土状況（南東より）
320号遺構遺物出土状況（北西より）
320号遺構炉遺物出土状況１（南東より）
図版　102　320号遺構炉遺物出土状況２（南より）
320号遺構炉遺物出土状況３（南西より）
321号遺構完掘状況（南東より）
322号遺構付近調査状況（北西より）
322号遺構遺物出土状況（南西より）
322号遺構遺物出土状況（北西より）
324（中央）・325号（左）遺構遺物出土状況（北西より）
324（中央）・325号（右）遺構完掘状況（南東より）
図版　103　326号（土坑）遺構全景（南西より）
326号遺構（土坑）遺物出土状況（南より）
327号遺構（土坑）（西より）
328号遺構周辺（北より）
328（手前）・329号（奥）遺構遺物出土状況（南西より）
328号遺構南コーナー遺物出土状況（北より）
330（右）・331号（中央）遺構調査状況（北より）
330（奥）・331号（中央）遺構遺物出土状況１（北東より）

図版　104　330（左）・331号（中央）遺構遺物出土状況2（南東より）
331号遺構北西壁付近炉（南東より）
332号遺構遺物出土状況（南西より）
332号遺構カマド付近遺物出土状況（南西より）
332号遺構カマド遺物出土状況（南西より）
332号遺構Ｐ５付近（北より）
333（右）・334（左）・335号（中央）遺構完掘状況（西より）
333（手前）・334（右）・335号（奥）遺構遺物出土状況（東より）
図版　105　333号遺構遺物出土状況（南西より）
333号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（東より）
334号遺構全景（北西より）
334号遺構完掘状況（南西より）
335号遺構全景（南東より）
336号遺構付近調査状況（東より）
336号遺構完掘状況（南西より）
336号遺構完掘状況（北東より）
図版　106　336号遺構周辺完掘状況（北より）
337号（手前）周辺遺構群（北西より）
337号遺構全景（南より）
337号遺構炉遺物出土状況（南西より）
338号遺構遺物出土状況（南より）
338号遺構完掘状況（北より）
339（奥）・340号（手前）土器棺墓（南東より）
339（中央）・340号（右奥）土器棺墓（東より）
図版　107　339号土器棺墓（北より）
339号土器棺墓（南東より）
339号土器棺墓・完掘状況（北東より）
340号土器棺墓（南東より）
340号土器棺墓（北東より）
341号遺構調査状況（東より）
341号遺構完掘状況（東より）
342・343号（手前）遺構付近（西より）
図版　108　342号（中央）周辺遺構群完掘状況（北東より）
342号（中央）遺構全景（南西より）
343号遺構完掘状況（北西より）
344号（中央）周辺遺構群・完掘状況（南西より）
344号（左）・345号（右）遺構完掘状況（南より）
346号（中央）周辺遺構群遺物出土状況（南西より）
346号遺構遺物出土状況（北西より）
346号遺構Ｐ３付近遺物出土状況（東より）
図版　109　346号遺構西壁付近遺物出土状況１（西より）
346号遺構西壁付近遺物出土状況２（北西より）
346号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（南東より）
347号遺構（土坑）・10号方周調査状況（北東より）
348号遺構全景･遺物出土状況（南東より）
348号遺構貝ブロック出土状況（北より）
348号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（南より）
348号遺構カマド調査状況（南より）
図版　110　348号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（北より）
349号遺構遺物出土状況（東より）
349号遺構完掘状況（南西より）
349号Ｐ１付近遺物出土状況１（北東より）
349号Ｐ１付近遺物出土状況２（西より）
349号遺構Ｐ２付近遺物出土状況（北西より）
350号遺構完掘状況（北西より）
351号遺構（溝）１（北より）
図版　111　351号遺構（溝）２（北より）
351号遺構（溝）３（南西より）
351号遺構（溝）４（南西より）
352号遺構（溝）（南西より）
352号遺構（溝）・鏡片（内行花紋鏡）出土状況１（南東より）
352号遺構（溝）・鏡片（内行花紋鏡）出土状況２（南より）
352号遺構（溝）・鏡片（内行花紋鏡）出土状況３（北より）
調査終了（埋め戻し）風景
図版　112　調査風景１
調査風景２
御林跡遺跡全景（北より）
調査補助員の昼食風景１
調査補助員の昼食風景２
埋め戻し状況（東より）
遺跡削平風景（北西より）

削平消滅した遺跡に佇む人（北東より）

遺　物　図　版　目　次

図版　113　1-1・2-3 ～ 5・3-3 ～ 4・3-7 ～ 11・4-1 ～ 3・4-5・4-7

図版　114　4-13・4-26・5-1 ～ 2・6-4・7-14 ～ 15・9-1・9-1底部・9-2・9-2底部・9-3 ～ 4・9-6 ～ 7

図版　115　9-9・10-1 ～ 3・10-6 ～ 7・10-9・10-11・12-1・12-2・12-2（ 底 部 ）・13-1 ～ 2・13-13

図版　116　13-7・13-9 ～ 11・14-1 ～ 4・14-8 ～ 9・14-11・15-2 ～ 4・15-6 ～ 7

図版　117　15-13 ～ 14・17-1 ～ 7・17-9 ～ 11・17-20

図版　118　17-13 ～ 14・17-16 ～ 18・17-22 ～ 27・17-30 ～ 34

図版　119　17-35 ～ 37・17-39 ～ 41・18-1・20-2・20-6 ～ 7・20-12 ～ 13・20-16・20-18 ～ 19・20-23 ～ 24

図版　120　20-22・20-26・20-29・21-1 ～ 2・21-4 ～ 5・22-4・22-4（内面）・22-5 ～ 7・22-9・24-2・25-1

図版　121　25-4 ～ 5・25-7 ～ 8・25-10・25-12・26-2 ～ 3・26-6・26-8・27-4・27-6 ～ 7・28-1 ～ 3

図版　122　28-4 ～ 7・28-9 ～ 11・28-15・28-20・28-22 ～ 24・29-1・32-2・33-1

図版　123　33-3・33-6 ～ 7・33-9・36-1・36-5 ～ 15・36-18 ～ 37-7

図版　124　37-1・37-8・37-13・37-13（ 内 面 ）・37-14 ～ 15・37-33・37-35・37-35（ 底 面 ）・38-2・39-1・39-3・40-7・42-11・42-15 ～ 16・45-1

図版　125　42-17・46-1 ～ 2・42-7 ～ 8・46-13 ～ 14・46-15・46-15（内面）・46-18・48-1 ～ 2・49-2・50-1 ～ 2

図版　126　50-3 ～ 4・50-7 ～ 8・50-16 ～ 17・52-1・53-7 ～ 11・53-13 ～ 16

図版　127　53-18 ～ 19・55-1 ～ 3・55-7 ～ 13・56-1 ～ 2・56-5・58-1

図版　128　58-2 ～ 3・58-7・58-9 ～ 10・58-16 ～ 18・58-21 ～ 22・58-22（内面）・58-23 ～ 26

図版　129　58-34・58-39 ～ 44・58-46 ～ 47・61-1 ～ 5

図版　130　61-6 ～ 12・61-15 ～ 18・61-25・61-28

図版　131　62-1・62-3・62-5 ～ 6・65-7・66-1・66-3・68-1・68-3・68-6・68-8・68-13・68-15 ～ 17

図版　132　68-18 ～ 19・69-3・71-1・71-3 ～ 5・71-8 ～ 11・72-2 ～ 5・72-11

図版　133　73-1 ～ 3・74-1・74-3・75-1 ～ 3・75-5・75-13 ～ 17

図版　134　77-1・77-5 ～ 11・77-13 ～ 15・78-1・79-1 ～ 3

図版　135　79-4・79-6・79-15 ～ 16・80-1 ～ 9

図版　136　80-10 ～ 14・80-16 ～ 21・81－1 ～ 2・81-7・81-15

図版　137　81-10・81-17・82-2・82-12 ～ 13・83-1 ～ 2・83-4 ～ 7・83-9（内面）・83-9（側面）・83-9（底部外面）・84-1

図版　138　84-12・84-21・84-26・84-29・84-30・86-1 ～ 2・86-4 ～ 6・86-8 ～ 9・87-1・87-3

図版　139　87-2・87-10 ～ 11・87-13・88-3・89-1（口縁部）・89-1（底部）・89-2・89-6・90-3 ～ 4・90-8・90-10・90-13・91-1・91-2・91-4

図版　140　91-3（坏部）・91-3（脚部）・91-5・91-12 ～ 14・91-21・95-6・95-9・92-23・93-1・93-6・95-2 ～ 3・96-1 ～ 3・96-5

図版　141　96-7・97-1 ～ 2・97-4・97-9 ～ 10・97-12・97-14 ～ 15・97-17 ～ 18・97-20・97-23 ～ 24・97-26

図版　142　97-27・97-29 ～ 33・99-1 ～ 2・99-7・99-11 ～ 18・99-26

図版　143　100-1 ～ 2・100-5・102-1 ～ 10・102-14

図版　144　102-12 ～ 13・102-15 ～ 20 ～ 24・106-1 ～ 2・107-1 ～ 2

図版　145　107-3（口縁部）・107-3（底部）・107-4 ～ 12・107-14・107-18 ～ 19

図版　146　107-20 ～ 23・107-25・108-3・108-6 ～ 7・110-1 ～ 3・110-5 ～ 7・110-7（ 底 部 ）・110-9

図版　147　110-10 ～ 11・110-14 ～ 23・111-3 ～ 8・114-2・117-2・117-7

図版　148　117-4（煤付着状況１）・117-4（煤付着状況2）・117-8 ～ 10・117-12 ～ 13・118-2 ～ 3・118-5 ～ 9・120-3・121-2

図版　149　122-1 ～ 5・122-7 ～ 11・123-2 ～ 3・123-6・123-8

図版　150　125-3 ～ 4・125-11・125-13・125-17・125-17（内面）・125-19・125-21・126-2 ～ 8

図版　151　126-9 ～ 14・126-16 ～ 23

図版　152　126-24 ～ 29・127-1 ～ 6・128-4・130-1 ～ 4

図版　153　130-5・130-8 ～ 11・130-13・130-15 ～ 19・131-1 ～ 5・131-7
図版　154　131-6・131-8 ～ 20・131-23・131-23（ 内面）・131-26・131-30 ～ 31・131-33
図版　155　131-34・133-1 ～ 4・133-6 ～ 8・134-1 ～ 4・134-12 ～ 13・134-15 ～ 16
図版　156　134-18・134-20・134-23・134-24・134-24（内面）・134-25 ～ 26・134-26（内面）・134-27・134-27（ 内 面 ）・134-28 ～ 31・134-33・134-35・134-38・136-1 ～ 2・136-10
図版　157　136-7 ～ 9・137-1 ～ 5・137-7 ～ 11・139-1
図版　158　139-2 ～ 1 4・139-16
図版　159　139-15・139-17 ～ 30
図版　160　139-33・139-39・140-2・140-6・142-1・142-4 ～ 8・143-1 ～ 5
図版　161　143-6 ～ 9・143-11 ～ 18・143-20 ～ 21・144-1 ～ 2・144-5
図版　162　144-6 ～ 9・144-11・144-13 ～ 14・144-18 ～ 21・144-21（内面）・144-24・144-25 ～ 27・144-29
図版　163　144-32・145-1 ～ 2・145-4・145-8・145-10・145-13 ～ 15・146-2・146-4・146-7 ～ 10・148-1
図版　164　148-4・148-6・148-9・149-1・149-7 ～ 8・149-10 ～ 11・150-4・152-1 ～ 3・152-6・152-8 ～ 11・152-13
図版　165　153-1 ～ 6・154-1 ～ 5・155-3・156-3・157-1・157-7・157-10
図版　166　157-8・157-12 ～ 13・157-16・157-20・158-2・159-1 ～ 9・159-18
図版　167　159-19・159-23 ～ 25・159-27 ～ 42・159-44 ～ 45
図版　168　159-49 ～ 50・159-53 ～ 54・160-3・160-5・160-7 ～ 9・160-12 ～ 14・161-1・161-3 ～ 5
図版　169　160-7 ～ 11・161-12 ～ 14・162-1 ～ 2・163-2・165-1 ～ 5
図版　170　165-7・165-9 ～ 12・165-18 ～ 19・165-24・167-6・167-11・170-1 ～ 6
図版　171　170-7 ～ 11・170-13・170-18・170-18（ 内面）・170-19・170-19（ 内 面 ）・170-20 ～ 25・170-27 ～ 28
図版　172　170-29・170-32 ～ 35・172-1 ～ 2・172-4・173-1 ～ 3・173-5 ～ 6・173-12・175-2 ～ 3・176-1
図版　173　176-5 ～ 7・176-9・176-12・176-14・176-16・176-26・176-27 ～ 28・177-3・177-6 ～ 8・178-1 ～ 2・178-6
図版　174　178-3・178-7 ～ 11・179-1・179-3 ～ 4・179-6・179-10・180-1・180-3・180-5 ～ 6・181-1 ～ 2・181-11
図版　175　182-1・182-7 ～ 8・182-11・182-13・182-22・184-2・186-1・186-3・187-2・188-1 ～ 2・188-5 ～ 7・188-10
図版　176　188-8・188-10 ～ 11・189-1・189-8・189-10 ～ 12・189-15 ～ 16・189-18・190-1・190-4 ～ 5・190-7 ～ 8・190-10
図版　177　190-11・190-13 ～ 17・192-1 ～ 2・192-5・192-7 ～ 9・193-1 ～ 2・193-4・194-1・194-3
図版　178　194-2・194-5 ～ 8・195-1・195-8 ～ 9・195-12・196-1・196-3 ～ 6・196-10
図版　179　196-11 ～ 12・197-1・197-3 ～ 4・199-2・199-5・199-8・199-10・200-1 ～ 2・200-4・200-6 ～ 8
図版　180　200-9 ～ 10・200-13 ～ 14・201-2・201-4 ～ 5・202-8 ～ 9・203-1 ～ 2・203-5 ～ 6・203-10・205-6・208-3
図版　181　207-4・209-4 ～ 6・209-8・210-1 ～ 3・210-6 ～ 7・210-12 ～ 15・210-17
図版　182　210-19・210-21 ～ 22・210-26・210-29・210-37 ～ 38・211-6 ～ 7・212-1・212-9・213-1・213-5・215-1・215-9・215-15 ～ 16・215-18
図版　183　217-5・217-11・217-14 ～ 15・222-2 ～ 6・223-1 ～ 5・224-5
図版　184　224-6・224-8・227-1・227-9 ～ 10・227-17 ～ 18・227-19・230-5 ～ 6・230-6（底部外面 ）・230-7・231-1 ～ 3・231-5・231-7・232-1
図版　185　232-4 ～ 6・232-8・232-10・233-1・236-2・238-1 ～ 9
図版　186　239-1 ～ 4・240-1 ～ 3・240-5・240-9 ～ 10・240-15・240-16（坏部）・240-16（脚部）・241-1 ～ 2
図版　187　241-3・241-6 ～ 7・241-9 ～ 12・241-12（ 内 面 ）・241-13 ～ 14・241-16 ～ 17・241-19 ～ 20・243-2・243-9 ～ 11
図版　188　243-12・244-1・246-1 ～ 4・246-9・246-12 ～ 14・246-30 ～ 31・248-1 ～ 4・248-8
図版　189　248-6・248-9・248-16・249-1 ～ 3・252-2 ～ 3・253-1・255-1 ～ 3・255-5・255-8・256-1
図版　190　256-2 ～ 3・257-1・258-3・259-1 ～ 2・259-4・259-8・260-1・261-3・261-8・

262-7・263-1・263-6・263-9 ～ 11

図版　191　263-14 ～ 15・264-2・264-4・269-1 ～ 2・269-6・269-8・269-10・269-13 ～ 14・270-2・270-5・270-8 ～ 9・271-1・271-3・272-1

図版　192　272-2 ～ 3・272-5 ～ 8・272-15 ～ 17・272-21 ～ 22・273-1・274-2・275-1・277-2・277-4

図版　193　278-1・278-9・280-1・280-4・280-6・282-1 ～ 2・282-5 ～ 6282-8・282-20・283-2 ～ 3・283-8・284-1・284-3・284-7

図版　194　284-4 ～ 6・286-2 ～ 4・287-2・288-1 ～ 6・289-1・290-4

図版　195　290-2 ～ 3・291-5・292-1 ～ 2・292-6・292-8・293-1・293-2 ～ 3・293-6・293-8 ～ 9・295-1 ～ 3

図版　196　295-4 ～ 8・295-11 ～ 12・295-20 ～ 21・295-24 ～ 25・297-3 ～ 5・298-1 ～ 2

図版　197　298-4・299-1・299-3・300-7・301-4・301-6・302-1 ～ 2・304-9・304-11 ～ 16・304-18 ～ 19

図版　198　305-1・307-5・308-1 ～ 4・309-2・310-1 ～ 2・310-4・312-1・312-4・313-1 ～ 3

図版　199　313-4・313-6・315-1 ～ 2・315-5・317-1 ～ 5・317-7 ～ 11

図版　200　317-13・317-15 ～ 18・318-2・318-4・319-1 ～ 4・320-1 ～ 3・321-4・322-1

図版　201　322-2・322-4 ～ 7・322-9 ～ 10・322-13 ～ 17・322-19 ～ 23・322-25・326-1

図版　202　328-1 ～ 2・330-2・330-6・331-1・331-5・332-1
332-1（底部）～ 3・332-5 ～ 7・333-3 ～ 4

図版　203　333-5 ～ 7・335-1 ～ 2・336-1 ～ 2・336-5 ～ 6・336-10 ～ 12・336-14・336-16 ～ 17・336-20

図版　204　336-30 ～ 31・338-3・338-5 ～ 6・338-8・339-1 ～ 2・339-1 ～ 2（検出状況）・340-1 ～ 2・340-1 ～ 2（検出状況）・341-4

図版　205　342-12・343-1・343-4 ～ 6・343-9・343-12 ～ 13・346-1 ～ 4・348-1 ～ 2・348-5

図版　206　348-6 ～ 10・349-1 ～ 2・349-5 ～ 6・349-12 ～ 13・350-1・350-1（口縁）・350-1（胴部）・350-2・350-6 ～ 7

図版　207　350-8 ～ 9・351-2・351-5・352-3・ 一 括3 ～ 12

図版　208　一括13 ～ 14・17 ～ 18・23・25 ～ 27・29 1-1・2-1・2-2・2-6 ～ 14・3-1・3-2・3-5・3-12 ～ 24

図版　209　3-25 ～ 41・4-8 ～ 12・4-14・4-18 ～ 25・4-27 ～ 34・5-3 ～ 17・6-5 ～ 6・6-9 ～ 16・8-3 ～ 5・9-8

図版　210　9-10 ～ 17・10-17 ～ 35・11-2 ～ 3・12-3・13-3・13-8・13-19・14-13・15-8 ～ 9・16- 1 ・17-38・17-42 ～ 43・17-51 ～ 70・18-2・18-4 ～ 11

図版　211　20-32 ～ 37・22-3・22-10 ～ 19・24-5 ～ 9・25-9・25-11・26-10 ～ 15・28-25 ～ 27・31-5 ～ 11・32-1・32-5 ～ 10・33-13 ～ 20・35-3 ～ 5・36-2 ～ 3・36-21 ～ 22・37-22 ～ 30・37-32

図版　212　39-4 ～ 6・40-2 ～ 3・40-6・40-8 ～ 9・40-14 ～ 17・41-2・41-4 ～ 16・42-4 ～ 5・42-7 ～ 10・42-18・43-1 ～ 8・43-13・45-3 ～ 10・46-11・48-5・48-7・49-3 ～ 5・49-8・50-13 ～ 15・51-4 ～ 8

図版　213　51-9 ～ 11・52-2・53-20 ～ 29・54-2 ～ 3・54-6・55-3 ～ 4・55-6・55-15 ～ 21・56-4・56-6・57-1 ～ 2・57-5 ～ 16・58-37・58-57 ～ 68・61-60 ～ 63

図版　214　61-29 ～ 43・61-45 ～ 57・61-59・61-62・61-64 ～ 67・62-8 ～ 13・63-6 ～ 9・63-11 ～ 16・65-10 ～ 13

図版　215　66-9 ～ 22・68-29 ～ 37・69-2・71-14 ～ 24・72-20 ～ 21・73-9 ～ 11・75-20 ～ 24・79-20 ～ 22・81-21 ～ 27・84-5・84-7・84-15・84-32・84-35 ～ 37・87-16 ～ 17・87-19 ～ 21・88-21・88-24 ～ 26

図版　216　88-27 ～ 29・89-5・90-2・92-2・92-8 ～ 9・92-22・92-24 ～ 31・95-11 ～ 12・95-14 ～ 19・96-9 ～ 16・97-36 ～ 37・98-2 ～ 3・99-28 ～ 29・99-31 ～ 32・99-34・100-6 ～ 7・104-4 ～ 11・107-28・107-34 ～ 35・107-37・107-40 ～ 42・107-45 ～ 54・107-57 ～ 58・108-8

図版　217　108-9 ～ 10・108-12 ～ 14・110-29 ～ 31・111-11・112-5・125-24・126-30 ～ 36・127-7 ～ 14・129-1 ～ 3・130-21 ～ 22・133-9 ～ 13・134-7 ～ 8・134-10・134-40 ～ 42・136-12 ～ 14・136-16 ～ 19・137-12・140-5 ～ 12・142-11 ～ 12・144-16・145-16 ～ 22・146-12 ～ 15・148-10 ～ 15・149-6・149-15・149-20・149-22 ～ 27・150-6・153-11 ～ 12・154-6

図版　218　157-22 ～ 24・157-26・157-28 ～ 29・158-3・159-43・159-56 ～ 57・161-15 ～ 18・162-3 ～ 5・165-25 ～ 26・166-6 ～

8・167-7 ～ 10・167-12 ～ 13・167-15・168-2 ～ 8・169-3・170-36 ～ 43・171-5 ～ 8・172-3・172-7 ～ 18・174-13 ～ 15・176-32 ～ 34・176-38 ～ 40・177-9 ～ 10・177-13 ～ 16・177-18 ～ 21・177-23 ～ 27・178-4・178-13 ～ 14・179-9・179-12・179-16・180-8 ～ 11・181-5・181-10・181-12 ～ 13・181-15 ～ 23・181-25 ～ 34・181-36・189-13・189-23・189-25 ～ 27・190-20 ～ 21

図版　219　190-22 ～ 29・192-10 ～ 15・193-8 ～ 1 8・195-15 ～ 17・196-19・198-4 ～ 9・201-21 ～ 23・203-9・203-25 ～ 26・203-28 ～ 31 211-1・211-5・211-9 ～ 21・212-14・212-16 ～ 18・213-2・213-9 ～ 17・213-19 ～ 20・217-15・217-17 ～ 19・218-15 ～ 17・219-2・219-7・219-9・219-11 ～ 17

図版　220　203-32 ～ 35・203-37 ～ 42・203-44 ～ 47・206-6 ～ 8・206-10・208-5・220-2 ～ 4・220-6 ～ 7・221-4・223-6・226-4 ～ 5・227-21 ～ 23・228-8 ～ 10・228-12・231-10 ～ 12・233-3 ～ 7・234-1・234-7 ～ 12・236-1・236-6・236-9 ～ 13・237-4・238-13・238-15・240-23 ～ 31・241-5・241-22・242-4 ～ 7・242-9 ～ 10・242-12・243-20・243-22・243-28 ～ 29・244-4 ～ 5・246-15上・ 下 ～ 18・246-21 ～ 26・247-2 ～ 3・248-21 ～ 23

図版　221　248-24 ～ 28・248-33 ～ 34・249-12 ～ 14・252-6 ～ 8・253-2・254-7 ～ 9・255-10 ～ 12・255-14 ～ 17・255-19 ～ 21・256-6 ～ 7・257-7 ～ 8・258-6・260-3・261-1・261-4・261-13 ～ 21・261-23・262-8 ～ 11・263-17 ～ 25・263-27 ～ 30・264-8 ～ 19・268-2・268-5 ～ 11・269-19 ～ 20・270-10 ～ 21・270-23 ～ 25・270-28 ～ 34

図版　222　270-35 ～ 36・270-38 ～ 50・271-6・271-9・272-23 ～ 30・272-32・272-34 ～ 41・272-43・272-45・272-47 ～ 48・273-16 ～ 21・274-10 ～ 11・276-1・276-6 ～ 7・276-9・276-11 ～ 12・277-7277-8・277-10 ～ 15・278-12・279-3 ～ 4・279-7 ～ 8・279-10・283-10・283-14 ～ 16・286-5 ～ 6・289-6・292-9・295-13・297-7 ～ 9・298-7・300-8 ～ 11・301-8 ～ 9・301-11 ～ 13・301-17 ～ 18・302-5 ～ 6・303-3 ～ 5・304-22・304-27 ～ 30・304-32 ～ 33・307-1 ～ 4・307-6 ～ 7・308-11 ～ 12・309-3・310-5 ～ 6・311-1・311-6・311-9・312-7 ～ 9

図版　223　312-10 ～ 11・313-8・313-12・313-14・314-3・315-6 ～ 7・316-3 ～ 4・321-6・321-8・322-31 ～ 32・322-34・322-38・322-40 ～ 41・324-7 ～ 10・326-5 ～ 10・328-17 ～ 18・328-20・329-11・335-7・336-37・336-44・336-46・336-49 ～ 53・340-3・342-1 ～ 2・342-8・342-19 ～ 24・343-20・343-24 ～ 27 343-28・343-31 ～ 32・343-34 ～ 35・343-37・344-2 ～ 3・344-6・344-8・345-4・346-15 ～ 17・350-15・350-20 ～ 21・350-23・351-1・352-1・352-6 ～ 7・一括28・一括29

図版　224　6-8・13-16・13-18・15-16・17-44 ～ 47・33-21・36-19・40-13・49-6 ～ 7・53-30・61-71 ～ 74・65-9・68-25 ～ 26・68-28・72-18 ～ 19・73-13・77-16・80-22 ～ 24・84-32・92-33

図版　225　92-34 ～ 36・93-7・95-10・104-13・108-17 ～ 18・114-8・117-14・117-16 ～ 17・124-7・125-28 ～ 32・128-17 ～ 18・131-37 ～ 39・133-14・134-44・136-20 ～ 22・136-24・137-13 ～ 15・139-51 ～ 52

図版　226　141-4・142-17 ～ 19・143-24・144-34・144-36 ～ 37・148-16・150-9・153-13 ～ 14・157-31・159-58・159-60・161-19 ～ 21・166-9・169-4・173-13・178-15 ～ 16・180-13 ～ 14・181-37 ～ 38・186-11 ～ 13・189-29 ～ 30・190-30

図版　227　192-17・195-20 ～ 21・199-11 ～ 12・202-15 ～ 16・203-53 ～ 55・210-44・210-47・215-42 ～ 45・224-15・235-7・238-14・239-6240-34 ～ 38・246-32 ～ 33・246-36 ～ 37・249-16・255-22・255-24・260-4・261-25・261-26・262-12・263-31・264-20 ～ 21・270-51 ～ 54・272-50

図版　228　273-22 ～ 23・278-14・282-26 ～ 27・288-11・295-29 ～ 30・299-5・301-7・302-3・306-2・308-10・310-7・319-7 ～ 9・320-7 321-12 ～ 13・322-45 ～ 46・324-11 ～ 12・329-12 ～ 14・330-8・332-12・336-54・336-56・338-9・344-10・345-8・346-18・349-14 ～ 15・352-8 ～ 11

図版　229　7-13・13-20・28-28・37-38・42-19・45-11・49-8・75-25・84-31・86-10・

93-8・97-39・99-42 ～ 43・100-7・103-8・110-39 ～ 41・112-6・113-5 ～ 7・122-18・123-10・125-35・131-42 ～ 43・134-45 ～ 46・142-13・142-16・146-16・154-7・159-61 ～ 62・170-46 ～ 47・174-4・176-47・177-11・182-34・182-34・186-8・189-31 ～ 32・190-31 ～ 32・202-19・210-48 ～ 49・213-23・222-7・224-16・241-28・243-23 ～ 24・246-34・282-34・288-12・308-6・321-14・348-14・349-16・351-13・一括30・一括90・一括93・一括95 ～ 97・一括99 ～ 101

図版　230　13-21・17-48・36-20・37-36・38-1・40-12・58-51・90-18・92-32・92-32・97-38・99-35 ～ 38・110-34 ～ 35・110-42・125-33・131-36・131-40 ～ 41・134-47・140-13・160-19 ～ 20・170-44・170-48・176-42 ～ 43・179-15・182-32・210-45・210-50・217-20・221-5・241-29 ～ 32・243-25・244-16・248-35・255-9・258-7・272-51・283-12 ～ 13・288-9 ～ 10・309-5・351-12・一括31 ～一括37・一括98

図版　231　胎土分析１

図版　232　胎土分析２

第Ⅰ章　はじめに

1　調査に至る経緯と経過

昭和30年代後半から40年代にかけて、我国は高度経済成長期の真只中にあり、市原市は京葉工業地帯を抱えた首都圏に位置したことから、そのベッドタウンとしての大規模宅地造成が立て続けて計画された。その中の一つがおよそ380ヘクタールに及ぶ国分寺台土地区画整理事業である。

事業の先陣を切り、昭和45年には市原市国分寺台土地区画整理組合が設立され、これに対応する発掘調査機関として、昭和46年には市原市国分寺台埋蔵文化財調査会のもとに上総国分寺台遺跡調査団が結成された。

調査は翌昭和47年から開始され、当初３ヵ年の予定で事業地内の遺跡の調査が終了する予定であった。しかし、当時把握していた事業地内の遺跡は、蓋を開けてみれば予想を遥かに超えた規模であり、調査面積と調査期間の大幅な変更が余儀なくされた。最終的には昭和63年までの17年間の歳月をかけ、上総国分寺・尼寺をはじめとする43遺跡、面積にして537,270㎡分の発掘調査が終了した。

整理作業については、事業地内の発掘調査を最優先としたことや、報告書刊行に伴う費用負担の問題等からほとんど進捗しなかったが、平成７年度の市原市と市原市国分寺台土地区画整理組合との協議の結果、費用負担の問題も解決し再開されることになった。

今回報告する御林跡遺跡Ⅱは、昭和53年度に上総国分寺台遺跡調査団（団長　滝口　宏）のもと、当時副団長であった平野元三郎が代表を務める平野考古学研究所が中心となって調査を実施した調査面積12,000㎡の、その成果をまとめたものである。

2　遺跡の位置と遺跡名

御林跡遺跡は、現在の市原市根田１丁目に所在する。調査段階の昭和53年度の旧地名は、市原市加茂字御林跡450－１番地他である。

市原市は、房総半島の中央に位置する大福山から流れ出る支流を組み込む養老川流域に、南北約35㎞の細長い市域をもち、その中央を養老川が貫通する。

養老川下流域東岸から村田川南岸にかけての台地上は、「市原台地」と呼ばれており、今回報告する御林跡遺跡は、小支谷によって隔てられた西に根田代遺跡（大村2005）、北に台遺跡（半田2003）を望む標高20m前後の市原台地の西端部に位置し、南に御林跡遺跡の一部と辺田古墳群（木對2004）、東に弱い谷を隔て長平台遺跡（小橋2006）が存在する。これら周辺遺跡の詳細については、既に報告書も刊行されていることなので改めては述べない。

本遺跡は遺跡分布地図上「御林跡遺跡」（遺跡番号723）・「辺田古墳群」（遺跡番号724）として登録されている（市原市教育委員会1988）。つまり上層の古墳群については辺田古墳群、下層の集落跡については御林跡遺跡とするのが正しい。前回の報告に際しては、遺跡の内容も上層と下層に分離することが妥当な内容を有しており、そのことを踏まえ報告書名を決定した。しかし、今回の報告範囲における古墳は１基しか存在しておらず、かつ群を形成していない。また遺跡の内容からしても集落跡が主体で、盛土の存在しない終末期古墳をあえて主題にするべきではないと考える。したがって、本報告に際し、厳密には「辺田古墳群・御林跡遺跡Ⅱ」を報告書名として刊行するべきなのかもしれな

第１図　国分寺台地区の旧地形と調査遺跡（1/12,000）

第２図　周辺遺跡と旧地形（1/6,000）

いが、あえて「御林跡遺跡Ⅱ」を報告書名とする。

3　調査・整理の方法

（1）グリッド

前回の「辺田古墳墳・御林跡遺跡」の整理対象地は、調査年度と調査担当者を変え、過去３ヵ年にわたり調査が行われてきた遺跡であり、調査年度毎にその名称とピッチが異なる調査グリッドであったが、幸いにも公共座標を使用したグリッドであったため、大グリットを20m、小グリッドを５mで統一することができた。

統一に際し、新たに東から西に向かいアルファベットA・B・C・D…、北から南に向かい数字１・２・３・４…という型式を採用し、将来的に報告されるであろう北側に隣接する御林跡遺跡本体のことも考慮し、遺跡全体を網羅する形で再配置しておいた。

今回の御林跡遺跡の調査グリッドは10mピッチであるが、残念ながら公共座標に基づかない任意座標であった。そこで、任意座標に基づく全体図作成後、前回全体図作成を依頼した株式会社パスコに、公共座標値に基づいた前回の3,000分の１旧地形に合わせた全体図に、今回の調査範囲の追加を依頼し、御林跡遺跡の全体図を完成させた。

（2）遺物

検出された遺物は整理作業の過程において、遺構ごとに種別及び総数と総重量の把握に努めた。その結果、総数140,012点、重量にして2,587,303.6gの土器片と1,888点141,925gの礫・石器を検出し、詳細については第１表にまとめた。縄文土器1,150点、重量25,229g、弥生土器47,996点、重量719,418.4g、土師器90,397点、重量1,826,407.2gが最も多く出土した土器である。

前回の辺田古墳群・御林跡遺跡の整理では、総数65,919点、重量にして814,926.2gの土器片と11,880点508,617.6gの礫・石器を検出し、早期条痕文系土器6,461点、重量112,216.7g、弥生土器40,923点、重量401,260.9g、土師器16,861点、重量269,116.1gが最も多く出土した土器である。

今回の土器出土点数・重量は、前回の２倍以上に達し、その結果は実測個体数によっても明らかである。

（3）遺構番号について

遺構番号については、調査時点で遺構番号そのものが重複するものがあったため、混乱を避けるために新番号を付した。古墳・方形周溝墓を優先し、その後に竪穴住居をはじめとする各種遺構を西側から東に向かい遺構番号を付し、併せて遺構規模・性格等についてもまとめて第２表の新旧番号一覧表を作成した。

文献等

大村　直　『市原市根田代遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅢ（財）市原市文化財センター・市原市教育委員会2005

半田堅三　『市原市台遺跡B地点』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅹ（財）市原市文化財センター・市原市教育委員会2003

木對和紀　『市原市辺田古墳群・御林跡遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅡ（財）市原市文化財センター・市原市教育委員会2004

小橋健司　『市原市長平台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅥ（財）市原市文化財センター・市原市教育委員会2006

第１表　御林跡遺跡遺構別遺物集計表

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期撚糸文系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量
1	1号円形周溝	円形周溝	150	1539.0			24	220.0											2	30.0			176	1789.0					4	370.0					1	10.0
2	地下式壙	終末期方墳	106	1449.0	3	44.0	33	454.0											3	51.0			145	1998.0	4	370.0			4	370.0					1	54.0
3	3号方形周溝	方形周溝墓	198	2592.0	1	13.0	369	7262.0											19	446.0			587	10313.0	5	448.0			5	448.0					1	96.0
4	4号方形周溝	方形周溝墓	74	1630.0			233	7911.0											8	2772.0			315	12313.0	1	54.0			1	54.0	2	0.111				
5	7号方形周溝	方形周溝墓	11	95.0			376	3871.0											2	32.0			389	3998.0	3	72.0			3	72.0	62	2.326	1	201.3	10	110.0
6	5号方形周溝	方形周溝墓	57	726.0			13	724.0											2	42.0			72	1492.0			1	188.0	1	188.0	3	0.762				
7	6号方形周溝	方形周溝墓	7	42.0			32	1690.0															39	1732.0							13	3.392				
8	8号方形周溝	方形周溝墓	6	84.0			21	150.0											6	70.0			33	304.0												
9	9号方形周溝	方形周溝墓	25	807.4.0			198	3133.0											14	320			237	11527.0	2	120.0			2	120.0						
10	2号方形周溝	方形周溝墓	156	6717.0			145	3314.0											7	144.0			308	10175.0											1	12.0
11	1号方形周溝	方形周溝墓	16	148.0			64	639.0															80	787.0	1	38.0	1	2.7	2	40.7						
12	10号方形周溝	方形周溝墓	4	1063.0			2	2270.0															6	3333.0												
13	265 上下	住居跡	859	12658.0			57	713.0											16	250.0			932	13621.0	8	262.0	3	977.9	11	1239.9	1	4.40			1	5.8
14	255	住居跡	100	676.0.0			1	20.0															101	6780.0											1	170.0
15	253A	住居跡	289	825.1.0			5	150.0	1	22.0									4	75.0			299	8498.0	3	120.0	1	170.0	4	290.0						
16	253B	住居跡	22	277.0															2	25.0			24	302.0	1	24.0			1	24.0						
17	254	住居跡	608	4042.8.0	1	5.0	5	55.0	2	85.0			2	33.0					16	247.0			634	40853.0	13	1350.0	6	3386.6	19	4736.6	2	3.60			12	100.0
18	264	住居跡	40	506.0			27	612.0															67	1118.0	3	325.0			3	325.0					1	54.0
19	なし	土坑																																		
20	236	住居跡	812	21742.0	4	102.0	6	82.0							1	12.0					1	6.0	824	21944.0	8	420.0	1	10.0	9	430.0					10	434.0
21	237A	住居跡	182	6236.0			23	394.0											1	14.0			206	6644.0											1	2.4
22	238	住居跡	362	7783.0			55	948.0									1	12.0	2	15.0			420	8758.0	8	303.0			8	303.0						
23	237B	住居跡																																		
24	235	住居跡	70	730.0			28	365.0	1	40.0									6	75.0			105	1210.0	1	5.0			1	5.0						
25	222	住居跡	163	4892.0	1	10.0	18	225.0															182	5127.0	8	1385.7			8	1385.7			1	8.6	1	30.0
26	221	住居跡	354	6641.0	1	108.0	33	312.0															388	7061.0	1	6.0			1	6.0					2	1000.0
27	232	住居跡	278	4526.0	1	4.0	22	595.0	1	42.0									3	54.0			305	5221.0	1	2.0			1	2.0					4	148.0
28	231A	住居跡	698	10965.4	1	6.0	126	3018.0	2	48.0									2	20.0			829	14057.4	8	355.0			8	355.0	2	9.30			1	22.0
29	231B	住居跡	1	585.0																			1	585.0												
30	231C	住居跡																																		
31	234A	住居跡	24	517.0			147	4211.0															171	4728.0	1	44.0			1	44.0						
32	234B	住居跡	82	1792.0	4	29.0	111	854.0											1	18.0	1	3.0	199	2696.0	8	290.0			8	290.0					2	84.0
33	224	住居跡	780	12541.0	2	98.3	126	1352.0	2	40.0			1	10.0					2	30.0			913	14071.3	20	1110.0	2	81.7	22	1191.7					5	846.0
34	235	住居跡																																		
35	223	住居跡	17	305.0			72	668.0															89	973.0	1	5.0			1	5.0						
36	229	住居跡	393	8541.0	1	8.0	45	620.0	5	208.0									1	20.0			445	9397.0	7	270.0	1	199.0	8	469.0					1	68.0
37	227	住居跡	1098	18414.0	1	20.0	63	755.0	2	56.0									3	42.0			1167	19287.0	9	315.0			9	315.0	1	0.16	1	9.6	9	388.0
38	228A	住居跡	1	246.0																			1	246.0											1	63.0
39	228B	住居跡	3	1290.0			3	64.0															6	1354.0												
40	233A	住居跡	355	5560.0	2	54.0	38	515.0	2	67.0									1	10.0			398	6206.0	7	385.0	1	600.0	8	985.0					2	70.0
41	233B	住居跡	82	1038.0			84	1196.0															166	2234.0											1	15.0
42	225	住居跡	374	1031.7.0			60	700.0							2	30.0			3	55.0			439	11102.0	1	35.0			1	35.0	1	5.40			1	7.0
43	226	住居跡	147	1349.0	1	31.0	23	200.0															171	1580.0	5	124.0	2	17.4	7	141.4						
44	なし	住居跡	2	445.0																			2	445.0												
45	200A	住居跡	85	1158.0			71	1159.0															156	2317.0	1	6.0			1	6.0	1	0.07				
46	200B	住居跡	96	7210.0			1	13.0															97	7223.0	1	35.0			1	35.0			1	12.9	2	649.0
47	200C	住居跡																																		
48	199	住居跡	454	7400.0			71	798.0	1	30.0													526	8228.0	6	118.0			6	118.0						
49	230	住居跡	76	1410.0			103	1110.0															179	2520.0	3	100.0	2	595.0	5	695.0	1	0.11			1	15.0
50	251	住居跡	863	18339.0			47	510.0											41	856.0			951	19705.0	13	365.0	1	2.0	14	367.0	230	29.97			4	216.0
51	256	住居跡	13	273.0			15	376.0											3	57.0			31	706.0	2	16.0			2	16.0						

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期撚糸文系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量
52	252	住居跡	39	815.0			15	132.0															54	947.0												
53	240	住居跡	447	10973.0			58	795.0	1	35.0	2	90.0			4	157.0			31	411.0			543	12461.0	4	202.0	2	234.0	6	436.0					3	70.0
54	239	住居跡	136	2564.0	1	43.0	2	26.0											6	130.0			145	2763.0	1	16.0			1	16.0					1	54.0
55	242	住居跡	336	10277.0			24	343.0											11	245.0			371	10865.0	5	171.0			5	171.0					4	605.0
56	241	住居跡	15	570.0			15	1011.0											1	30.0			31	1611.0	1	55.0			1	55.0						
57	243	住居跡	209	2322.0			77	1220.0											6	108.0			292	3650.0							2	13.20			5	84.0
58	217A	住居跡	2256	51091.0	3	35.0	206	1823.0	8	93.0									5	75.0			2478	53117.0	16	1322.0	1	12.0	17	1334.0			2	8.47	30	2060.0
59	217B	住居跡																																		
60	211B	住居跡					4	182.0															4	182.0												
61	248	住居跡	283	1829.0			818	30052.0			1	20.0							23	723.0			1125	32624.0	19	1329.0	9	432.2	28	1761.2					2	32.0
62	250	住居跡	17	352.0			576	9645.0											12	226.0			605	10223.0			1	620.0	1	620.0			1	2.0		
63	249A	住居跡	123	2164.0			22	498.0											6	176.0			151	2838.0	2	210.0			2	210.0						
64	249B	住居跡																																		
65	216	住居跡	213	2911.0			36	778.0											6	106.0			255	3795.0	6	196.0	1	450.0	7	646.0			1	3.2	3	543.0
66	244A	住居跡	32	483.0			136	3761.0	1	10.0									11	242.0			180	4496.0	1	65.0	1	16.0	2	81.0					112	1135.0
67	244B	住居跡																																		
68	215A	住居跡	348	10427.0			113	2798.0											1	22.0			462	13247.0	3	43.0	4	715.0	7	758.0	1	2.60			1	316.0
69	215B	住居跡	5	44.0			20	2109.0															25	2153.0									1	8.9		
70	土坑 11	土坑																																		
71	214	住居跡	568	12898.0	1	35.0	91	1427.0			1	120.0							5	84.0			666	14564.0	3	150.0	1	18.0	4	168.0						
72	245A	住居跡	274	7979.0			40	625.0	1	21.0									6	75.0	1	10.0	322	8710.0	1	10.0	2	161.0	3	171.0						
73	246	住居跡	115	1366.0			58	3460.0							4	67.0			4	101.0			181	4994.0	1	10.0	1	345.0	2	355.0						
74	245BC	住居跡	2	72.0			1	245.0															3	3170.0												
75	220	住居跡	361	16220.0			42	493.0	1	14.0									3	87.0	1	40.0	408	16854.0	4	108.0			4	108.0	1	0.12	1	58.1	2	300.0
76	なし	土坑																																		
77	219	住居跡	199	577.3.0			77	930.0											6	80.0			282	6783.0			1	230.0	1	230.0					1	90.0
78	218A	住居跡	30	270.0			6	632.0															36	902.0												
79	206	住居跡	428	7040.0	4	38.0	178	2412.0	11	310.0									5	130.0	1	10.0	627	9940.0	16	529.0			16	529.0					8	1565.0
80	210A.B	住居跡	474	17723.0	2	50.0	459	5900.0	2	120.0									9	210.0			946	24003.0	11	250.0	4	425.1	15	675.1					3	47.0
81	211A	住居跡	681	12491.0			114	1211.0	1	14.0									1	23.0	1	8.0	798	13747.0	10	627.0			10	627.0					1	84.0
82	212A	住居跡	511	1056.3.0			31	404.0	1	5.0	1	26.0							5	80.0			549	11078.0	4	276.0	1	169.5	5	445.5					3	485.0
83	212B	住居跡	7	365.5.0	2	265.0																	9	3920.0												
84	208.209	住居跡	1283	14808.0	1	8.0	257	4106.0											3	36.0			1544	18958.0	14	324.0	1	61.0	15	385.0	1	2.90			11	285.0
85	なし	住居跡																																		
86	207	住居跡	371	1594.6.0			116	1305.0											2	81.0			489	17332.0	2	121.0	1	1.5	3	122.5	1	0.43				
87	205	住居跡	390	749.5.0	1	4.0	221	4039.0	1	8.0													613	11546.0	5	353.0	1	17.9	6	370.9					2	76.0
88	204	住居跡	53	126.0.0			1304	11731.0											3	48.0			1360	13039.0	1	230.0	3	1653.0	4	1883.0			1	310.2g		
89	203	住居跡	179	315.1.0	1	15.0	96	790.0															276	3956.0	6	115.0	1	5.6	7	120.6					3	212.0
90	188	住居跡	1734	16541.0	2	81.0	40	432.0	1	47.0									1	30.0			1778	17131.0	17	613.5	2	8.4	19	621.9					7	812.0
91	189	住居跡	314	593.0.0			71	600.0			1	24.0											386	6554.0	1	84.0			1	84.0			1	17.7	1	28.0
92	195	住居跡	1095	15547.0	4	100.0	133	1026.4											2	30.0	1	20.0	1235	16723.4	9	940.0	6	1829.5	15	2769.5	2	0.31			11	310.0
93	202	住居跡	423	804.0.0			90	1100.0					1	12.0	1	29.0							515	9181.0	5	120.0	1	149.11	6	269.1	1	0.11				
94	なし	土坑																																		
95	201	住居跡	262	311.0.0	1	12.0	82	916.0															345	4038.0	3	68.0	1	71.0	4	139.0						
96	187	住居跡	214	244.8.0			94	1267.0															308	3715.0	1	48.0			1	48.0						
97	182A	住居跡	2030	400.57.0	3	20.0	244	1607.0	2	40.0									6	74.0			2285	41798.0	16	1150.0	1	15.7	17	1165.7	1	11.00	1	5.3	12	1415.5
98	182B	住居跡					8	125.0															8	125.0	1	225.0			1	225.0						
99	180	住居跡	3270	500.02.0	15	380.0	225	2757.0											1	20.0			3511	53159.0	13	810.0	2	87.2	15	897.2	2	5.90	3	18.4	7	699.0
100	179B	住居跡	84	189.4.0			53	690.0											1	55.0			138	2639.0	2	200.0			2	200.0	1	4.70	1	1.3		
101	179A	住居跡																																		
102	197	住居跡	537	276.23.0	1	170.0	27	285.0	1	23.0									2	94.0			568	28195.0	3	42.0	1	32.0	4	74.0					4	658.0
103	198	住居跡	120	1136.0			15	171.0															135	1307.0	4	57.0			4	57.0	1	3.30				
104	196	住居跡	189	201.2.0	1	17.0	106	1116.0											5	98.0			301	3243.0	6	180.0	2	116.9	8	296.9						

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期撚糸文系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量
105	なし	住居跡																																		
106	土坑 12	土坑	60	597.0			35	287.0											1	20.0			96	904.0												
107	247	住居跡	152	2098.0			1160	30986.0											36	838.0			1348	33922.0	5	300.9			5	300.9						
108	125	住居跡	614	6580.0	6	120.0	302	2835.0											15	245.0			937	9780.0	18	881.2	3	982.7	21	1863.9			1	10.0	2	90.0
109	なし	土坑																																		
110	130	住居跡	813	2066.0	4	334.0	394	3458.0	1	12.0									3	55.0			1215	24525.0	12	480.0	2	37.8	14	517.8	9	16.30	2	38.5	3	198.1
111	119	住居跡	659	7454.0	2	234.0	164	1470.0	1	5.0					1	15.0			2	20.0			829	9198.0	7	255.0			7	255.0					4	658.0
112	123	住居跡	336	4987.0	1	30.0	128	1219.0															465	6236.0							1	2.60	1	7.2		
113	122	住居跡	33	950.0			11	124.0															44	1074.0	2	78.0			2	78.0	3	10.96				
114	124	住居跡	1771	3826.0			128	1089.0															1899	4915.0	4	383.0	1	276.0	5	659.0			2	15.0		
115	なし	土坑																																		
116	268	住居跡																																		
117	126	住居跡	722	9335.0	2	190.0	38	390.0	1	14.0	1	15.0							2	38.0	1	35.0	767	10017.0	4	30.0	3	524.0	7	554.0	1	6.60	2	50.0		
118	128	住居跡	646	8416.0	2	234.0	378	3172.0	1	35.0									3	55.0	1	15.0	1031	11927.0	5	125.0			5	125.0			5	20.0		
119	なし	土坑																																		
120	129A	住居跡	131	1935.0			61	370.0											1	15.0			193	2320.0	8	510.0			8	510.0						
121	129B	住居跡	2	600.0																			2	600.0												
122	121	住居跡	329	1308.4.0	1	25.0	296	2668.0											1	8.0			627	15785.0	13	790.0	1	3.7	14	793.7	1	0.09	1	221.2	1	605.0
123	120	住居跡	194	4250.0			116	1510.0											1	40.0			311	5800.0	2	90.0			2	90.0	1	7.10				
124	5 号	溝	23	236.0			13	161.0							1	15.0			1	12.0			38	424.0			1	278.0	1	278.0						
125	194	住居跡	830	13889.0	3	151.0	130	1420.0	3	65.0									3	48.0			969	15573.0	11	258.0	6	2840.0	17	3098.0	1	5.30	1	2.0	5	939.8
126	213A.B	住居跡	525	17027.0			139	2154.0	2	68.0					3	60.0			2	22.0	1	25.0	672	19356.0	4	98.0			4	98.0					4	390.0
127	131A	住居跡					321	3607.0											4	85.0			325	3692.0												
128	131B	住居跡	354	4354.0					2	30.0													356	4384.0			5	660.1	5	660.1					1	12.0
129	193	住居跡	16	270.0			32	590.0															48	860.0	2	30.0			2	30.0						
130	190.191	住居跡	357	805.0			271	2393.0	3	110.0													631	10553.0	1	10.0			1	10.0	1	7.20			4	488.0
131	142	住居跡	1449	29307.0	1	180.0	212	2872.0	2	65.0									17	520.0			1681	32944.0	12	565.0	5	1689.0	17	2254.0	2	10.70	1	7.4	4	87.5
132	土坑 9	土坑																																		
133	192	住居跡	17	299.8			150	3473.0															167	6471.0	2	65.0	1	450.0	3	515.0						
134	143A	住居跡	2376	28390.0	12	325.1	622	6650.0	2	15.0					1	5.0			4	145.0			3017	35530.1	6	341.8	7	857.7	13	1199.5	2	3.00	1	34.1	2	100.0
135	143B	住居跡																																		
136	144	住居跡	412	671.0.0	3	48.0	290	6657.0	3	50.0									2	30.0			710	13495.0	9	315.0	5	1411.8	14	1726.8						
137	146	住居跡	198	1186.8.0			49	440.0															247	12308.0	1	22.0	3	677.0	4	699.0						
138	138B	住居跡	14	87.3			21	100.0															35	187.3												
139	132	住居跡	1086	2876.0.0	2	35.0	666	6915.0											3	50.0			1757	35760.0	7	480.0	4	712.0	11	1192.0	15	2.10	1	5.1	20	494.0
140	133	住居跡	563	807.0.0	1	30.0	218	1645.0											1	12.0			783	9757.0							4	3.97			1	46.2
141	145	住居跡	19	523.0			33	290.0															52	813.0	4	245.0	1	322.0	5	567.0						
142	138A	住居跡	112	1765.0	4	35.0	59	492.0											1	5.0			176	2297.0	3	155.0	3	626.0	6	781.0	4	5.80				
143	134	住居跡	478	2326.0.0	1	4.0	107	835.0	1	20.0													587	24119.0	1	50.0	1	810.0	2	860.0	5	18.49	2	18.8		
144	135	住居跡	1374	3382.5.0	2	82.0	137	1354.0	1	6.0					1	20.0							1515	35287.0	13	370.0	4	825.6	17	1195.6					2	886.0
145	136	住居跡	393	976.5.0			183	2004.0			1	60.0			1	6.0			2	40.0			580	11875.0	13	610.0	1	5.5	14	615.5						
146	137A	住居跡	111	1658.0			224	2440.0															335	4098.0	13	600.0			13	600.0	1	8.50				
147	137B	住居跡																																		
148	141A	住居跡	460	687.0.0	1	22.0	674	6585.0	3	43.0									10	100.0			1148	13620.0	11	320.0	2	530.0	13	850.0						
149	139	住居跡	109	1949.0	4	76.0	451	4970.0											2	43.0			566	7038.0	2	44.0			2	44.0						
150	140	住居跡	44	492.0	1	10.0	97	598.0															142	1100.0	3	250.0	3	1895.0	6	2145.0						
151	141B	住居跡																																		
152	186	住居跡	385	1165.0.0			35	399.0															420	12049.0	4	198.0			4	198.0					4	36.0
153	183 185	住居跡	954	1697.1.0			91	1041.0													1	13.0	1046	18025.0	13	733.0	2	532.0	15	1265.0			1	6.0		
154	184	住居跡	81	2110.0	1	20.0	2	20.0															84	2150.0							1	16.60				
155	181	住居跡	85	1285.0			33	305.0											2	40.0			120	1630.0			1	5.0	1	5.0					2	32.0
156	土坑 10	土坑	21	639.0			5	110.0															26	749.0												
157	176A	住居跡	903	1278.4.0	5	50.0	208	1608.0	1	8.0									1	10.0			1118	14460.0	12	1042.0	2	322.5	14	1364.5					3	90.0

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期撚糸文系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量
158	176B	住居跡	11	530.0			1	18.0															12	548.0												
159	173	住居跡	3082	62055.0	10	527.0	429	4534.0	9	158.0									5	68.0			3535	67342.0	32	1224.0	3	1242.0	35	2466.0	2	7.50	1	8.5	26	2579.0
160	177	住居跡	505	11040.0			132	1375.0	2	28.0									1	7.0			640	12450.0	6	232.0			6	232.0					2	72.7
161	172	住居跡	335	8745.0			38	420.0											1	85.0			374	9250.0	7	120.0	3	718.0	10	838.0						
162	175	住居跡	158	1750.0	1	8.0	97	840.0															256	2598.0	2	110.0			2	110.0						
163	174	住居跡	16	364.0			2	22.0															18	386.0												
164	なし	住居跡																																		
165	170	住居跡	306	11166.0	10	411.0	98	895.0	1	35.0									2	40.0			417	12547.0	5	218.0			5	218.0					1	20.0
166	169	住居跡	326	4310.0			125	1025.0											3	30.0			454	5365.0	17	810.0	1	230.0	18	1040.0					1	20.0
167	171	住居跡	168	1180.0	1	5.0	89	1225.0					1	20.0					1	20.0			260	2450.0	1	10.0			1	10.0						
168	157	住居跡	883	10640.0	2	15.0	156	1720.0											10	125.0			1051	12500.0	20	546.4			20	546.4					2	40.0
169	155	住居跡	20	208.0			66	543.0															86	751.0	2	85.0	1	154.0	3	239.0						
170	154	住居跡	1656	36482.9	9	886.0	407	4304.0											10	250.0			2082	41922.9	7	325.0	4	174.5	11	499.5	2	8.90			5	881.8
171	153	住居跡	130	1981.0			141	1285.0															271	3266.0	2	20.0			2	20.0						
172	150	住居跡	184	2021.0			218	2914.0											1	38.0			403	4973.0	1	60.0			1	60.0						
173	152	住居跡	88	1080.0			267	3033.0	1	40.0													356	4153.0	6	780.0	1	264.0	7	1044.0						
174	151	住居跡	223	2793.0			114	1030.0	2	135.0	1	35.0											340	3993.0	4	160.0	1	270.0	5	430.0	1	0.13	3	58.9		
175	151P2	土坑	3	325.0	1	20.0																	4	345.0												
176	158	住居跡	94	5845.0	5	236.0	3	20.0															102	6101.0							1	6.20			3	266.2
177	156	住居跡	538	5843.0	1	4.0	229	2348.0	2	30.0													770	8225.0	16	625.0			16	625.0	1	0.20	1	9.5		
178	178	住居跡	123	6284.0	1	22.0	33	244.0	2	30.0									1	15.0			160	6595.0	1	56.0	2	379.0	3	435.0					1	480.0
179	167	住居跡	642	10369.0	3	116.0	122	1347.0	1	10.0									1	20.0			769	11862.0	22	515.0	1	40.0	23	555.0						
180	168A	住居跡	213	2492.0			171	1806.0	1	58.0													385	4356.0	2	140.0	2	585.0	4	725.0						
181	168B	住居跡	25	312.0	1	24.0	511	11987.0											1	13.0			538	12336.0	10	755.0	2	400.0	12	1155.0					1	106.0
182	166	住居跡	438	9231.0	8	844.0	59	625.0	1	60.0													506	10760.0	8	320.0	1	12.4	9	332.4	6	2.07	1	17.1	1	53.0
183	257A	住居跡	130	3164.0			49	294.0											3	86.0			182	3544.0	2	9.5			2	9.5					4	188.0
184	257B	住居跡	48	1027.0	2	38.0	51	302.0											4	48.0			105	1415.0	3	22.0			3	22.0						
185	なし	住居跡																																		
186	118A	住居跡	653	9205.0	1	10.0	365	3035.0	2	15.0									2	60.0			1023	12325.0	7	935.0	3	280.6	10	1215.6	1	0.10	2	11.4		
187	118B	住居跡	23	429.0			1	5.0															24	434.0												
188	117	住居跡	386	10751.0			66	850.0											6	135.0			458	11736.0	5	124.0	1	14.3	6	138.3					1	55.0
189	108	住居跡	750	12489.0	7	292.0	229	2690.0	1	16.0									7	132.0			994	15619.0	7	232.0	2	463.0	9	695.0	2	6.40			1	30.0
190	110	住居跡	546	13197.0			288	2964.0											5	93.0			839	16254.0	6	640.0	1	383.0	7	1023.0	2	2.40				
191	109	住居跡																																		
192	116	住居跡	116	4550.0			200	2910.0													1	30.0	317	7490.0	4	55.0	2	110.0	6	165.0						
193	112	住居跡	159	2768.0			612	9245.0	1	6.0									8	141.0			780	12160.0	8	984.0			8	984.0						
194	104	住居跡	20	370.0			298	13829.0											1	75.0			319	14274.0	3	335.0			3	335.0						
195	102	住居跡	127	5784.0	1	154.0	240	2138.0							1	12.0							369	8088.0	10	310.0	2	330.0	12	640.0					2	952.0
196	127	住居跡	144	6840.0			127	1000.0	3	50.0									3	25.0			277	7915.0	43	2000.0	1	22.8	44	2022.8						
197	103A	住居跡	98	3087.0			213	1766.0															311	4853.0	1	210.0			1	210.0						
198	103B	住居跡	7	52.0			47	853.0															54	905.0	1	10.0			1	10.0						
199	101	住居跡	322	4190.0			236	2220.0											1	10.0			559	6420.0	25	1090.0	2	530.0	27	1620.0						
200	99	住居跡	109	6100.0			84	1005.0											2	65.0			195	7170.0	3	210.0			3	210.0					1	100.0
201	86	住居跡	497	6604.0	7	1316.0	328	3048.0											3	51.0			835	11019.0	10	670.0			10	670.0			3	9.8	1	134.0
202	148	住居跡	685	8751.0	3	44.0	155	1920.0															843	10715.0	6	330.0	2	93.0	8	423.0	1	3.70	1	2.8	1	29.0
203	147	住居跡	127	3200.0	2	55.0	2399	29475.0											2	36.0			2530	32766.0	8	430.0	4	286.4	12	716.4	2	10.70	2	20.3		
204	なし	土坑																																		
205	82A	住居跡	73	941.0			109	1215.0															182	2156.0												
206	83	住居跡	116	1800.0	2	68.0	84	823.0											1	8.0			203	2699.0												
207	82B	住居跡	1	5.0			1	40.0															2	45.0	1	100.0			1	100.0						
208	81	住居跡	3	90.0			49	1975.0															52	2065.0	1	75.0	1	22.0	2	97.0						
209	80	住居跡	112	2292.0			165	1961.0															277	4253.0												
210	79	住居跡	1655	40790.0	4	260.0	548	5325.0	1	15.0									4	80.0			2212	46470.0	24	795.0	5	869.2	29	1655.0	2	13.50			3	53.2

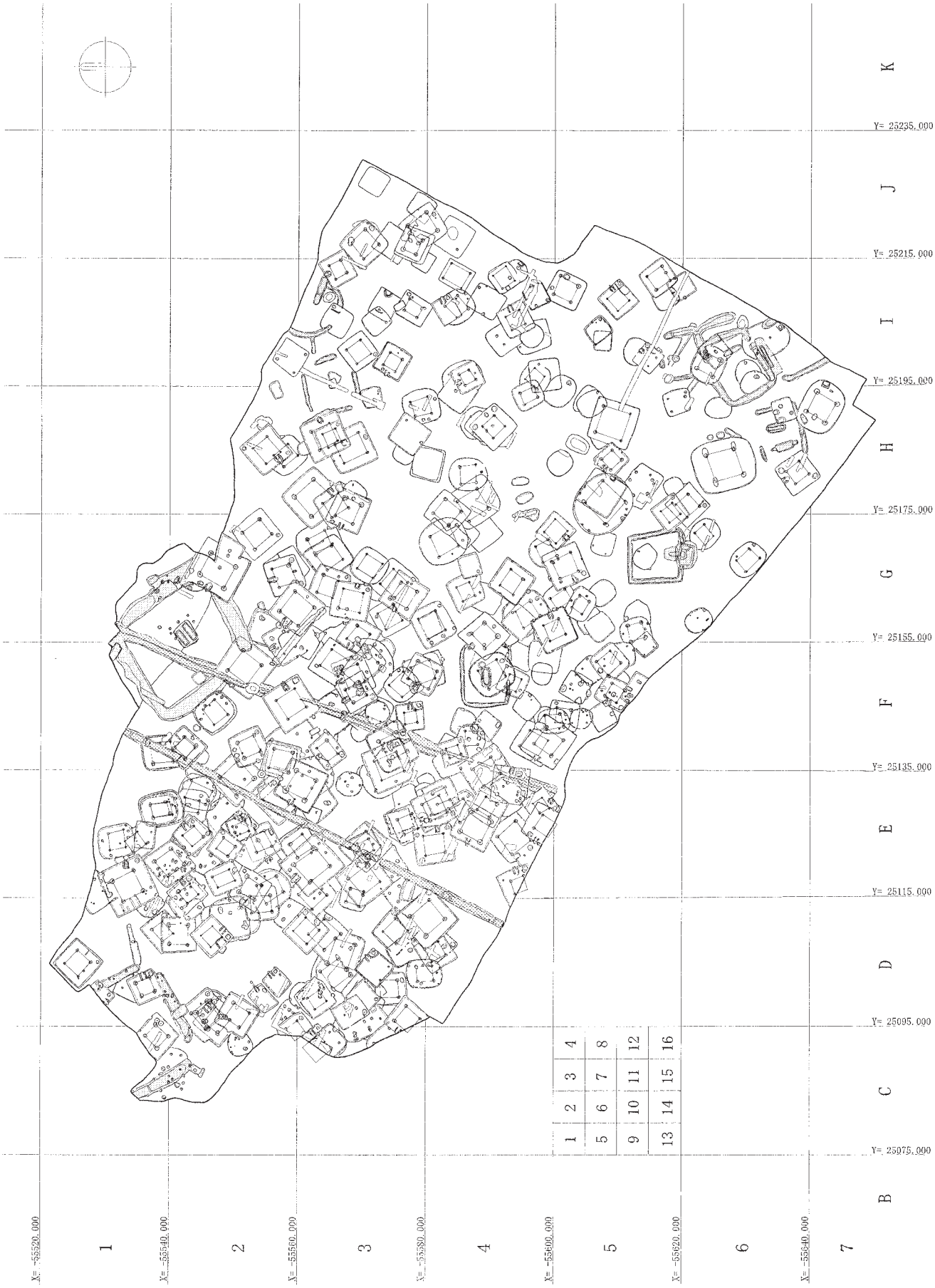
新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期撚糸文系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量
211	84	住居跡	143	1985.0			489	4758.0											3	80.0			635	6823.0	5	325.0			5	325.0						
212	85	住居跡	26	423.0			343	8115.0											1	10.0			370	8548.0	7	440.0			7	440.0						
213	87	住居跡	281	5165.0			306	3991.0	1	10.0									3	90.0			591	9256.0	1	460.0	1	50.0	2	510.0	1	5.80			1	80.0
214	100	住居跡	92	950.0	1	10.0	41	400.0															134	1360.0	2	220.0			2	220.0						
215	159	住居跡	534	8110.0	17	454.0	117	1179.0	3	91.0													671	9834.0	9	290.0	5	903.3	14	1193.3	3	6.72			6	665.0
216	なし	土坑																																		
217	160	住居跡	437	7324.0	2	30.0	72	893.0	1	10.0	1	40.0									1	66.0	514	8363.0	3	100.0			3	100.0					1	3.0
218	163	住居跡	64	1737.0			57	713.0	1	10.0													122	2460.0	2	80.0			2	80.0						
219	162	住居跡	11	148.0			130	1622.0															141	1770.0	3	85.0			3	85.0						
220	164	住居跡	1	5.0			83	730.0															84	735.0	1	10.0			1	10.0						
221	161	住居跡	1	12.0			3	926.0															4	1046.0											1	30.0
222	149	住居跡	301	4020.0			233	2430.0	1	15.0													535	6465.0	3	150.0	1	2.6	4	152.6	1	3.70				
223	165	住居跡	88	497.6.0	1	8.0	64	580.0							1	40.0							154	5604.0	4	62.0			4	62.0						
224	261	住居跡	95	1855.0			129	1410.0							1	20.0					1	20.0	226	3305.0	10	620.0	2	164.5	12	784.5						
225	なし	土坑																																		
226	260	住居跡	26	581.0			75	961.0													1	2.0	102	1544.0	9	330.0	4	22.6	13	352.6						
227	262A	住居跡	102	459.2.0	4	125.0	8	112.0							2	40.0			1	10.0			117	4879.0	6	300.0	1	48.0	7	348.0			1	7.2		
228	262B	住居跡	507	6027.0	7	109.0	82	943.0							2	12.0							598	7091.0											3	120.0
229	259B	住居跡	10	138.0																			10	138.0												
230	259A	住居跡	299	5718.0	1	10.0	72	955.0	1	20.0													373	6703.0	2	95.0			2	95.0			1	2.8		
231	258	住居跡	37	436.0			158	3966.0							1	16.0			2	28.0			198	4446.0	1	27.0			1	27.0						
232	263	住居跡	83	2485.0			86	1477.0															169	3962.0	6	360.0			6	360.0						
233	76	住居跡	11	102.0			66	1038.0											1	30.0			78	1170.0	1	54.0			1	54.0						
234	75	住居跡	123	1131.0			156	1583.0											2	42.0			281	2756.0	3	112.0	1	22.0	4	134.0						
235	77A	住居跡	50	845.0			48	535.0															98	1380.0	7	475.0	2	220.4	9	695.4						
236	77B	住居跡	3	70.0			13	560.0											1	20.0			17	650.0												
237	74	住居跡	12	165.0	1	10.0	40	1105.0							1	5.0			1	20.0			55	1305.0												
238	73	住居跡	52	559.6.0			232	3160.0											5	105.0			289	8861.0	3	180.0	1	62.8	4	242.8						
239	78	住居跡	89	2771.0			181	2948.0	1	28.0									6	76.0			277	5823.0	4	156.0	2	233.1	6	389.1						
240	72	住居跡	618	16302.0	3	206.0	168	1845.0											3	48.0			792	18401.0	13	233.0	5	848.0	18	1081.0	1	1.20			1	180.0
241	70	住居跡	431	1482.4.0	1	15.0	155	1604.0	1	10.0									11	285.0			599	16738.0	10	610.0	5	4092.2	15	4702.2						
242	71	住居跡	29	435.0			104	1234.0											3	30.0			136	1699.0	4	370.0			4	370.0						
243	106	住居跡	948	3880.0	4	38.0	279	2232.0											5	140.0			1236	6290.0	4	80.0	1	29.4	5	109.4	2	3.27			2	60.0
244	107	住居跡	136	1782.0	1	142.0	27	358.0															164	2282.0			1	25.9	1	25.9					1	18.0
245	なし	土坑																																		
246	105	住居跡	14	1537.0			20	1042.0			2	25.0							5	67.0			41	2671.0			2	463.0	2	463.0	1	10.00			1	10.0
247	111	住居跡	25	232.0			2	16.0											1	22.0			28	270.0												
248	114	住居跡	661	1546.1.0	2	40.0	754	6788.0	1	30.0									11	230.0			1429	22549.0	5	788.0	4	355.1	9	1143.1	3	0.41			3	85.0
249	113	住居跡	81	1147.0			213	5221.0											11	281.0			305	6649.0	8	955.0	1	42.0	9	997.0						
250	8	土坑																																		
251	なし	土坑																																		
252	115	住居跡	198	2436.0	1	3.6	62	598.0											7	137.0			268	3174.6	1	8.0			1	8.0						
253	267	住居跡	17	270.0			27	296.0											11	295.0			55	861.0	1	7.0			1	7.0					2	50.0
254	94	住居跡	36	519.0			127	1945.0											5	65.0			168	2529.0	3	750.0	1	82.0	4	832.0						
255	36	住居跡	18	504.0			143	4814.0											4	90.0			165	5408.0	2	40.3	4	569.7	6	610.0					1	30.0
256	93	住居跡	2	13.0			73	2732.0											1	22.0			76	2767.0												
257	92	住居跡	33	896.0			120	1222.0											3	137.0			156	2255.0											1	730.0
258	98	住居跡	120	2125.0			83	960.0											1	12.0			204	3097.0	2	85.0	1	34.5	3	119.5						
259	97	住居跡	49	1818.0			42	588.0	1	80.0													92	2486.0	1	116.0			1	116.0						
260	89B	住居跡	21	2647.0			82	860.0											1	30.0			104	3537.0	21	140.0	1	46.4	22	186.4						
261	96	住居跡	131	2036.0			597	7286.0											4	58.0			732	9380.0	9	100.0	2	595.4	11	695.4			1	53.0		
262	89A	住居跡	408	3580.0			184	1647.0											6	150.0			598	5377.0			1	176.0	1	176.0						
263	91	住居跡	180	3050.0			696	8911.0											3	160.0			879	12121.0	1	40.0	1	490.0	2	530.0					3	170.0

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期撚糸文系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量
264	90	住居跡	154	2128.0			529	5064.0											15	312.0			698	7504.0	7	320.0	2	83.2	9	403.2						
265	4	土坑																																		
266	5	土坑																																		
267	6	土坑																																		
268	52	住居跡	1	100.0			37	742.0											5	125.0			43	967.0	2	200.0			2	200.0						
269	59	住居跡	127	3679.0	2	7.0	122	4660.0											4	30			255	8376.0	1	32.0			1	32.0	1	2.00			5	50.0
270	58	住居跡	327	5044.0			1565	19411.0											35	475			1927	24930.0	17	702.5	7	676.9	24	1379.4					12	260.0
271	69	住居跡	3	16.0			65	1931.0											4	68.0			72	2015.0			1	8.8	1	8.8						
272	57	住居跡	28	486.0			435	7735.0															463	12595.0	4	175.0	3	547.9	7	722.9						
273	60	住居跡	345	4585.0			39	1222.0											1	30.0			385	5837.0	4	440.0	2	900.0	6	1340.0						
274	62	住居跡	92	2813.0			65	935.0					1	6.0					1	15.0			159	3769.0	2	110.0			2	110.0						
275	61	住居跡	4	125.0			6	324.0															10	449.0	1	17.0			1	17.0						
276	68	住居跡	1	10.0			53	1191.0															54	1201.0	5	82.0			5	82.0						
277	67	住居跡	11	239.0			132	2553.0															143	2792.0												
278	266	住居跡	20	550.0			49	2191.0							2	40.0							71	2781.0			1	131.0	1	131.0						
279	66	住居跡	1	28.0			131	2619.0															132	2647.0	22	1170.0			22	1170.0						
280	27	住居跡	146	4431.0			36	365.0							1	30.0			3	60.0			186	4886.0	1	156.0			1	156.0						
281	なし	土坑																																		
282	34	住居跡	659	1697.0			74	828.0	2	31.0									25	462.0			760	18291.0	7	1018.0	2	460.0	9	1478.0	1	0.89				
283	35	住居跡	316	4306.0	3	65.0	42	335.0	2	40.0					1	8.0			7	210.0			371	4964.0	8	150.0			8	150.0					3	167.5
284	29	住居跡	107	3172.6			60	325.0															167	3497.6	1	90.0			1	90.0			1	21.8	1	565.0
285	28	住居跡	3	36.0			3	20.0															6	56.0												
286	285	土坑	5	1956.0															1	4.0			6	1960.0												
287	33	住居跡	98	1425.0			16	165.0	1	55.0													115	1645.0	1	5.0			1	5.0						
288	32B	住居跡	115	696.9.0			111	1340.0															226	8309.0	2	320.0	1	119.0	3	439.0	1	3.30			2	53.0
289	32A	住居跡	10	319.0			160	1690.0											2	3.0			172	2012.0	2	22.0			2	22.0						
290	30	住居跡	70	1237.0			22	300.0													1	20.0	93	1557.0												
291	26	住居跡	448	5464.0			36	515.0	1	11.0									1	15.0			486	6005.0	3	21.0			3	21.0						
292	25	住居跡	155	3580.0			121	1127.0											1	5.0			277	4712.0												
293	23	住居跡	281	4698.0			22	371.0			1	30.0							1	20.0			305	5119.0	5	177.0			5	177.0					5	782.0
294	22A	住居跡	686	2366.5.0			89	1112.0			2	125.0											777	24902.0	5	380.0	2	371.0	7	751.0			2	19.3	1	30.0
295	22B	住居跡	95	232.5.0			7	144.0															102	2469.0			1	619.0	1	619.0						
296	22C	住居跡																																		
297	20 21	住居跡	297	7807.0			53	976.0											4	96.0			354	8879.0	1	10.0			1	10.0					7	245.0
298	19	住居跡	184	3852.0			7	80.0											1	30.0			192	3962.0	1	116.0			1	116.0						
299	18	住居跡	99	2203.0			27	362.0	1	5.0									4	50.0			131	2620.0			1	120.0	1	120.0						
300	24	住居跡	240	2272.0			7	560.0											1	20.0			248	2852.0	1	30.0			1	30.0						
301	39	住居跡	332	4488.0	3	22.0	108	1382.0											7	140.0	1	18.0	451	6050.0	4	850.0	1	158.0	5	1008.0						
302	37	住居跡	102	3007.0			95	955.0											5	90.0			202	4052.0	2	60.0	1	118.0	3	178.0						
303	38	住居跡	2	12.0			101	810.0							1	15.0			2	25.0			106	862.0	1	5.0			1	5.0						
304	48	住居跡	494	9387.0	1	35.0	274	3050.0	2	7.0									9	180.0	1	20.0	781	12679.0	12	423.1	1	19.4	13	442.5	1	2.20				
305	49	住居跡	17	62.0.0			11	139.0															28	759.0												
306	50	住居跡					1	80.0															1	80.0			1	20.0	1	20.0						
307	51	住居跡	8	120.0			30	806.0											1	10.0			39	936.0												
308	44	住居跡	20	960.0	1	69.0	152	1905.0											1	30.0			174	2964.0	2	300.0	2	483.5.0	4	513.5.0					3	20.0
309	47	住居跡					85	1120.0															85	1120.0	1	60.0			1	60.0					1	20.0
310	45	住居跡	2	200.0			49	2526.0											1	10.0			52	2736.0			2	75.0	2	75.0						
311	46	住居跡					62	1063.0															62	1063.0											1	110.0
312	41	住居跡	105	3505.0	1	2.0	193	1109.0	1	10.0									2	55.0	1	30.0	303	4711.0	4	2985.0			4	2985.0					3	44.0
313	43	住居跡	23	322.0			120	6705											1	50.0			144	7077.0												
314	42	住居跡	15	135.0			71	697											1	2.0			87	834.0	1	54.0	1	39.0	2	93.0						
315	40	住居跡	11	255.0			170	4239.0											1	30.0			182	4524.0												
316	31	住居跡	151	1408.0			30	350.0											3	42.0			184	1800.0												

新番号	旧番号	性格	土師器	重量	須恵器	重量	弥生土器	重量	手づくね	重量	ミニチュア	重量	早期撚糸文系	重量	早期条痕文系	重量	前期繊維	重量	その他縄文	重量	中近世土器	重量	土器合計	重量	礫	重量	石器	重量	礫・石器合計	重量	玉類	重量	金属器	重量	土製品	重量
317	17	住居跡	91	6045.0			170	6350.0	1	30.0							1	10.0					263	12435.0												
318	16	住居跡	12	94.0			224	3637.0											2	40.0			238	3771.0	1	23.0			1	23.0						
319	95	住居跡	58	3202.0			14	194.0											2	36.0			74	3432.0			3	748.0	3	748.0						
320	15	住居跡	28	2150.0			11	102.0															39	2252.0			1	100.0	1	100.0						
321	88	住居跡	43	785.0			70	1018.0											3	60.0			116	1863.0	3	36.0	2	343.0	5	379.0	1	3.80				
322	55A	住居跡	137	11079.0			171	1676.0					2	20.0					4	102.0			314	12877.0	2	180.0	2	474.0	4	654.0					2	238.0
323	55B	住居跡																																		
324	54	住居跡	46	385.0			58	1547.0											1	18.0			105	1950.0			2	245.0	2	245.0						
325	53	住居跡	1	5.0			16	235.0															17	240.0	1	20.0			1	20.0						
326	2	土壙墓	4	140.0			105	2486.0															109	2626.0			1	50.0	1	50.0						
327	20	土坑	28	1336.0			7	190.0															35	1526.0												
328	11	住居跡	529	10440.0			103	748.0															632	11188.0	1	1.6			1	1.6			2	6.4		
329	12	住居跡	22	262.0			39	667.0															61	929.0			3	285.0	3	285.0						
330	13	住居跡	49	1835.0	1	65.0	11	108.0											1	24.0			62	2032.0	1	4.0	1	140.0	2	144.0					1	12.0
331	14	住居跡	305	4330.0	1	10.0	123	1170.0											1	15.0			430	5525.0	4	285.0			4	285.0						
332	10	住居跡	127	1096.0			34	360.0															161	11320.0			1	490.0	1	490.0			2	5.6		
333	7	住居跡	33	1569.0			43	518.0															76	2087.0	2	74.0	1	35.6	3	109.6					1	480.0
334	9	住居跡	24	425.0			49	437.0															73	862.0												
335	8	住居跡	32	243.0			83	2191.0											2	40			117	2474.0	3	115.0			3	115.0					2	80.0
336	63	住居跡	11	315.0			1228	14600.0											3	140.0			1242	15055.0	14	410.0	4	590.0	18	1000.0						
337	56	住居跡	17	400.0			68	1360.0															85	1760.0												
338	5	住居跡	18	410.0			139	5895.0													1	15.0	158	6320.0	1	15.0	1	70	2	85.0						
339	S1	土器棺墓					68	7548.0															68	7548.0												
340	S2	土器棺墓					33	11467.0															33	11467.0												
341	S3	土器棺墓					1	1350.0															1	1350.0												
342	6B	住居跡	121	1780.0			297	2250.0	2	25.0									3	95			423	4150.0	3	48.0	2	42.3	5	90.3			1	2.2		
343	6A	住居跡	92	1619.0			459	8399.0											2	33			553	10051.0	14	200.0	1	29.1	15	229.1						
344	4	住居跡	12	171.0			66	690.0															78	861.0	3	55.0	1	200	4	255.0						
345	3	住居跡	23	150.0	1	20.0	47	390.0															71	560.0	2	30.0	1	165	3	195.0						
346	2	住居跡	125	1777.0			322	6733.0															447	8510.0	19	1160.0	1	27.5	20	1187.5					1	110.0
347	土坑 1	土坑																																		
348	65	住居跡	555	1126.0	5	95.0	75	735.0											1	10.0			636	12100.0	2	280.0			2	280.0	1	1.40				
349	64	住居跡	349	1188.0			43	615.0															392	12495.0	1	230.0	2	720.0	3	950.0	1	2.60				
350	1	住居跡	37	544.0			407	12490.0	1	10.0									2	28			447	13072.0	10	516.8			10	516.8						
351	4 号	溝	1095	14373.0	3	90.0	76	980.0	2	80.0													1176	15523.0	15	760.0			15	760.0	1	3.90				
352	3 号	溝	359	4385.0	7	160.0	429	3205.0	3	35									8	175.0	3	165.0	809	8125.0	12	380.0	4	914.0	16	1294.0			1	1.6		
	遺跡一括		3435	5213.8.0	4	453.0	1459	20097.0	4	16			7	200.0	5	87.0			219	3933.0	1	110.0	5134	77034.0	199	5670.4	6	374.4	205	6044.8	60	36.93	6	30.2	16	659.6
	合計		90397	182640 7.2	287	11689.0	47996	719418.4	143	3269.0	15	610.0	15	301.0	39	741.0	2	22.0	1094	24165.0	24	681.0	140012	2587303.6	1578	77762.7	310	64171.5	1888	141925.0	488	379.401	70	1389.7	527	34004.3

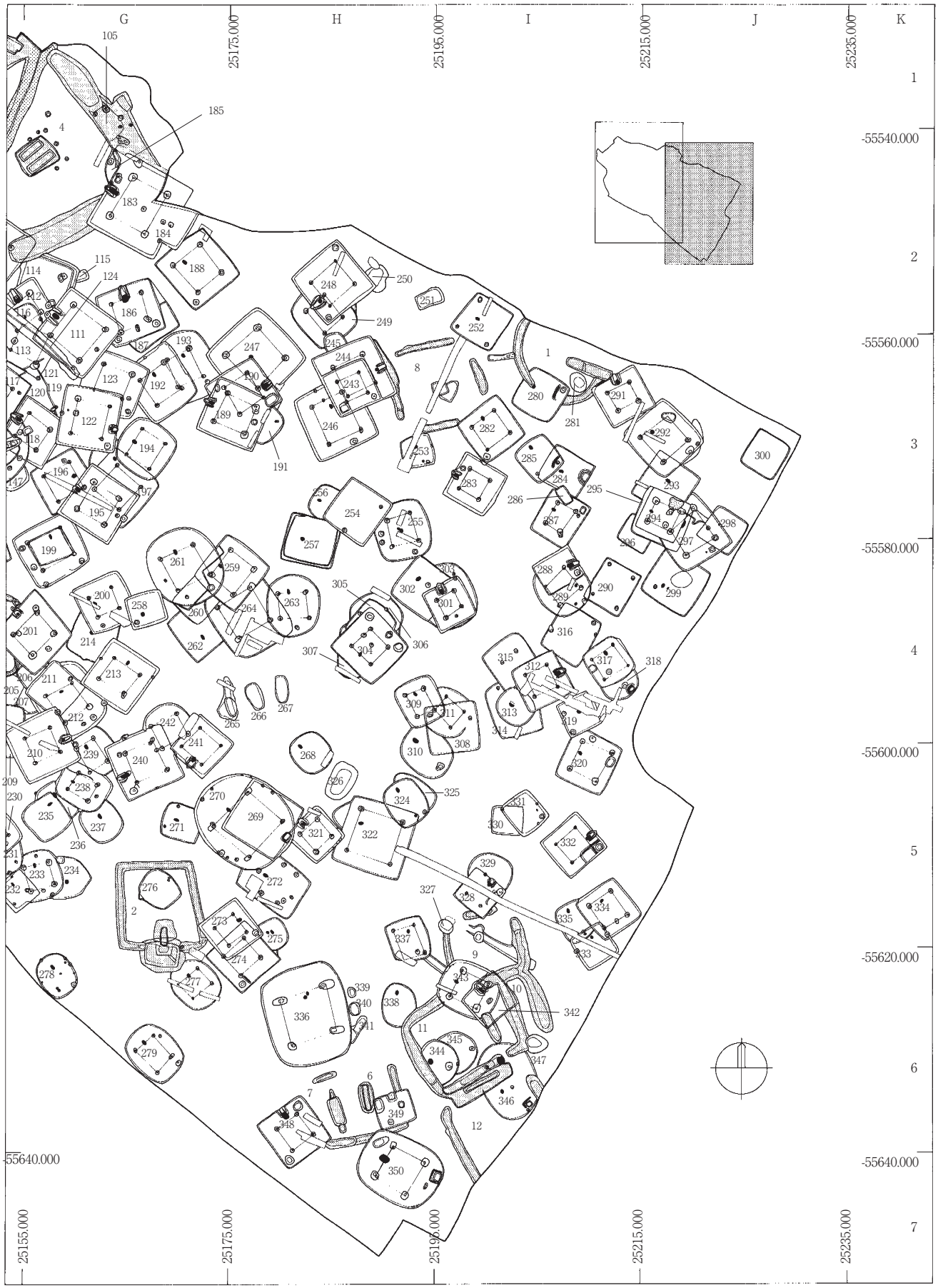
第３図　現地形と保存遺跡・周辺の重要遺跡（1/20,000）

第４図　辺田古墳群・御林跡遺跡全体図



第５図　御林跡遺跡遺構配置図　１

第６図　御林跡遺跡遺構配置図　２



第７図　御林跡遺跡遺構配置図　３

第２表　御林跡遺跡新旧番号一覧表

新遺構№	旧遺構№	時期	性格	方台部規模	主軸	東側周溝	西側周溝	南側周溝	北側周溝	備考	説明
1	なし	庄内	円形周溝	円台部長径 8.62m	N-49 °-W	調査区域外	幅　0.52 ～ 0.88m 深さ 33 ～ 41cm	幅　0.70 ～ 1.08m 深さ 14 ～ 20cm	調査区域外	主体部類似施設は、長さ 4.58m 幅 96 ～ 124cm深さ西 21cm南 29 ～ 44cm北 30 ～ 50cm。最大深 55cm。調査日誌には調査時 3 号溝とする記述が他の遺構記述の中で存在する。	円形周溝と記される。
2	なし	終末期	終末期方墳	方台部長径(南北) 7.82m 方台部短径(東西) 6.84m	N-7 °-W	長さ 8.64m 幅　0.72 ～ 0.90m 深さ 27.8 ～ 33.8cm 南東コーナーは、42.8cmで一段深い。	長さ 8.54m 幅　0.76 ～ 0.92m 深さ 37.4 ～ 48.3cm	長さ 8.50m 幅　0.72 ～ 0.90m 深さ 32.0 ～ 39.6cm	長さ 7.66m 幅　0.72 ～ 0.82m 深さ 29.2 ～ 37.3cm	羨道部は、上端長径（東西）4.46m 短径（南北）3.38m 下端長径（東西）2.94m 短径（南北）1.74m 深さ東 105.6cm西 123.8cm南 132.8cm北 114.4cm。羨道前庭部入り口部分は、上端長径（東西）1.58m 下端長径（東西）0.86m 下端短径（南北）0.60m 深さ東 27.5cm西 28.8cm 南 51.2cm北 24cm。入口部分の開口部は、高さ 56cm幅 52cm。玄室内主軸方位Ｎ－８ °－W。	玄室内は、コの字形の棺台座。左側長さ 2.12m 幅 62 ～ ７４ｃｍ高さ 10 ～ 15cm。中央部長さ 1.66m 幅 77 ～ 84cm高さ 8 ～ 10cm。右側長さ 2.10m 幅 70 ～ 86cm高さ 10 ～ 15cm。主体部構造は地下式横穴墓。２体の人骨出土。羨道部は当初 3 号土坑後、地下式壙と記される。
3	3 号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部内径(東西) 16.22m	N-24 °- W	長さ（6.56）m 幅　1.20 ～ 1.48m 深さ 32 ～ 39cm	長さ（10.50）m 幅　1.54 ～ 2.26m 深さ 32.5 ～ 57cm	長さ 11.98m 幅　1.56 ～ 1.88m 深さ 29.5 ～ 78.5cm	調査区域外	記録ではしばしば 4 号遺構と混同される。	主体部無し。14 ～ 16 号に削平される。
4	4 号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部長径(南北) 16.1m 方台部短径(東西) 15.0m	N-31 °-W	長さ（15.5）m 幅　1.70 ～ 3.60m 深さ 34 ～ 53cm	長さ（11.9）m 幅　2.15 ～ 2.75m 深さ 45cm	長さ（13.7）m 幅　1.60 ～ 3.05m 深さ 測定値無し	長さ（15.6）m 幅　1.70 ～ 2.75m 深さ 28 ～ 49cm	主体部は、長径 3.6m 短径 3.05m 深さ 26 ～ 36cm。主軸方位Ｎ－ 60 °－Ｅ。	主体部より管玉 2 点出土。主体部略図あるが、平面図なし。記録ではしばしば 3 号遺構と混同される。
5	7 号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部長径(東西) 8.82m 方台部短径(南北) 7.24m	N-91 °-E	長さ 7.14m 幅　0.34 ～ 0.56m 深さ 10 ～ 14cm	長さ 7.24m 幅　0.34 ～ 0.76m 深さ 12.5 ～ 27.5cm	長さ 9.20m 幅　0.38 ～ 0.68m 深さ 10 ～ 29.5cm	長さ 9.22m 幅　0.38 ～ 0.72m 深さ 12 ～ 22.5cm	主体部は、長さ 3.20m 幅 1.20 ～ 1.62m 一段目の深さ東 20cm西 25cm南 25 ～ 28cm北 21 ～ 27cm。二段目の深さ東 14cm西 16cm南 16cm北 11 ～ 17cm。最大深さ東 38cm西 39cm南 43cm北 42cm。	宮ノ台住居 203 号より新。主体部よりガラス玉 62 個出土。
6	5 号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部内径(東西) 5.64m	N-17 °-W	長さ 2.68m 幅　0.64 ～ 0.80m 深さ 10 ～ 27cm	長さ 4.40m 幅　0.34 ～ 0.62m 深さ測定値無し	長さ 5.70m 幅　0.74 ～ 0.80m 深さ 8 ～ 35cm	未検出	主体部は、長さ 3.08m 幅 1.10 ～ 1.42m 最大深さ 42.5cm。木棺痕は、長さ 2.58m 幅 48 ～ 64cm、深さ 14cm。主軸方位はＮ－７ °－W。	７号方形周溝墓主体部に溝削平される。主体部よりガラス玉 3 点出土。S4 は主体部。
7	6 号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部内径(南北) 5.90m	N-14 °-W	未検出。	348 号に削平	長さ 3.08m 幅　0.80 ～ 0.90m 深さ 23 ～ 33cm	長さ 2.48m 幅　0.54 ～ 0.58m 深さ 20 ～ 28cm	主体部は、長さ 2.88m 幅 1.18 ～ 1.28m 深さ 45cm。木棺痕長さ 2.00m 幅 0.58 ～ 0.68m 深さ 20cm。主軸方位は N-14 °-W。	主体部が６号方形周溝墓西溝を削平する。主体部よりガラス玉 12 点出土。調査時遺構番号 S5。
8	8 号方形周溝墓	宮ノ台	方形周溝墓	方台部長径(東西) 7.78m 方台部短径(南北) 7.48m	N-77 °-E	長さ 3.68m 幅　0.54 ～ 0.90m 深さ 13.5 ～ 17.5cm	長さ 8.40m 幅　0.70 ～ 0.80m 深さ 7 ～ 24cm	長さ（3.66）m 幅　0.60 ～ 0.74m 深さ 15 ～ 23.5cm	長さ 5.96m 幅　0.46 ～ 0.68cm 深さ 11 ～ 14.5cm	方台部中央に、長さ 1.46m 幅 1.28m 深さ 15cmの土坑が存在する。	他の方形周溝墓と離れて単独で存在する。
9	9 号方形周溝墓	庄内	方形周溝墓	方台部長径(東西) 6.60m 方台部短径(南北) 6.12m	N-82 °-E	長さ 5.76m 幅　1.10 ～ 1.46m 深さ 32 ～ 33cm	長さ（3.42）m 幅　0.58 ～ 0.76cm 深さ測定値無し	長さ 5.80m 幅　0.68 ～ 1.40m 深さ 33 ～ 72cm	長さ 3.34m 幅　0.54 ～ 0.78m 深さ測定値無し	10 号方形周溝墓と溝を共用する。	東側周溝は 3 号溝として調査される。
10	2 号方形周溝墓	庄内	方形周溝墓	方台部長径(南北) 6.32m 方台部短径(東西) 4.46m	N-24 °- W	長さ 7.26m 幅　1.00 ～ 1.76m 深さ 42 ～ 43cm	長さ 3.22m 幅　0.72 ～ 1.40m 深さ 64.5cm	長さ 2.20m 幅　0.72 ～ 1.10m 深さ 59cm	長さ 5.48m 幅　0.54 ～ 1.38m 深さ 72cm	９・11 号方形周溝墓と溝を共用する。	主体部無し。
11	1 号方形周溝墓	久ヶ原	方形周溝墓	方台部長径(東西) 9.66m 方台部短径(南北) 7.26m	N-61 °-E	長さ 8.36m 幅　0.68 ～ 1.68m 深さ 59 ～ 63.5cm	長さ 8.80m 幅　0.88 ～ 1.36m 深さ 18 ～ 43cm	長さ 10.44m 幅　0.80 ～ 1.04cm 深さ 35 ～ 59cm	長さ 10.46m 幅　0.88 ～ 1.28m 深さ 21 ～ 39cm	周溝内土坑は、長さ 3.84m 幅 0.52 ～ 0.66m 深さ東 18cm。９・10 号方形周溝墓と溝を共用する。	10 号方形周溝墓の中心に溝が巡ることから、10 号より古か？
12	10号方形周溝墓	久ヶ原	方形周溝墓	方台部内径(東西) 8.68m	N-29 °- W	長さ（2.54）m 幅　1.24 ～ 1.32m 深さ 34 ～ 43cm	長さ（5.48）m 幅　0.78 ～ 1.04cm 深さ 14 ～ 28cm	調査区域外	長さ 6.56m 幅　1.42 ～ 1.58m 深さ 22cm	周溝内土坑は、長さ 3.86m 幅 0.52 ～ 0.60m 深さ南 13cm北 10cm。主軸方位は N-61 °-E。	11 号方形周溝墓を意識して構築されることから 1 号より新か？

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
1	13	265	和泉	住居跡	長径 5.82m 短径 5.78m	N-43 °-E	P1 54cm P2 53cm P3 51cm P4 35cm P5 56cm P6 24cm	炉 火床長軸 N-48 °-E 長さ 0.64m 幅 0.4m 深さ 11cm。	北東 43cm　南東 54cm 北西 35cm　南西 53cm	検出面では全周。深さ 4 ～ 8cm。間仕切り溝・長さ 98cm深さ 8cm　幅 15cm。	カマド無し。和泉高坏　焼土は 14 ヶ所に検出され、厚さ 4 ～ 27cm。粘土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 18cm。間仕切り溝　長さ 98cm　深さ 8cm　幅 15cm。 炭化物 1 ヶ検出。P1 ～ P4 は主柱穴。	神門 3 号墳と同タイプの手焙り形土器出土。
1	14	255	鬼高 5 C	住居跡	長径 3.90m	N-138 °-W	P1 71cm P2 15cm P3 14cm	カマド南西壁。 火床長軸 N-139 °-W 長さ 0.76m 幅 0.4m 深さ 8cm。	南東 40cm　南西 43cm 北東　測定値無し	検出面では全周。深さ 12 ～ 14cm。	北東壁際に粘土ブロック 1 ケ所検出され、厚さ 21cmを測る。	土師器摸倣坏の大半は床面から浮いた状況で検出。
1	15	253A	鬼高 5 C	住居跡	長径 4.53m 短径 4.48m	N-67 °-E	P1 50cm P2 58cm P3 27cm P4 64cm P5 55cm P6 26cm P7 50cm	カマド東壁。 火床長軸 N-65 °-E 長さ 0.9m 幅 0.4m 深さ 8cm。	東 41cm　　西 32cm 南 34cm　　北 28cm	検出面では全周。深さ 4 ～ 12cm。	P1･2･4･5 は主柱穴。P 7 は貯蔵穴。貝ブロック 2 ヶ所に検出。A 90 × 70cm 厚さ 20cmを測る。B 30 × 20cm 厚さ測定値無し。	土師器摸倣坏。
1	16	253B	和泉	住居跡	長径 4.48m 短径（4.10）m	N-66 °-W	P1 41cm P2 37cm	炉？　15 号に削平	東 1cm　　西 9cm 北　測定値無し	無し	炉・カマドは残存痕跡が北・西側にないので、東か南にあったと想定される。	高坏 1 点。
2	17	254	鬼高 5 C	住居跡	長径 5.38m 短径 5.18m	N-47 °-E	P1 65cm P2 72cm P3 81cm P4 76cm P5 92cm P6 101cm P7 29cm	カマド北東壁。 粘土長軸 N-50 °-E 長さ 0.82m 幅 0.52m。	北東 22cm　南西 31cm 南東 38cm　北西 49cm	ほぼ全周。深さ 2 ～ 14cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 6 ヶ所に検出され、厚さ 2 ～ 25cmを測る。炭化物 14 箇所に検出。	底部突出甕・土師器摸倣坏大小・取っ手付甑・ 3 方透かし高坏。 T K -47 ～ M T － 15 併行？土師器摸倣坏の大半は床面より浮いた状況で検出。
2	18	264	久ヶ原	住居跡	平面プラン不明	—	P1 19（52）cm P2 60cm P3 21cm P4 29cm P5 46cm P6 35cm	炉　未検出	南東 9cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
2	19	番号なし	不明	土坑	長径 2.63m 短径 1.54m	N-37 °-W	無し	無し	北東 16.5cm 南東 32cm 北西 64cm　南西 23cm	無し		調査ノートに土坑と記載される。
3	20	236	終末期	住居跡	長径 5.55m 短径 5.54m	N-57 °-W	P1 58cm P2 28cm P3 60cm P4 28cm P5 61cm P6 53cm	カマド西壁。 火床長軸 N-53 °-W 長さ 0.68m 幅 0.46m 深さ 10cm	東 65cm　　西 38cm 南 50cm　　北 61cm	全周。深さ 8 ～ 12cm。	P 1･3･5･6 は主柱穴。遺構中央に貝ブロック 1 ヶ所検出。30 × 20cm。厚さ 20cmを測る。	
3	21	237A	鬼高 5 C	住居跡	長径（5.90）m 短径（5.60）m	N-40 °-E	P1 75cm P2 22cm P3 77cm P4 65cm P5 61cm P6 71（66）cm P7 67cm P8 10cm P9 18cm P10 27cm	カマド北壁。 火床長軸 N-47 °-E 長さ 0.48m 幅 0.35m 深さ 8cm	東 10cm　　西 46cm 南 54cm　　北 22cm	南西コーナー周辺部に残存。深さ 6 ～ 12cm。	P 1･3･4･6 は主柱穴。	
3	22	238	鬼高 5 C	住居跡	長径（6.60）m 短径（6.42）m	N-50 °-E	P1 84cm P2 51cm P3 95cm P4 88cm P5 67（62）cm P6 76cm P7 20cm P8 12cm	炉 火床長軸 N-42 °-E 長さ 0.52m 幅 0.40m 深さ 4cm。	東 53cm　　西 56cm 南 52cm	北東コーナー周辺部に残存。深さ 2 ～ 8cm。	P 1･3･4･5 は主柱穴。	
3	23	237B	五領	住居跡	残存長 2.70m 残存幅 0.94m	N-35 °-E	P1 99（105）cm P2 57（63）cm P3 49（55）cm P4 87（93）cm P5 66（72）cm P6 79（81）cm P7 45cm	炉 21 号に削平	南東 64cm	南東 5cm。	遺物なし。P 1･2･4･6 は主柱穴。	
3	24	235	久ヶ原	住居跡	長径（4.10）m 短径 3.60m	N-66 °-E	P1 21cm P2 18cm P3 57cm P4 15cm P5 57cm P6 28cm P7 24cm P8 23cm P9 19cm P10 16cm P11 23cm P12 21cm	炉 火床長軸 N-41 °-E 長さ 0.50m 幅 0.38m 深さ 4cm。	西　6cm　　南 13cm 北 14cm	無し		
3	25	222	鬼高 5 C	住居跡	長径 4.30m 短径 2.86m	N-49 °-E	P1 81cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-60 °-E 長さ 0.74m 幅 0.30m 深さ 6cm。	北東 66cm　南西 54cm 南東 58cm　北西 64cm	ほぼ全周。深さ 1 ～ 8cm。	単独住居。北コーナーに貝ブロック 1 ヶ所検出。50 × 26cm。厚さ 33cmを測る。	摸倣坏。
4	26	221	鬼高 5 C	住居跡	長径 3.80.m 短径 3.32m	N-48 °-E	P1 37cm P2 26cm P3 36cm P4 12cm P5 7cm P6 4cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-45 °-E 長さ 0.66m 幅 0.46m 深さ 5cm。	北東 58cm　南西 36cm 南東 44cm　北西 36cm	全周。深さ 5 ～ 7cm。	単独住居。P3 は貯蔵穴。	
4	27	232	和泉	住居跡	残存長径 3.28m 残存短径 1.22m	N-43 °-E	P1 65cm P2 69（80）cm P3 81cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-55 °-E 長さ 0.18m 幅 0.12m 深さ 6cm。	北東 20cm　南東 38cm 他は調査外	北東から南東コーナーにかけて、深さ 8cm。	P1 ～ P2 は主柱穴。主軸方位は南東壁より。	
4	28	231A	五領	住居跡	長径 4.60m 短径（4.00）m	N-48 °-E	P1 43cm P2 71cm P3 40cm P4 27cm	炉　未検出	北東 50cm　南東 38cm 南西 26cm	北東から南西にかけて、深さ 7 ～ 15cm。		
4	29	231B	五領	住居跡	残存長径 3.76m 残存短径 1.40m	N-29 °-E	無し	炉　未検出	東　9cm　　南　4cm 北 22cm	無し	遺構の大半は、調査範囲外。主軸方位は東側壁より。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
4	30	231C	五領	住居跡	西残存長 1.92m 幅 0.20m 南残存長 1.36 m 幅 0.26m	—	無し	炉　未検出	南東 8cm　南西 50cm	無し	規模径は、北西・南東一辺より。	
4	31	234A	宮ノ台	住居跡	残存長径（5.08）m 残存短径（3.60）m	N-36 °-W	P1 65cm P2 60cm P3 48cm	炉 火床長軸 N-39 °-W 残長 0.48m 幅 0.30m 深さ 5cm。	北東 24cm　南東 29cm 北西 20cm 南西　調査範囲外	北コーナーから南東にかけて、深さ 5 ～ 7cm。	P 1･2 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 12 ～ 14cmを測る。	
4	32	234B	終末期	住居跡	長径（4.20）m 短径（2.80）m	—	P1 72cm P2 31cm P3 42cm P4 52cm P5 52cm P6 44cm	炉は撹乱に削平？	北東 8cm	無し	北東壁と P1 ～ P6 のみ残存。	
4	33	224	鬼高５C	住居跡	長径 4.70m 短径 4.55m	N-57 °-E	P1 67cm P2 68cm P3 39cm P4 71cm P5 74cm P6 44cm P7 32cm P8 28cm P9 52cm P10 30cm	カマド　記録なし 炉　火床長軸 N-56 °-E 残長 0.33m 幅 0.28m 深さ 3cm。	北東 8cm　南東 10cm 北西 3cm　南西 16cm	南コーナーから北西にかけて、深さ 3 ～ 5cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。調査者により炉・カマド併設竪穴とされる。	
4	34	235	和泉	住居跡	長径（5.14）m 短径（5.14）m	—	P1 8cm P2 4cm P3 7cm P4 10cm P5 4cm P6 6cm P7 8cm P8 9cm P9 3cm P10 6cm P11 5cm P12 9cm P13 8cm P14 8cm P15 4cm P16 10cm		北東 10cm　北西 24cm 南西 16cm 南東　測定値無し	無し		本跡調査時遺構番号 235 号は、24 号の調査時遺構番号 235 号と重複する。
4	35	223	久ヶ原	住居跡	長径（4.02）m 短径（1.00）m	N-11 °-E	P1 12cm P2 16cm	炉　未検出	西 7cm　南 23cm 北 23cm 東　測定値無し	無し	焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 4 ～ 11cm。	
4	36	229	鬼高５C	住居跡	長径 5.06m 短径 3.94m	N-59 °-E	P1 68cm P2 64cm P4 74cm	カマド　記録なし。	東 32cm　西 17cm 南 26cm　北 41cm	周溝全周深さ 3 ～ 7cm。	焼土は 4 ヶ所に検出され、厚さ 5 ～ 10cm、粘土は 1 ヵ所に検出され、厚さ 17cmを測る。	
5	37	227	鬼高５C	住居跡	長径 4.20m 短径（4.05）m	N-47 °-E	P1 55cm	カマド　36 号に削平	東　8cm　西 27cm 南　4cm	周溝全周深さ 3 ～ 16cm。	遺構東部に貝ブロック 1 ヶ所検出。155 × 90cm。厚さ 25 ～ 31cmを測る。	
5	38	228A	鬼高５C	住居跡	長径（3.80）m 短径（3.10）m	N-51 °-E	P1 27cm	カマド　記録なし。	北東 10cm　南東 48cm	東コーナーから南東にかけて、深さ 5 ～ 8cm。		出土遺物は五領主体だが、記録写真ではカマドが見える。遺物の最新は 7 世紀代の高坏。
5	39	228B	五領	住居跡	推定長径（5.00）m 推定短径（4.95）m	N-22 °- W	P1 87cm P2 82cm P3 77cm P4 55cm P5 30cm P6 55cm P7 74cm P8 27cm P9 90cm P10 53cm P11 80cm P12 27cm	炉 火床長軸 N -79 °- W 長さ 0.80m 幅 0.62m 深さ 5cm。	北西 15cm　南西 50cm	深さ 9 cm前後。	主軸方位は南西壁より。	おそらく平面プランは隅丸方形。
5	40	233A	終末期	住居跡	長径 5.44m 短径（5.20）m	N-52 °-W	P1 57cm P2 62cm P3 56cm P4 4cm	カマド北西壁。 火床長軸 N-48 °-W 長さ 0.78m 幅 0.42m 深さ 4cm。	北東 55cm　南東 58cm	北コーナーから南東にかけて、深さ 3 ～ 8cm。	P1 ～ P3 は主柱穴。	
5	41	233B	宮ノ台	住居跡	長径（5.20）m	-	P1 54cm P2 66cm	炉　未検出	北東 35cm　北西 66cm	北コーナーから北東にかけて、深さ 4 ～ 8cm。	遺構の大半は、調査範囲外。主軸方位は P1 と P2 を結んだ線上より。	
5	42	225	和泉	住居跡	長径 4.64m 短径 4.60m	N-42 °-E	P1 18cm P2 72cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-41 °-E 長さ 0.42m 幅 0.32m 深さ 3cm。	北東 50cm　南東 58cm 北西 23cm　南西 50cm	ほぼ全周。深さ 5 ～ 11cm。	周提帯、長さ 120cm　幅 18cm　高さ 2cm。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 6cm。	
5	43	226	五領	住居跡	長径（5.22）m 短径 5.00m	N-1 °-W	P1 51cm P2 35（54）cm P3 72cm P4 63cm P5 32cm	炉 火床長軸 N-22 °-W 長さ 0.80m 幅 0.40m 深さ 3cm。	東 30cm　西 24cm 南 31cm 北　測定値無し	東から西にかけて、深さ 4 ～ 11cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 4 ヶ所に検出され、厚さ 2 ～ 17cmを測る。焼土の周りに炭化物 3 箇所に散る。	
5	44	200D	五領	住居跡	残存長径 5.38m 短径 4.40m	-	P1 65（90）cm	37 号に削平		無し	主軸方位は南東壁より。	
5	45	200A	宮ノ台	住居跡	径 6.7m 以上	-	無し	炉 火床長軸 N-32 °-W 長さ 0.9m 幅 0.55m 深さ 5cm。	北　8cm	無し	調査時に A・B・C・D の 4 軒に分割されるが、C からの出土遺物無し。	出土遺物は全て宮ノ台。
5	46	200B	鬼高５C	住居跡	長径（4.25）m 短径（3.56）m	N-127 °-W	P1 72cm P2 75cm P3 78cm P4 75cm	炉 火床長軸 N-46 °-W 長さ 0.82m 幅 0.56m 深さ 8cm。	無し	無し	P 1 ～ P 4 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され，厚さ 3 ～ 4cmを測る。	炉･カマド併設住居。鬼高式最古段階。

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
5	47	200C	久ヶ原	住居跡	径 4.04m 以上	—	無し	炉　未検出	北 18cm	無し	規模径は、東西一辺より。	出土遺物無し。
5	48	199	庄内	住居跡	長径（6.86）m 短径（6.02）m	N-109 °-E	P1 71cm P2 75cm P3 78cm P4 79cm P5 38cm P6 37cm	炉　46 号に削平	東 33cm　南 31cm	東から南にかけて残存。深さ 2 ～ 4cm。	P 1 ～ P 4 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され，厚さ 15cmを測る。	45 号(鬼高)･95 号(五領)に切られる。
5	49	230	五領	住居跡	残存長径 3.20m 残存短径 2.34m	—	P1 52cm	炉　33 号に削平	南東 11cm　北西 17cm	無し		
6	50	251	和泉	住居跡	長径 7.68m 短径 7.56m	N-65 °-E	P1 59cm P2 56cm P3 44cm P4 63cm P5 62cm P6 21cm P7 14cm P8 23cm P9 21cm P10 17cm P11 52cm P12 29cm P13 24cm P14 26cm P15 28cm	カマド東壁。 火床長軸 N-77 °-E 長さ 0.76m。幅 0.52m 深さ 2cm。	東 41cm　西 46cm 南 58cm　北 46cm	全周。深さ 4 ～ 8cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。 間仕切り溝 A 長さ 1.94m 深さ 18cm、B 長さ 1.74m 深さ 21 ｃ m、C 長さ 0.76m 深さ 6cm、D 長さ 1.64m 深さ 19cm、E 長さ 0.76m 深さ 15cm、F 長さ 0.74m 深さ 19cmを測る。	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 3cmを測る。臼玉 214 点。扁平勾玉 1 点。
6	51	256	五領	住居跡	長径（5.62）m 短径（3.86）m	N-33 °-W	P1 34cm P2 17cm P3 35cm P4 13cm P5 10cm	炉 火床長軸 N-30 °-W 長さ 0.70m。幅 0.34m 深さ記載無し。	南東 48cm　北西 28cm 南西 46cm 北東　測定値無し	北西及び南東コーナーかけて、深さ 7 ～ 10cm。	遺物ほとんどなし。時期不明。	遺構平面図なし（全体図から平面図をおこした）。
6	52	252	五領	住居跡	長径 4.12m 残存短径 2.20m	N-45 °-W	P1 43cm P2 23cm P3 31cm	炉？　新旧逆調査	南東 26cm　北西 19cm 南西 24cm 北東　測定値無し	無し		
6	53	240	五領	住居跡	長径 5.48m 短径 5.42m	N-92 °-W	P1 81cm P2 27cm P3 73cm P4 46cm P5 17cm	炉 火床長軸 N-91 °-W 長さ 0.56m 幅 0.40m。深さ 5cm。	東 12cm　西 46cm 南 54cm　北 12cm	ほぼ全周。深さ 7 ～ 9cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	ハケ減少甕、布留系柱実高坏、器台形高坏、平底鉢、布留系器台。摸倣坏は混入。
6	54	239	和泉	住居跡	長径（5.32）m 短径（5.04）m	N-131 °-W	P1 30（42）cm P2 53cm P3 50cm P4 55cm P5 45cm	炉？　新旧逆調査	東 27cm　西 33cm 南 33cm　北 33cm	残存部全周。深さ 4 ～ 8cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。P6 ～ P16 は周溝内。深さ 2 ～ 25cmを測る。	
6	55	242	和泉	住居跡	長径（4.80）m 短径 4.62m	N-49 °-E	P1 39cm P2 21cm P3 65cm P4 38cm P5 52cm P6 37cm P7 18cm P8 21cm P9 18cm P10 31cm P11 28cm P12 42cm P13 21cm P14 20cm P15 17cm P16 17cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-53 °-E 長さ 0.56m 幅 0.28m 深さ 2cm。	東 39cm　西 28cm 南 42cm　北 38cm	北西コーナーから南西コーナーにかけて、深さ 6 ～ 8cm。	P1･3 ～ P5 は主柱穴。焼土は 6 ヶ所に検出され、厚さ 5 ～ 10cmを測る。	和泉末葉。
6	56	241	五領	住居跡	長径（4.98）m 短径（4.50）m	N-49 °-E	P1 10cm P2 19cm P3 60（76）cm P4 70（75）cm P5 4cm	炉　55 号に削平	北東　6cm　南東 36cm 北西 36cm　南西 18cm	南東コーナーから南西にかけて、深さ 10cm前後。	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 5cmを測る。	
7	57	243	五領	住居跡	長径 5.96m 短径 5.94m	N-37 °-W	P1 46cm P2 40cm P3 53cm P4 67cm P5 44cm P6 9cm P7 28cm P8 26cm P9 29cm P10 33cm P11 15cm P12 14cm P13 19cm P14 25cm P15 32cm P16 68cm P17 53cm	炉 火床長軸 N-36 °-W 長さ 0.62m 幅 0.42m 深さ 1cm。	東 26cm　西 22cm 南 10cm　北 19cm	ほぼ全周。深さ 5 ～ 9cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	P18 27 P19 71 P20 23 P21 61 P22 34 P23 27 P24 16 P25 18 P26 41 P27 20 P28 5 P29 34 P30 19 P31 21 P32 33 P33 31 P34 26 P35 28 P36 10 P37 36 cm
7	58	217A	和泉	住居跡	長径 4.88m 短径 4.72m	N-49 °-E	P1 63cm P2 53cm P3 58cm P4 61cm P5 40cm	カマド東壁。 火床長軸 N-53 °-E 長さ 0.74m 幅 0.64m 深さ 12cm。	東 55cm　西 42cm 南 41cm　北 40cm	全周。深さ 6 ～ 10cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 3 ヶ所に検出され、厚さ 1 ～ 12cmを測る。	遺物としての纏りは和泉式の良好資料。
7	59	217B	和泉	住居跡	長径（5.00）m 短径（4.98）m	N-36 °-E	P1（66）cm P2（62）cm P3（25）cm P4 46cm	本跡カマドを 58 号遺構が再利用したと考えられる。	東 46cm　西 26cm 南 41cm　北 27cm	南西コーナー以外で検出。深さ 1 ～ 6cm。	炭化物 1 ヶ所検出。	58 号遺構の建替え以前の竪穴と推定。
7	60	211B	久ヶ原	住居跡	長径 5.65m	—	P1 41cm P2 15cm P3 48cm P4 23cm P5 19cm P6 36cm P7 83cm	炉 火床長軸 N-21 °-E 長さ 1.12m 幅 0.80m 深さ 16cm。	南 42cm	無し		
7	61	248AB	宮ノ台	住居跡	長径 6.72m 短径 5.44m	N-11 °-W	P1 77cm P2 75cm P3 78cm P4 75cm P5 49cm P6 24cm P7 33cm P8 25cm P9 45cm P10 26cm	炉 火床長軸 N-14 °-W 長さ 0.66m 幅 0.48m 深さ 8cm。	東 51cm　西 38cm 南 28cm　北 35cm	内周溝・北東コーナーから西にかけて検出。深さ 13 ～ 18cm。外周溝・全周。深さ 1 ～ 15cm。	P1 ～ P4、P5・P9 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 8 ～ 9cmを測る。炭化物 3 ヶ所に検出。	248A・B に分割され調査。整理段階で同一住居の拡張と見なす。
7	62	250	宮ノ台	住居跡	長径 5.62m 短径 5.14m	N-13 °-W	P1 73cm P2 81cm P3 81cm P4 86cm P5 41cm P6 52cm P7 31cm P8 29cm P9 19cm P10 20cm P11 10cm P12 35cm	炉 火床長軸 N-4 °-W 長さ 0.50m 幅 0.35m 深さ 5cm。	東 34cm　西 20cm 南 32cm　北 12cm	ほぼ全周。深さ 7 ～ 13cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 3 ヶ所に検出され、厚さ 7 ～ 8cmを測る。	
7	63	249A	五領	住居跡	長径 4.22m 短径 3.12m	N-95 °-E	P1 41cm P2 38cm P3 47cm P4 12cm	炉 火床長軸 N-97 °-E 長さ 0.42m 幅 0.34m 深さ 5cm。	東　6cm　西 11cm 南 42cm　北　9cm	ほぼ全周。深さ 6 ～ 8cm。		
7	64	249B	五領？	住居跡	長径（4.62）m	N-55 °-E	P1 54cm P2 36（50）cm P3 測定値無し P4 測定値無し	炉？　未検出	東 28cm　西 25cm 北 15cm	南西・北西の一部。深さは 7 cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	遺物なし。時期不明。

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
7	65	216	五領	住居跡	径（5.56）m 径残存 3.44m	—	P1 78cm P2 42cm P3 19cm	炉　未検出	東 36cm　北 24cm 南　測定値無し	無し	焼土は5ヶ所に検出され、厚さ6～9cmを測る。炭化物5ヶ所検出。	
7	66	244A	宮ノ台	住居跡	長径（5.20）m	N-9 °-E	P1 60cm P2 43cm P3 57cm P4 67cm P5 13cm	炉 火床長軸 N-9 °-E 長さ 0.80m 幅 0.42m 深さ 12cm。	南 36cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
7	67	244B	宮ノ台	住居跡	長径（6.46）m 短径（5.36）m	N-14 °-E	P3 36cm P4 32cm P5 39cm　P6 16cm　P7 18cm P8 51cm P9 38cm P1・P2 測定値無し	炉 火床長軸 N-9 °-E 長さ 0.82m 幅 0.42m 深さ 5cm	東　7cm　南 25cm 北 13cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	壁は掘り足らない。
7	68	215A	和泉	住居跡	長径 6.74m 短径 6.56m	N-43 °-W	P1 40cm P2 64cm P3 55（64）cm P4 78cm P5 54（58）cm P6 31cm	炉 火床長軸 N-44 °-W 長さ 0.4m 幅 0.52m 深さ 4cm。	東 38cm　西 34cm 南　測定値無し 北 42cm	ほぼ全周。深さ7～11cm。	P2 ～ P5 は主柱穴。焼土は2ヶ所に検出され、厚さ 10cm。215A の床面上 30cmに 215Bの床面が存在。215A の北西壁は掘りすぎか。	215 Aは和泉、215 Bは弥生の遺物。新しい住居の床面の上に古い住居の床面の存在は考えられない。和泉最終末。カマド無し。
7	69	215B	宮ノ台	住居跡	長径 1.60m 短径 1.35m	—	—	—	-			
7	70	土坑11	不明	土坑	長径 1.18m 短径 1.12m	N-33 °-E	89cm	無し	北東 92cm　北西 89cm	無し	井戸か？	
7	71	214	五領	住居跡	長径 5.58m 短径 5.38m	N-24 °-W	P1 74cm P2 71cm P3 75cm P4 78cm P5 21cm P6 9cm P7 8cm　P8 65cm P9 19cm P10 23cm P11 12cm	炉 火床長軸 N-6 °-E 長さ 0.84m 幅 0.56m 深さ 4cm。	東 39cm　西　4cm 南 51cm　北 36cm	ほぼ全周。深さ4～11cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
7	72	245	終末期	住居跡	長径（5.40）m 短径 5.24m	N-47 °-W	P1 43cm P2 49cm P3 38cm P4 40cm P5 50cm P6 52cm P7 41cm P8 56cm P9 11cm	カマド　351 号溝に削平。	東 55cm　西 40cm 南 59cm　北 48cm	東コーナーから西コーナーにかけて、深さ3～10cm。間仕切り溝・長さ 1.2m 幅 0.24m 深さ5～9cm。	P1 ～ P8 は主柱穴。焼土は2ヶ所に検出され, 厚さ7～11cmを測る。	
7	73	246	庄内	住居跡	長径（6.20）m 短径 5.52m	N-40 °-W	P1 14cm P2 61cm P3 26cm P4 68cm P5 39（51）cm P6 8cm	炉 火床長軸 N-66 °-W 長さ 0.56m 幅 0.42m 深さ 5cm。	東 35cm　西 32cm 北 24cm	南西コーナーから東にかけて、深さ3～16cm。	P2 ～ P5 は主柱穴。351 号溝内より貝ブロック1ヶ所検出。28 × 24cm　厚さ 55cmを測る。	
7	74	245B・C	庄内	住居跡	—	—	無し	炉　未検出	南 12cm　北 12cm	無し	B・Cの土坑として調査されるが、遺物の出土状況から見て住居と考えられる。	245 土坑注記遺物有り。図面上には 245B が土坑と表示され、調査日誌に土坑と記載される。
8	75	220	鬼高５C	住居跡	長径 4.98m 短径 4.96m	N-140 °-E	P1 63cm P2 67cm P3 62cm P4 66cm P5 59cm	カマド南東壁。 火床長軸 N-137 °-E 長さ 0.69m 幅 0.42m 深さ 4cm。	北東 42cm　南東 17cm 北西 46cm　南西 38cm	全周。深さ1～8cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。P5 は貯蔵穴。P2 の周囲に周提帯。長さ 3.44m　幅 12 ～ 24cm　高さ 4 ～ 5cmを測る。	南カマド。
8	76	番号なし	不明	土坑	残長 1.26m 幅 0.66m	—	無し	無し	深さ測定値無し	無し		
8	77	218B・219	五領	住居跡	長径（7.30）m 短径（6.00）m	N-8 °-W	P1 38（34）cm P2 32（34）cm	炉　75 号に削平	東 17cm　西 18cm 北 22cm	無し	新旧逆調査。	218 B・219 は同一住居＝ 219（五領式土器）。
8	78	218A	宮ノ台	住居跡	長径（7.80）m 短径 6.38m	N-5 °-W	P1 80cm P2 28cm P3 41cm P4 28cm P5 82cm P6 66cm	炉 火床長軸 N-4 °-W 長さ 90cm幅 0.46m 深さ 5cm。	東 26cm　西 10cm 南 28cm 北　測定値無し	北から西にかけて残存。深さ 10 ～ 18cm。	新旧逆調査。　P7 ～ P21 は周溝内。深さ5～15cmを測る。	218 Aは単独で1軒の住居＝218(久ヶ原式土器)。
8	79	206	終末期	住居跡	長径（5.28）m 短径（5.24）m	N-61 °-W	P1 57cm P2 63cm P3 43cm P4 46cm P5 30cm P6 56cm	カマド北西壁。 火床長軸 N-56 °-W 長さ 0.94m 幅 0.48m 深さ 10cm。	南東 12cm　北東 25cm	北西コーナーで検出。深さ 6cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は2ヶ所に検出され、厚さ3～7cmを測る。	
8	80	210A・B	庄内	住居跡	長径 5.12m 短径 4.30m	N-24 °-W	P1 41cm P2 33cm P3 41cm P4 31cm P5 22cm P6 36cm	炉 火床長軸 N-23 °-W 長さ 0.86m 幅 0.32m 深さ 7cm。	東 66cm　西 68cm 南 33cm　北 70cm	ほぼ全周。深さ5～10cm。	焼土は 16 ヶ所に検出され、厚さ1～9cmを測る。全体に小さな炭化物 21 箇所に散る。	210 A・Bは同一遺構。統一。 Aと Bあわせて 1 軒。
8	81	211A	和泉	住居跡	長径 4.60m 短径 4.20m	N-36 °-W	P1 66cm P2 62cm P3 42cm P4 61cm P5 60cm P6 69cm P7 31cm	炉 火床長軸 N-79 °-W 長さ 0.46m 幅 0.38m。深さ 6cm。	北東 29cm　南東 10cm 北西 33cm　南西 17cm	ほぼ全周。深さ6～9cm。	P1・P3 ～ P5 は主柱穴。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
8	82	212A	和泉	住居跡	長径 3.86m 短径 3.76m	N-67 °-E	P1 21cm P3 10cm P4 40cm P5 55cm P6 61cm P7 41cm P8 14cm P9 25cm P10 18cm P2 測定値無し	カマド東壁。 火床長軸 N-59 °-E 長さ 0.26m 幅 0.18m 深さ 4cm。	南　8cm　　北　2cm 東・西　測定値無し	西コーナーを除いて、ほぼ全周。深さ 6 ～ 8cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 10 ～ 18cmを測る。	
8	83	212B	和泉	住居跡	長径（4.50）m 短径（4.20）m	N-42 °-E	P1 18cm P2 34cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-56 °-E 長さ 0.44m 幅 0.26m 深さ 17cm。	南東 45cm　北東・北西・南西　測定値無し	無し		市内最古須恵器蓋。ON-231 併行。
8	84	208 209	五領	住居跡	長径（5.20）m 短径（5.10）m	N-22 °-W	P1 59cm P2 55cm P3 66cm P4 50cm P5 25cm P6 26cm P7 14cm P8 66cm P9 67cm	炉 火床長軸 N-22 °-W 長さ 0.78m 幅 0.56m 深さ 4cm。	東 42cm　　西 26cm 南 46cm	東から南西中央まで残存。深さ 2 ～ 6cm。	ローム貼りベット状遺構 2 ヶ所検出。高さ 5 ～ 9cm。P5 は貯蔵穴。周囲に周提帯、長さ 1.1m　幅 8 ～ 10cm　高さ 2cm。P1 ～ P4 は主柱穴。	
8	85	番号なし	久ヶ原	住居跡	残存径 3.80m	N-44 °-W	P1 23cm	炉 火床長軸 N-23 °-W 長さ 0.74m 幅 0.42m 深さ 3cm。	南西 10cm			
8	86	207	和泉	住居跡	残存長径 4.50m 残存短径 2.80m	—	P1 26cm P2 36cm	カマド北東側。 火床長軸 N-53 °-E 長さ 0.40m 幅 0.26m 深さ 12cm。	南東 17cm　南西 14cm	無し	主軸方位は南東壁より。カマドの位置から南西壁は、恐らく掘り足りていない。	平面プラン歪。調査日誌では本遺構内のカマドは別の遺構に伴うとするが、伴う遺構が見当たらない。おそらく掘り足りていないのではないか。
8	87	205	五領	住居跡	長径（5.24）m 短径（5.16）m	N-5 °-W	P1 62cm P2 78cm P3 63cm P4 77cm	炉 火床長軸 N-1 °-E 長さ 0.66m 幅 0.48m 深さ 3cm。	西 35cm　　南 10cm	南西コーナーから北西コーナーにかけて残存。深さ 4 ～ 8cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 14cmを測る。	
8	88	204	久ヶ原	住居跡	残長 6.00m	—	P1 83（81）cm P2 43（43）cm P3 76cm P4 57cm P5 59cm	炉　79 号に削平	北東 14cm　南東 32cm 南西　7cm	北東から南西にかけて、深さ 9 ～ 11cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 4 ～ 8cm、粘土は 1 ヶ所に検出され、厚さは 4 cmを測る。	太型蛤刃石斧が出土。
8	89	203	庄内 ～ 五領	住居跡	長径 4.62m 残存短径 2.76m	N-40 °-E	P1 38cm P2 47cm P3 59cm	炉 火床長軸 N-60 °-E 長さ 0.6m 幅 0.46m 深さ 7cm。	東　5cm　　西 24cm 北 18cm	東側にのみ残存。深さ 5cm。		
8	90	188	終末期	住居跡	長径 7.74m 短径 7.00m	N-44 °-W	P1 58cm P2 60cm P3 53cm P4 65cm（91 号 P3 と重複）P5 38cm P6 18cm P7 49cm P8 44cm　P9 51cm P10 28cm	カマド北西壁。 火床長軸 N-46 °-W 長さ 0.76m 幅 0.3m 深さ 14cm。	北東 30cm　南東 34cm 北西 30cm　南西 23cm	全周。深さ 4 ～ 14cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 3 ヶ所に検出され、厚さ 5 ～ 13cmを測る。	
8	91	189	和泉	住居跡	長径 5.26m 残存短径 2.72m	N-34 °-E	P1 40（61）cm P2 70cm P3 65（86）cm（90 号 P4 と重複）P4 73cm	炉　90 号に削平	北東 23cm　南東　2cm 北西 17cm	北西から南東にかけて、深さ 9 ～ 13cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
8	92	195	和泉	住居跡	長径 5.90m 短径（5.90）m	N-45 °-E	P1 70cm P2 47（49）cm P3 59cm P5 35cm P6 57cm P4 未検出	カマド残骸あり	北東 26cm　北西 37cm 南西 36cm	南西コーナーから北東にかけて、深さ 3 ～ 12cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 10cmを測る。	
9	93	202	和泉	住居跡	長径 5.36m 短径 5.30m	N-43 °-E	P2 76cm P5 62cm P6 19cm P1・P3・P4 測定値無し	炉 火床長軸 N-41 °-E 長さ 0.64m 幅 0.48m 深さ 2cm。	北東 28cm　南東 30cm 北西 49cm　南西 21cm	全周。深さ 7 ～ 12cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	95 号（五領）・89 号（庄内）を切る。
9	94	番号なし	和泉	土坑	長径 1.06m 短径 0.88m	N-98 °-W	無し	無し	北西 182cm	無し	井戸か。	93 号住居内。
9	95	201	五領	住居跡	長径 5.94m	N-42 °-E	P1 64cm P2 37（45）cm P3 68cm P4 61cm P5 1 段目 12cm 2 段目 25cm	炉　未検出	北東　9cm　南東 14cm 北西 25cm	北西の一部及び東コーナーから南東までが残存。深さ 3 ～ 9cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
9	96	187	庄内	住居跡	長径 6.06m 短径（5.22）m	N-45 °-W	P1 46cm P2 29cm P3 57cm P4 55cm P5 43（47）cm P7 60cm P8 36cm P9 50cm P10 26cm P6 測定値無し	炉 火床長軸 N-44 °-W 長さ 0.94m 幅 0.90m 深さ 3cm。	北東 15cm　南東 17cm 北西 12cm　南西 17cm	89・93・90 号に削平以外は全周。深さ 5 ～ 6cm。	P1･3 ～ P5 は主柱穴。	
9	97	182A	鬼高５Ｃ	住居跡	長径 6.70m 短径 6.62m	N-50 °-E	P1 73cm P2 67cm P3 84cm P4 82cm P5 65cm P6 16cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-49 °-E 長さ 0.48m 幅 0.32m 深さ 3cm。	北東 23cm　南東 26cm 北西 21cm　南西 29cm	南東から北東まで残存。深さ 3 ～ 10cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
9	98	182B	久ヶ原	住居跡	長径 4.28m 短径 2.20m	N-16 °-E	P1 58cm P2 54（56）cm P3 60（62）cm P4 60（62）cm P5 9cm P6 6cm	炉 火床長軸 N-21 °-E 長さ 0.78m 幅 0.42m 深さ 10m。	西 18cm　南 16cm 北 15cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
10	99	180	鬼高５Ｃ	住居跡	長径 7.20m 短径 7.20m	N-42 °-W	P1 A 64cm P1 B 65cm P2 59cm P3 87cm P4 54cm P5 49cm P6 9cm P7 8cm P8 12cm P9 17cm P10 16cm P11 15cm P12 15cm P13 8cm	炉 火床長軸 N-57 °-W 長さ 0.90m 幅 0.66m 深さ 9cm。	北東 34cm　南東 48cm 北西 20cm　南西　4cm	ほぼ全周。深さ１～ 12cm。	炉・カマド併設住居。P1 ～ P4 は主柱穴。 P14 5cm　P15 5cm　P16　3cm　P17　2cm　P18　3 cm　P19　6cm　P20　2cm P21 4cm P22 5cm P23　3 cm	99 号遺構の遺物の大半は、一括取り上げ。カマド前の床面に坏多数密着と調査日誌に記される。
10	100	179Ｂ	五領	住居跡	長径 4.94m 短径（3.70）m	N-28 °-W	P1 76（90）cm P2 85cm P3 74cm P4 64cm P5 9cm P6 23cm P7 67cm	炉は撹乱ないしは 99 号に削平	西 27cm　　南 32cm 北　8cm 東　測定値無し	北西コーナー新旧逆調査未検出。南東コーナーは 180 号に削平。残存部の深さ５～ 16cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
10	101	179Ａ	五領	住居跡	残存長径 4.30m 残存短径 2.68m	N-41 °-W	P1 19cm P2 35cm	炉は撹乱ないしは 99 号に削平	南東 30cm　南西 30cm 北東・北西は測定値無し	南西の一部に検出。深さ 10 ～ 12cm。	99 号（和泉）に切られる。	
10	102	197	和泉	住居跡	長径（4.16）m 短径 3.94m	N-33 °-W	P1 11cm P2 6cm P3 29cm P4 10cm P5 66cm P6 13cm P7 5cm P8 7cm P9 7cm	東側の粘土は・壁から離れた初期カマドと想定される。粘土厚さ 21 cmを測る。	北 27cm 他は測定値無し	西から東が残存。深さ１～ 8cm。		須恵器蓋は 25 号竪穴一括と接合する。
10	103	198	五領	住居跡	長径 5.64m 短径 5.42m	N-42 °-E	P1 61cm P2 61cm P3 62（63）cm P4 50cm P5 60cm P6 14cm	炉 火床長軸 N-39 °-E 長さ 0.44m 幅 0.34m 深さ 1cm。	北東 30cm　南東 25cm 北西 23cm	北西から南東コーナーにかけ、深さ５～ 14cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。炭化物３ヶ所検出。	
10	104	196	久ヶ原	住居跡	長径 5.60m 短径 4.50m	N-3 °-W	P1 65cm P2 65cm P3 66cm P4 64cm P5 53cm P6 24cm P7 29cm P8 15cm P9 28cm P10 30cm P11 19cm P12 37cm P13 28cm	炉Ａ　火床長軸 N-9 °-E　長さ推定（0.8）m 幅 0.56m 深さ 7cm 炉Ｂ　火床長軸 N-22 °-E　長さ推定（0.76）m 幅 0.46m 深さ 5cm。	東 16cm　　西 35cm 南 31cm　　北 37cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。 P14 20cm P15 22cm P16 21cm P17 12cm P18 ～ P29 は周溝内　P20 14cm P21 17 cm　P26 18cm　他の深さ３～ 9cm。	
11	105	番号なし	宮ノ台	住居跡	残存長径 3.20m 残存短径 2.00m	N-35 °-W	P1 49cm P2 40cm P3 61cm P4 54cm	炉は４号方形周溝墓に削平	—	無し		
11	106	土坑 12	五領	土坑	長径 2.00m 短径 1.96m	N-40 °-W	無し	無し	北東 35cm　南東 20cm 北西 39cm　南西 20cm	無し	和泉高坏・複合口縁壷出土。	４号方形周溝墓内。
11	107	247	宮ノ台	住居跡	長径 6.24m 短径 5.46m	N-40 °-W	P1 80cm P2 90cm P3 93cm P4 81cm P5 29cm P6 20cm P8 9cm P9 30cm P10 14cm P11 7cm P12 12cm P13 36cm P14 50cm P7 測定値無し	炉 火床長軸 N-35 °-W 長さ 0.86m 幅 0.40m 深さ 9cm。	北東 11cm　南東 57cm 北西 31cm　南西 42cm	全周。深さ７～ 12cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
13	108	125	終末期	住居跡	長径 7.45m 短径 7.45m	N-52 °-W	P1 80cm P2 79cm P3 71cm P4 83cm P5 25cm	カマド　火床は 352 号溝に削平	北東 37cm　南東 43cm 北西 39cm　南西 48cm	ほぼ全周。深さ６～ 12cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は１ヶ所に検出され、厚さ 10cmを測る。	
13	109	番号なし	不明	土坑	長径 2.15m 短径 1.72m	N-15 °-E	無し	無し	深さ　測定値無し	無し		108 号住居内。
13	110	130	和泉	住居跡	長径 6.95m 短径 6.72m	N-57 °-E	P1 73cm P3 79cm P4 90cm P5 70cm P2 測定値無し	カマド北東壁。 火床長軸 N-60 °-E 長さ 0.72m 幅 0.46m 深さ 14cm。	北東 46cm　南東 48cm 北西 51cm　南西 26cm	全周。深さ９～ 15cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。P5 は ,貯蔵穴。焼土は５ヶ所に検出され、厚さ２～ 18cmを測る。	
13	111	119	終末期	住居跡	長径 6.74m 短径 6.60m	N-51 °-W	P1 68cm P2 75cm P3 91cm P4 78cm P5 32cm	カマド北西壁。 火床長軸 N-41 °-W 長さ 0.76m 幅 0.48m 深さ 10cm。	北東 50cm　南東 55cm 北西 31cm　南西 20cm	南西を除きほぼ全周。深さ６～ 14cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
13	112	123	和泉	住居跡	長径 5.85m	N-36 °-W	P2 67cm P3 66cm P4 15cm P5 37cm P6 49cm P1 測定値無し	カマド北西壁。 火床長軸 N-26 °-W 長さ 0.92m 幅 0.50m 深さ 10cm。	北東　1cm　北西　5cm 南西 49cm	南西から北東にかけて、深さ６～ 15cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
13	113	122	和泉	住居跡	径　東西（5.06）m	N-27 °-E	P1 67（86）cm P2 56cm P3 63cm P4 57cm P5 55cm	炉　112 号に削平	北西 39cm　南西 41cm	無し	焼土は４ヶ所に検出され、厚さは全て測定値無し。	
13	114	124	五領	住居跡	長径（5.48）m	N-21 °-E	P1 36cm P2 44cm P3 33cm	炉 火床長軸 N-16 °-E 長さ 0.34m 幅 0.26m 深さ 6cm。	東　9cm　　西 47cm 北 38cm	一部が二重周溝。外・西から北東コーナーにかけて、深さ３～ 20cm。内・北から東にかけて、深さ３～ 6cm。	焼土は２ヶ所に検出され、厚さ５～ 11cmを測る。 炭化物１ヶ所に検出。	
13	115	番号なし	不明	土坑	長径（1.16）m 短径 0.98m	N-69 °-E	無し	無し	東 30cm　　南 32cm 北 34cm 西　測定値なし	無し		114 号住居内。ノートに土坑と記載される。

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
13	116	268	久ヶ原	住居跡	長径（3.10）m	N-24 °-W	P1 8cm	炉 火床長軸 N-11 °-W 長さ 0.70m 幅 0.34m 深さ 6cm。	北東 17cm　南東　7cm 北西 12cm	無し	主軸方位は東壁より。	
13	117	126	和泉	住居跡	長径 5.98m 残存短径 5.00m	N-33 °-E	P1 49（48）P2 65cm P3 80（79）cm P4 51cm P5 31cm P6 58cm	炉 火床長軸 N-67 °-W 長さ 0.30m 幅 0.25m 深さ数値無し	北東 40cm　南東 13cm 北西 39cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
13	118	128	終末期	住居跡	長径 5.26m 短径 5.24m	N-55 °-W	P1 54cm P2 42cm P3 50cm P4 46cm	カマド西壁。 火床長軸 N-54 °- W 長さ 0.52m 幅 0.30m 深さ 8cm。	東 37cm　　西　2cm 南 35cm　　北　1cm	北東及び南西コーナー以外が残存。深さ 3 ～ 6cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。粘土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 5cmを測る。	
13	119	番号なし	終末期	土坑	長径 0.88m 短径 0.74m	N-60 °-E	無し	無し	東 68cm　　西 68cm 南 68cm　　北 66cm	無し		118 号住居内。日誌に土坑と記載される。
13	120	129A	和泉	住居跡	残存径 6.20m	—	P1 26cm P2 13cm	炉？未検出	西 31cm	無し	117 号と 118 号の間には床の存在することが、写真により判明。	
13	121	129B	五領	住居跡	残存径 4.22m	—	P1 50cm	炉 火床長軸 N-18 °-E 残存長 0.76m 幅 0.54m 深さ 4cm。	西　8cm	無し	炉の位置から、径は 5.2m あったと推測される。	
13	122	121	和泉	住居跡	長径 5.96m 短径 5.78m	N-101 °-E	P1 56cm P2 81cm P3 60cm P4 74cm P5 84cm P6 23cm P7 19cm	カマド東壁。 火床長軸 N-98 °- E 長さ 0.30m 幅 0.18m 深さ 4cm。	東 38cm　　西　8cm 南 44cm　　北　2cm	全周。深さは 9 ～ 15cm。		
13	123	120	五領	住居跡	長径 5.92m 短径 5.54m	N-22 °-E	P1 39cm P2 51cm P3 30cm P5 44cm P6 54cm P4 測定値無し	炉　122 号に削平	東 39cm　　南 41cm 北 39cm	北から南東コーナーにかけて、深さ 13 ～ 20cm。	西及び南壁は 111 号、122 号に削平。	
13	124	溝 5	宮ノ台	溝	長さ 10.64m 幅　1.48 ～ 0.88m	N-49 °-W	無し	無し	深さ 65 ～ 95cm	無し		
14	125	194	終末期	住居跡	長径 6.80m 短径 6.60m	N-60 °-W	P1 68cm P2 66cm P3 77cm P4 70cm P5 44cm P6 20cm P7 17cm P8 9cm P9 31cm	カマド西壁。 火床長軸 N-52 °- W 長さ 0.54m 幅 0.39m 深さ 10cm。	東　4cm　　西　8cm 南　7cm　　北　1cm	全周。深さ 7 ～ 16cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 7 ヶ所に検出され、厚さ 9 ～ 10cmを測る。間仕切り溝は、長さ 117cm 幅 14cm　深さ 6cmを測る。	
14	126	213A・B	五領	住居跡	長径 5.54m 短径 5.50m	N-13 °-E	P1 49cm P2 41cm P3 44（47）cm P4 50cm	炉？未検出	東 26cm　　西 24cm 南 19cm　　北 27cm	二重周溝、 外・北から東まで。深さ 3 ～ 8 cm　内・西から東まで。深さ 4 ～ 9cm。	旧 213A・213B は同一住居。炭化物 3 ヶ所検出。	二重周溝（拡張）。
14	127	131A	宮ノ台	住居跡	残存長径 6.82m 残存短径 6.06m	—	P1 64cm P2 22cm P3 76cm	炉 火床長軸 N-1 °-W 長さ 0.84m 幅 0.72m 深さ 3cm。	南　6cm	無し		139 号西コーナー下側と 131 号南東にはさまれて残っている三角部分はレベルより 127 号の一部と考えられる。
14	128	131B	五領	住居跡	残存長径 4.56m 残存短径 2.66m	—	P1 76cm	炉？ 126 号に削平？	東 24cm	無し		
14	129	193	宮ノ台	住居跡	短径（6.10）m		P1 21cm P2 37cm P3 33cm P4 48cm	炉　125 号に削平	東 24cm　　西 37cm 南 12cm	無し	主軸方位は東壁より。焼土は 1 ヶ所検出され、厚さ 12cmを測る。	
14	130	190・191	五領	住居跡	残存長径 5.46m 残存短径 3.64m	N-57 °-E	P1 43cm P2 64cm P3 58cm P4 44cm P5 9cm	炉　125 号に削平	南東 24cm　南西 25cm	南東から南西にかけて、深さ 4 ～ 7cm。	恐らく旧 190 の一部。旧 191 を方形住居とすると 4 号溝の対岸に長方形プランが必要になるが、検出されていない。遺物の出土高さは写真より 190 床面と同一レベル。191 床面からの出土品はない。	旧遺構番号 190・191 は同一住居と考えられる。断面図でも切り合関係不明。遺物でも新旧分けられない。
14	131	142	和泉	住居跡	長径 5.00m 短径 4.12m	N-38 °-W	P1 41cm P2 61cm P3 64cm P4 80cm P5 40cm P6 35cm P7 54（14）cm P8 41cm P9 33cm P10 36cm	カマド西壁。 火床長軸 N-47 °- W 長さ 0.31m 幅 0.20m 深さ 10cm。	北東 16cm　南東 39cm 北西 17cm　南西 38cm	北西中央から西コーナーまで残存。深さ 8 ～ 13cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	ON-46 須恵器坏蓋。
14	132	土坑 9	不明	土壙墓か？	長径 1.65m 短径 0.86m	N-31 °-W	無し	無し	東 59cm　　西 55cm 北 56cm 南　測定値無し	無し		

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
14	133	192	庄内	住居跡	長径 4.00m 短径 3.80m	N-12 °-E	P1 22cm P2 58cm P3 19cm P4 51cm P5 17cm P6 25cm P7 16cm	炉 火床長軸 N-24 °-E 長さ 0.28m 幅 0.23m 深さ 7cm。	東 23cm　西 31cm 南 29cm　北 26cm	無し		
14	134	143A	和泉	住居跡	長径（6.82）m 短径（6.62）m	N-67 °-E	P1 64cm P2 54cm P3 45cm P4 68cm	カマド東壁。 火床長軸 N-64 °-E 長さ 0.8m 幅 0.65m 深さ 10cm。	東 26cm　西 43cm 南 43cm　北 38cm	検出面ではほぼ全周。深さ 5 ～ 16cm。		
14	135	143B	久ヶ原	住居跡	長径（5.80）m	N-23 °-W	P1 49cm P2 15（70）cm P5 14cm P3・P4 測定値無し	炉　未検出	東 11cm　西 11cm 北 5cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	北東壁は掘りすぎか。破線の方が可能性大。
14	136	144	庄内	住居跡	長径 6.94m 短径 6.39m	N-26 °-W	P1 69cm P2 76cm P3 70cm P4 48cm P5 78cm P6 64cm P7 50cm P8 47cm P9 39cm P10 8cm P11 18cm　P 12 10cm	炉 火床長軸 N-23 °-E 長さ 0.64m 幅 0.60m 深さ 9cm。	東 57cm　西 18cm 南 49cm　北 49cm	全周。深さ 10 ～ 20cm。	P1・2・3・5 は主柱穴。焼土は 8 ヶ所に検出され、厚さ 10 ～ 14cm、粘土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 4cmを測る。間仕切り溝は、長さ 125cm　幅 38 ～ 46cm　深さ 18cmを測る。炭化物 1 箇所に検出。	P13 27cm P14 16cm P15 13cm P16 7cm P17 7cm P18 5cm P19 4cm
14	137	146	和泉	住居跡	長径 4.36m 短径 4.30m	N-83 °-E	P1 57cm P2 75cm P3 65cm P4 66cm P5 39cm	カマド東壁。 火床長軸 N-83 °-E 長さ 0.56m 幅 0.36m 深さ 20cm。	東 33cm　西 30cm 南 29cm　北 32cm	全周。深さ 7 ～ 15cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 3 ヶ所に検出されているが、厚さ測定値なし。炭化物 3 ヶ所検出。	
14	138	138B	久ヶ原	住居跡	残存長径 2.84m 残存短径 2.18m	—	無し	炉 352 号溝により削平？	北東 8cm　北西 12cm 南西 10cm	無し		
14	139	132	庄内～ 五領	住居跡	長径（6.15）m 短径（6.03）m	N-48 °-E	P1 74cm P2 113cm P3 41cm P4 70cm P5 77cm P6 53cm P7 79cm P8 14cm P9 13cm	炉 352 号溝により削平？	北東 27cm　北西 9cm 南西 35cm 南東　測定値無し	南西　北西　北東の一部残存。深さ 5 ～ 11cm。	P1・2・4・5 は主柱穴。	臼玉 1 点。
14	140	133	和泉	住居跡	残存長径 5.04m 残存短径 3.10m	—	P1 57cm P2 54cm	炉　未検出	東 20cm	無し		
14	141	145	久ヶ原	住居跡	長径 3.70m 短径 3.45m	N-22 °-W	P1 16cm P2 23cm P3 11cm P4 17cm P5 20cm P6 15cm P7 22cm P8 記載なし	炉 火床長軸 N-13 °-W 長さ 0.70m 幅 0.50m 深さ 3cm。	東 19cm　西 30cm 南 45cm　北 22cm	無し		
14	142	138A	五領	住居跡	残存長径 4.20m 残存短径 3.52m	—	無し	炉　未検出	東 20cm　南 15cm	無し		
14	143	134	和泉	住居跡	長径 5.06m 短径 4.87m	N-31 °-W	P1 62cm P2 77cm P3 70cm P4 66cm P5 91cm P6 15cm	カマド北壁。 火床長軸 N-30 °- W 長さ 0.30m 幅 0.32m 深さ 14cm。	東 12cm　西 32cm 南 26cm　北 49cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。P5 は貯蔵穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 14cmを測る。	
15	144	135	和泉	住居跡	長径（6.12）m 短径（5.36）m	N-22 °-W	P1 71cm P2 78cm P3 70cm P4 78cm P5 76cm	カマド北壁。 火床長軸 N-20 °-W 長さ 0.20m 幅 0.17m 深さ 6cm。	南 12cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
15	145	136	庄内～ 五領	住居跡	残存長径 3.60m 残存短径 4.58m	N-42 °-W	P1 67（70）cm P2 78（81）cm P3 54cm P4 32cm P5 36cm	炉 火床長軸 N-44 °-W 長さ 0.48m 幅 0.32m 深さ記載無し。	北東 20cm　南東 5cm 南西 7cm	無し		
15	146	137A	宮ノ台	住居跡	長径（10.00）m 短径（8.60）m	N-41 °-W	P1 A60（81）cm B84（105）cm C77（98）cm D45（66）cm P2 A83（90）cm B53（60）cm C69（76）cm D61（68）cm E68（75）cm F69（76）cm G56（63）cm	炉　143 号と 144 号に削平	北東 4cm　南東 41cm 南西 29cm	無し	P3 134cm P4 A117cm B91cm C28cm P5 58cm P6 70cm P7 24cm P8 43cm	
15	147	137B	久ヶ原	住居跡	残存長径 3.24m 残存短径 1.22m	N-153 °-E	無し	炉　146 号に削平	北東 28cm　南東 28cm 南西 26cm	無し	主軸方位は北東壁より。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さは 1cmを測る。	新旧逆調査
15	148	141A	終末期	住居跡	長径 5.34m 短径 5.26m	—	P1 74cm P2 50（70）cm P3 75cm P4 72cm	カマド 北西壁中央部に存在するが未調査。	北東 52cm　南東 52cm 北西 45cm　南西 44cm	東コーナーから西コーナーにかけて、深さ 3 ～ 8cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出されているが、厚さの測定値無し。	
15	149	139	五領	住居跡	長径 5.14m 短径 4.84m	N-44 °-W	P1 56cm P2 72cm P3 76cm P4 21cm P5 39cm P6 51cm	炉 火床長軸 N-46 °-W 長さ 0.68m 幅 0.50m 深さ 7cm。	北東 64cm　南東 26cm 北西 58cm　南西 61cm	無し	P1 ～ P3 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さは 6cmを測る。炭化物 4 ヶ所に検出。	
15	150	140	宮ノ台	住居跡	長径（5.94）m 短径 5.44m	N-22 °-W	P1 64（71）cm P2 62（69）cm P3 90（97）cm P4 63cm	炉 火床長軸 N-41 °-W 長さ 0.40m 幅 0.30m 深さ 2cm。	東 41cm　西 38cm 南 41cm　北 44cm		P1 ～ P3 は主柱穴。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
15	151	141Ｂ	宮ノ台	住居跡	残存長径 2.60m 残存短径 2.60m	－	P1 70cm	炉　148 号に削平	東 41cm　南 41cm	無し	南壁は、掘りすぎか。	遺物なし。住居跡かどうか疑わしい。恐らく掘りすぎか。
16	152	186	和泉	住居跡	長径 4.34m 短径 4.22m	N-64 °-E	P1 61cm P2 70cm P3 67cm P4 68cm P5 17cm	炉 火床長軸 N-106 °-E 長さ 0.54m 幅 0.44m 深さ記録無し	東 21cm　西 11cm 南 20cm　北 13cm	全周。深さ 3 ～ 17cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。154 号を切る。	カマド無し。
16	153	183・185	五領	住居跡	長径 6.26m 短径（5.95）m	N-50 °-W	P1 62cm P2 53cm P3 37cm P4 45cm P5 46cm P6 36cm	炉　152 号に削平	北東 30cm 南東Ａ 7cm　Ｂ 36cm 北西 27cm	南西を除きほぼ全周。深さ 5 ～ 11cm。		153 号出土鉄鏃は古墳中期段階。152 号に伴う可能性大。調査時 2 軒は拡張住居 1 軒とする。
16	154	184	五領	住居跡	残存長径 4.80m 残存短径 3.26m	N-57 °-E	P1 9cm P2 62cm	炉　97 号に削平	南東 22cm	無し	主軸方位は南東壁より。 焼土４ヶ所。厚さは５～ 19cm。	完形の坩、行方不明。
16	155	181	和泉	住居跡	残存長径 5.28m 残存短径 4.02m	－	P1 56cm P2 57cm P3 55cm P4 15cm P5 15cm	炉 火床長軸 N-31 °-W 長さ 0.90m 幅 0.34m 深さ 4cm。	北西 10cm	無し		
16	156	土坑 10	鬼高５Ｃ	土壙墓か?	長径 3.30m 短径 2.00m	N-73 °-W	無し	無し	西 66cm　南 76cm	無し		
16	157	176Ａ	和泉	住居跡	長径 3.86m 短径 3.34m	N-16 °-W	P1 20cm P2 15cm P3 13cm P4 11.5cm P5 18cm P6 14cm P7 5cm P8 6cm P9 15cm P10 3cm P11 6cm P12 9cm P13 4cm P14 4cm P15 41cm P16 3cm	カマド北壁。未調査。	東　1cm　西　3cm 南　1cm　北　0cm	全周。深さ 5 ～ 11cm。		
16	158	176Ｂ	五領	住居跡	長径 5.26m	N-67 °-E	P1 44cm P2 41cm P3 43cm P4 55cm P5 13cm P6 28cm P7 12cm　P8 9cm P9 7cm P10 3cm P11 7cm　P 12 6cm P13 10cm	炉 火床長軸 N-64 °-E 長さ 0.48m 幅 0.20m 深さ 3cm。	東　2cm　西 10cm 北　1cm	西コーナーのみ検出。深さ 2 ～ 10cm。	間仕切溝は、長さ 56cm幅 10cm深さ 4cmを測る。	
16	159	173	鬼高５Ｃ	住居跡	長径（5.88）m 短径 5.52m	N-27 °-W	P1 62cm P2 61cm P3 50cm P4 70cm P5 65cm P6 31cm P7 55cm	カマド北壁 火床長軸 N-25 °-W 長さ 0.65m 幅 0.28m 深さ 10cm。	東 14cm　西 25cm 南　4cm　北 10cm	全周。深さ 7 ～ 16cm。	焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 8cmを測る。	
16	160	177	和泉	住居跡	長径 6.10m 短径 5.92m	N-82 °-E	P1 37cm P2 50cm P3 59cm P4 45cm P5 55cm P6 14cm P7 47cm P8 42cm P9 29cm	カマド　東壁 Ａ火床長軸 N-80 °-E 長さ 0.47m 幅 0.25m 深さ 4cm。	東 53cm　西 54cm 南 51cm　北 29cm	全周。深さ 6 ～ 11cm。	火床Ｂ　火床長軸 N-82 °-E　長さ 0.38m 幅 0.22m 深さ 12cm。P1 ～ P4 は主柱穴。炭化物 21 ヶ所に検出。焼土は 7 ヶ所に検出され、厚さ 2 ～ 18cmを測る。	159 号に切られる。
16	161	172	五領	住居跡	長径 4.96m 短径 4.80m	N-25 °-W	P1 63（65）cm P2 70cm P3 72（74）cm P4 83cm P5 34cm　P6 径 12cm P7 径 12cm P8 径 14cm P9 径 12cm P10 径 14cm P11 径 20cm P12 43（45）cm	炉　159 号に削平	東 33cm　南 38cm 北 4cm	ほぼ全周。深さ 4 ～ 14cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。西側に拡張の可能性がある周溝あり。長さ 21cm幅 14cm深さ 9 ～ 10cmを測る。	
16	162	175	庄内	住居跡	長径 3.98m 残存短径 2.98m	N-27 °-W	P1 26cm	炉Ａ　火床長軸 N-24 °-E 長さ 0.42m 幅 0.36m 深さ 2cm。 炉Ｂ　火床長軸 N-43 °-E 長さ 0.82m 幅 0.70m 深さ 5cm。	東 23cm　南 21cm 北 19cm	無し	161・158 号に切られる。主軸方位は東壁より。	
16	163	174	久ヶ原	住居跡	残存長径 2.68m 残存短径 0.76m	－	無し	炉　161 号に削平	東　8cm　北　9cm	無し		
16	164	番号なし	不明	住居跡	長径 2.50m 残存短径 1.86m	N-30 °-W	無し	炉　161 号に削平	測定値無し	無し	主軸方位は東壁より。	
16	165	170	終末期	住居跡	長径 6.14m 短径 6.04m	N-62 °-W	P1 75cm P2 70cm P3 66（71）cm P4 64（69）cm	カマド西壁。 火床長軸 N-81 °-W 長さ 0.35m 幅 0.28m 深さ 10cm。	西 45cm　南 45cm 北 16cm	検出面では全周。深さ 5 ～ 10cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 4 ヶ所に検出され、厚さ 6 ～ 15cmを測る。	
16	166	169	五領	住居跡	長径 4.98m 短径 4.76m	N-34 °-E	P1 51cm P2 47cm P3 48cm P4 51cm	炉　165 号に削平	東 44cm　西 7cm 南 27cm	東から南のみ残存。深さ 6 ～ 10cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 5 ヶ所に検出され、厚さ 4 ～ 37cmを測る。	
16	167	171	和泉	住居跡	長径 5.80m	N-36 °-W	P1 62（63）cm P2 65（72）cm P3 63（64）cm P4 70cm P5 57cm	炉 火床長軸 N-20 °-W 長さ 0.74m 幅 0.62m 深さ 8cm。	北東 38cm　南東 42cm 北西 21cm	東コーナーと北西の一部に残存。深さ 3 ～ 13cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
16	168	157	久ヶ原	住居跡	長径 5.80m	N-53 °-E	無し	炉　166 号に削平	北東　2cm　南西 26cm	無し	176 号のピットのいずれかは 168 号のピットの可能性あり。	
16	169	155	久ヶ原	住居跡	残存長径 3.74m 残存短径 3.24m	N-21 °-W	無し	炉 火床長軸 N-38 °-W 長さ 0.86m 幅 0.54m 深さ 8cm。	東 24cm　西 38cm 北 34cm	無し	主軸方位は西壁より。	
16	170	154	和泉	住居跡	長径 3.92m 短径 3.76m	N-18 °-W	P1 46cm P2 46cm P3 42cm P4 49cm P5 69cm	カマド北壁。 火床長軸 N-24 °-W 長さ 0.44m 幅 0.24m 深さ 4cm。	東 40cm　西 19cm 南 23cm　北 32cm	全周。深さ 4 ～ 12cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。間仕切溝は、長さ 68cm幅 22 ～ 30cm深さ 11cm、粘土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 4 ～ 5cmを測る。	初期須恵器段。
17	171	153	五領	住居跡	残存長径 2.20m 残存短径 1.80m	N-26 °-E	無し	炉　170 号に削平	東 18cm　南 24cm	無し	主軸方位は南東壁より。	
17	172	150	久ヶ原	住居跡	長径 4.20m 短径（3.48）m	N-68 °-W	P1 37cm	炉 火床長軸 N-68 °-W 長さ 0.70m 幅 0.50m 深さ 10cm。	東 35cm　西 34cm 北 12cm	無し		
17	173	152	宮ノ台	住居跡	長径（4.42）m 短径（4.30）m	N-5 °-W	P1 61cm P2 50cm P3 55cm P4 57cm P5 28cm P6 71cm P7 7cm P8 4cm P9 80cm P10 36cm P11 35cm　P12 71cm	炉 火床長軸 N-1 °-E 長さ 0.82m 幅 0.50m 深さ 5cm。	東 12cm　南 21cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
17	174	151	五領	住居跡	長径 3.90m 推定短径（3.80）m	N-55 °-W	P1 28cm	炉 火床長軸 N-32 °-W 長さ 0.78m 幅 0.52m 深さ 3cm。	北東 35cm　南東 37cm 南西 35cm 北西　測定値無し	無し		
17	175	174P2	和泉	土坑	長径 0.90m 短径 0.60m	N-56 °-W	33cm					
17	176	158	鬼高５C	住居跡	推定長径（5.80）m 推定短径（5.60）m	N-83 °-W	P1 62cm P2 35cm P3 49cm P4 22cm P5 42cm P6 41cm P7 53cm P8 26cm P9 36cm P10 61cm P11 70cm　P12 測定値無し	カマド東壁中央。 火床長軸 N-78 °-W 長さ 0.39m 幅 0.36m 深さ 13cm。	東 41cm	無し	貝ブロック 2 ヶ所検出。A・260 × 130cm　厚さ 23cm　B・55 × 35cm　厚さ 15cm。	
17	177	156	和泉	住居跡	長径 7.00m 残存短径 6.66m	N-34 °-W	P1 49cm P3 57cm P4 68cm P5 48cm P6 53cm P7 ～ P11 は 6 ～ 9cm P12 6cm P13 55cm P14 29cm P2 測定値無し	南壁にカマドが存在したが、カマドではないと判断され未調査。	南 36cm　北 39cm	北西の両端及び北東、南東の一部に残存。深さ 3 ～ 9cm。	P1･4･5･6 は主柱穴。炭化物 2 ヶ所に検出。	
18	178	178	鬼高５C	住居跡	残存径東西 5.30m 残存径南北 5.30m	N-69 °-E	P1 46cm P2 70cm P3 64cm P4 20cm P5 40cm P6 65cm	カマド 火床長軸 N-81 °-E 長さ 0.40m 幅 0.26m 深さ 10cm。	東 28cm　北 32cm	北から東にかけて、深さ 1 ～ 13cm。	P1 ～ P3 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 8cmを測る。	樽形須。
18	179	167	鬼高５C	住居跡	長径 5.86m 残存短径 4.06m	N-60 °-W	P1 50cm P2 59cm P3 50cm P4 25cm	カマド 火床長軸 N-68 °-W 長さ 0.36cm幅 0.30m 深さ 10cm。	東　6cm　西　4cm 北　4cm	無し	P1･2 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 3cmを測る。	須恵器模倣甕・４方透かし有蓋高坏出土。有蓋高坏は 182 号に伴うか？
18	180	168A	五領	住居跡	長径（6.40）m 短径 6.12m	N-52 °-E	P1 87cm P2 82cm P3 92cm P4 86cm P5 46cm	炉　未検出	東 35cm　西 31cm 南 46cm　北 62cm	無し	焼土は 14 ヶ所に検出され、厚さ 2 ～ 12cm。P1 ～ P4 は主柱穴。炭化物 11 ヶ所に検出。	
18	181	168B	宮ノ台	住居跡	残存径南北 4.40m		P1 78cm P2 72cm P3 64cm	炉　未調査	北西 31cm	北西の一部に残存。深さ 6cm。	P1･2 は主柱穴。炭化物 2 ヶ所に検出。	
18	182	166	鬼高５C	住居跡	長径 4.46m 短径 4.40m	N-32 °-E	P1 39cm P2 55cm P3 34cm P4 18（24）cm P5 34（40）cm P6 49cm	カマド南東壁。 火床長軸 N-54 °-E 長さ 0.50m 幅 0.34m 深さ 8cm。	東 12cm　南 37cm 北 43cm	無し	P1・P２・P3･P5 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 9cm。遺構中央北よりに、貝ブロック 1 ヶ所検出。90 × 45cm　厚さ 2cm。南カマド。	須恵器多数。坏蓋は TK-208 併行。
19	183	257A	終末期	住居跡	推定長径（8.05）m 短径（7.40）m	N-61 °-W	P2 64cm P6 54cm P7 80cm P8 72cm P9 31cm P1・P3 ～ P5 測定値無し	カマド西壁。 火床長軸 N-61 °-W 長さ 1.0m 幅 0.38m 深さ 16cm。	北　2.5cm　南 44cm 西 15.5cm	南コーナーからカマドまで検出。　深さ 6cm。	P1 ～ P3 は主柱穴。粘土は北コーナーに 1 ヶ所検出されるが、厚さの測定値無し。	遺構平面図なし（全体図から平面図をおこした）184 号にカマドが存在しない事から 183 号の方が新。
19	184	257B	和泉	住居跡	残存長径 4.00m 残存短径 1.85m	N-61 °-W	P1 P2 測定値無し	カマド　183 号に削平	南 18cm 東　測定値なし	無し	主軸方位は南壁より。	
19	185	番号なし	久ヶ原	住居跡	残存長径 3.20m 残存短径 1.30m	—	P1 32.5cm P2 43cm P3 2.5cm P4 測定値無し	炉　183 号に削平	西 19cm	無し		

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
19	186	118A	和泉	住居跡	長径（5.70）m 短径 5.40m	N-17 °-W	P1 65cm P2 47cm P3 52cm P4 52cm P5 45cm P6 65cm P7 29cm P8 13cm P9 65 cm	カマド北壁。 火床長軸 N-19 °-W 長さ 0.46m 幅 0.30m 深さ　6cm。	東 47cm　　西 46cm 南 43cm　　北 52cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
19	187	118B	和泉	住居跡	長径 5.26m 短径 2.82m	N-55 °-E	無し	未検出	東 27cm　　南 37cm 西・北　測定値無し	無し	186 号に削平か？	現状プランは長方形。方形ならば、186 号北コーナー部ぐらいまでの規模か。
19	188	117	五領	住居跡	長径 6.12m 短径 5.92m	N-40 °-W	P1 76cm P2 86cm P3 77.5cm P4 86cm P5 62cm	炉 火床長軸 N-44 °-W 長さ 0.80m 幅 0.50m 深さ記載なし。	東 12cm　　西 20cm 南 19cm　　北 19cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
20	189	108	終末期	住居跡	長径 5.94m 短径 5.54m	N-66 °-W	P1 40cm P2 62cm P3 70cm P4 71cm P5 76cm P6 61cm P7 55cm	カマド西壁。 火床長軸 N-66 °-W 長さ 0.54m 幅 0.38m 深さ 10cm。	東 15cm　　西 44cm 南 44cm 北　測定値無し	全周。深さ 4 ～ 11cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 7 ヶ所に検出され、厚さ 2 ～ 3cmを測る。	
20	190	110	和泉	住居跡	長径（5.58）m 短径（5.32）m	N-57 °-E	P1 58cm P2 48cm P3 33（34）cm P4 69cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-50 °-E 長さ 0.56m 幅 0.50m 深さ 14cm。	北東 10cm　南東 17cm 北西 15cm　南西 15cm	西コーナーからカマド付近まで、深さ 4 ～ 10cm。	P1 ～ P3 主柱穴。	カマド内出土高坏より、和泉末期と推定。
20	191	109	久ヶ原	住居跡	残存長径 3.60m 残存短径 1.80m	N-43 °-E	P1 33cm	炉　189 号に削平	北東 41cm　南東 39cm 南西 34cm	無し	主軸方位は南東壁より。	
20	192	116	五領	住居跡	長径 6.26m 短径 5.66m	N-34 °-W	P1 54（56）cm P2 61cm P3 63cm P4 29cm P5 23cm	炉 火床長軸 N-30 °-W 長さ 1.04m 幅 0.58m 深さ 3cm。	北東 14cm　南東 45cm 北西 38cm　南西 44cm	ほぼ全周。深さ 1 ～ 7cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 2 ～ 3cmを測る。	
20	193	112	宮ノ台	住居跡	長径 6.94m 残存短径 3.10m	N-23 °-W	P1 56（70）cm P2 a84cm b37cm P3 70（84）cm P4 78cm P5 48cm	炉 火床長軸 N-29 °-W 長さ 0.86m 幅 0.64m 深さ 6cm。	東 15cm　　南 26cm 北 21cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 4 ～ 7cm。炭化物 2 ヶ所に検出。	
20	194	104	久ヶ原	住居跡	長径 5.34m 短径 5.26m	N-56 °-W	P1 63cm P2 53cm P3 69cm P4 72cm	炉 火床長軸 N-51 °-W 長さ 0.92m 幅 0.56m 深さ 6cm。	北東 45cm　南東 42cm 北西 39cm　南西 18cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 5 ヶ所に検出され、厚さ 7 ～ 16cm。焼土の周りに炭化物 8 ヶ所散る。	
21	195	102	終末期	住居跡	長径 5.76m 短径 5.73m	N-58 °-W	P1 51cm P2 69cm P3 80cm P4 77cm P5 43cm	カマド　撹乱に削平	北東 27cm　南東 54cm 北西 55cm　南西 52cm	全周。深さ 9 ～ 15cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は南東壁中央に 1 ヶ所検出されるが、厚さの測定値無し。	
21	196	127	庄内	住居跡	長径 5.14m 短径（4.86）m	N-61 °-E	P1 58cm P2 46（66）cm　P4 45cm P5 45cm P3 測定値無し	炉 火床長軸 N-60 °-E 長さ 0.72m 幅 0.57m 深さ 3cm。	東 20cm　　西 29cm 北 27cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
21	197	103A	五領	住居跡	長径（5.90）m 推定短径 5.80m	N-43 °-E	P1 55cm P2 49cm P3 44（68）cm P4 57cm	炉　195 号に削平	南東 25cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。北東 194 号に北西 198 号に南西 5 号に削平されている。	
21	198	103B	宮ノ台	住居跡	残存長径 3.32m 残存短径 1.36m	—	無し	炉 火床長軸 N-49 °-W 長さ 0.50m 幅 0.38m 深さ 6cm。	西 19m　　北 22cm	無し		
21	199	101	五領	住居跡	長径 6.21m 短径 5.76m	N-28 °-W	P1 78cm P2 47cm P3 71cm P4 62cm P5 56cm P6 42cm P7 46cm P8 43cm P9 68cm	炉 火床長軸 N-28 °-W 長さ 0.94m 幅 0.50 深さ 8cm。	東 21cm　　西 32cm 南 36cm　　北 27cm	ほぼ全周。深さ 4 ～ 13cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は西コーナーに 1 ヶ所検出されるが、厚さの測定値無し。	ベット状遺構・北 6cm　南 6cm　東 5 cm　西 4cm
21	200	99	五領	住居跡	長径 5.06m 短径 5.03m	N-65 °-E	P1 49cm P2 73cm P3 66cm P4 51cm P5 33cm	炉A 火床長軸 N-35 °-E 長さ 0.45cm幅 0.40m 深さ 8cm。	東 56cm　　西 40cm 南 27cm　　北 51cm	ほぼ全周。深は 8 ～ 9cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。炉は 3 箇所に検出。位置から A が本来の炉と想定される。	炉 B　N-79 °-W　火床長軸 0.58m 幅 0.32m　深さ 4cm　炉 C　N -63 °-W 火床長軸 0.65m 幅 0.28m　深さ 6cm
22	201	86	終末期	住居跡	長径 5.86m 短径 5.70m	N-41 °-W	P1 71cm P2 69cm P3 55cm P4 64cm P5 69cm P6 26cm P7 36cm	カマド北西壁。 火床長軸 N-42 °-W 長さ 0.72m 幅 0.48m 深さ 8cm。	北東 30cm　南東 23cm 北西 27cm　南西 27cm	無し	P1･2･4･5 は主柱穴。粘土は 1 ヶ所検出され、厚さ 8cm。	
22	202	148	和泉	住居跡	長径 4.32m 短径 4.10m	N-68 °-W	P1 55cm P2 47cm P3 52cm P4 40cm P5 39cm	カマド西壁。 火床長軸 N-67 °-W 長さ 0.58cm幅 0.20m 深さ 6cm。	東 28cm　　西 31cm 南 32cm	全周と推定される。新旧逆調査により北及び西コーナー削平。深さ 8 ～ 13cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
22	203	147	宮ノ台	住居跡	長径 6.96m 短径 6.12m	N-34 °-W	P1 60cm P2 64cm P3 53cm P4 59cm P5 42cm P6 33cm P7 68cm P8 44cm	炉　5 号方形周溝墓主体部に削平	北東 37cm　南東 44cm 北西 38cm　南西 41cm	ほぼ全周。深さ 3 ～ 10cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所検出され、厚さ 5cm。	
22	204	番号なし	縄文	土坑	長径 1.10m 短径 0.93m	N-2 °-W	無し		203 号床面より 27cm	無し		203 号住居内土坑のメモ。
22	205	82 A	久ヶ原	住居跡	推定長径（4.40）m 短径（3.64）m	N-31 °-E	無し	炉　未検出	南東 1cm　北西 20cm 南西 23cm	無し	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 5cm。炉は未検出であるが、位置的に図中の焼土が炉か？	
22	206	83	五領	住居跡	長径 3.28m 残存短径 1.84m	N-42 °-E	P1 27cm	炉　201 号　211 号に削平	北東 22cm　北西 22cm 南西 13cm	無し		
22	207	82 B	久ヶ原	住居跡	残存長径 3.00m 残存短径 1.84m	―	無し	炉　削平	西 5cm　南 14cm	無し		
22	208	81	宮ノ台	住居跡	長径 3.46m 短径 3.20m	N-83 °-W	無し	炉 火床長軸 N-77 °-W 長さ 0.88m 幅 0.68m 深さ 4cm。	東 9cm　西 31cm 南 34cm　北 29cm	無し		
22	209	80	五領	住居跡	長径 5.00m 短径（4.64）m	N-11 °-E	無し	炉 A　火床長軸 N-42 °-W　長さ 1.00m 幅 0.82m 深さ 7cm。 炉 B　火床長軸 N-52 °-W　長さ 0.52m 幅 0.35m 深さ 4cm。	東 25cm　西 17cm 南 16cm　北 5cm	無し		
22	210	79	和泉	住居跡	長径 5.86m 短径 5.78m	N-66 °-E	P1 38cm P2 49cm P3 57cm P4 36cm	カマド東壁。 火床長軸 N-63 °-E 長さ 0.62m 幅（0.38）m 深さ 4cm。	東 20cm　西 62cm 南 60cm　北 48cm	全周。深さ、6 ～ 11cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 5 ヶ所に検出され、厚さ 5cm～ 14cm。	
22	211	84	五領	住居跡	長径 4.42m 短径 4.26m	N-42 °-E	P1 66cm　P2 25cm	炉 火床長軸 N-41 °-E 長さ 0.68m 幅 0.42m 深さ 5cm。	北東 13cm　南東　6cm 北西 10cm　南西 12cm	南西から東コーナーにかけて、深さ 5 ～ 11cm。	主軸方位は南壁より。	
22	212	85	宮ノ台	住居跡	長径（6.98）m 短径（6.10）m	N-34 °-W	P1 66（79）cm P2 74（87）cm P3 83cm P4 81cm P5 23cm P6 58cm P7 36cm	炉　211 号に削平	東 26cm　西 13cm 南 47cm	残存部全周。深さ 6 ～ 11cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
22	213	87	和泉	住居跡	長径 5.66m 短径 5.60m	N-38 °-E	P1 48cm P2 59cm P3 62cm P4 50cm P5 26cm P6 23cm P7 35cm	炉 火床長軸 N-43 °-E 長さ 0.80m 幅 0.34m 深さ 8cm。	北東 45cm　南東 57cm 北西 45cm　南西 59cm	全周。深さ、6 ～ 17cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
22	214	100	五領	住居跡	残存長径 4.38m 短径 4.22m	N-21 °-E	無し	炉 火床長軸 N-66 °-W 長さ 0.80m 幅残存長 0.70m 深さ 5 cm。	東 6cm　西 9cm 南 8cm	無し	炭化物 2 ヶ所検出。	
23	215	159	終末期	住居跡	長径 6.92m 短径 6.26m	N-52 °-W	P1 60cm P2 58cm P3 77cm P4 72cm P5 29cm P6 26cm P7 21cm	カマド北西壁。 火床長軸 N-55 °-W 長さ 0.16m 幅 0.14m 深さ 12cm。	北東 19cm　南東 16cm 北西 28cm　南西 34cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 3 ヶ所に検出され、厚さ 3 ～ 13cm。	
23	216	番号なし	不明	土坑	長径 1.52m 短径 1.22m	N-17 °-E	無し	無し	東 44cm　西 46cm 南 54cm　北 66cm	無し	覆土上面に焼土 1 ヶ所検出され、厚さは測定値無し。	
23	217	160	五領	住居跡	推定長径（5.90）m 短径 5.60m	N-58 °-W	P1 掘りかけ中断 P2 44cm P4 42cm	炉　215 号に削平	北東 32cm　南東 36cm 北西 28cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	Ｐ 1 はカマド内。火床をおよそ 10cm 掘りかけて中断。Ｐ 3 は他の柱穴の位置から推定される。
23	218	163	庄内～五領	住居跡	推定長径（4.64）m 短径（4.50）m	N-82 °-W	P1 58cm P2 47（64）cm P3 63cm P4 47cm P5 31cm	炉 火床長軸 N-78 °-W 長さ 0.62m 幅 0.36m 深さ 19cm。	東 30cm　南 27cm 北 31cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。P5 は貯蔵穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 5cm。	
23	219	162	宮ノ台	住居跡	長径 4.84m 短径 3.98m	N-9 °-W	P1 64cm P2 73cm P3 78cm P4 76cm P5 19cm P6 18cm P7 3cm	炉 火床長軸 N-5 °-W 長さ 0.89m 幅 0.48m 深さ 5cm。	東 33cm　西 11cm 南 31cm　北 18cm	東・長さ 2.52m　幅 10 ～ 15 cm 深さ 2 ～ 5cm。　西・2.5m 幅 12 ～ 17cm 深さ 4cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
23	220	164	久ヶ原	住居跡	長径 3.69m 短径 3.20m	N-20 °-W	P1 27cm P2 26cm P3 7cm P4 20cm P5 26cm P6 7cm P7 10cm	炉 火床長軸 N-8 °-W 長さ 0.56m 幅 0.42m 深さ 7cm。	東 22cm　西 38cm 南 43cm　北 23cm	無し	テラスの高さ 5cm。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
23	221	161	久ヶ原	住居跡	残存径 3.30m	―	無し	炉　215 号に削平	東 34cm　北 23cm	無し		
23	222	149	庄内	住居跡	長径 3.76m 短径 3.72m	N-52 °-W	P1 23cm P2 28cm	炉 火床長軸 N-41 °-W 長さ 0.60m 幅 0.46m 深さ 2cm。	北東 36cm　南東 38cm 北西 38cm　南西 37cm	無し		
23	223	165	五領	住居跡	長径 3.92m 短径 3.76m	N-29 °-W	P1 33cm	炉 火床長軸 N-79 °-W 長さ 0.56m 幅 0.40m 深さ 4cm。	東 38cm　西 19cm 南 29cm　北 27cm	無し	粘土は南コーナー付近に 1 ヶ所検出され、厚さ 8 cm。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 5 〜 8cm。	
23	224	261	五領	住居跡	長径 4.34m 短径（4.05）m	N-62 °-W	P1 6cm P2 35cm P3 39cm P4 17cm P5 30cm P6 24cm P7 9cm P8 18cm P9 29 cm	炉 火床長軸 N-112 °-W 長さ 0.92m 幅 0.62m 深さ 4cm。	北東 15cm　北西 19cm 南西 17cm	無し		
23	225	番号なし	不明	土坑	長径 1.10m 短径 0.72m	N-78 °-W	無し	無し	南 24cm　北 11cm	無し		224 号住居内土坑。
23	226	260	五領	住居跡	長径 4.04m 短径（3.66）m	N-41 °-W	P1 21cm P2 29cm P3 28cm	炉 火床長軸 N-44 °-W 長さ 0.80cm幅 0.63m 深さ 5cm。	北東 22cm　南東 24cm 北西　7cm　南西 28cm	南西から北コーナーにかけて、深さ 4 〜 9cm 幅 8 〜 11 cm。	焼土は 7 ヶ所に検出され、厚さ 2 〜 12cm。炭化物 3 ヶ検出。	
24	227	262A	終末期	住居跡	長径（5.24）m 短径 4.52m	N-55 °-W	P1 43cm P2 46cm P3 17cm P4 41（62）cm P5 48cm P6 48cm P7 39cm P8 29cm P9 21cm P10 12cm P11 29cm P12 53（64）cm	カマド北西壁。 火床長軸 N-61 °-W 長さ 0.48m 幅 0.40m 深さ 3cm。	北東 21cm　南東 12cm 北西 21cm　南西 23cm	ほぼ全周。深さ 8 〜 28cm。	P1・2・4・6 は主柱穴。粘土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 9cm。	
24	228	262B	鬼高５C	住居跡	長径 5.06m 短径（2.30）m	N-60 °-W	P1 24cm P2 22cm P3 39cm P4 25cm P5 68cm P6 32cm	カマド　調査区域外	北東 58cm　南東 59cm 北西 25cm	残存部全周。深さ 7 〜 12cm。	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 10cm。主軸方位は北壁より。	
24	229	259B	久ヶ原	住居跡	残存径 1.90m	―	無し	炉　227 号に削平	東 27cm	無し	遺物五領多いがプランは弥生。	東壁以外は 227・228・230 号に削平。
24	230	259A	五領	住居跡	長径 4.98m 短径 4.98m	N-41 °-W	P1 41cm P2 23cm P3 51cm P4 49cm P5 27cm P6 28cm P7 33cm P8 23cm	炉 火床長軸 N-39 °-W 長さ 0.86m 幅 0.60m 深さ 6cm。	北東 48cm　南東　1cm 北西 34cm　南西 46cm	ほぼ全周。深さ 2 〜 24cm。	P1・3・4・5 は主柱穴。焼土は 11 ヶ所に検出され、厚さ 2 〜 24cm。14 ヶ所に炭化物が散る。	
24	231	258	久ヶ原	住居跡	短径（3.95）m	N-10 °-W	P1 18cm P2 13cm	炉　230 号に削平	東 45cm　西 45cm 南 46cm	無し	炭化物 1 ヶ所検出厚さ 5cm。主軸方位は東壁より。	
24	232	263	五領	住居跡	長径 3.24m 推定短径（3.14）m	N-42 °-W	P1 15cm P2 14cm P3 7cm	炉 火床長軸 N-41 °-W 長さ 0.47m 幅 0.22m 深さ 8cm。	南東 33cm　北西 39cm 南西 37cm	南東中央から北西にかけて残存。深さ 2 〜 13cm。		
24	233	76	久ヶ原	住居跡	長径 4.86m 推定短径（4.30）m	N-20 °-W	P1 65cm P2 61cm P3 16cm P4 71（73）cm P5 13（15）cm P6 72cm P7 19cm P8 11cm P9 33cm P10 16	炉 火床長軸 N-10 °-W 長さ 1.05m 幅 0.58m 深さ 8cm。	東 33cm　南 38cm 北 40cm	無し	Ｐ 1･2･4･6 は主柱穴。	
24	234	75	久ヶ原	住居跡	残存長径 2.70m 短径 4.15m	N-92 °-W	P1 33cm	炉 火床長軸 N-68 °-W 長さ推定（0.70）m 幅 0.53m。深さ 4cm。	東 25cm　南 22cm 北 18cm	無し		
24	235	77A	五領	住居跡	長径 4.03m 短径 3.88m	N-39 °-W	無し	炉 火床長軸 N-44 °-E 長さ 0.90m 幅 0.48m 深さ 4cm。	南東 49cm　北西 47cm 南西 44cm 北東　測定値無し	無し		
24	236	77B	久ヶ原	住居跡	長径 4.08m	N-41 °-W	P1 28cm	炉 火床長軸 N-41 °-W 長さ 0.96m 幅（0.55）m 深さ 9cm。	南東 39cm　北西 34cm	無し		
24	237	74	庄内	住居跡	長径（4.25）m 短径 3.66m	N-38 °-W	無し	炉 火床長軸 N-41 °-W 長さ 0.50m 幅 0.37m 深さ 5cm。	北東 32cm　南東 46cm 北西 33cm　南西 31cm	無し	焼土は 5 ヶ所に検出され、厚さ 7 〜 10cmを測る。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
25	238	73	五領	住居跡	長径 5.00m 短径 3.92m	N-58 °-W	P1 70cm P2 67cm P3 73cm P4 75cm P5 21cm	炉 火床長軸 N-58 °-W 長さ 0.80m 幅 0.40m 深さ 6cm。	北東 46cm　南東 45cm 北西 48cm　南西 48cm	無し	ベッド状遺構・長さ 2.9m　幅 4 ～ 6cm　高さ 1 ～ 8cm。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さは測定値無し。P1 ～ P4 は主柱穴。	
25	239	78	庄内	住居跡	長径（4.60）m 残存短径 3.94m	N-32 °-W	P1 69cm P2 70cm P3 53（55）cm P4 52cm P5 33cm	炉 火床長軸 N-32 °-W 長さ 0.94m 幅 0.74m 深さ 8cm。	北東 37cm　南東 35cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 1 ～ 9cmを測る。	
25	240	72	和泉	住居跡	長径 6.16m 短径 5.86m	N-115 °-W	P1 68cm P2 54cm P3 75cm P4 79cm P5 65cm P6 34cm P7 25cm P8 60cm P9 55cm P10 27cm	カマド西壁。 火床長軸 N-120 °-W 長さ 0.74m 幅 0.44m 深さ 24cm。	東 49cm　西 52cm 南 50cm　北 52cm	カマドから北にかけて、深さ 5 ～ 8cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 8 ヶ所に検出され、厚さ 15 ～ 24cm。炭化物 11 ヶ所検出。	
25	241	70	和泉	住居跡	長径 4.60m 短径 4.52m	N-135 °-W	P1 66cm P2 55cm P3 78cm P4 51cm P5 62cm	カマド南西壁。 火床長軸 N-140 °-W 長さ 0.42m 幅 0.32m 深さ 8cm。	北東 38cm　南東 46cm 北西　7cm　南西 48cm	全周。深さ 5 ～ 9cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。P5 は貯蔵穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さは測定値無し。炭化物 9 ヶ検出。	
25	242	71	久ヶ原	住居跡	残存長径 5.32m 残存短径 4.75m	N-28 °-W	P1 60cm P2 66cm P3 59（62）cm P4 55（61）cm	炉 火床長軸 N-31 °-W 長さ 0.58m 幅 0.56m 深さ 10cm。	東 32cm　西 45cm 北 35cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
26	243	106	和泉	住居跡	長径 4.64m 短径 4.58m	N-66 °-E	P1 57cm P2 58cm P3 56cm P4 58cm P5 97cm P6 63cm P7 19cm	炉　調査日誌に P1・P3 間に存在すると記載される。	東　7cm　西 15cm 南 52cm　北　3cm	全周。深さ 9 ～ 19cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。P5 は貯蔵穴。	調査日誌に平面図に記録されなかった炉が存在したと記載される。
26	244	107	和泉	住居跡	長径 6.52m 短径 6.20m	N-64 °-E	P1 58cm P2 39cm P3 38cm P4 49（56）cm P5 測定値無し	カマドは東壁中央部に存在するが、火床記載無し。	東 44cm　西 53cm 南 44cm　北 44cm	全周。深さ 5 ～ 12cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。P6 は貯蔵穴。貯蔵穴の近くに、貝ブロック 1 ヶ所検出。45 × 44cm厚さは測定値無し。	
26	245	番号なし	不明	土壙	残存長径 1.52m 短径 2.18m	N-23 °-W			40 ～ 44cm			
26	246	105	庄内	住居跡	長径 6.82m 短径 6.44m	N-26 °-W	P1 63cm P2 42（61）cm P3 57cm P4 57cm P5 69cm P6 13cm P7 39cm	炉 火床長軸 N-26 °-W 長さ 1.10m 幅 0.58m 深さ 5cm。	東 28cm　西 42cm 南 44cm　北 33cm	北東コーナーが 243 号に削平。残存部の深さ 5 ～ 13cm。		
26	247	111	五領	住居跡	長径（7.42）m 短径 7.38m	N-45 °-W	P1 81cm P2 75cm P3 41（46）cm P4 79cm	炉 火床長軸 N-35 °-W 長さ残存 0.60m 幅 0.68m 深さ 3cm。	北東 27cm　南東 35cm 北西 35cm　南西　9cm	南コーナーが 190 号に削平。残存部の深さ 9 ～ 16cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
26	248	114	和泉	住居跡	長径 6.04m 短径 5.98m	N-131 °-W	P1 53cm P2 43cm P3 48cm P4 51cm P5 57cm P6 67cm	カマド南西壁 火床長軸 N-121 °-W 長さ 0.64m 幅 0.50m 深さ 4cm。	北東 56cm　南東 60cm 北西 45cm　南西 50cm	全周。深さ 4 ～ 10cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。P5・P6 は貯蔵穴。	
26	249	113	久ヶ原	住居跡	推定長径（5.88）m 推定短径（5.00）m	N-40 °-W	P1 86cm P2 82cm P3 測定値無し	炉　未検出	南東 20cm　北西 45cm 南西 18cm	無し	P1 ～ P3 は主柱穴。	
26	250	土坑 8	不明	土坑	長径 2.50m	N-19 °-W	無し	無し	東 34cm　南 40cm 北 30cm　最大深 53cm	無し		248 号遺構東。146 号遺構柱穴 P3 の旧遺構番号 8 号土坑と遺構番号が重複。
26	251	番号なし	不明	土坑	長径 2.70m 短径 1.56m	N-65 °-E	無し	無し	東 24cm　西 26cm 南 26m　北 19cm	無し	土壙墓か？	8 号方形周溝墓の北。メモあり。
26	252	115	五領	住居跡	長径 4.55m 短径 4.42m	N-58 °-W	P1 47cm P2 42cm P3 68cm	炉 火床長軸 N-62 °-W 長さ 0.74m 幅 0.40m 深さ 4cm。	東 25cm　西 23cm 南 24cm　北 24cm	無し	焼土は 3 ヶ所に検出され、厚さ 1cm。	
27	253	267	五領	住居跡	長径 3.20m 短径 3.18m	N-15 °-W	P1 7cm P2 6cm P3 30cm P4 9cm	炉 火床長軸 N-16 °-W 長さ 0.46m 残存幅 0.24m 深さ 4.5cm。	東 21cm　西 34cm 南 37.5cm　北 35.5cm	無し		
27	254	94	和泉	住居跡	長径 5.22m 短径 5.04m	N-36 °-E	P1 16cm P2 31cm	未検出	北東 28cm　南東 31cm 北西 26cm　南西 28cm	全周。深さ 4 ～ 16cm。		

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
27	255	36	宮ノ台	住居跡	長径 5.72m 短径 5.40m	N-15 °-W	P1 44cm P2 49cm P3 49cm P4 77cm P5 57cm P6 33cm P7 20cm	炉 火床長軸 N-79 °-E 長さ 0.84m 幅 0.72m 深さ 7cm。	東 25cm　西 22cm 南 24cm　北 20cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 6cm。	
27	256	93	庄内	住居跡	長径 3.40m 残存短径 1.94m	N-59 °-W	無し	炉 火床長軸 N-65 °-W 長さ 0.96m 幅 0.50m 深さ 2cm。	西 19cm　南 16cm 北 16cm	無し		
27	257	92	五領	住居跡	長径 5.10m 短径 4.76m	N-77 °-W	無し	炉 火床長軸 N-41 °-W 長さ 0.80m 幅 0.76m 深さ 3cm。	東 25cm　西 31cm 南 33cm　北 25cm	無し	幅 10 ～ 30cm・高さ 2 ～ 8cmのテラスが 3 方に巡る。焼土は 13 ヶ所に検出され、厚さ 1 ～ 18cm。	
28	258	98	和泉	住居跡	長径 3.64m 短径 3.24m	N-107 °-W	P1 34cm	炉 火床長軸 N-108 °-W 長さ 0.46m 幅 0.42m 深さ 3cm。	東 55cm　西 53cm 南 51cm　北 47cm	全周。　深さ 5 ～ 8cm。	P1 は貯蔵穴。焼土は 4 ヶ所に検出され、厚さ 7 ～ 12cmを測る。	底部突出甕・他甕・紡錘車・土層断面より、和泉期と判断。
28	259	97	五領	住居跡	長径 5.76m 短径（5.40）m	N-50 °-W	P1 76（82）cm P2 53cm P3 76cm P4 62cm	炉 火床長軸 N-50 °-W 長さ 0.56m 幅 0.56m 深さ 9cm。	北東 30cm　南東 33cm 北西 23cm　南西 6cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さの測定値無し。	
28	260	89 B	五領	住居跡	推定長径（3.60）m 残存短径 3.30m	N-47 °-W	無し	炉　未検出	南西 21cm	無し	新旧逆調査。重複激しい。	
28	261	96	久ヶ原	住居跡	長径 7.68m 短径 6.84m	N-29 °-W	P1 70cm P2 74cm P3 67cm P4 74（80）cm P5 37cm P6 34cm P7 24cm	炉 火床長軸 N-17 °-W 長さ 1.20m 幅 0.68m 深さ 13cm。	東 43cm　西 43cm 南 25cm　北 47cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。P5 は貯蔵穴。	
28	262	89 A	五領	住居跡	長径 4.96m 短径（3.66）m	N-35 °-W	無し	炉 火床長軸 N-54 °-W 長さ 0.70m 幅 0.42m 深さ記載無し。	南東 12cm　北西 7cm 南西 6cm	無し		
28	263	91	久ヶ原	住居跡	長径 6.02m 短径 5.16m	N-6 °-W	P1 71cm P2 73cm P3 78cm P4 69cm P5 27cm	炉 火床長軸 N-14 °-W 長さ 1.06m 幅 0.60m 深さ 5cm。	東 48cm　西 23cm 南 53cm　北 37cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。和泉高坏は後日の混入。	
28	264	90	宮ノ台	住居跡	長径（8.10）m 短径（6.52）m	N-33 °-W	P1 42cm P2 71（77）cm P3 77cm P4 68cm	炉　259 号に削平	北東 22cm　南東 28cm 北西 4cm　南西 25cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。五領期の遺物は 260 号に伴うか。	土層断面・平面プランから弥生と判断される。
29	265	土坑 4	久ヶ原	土壙墓	外側長径 4.38m 外側短径 1.22m 内側長径 1.88m 内側短径 1.00m	N-17 °-W	無し	無し	東 27cm　西 28cm 南 27cm　北 23cm 東 43cm　西 16cm 南 26cm　北 11cm	無し		
29	266	土坑 5	久ヶ原	土壙墓	長径 2.72m 短径 1.48m	N-24 °-W	無し	無し	東 16cm　西 11cm 南 13cm　北 11cm	無し	管玉検出。	
29	267	土坑 6	久ヶ原	土壙墓	長径 2.72m 短径 1.28m	N-5 °-W	無し	無し	東 20cm　西 22cm 南 22cm　北 15cm	無し		
29	268	52	久ヶ原	住居跡	長径 4.02m 短径 3.72m	N-41 °-W	無し	炉 火床長軸 N-50 °-W 長さ 0.64m 幅 0.46m 深さ 4cm。	北東 26cm　南東 32cm 北西 26cm　南西 40cm	無し		
29	269	59	庄内	住居跡	推定長径（6.00）m 推定短径（6.00）m	N-32 °-W	無し	炉　未検出	北東 36cm　南東 37cm 北西・南西　測定値無し	無し	主軸方位は北東壁より。新旧逆調査。	
29	270	58	久ヶ原	住居跡	長径 9.75m 短径 8.50m	N-50 °-W	P1 71cm P2 57cm P3 71cm P4 70cm P5 68cm P6 49cm P7 26cm P8 24cm P9 20cm P10 49cm P11 12cm P12 19cm	炉 火床長軸 N-46 °-W 長さ 1.14m 幅 0.76m 深さ 5cm。	北東 44cm　南東 52cm 北西 47cm　南西 53cm	南西中央から北東中央にかけて、深さ 4 ～ 8cm。	P 1・3・4・5 は主柱穴。P6 は貯蔵穴。P6 の周囲に周提帯・長さ 3.1m 幅 12 ～ 20cm 高さの測定値無し。	P13 32cm P14 4cm P15 9cm P16 15cm P17 29cm
30	271	69	宮ノ台	住居跡	長径（3.80）m 短径 3.48m	N-74 °-W	P1 15cm P2 18cm	炉 火床長軸 N-76 °-W 長さ 0.75m 幅 0.63m 深さ 8cm。	東 26cm　西 15cm 南 26cm　北 21cm	無し		

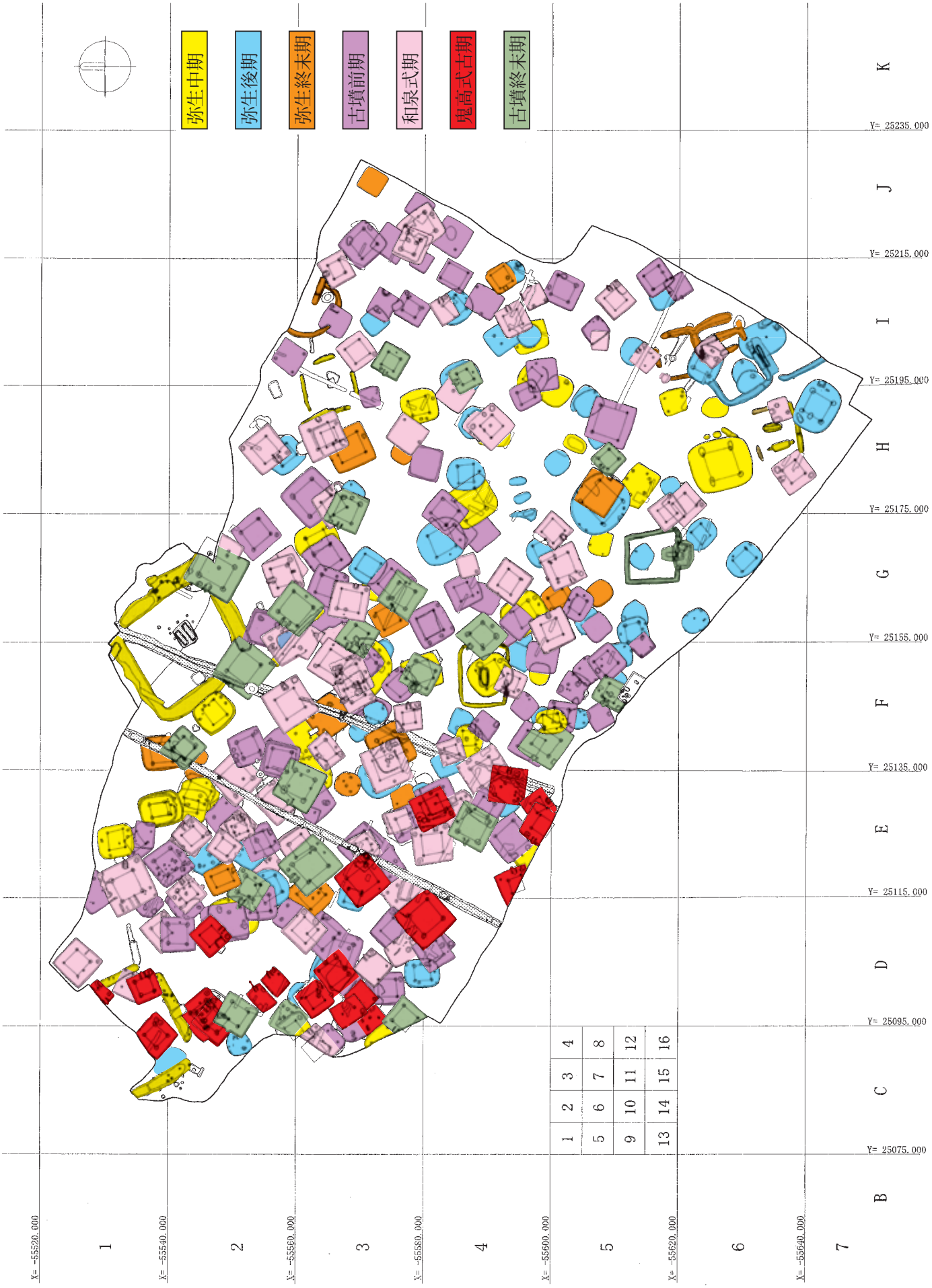
図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
30	272	57 A・B	宮ノ台	住居跡	長径（6.50）m 短径 4.73m	N-53 °-W	P1 21cm P2 31cm P3 28cm P4 35cm P5 29cm P6 23cm P7 27cm　P8 28cm	炉 火床長軸 N-32 °-W 長さ 0.86m 幅 0.60m 深さ 10cm。	北東 25cm　南東 32cm 北西 17cm　南西 27cm	無し	焼土は 6 ヶ所に検出され、厚さ 5 〜 11cm。	紡錘車 1 点（出土場所不明）。
30	273	60	和泉	住居跡	長径 4.60m 短径 4.06m	N-53 °-E	P1 47cm P2 50cm P3 49cm P4 63cm P5 49cm	炉 火床長軸 N-14 °-E 長さ 0.74m 幅 0.66m 深さ 9cm。	北東 41cm　南東 24cm 北西 52cm　南西 53cm	全周。深さ 4 〜 14cm。	P1 〜 P4 は主柱穴。焼土は 4 ヶ所に検出され、厚さ 2 〜 14cm。炭化物 1 ヶ所検出。	
30	274	62	和泉	住居跡	長径（5.13）m 短径 5.05m	N-41 °-W	P1 60cm P2 65cm P3 77cm P4 63cm P5 62cm	炉　273 号に削平	北東　5cm　南東 27cm 北西 23cm　南西 25cm	無し	P1 〜 P4 は主柱穴。P5 は貯蔵穴。P5 の周囲に周提帯・長さ 1.2m 幅 23cm 高さ 5cmを測る。	貼床除去後に 273 号を調査。
30	275	61	久ヶ原	住居跡	長径 3.02m 短径（2.50）m	N-32 °-W	無し	炉 火床長軸 N-71 °-W 長さ 0.46m 幅 0.36m 深さ 7cm。	北東 17cm　南東 15cm 北西 12cm	無し	焼土は 1 ヶ所に検出されるが、厚さは測定値無し。	
30	276	68	久ヶ原	住居跡	長径 3.80m 短径 3.40m	N-49 °-W	P1 29cm P2 24cm	炉　未検出	北東　9cm　南東　7cm 北西 15cm　南西　5cm	無し		
31	277	67	久ヶ原	住居跡	長径（5.05）m 短径 4.27m	N-44 °-W	P1 測定値無し P2 64cm P3 41cm P4 82cm	炉 火床長軸 N-48 °-W 長さ 1.18m 幅 0.88m 深さ 8cm。	北東 16cm　南東 21cm 北西 13cm　南西 17cm	無し	P1 〜 P4 は主柱穴。	
31	278	266	久ヶ原	住居跡	長径 4.26m 短径 3.52m	N-41 °-W	P1 18cm P2 10cm P4 15cm P5 11cm P6 13cm P7 27cm P8 15cm P9 26cm P10 23cm P11 25cm P12 11cm P13 29cm P3 測定値無し	炉 火床長軸 N-39 °-W 長さ 0.80m 幅 0.56m 深さ 10cm。	北東 16cm　南東 11cm 北西　8cm　南西　9cm	無し	貝ブロックは遺構のほぼ中央に 1 ヶ所検出。40 × 50cm　厚さ 13cmを測る。	
31	279	66	久ヶ原	住居跡	長径 5.65m 短径 4.56m	N-46 °-W	P1 54cm P2 67cm P3 70cm P4 53cm P5 18cm P6 44cm P7 38cm	炉 火床長軸 N-46 °-W 長さ 0.76cm幅 0.70m 深さ 7cm。	北東 16cm　南東 17cm 北西 15cm　南西 16cm	無し	P1 〜 P4 は主柱穴。P6 は貯蔵穴。	
32	280	27	五領	住居跡	長径 4.48m 短径 4.45m	N-32 °-E	P1 37cm	炉 火床長軸 N-33 °-E 長さ 0.80m 幅 0.62m 深さ 7cm。	東 28cm　　南 30cm 北 30cm 西　測定値無し	無し	P1 は貯蔵穴。P1 の周囲に周提帯・長さ 1.72m　幅 20cm 高さ 3cmを測る。	
32	281	番号なし	不明	土坑	長径 2.00m 短径 1.52m	N-25 °-W	無し	無し	東 34cm　　南 39cm 北 40cm　　西 40cm	無し	円形周溝内。クレイピットのメモ。	
32	282	34	和泉	住居跡	長径 5.06m 短径 4.94m	N-35 °-W	P1 55cm P2 65cm P3 69cm P4 51cm P5 40cm	炉 火床長軸 N-32 °-W 長さ 0.94m 幅 0.50m 深さ 6cm。	北東 35cm　南東 34cm 北西 30cm　南西 41cm	無し	P1 〜 P4 は主柱穴。P5 は貯蔵穴。焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 6cm。粘土は 3 ヶ所に検出され、厚さ 6 〜 8cm。焼土の周り 14 ヶ所に炭化物散る。	
32	283	35	終末期	住居跡	長径 4.85m 短径 4.67m	N-58 °-W	P1 59cm P2 68cm P3 63cm P4 41cm P5 48cm P7 10cm　P6 測定値無し	カマド西壁。 火床長軸 N-60 °-W 長さ 0.64m 幅 0.30m 深さ 4cm。	東 52cm　　西 41cm 南 48cm　　北 43cm	全周。深さ 4 〜 8cm。	P1 〜 P4 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さは測定値なし。炭化物 1 ヶ所検出。	
32	284	29	五領	住居跡	長径（4.45）m 短径 3.78m	N-61 °-W	無し	炉 火床長軸 N-27 °-W 長さ 0.45cm幅 0.32m 深さ 4cm。	東 15cm　　南　8cm 北　6cm	無し	周提帯・長さ 2.7m　幅 36 〜 42cm 高さ 5cmを測る。新旧逆調査。	
32	285	28	久ヶ原	住居跡	長径 4.04m 短径 3.65m	N-40 °-W	P1 33cm P2 25cm	炉 火床長軸 N-44 °-W 長さ 0.78cm幅 0.54m 深さ 3cm。	北東 29cm　南東 23cm 北西 24cm　南西 34cm	無し	P2 は貯蔵穴。P2 の周囲に周提帯・長さ 1.4m　幅 16cm 高さ 3cmを測る。	
32	286	番号なし	五領	土坑	長径 1.85m 短径 1.04m	N-34 °-W	無し	無し	東 15cm　　西　8cm 南　7cm　　北 13cm	無し	貝ブロック 1 ヶ所検出。50 × 34cm　厚さ 15cmを測る。	287 号住居内土坑。
33	287	33	五領	住居跡	長径 4.92m 短径 4.14m	N-60 °-W	P1 54cm P2 57cm P3 20cm P4 76cm P5 67cm P6 41cm P7 30cm	炉 火床長軸 N-66 °-W 長さ 0.64m 幅 0.48m 深さ 4cm。	東 26cm　　西 30cm 南 23cm　　北 22cm	無し	P1・2・4・5 は主柱穴。P6 は貯蔵穴。粘土は 1 ヶ所に検出されるが、厚さの測定値無し。	
33	288	32 B	和泉	住居跡	長径 4.06m 短径 3.40m	N-59 °-E	P1 60cm	カマド東壁。 火床長軸 N-66 °-E 長さ 0.40m 幅 0.26m 深さ 6cm。	東 47cm　　西 15cm 南 11cm　　北 41cm	北から北東コーナーにかけて、深さ 8 〜 9cm。	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 6cm。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
33	289	32A	久ヶ原	住居跡	推定長径 5.60m 短径 5.12m	N-39 °-W	P1 61（72）cm P2 53（64）cm P3 75cm P4 81cm P5 54cm P6 25cm P7 30cm	炉　未検出	東 28cm　西 26cm 南 34cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
33	290	30	五領	住居跡	長径 4.58m 短径 3.92m	N-29 °-E	P1 28cm P2 27cm P3 27cm P4 42cm	炉　未検出	東 16cm　西 12cm 南 14cm　北 14cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
33	291	26	和泉	住居跡	長径 4.80m 短径 4.56m	N-29 °-W	P1 71cm P2 67cm P3 72cm P4 74cm	カマド北壁。 火床長軸 N-26 °-W 長さ 0.32cm幅 0.18cm深さ 5cm。	東 45cm　西 34cm 南 55cm　北 31cm	ほぼ全周。深さ 1 ～ 10cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	カマドの存在により円形周溝より新。北側に存在する溝は、四隅の切れる方形周溝墓溝の一つか。写真で円形周溝の溝の延長がプラン確認される。
33	292	25	五領	住居跡	長径 6.15m 短径 5.80m	N-43 °-W	P1 45cm P2 56cm P3 55cm P4 46cm P5 43cm P6 14cm	炉 火床長軸 N-39 °-W 長さ 0.96cm残存幅 0.75m 深さ 4cm。	北東 47cm　南東 38cm 北西 38cm　南西 28cm	ほぼ全周。深さ 7 ～ 10cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 9 ヶ所に検出され、厚さは測定値無し。炭化物 1 ヶ所に検出。	
33	293	23	五領	住居跡	長径 5.06m 短径 4.85m	N-56 °-W	295 号内 P5（本跡床面換算 56cm）	炉 火床長軸 N-49 °-W 長さ 0.77m 幅 0.47m 深さ 3cm。	北東 33cm　南東 31cm 北西 6cm　南西 25cm	無し	炉の周囲に炭化物 11 ヶ所検出。	
33	294	22A	和泉	住居跡	推定長径（4.20）m 推定短径（4.15）m	N-23 °-E	無し	炉 火床長軸 N-73 °-W 長さ 0.90m 幅 0.52m 深さ 6cm。	南 8cm	無し		
33	295	22B	和泉	住居跡	長径（5.12）m 短径 4.84m	N-66 °-W	P2 60（68）cm P3 62（67）cm P4 58（63）cm P5 60（65）cm P1 測定値無し	カマドは北壁部に存在するが、未調査。	西 24cm　南 23cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
33	296	22C	五領	住居跡	長径 3.08m 短径 2.95m	N-60 °-W	無し	炉　294 号　295 号に削平	東 5cm　西 6cm 南 7cm　北 10cm	無し		
33	297	20・21	和泉	住居跡	推定長径 6.40m 短径 5.70m	N-35 °-W	P2 42cm P3 44cm P4 44cm P5 65cm P6 23cm P7 17cm P8 17cm	炉 火床長軸 N-36 °-W 長さ残存 0.70cm幅推定（0.50）m 深さ 5cm。	北東 13cm　南東 23cm 南西 19cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。旧 21 は（上層の硬化面）。	旧遺構番号 21 は、297 号遺構のベット状遺構と想定される。
33	298	19	五領	住居跡	長径（3.80）m 短径（3.74）m	N-58 °-W	無し	炉　未検出	北東 24cm　南東 14cm 北西 24cm　南西 12cm	無し	焼土は 5 ヶ所に検出され、厚さ 1 ～ 11cm。	
33	299	18	五領	住居跡	長径 5.35m 短径（5.10）m	N-59 °-W	P1 25cm	炉　撹乱により削平	北東 12cm　南東 13cm 北西 12cm　南西 13cm	無し	焼土は 2 ヶ所に検出され、厚さ 2cm。	
33	300	24	庄内	住居跡	長径（3.92）m 短径（3.79）m	N-58 °-W	無し	炉 火床長軸 N-52 °-W 長さ 0.88cm幅 0.64m 深さ 5 ～ 6cm。	北東 5cm　南東 2cm 北西 8cm　南西 10cm	無し		
34	301	39	終末期	住居跡	長径 4.28m 短径 4.14m	N-27 °-W	P1 34cm P2 34cm P3 36cm P4 35cm P5 22cm P6 43cm	カマド北壁。 火床長軸 N-29 °-W 長さ 0.84m 幅 0.32m 深さ 8cm。	東 28cm　西 29cm 南 29cm　北 23cm	全周。深さ 7 ～ 14cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 14cm。粘土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 4cm。炭化物は 1 ヶ所に検出。	
34	302	37	和泉	住居跡	長径 4.88m 短径（4.76）m	N-53 °-W	無し	炉 火床長軸 N-37 °-E 長さ 0.84m 幅 0.52m 深さ記載無し。	北東 27cm　北西 29cm 南西 34cm	無し	焼土は 7 ヶ所に検出され、厚さ 4 ～ 12cm。炭化物は 5 ヶ所に検出。	
34	303	38	久ヶ原	住居跡	長径 6.40m	N-18 °-W	P1 60cm P2 39cm	炉　301 号に削平	東 26cm　西 35cm 南 31cm　北 28cm	無し	壁際に炭化物 10 ヶ所検出。	
34	304	48	和泉	住居跡	長径 5.70m 短径 5.54m	N-134 °-W	P1 68cm P2 45cm P3 44cm P4 63cm P5 63cm P6 71cm P7 44cm P8 20cm P9 44cm P10 40cm	炉 火床長軸 N-134 °-W 長さ 0.58m 幅 0.38m 深さ記載無し。	北東 27cm　南東 41cm 北西 40cm　南西 17cm	無し	P1・3・5・6 は主柱穴。焼土は 13 ヶ所に検出され、厚さ 6 ～ 18cm。炭化物は 8 ヶ所に検出。	
34	305	49	和泉	住居跡	長径（3.90）m 短径（3.80）m	N-40 °-E	無し	炉　304 号に削平	北東 11cm　北西 10cm 南西 6cm	無し	主軸方位は北壁より。	

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
34	306	50	久ヶ原	住居跡	長径 5.16m	N-97 °-W	P1 63cm P2 27cm P3 71cm P4 71cm P5 63cm	炉　304 号に削平	北東 18cm　南東 20cm 北西 27cm　南西 23cm	無し	Ｐ 1･3･4･5 は主柱穴。	
34	307	51	宮ノ台	住居跡	残存長径 5.14m	N-5 °-E	無し	炉　304 号に削平	西 31cm　南 21cm 北 28cm	無し	主軸方位は西壁より。	
35	308	44	五領	住居跡	長径 5.10m 短径 4.83m	N-7 °-W	P1 22cm	炉　未検出	東 11cm　南 15cm 西・北　測定値無し	無し	311 号と新旧逆調査。	
35	309	47	五領	住居跡	長径 4.57m 短径 4.00m	N-26 °-W	P1 54cm P2 68cm P3 63cm P4 65cm P5 35cm	炉 火床長軸 N-31 °-W 長さ 1.04m 幅 0.60m 深さ 6cm。	東 37cm　西 43cm 南 30cm　北 39cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
35	310	45	宮ノ台	住居跡	長径 5.22m 短径（4.30）m	N-53 °-W	P1 35cm P2 18cm	炉 火床長軸 N-21 °-W 長さ 1.10m 幅 0.96m 深さ 10cm。	北東　9cm　南東 19cm 北西 12cm　南西 22cm	無し		
35	311	46	宮ノ台	住居跡	短径 4.54m	N-51 °-W	P1 32cm P2 52cm P3 測定値無し P4 52cm	炉　308 号　309 号に削平	北東 15cm　北西 15cm 南西 11cm 南東　測定値無し	無し	Ｐ 1･3･4･5 は主柱穴。	
35	312	41	和泉	住居跡	長径 4.79m 短径 4.66m	N-66 °-E	P1 45cm P2 32cm P3 47cm P4 28cm	カマド東壁。 火床長軸 N-62 °-E 長さ 0.55m 幅 0.35m 深さ 16cm。	東 32cm　西 10cm 南 34cm　北 24cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。	
35	313	43	久ヶ原	住居跡	長径 3.70m 短径（3.38）m	N-51 °-W	無し	炉 火床長軸 N-52 °-W 長さ 0.70m 幅 0.70m 深さ 6cm。	南東 17cm　北西 21cm 南西 24cm	無し		
35	314	42	宮ノ台	住居跡	長径（5.56）m 短径（4.80）m	N-15 °-W	P1 36cm	炉 火床長軸 N-36 °-W 長さ推定（0.70）m 幅推定（0.50）m 深さ 9cm。	東 17cm　西 16cm 南 14cm　北 10cm	無し		
35	315	40	久ヶ原	住居跡	長径（4.44）m 短径 4.38m	N-35 °-W	P1 78cm P2 81cm	炉 火床長軸 N-2 °-W 長さ 0.76m 幅 0.67m 深さ 9cm。	北東 13cm　北西 13cm 南西 17cm	無し	焼土は 4 ヶ所に検出され、厚さ 5 ～ 13cm。	
35	316	31	五領	住居跡	長径 5.01m 短径 4.36m	N-31 °-E	P1 51cm P2 33cm P3 29cm	炉　未検出	北東 18cm　南東 15cm 北西　7cm　南西 15cm	無し	遺物一括のみ。	
35	317	17	庄内	住居跡	長径 4.20m 短径 4.17m	N-35 °-W	P1 55cm P2 42cm P3 49cm P4 20cm P5 14cm P6 28cm	炉 火床長軸 N-39 °-W 長さ 0.80m 幅 0.58m 深さ 2cm。	北東 31cm　南東 13cm 北西 28cm　南西 25cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。P5 は貯蔵穴。焼土は 6 ヶ所に検出され、厚さ 2 ～ 14cm。	
35	318	16	久ヶ原	住居跡	短径 3.70m	N-26 °-W	P1 32cm P2 30cm	炉　317 号に削平	北東 21cm　南東 21cm 南西 16cm	無し	P2 は貯蔵穴。P2 の周囲に周提帯・長さ 1.6m　幅 24 ～ 28cm　高さ 5cmを測る。	
35	319	95	和泉	住居跡	長径 3.56m 短径 3.52m	N-22 °-W	P1 22cm P2 35cm	炉 火床長軸 N-32 °-W 長さ 0.72m 幅 O.63m 深さ 2cm。	北東 42cm　南東 39cm 北西 36cm　南西 51cm	全周。深さ 3 ～ 12cm。		
35	320	15	五領	住居跡	長径 5.32m 短径 5.06m	N-66 °-W	P1 68cm P2 60cm P3 51cm P4 44cm P5 31cm P6 20cm P7 55cm	炉 火床長軸 N-48 °-W 長さ 0.88m 幅 0.58m 深さ 7cm。	北東 13cm　南東 18cm 北西 13cm　南西 12cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。粘土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 7cm。	
36	321	88	終末期	住居跡	長径 4.20m 短径 4.12m	N-41 °-W	P1 67cm P2 60cm P3 59cm P4 69cm P5 ～ P11 は周溝内。深さ 9 ～ 16cm。	カマド北西壁。 火床長軸 N-40 °-W 長さ 0.36m 幅 0.24m 深さ 8cm。	北東 46cm　南東 21cm 北西 45cm　南西 57cm	全周。深さ 5 ～ 11cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
36	322	55Ａ	五領	住居跡	長径 6.92m 短径 6.72m	N-72 °-W	P1 94cm P2 95cm P3 84cm P4 89cm	炉 火床長軸 N-111 °-W 長さ 0.84m 幅 0.54m 深さ 4cm。	東 26cm　西 32cm 南 33cm　北 21cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。炭化物 2 ヶ所検出。	小型精製土器多数。

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
36	323	55 B	久ヶ原	住居跡	残存径 2.96m	—	無し	炉　322 号に削平	北西 16cm　南西 23cm	無し		
36	324	54	久ヶ原	住居跡	長径 4.50m 短径 3.86m	N-31 °-W	P1 25cm P2 25cm	炉 火床長軸 N-40 °-W 長さ 0.94m 幅 0.48m 深さ 5cm。	北東 29cm　南東 49cm 北西 45cm　南西 46cm	無し	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 8cm。	
36	325	53	久ヶ原	住居跡	長径 4.74m	N-51 °-W	無し	炉　324 号に削平？	北東 19cm　南東 22cm 南西 36cm	無し		
36	326	土坑 2	宮ノ台	土壙墓	長径 3.68m 短径 2.44m	N-28 °-E	無し	無し	東 101cm　西 96cm 南 98cm　北 100cm	無し	長方形プラン。土壙墓か。	
36	327	土坑 20	和泉	土坑	長径 1.54m 短径 1.26m	N-46 °-W	無し	無し	東 77cm　西 70cm 南 84cm　北 73cm	無し		9 号方形周溝遺構内。側壁抉り込み土壙。
37	328	11	和泉	住居跡	長径 3.75m 短径 3.74m	N-40 °-E	P1 40cm P2 44cm P3 35cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-40 °-E 長さ 0.24m 幅 0.16m 深さ 14cm。	南東 29cm　北西 21cm 南西 24cm 北東　測定値無し	無し	P1 は貯蔵穴。P1 の周囲に周提帯・長さ 1.6m 幅 18 ～ 32cm 高さ 8 ～ 10cmを測る。焼土は 3 ヶ所に検出され、厚さ 5 ～ 8cm。粘土は 1 ヶ所検出、厚さ 2cm。	カマド。
37	329	12	久ヶ原	住居跡	長径 4.34m	N-64 °-W	無し	炉 火床長軸 N-77 °-W 長さ 0.50m 幅 0.42m 深さ 4cm。	北東 17cm　南東 15cm 北西 16cm	無し		
37	330	13	和泉	住居跡	推定長径（3.06）m 推定短径（2.82）m	N-88 °-W	無し	炉　未検出	西 7cm　南 12cm 北 7cm	無し	新旧逆調査。	
37	331	14	五領	住居跡	長径 3.85m 短径 3.39m	N-37 °-W	P1 10.5cm P2 16cm P3 24.5cm P4 35cm P5 21.6cm	炉　未検出	北東 8.5cm　南東 6.5cm 北西 6.8cm　南西 7cm	全周。深さ 6.5 ～ 8.5cm。		
37	332	10	和泉	住居跡	長径 4.74m 短径 4.64m	N-49 °-E	P1 66cm P2 57cm P3 53cm P4 66cm P5 44cm P6 7cm P7 15cm	カマド北東壁。 火床長軸 N-44 °-E 長さ 0.38m 幅 0.26m 深さ 26cm。	北東 39cm　南東 35cm 北西 37cm　南西 37cm	全周。深さ 7 ～ 12cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。P5 の周囲 2 ヶ所に周提帯。周提帯 A 長さ 3.4m 幅 10 ～ 24cm 高さ 5cm。B 長さ 2m 幅 10 ～ 24cm 高さ 6cmを測る。焼土は 2 ヶ所に検出され、深さ 6cmを測る。炭化物は 2 ヶ所に検出。	カマド。
37	333	7	五領	住居跡	長径 3.62m 短径 3.62m	N-33 °-W	P1 30cm P2 40cm	炉 火床長軸 N-36 °-W 長さ 0.32m 幅 0.30m 深さ 5cm。	北東 32cm　南東 33cm 南西 33cm	全周。深さ 9 ～ 14cm。	焼土 2 ヶ所。厚さ 8 ～ 10cm。	
37	334	9	五領	住居跡	長径 4.84m 短径 4.72m	N-35 °-W	P1 31cm P2 36cm P3 38cm P4 62cm P5 32cm	炉 火床長軸 N-44 °-W 長さ 0.30m 幅 0.40m 深さ 6cm。	北東 33cm　南東 47cm 北西 32cm　南西 7cm	全周。深さ 3 ～ 11cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 7 ヶ所に検出され、厚さ 3 ～ 12cm。	
37	335	8	久ヶ原	住居跡	長径 3.84m 短径（3.24）m	N-30 °-W	P1 21cm P2 8cm	炉 火床長軸 N-29 °-W 長さ 0.80m 幅 0.46m 深さ 5cm。	南東 11cm　北西 33cm 南西 37cm	無し		
38	336	63	宮ノ台	住居跡	長径 9.70m 短径 8.06m	N-15 °-W	P1 92cm P2 98cm P3 75cm P4 111cm	炉 火床長軸 N-4 °-W 長さ 0.64m 幅 0.54m 深さ 7cm。	東 41cm　西 50cm 南 51cm　北 38cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 10cm。	
38	337	56	宮ノ台	住居跡	長径 4.26m 短径 3.78m	N-16 °-W	P1 24cm P2 26cm P3 55cm P4 54cm	炉 火床長軸 N-12 °-W 長さ 0.74m 幅 0.64m 深さ 10cm。	東 15cm　西 25cm 南 25cm　北 17cm	無し	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 4cm。	
38	338	5	宮ノ台	住居跡	長径 4.22m 短径 3.34m	N-2 °-W	無し	炉 火床長軸 N-51 °-W 長さ 0.72m 幅 0.52m 深さ 4cm。	東 9cm　西 4cm 南 9cm　北 4cm	無し	焼土は 9 ヶ所に検出され、厚さ 2 ～ 16cm。	
38	339	S1・S2	宮ノ台	土器棺墓	長径 1.00m 短径 0.75m	N-19 °-W	無し	無し	南 27cm　北 23cm	無し		

図面NO	新遺構№	旧遺構№	時期	性格	規　模	主　軸	ピット（深さ）	火床施設	壁　高	周溝・溝	備考	特記事項
38	340	S1 S2 S4	宮ノ台	土器棺墓	長径 1.26m 短径 1.04m	N-9 °-W	無し	無し	南 23cm　北 19cm	無し	再葬墓とされる土器棺墓。S4 との記載あり。	
38	341	S3	宮ノ台	土器棺墓	長径 2.88m 短径 0.94m	N-27 °-E	無し	無し	東 40cm　西 34cm	無し		
39	342	6B	和泉	住居跡	長径 4.30m 短径（4.27）m	N-41 °-W	無し	カマド北壁。 火床長軸 N-51 °-W 長さ推定 0.57m 幅推定 0.42m 深さ 4cm。	東 20cm　西 7cm 南 31cm 北　測定値無し	無し	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ床面 6cm。	
39	343	6A	久ヶ原	住居跡	長径 5.95m 短径 5.08m	N-64 °-W	P1 75cm P2 69cm P3 71cm P4 73cm P5 30cm P6 10cm P7 3cm P8 9cm P9 ～ P12 は周溝内。深さ 3 ～ 10cm。	炉 火床長軸 N-58 °-W 長さ 0.90m 幅 0.54m 深さ 8cm。	東 14cm　西 33cm 南 40cm　北 23cm	北側のみ。深さ 2 ～ 5cm。	P1 ～ P4 は主柱穴。	
39	344	4	久ヶ原	住居跡	長径 4.38m 残存短径（2.94）m	N-30 °-W	P1 77cm P2 15cm	炉 火床長軸 N-80 °-W 長さ 0.80m 幅 0.76m 深さ 6cm。	東　6cm　南 17cm 北 10cm	無し	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 4cm。	
39	345	3	久ヶ原	住居跡	短径 4.02m	N-60 °-E	P1 17cm	炉　344 号に削平	東 13cm　南　9cm 北　7cm	無し		
39	346	2	久ヶ原	住居跡	長径 7.58m 短径（5.48）m	N-23 °-W	P1 26（60）cm P2 48cm P3 8cm P4 35cm P5 14cm P6 13cm P7 20cm P8 9cm	炉 A　火床長軸 N-17 °-W　長さ 0.65m 幅 0.52m 深さ 3cm。 炉 B　火床長軸 N-35 °-E　長さ 0.55m 幅 0.42m 深さ 3cm。	東 11cm　西 14cm 南 11cm　北 16cm	無し	P4 は貯蔵穴。P4 を取り囲む間仕切溝は、長さ 1.25m 幅 18cm 深さ 3cm を測る。焼土は 3 ヶ所に検出され、厚さは 5 ～ 9cm を測る。炭化物 2 ヶ所検出。	
39	347	土坑 1	縄文	土坑	長径 2.14m 短径 1.70m	N-93 °-E	無し	無し	東 71cm　南 71cm 北 65cm	無し	10 号方形周溝墓に削平される土坑。遺物は 10 号方形周溝に伴う。	
40	348	65	和泉	住居跡	長径 5.30m 短径 5.26m	N-38 °-W	P1 70cm P2 46cm P3 57cm P4 56cm P5 64cm P6 56cm	カマド北西壁。 火床長軸 N-44 °-W 長さ 0.50m 幅 0.36m。深さ 3cm。	北東 30cm　南東 31cm 北西 19cm　南西 26cm	無し	P1 ～ P4 は主柱穴。P5・P6 は貯蔵穴。貝ブロックは西コーナー付近に 1 ヶ所検出。90 × 82cm 厚さ 15cm を測る。	
40	349	64	和泉	住居跡	長径 3.70m 短径 3.22m	N-17 °-W	P1 18cm P2 46cm P3 60cm	カマドは北壁中央部に存在するが、未調査。	東 37cm　西 38cm 南 40cm　北 37cm	無し	焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 4cm。P3 は貯蔵穴？	
40	350	1	久ヶ原	住居跡	長径 8.08m 短径 6.36m	N-60 °-W	P1 86cm P2 64cm P3 97cm P4 87cm P5 105cm P6 34cm P7 21cm P8 14cm P9 ～ P12 までは小ピット P13 117cm	炉 火床長軸 N-58 °-W 長さ 0.80m 幅 0.50m 深さ 7cm。	北東 34cm　南東 43cm 北西 39cm　南西 45cm	無し	P6 は貯蔵穴。P6 の周囲に間仕切り溝。西側、長さ 1.1m 幅 10cm 深さ 3cm。南側、長さ 95cm 幅 10cm 深さ 3cm。　北側、長さ 90cm 幅 6 ～ 8cm 深さ 5cm を測る。	P 1･3･4･5 は主柱穴。焼土は 1 ヶ所に検出され、厚さ 5 ～ 13cm。
	351	4 号溝	不明	溝	長さ　62.60m 幅　0.8 ～ 2.3m	N-19 °-E	無し	無し	深さ 60cm 前後	無し		
	352	3 号溝	不明	溝	長さ　66.80m 幅　0.8 ～ 1.6m	N-29 °-E	無し	無し	深さ 51 ～ 56cm	無し		



第８図　御林跡遺跡遺構時期別全体図

第Ⅱ章　遺構と遺物

１　円形周溝

１号遺構（円形周溝）

昭和53年度調査時に円形周溝として調査された遺構である。本遺構に関わる調査日誌には円台部内から検出された遺構番号281を付した粘土が伴うと推定される土坑を、「Claypit」と記す以外は何も記載されない。北東側の周溝は調査区域外に存在するものと推定され、検出された円台部長径は8.62mを測り、主軸方位はN－49 °－Wを示す。残存する周溝上端幅とその深さは、西側で0.52 ～ 0.88m深さ33 ～ 41㎝、南側は0.70 ～ 1.08m深さ14 ～ 20㎝を測り、覆土は自然堆積の状況を示す。

円台部内からは、さらにその規模と掘り方から、所謂変則的埋葬施設に類似する土坑が検出された。ただし、調査日誌によれば、この土坑を円形周溝確認以前に３号溝として調査し記録している。本報告では、便宜的に変則的埋葬施設的な土坑として取扱うが、底面の凹凸が激しく深さも一定でないことから、埋葬施設ではない可能性も考えられる。その規模は、長径4.58m幅0.96 ～ 1.24m、深さは西側で21㎝、南側が29 ～ 44㎝、北側が30 ～ 50㎝、最大深度55㎝を測る。

遺物

本墳からは176点1,789gの土器片と、１点10gの土製品を検出した。土器片の内訳は、150点1,539gの土師器、24点220gの弥生土器、2点30gの縄文土器である。なお、出土土師器の大半は、前期五領式系のハケ甕胴部細片であり、土製品は土玉細片である。また弥生土器の大半は無文で特に特徴のない壺･甕類胴部細片である。これらの出土遺物の内2点を図示した。

１は一見古墳時代中期にしばしば散見する赤を基調とする赤彩が施された平底の土師器坏に見えるが、弥生時代の朱を基調とする赤彩が施された古墳出現期の土師器鉢である。２は接合には至らないが、隣接する291号遺構一括で検出された口縁部と同一固体の手焙形土器胴部片である。その文様構成は鉢部外面に沈線による斜格子文を基調とするもので、内外面に赤彩が施される。共に小片のため、復元法量の誤差著しくその形状も不安定なものであるが、敢えて図示するものである。

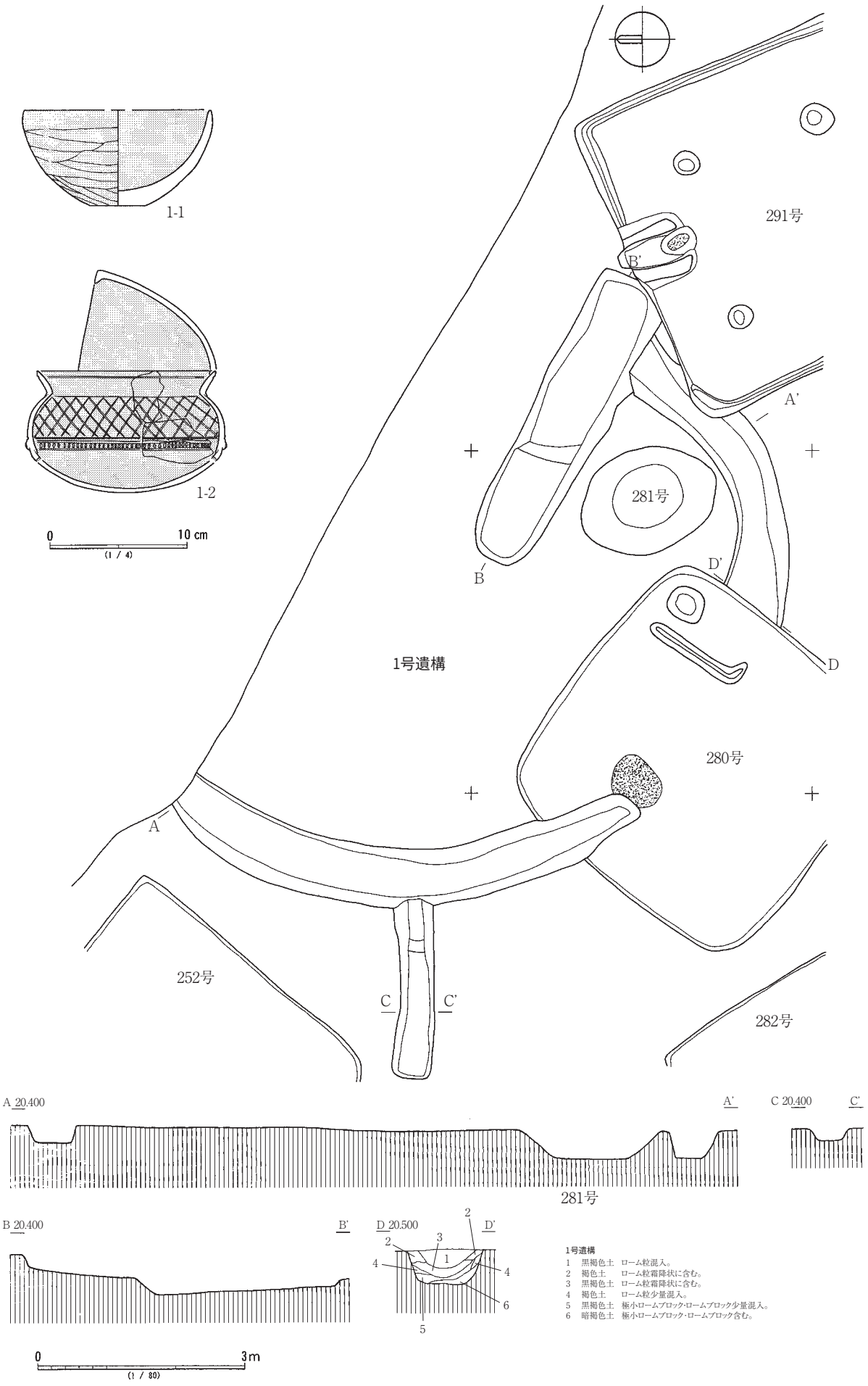
本遺構出土遺物の全ては、何れも一括で取上げられたものであり、周溝覆土中なのか円台部内なのか、あるいは所謂変則的埋葬施設なのかを判定すべく出土地点を明示するものはない。

また、変則的埋葬施設的な土坑として記載した遺構は調査時に３号溝として調査されており、調査時遺構番号３号溝は本跡のほかに９号方形周溝墓の東周溝と最大規模の351号溝の３条が存在する。このことから、本跡出土遺物の一部は最大規模の351号溝と混交している可能性が高い。なお、本遺構は昭和63年３月発行の『市原市埋蔵文化財分布地図一北部編一』には古墳として記載されておらず、正式には古墳ではない可能性もあるが、出土遺物から見れば出現期古墳を含めて古墳時代の遺構と捉えられる。

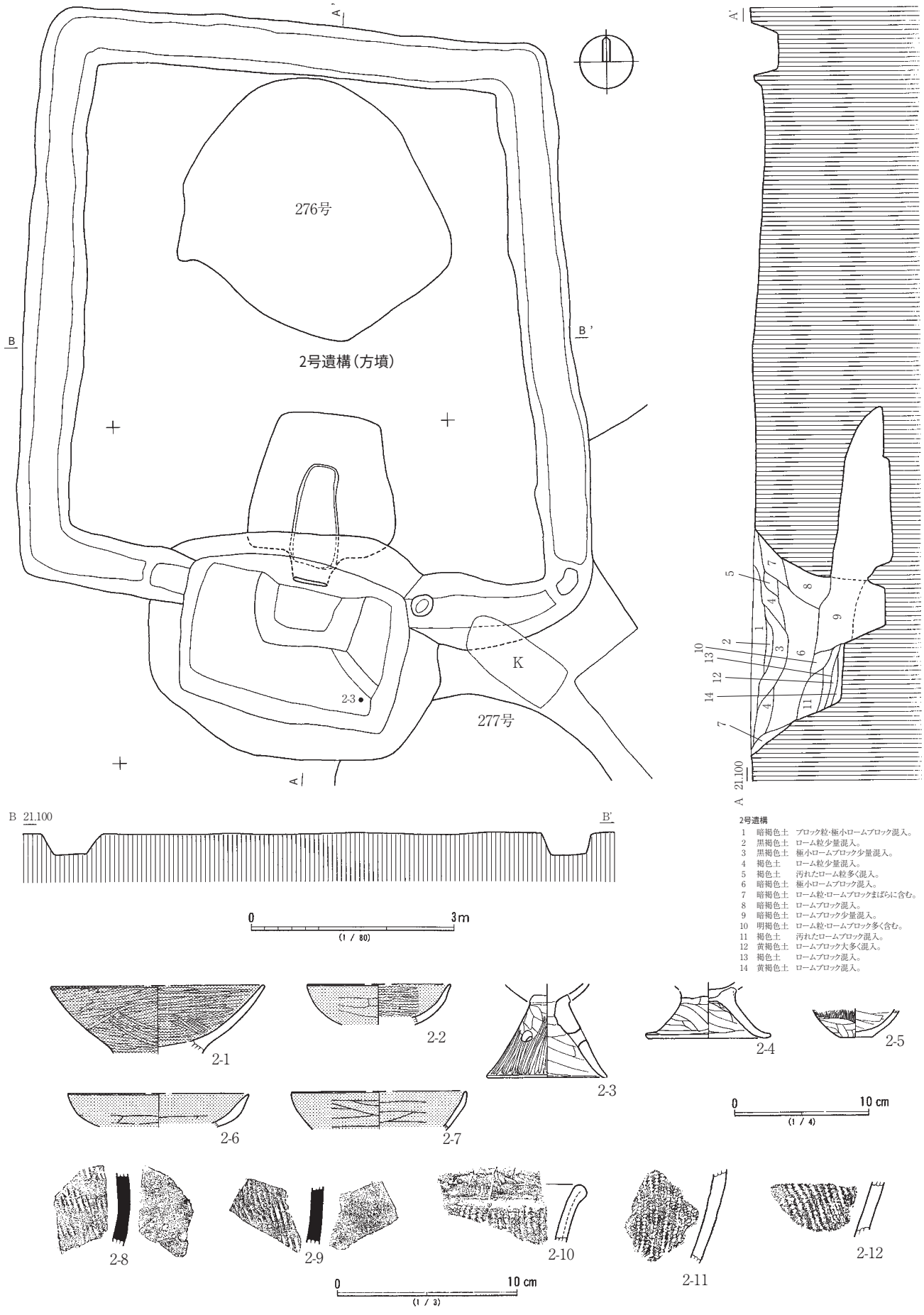
２　終末期古墳

２号遺構（終末期方墳）

『市原市埋蔵文化財分布地図一北部編一』に記載される辺田９号墳である。昭和53年度の調査時に、方形周溝を伴う地下式壙として調査され、概報では平安時代末期に遡る可能性がある中世墳墓として報告されている。しかし今日では、この種の遺構の中でも仰臥伸展葬可能な玄室等を埋葬施設と



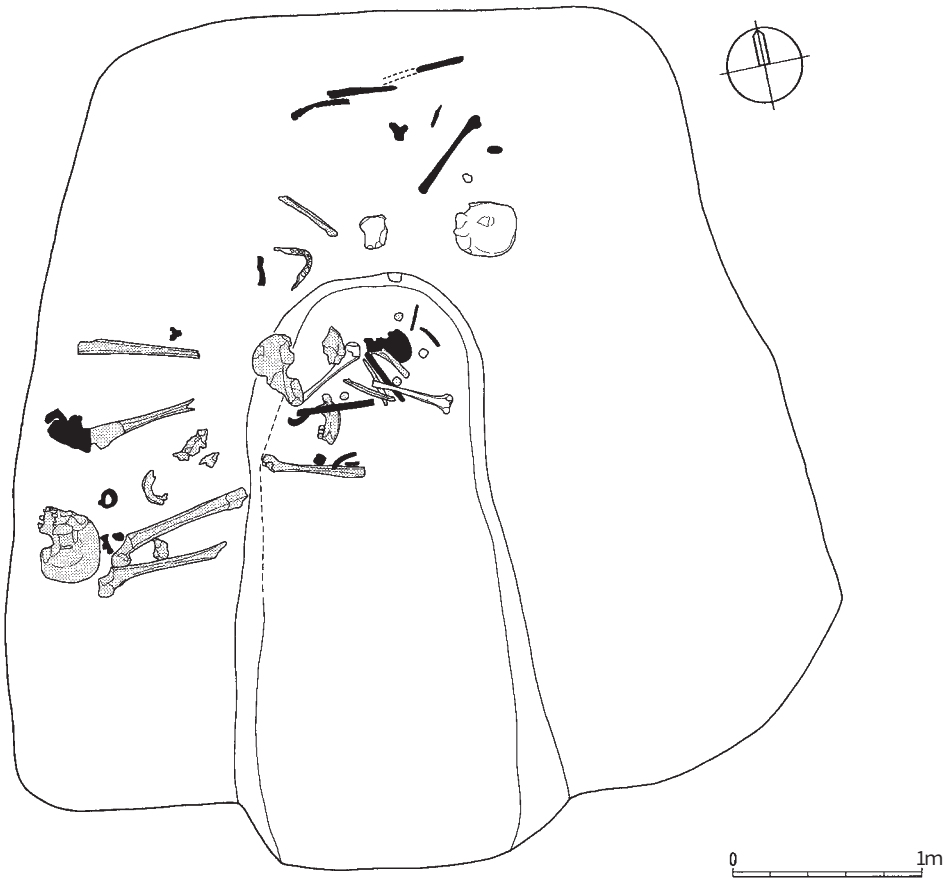
第９図　１号遺構実測図・出土遺物実測図



2号遺構

1 暗褐色土 ブロック粒・極小ロームブロック混入。
2 黒褐色土 ローム粒少量混入。
3 黒褐色土 極小ロームブロック少量混入。
4 褐色土 ローム粒少量混入。
5 褐色土 汚れたローム粒多く混入。
6 暗褐色土 極小ロームブロック混入。
7 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックまばらに含む。
8 暗褐色土 ロームブロック混入。
9 暗褐色土 ロームブロック少量混入。
10 明褐色土 ローム粒・ロームブロック多く含む。
11 褐色土 汚れたロームブロック混入。
12 黄褐色土 ロームブロック大多く混入。
13 褐色土 ロームブロック混入。
14 黄褐色土 ロームブロック混入。

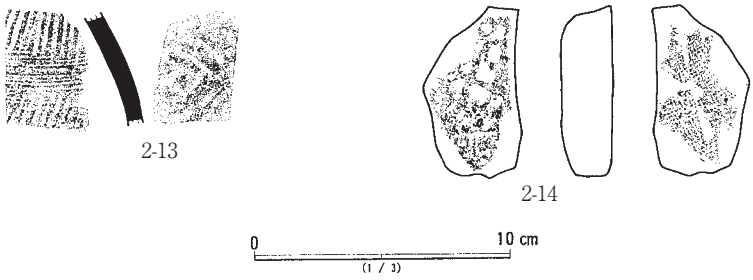
第10図　２号遺構実測図・出土遺物実測図



1号人骨

2号人骨

特定不明人骨



第11図　２号遺構(終末期方墳)玄室実測図及び出土遺物実測図

して採用する墳墓については、終末期古墳の範疇で捉えられている。

本墳は人骨２体を検出することや、検出遺物に古墳時代終末期の黒色処理仕上げの高坏・坏を検出し、埋葬施設に地下式横穴墓を採用することから、終末期方墳であるといえる。

墳丘と周溝

方台部長径（南北）7.82m、短径（東西）6.84mの方墳である。長径の主軸方位はN－７°－Wを示し、273・277号竪穴を削平して存在する。明瞭な盛土は検出されなかった。

周溝は全周し、東西南北の各周溝は幅0.72 ～ 0.92m、深さ27.8 ～ 48.3㎝を測り、西側周溝が他の周溝より若干深い以外は幅深さともほぼ均一な様相を呈する。

埋葬施設

前述したように、本墳は埋葬施設として地下式横穴を採用する。羨道部は上端長径4.46m短径3.38m、下端長径2.94m短径1.74m、南側の深さ最大1.32mを測る長方形縦坑で、北側の羨道部前庭入口が上端長径0.86m短径0.60m深さ最大51.2cmにわたって一段深く堀下がる。玄室への入口部分は高さ56cm幅52cmの方形を呈し開口する。おそらく閉塞板が存在していたのであろう。

玄室内は幅2.2m高さ80cmに満たない方形で、主軸方位はN－８°－Wを示す。棺台座と思われる中央部より10 ～ 15㎝程高い範囲は、入口部分の左右から奥壁に向かって幅80cm前後でコの字形に存在する。

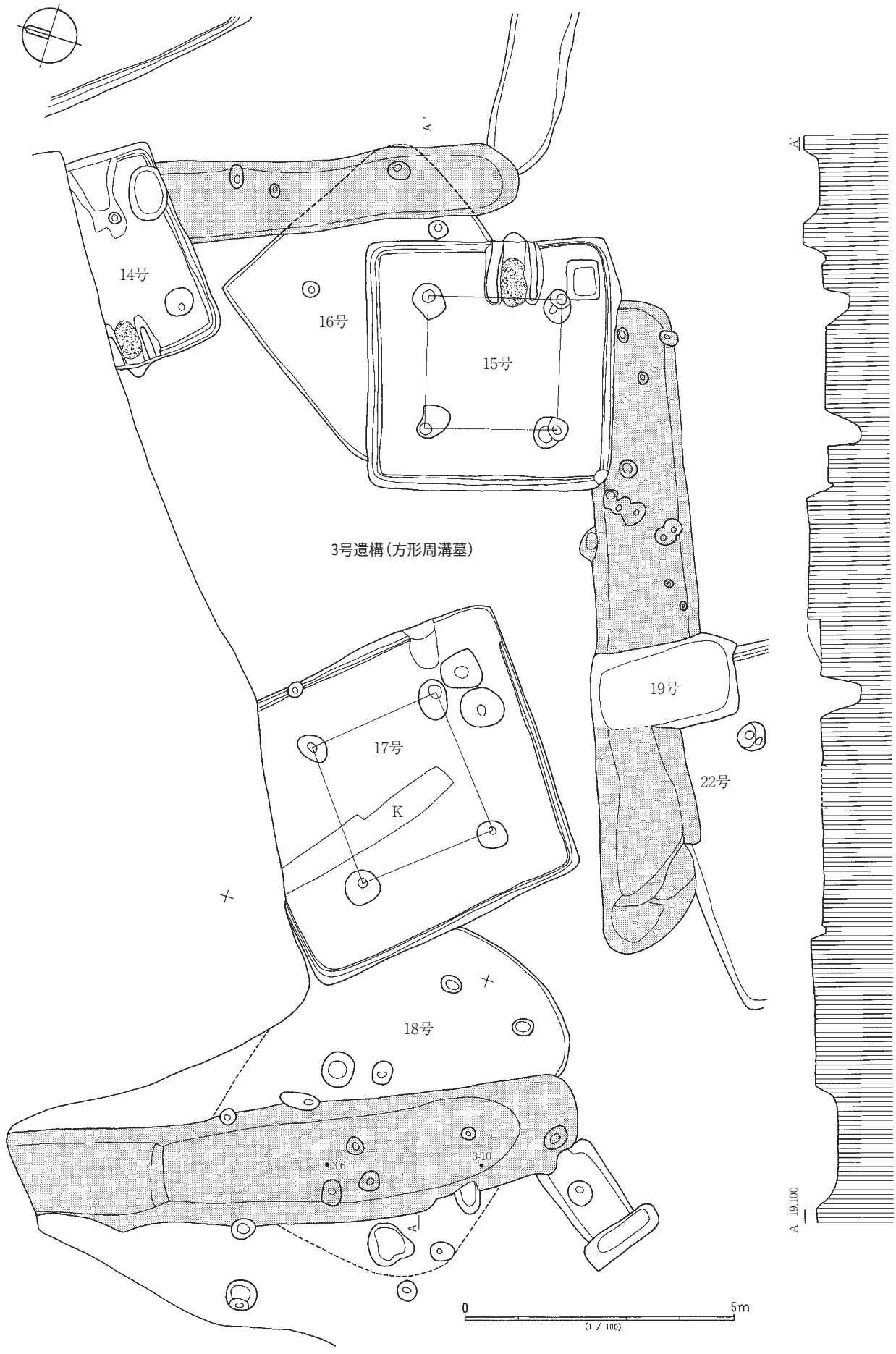
人骨は向かって左側の棺台座から１号人骨頭部（性別不明。年齢８～９歳）が、右側棺台座より２号人骨頭部（女性。壮年後半～熟年）が検出されているが、玄室内中央部で両者混交とした状況で検出されている。（第10図　写真図版）なお、２号人骨は頭蓋骨と大腿骨が密着して検出されていることから、玄室内で骨化した後で集骨したか、あるいは別の場所で骨化させ、玄室内に再葬した可能性が考えられる。なお、本跡は当初３号土坑として調査され、地下式壙と判明した後に土坑としての遺構番号が全体図から抹消されたらしいことが調査日誌の略図により窺い知れる。しかし、３号土坑の注記が施された遺物が存在することが整理最終段階に判明したため、これを加えて報告する。

遺物

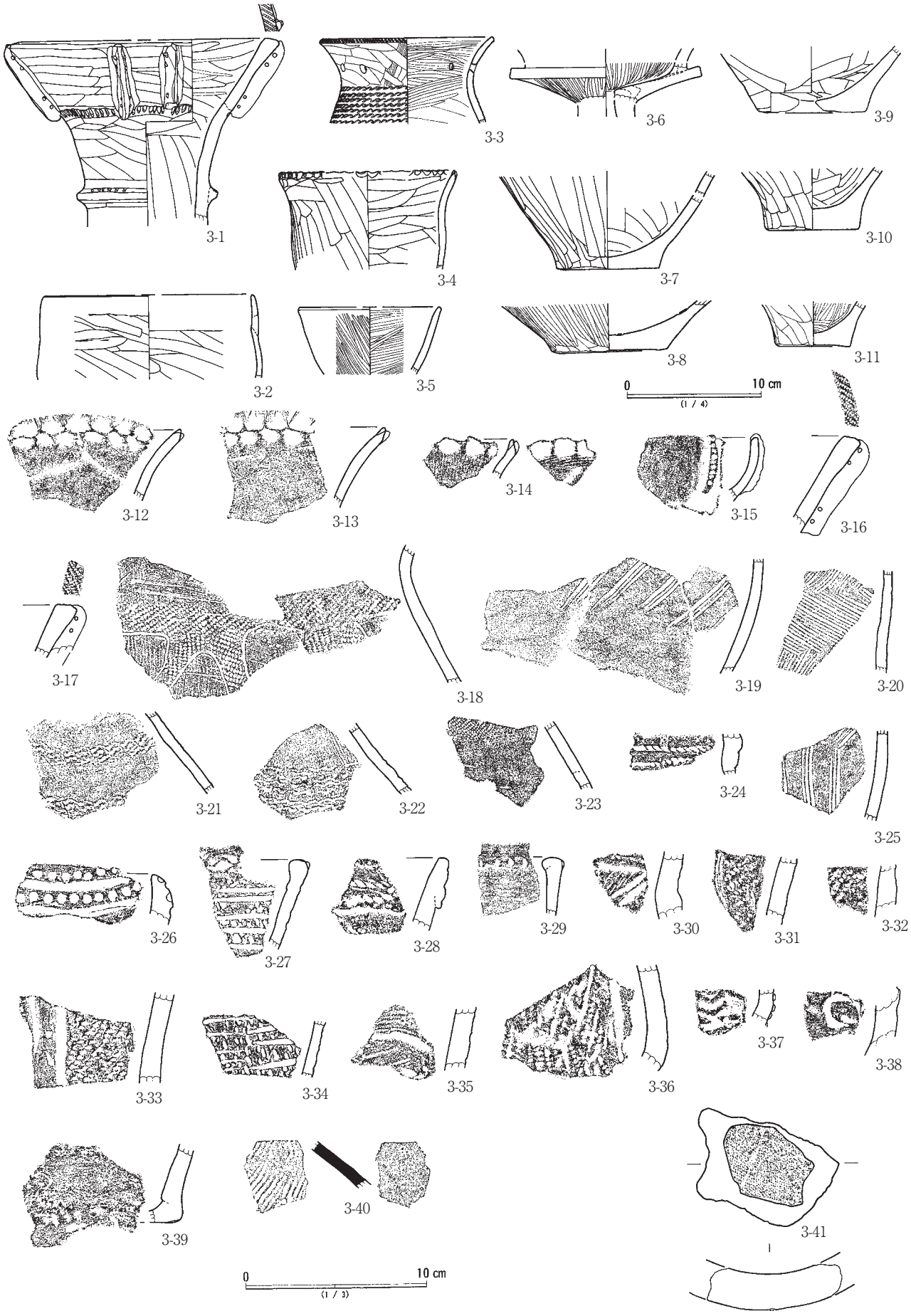
本遺構からは145点1,998gの土器片と４点370gの礫、１点54gの土製品を検出した。出土土器の主体は、106点1,449gの土師器、３点44gの須恵器、33点454gの弥生土器であり、土製品は布目瓦小片である。これらの出土遺物の内14点を図示した。本遺構出土遺物のうち３は羨道部縦坑内からの検出であるが、底部より45㎝程浮いた状態で検出され、時期的にも本遺構に直接伴うものではない。13は須恵器甕片である。外面平行敲き後一部に回転カキ目を施し、内面の青海波は半磨消しにする。古墳時代中期後葉TK－208併行期以降の所産で本墳に直接伴わない。なお13・14は玄室内からの出土であるが、何れも一括で取上げられたものである。１・２は土師器高坏および坏である。玄室以外一括なので周溝内出土ということになる。両者とも黒色処理と内面のヘラ磨きが観察される。４～ 12は当初３号土坑として調査された羨道部縦坑内一括出土遺物である。この内６・７は先の１・２と共に内外面黒色処理が施された土師器坏であり、時期的にでも限定された時期に絞り込むことができる古墳時代終末期の土器群であり、本墳に直接伴う遺物と考えられる。

３　方形周溝墓

３号遺構（方形周溝墓）



第12図　３号遺構実測図



第13図　３号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号３号方形周溝墓。ただし、調査日誌や遺構平面図・記録写真等で、後述する４号方形周溝墓とたびたび混乱した状況で記録されており、時には２号方形周溝墓と記録されるなど、遺物の一部がそれらの方形周溝墓と混交している可能性がある。

遺構は調査区西端部より検出され、西側周溝が調査区域外に存在する四隅開口形の方形周溝墓と想定される。東西方向の方台部内径は16.22m、主軸方位はN－24°－Wを示す。東側周溝は残存長6.56m幅1.20 ～ 1.48m深さ32 ～ 39㎝を測り、14 ～ 16号竪穴に削平される。西側周溝は残存長10.50m幅1.54 ～ 2.26m深さ32.5 ～ 57㎝を測り、18号竪穴を削平する。南側周溝は残存長11.98m幅1.56 ～ 1.88m深さ29.5 ～ 78.5㎝を測り、19号土坑・22号竪穴に削平される。

埋葬施設

方台部内からは埋葬施設は検出されなかった。

遺物

本遺構からは587点10,313gの土器片と５点448gの礫、１点96gの土製品が出土した。出土土器の主体は、198点2,592gの土師器、１点13gの須恵器、369点7,262gの弥生土器であり、土製品は１点96gの布目瓦片で、弥生土器の割合が圧倒的に多い。これらの出土遺物の内41点を図示した。６は西側周溝の中央部溝底面から検出された土師器器台である。10は同じく西側周溝からの検出であるが、底面より23㎝浮いた状況で検出された弥生土器底部である。その他写真図版７に本遺構南側周溝を東側から捉えた写真の中に土柱が写っている。平面図に記録が無いので明瞭な位置を落とすことができないが、調査日誌に土器の特徴を示したスケッチが残されており、３の土器であることが判明した。また、６と10は、溝底から30cm程浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

４号遺構（方形周溝墓）

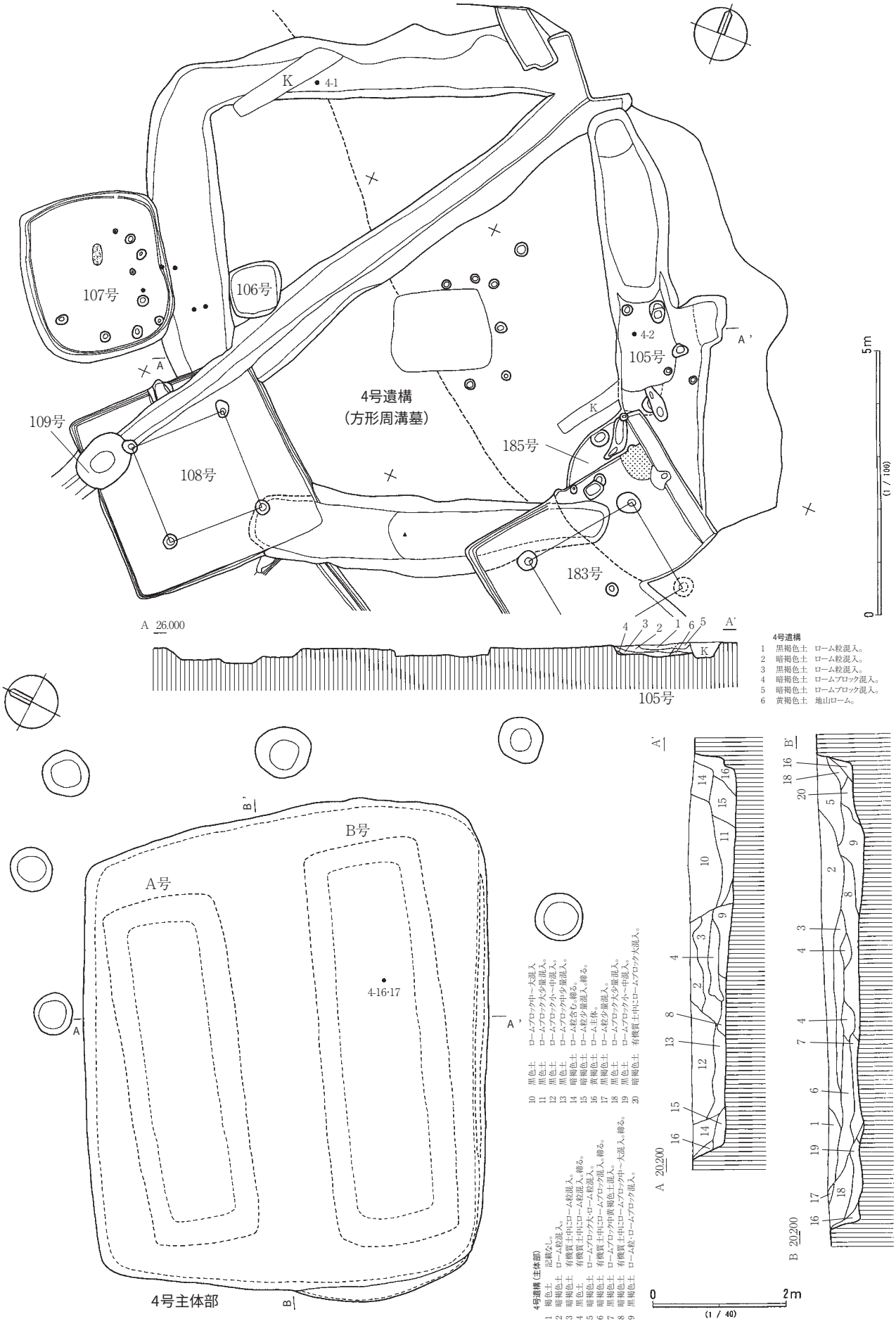
昭和53年度調査時遺構番号４号方形周溝墓。ただし、調査日誌や遺構平面図・記録写真等で、前述した３号方形周溝墓とたびたび混乱した状況で記録されており、遺物の一部が３号方形周溝墓と混交している可能性がある。

遺構は調査区中央北端に検出され、最終的には拡張によってその全貌を捉えた方形周溝墓である。重複のため遺構プランが鮮明ではないが、108号竪穴内に周溝端部が捉えられており、四隅開口形もしくは一隅開口形と想定される。

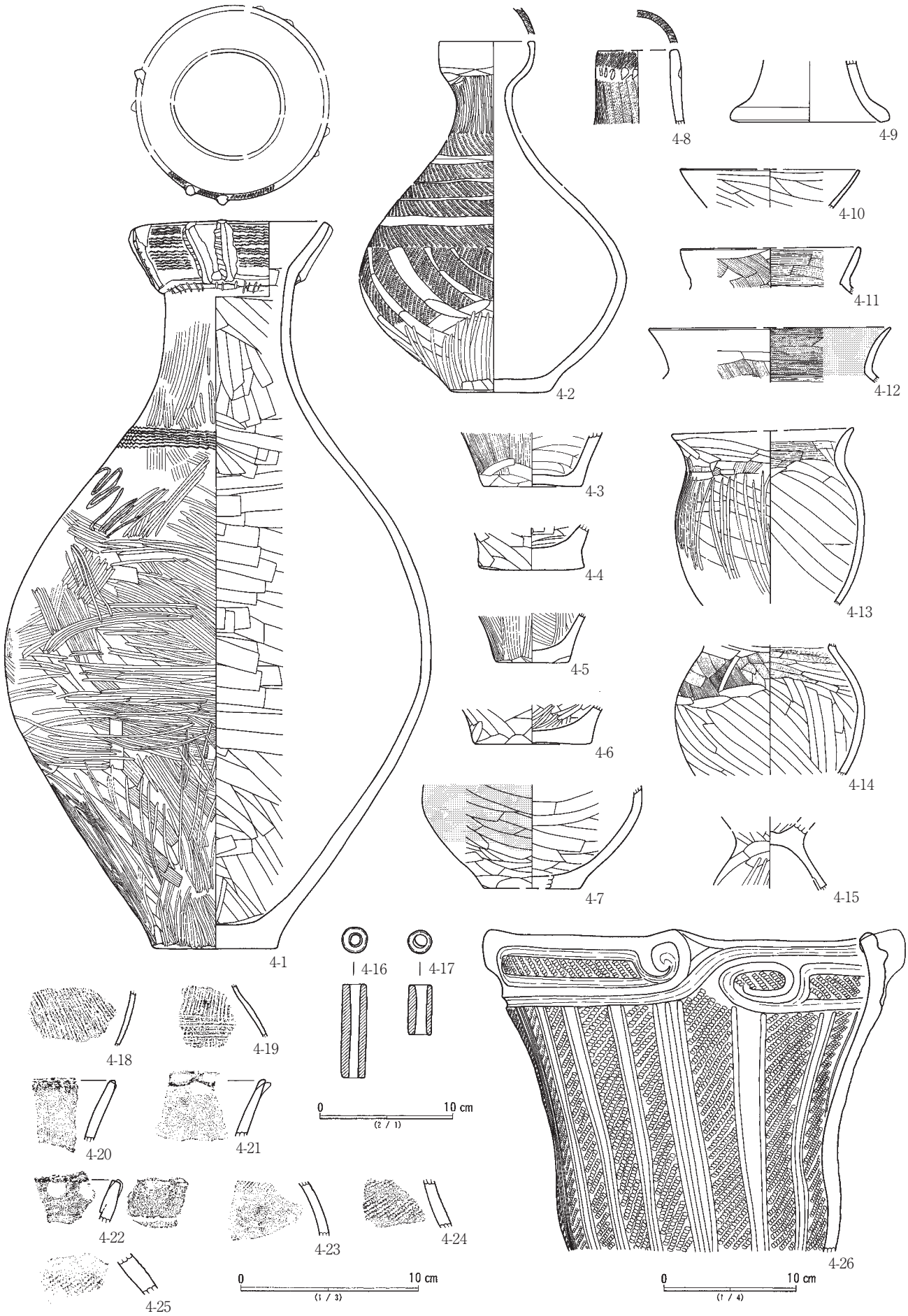
方台部南北方向の長径16.1m、東西方向の短径15.0mを測り、主軸方位はN－31°－Wを示す。東側周溝は残存長15.5m幅1.70 ～ 3.60m深さ34 ～ 53㎝を測り、105・185号竪穴を削平する。西側周溝は残存長11.9m幅2.15 ～ 2.75m深さ45㎝を測り、107・108号竪穴と352号溝に削平される。南側周溝は残存長13.7m幅1.60 ～ 3.05mを測るが、深さの測定値は無い。183号竪穴に削平される。北側周溝は残存長15.6m幅1.70 ～ 2.75m深さ28 ～ 49㎝を測る。方台部内は352号溝が走り依存状況は不良である。

埋葬施設

方台部中央南側に存在する。埋葬施設に関する記録は、上端だけ補足した遺構平面図・土層断面図・記録写真および調査日誌しか存在しない。日誌による調査者の見解は、木棺２基を併葬する埋葬施設と想定するが、木棺規模を捉えた遺構平面図が存在しないことから、どのように報告するか苦慮した。土層断面図によれば、明らかに２棺併葬の木棺痕跡を示し、しかも、B号棺内と想定される位置からは２点の極細管玉が出土している。これらのことから、管玉の位置をB号棺内被葬者左胸部と



第14図　４号遺構実測図



第15図　４号遺構出土遺物実測図

捉え、推定木棺配置を破線で復元し図化した。

平面上端と土層断面図から読取れる墓壙掘り方の規模は、長径3.6m短径3.05m、深さは26 ～ 36cmを測り、主軸方位はN－60 °－Eを示す。

遺物

本遺構からは315点12,313gの土器片と１点54gの礫、２点の管玉が出土した。重量は１点が、0.0812gもう１点が、0.0298gである。土器片の内訳は74点1,630gの土師器、233点7,911gの弥生土器、８点2,772gの縄文土器であり、これらの出土遺物の内34点を図示した。１は拡張以前の北側周溝調査区域との接点で、周溝底から20㎝程浮いた状況で、２は東側周溝中央底部で出土した壺形土器である。２は、偶然にも重複する105号竪穴床面と同一レベルで検出されているが、土層断面から本跡の方が重複する105号竪穴より新しい段階の遺構である。この他、西側周溝中央部より３点の遺物が検出されているようである。調査日誌には107号竪穴に最も隣接する遺物に鉢形土器、２個並立する遺物が壺底部と記載されるが、平面図面と遺物の双方に注記が無く特定できない。南側周溝中央部の▲印からは写真図版８に掲載した「馬上人物線刻画」なる石版に線刻された遺物が出土しているが、現在行方不明で詳細な検討ができない。これ以外の本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

５号遺構（方形周溝墓）

昭和53年度調査時遺構番号７号方形周溝墓。遺構は調査区中央やや南側に存在する方形周溝墓である。方台部長径8.82m短径7.24mを測り、長軸方位はN－91 °－Eを示す。東側周溝は201号竪穴に削平され、残存長7.14m幅0.34 ～ 0.56m深さ10 ～ 14㎝を測る。西側周溝は、長さ7.24m幅0.34 ～ 0.76m深さ12.5㎝～ 27.5㎝を測る。南側周溝は残存長9.20m幅0.38 ～ 0.68m深さ10 ～ 29.5㎝を測り、202号竪穴に削平される。北側周溝は残存長9.22m幅0.38 ～ 0.72m深さ12 ～ 22.5㎝を測る。

埋葬施設

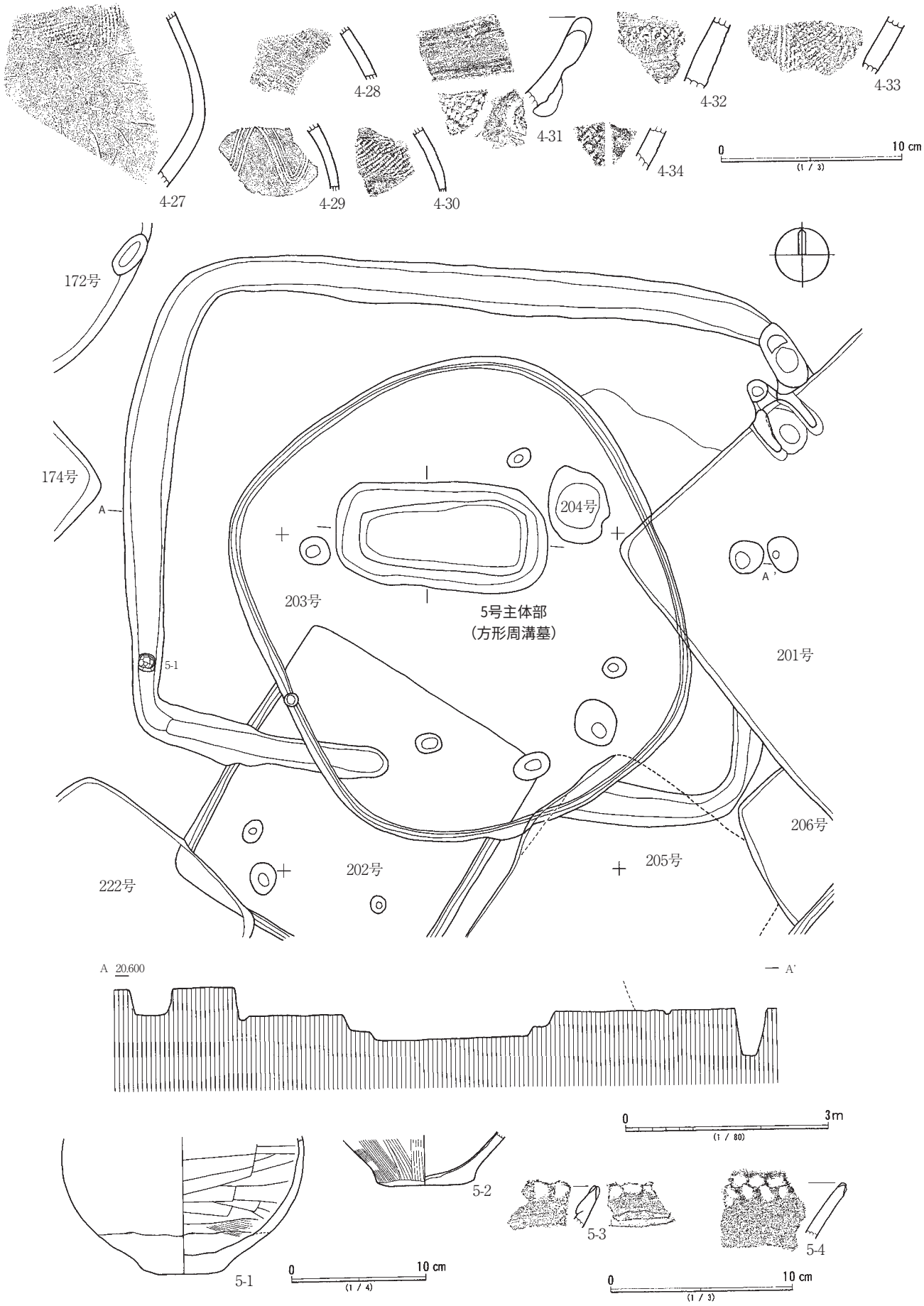
方台部中央に存在し、長さ3.20m幅1.2 ～ 1.62m長軸方位はN－91 °－Eを示す。本墓壙は２段掘りの掘り方を呈し、１段目の深さは20 ～ 27cmを測る。２段目は長さ2.52m幅0.58 ～ 0.84m深さ38 ～ 42㎝を測り、本掘り方内に木棺が安置されたと推定される。

墓壙内からは総数62点に及ぶガラス玉と１点の板状鉄斧が検出されており、出土位置の判明する全ては墓壙東側に集中する。このことから、ガラス玉出土位置を被葬者の胸部と推定すれば、本墓壙被葬者は東側に頭を向け東枕安置されていたことが察知される。

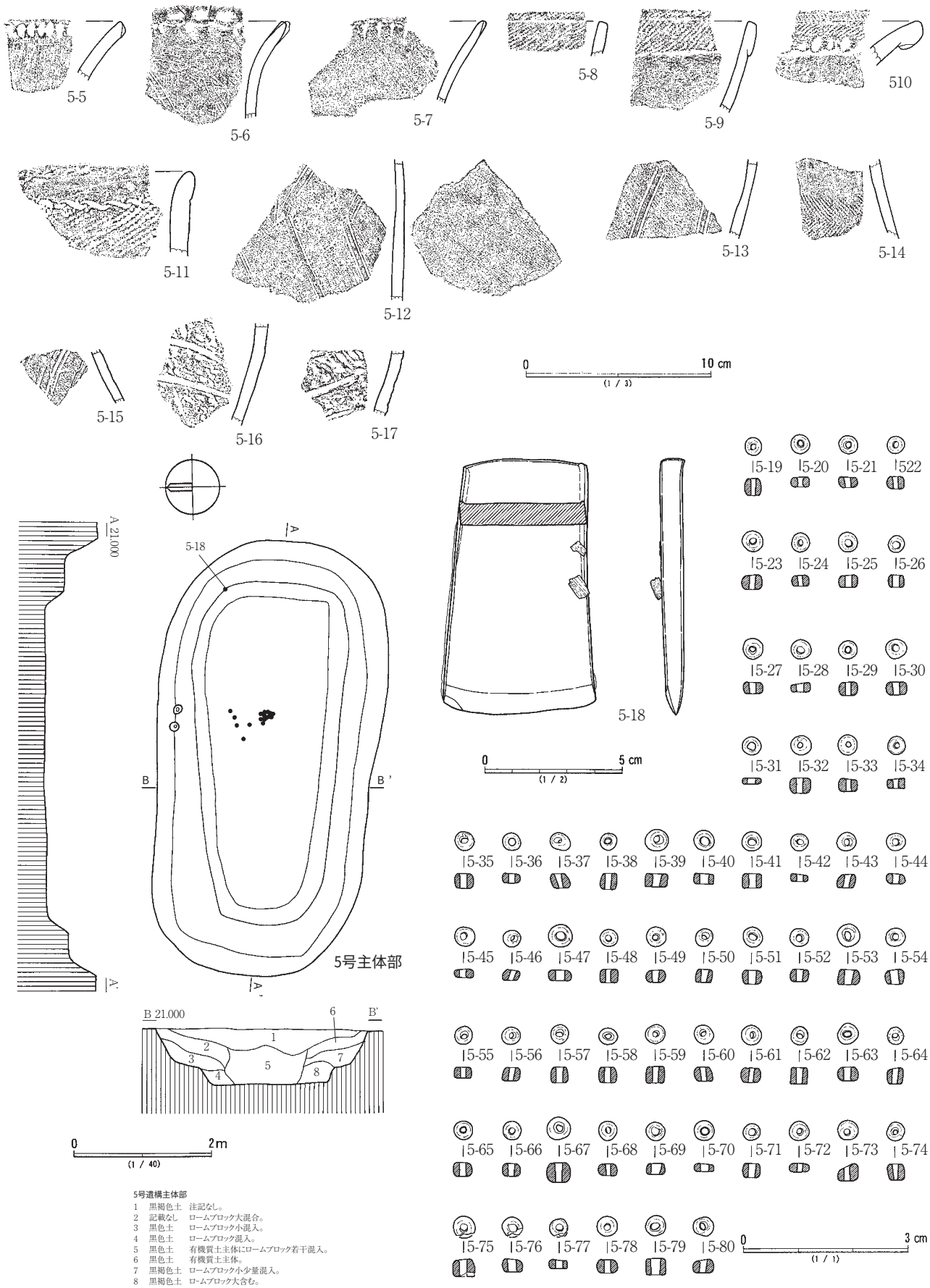
遺物

本遺構からは389点3,998gの土器片と３点72gの礫、62点2.326gのガラス玉、１点201.3gの板状鉄斧、10点110gの支脚片が出土した。土器片の内訳は11点95gの土師器、376点3,871gの弥生土器、２点32gの縄文土器であり、これらの出土遺物の内80点を図示した。１は西側周溝コーナー部付近から出土した壺形土器底部である。18は、埋葬施設東側から墓壙内に若干落下した状況で検出された板状鉄斧である。ガラス玉は墓壙中央部やや東側より底面から２～３㎝浮いた状況で検出されているが、平面図に遺物番号が記されていないため、ドットと遺物を照合できない。これ以外の本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。なお、土製品10点は何れも支脚細片であり本遺構に直接伴うものではない。

６号遺構（方形周溝墓）



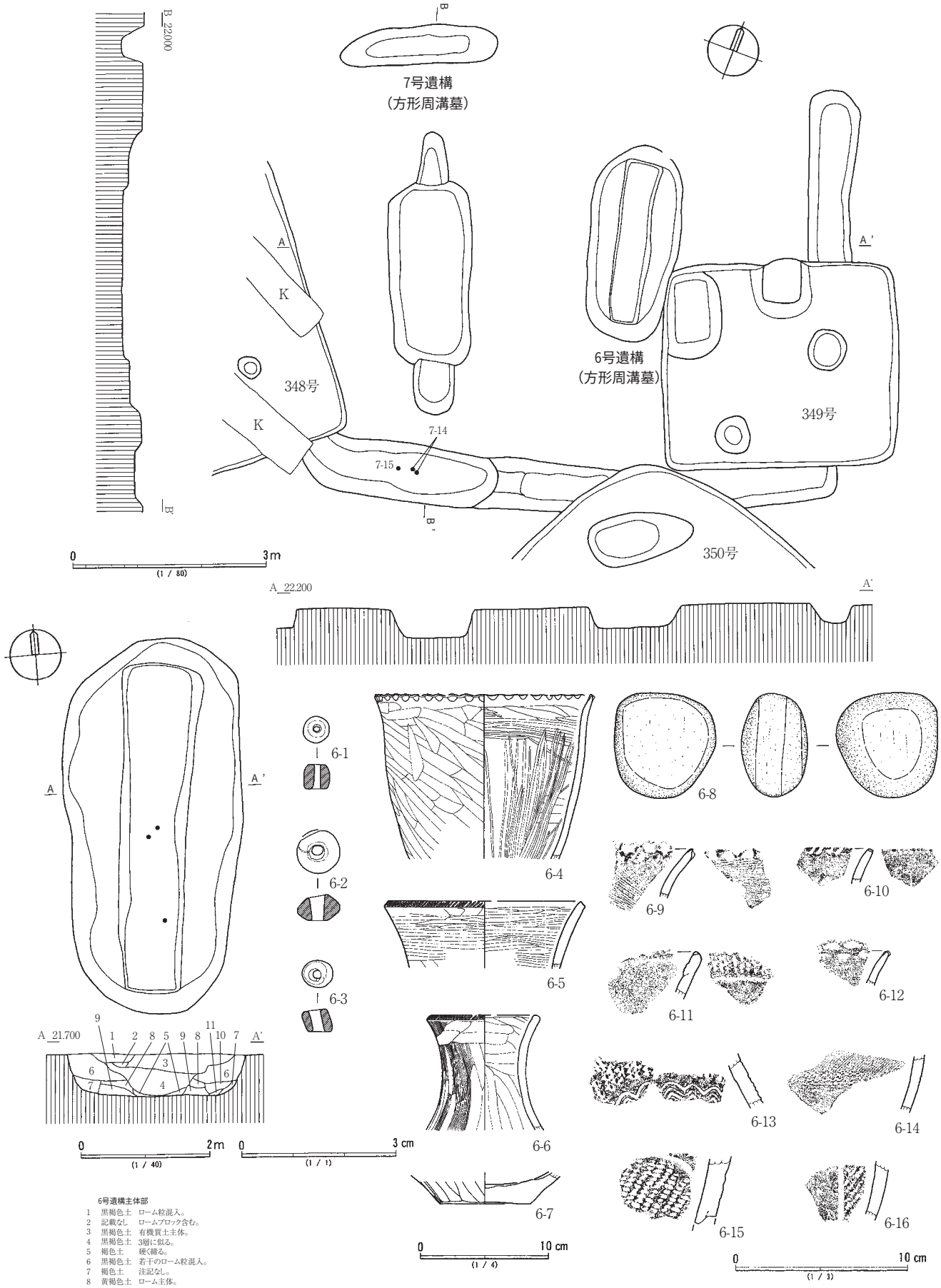
第16図　５号遺構実測図・４・５号遺構出土遺物実測図



5号遺構主体部

1　黒褐色土　注記なし。
2　記載なし　ロームブロック大混合。
3　黒色土　ロームブロック小混入。
4　黒色土　ロームブロック混入。
5　黒色土　有機質土主体にロームブロック若干混入。
6　黒色土　有機質土主体。
7　黒褐色土　ロームブロック小少量混入。
8　黒褐色土　ロームブロック大含む。

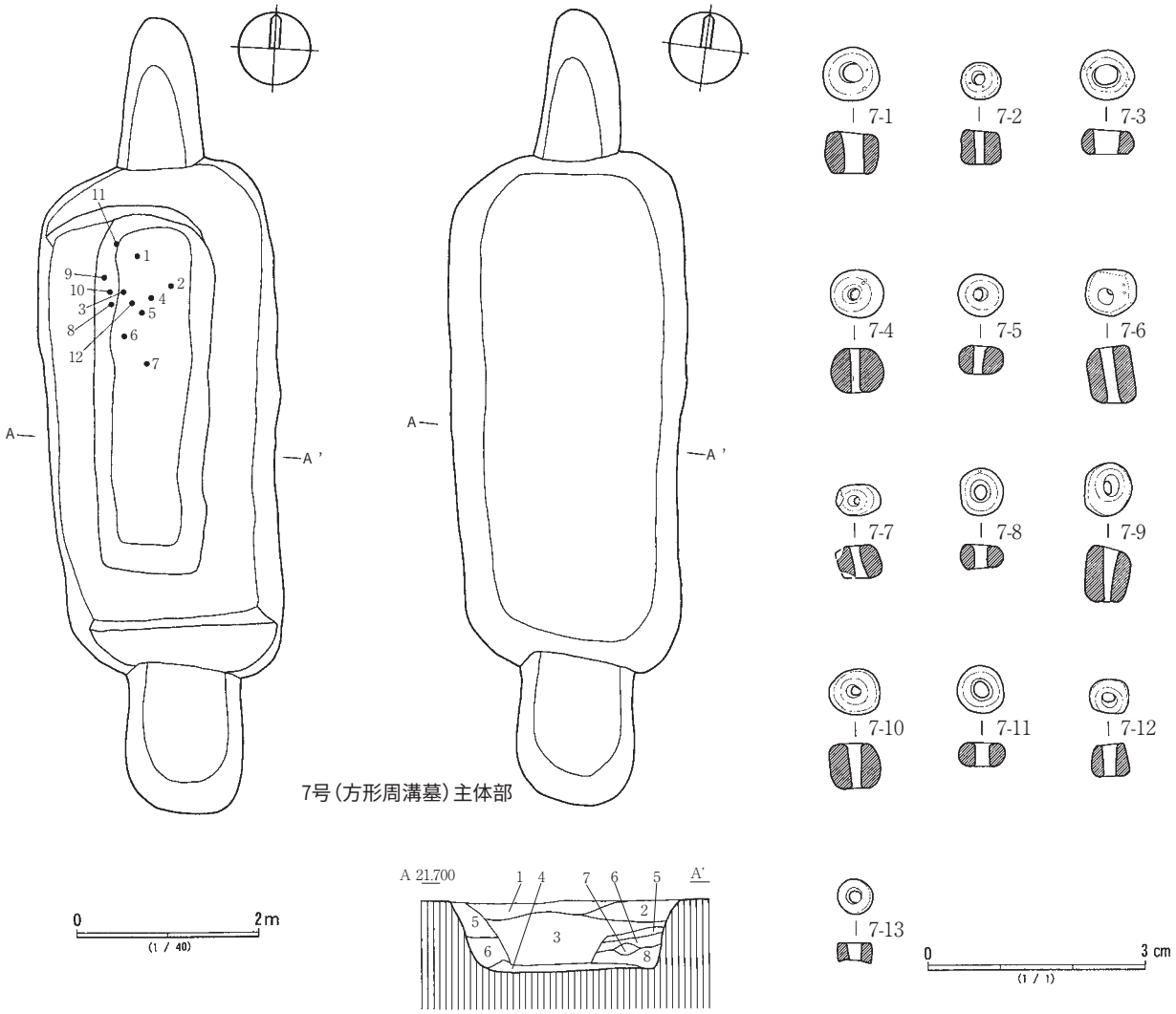
第17図　５号遺構実測図・出土遺物実測図



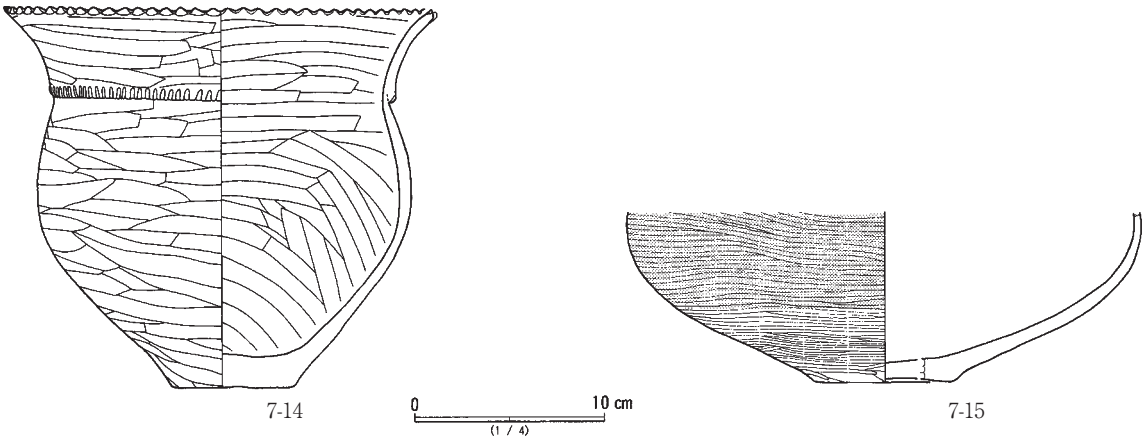
6号遺構主体部

1 黒褐色土 ローム粒混入。
2 記載なし ロームブロック含む。
3 黒褐色土 有機質土主体。
4 黒褐色土 3層に似る。
5 褐色土 硬く締る。
6 黒褐色土 若干のローム粒混入。
7 褐色土 注記なし。
8 黄褐色土 ローム主体。
9 記載なし
10 褐色土 ロームブロック主体。
11 黄褐色土 ローム主体。

第18図　６・７号遺構実測図・６号遺構出土遺物実測図



7号遺構主体部
1　黒褐色土　記載なし。
2　黒褐色土　有機質土中にローム粒混入。
3　記載なし
4　褐色土　ロームブロック含み締る。
5　黒褐色土　ローム粒混入。
6　黒色土　有機質土主体。
7　記載なし
8　黒褐色土　記載なし。



第19図　７号遺構実測図・出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号５号方形周溝墓。主体部はS ４として調査される。遺構は調査区南端部に位置し、７号方形周溝墓と一見溝を共有する方形周溝墓に見えるが、７号方形周溝墓主体部が本遺構西側周溝を削平して存在しており、当遺構の方が古い段階の方形周溝墓である。東西方向の方台部内径5.64mを測り、長軸方位はN－17 °－Wを示す。東側周溝は349号竪穴に削平されるが、残存長2.68m幅0.64 ～ 0.80m深さ10 ～ 27㎝を測る。西側周溝は、残存長4.40m幅0.34 ～ 0.62mを測るが、深さの測定値はない。南側周溝は残存長5.70m幅0.74 ～ 0.80m深さ８～ 35㎝を測り、一部350号竪穴に削平される。北側周溝は未検出である。

埋葬施設

方台部中央に存在し、墓壙の規模は長さ3.08m幅1.1 ～ 1.42m長軸方位はN－７ °－Wを示す。墓壙内を20cm程掘下げたところで木棺痕を検出した。木棺痕の規模は長さ2.58m幅0.48 ～ 0.64m深さ14㎝を測り、墓壙底面密着ないしは５㎜浮いた状況で３点のガラス玉が検出されている。

遺物

本遺構からは72点1,492gの土器片と１点188gの石器、３点0.762gのガラス玉が検出された。土器片の内訳は57点726gの土師器、13点724gの弥生土器、２点42gの縄文土器であり、これらの出土遺物の内16点を図示した。１～３は埋葬施設の木棺痕内から検出されたガラス玉であるが、平面図に遺物番号が記されていないため、ドットと遺物を照合できない。これ以外の出土遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

７号遺構（方形周溝墓）

昭和53年度調査時遺構番号６号方形周溝墓。主体部はS ５として調査される。遺構は調査区南端部に位置し、７号方形周溝墓と一見溝を共有する方形周溝墓に見えるが、７号方形周溝墓主体部が６号遺構西側周溝を削平して存在し、かつ、６号南側周溝西側端部をさらに深く掘り込んで構築されており、当遺構の方が新しい段階の方形周溝墓である。南北方向の方台部内径5.90mを測り、長軸方位はN－14 °－Wを示す。東西周溝は未検出であるが、西側周溝は348号竪穴に削平された可能性が高い。南側周溝は長さ3.08m幅0.80 ～ 0.90m深さ23 ～ 33㎝、北側周溝は長さ2.48m幅0.54 ～ 0.88m深さ20 ～ 28㎝を測る。

埋葬施設

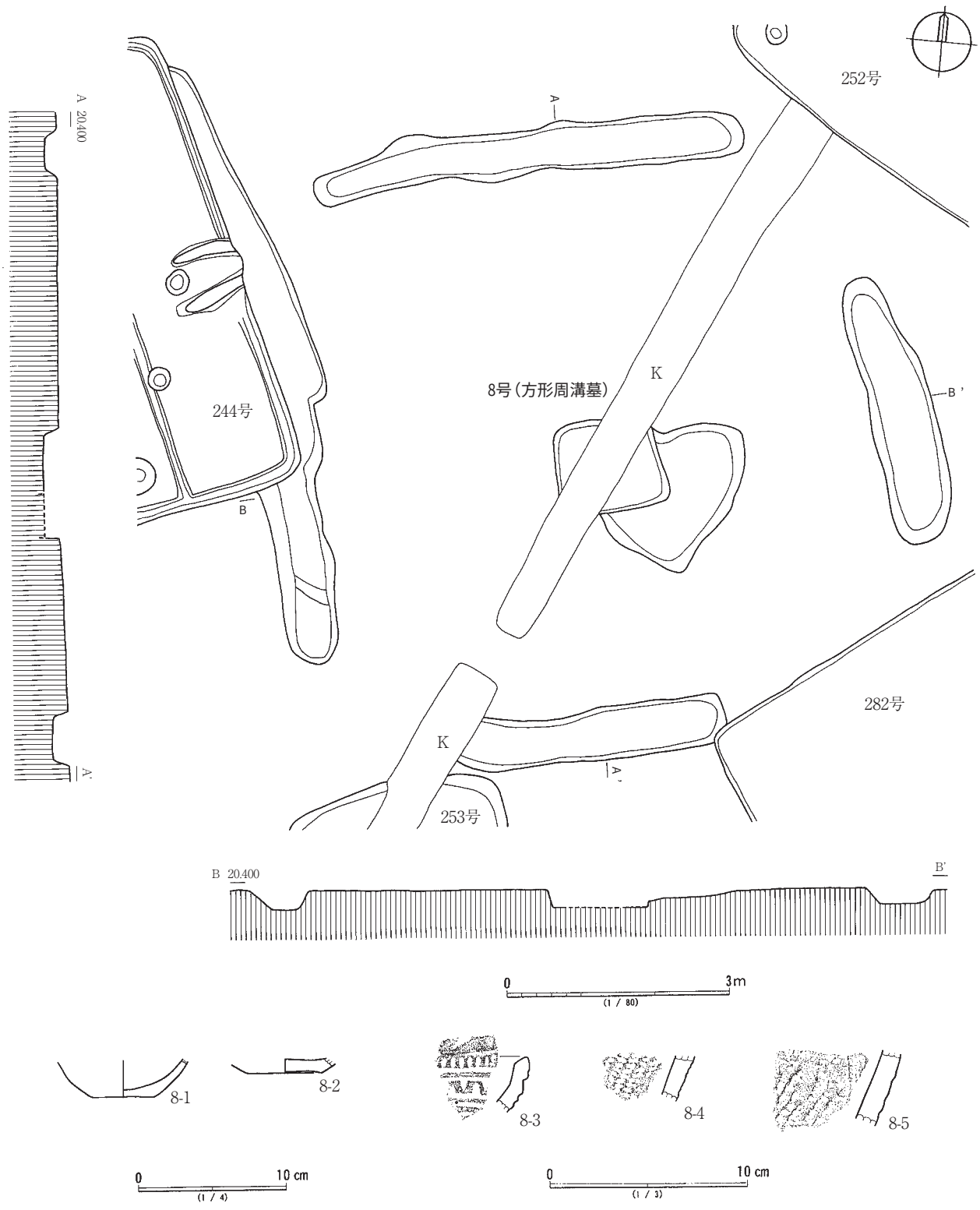
南北周溝間のほぼ中央に存在し、墓壙規模は、長さ2.88m幅1.18 ～ 1.28m長軸方位はN－14 °－Wを示す。墓壙内を20cm程掘下げたところで木棺痕を検出した。木棺痕の規模は長さ2.00m幅0.58 ～ 0.68m深さ20㎝を測り、木棺痕の北側に偏った位置で、12点のガラス玉を検出した。この内９の番号を付すものは墓壙底面より６㎝程浮いた状況で、それ以外は底面密着の状況で検出されている。

遺物

本遺構からは39点1,732gの土器片と、12点3.252gのガラス玉、１点0.14gの臼玉が検出された。土器片の内訳は７点42gの土師器、32点1,690gの弥生土器であり、これらの出土遺物の内15点を図示した。

１～ 12は埋葬施設の木棺痕内から検出されたガラス玉である。14・15は南側周溝から検出された弥生甕・壺である。これ以外の出土遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

８号遺構（方形周溝墓）



第20図　８号遺構実測図・出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号８号方形周溝墓。調査区域北東部、１号方形周溝西側に存在する四隅開口形の方形周溝墓である。東西方向方台部長径7.78m南北方向短径7.48mを測り、主軸方位はN－77°－Eを示す。東側周溝は長さ3.68m幅0.54 ～ 0.90m深さ13.5 ～ 17.5㎝、西側周溝は長さ8.40m幅0.70 ～ 0.80m深さ７～ 24㎝を測る。南側周溝は撹乱により西端部を欠くが、残存長3.66m幅0.60 ～ 0.74m深さ15 ～ 23.5㎝を測る。北側周溝は長さ5.96m幅0.46 ～ 0.68m深さ11 ～ 14.5㎝を測る。

埋葬施設

埋葬施設ではないが、方台部内中央に長さ1.46m幅1.28m深さ17㎝の方形土坑が存在する。

遺物

本遺構からは33点304gの土器片が検出された。土器片の内訳は６点84gの土師器、21点150gの弥生土器、６点70gの縄文土器であり、これらの出土遺物の内５点を図示した。１は弥生土器甕底部であるが、内外面とも磨耗が激しい。２は土師器甕底部である。３～５は縄文土器片である。これらの遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

９号遺構（方形周溝墓）

昭和53年度調査時遺構番号９号方形周溝墓。調査区域南東に位置し、10号方形周溝墓と溝を共有する方形周溝墓である。また、東側周溝は３号溝として調査・注記され、遺物は352号溝ないしは１号円形周溝内土坑（調査時遺構番号３号溝）の整理箱に混交した状況で保管されていたが、記録写真により本跡に関わる遺物を抜き取ることができた。

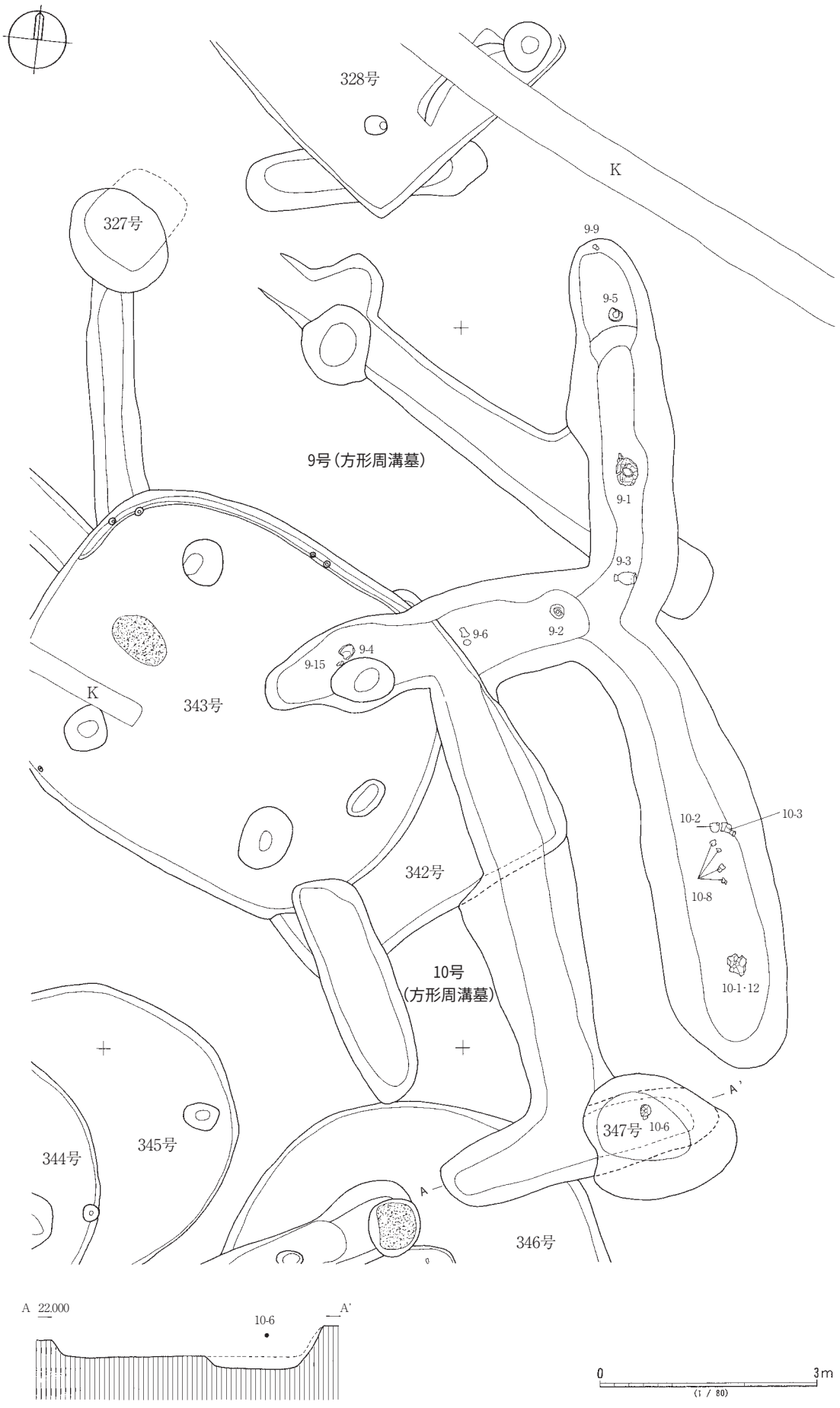
遺構は重複激しく明確な遺構プランの把握ができないが、北側周溝の途切れ具合から、四隅開口形の方形周溝墓と想定される。方台部東西方向の長径は6.60m、南北方向の短径6.12mを測り、主軸方位はN－82 °－Eを示す。東側周溝は長さ5.76m幅1.10 ～ 1.46m深さ33㎝前後を測る。西側周溝は343号竪穴と重複し、残存長3.42m幅0.58 ～ 0.76mを測るが、深さの測定値がない。南側周溝は10号方形周溝墓と重複し、長さ5.80m幅0.68 ～ 1.40m深さ33 ～ 72㎝を測る。北側周溝は長さ3.34m幅0.54 ～ 0.78mを測るが、深さの測定値はない。

埋葬施設

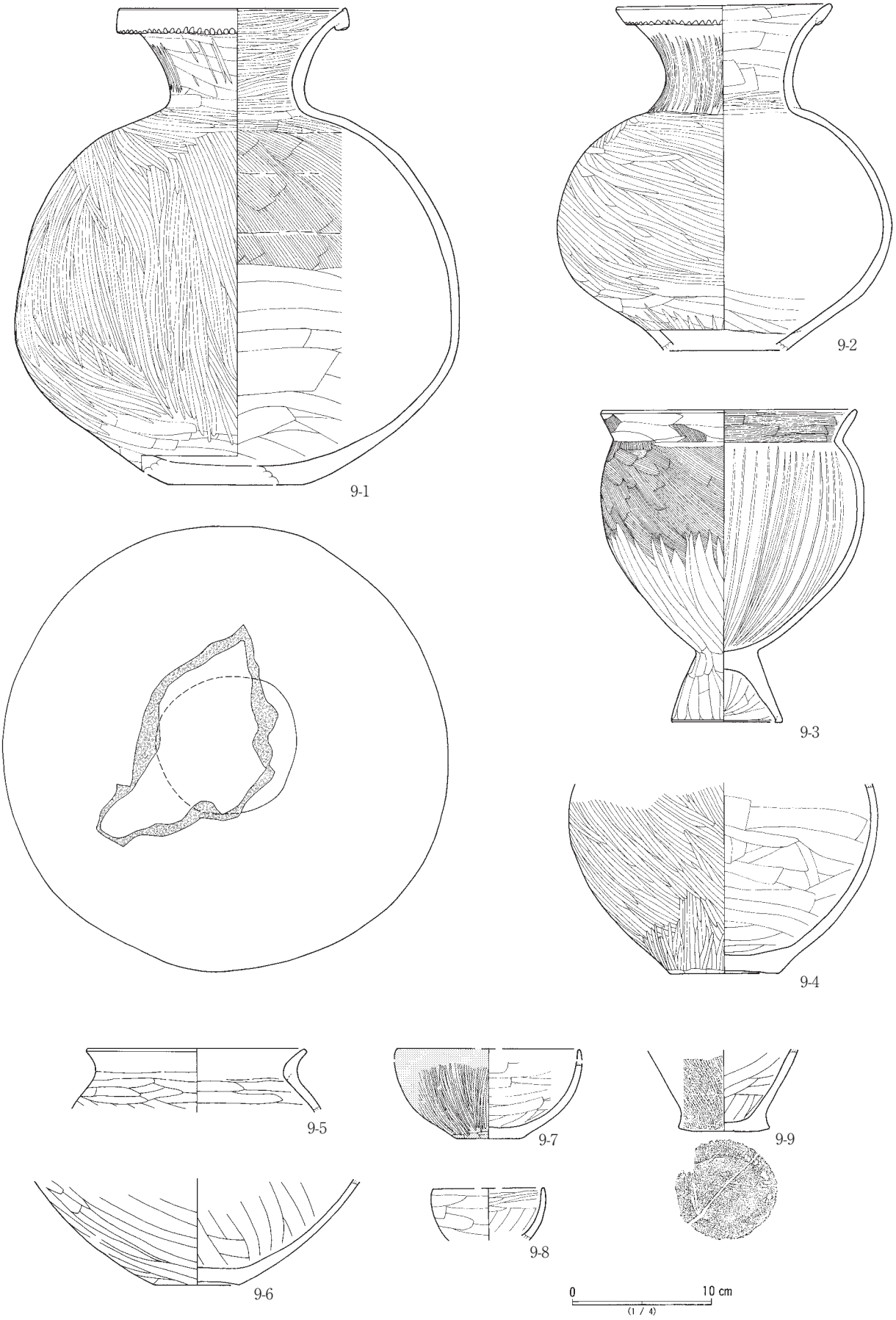
埋葬施設ではないが、方台部内には溝とピットが検出されている。出土遺物が存在しないようなので何れも時期不明である。

遺物

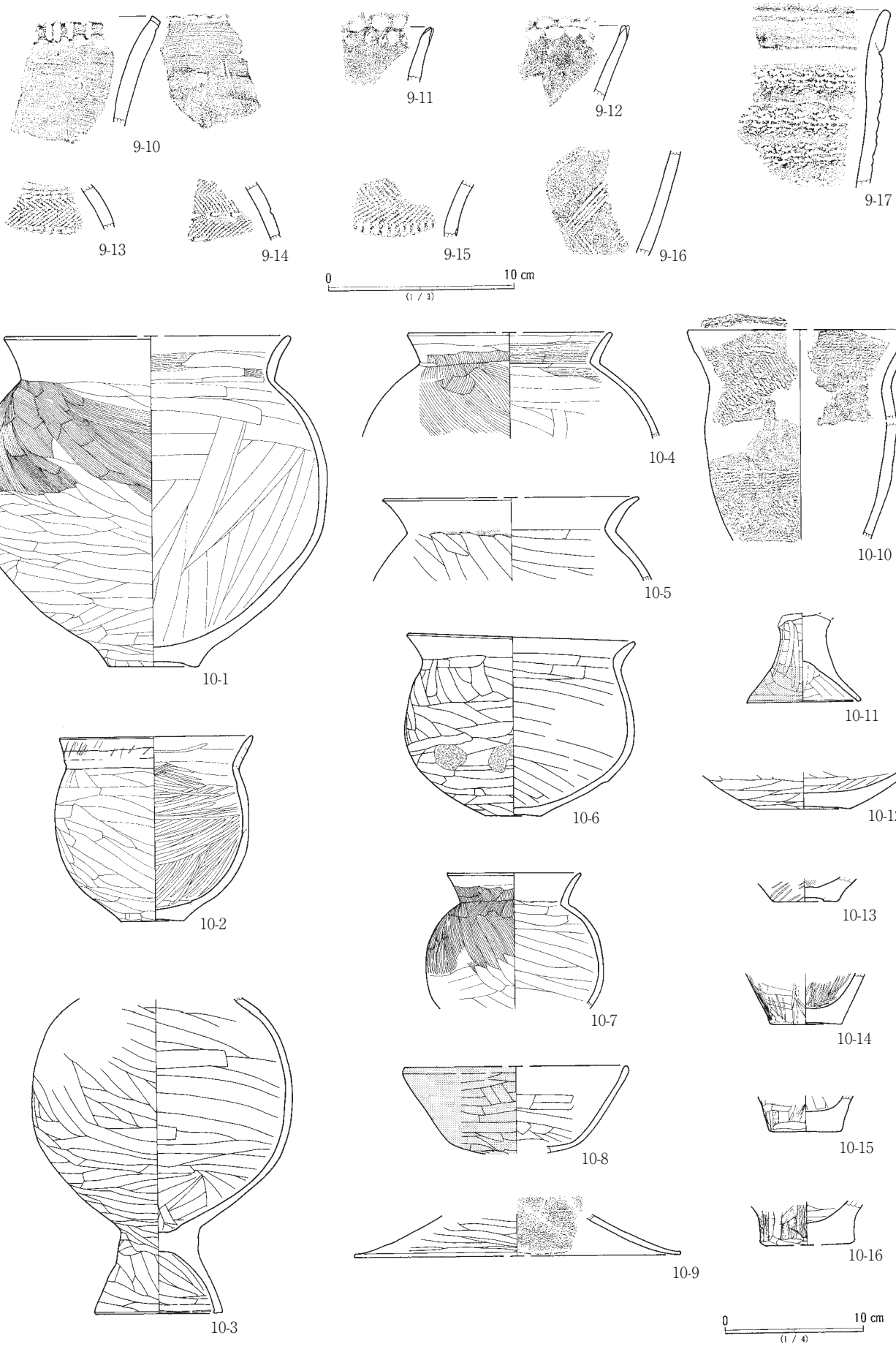
本遺構からは237点11,527gの土器片と２点120gの礫が検出された。土器片の内訳は25点8,074gの土師器、198点3,133gの弥生土器、14点320gの縄文土器であり、これらの出土遺物の内17点を図示した。１は焼成後底部穿孔の土師器壺である。東側周溝底から30㎝浮いた状況で検出されている。２は同じく焼成後底部穿孔の土師器壺である。南側周溝底から25㎝浮いた状況で検出された。この他４が2.2㎝、６が６㎝、15が12.2㎝底面から浮いた状況で検出されている。この中で１・２の番号を付した遺物は、形状は異なるが造りのよく似た土器であり、同時期の同一工人の作品であろうと思われる。そこで南側周溝から出土した土器群は、全て９号方形周溝墓に伴う遺物として取扱ったが、後述する10号方形周溝墓の遺物と対比しても明瞭な時期差を見出すことができない。したがって、９号方形周溝墓南側周溝遺物が、全て10号方形周溝墓北側出土遺物として取扱っても何ら遜色がない程両者の時間的な差を見出すことができない。そうであれば、当初から溝を共有する方形周溝墓として構築されて



第21図　9・10号遺構実測図



第22図　９号遺構出土遺物実測図



第23図　9・10号遺構出土遺物実測図

いた可能性も十分考えられる。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

10号遺構（方形周溝墓）

昭和53年度調査時遺構番号２号方形周溝墓。調査区域南東に位置し、９号方形周溝墓と溝を共有する方形周溝墓である。重複激しく明確な遺構プランの把握ができないが、東及び南側周溝の途切れ具合から、一隅開口形の方形周溝墓と想定される。方台部南北方向の長径は6.32m、東西方向の短径は4.46mを測り、主軸方位はN－24 °－Wを示す。東側周溝は長さ7.26m幅1.00 ～ 1.76m深さ43㎝前後を測る。西側周溝は長さ3.22m幅0.72 ～ 1.04m深さ64.5㎝を測る。南側周溝は347号土坑と重複するが、遺物の出土状態よりその覆土周辺は10号方形周溝墓に伴うものと推定され、第21図に推定ラインを破線で示した。推定長2.20m残存幅0.72 ～ 1.10m残存深度は59㎝を測る。北側周溝は、９号方形周溝墓と共有する。

埋葬施設

埋葬施設が所在すると想定される方台部内中央は、342号竪穴と11号方形周溝墓によって削平されており、埋葬施設は検出することができなかった。

遺物

本遺構からは308点10,175gの土器片と１点12gの土製品が検出された。土器片の内訳は156点6,717gの土師器、145点3,314gの弥生土器、７点144gの縄文土器であり、土製品は支脚片である。これらの出土遺物の内35点を図示した。１・２は土師器甕、３は土師器台付甕、８は土師器高坏である。何れも東側周溝からの出土であるが、それぞれ周溝底から28㎝・44㎝・38㎝・44㎝浮いた状況で検出されている。６・12は土師器甕である。それぞれ残存する南側周溝の延長上より28㎝浮いた状況で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものは無い。

11号遺構（方形周溝墓）

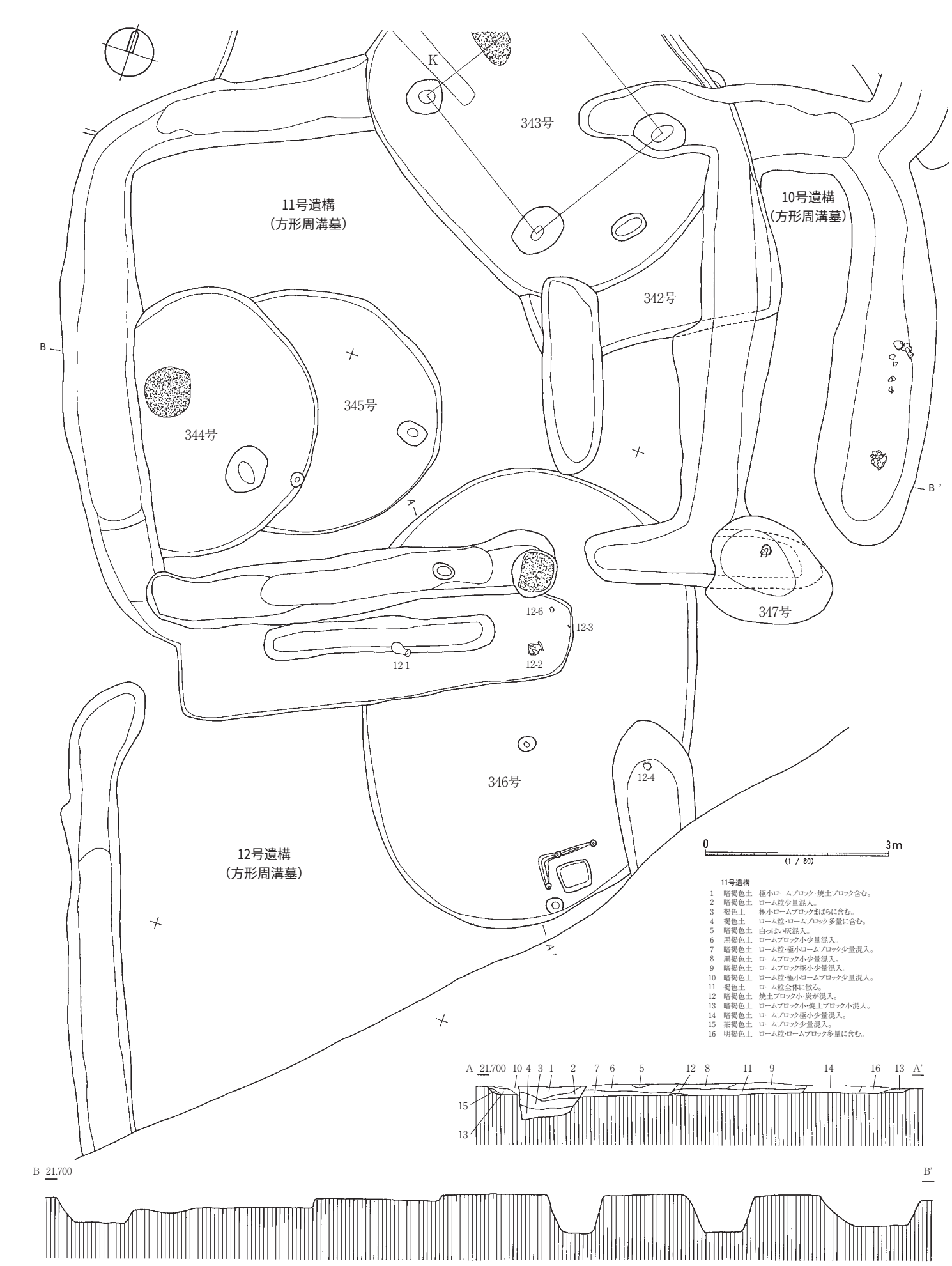
昭和53年度調査時遺構番号１号方形周溝墓。調査区域南東に位置し、10号方形周溝墓と交差し12号方形周溝墓と溝を接する方形周溝墓である。完掘された遺構プランから、一隅開口形の方形周溝墓と想定される。方台部東西方向の長径は9.66m、南北方向の短径は7.26mを測り、主軸方位はN－61 °－Eを示す。東側周溝は長さ8.36m幅0.68 ～ 1.68m深さ59 ～ 63.5㎝を測る。西側周溝は長さ8.80m幅0.88 ～ 1.36m深さ18 ～ 43㎝を測る。南側周溝は長さ10.44m幅0.80 ～ 1.04m深さ35 ～ 59㎝を測る。北側周溝は長さ10.46m幅0.88 ～ 1.28m深さ21 ～ 39㎝を測る。南側周溝の中央部は周囲より一段深く下がっており、対面する12号方形周溝墓北側溝中央部と類似する周溝内土坑と想定される。その規模は、長さ3.84m幅0.52 ～ 0.66m周溝底からの深さ18㎝を測る。

埋葬施設

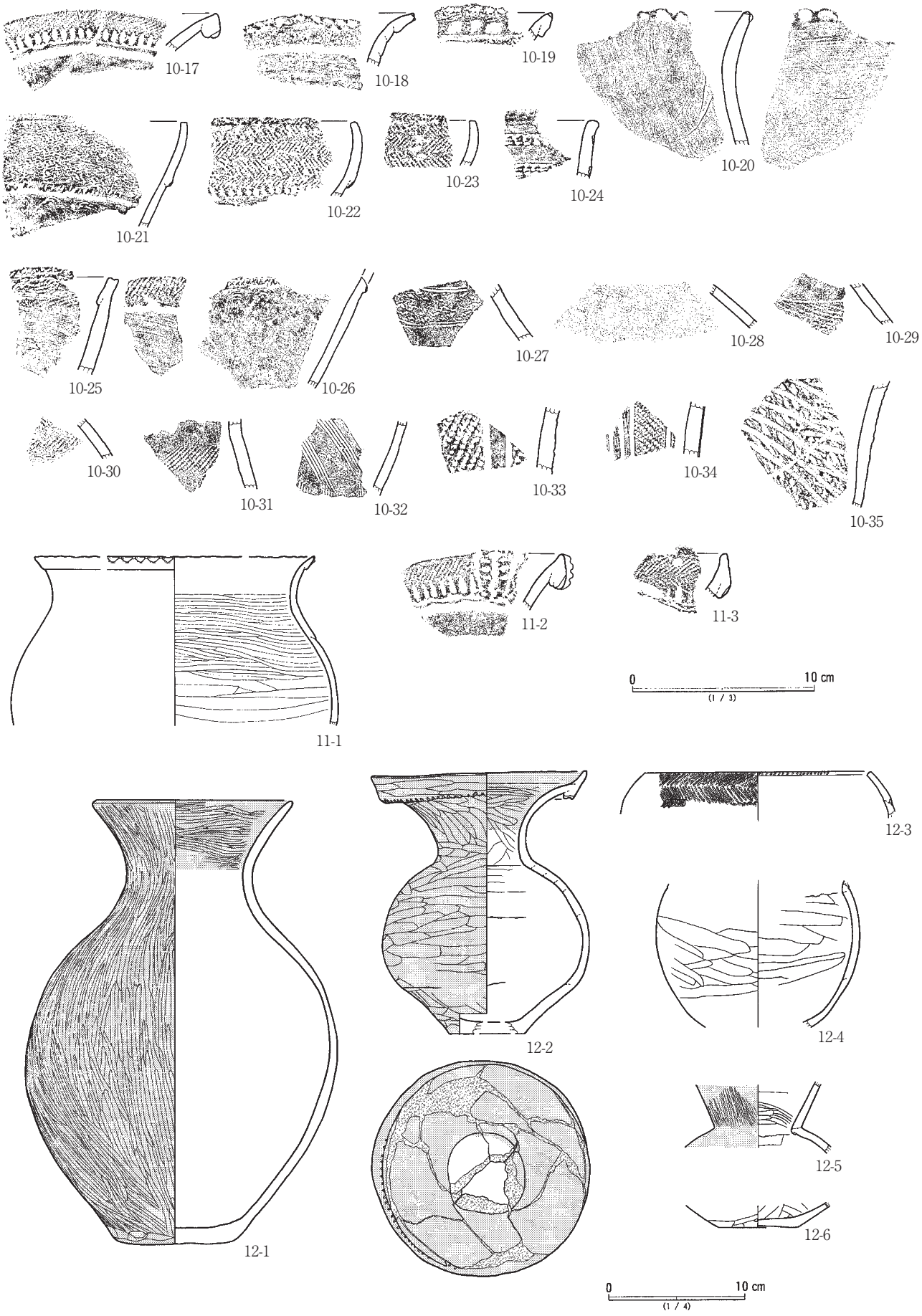
方台部内からは、埋葬施設は検出されなかった。

遺物

本遺構からは80点787gの土器片と、２点40.7gの礫が検出された。土器片の内訳は16点148gの土師器、64点639gの弥生土器であるが、細片が多く図示至る遺物は少ない。これらの出土遺物の内３点を図示した。何れも弥生土器壺甕類であるが、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものでは無い。



第24図　11・12号遺構実測図



第25図　10・11・12号遺構出土遺物実測図

12号遺構（方形周溝墓）

昭和53年度調査時遺構番号10号方形周溝墓。調査区域南東に位置し、11号方形周溝墓と北周溝を接して存在する方形周溝墓である。南側周溝は調査区域外に存在すると想定され、調査区内で完掘された遺構プランから、四隅開口形の方形周溝墓と想定される。方台部東西方向の内径は8.68mを測る。西側周溝方台部側の傾きは、N－29 °－Wを示す。東側周溝は残長2.54m幅1.24 ～ 1.32m深さ34 ～ 43㎝を測る。西側周溝は長さ5.48m幅0.78 ～ 1.04m深さ14 ～ 28㎝を測る。北側周溝は長さ6.56m幅1.42 ～ 1.58m深さ22㎝を測る。中央部は周囲より一段深く下がっており、周溝内土坑と想定される。その規模は、長さ3.86m幅0.52 ～ 0.60m周溝底からの深さ10 ～ 13㎝を測り、主軸方位はN－61 °－Eを示す。

本跡は、346号竪穴と重複しており、346号竪穴を新段階の遺構と捉え調査したことが土層断面や遺物の取上げ方から判断される。しかし、９号方形周溝墓から出土する底部穿孔壺など、この時期この種の壺は住居にではなく墳墓に供献されるものと判断する。また本跡出土遺物とした遺物の検出状況（写真図版108で346号竪穴遺物出土状況）を見ると、硬く引き締まった346号炉付近の床面は11・12号方形周溝墓溝が存在する範囲で断ち切られていること。本遺構東側周溝覆土は、明らかに346号竪穴覆土を切って構築されていることが土層断面の乾き具合から垣間見ることができる。さらに調査日誌にも本跡東側周溝を346号竪穴とは別の落ち込みとして捉えらえていることから、346号竪穴に先行する方形周溝墓として報告し、第21図土層断面には破線で示した。

埋葬施設

方台部内からは、埋葬施設は検出されなかった。

遺物

全て346号竪穴出土として取上げられた遺物であるが、前述した理由をもって本跡遺構範囲から出土したと想定される遺物は本遺構からの出土遺物として取扱った。また５は、346号竪穴一括出土の土師器坩形土器であり、確実に346号竪穴には伴わない土器であるため、本跡出土の遺物として取扱う事にした。

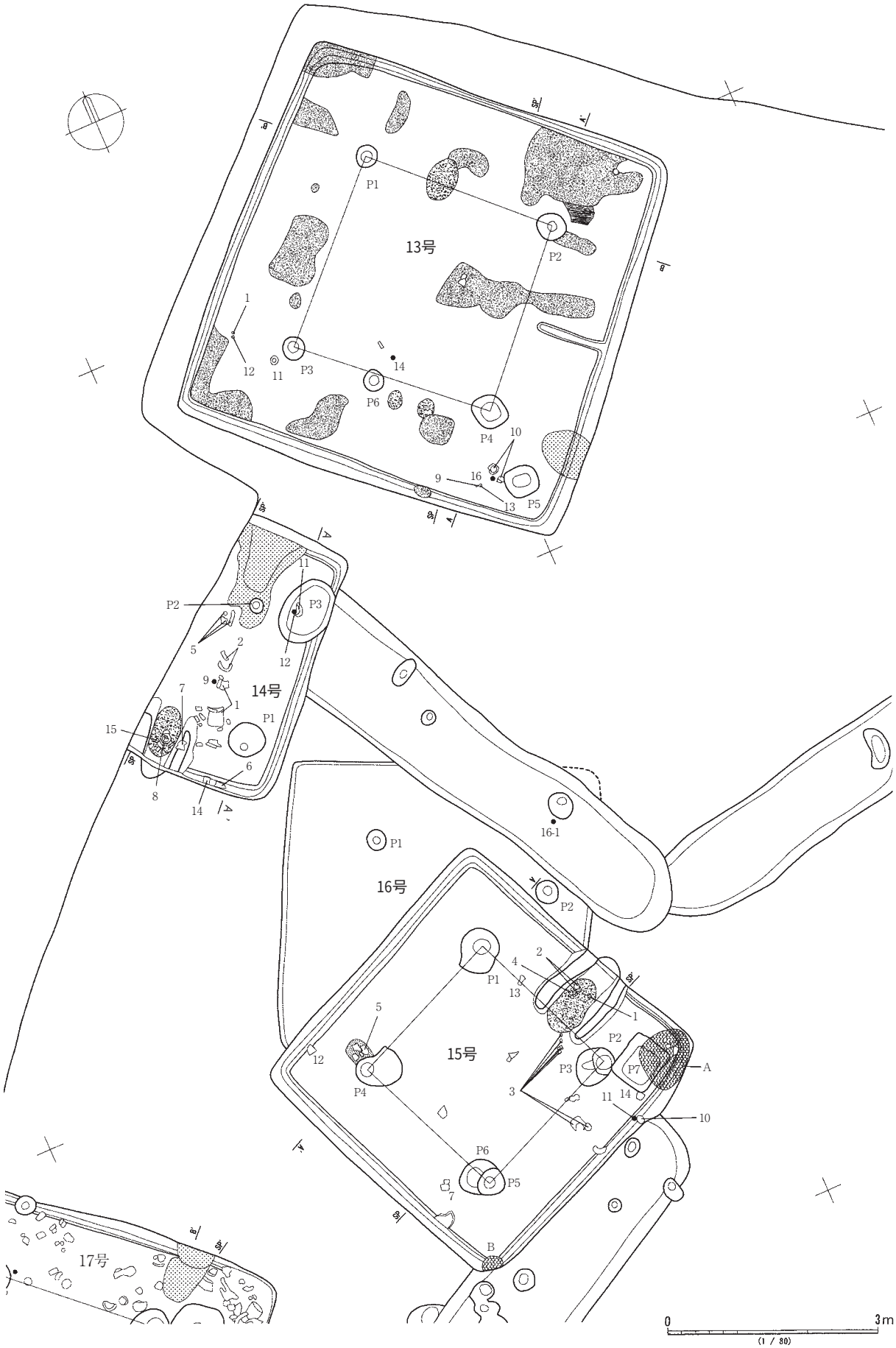
その結果、本跡からは６点3,333gの土器片が検出されたことになる。土器片の内訳は４点1,063gの土師器、２点2,270gの弥生土器である。１は弥生の壺形土器であり、周溝底からは38㎝浮いた状態の出土となる。２は周溝底から36㎝浮いた状況で検出された土師器（弥生）底部穿孔壺である。底部の穿孔は焼成後に施されている。３は36cm、４は22㎝、６は44㎝周溝底から浮いた状況で検出された遺物である。この他の遺物は、346号竪穴一括遺物と混在してしまった可能性が高い。

４　竪穴・土坑・再葬墓・溝など

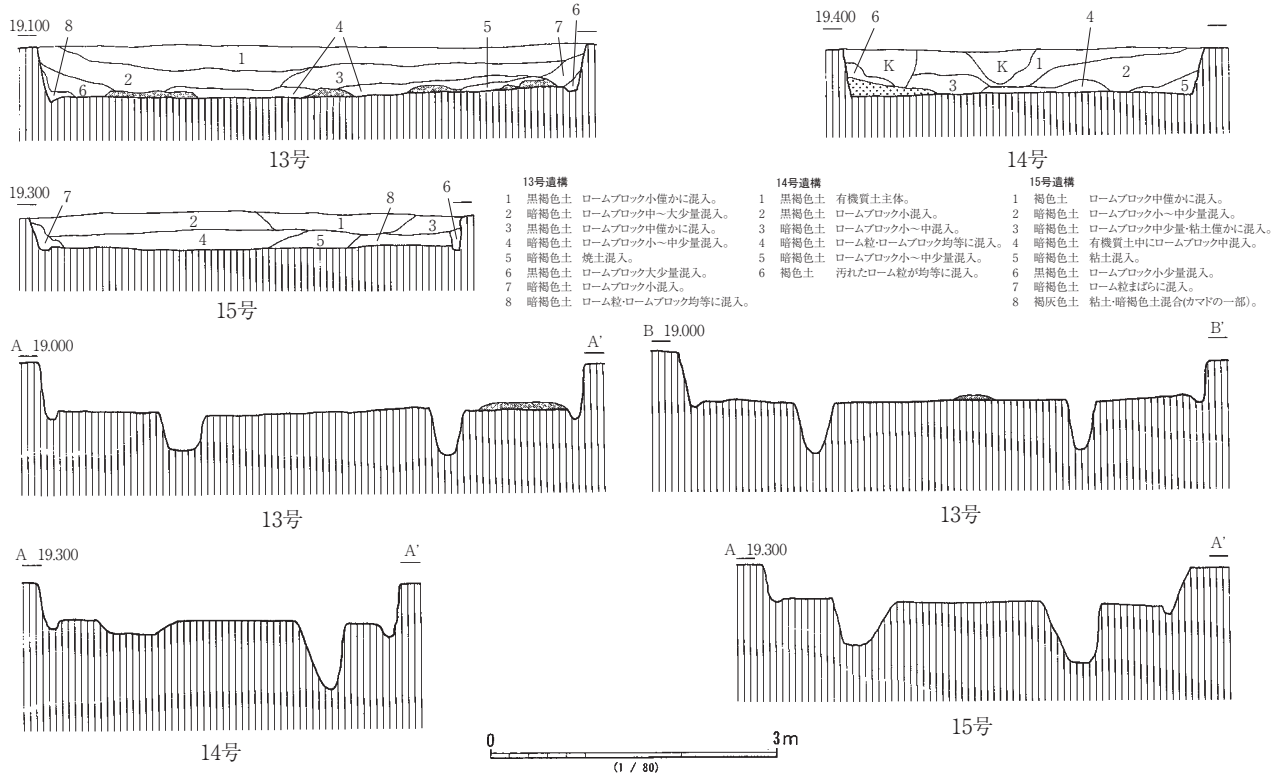
13号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号265号。調査区北西端部に存在する方形の竪穴住居跡である。長径5.82m短径5.78mを測り、主軸方位はN－43 °－Eを示す。炉は３ヶ所に検出された。最大規模の炉はＰ１～Ｐ２間に存在し、火床長軸長0.64m幅0.4m深さ11㎝を測り、火床長軸方位はN－48 °－Eを示す。Ｐ６～Ｐ４間に所在する炉は、それぞれ長さ30㎝幅20㎝深さ５㎝、長さ30㎝幅25㎝深さ15㎝と調査日誌に記され、小ぶりながらＰ４に近い位置の炉の方が若干大きい。

残存する壁高は、それぞれ北東壁43㎝、南東壁54㎝、北西壁35㎝、南西壁53㎝を測り、南東壁が最も遺存状態がよい。周溝は全周し、深さは４～８㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれほ



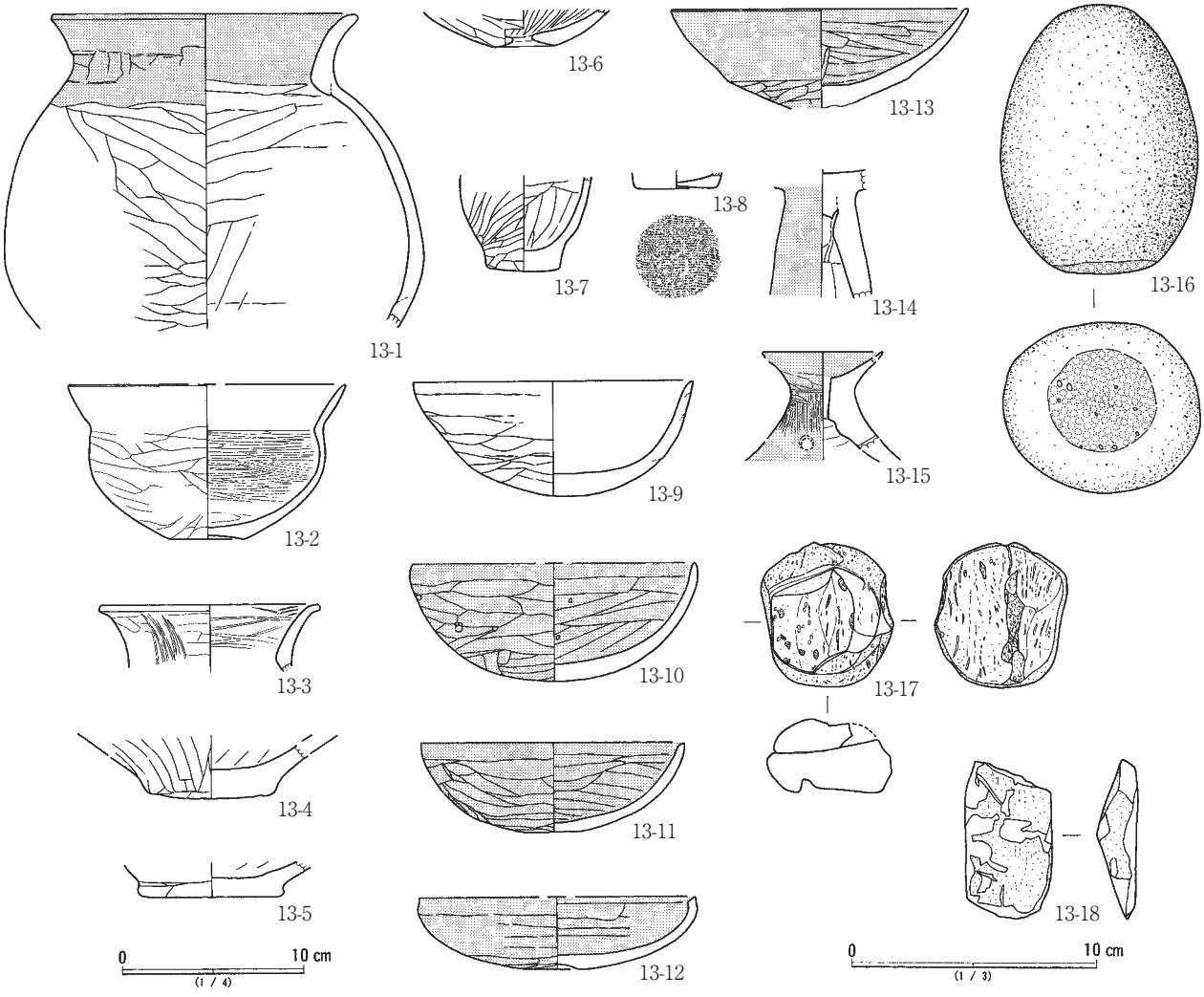
第26図　13 ～ 16号遺構実測図



13号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック小僅かに混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中～大少量混入。
3 黒褐色土 ロームブロック中僅かに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
5 暗褐色土 焼土混入。
6 黒褐色土 ロームブロック大少量混入。
7 暗褐色土 ロームブロック小混入。
8 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック均等に混入。

14号遺構
1 黒褐色土 有機質土主体。
2 黒褐色土 ロームブロック小混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック均等に混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
6 褐色土 汚れたローム粒が均等に混入。

15号遺構
1 褐色土 ロームブロック中僅かに混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック中少量・粘土僅かに混入。
4 暗褐色土 有機質土中にロームブロック中混入。
5 暗褐色土 粘土混入。
6 黒褐色土 ロームブロック小少量混入。
7 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
8 褐灰色土 粘土・暗褐色土混合(カマドの一部)。



第27図　13～15号遺構実測図・13号遺構出土遺物実測図

ぼ平坦であり、硬く締まる。焼土は14ヶ所に検出され厚さ４～27cmを測る。北西コーナー部に焼土の堆積が、南西コーナー部付近に炭化物が認められた。ピットは６ヶ所に検出され、深さはそれぞれＰ１が54cm、Ｐ２が53cm、Ｐ３が51cm、Ｐ４が35cm、Ｐ５が56cm、Ｐ６が24cmを測る。Ｐ１～Ｐ４は掘り込みもしっかりしており主柱穴と考えられる。間仕切り溝はP２～Ｐ４間に存在し、長さ0.98m幅15cm、深さは８cmを測る。

この他にカマドとしては調査されなかったが、南東壁際のP４前面に粘土の堆積が認められた。日誌では工作用粘土材とするが、カマド片袖分の粘土量と見れば、主柱穴前面の壁際粘土堆積は本遺跡では17・134・159号竪穴に同様の堆積が認められ、134号竪穴ではカマドとして調査されている。また2004年度に報告書が刊行された御林跡遺跡72号遺構（竪穴住居）でもカマドとして調査されており、今後カマド導入期の同類粘土堆積は十分な留意が必要であろう。

遺物

本遺構からは932点13,621gの土器片と11点1,239.9gの礫・石器、１点4.40gの有孔円盤、１点5.8gの土製品が検出された。土器片の内訳は859点12,658gの土師器、57点713gの弥生土器、16点250gの縄文土器であり、石器は920gの磨石・敲石、１点43.9gの砥石、１点14gの軽石である。なお、本来は石製模造品である有孔円盤は、便宜的に玉類として表計算上集計している。土製品は見た目と断面形状が貝輪製品に類似する釧状土製品である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

19は、神門３号墳出土とほとんど同一寸法の手焙形土器片の覆部端部片である。今回復元実測にあたり、神門３号墳出土手焙形土器実測図に投影して図化した。その結果、神門３号墳出土手焙の端部正面文様構成は、鉢部口縁端部から２・３・２・３・３配列の円形刺突文が折り返されるのに対し、本跡の場合、同位置に置換えると３・２・３・２配列の円形刺突文が繰返される文様構成となる。また、覆部を構成する沈線による鋸歯状文が交錯しながら逆配列を成すようであり、そうすると復元実測図ではそのままとした鉢部綾杉文の配置も神門３号墳の手焙と逆配置となる可能性が高い。

14号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号255号。調査区北西端部、13号竪穴南西に存在する竪穴住居跡である。遺構西側は調査区域外に存在するものと捉えられ、残存長3.90mを測り、主軸方位はN－138°－Wを示す。カマドは南西側の壁面に接して構築されており、火床長軸長0.76m幅0.4m深さ８cmを測り、火床長軸方位はN－139°－Wを示す。

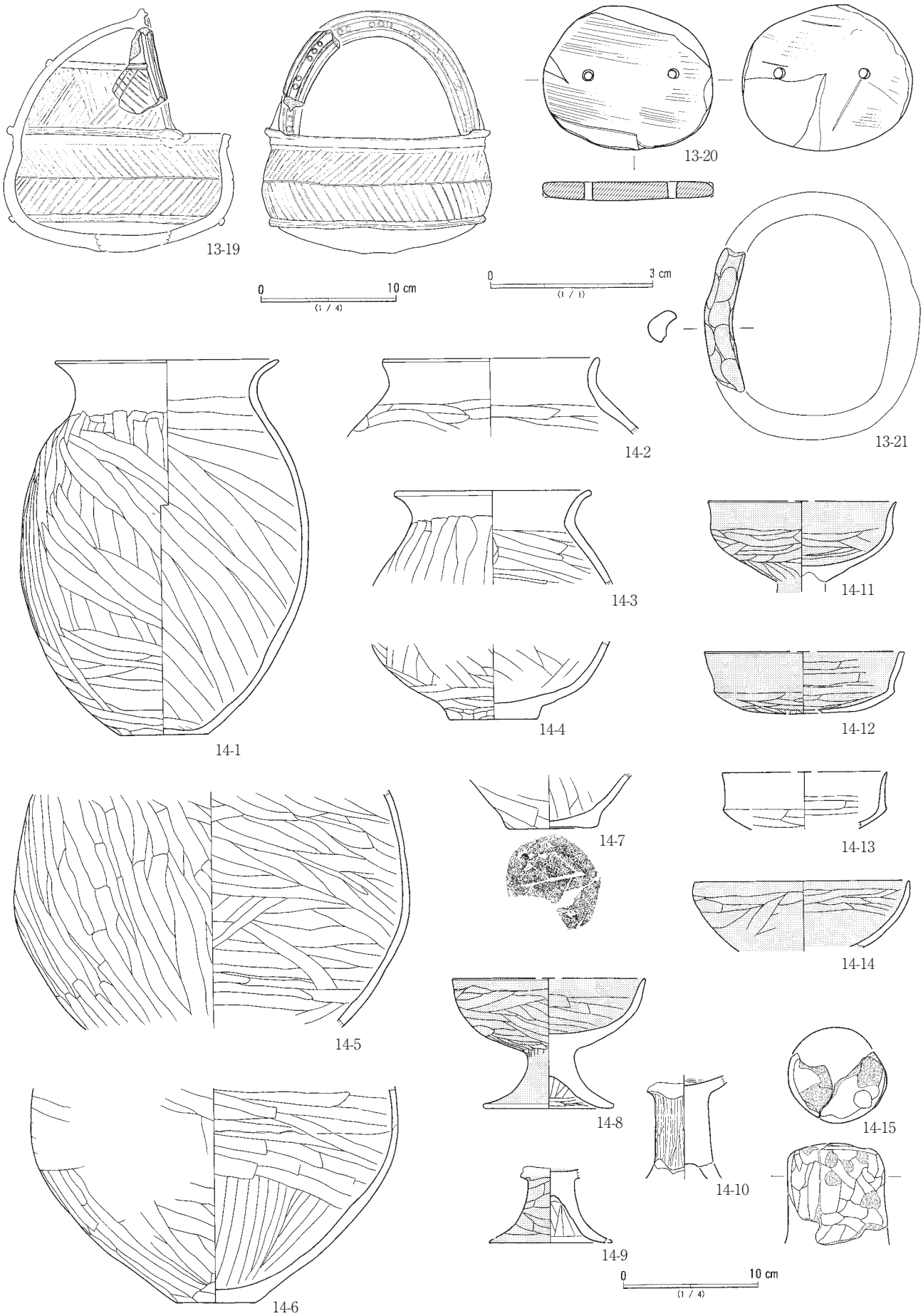
残存する壁高は、それぞれ南東40cm、南西43cmを測り、残存する北東壁の測定値はない。周溝は検出面で全周し、深さは12～14cmを測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、ほぼ平坦であり、硬く締まる。ピットは３ヶ所に検出され、深さはそれぞれＰ１が71cm、Ｐ２が15cm、Ｐ３が14cmを測る。Ｐ１は掘り込みもしっかりしており主柱穴と考えられる。

この他に、北東壁際の床面からのＰ２付近まで深さ最大21cmの粘土混じりの堆積が認められた。

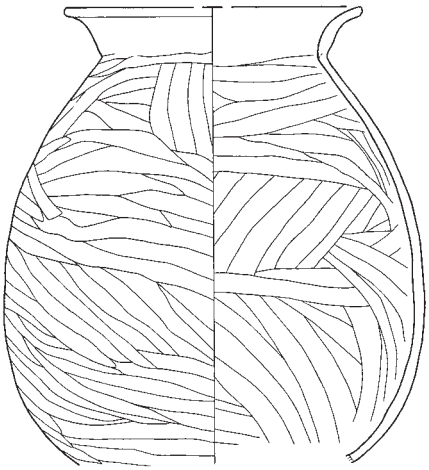
遺物

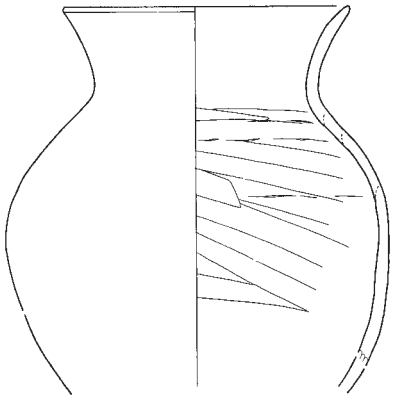
本遺構からは101点6,780gの土器片と１点170gの土製品が検出された。土器片の内訳は100点6,760gの土師器、１点20gの弥生土器であり、土製品はカマド内出土の支脚片である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

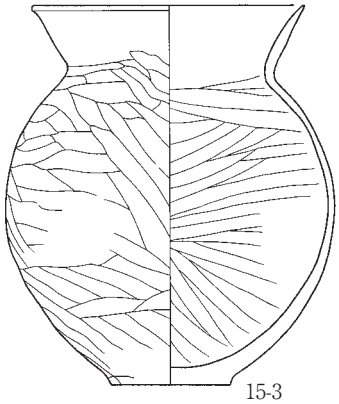
１はカマド前面の床面から出土したほぼ完形の土師器甕である。２・５・９は遺構中央の床面から、

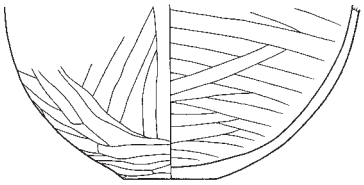


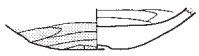
第28図　13・14号遺構出土遺物実測図

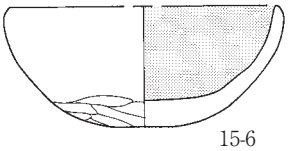

15-1

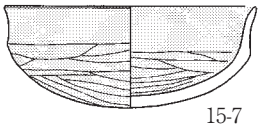

15-2

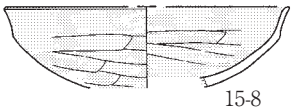

15-3

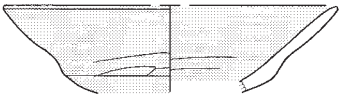

15-4

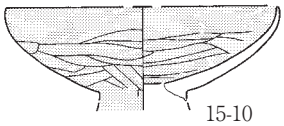

15-5

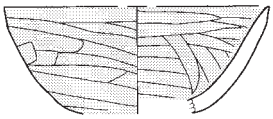

15-6

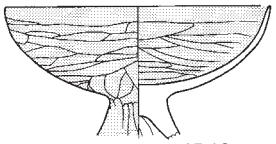

15-7

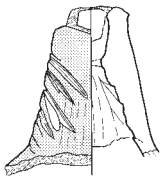

15-8

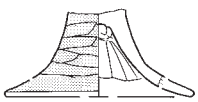

15-9


15-10

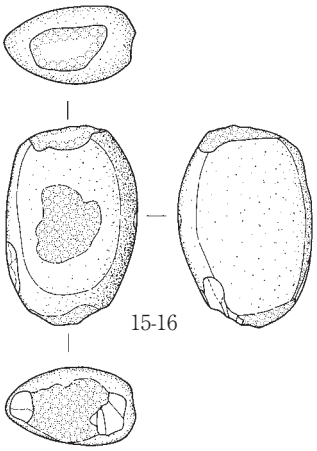

15-11

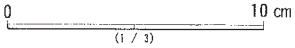

15-12

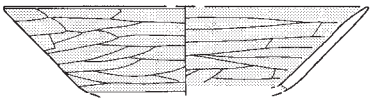

15-13

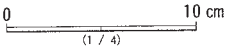

15-14

15-15






16-1



第29図　15・16号遺構出土遺物実測図

７はカマド袖に密着して検出された。８・15カマド内で検出された高坏と支脚である。６・14は南西側の壁際で床面から５㎝浮いた状況で検出されている。

この他P ３内底面から若干浮いて11が、その下から12が重なった状態で検出されるが、Ｐ ３は、本遺構の周溝部分を切った状態で検出されており、本遺構に直接伴う遺構かどうかは微妙である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

15号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号253A号。14号竪穴南側に位置し３号方形周溝墓と16号竪穴を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。東西方向の長径4.53m南北方向の短径4.48mを測り、主軸方位はN－67 °－Eを示す。カマドは東側の壁面に接して構築されており、火床長軸長0.90m幅0.4m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－65 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ東41㎝、西32㎝、南34㎝、北28㎝を測り、東側の遺存状況が良好である。周溝は全周し、深さは４～12㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれほぼ平坦であり、硬く締まる。ピットは７ヶ所に検出され、深さはそれぞれP １が50㎝、Ｐ ２が58㎝、Ｐ ３が27㎝、Ｐ ４が64㎝、Ｐ ５が55㎝、Ｐ ６が26㎝、Ｐ ７が50㎝を測る。Ｐ １・Ｐ ２・Ｐ ４・Ｐ ５は、掘り込みもしっかりしており主柱穴と考えられ、方形のP ７は貯蔵穴である。

この他に、貯蔵穴上部の東コーナー部Aと南コーナー部Bの２ヶ所から、住居廃絶後の２次堆積による貝ブロックが検出されている。Aは90×70㎝厚さ20㎝を測る。Bは30×20㎝を測るが厚さの測定値はない。

遺物

本遺構からは299点8,498gの土器片と４点290gの礫･石器が検出された。土器片の内訳は289点8,251gの土師器、５点150gの弥生土器、１点22gの手づくね土器、４点75gの縄文土器であり、１点170gの石器は敲石である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

１・２・４・６はカマド内からの出土である。３はカマド前面とP ２～Ｐ ５間の床面から出土し、接合関係を有する甕である。５・７・10・11は周溝内やその周辺の床面付近から、13は床面より13㎝浮いた状態で検出されている。12はカマド付近の床面から出土した高坏脚部であるが、脚部外面に鋭利な刃物を研いだようなV字形の刻みが９条確認できる。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

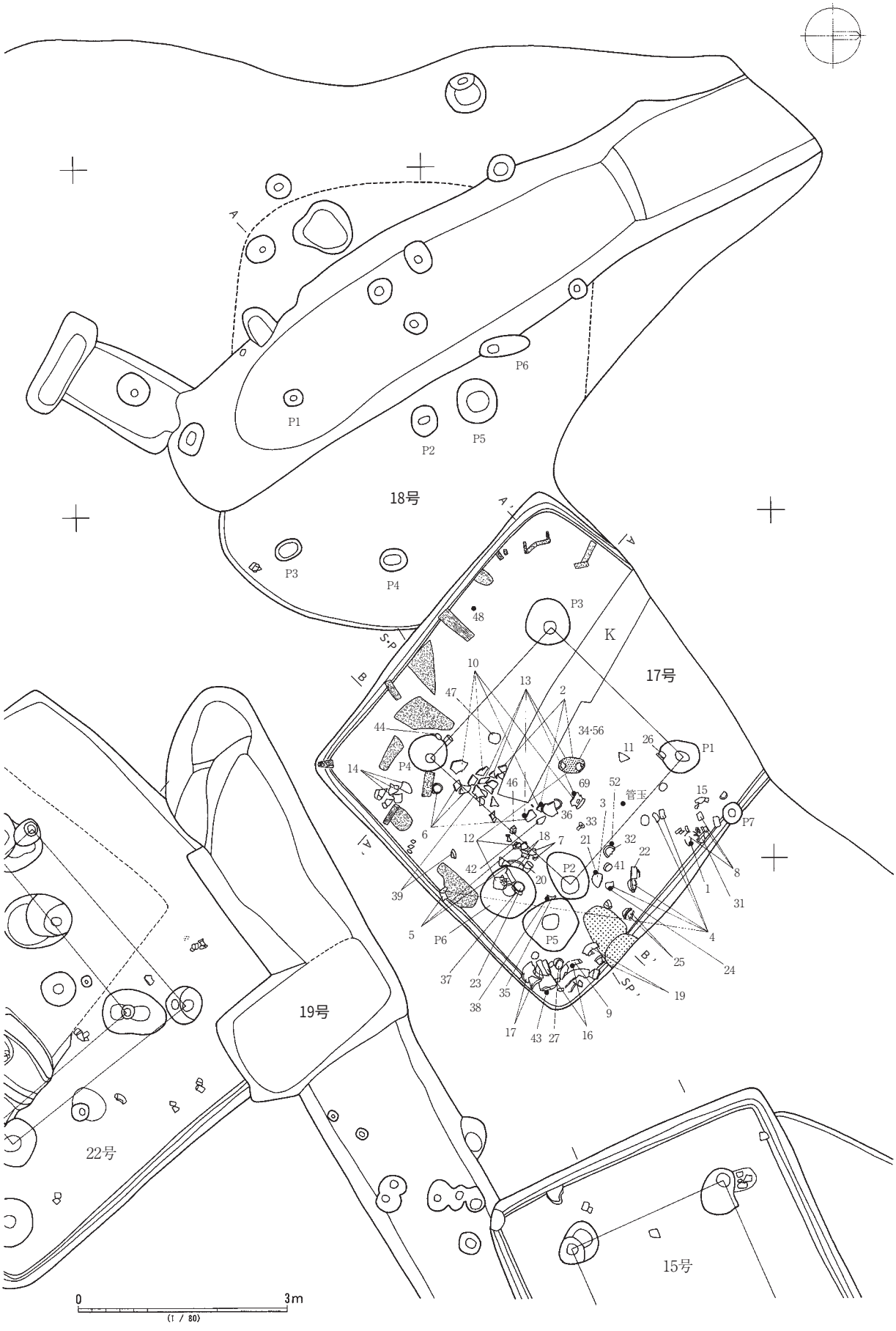
16号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号253B号。14号竪穴南側に位置し３号方形周溝墓を削平し15号竪穴に削平されて存在する方形の竪穴住居跡である。残存する東西方向の壁より長径4.48mを測り、主軸方位はN－66 °－Wを示す。炉・カマドとも検出されなかったが、出土遺物より火床施設は炉であった可能性が高い。

残存する壁高は、それぞれ東１㎝、西９㎝を測り、遺存状況は不良である。周溝は存在せず、床面は平坦であるが、硬く締まらない。ピットは２ヶ所に検出され、深さはそれぞれP １が41㎝、Ｐ ２が37㎝を測る

遺物

本遺構からは24点302gの土器片と１点24gの礫が検出された。土器片の内訳は22点277gの土師器、



第30図　17 ～ 19号遺構実測図

２点25gの縄文土器であり、これらの出土遺物の内１点を図示した。

１は、３号方形周溝墓上の貼床出土の土師器高坏である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

17号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号254号。15号竪穴西側に位置し18号竪穴を削平して存在する。遺構一部は調査区域外にするが、方形を呈するものと想定される竪穴住居跡である。長径5.38m短径5.18mを測り、主軸方位はN－47°－Eを示す。炉は検出されずカマド残骸とされる粘土ブロックが長さ82cm幅52cmにわたって北東壁の偏った位置で検出され、粘土長軸方位はN－50°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ北東22cm、南西31cm、南東38cm、北西49cmを測り、北側の遺存状況が良好である。周溝は全周し、深さは２～14cmを測る。床面はほぼ平坦であるが、あまり硬く踏み固められていない。ピットは７ヶ所に検出され、深さはそれぞれＰ１が65cm、Ｐ２が72cm、Ｐ３が81cm、Ｐ４が76cm、Ｐ５が92cm、Ｐ６が101cm、Ｐ７が29cmを測る。Ｐ１･Ｐ２･Ｐ３･Ｐ４は、掘り込みもしっかりしており主柱穴と考えられ、Ｐ５、Ｐ６は貯蔵穴と推定される。

この他、焼土・炭化物が周溝付近のいたるところで検出され、焼土の堆積は最大22cmを測る。

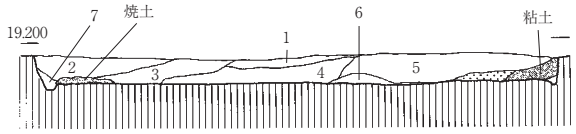
遺物

本遺構からは634点40,853gの土器片と19点4,736.6gの礫・石器、２点3.6gの玉類、12点100gの土製品が検出された。土器片の内訳は、608点40,428gの土師器、１点５gの須恵器、５点55gの弥生土器、２点85gの手づくね土器、２点33gの早期撚糸文系の土器、16点247gの縄文土器であり、石器類には凹石・紡錘車・管玉などがある。土製品は全て支脚片である。これらの出土遺物の内70点を図示した。

本遺構出土遺物は極めて大量であるが、床面より５cm以内の位置で出土した遺物は、２・４・６・７・11・13・22・25・26・27・32・37・41・52の14点である。６～11cm浮いた状況で検出されるものに１・３・８・10・15・19・20・21・24・25の９点が存在する。14～25cm浮いた状況で検出された遺物には５・９・12・14・16・17・18・33・34・35・36・38・42・43の14点が存在し、さらに35cm以上浮いた状態で検出された遺物には、23・37が存在している。

これら遺物の出土状況を観察すると、本体を住居跡中央床面付近で検出される遺物でも、破片との接合関係を位置的に見ると、住居跡廃絶後の開放空間にレンズ状に堆積する覆土の壁際から中央に向かって検出される傾向がある。また、ほとんど同器形の土師器模倣坏22が床面から、23が床面より33cm浮いた状況で検出されていることや、17～18の鉢形土器が床面から22cm前後浮いて検出されるのに対し、19は１点を床面から10cm、もう１点を床面から41cm浮いた状況で検出されていることなど、ほぼ同時期の遺物レベルが一致しない。

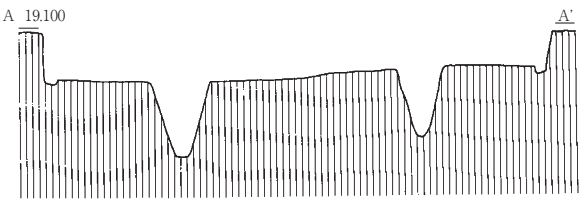
さらに、検出遺物そのものを比較してみる。須恵器忠実模倣品と考えられる口唇端部が弱い凹状を呈し、明瞭な段に至らぬ扁平器形の37・38の土師器模倣坏、35の脚部３方透かしの土師器高坏など、一見TK－23型式期に位置付けられそうな一群と、脚部が長脚化し始めた埦形高坏や、大型で器高が高く底部を丸く仕上げた土師器模倣坏などが存在し、MT－15型式期でも古段階併行期に位置付けられる一群が混在して検出されている。しかし、本跡は住居としての終焉直後に、その開放空間を土器祭祀等に二次的に活用された可能性を考えたい。したがって、本遺構については住居跡としての活用段階と、廃棄跡の窪みを利用した土器祭祀遺構の２段階の活用時期があったと想定されるが、遺物の



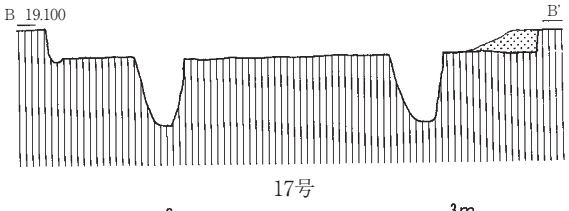
17号

17号遺構

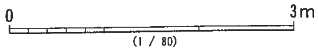
1 黒褐色土　ロームブロック小少量混入。
2 暗褐色土　ロームブロック中少量混入。
3 暗赤褐色土　焼土全体にまばらに混入。
4 暗褐色土　ロームブロック中少量・炭化物少量混入。
5 黒褐色土　ロームブロック小～中若干混入。
6 暗褐色土　褐灰色粘土若干混入。
7 暗褐色土　暗褐色土　焼土・炭化物少量混入。

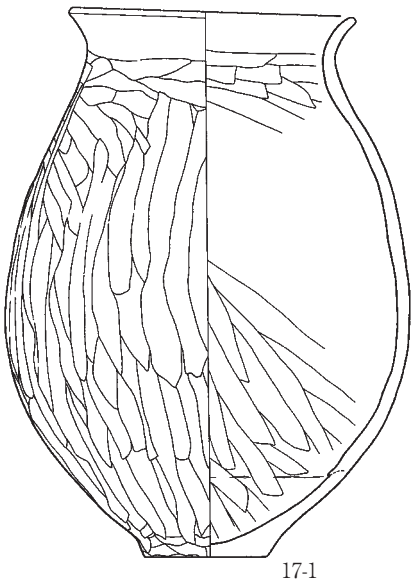


17号

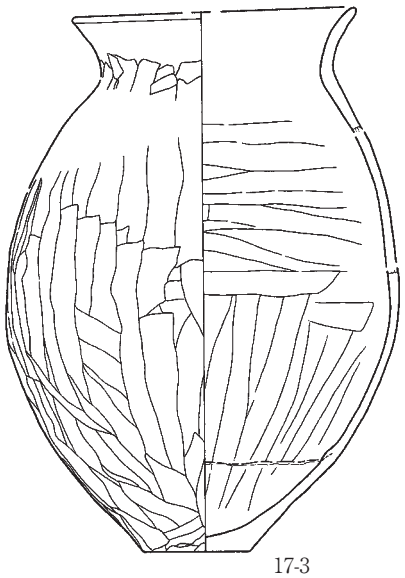


17号

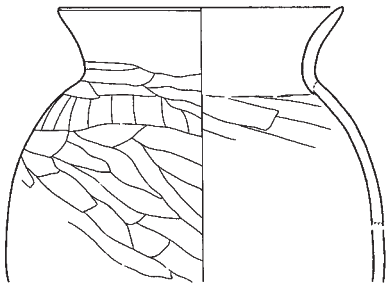




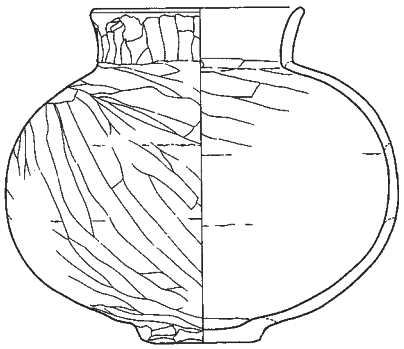
17-1



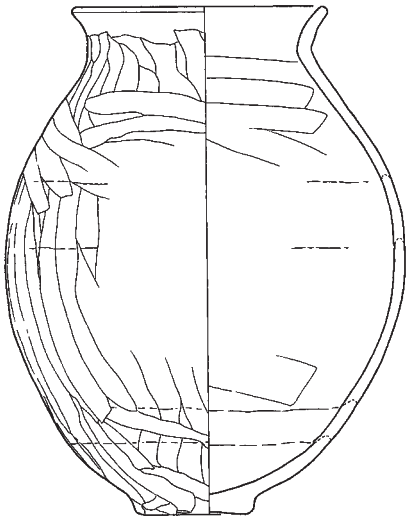
17-3



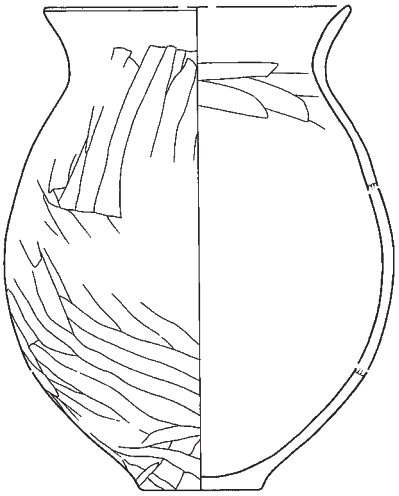
17-5



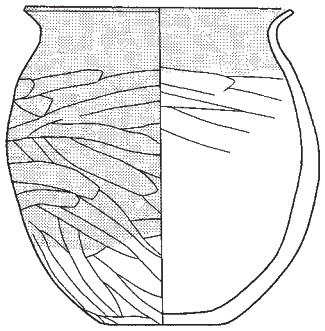
17-6



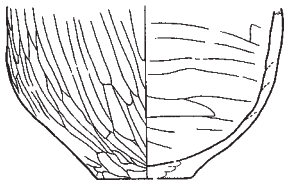
17-2



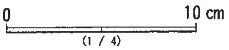
17-4



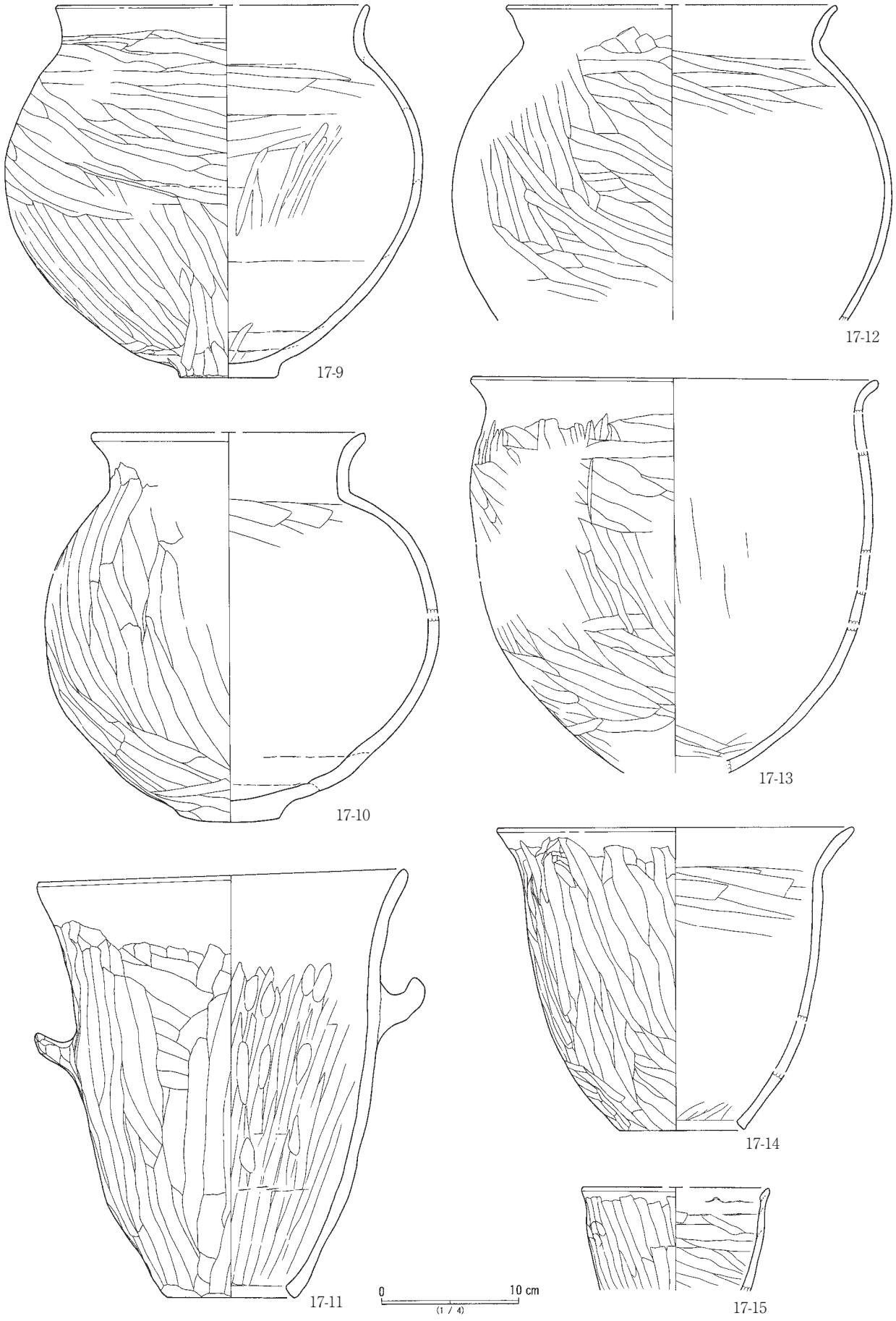
17-7



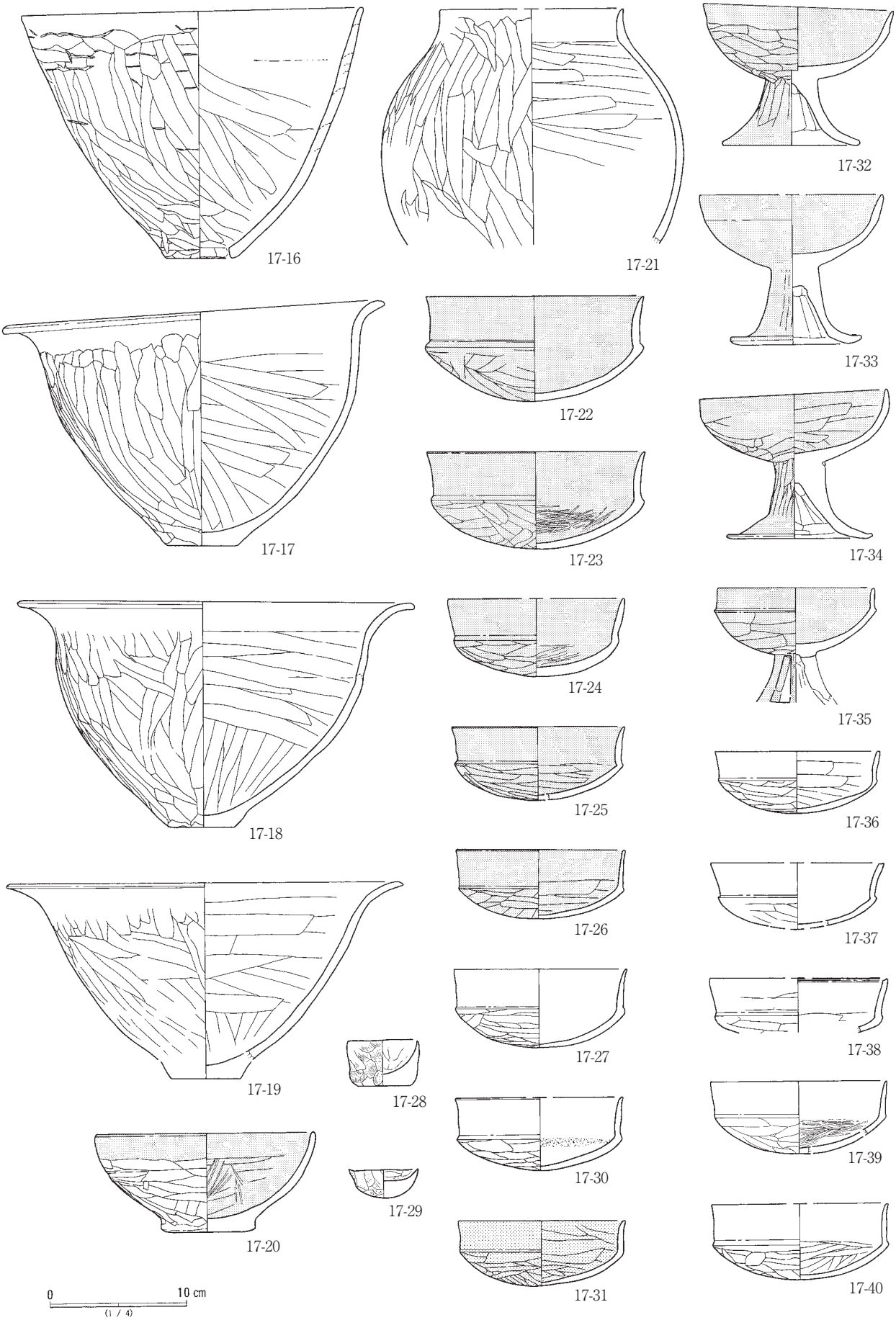
17-8



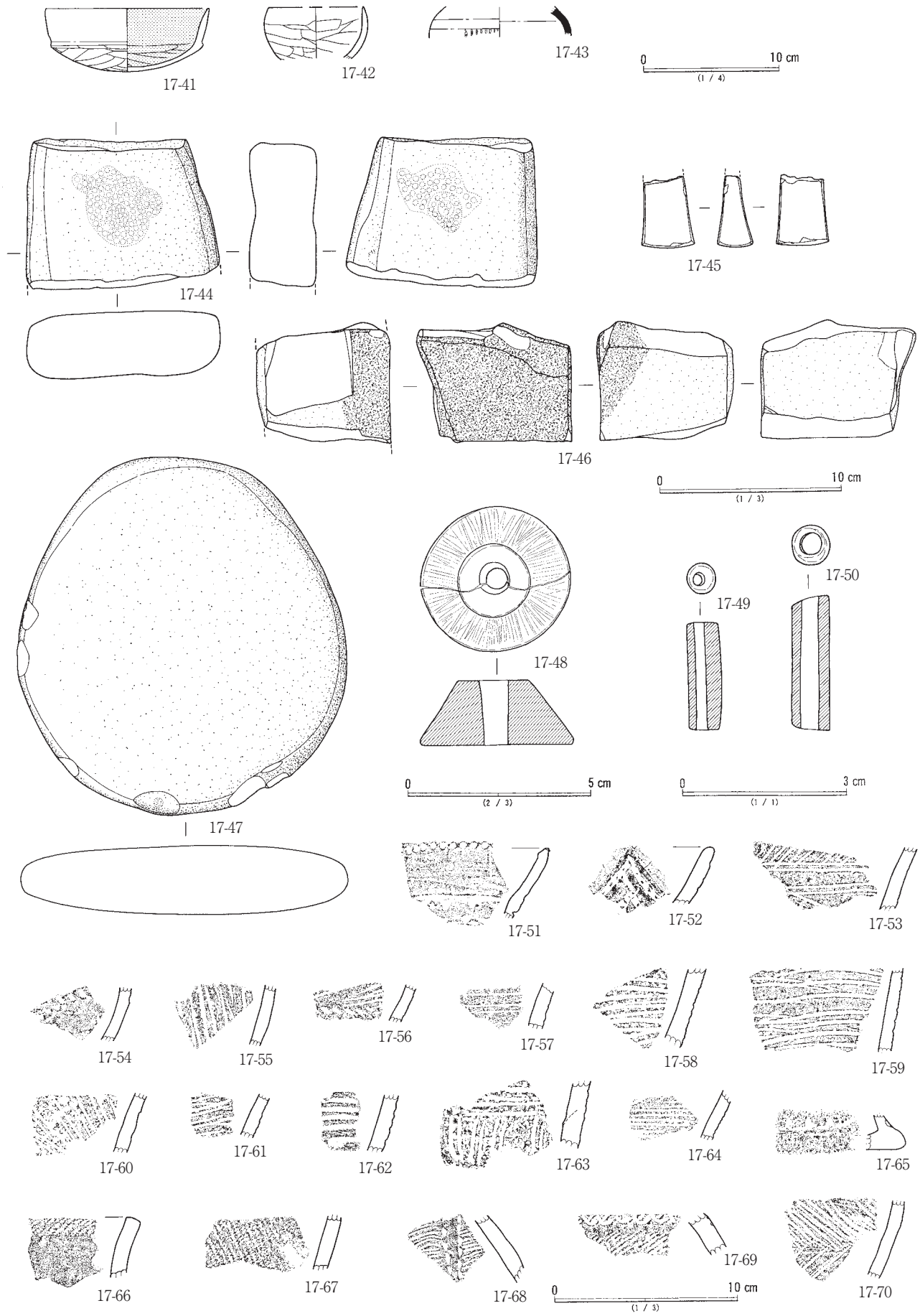
第31図　17号遺構実測図・出土遺物実測図１



第32図　17号遺構出土遺物実測図２



第33図　17号遺構出土遺物実測図３



第34図　17号遺構出土遺物実測図４

出土状態から考えると、検出された遺物の大半は極めて短期的な土器祭祀遺構等としての活用段階に供うものと考えられ、脚部が長脚化し始めた埦形高坏や、大型で器高が高く底部を丸く仕上げた土師器模倣坏が出現し始める一方で、埼玉稲荷山古墳周溝出土土師器模倣坏と同時期段階の坏が確実に伴う、MT－15型式期でも古段階併行期に位置付けられる。なお、土器祭祀後以降の遺構数は急速に激減し、遺跡が一時的に無人状態となることから、極めて特殊な土器祭祀であった可能性が高い。

18号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号264号。17号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。遺構西側部分は遺存状況不良であるが、東側の遺存状況から平面プランは楕円形を呈するものと捉えられるが、その規模は不明である。炉は未検出で、残存する壁高は最大９㎝を測り、南東壁が最も遺存状態がよい。周溝は存在せず､床面は軟弱であり､焼土等の検出はない。遺構プランがほぼ確実な範囲からピットは６ヶ所に検出され、深さはそれぞれＰ１が３号方形周溝墓底面から19㎝、18号遺構床面からは52㎝を測る。Ｐ２は60㎝､Ｐ３が21㎝､Ｐ４が29㎝､Ｐ５が46㎝､Ｐ６が35㎝を測り､比較的掘り込みがしっかりしたピットである

遺物

本遺構からは67点1,118gの土器片と３点325gの礫が検出された。土器片の内訳は40点506gの土師器、27点612gの弥生土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。

２は、土師器甑、４は凹面布目瓦片であり本遺構に直接伴うものではない。また、遺構平面Ｐ３付近で検出された調査時ポイント１の番号を付した遺物は確認することができなかった。また、ポイント１の番号を付した遺物以外は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。なお、調査日誌では円形プラン内に堀の内式土器が散布するとし、縄文時代の遺構と捉えられているが、現存する本遺構出土遺物には縄文土器は１片も含まれていなかった。

19号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号はないが、調査日誌には２号方形周溝墓南側周溝内長方形土坑と記されている。２号方形周溝墓内とされるが、略図による調査遺構番号254号・253A・B号竪穴の位置関係からこの方形周溝墓が３号方形周溝墓であることは明白である。

遺構は長径2.63m短径1.54m深さ最大64㎝を測り、主軸方位はN－37 °－Wを示す。

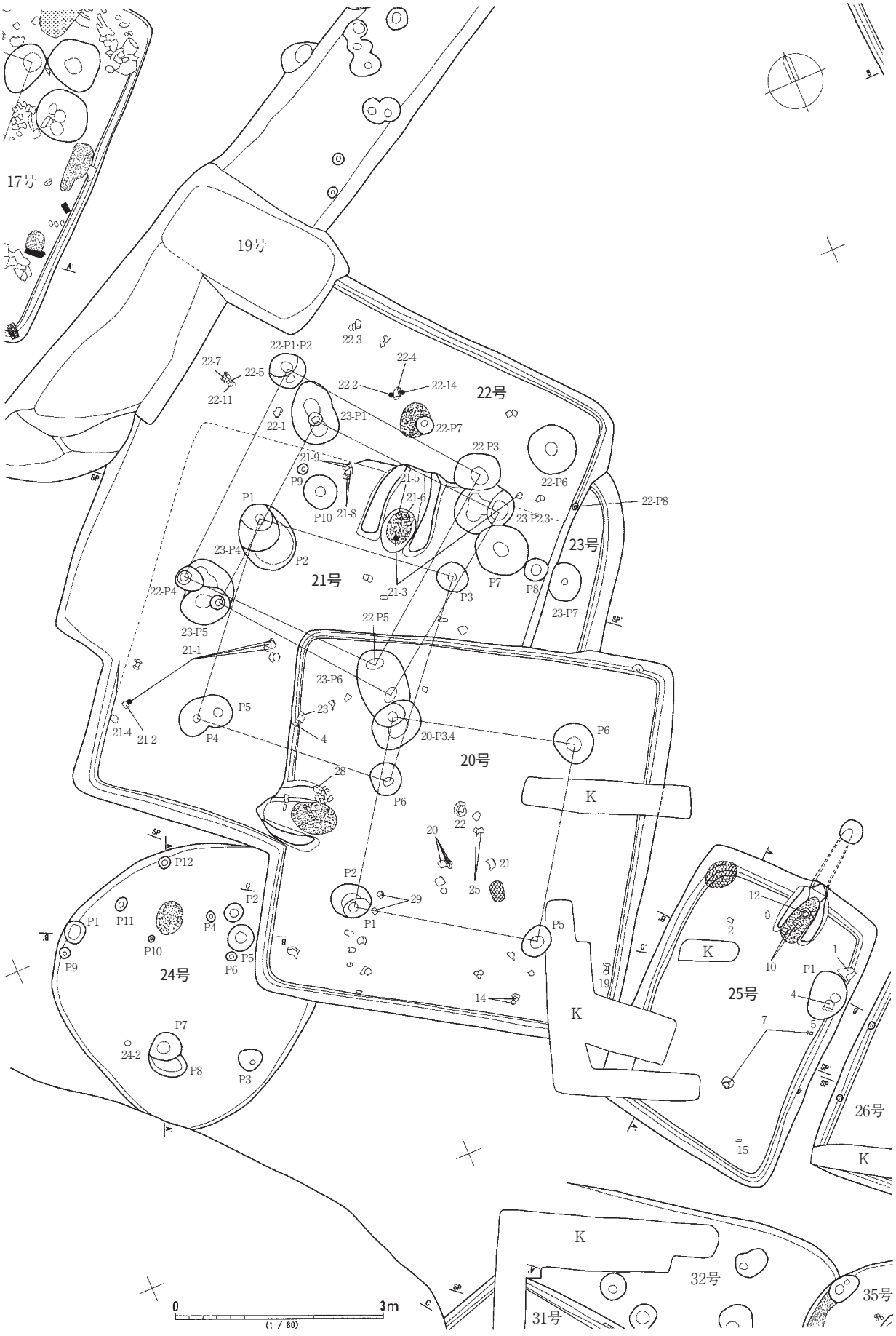
遺物

本遺構からはまったく遺物は検出されなかった。

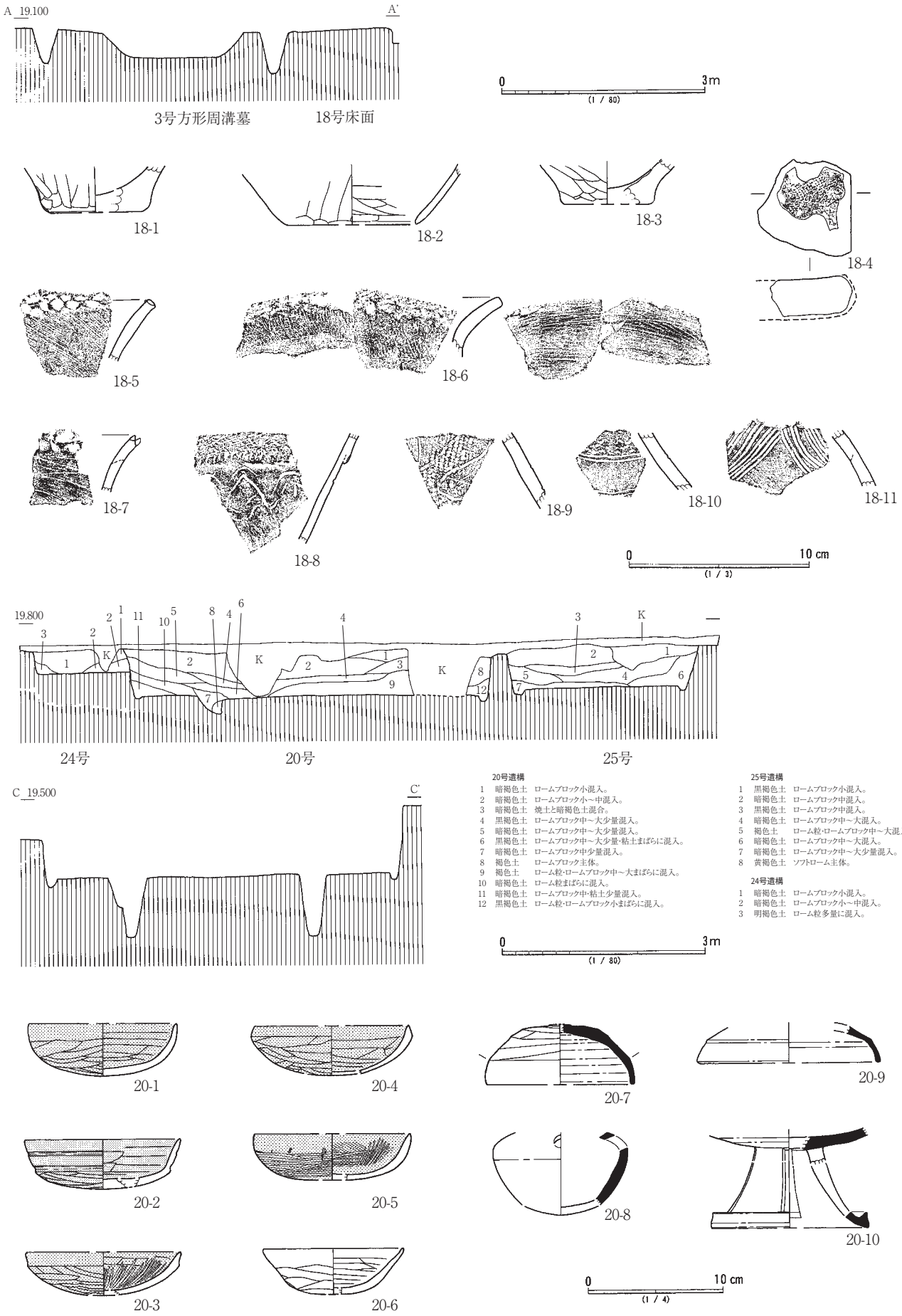
20号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号236号。19号土坑南側に位置し、21・24号竪穴を削平して存在する。遺構一部は撹乱により削平されるが遺存状況は良好である。長径5.55m短径5.54mを測り、主軸方位はN－57 °－Wを示す。カマドは西壁に構築され、火床長径0.68m短径0.46m深さ10cmを測り、火床長軸方位はN－57 °－Wを示す。

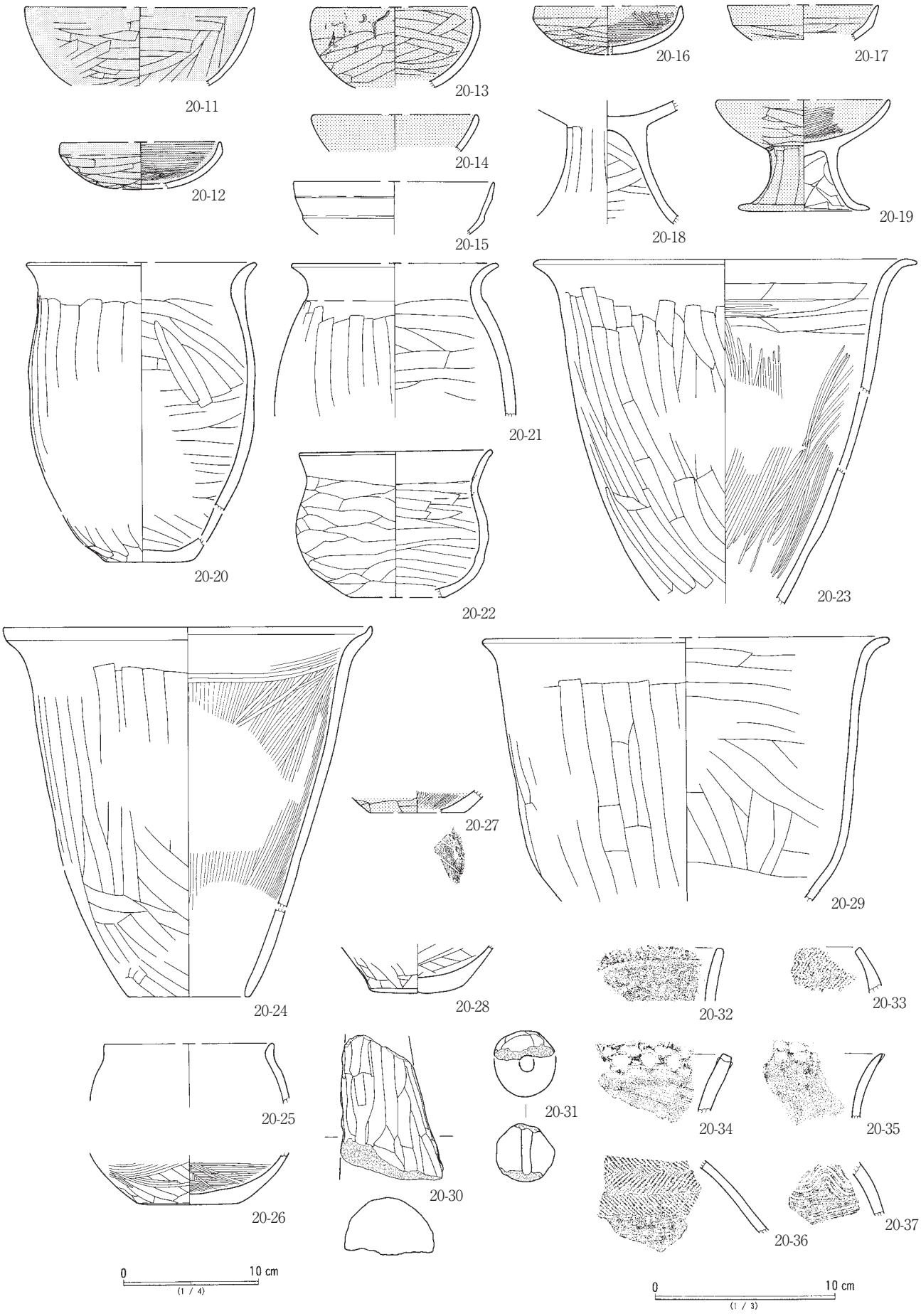
残存する壁高は、それぞれ東65㎝、西38㎝、南50㎝、北61㎝を測る。周溝は全周し、深さは８～12㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれほぼ平坦であり、よく踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、深さはそれぞれＰ１が58㎝、Ｐ２が28㎝、Ｐ３が60㎝、Ｐ４が28㎝、Ｐ５が61㎝、Ｐ６が53㎝を測る。Ｐ１･Ｐ３･Ｐ５･Ｐ６は、掘り込みもしっかりしており主柱穴と考えられ、



第35図　20 ～ 25号遺構実測図



第36図　3・18・20・24・25号遺構実測図・18・20号遺構出土遺物実測図



第37図　20号遺構出土遺物実測図

Ｐ２、Ｐ４は柱抜き取り穴と推定される。

この他、住居中央南西側床面より長さ30㎝幅20㎝厚さ20㎝の貝ブロックが検出されている。

遺物

本遺構からは824点21,944gの土器片と９点430gの礫・石器、10点434gの土製品が検出された。土器片の内訳は、812点21,742gの土師器、４点102gの須恵器、６点82gの弥生土器、１点12gの早期条痕文系の土器、１点６gの近世陶器であり、石器類は剥片、土製品は８点402gの支脚片１点12gの土玉片、１点20gの布目瓦片である。これらの出土遺物の内37点を図示した。

本遺構出土遺物は比較的多いが、覆土一括で取上げられた製品が圧倒的に多い。このうち、19・29が床面より３㎝ほど浮いた状態で検出されている他は、28が床から６㎝、４・23が11㎝、21・25が15～16㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の平面図上で位置が確認できる遺物は、何れも20㎝以上床面から離れた状態で検出されている。

４は回転ヘラ削り後、再度手持ちヘラ削りが施された湖西産須恵器坏蓋であり、黒色処理坏と同時期の産物である。10は脚部を本遺構より、坏部を148号竪穴から一括で検出したが、器形や胎土及び透かしの特徴から同一固体と判断される脚部４方透かしの須恵器高坏であり、本遺構に伴うものではない。一括を含め全体的に黒色処理が施された坏が主体を閉め、７世紀中葉前後の年代感を与えることができる。

21号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号237A号。20号竪穴北側に隣接し、20号竪穴に削平され、22・23号竪穴を削平して存在する。残存する平面形態から長径（5.90m）短径（5.60m）を測る方形竪穴と推定され、主軸方位はN－40°－Eを示す。カマドは北壁に構築され、火床長径0.48m短径0.35m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－42°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ東10㎝、西46㎝、南54㎝、北22㎝を測り、周溝は西南コーナー部に残存し、深さは６～12㎝を測る。床面は貼床凹凸激しく、中央部はよく踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、深さはそれぞれＰ１が75㎝、Ｐ２が22㎝、Ｐ３が77㎝、Ｐ４が65㎝、Ｐ５が61㎝を測る。Ｐ６は20号竪穴内からの検出で、深さ66㎝であるが、本跡床面からは71㎝を測る。

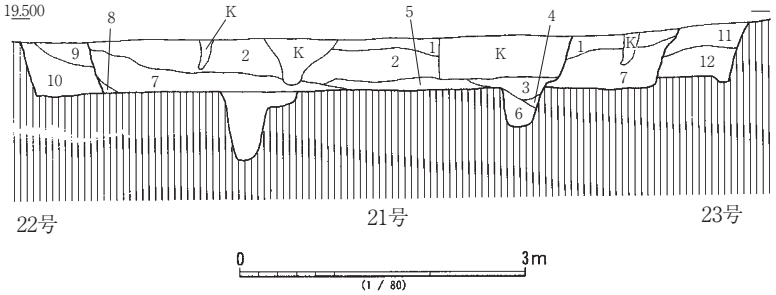
この他にＰ７が67㎝、Ｐ８が10㎝、Ｐ９が18㎝、P10が27㎝を測る。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ６は、掘り込みもしっかりしており主柱穴と考えられ、Ｐ２・Ｐ５は柱抜き取り穴と想定される。

遺物

本遺構からは206点6,644gの土器片と１点2.4gの土製品が検出された。土器片の内訳は、182点6,236gの土師器、23点394gの弥生土器、１点14gの縄文土器であり、土製品は丸玉である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１・２は床面直上で検出された土師器甑である。３・５・６はカマド内火床５㎝上から検出された甕底部と高坏である。この内３は22号竪穴床面で取上げられた１片と接合することから、本来の竪穴範囲がこの周囲まで及んでいることが確実である。４は西側コーナー付近床面から６㎝浮いて検出された高坏である。８・９はカマド左側の床面から28㎝浮いた状態で検出された坏である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられたもので、出土地点を明示するものはない。

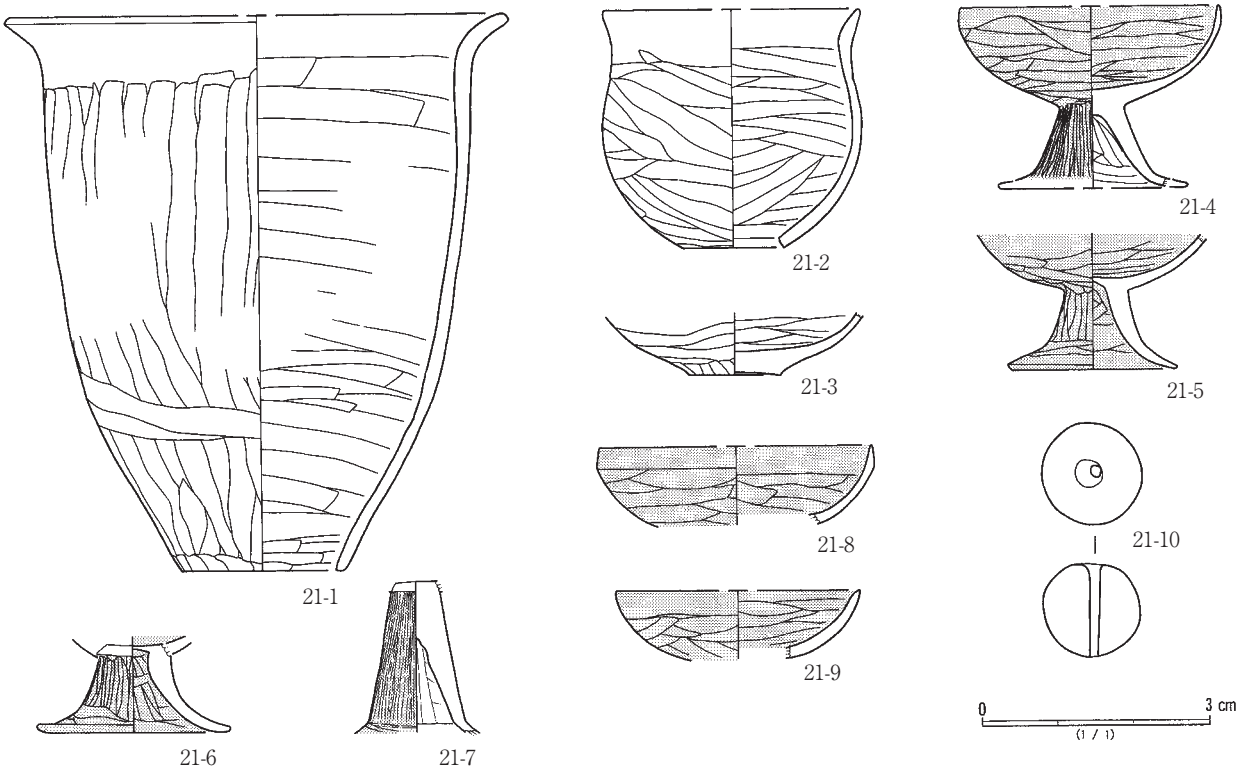
22号遺構（竪穴住居跡）

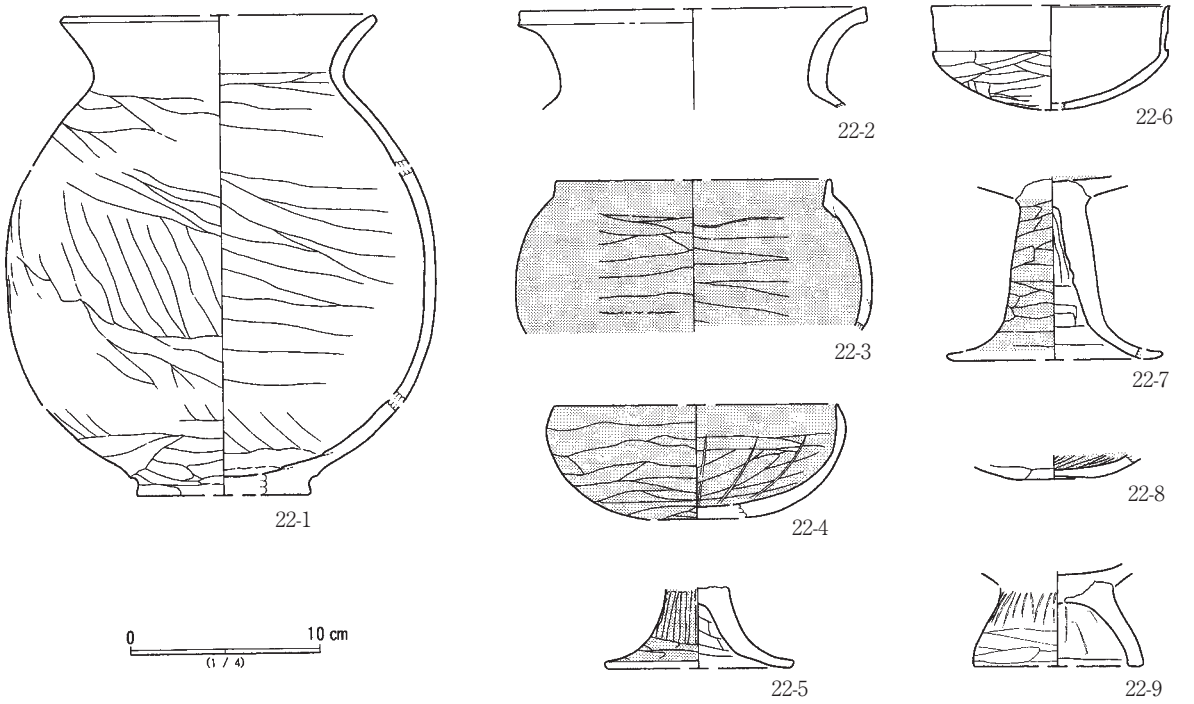


21号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
3 黒褐色土 ロームブロック中～大少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中多量に混入。
5 黒褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
6 暗褐色土 ロームブロック中・粘土多量に混入。
7 暗褐色土 ロームブロック中混入。
8 褐色土 ロームブロック中混入。

22号遺構
9 黒褐色土 ロームブロック中少量混入。
10 黒褐色土 ロームブロック中混入。

23号遺構
11 暗褐色土 ロームブロック中・黒色土少量混入。
12 暗褐色土 ロームブロック大少量混入。





第38図　21～23号遺構実測図・21・22号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号238号。21号竪穴に削平され、23号竪穴を削平して存在する。残存する平面形態から長径（6.60m）短径（6.42m）を測る方形竪穴と推定され、長軸方位はN－50 °－Eを示す。炉はP ２～Ｐ ３間の中央やや壁側に構築され、火床長径0.52m短径0.40m深さ４cmを測り、火床長軸方位はN－42 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ東53cm、西56cm、南52cmを測り、周溝は東壁～南側コーナー部に残存し、深さは２～８cmを測る。床面は比較的軟弱で、あまり踏み固められていない。ピットは８ヶ所に検出され、深さはそれぞれP １が84cm、Ｐ ２が51cm、Ｐ ３が95cm、Ｐ ４が88cmを測る。Ｐ ５は20号竪穴からの検出で、深さ62cm本跡床面からは67cmを測る。他にP ６は76cm、Ｐ ７が20cm、Ｐ８が12cmを測る。掘り込みのしっかりしたP １・Ｐ ３・Ｐ ４・Ｐ ５は主柱穴、Ｐ ６は貯蔵穴と考えられる。

遺物

本遺構からは420点8,758gの土器片と８点303gの礫が検出された。土器片の内訳は、362点7,783gの土師器、55点948gの弥生土器、１点12gの前期繊維土器、２点15gの縄文土器である。これらの出土遺物の内19点を図示した。

この内１・２・３・４・５・７が本跡に伴うと想定される出土地点の判明する遺物であるが、１を除いて何れも床面より10cm以上浮いた状態で検出されている。しかし、本跡はカマドを保持せず、本跡に伴うものと判断される遺物は、和泉式から鬼高式古相移行期の土器様相を呈しており興味深い。

23号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号237B号。20・21・22号竪穴に削平されて存在し、残存長2.70m幅0.94mを測る。東壁の傾きはN－35 °－Eを示し、平面プランは隅丸方形と想定される竪穴住居跡である。炉は21号竪穴に削平されたものと推定され、残存する壁高は、最大64cmを測る。周溝は残存し、深さは5cmを測り、床面は比較的軟弱で、あまり踏み固められていない。21･22号竪穴床面から検出された23号を冠とするピットは本跡に伴うものと想定され、深さはそれぞれP1が99（本跡床面からは105）cm、P2が57（63）cm、P3が49（55）cm、P4が87（93）cm、P5は66（72）cm、P6は79（81）cm、P7が45cmを測る。掘り込みのしっかりしたP １・Ｐ ２・Ｐ ４・Ｐ ６は主柱穴と考えられる。

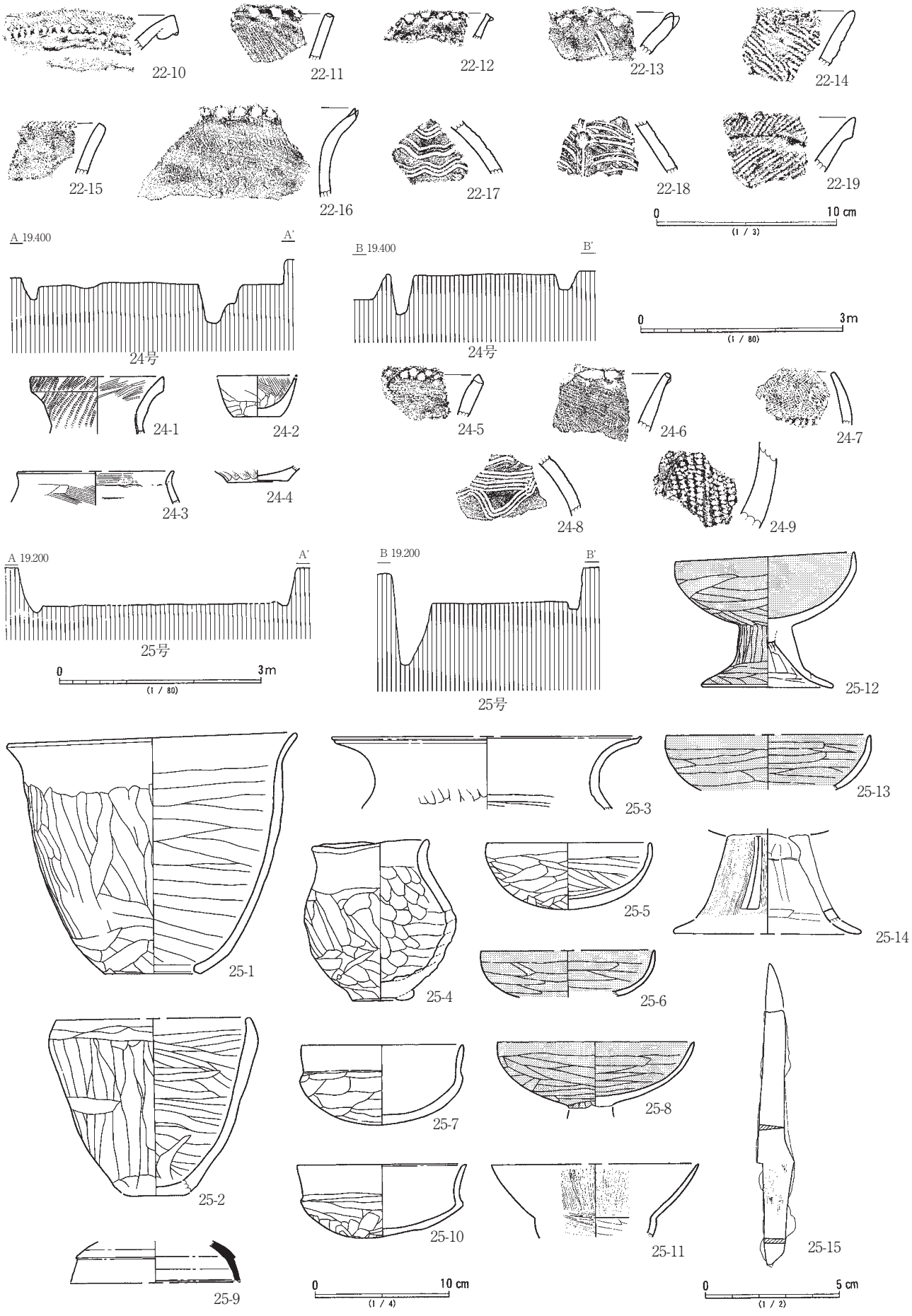
遺物

本遺構からの出土遺物は存在しない。

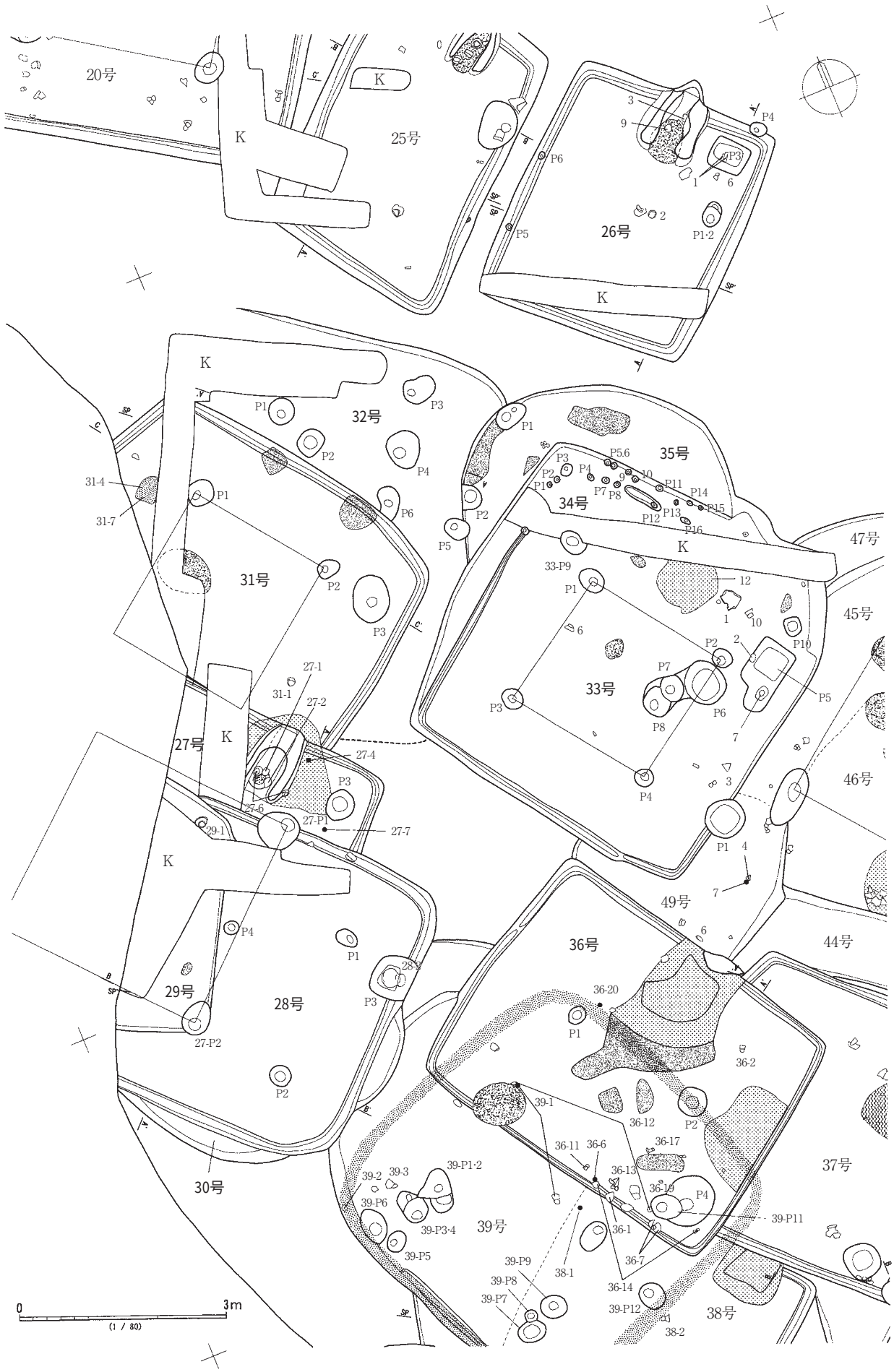
24号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号235号。20号竪穴に削平されて存在する平面プラン歪な竪穴住居跡である。残存する平面形態から、長径（4.10m）短径3.60mを測り、主軸方位はN－66 °－Eを示す。炉は遺構北側に寄った位置で検出され、火床長径0.50m短径0.38m深さ４cmを測り、火床長軸方位はN－41 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ西６cm、南13cm、北14cmを測り、周溝は存在しない。床面は凹凸が激しく且つよく踏み固められている。ピットは12 ヶ所に検出され、深さはそれぞれP １が21cm、Ｐ ２が18cm、Ｐ ３が57cm、Ｐ ４が15cmを測る。Ｐ ５が57cm、Ｐ ６は28cm、Ｐ ７が24cm、Ｐ ８が23cm、Ｐ ９が19cm、P10が16cm、P11が23cm、P12が21cmを測る。



第39図　24・25号遺構実測図・22・24・25号遺構出土遺物実測図



第40図　26 ～ 36号遺構実測図

遺物

本遺構からは105点1,210gの土器片と１点５gの礫が検出された。土器片の内訳は、70点730gの土師器、28点365gの弥生土器、１点40gの手づくね土器であり、これらの出土遺物の内９点を図示した。これらは何れも覆土一括で取上げられた遺物で、出土地点を明示するものはない。

25号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号222号。20号竪穴の東側に隣接し、単独で存在する長方形プランの竪穴住居跡である。長径4.30m短径2.86mを測り、主軸方位はN－49 °－Eを示す。カマドは北東壁中央に構築され、火床長径0.74m短径0.30m深さ６cmを測り、火床長軸方位はN－60 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ北東66cm南西54cm南東58cm北西64cmを測り、周溝はほぼ全周し深さは１～８cmを測る。床面はほぼ平坦でよく踏み固められており、ピットは１ヶ所に検出され、深さは81cmを測る。北コーナーにおいて長さ50cm幅26cm厚さ33cmの貝ブロックが検出されている。

遺物

本遺構からは182点5,127gの土器片と８点1,385.7gの礫、１点8.6gの金属器が検出された。土器片等の内訳は、163点4,892gの土師器、１点10gの須恵器、18点225gの弥生土器であり、金属器は鉄器刀子である。これらの出土遺物の内15点を図示した。

出土地点を明示した遺物は、床密着ないしはカマド内から検出されており、本跡に直接伴うものと考えられる。この内10・12はカマド内火床に密着して検出され、12は支脚転用高坏と想定され、倒立した状態で検出されている。14は布留系大型高坏脚部であり、脚の３方に長方形透かしが施されている。15は先端部を欠く刀子で、床面から８cm浮いた状態で検出されている。

26号遺構（竪穴住居跡）

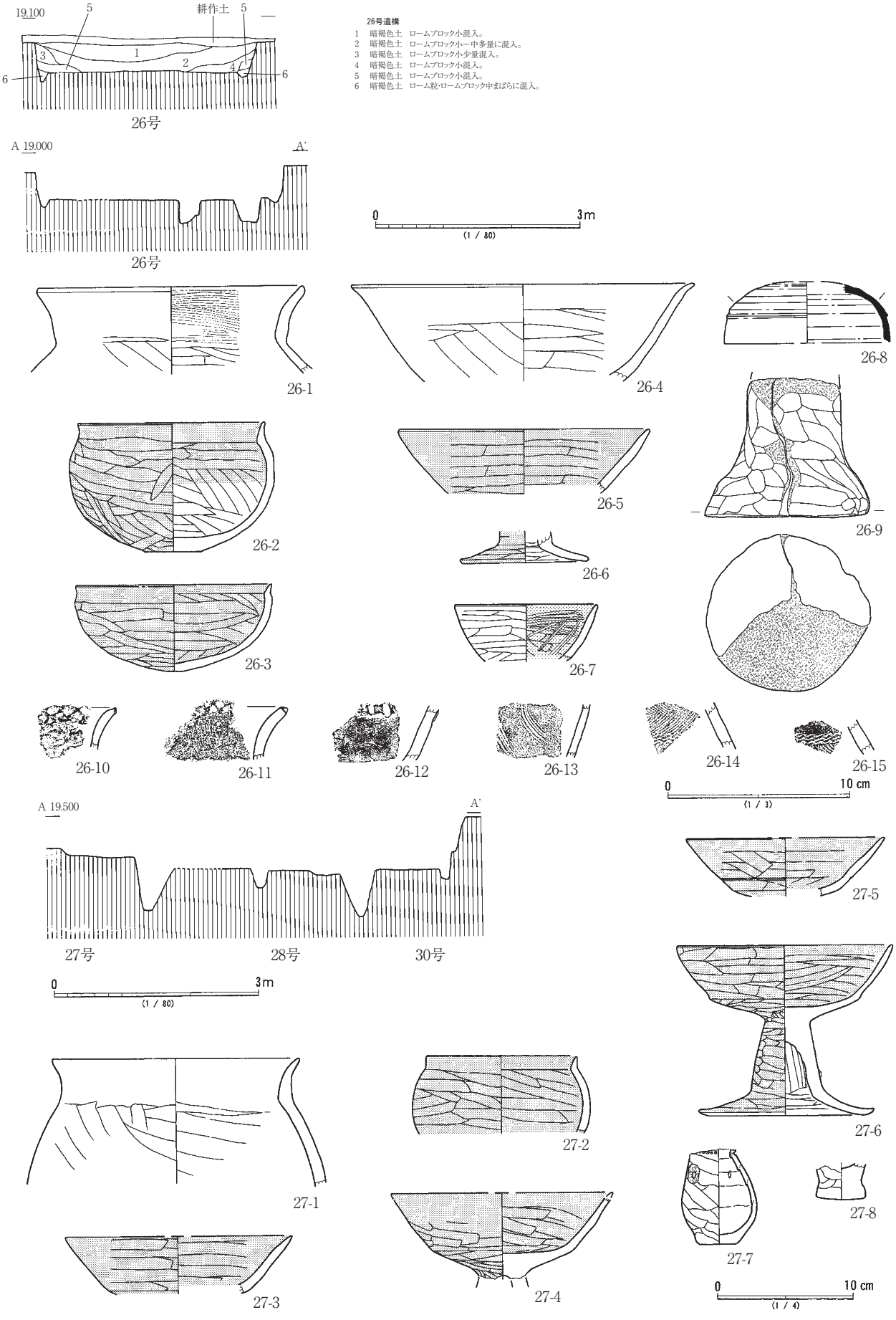
昭和53年度調査時遺構番号221号。25号竪穴の東側に隣接し、単独で存在する方形プランの竪穴住居跡である。長径3.80m短径3.32mを測り、主軸方位はN－48 °－Eを示す。カマドは北東壁中央に構築され、火床長径0.66m短径0.46m深さ５cmを測り、火床長軸方位はN－45 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ北東58cm南西36cm南東44cm北西36cmを測り、周溝は全周し、深さは５～７cmを測る。床面はほぼ平坦で非常によく踏み固められており、ピットは６ヶ所に検出された。深さはＰ１が37cm、Ｐ２は柱抜き取り穴と想定され26cmを測る。Ｐ３は貯蔵穴と想定され、深さは36cmを測る。Ｐ４は本跡と無関係と思われるが、深さ12cmを測る。Ｐ５・Ｐ６は周溝内ピットであり、深さはそれぞれ７cm・４cmを測る。

遺物

本遺構からは388点7,061gの土器片と１点６gの礫、２点1,000gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、354点6,641gの土師器、１点108gの須恵器、33点312gの弥生土器であり、土製品は支脚片である。これらの出土遺物の内15点を図示した。

出土地点を明示した１・２・３・６・９遺物は、床密着あるいは貯蔵穴底、ないしはカマド内から検出されており、本跡に直接伴うものと考えられる。それ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものである。



26号遺構
1　暗褐色土　ロームブロック小混入。
2　暗褐色土　ロームブロック小～中多量に混入。
3　暗褐色土　ロームブロック小少量混入。
4　暗褐色土　ロームブロック小混入。
5　暗褐色土　ロームブロック小混入。
6　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック中まばらに混入。

第41図　26～28・30号遺構実測図・26・27号遺構出土遺物実測図

27 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 232 号。26 号竪穴の南西側に位置し、31 号竪穴を削平して存在する。また、出土遺物やカマドの存在から、本来 28 号遺構の上に貼床を伴って構築されていたはずであるが、新旧関係を正確に捉えた平面図は存在しない。残存長径 3.28m 短径 1.22m を測り、主軸方位は N － 43 °― E を示す。カマドは北東壁のやや東側に偏った位置に構築され、火床長径 0.18m 短径 0.12m 深さ６cm を測り、火床長軸方位は N － 55 °― E を示す。

残存する壁高は、それぞれ北東 20㎝南東 38㎝を測り、周溝はカマド周囲に検出され、深さは８㎝を測る。カマド周囲の床面はほぼ平坦で非常によく踏み固められており、ピットは３ヶ所に検出された。深さはＰ１が 65㎝、Ｐ２は 28 号竪穴床面から 69㎝、本跡床面からの換算で 80㎝を測る。Ｐ１・Ｐ２は、その位置から本跡主柱穴出ると判断される。Ｐ３は小ぶりながら深さ 81㎝を測り、貯蔵穴かと想定される。

遺物

本遺構からは 305 点 5,221g の土器片と１点２g の礫、４点 148g の土製品が検出された。土器片等の内訳は、278 点 4,526g の土師器、１点４g の須恵器、22 点 595g の弥生土器、１点 42g の手づくね土器、３点 54g の縄文土器であり、土製品は支脚片である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

出土地点を明示した１・２・４・６・７遺物は、床密着ないしはカマド内から検出されており、本跡に直接伴うものと考えられる。それ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものである。

28 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 231A 号。27 号竪穴の南側に位置し、本来は 27 号竪穴に削平されて存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径 4.60m 残存短径 4.00m を測り、長軸方位は N － 48 °― E を示す。炉跡等の火床施設は検出されておらず、残存する壁高は、それぞれ東で 50㎝、南西で 26㎝、南東で 38㎝を測り、検出範囲での周溝は全周し、深さは７～ 15㎝を測る。床面は貼床でほぼ平坦であり、ピットは４ヶ所に検出された。深さはＰ１が 43㎝、Ｐ２は 71㎝、Ｐ３は 40㎝、Ｐ４は 27㎝を測る。Ｐ３は方形を呈し、貯蔵穴かと想定される。

遺物

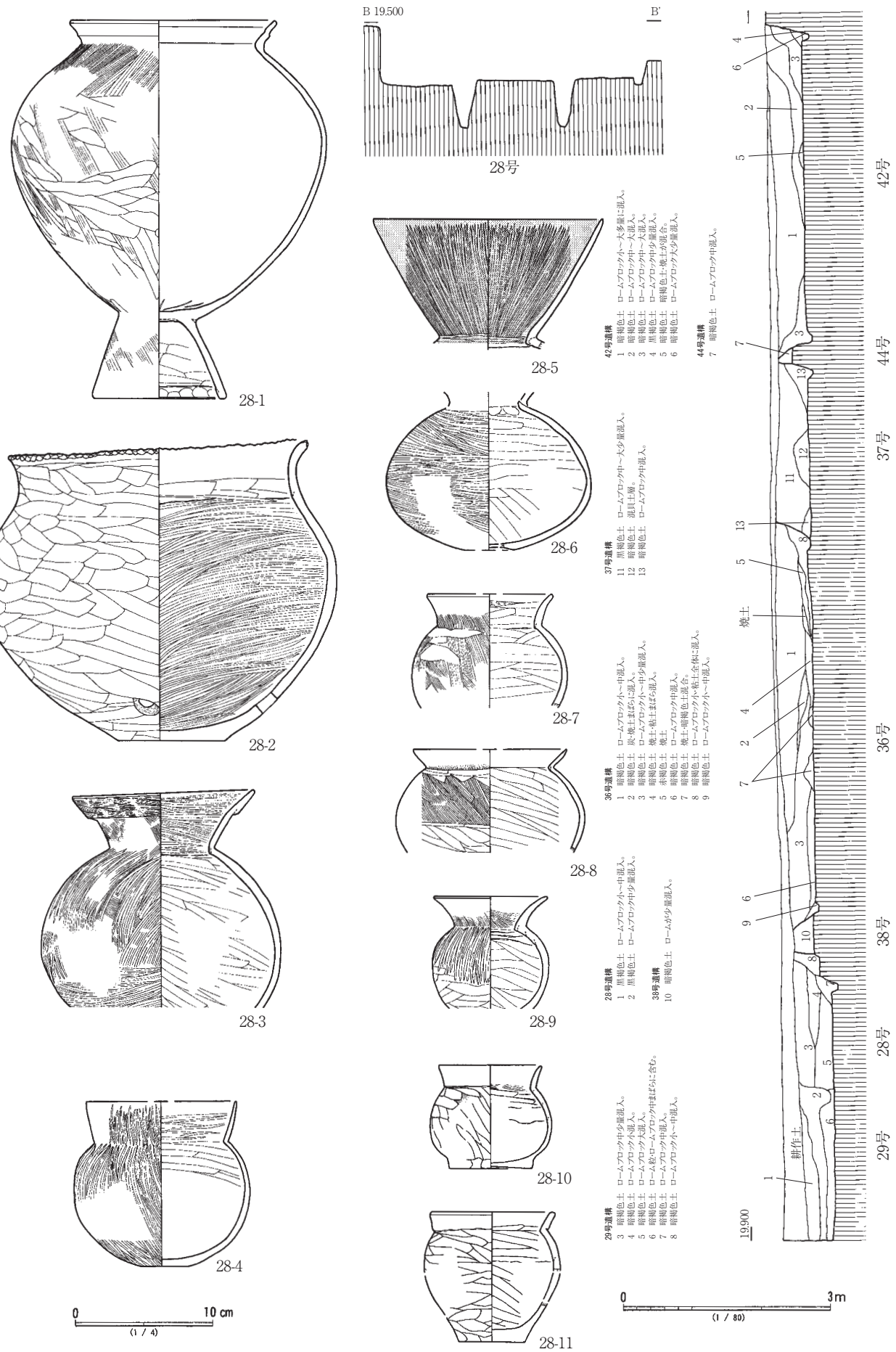
本遺構からは 829 点 14,057.4g の土器片と８点 355g の礫、２点 9.3g の玉類、１点 22g の土製品が検出された。土器片等の内訳は、698 点 10,965.4g の土師器、１点６g の須恵器、126 点 3,018g の弥生土器、２点 48g の手づくね土器、２点 20g の縄文土器であり、玉類は有孔円盤と勾玉、土製品は支脚片である。これらの出土遺物の内 29 点を図示した。

出土地点が明示できる遺物は、完形で検出された２の番号を付した甕形土器だけで、それ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものである。

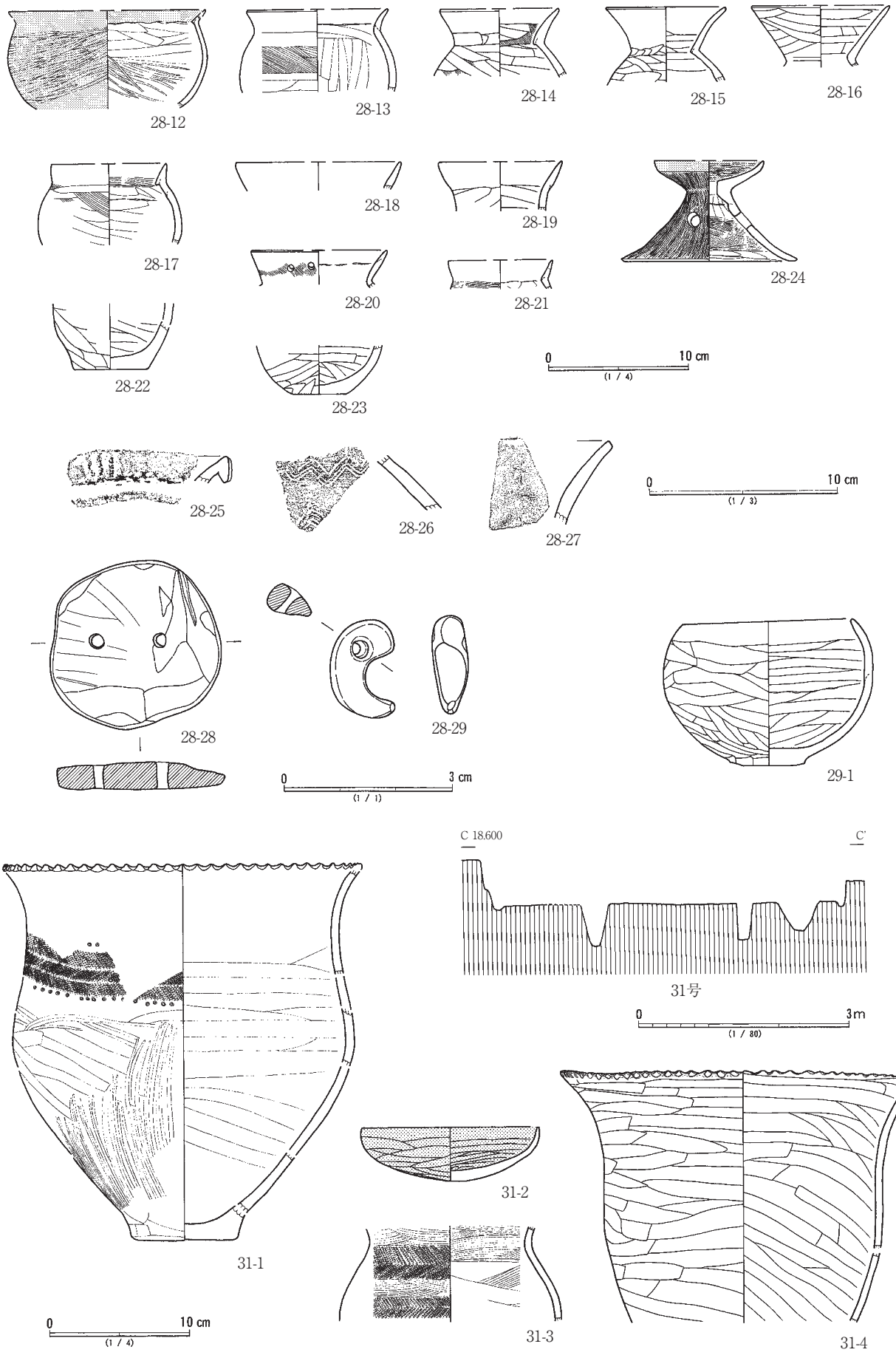
29 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 231B 号。28 号竪穴の西側に隣接する。残存長径 3.76m 残存短径 1.40m を測り、主軸方位は東壁面より N － 29 °― E を示す。炉跡等の火床施設は検出されておらず、残存する壁高は、それぞれ東側で９㎝、南側で４㎝、北側で 22㎝を測る。床面は貼床でほぼ平坦で、非常によく踏み固められており、ピットは検出されなかった。

調査日誌によれば 28 号竪穴を削平し、同一レベルの床面に、さらに 231E の竪穴が重複するとされ、



第42図　28・29・36～38・42・44号遺構実測図・28号遺構出土遺物実測図



第43図　31号遺構実測図・28・29・31号遺構出土遺物実測図

図に明示された１点の遺物は 231E に伴うものとされる。しかし、後日この 231E は撹乱として処理され、遺構全体図に記録されている。

遺物

本遺構からは１点 585g、１の埦形土器が明示した床面から出土しただけで、それ以外の遺物は、全く検出されていない。

30 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 231C・F 号。28 号竪穴の南西側に隣接し、西側を C 号、南側を F 号として調査されている。出土遺物は皆無であるが、両者の下端レベルがほぼ同一なことから、平面プラン楕円形の弥生竪穴住居跡と捉え、一軒の竪穴として報告する。西側下端残長 1.92m 幅 0.20m、南側下端残長 1.36m 幅 0.26m を測るが、主軸方位は不明である。炉跡等の火床施設は検出されておらず、残存する壁高は、それぞれ南側で８㎝、西側で 50㎝を測る。床面はほぼ平坦であるが軟弱であり、ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

31 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 234A 号。27 号竪穴の北側に位置し、27 号竪穴に削平され、32 号竪穴を削平して存在する。残存長径 5.08m 短径 3.60m を測り、長軸方位は N － 36 °― W を示す。炉は中央やや北側に偏った位置に存在する。撹乱によってその１/ ２を削平されるが、残存する火床長径 0.48m 短径 0.3m 深さ５cm を測り、復元される火床長軸方位は N － 39 °― W を示す。

残存する壁高は、それぞれ北東 24㎝、南東 29㎝、北西 20㎝を測り、検出面で周溝は全周し、深さは５～７㎝を測る。北東隅の床面はほぼ平坦で非常によく踏み固められているが、それ以外は軟弱である。ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が 65㎝、Ｐ２は 60㎝を測り、掘り込みも深く主柱穴と想定される。Ｐ３は深さ 48㎝を測り、貯蔵穴かと想定される。

焼土は２ヶ所に検出され、厚さは 12 ～ 14㎝を測る。Ｐ１の北側には土器群が検出されている。

遺物

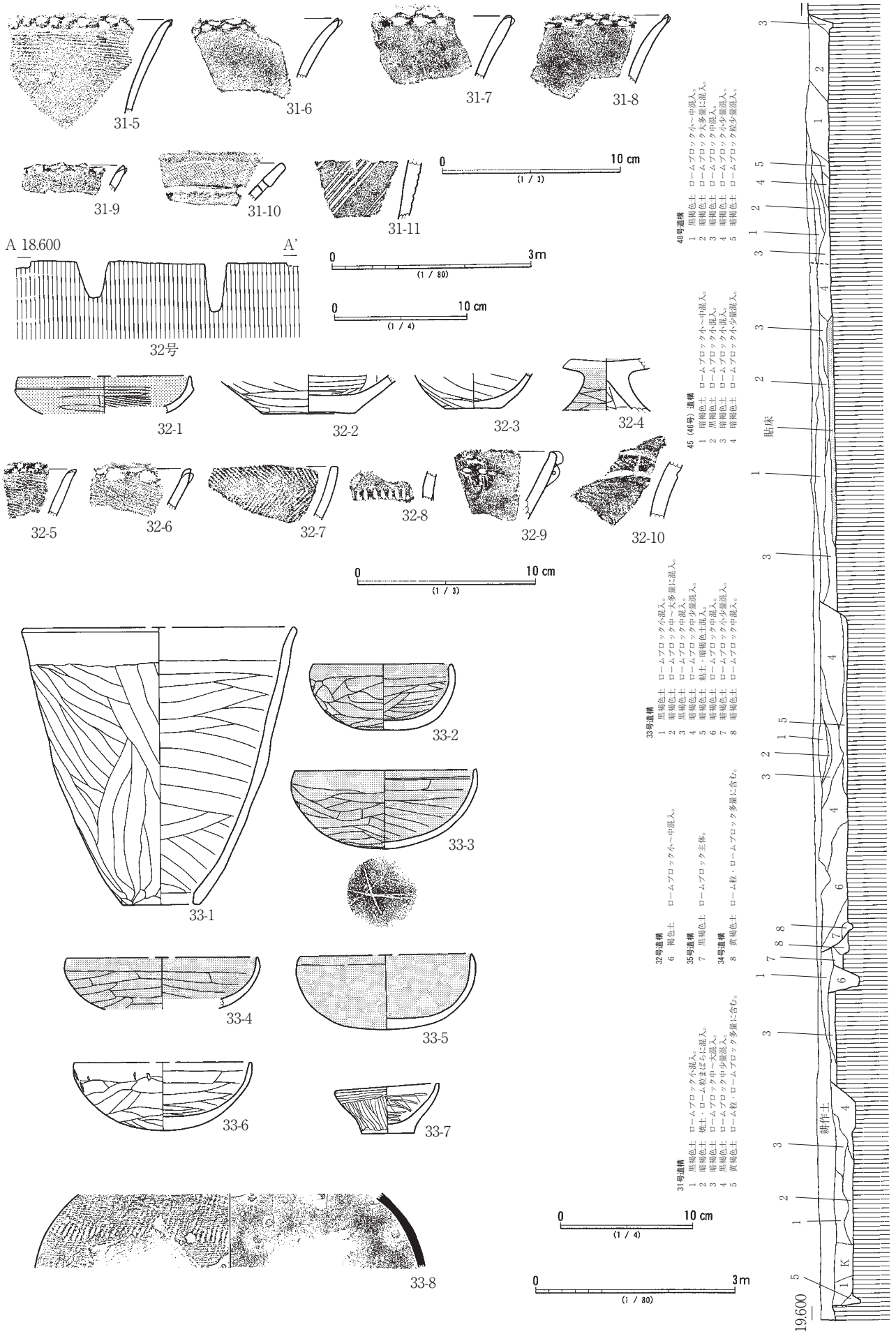
本遺構からは 171 点 4,728g の土器片と１点 44g の礫が検出された。土器片等の内訳は、24 点 517g の土師器、147 点 4,211g の弥生土器である。これらの出土遺物の内 11 点を図示した。

出土地点を明示した１・４・７の遺物は、１が床面より 11㎝浮いて、４・７は床面から７㎝浮いた土器群中からの出土である。それ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものである。なお、本跡はその遺物量から見ても宮ノ台式期末葉の遺構と捉えられ、平面プランに疑問を覚える。

32 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 234B 号。31 号竪穴の東側に隣接し、31 号竪穴に削平され存在する竪穴住居跡とされる。しかし、図示には至らなかったが、大型の土師器片や須恵器等を一括遺物の中に多く含むことから、宮ノ台期の 31 号竪穴に削平されるのではなく、新旧逆調査された可能性が極めて高い。

残存する北東壁は長さ 4.20m 高さ最大８㎝を測り、この周囲にピット群が存在する。平面プランは不明であるが、最大で第 40 図破線のあたりと想定される。



第44図　31 ～ 35・45・48号遺構実測図・31 ～ 33号遺構出土遺物実測図

炉跡等の火床施設は検出されておらず、ピットは６ヶ所に検出された。深さはＰ１が 72㎝、Ｐ２は 31㎝、Ｐ３は 42㎝、Ｐ４は 52㎝、Ｐ５が 52㎝、Ｐ６が 44㎝を測り、掘り込みはしっかりしている。

遺物

本遺構からは 199 点 2,696g の土器片と８点 290g の礫、２点 84g の土製品が検出された。土器片等の内訳は、82 点 1,792g の土師器、４点 29g の須恵器、111 点 854g の弥生土器、１点 18g の縄文土器、１点３g の近世陶器であり、これらの出土遺物の内 10 点を図示した。

これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

33 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 224 号。32 号竪穴の東側に隣接して存在し、32 号･34 号･35 号･46 号･47 号・49 竪穴を削平して存在する炉とカマドを併設する方形の竪穴住居跡である。長径 4.70m 短径 4.55m を測り、主軸方位はＮ－ 57 °― Ｅを示す。カマドは北東壁中央部に存在したが、記録図面・写真が存在しない。炉はＰ１～Ｐ２間の中心よりＰ１側、やや西よりに検出された。残存火床長軸長 0.33m 幅 0.28m 深さ３㎝を測り、火床長軸方位はＮ－ 56 °― Ｅを示す。残存する壁高は、それぞれ北東側で８㎝、南西側で 16㎝を測り、周溝は南側の一部から時計回りに北側まで残存し、深さは３～５㎝を測る。床面は貼床でほぼ平坦であるがさほど硬化しておらず、ピットは 10 ヶ所に検出された。深さはＰ１が 67㎝、Ｐ２は 68㎝、Ｐ３は 39㎝、Ｐ４は 71㎝を測り、掘り方も深くしっかりしており主柱穴と考えられる。この他にＰ５が 74㎝、Ｐ６は 44㎝、Ｐ７は 32㎝、Ｐ８は 28㎝、Ｐ９は 52㎝、P10 が 30㎝を測る。Ｐ５は方形を呈し、貯蔵穴と想定される。

遺物

本遺構からは 913 点 14,071.3g の土器片と 22 点 1,191.7g の礫･石器、５点 846g の土製品が検出された。土器片等の内訳は、780 点 12,541g の土師器、２点 98.3g の須恵器、126 点 1,352g の弥生土器、２点 40g の手づくね土器、１点 10g の早期撚糸文系土器、２点 30g の縄文土器であり、土製品は支脚片である。これらの出土遺物の内 22 点を図示した。

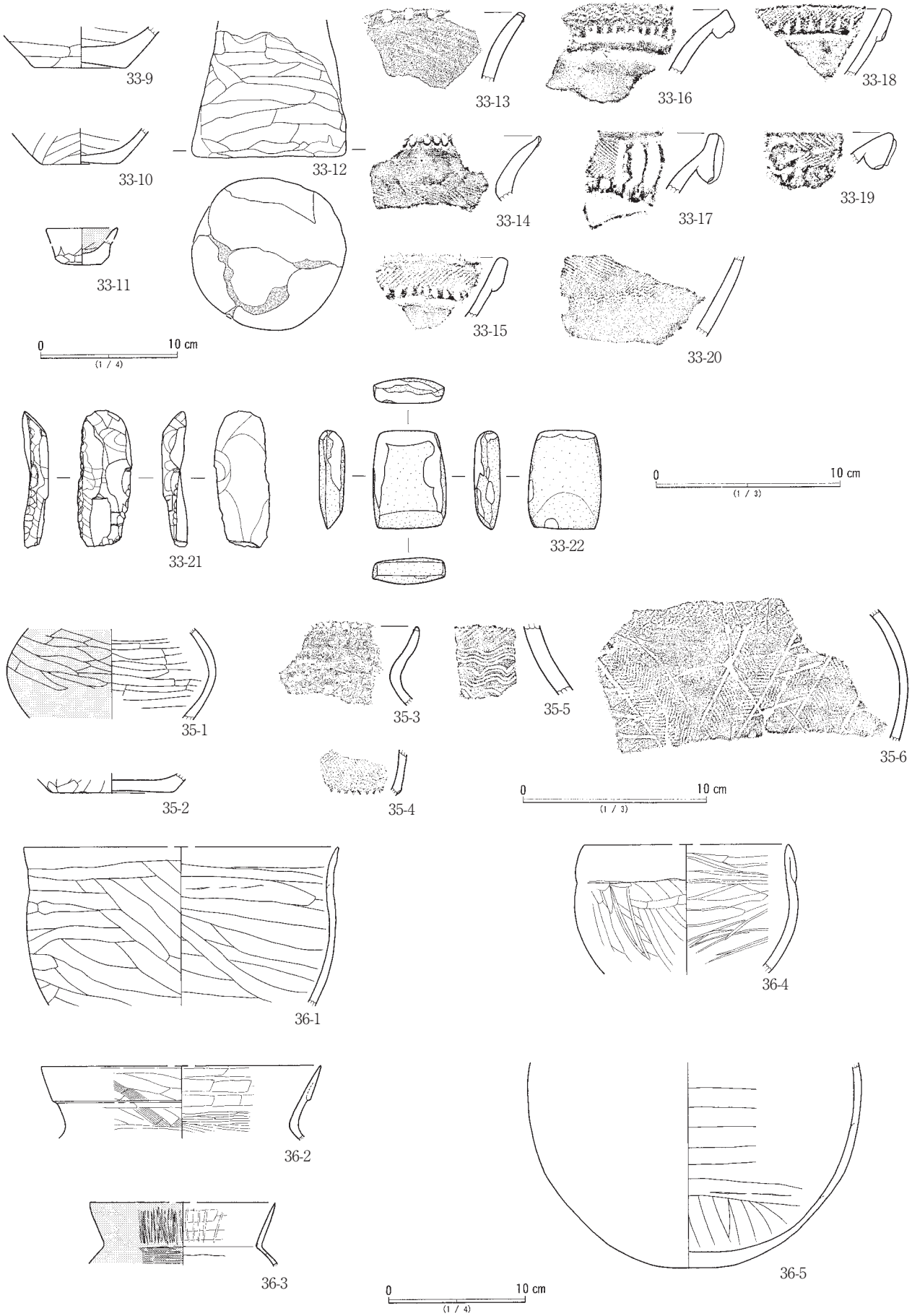
１はカマド右脇床上７㎝から出土した甑、２はＰ５内床面－ 29㎝から検出された坏である。３は南壁付近の床面、６はＰ１・Ｐ３間の床面から８㎝浮いて検出された坏で、３の底部外面には意味不明の線刻が施されている。７はＰ５内床面－ 33㎝から検出された鉢、10 は１に隣接して床面から８㎝浮いた状況で検出された甕である。この他に 12 の支脚がカマド内から検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

34 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 235 号。24 号竪穴と調査時遺構番号が重複している。33 号竪穴の北東に隣接して存在し、33 号に削平され、32 号･35 号を削平して存在する方形の竪穴住居跡である。残存する北西壁及び北東壁の長さは共に 5.14m、高さは北西側で 24㎝北東側で 10㎝を測る。炉・カマド等の火床施設や周溝は存在しないが、東壁際に細かいピットが 16 箇所検出され、深さは４～ 10㎝を測る。

遺物

本遺構出土遺物は存在しない。しかし調査時遺構番号が 24 号竪穴と重複しているため、本遺構からの出土遺物は全て 24 号遺構に吸収されてしまった可能性が高い。



第45図　33・35・36号遺構出土遺物実測図

35 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 223 号。34 号竪穴の北側に隣接して存在し、34 号竪穴に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。残存長径 4.02m 短径 3.20m を測り、床面はソフトローム中に掘り込まれるがあまり硬く踏み固められてはいない。炉等の火床施設は検出されておらず、ピットは２箇所に検出されているが、掘り込みはしっかりしていない。深さはＰ１が 12㎝、Ｐ２が 16㎝を測る。焼土は２箇所に検出され、厚さは４～ 11㎝を測る。

遺物

本遺構からは 89 点 973.0g の土器片と１点 5.0g の礫が検出された。土器片等の内訳は、17 点 305g の土師器、72 点 668g の弥生土器であり、これらの出土遺物の内６点を図示した。

２・６は、34 号竪穴コーナー付近の床面から５㎝離れた土器群中より検出された土師器甕底部と弥生壺片である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

36 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 229 号。33 号竪穴の南側に存在し、37 号・38 号・39 号・44 号・49 号竪穴を削平して存在する長方形の竪穴住居跡である。長径 5.06m 短径 3.94m を測り、主軸方位はＮ－ 59 °－ Ｅを示す。カマドは東壁中央部に存在したが、調査を実施した記録図面･写真が存在しない。

残存する壁高は、それぞれ東壁で 32㎝、西壁で 17㎝、南壁 26㎝北壁 41㎝を測る。周溝は全周し、深さは３～７㎝を測る。床面はほぼ平坦で硬く踏み固められているとされるが、記録写真を観察すると、本跡本来の床面はカマド前面の焼土上端レベルと想定される。したっがって、重複する 37 号とはほぼ同一レベルであるが、本来さらに下層に存在した 38 号・39 号竪穴床面レベルまで一気に掘下げてしまったため 39 号竪穴に伴う炉が本跡床面で確認されることになった。ピットは４ヶ所に検出されているが、Ｐ４と重複する柱穴は、39 号竪穴主柱穴の可能性が極めて高い。深さはＰ１が 68㎝、Ｐ２は 64㎝、Ｐ４と重複する柱穴は 80㎝、Ｐ４は 74㎝を測る。周溝範囲などから、本跡は２本柱穴の竪穴住居と捉えられ、Ｐ４はコーナー部に所在することから、貯蔵穴と想定される。

遺物

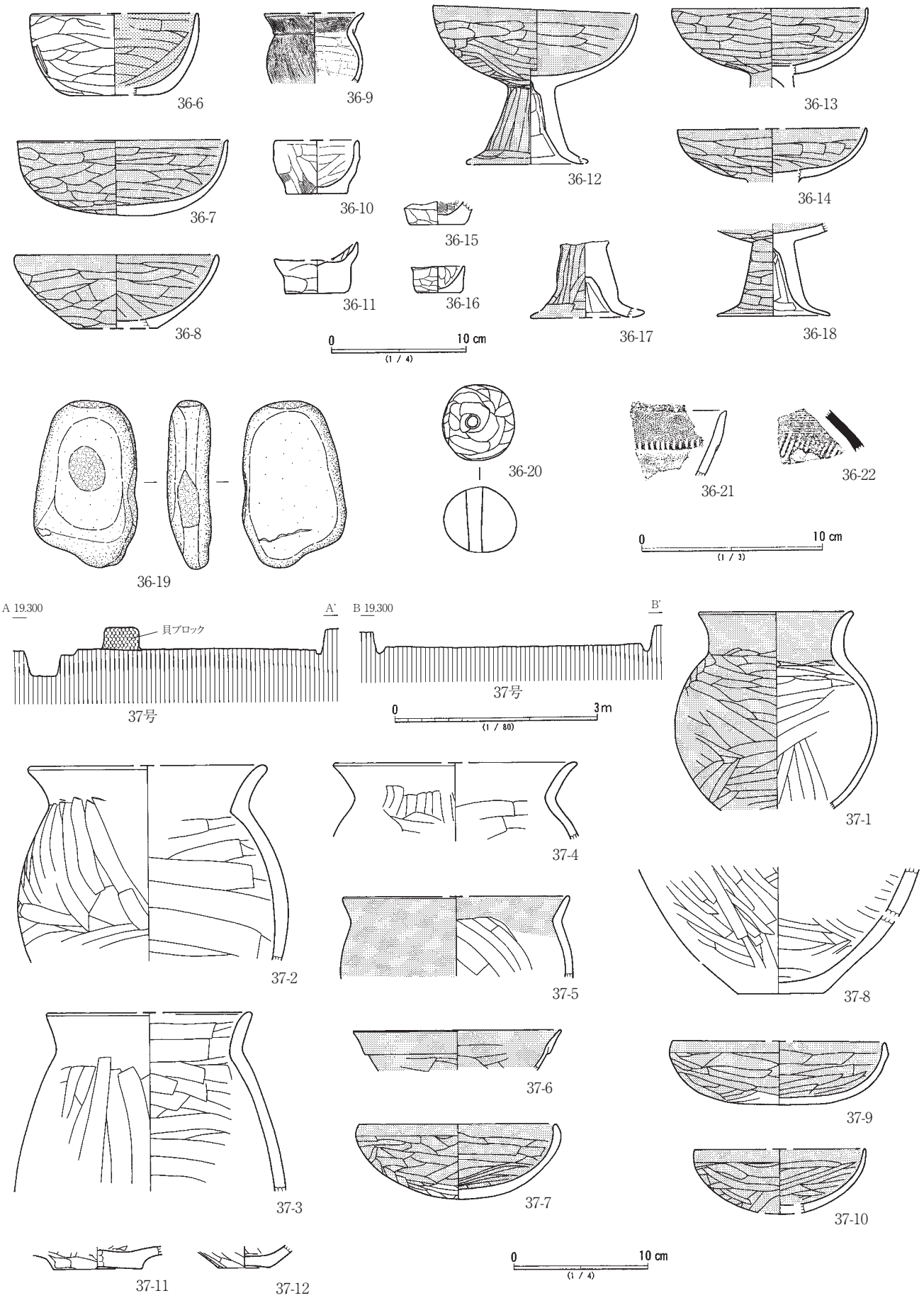
本遺構からは 445 点 9,397g の土器片と８点 469g の礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、393 点 8,541g の土師器、１点８ｇの須恵器、45 点 620g の弥生土器、５点 208g の手づくね土器、１点 20g の縄文土器であり、土製品は１点 68g の土玉である。また、石器は１点 199g の磨石である。これらの出土遺物の内 22 点を図示した。

１は南側周溝床上９㎝の位置で出土した土師器甑、２はカマド右脇の位置から出土した壺である。５はカマド内一括で出土した甕、６は南側周溝床上８㎝の位置で出土した鉢であり、７も南側周溝床上７㎝の位置で出土した坏である。11・12・13・14 は何れも南側周溝に近い位置の床面に近い位置で出土している。20 は土玉で床面から 16㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

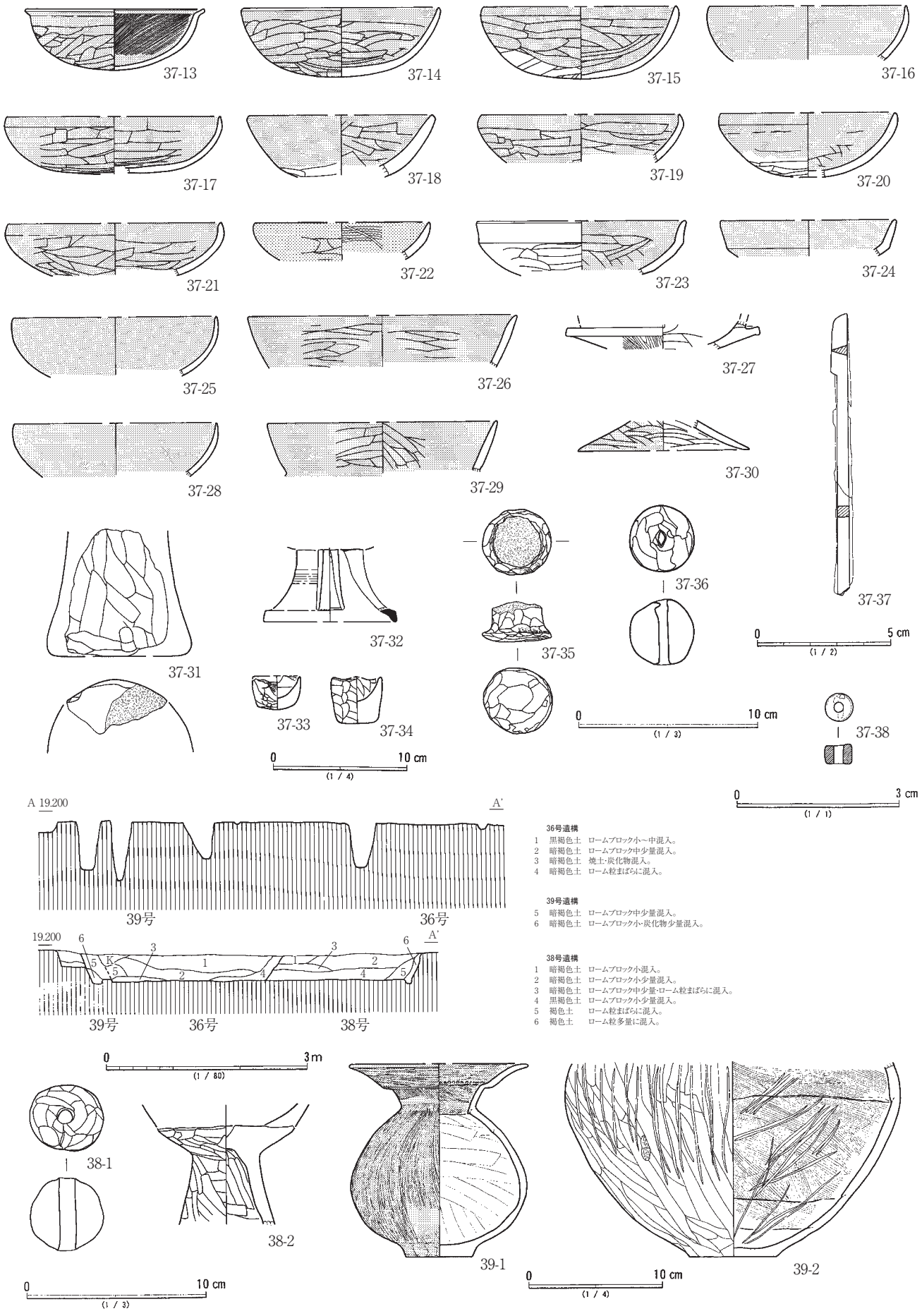
37 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 227 号。36 号竪穴の東側に存在し、36 号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径 4.20m 短径 4.05m を測り、主軸方位はＮ － 47 °－ Ｅを示す。36 号竪穴東側の

第46図　37 ～ 49号遺構実測図



第47図　37号遺構実測図・36・37号遺構出土遺物実測図



第48図　36・38・39号遺構実測図・37～39号遺構出土遺物実測図

粘土散布状況は、本跡のカマド残骸として捉えられることから、カマドは西壁中央部やや南側に存在した可能性が極めて高い。残存する壁高は、それぞれ東壁で８㎝、西壁で 27㎝、南壁で４㎝を測る。周溝は全周し、深さは３～ 16㎝を測る。床面はほぼ平坦で硬く踏み固められおり、ピットは１ヶ所に検出され、深さはＰ１が 55㎝を測る。遺構の東側から、５㎝程の間層を挟んで、壁側から遺構中央部に向いレンズ状に堆積する貝ブロックが検出されている。

遺物

本遺構からは 1,167 点 19,287g の土器片と９点 315g の礫、１点 0.16g の玉類、１点 9.6g の金属器、９点 388g の土製品が検出された。土器片等の内訳は、1,098 点 18,414g の土師器、１点 20g の須恵器、63 点 755g の弥生土器、２点 56g の手づくね土器、３点 42g の縄文土器であり、土製品は１点 60g の当て具、１点 42g の土玉、７点 286g の支脚片である。また、玉類は臼玉、金属器は鉄鏃である。これらの出土遺物の内 38 点を図示した。

１・２は、貯蔵穴と想定されるＰ１付近の床面から７～ 10㎝浮いた状態で検出された赤彩甕と甕である。７・９は床面より 14㎝浮いて、10 はＰ１付近の床面から７㎝浮いて検出された坏である。14・18 は床面より 15㎝ほど、27 は８㎝ほど浮いて検出されている。珍しい遺物に、土器調整に使用されと考えられる土製当て具が存在するが、覆土一括で取上げられており、出土位置を明示できない。

38 号遺構（竪穴住居跡）

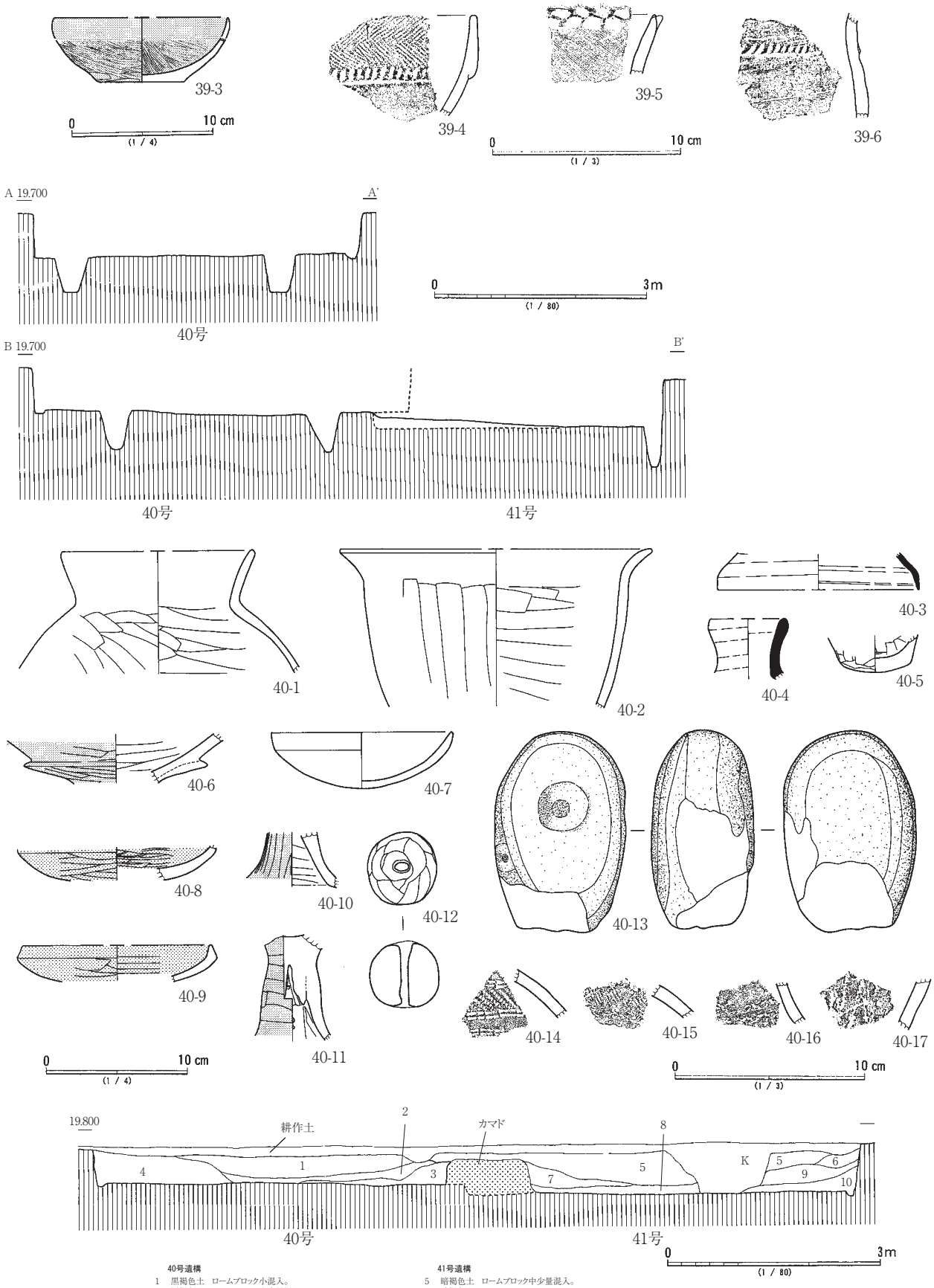
昭和 53 年度調査時遺構番号 228A 号。36 号竪穴の南側に存在し、39 号竪穴を削平し、36 号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径 3.80m 残存短径 3.10m を測り、主軸方位はＮ－ 51 °― Ｅを示す。カマドは北壁に存在し、写真図版 17 の粘土の乾き具合から両袖健在と判断されるが、調査を実施した記録図面・写真が存在しない。残存する壁高は、それぞれ北東壁で 10㎝、南東壁で 48㎝を測る。残存範囲の周溝は全周し、深さは５～８㎝を測る。床面はほぼ平坦で硬く踏み固められおり、ピットは１ヶ所に検出され、深さはＰ１が 27㎝を測る。

遺物

本遺構からは１点 246g の土師器と１点 63g の土玉が検出され、２点とも図化した。１は床面から９㎝浮いた状態で検出された土玉である。２は床面から 36㎝浮いた状況で検出された高坏片である。これ以外の遺物については、全て他の遺構一括で取上げられたようであり、出土遺物は極端に少ない。

39 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 228B 号。36 号竪穴の南側に存在し、36・38 号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。調査者は本遺構を長楕円の弥生住居と判断して調査を行っているが、記録写真や出土遺物、炉とピットの配置関係から、本来隅丸方形を呈した竪穴住居と判断される。推定長径 5.00m 短径 4.95m を測り、主軸方位はＮ－ 22 °― Ｗを示す。炉は中央西側に検出され、長軸長 0.80m 幅 0.62m 深さ５㎝を測り、火床長軸方位はＮ－ 79 °― Ｗを示す。残存する南西壁の高さは 50㎝を測り、周溝は西側の一部に残存し、深さは９㎝前後を測る。床面は 38 号竪穴と同一レベルで、硬く踏み固められおり、ピットは 12 ヶ所に検出され、深さはＰ１が 87㎝、Ｐ２が 82㎝、Ｐ３で 77㎝、Ｐ４で 55㎝、Ｐ５が 30㎝、Ｐ６で 55㎝、Ｐ７で 74㎝、Ｐ８で 27㎝、Ｐ９が 90㎝、P10 が 53㎝を測る。P11 は、36 号竪穴で一部紹介したが、深さ 80㎝を測り、Ｐ１・Ｐ９・P11 は何れも掘り込みが深くしっかりしており、本跡主柱穴であろうと考えられる。この他に P12 は入口施設に伴うものと想定され、深さ 27



40号遺構
1　黒褐色土　ロームブロック小混入。
2　黒褐色土　ロームブロック小少量混入。
3　暗褐色土　灰まばらに混入。
4　暗褐色土　ロームブロック小～中少量混入。

41号遺構
5　暗褐色土　ロームブロック中少量混入。
6　暗褐色土　粘土混入。
7　暗褐色土　ロームブロック中少量混入。
8　暗褐色土　ロームブロック中～大・ローム粒まばらに混入。
9　暗褐色土　ロームブロック小混入。
10　暗褐色土　黒色土少量・ローム粒まばらに混入。締る。

第49図　40・41号遺構実測図・39・40出土遺物実測図

㎝を測る。なお本跡は本来４柱穴竪穴と想定されるが、残りの主柱穴は検出されなかった。

遺物

本遺構からは３点 1,290g の土師器と３点 64g の弥生土器が検出され、全て図化した。１は炉内検出の１点と床面から 25㎝浮いた状態で検出された土器片を接合した土師器小型二重口縁壺である。２の甕は床面から７㎝、３の鉢は床面から５㎝浮いた状況で検出されている。これ以外の遺物については、全て覆土一括で取上げられているが、他の遺構一括で取上げれれたようであり、出土遺物は極端に少ない。

40 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 233A 号。38 号竪穴の南側に存在し、38 号・41 号・43 号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径 5.44m 残存短径 5.20m を測り、主軸方位はＮ－ 52 °― Ｗを示す。カマドは北西壁中央に存在し、残存する火床長径 0.78m 短径 0.42m 深さ４cm を測り、火床長軸方位はＮ－ 48 °― Ｗを示す

残存する壁高は、それぞれ北東壁で 55㎝、南東壁 58㎝を測る。周溝は北東方向に残存し、深さは３～８㎝を測る。床面はほぼ平坦で硬く踏み固められており、ピットは４ヶ所に検出された。深さはＰ１が 57㎝、Ｐ２が 62㎝、Ｐ３が 56㎝を測る。なお本跡は、検出されたピットの位置関係から４本柱穴竪穴と判断されるが、残りの主柱穴は調査区域外に存在するものと想定される。Ｐ４は南側周溝内より検出され、深さは４㎝を測る。

遺物

本遺構からは 398 点 6,206g の土器片と８点 985g の礫・石器、２点 70g の土製品が検出された。土器片等の内訳は、355 点 5,560g の土師器、２点 54g の須恵器、38 点 515g の弥生土器、２点 67g の手づくね土器、１点 10g の縄文土器、１点 600g の凹石、土製品は１点 42g の土玉、１点 28g の布目瓦片である。これらの出土遺物の内 17 点を図示した。

７はカマド内から出土した土師器坏である。10 は床面より 34㎝浮いた状況で検出された高坏脚部片である。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

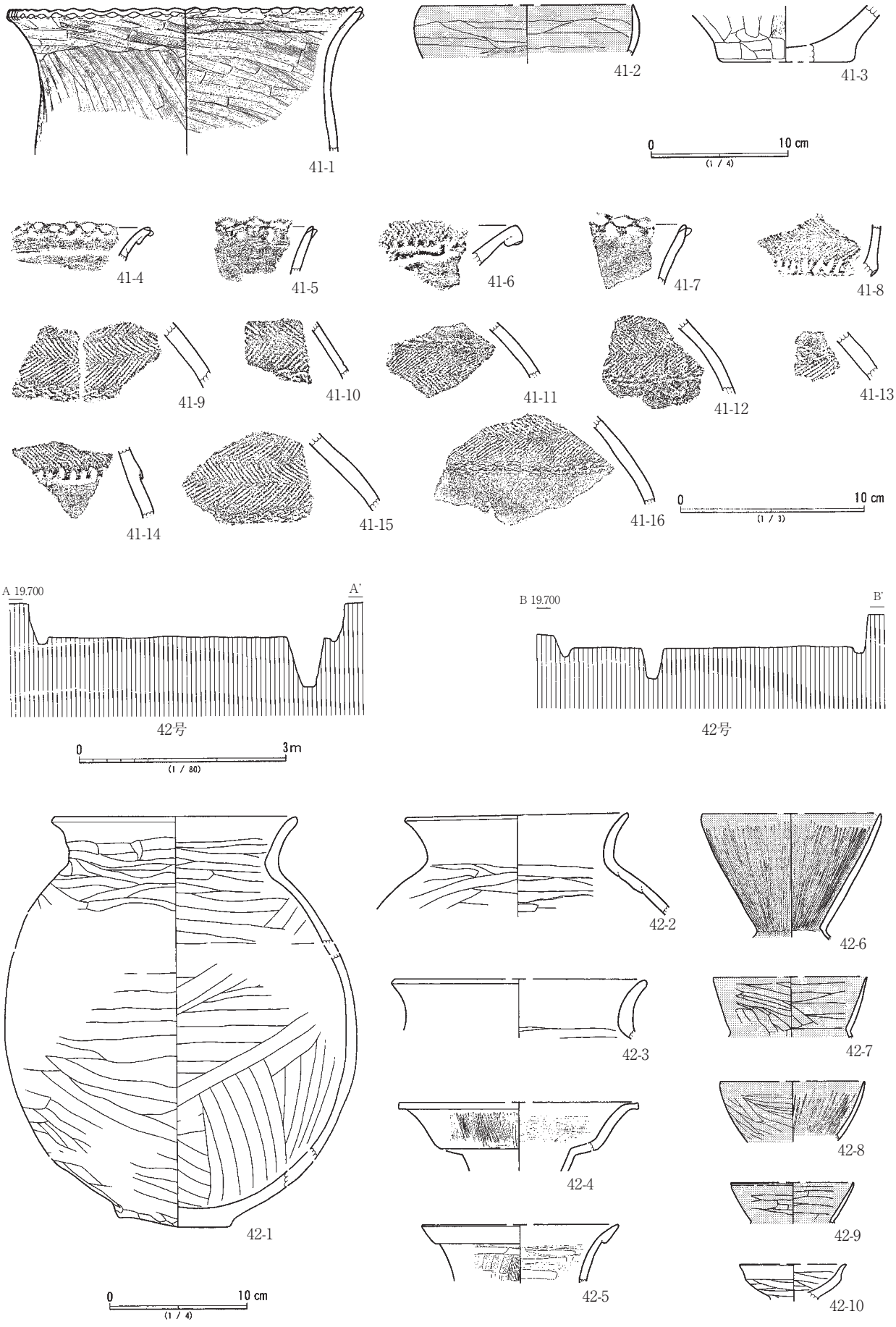
41 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 233B 号。40 号竪穴の北側に隣接し、40 号竪穴に削平されて存在する。残存長 5.20m を測り、平面形は楕円形を呈する竪穴住居跡である。遺構プランから炉は調査区域外に存在するものと想定され、残存する壁高は、北西壁で 66㎝、北東壁 35㎝を測る。周溝は北側から北東にかけて残存し、深さは４～８㎝を測る。床面はほぼ平坦で硬く踏み固められており、ピットは２ヶ所に検出された。深さはＰ１が 54㎝、Ｐ２が 66㎝を測る。なお本跡は４本柱穴竪穴と判断されるが、残りの主柱穴は調査区域外に存在するものと想定される。

遺物

本遺構からは 166 点 2,234g の土器片と１点 15g の土製品が検出された。土器片等の内訳は、82 点 1,038g の土師器、84 点 1,196g の弥生土器であり、土製品は支脚片である。これらの出土遺物の内 16 点を図示した。

これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。



第50図　42号遺構実測図・41・42号遺構出土遺物実測図

42 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 225 号。38 号竪穴の北東に位置し、43 号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径 4.64m 短径 4.60m を測り、主軸方位は N － 42 °― E を示す。カマドは北壁中央やや東側に存在し、残存する火床長径 0.42m 短径 0.32m 深さ３cm を測り、火床長軸方位は N － 41 ° － E を示す。

残存する壁高は、それぞれ北東壁で 50㎝、南東壁 58㎝、北西壁 23㎝、南西壁 50㎝を測る。周溝は全周し、深さは５～ 11㎝を測る。床面はほぼ平坦で硬く踏み固められており、ピットは２ヶ所に検出された。深さはそれぞれＰ１が 18㎝、Ｐ２は 72㎝を測る。この内高さ２㎝の周堤帯に囲まれたＰ２は、その位置から貯蔵穴と想定される。カマド前面の床面には焼土が検出され、厚さ６㎝を測る。

遺物

本遺構からは 439 点 11,102g の土器片と１点 35g の礫、１点 5.4g の石製模造品、１点７g の土製品が検出された。土器片等の内訳は、374 点 10,317g の土師器、60 点 700g の弥生土器、５点 85g の縄文土器であり、石製模造品は扁平勾玉、土製品は支脚片である。これらの出土遺物の内 19 点を図示した。

１は、カマド内より口縁部を、床密着の状況で底部から検出された土師器甕である。２・３はそれぞれ床面より５㎝と３㎝浮いた状況で検出された。11 は坏部を火床に向け出土した土師器高坏で、支脚転用の可能性がある。16 は周溝コーナー部床上４㎝の位置で出土した土師器坏であり、底部外面に十文字の線刻が刻まれる。12・13・14・17 は、出土地点は示せるが、床面から 25㎝前後離れた状況で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

43 号遺構（竪穴住居跡）

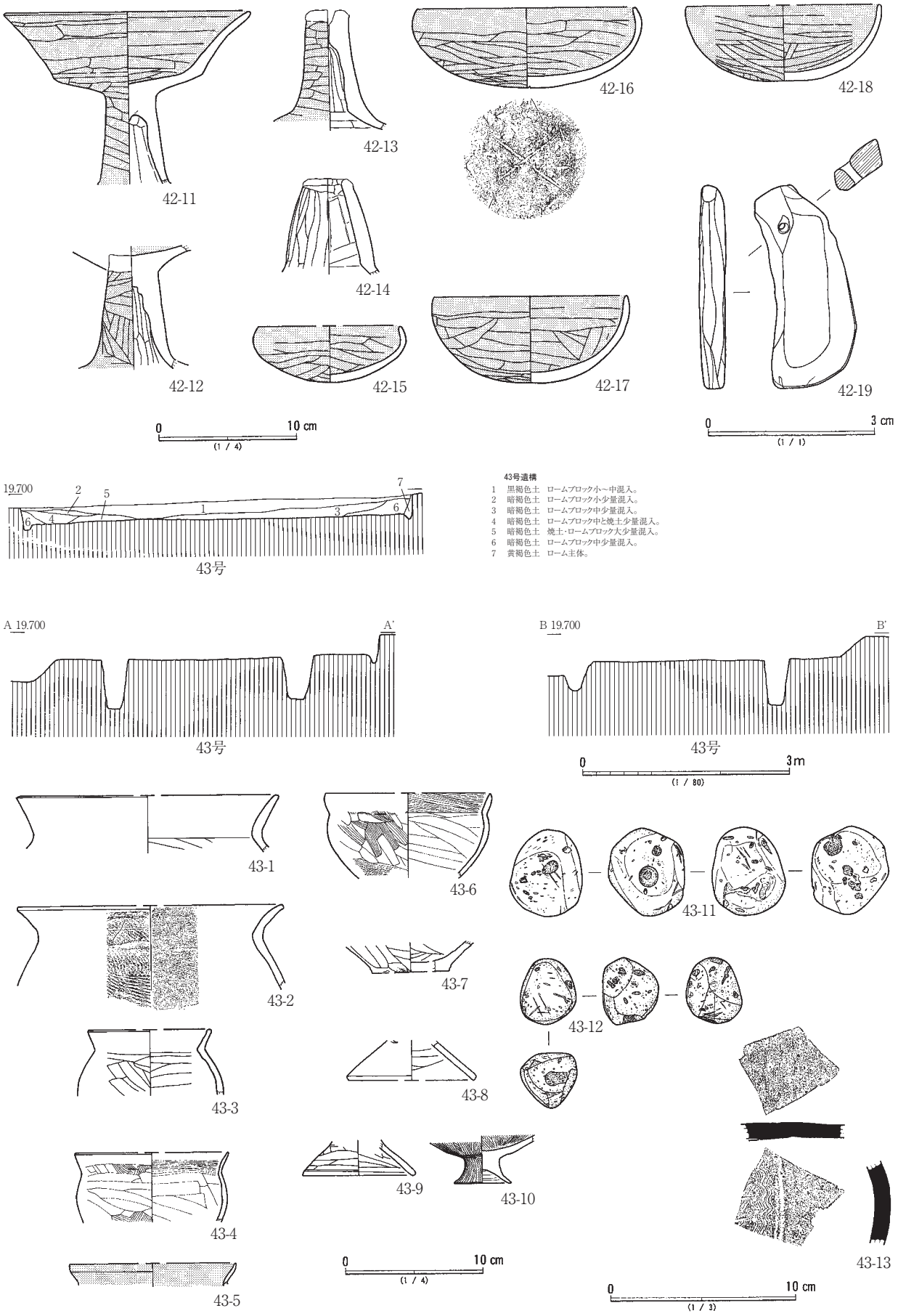
昭和 53 年度調査時遺構番号 226 号。42 号竪穴の南に隣接し、40 号・42 号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径 5.22m 短径 5.00m を測り、主軸方位は N －１ °― W を示す。炉は中央やや北よりに存在し、残存する火床長径 0.80m 短径 0.40m 深さ３cm を測り、火床長軸方位は N － 22 °― W を示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で 30㎝、西壁 24㎝、南壁 31㎝を測る。残存範囲での周溝は全周し、深さは４～ 11㎝を測る。床面はほぼ平坦であるが軟弱で、中央部のみ硬く締まる。ピットは５ヶ所に検出された。深さはそれぞれＰ１が 51㎝、Ｐ２は 42 号竪穴内からの検出で 35㎝、本跡床面からは 54㎝を測る。Ｐ３は 72㎝、Ｐ４が 63㎝、Ｐ５は貯蔵穴と想定され深さは 32㎝を測る。床面には焼土及び炭化物が７ヶ所に検出され、厚さ２～ 17㎝を測る。

遺物

本遺構からは 171 点 1,580g の土器片と 7 点 141.4g の礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、147 点 1,349g の土師器、1 点 31g の須恵器、23 点 200g の弥生土器であり、石器 2 点は軽石である。これらの出土遺物の内 13 点を図示した。

13 は須恵器樽形瓶片で、外面に弱い沈線を挟んで櫛描波状文が施されている。なお、本跡出土遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。



第51図　43号遺構実測図・42・43号遺構出土遺物実測図

44 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 200D 号。調査日誌には記載されていない遺構である。しかし、42 号として取上げられた遺物は、明らかに 42 号に伴わない遺構外の位置に所在すること、レベル表記が無く高さが不明であるが、43 号竪穴内に本跡南コーナー部が残存すること、柱穴らしきピットが存在することから、竪穴として報告する。37 号・42 号竪穴に大半を削平され、残存長径 5.38m 残存短径 4.40m を測り、火床施設も検出されない。Ｐ１は深さ 90㎝を測る。

遺物

本遺構からは２点 445g の土師器が検出され、２点とも図化した。１・２共本跡床面より検出されたものである。

45 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 200A 号。44 号竪穴の北側に位置し、46 号竪穴貼床下層に存在する竪穴住居跡であるが、規模等は不明である。炉は 46 号竪穴張床面で検出される炉の北側に検出され、明らかに本跡に伴う炉と想定される。残存する火床長径 0.90m 短径 0.55m 深さ 5cm を測り、火床長軸方位はＮ－ 32 °― Ｗを示す。

北側に残存する壁高は８㎝を測る。周溝は存在せず､床面はほぼ平坦で硬く踏み固められているが､本跡に伴うピットは確定できなかった。

遺物

本遺構からは 156 点 2,317g の土器片と１点６ｇの礫、１点 0.07g の石製模造品が検出された。土器片等の内訳は､85 点 1,158g の土師器､71 点 1,159g の弥生土器であり､石製模造品は滑石製臼玉である。これらの出土遺物の内 11 点を図示した。

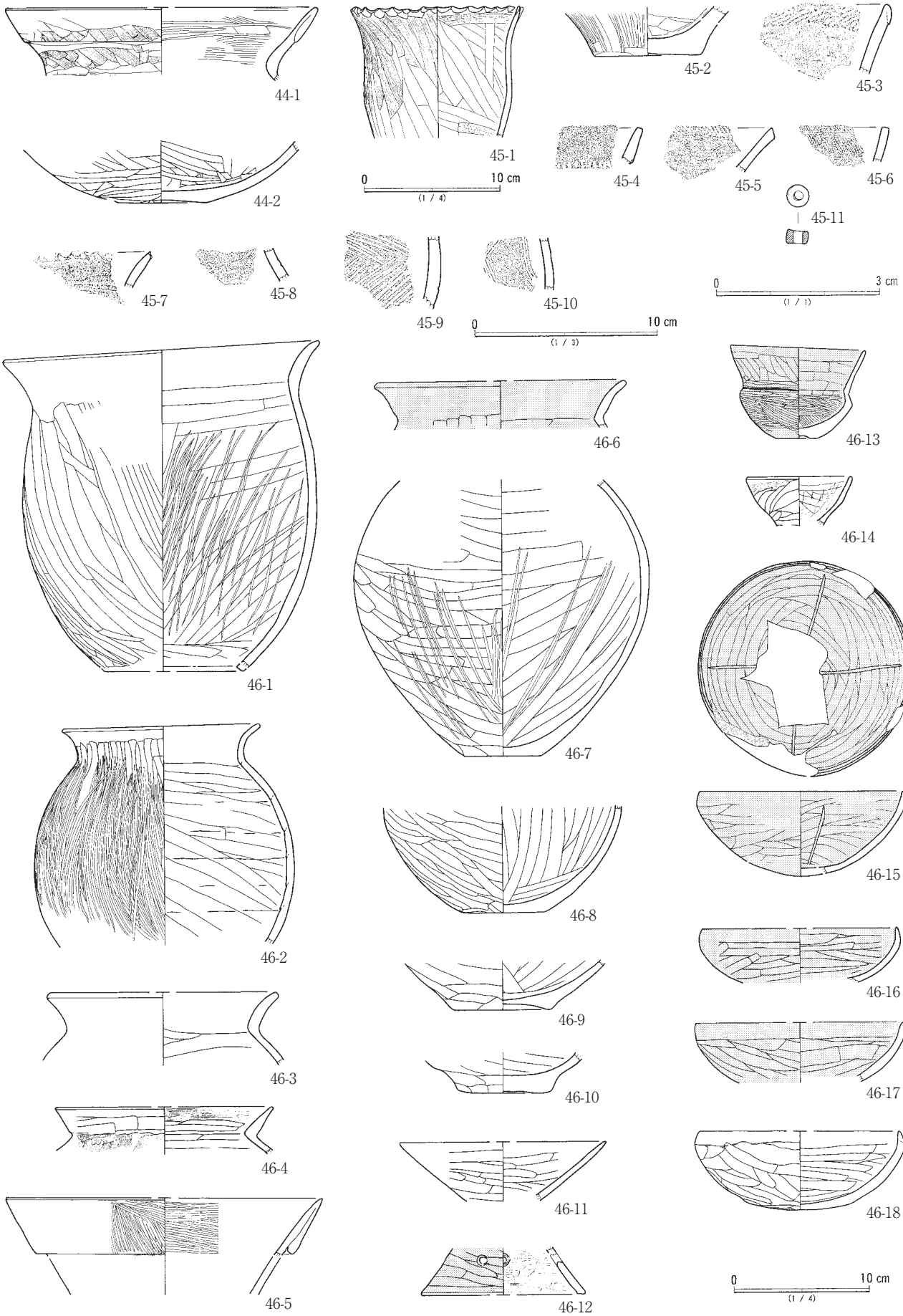
１は、46 号カマドと想定される粘土範囲より若干下がって出土した。同じく２・３も 46 号貼床下８㎝の本跡床面から出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

46 号遺構（竪穴住居跡）

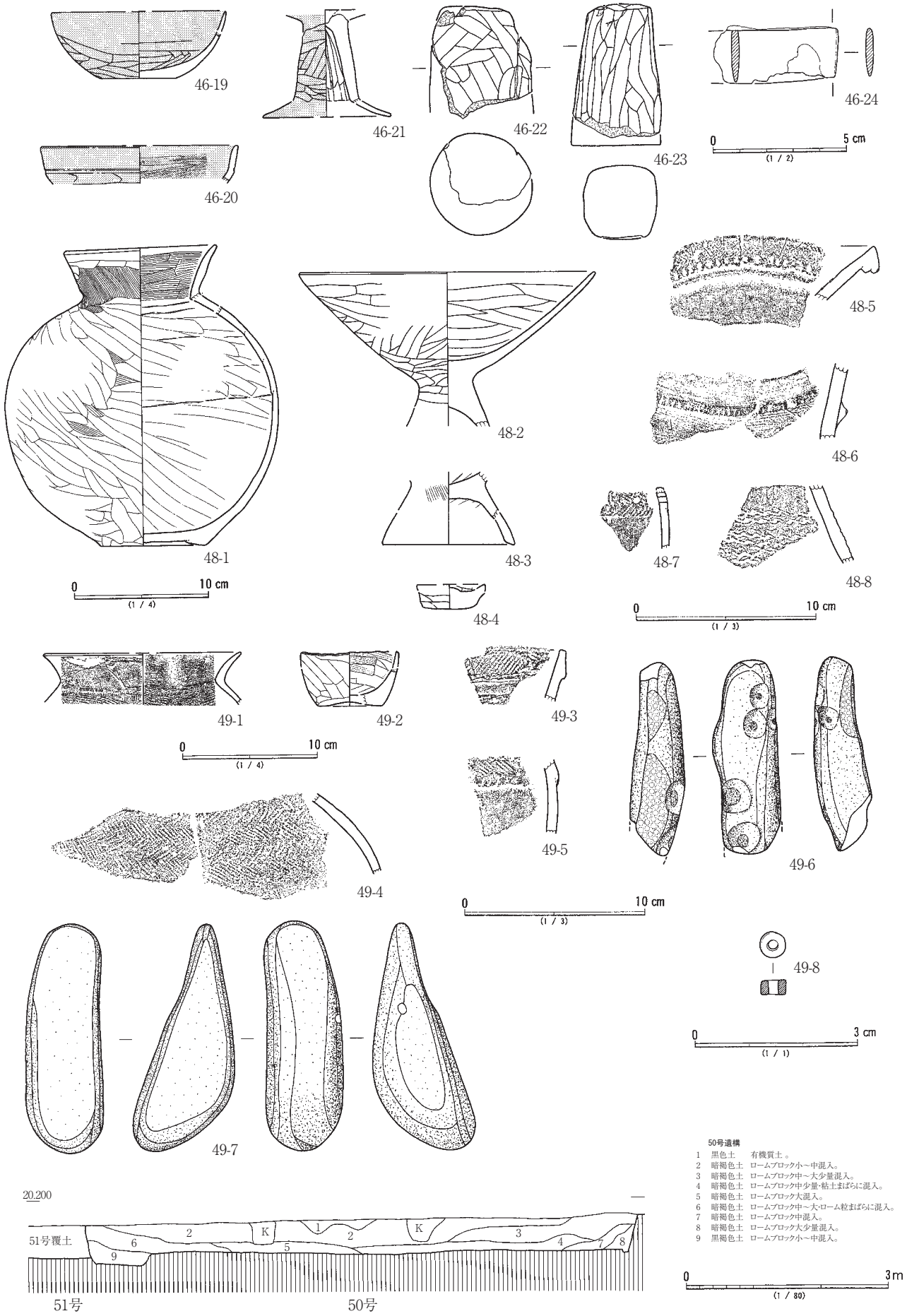
昭和 53 年度調査時遺構番号 200B 号。44 号竪穴の直上８㎝に貼床を持って構成される竪穴住居跡である。平面プラン不明ながら、柱穴間規模は長径 4.25m 短径 3.56m を測り、貼床面の南側にカマド残骸粘土、Ｐ２・Ｐ４間のやや南側に炉が検出されており、炉とカマドを併設する竪穴である。南側に存在するカマドを主体とする主軸方位はＮ－ 127 °― Ｗを示す。調査日誌でも南側の粘土をカマドとするが、残念ながら調査図面が存在しておらず、詳細不明である。炉は貼床範囲内のＰ２～Ｐ４間のやや南側に偏って存在し、残存する火床長径 0.82m 短径 0.56m 深さ８cm を測り、火床長軸方位はＮ－ 46 °― Ｗを示す。

貼床範囲はほぼ平坦で硬く踏み固められており､硬化範囲は第 45 図内に破線で示した。焼土は２ヶ所に検出され、厚さ３～４㎝を測る。本跡に伴うピットは、炉及びカマドの位置から適性に配置された主柱穴４本を確認できる。深さはそれぞれＰ１が 72㎝、Ｐ２が 75㎝、Ｐ３が 78㎝、Ｐ４が 75㎝を測り、ほぼ均一な状況を示す。

遺物



第52図　44 ～ 46号遺構出土遺物実測図



第53図　50・51号遺構実測図・46・48・49号遺構出土遺物実測図

本遺構からは 97 点 7,223g の土器片と１点 35g の礫、１点 12.9g の鉄器、２点 649g 土製品が検出された。土器片等の内訳は、96 点 7,210g の土師器、１点 13g の弥生土器であり、鉄器は小柄茎尻部残欠、土製品は支脚である。これらの出土遺物の内 24 点を図示した。

１・２・７・８は床面から 17㎝浮いた状態で検出されているが、カマドと想定される粘土範囲には密着した状態での検出である。３・13 は床面から 10㎝程度浮いて、９・10・15・17・18 は床直上ないしは密着の状況で検出されている。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示できるものはない。なお、本跡出土遺物の内、１・２・７・８・９・10・15・17・18 はその出土状況から本跡に直接伴うと判断される。その土器組成は、現状市原市域の中では和泉式から鬼高式開始最古段階期に相当する。

47 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 200C 号。45 号竪穴の北側に隣接し、33 号・45 号・48 号竪穴に削平されて所在する竪穴住居跡である。炉址等の火床施設は検出されないが、残存規模 4.04m 以上の楕円形プランの弥生住居と想定される。調査日誌に記載されるが床面の状況は不明で、本跡に伴うピットは未検出、壁高は 18㎝を測る。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

48 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 199 号。43 号竪穴の北に隣接し、46 号・42 号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存する壁と柱穴から、復元長径 6.86m 短径 6.02m を測り、主軸方位は N － 109 °― E を示す。炉は未検出であるが、Ｐ３～Ｐ４間に撹乱が存在することから、小規模な火床施設が存在した可能性が考えられる。

残存する壁高は、東壁で 33㎝、南壁で 31㎝を測る。壁が存在する範囲には周溝が存在し、深さは２～４㎝を測る。床面はほぼ平坦であり硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出された。深さはそれぞれＰ１が 71㎝、Ｐ２は 75㎝、Ｐ３は 78㎝、Ｐ４が 79㎝、Ｐ５は 38㎝、Ｐ６は 37㎝を測る。焼土は１ヶ所に検出され、厚さ 15㎝を測る。

遺物

本遺構からは 526 点 8,228g の土器片と６点 118.0g の礫が検出された。土器片等の内訳は、454 点 7,400g の土師器、71 点 798g の弥生土器、１点 30g の手づくね土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

１・２は床面からそれぞれ 19 ～ 16㎝浮いた状況で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取り上がられたものであり、出土地点を明示できるものはない。

49 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 230 号。36 号竪穴の北に隣接し、33 号・36 号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径 3.20m 推定短径 2.34m 前後を測り、炉址等の火床施設は検出されていない。残存する壁高は、それぞれ南東壁で 11㎝、北西壁 17㎝を測る。周溝は存在せず、床面はほぼ平坦であるが軟弱で、ピットは１ヶ所に検出された。深さは 52㎝を測る。

遺物

本遺構からは 179 点 2,520g の土器片と５点 695g の礫・石器、１点 0.11g の臼玉、１点 15g の支脚片が検出された。土器片等の内訳は、76 点 1,410g の土師器、103 点 1,110g の弥生土器、１点 417g の磨石１点 178g の磨石転用凹石・敲石である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

４の鉢は床直の状況で検出されている。この他６が 12㎝、７が３㎝床から離れて検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取り上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

50 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 251 号。調査区北端部付近に位置し、51 号・52 号・64 号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径 7.68m 短径 7.56m を測り、主軸方位は N － 65 °― E を示す。カマドは東壁中央やや南に偏って存在し、残存する火床長径 0.76m 短径 0.52m 深さ２cm を測り、火床長軸方位は N － 77 °― E を示す

残存する壁高は、それぞれ東壁で 41㎝、西壁 46㎝、南壁 58㎝、北壁 46㎝を測る。周溝はほぼ全周し、深さは４～８㎝を測る。床面はほぼ平坦で主柱穴内が円形に硬く踏み固められており、ピットは 15 ヶ所に検出された。深さはＰ１が 59㎝、Ｐ２が 56㎝、Ｐ３が 44㎝、Ｐ４が 63㎝、Ｐ５が 62㎝、Ｐ６が 21㎝、Ｐ７が 14㎝、Ｐ８が 23㎝、Ｐ９が 21㎝、P10 が 17㎝、P11 が 52㎝、P12 が 29㎝、P13 が 24㎝、P14 が 26㎝、P15 が 28㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定される。

間仕切り溝は６ヶ所に検出された。A は長さ 1.94m 幅 0.3m 前後､深さ 18㎝､B は長さ 1.74m 幅 0.25m 前後、深さ 21㎝、C は長さ 0.76m 幅 0.24m 前後、深さ６㎝、D は長さ 1.64m 幅 0.40m 前後、深さ 19㎝、E は長さ 0.76m 幅 12 ～ 24m 前後、深さ 15㎝、F は長さ 0.74m 幅 0.3m 前後、深さ 19㎝を測る。焼土は１ヶ所に検出され、厚さ３㎝を測る。

遺物

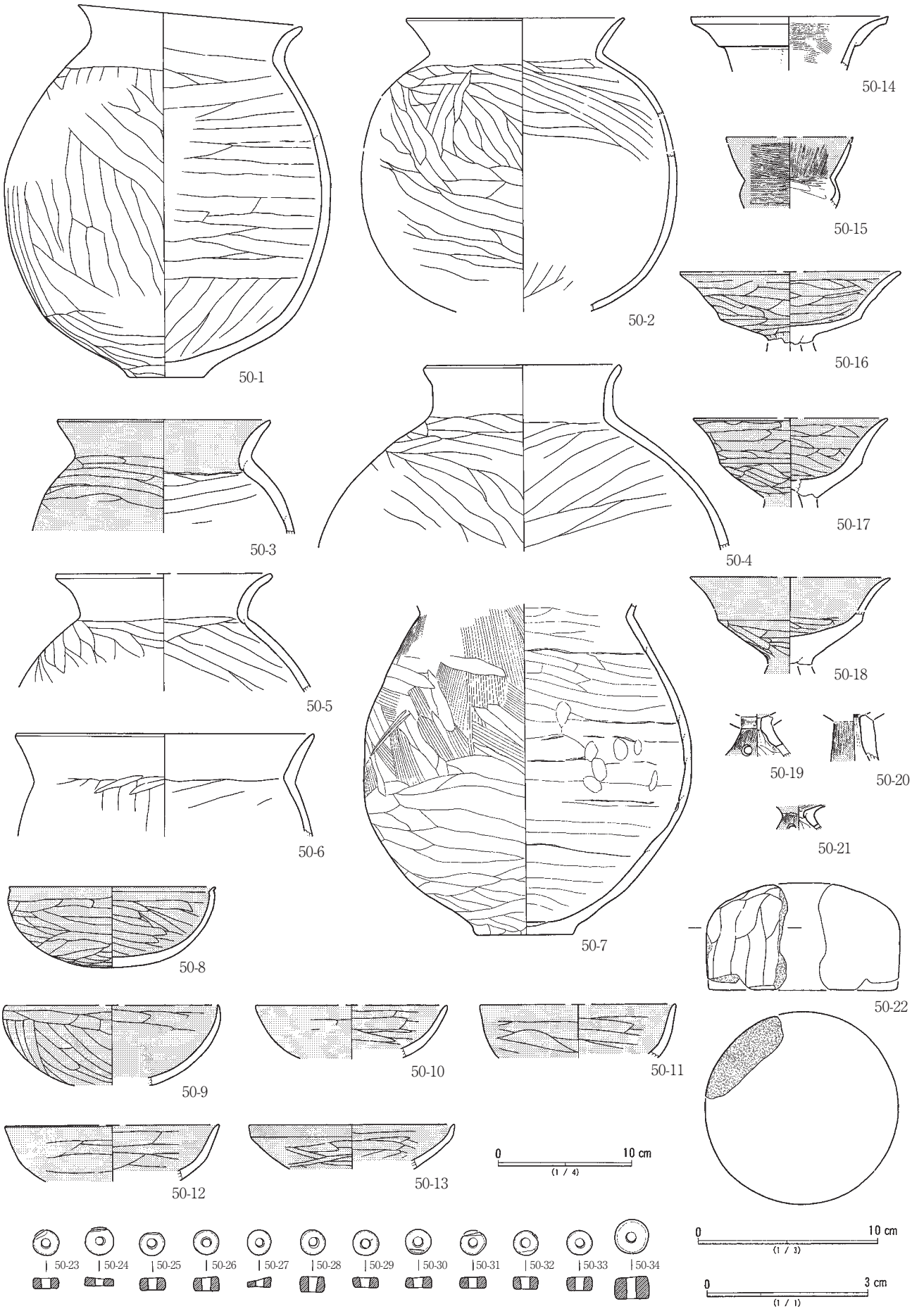
本遺構からは 951 点 19,705g の土器片と 14 点 367g の礫・石器、230 点 29.97g の玉類、４点 216g 土製品が検出された。土器片等の内訳は、863 点 18,339g の土師器、47 点 510g の弥生土器、41 点 856g の縄文土器、229 点 19.65g の臼玉、１点 10.32g の扁平勾玉であり、土製品４点は全て支脚片である。これらの出土遺物の内 252 点を図示した。

１～５は床直あるいはカマド内やピット内から、７・８・９・16 も住居内の床面に近い位置で出土しており、本跡に直接伴うものと判断される。また、G・Hの記号を付した床面上から、極めて多量の臼玉が出土している。特にGには１点の扁平勾玉が含まれており、G・H併せた首飾り状の製品が所在したことが察知されるが、ドットで取上げられていないため、個々の対応が不可能である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており出土地点を明示するものはない。

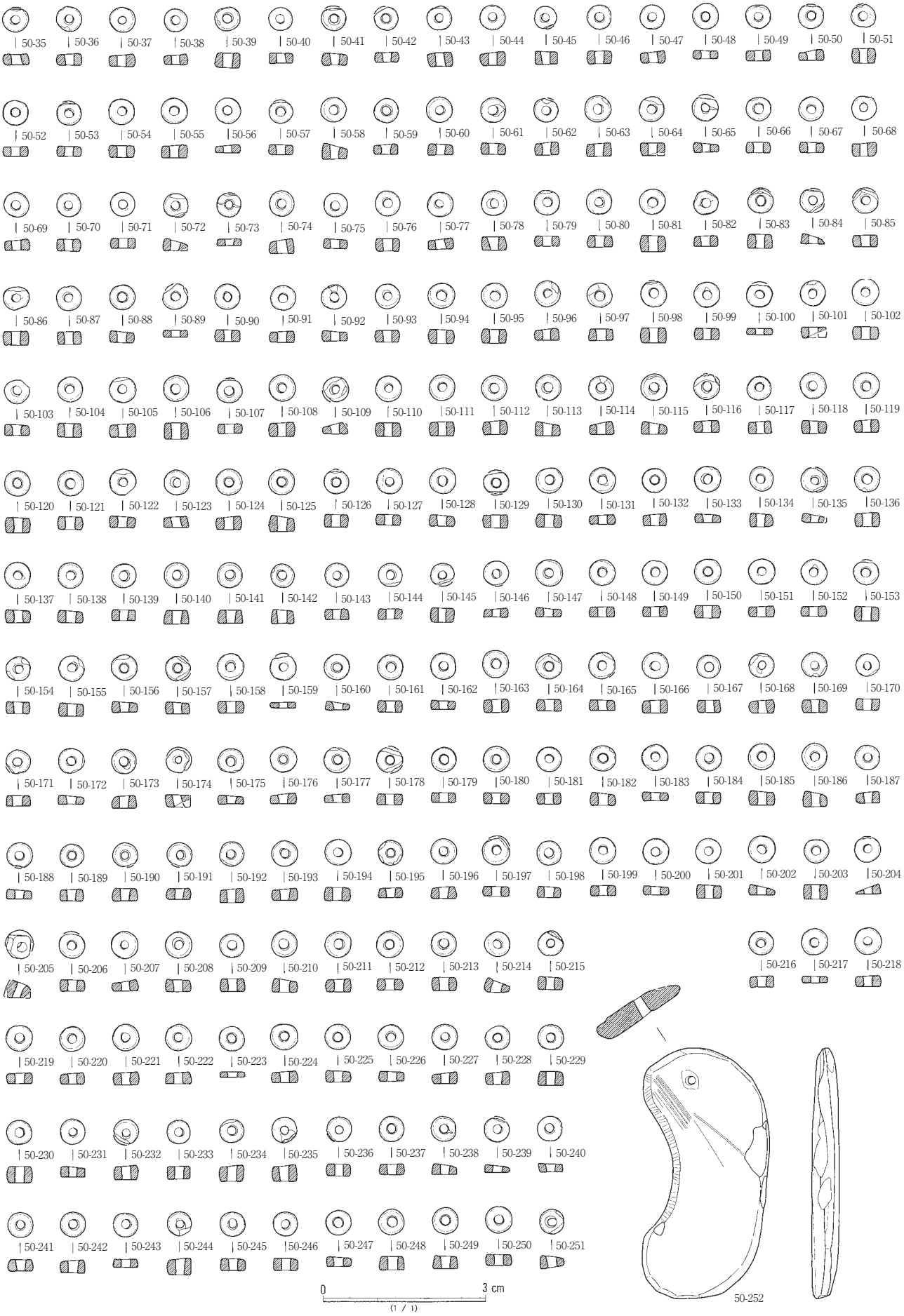
51 号遺構（竪穴住居跡）

昭和 53 年度調査時遺構番号 256 号。調査区北端部付近に位置し、50 号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。炉の半分以上北側は調査地区外に所在し、遺存状況は不良ながら対角線上のコーナー部が検出されており、その規模が復元できる。長径 5.62m 短径 3.86m 前後を測り、主軸方位は N － 33 °― W を示す。炉は中央やや北側に偏って検出され、残存する火床長径 0.70m 短径 0.34m を測るが深さの記載がない。火床長軸方位は N － 30 °― W を示す。

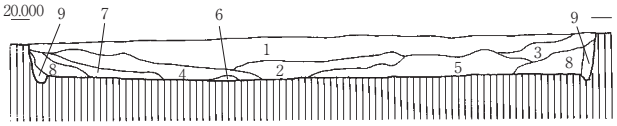
第54図　50 ～ 56号遺構実測図



第55図　50号遺構出土遺物実測図１



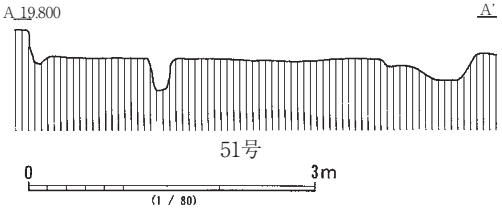
第56図　50号遺構出土遺物実測図２



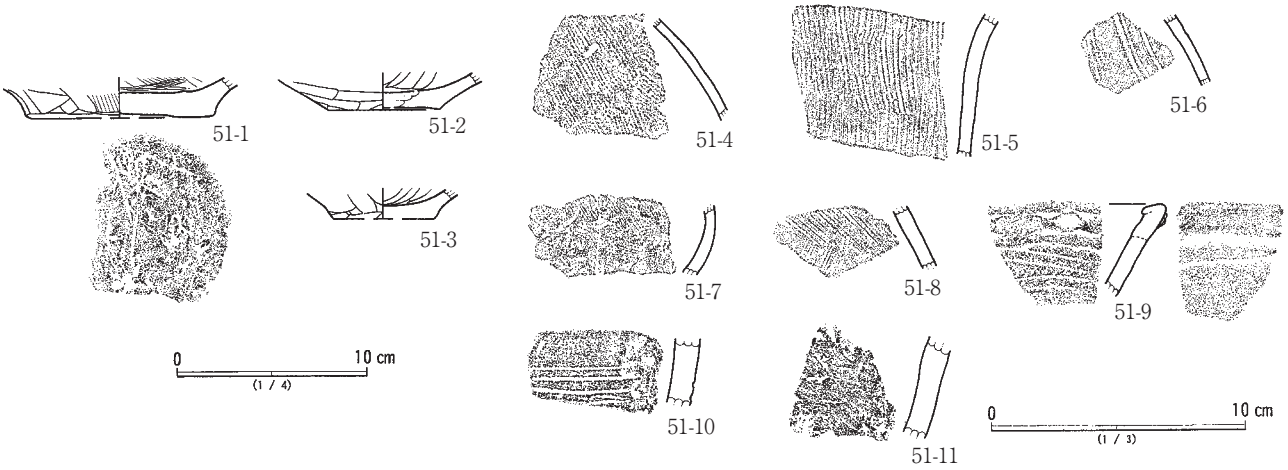
51号

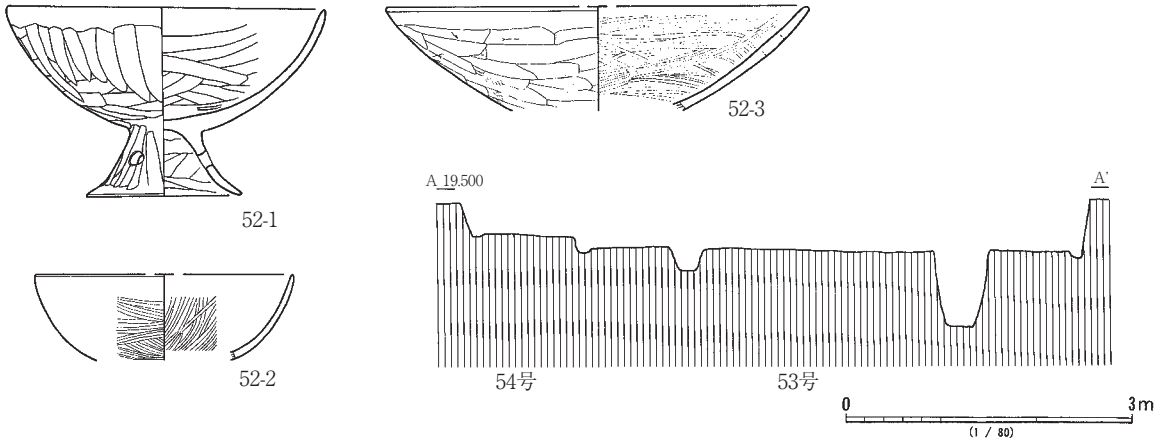
51号遺構

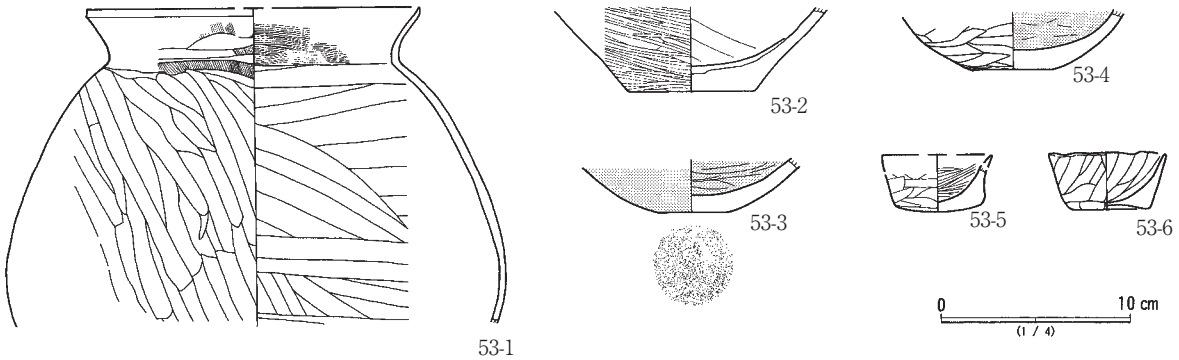
1　暗褐色土　ロームブロック中～大混入。
2　黒褐色土　ロームブロック中混入。
3　暗褐色土　ロームブロック中少量混入。
4　暗褐色土　ロームブロック中～大・ローム粒まばらに混入。
5　暗褐色土　ロームブロック大・ローム粒まばらに混入。
6　暗褐色土　灰・焼土ブロック小少量混入。
7　暗褐色土　ロームブロック大少量混入。
8　黒褐色土　ロームブロック小混入。
9　褐色土　　ロームブロック大・ローム粒まばらに混入。



51号







第57図　51・53・54号遺構実測図・51 ～ 53号遺構出土遺物実測図

残存する壁高は、それぞれ南東壁で48㎝、北西壁28㎝、南西壁46㎝を測る。周溝は検出面でほぼ全周し、深さは７～10㎝を測る。床面はほぼ平坦で硬く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。深さはＰ１が34㎝、Ｐ２が17㎝、Ｐ３が35㎝、Ｐ４が13㎝、Ｐ５が10㎝を測る。Ｐ１・Ｐ３は掘り込みも深く主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは31点706gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、13点273gの土師器、15点376gの弥生土器、３点57gの縄文土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。

出土量から見れば古墳時代前期の土師器が圧倒的に多いが、図化するとなると良好資料は少なく、弥生主体の遺物となる。これらの遺物は、何れも覆土一括で取上げられており出土地点を明示するものはない。

52号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号252号。50号竪穴西に隣接し、50号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.12m残存短径2.20mを測るが、撹乱著しく、火床施設は検出されない。

残存する壁高は、それぞれ南西壁で24㎝、南東壁26㎝、北西壁19㎝を測る。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に形成され、ピットは３ケ所に検出された。深さはＰ１が43㎝、Ｐ２が23㎝、Ｐ３が31㎝を測るが主柱穴状のピットは検出されていない。

遺物

本遺構からは54点947gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、39点815gの土師器、15点132gの弥生土器である。これらの出土遺物の内３点を図示した。

１・３は床面から７㎝浮いた状況で検出された古墳時代前期の遺物である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており出土地点を明示するものはない。

53号遺構（竪穴住居跡）

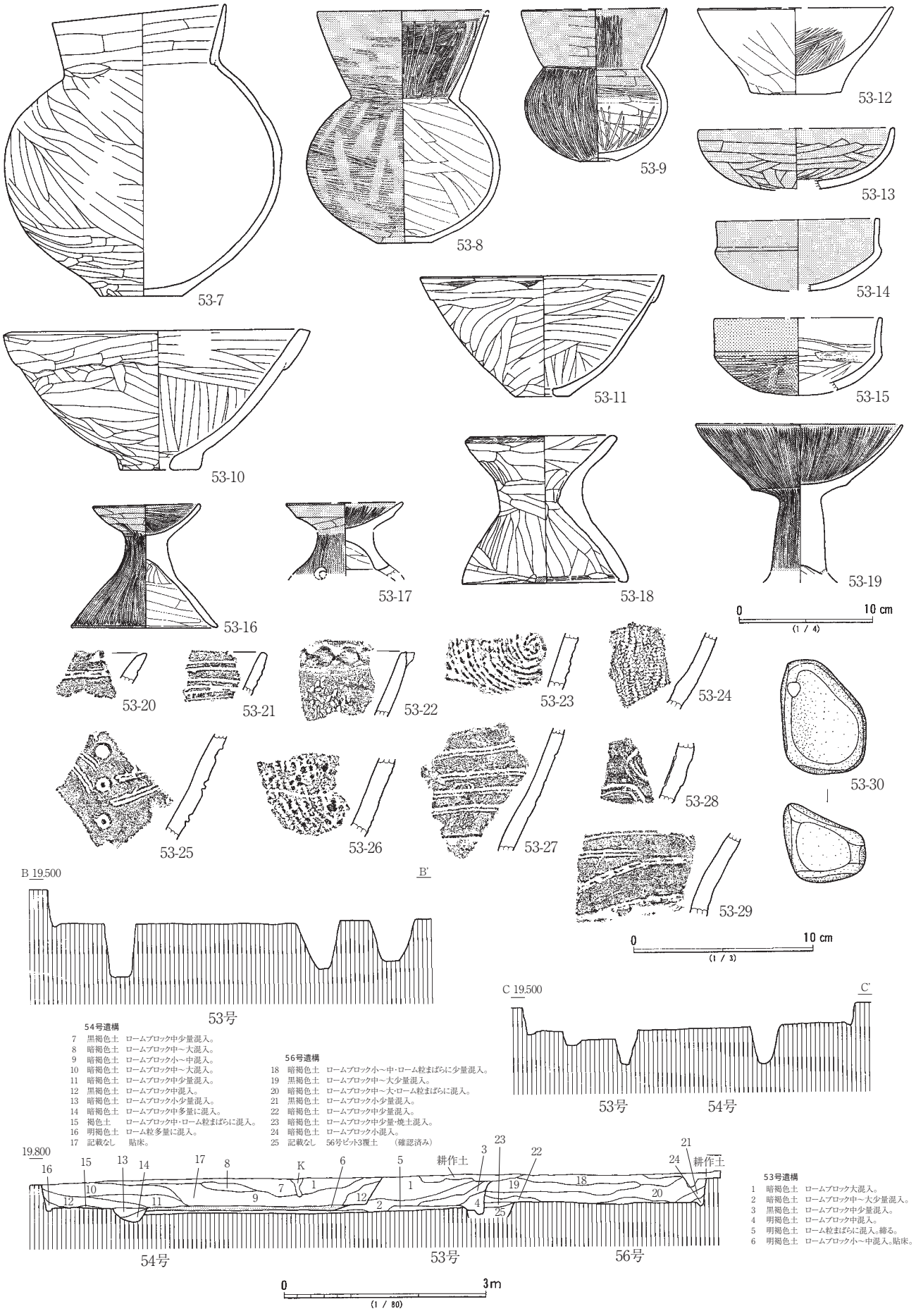
昭和53年度調査時遺構番号240号。52号遺構の西側に存在し、54号・56号竪穴を削平し75号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.48m短径5.42m前後を測り、主軸方位はN－92 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南西側に偏って検出され、残存する火床長径0.56m短径0.40m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－91 °－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で12㎝、西壁46㎝、南壁54㎝、北壁12㎝を測る。周溝は検出面で全周し、深さは７～９㎝を測る。床面は凹凸激しいが硬く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。深さはＰ１が81㎝、Ｐ２が27㎝、Ｐ３が73㎝、Ｐ４が46㎝、Ｐ５が17㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みが一定ではないが、その位置から主柱穴と想定される。

遺物

本遺構からは543点12,461gの土器片と６点436gの礫・石器、３点70gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、447点10,973gの土師器、58点795gの弥生土器、１点35gの手づくね土器、２点90gのミニチュア土器、４点157gの早期条痕文系土器、31点411gの縄文土器である。これらの出土遺物の内30点を図示した。

１・５～11、16～19は床面に近い位置からの検出であり、本遺構に直接伴うものと考えられる。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられており出土地点を明示するものはない。



第58図　53・54・56号遺構実測図・53号遺構出土遺物実測図

54号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号240号。53号遺構の北側に存在し、53号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.32m短径5.04m前後を測り、主軸方位はN－131°－Wを示す。炉はおそらくＰ１・Ｐ２間に存在したものと推定される。

残存する壁高は、それぞれ東壁で27㎝、西壁33㎝、南壁33㎝、北壁33㎝を測る。周溝は検出面で全周し、深さは４～８㎝を測る。床面は貼床であるがあまり硬く踏み固められていない。ピットは16ヶ所に検出された。Ｐ１は53号竪穴内からの検出であるが、位置的には本遺構の主柱穴のひとつである。深さは53号床面からは30㎝であるが、本遺構床面換算で42㎝を測る。Ｐ２は53㎝、Ｐ３が50㎝、Ｐ４が55㎝、Ｐ５が45㎝を測る。Ｐ１～Ｐ４は、掘り込みも深く、その位置から主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定される。この他Ｐ６～Ｐ15が周溝内から検出された。深さはＰ６が25㎝、Ｐ７が19㎝、Ｐ８が５㎝、Ｐ９が４㎝、P10が11㎝、P11が９㎝、P12が９㎝、P13が14㎝、P14が７㎝、P15が２㎝、P16が13㎝を測る。

遺物

本遺構からは145点2,763gの土器片と１点16gの礫、１点54gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、136点2,564gの土師器、１点43gの須恵器２点26gの弥生土器、６点130gの縄文土器であり、土製品は支脚片である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

図示した遺物すべては、時期的に本遺構に伴うものではない。また、本遺構出土遺物全てが、何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

55号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号242号。53号遺構の東側に存在し、56号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.80m短径4.62mを測り、主軸方位はN－49°－Eを示す。カマドは東壁中央やや南側に偏って構築されており、残存する火床長径0.56m短径0.28m深さ２㎝を測り、火床長軸方位はN－53°－Eを示す

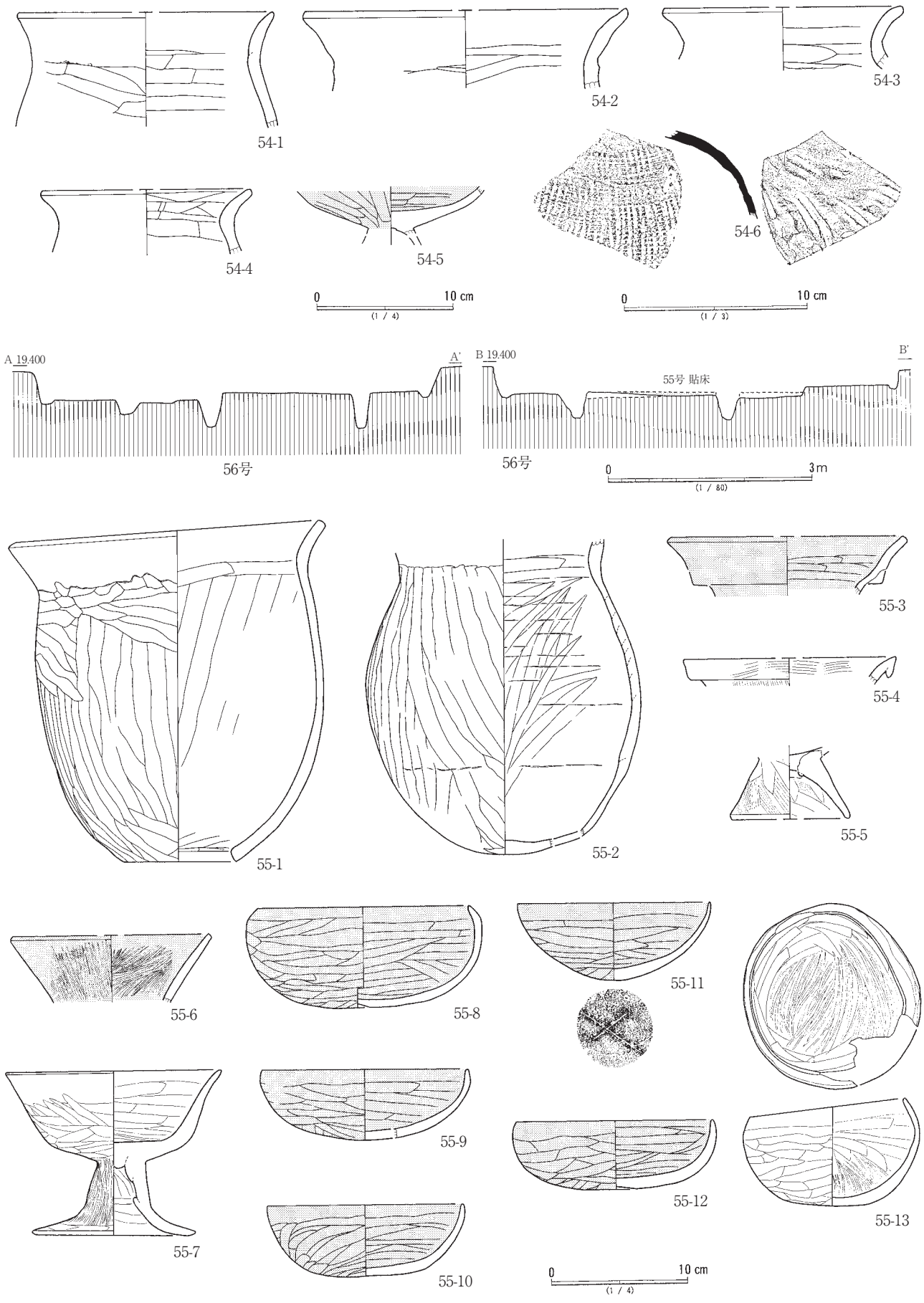
残存する壁高は、それぞれ東壁で39㎝、西壁28㎝、南壁42㎝、北壁38㎝を測る。周溝は検出面で北側と西側を除いて全周し、深さは６～８㎝を測る。床面は貼床であり重複部に接する範囲以外は硬く踏み固められている。ピットは16ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴、Ｐ６は貯蔵穴と考えられ、深さはＰ１が39㎝、Ｐ２が21㎝、Ｐ３が65㎝、Ｐ４が38㎝、Ｐ５が52㎝、Ｐ６が37㎝を測る。この他Ｐ７～Ｐ16まで、遺構内の各所から検出されており、深さはＰ７が18㎝、Ｐ８が21㎝、Ｐ９が18㎝、P10が31㎝、P11が28㎝、P12が42㎝、P13が21㎝、P14が20㎝、P15が17㎝、P16が17㎝を測る。

焼土は６ヶ所に検出され、厚さ５～10㎝を測る。

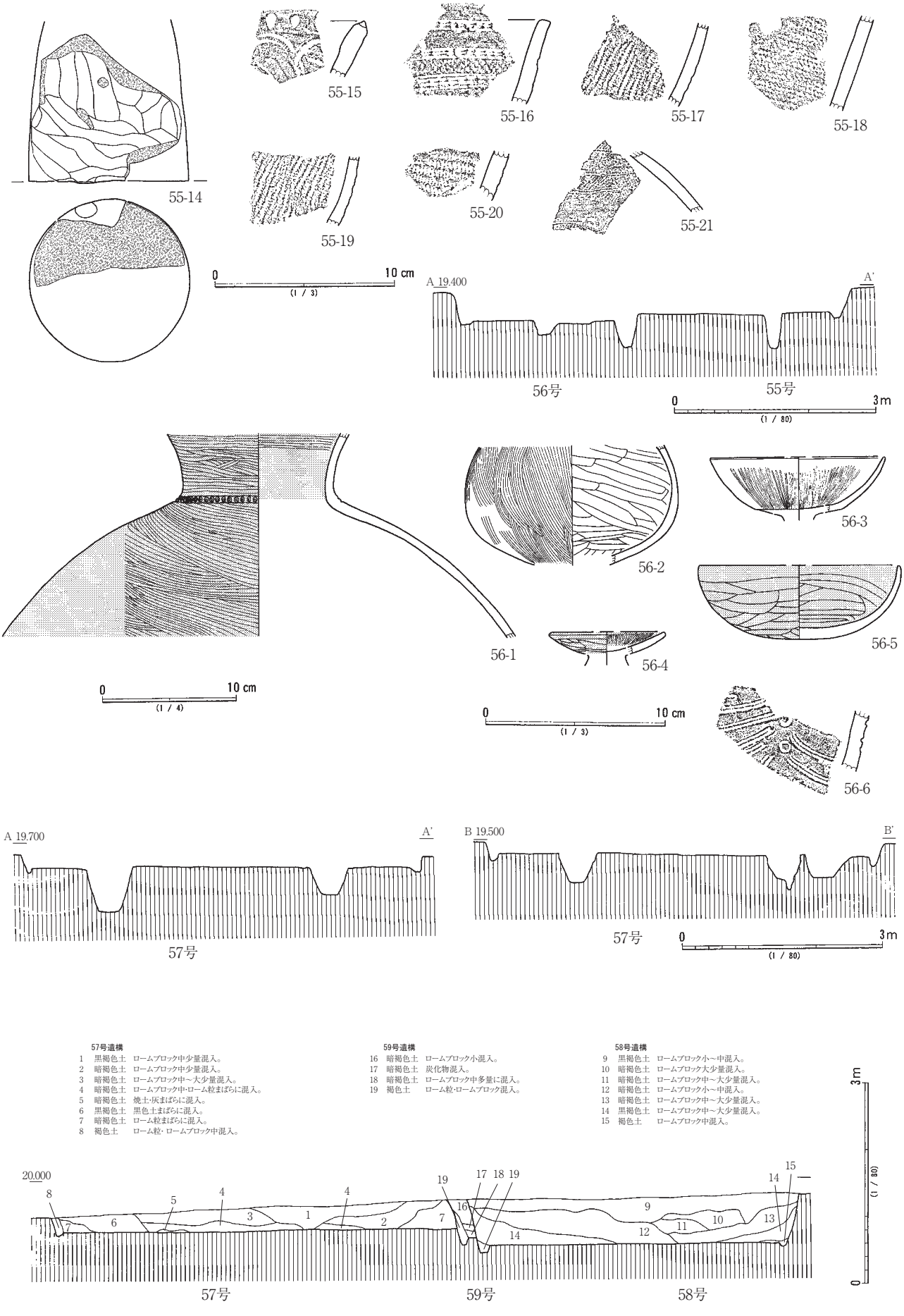
遺物

本遺構からは371点10,865gの土器片と５点171gの礫、４点605gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、336点10,227gの土師器、24点343gの弥生土器、11点245gの縄文土器であり、土製品は１点86gの布目瓦、３点519gの支脚片である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

１・２・７はカマド左脇床面から、８はカマド内から出土しており本遺構に直接伴うと考えられる。また、９～13も比較的床面近くや貯蔵穴内で検出されており、本遺構に直接伴うものと判断される。



第59図　56号遺構実測図・54・55号遺構出土遺物実測図



第60図　55 ～ 59号遺構実測図・55・56号遺構出土遺物実測図

これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。なお、本遺構土器組成は、先の46号竪穴に近似することは注目してよい。

56号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号241号。53号遺構の東側に隣接し、53号・55号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.98m短径4.50mを測り、長軸方位はN－49 °－Eを示す。火床施設と考えられる炉は、55号竪穴に削平され存在しない。

残存する壁高は、それぞれ北東壁で６㎝、南西壁18㎝、南東壁36㎝、北西壁36㎝を測る。周溝は検出面では全周し、深さは10㎝前後を測る。西側部分の床面は周囲より６㎝高く、所謂「ベッド」状を呈しており、その範囲だけ床面は硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出された。深さはＰ１が10㎝、Ｐ２が19㎝、Ｐ３が76㎝、Ｐ４が75㎝、Ｐ５が４㎝を測る。焼土は１ヶ所に検出され厚さ５㎝を測る。

遺物

本遺構からは31点1,611gの土器片と１点55gの礫が検出された。土器片等の内訳は、15点570gの土師器、15点1,011gの弥生土器、１点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

１・２・３・６は、ベッド状遺構の床直ないしは北側の通常床面直で出土しており、本遺構に直接伴うと判断される。５は焼土に密着して検出されているが、時期的には56号竪穴に伴うものである。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

57号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号243号。50号遺構の南側に隣接し、60号竪穴を削平し、59号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.96m短径5.94mを測り、主軸方位はN－37 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南側のＰ１側に偏って検出され、残存する火床長径0.62m短径0.42m深さ１㎝を測り、火床長軸方位はN－36 °－Wを示す

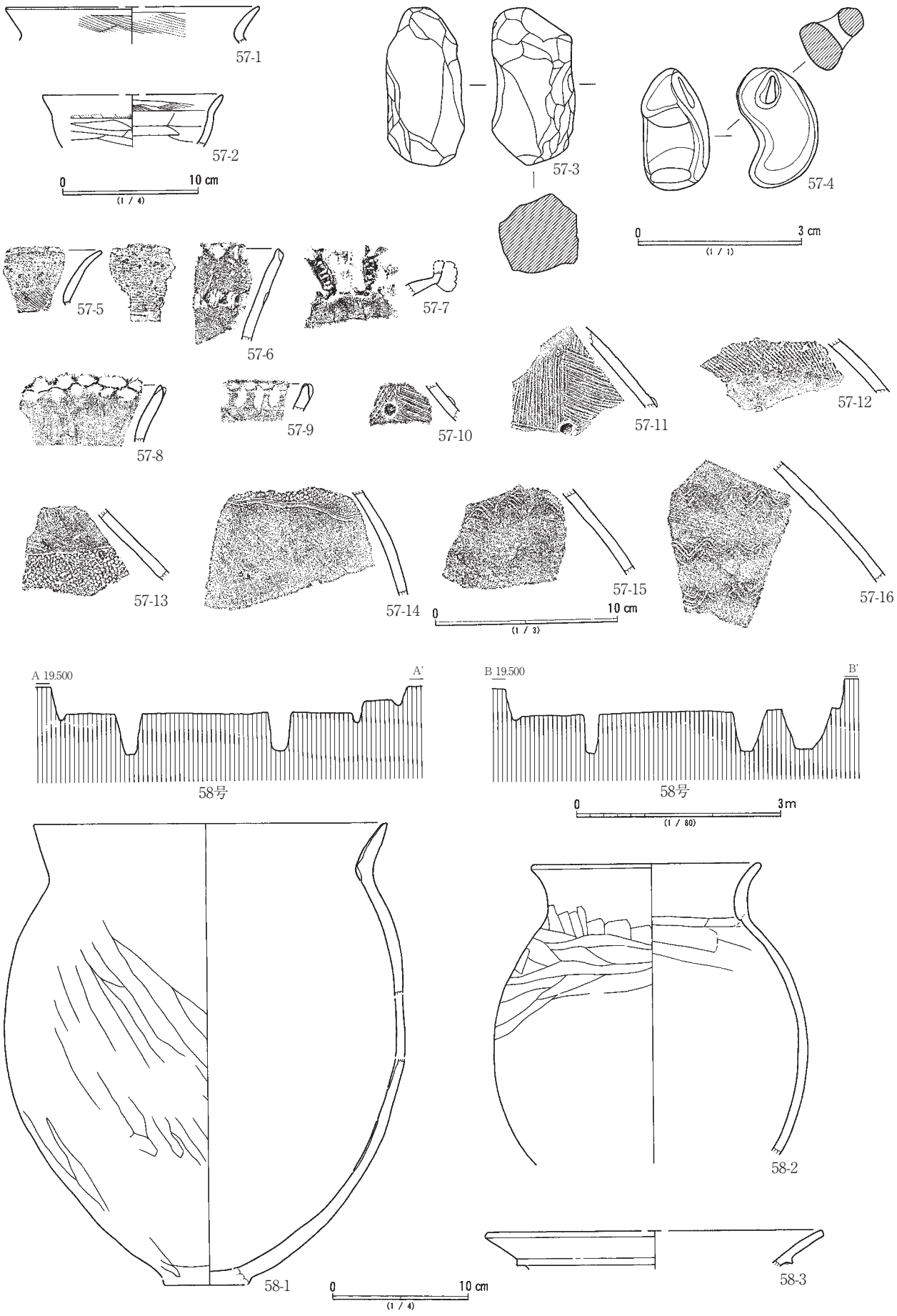
残存する壁高は、それぞれ東壁で26㎝、西壁22㎝、南壁10㎝、北壁19㎝を測る。周溝は検出面で全周し、深さは５～９㎝を測る。床面はソフトローム層中に掘り込まれており、軟弱である。ピットは37ヶ所に検出された。Ｐ１･Ｐ２･Ｐ３･Ｐ４は主柱穴で、深さはＰ１が46㎝、Ｐ２が40㎝、Ｐ３が53㎝、Ｐ４が67㎝を測る。この他Ｐ５～Ｐ37まで、遺構内の各所から検出されており、深さはＰ５が44㎝、Ｐ６が９㎝、Ｐ７が28㎝、Ｐ８が26㎝、Ｐ９が29㎝、P10が33㎝、P11が15㎝、P12が14㎝、P13が19㎝、P14が25㎝、P15が32㎝、P16が68㎝、P17が53㎝、P18が27㎝、P19が71㎝、P20が23㎝、P21が61㎝、P22が34㎝、P23が27㎝、P24が16㎝、P25が18㎝、P26が41㎝、P27が20㎝、P28が５㎝、P29が34㎝、P30が19㎝、P31が21㎝、P32が33㎝、P33が31㎝、P34が26㎝、P35が28㎝、P36が10㎝、P37が36㎝を測る。

遺物

本遺構からは292点3,650gの土器片と２点13.20gの玉類、５点84gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、209点2,322gの土師器、77点1,220gの弥生土器、６点108gの縄文土器であり、玉類は5.40gの勾玉と7.80gの勾玉未製品、土製品は４点26gの支脚片と１点58gの布目瓦片である。

これらの出土遺物の内16点を図示したが、何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

第61図　57～64号遺構実測図



第62図　58号遺構実測図・57・58号遺構出土遺物実測図

58号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号217A号。57号遺構の東側に存在し、59・60号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.88m短径4.72mを測り、主軸方位はN－49 °－Eを示す。カマドは東壁中央やや南側に偏って構築されており、残存する火床長径0.74m短径0.64m深さ12cmを測り、火床長軸方位はN－53 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で55cm、西壁42cm、南壁41cm、北壁40cmを測る。周溝は全周し、深さは６～10cmを測る。床面はほぼ平坦で、硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出されたが、南コーナー部に位置するピットは、59号竪穴に伴うものと判断される。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と考えられ、深さはＰ１が63cm、Ｐ２が53cm、Ｐ３が58cm、Ｐ４が61cm、Ｐ５が40cmを測る。

焼土は３ヶ所に検出され、厚さ１～12cmを測る。

遺物

本遺構からは2,478点53,117gの土器片と17点1,334gの礫・石器、２点8.47gの鉄器、30点2,060gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、2,256点51,091gの土師器、３点35gの須恵器、206点1,823gの弥生土器、８点93gの手づくね土器、５点75gの縄文土器であり、土製品は１点４gの土玉片、２点90gの布目瓦片、23点150gの支脚片である。これらの出土遺物の内68点を図示した。

１・２・４・５・７・９・10・14～17、21・22、24～27、30・31・33・39・40・42は、カマド内や床面から15cm以内の範囲から検出され、本遺構に直接伴うと考えられる。また、甕形甑や支脚に、当地域におけるカマド出現期の古相の様相を認めることができる。これ以外の遺物はドットで明示されても比較的高い位置からの出土品や、覆土一括で取上げられたものであり、本遺構に伴う可能性は低い。

59号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号217B号。58号遺構にその大半を削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.00m短径4.98mを測り、主軸方位はN－36 °－Eを示す。58号カマドは本遺構東壁に接して構築されていることから、本遺構カマドの再利用が考えられ、58号遺構は本遺構の立替住居である可能性が高い。

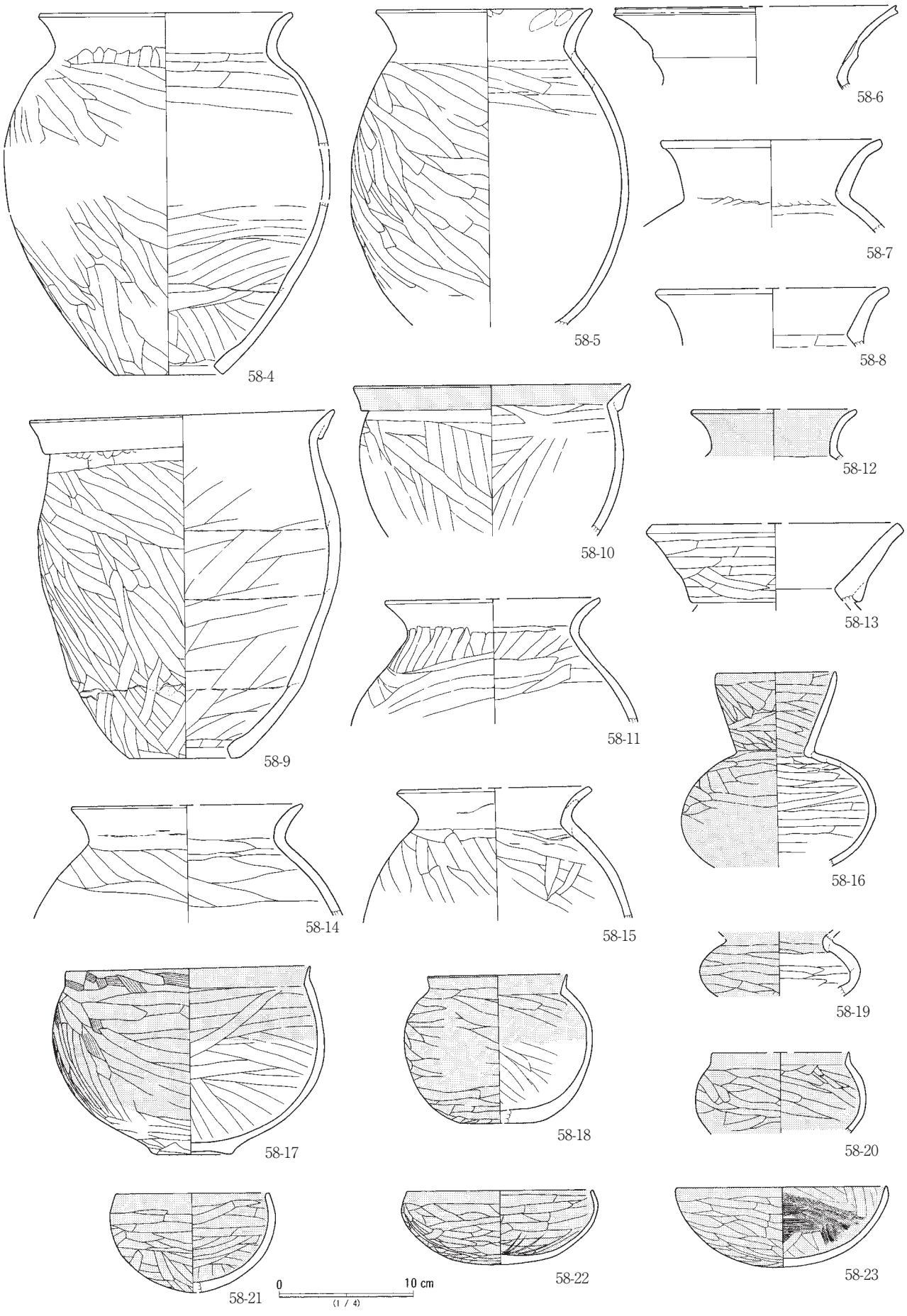
残存する壁高は、それぞれ東壁で46cm、西壁26cm、南壁41cm、北壁27cmを測る。周溝は北から東側にかけて残存し、深さは１～６cmを測る。床面は58号遺構と同一レベルであり、ピットは４ヶ所に検出された。南コーナー部に位置するＰ１は本跡貯蔵穴と判断され、本跡床面換算で66cm、Ｐ２が62cm、Ｐ３は25cm、Ｐ４は46cmを測る。この他西コーナー部に炭化物が検出されている。

遺物

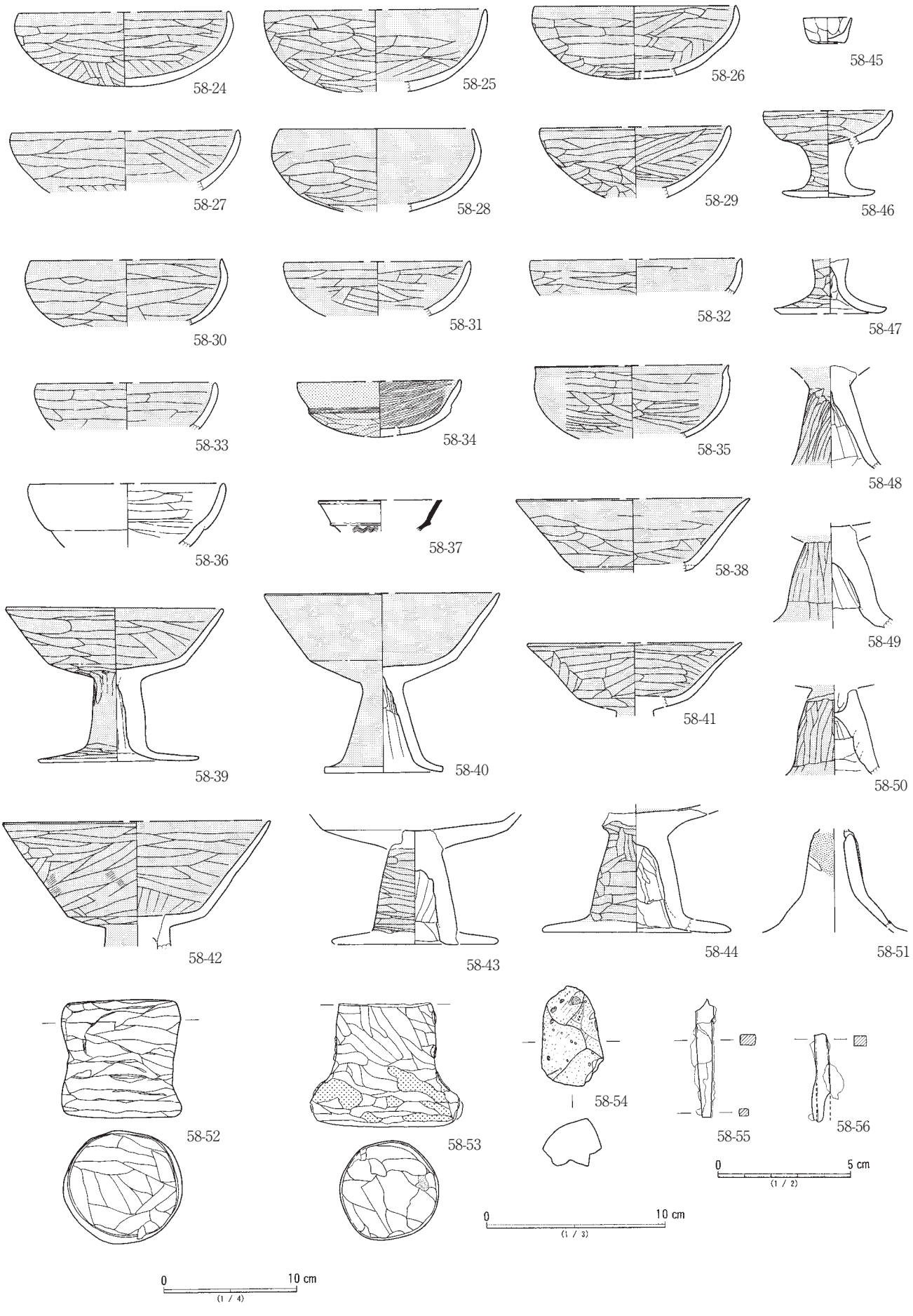
本遺構からは遺物は全く検出されていない。

60号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号211B号。57号遺構の南側に位置し、57・58・59・80・81号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。炉の長軸方向南側に残存する南壁から、残存長5.65mを測る。炉は59号竪穴に一部削平されるものの残存する長径1.12m推定短径0.8m深さ16cmを測り、火床長軸方位



第63図　58号遺構出土遺物実測図１



第64図　58号遺構出土遺物実測図２

はN－21 °－Eを示す。

残存する壁は南壁だけであり、高さ42㎝を測る。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に構築され、比較的軟弱である。ピットは７ヶ所に検出された。深さはＰ１が41㎝、Ｐ２が15㎝、Ｐ３が48㎝、Ｐ４が23㎝、Ｐ５が19㎝、Ｐ６が36㎝、Ｐ７が83㎝を測る。

遺物

本遺構からは４点182gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、４点の弥生土器であるが、何れも覆土一括で取上げられており、かつ図化に至るものはない。

61号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号248A・B号。57号遺構の東側に存在し、66・67号竪穴を削平し、63号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。調査段階では内側をA、外側をBとする２軒の住居跡として調査されたが、整理段階でAからBへと拡張された１軒の住居と捉え報告する。拡張後の長径6.72m短径5.44mを測り、主軸方位はN－11 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南に偏って検出され、残存する火床長径0.66m短径0.48m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－14 °－Wを示す

残存する壁高は、それぞれ東壁で51㎝、西壁38㎝、南壁28㎝、北壁35㎝を測る。周溝はほぼ全周し、深さは13 ～ 18㎝を測る。床面はほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは10 ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ９は主柱穴で、拡張に伴いＰ３・Ｐ４からＰ５・Ｐ９へ移動したものと推定される。深さはＰ１が77㎝、Ｐ２が75㎝、Ｐ３が78㎝、Ｐ４が75㎝を測り、掘り込みも深く一定している。Ｐ５が49㎝、Ｐ９が45㎝を測る。この他にＰ６が24㎝、Ｐ７が33㎝、Ｐ８が25㎝、P10が26㎝を測る。

焼土は２ヶ所に検出され、厚さ８～９㎝を測る。

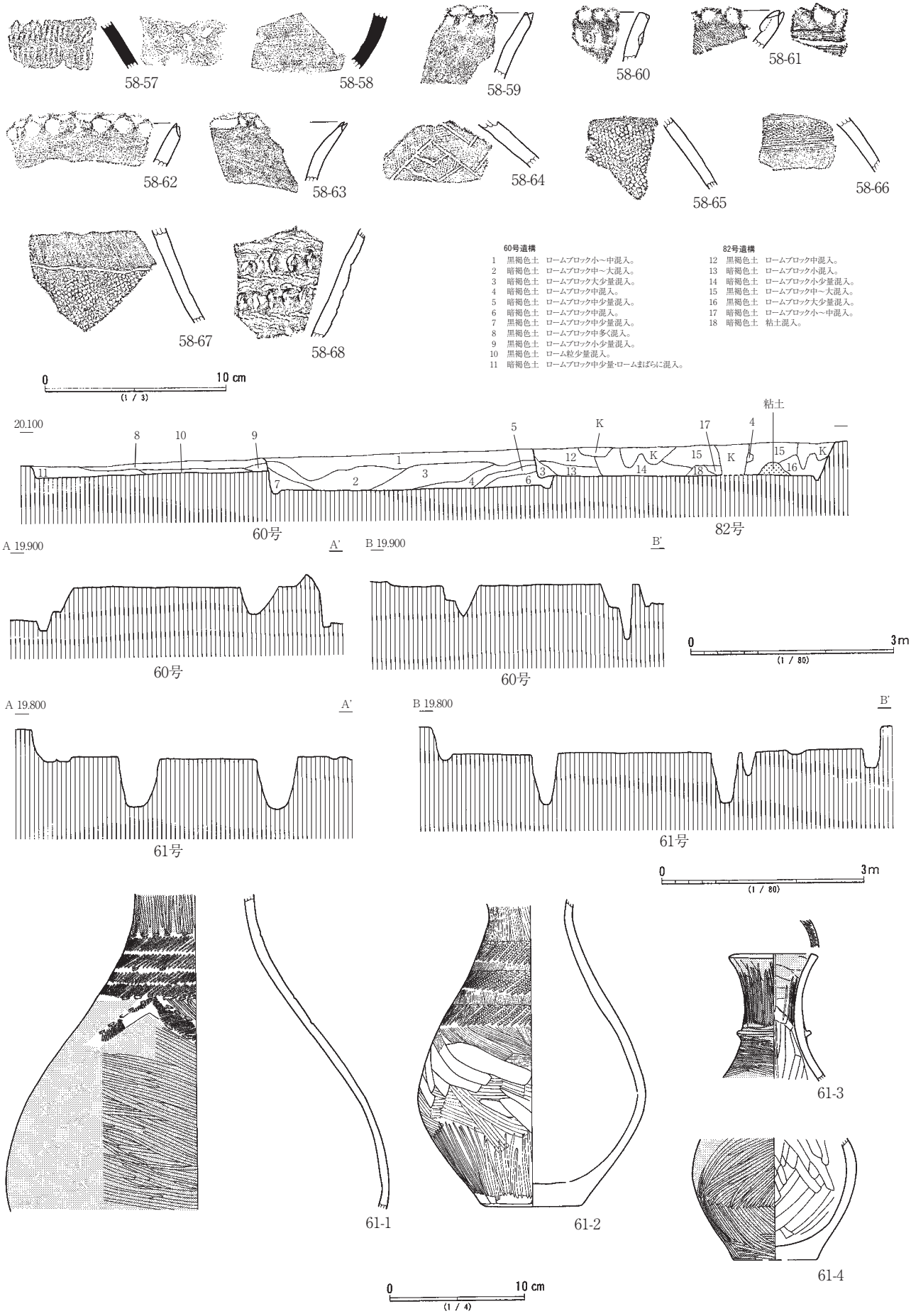
遺物

本遺構からは1,125点32,624gの土器片と28点1,761.2gの礫・石器、２点32gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、283点1,829gの土師器、818点30,052gの弥生土器、１点20gのミニチュア土器、23点723gの縄文土器であり、土製品は２点の支脚片である。これらの出土遺物の内76点を図示した。

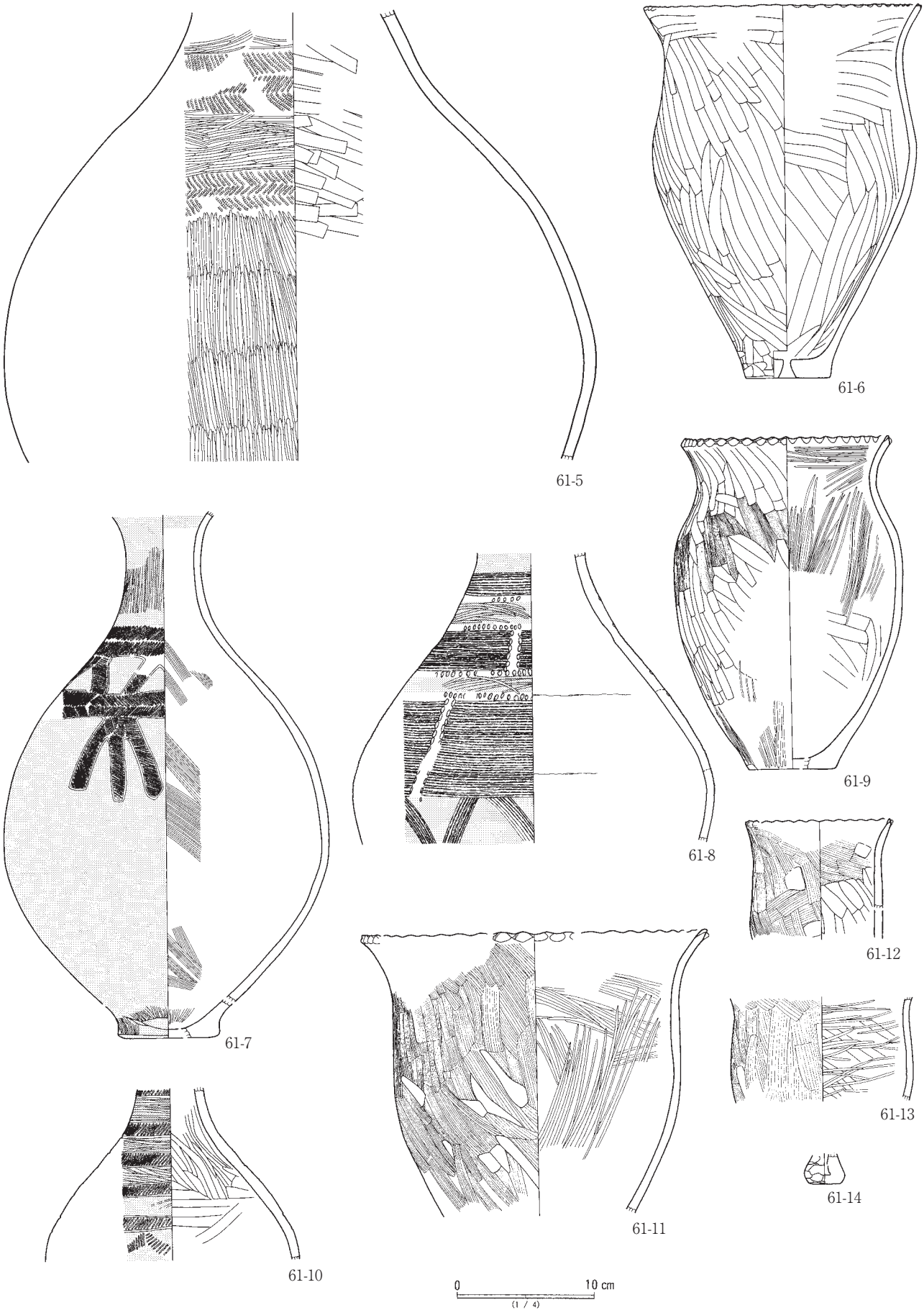
１・２・４・６・７～９・11 ～ 13・15・18・20・22・25・27・29・31・32・50までの土器、68 ～ 74の石器は、何れも床直ないしは床面に近い位置からの出土であり、本遺構に直接伴うものと判断される。また、これらの遺物の大半は、Ｐ３付近の土器群および焼土中からの出土である。なお、68の有角石斧は本遺構床面３㎝の位置から検出された刃部と、遺跡一括の本体とが、接合には至らぬが石材・幅・厚さが一致するため、同一固体であることが明確であり復元実測に至った。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

62号遺構（竪穴住居跡）

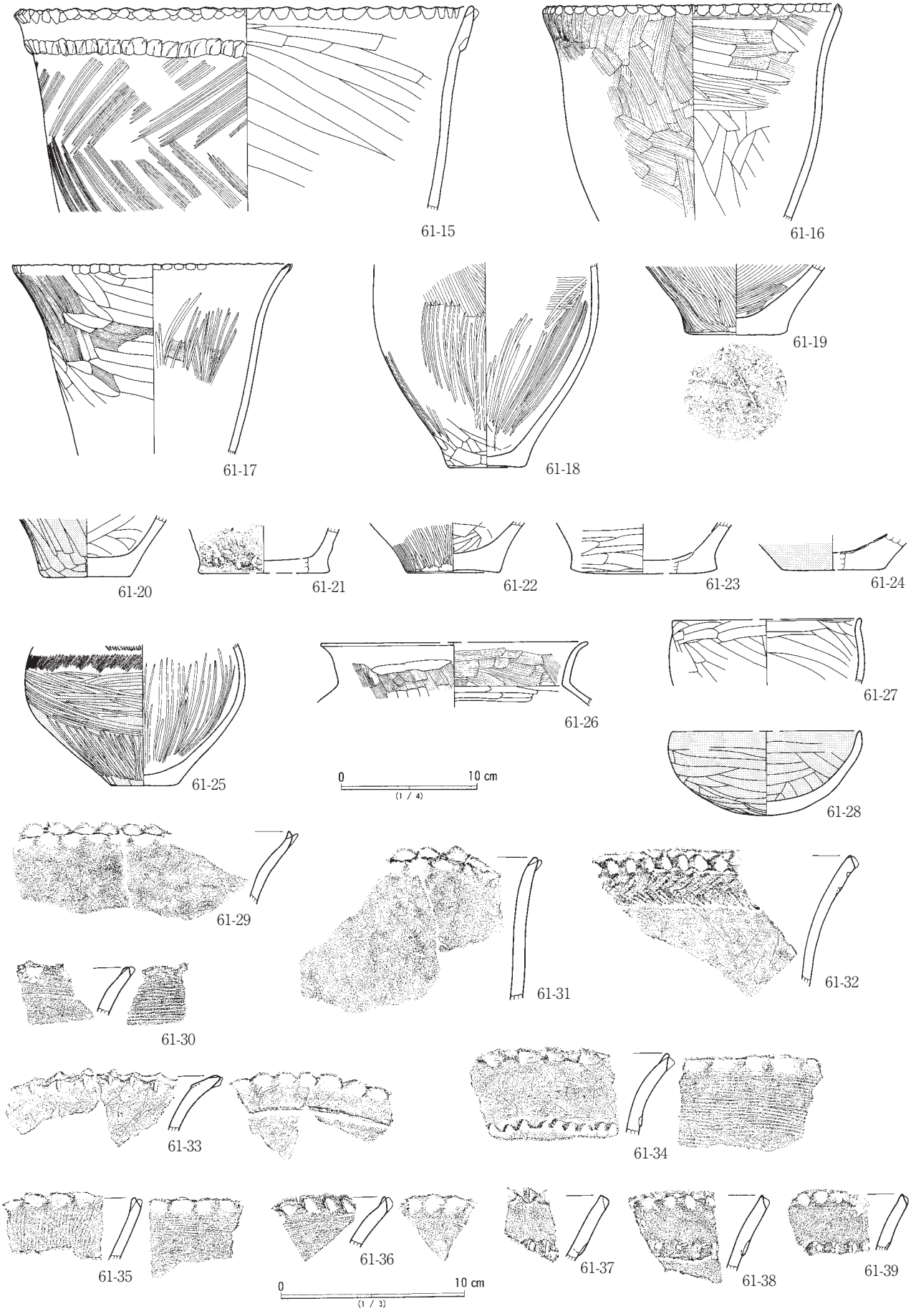
昭和53年度調査時遺構番号250号。61号竪穴の北側に位置し、掘り込みが深いため残存したが、一部は64号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.62m短径5.14mを測り、主軸方位はN－13 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央で検出され、残存する火床長径0.50m短径0.35m深さ５㎝を



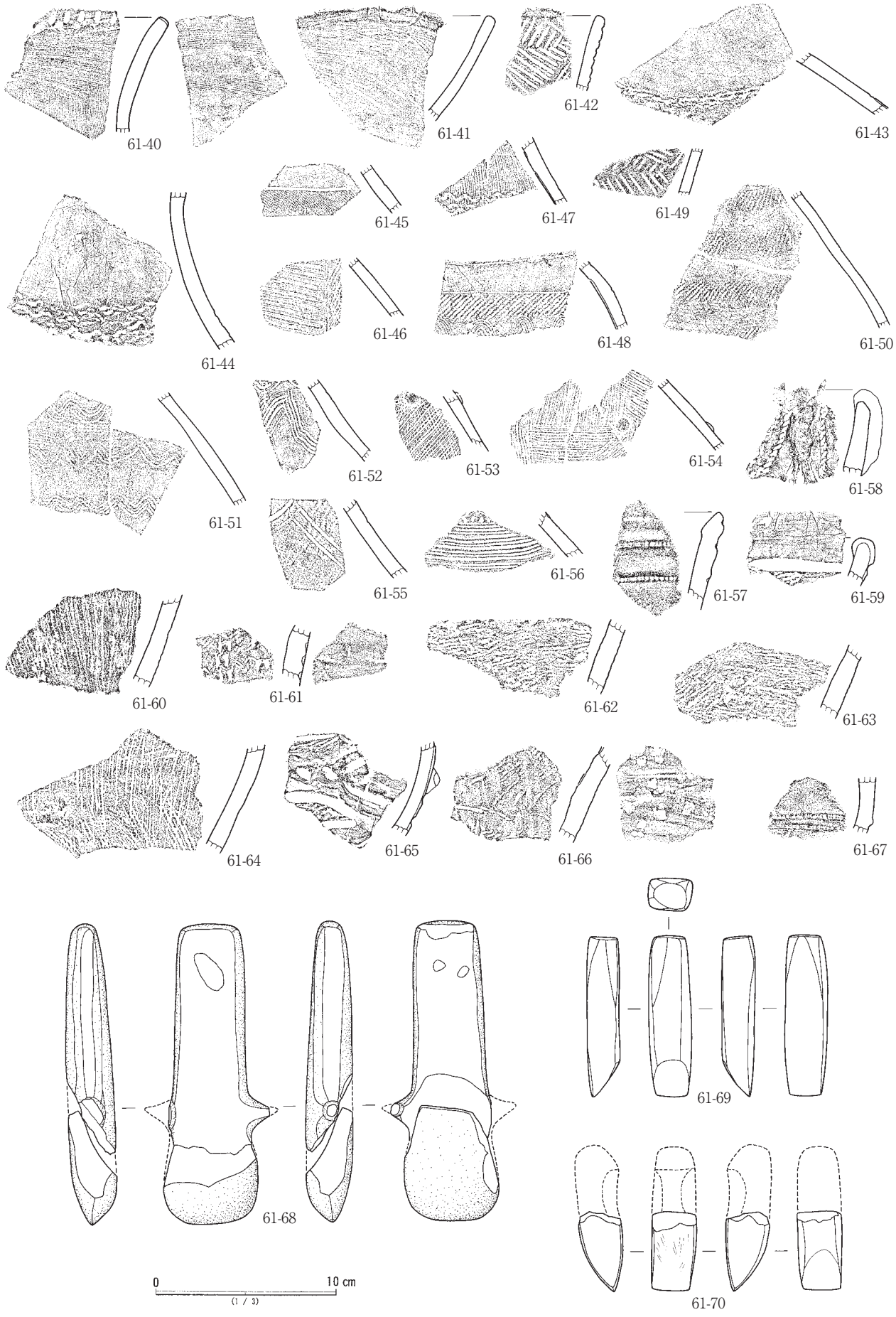
第65図　60・61・82号遺構実測図・58・61号遺構出土遺物実測図



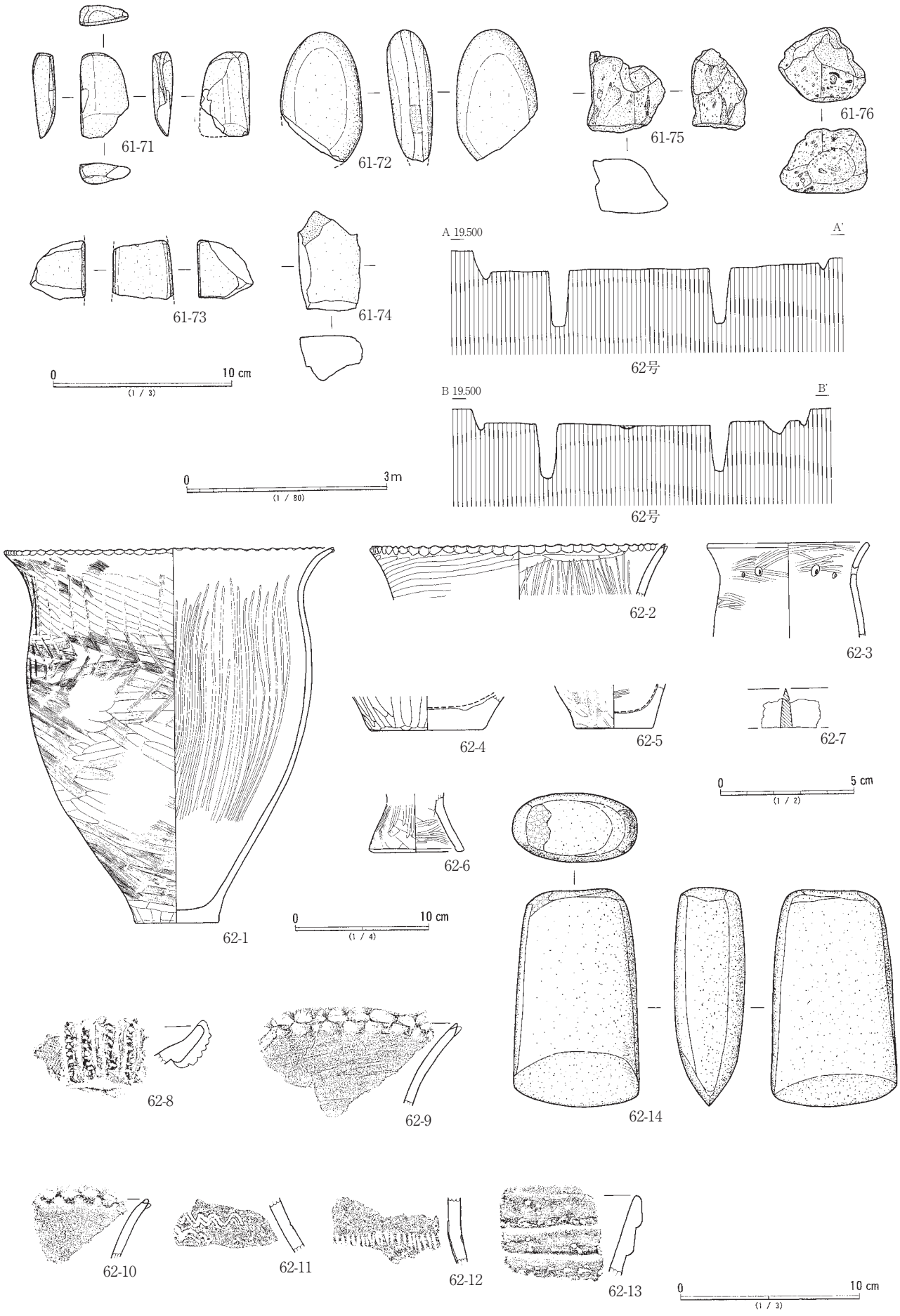
第66図　61号遺構出土遺物実測図１



第67図　61号遺構出土遺物実測図２



第68図　61号遺構出土遺物実測図３



第69図　62号遺構実測図・61・62号遺構出土遺物実測図

測り、火床長軸方位はN－４°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で34㎝、西壁20㎝、南壁32㎝、北壁12㎝を測る。周溝はほぼ全周し、深さは７～13㎝を測る。床面はほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは12ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴で、深さはＰ１が73㎝、Ｐ２が81㎝、Ｐ３が81㎝、Ｐ４が86㎝を測り、掘り込みも深く一定している。この他にＰ５が41㎝、Ｐ６が52㎝、Ｐ７が31㎝、Ｐ８が29㎝、Ｐ９が19㎝、P10が20㎝、P11が10㎝、P12が35㎝を測る。

焼土は３ヶ所に検出され、厚さ７～８㎝を測る。

遺物

本遺構からは605点10,223gの土器片と１点620gの石器、１点２gの鉄器が検出された。土器片等の内訳は、17点352gの土師器、576点9,645gの弥生土器、12点226gの縄文土器であり、鉄器は刀子片である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

１・２・４・５の土器、14の太型蛤刃石斧は、何れも床密着ないしは極めて床に近い位置からの出土であり、本遺構に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

63号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号249A号。62号竪穴の南側に位置し、61号・64号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.22m短径3.12mを測り、主軸方位はN－95°－Eを示す。炉は遺構の中央からかなり東側に偏った位置から検出され、残存する火床長径0.42m短径0.34m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－97°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で６㎝、西壁11㎝、南壁42㎝、北壁９㎝を測る。周溝はほぼ全周し、深さは６～８㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出されるが、主柱穴は存在しない。深さはＰ１が41㎝、Ｐ２が38㎝、Ｐ３が47㎝、Ｐ４が12㎝を測る。

遺物

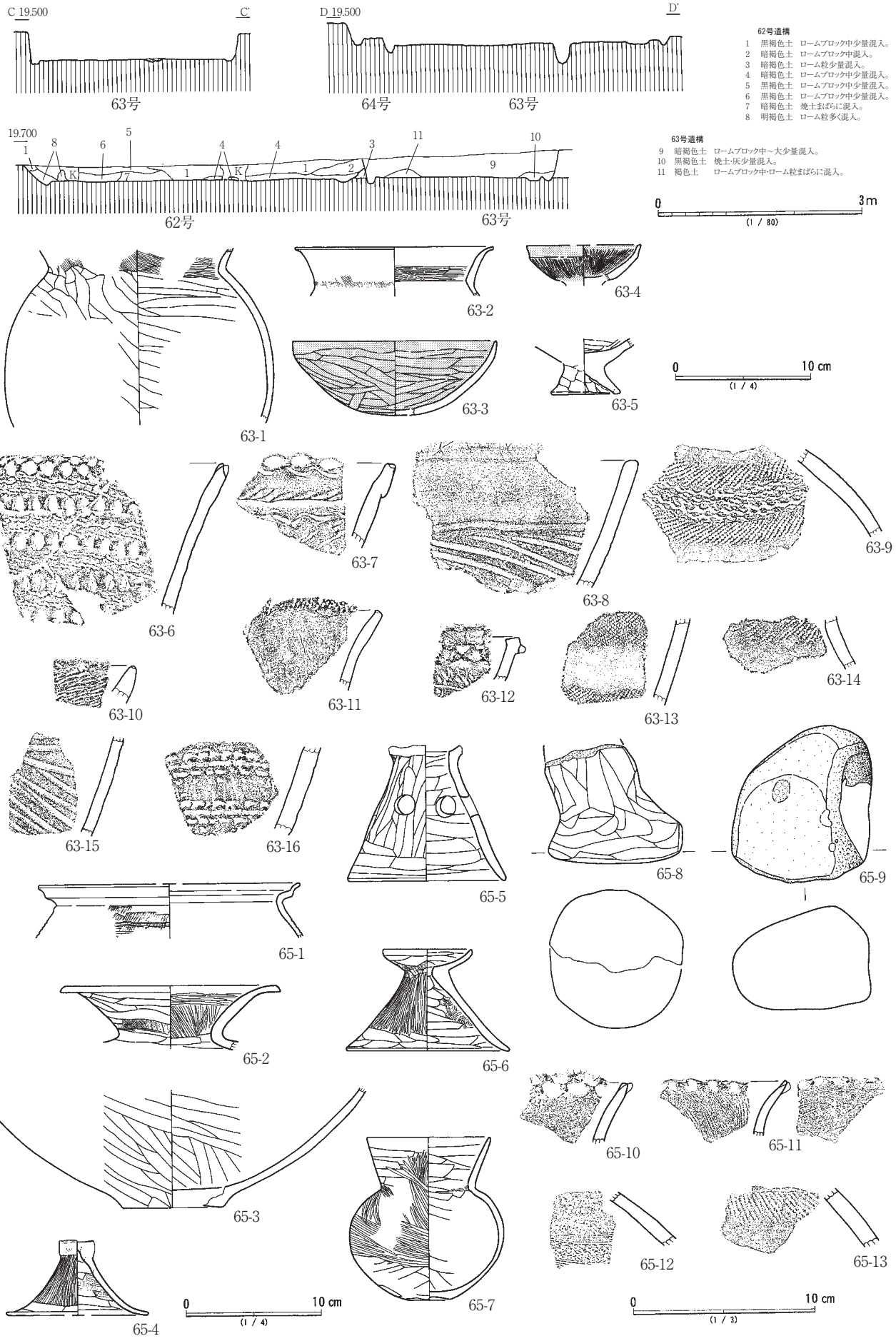
本遺構からは151点2,838gの土器片と２点210gの礫が検出された。土器片等の内訳は、123点2,164gの土師器、22点498gの弥生土器、６点176gの縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

１は、床面から13㎝浮いて、３は床面から２㎝の位置での出土である以外は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

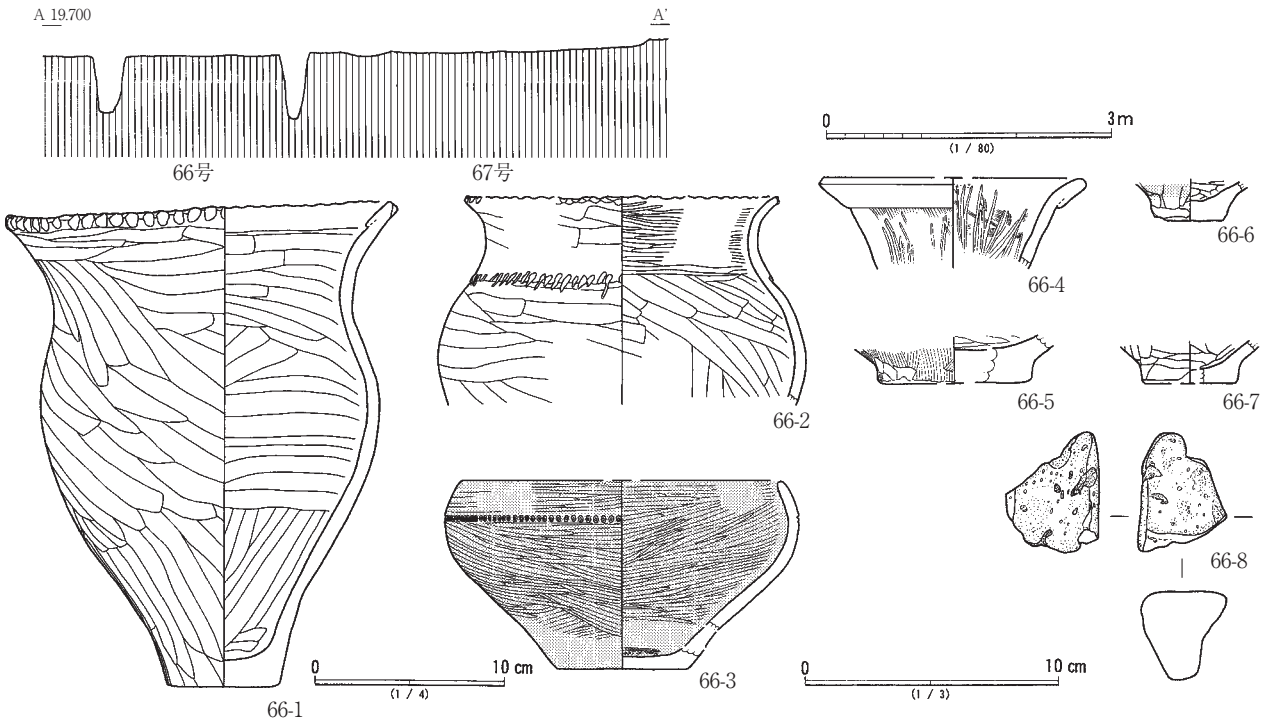
64号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号249B号。63号竪穴の西側に隣接し、50号・63号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残長4.62mを測り、主軸方位はN－55°－Eを示す。火床施設は63号竪穴に削平され未検出である。

残存する壁高は、それぞれ東壁で28㎝、西壁25㎝、北壁15㎝を測る。周溝は一部残存し、深さは７～８㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが軟弱である。ピットは２ヶ所で検出された。62号竪穴床面で検出されたＰ２は、その位置から本跡主柱穴のひとつと想定され、深



第70図　62～64号遺構実測図・63・65号遺構出土遺物実測図



第71図　65 ～ 67号遺構実測図・66号遺構出土遺物実測図

さは本遺構床面換算で50㎝を測る。Ｐ１は本遺構内検出で、深さは54㎝を測る。Ｐ１・Ｐ２の位置から、未検出ではあるが、63号竪穴貼床下に本跡本来の柱穴が存在するものと判断し、その位置を破線で示した。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

65号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号216号。58号竪穴の南側に位置し、81号・82号・83号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。出土する遺物から平面プランは方形を呈するものと捉えられ、推定残存長径5.56m残存短径3.44mを測るが、主軸方位は不明である。

残存する壁高は、それぞれ東側で36㎝、北側で24㎝を測る。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に構築され、ほぼ平坦であるが、あまりよく踏み固められていない。ピットは３ヶ所で検出され、深さはそれぞれＰ１で78㎝、Ｐ２で42㎝、Ｐ３で19㎝を測る。炭化材が５ヶ所、焼土は５ヶ所に検出され、厚さは６～９㎝を測る。

遺物

本遺構からは255点3,795gの土器片と７点646gの礫・石器、１点3.2gの鉄器片、３点543gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、213点2,911gの土師器、36点778gの弥生土器、６点106gの縄文土器、石器は１点450gの磨石、土製品は１点390gの支脚片と１点124gの布目瓦片である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

２・３・６・７・９が出土地点を明示でき、３・７が床直、６・９は８㎝、２は17㎝床面から浮いて検出されている。これ以外は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

66号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号244A号。61号竪穴の南側に隣接し、58号・61号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径5.2mを測り、主軸方位はN－９°－Eを示す。炉は中央北側に検出され、火床長径0.80m短径0.42m深さ12㎝を測り、主軸方位はN－９°－Eを示す。

残存する壁高は、南壁で36㎝を測る。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に構築され、やや凹凸があり軟弱である。ピットは５ヶ所で検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴で、深さはＰ１が60㎝、Ｐ２が43㎝、Ｐ３が57㎝、Ｐ４が67㎝を測り、掘り込みも深く一定している。この他にＰ５が13㎝を測る。

遺物

本遺構からは180点4,496gの土器片と２点81gの礫・石器、112点1,135gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、32点483gの土師器、136点3,761gの弥生土器、11点242gの縄文土器、石器は１点16gの磨石、土製品は本来１点と思われる支脚片細片である。これらの出土遺物の内22点を図示した。

１が床直、３が炉内で検出された。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

67号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号244B号。66号竪穴の東側に隣接する竪穴住居跡である。炉・柱穴を中心として掘り上がりプランを観察すると、著しく歪にゆがんでいるため、本跡は壁が掘足りていない遺構と察知され、推定プランを破線で示した。推定長径6.46m短径5.36mを測り、主軸方位はN－14°－Eを示す。炉は中央北側に検出され、火床長径0.82m短径0.42m深さ５㎝を測り、長軸方位はN－９°－Eを示す。

残存する壁高は、東壁で７㎝、南壁25㎝、北壁13㎝を測る。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に構築され、あまりよく踏み固められていない。ピットは９ヶ所で検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定されるが、図面にＰ１・Ｐ２深さの表示がない。Ｐ３が36㎝、Ｐ４が32㎝、Ｐ５が39㎝、Ｐ６が16㎝、Ｐ７が18㎝、Ｐ８が51㎝、Ｐ９が38㎝を測る。

遺物

本遺構から遺物は全く検出されなかった。

何れも覆土一括で取上げられており、かつ図化に至るものはない。

68号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号215A号。67号竪穴の南側に隣接して存在し、71号竪穴を削平し、350号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.74m短径6.56mを測り、主軸方位はN－43°－Wを示す。炉はＰ２・Ｐ３間の中央やや南に偏って検出され、351号溝に大半を削平されて存在する。残存する火床長径方向は0.40m短径0.52m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－44°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で38㎝、西壁34㎝、南壁測定値なし、北壁42㎝を測る。周溝はほぼ全周し、深さは７～11㎝を測る。床面はほぼ平坦であり、中央部がよく硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴で、深さはＰ２が64㎝、Ｐ３が本跡床面換算で64㎝、Ｐ４が78㎝、Ｐ５が71号竪穴内で54㎝、本跡床面換算で58㎝を測り、掘り込みも深くしっかりしている。他にＰ１は柱抜取り痕と想定され、深さは40㎝、Ｐ６は31㎝を測る。

焼土は２ヶ所に検出され、それぞれ厚さ10㎝を測る。

遺物

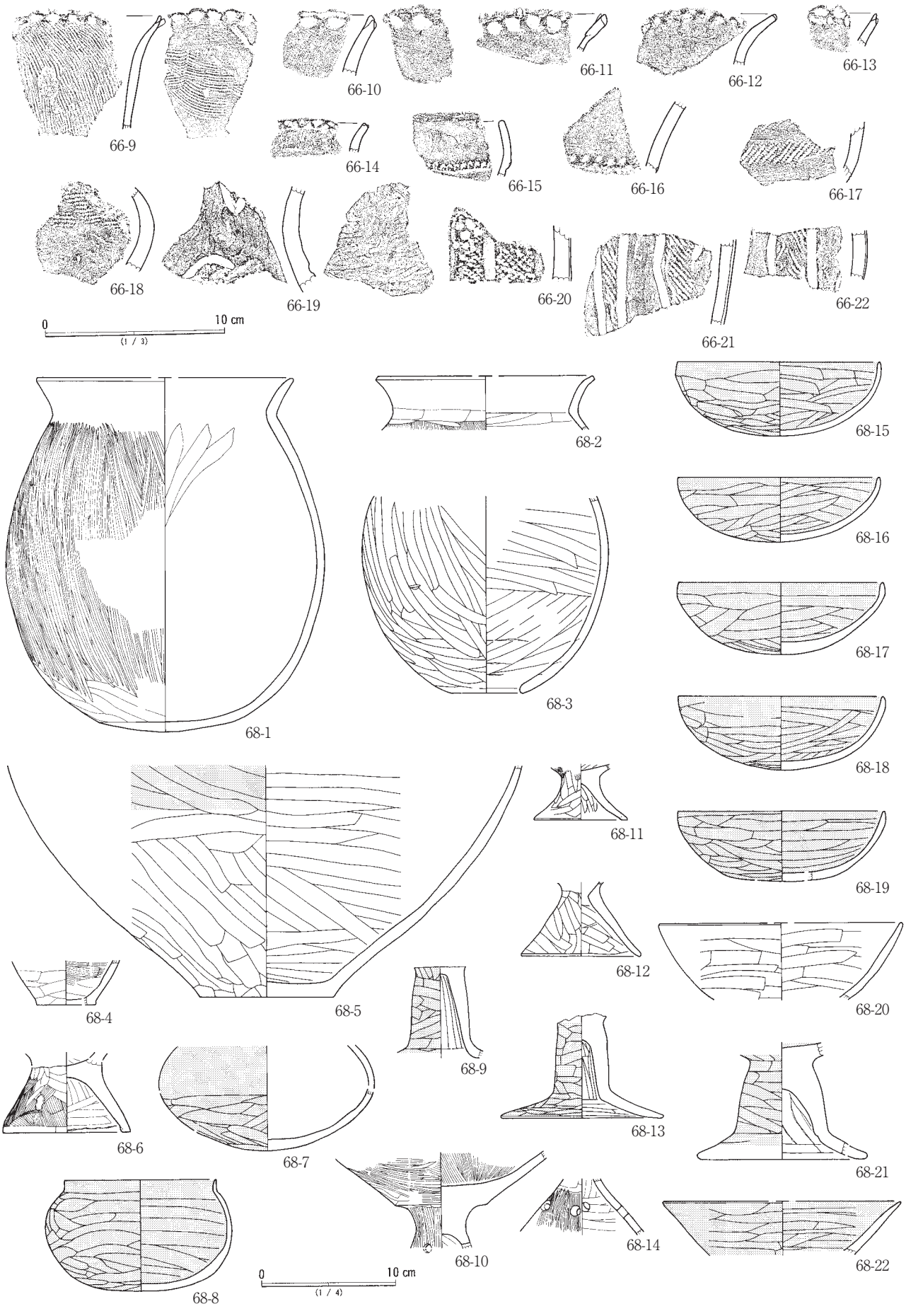
本遺構からは462点13,247gの土器片と７点758gの礫・石器、１点2.60gの玉類、１点316gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、348点10,427gの土師器、113点2,798gの弥生土器、１点22gの縄文土器であり、石器は４点715gの磨石、玉類は勾玉、土製品は支脚片である。これらの出土遺物の内37点を図示した。

１・３・５～８・10・13～17・19・21・36の土器は出土位置を明示できるが、13・21は351号溝に伴う遺物と考えられる。他の遺物は床面より20㎝以上高い位置で検出されており、本遺構に伴うかどうか微妙である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

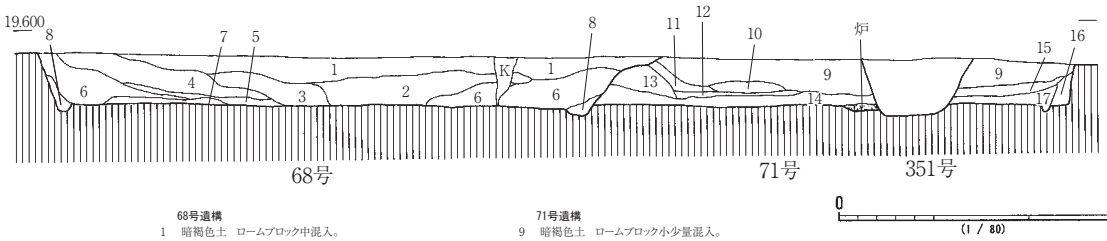
69号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号215B号。69号竪穴の南側に隣接して存在し、69号・71号・126号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径1.60m短径1.35mの三角形の床面だけが残存し、壁・周溝・ピットは存在しない。床面はほぼ平坦であり、よく硬く踏み固められている。

第72図　68 ～ 74号遺構実測図

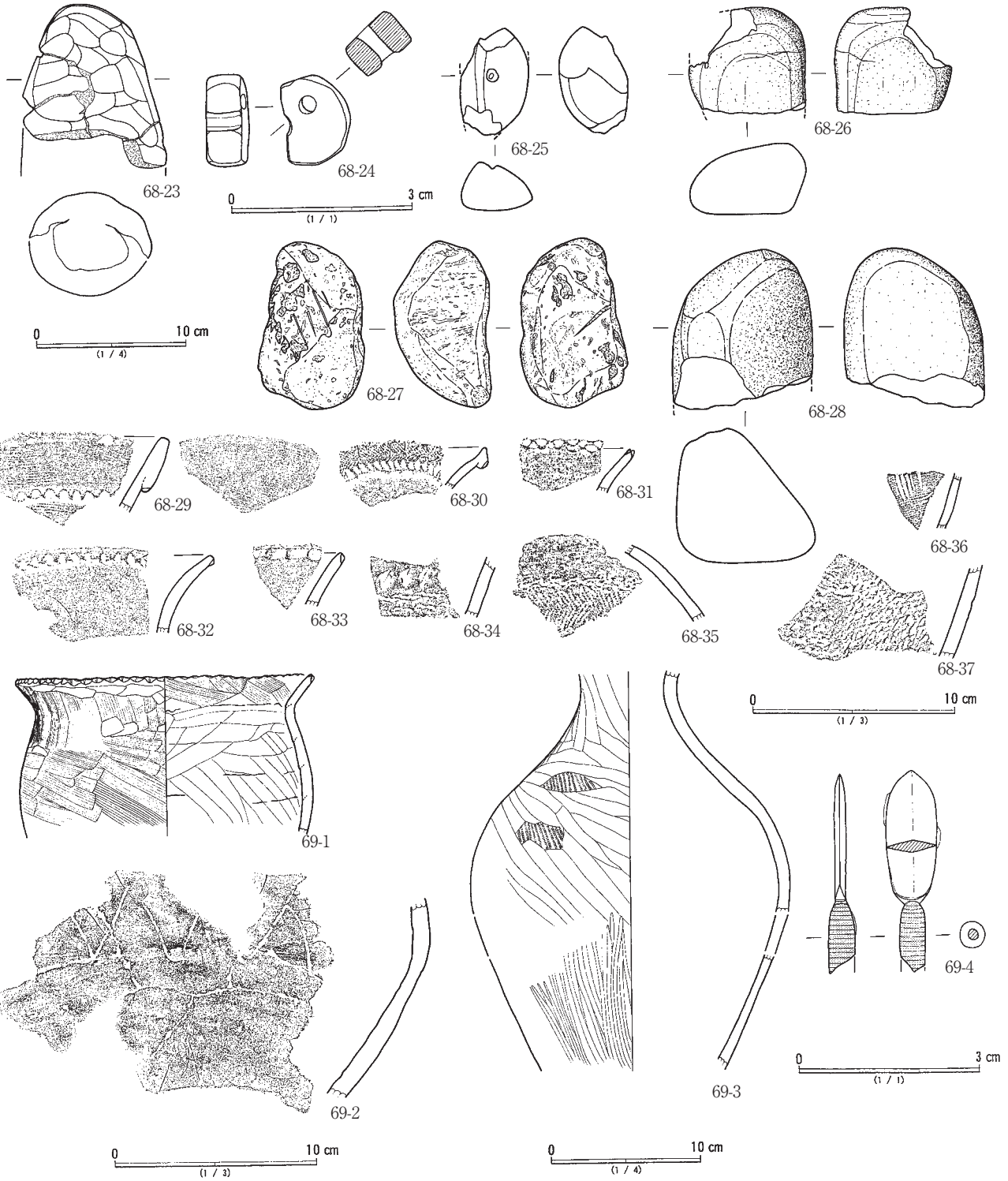


第73図　66・68号遺構出土遺物実測図



68号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
3 暗褐色土 ロームブロック中～大・ローム粒まばらに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック中混入。
6 黒褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
7 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
8 明褐色土 ローム粒多量に混入。

71号遺構
9 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
10 暗褐色土 焼土混入。
11 暗褐色土 炭化物混入。
12 暗褐色土 ロームブロック中混入。締る。
13 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
14 暗褐色土 ロームブロック小混入。
15 黒褐色土 ロームブロック小混入。
16 褐色土 ローム粒多量に混入。
17 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。締る。



第74図　68・71・351号遺構実測図・68・69号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは25点2,153gの土器片と１点8.9gの鉄鏃が検出された。土器片等の内訳は、５点44gの土師器、20点2,109gの弥生土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。

１～３の土器は、全て床直で検出されている。４の柳葉鏃は覆土一括で取上げられたものである。

70号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑11号。68号竪穴の南コーナー部に位置し、68号を削平して存在する井戸状の土坑である。長径1.18m短径1.12m深さ最大89㎝を測り、長軸方位はN－33 °－Eを示す。底面の中央部は周囲より35㎝低くなっており、壁はオーバーハング気味に立ち上がる。

遺物

本遺構からは遺物は全く検出されなかった。

71号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号214号。68号竪穴の東側に位置し、68号・126号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.58m短径5.38mを測り、主軸方位はN－24 °－Wを示す。炉は遺構の中央からやや北東側に偏った位置から検出され、残存する火床長径0.84m短径0.56m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－６ °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で39㎝、西壁４㎝、南壁51㎝、北壁36㎝を測る。周溝はほぼ全周し、深さは４～11㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは11ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはＰ１が74㎝、Ｐ２が71㎝、Ｐ３が75㎝、Ｐ４が78㎝を測り、掘り込みも深くしっかりしている。Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さは21㎝を測る。この他Ｐ６が９㎝、Ｐ７が８㎝、Ｐ８が65㎝、Ｐ９が19㎝、P10が23㎝、P11が12㎝を測る。

遺物

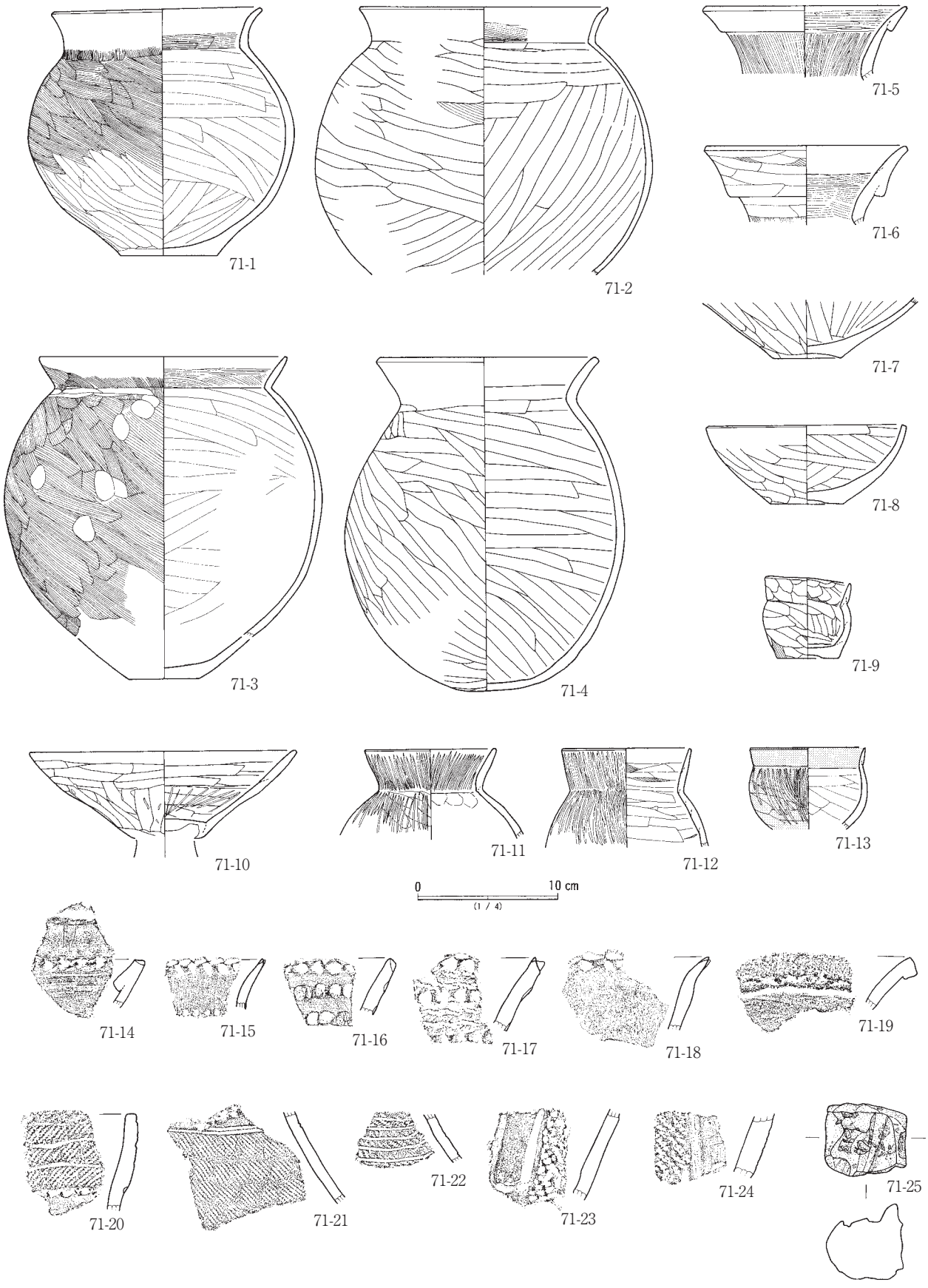
本遺構からは666点14,564gの土器片と４点168gの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、568点12,898gの土師器、１点35gの須恵器、91点1,427gの弥生土器、１点120gのミニチュア土器、５点84gの縄文土器である。これらの出土遺物の内25点を図示した。

１・２・４・８・10・11は、床直ないしは床面から近い位置で検出されており、本遺構に直接伴うものと判断される。この他、３は19㎝、９は37㎝浮いた状態で検出されている。これ以外は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

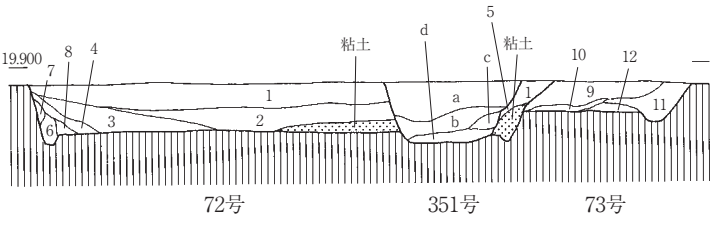
72号遺構（竪穴住居跡）

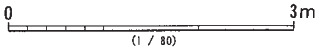
昭和53年度調査時遺構番号245号。68号竪穴の北側に位置し、73号・74号竪穴を削平し、351号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.40m短径5.24mを測り、主軸方位はN－47 °－Wを示す。カマドは北壁中央に存在した痕跡として、周囲の粘土によって察知されるが、カマド本体は351号溝によって削平されている。

残存する壁高は、それぞれ東壁で55㎝、西壁40㎝、南壁59㎝、北壁48㎝を測る。周溝は東側の一部を除いて全周し、深さは３～10㎝を測る。東壁の中央部から西に向かって間仕切り溝が存在し、長さ1.2m幅0.24m深さ５～９㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは９ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ６・Ｐ７・Ｐ８は



第75図　71号遺構出土遺物実測図





72号遺構

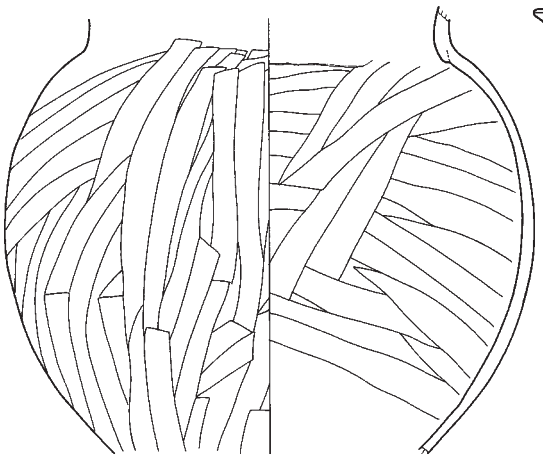
1 黒褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
3 暗褐色土 ロームブロック大少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中混入。
5 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
6 暗褐色土 ロームブロック中混入。
7 黒褐色土 ロームブロック中少量混入。
8 黒褐色土 ロームブロック中多量に混入。

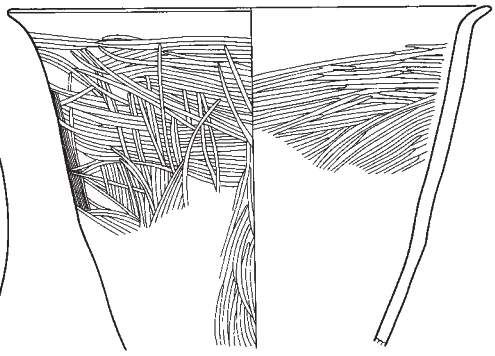
351号遺構

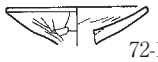
a 黒褐色土 ローム粒少量混入。
b 黒褐色土 ロームブロック中少量混入。
c 暗褐色土 ロームブロック・粘土まばらに混入。
d 黒褐色土 ロームブロック中多量に混入。

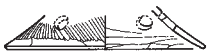
73号遺構

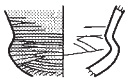
9 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
10 暗褐色土 ローム粒少量混入。
11 黒褐色土 ローム粒少量混入。
12 暗褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。


72-1

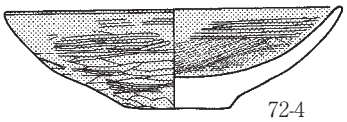

72-2

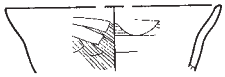

72-12

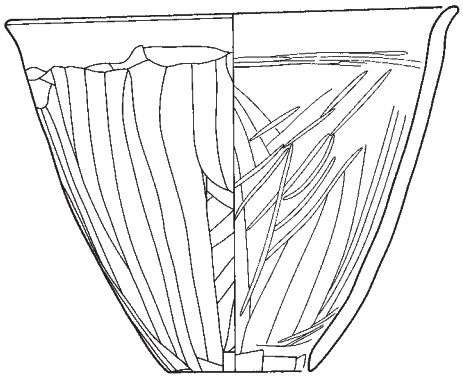

72-13

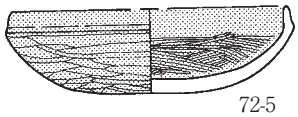

72-14

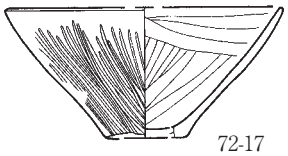
72-15

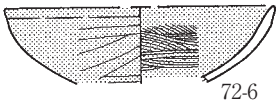

72-4


72-16

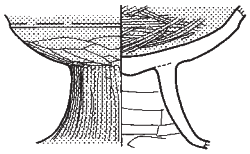

72-3

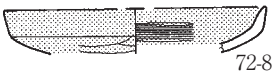

72-5

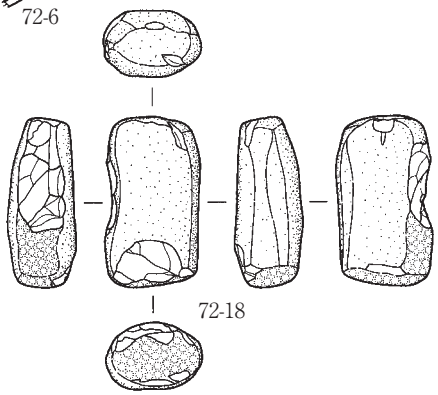

72-17

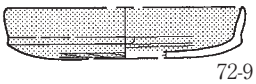

72-6

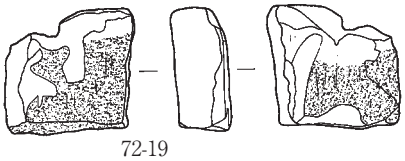
72-7

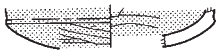

72-11

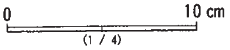

72-8


72-18


72-9

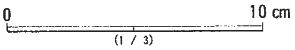

72-19


72-10

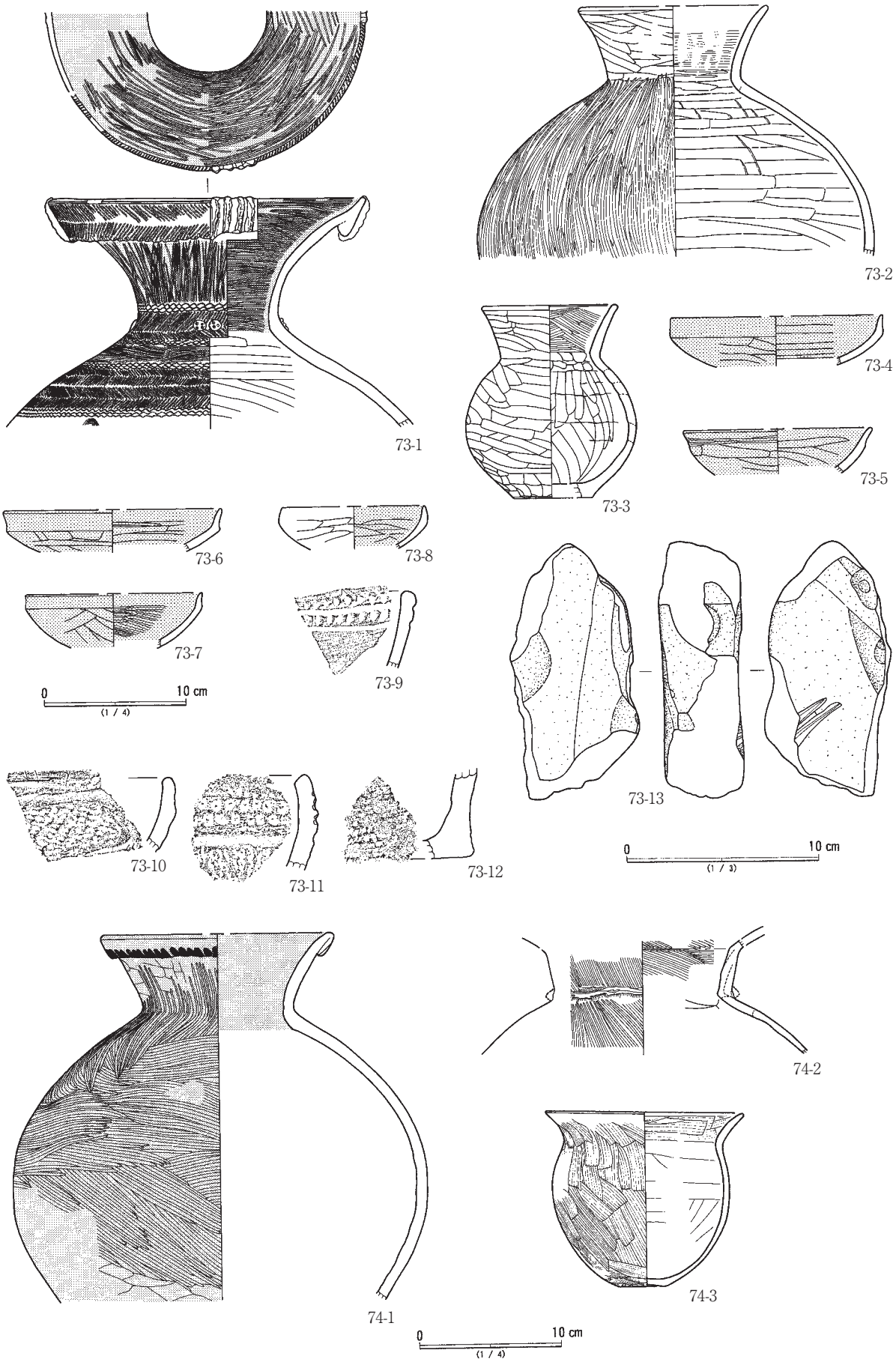


72-20

72-21



第76図　72・73・351号遺構実測図・72号遺構出土遺物実測図



第77図　73・74号遺構出土遺物実測図

第78図　75 ～ 92号遺構実測図

主柱穴と想定される。深さはＰ１が43㎝、Ｐ２が49㎝、Ｐ３が38㎝、Ｐ４が40㎝、Ｐ５が50㎝、Ｐ６が52㎝、Ｐ７が41㎝、Ｐ８が56㎝を測り、掘り込みも深くしっかりしている。Ｐ９は入口施設に伴うものと想定され、深さは11㎝を測る。焼土は２ヶ所に検出され、厚さ７～11㎝を測る。

なお、本跡は主柱穴の重複から建替えが行われた住居跡であろうと想定される。また、遺物の中には245土坑と注記された遺物が混入しており、それらの遺物時期は前期五領式であったことを申し加えておく。

遺物

本遺構からは322点8,710gの土器片と３点171gの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、274点7,979gの土師器、40点625gの弥生土器、１点21gの手づくね土器、６点75gの縄文土器、１点120gの敲石、１点41gの砥石である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

１・３・４・11・16は、床直ないしは床面から近い位置で検出されており、本遺構に直接伴うものと判断される。この他、２は21㎝浮いた状態で検出されている。これ以外は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

73号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号246号。72号竪穴の北側に位置し、72号竪穴・351号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.20m短径5.52mを測り、主軸方位はN－40°－Wを示す。炉はＰ２・Ｐ３間の中央に存在し、残存する火床長径0.56m短径0.42m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－66°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で35㎝、西壁32㎝、北壁24㎝を測る。周溝は削平された南側を除いて全周し、深さは３～16㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴と想定される。深さはＰ２が61㎝、Ｐ３が26㎝、Ｐ４が68㎝、Ｐ５は72号床面から39㎝、本跡床面換算で51㎝を測る。この他Ｐ１が14㎝、Ｐ６が８㎝を測る。

なお、本跡を横断する351号溝内より28×24㎝規模の貝ブロックが検出され、厚さは55㎝を測る。

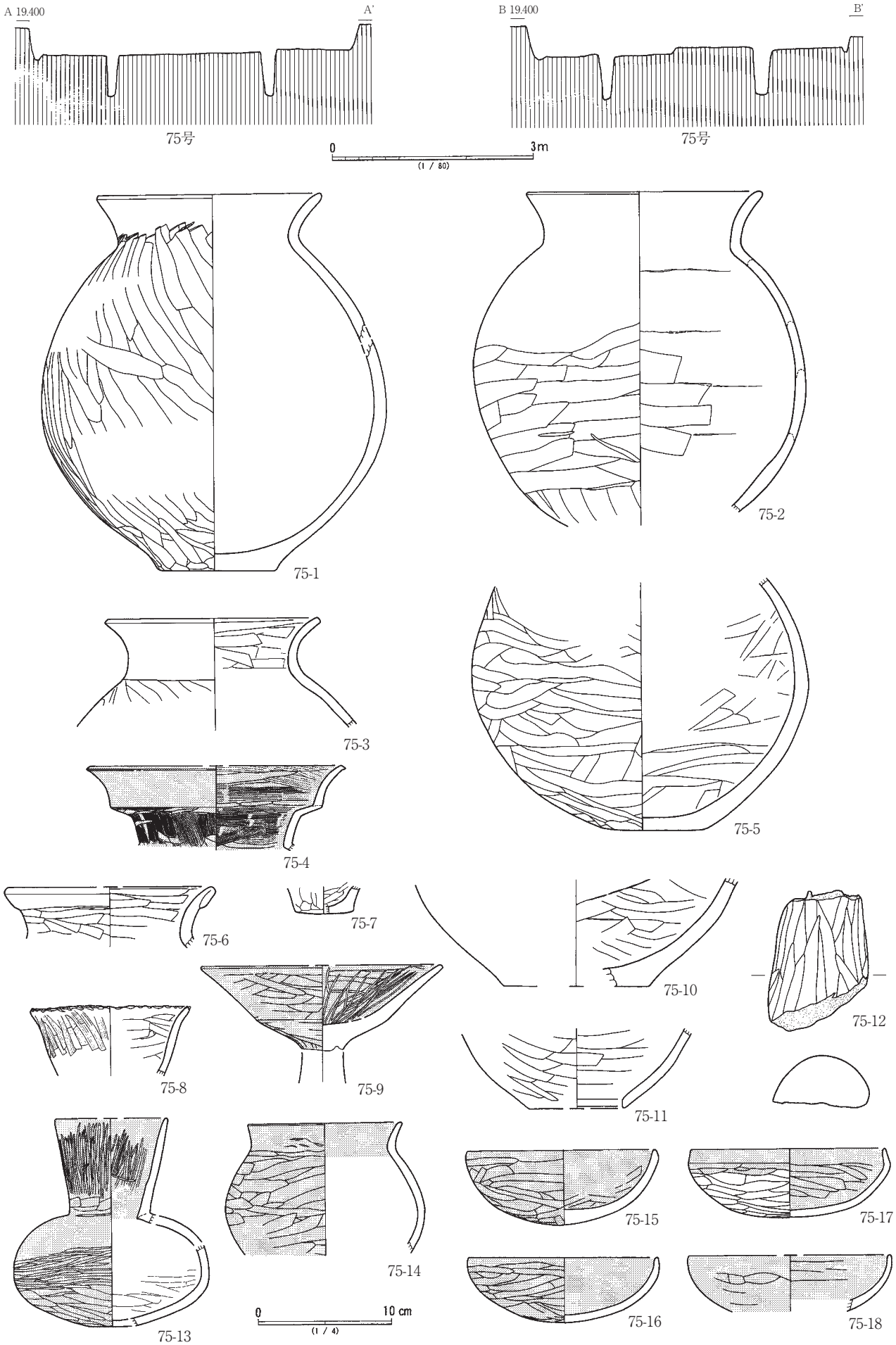
遺物

本遺構からは181点4,994gの土器片と２点355gの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、115点1,366gの土師器、58点3,460gの弥生土器、４点67gの早期条痕文系土器、４点101gの縄文土器、１点345gの磨石・凹石である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

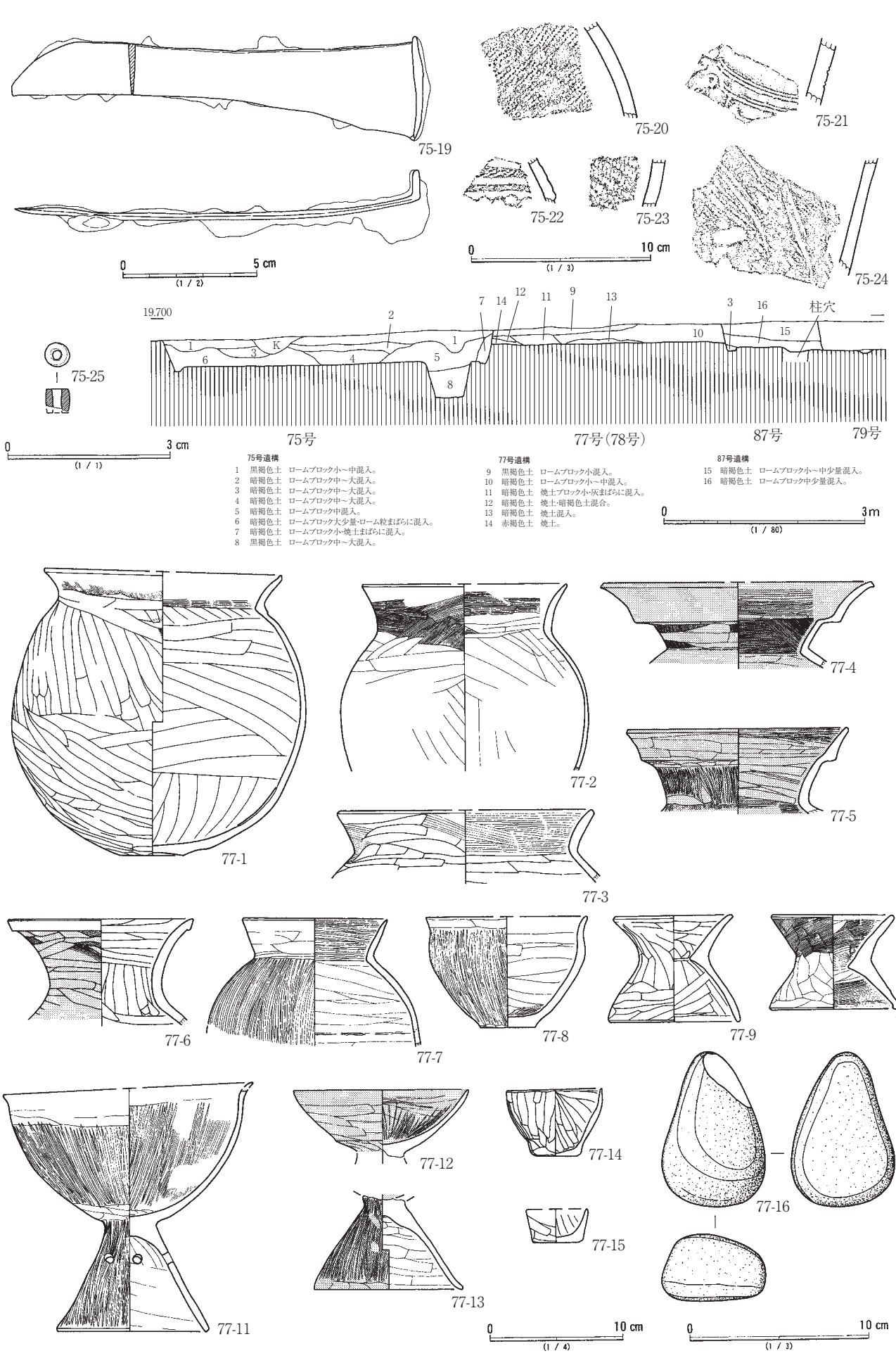
１・２・３は、床直ないしは床面から近い位置で検出されており、本遺構に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

74号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号245B・C号。72号竪穴の西側に位置し、72号竪穴・351号溝に削平されて存在する。調査当時は、351号溝を境に２基の不正形遺構プランが確認され、遺物も出土することから245B・C号の遺構番号が付された経緯がある。遺物出土状況の記録写真を観察すると、底面や周囲の調査が不完全な状況を呈しており、出土遺物に時期差もないことから、本報告では調査不完全な竪穴住居跡として報告するが、規模等は不明である。



第79図　75号遺構実測図・出土遺物実測図



第80図　75・77・79・87号遺構実測図・75・77号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは２点720gの土師器と１点2,450gの弥生土器が検出され、全て図化した。何れも床ないしは底付近の検出であり、本遺構に直接伴うものと判断される。なお、前述72号遺物に混入していた245号土坑注記遺物は、本遺構に伴う可能性がある。

75号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号220号。56号竪穴の西側に位置し、53号・77号・78号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.98m短径4.96mを測り、主軸方位はN－140 °－Eを示す。カマドは南東壁中央やや南側に構築され、残存する火床長径0.69m短径0.42m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－137 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ北東壁で42㎝、南東壁17㎝、北西壁46㎝、南西壁38㎝を測る。周溝は全周し、深さは１～８㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはＰ１が63㎝、Ｐ２が67㎝、Ｐ３が62㎝、Ｐ４は66㎝を測る。この他Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さは59㎝を測る。

Ｐ２付近には全長3.44m幅12 ～ 24㎝高さ４～５㎝を測るコの字形の周堤帯が存在する。

遺物

本遺構からは408点16,854gの土器片と４点108gの礫、１点0.12gの臼玉、１点58.1gの曲刃鎌、２点300gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、361点16,220gの土師器、42点493gの弥生土器、３点87gの縄文土器、１点40gの陶器片である。これらの出土遺物の内24点を図示した。

ドットで示した遺物の内６以外は床密着の状況で検出されており、本遺構に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

76号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号なし。75号竪穴の南西側に位置し、75号竪穴に削平される土坑である。残存長1.26m幅0.66mを測るが深さの測定値はない。記録写真から75号竪穴と同レベルの深さであることが観察され、掘り込みもしっかりとした土坑であることが確認される。

遺物

本遺構からは遺物は全く検出されなかった。

77号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号218B・219号。75号竪穴の南側に位置し、78号竪穴を削平し、75号・79号・87号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。調査時には78号竪穴北側に位置する竪穴を218B号、西側に位置する竪穴を219号と命名していたが、整理の結果、78号竪穴の上に貼床をもって構築された１軒の住居跡であることが判明した。推定長径7.30m短径6.00mを測り、主軸方位はN－８ °－Wを示す。平面プランから、炉は75号竪穴に削平されたものと想定される。

残存する壁高は、それぞれ東壁で17㎝、西壁18㎝、北壁22㎝を測り、周溝は存在しない。

床面はソフトローム層中に構築されやや凹凸がし、あまり硬く踏み固められていない。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が78号床面から34㎝、本跡床面換算で38㎝、Ｐ２が78号床面から32

㎝、本跡床面換算で34㎝を測る。

遺物

本遺構からは282点6,783gの土器片と１点230gの磨石、１点90gの布目瓦が検出された。土器片等の内訳は、199点5,773gの土師器、77点930gの弥生土器、６点80gの縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

ドットで示した遺物のすべては床密着ないしは床直上の状況で検出されており、本遺構に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

78号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号218A号。77号竪穴の下層位置し、77号・79号・87号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径7.80m短径6.38mを測り、主軸方位はN－５°－Wを示す。

炉は中央やや北側に存在し、残存する火床長径0.90m短径0.46m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－４°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で26㎝、西壁10㎝、南壁28㎝を測る。周溝は検出面で全周し、深さは10～18㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは21ヶ所に検出され、その位置からＰ１・Ｐ３・Ｐ５は主柱穴と想定される。深さはＰ１が80㎝、Ｐ２が28㎝、Ｐ３が41㎝、Ｐ４は28㎝、Ｐ５が82㎝、Ｐ６が66㎝を測る。

遺物

本遺構からは36点902gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、30点270gの土師器、６点632gの弥生土器である。これらの出土遺物の内１点を図示した。

１は床面から６㎝の状況で検出されており、本遺構に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

79号遺構（竪穴住居跡）

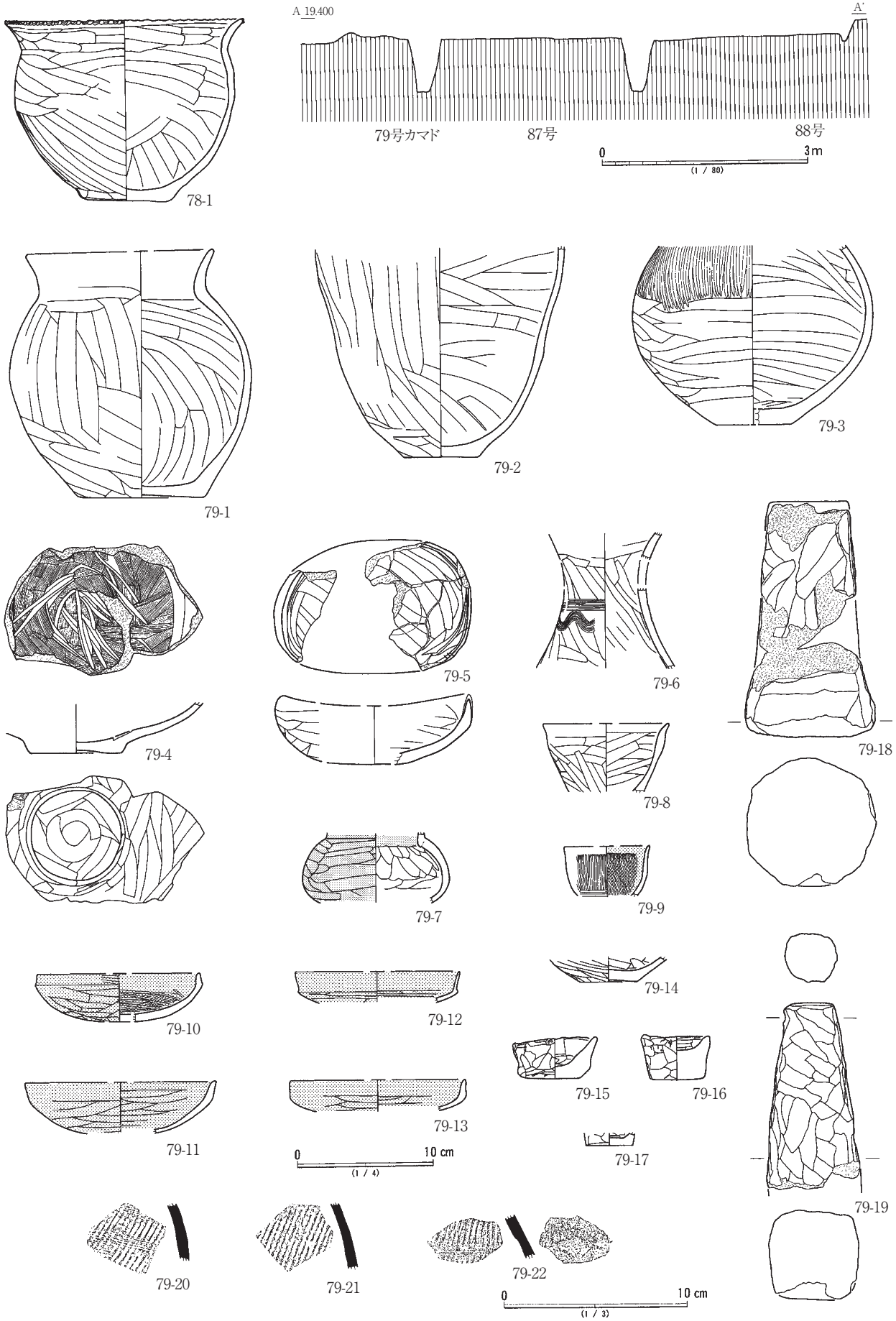
昭和53年度調査時遺構番号206号。78号竪穴の東側に位置し、周辺竪穴を全て削平して存在する古墳時代終末期の竪穴住居跡である。推定長径5.28m短径5.24mを測り、主軸方位はN－61°－Wを示す。カマドは北西壁中央に存在し、残存する火床推定長径0.94m短径0.48m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－56°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ南東壁で12㎝、北東壁25㎝を測る。周溝は一部に存在し、深さは６㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、中央部が硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはＰ１が57㎝、Ｐ２が63㎝、Ｐ３が43㎝、Ｐ４は46㎝を測る。Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さは30㎝を測る。Ｐ６は貯蔵穴と考えられ、深さは56㎝を測る。

遺物

本遺構からは627点9,940gの土器片と16点529gの礫、８点1,565gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、428点7040gの土師器、４点38gの須恵器、178点2,412gの弥生土器、11点310gの手づくね土器、５点130gの縄文土器、１点10gの陶器片である。これらの出土遺物の内19点を図示した。

１・２・３・５・７・14～17は、床直ないしはカマド内で検出されており、本遺構に直接伴うも



第81図　79・87・88号遺構実測図・78・79号遺構出土遺物実測図

のと判断される。７は床面から33㎝離れて出土している。これ以外の遺物は、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

80号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号210A・B号。79号竪穴の北側に位置し、79号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。調査日誌には210A号竪穴内に210B号竪穴が寸分違わず重複する特殊祭祀遺構の可能性が高いとするが、整理の結果、１軒の竪穴住居として報告する。長径5.12m短径4.30mを測り、主軸方位はN－24 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央に存在し、残存する火床長径0.86m短径0.32m深さ７㎝を測り、火床長軸方位はN－23 °－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ東壁で66㎝、西壁68㎝、南壁33㎝、北壁70㎝を測る。周溝は北側を除いて存在し、深さは５～10㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはＰ１が41㎝、Ｐ２が33㎝、Ｐ３が41㎝、Ｐ４は31㎝を測る。Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さは22㎝を測る。Ｐ６は貯蔵穴と考えられ、深さは36㎝を測る。

焼土は16ヶ所に検出され厚さは１～９㎝を測る。炭化物は床面全域の21ヶ所に散布する。

遺物

本遺構からは946点24,003gの土器片と15点675.1gの礫・石器、３点47gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、474点17,723gの土師器、２点50gの須恵器、459点5,900gの弥生土器、９点210gの縄文土器、１点230gの磨石、２点76.1gの砥石、２点７gの支脚片、１点84gの布目瓦である。これらの出土遺物の内24点を図示した。

３～６・８～11・13・14・17～22は、床直ないしは床面付近の検出であり、本遺構に直接伴うものと判断される。またこれ以外の遺物は210A号一括で取上げられており、210B号床面の高さから、210A号覆土は９㎝しか存在しないため、極めて床面に近い位置からの出土と判断される。

81号遺構（竪穴住居跡）

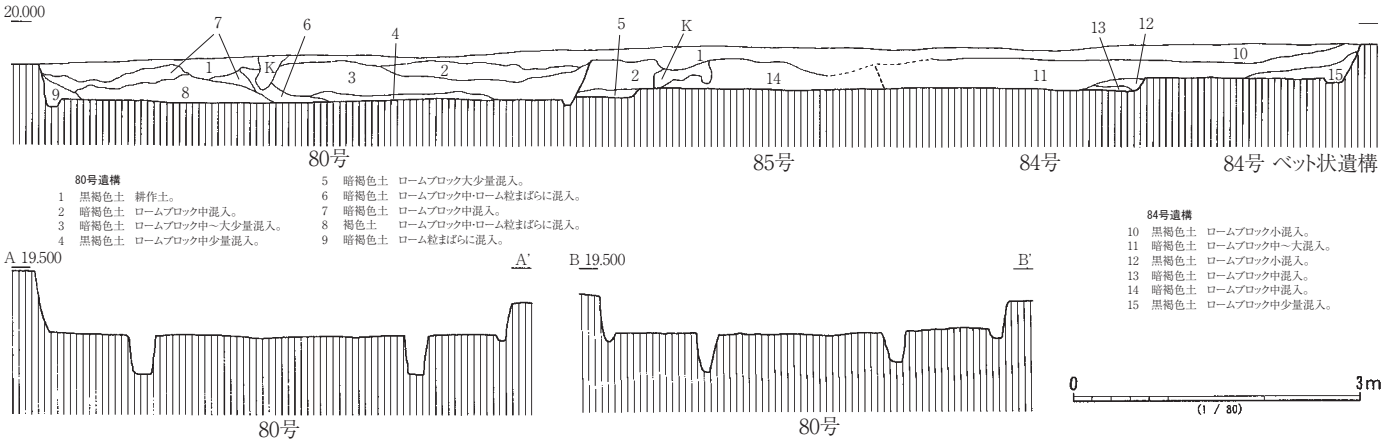
昭和53年度調査時遺構番号211A号。80号竪穴の東側に位置し、80号竪穴を削平し、82号・83号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.60m短径4.20mを測り、主軸方位はN－36 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ３間の中央やや東側に偏って存在し、残存する火床長径0.46m短径0.38m深さ６㎝を測り、火床長軸方位はN－79 °－Wを示す。

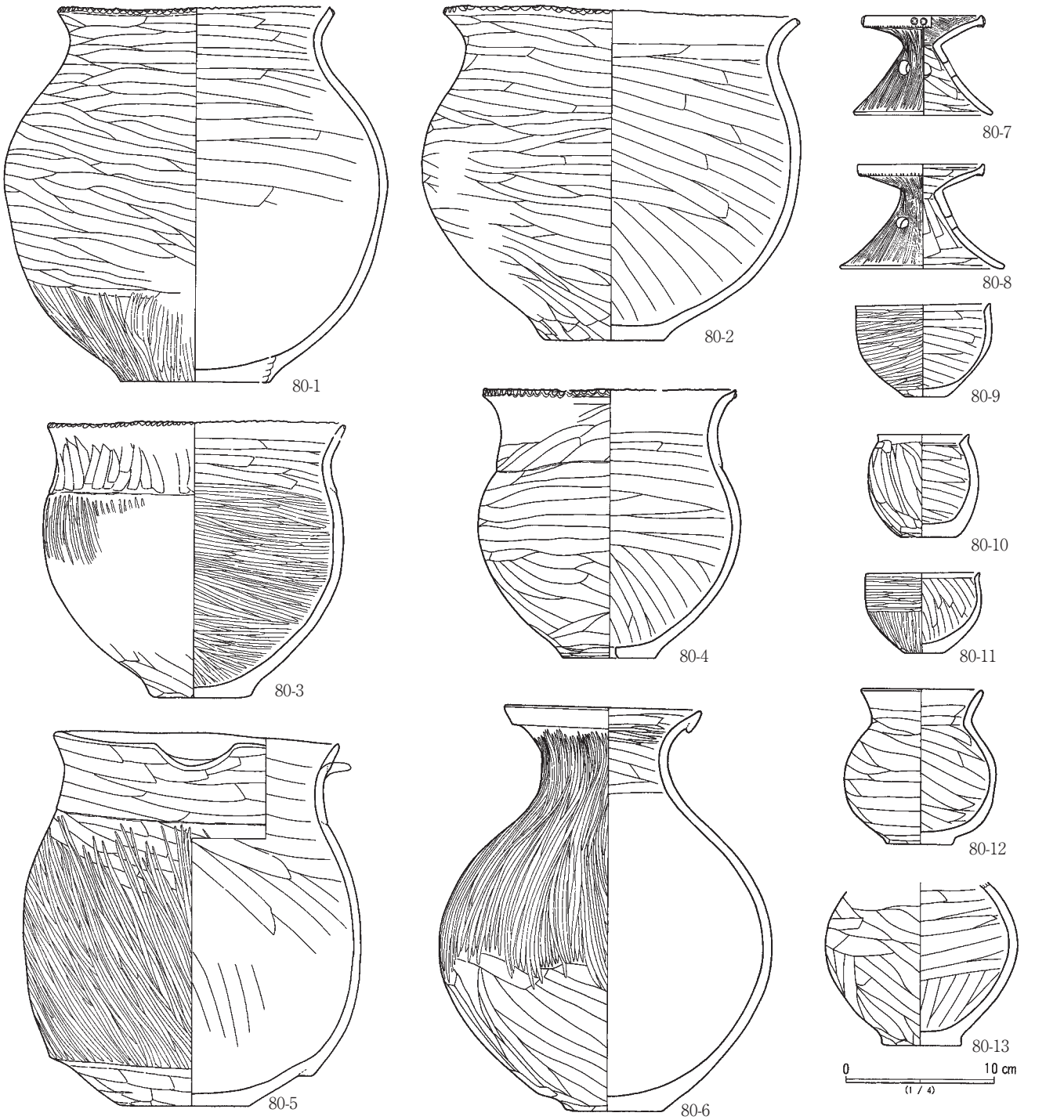
残存する壁高は、それぞれ北東壁で29㎝、南東10㎝、北西壁33㎝、南西壁17㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは６～９㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴と想定される。深さはＰ１が66㎝、Ｐ３が42㎝、Ｐ４が61㎝、Ｐ５は60㎝を測る。Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さは69㎝を測る。Ｐ２も主柱穴のひとつと想定され、深さは62㎝を測る。この他Ｐ７は深さ31㎝を測る。

遺物

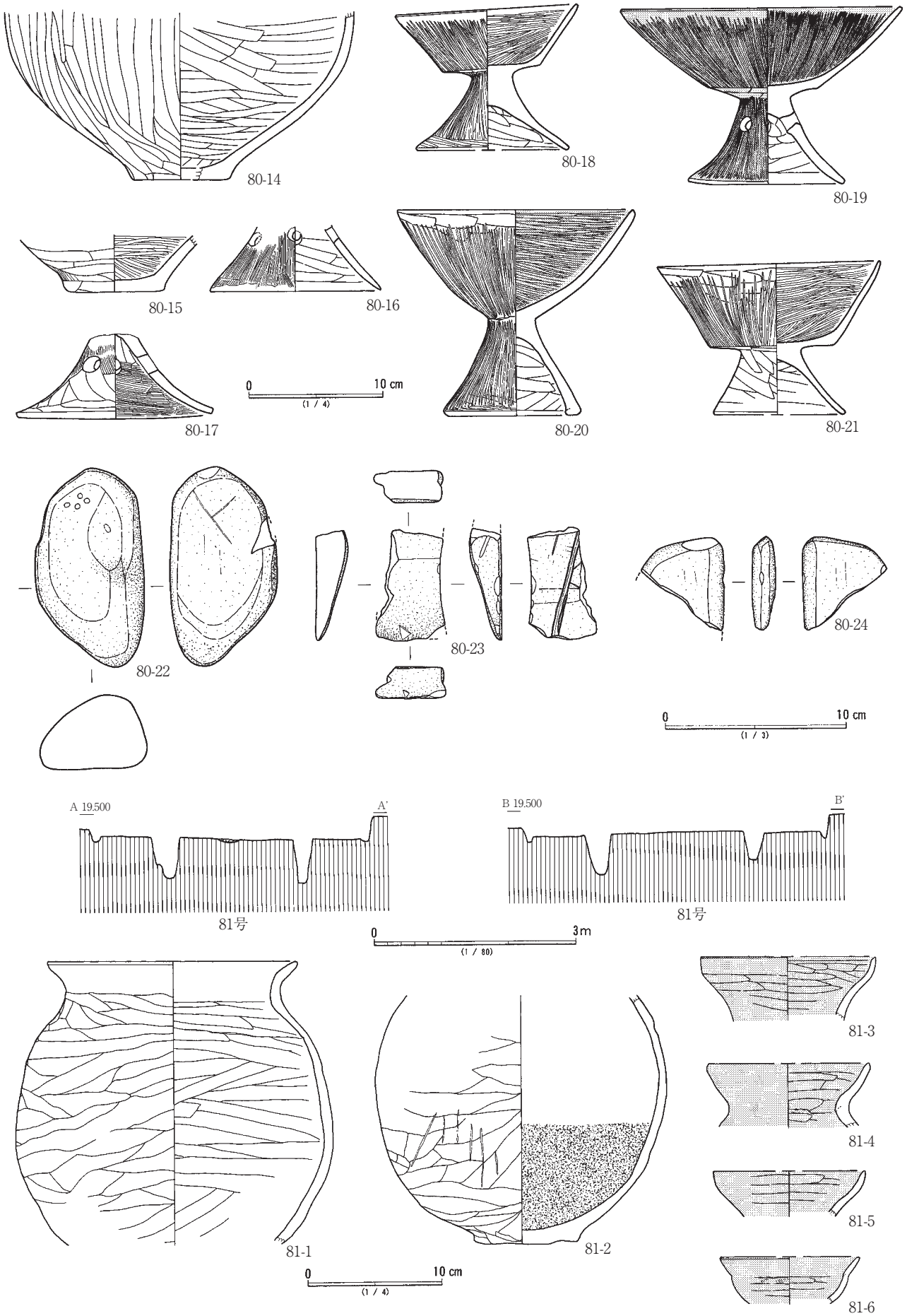
本遺構からは798点13,747gの土器片と10点627gの礫、１点84gの布目瓦が検出された。土器片等の内訳は、681点12,491gの土師器、114点1,211gの弥生土器、１点14gの手づくね土器、１点23gの縄文土器、１点８gの陶器片である。これらの出土遺物の内27点を図示した。

１・７・10・11・13・17は、床直ないしは床面付近の検出であり、本遺構に直接伴うものと判断さ

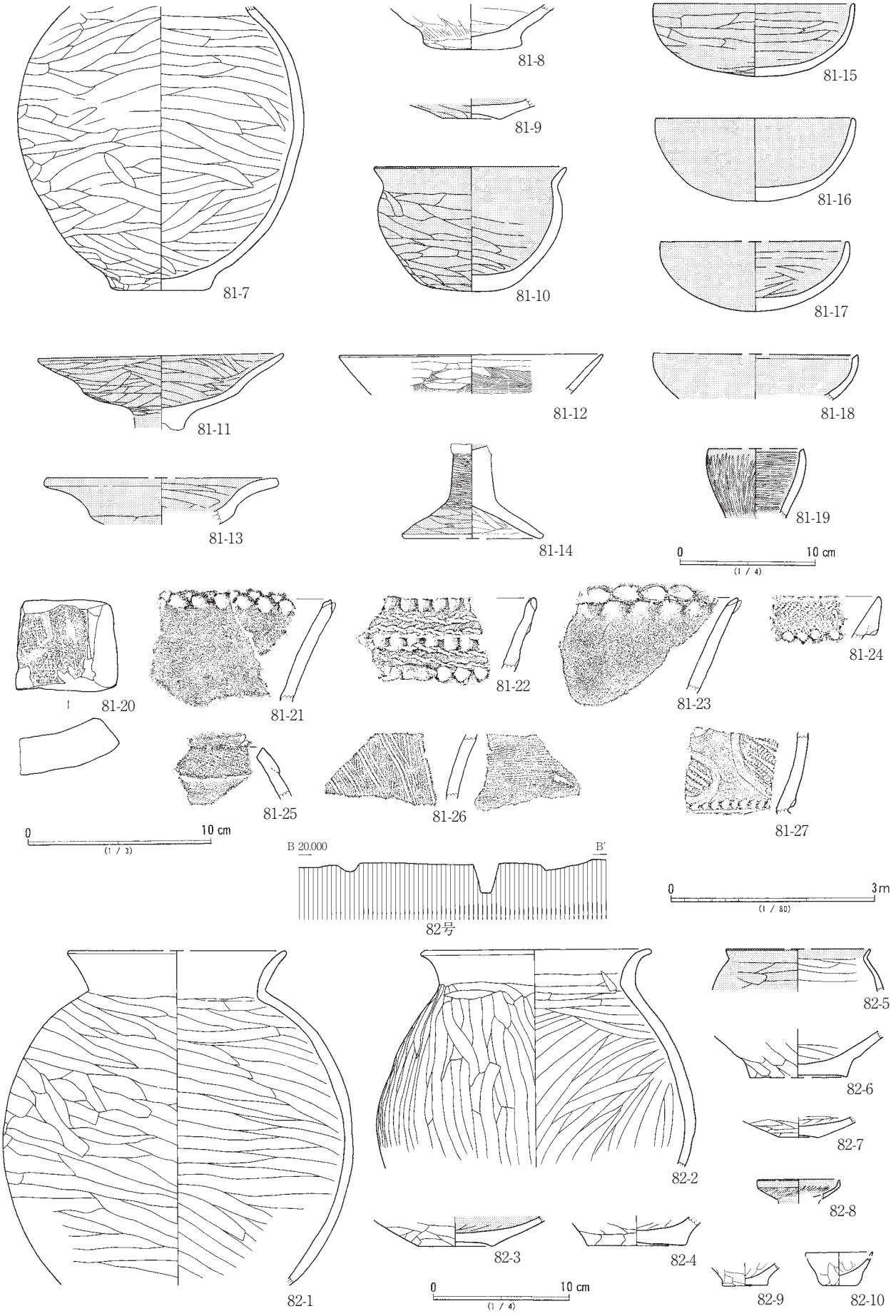




第82図　80・84・85号遺構実測図・80号遺構出土遺物実測図



第83図　81号遺構実測図・80・81号遺構出土遺物実測図



第84図　82号遺構実測図・81・82号遺構出土遺物実測図

れる。またこれ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

82号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号212A号。81号竪穴の東側に位置し、81号・83号・84号・85号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.86m短径3.76mを測り、主軸方位はN－67 °－Eを示す。カマドは東壁中央やや南側に偏って構築されており、残存する火床長径0.26m短径0.18m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－59 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ南８㎝、北壁２㎝を測り、東壁・西壁の測定値は存在しない。周溝はほぼ全周し、深さは６～８㎝を測る。床面はほぼ平坦であるが、軟弱である。ピットは10ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはP １が21㎝、Ｐ３が10㎝、Ｐ４が40㎝を測るがP ２の測定値がない。Ｐ５・Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはP ５が55㎝、Ｐ６は61㎝を測る。この他P ７が41㎝、Ｐ８が14㎝、Ｐ９が25㎝、P10が18㎝を測る。

焼土は２ヶ所に検出され厚さ10 ～ 18㎝を測る。

遺物

本遺構からは549点11,078gの土器片と５点445.5gの礫・石器、３点485gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、511点10,563gの土師器、31点404gの弥生土器、１点５gの手づくね土器、１点26gのミニチュア土器、５点80gの縄文土器、１点169.5gの分胴型石斧、２点400gの支脚片、１点85gの布目瓦片である。これらの出土遺物の内15点を図示した。

１・２・４・11・12は、床直ないしは床面付近の検出であり、本遺構に直接伴うものと判断される。６・７は床から29㎝離れて出土している。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

83号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号212B号。82号竪穴にその大半を削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.50m短径4.20mを測り、主軸方位はN－42 °－Eを示す。カマドは北東壁中央やや南側に偏って構築されており、残存する火床長径0.44m短径0.26m深さ17㎝を測り、火床長軸方位はN－56 °－Eを示す。

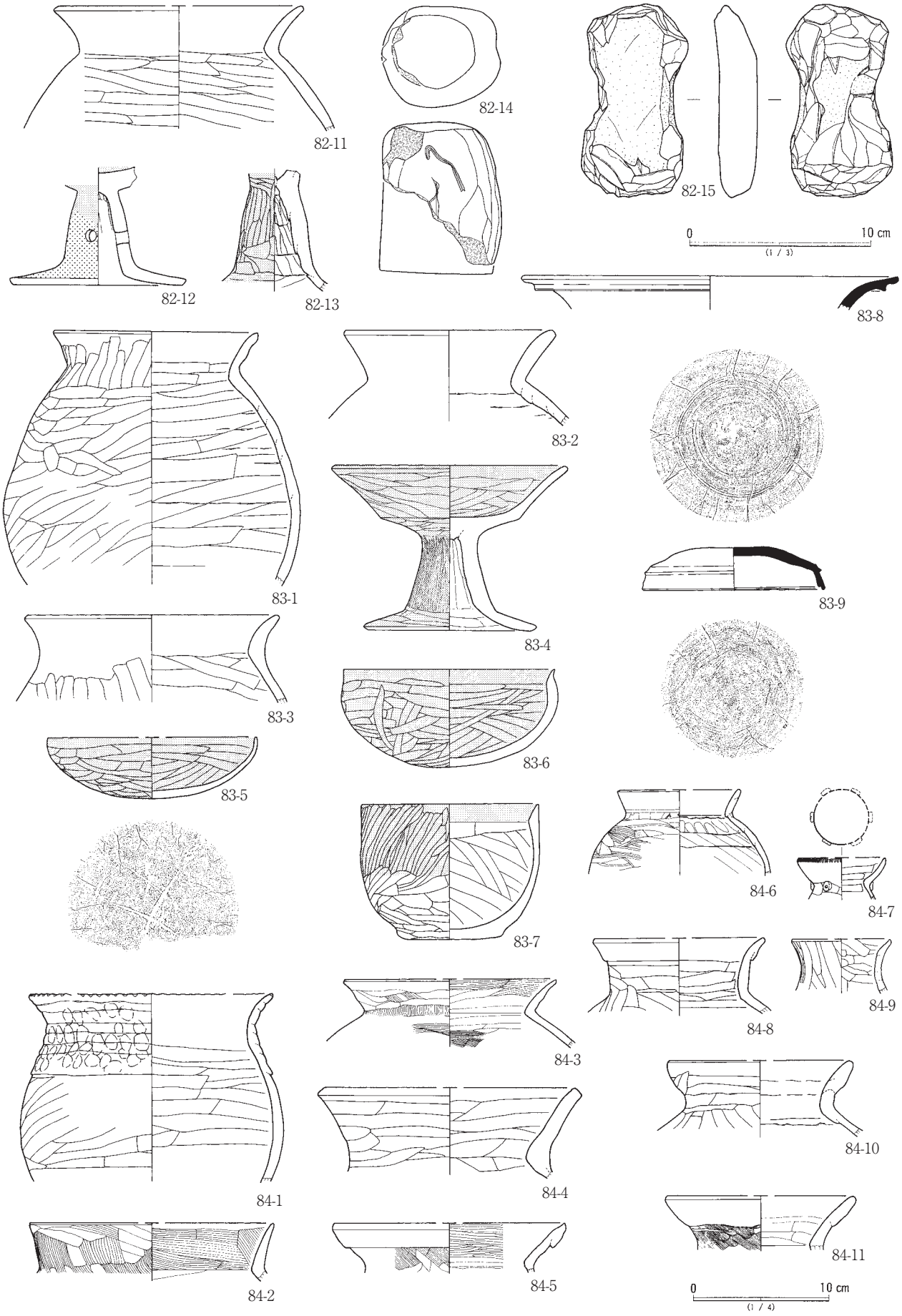
残存する壁高は、それぞれ南東45㎝を測るが、他の壁高は記録されていない。周溝存在せず、床面は82号竪穴とほぼ同一レベルで、平坦であるが、軟弱である。ピットは２ヶ所に検出され、深さはP １が18㎝、Ｐ２が34㎝を測る。位置的には両者とも貯蔵穴と想定さる。

遺物

本遺構からは９点3,920gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、７点3,655gの土師器、２点265gの須恵器であり、全て図化した。

６・８以外はカマド内や周囲の床面からの検出で、本遺構に直接伴うものと判断される。９の須恵器蓋坏は外面回転ヘラ削りの後丁寧なナデが施され、特に天井部付近は内外面に不正方向の丁寧なナデが施されており、古式の様相を呈している。

84号遺構（竪穴住居跡）



第85図　82 ～ 84号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号208・209号。82号竪穴の南側に位置し、85号竪穴を削平し82号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。調査段階では本跡東側の一段高くなったベッド状遺構を208号竪穴として捉えていたが、整理段階で１軒の竪穴と判明した。推定長径5.20m短径5.10mを測り、主軸方位はN－22°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央やや南に偏った位置に存在し、残存する火床長径0.78m短径0.56m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－22°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ東42㎝、西壁26㎝、南壁46㎝を測る。周溝は東～西側にかけて残存し、深さは２～６㎝を測る。床面はベッド状遺構の範囲は、平坦で硬く締まるが、他は軟弱である。ピットは９ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはＰ１が59㎝、Ｐ２が55㎝、Ｐ３が66㎝、Ｐ４が50㎝を測る。周堤帯に囲まれたＰ５は貯蔵穴と想定され、深さは25㎝を測る。この他Ｐ６が26㎝、Ｐ７が14㎝、Ｐ８が66㎝、Ｐ９が67㎝を測る。

ベッド状遺構は２ヶ所に検出された。東側に存在するものは残長2.30m幅１m前後で周囲の床面よりも７～９㎝高い。南コーナー部に所在するものは、１×１m前後の方形で、周囲の床面より５～８㎝高い。周堤帯は長さ1.1m幅８～10㎝高さ２㎝を測る。

遺物

本遺構からは1,544点18,958gの土器片と15点385gの礫・石器、１点2.90gの有孔円盤、11点285gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、1,283点14,808gの土師器、１点８gの須恵器、257点4,106gの弥生土器、３点36gの縄文土器、１点61gの磨石、７点82gの支脚片、４点203gの布目瓦片である。これらの出土遺物の内37点を図示した。

１は床直、７・９・13・21・34は、床面付近の検出であり、本遺構に直接伴うものと判断される。４は床から19㎝浮いて出土している。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

なお、本跡からは極めて多量の遺物が出土しているが、隣接する85号竪穴では１点の遺物も検出されていないことになっている。これは、85号竪穴炉付近の図面に残る遺物さえ、調査時209号遺構で取上げられているためである。したがって本遺構出土遺物とされるかなりの部分は、85号竪穴遺物が混入している可能性が高い。

85号遺構（竪穴住居跡）

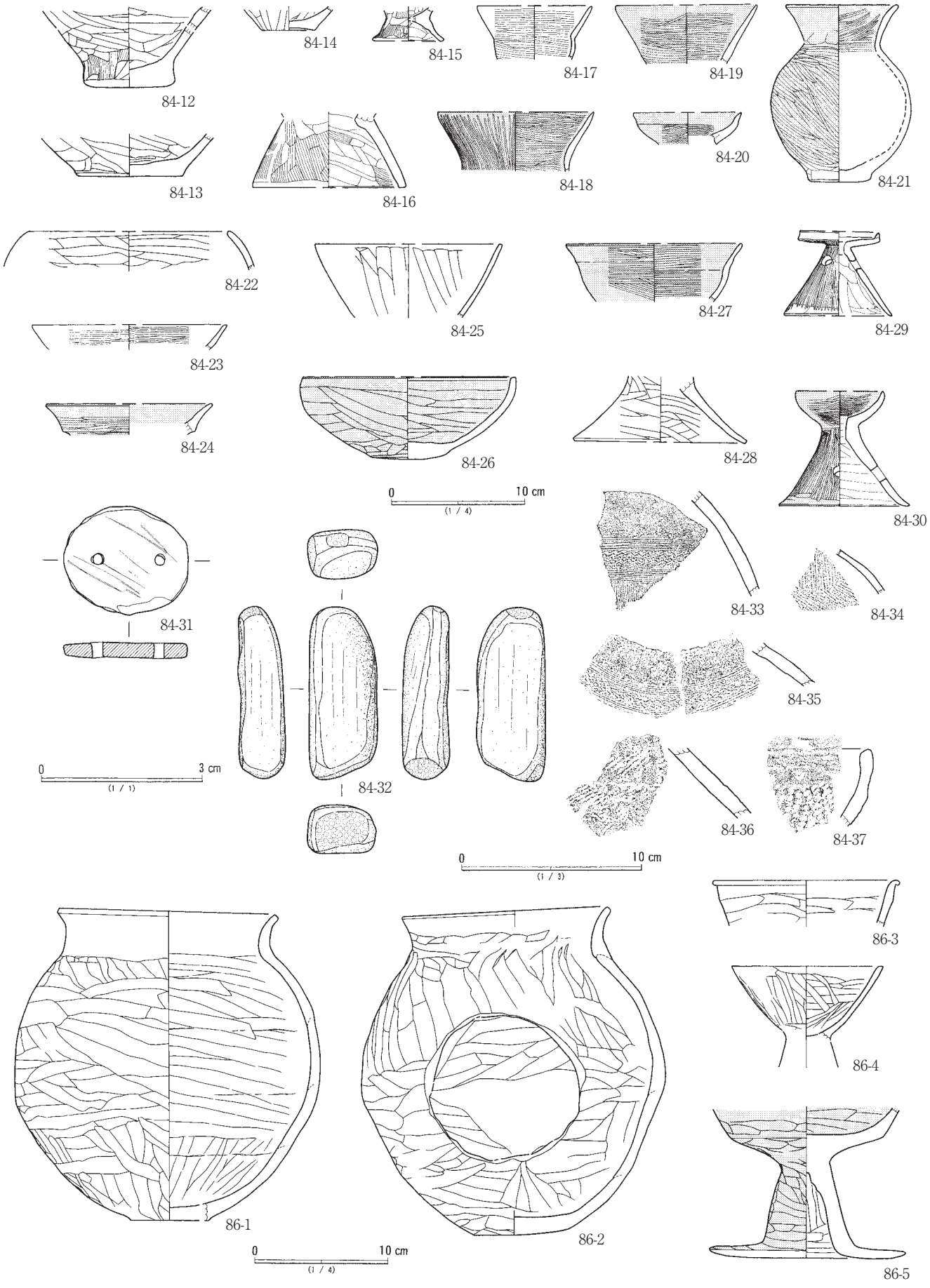
昭和53年度調査時遺構番号なし。81号竪穴の南側に位置し、79号・81号・84号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。調査時に遺構番号が付されていないが、炉や壁が存在することから間違いなく竪穴住居跡である。残存径3.80mを測り、炉の残存する火床長径0.74m短径0.42m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－23°－Wを示す。

残存する壁は南西部のみで、高さは10㎝を測る。周溝は存在せず床面状態は不明である。ピットは１ヶ所に検出され、深さはＰ１が23㎝を測る。

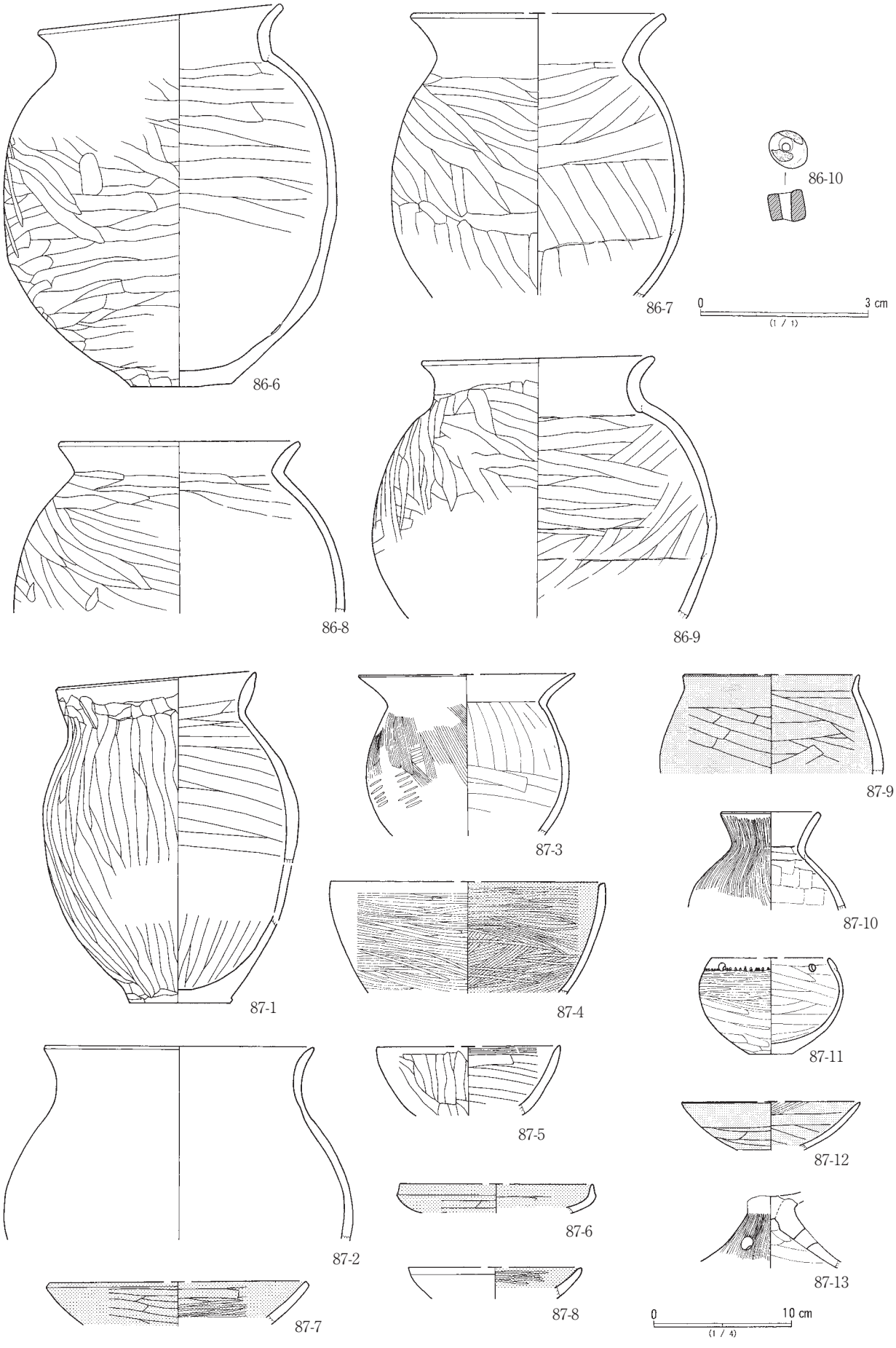
遺物

本遺構出土遺物は、現在１点も見当たらない。

86号遺構（竪穴住居跡）



第86図　84・86号遺構出土遺物実測図



第87図　86・87号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号207号。84号竪穴の西側に位置し、残存長径4.50m短径2.80mを測り、不正プランな竪穴住居跡である。カマドは北東壁中央やや南側に偏って構築されており、残存する火床長径0.40m短径0.26m深さ12㎝を測り、火床長軸方位はN－53°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ南東壁17㎝、南西壁14㎝を測り、周溝は存在しない。床面はほぼ平坦であるが、軟弱である。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が26㎝、Ｐ２が36㎝を測る。

遺物

本遺構からは489点17,332gの土器片と３点122.5gの礫、１点0.43gの臼玉が検出された。土器片等の内訳は、371点15,946gの土師器、116点1,305gの弥生土器、２点81gの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１・２・４・５・６・９は、床直ないしはカマド内からの出土であり、本遺構に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

87号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号205号。79号竪穴の南側に位置し、77号・78号・88号竪穴を削平し、79号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径5.24m短径5.16mを測り、主軸方位はN－５°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央やや南に偏った位置に存在し、残存する火床長径0.66m短径0.48m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－１°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、西壁35㎝、南壁10㎝を測る。周溝は北～南西側にかけて残存し、深さは４～８㎝を測る。床面は平坦であるが軟弱であり、ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が62㎝を測る。、Ｐ２は79号竪穴床面からの検出であるが、位置的に本跡主柱穴であり、深さは78㎝を測る。Ｐ３は63㎝、Ｐ４が77㎝を測る。

焼土は１ヶ所に検出され、厚さは14㎝を測る。

遺物

本遺構からは613点11,546gの土器片と６点370.9gの礫・石器、３点４gのスラグ、２点76gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、390点7,495gの土師器、１点４gの須恵器、221点4,039gの弥生土器、１点８gの手づくね土器、１点17.9gの軽石、１点10gの土玉片、１点66gの布目瓦片である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

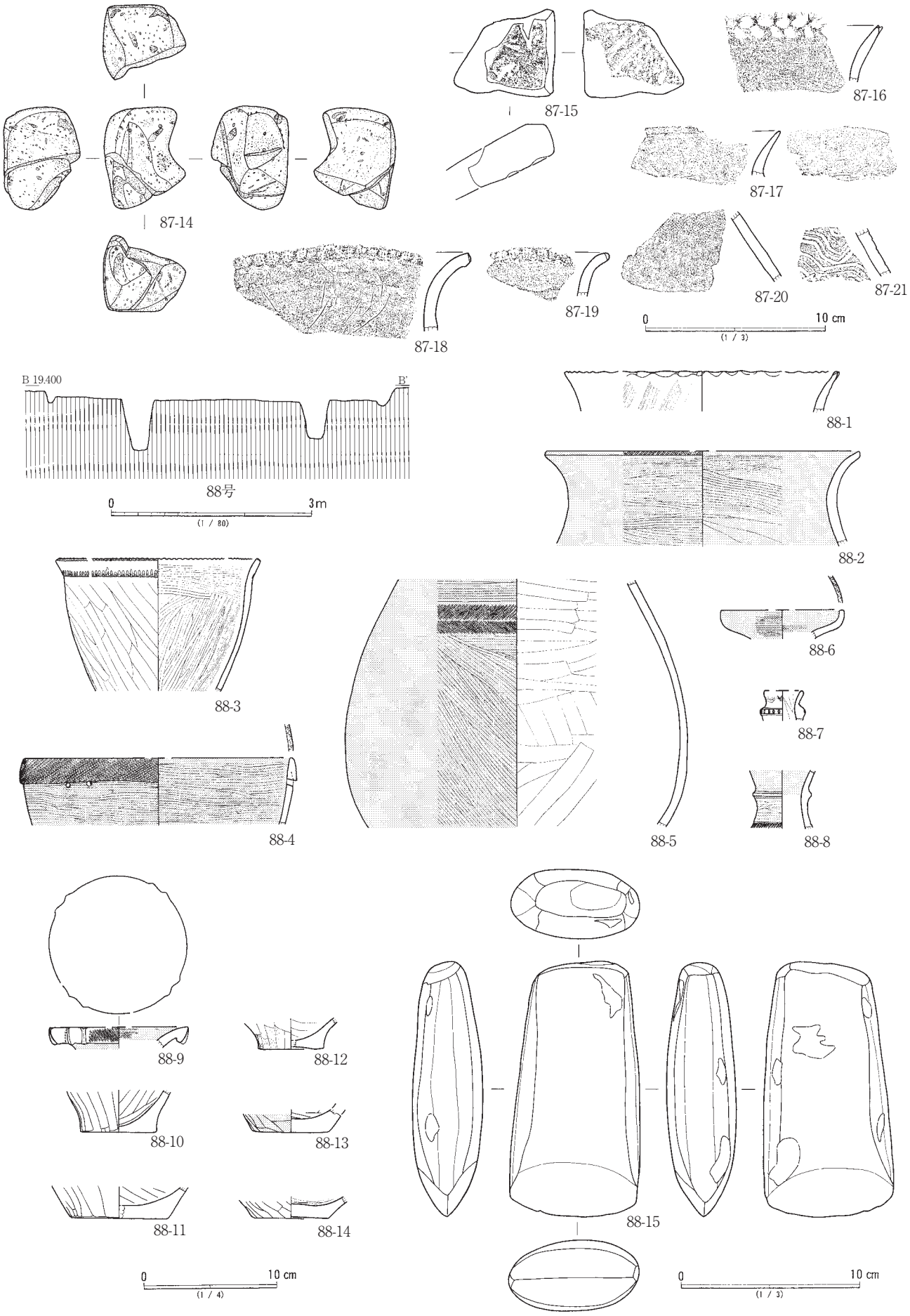
１・３・11・13は床直、２・６・10は床面付近の検出であり、本遺構に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

88号遺構（竪穴住居跡）

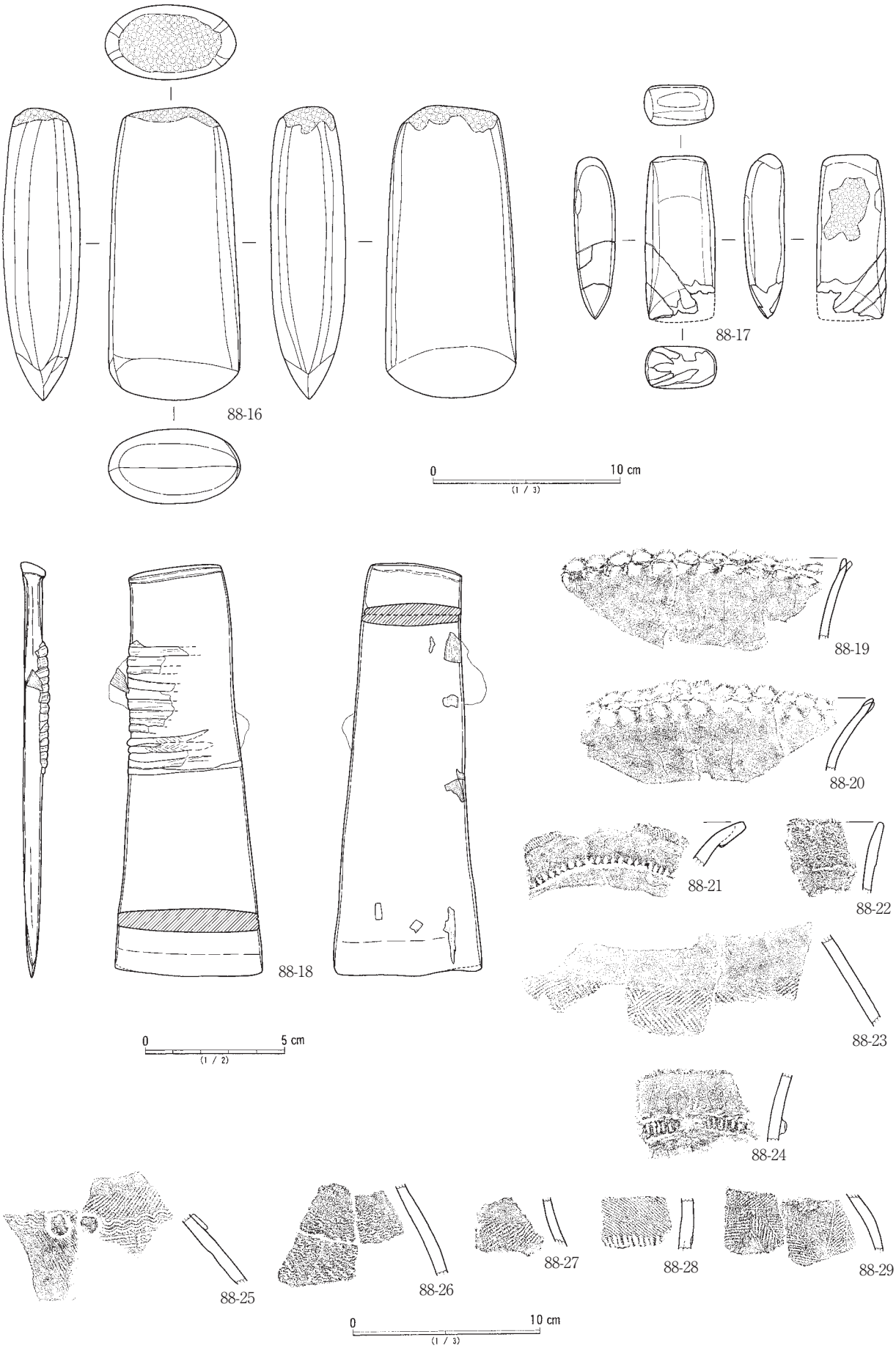
昭和53年度調査時遺構番号204号。79号竪穴の南側に位置し、79号・87号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残長6.00mを測り、炉は79号竪穴に削平されたと推定されるが、Ｐ１・Ｐ２間中央やや南に偏った位置に存在する焼土が、炉の残骸かもしれない。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁14㎝、南東壁32㎝、南西壁７㎝を測る。周溝は削平を免れた範囲に残存し、深さは９～11㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはＰ１が83㎝、Ｐ２は43㎝、Ｐ３は76㎝、Ｐ４が57㎝を測る。この他にＰ５は59㎝を測る。

焼土は２ヶ所に検出され、厚さは４～８㎝を測る。粘土は１ヶ所に検出され、厚さは４㎝を測る。



第88図　88号遺構実測図・87・88号遺構出土遺物実測図



第89図　88号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは1,360点13,039gの土器片と４点1,883gの礫･石器、１点310.2gの板状鉄斧が検出された。土器片等の内訳は、53点1,260gの土師器、1,304点11,731gの弥生土器、３点48gの縄文土器、３点1,653gの磨製石斧である。これらの出土遺物の内29点を図示した。

１・５・９・15・16・18は床直ないしは床面付近の検出であり、本遺構に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

89号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号203号。87号竪穴の南側に位置し、93号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.62m残存短径2.76mを測り、主軸方位はN－40 °－Eを示す。炉は中央やや北西側に偏った位置で検出され、残存する火床長径0.60m短径0.46m深さ７㎝を測り、火床長軸方位はN－60 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁５㎝、西壁24㎝、北壁18㎝を測る。周溝は東側に残存し、深さは５㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは３ヶ所に検出され、深さはP １が38㎝、Ｐ ２は47㎝、Ｐ ３は59㎝を測る。Ｐ ２・Ｐ ３は主柱穴と想定されるが、93号竪穴内では対応するピットが検出されなかった。

遺物

本遺構からは276点3,956gの土器片と７点120.6gの礫・石器、３点212gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、179点3,151gの土師器、１点15gの須恵器、96点790gの弥生土器、１点5.6gの磨石である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１・２・３・９は床直ないしは床面付近の検出であり、本遺構に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

90号遺構（竪穴住居跡）

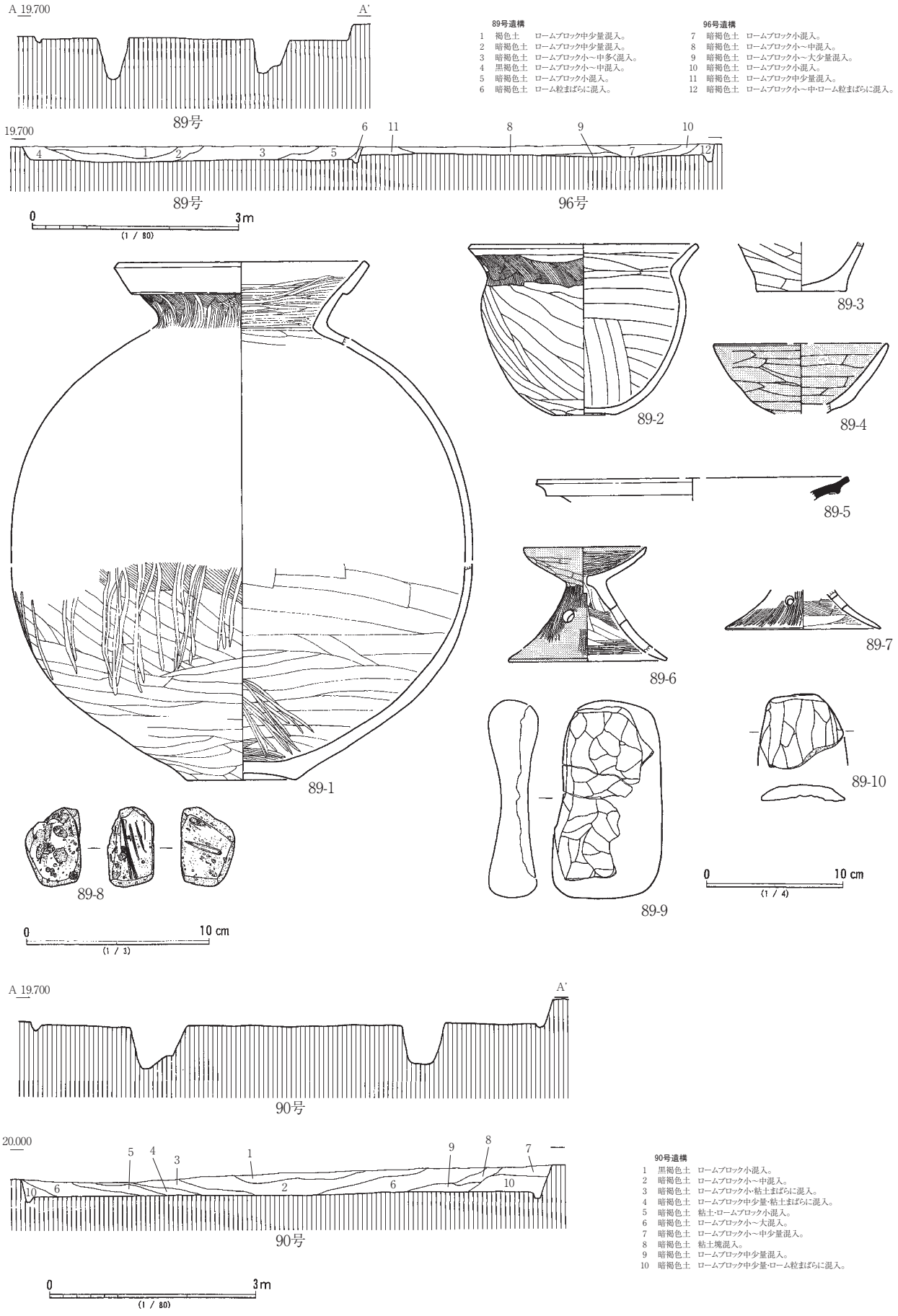
昭和53年度調査時遺構番号188号。88号竪穴の南側に位置し、91号・96号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径7.74m短径7.00mを測り、主軸方位はN－44 °－Wを示す。カマドは北西壁中央に構築され、残存する火床長径0.76m短径0.30m深さ14㎝を測り、火床長軸方位はN－46 °－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁30㎝、南東壁34㎝、北西壁30㎝、南西壁23㎝を測る。周溝は全周し、深さは４～ 14㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは10 ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはP １が58㎝、Ｐ ２は60㎝、Ｐ ３は53㎝、Ｐ ４は91号竪穴P ３と重複し65㎝を測る。この他P ５が38㎝、Ｐ ６が18㎝、Ｐ ７が49㎝、Ｐ ８が44㎝、Ｐ ９が51㎝、P10が28㎝を測る。

焼土は３ヶ所に検出され、厚さは５～ 13㎝を測る。

遺物

本遺構からは1,778点17,131gの土器片と19点621.9gの礫・石器、１点10gの土製有孔方盤、６点802gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、1,734点16,541gの土師器、２点81gの須恵器、40点432gの弥生土器、１点47gの手づくね土器、１点30gの縄文土器、２点8.4gの磨石である。これらの出土遺物の内20点を図示した。



89号遺構

1 褐色土 ロームブロック中少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中多く混入。
4 黒褐色土 ロームブロック小～中混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小混入。
6 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。

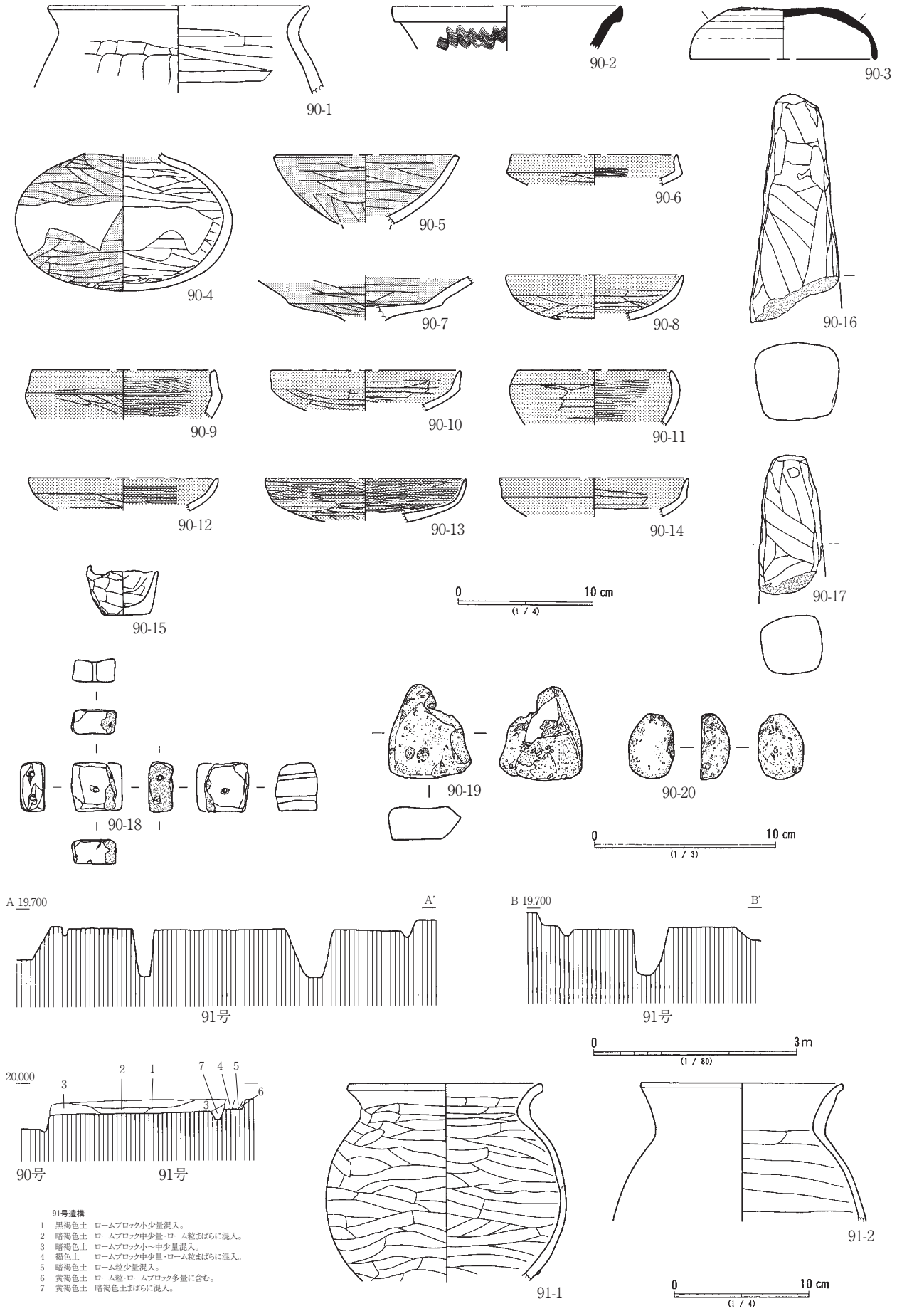
96号遺構

7 暗褐色土 ロームブロック小混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小～大少量混入。
10 暗褐色土 ロームブロック小混入。
11 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
12 暗褐色土 ロームブロック小～中・ローム粒まばらに混入。

90号遺構

1 黒褐色土 ロームブロック小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小・粘土まばらに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中少量・粘土まばらに混入。
5 暗褐色土 粘土・ロームブロック小混入。
6 暗褐色土 ロームブロック小～大混入。
7 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
8 暗褐色土 粘土塊混入。
9 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
10 暗褐色土 ロームブロック中少量・ローム粒まばらに混入。

第90図　89・90・96号遺構実測図・89号遺構出土遺物実測図



第91図　91号遺構実測図・90・91号遺構出土遺物実測図

６・８・14・15は床直ないしは床面付近の検出であり、本遺構に直接伴うものと判断される。４は床面から９㎝浮いた状態での検出であるが、時期的に本跡には伴わない。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

91号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号189号。90号竪穴の東側に位置し、90号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.26m残存短径2.72mを測り、主軸方位はN－34 °－Eを示す。炉は90号竪穴に削平されたと想定され存在しない。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁23㎝、南東壁２㎝、北西壁17㎝を測る。周溝は残存範囲で全周し、深さは９～ 13㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはＰ１が90号床面から40㎝、本跡床面換算では61㎝を測る。Ｐ２は70㎝、Ｐ３は90号床面から65㎝、本跡床面換算では86㎝を測る。Ｐ４は73㎝を測る。

遺物

本遺構からは386点6,554gの土器片と１点84gの礫、１点17.7gの鉄片、１点28gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、314点5,930gの土師器、71点600gの弥生土器、１点24gのミニチュア土器である。鉄片については調査時の袋の中で形状が不明になるほど粉々になり、実測に耐えなかった。これらの出土遺物の内６点を図示した。

２・３・４・６が比較的床面に近い位置から出土しており、本遺構に直接伴う可能性が高い。１・５は床面から20㎝以上高い位置からの出土である。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

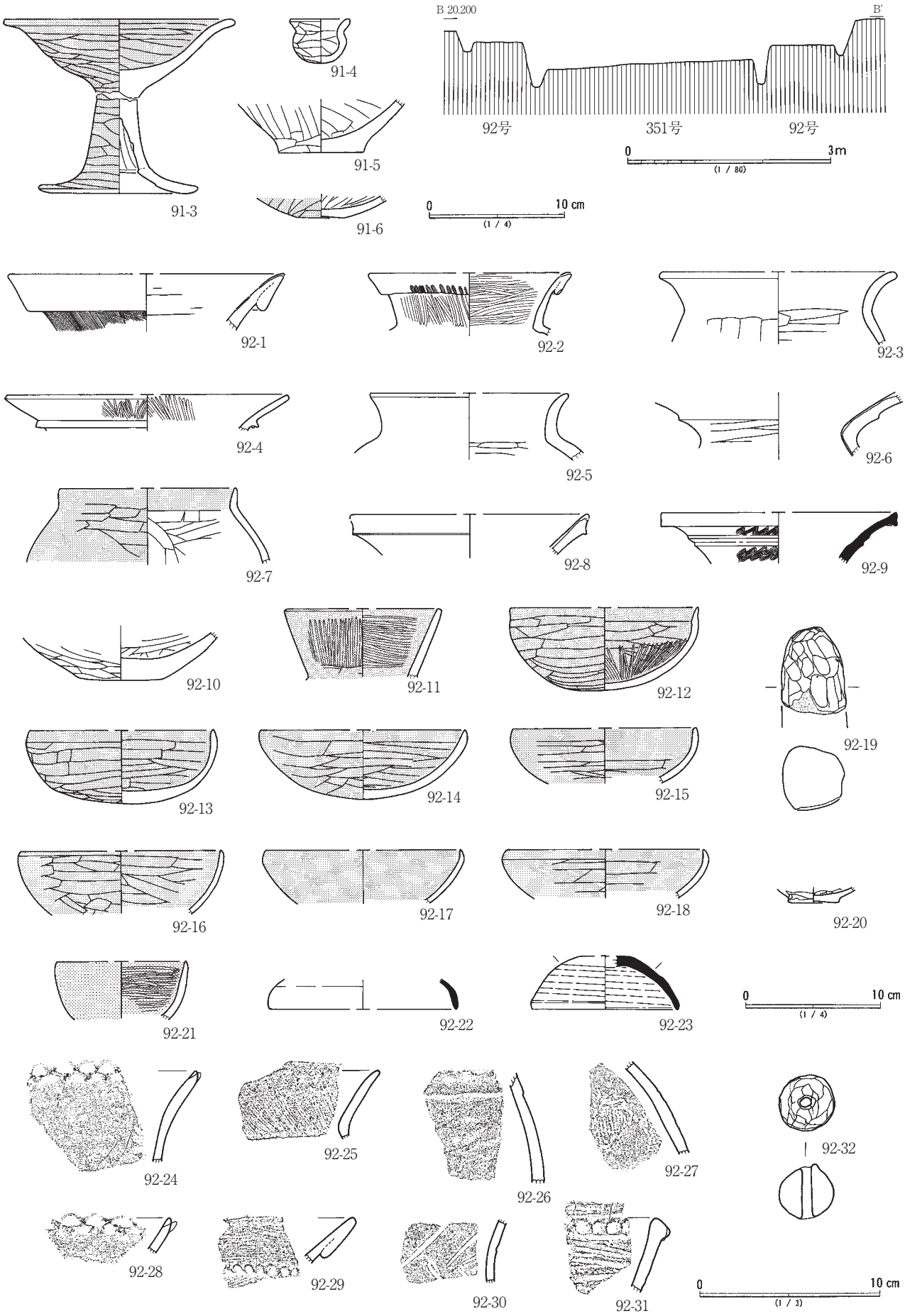
92号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号195号。91号竪穴の東側に位置し、94号竪穴・350号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径5.90m推定短径5.90mを測り、主軸方位はN－45 °－Eを示す。調査図面にカマド残骸とする粘土範囲が存在し、付近に焼土が存在することから、カマドは北東壁やや南側に偏って存在したものと想定される。

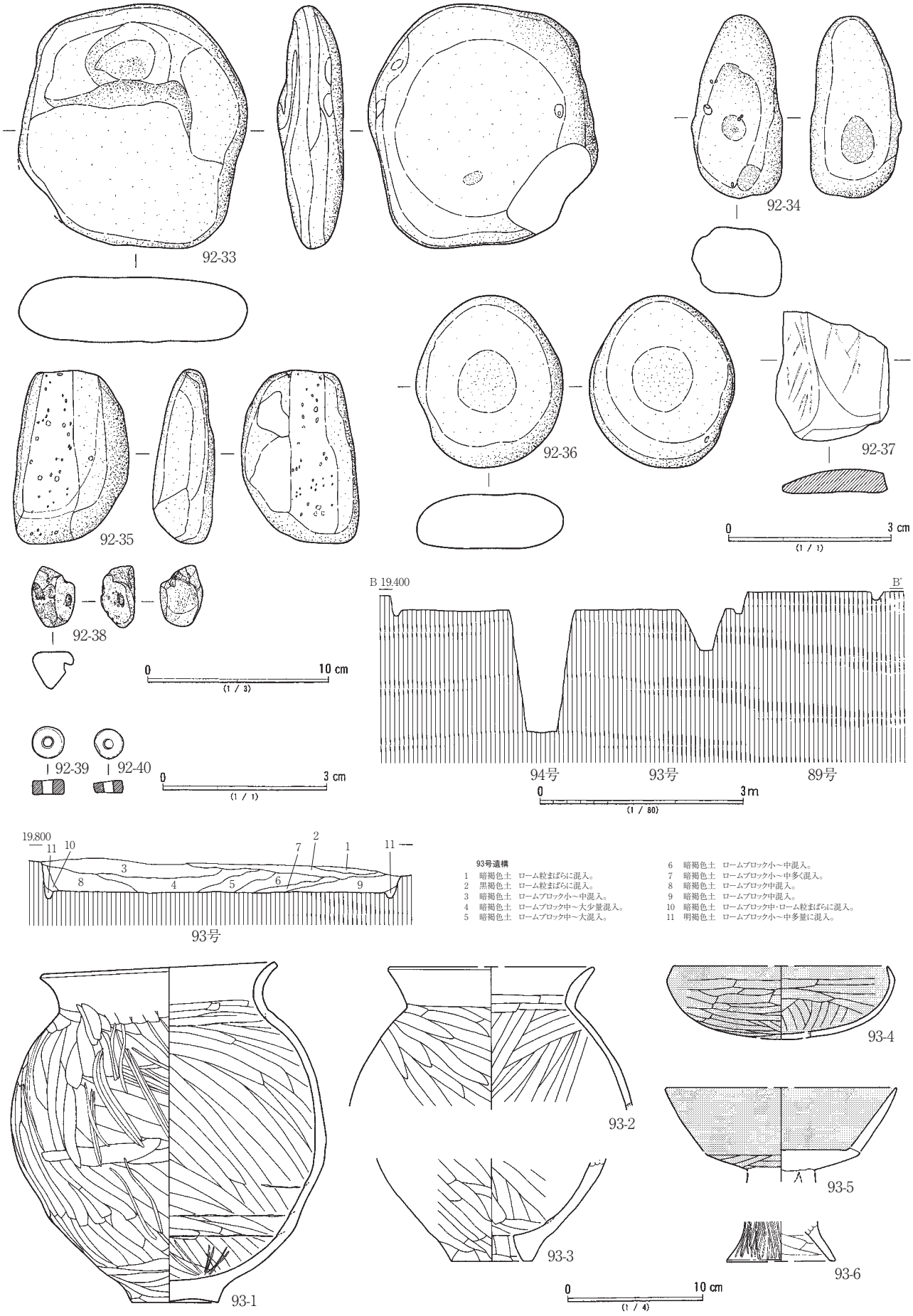
残存する壁高は、それぞれ、北東壁26㎝、北西壁37㎝、南西壁36㎝を測る。周溝は東～西側に向かって残存し、深さは３～ 12㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されほぼ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４（未検出）は主柱穴と想定される。深さはＰ１が70㎝、Ｐ２は49㎝、Ｐ３は59㎝、Ｐ４は想定位置に破線で示し、Ｐ５は35㎝を測る。Ｐ６は位置的に貯蔵穴と想定され、深さは57㎝を測る。

遺物

本遺構からは1,235点16,723.4gの土器片と15点2,769.5gの礫・石器、２点0.31gの臼玉、１点20gの土玉、８点240gの支脚片、２点50gの摩滅した布目瓦片が検出された。土器片等の内訳は、1,095点15,547gの土師器、４点100gの須恵器、133点1,026.4gの弥生土器、21点30gの縄文土器、１点20gの陶器片である。鉄片については調査時の袋の中で形状が不明になるほど粉々になり、実測に耐えなかった。こ



第92図　92・351号遺構実測図・91・92号遺構出土遺物実測図



第93図　89・93・94号遺構実測図・92・93号遺構出土遺物実測図

第94図　93 ～ 98号遺構実測図

れらの出土遺物の内40点を図示した。

39の臼玉が周溝内から出土した以外、何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

93号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号202号。89号竪穴の南側に位置し、89号・95号・96号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.36m短径5.30mを測り、主軸方位はN－43 °－Eを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央に存在し、残存する火床長径0.64m短径0.48m深さ２㎝を測り、火床長軸方位はN－41 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁28㎝、南西壁21㎝、南東壁30㎝、北西壁49㎝を測る。周溝は全周し、深さは７～12㎝を測る。床面はハードローム層中に構築されやや凹凸が目立つが、硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定されるが、Ｐ２・Ｐ５・Ｐ６以外は測定値がない。深さはＰ２が76㎝、Ｐ５は62㎝、Ｐ６は19㎝を測る。

遺物

本遺構からは515点9,181gの土器片と６点269.1gの礫・石器、１点0.11gの臼玉が検出された。土器片等の内訳は、423点8,040gの土師器、90点1,100gの弥生土器、１点12gの早期撚糸文系土器、１点29gの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

１は貯蔵穴内、５が床面から５㎝浮いた状態で検出され、本遺構に直接伴うものと考えられる。２は床面から34㎝浮いた状態で検出された。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

94号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号は無いが、調査日誌に井戸状竪穴坑と記されているため、土坑として取扱う93号竪穴内に存在する遺構である。長径1.06m短径0.88mを測り、主軸方位はN－98 °－Wを示し、深さは182㎝を測る。

本跡と93号竪穴との新旧関係は不明である。

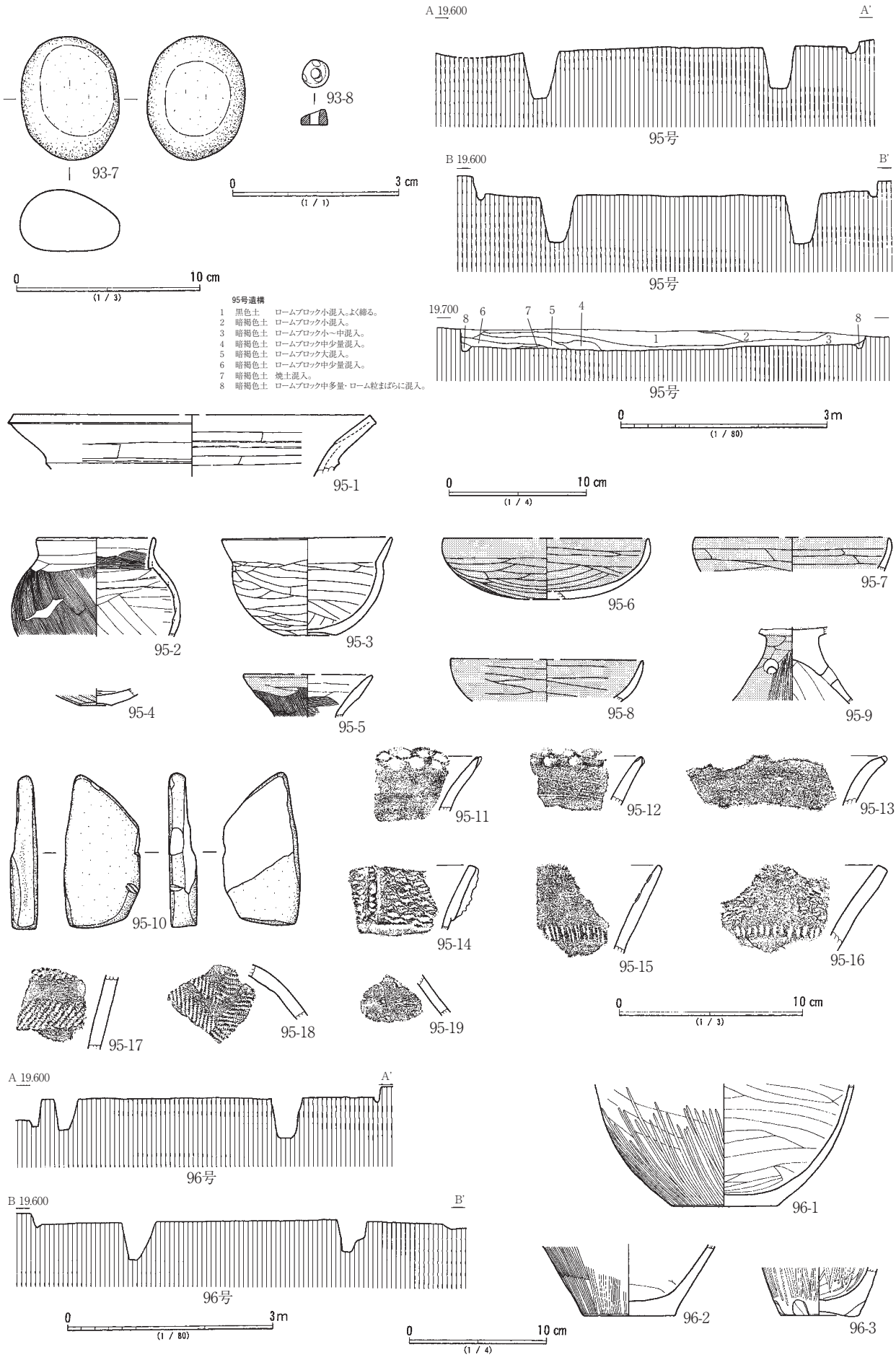
遺物

本遺構からの検出遺物は全く存在しない。

95号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号201号。93号竪穴の東側に隣接し、93号・89号・96竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.94mを測り、主軸方位はN－42 °－Eを示す。炉はＰ１・Ｐ２間に焼土の残骸も存在しないことから、Ｐ１・Ｐ３間の中央やや南に偏って存在し、残存たものと考えられるが、93号竪穴に削平されたものと想定され、未検出である。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁９㎝、南東壁14㎝、北西壁25㎝を測るが、48号竪穴と重複する南西壁は未検出である。検出面での周溝は全周し、深さは３～９㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され軟弱であり、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が64㎝、Ｐ２は93号竪穴床面から37㎝、本跡床面換算で45㎝を測る。Ｐ



第95図　95・96号遺構実測図・93・95・96号遺構出土遺物実測図

３は68㎝、Ｐ４が61㎝、Ｐ５は一段目12㎝、二段目25㎝を測る。

遺物

本遺構からは345点4,038gの土器片と４点139gの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、262点3,110gの土師器、１点12gの須恵器、82点916gの弥生土器、１点71gの砥石である。これらの出土遺物の内19点を図示した。

２は床面から３㎝、３は17㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

96号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号187号。93号竪穴の西側に隣接し、93号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.06m推定短径5.22m前後を測り、主軸方位はN－45°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ３間の中央やや南側に偏って存在し、残存する火床長径0.94m短径0.90m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－44°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁15㎝、南東壁17㎝、北西壁12㎝、南西壁17㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは５～６㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され軟弱であり、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴と想定され、深さはＰ１が46㎝、Ｐ３は57㎝、Ｐ４は55㎝、Ｐ５は90号竪穴床面から43㎝、本跡床面換算で47㎝を測る。この他Ｐ２が29㎝、Ｐ７が60㎝、Ｐ８が36㎝、Ｐ９が50㎝、P10が26㎝を測り、Ｐ６には測定値がない。

遺物

本遺構からは308点3,715gの土器片と１点48gの礫が検出された。土器片等の内訳は、214点2,448gの土師器、94点1,267gの弥生土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

１～４・６～８・16は床直ないしは床直上からの出土で本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

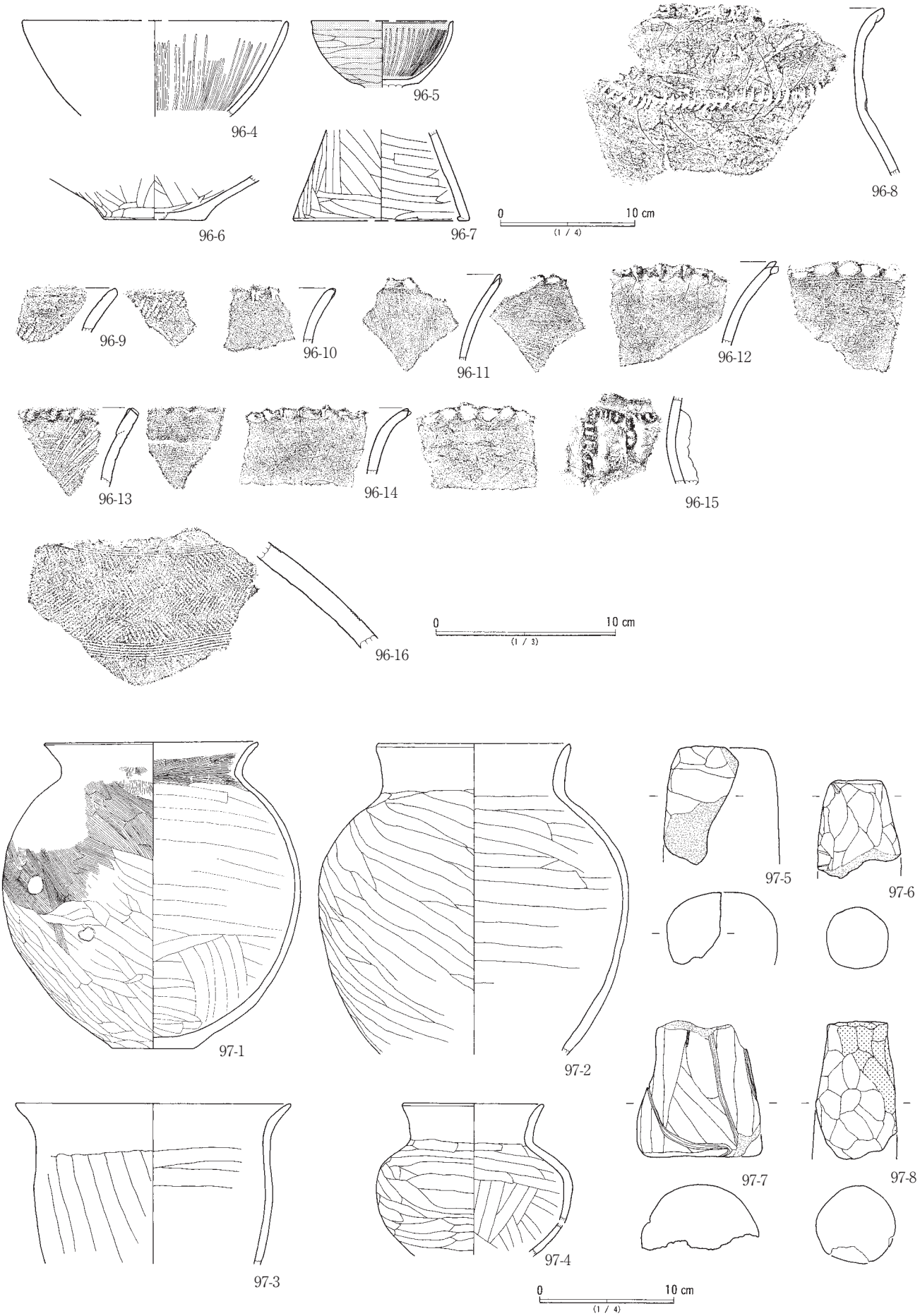
97号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号182A号。96号竪穴の南側に存在し、351号溝に削平され、98号・152号・153号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径6.70m短径6.62mを測り、主軸方位はN－50°－Ｅを示す。カマドは北東壁中央やや東側に偏って構築されており、残存する火床長径0.48m短径0.32m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－49°－Eを示す。

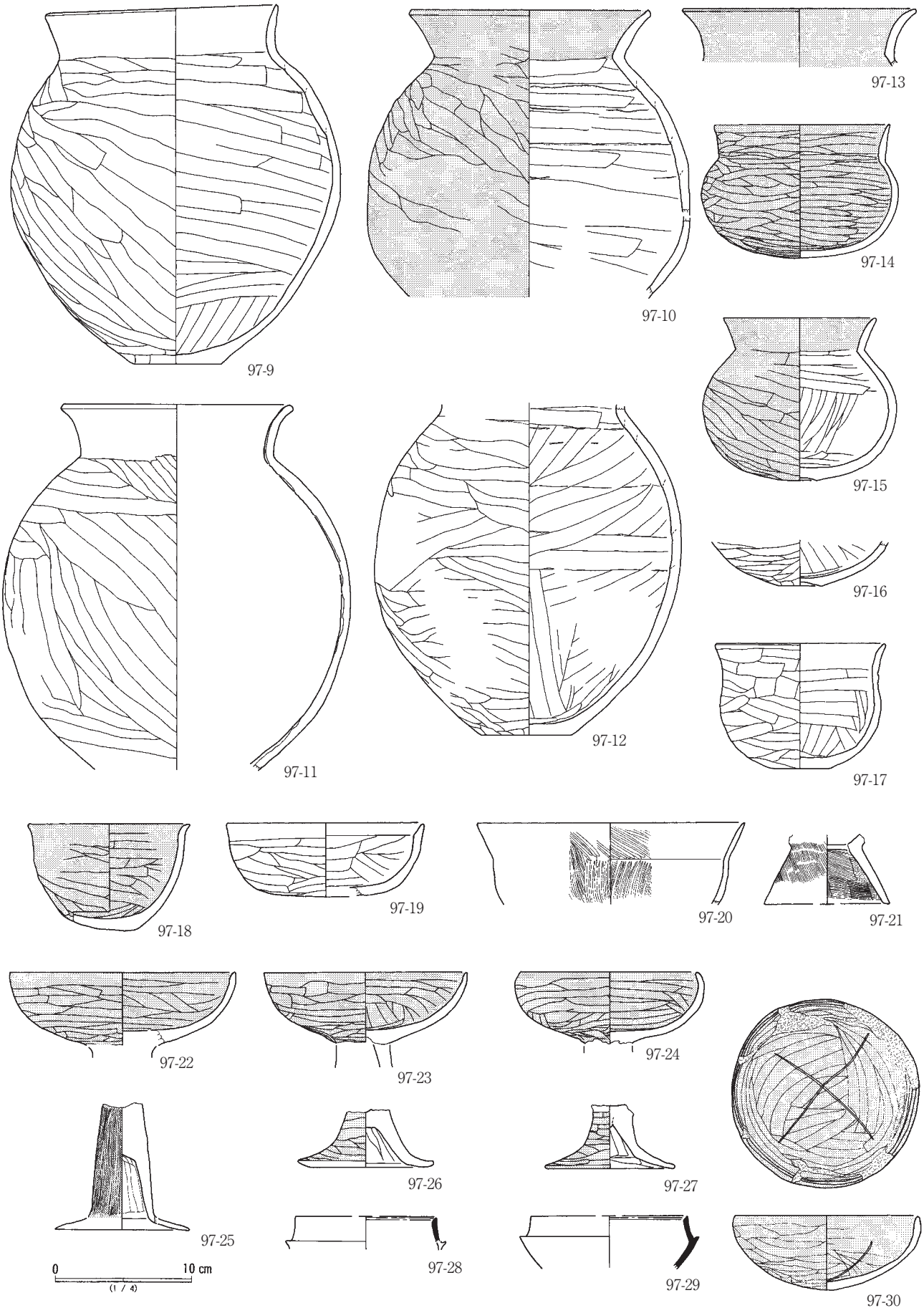
残存する壁高は、それぞれ、北東壁23㎝、南東壁26㎝、北西壁21㎝、南西壁29㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは３～10㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が73㎝、Ｐ２は67㎝、Ｐ３は84㎝、Ｐ４が82㎝、Ｐ５は65㎝を測る。この他Ｐ６が16㎝を測る。

遺物

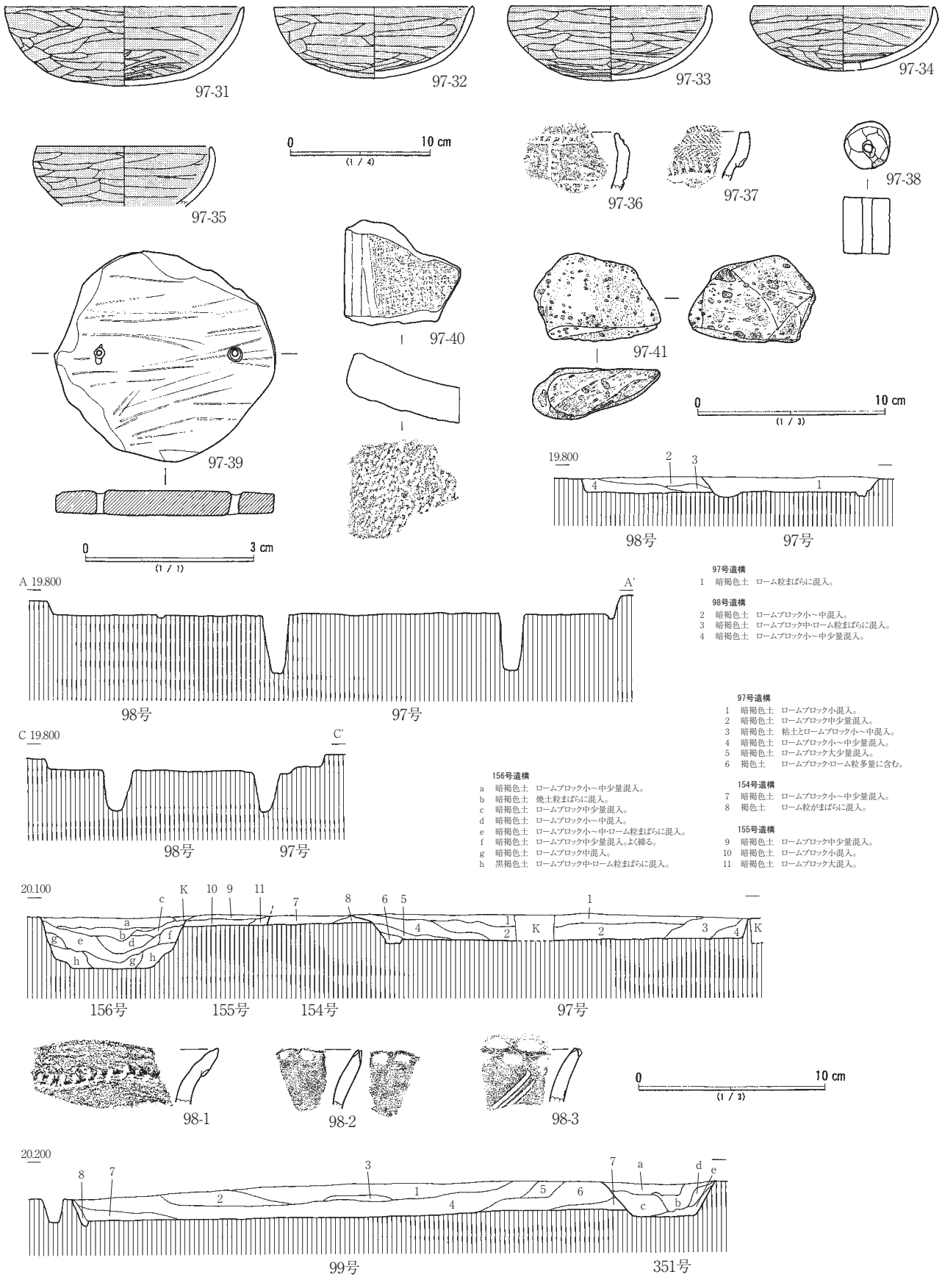
本遺構からは2,285点41,798gの土器片と17点1,165.7gの礫・石器、１点11gの有孔円盤、１点5.3gの鉄鏃粉砕片、12点1,415.5gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、2,030点40,057gの土師器、３点20gの須恵器、244点1,607gの弥生土器、２点40gの手づくね土器、６点74gの縄文土器、１点25.5gの



第96図　96・97号遺構出土遺物実測図



第97図　97号遺構出土遺物実測図



97号遺構
1 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。

98号遺構
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。

97号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
3 暗褐色土 粘土とロームブロック小～中混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック大少量混入。
6 褐色土 ロームブロック・ローム粒多量に含む。

154号遺構
7 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
8 褐色土 ローム粒がまばらに混入。

155号遺構
9 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
10 暗褐色土 ロームブロック小混入。
11 暗褐色土 ロームブロック大混入。

156号遺構
a 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
b 暗褐色土 焼土粒まばらに混入。
c 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
d 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
e 暗褐色土 ロームブロック小～中・ローム粒まばらに混入。
f 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。よく締る。
g 暗褐色土 ロームブロック中混入。
h 黒褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。

99号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小混入。
3 黒褐色土 ロームブロック小・灰混入。
4 黒褐色土 ローム粒まばらに混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小混入。
6 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
7 暗褐色土 ロームブロック小・焼土。
8 褐色土 ローム粒・ロームブロック多量に含む。

351号遺構
a 黒褐色土 ロームブロック小少量混入。
b 黒褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
c 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
d 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
e 褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。

第98図　97～99・154～156・351号遺構実測図・97・98号遺構出土遺物実測図

管状土錘、１点85gの布目瓦、10点1,305gの支脚片である。これらの出土遺物の内41点を図示した。

ドットで示した遺物の内、１・12・15・20・33・37は、床面からかなり離れて検出されており、これ以外は床直上からの出土で、本跡に直接伴うものと判断される。ドットのない遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

98号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号182B号。97号竪穴の西側に存在し、97号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.28m残存短径2.20mを測り、主軸方位はN－16°－Eを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央に存在し、残存する火床長径0.78m短径0.42m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－21°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、西壁18㎝、南壁16㎝、北壁15㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が58㎝、Ｐ２は97号竪穴床面から54㎝、本跡床面換算で56㎝を測る。Ｐ３は62㎝、Ｐ４は97号竪穴床面から60㎝、本跡床面換算62㎝を測る。この他Ｐ５は９㎝、Ｐ６が６㎝を測る。

遺物

本遺構からは８点125gの土器片と１点225gの礫が検出された。土器片等の内訳は、８点125gの弥生土器である。これらの出土遺物の内３点を図示した。

これらの遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

99号遺構（竪穴住居跡）

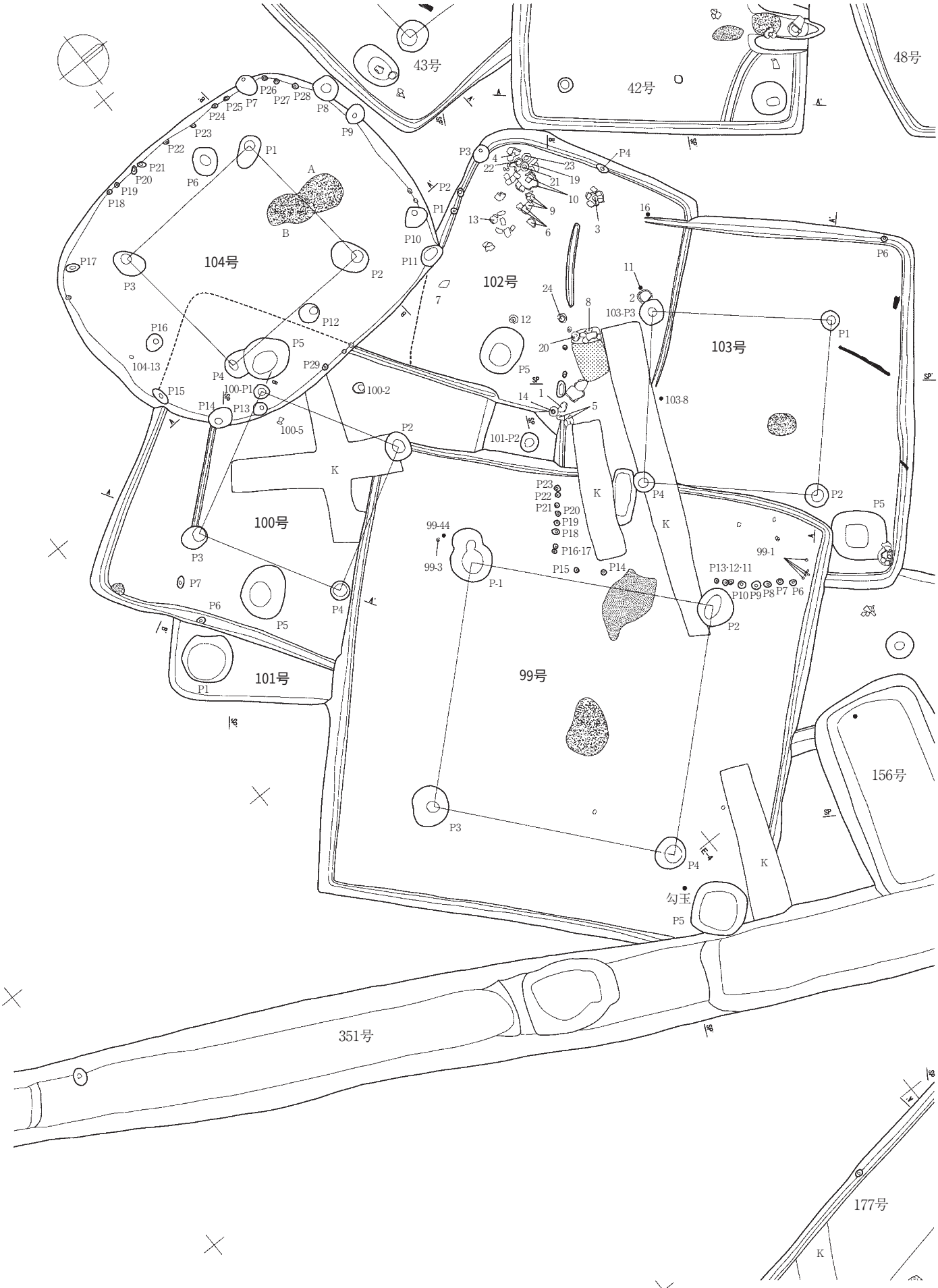
昭和53年度調査時遺構番号180号。97号竪穴の西側に隣接し、351号溝に削平されて存在する炉とカマドを併設する竪穴住居跡である。長径7.20m短径7.20mを測り、主軸方位はN－42°－Wを示す。炉は中央やや東側に偏って存在し、残存する火床長径0.90m短径0.66m深さ９㎝を測り、火床長軸方位はN－57°－Wを示す。カマドは北西壁中央に右側の片袖が残存するが、大半は撹乱によって削平されている。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁34㎝、南東壁48㎝、北西壁20㎝、南西壁４㎝を測る。検出面での周溝は全周し、深さは１～12㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは23ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が64㎝、Ｐ２は59㎝、Ｐ３が87㎝、Ｐ４が54㎝、Ｐ５が49㎝を測る。この他103号竪穴周溝内ピットと想定される小ピットが、18ヶ所に検出され、深さは２～17㎝を測る。

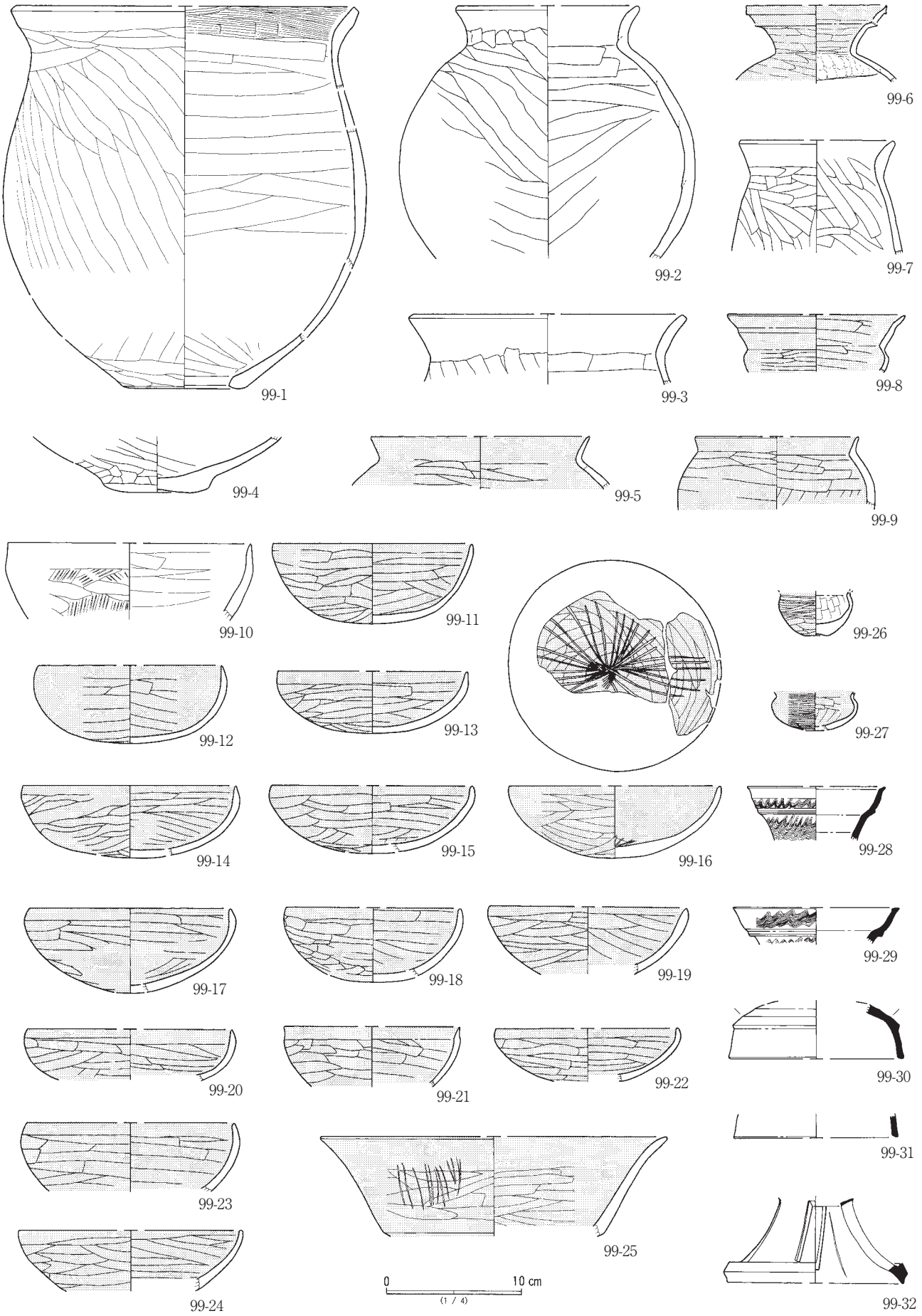
遺物

本遺構からは3,511点53,159gの土器片と15点897.2gの礫・石器、２点5.9gの有孔円盤、３点18.4gの鉄鏃、４点164gの土錘、３点535gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、3,270点50,002gの土師器、15点380gの須恵器、225点2,757gの弥生土器、１点20gの縄文土器である。これらの出土遺物の内45点を図示した。

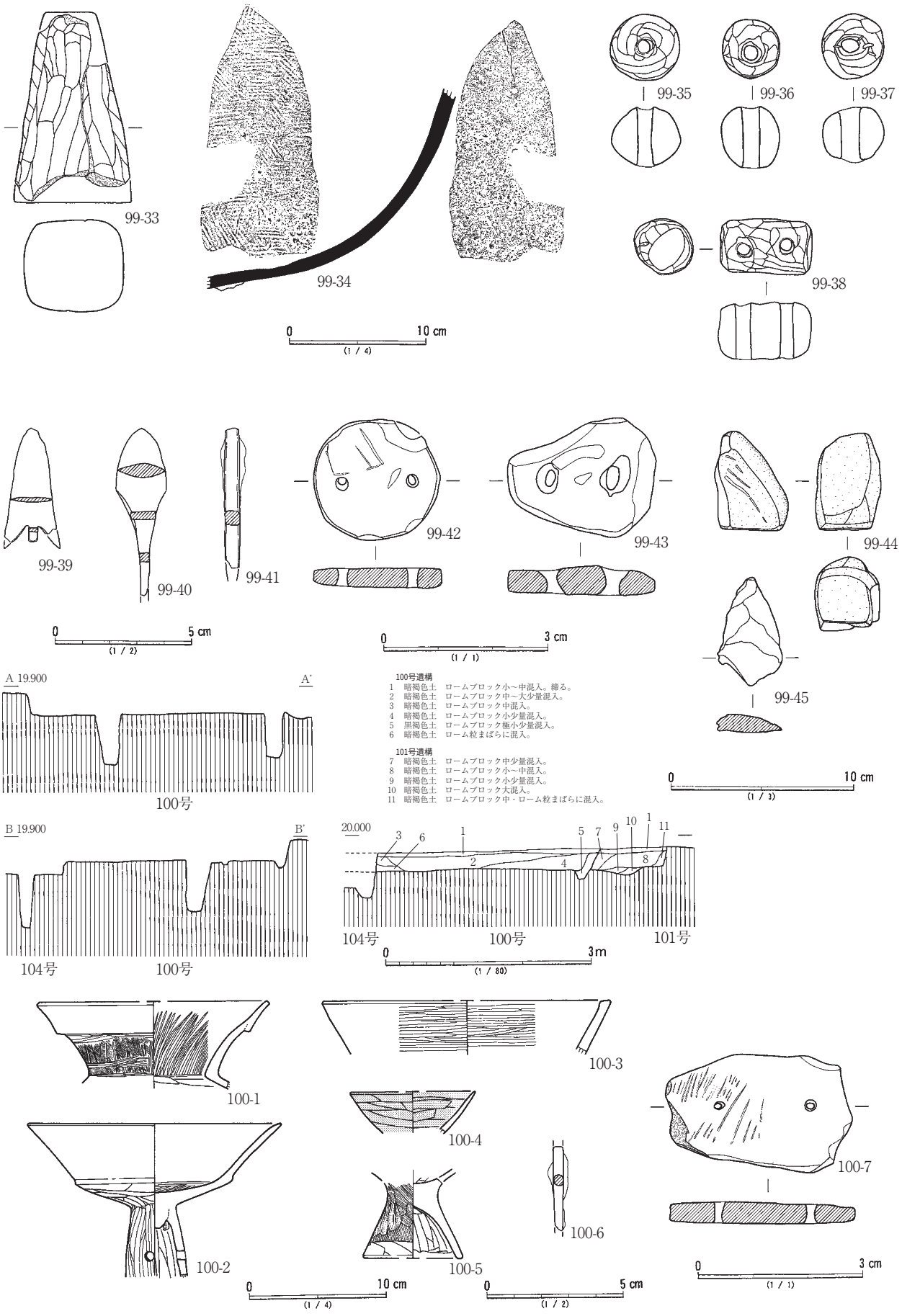
１・３・44は、床密着状況で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物



第99図　99 ～ 104号遺構実測図



第100図　99号遺構出土遺物実測図



第101図　100・101号遺構実測図・99・100号遺構出土遺物実測図

については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。ただし調査日誌に、カマド前面の床面に、坏多数密着と記されている。また調査図面・日誌では、Ｐ５付近の床面から勾玉が出土したとされるが、遺跡全ての遺物を観察しても、本跡出土とされる勾玉は確認できなかった。

100号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号179B号。99号竪穴の西側に隣接し、99号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.94m推定短径3.70mを測り、主軸方位はN－28°－Wを示す。炉は撹乱ないしは99号竪穴に削平されたと想定され、未検出である。

残存する壁高は、それぞれ、西壁27㎝、南壁32㎝、北壁８㎝を測るが、東壁の測定値はない。検出面での周溝はほぼ全周し、深さは５～16㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設と想定され、深さはＰ１が104号竪穴床面から76㎝、本跡床面換算では90㎝を測る。Ｐ２は85㎝、Ｐ３が74㎝、Ｐ４が64㎝、Ｐ５が９㎝を測る。この他Ｐ６が23㎝、Ｐ７が67㎝を測る。この他、本跡Ｐ３～103号竪穴周溝内P14に向かって間仕切り溝状の遺構が存在するが、その傾きから本跡に伴うのではなく、101号竪穴掘り方に伴うものと想定される。

遺物

本遺構からは138点2,639gの土器片と２点200gの礫、１点4.7gの有孔円盤、１点1.3gの鉄鏃片が検出された。土器片等の内訳は、84点1,894gの土師器、53点690gの弥生土器、１点55gの縄文土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

２・５は、床密着状況で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

101号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号179A号。99号竪穴の西側に隣接し、99号・100号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径4.30m残存短径2.68mを測り、西側周溝の傾きから主軸方位はN－41°－Wを示す。炉は撹乱ないしは99号竪穴に削平されたと想定され、未検出である。

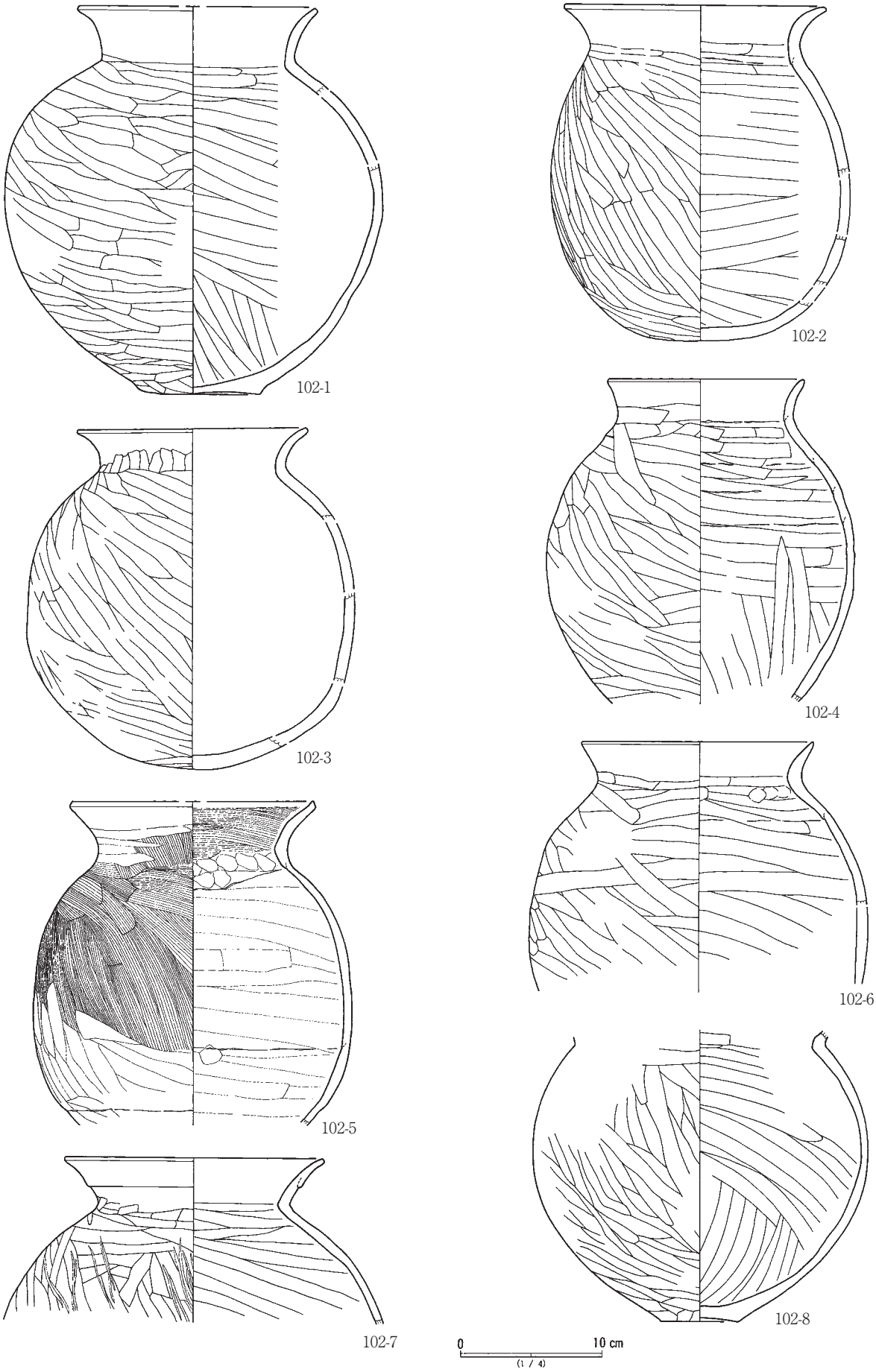
残存する壁高は、それぞれ、南東30㎝、南西30㎝を測る。検出面での周溝は一部に残存し、深さは10～12㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは２ヶ所に検出された。Ｐ１は19㎝、Ｐ２は35㎝を測る。

遺物

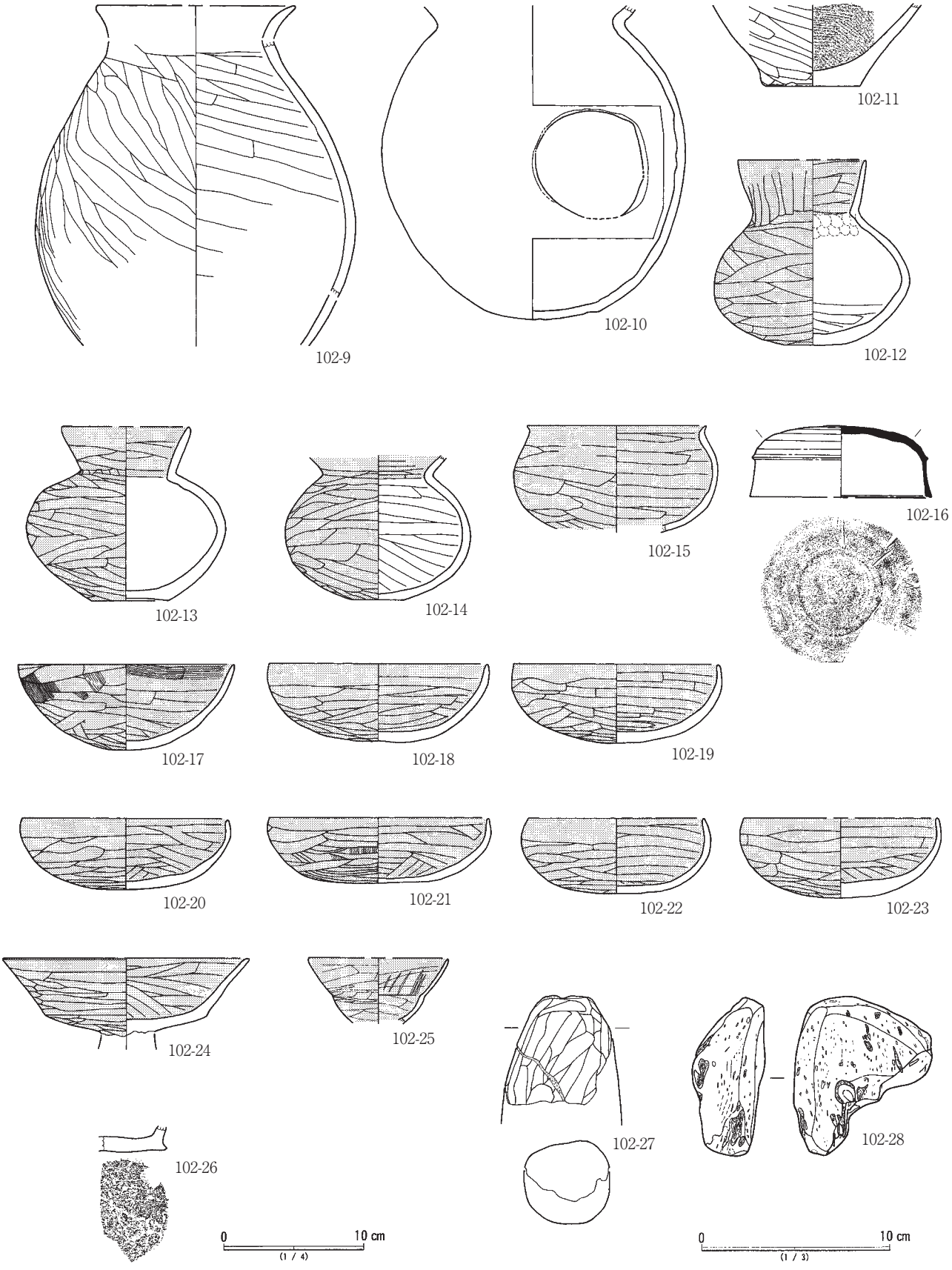
本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

102号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号197号。99号竪穴の西側に隣接し、101号・103号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.16m短径3.94mを測り、主軸方位はN－33°－Wを示す。東側の壁際からやや離れた所に粘土ブロックが存在しており、炉が存在しないことや、出土遺物から初現段階のカマドであろうと想定される。ただし、カマドとしての調査は実施されていないが、粘土の厚さは21㎝を測る。



第102図　102号遺構出土遺物実測図１



第103図　102号遺構出土遺物実測図２

残存する壁高は、北壁27㎝を測る以外は測定値が存在しない。周溝は西から北経由で東側まで残存し、深さは１～８㎝を測る。床面状況は調査日誌に無記載のため不明である。ピットは５ヶ所に検出された。壁際４ヶ所の深さは、Ｐ１が11㎝、Ｐ２が６㎝、Ｐ３が29㎝、Ｐ４が10㎝を測る。東側に偏った床面のＰ５は、深さは66㎝を測る。この他103号竪穴周溝および周溝内ピットと想定される小ピットが、５ヶ所に検出され、深さは５～13㎝を測る。

遺物

本遺構からは568点28,195gの土器片と３点42gの礫、１点32gの磨石、４点658gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、537点27,623gの土師器、１点170gの須恵器、27点285gの弥生土器、１点23gの手づくね土器、２点94gの縄文土器である。これらの出土遺物の内28点を図示した。

１～７・９～14・16・19～24は、床密着状況ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。８は床面から23㎝浮いた状況で検出されている。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

なお、本遺構出土遺物には長胴形丸底甕や長胴形ハケ甕、TK－216～ON46型式の須恵器蓋、平底坩など時期を示す特徴的なものが多い。

103号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号198号。102号竪穴の北側に隣接し、99号・102号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.64m短径5.42mを測り、主軸方位はN－42°－Eを示す。炉は中央からややＰ２側に偏って検出され、残存する火床長径0.44m短径0.34m深さ１㎝を測り、火床長軸方位はN－39°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁30㎝、南東壁25㎝、北西壁23㎝を測る。周溝および周溝内ピットは、99号・102号竪穴内でも検出され、深さは５～14㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、102号床面と同一レベルであり、ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が61㎝、Ｐ２が61㎝、Ｐ３が63㎝、Ｐ４が50㎝、Ｐ５が60㎝を測る。この他Ｐ６が14㎝を測る。

遺物

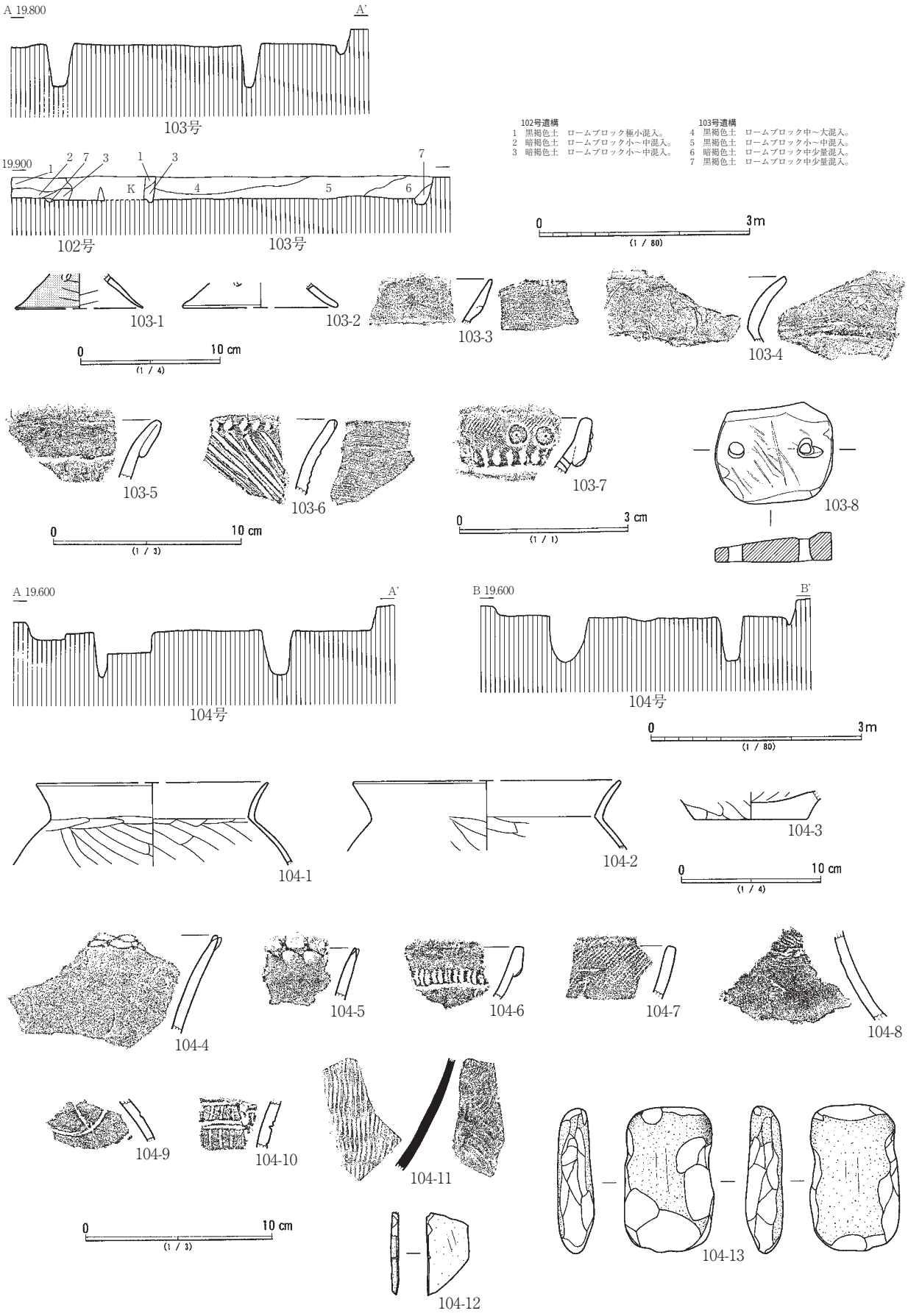
本遺構からは135点1,307gの土器片と４点57gの礫、１点3.3gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、120点1,136gの土師器、15点171gの弥生土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

８の有孔円盤は、床密着状況で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

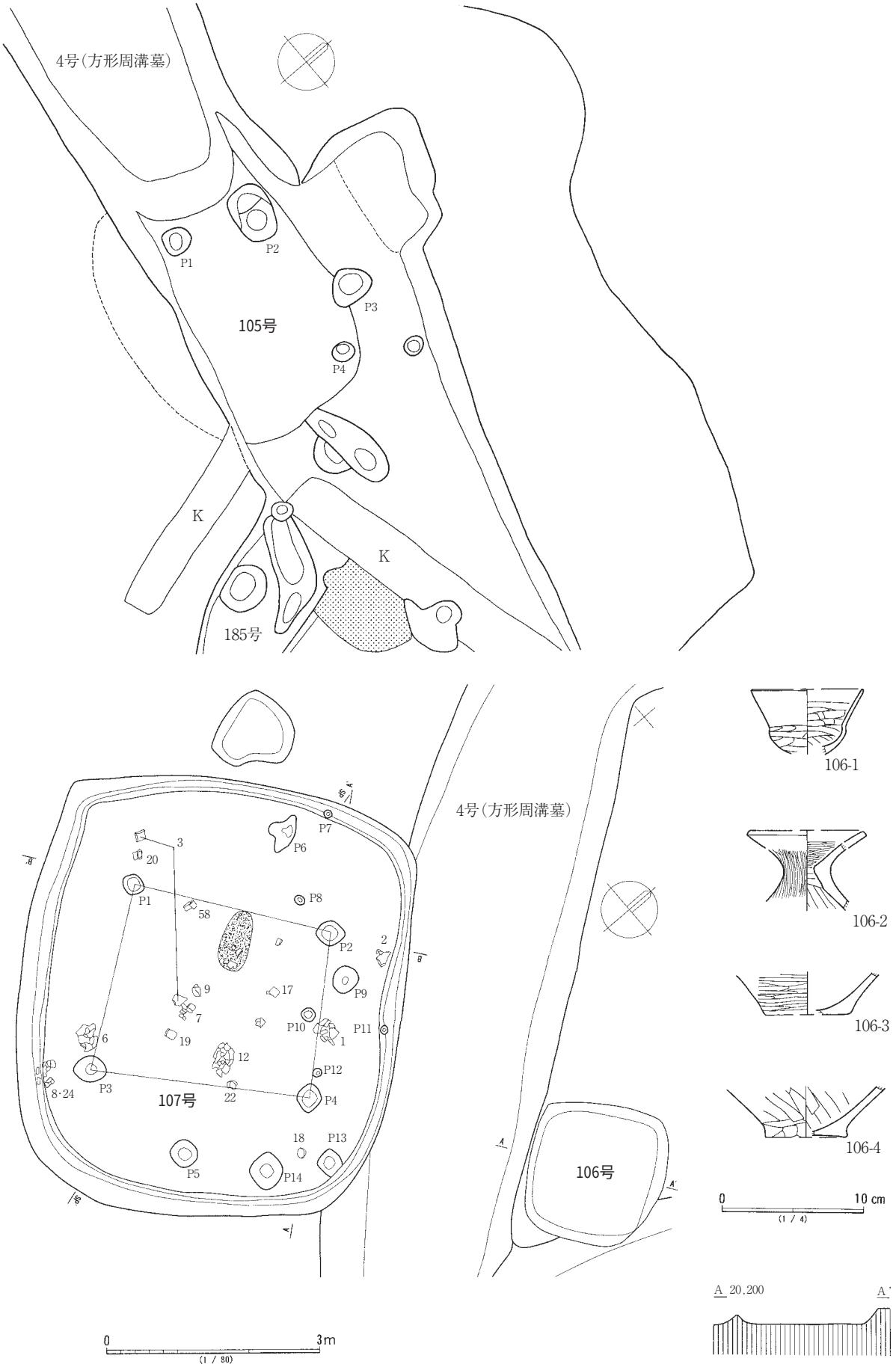
104号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号196号。100号竪穴の北側に隣接し、100号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡であるが、調査時に新旧逆調査されており、本来104号竪穴との重複ヶ所に貼床をもって構築されていた100号竪穴の床面及び壁は存在しない。長径5.60m短径4.50mを測り、主軸方位はN－３°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央に２基検出され、北側Aの残存する火床長径0.80m短径0.56m深さ７㎝を測り、火床長軸方位はN－９°－Eを示す。南側Bの残存する火床長径0.76m短径0.46m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－22°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁16㎝、西壁35㎝、南壁31㎝、北壁37㎝を測る。周溝は存在せず、



第104図　102 ～ 104号遺構実測図・103・104号遺構出土遺物実測図



第105図　105 ～ 107号遺構実測図・106号遺構出土遺物実測図

床面はハードローム層中に構築され、中央部は平坦かつ硬化しているが、周囲は凹凸が目立つ。ピットは29ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が65㎝、Ｐ２は65㎝、Ｐ３が66㎝、Ｐ４が64㎝、Ｐ５が53㎝を測る。この他Ｐ６が24㎝、Ｐ７が29㎝、Ｐ８が15㎝、Ｐ９が28㎝、P10が30㎝、P11が19㎝、P12が37㎝、P13が28㎝、P14が20㎝、P15が22㎝、P16が21㎝、P17が12㎝、P20が14㎝、P21が17㎝、P26が18㎝を測る。P18 ～ P29は壁際に沿って検出され、上記以外の深さは３～９㎝を測る。

遺物

本遺構からは301点3,243gの土器片と６点180gの礫、１点112gの石斧未製品、１点4.9gの砥石が検出された。土器片等の内訳は、189点2,012gの土師器、１点17gの須恵器、106点1,116gの弥生土器、５点98gの縄文土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

13の石斧は、床面から17㎝浮いた状況で検出されている以外は、何れも覆土一括で取上げられており出土地点を明示するものはない。なお、本跡より土師器の出土量が多いのは、前述の新旧逆調査のためである。１・２の土師器甕は、100号竪穴に伴う可能性が高い。

105号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号なし。４号方形周溝墓東側溝中央下層に遺構プランが確認された竪穴住居跡であるが、大部分は４号方形周溝墓東側溝に削平されており詳細不明である。長径3.20m短径2.00mを測り、長軸方位はN－35 °－Wを示す。炉は未検出で残存する壁高も不明である。

ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が49㎝、Ｐ２は40㎝、Ｐ３が61㎝、Ｐ４が54㎝を測る。

遺物

遺構覆土の大半は４号方形周溝墓東側溝と重複しており、本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

106号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑12号。４号方形周溝墓方台部内に存在し、352号溝に東側を削平されて存在する方形の土坑である。長径2.00m短径1.96mを測り、主軸方位はN－40 °－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁35㎝、南西壁20㎝、南東壁20㎝、北西壁39㎝を測る。底面はハードローム層中に存在し、凹凸が目立つ。

遺物

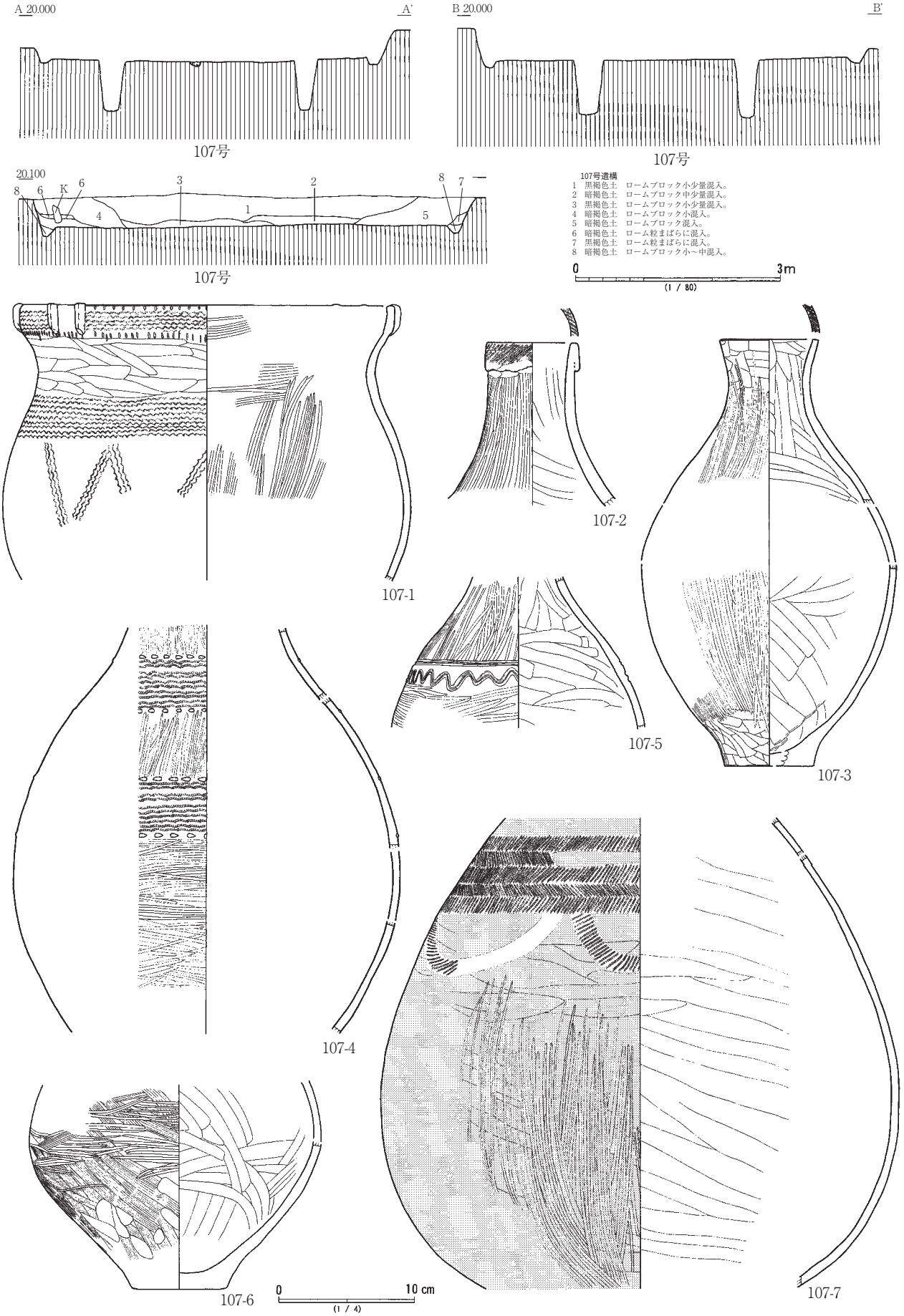
本遺構からは96点904gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、60点597gの土師器、35点287gの弥生土器、１点20gの縄文土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。

何れも覆土一括で取上げられており出土地点を明示するものはないが、記録写真より、大半が底面よりもかなり浮いた状態で検出されている。

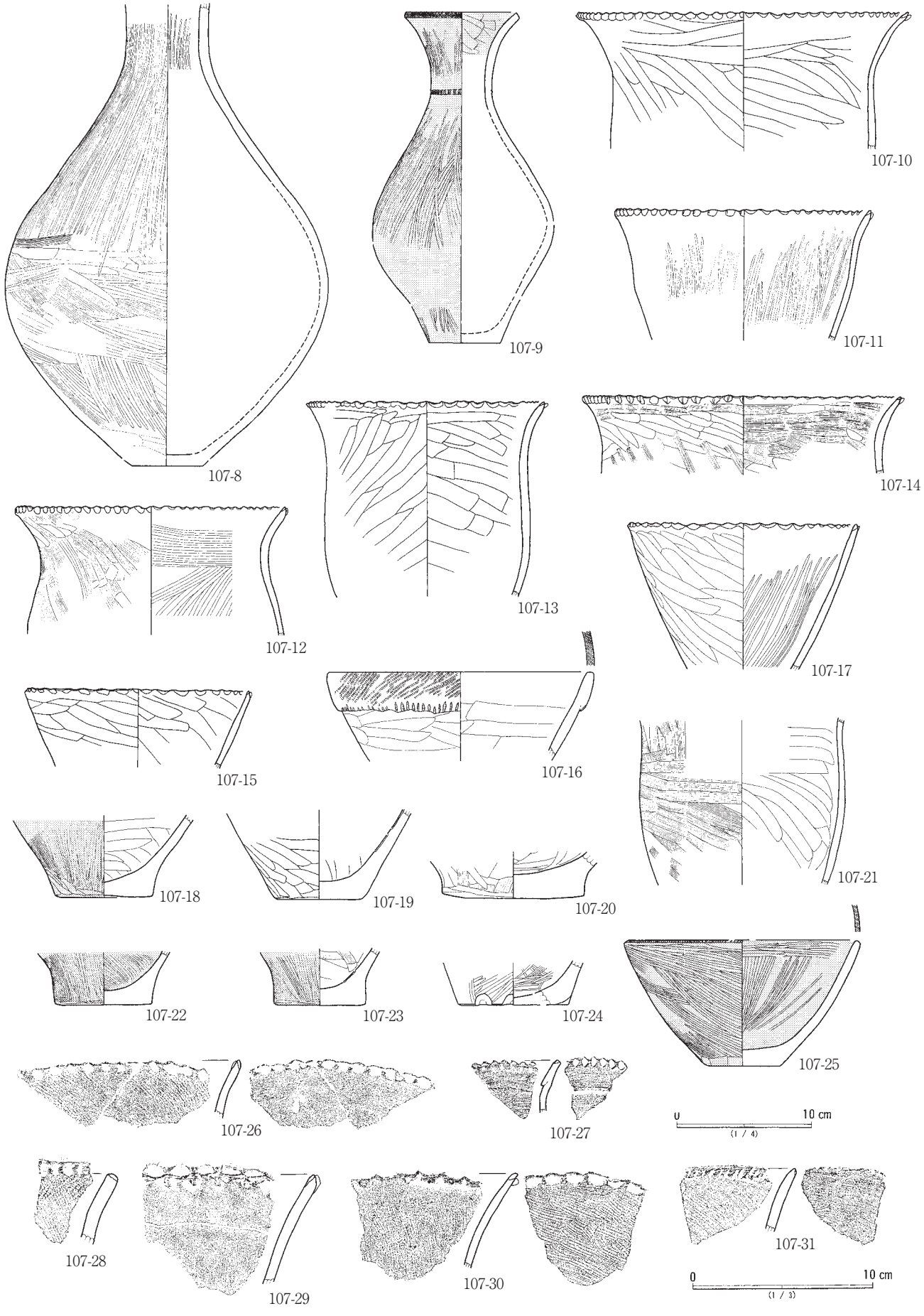
107号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号247号。106号土坑の西側に存在する竪穴住居跡である。長径6.24m短径5.46mを測り、主軸方位はN－40 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央南側に検出され、残存する火床長径0.86m短径0.40m深さ９㎝を測り、火床長軸方位はN－35 °－Wを示す。

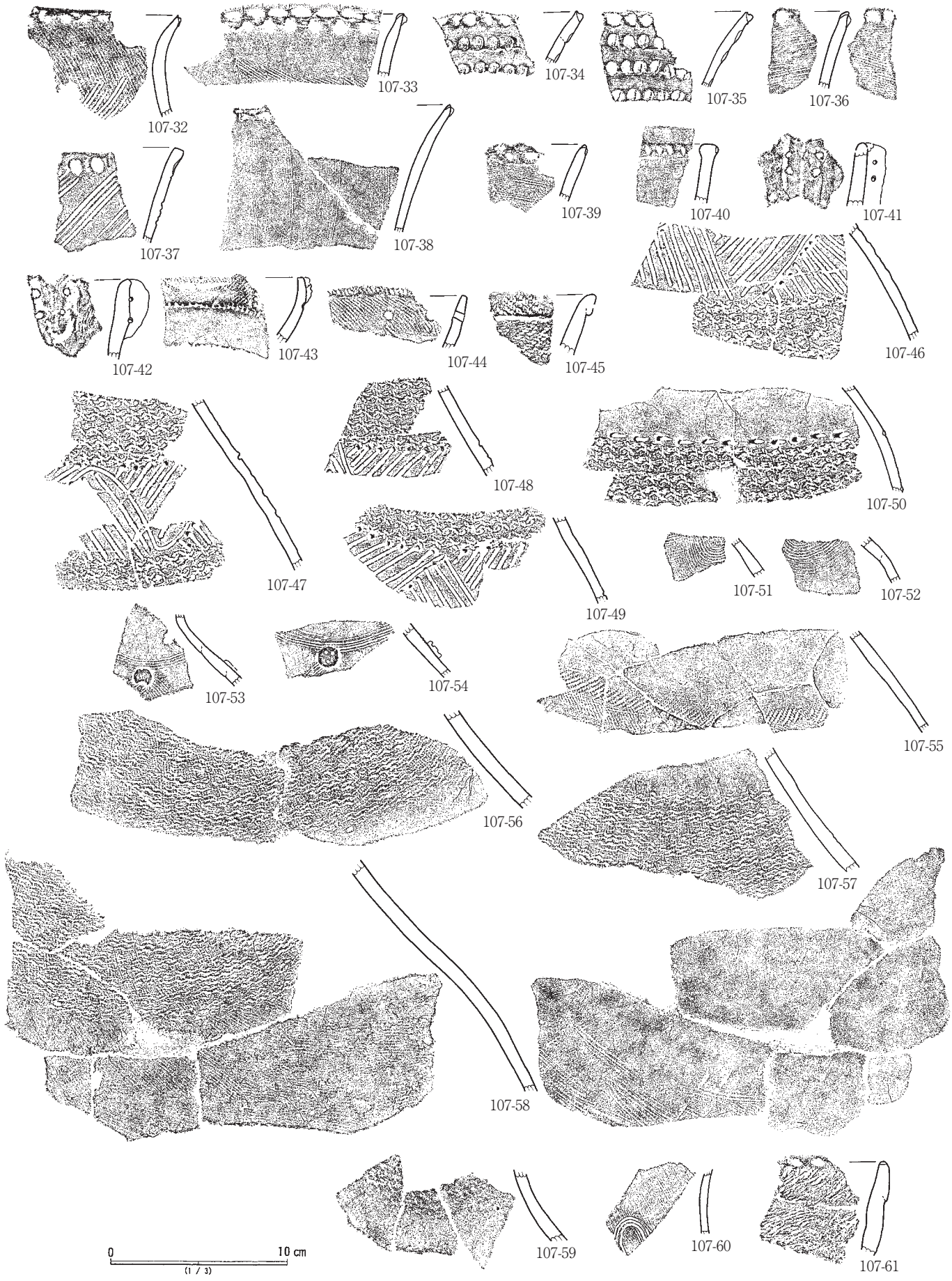
残存する壁高は、それぞれ、北東壁11㎝、南東壁57㎝、北西壁31㎝、南西壁42㎝を測る。周溝は全周し、深さは７～ 12㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み絡められており、ピッ



第106図　107号遺構実測図・出土遺物実測図１



第107図　107号遺構出土遺物実測図２



第108図　107号遺構出土遺物実測図３

トは14ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が80㎝、Ｐ２は90㎝、Ｐ３が93㎝、Ｐ４が81㎝、Ｐ５が29㎝を測る。この他Ｐ６が20㎝、Ｐ８が９㎝、Ｐ９が30㎝、P10が14㎝、P11が７㎝、P12が12㎝、P13が36㎝、P14が50㎝を測る。Ｐ７には測定値が存在しなかった。

遺物

本遺構からは1,348点33,922gの土器片と５点300.9gの礫が検出された。土器片等の内訳は、152点2,098gの土師器、1,160点30,986gの弥生土器、36点838gの縄文土器である。これらの出土遺物の内61点を図示した。

１・２・17～19・58は、床直から16㎝浮いた状況で検出された遺物である。３・６～９・12・20・22・24は19㎝以上浮いた状態で検出される以外は、何れも覆土一括で取上げられており出土地点を明示するものはない。

108号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号125号。４号方形周溝墓を削平し、352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径7.45m短径7.45mを測り、主軸方位はN－52°－Wを示す。カマドは北西壁中央に構築されるが、火床は352号溝に削平されている。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁37㎝、南東壁43㎝、北西壁39㎝、南西壁48㎝を測る。削平された以外の周溝は全周し、深さは６～12㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み絡められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が80㎝、Ｐ２が79㎝、Ｐ３が71㎝、Ｐ４が83㎝、Ｐ５が25㎝を測る。

遺物

本遺構からは937点9,780gの土器片と18点881.2gの礫、３点982.7gの石器、１点10gの鉄滓、２点90gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、614点6,580gの土師器、６点120gの須恵器、302点2,835gの弥生土器、15点245gの縄文土器である。これらの出土遺物の内19点を図示した。

２・４～６・９・17は、床直ないしはそれに近い状態で検出されている。３・７は床から14㎝以上浮いた状況で検出された遺物である。これ以外は、何れも覆土一括で取上げられており出土地点を明示するものはない。

109号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号なし。108号竪穴内に位置し、352号溝内に完全に収まって存在する楕円形の土坑である。長径2.15m短径1.72mを測り、主軸方位はN－15°－Eを示す。

壁は残存するが、深さの測定値がない。

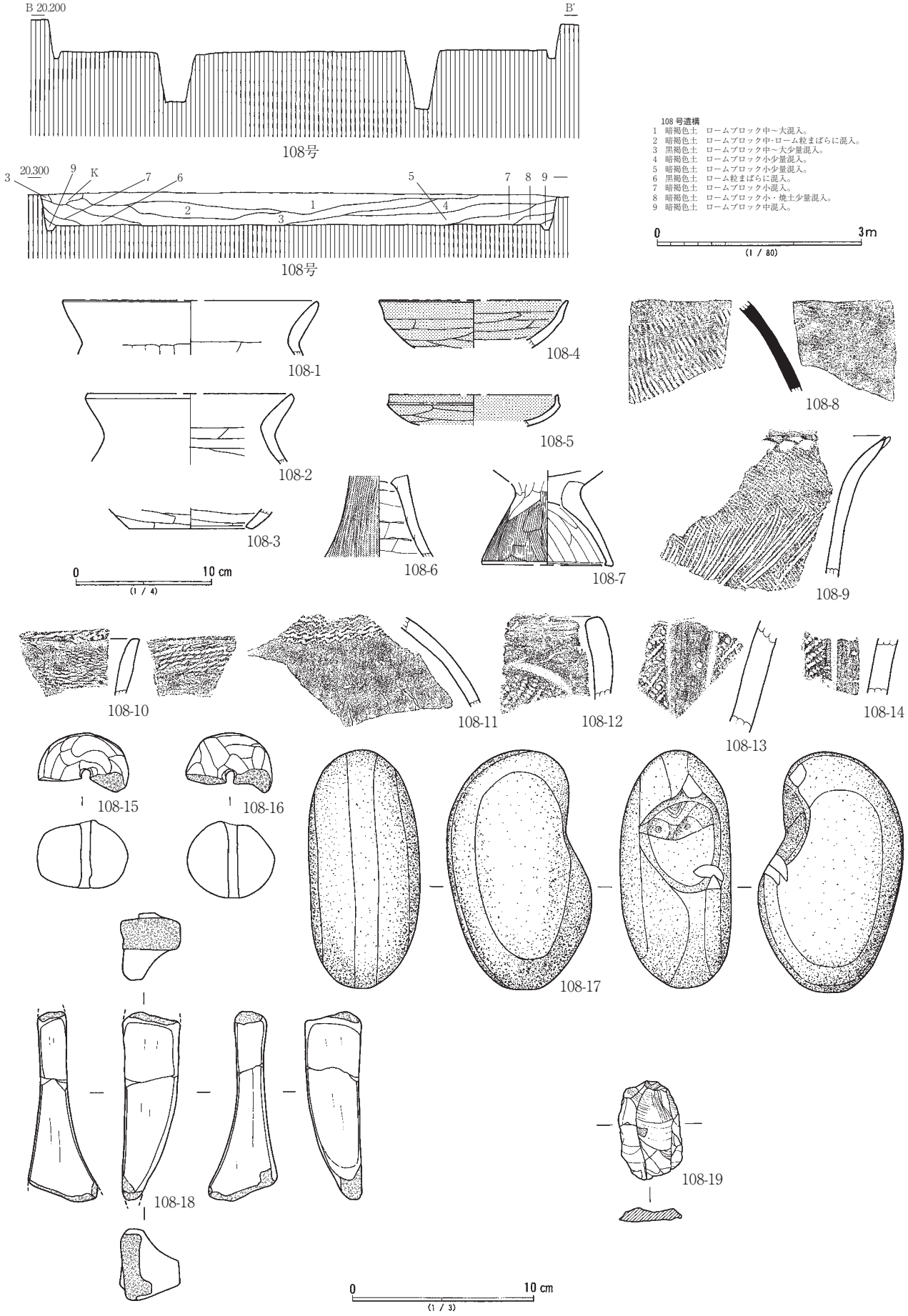
遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

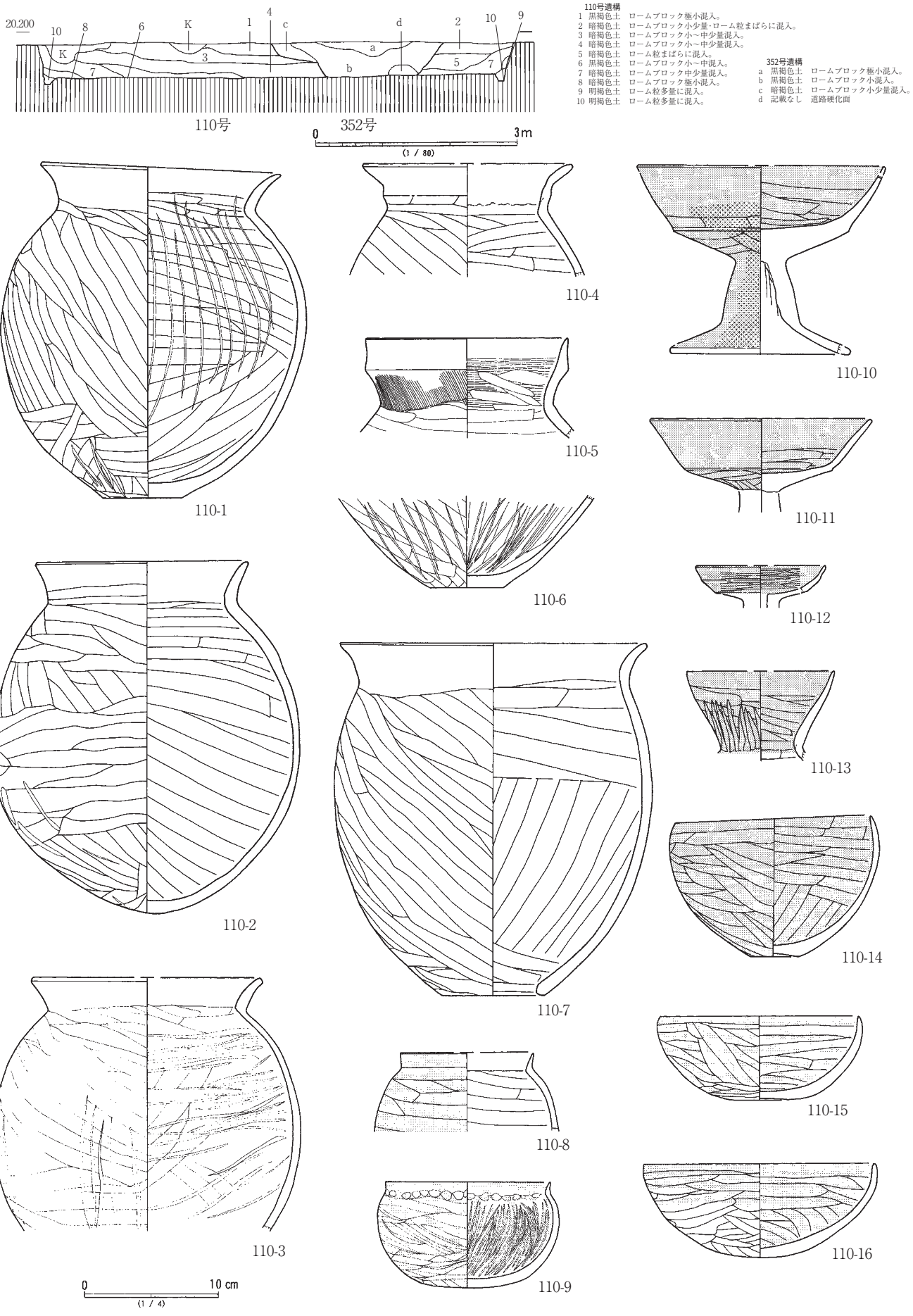
110号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号130号。108号竪穴の南側に隣接し、352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.95m短径6.72mを測り、主軸方位はN－57°－Eを示す。カマドは北東中央やや南側に偏って構築されており、残存する火床長径0.72m短径0.46m深さ14㎝を測り、火床長軸方位はN－60°－Eを示す。

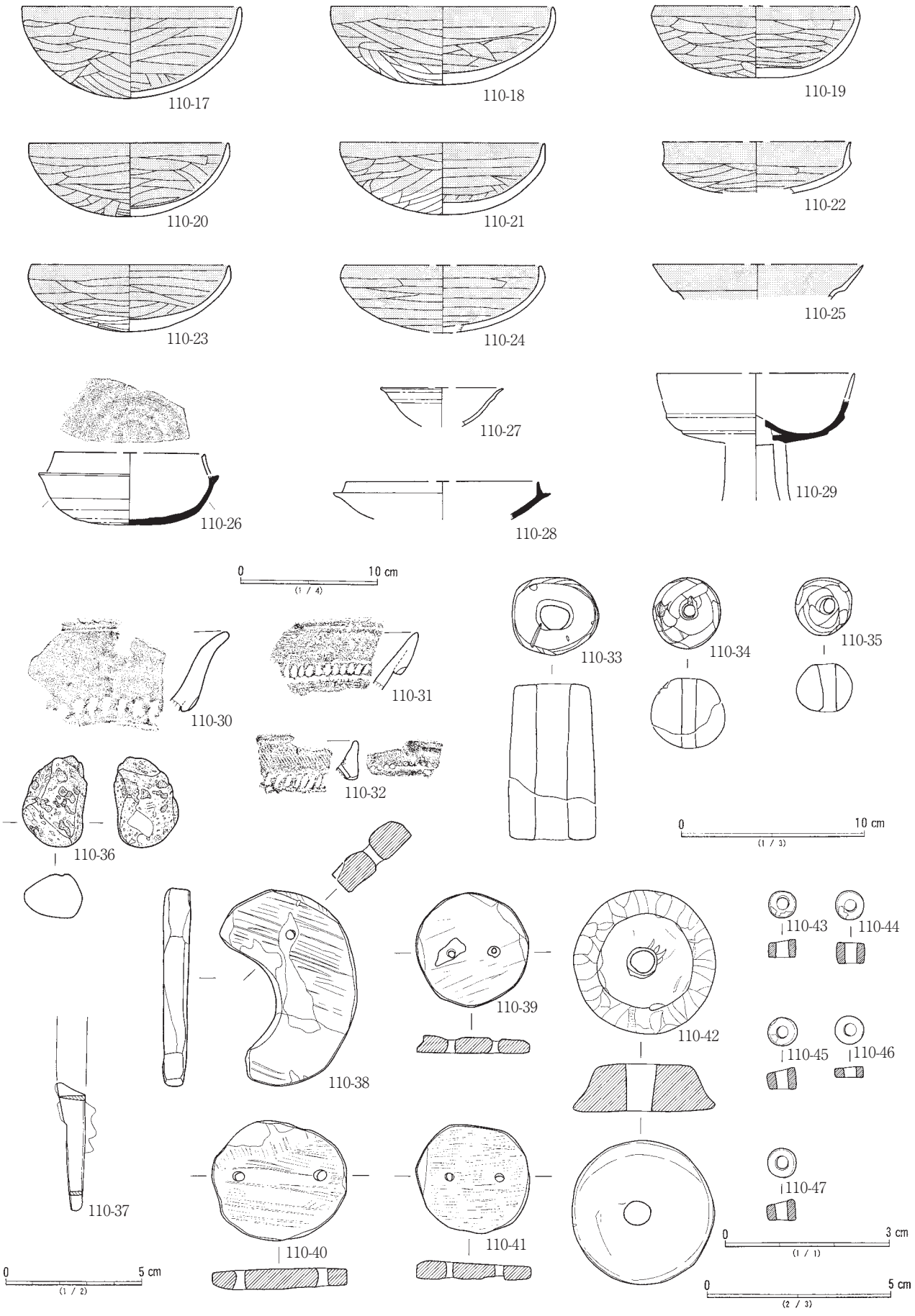
第109図　108 ～ 124号遺構実測図



第110図　108号遺構実測図・出土遺物実測図



第111図　110・352号遺構実測図・110号遺構出土遺物実測図１



第112図　110号遺構出土遺物実測図２

残存する壁高は、それぞれ、北東壁46㎝、南東壁48㎝、北西壁51㎝、南西壁26㎝を測る。土層断面による352号溝底面と本跡床面レベルは同等で、一部に352号溝底が道路として使われていた硬化面が、本跡床面より10㎝高い位置で検出されている。周溝は全周し、深さは9～15㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは5ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が73㎝、Ｐ３が79㎝、Ｐ４が90㎝、Ｐ５が70㎝を測るが、Ｐ２には測定値が存在しなかった。

遺物

本遺構からは1,215点24,525gの土器片と12点480gの礫、１点8.6gの磨石、１点29.20gの紡錘車、３点8.5gの有孔円盤、１点7.0gの扁平勾玉、５点0.8gの臼玉、２点38.5gの刀子片、２点65.7gの土玉、１点132.4gの管状土錘が検出された。土器片等の内訳は、813点20,666gの土師器、４点334gの須恵器、394点3,458gの弥生土器、１点20gの手づくね土器、３点55gの縄文土器である。これらの出土遺物の内47点を図示した。

１～３・５～７・９～11・14～18・20～21・23・27・30・40・41～47は、床密着状況で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。４・24・34・42は何れも20㎝以上床面から浮いた状況で検出されている。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。なお平面図上に示される有孔円盤は、その位置で有孔円盤が出土していることに間違いはないが、遺物番号がないのでどの有孔円盤が該当するのかよくわからない。また、352号溝底と重複する範囲で検出された遺物は、床直は本跡に、若干浮いた状態で検出された遺物は352号溝に伴う可能性が高い。

111号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号119号。108号竪穴の東側に位置し、112号・113号・114号・121号・123号・186号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径6.74m短径6.60mを測り、主軸方位はN－51°－Wを示す。カマドは北西壁中央に構築されており、残存する火床長径0.76m短径0.48m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－41°－Wを示す。

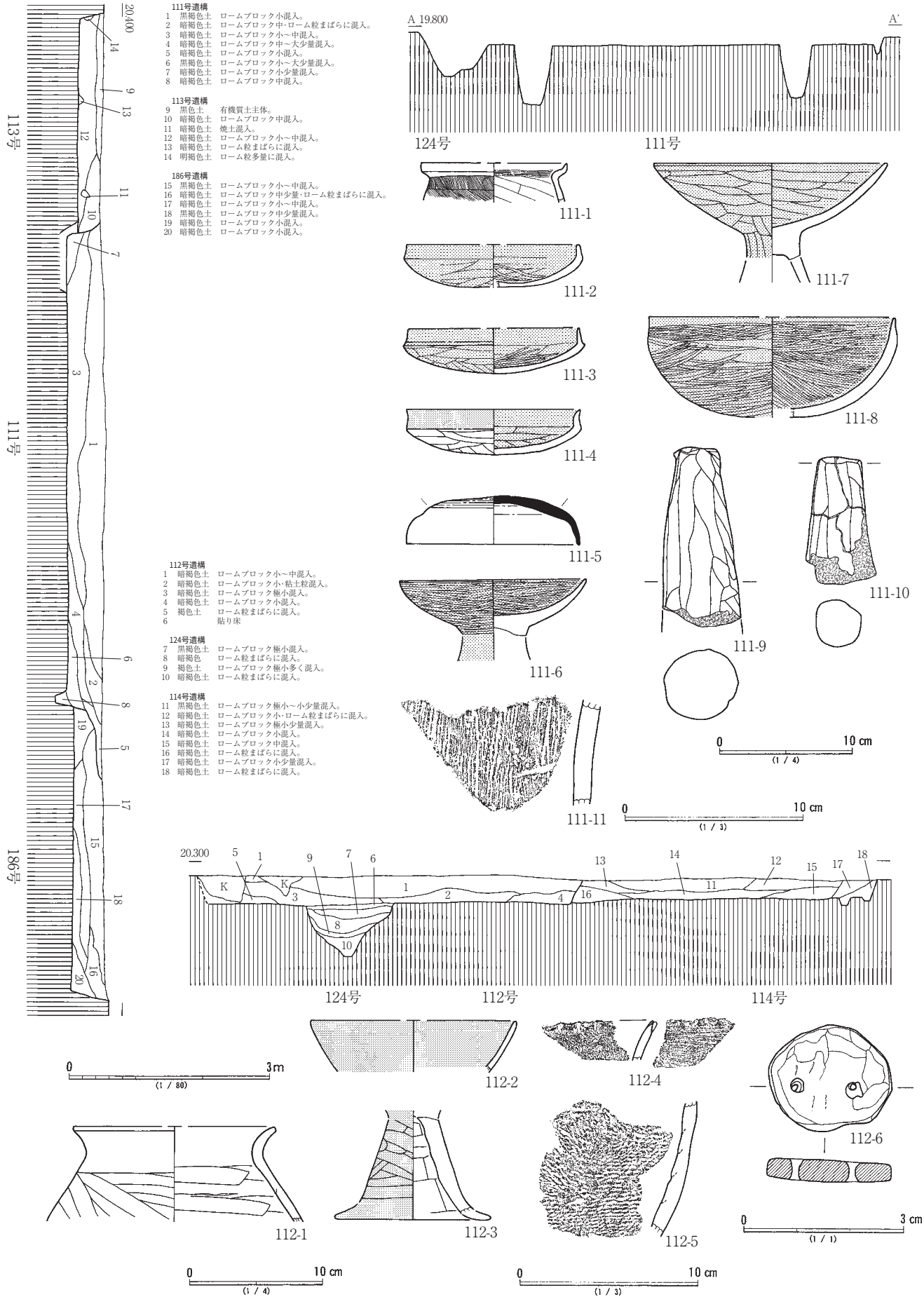
残存する壁高は、それぞれ、北東壁50㎝、南東壁55㎝、北西壁31㎝、南西壁20㎝を測る。124号溝と重複する範囲では検出できなかったが周溝は全周したものと想定され、深さは６～14㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が68㎝、Ｐ２が75㎝、Ｐ３が91㎝、Ｐ４が78㎝、Ｐ５が32㎝を測る。

遺物

本遺構からは829点9,198gの土器片と７点255gの礫、１点28gの土玉片、１点74gの埴輪片、２点556gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、659点7,454gの土師器、２点234gの須恵器、164点1,470gの弥生土器、１点5.0gの手づくね土器、１点15gの早期条痕文系土器、２点20gの縄文土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。

４・７・８・９・10は、床密着ないしはカマド内より検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

112号遺構（竪穴住居跡）



第113図　111 ～ 114・124・186号遺構実測図・111・112号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号123号。111号竪穴の西側に隣接し、113号・114号・116号・124号竪穴を削平し、111号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.85mを測り、主軸方位はN－36°－Wを示す。カマドは北西壁中央やや北側に偏って構築されており、残存する火床長径0.92m短径0.50m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－26°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁１㎝、北西壁５㎝、南西壁49㎝を測る。重複の激しかった範囲では検出できなかったが、周溝は全周したものと想定され、深さは６～15㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ２が67㎝、Ｐ３が66㎝、Ｐ４が15㎝、Ｐ５が37㎝、Ｐ６が49㎝を測る。Ｐ１には測定値が存在しなかった。

遺物

本遺構からは465点6,236gの土器片と１点2.60gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、336点4,987gの土師器、１点30gの須恵器、128点1,219gの弥生土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

２・３・６は、床密着ないしはカマド内より検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

113号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号122号。112号竪穴の南側に隣接し、112号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。主柱穴の位置から径5.06m前後を測り、長軸方位はN－27°－Eを示すものと想定される。火床施設はカマドないしは炉と想定されるが、後出の111号・112号竪穴に削平されたと捉えられ検出できなかった。

残存する壁高は、それぞれ北西壁39㎝、南西壁41㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は主柱穴と想定され、深さはＰ１が111号竪穴床面から67㎝、本跡床面換算で86㎝を測る。Ｐ２が56㎝、Ｐ３が63㎝を測る。この他Ｐ４が57㎝、Ｐ５が55㎝を測る。本来もうひとつの主柱穴は、124号溝内に存在したと想定されるが、検出することはできなかった。

焼土は床面の４ヶ所に検出されるが、全てに厚さの測定値はない。

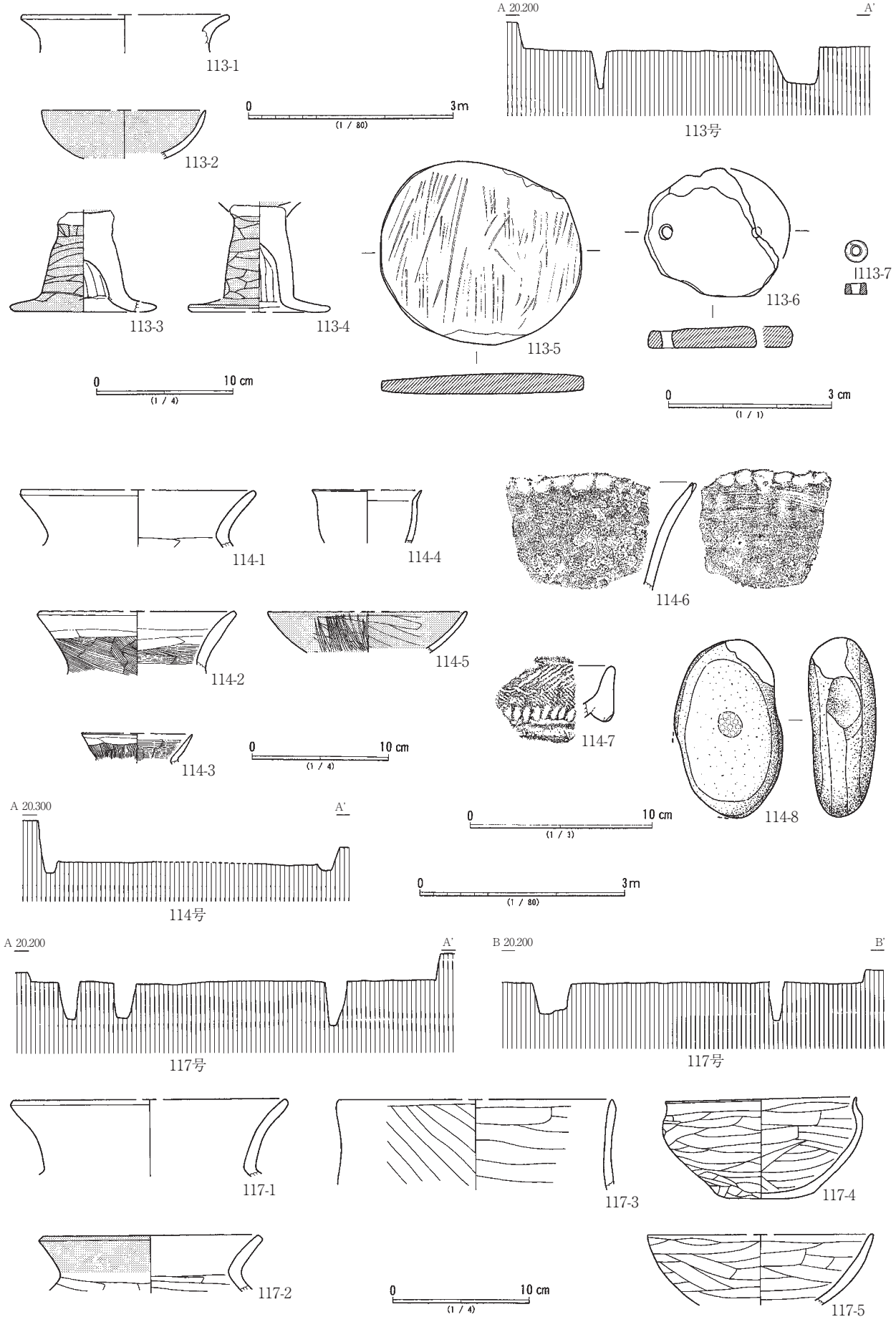
遺物

本遺構からは44点1,074gの土器片と２点78gの礫、２点10.90gの有孔円盤、１点0.06gの臼玉が検出された。土器片等の内訳は、33点950gの土師器、11点124gの弥生土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

１～６は何れも床密着ないしは床直上より検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

114号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号124号。112号竪穴の北側に隣接し、111号・112号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.48mを測り、主軸方位はN－21°－Eを示す。炉は中央やや西側に偏って検出されており、残存する火床長径0.34m短径0.26m深さ６㎝を測り、火床長軸方位はN－16°－Eを示す。



第114図　113・114・117号遺構実測図・113・114・117号遺構出土遺物実測図

残存する壁高は、それぞれ、東壁９㎝、西壁47㎝、北壁38㎝を測る。周溝は北から東にかけての範囲が二重全周で、拡張ないしは建替えしたものと想定され、深さは外側が３～20㎝、内側が３～６㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは３ヶ所に検出された。深さはＰ１が36㎝、Ｐ２が44㎝、Ｐ３が33㎝を測る。焼土は２ヶ所に検出され、厚さ５～11㎝を測る。なお、調査段階では２軒の竪穴住居として調査されているが、拡張ないしは建替えが行われた１軒の竪穴住居跡として報告する。

遺物

本遺構からは1,899点4,915gの土器片と４点383gの礫、１点276gの磨石・敲石、２点15gの鉄滓が検出された。土器片等の内訳は、1,771点3,826gの土師器、128点1,089gの弥生土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

１・２・８は、床密着の状態で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

115号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号なし。114号竪穴東側に隣接し、114号竪穴に削平されて存在する土坑である。残存長径1.16m短径0.98mを測り、主軸方位はN－69 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁30㎝、南壁32㎝、北壁34㎝を測る。ハードローム層中に掘り込まれ、底面は平坦である。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

116号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号268号。112号竪穴の下層に位置し、112号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径3.10m前後を測り、長軸方位はN－24 °－Wを示すものと想定される。炉は中央やや北側に偏って検出されており、残存する火床長径0.70m短径0.34m深さ６㎝を測り、火床長軸方位はN－11 °－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ北東壁17㎝、南東壁７㎝、北西壁12㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは１ヶ所に検出され、深さは８㎝を測る。

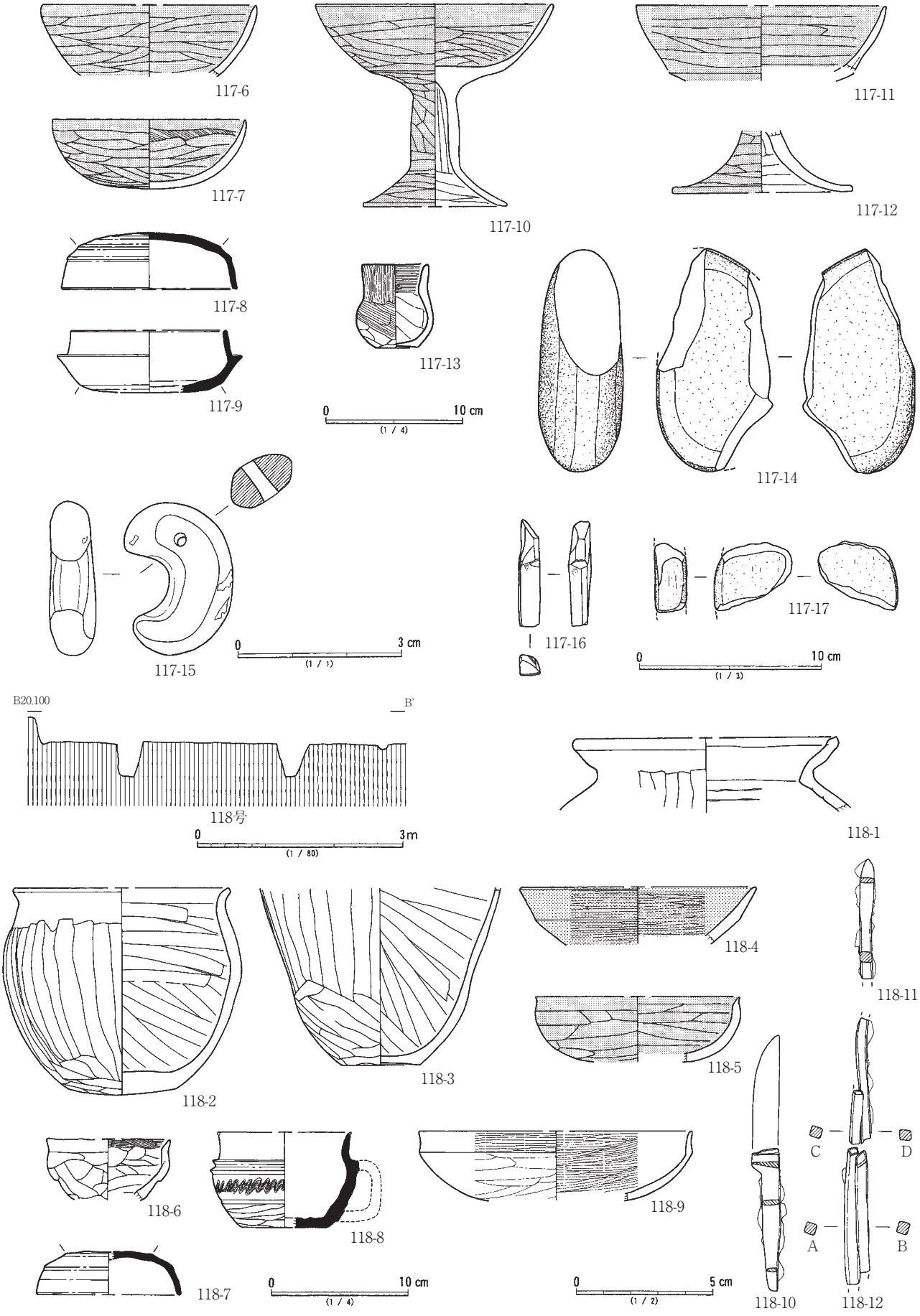
遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

117号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号126号。113号竪穴の南側に位置し、144号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.98m残存短径5.00mを測り、主軸方位はN－33 °－Eを示す。炉は中央やや西側、Ｐ１・Ｐ２間の中間よりやや東側に偏って存在し、残存する火床長径0.30m短径0.25mを測るが、深さの測定値はない。火床長軸方位はN－67 °－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁40㎝、南東壁13㎝、北西壁39㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が144号竪穴床面から49㎝、本跡床面換算では48㎝を測る。Ｐ２が65㎝、Ｐ３が144号竪穴床面から80㎝、本跡床面換算では79㎝を測る。Ｐ



第115図　118号遺構実測図・117・118号遺構出土遺物実測図

４が51㎝、Ｐ５が31㎝、Ｐ６が58㎝を測る。

遺物

本遺構からは767点10,017gの土器片と４点30gの礫、１点484gの磨石、１点10gの転用砥石、１点30gの砥石片、１点6.60gの翡翠製勾玉が検出された。土器片等の内訳は、722点9,335gの土師器、２点190gの須恵器、38点390gの弥生土器、１点14gの手づくね土器、１点15gのミニチュア土器、２点38gの縄文土器である。これらの出土遺物の内17点を図示した。

２・４・７・10・15は、床密着ないしは貯蔵穴内より検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。また、５・11・12は床面から13㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

なお、８・９の須恵器はその法量よりセットで搬入された製品と考えられるが、一括で取上げられており、本跡よりも重複した144号竪穴に伴う可能性が極めて高い。

118号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号128号。117号竪穴の東側に位置し、120号・122号・144号・145号・146号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.26m短径5.24mを測り、主軸方位はN－55°－Wを示す。カマドは西壁中央に構築され、残存する火床長径0.52m短径0.30m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－54°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁37㎝、西壁２㎝、南壁35㎝、北壁１㎝を測る。周溝は重複ヶ所以外に存在し、深さは３～６㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築され、ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が54㎝、Ｐ２が42㎝、Ｐ３が50㎝、Ｐ４が46㎝を測る。粘土は1ヶ所に検出され、厚さ5㎝を測る。

遺物

本遺構からは1,031点11,927gの土器片と５点125gの礫、５点20gの鉄器が検出された。土器片等の内訳は、646点8,416gの土師器、２点234gの須恵器、378点3,172gの弥生土器、３点55gの縄文土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

２・３・９・10は、床直上ないしはカマド内より検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

なお、８の須恵器取手付埦は、本跡の他に168号・189号竪穴一括で取上げられ、接合関係を有するものであるが、本跡に直接伴うものではない。時期的には重複する144号竪穴に伴う可能性が極めて高い。

119号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号は無いが、調査日誌に118号内土坑と記される。方形の土坑であり、長径0.88m短径0.74mを測り、主軸方位はN－60°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁68㎝、西壁68㎝、南壁68㎝、北壁66㎝を測る。ハードローム層中に掘り込まれ、底面は平坦である。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

120号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号129A号。118号竪穴の北側に隣接し、床面だけが存在した竪穴住居跡である。床面はソフトローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは２ヶ所に検出された。深さはP １が26㎝、Ｐ ２が13㎝を測る。

遺物

本跡と121号竪穴とは、一括出土遺物を調査時遺構番号AとBに分離せず、取りまとめてAB号としたため、どちらの遺構からどれだけの分量の遺物が出土したのか判らない。両遺構併せて193点2,320gの土器片と８点510gの礫が検出された。土器片等の内訳は、131点1,935gの土師器、、61点370gの弥生土器、１点15gの縄文土器である。これらの出土遺物の内３点を図示するが、何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

121号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号129B号。120号竪穴の東側に隣接し、床面・炉・ピットが検出されるが規模等不明な竪穴住居跡である。炉は124号V字溝の上面に存在し、残存する火床長径0.76m短径0.54m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－18 °－Eを示す。床面はソフトローム層中に構築され、硬く踏み固められており、ピットは１ヶ所に検出され、深さ50㎝を測る。

遺物

本遺構からは２点600gの土師器が検出され、２点とも図化した。

１・２とも床面に貼り付いて検出され、本跡に直接伴うものと判断される。

122号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号121号。118号竪穴の東側に位置し、123号・198号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.96m短径5.78mを測り、主軸方位はN－101 °－Eを示す。カマドは東壁中央やや南側に偏って構築され、残存する火床長径0.30m短径0.18m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－98 °－Eを示す。

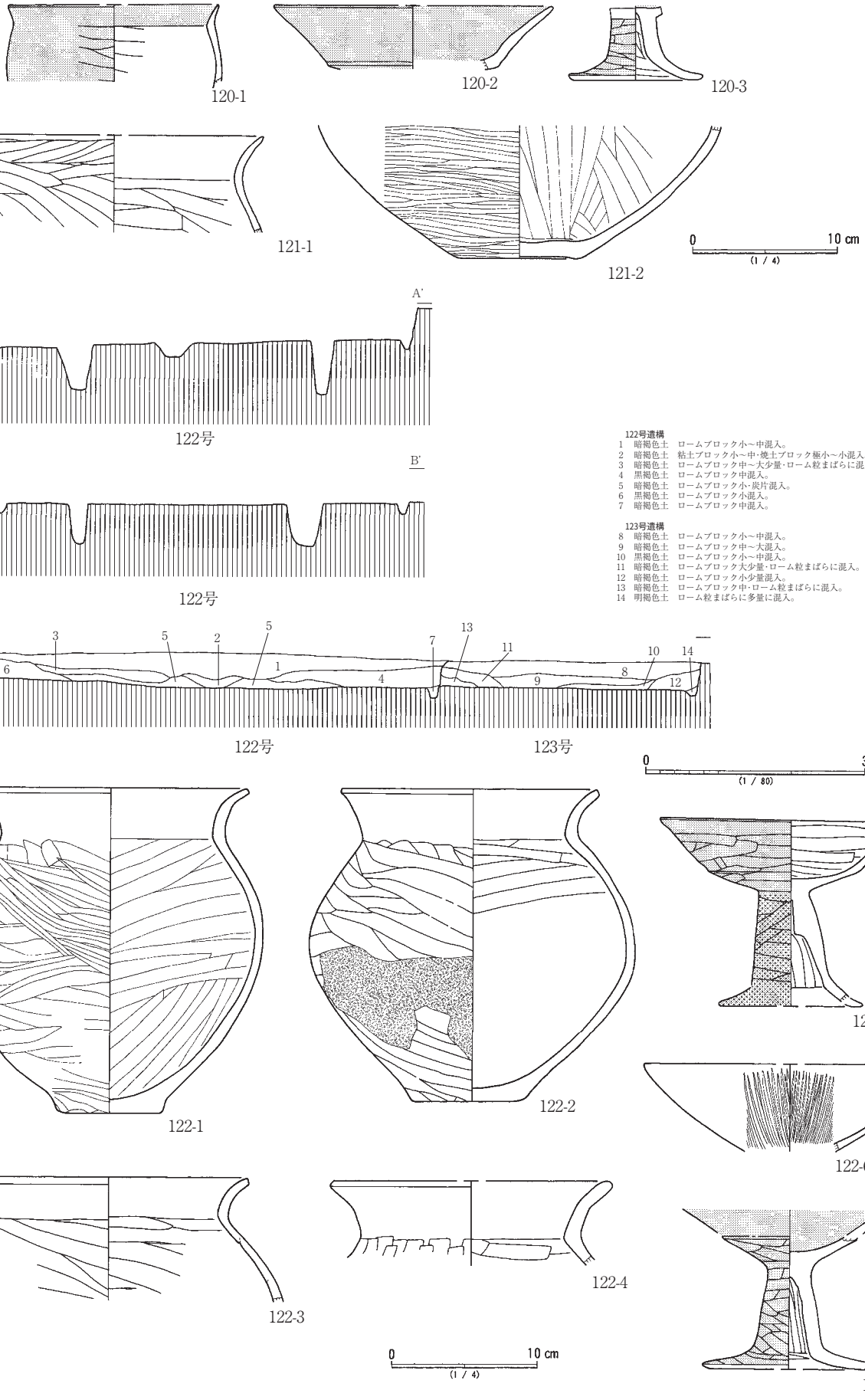
残存する壁高は、それぞれ、東壁38㎝、西壁８㎝、南壁44㎝、北壁２㎝を測る。周溝は全周し、深さは９～15㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、主柱穴を結ぶラインの内側が硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５・Ｐ６は貯蔵穴と入口施設に伴うものと想定され、深さはP １が56㎝、Ｐ ２が81㎝、Ｐ ３が60㎝、Ｐ ４が74㎝、Ｐ ５が84㎝、Ｐ ６が23㎝を測る。この他P ７が19㎝を測る。

遺物

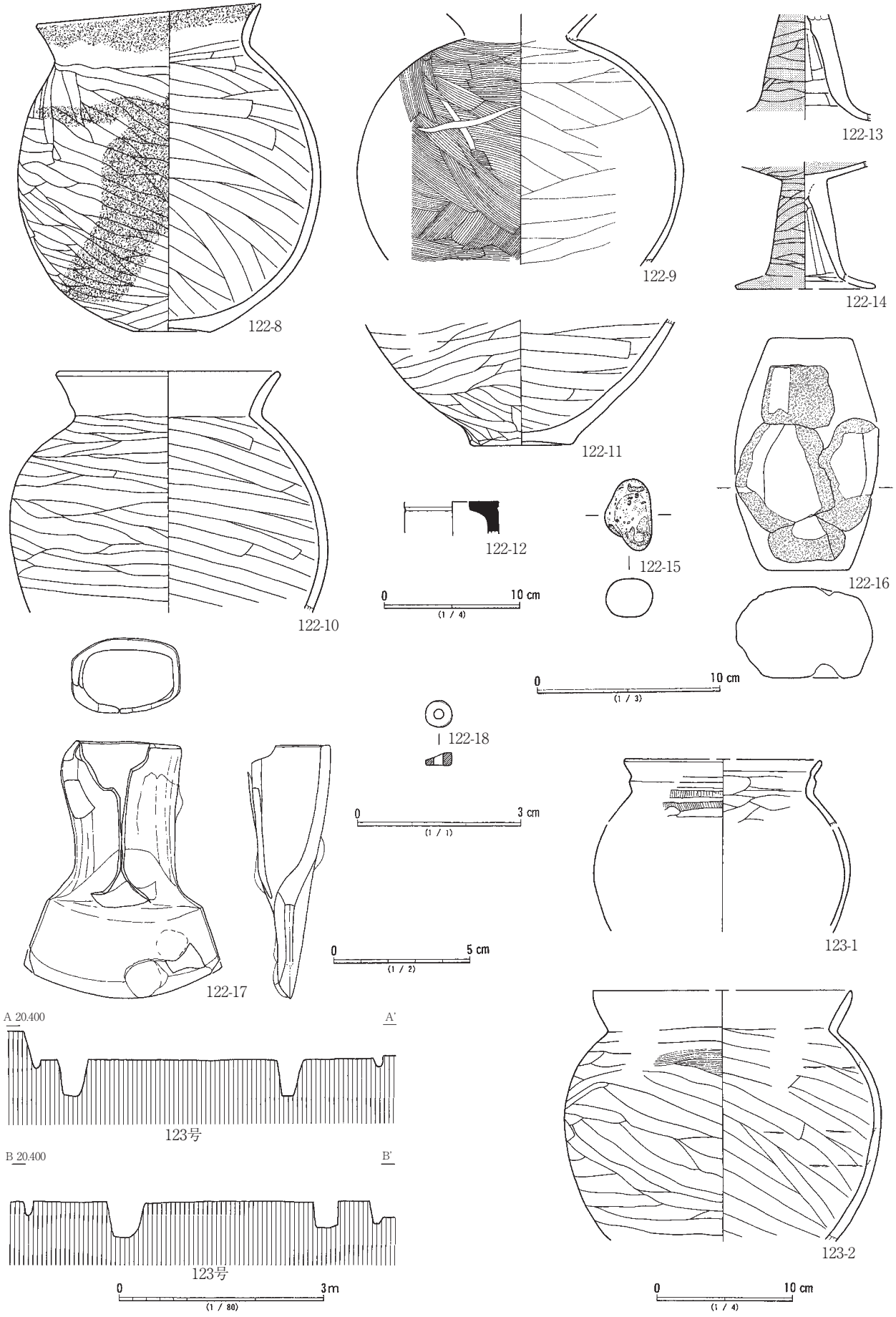
本遺構からは627点15,785gの土器片と13点790gの礫、１点3.7gの磨石、１点0.09gの臼玉、１点221.2gの袋状有肩鉄斧、１点605gの支脚が検出された。土器片等の内訳は、329点13,084gの土師器、１点25gの須恵器、296点2,668gの弥生土器、１点８gの縄文土器である。これらの出土遺物の内18点を図示した。

１～11・13・14・17・18は、床直上ないしはカマド内より検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

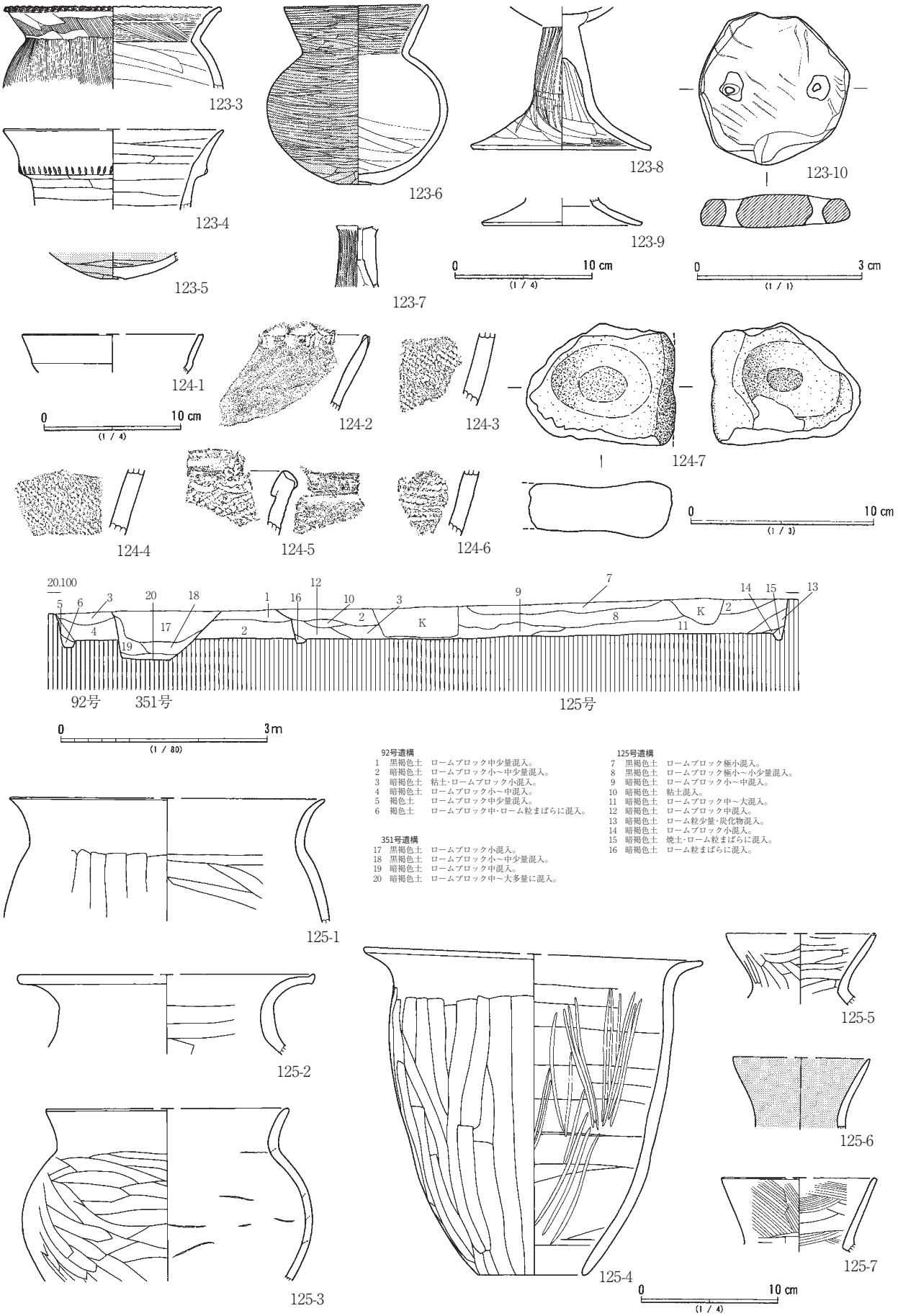
123号遺構（竪穴住居跡）



第116図　122・123号遺構実測図・120～122号遺構出土遺物実測図



第117図　123号遺構実測図・122・123号遺構出土遺物実測図

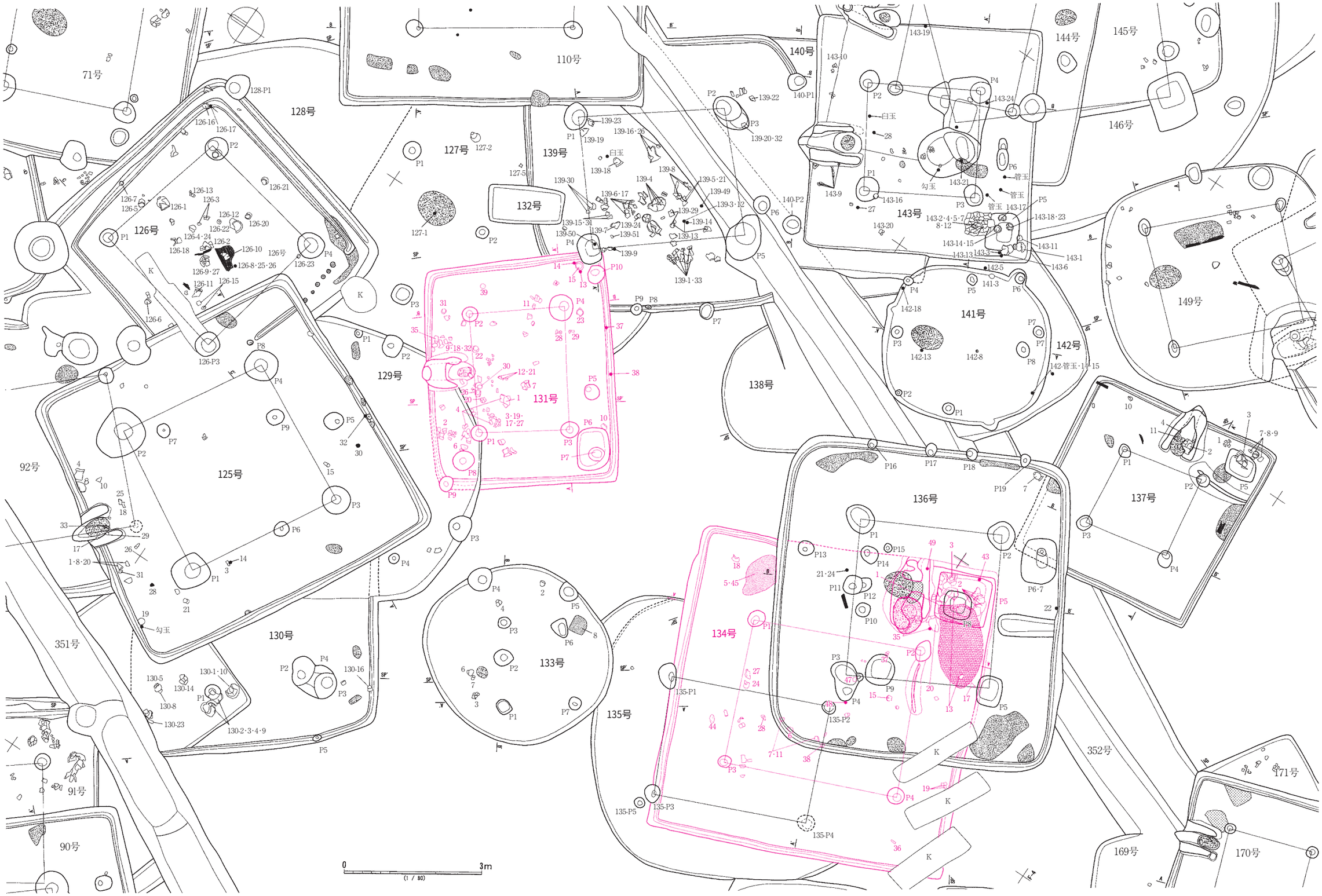


92号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック中少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
3 暗褐色土 粘土・ロームブロック小混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
5 褐色土 ロームブロック中少量混入。
6 褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。

351号遺構
17 黒褐色土 ロームブロック小混入。
18 黒褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
19 暗褐色土 ロームブロック中混入。
20 暗褐色土 ロームブロック中～大多量に混入。

125号遺構
7 黒褐色土 ロームブロック極小混入。
8 黒褐色土 ロームブロック極小～小少量混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
10 暗褐色土 粘土混入。
11 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
12 暗褐色土 ロームブロック中混入。
13 暗褐色土 ローム粒少量・炭化物混入。
14 暗褐色土 ロームブロック小混入。
15 暗褐色土 焼土・ローム粒まばらに混入。
16 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。

第118図　92・125・351号遺構実測図・123～125号遺構出土遺物実測図



第119図　125 ～ 143号遺構実測図

昭和53年度調査時遺構番号120号。122号竪穴の北側に隣接し、111号・122号竪穴に削平され、192号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。推定長径5.92m短径5.54mを測り、主軸方位はN－22°－Eを示す。炉が検出されないことから、Ｐ３・Ｐ４間の中央やや南側に存在し、122号竪穴に削平されたものと推定される。

残存する壁高は、それぞれ、東壁39㎝、南壁41㎝、北壁39㎝を測るが、西壁は121号竪穴と床面レベルが同じで検出されない。周溝は西側と削平された所を除いて全周し、深さは13～20㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築された貼床であるが、主柱穴を結ぶラインの内側が硬く踏み固められている。ピットは６所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が39㎝、Ｐ２が51㎝、Ｐ３が30㎝、Ｐ５が44㎝、Ｐ６が54㎝を測る。なおＰ４は想定上の主柱穴の位置であり、調査段階では調査に及んでいない。

遺物

本遺構からは311点5,800gの土器片と２点90gの礫、１点7.1gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、194点4,250gの土師器、116点1,510gの弥生土器、１点40gの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１・２・３・６・８・は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

124号遺構（V字溝）

昭和53年度調査時遺構番号５号溝。111号・112号・113号・116号・121号竪穴直下に存在する溝である。長さ10.64m幅1.48～0.88m深さ65～95㎝を測り、主軸方位はN－49°－Wを示す。

断面V字形のその形状から弥生環濠を髣髴させるが、環状には巡らず本地点で完結する。

遺物

本遺構からは38点424gの土器片と１点278gの凹石が検出された。土器片等の内訳は、23点236gの土師器、13点161gの弥生土器、１点15gの早期条痕文系土器、１点12gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

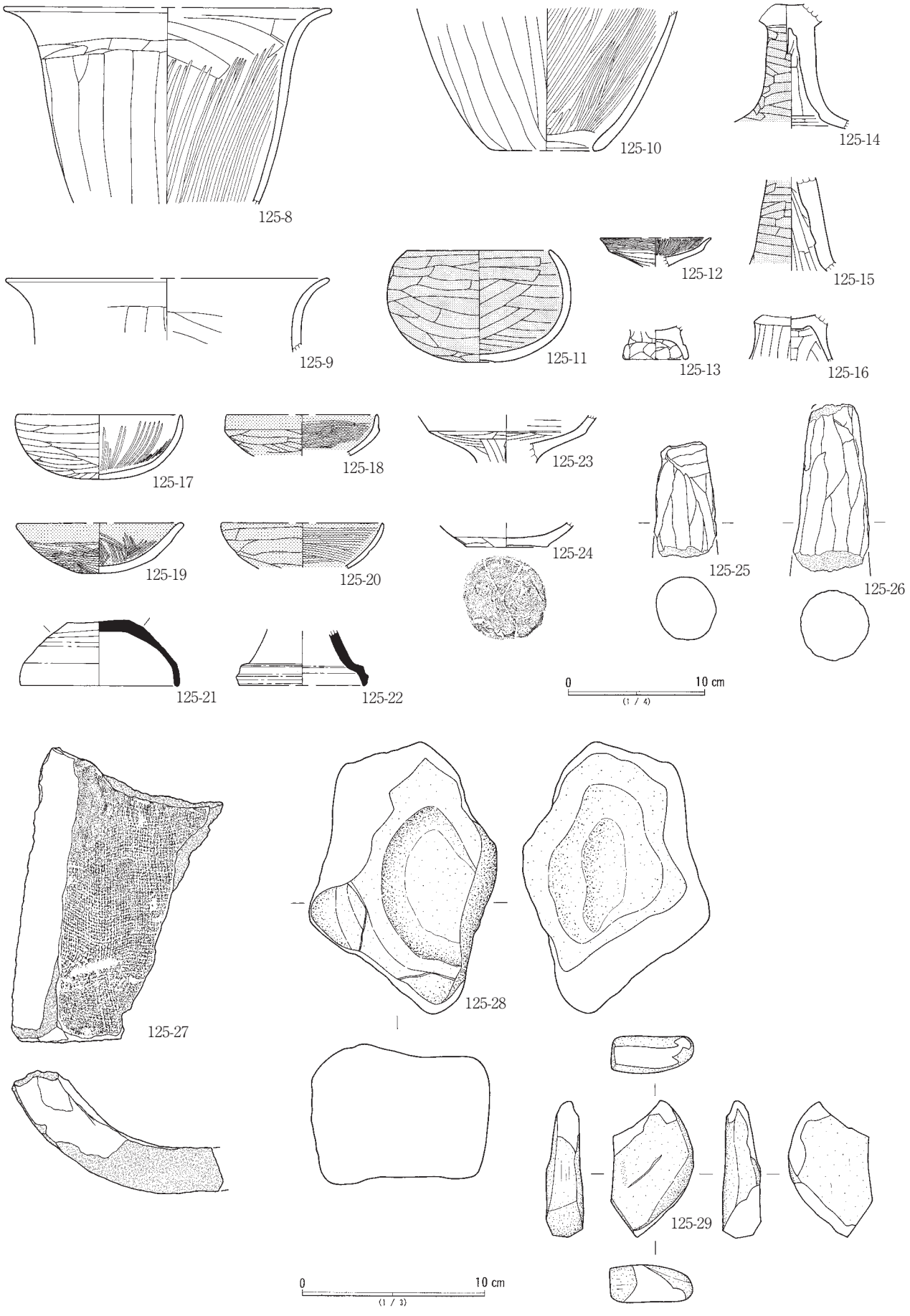
これらの遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

125号遺構（竪穴住居跡）

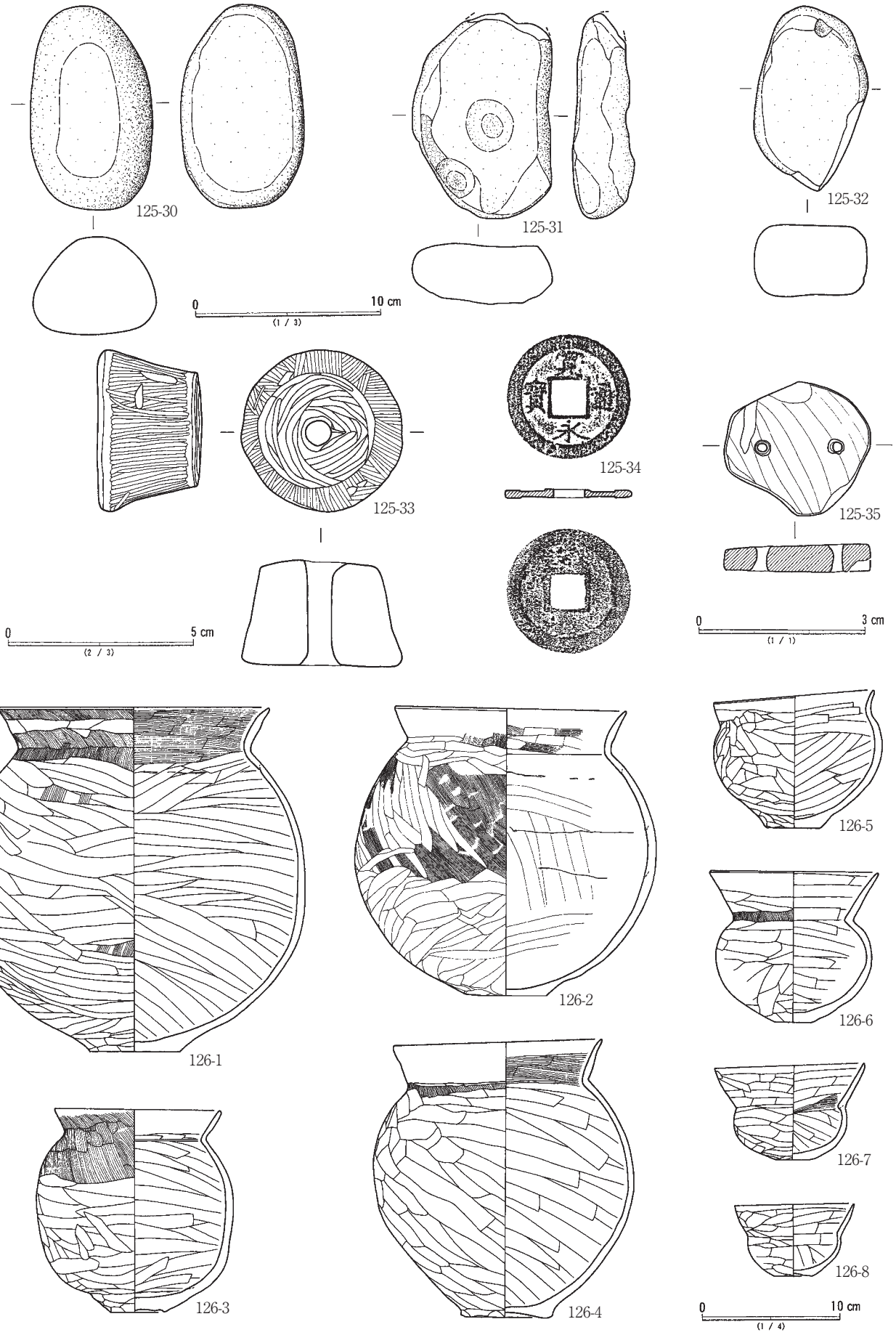
昭和53年度調査時遺構番号194号。92号竪穴の東側に隣接し、92号・126号・129号・130号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径6.80m短径6.60mを測り、主軸方位はN－60°－Wを示す。カマドは西壁中央構築され、残存する火床長径0.54m短径0.39m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－52°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁４㎝、西壁８㎝、南壁７㎝、北壁１㎝を測る。周溝は撹乱による削平箇所を除いて全周し、深さは７～16㎝を測る。床面はハードローム層中に構築された貼床であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは９所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が68㎝、Ｐ２が66㎝、Ｐ３が77㎝、Ｐ４が70㎝、Ｐ５が44㎝を測る。この他Ｐ６が20㎝、Ｐ７が17㎝、Ｐ８が９㎝、Ｐ９が31㎝を測る。

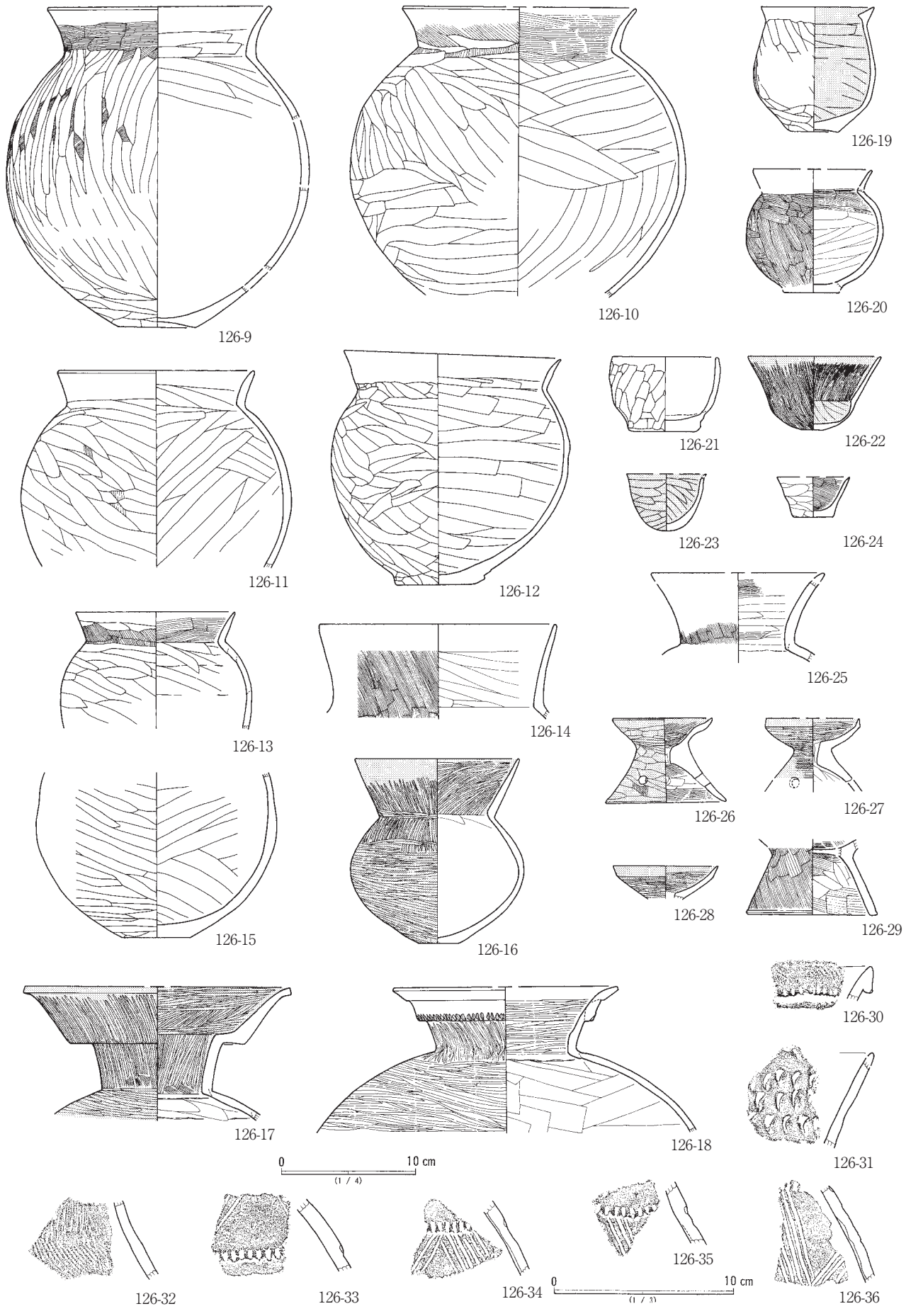
焼土は７ヶ所に検出され厚さは９～10㎝を測る。間仕切り溝は東壁から１ｍＰ４に向かって伸び、長さ1.17m幅0.14m深さ６㎝を測る。



第120図　125号遺構出土遺物実測図



第121図　125・126号遺構出土遺物実測図



第122図　126号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは969点15,573gの土器片と12点428gの礫、５点2.670gの石器、１点5.3gの有孔円盤、１点２gの寛永通宝、１点49.8gの土製紡錘車、１点500gの布目瓦、１点10gの土玉片、２点380gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、830点13,889gの土師器、３点151gの須恵器片、130点1,420gの弥生土器、３点65gの手づくね土器、３点48gの縄文土器である。これらの出土遺物の内35点を図示した。

１・３・４・８・10・14・15・17・18・20・21・25 ～ 27・33は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

なお、遺構平面図に見える勾玉は、その所在を確認することができなかった。

126号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号213A・B号。125号竪穴の北側に隣接し、125号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.54m短径5.50mを測り、主軸方位はN－13 °－Eを示す。炉は撹乱ないしは125号遺構に削平されたものと想定され、未検出である。

残存する壁高は、それぞれ、東壁26㎝、西壁24㎝、南壁19㎝、北壁27㎝を測る。周溝は二重周溝であり、おそらく建替えないしは拡張が行われたものと想定され、外側の深さは３～８㎝、内側の深さは４～９㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれA・B号とも同一レベルであり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が49㎝、Ｐ２が41㎝、Ｐ３が125号竪穴床面から44㎝、本跡床面換算で47㎝を測る。Ｐ４が50㎝を測る。

本跡は調査段階で２軒とされたが、主柱穴床面とも共有しており、拡張ないしは建替えが行われた１軒の竪穴として報告する。

遺物

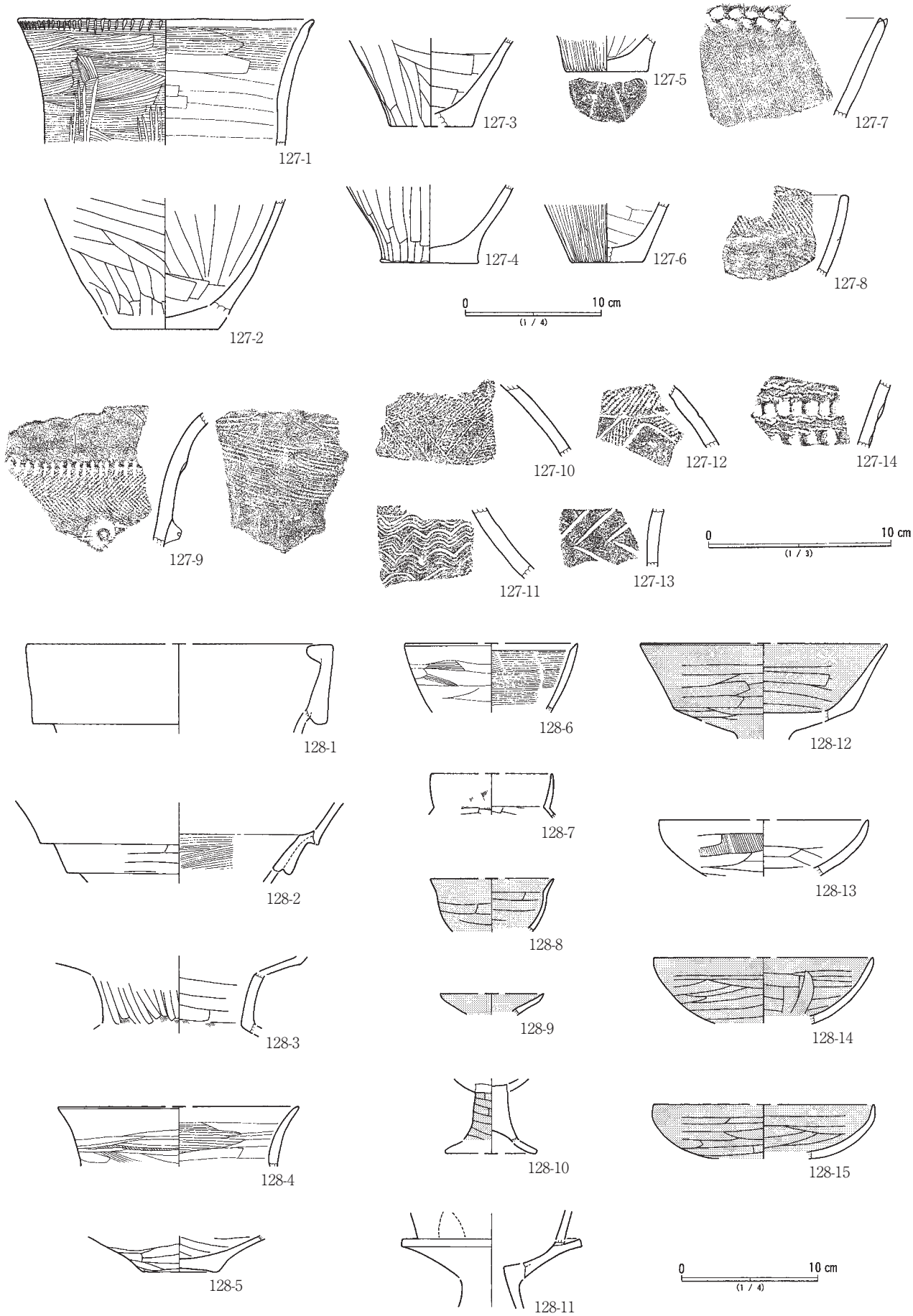
本遺構からは672点19,356gの土器片と４点98gの礫、４点390gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、525点17,027gの土師器、139点2,154gの弥生土器、2点68gの手づくね土器、５点82gの縄文土器である。これらの出土遺物の内36点を図示した。

１～ 13・15 ～ 18・20・21・22・24 ～ 27は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。23は床面から18㎝浮いて検出されている。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

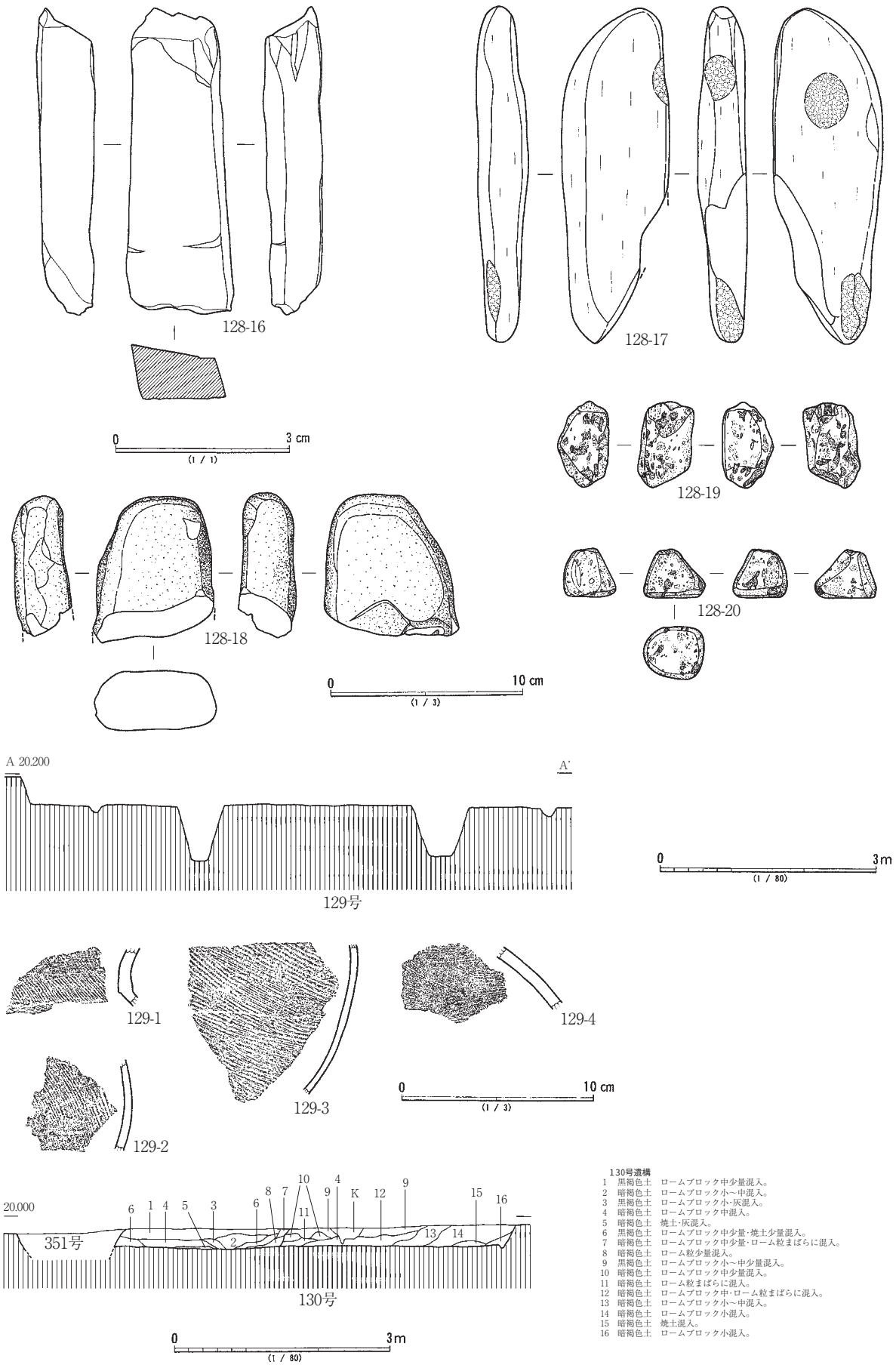
127号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号131A号。125号竪穴の東側に位置し、131号139号竪穴・132号土坑に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径6.82m残存短径6.06mを測る。炉はＰ１・Ｐ２間中央西側に偏って検出され、残存する火床長径0.84m短径0.72m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－１ °－Wを示す。

残存する壁高は、南側のみで、高さ６㎝を測る。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に掘り込まれるが、炉の周囲は硬く踏み固められている。ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が64㎝、Ｐ２が22㎝、Ｐ３が76㎝を測る。



第123図　127・128号遺構出土遺物実測図



第124図　129・130号遺構実測図・128・129号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは325点3,692gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、321点3,607gの弥生土器、４点85gの縄文土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

１は、炉内火床密着で検出された甕であり、本跡に直接伴うものと判断される。２・５は床面から20㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

128号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号131B号。127号竪穴の北側に隣接し、71号・110号・126号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径4.56m残存短径2.66mを測る。炉は126号竪穴に削平されたと想定され検出されない。

残存する壁高は、東側のみで、高さ24㎝を測る。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に掘り込まれ軟弱であり、ピットは１所に検出された。深さは76㎝を測る。

遺物

本遺構からは356点4,384gの土器片と５点660.1gの石器、１点12.0gの土玉片が検出された。土器片等の内訳は、354点4.354gの土師器、２点30gの手づくね土器であり、これらの出土遺物の内20点を図示した。

これらの遺物については、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

129号遺構(竪穴住居跡)

昭和53年度調査時遺構番号193号。125号竪穴の南側に隣接し、125号・126号・130号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存短径6.10mを測る。炉は125号竪穴に削平されたと想定され検出されていない。

残存する壁高は、それぞれ、東壁24㎝、西壁37㎝、南壁12㎝を測る。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に掘り込まれ全体的に軟弱であり、ピットは４所に検出された。深さはＰ１が21㎝、Ｐ２が37㎝、Ｐ３が33㎝、Ｐ４が48㎝を測るが、主柱穴は検出されなかった。

焼土は１ヶ所に検出され、厚さ12㎝を測る。

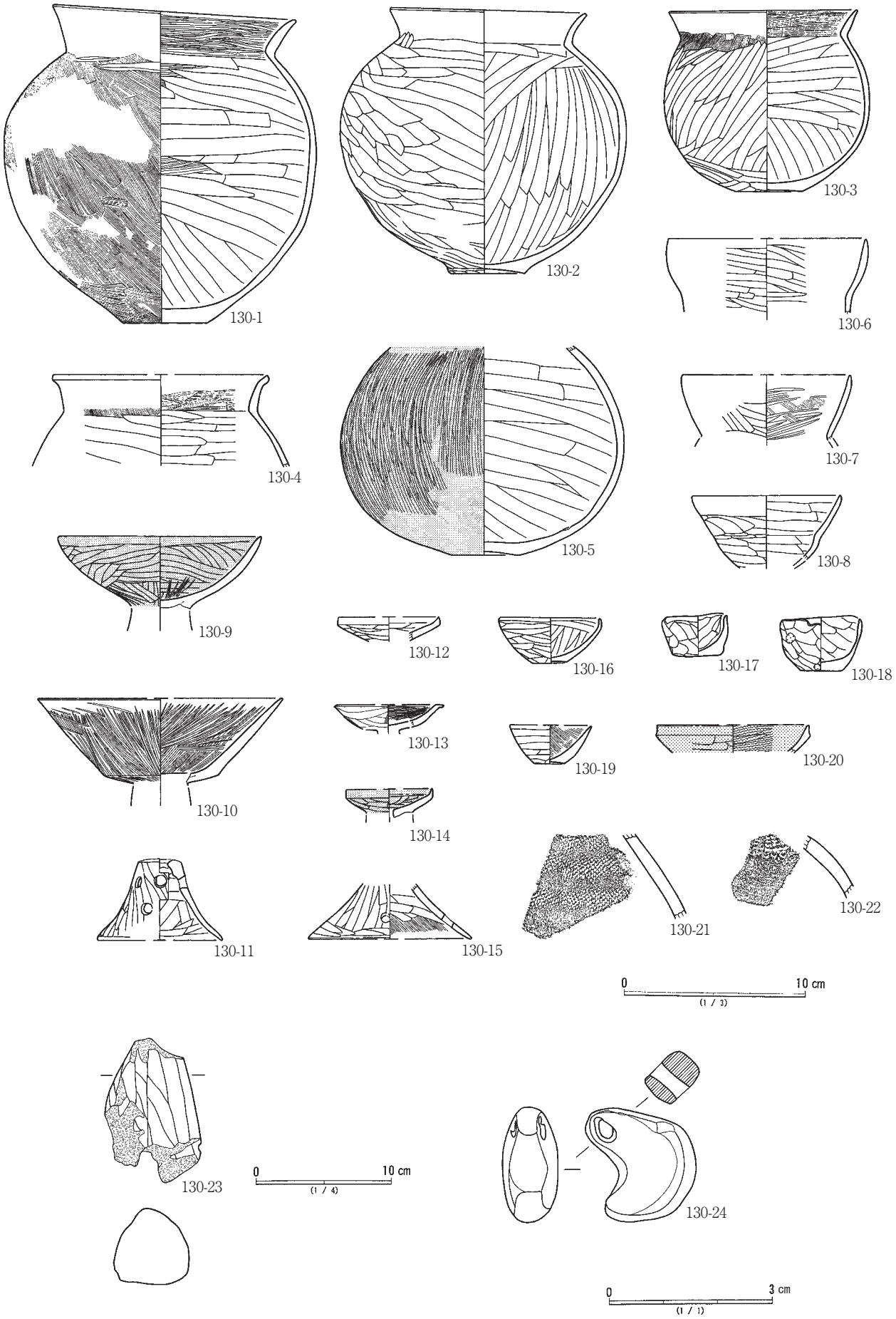
遺物

本遺構からは48点860gの土器片と２点30gの礫が検出された。土器片等の内訳は、16点270gの土師器、32点590gの弥生土器であり、これらの出土遺物の内４点を図示した。

これらの遺物については、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

130号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号190号・191号。125号竪穴の西側に隣接し、125号竪穴・351号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。調査段階では、130号竪穴内の遺物集中範囲に、更に小規模な竪穴１軒が存在するとされ、小規模住居に190号、その他の遺構に191号の調査番号が付されていた。しかし、調査時遺構番号190号・191号の床面レベルがほぼ同一なこと、190号遺構ブランが、351号溝立ち上がりに認められないこと、南側の壁が191号範囲を超えないことから、西壁の範囲は351号溝内に



第125図　130号遺構出土遺物実測図

収まる長方形住居ということになる。この時期の竪穴住居跡はほぼ方形を呈することから、いささか無理な解釈ではないだろうか。またＰ１に対応する柱穴も190号内には存在しないが、191号内には存在していることから、１軒の住居の可能性が極めて高い。ここでは１軒の竪穴住居として報告し、平面図には調査時190号プランをそのまま残した。なお、調査時190号規模は長径5.46m残存短径3.22mを測り、主軸方位はN－57°－Eを示す。

一方、130号竪穴は残存長径5.46m残存短径3.64mを測る。炉は125号竪穴に削平されたと想定され検出されていない。

残存する壁高は、それぞれ、南東壁24㎝、南西壁25㎝を測る。周溝は遺構が重複していない範囲から検出され、深さは４～７㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床であり、硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出された。深さはＰ１が43㎝、Ｐ２が64㎝、Ｐ３が58㎝、Ｐ４が44㎝、Ｐ５が９㎝を測る。

遺物

本遺構からは631点10,553gの土器片と１点10gの礫、１点7.2gの滑石製勾玉、４点488gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、357点8,050gの土師器、271点2,393gの弥生土器、３点110gの手づくね土器であり、これらの出土遺物の内24点を図示した。

１～５・９・10・14・16・24は何れも床直で検出されており本遺構に直接伴うものと考えられる。23は床直ではあるが、351号溝との接点で検出されており、時期的にも本遺構に伴うものではない。これ以外の遺物については、何れも覆土一括で取上げられたものであり、出土地点を明示するものはない。

131号遺構（竪穴住居跡）

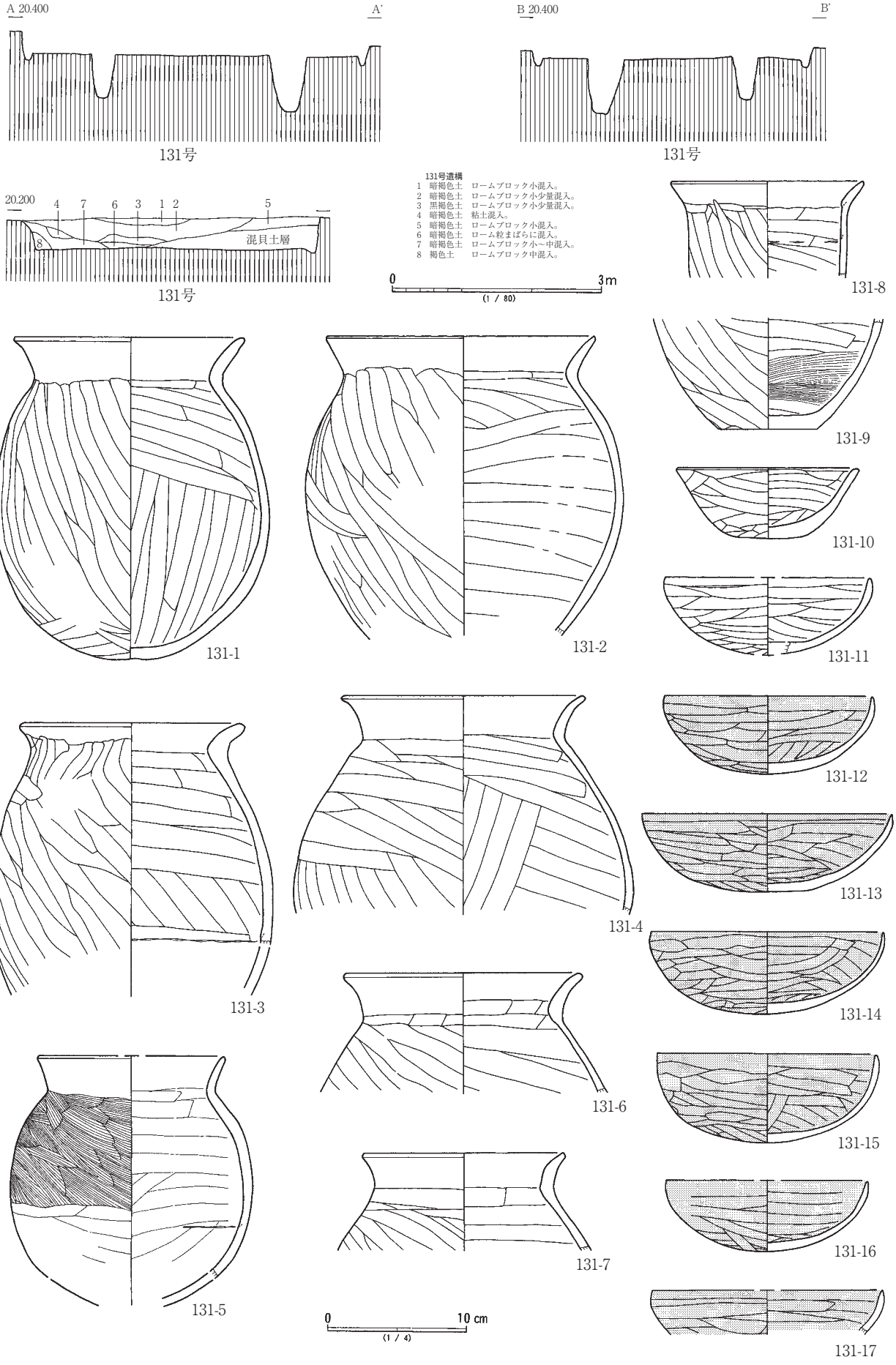
昭和53年度調査時遺構番号142号。129号竪穴の東側に隣接し、127号・129号・139号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.00m短径4.12mを測り、主軸方位はN－38°－Wを示す。カマドは北西壁中央構築され、残存する火床長径0.31m短径0.20m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－47°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁16㎝、南東壁39㎝、北西壁17㎝、南西壁38㎝を測る。周溝は129号竪穴と重複する部分を除いて全周し、深さは８～13㎝を測る。床面はソフトローム層中に構築された貼床であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは10ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が41㎝、Ｐ２が61㎝、Ｐ３が64㎝、Ｐ４が80㎝、Ｐ５が40㎝を測る。この他Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さは35㎝を測る。Ｐ６の中には更にＰ７が存在し、底面より14㎝を測る。この他Ｐ８は129号竪穴床面から23㎝、本跡床面換算で41㎝を測る。Ｐ９が33㎝、P10が36㎝を測る。

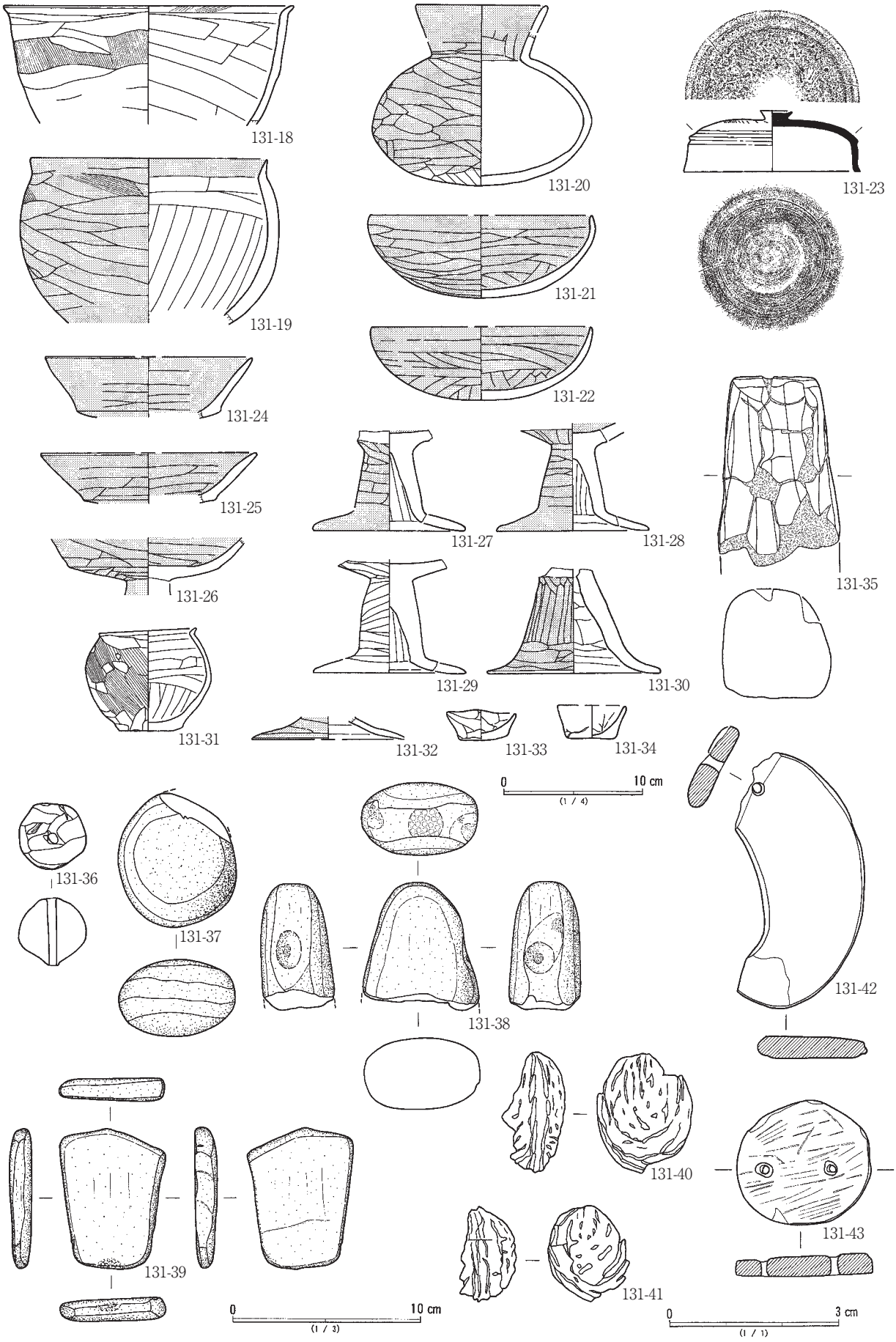
遺物

本遺構からは1,681点32,944gの土器片と12点565gの礫、５点1,689gの石器、１点4.0gの有孔円盤、１点6.7gの扁平勾玉、１点7.4gの鉄器片、４点87.5gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、1,449点29,307gの土師器、１点180gの須恵器、212点2,872gの弥生土器、17点520gの縄文土器である。これらの出土遺物の内43点を図示した。

１・３～６・９～18・20・22・26～28・31～33・37・18・20・21・25～27・33は、床直ないし



第126図　131号遺構実測図・出土遺物実測図１



第127図　131号遺構出土遺物実測図２

は床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。２・23・29・30は床面から13㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

なお、23のON－46型式と想定される須恵器蓋は、比較的高い位置からの出土であり、本遺構に直接伴うと断言できない。また、鉄器片は袋の中で粉々になっており図化することはできなかった。

132号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑９号。131号竪穴の東側に存在し、127号・139号竪穴を削平して存在する土坑である。長径1.65m短径0.86mを測り、主軸方位はN－31 °－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁59㎝、西壁55㎝、北壁56㎝を測るが、南壁の測定値はない。底面はハードローム層中に構築され平坦である。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

133号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号192号。130号竪穴の南側に位置し、135号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.00m短径3.80mを測り、主軸方位はN－12 °－Eを示す。炉は中央のかなり西側に偏って検出されており、残存する火床長径0.28m短径0.23m深さ７㎝を測り、火床長軸方位はN－24 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁23㎝、西壁31㎝、南壁29㎝、北壁26㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され固く踏み固められており、ピットは７ヶ所に検出された。深さはＰ１が22㎝、Ｐ２が58㎝、Ｐ３が19㎝、Ｐ４が51㎝、Ｐ５が17㎝、Ｐ６は25㎝、Ｐ７が16㎝を測る。

遺物

本遺構からは167点6,471gの土器片と２点65gの礫、１点450gの石皿が検出された。土器片等の内訳は、17点2,998gの土師器、150点3,473gの弥生土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

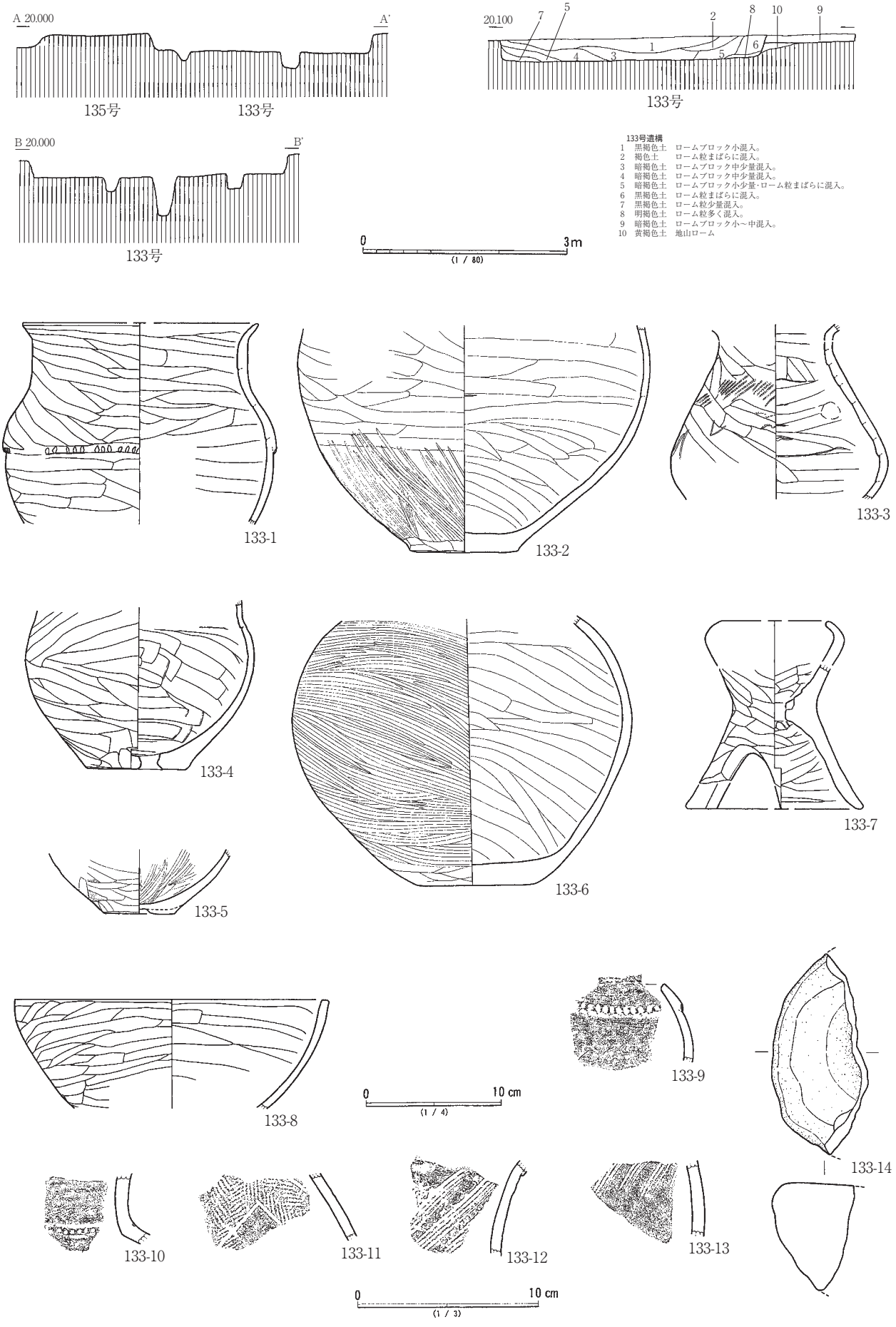
２～４・６～８は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

134号遺構（竪穴住居跡）

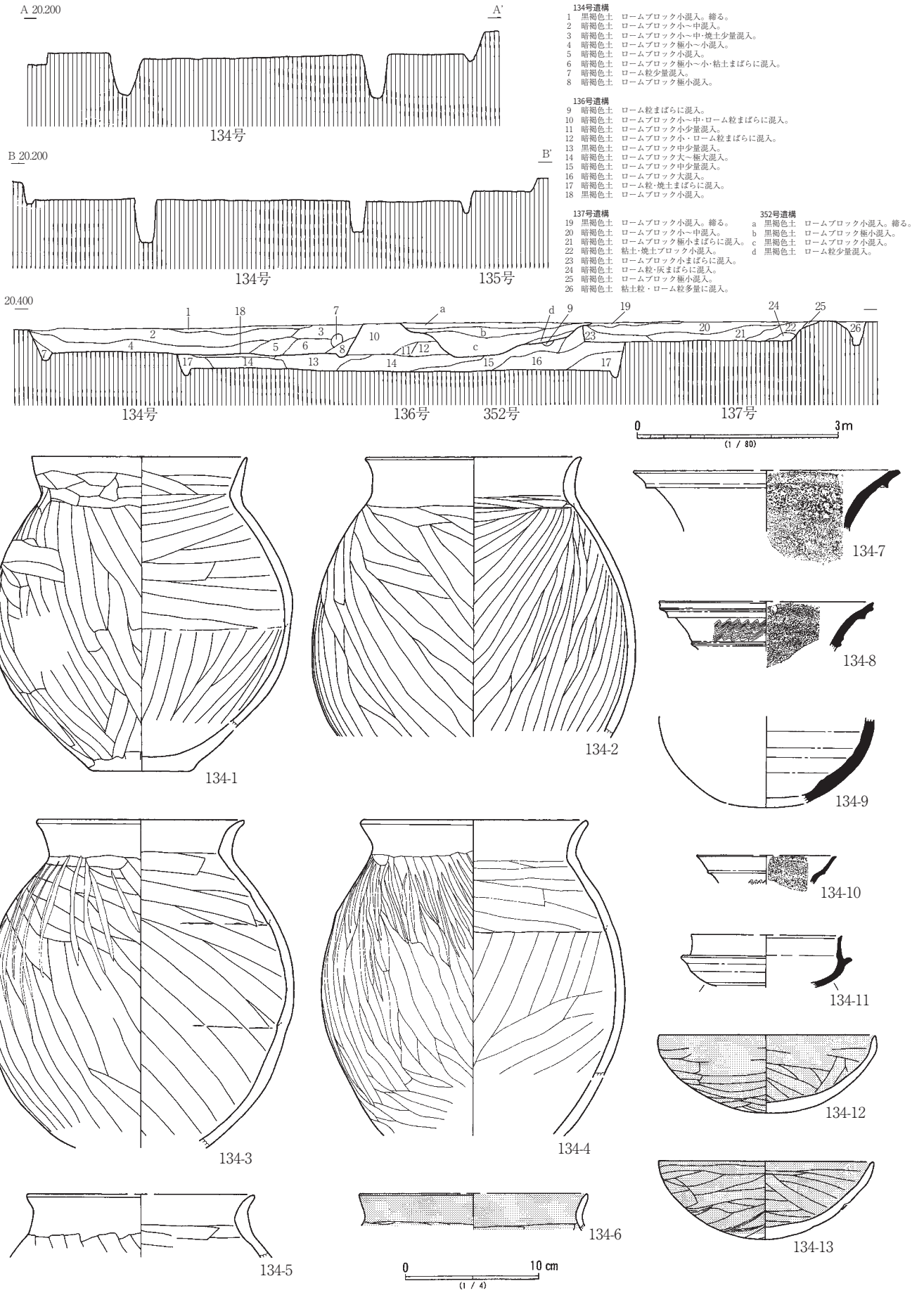
昭和53年度調査時遺構番号143A号。133号竪穴の南側に位置し、135号・136号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径6.82m短径6.62mを測り、主軸方位はN－67 °－Eを示す。カマドは東壁中央よりかなり南側に偏って構築されており、残存する火床長径0.80m短径0.65m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－64 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁26㎝、西壁43㎝、南壁43㎝、北壁38㎝を測る。周溝は136号竪穴と重複した範囲以外に検出され、深さは５～16㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、136号竪穴上面は貼床であり、全体的に固く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が64㎝、Ｐ２が54㎝、Ｐ３が45㎝、Ｐ４が68㎝を測るが、Ｐ５の深さは記録に存在しなかった。

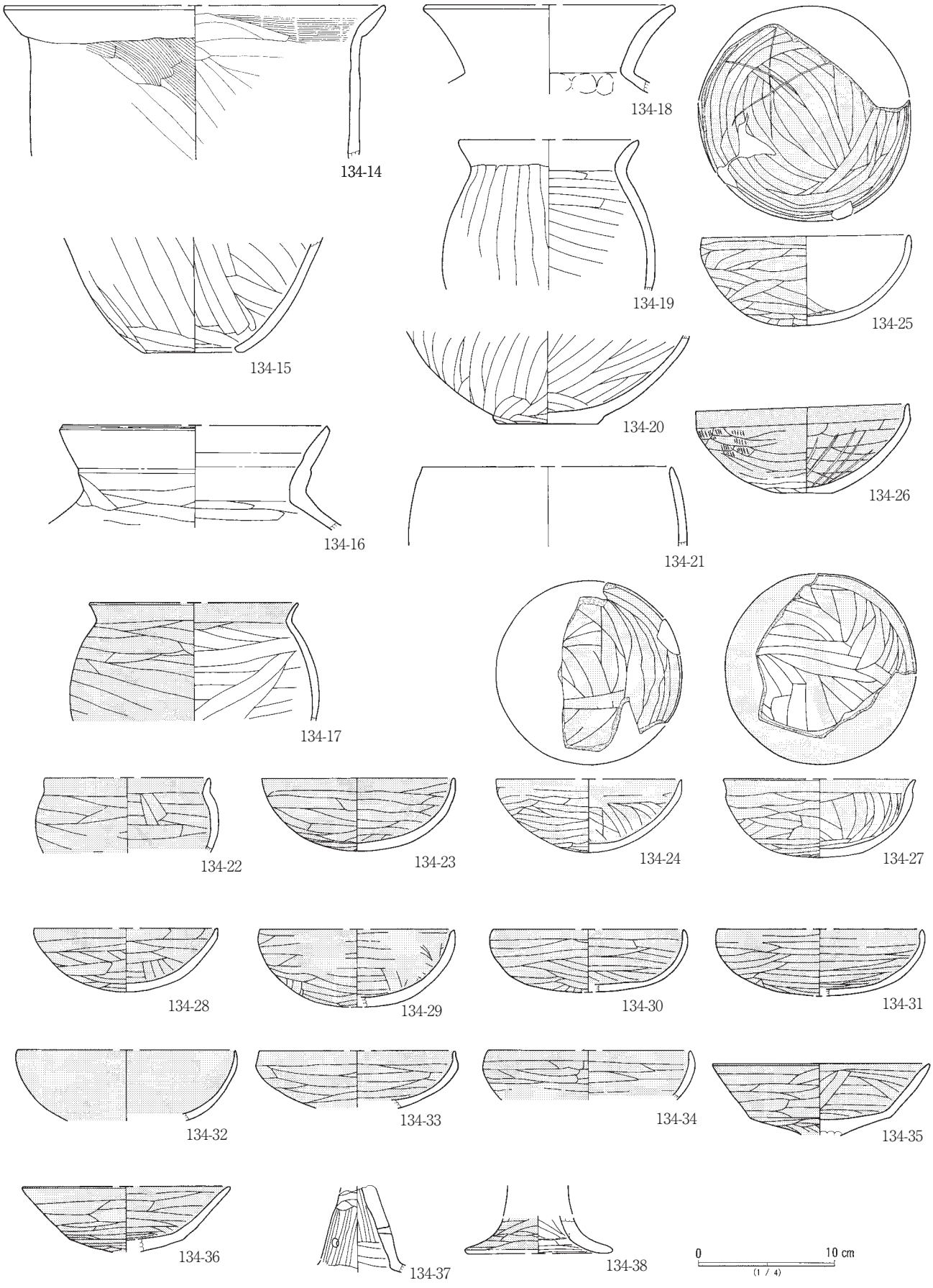
記録写真を見ると、本跡カマド・貯蔵穴上面に覆土として大量の貝ブロックが認められる。本跡廃



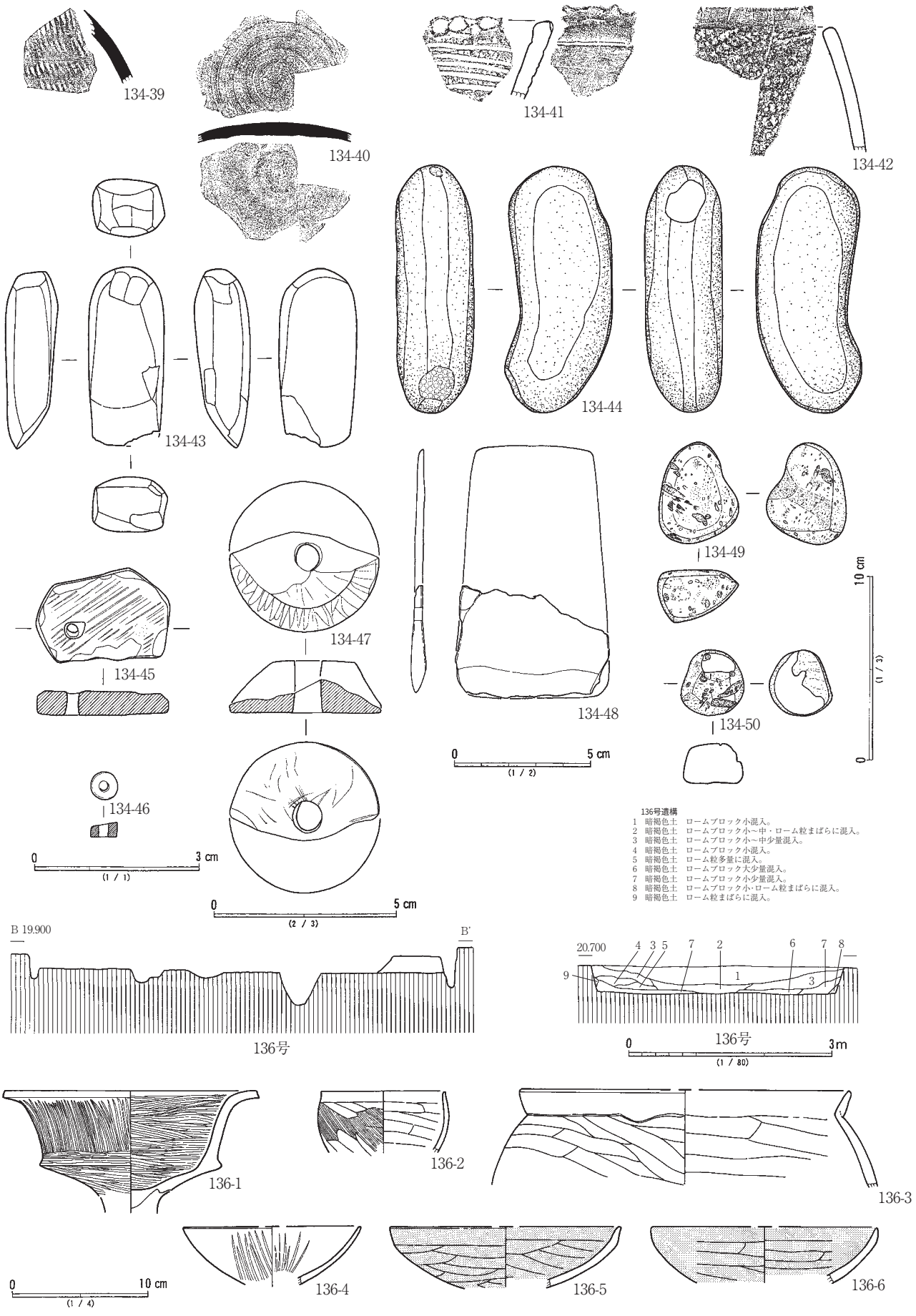
第128図　133・135号遺構実測図・133号遺構出土遺物実測図



第129図　134 ～ 137・352号遺構実測図・134号遺構出土遺物実測図



第130図　134号遺構出土遺物実測図



第131図　136号遺構実測図・134・136号遺構出土遺物実測図

絶後に投棄されたものと想定される。

遺物

本遺構からは3,017点35,530.1gの土器片と６点341.8gの礫、１点8.2gのミニチュア磨製石斧、２点15.1gの磨石、１点520gの敲石、１点18.4gの紡錘車、１点2.9gの有孔円盤、１点0.10gの臼玉、１点34.1gの板状鉄斧が検出された。土器片等の内訳は、2,376点28,390gの土師器、12点325.1gの須恵器、622点6,650gの弥生土器、２点15gの手づくね土器、１点５gの早期条痕文系土器、４点145gの縄文土器である。これらの出土遺物の内50点を図示した。

１～５・13・15・28・35～38・43・45・49は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。この他６・17～19・24・26・28は、床面から13㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

135号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号143B号。133号竪穴の南側に位置し、133号・134号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.80mを測り、検出されたピットの位置から主軸方位はN－23°－Wを示す。炉は134号住居に削平されたと想定され、検出することはできなかった。

残存する壁高は、それぞれ、東壁11㎝、西壁11㎝、北壁５㎝を測る。周溝は存在せず、床面はソフトローム層中に構築され軟弱である。ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は主柱穴と想定され、深さはＰ１が49㎝、Ｐ２が134号竪穴床面より15㎝、本跡床面換算で70㎝を測る。Ｐ３は主柱穴の位置に存在するが、深さの測定値がない。Ｐ４は主柱穴と想定される位置に破線で復元したものである。Ｐ５は深さ14㎝を測る。

遺物

本遺構からは全く遺物は出土しなかった。

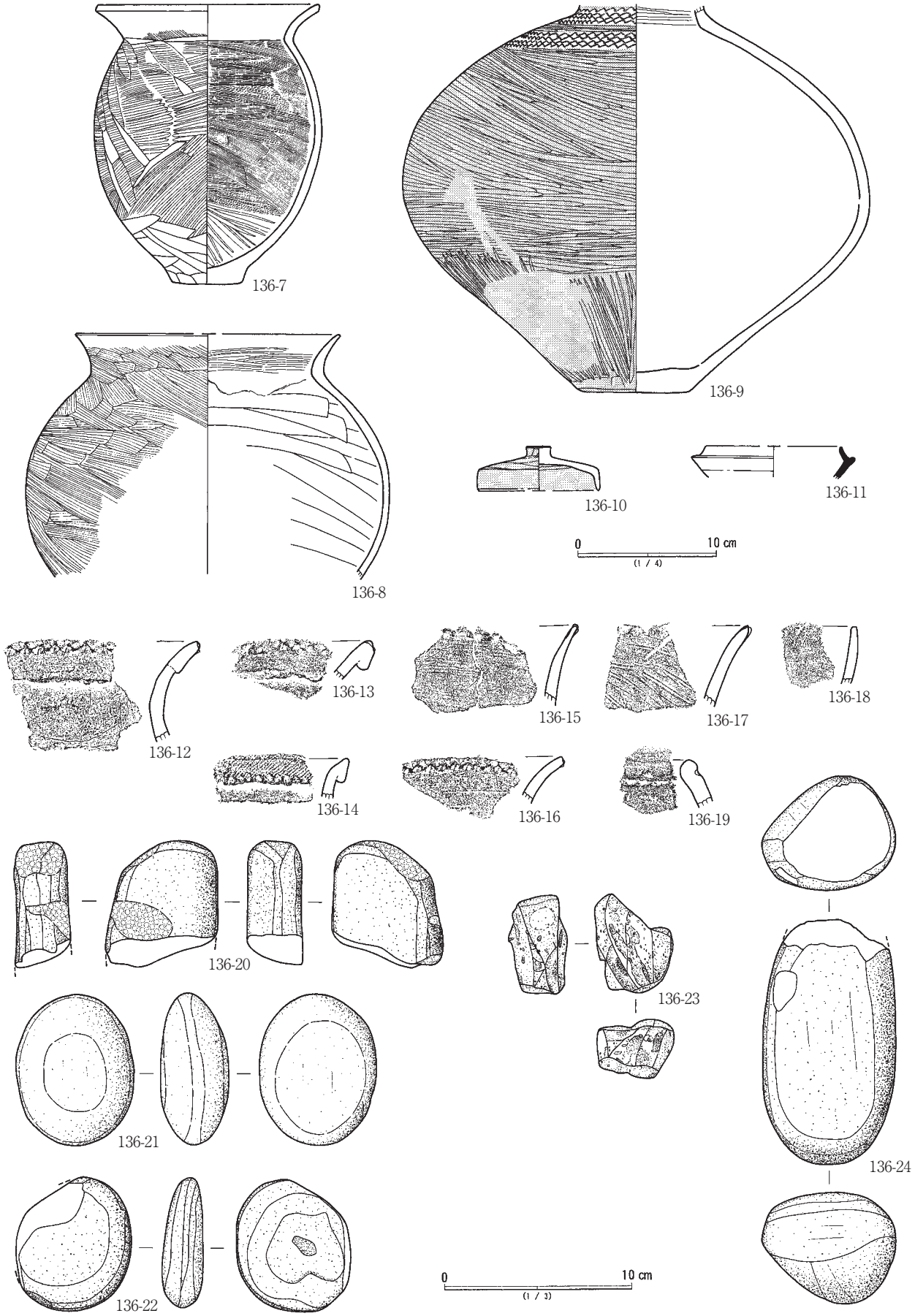
136号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号144号。134号竪穴の東側直下に位置し、134号竪穴・352号溝に覆土の一部を削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.94m短径6.39mを測り、主軸方位はN－26°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ３間の中央より南側やや東よりに偏って検出された。残存する火床長径0.64m短径0.60m深さ９㎝を測り、火床長軸方位はN－23°－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁57㎝、西壁18㎝、南壁49㎝、北壁49㎝を測る。周溝は全周し、深さは10～20㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、全体的に固く踏み固められており、ピットは19ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ５は主柱穴、Ｐ６・７は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が69㎝、Ｐ２が76㎝、Ｐ３が70㎝、Ｐ４が48㎝、Ｐ５が78㎝、Ｐ６が64㎝、Ｐ７はＰ６底面より更に50㎝を測る。Ｐ８は134号竪穴貯蔵穴の真上に存在することから、本来は本跡に伴うのではなく、134号貯蔵穴と想定される。深さは本跡床面より47㎝、134号床面換算で105㎝を測る。この他、Ｐ９が39㎝、P10が８㎝、P11が18㎝、P12が10㎝、P13が27㎝、P14が16㎝、P15が13㎝、P16が７㎝、P17が７㎝、P18が５㎝、P19が４㎝を測る。

焼土は８ヶ所に検出され、厚さは10～14㎝を測る。粘土は炉に接して検出され、厚さ４㎝を測る。

間仕切り溝は、南壁中央から長さ1.25m幅0.38～0.46m深さ18㎝に亘って検出されている。



第132図　136号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは710点13,495gの土器片と９点315gの礫、５点1,411.8gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、412点6,710gの土師器、３点48gの須恵器、290点6,657gの弥生土器、３点50gの手づくね土器、２点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内24点を図示した。

７・21・22・24は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

137号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号146号。136号竪穴の東側に位置し、136号竪穴を削平し、352号溝に覆土の一部を削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.36m短径4.30mを測り、主軸方位はN－83 °－Eを示す。カマドは東壁中央に構築され、残存する火床長径0.56m短径0.36m深さ20㎝を測り、火床長軸方位はN－83 °－Eを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁33㎝、西壁30㎝、南壁29㎝、北壁32㎝を測る。周溝は352号溝に一部削平されているが、本来は全周していたものと想定され、深さは７～15㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、全体的に固く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が57㎝、Ｐ２が75㎝、Ｐ３が65㎝、Ｐ４が66㎝、Ｐ５が39㎝を測る。

焼土は３ヶ所に検出されたが測定値はない。炭化物は３ヶ所に検出されている。

遺物

本遺構からは247点12,308gの土器片と１点22gの礫、２点549gの磨石、１点88gの砥石が検出された。土器片等の内訳は、198点11,868gの土師器、49点440gの弥生土器である。これらの出土遺物の内15点を図示した。

１～４・７～11は、床直ないしはカマドや貯蔵穴内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

138号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号138B号。136号竪穴の北側に位置し、136号竪穴・352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径2.84m短径2.18mを測り、火床施設は352号溝に削平されたと想定され、検出されない。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁８㎝、北西壁12㎝、南西壁10㎝を測り、周溝は検出されない。

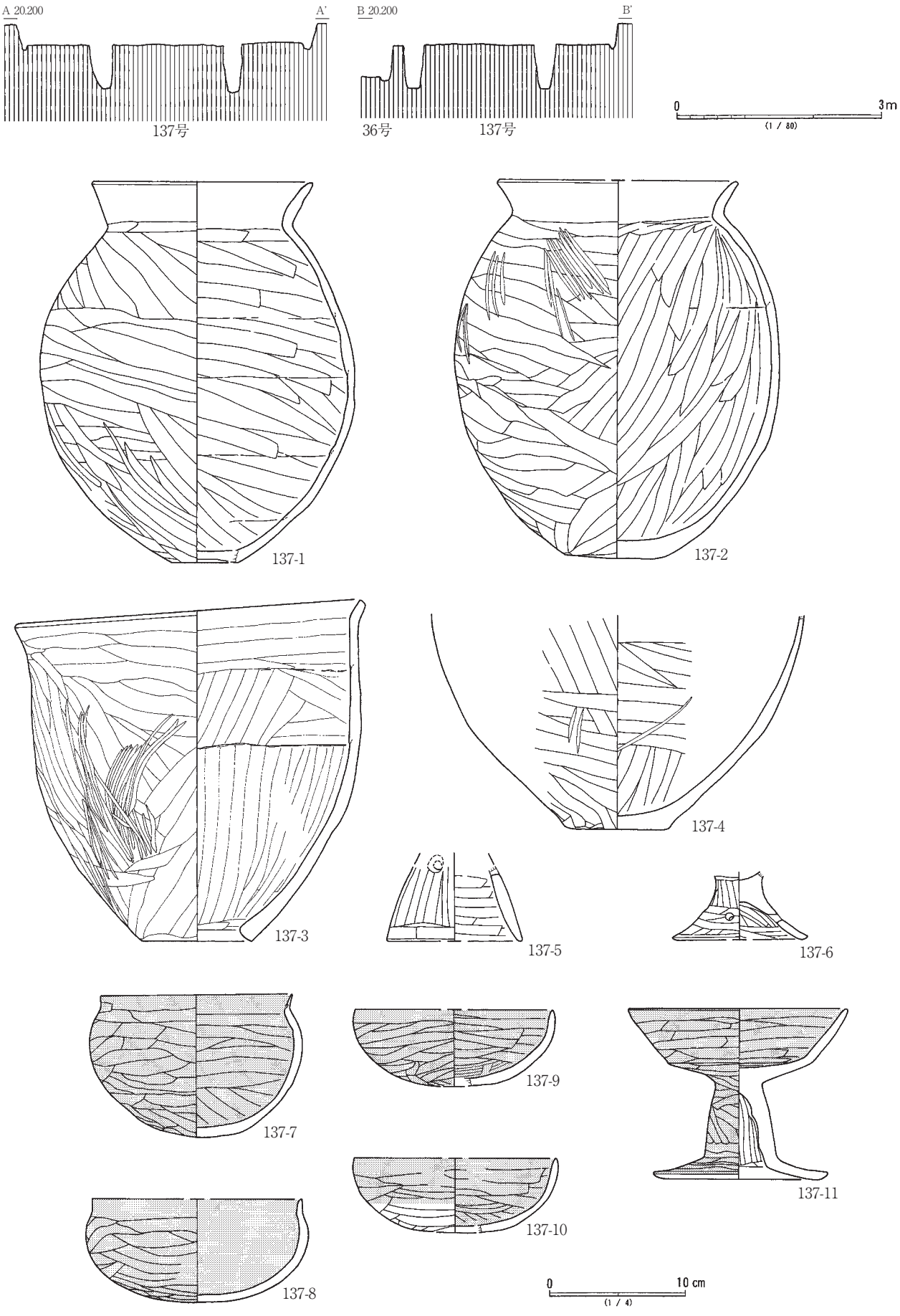
床面はソフトローム層中に構築され、軟弱であり、ピット等も検出されない。

遺物

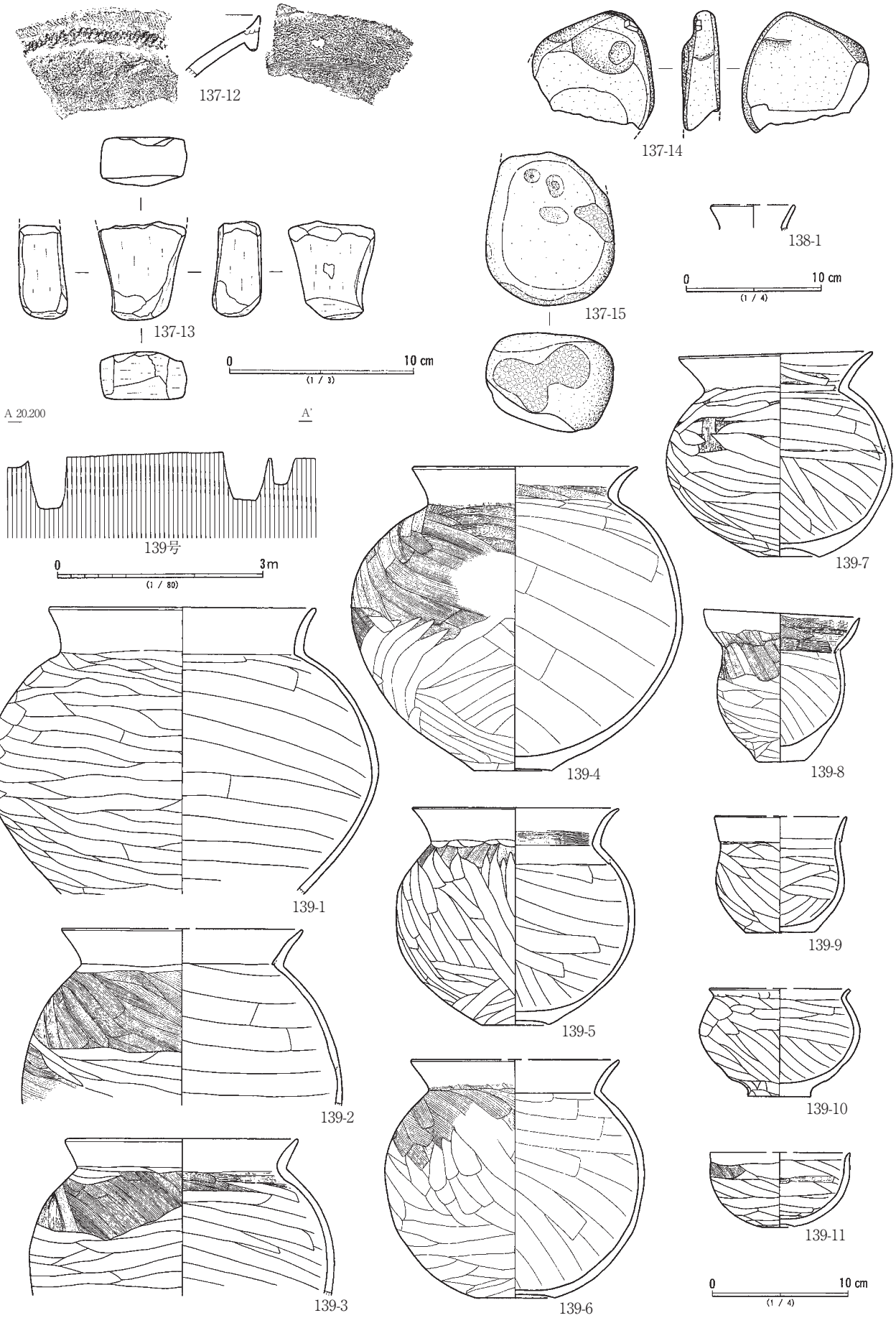
本遺構からは35点187.3gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、14点87.3gの土師器、21点100gの弥生土器であるが、何れも小片である。これらの出土遺物の内１点を図示した。

本遺構出土遺物は何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

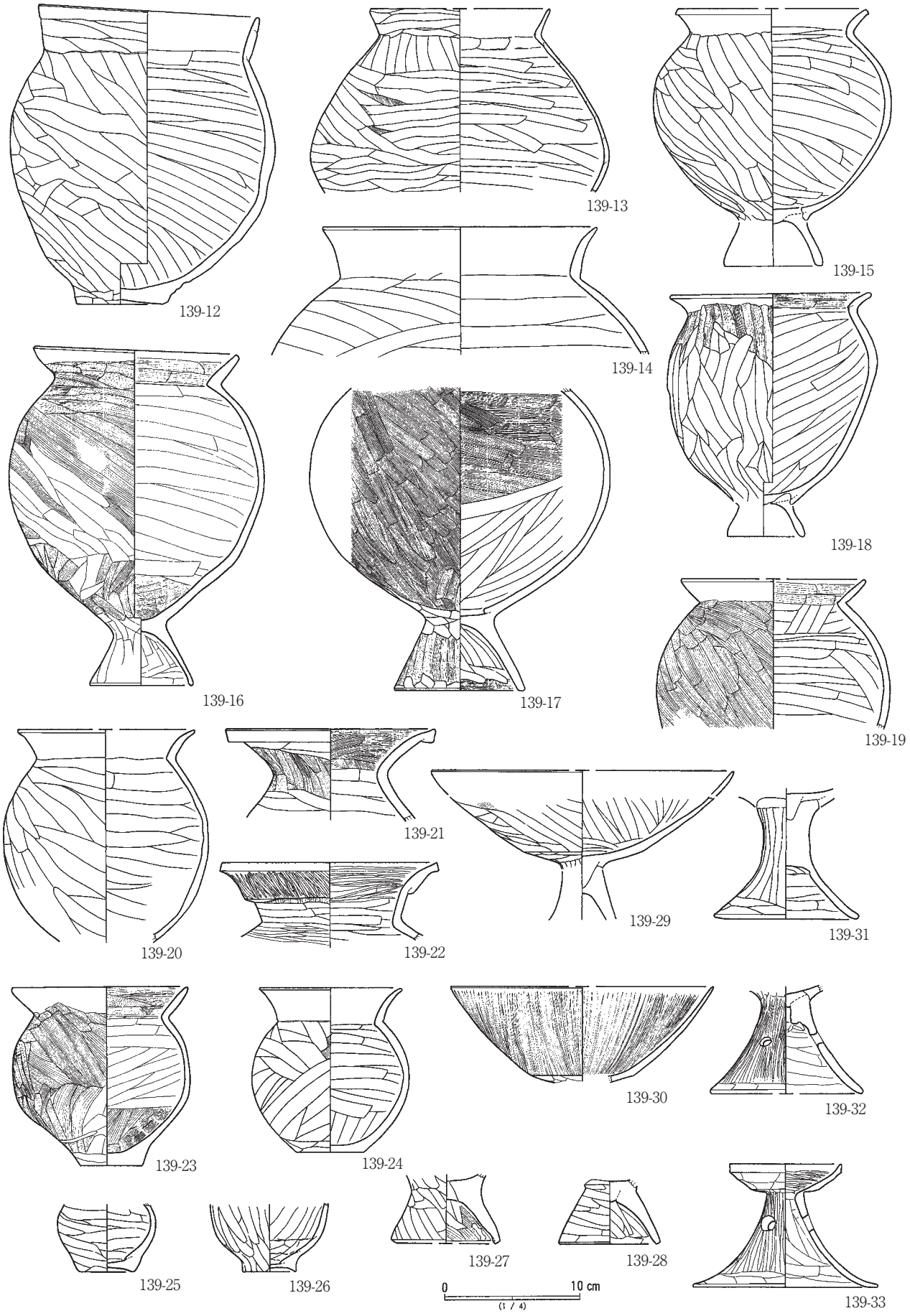
139号遺構（竪穴住居跡）



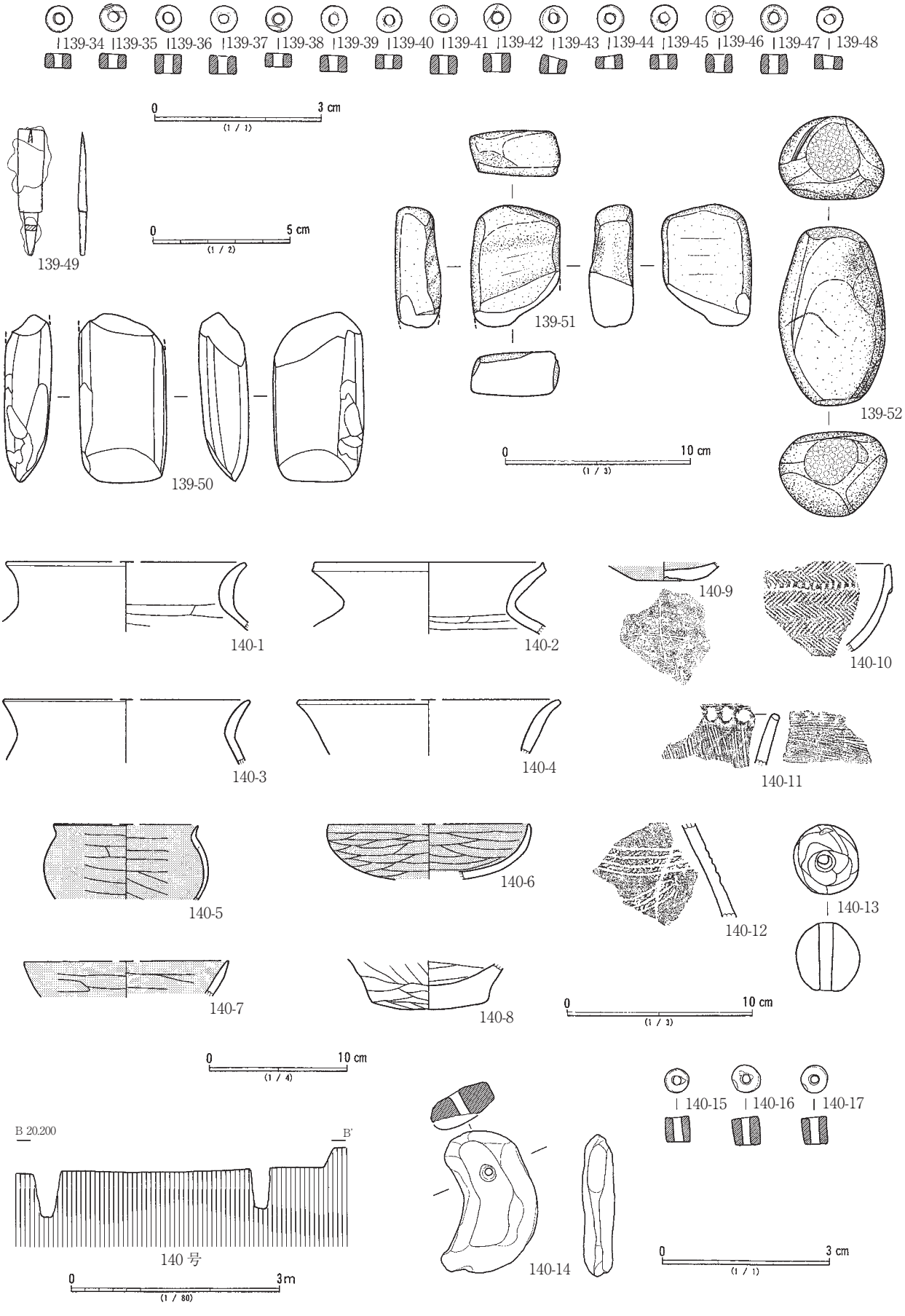
第133図　137号遺構実測図・出土遺物実測図



第134図　139号遺構実測図・137 ～ 139号出土遺物実測図



第135図　139号遺構出土遺物実測図



第136図　140号遺構実測図・139・140号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号132号。138号竪穴の北側に位置し、140号竪穴を削平し、131号・143号竪穴・352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.15m短径6.03mを測り、主軸方位はN－48°－Eを示す。炉は352号溝に削平されたと想定され未検出であるが、位置的にはＰ１・Ｐ２間ないしはＰ２・Ｐ５間に存在したと推定される。

残存する壁高は、それぞれ、北東壁27㎝、北西壁９㎝、南西壁35㎝を測るが、南東壁の測定値はない。周溝は352号溝に一部削平されているが、本来は全周していたものと想定され、深さは５～11㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、全体的に固く踏み固められており、ピットは９ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴と想定され、深さはＰ１が74㎝、Ｐ２が113㎝、Ｐ４が70㎝、Ｐ５が77㎝を測る。この他Ｐ３が41㎝、Ｐ６が53㎝、Ｐ７が79㎝、Ｐ８が14㎝、Ｐ９が13㎝を測る。

遺物

本遺構からは1,757点35,760gの土器片と７点480gの礫、１点182gの磨製石斧、１点90gの砥石、１点350gの磨石、15点2.10gの臼玉、１点5.1gの鉄鏃、20点494gの磨耗した布目瓦が検出された。土器片等の内訳は、1,086点28,760gの土師器、２点35gの須恵器、666点6,915の弥生土器、３点50gの縄文土器である。これらの出土遺物の内52点を図示した。

５・７・８・13・15～20・22～24・26・30～32・34～48・49～51は、床直ないしはカマドや貯蔵穴内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括や床面から10㎝以上高い位置で取上げられている。なお、平面図上の臼玉は本遺構出土臼玉の出土地点と判断される。

140号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号133号。139号竪穴の北側に隣接し、139号竪穴を削平し・143号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径5.04m短径3.10mを測り、検出されたＰ１・Ｐ２の位置から、139号竪穴Ｐ５付近にコーナーが所在するものと想定されるが、このあたりの大半は352号溝に削平されて詳細不明である。

残存する壁高は、東壁20㎝を測る。床面はハードローム層中に構築され、床面が検出されたＰ１・Ｐ２周辺は固く踏み固められているが、西南コーナー部は掘り足りていない感があるほど軟弱である。周溝は存在せず、ピットは２ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と想定され、深さはＰ１が57㎝、Ｐ２が54㎝を測る。

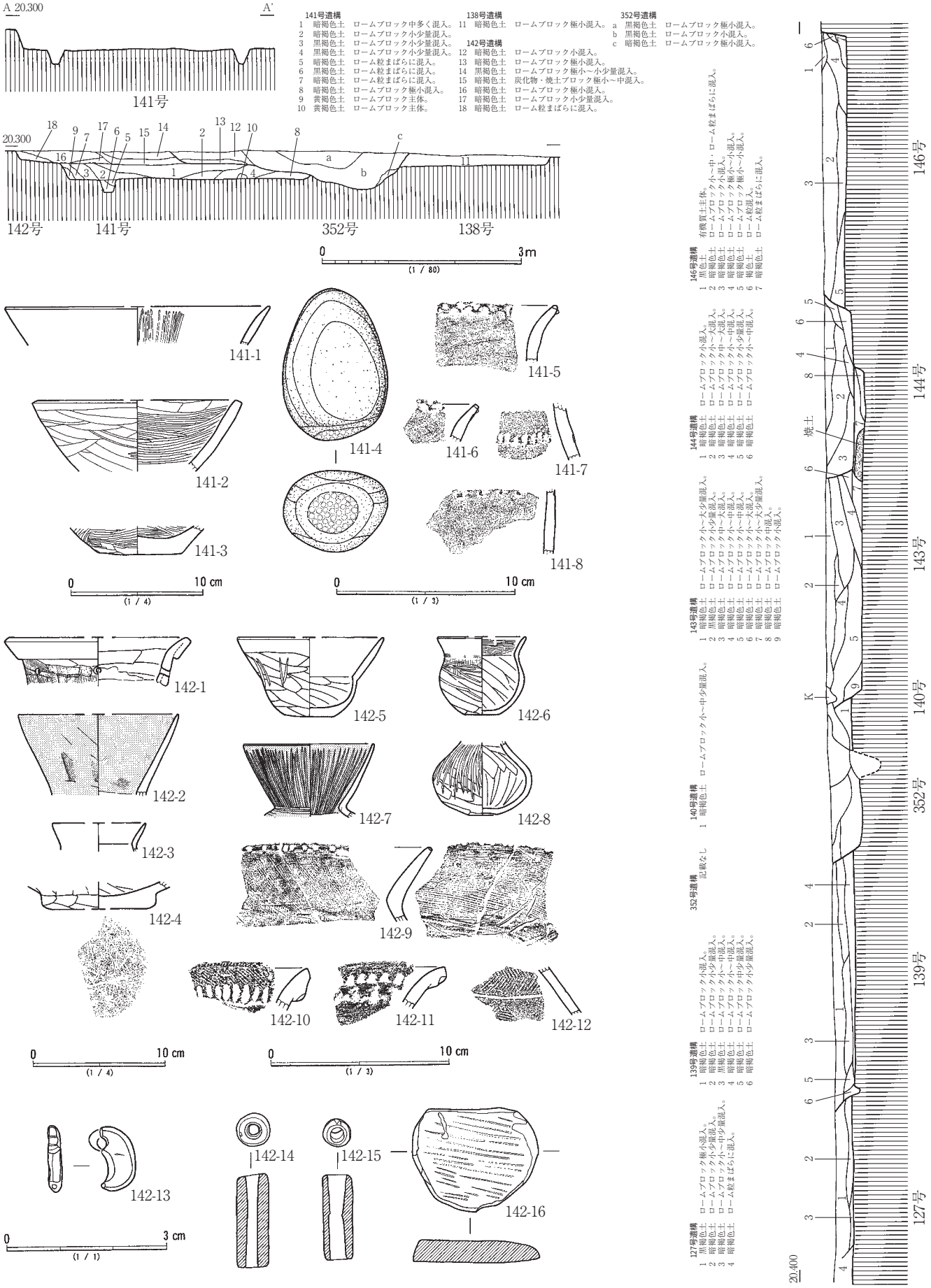
遺物

本遺構からは783点9,757gの土器片と１点3.21gの扁平勾玉、３点0.76gの臼玉、１点46.2gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、563点8,070gの土師器、１点30gの須恵器、218点1,645の弥生土器、１点12gの縄文土器である。これらの出土遺物の内17点を図示した。

14～17の玉類は、平面図にドットで示せないが、注記に床面出土と記されるので、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

141号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号145号。136号竪穴の東側に位置し、142号竪穴を削平し、352号溝に覆土



第137図　127・138～144・146・352号遺構実測図・141・142号遺構出土遺物実測図

の一部を削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.70m短径3.45mを測り、主軸方位はN－22°－Wを示す。炉は中央より北側に偏って検出され、残存する火床長径0.70m短径0.50m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－13°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁19㎝、西壁30㎝、南壁45㎝、北壁22㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、全体的に固く踏み固められており、ピットは８ヶ所に検出された。深さはＰ１が16㎝、Ｐ２が23㎝、Ｐ３が11㎝、Ｐ４が17㎝、Ｐ５が20㎝、Ｐ６が15㎝、Ｐ７が22㎝を測る。

遺物

本遺構からは52点813gの土器片と４点245gの礫、１点322gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、19点523gの土師器、33点290gの弥生土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

３は、床面から６㎝浮いた状態で検出され、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

142号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号138A号。141号竪穴と大部分重複して存在し、141号竪穴・352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径4.20m短径3.52mを測るが、火床施設は削平され未検出である。

残存する壁高は、それぞれ、東壁20㎝、南壁15㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、平坦で全体的に固く踏み固められているが、ピット等は検出されなかった。

遺物

本遺構からは176点2,297gの土器片と３点155gの礫、３点626gの石器が検出された。土器片等の内訳は、112点1,765gの土師器、４点35gの須恵器、59点492gの弥生土器、１点５gの縄文土器である。これらの出土遺物の内19点を図示した。

５・８は、床面ないしは床直上で検出され、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物については何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

143号遺構（竪穴住居跡）

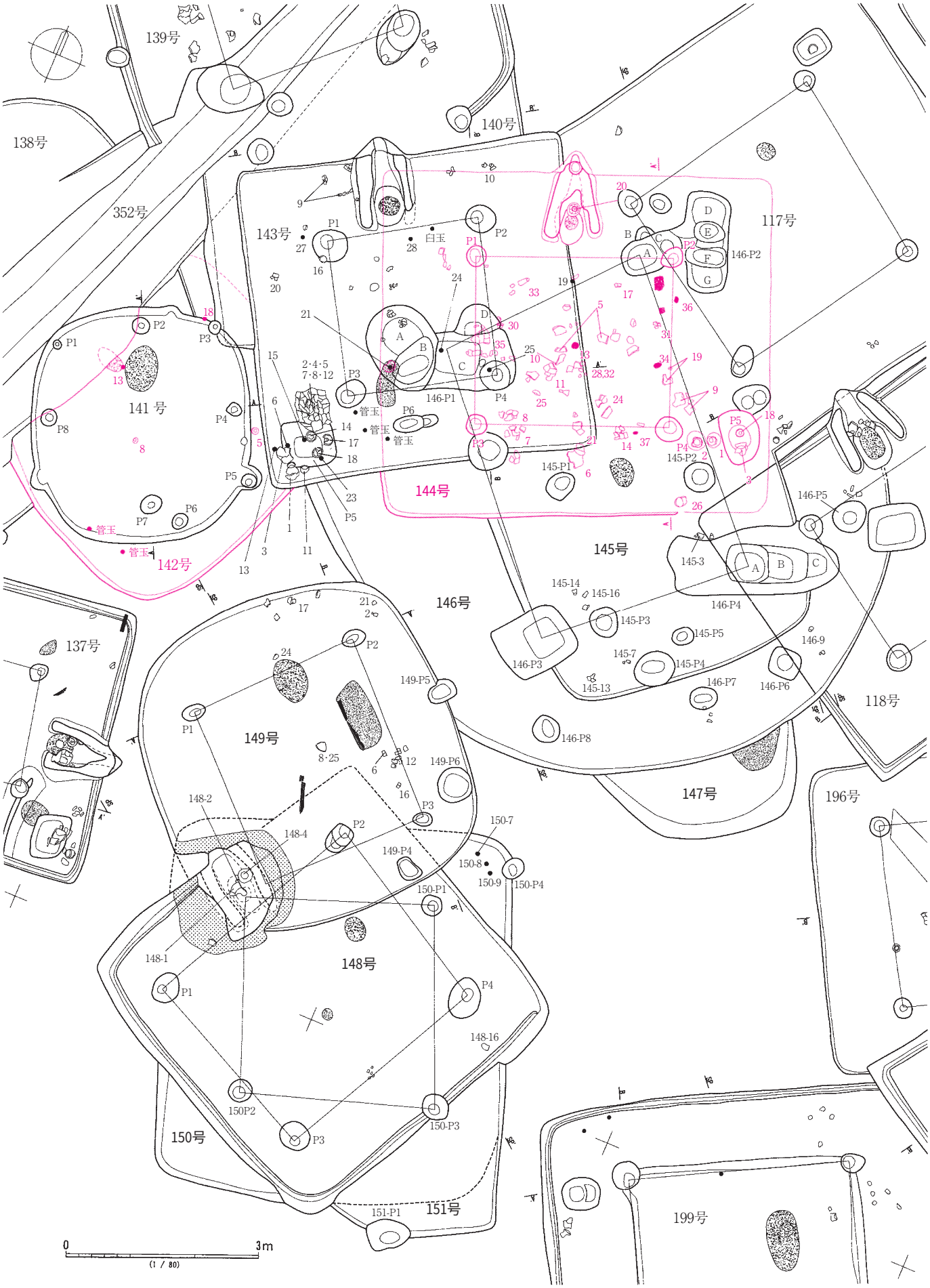
昭和53年度調査時遺構番号134号。140号竪穴の南側に位置し、144号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.06m短径4.87mを測り、主軸方位はN－31°－Wを示す。カマドは北壁中央やや南側に偏って構築され、残存する火床長径0.30m短径0.32m深さ14㎝を測り、火床長軸方位はN－30°－Wを示す。

残存する壁高は、それぞれ、東壁12㎝、西壁32㎝、南壁26㎝、北壁49㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に構築され、全体的に固く踏み固められており、ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴、Ｐ６は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が62㎝、Ｐ２が77㎝、Ｐ３が70㎝、Ｐ４が66㎝、Ｐ５が91㎝、Ｐ６が15㎝を測る。

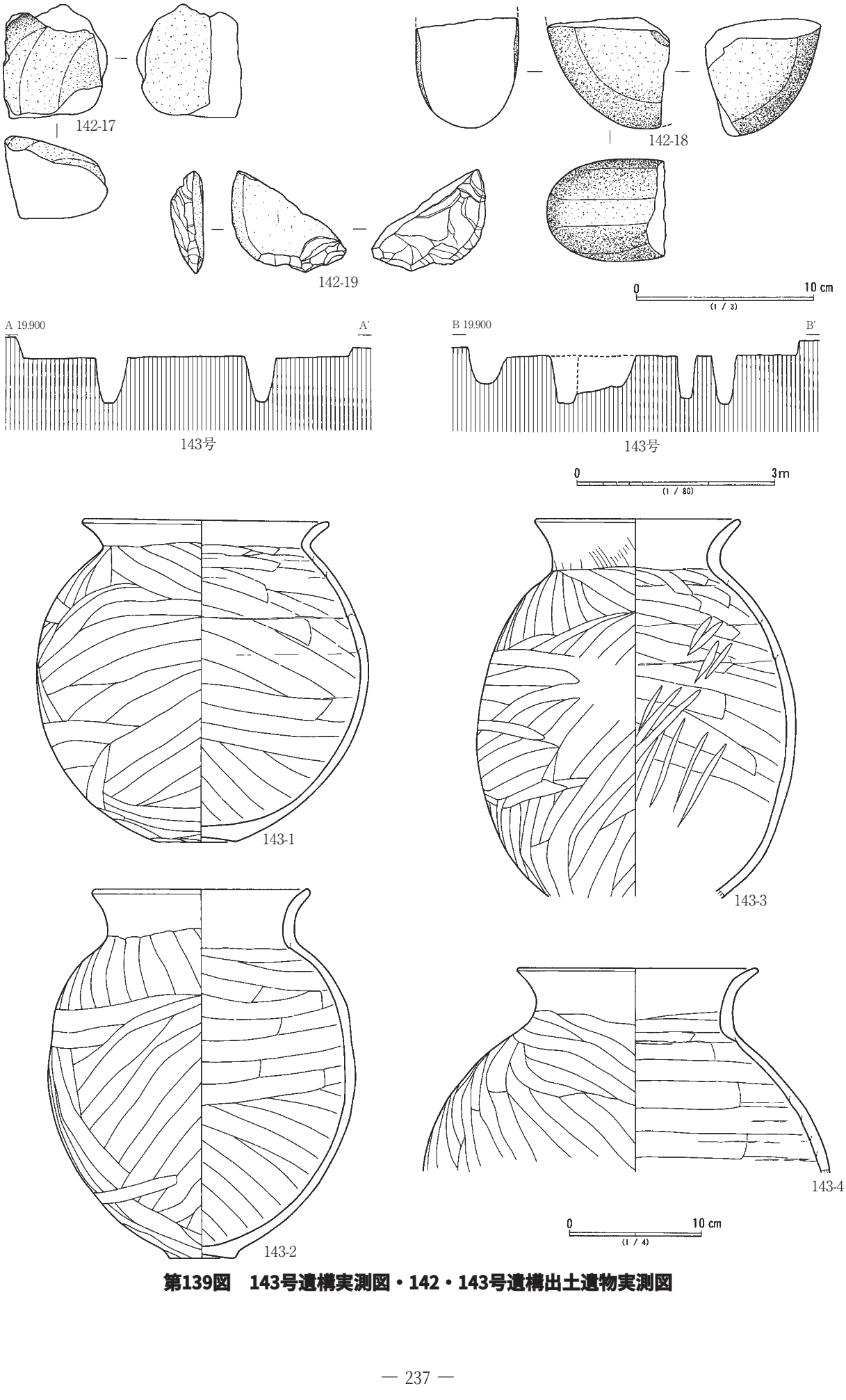
焼土は１ヶ所に検出され、厚さ14㎝を測る。

遺物

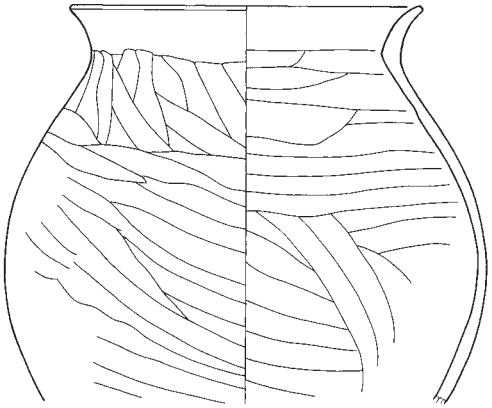
本遺構からは587点24,119gの土器片と１点50gの礫、１点810gの磨石・凹石、１点0.09gのガラス

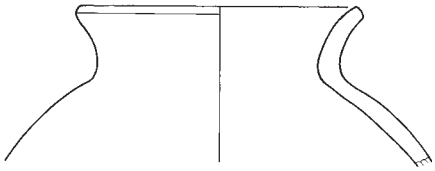


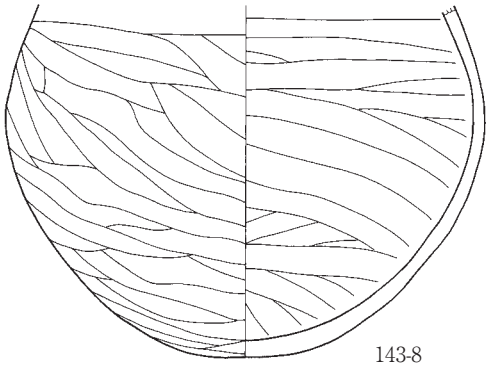
第138図　144 ～ 151号遺構実測図

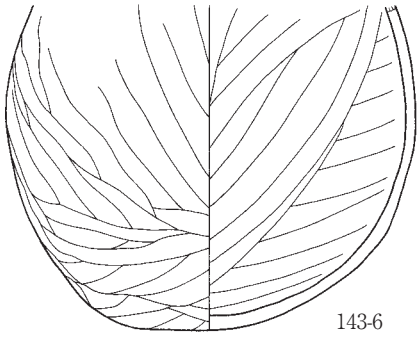


第139図　143号遺構実測図・142・143号遺構出土遺物実測図

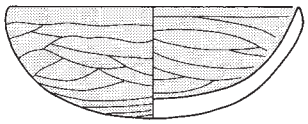

143-5

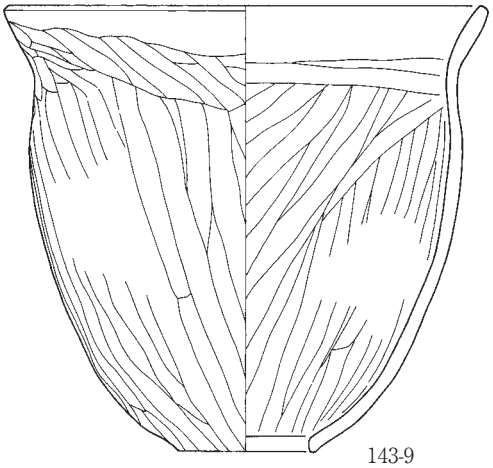

143-7

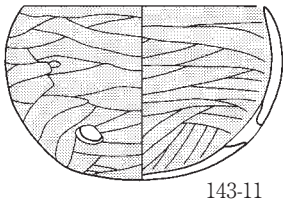

143-8

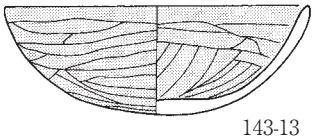

143-6

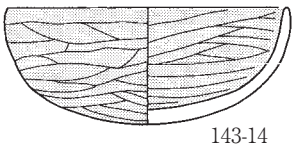
143-10

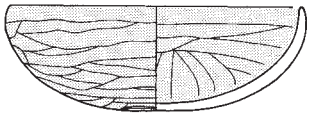

143-12

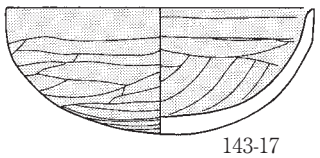

143-9

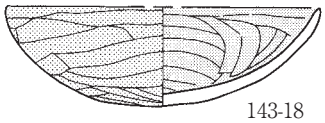

143-11

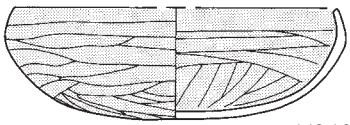

143-13

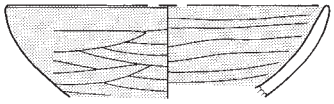

143-14

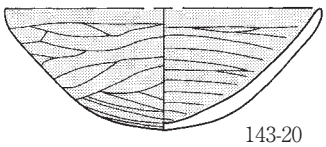

143-15

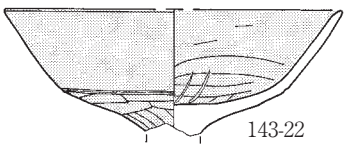

143-17

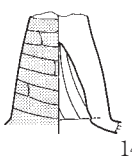

143-18

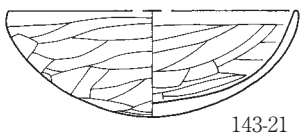

143-16

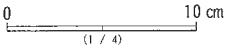

143-19


143-20

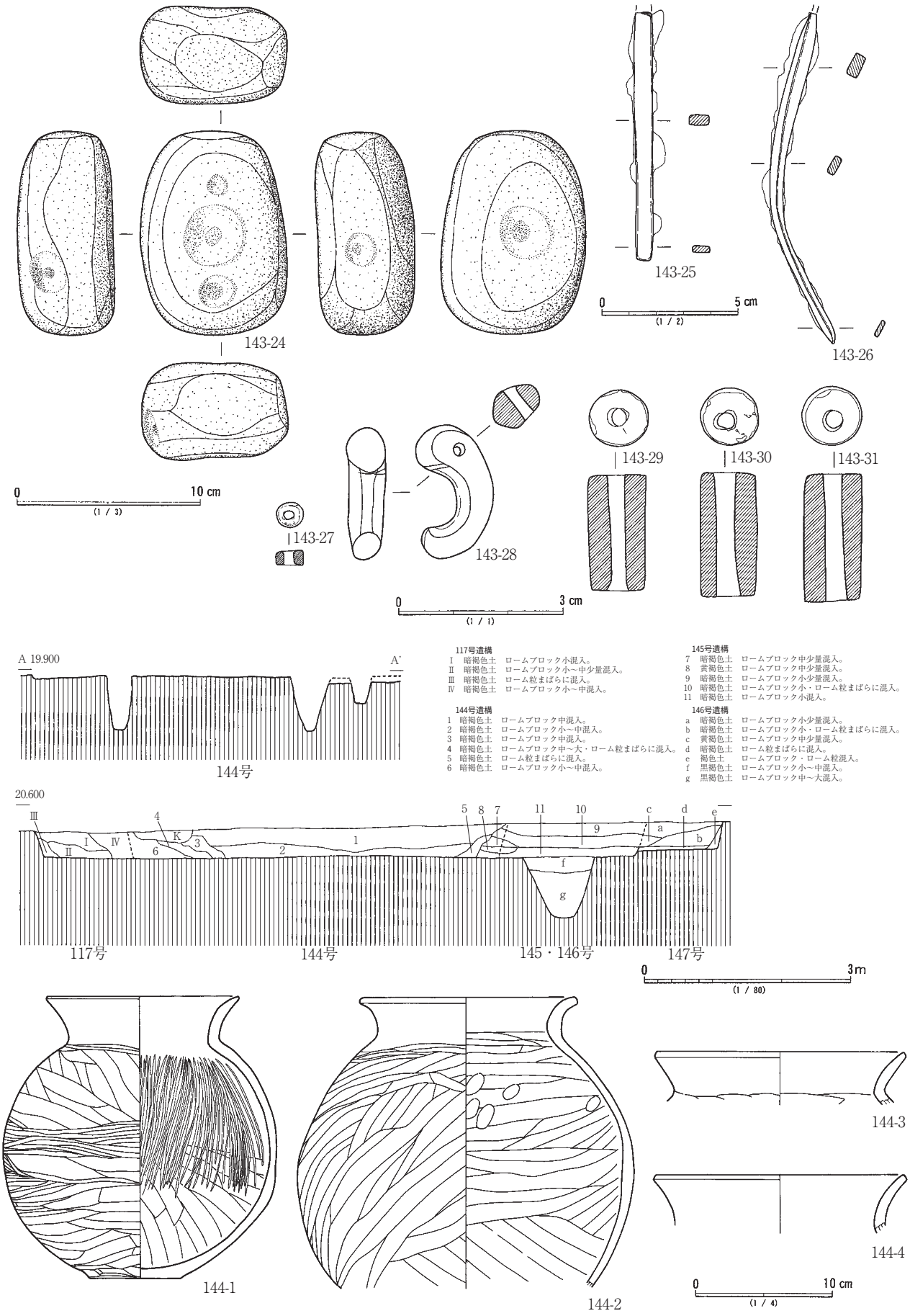

143-22


143-23


143-21



第140図　143号遺構出土遺物実測図



第141図　117・144～146号遺構実測図・143・144号遺構出土遺物実測図

玉、１点3.2gの翡翠製勾玉、３点15.2gの滑石製管玉、２点18.8gの鉄器が検出された。土器片等の内訳は、478点23,260gの土師器、１点４gの須恵器、107点835gの弥生土器、１点20gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内31点を図示した。

23以外は、床直ないしはカマド付近や貯蔵穴内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。なお、本跡は続く144号竪穴と重複関係を有しており、非常に重要な遺構である。

144号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号135号。143号竪穴の東側に隣接し、143号竪穴の上に貼床をもって構築される竪穴住居跡である。長径6.12m短径5.36mを測り、主軸方位はN－22°－Wを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する火床長径0.20m短径0.17m深さ６㎝を測り、火床長軸方位はN－20°－Wを示す。

残存する壁高は南壁12㎝だけで、周溝は存在せず、床面は貼床であるが全体的に固く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が71㎝、Ｐ２が78㎝、Ｐ３が70㎝、Ｐ４が78㎝、Ｐ５が76㎝を測る。

なお、本遺構が143号竪穴のカマドを削平することは、記録写真からも判断できる。

遺物

本遺構からは1,515点35,287gの土器片と13点370gの礫、１点691gの敲石・磨石、２点133gの砥石、１点1.6gの軽石、２点886gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、1,374点33,825gの土師器、２点82gの須恵器、137点1,354gの弥生土器、１点６gの手づくね土器、１点20gの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内37点を図示した。

１～３・５～８・10・11・13・15～21・23・25～28・30～32・33～37は、床直ないしはカマド付近や貯蔵穴内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。なお、本跡はTK－216型式期と想定される。本跡と重複する143号竪穴の時期は本跡よりも確実に古段階ではあるが、その土器様式はほとんど大差のないことが窺い知れる。

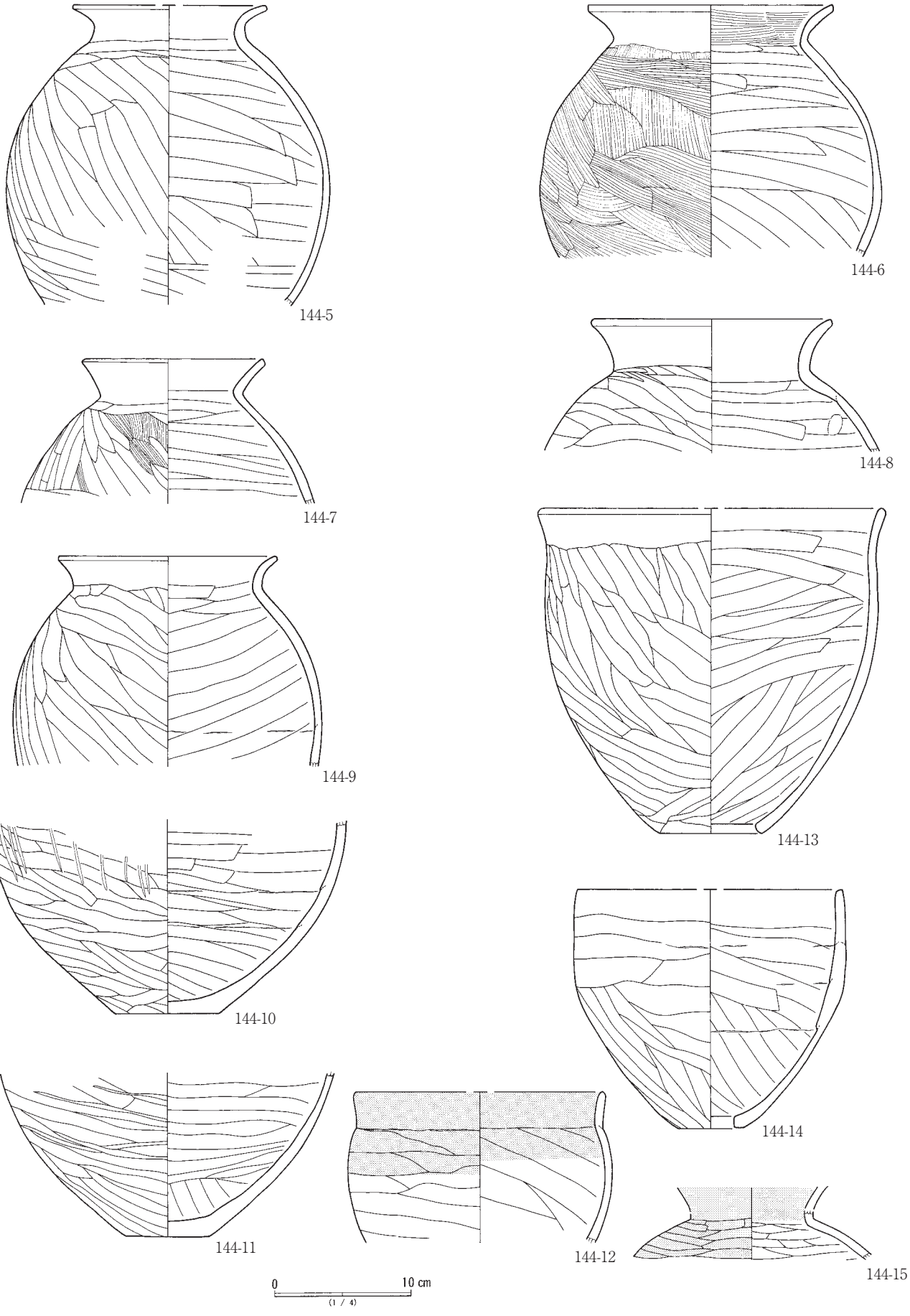
145号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号136号。144号竪穴の南側に隣接し、143号・144竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径3.60m短径4.58mを測り、主軸方位はN－42°－Wを示す。炉は中央やや北側に偏って検出され、残存する火床長径0.48m短径0.32mを測り、深さの記載はない。火床長軸方位はN－44°－Wを示す。

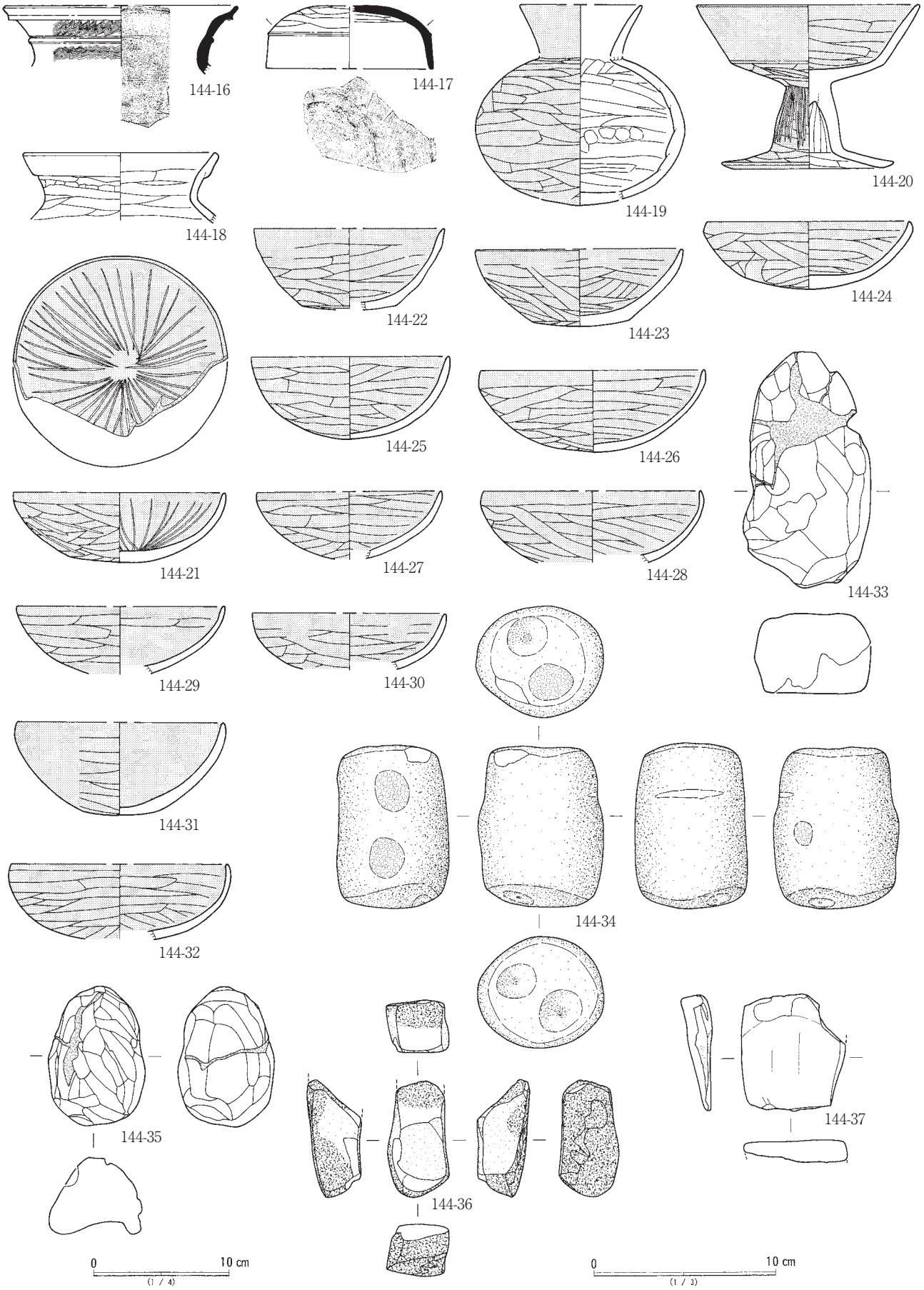
残存する壁高は北東壁20㎝、南東壁５㎝、南西壁７㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ全体的に固く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。その位置からＰ１・Ｐ３は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が144号竪穴床面から67㎝、本跡床面換算で70㎝を測る。Ｐ２が同じく144号竪穴床面から78㎝、本跡床面換算で81㎝を測る。Ｐ３が54㎝、Ｐ４が32㎝、Ｐ５が36㎝を測る。

遺物

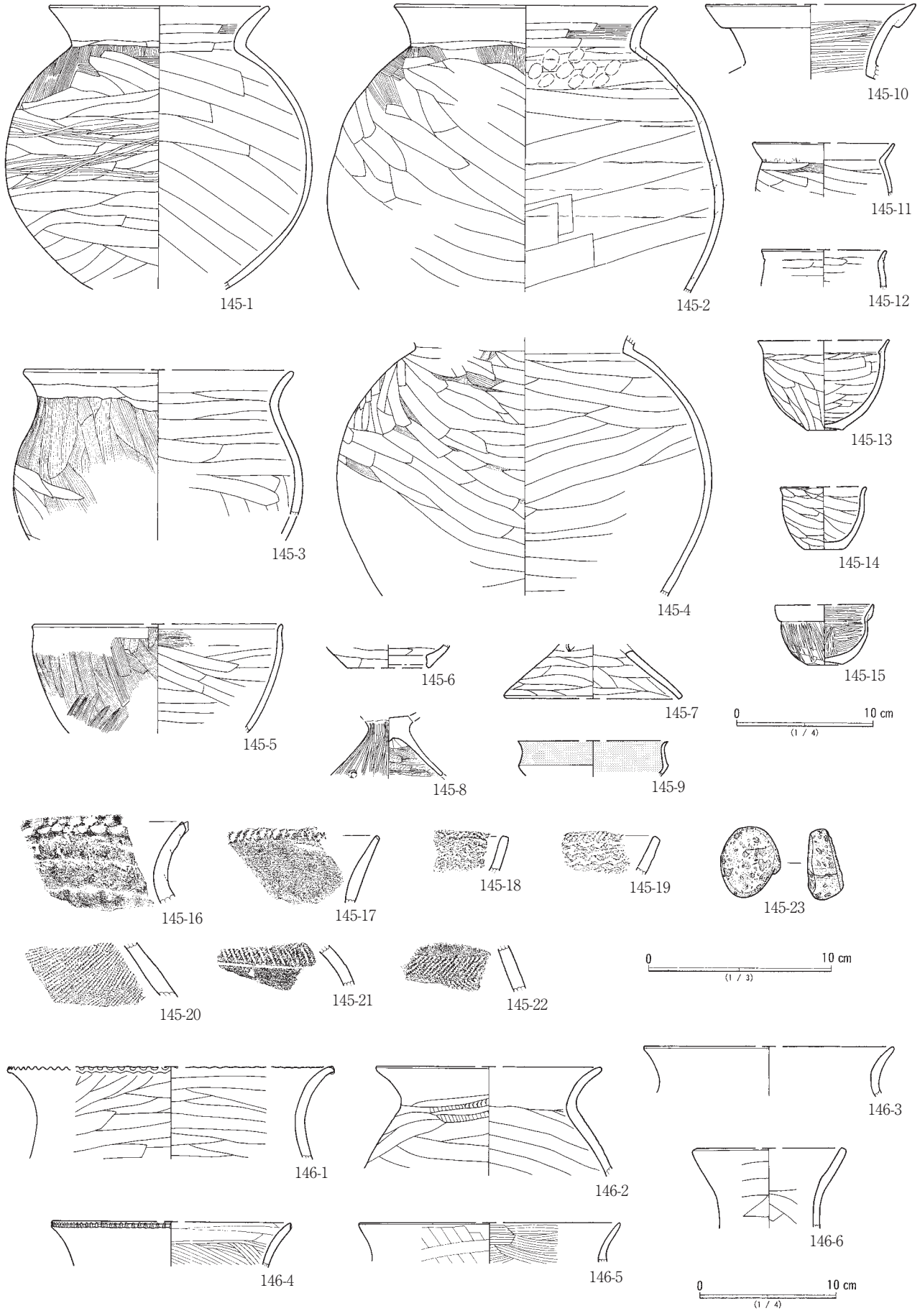
本遺構からは580点11,875gの土器片と13点610gの礫、１点5.5gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、393点9,765gの土師器、183点2,004gの弥生土器、１点60gのミニチュア土器、１点６gの早期条痕文系土器、２点40gの縄文土器である。これらの出土遺物の内23点を図示した。



第142図　144号遺構出土遺物実測図１



第143図　144号遺構出土遺物実測図２



第144図　145・146号遺構出土遺物実測図

７・13・14は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。16も床直で検出されるが、本跡に伴うかどうかは微妙である。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており出土地点を明示できるものはない。

146号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号137A号。本遺跡の中央部に存在し、147号竪穴を削平し、117号・118号・140号・143号・144号・145竪穴に削平されて存在する巨大竪穴住居跡である。推定長径は10.00m短径8.60mを測り、主軸方位はN－41°－Wを示す。炉は143号･144号竪穴に削平されて未検出であるが、Ｐ１・Ｐ２間の中央部付近に存在したものと想定される。

残存する壁高は北東壁４㎝、南東壁41㎝、南西壁29㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ全体的に固く踏み固められており、ピットは８ヶ所に検出されるが、柱抜き取りもしくは倒立に用いられたのか段掘りの形状を留める。その位置からＰ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ６・Ｐ７は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が143号竪穴床面からAが60㎝ Bが84㎝ Cが77㎝ Dが45㎝、本跡床面換算でそれぞれ81・105・98・66㎝を測る。同じくＰ２は117号竪穴床面からAが83㎝ Bが53㎝ Cが69㎝ Dが61㎝ Eが68㎝ Fが69㎝ Gが56㎝、本跡床面換算でそれぞれ90・60・76・68・75・76・63㎝を測る。Ｐ３は134㎝、Ｐ４はAが117㎝ Bが91㎝ Cが28㎝を測る。この他Ｐ５が58㎝、Ｐ６が70㎝、Ｐ７が24㎝、Ｐ８が43㎝を測る。

なお本跡主柱穴は、当初土坑７・８号として調査されていたことを申し加えておく。

遺物

本遺構からは335点4,098gの土器片と13点600gの礫、１点8.50gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、111点1,658gの土師器、224点2,440gの弥生土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

９は、床直上で検出されているが、本跡に直接伴うかどうかは微妙である。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており出土地点を明示できるものはない。

147号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号137B号。本遺跡の中央部に存在する竪穴住居跡である。残存長径3.24m短径1.22mを測る。

残存する壁高は北東壁28㎝、南東壁28㎝、南西壁26㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれるが軟弱であり、ピットは検出されなかった。

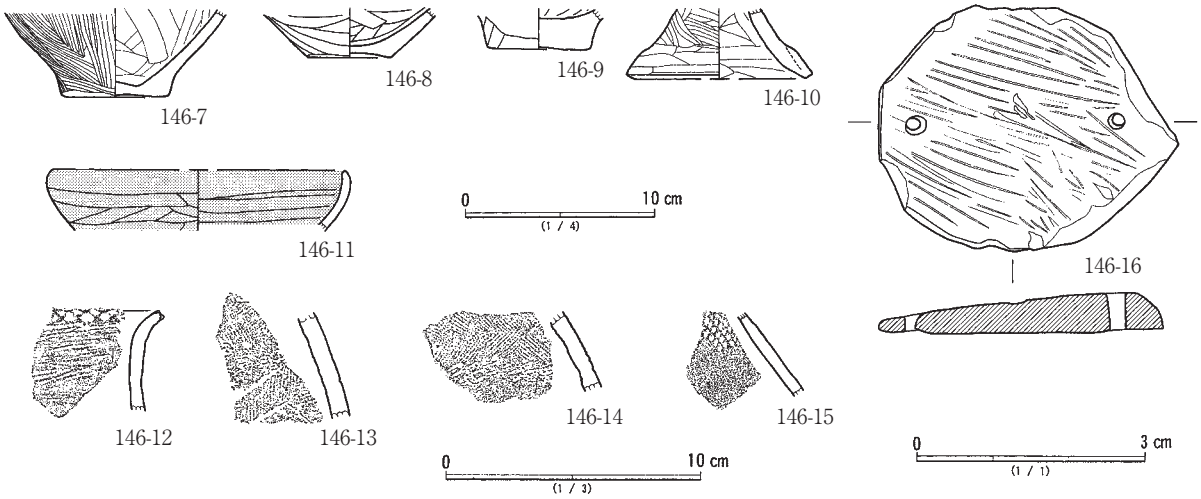
焼土は１ヶ所に検出され、厚さ１㎝を測る。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

148号遺構（竪穴住居跡）

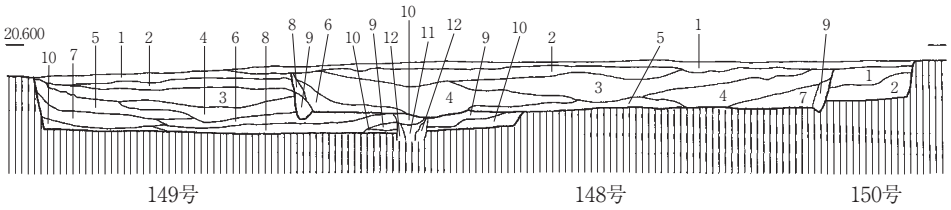
昭和53年度調査時遺構番号141A号。143号竪穴の南側に位置し、149号・150号・151号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.34m短径5.26mを測り、カマドは北西壁中央に構築されるが未調査である。残存する壁高は北東壁52㎝、南東壁52㎝、南西壁44㎝、北西壁45㎝を測り、残存する周溝は深さ３～８㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ固く踏み固められており、ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が74㎝、Ｐ２は149

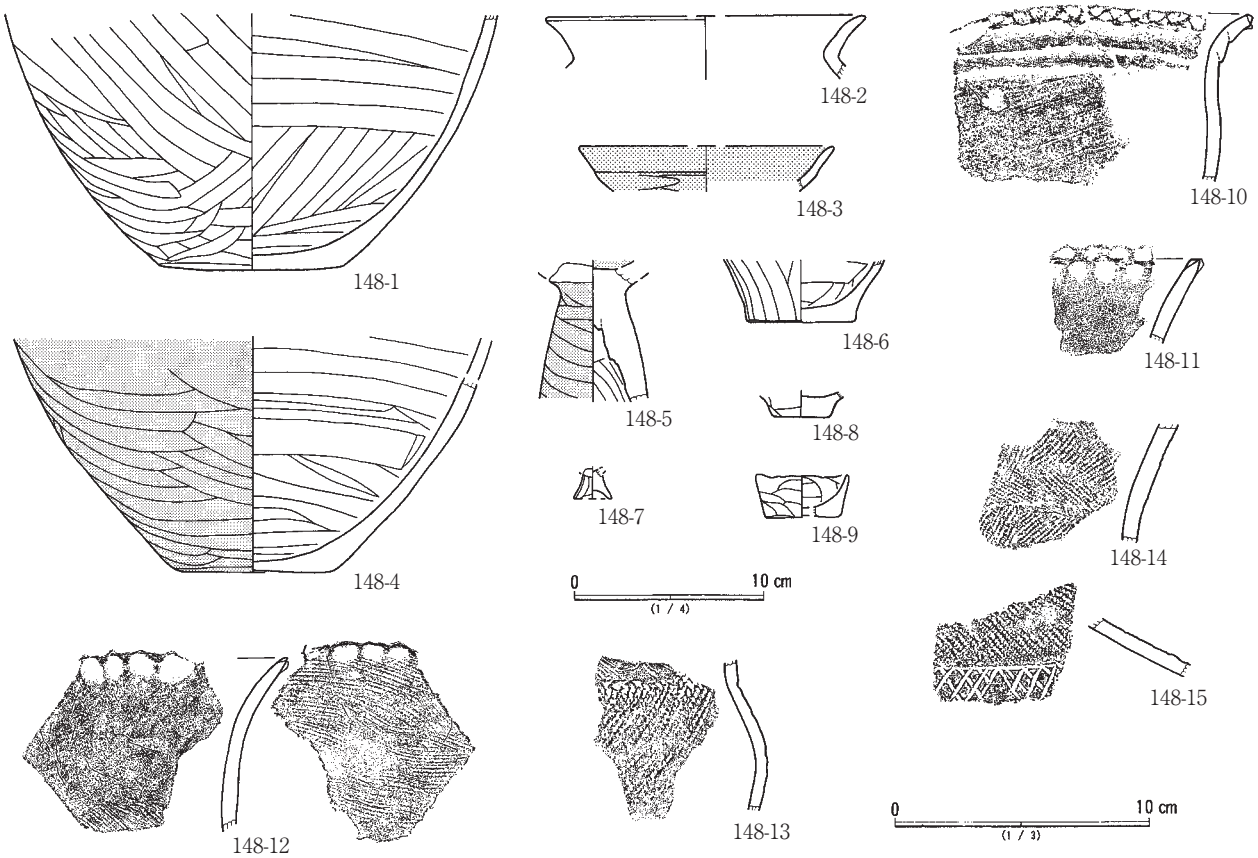


149号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～大・ローム粒まばらに混入。
3 黒褐色土 ロームブロック中混入。
4 黒褐色土 ロームブロック小～大少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小混入。
6 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
7 暗褐色土 ロームブロック極小・ローム粒まばらに混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
9 褐色土 ローム粒まばらに混入。
10 暗褐色土 ロームブロック少量混入。

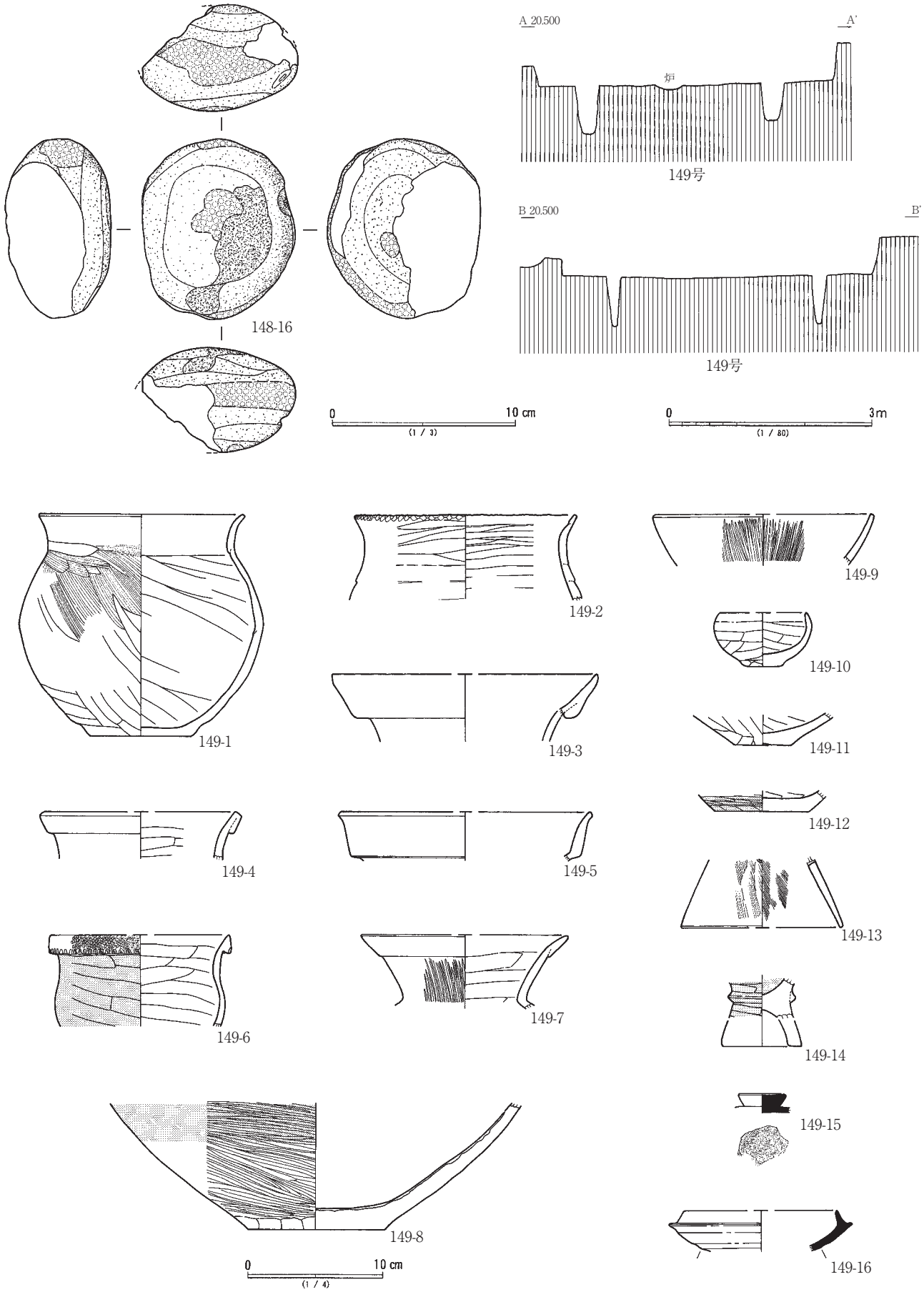
148号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中～大少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
7 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
10 暗褐色土 ロームブロック小混入。
11 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
12 褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。

150号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
2 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。





第145図　148 ～ 150号遺構実測図・146・148号遺構出土遺物実測図



第146図　149号遺構実測図・148・149号遺構出土遺物実測図

号竪穴床面から50㎝、本跡床面換算で70㎝を測る。Ｐ３が75㎝、Ｐ４が72㎝を測る。

焼土は１ヶ所に検出されるが、厚さの測定値はない。

遺物

本遺構からは1,148点13,620gの土器片と11点320gの礫、１点520gの敲石、１点10gの軽石が検出された。土器片等の内訳は、460点6,870gの土師器、１点22gの須恵器、674点6,585gの弥生土器、３点43gの手づくね土器、10点100gの縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

１・２・４はカマド上面、16は床直の出土であるが、１を除けばその帰属は微妙である。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており出土地点を明示できるものはない。

149号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号139号。148号竪穴の北側に隣接し、148号に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.14m短径4.84mを測り、主軸方位はN－44°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央ややＰ２寄りに検出され、残存する火床長径0.68m短径0.50m深さ７㎝を測り、火床長軸方位はN－46°－Wを示す。

残存する壁高は北東壁64㎝、南東壁26㎝、北西壁58㎝、南西壁61㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ固く踏み固められており、ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は主柱穴と想定され、深さはＰ１が56㎝、Ｐ２は72㎝、Ｐ３が76㎝を測る。この他Ｐ４が21㎝、他Ｐ５が39㎝、他Ｐ６が51㎝を測る。

焼土は１ヶ所に検出され、厚さは６㎝を測る。この他床面の４ヶ所に炭化物が存在した。

遺物

本遺構からは566点7,038gの土器片と２点44gの礫が検出された。土器片等の内訳は、109点1,949gの土師器、４点76gの須恵器、451点4,970gの弥生土器、２点43gの縄文土器である。これらの出土遺物の内27点を図示した。

２・６・８・12・24・25は床直上の出土であり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は覆土一括や床面から10㎝以上高い位置で取上げられている。

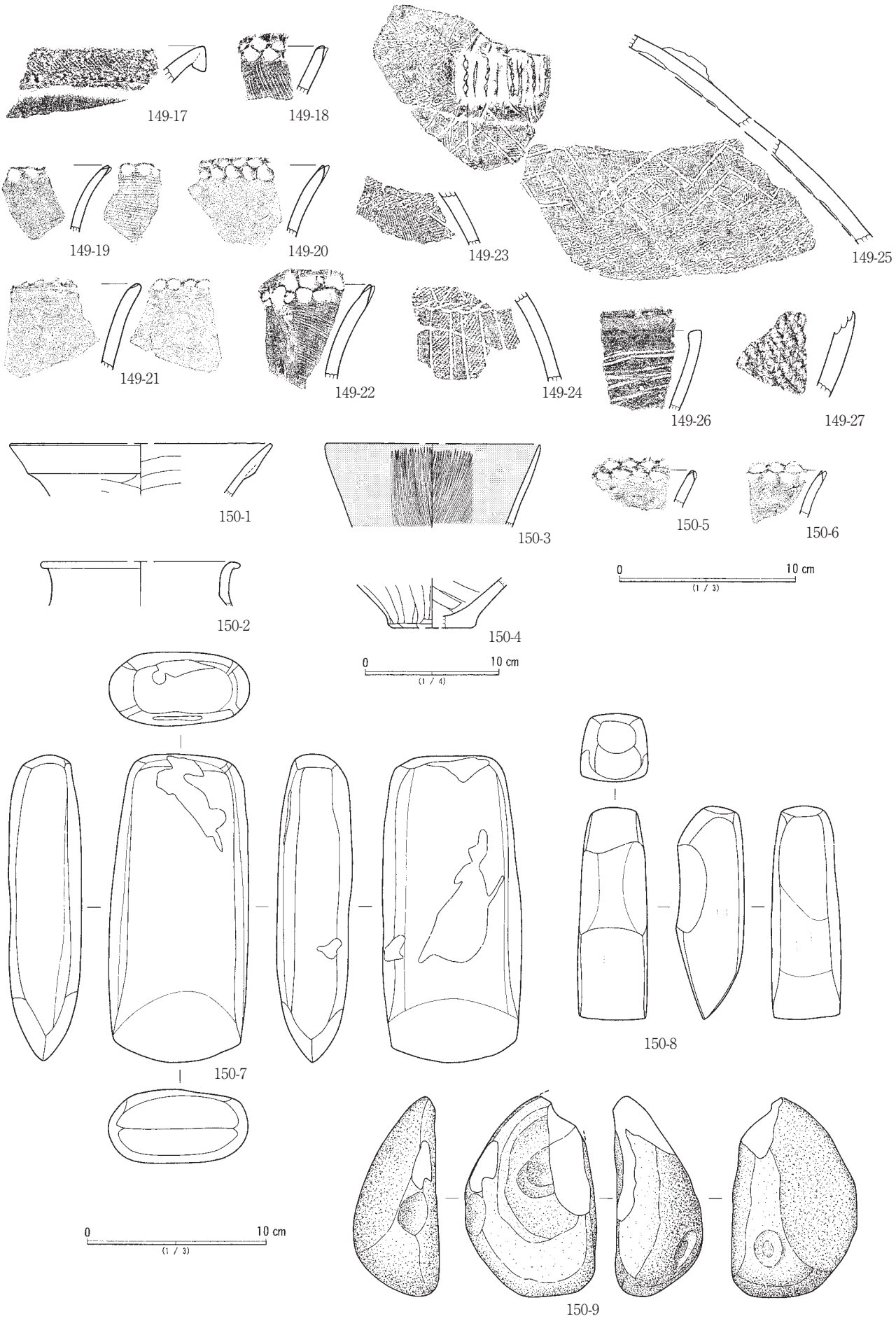
150号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号140号。148号竪穴の直下に存在し、148号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.94m短径5.44mを測り、主軸方位はN－22°－Wを示す。炉は148号竪穴カマドとＰ１間の中央やや南に偏ってＰ２寄りに検出され、残存する火床長径0.40m短径0.30m深さ２㎝を測り、火床長軸方位はN－41°－Wを示す。

残存する壁高は東壁41㎝、西壁38㎝、南壁41㎝、北壁44㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれているが、四隅を除いて148号竪穴に削平されている。ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は主柱穴と想定され、深さはＰ１が148号竪穴床面から64㎝、本跡床面換算で71㎝を測る。Ｐ２は148号竪穴床面から62㎝、本跡床面換算で69㎝を測る。Ｐ３が148号竪穴床面から90㎝、本跡床面換算で97㎝を測る。この他Ｐ４が63㎝を測る。

遺物

本遺構からは142点1,100gの土器片と３点250gの礫、１点1,081gの太型蛤刃石斧、１点338gの抉入石斧、１点476gの磨石・凹石が検出された。土器片等の内訳は、44点942gの土師器、１点10gの須恵



第147図　149・150号遺構出土遺物実測図

第148図　152 ～ 170号遺構実測図

器、97点598gの弥生土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

７・８・９は床直の出土であり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

151号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号141B号。150号竪穴の南側に隣接して存在し、大半を150号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径2.60m短径2.60mを測り、炉は150号に削平されて存在しない。

残存する壁高は東壁41㎝、南壁41㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれているが、残りが悪い。ピットは１ヶ所に検出され、深さは70㎝を測る。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

152号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号186号。97号竪穴の東側に隣接し、五領期の153号竪穴内にスッポリと収まって存在する和泉期の竪穴住居跡であるが、一部351号溝に削平されて存在する。長径4.34m短径4.22mを測り、主軸方位はN－64 °－Eを示す。炉はP １・P ２間の中央やや東壁寄りに検出され、残存する火床長径0.54m短径0.44mを測り、火床長軸方位はN－106 °－Eを示す。

残存する壁高は東壁21㎝、西壁11㎝、南壁20㎝、北壁13㎝を測り、検出範囲では周溝は全周し、深さ３～17㎝を測る。床面は平坦であるがあまり引き締まってはおらず、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはP １が61㎝、Ｐ２が70㎝、Ｐ３が67㎝、Ｐ４が68㎝、Ｐ５が17㎝を測る。

遺物

本遺構からは420点12,049gの土器片と４点198gの礫、４点36gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、385点11,650gの土師器、35点399gの弥生土器である。これらの出土遺物の内15点を図示した。

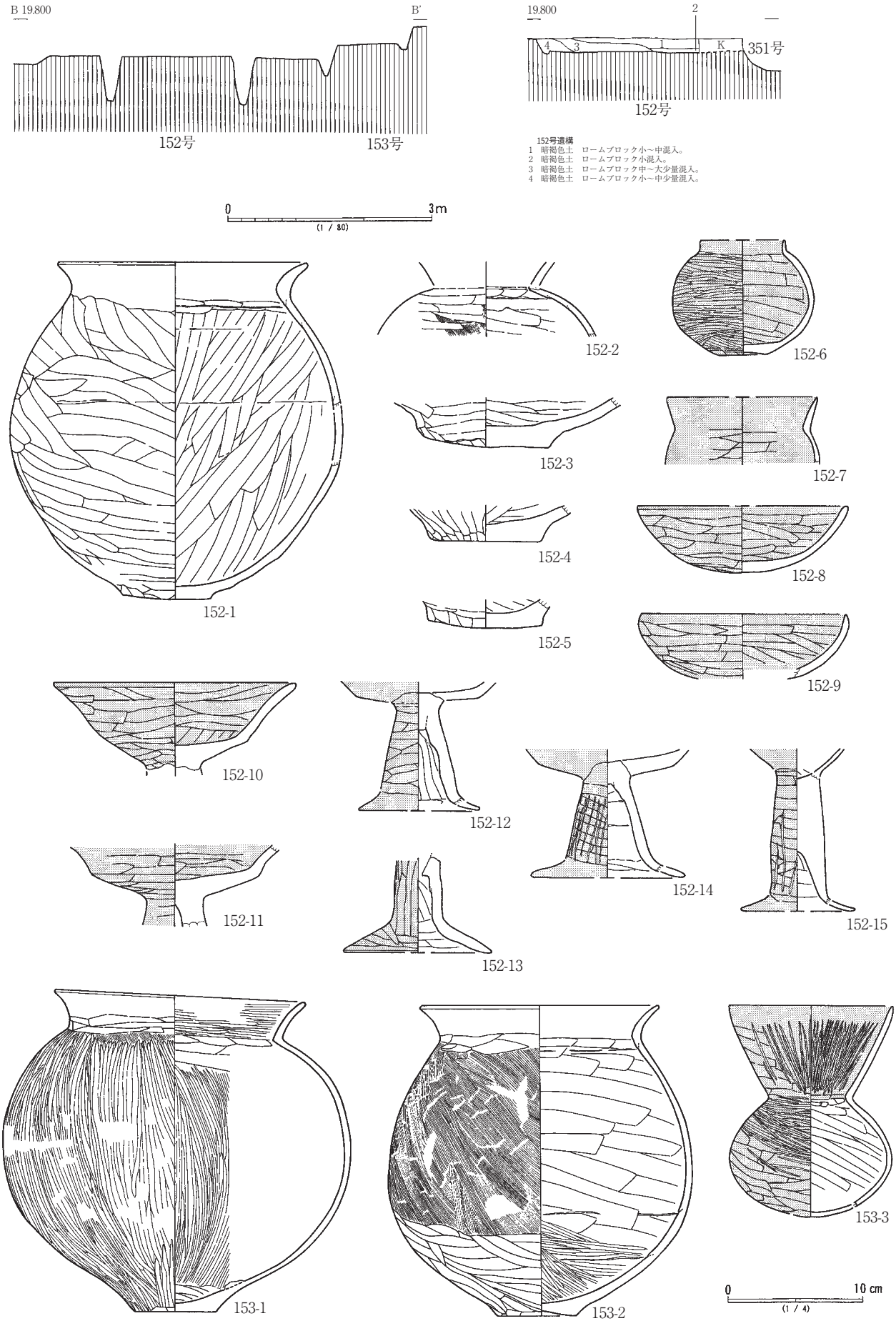
８は床直、13は床直上の出土であり、本跡に直接伴うものと判断される。１・３～６・10～12・14は、床面から20㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

153号遺構（竪穴住居跡）

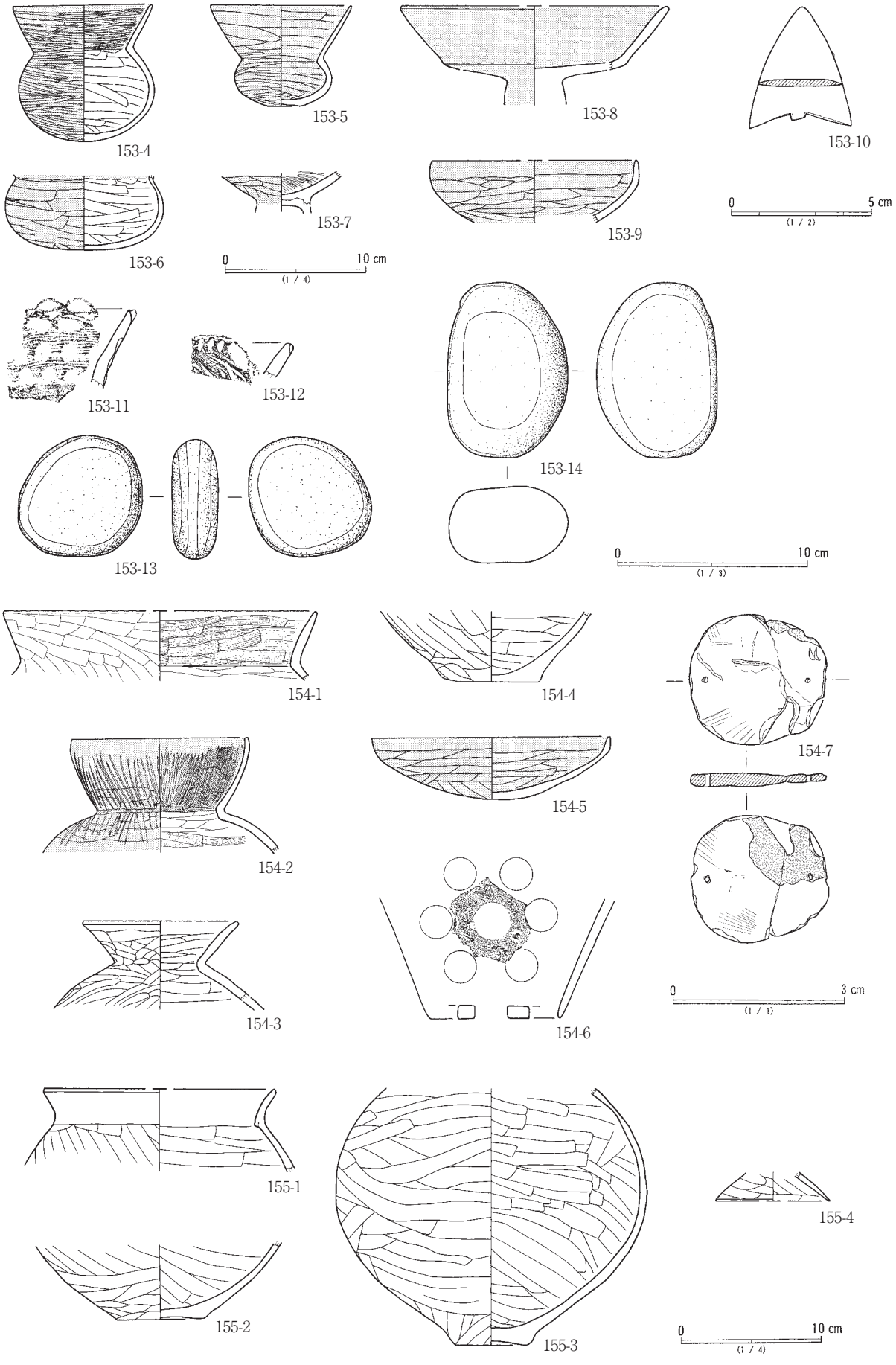
昭和53年度調査時遺構番号183号・185号。97号竪穴の東側に隣接し、152号竪穴・351号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.26m短径5.95mを測り、主軸方位はN－50 °－Wを示す。炉は152号竪穴に削平されたものと想定され、未検出である。

残存する壁高は北東壁30㎝、南東壁内側７㎝、外側36㎝、北西壁27㎝を測る。周溝は重複の激しい南西側を除いて全周し、深さは５～11㎝を測る。床面は平坦であるがあまり引き締まってはおらず、ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が62㎝、Ｐ２が53㎝、Ｐ３が37㎝、Ｐ４が45㎝、Ｐ５が46㎝、Ｐ６が36㎝を測る。

なお本跡は調査時に２軒の竪穴住居として調査されているが、二重周溝間の床面はフラットではなく、南に向かってレベルが下る傾向がある。しかし、本跡P ３付近の遺物出土状況から見れば４の番



第149図　152・153号遺構実測図・出土遺物実測図



第150図　153 ～ 155号遺構出土遺物実測図

号を付した坩形土器が床直なのに対し、土圧で押しつぶされた１・２・３が４と同レベルなのに対し、この周囲の床面だけが掘り下がっている。おそらく軟弱な床面を掘下げすぎてしまったのであろう。とすれば、床面は内外同一レベルとみなす事ができ、当初周溝の外側に拡張された１軒の竪穴住居と考えられる。

遺物

本遺構からは1,046点18,025gの土器片と13点733gの礫、２点532gの磨石、１点6.0gの鉄鏃が検出された。土器片等の内訳は、954点16,971gの土師器、91点1,041gの弥生土器、１点13gの近世陶器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

１～３・５・７は床直ないしは床直上の出土であり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。なお、本跡一括で検出された近世陶器片は、本跡よりむしろ351号溝に伴うものであろう。

154号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号184号。154号竪穴の南側に隣接し、97号・351号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径4.80m短径3.26mを測り、南東壁の傾きはN－57 °－Eを示す。炉は97号竪穴に削平されたものと想定され、未検出である。

残存する東南壁は、高さは22㎝を測り、周溝は存在しない。床面は平坦であるがあまり引き締まってはおらず、ピットは２ヶ所に検出された。深さはＰ１が９㎝、Ｐ２が62㎝を測る。

焼土は４ヶ所に検出され、厚さは５㎝から19㎝を測る。

遺物

本遺構からは84点2,150gの土器片と１点16.6gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、81点2,110gの土師器、１点20gの須恵器、２点20gの弥生土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

１・２・３・４・５・７は床直ないしは床にへばりついて検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

155号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号181号。154号竪穴の西側に隣接し、97号・99号竪穴・351号溝・156号土坑に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径5.28m短径4.02m北西壁10㎝を測る。炉はＰ１・Ｐ２間の中央ややＰ１寄りに検出され、残存する火床長径0.90m短径0.34m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－31 °－Wを示す。床面はソフトローム層中に構築され平坦であるがあまり引き締まってはおらず、ピットは５ヶ所に検出された。深さはＰ１が56㎝、Ｐ２が57㎝、Ｐ３が55㎝、Ｐ４が15㎝、Ｐ５が15㎝を測る。

遺物

本遺構からは120点1,630gの土器片と１点５gの礫、２点32gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、85点1,285gの土師器、33点305gの弥生土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。

３は床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

156号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑10号。155号竪穴内に存在し、155号竪穴を削平し、351号溝に削平されて存在する土坑である。長径3.30m短径2.00m深さ最大76㎝を測り、主軸方位はN－73 °－Wを示す。底面はハードローム層中に掘り込まれ、ほぼ平坦である。

遺物

本遺構からは26点749gの土器片が検出された。土器片の内訳は、21点639gの土師器、５点110gの弥生土器である。これらの出土遺物の内３点を図示した。

本遺構出土遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

157号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号176A号。152号竪穴の南側に位置し、158号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.86m短径3.34mを測り、主軸方位はN－16 °－Wを示す。カマドは北壁中央やや西側に偏って構築されるが、依存状況が不良だったのであろう。平面図に焼土混入粘土と記されるのみで未調査である。

周囲一帯本来の遺構プランより広めに調査されており、また下層に存在した158号遺構と新旧関係が混沌とした状況で調査されており、本来下層遺構に伴う遺物を本跡出土遺物として取上げているようである。

残存する壁高は東壁１㎝、西壁３㎝、南壁１㎝を測り、南側を除いて周溝は深さ５～11㎝を測り全周する。床面はソフトローム層中に掘り込まれ平坦であるが軟弱である。ピットは周溝内に16ヶ所検出されるが、何れも小ピットで主柱穴は存在しない。

遺物

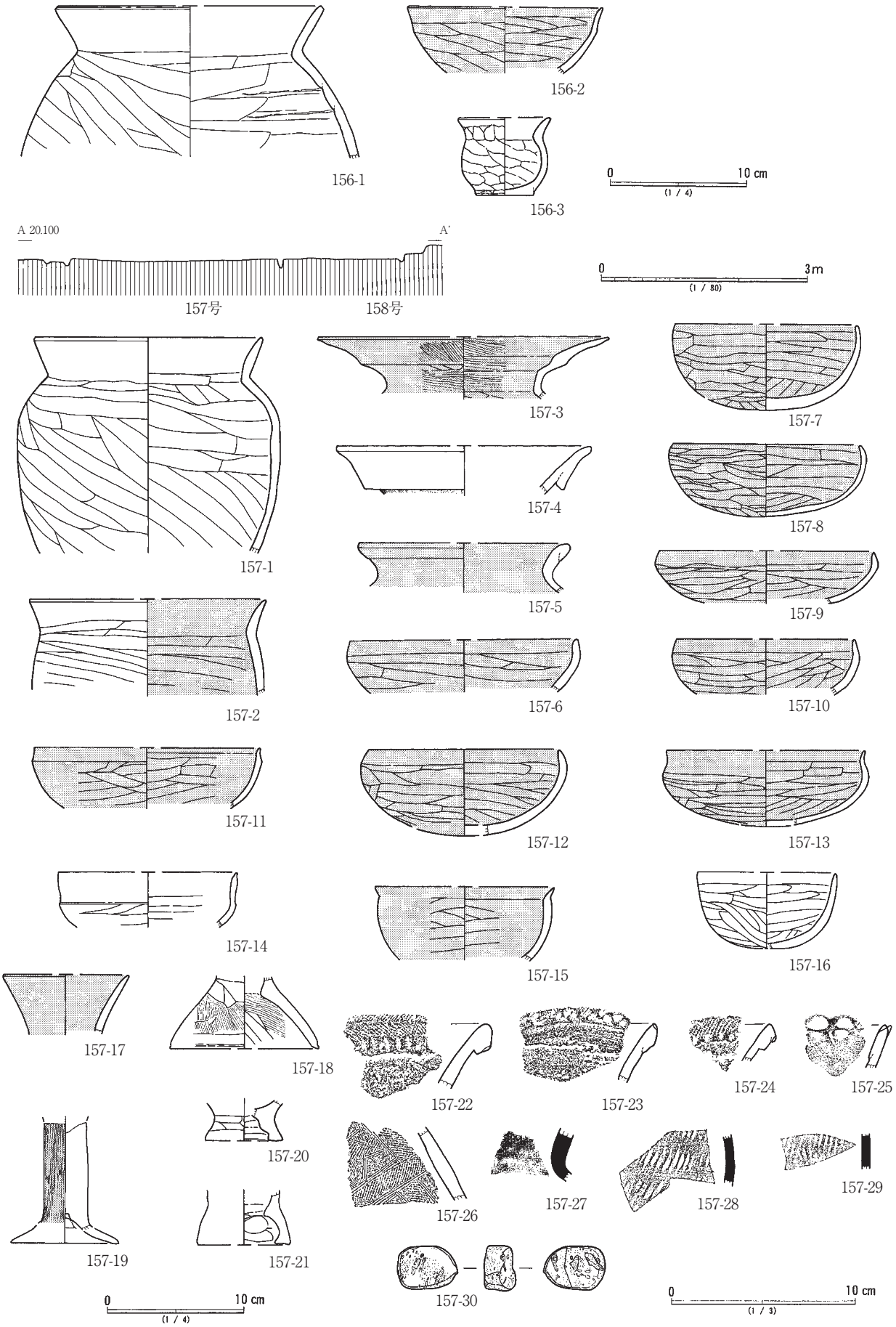
本遺構からは1,118点14,460gの土器片と12点1,042gの礫、２点322.5gの磨石、３点90gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、903点12,784gの土師器、５点50gの須恵器、208点1,608gの弥生土器、１点８gの手づくね土器、１点10gの縄文土器である。これらの出土遺物の内31点を図示した。

１・２・８・12・13・16は床面付近の出土であるが、12は下層の炉付近からの検出で158号竪穴に伴うものと考えられる。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており出土地点を明示できるものはない。

158号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号176B号。157号竪穴の直下に位置し、157号・159号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.26mを測り、北壁の傾きから主軸方位はN－67 °－Eを示す。炉はＰ１・Ｐ２間でもかなりＰ１寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.48m短径0.20m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－64 °－Eを示す。

残存する壁高は東壁２㎝、西壁10㎝、北壁１㎝を測り、周溝は西側コーナー部にかけて深さ２～10㎝を測り存在する。床面はソフトローム層中に掘り込まれ平坦であるが軟弱である。ピットは周溝



第151図　157・158号遺構実測図・156・157号遺構出土遺物実測図

内に13ヶ所検出されるが、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４の主柱穴を除けば周溝内小ピットである。深さはＰ１が44㎝、Ｐ２が41㎝、Ｐ３が43㎝、Ｐ４が55㎝を測る。この他Ｐ５が13㎝、Ｐ６が28㎝、Ｐ７が12㎝、Ｐ８が９㎝、Ｐ９が７㎝、P10が３㎝、P11が７㎝、P12が６㎝、P13が10㎝を測る。

遺物

本遺構からは12点548gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、11点530gの土師器、１点18gの弥生土器である。これらの出土遺物の内３点を図示した。

１は157号周溝付近でほとんど床直状況で出土した土師器甕であるが、どちらかといえば157号に伴う可能性が高い。２・３は床直上で検出されている。２と157号竪穴炉付近出土の12から、本跡の時期は前期五領式と判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており出土地点を明示できるものはない。

159号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号173号。158号竪穴の南側に隣接し、158号・160号・161号・162号・167号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.88m短径5.52mを測り、主軸方位はN－27°－Wを示す。カマドは北壁中央やや西側に偏って構築され、残存する火床長径0.65m短径0.25m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－25°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁14㎝、西壁25㎝、南壁４㎝、北壁10㎝を測り、周溝は全周し、深さは７～16㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれるが、あまり踏み固められてはおらず、ピットは７ヶ所に検出されたが、Ｐ６・Ｐ７は本跡カマドを削平することから、本遺構より時期の新しいピットである。本跡Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が62㎝、Ｐ２が61㎝、Ｐ３が50㎝、Ｐ４が70㎝、Ｐ５が65㎝を測る。この他Ｐ６が31㎝、Ｐ７が55㎝を測る。

焼土は２ヶ所に検出され、厚さ８㎝を測る。

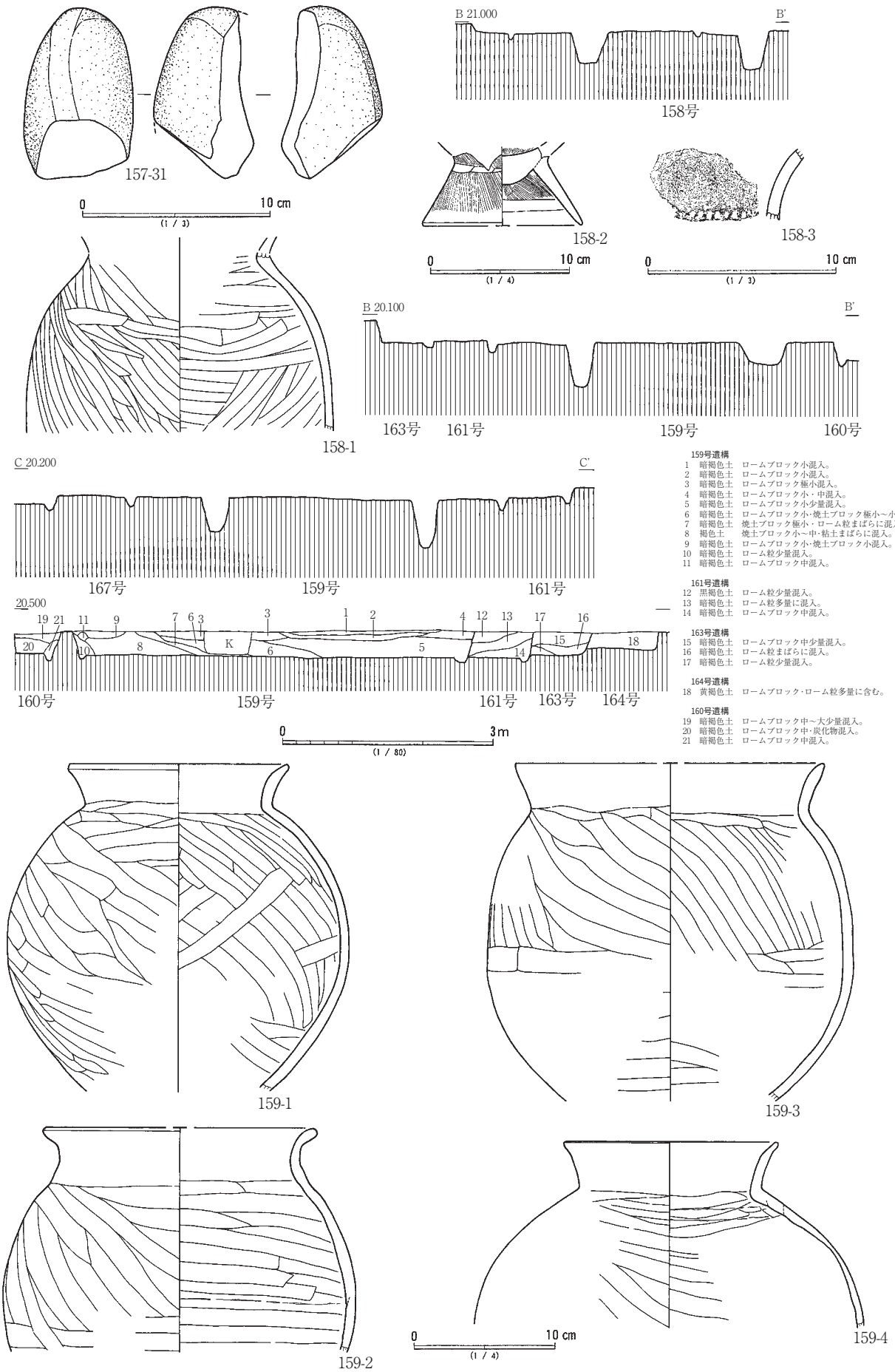
遺物

本遺構からは3,535点67,342gの土器片と32点1,224gの礫、３点1,242gの磨石、２点7.5gの有孔円盤、１点8.5gの鉄器残欠片、１点30gの土玉、25点2,549gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、3,082点62,055gの土師器、10点527gの須恵器、429点4,534gの弥生土器、９点158gの手づくね土器、５点68gの縄文土器である。これらの出土遺物の内62点を図示した。

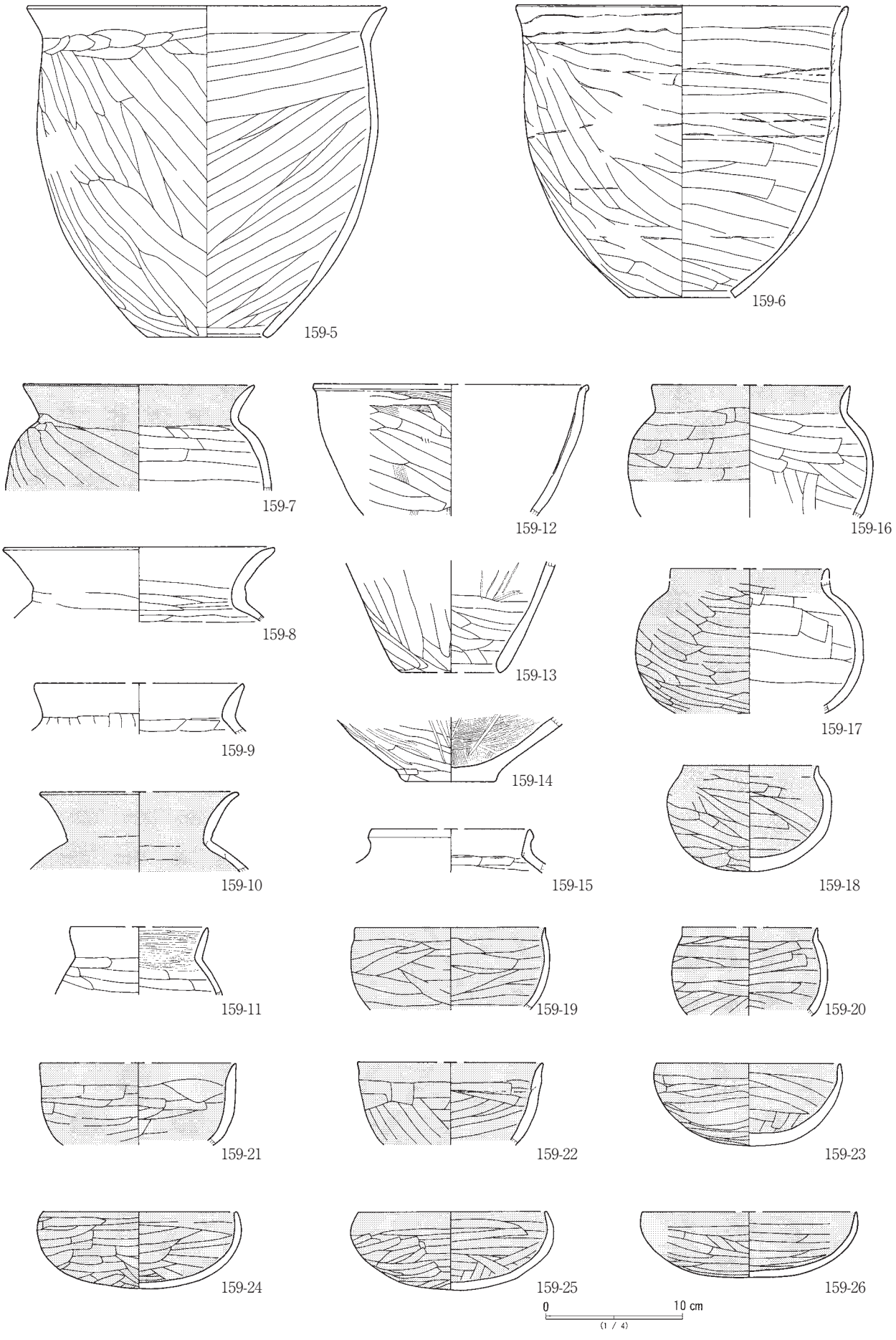
１・７・14・17・23～25・34・37・39・41・45・46・48～53・60は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。この他の平面図に番号が付された遺物は、床面から13㎝以上浮いた状態で検出されている。なお、遺物に注記が施されていない御林跡遺跡一括遺物の中に、本跡カマド記録写真の脚端部を全面的に欠いた高坏によく似る高坏23がある。おそらく本跡カマド内から出土した高坏と想定される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており出土地点を明示できるものはない。

また、鉄器残欠片については、調査時の袋内で粉々になり、その形状をほとんど留めておらず図化することができなかった。

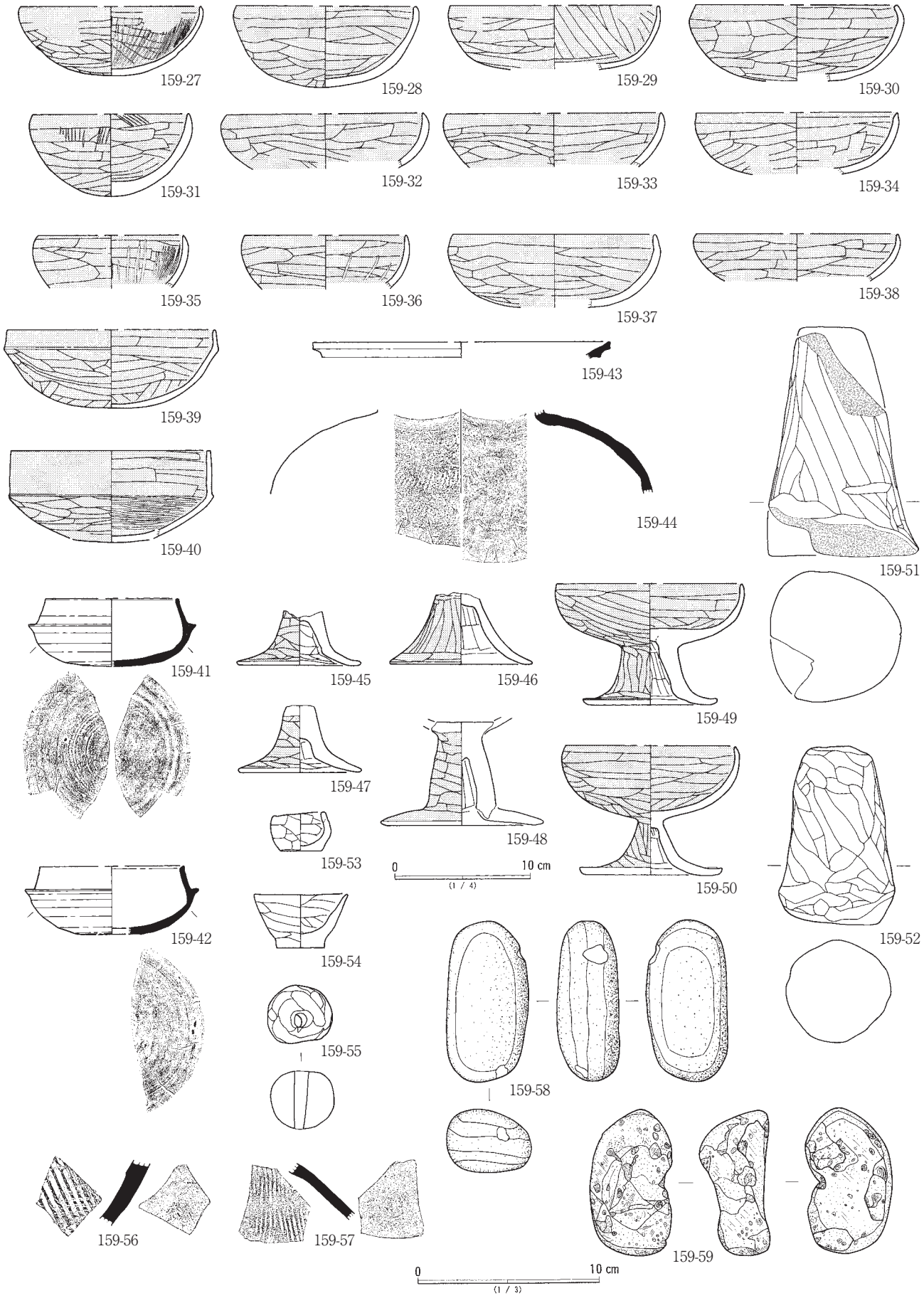
160号遺構（竪穴住居跡）



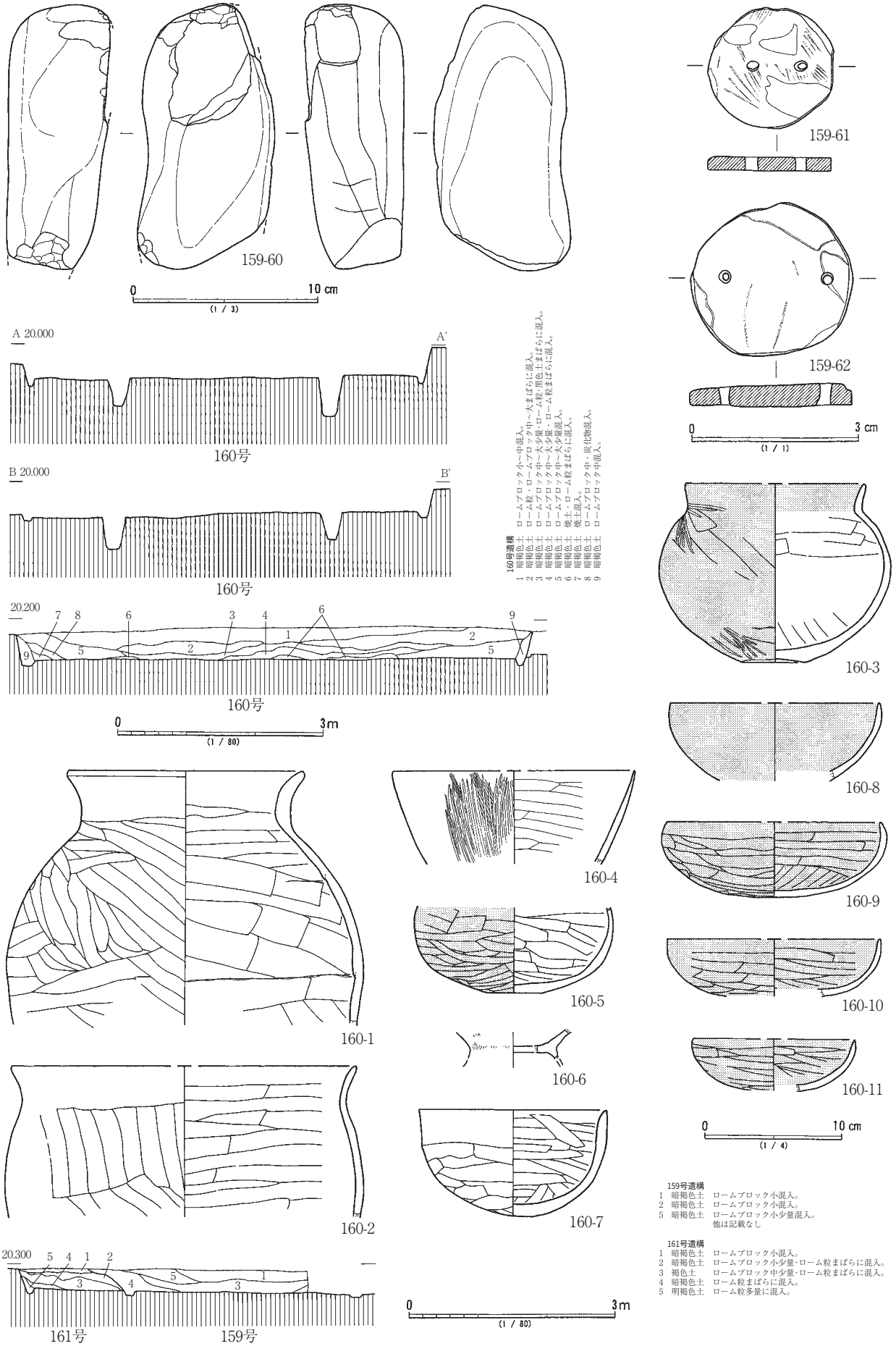
第152図　158 ～ 161・163・164・167号遺構実測図・157 ～ 159号遺構出土遺物実測図



第153図　159号遺構出土遺物実測図１



第154図　159号遺構出土遺物実測図２



第155図　159 ～ 161号遺構実測図・159・160号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号177号。159号竪穴の西側に隣接し、158号・167号竪穴を削平し、159号・165号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.10m短径5.92mを測り、主軸方位はN－82 °－Eを示す。カマドは東壁中央やや南側に偏った位置に構築され、残存する火床は２ヶ所に存在する。火床Aは、長径0.47m短径0.25m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－80 °－E　を示す。火床Bは、長径0.38m短径0.22m深さ12㎝を測り、火床長軸方位はN－82 °－E　を示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁53㎝、西壁54㎝、南壁51㎝、北壁29㎝を測り、周溝は全周し、深さは６～ 11㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、硬く踏み込まれるが凹凸が激しい。ピットは９ヶ所に検出された。本跡P １・Ｐ ２・Ｐ ３・Ｐ ４は主柱穴、Ｐ ５・Ｐ ７・Ｐ ８は何れも貯蔵穴と想定され、深さはP １が37㎝、Ｐ ２が50㎝、Ｐ ３が59㎝、Ｐ ４が45㎝、Ｐ ５が55㎝、Ｐ ７が47㎝、Ｐ ８が42㎝を測る。この他周溝内のP ６が14㎝、Ｐ ９が29㎝を測る。

炭化物は21 ヶ所、焼土は７ヶ所に検出され、厚さ２～ 18㎝を測る。

遺物

本遺構からは640点12,450gの土器片と６点232gの礫、２点72.7gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、505点11,040gの土師器、132点1,375gの弥生土器、２点28gの手づくね土器、１点７gの縄文土器である。これらの出土遺物の内20点を図示した。

１～３・５・８～ 10・12・14・17 ～ 18は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。この他の平面図に番号が付された遺物は、床面から15㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

161号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号172号。159号竪穴の東側に隣接し、163号・164号・167号竪穴を削平し、159号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.96m短径4.80mを測り、主軸方位はN－25 °－Wを示す。

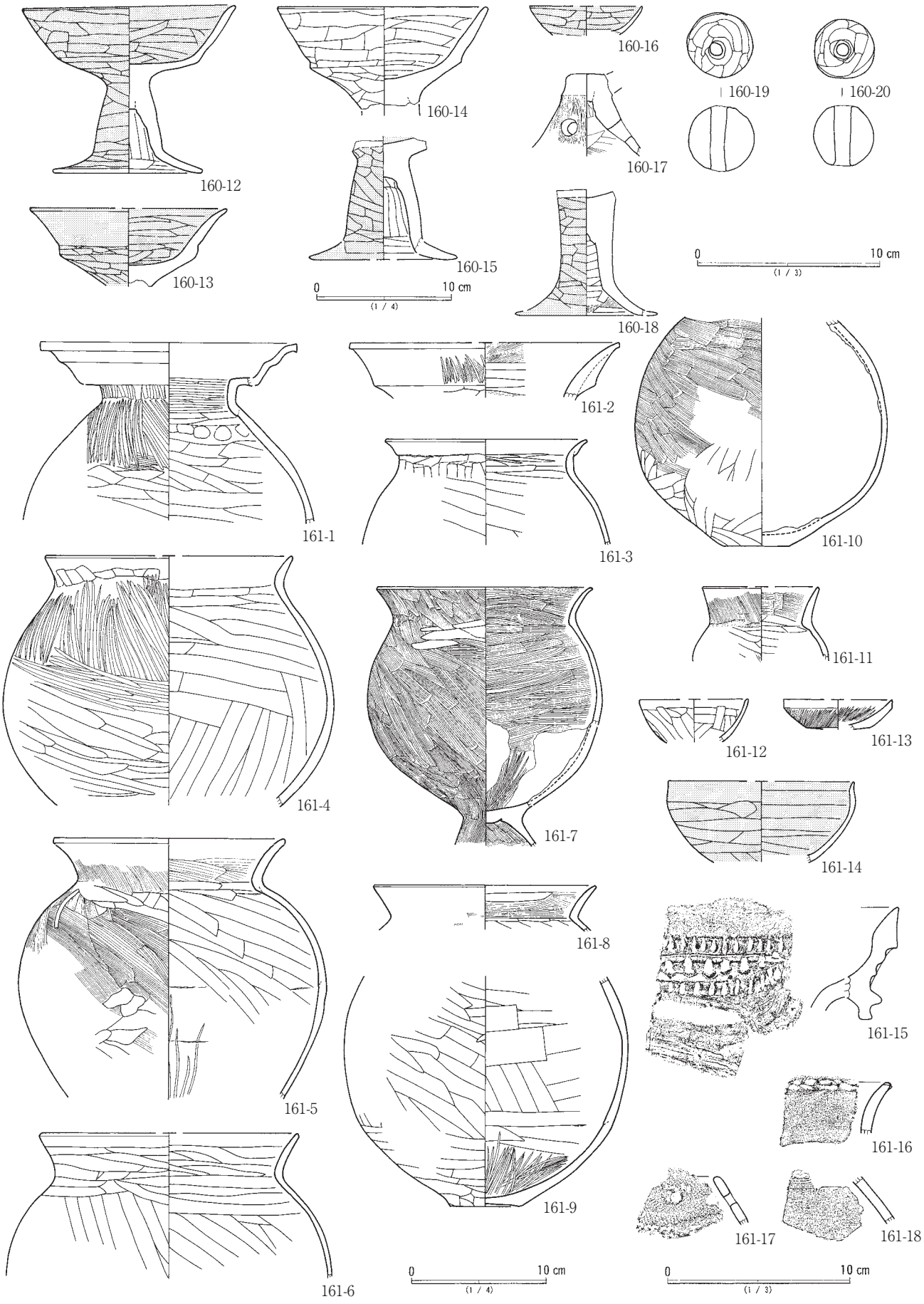
残存する壁高はそれぞれ東壁33㎝、南壁38㎝、北壁４㎝を測り、周溝はほぼ全周し、深さは４～ 14㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、あまり踏み固められていない。ピットは12 ヶ所に検出されるが、Ｐ ６～ P11は周溝内ピットで、深さの数値はない。本跡P １・Ｐ ２・Ｐ ３・Ｐ ４は主柱穴、Ｐ ５は貯蔵穴と想定され、深さはP １が159号竪穴床面から63㎝、本跡床面換算で65㎝を測る。Ｐ ２は70㎝、Ｐ ３が159号竪穴床面から72㎝、本跡床面換算で74㎝を測る。Ｐ ４が83㎝、Ｐ ５が34㎝を測る。P12は159号竪穴床面から43㎝、本跡床面換算で45㎝を測る。

本跡北側コーナーと西側に、拡張に伴う周溝が認められ、幅14㎝前後、深さは９～ 10㎝を測る。

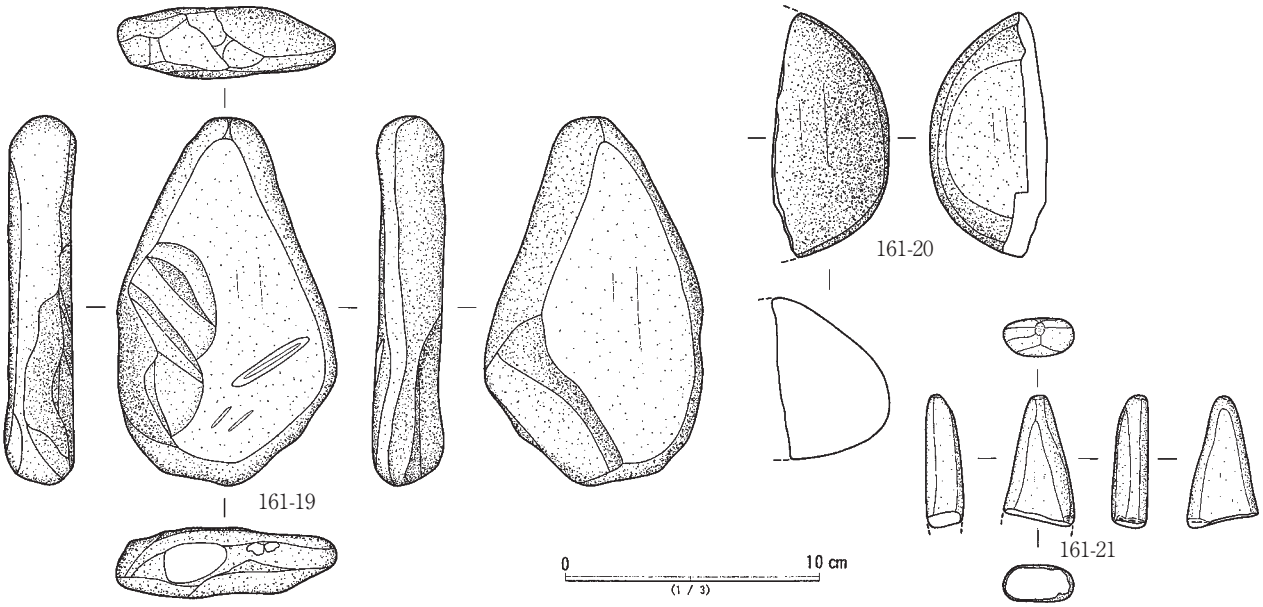
遺物

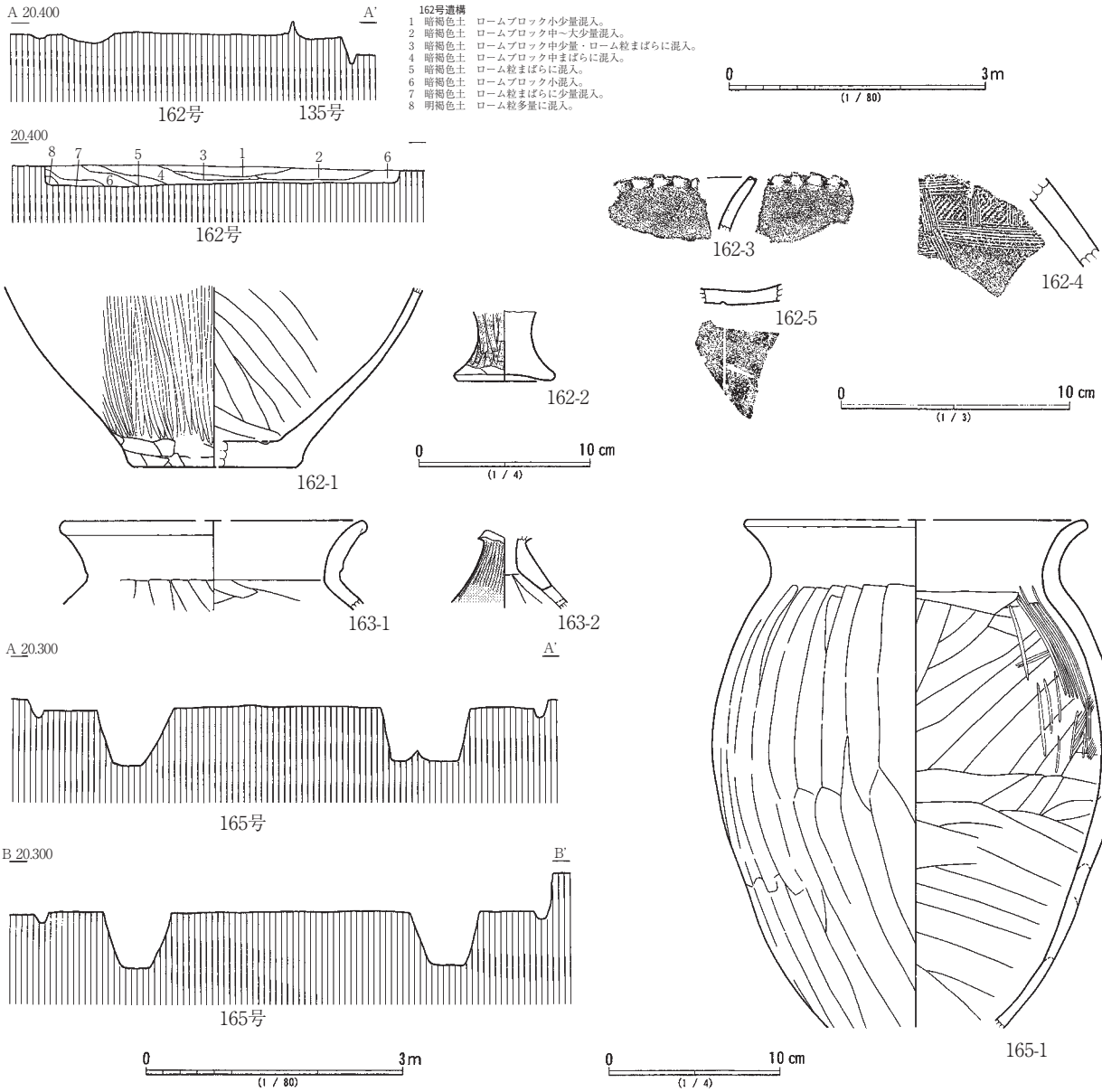
本遺構からは374点9,250gの土器片と７点120gの礫、１点319gの砥石、２点399gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、335点8,745gの土師器、38点420gの弥生土器、１点85gの縄文土器である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

３・５・７～ 10・19・20は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断



第156図　160・161号遺構出土遺物実測図





第157図　135・162・165号遺構実測図・161 ～ 163・165号遺構出土遺物実測図

される。この他１・８の平面図に番号が付された遺物は、床面から12㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

162号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号175号。158号竪穴の東側に隣接し、158号・159号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.98m残存短径2.98mを測り、東壁の傾き方位はN－27°－Wを示す。炉は２基検出され、Ａは、長径0.42m短径0.36m深さ２㎝を測り、火床長軸方位はＮ－24°－Ｅを示す。Ｂは、長径0.82m短径0.70m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はＮ－43°－Ｅを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁23㎝、南壁21㎝、北壁19㎝を測り、床面はハードローム層中に掘り込まれ、あまり踏み固められていない。ピットは１ヶ所に検出され、深さはP １が26㎝を測る。

遺物

本遺構からは256点2,598gの土器片と２点110gの礫が検出された。土器片等の内訳は、158点1,750gの土師器、１点８gの須恵器、97点840gの弥生土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

１・４は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

163号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号174号。161号竪穴の東側に隣接し、161号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径2.68m残存短径0.76mを測り、炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ東壁８㎝、北壁９㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、あまり踏み固められておらず、ピットも検出されなかった。

遺物

本遺構からは18点386gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、16点364gの土師器、２点22gの弥生土器である。これらの出土遺物の内２点を図示した。

本跡出土遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

164号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号なし。161号竪穴の東側に隣接し、161号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径2.50m残存短径1.86mを測り、炉は未検出である。

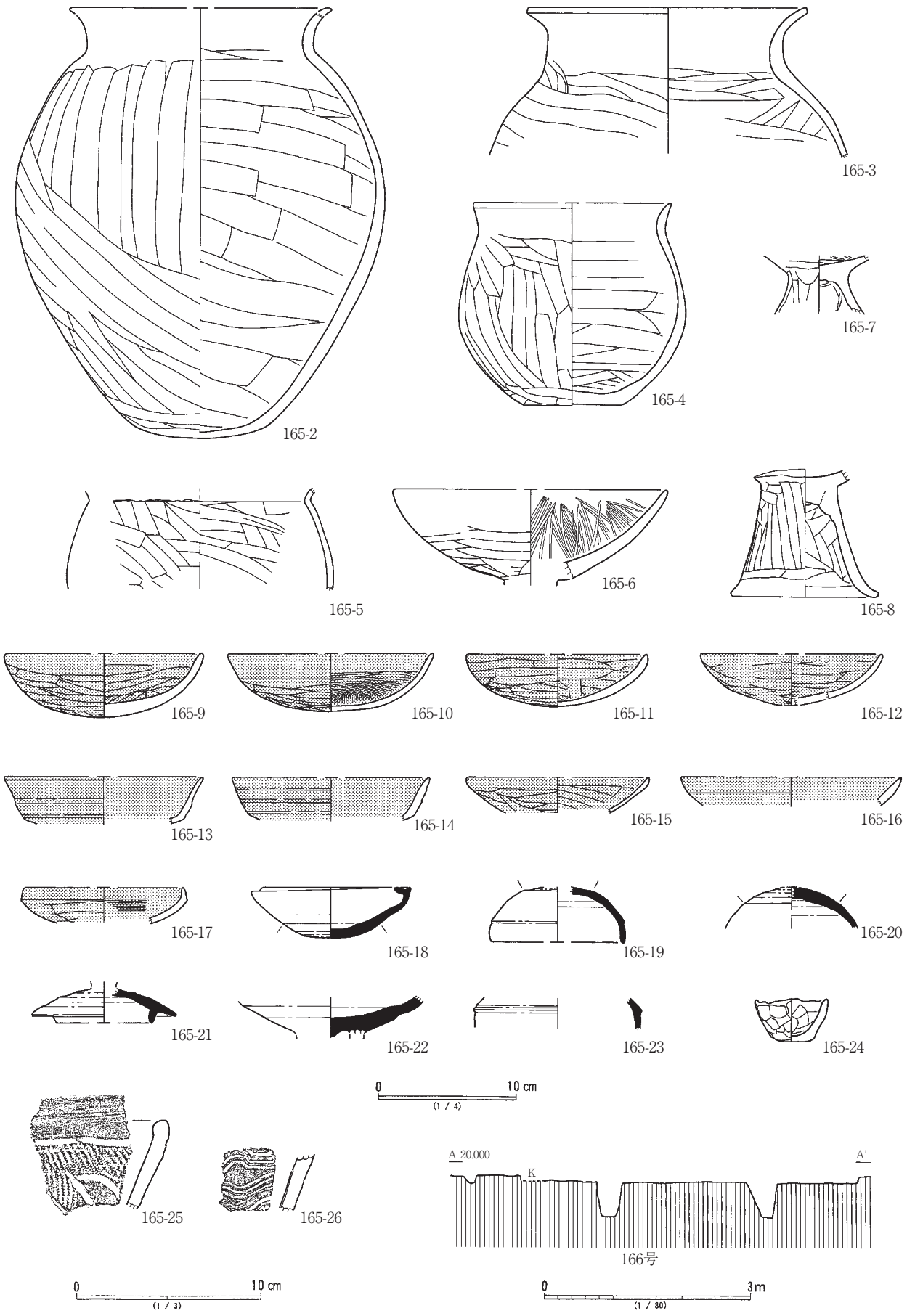
壁は残存するが、高さの数値はない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、あまり踏み固められておらず、ピットも検出されなかった。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

165号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号170号。159号竪穴の南側に存在し、160号・166号・167号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径6.14m短径6.04mを測り、主軸方位はN－62°－Wを示す。カマドは西壁中央に構築され、残存する火床長径0.35m短径0.28m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－81°－Wを示す。



第158図　166号遺構実測図・165号遺構出土遺物実測図

残存する壁高はそれぞれ西壁45㎝、南壁45㎝、北壁16㎝を測り、周溝は東側だけ検出されなかったが本来は全周したものと想定され、深さは５～10㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、よく踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、何れも主柱穴である。深さはP １が75㎝、P ２が70㎝を測る。P ３は166号竪穴床面から検出され66㎝、本跡床面換算で71㎝を測る。P ４は166号竪穴床面から検出され64㎝、本跡床面換算で69㎝を測る。

焼土は４ヶ所に検出され、厚さ６～15㎝を測る。

遺物

本遺構からは417点12,547gの土器片と５点218gの礫、１点20gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、306点11,166gの土師器、10点411gの須恵器、98点895gの弥生土器、１点35gの手づくね土器、２点40gの縄文土器である。これらの出土遺物の内26点を図示した。

１～４・６・８～11・15・18・24は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。21は、床面から13㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

166号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号169号。165号竪穴の東側に隣接し、167号・168号竪穴を削平し、165号・176号・177号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.98m短径4.76mを測り、主軸方位はN－34 °－Eを示す。炉はP １・P ３間中央やや西側に偏って存在したと想定されるが、165号と重複するこの間は165号貼床を十分に除去しておらず検出されなかったことが記録写真から読取れる。

残存する壁高はそれぞれ東壁44㎝、西壁７㎝、南壁27㎝を測り、貼床を除去した範囲から周溝が存在し、深さは６～10㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、よく踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、何れも主柱穴である。深さはP １が51㎝、P ２が47㎝を測る。P ３が48㎝、P ４が51㎝を測る。

焼土は５ヶ所に検出され、厚さ４～37㎝を測り、177号竪穴と接する焼土層がもっとも厚い。

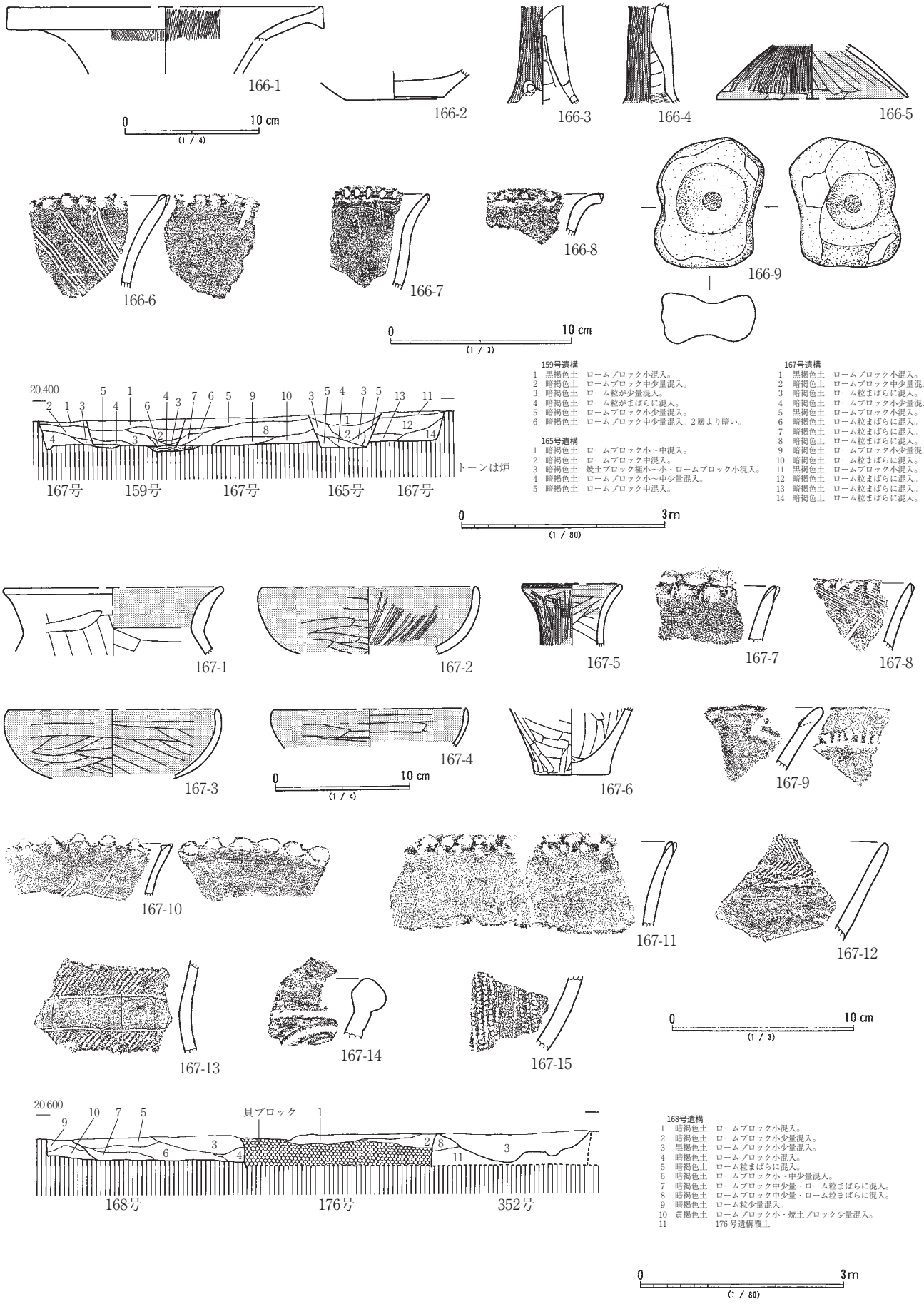
遺物

本遺構からは454点5,365gの土器片と17点810gの礫、１点230gの凹石、１点20gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、326点4,310gの土師器、125点1,025gの弥生土器、３点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

２は床面から25㎝離れて３・９は床直で検出された。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

167号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号171号。166号竪穴の北側に隣接し、159号・160号・161号・165号・166号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.80mを測り、主軸方位はN－36 °－Wを示す。炉はP １・P ２間の中央やや南側に検出され、残存する火床長径0.74m短径0.62m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－20 °－Wを示す。



第159図　159・165・167・168・176・352号遺構実測図・166・167号遺構出土遺物実測図

残存する壁高はそれぞれ北東壁38㎝、南東壁42㎝、北西壁21㎝を測り、残存する範囲には周溝が存在し、深さは３～13㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、よく踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはＰ１が165号竪穴床面からの検出で62㎝、本跡床面換算で63㎝を測る。Ｐ２が159号竪穴床面からの検出で65㎝、本跡床面換算で72㎝を測る。Ｐ３が165号竪穴床面からの検出で63㎝、本跡床面換算で64㎝を測る。Ｐ４が70㎝、Ｐ５は57㎝を測る。

遺物

本遺構からは260点2,450gの土器片と１点10gの礫が検出された。土器片等の内訳は、168点1,180gの土師器、１点５gの須恵器、89点1,225gの弥生土器、１点20gの早期条痕文系土器、１点20gの縄文土器である。これらの出土遺物の内15点を図示した。

12は炉内火床に接して検出された以外は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

図化された出土遺物から見れば本跡構築時期は弥生時代と想定されるが、遺構プランから見れば隅丸方形の竪穴と想定され、古墳時代初頭頃の竪穴と推定される。

168号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号157号。166号竪穴の南側に隣接し、166号・176号・177号・182号竪穴・352号溝に削平されて存在する平面楕円形の竪穴住居跡である。長径5.80mを測り、主軸方位はN－53°－Eを示す。本遺跡の中でも最も重複率の高い地点のひとつであり、調査図面も中途半端で、調査日誌からも本跡と176号竪穴周辺の調査に、調査者自身が相当混乱している状況が読取れる。

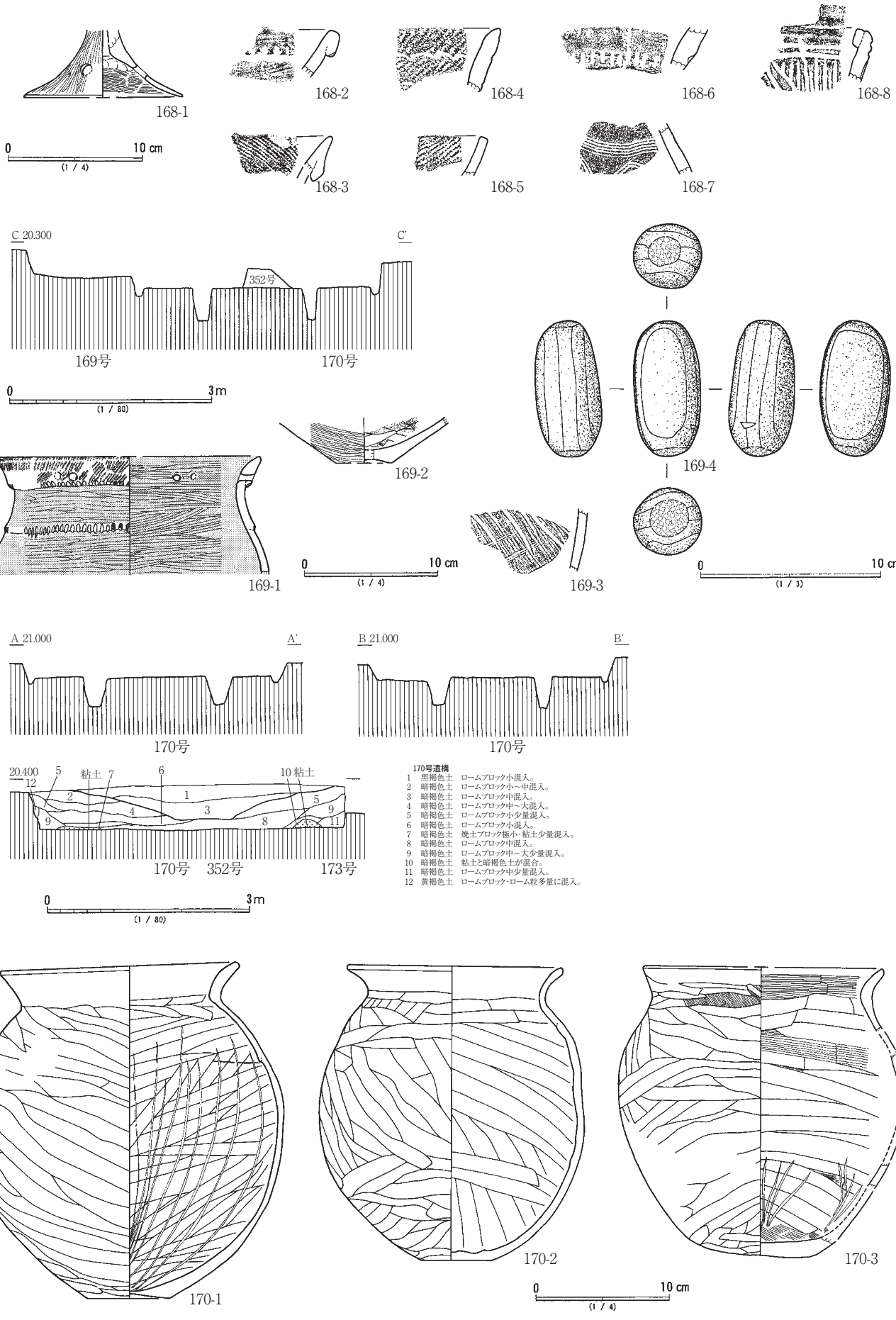
残存する壁高はそれぞれ北東壁２㎝、南西壁26㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦である。本跡床面からピットは多数検出されているが、主柱穴に相当するものが無く、便宜的に全て上層に存在する176号竪穴ピットとして報告する。

本跡上層に15～17㎝前後の間層を挟み、比較的大型の貝ブロックが存在する。調査者はこれを本跡に伴うものとするが、本跡床面に密着して検出されていないことや、かなり厚みのある大型貝層であることから、上層の176竪穴廃絶後に投棄されたと捉えることが妥当であろう。

遺物

本遺構からは1,051点12,500gの土器片と20点546.4gの礫、２点40gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、883点10,640gの土師器、２点15gの須恵器、156点1,720gの弥生土器、10点125gの縄文土器である。ただし、上層に存在する176号竪穴（調査時遺構番号158号）と共通する157・158一括と注記された遺物の分離を行わず、便宜的に本跡出土遺物として集計したものが大半を占めており、また時期的にも上層時期の遺物が圧倒的に多かった。その他に157カマドと注記される遺物もあった。本跡にはカマドは付帯しておらず、カマドが存在するのは上層の176号竪穴であり、この点でも調査段階での混乱を露呈しており、本跡本来の出土遺物は極端に少ないものと想定される。これらの出土遺物の内、明らかに上層時期の遺物を排除し、本跡に伴う可能性の高い遺物を主体に８点を図示した。

本跡出土遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。



第160図　169・170・173・352号遺構実測図・168～170号遺構出土遺物実測図

第161図　169 ～ 177号遺構実測図

169号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号155号。161号竪穴の東側に隣接し、170号・177号竪穴・352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径3.74m残存短径3.24mを測り、主軸方位はN－21°－Wを示す。炉は中央よりやや北側に偏った位置に検出され、残存する火床長径0.86m短径0.54m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－38°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁24㎝、西壁38㎝、北壁34㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、あまり踏み固められておらず、ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは86点751gの土器片と２点85gの礫、１点154gの磨石・敲石が検出された。土器片等の内訳は、20点208gの土師器、66点543gの弥生土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。

本跡出土遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

170号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号154号。169号竪穴の東側に隣接し、169号・171号・173号竪穴を削平し、352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.92m短径3.76mを測り、主軸方位はN－18°－Wを示す。カマドは北壁中央やや東側に偏った位置に構築され、残存する火床長径0.44m短径0.24m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－24°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁40㎝、西壁19㎝、南壁23㎝、北壁32㎝を測り、周溝は全周し、深さは４～12㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、よく踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が46㎝、Ｐ２が46㎝を測る。Ｐ３が42㎝、Ｐ４は49㎝、Ｐ５は69㎝を測る。

粘土は２ヶ所に検出され、厚さ４～５㎝を測る。

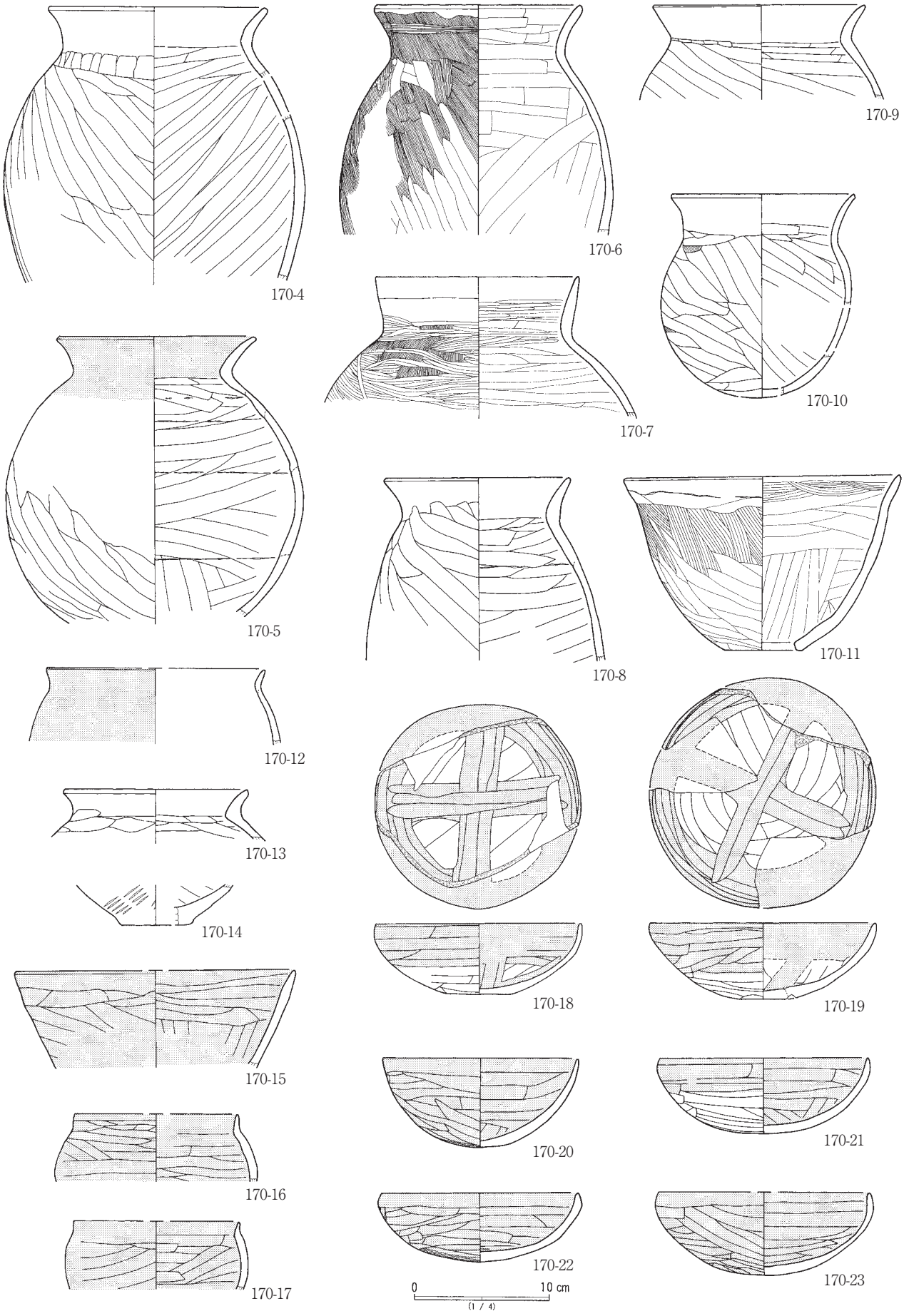
第161図本跡および177号中央部に溝状に走る遺構は、本跡を削平する351号溝底の硬化面であり、一時期道路に使用されていたことが伺われる。

遺物

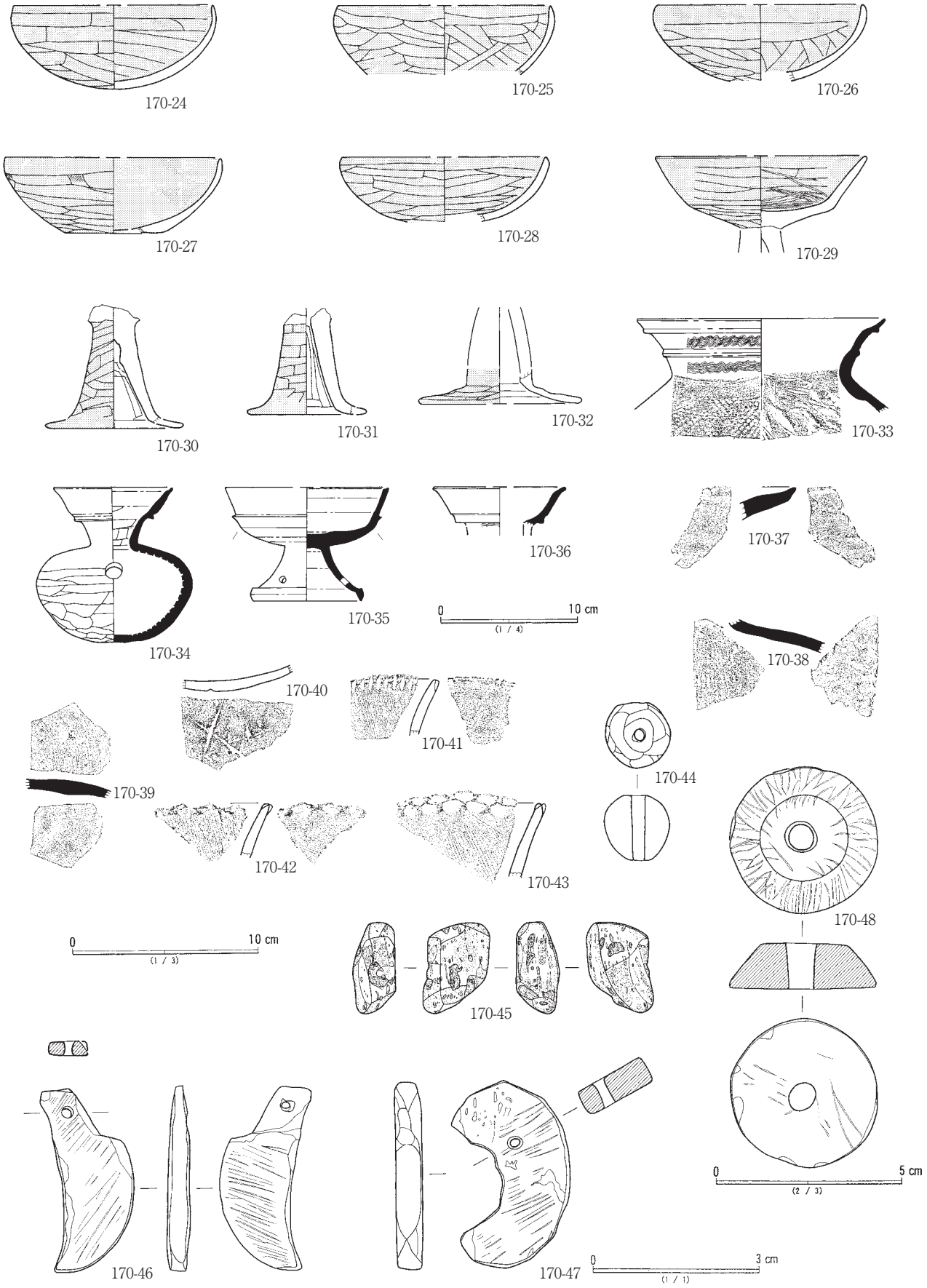
本遺構からは2,082点41,922.9gの土器片と７点325gの礫、１点137.5gの磨石、１点28.10gの紡錘車、１点3.3gの石製模造品剣形品、１点5.6gの扁平勾玉、１点41.8gの土玉、１点110gの布目瓦、３点730gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、1,656点36,482.9gの土師器、９点886gの須恵器、407点4,304gの弥生土器、10点250gの縄文土器である。これらの出土遺物の内48点を図示した。

２・５・７・９～12・21・23・29・34は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。１・３・４・６・８・13・15・20・32は、床面から13㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

なお、本跡出土遺物のうち18・19の土師器坏には、内面十文字のヘラナデ調整範囲に沿って十文字のおそらく筆書きによる赤彩が施されている。また33の須恵器甕には頸部外面の格子叩きを指ナデによってスリ消した痕跡が認められ、TK－85窯小型甕B類に属するものと捉えられる。34の𤭯は口頸基部が細く、頸部は逆八の字形に外方にのび無文。稜部は鈍い三角形状の凸帯をなし、口唇部は丸く仕上がる。胴部最大径は上部の１/ ２～１/ ３間に存在し底部は丸く不安定な形状で、胴部最大径付



第162図　170号遺構出土遺物実測図１



第163図　170号遺構出土遺物実測図２

近に円孔を穿つ。この手の形状聴はTK－73併行期でもより古相のON－231号窯の製品に近く、当遺跡において、TK－73併行期には須恵器の搬入が確実に存在していたことが明らかとなった。35の無蓋高坏は稜部が比較的鋭くシャープで、口唇部は弱い凹状をなし明確な段には至らない。脚の３方に円孔を穿ち、裾端部に一条の凸線を有し段形状には至らない。これらの特徴から、おそらくTK－216型式後半からON－46併行期の所産と考えられる。

171号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号153号。170号竪穴の東側に隣接し、170号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径2.20m残存短径1.80mを測り、主軸方位はN－26 °－Eを示す。炉は170号竪穴に削平されたと想定され検出されない。

残存する壁高はそれぞれ東壁18㎝、南壁24㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であるがあまり踏み固められておらず、ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは271点3,266gの土器片と２点20gの礫が検出された。土器片等の内訳は、130点1,981gの土師器、141点1,285gの弥生土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

１・２・４は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。６は、床面から２㎝以上浮いた状態で検出されているが、本跡遺構プランから見れば弥生土器は本遺構に直接伴うものとは考えられない。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

172号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号150号。171号竪穴の東側に位置し、本来は173号を削平し・174号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.20m短径3.48mを測り、主軸方位はN－68 °－Wを示す。炉は中央やや西側に偏った位置に検出され、残存する火床長径0.70m短径0.50m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－68 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁35㎝、西壁34㎝、北壁12㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であるがあまり踏み固められておらず、ピットは１ヶ所に検出され深さは37㎝を測る。

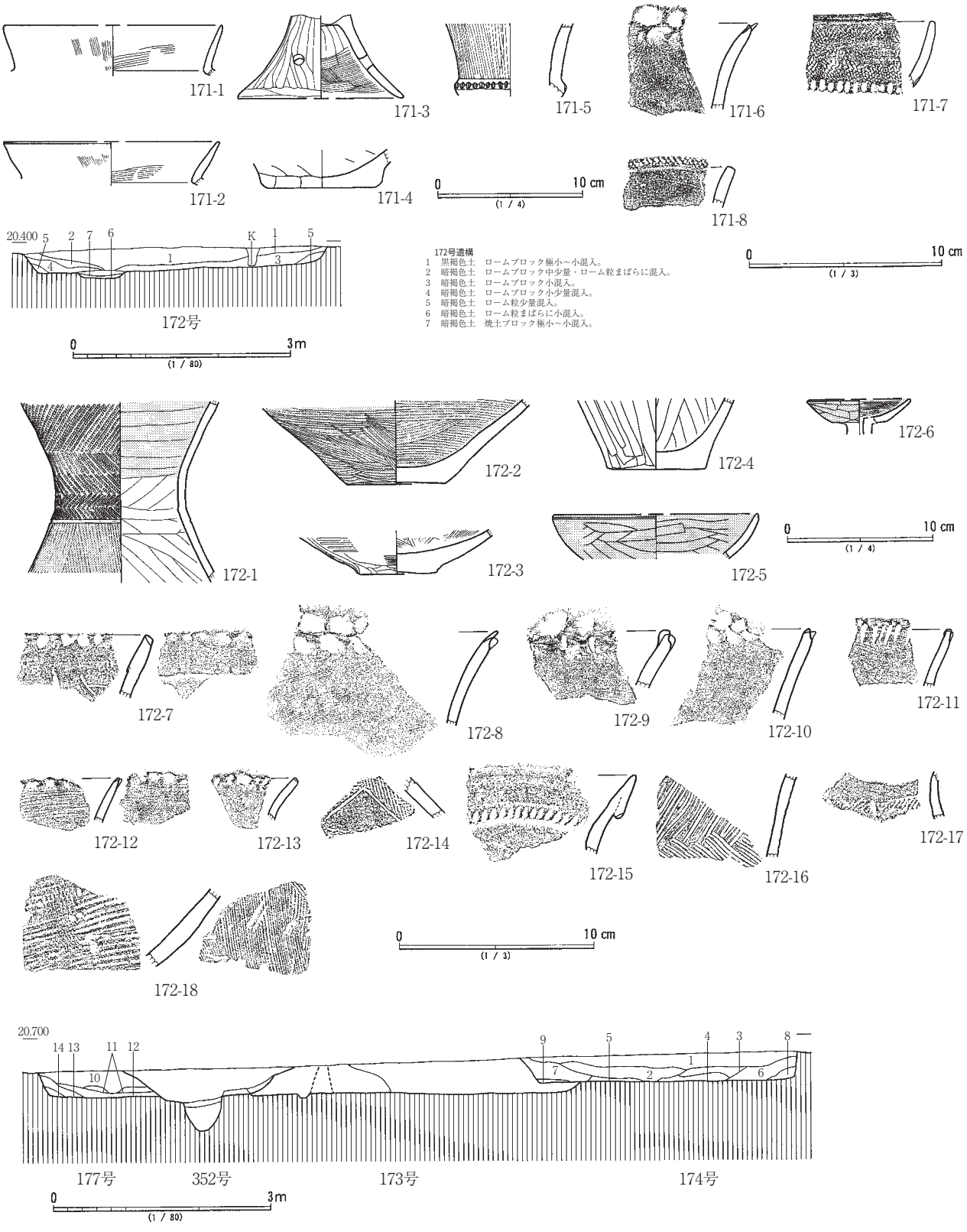
遺物

本遺構からは403点4,973gの土器片と１点60gの礫が検出された。土器片等の内訳は、184点2,021gの土師器、218点2,914gの弥生土器、１点38gの縄文土器である。これらの出土遺物の内18点を図示した。

１は、炉内火床密着状態で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

173号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号152号。170号竪穴の南側に隣接し、本来は170号・172号・174号竪穴に削平されて存在する、本跡周辺で最も古い段階の竪穴住居跡である。検出壁および主柱穴と想定されるピットの位置から本跡遺構プランを破線で復元してみたが、プラン内からはみ出る遺物もあり、遺構プランが一回り大きくなる可能性が高い。推定長径4.42m推定短径4.30mを測り、主軸方位はN－



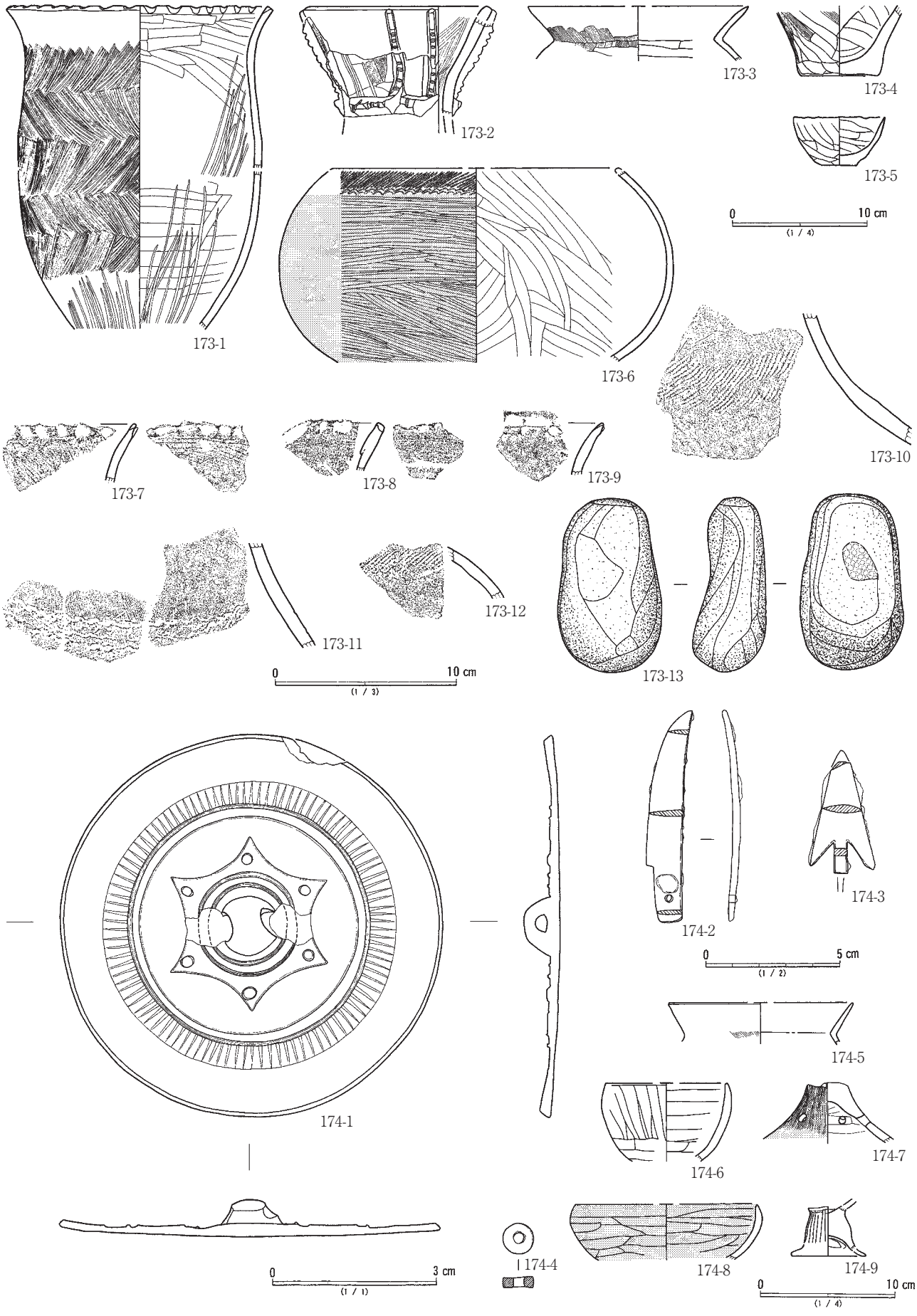
177号遺構
10 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
11 暗褐色土 焼土混入。
12 暗褐色土 ロームブロック中混入。
13 暗褐色土 ロームブロック小混入。
14 暗褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。

352号遺構
記載なし

173号遺構
記載なし

174号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小混入。
2 暗褐色土 灰混入。
3 暗褐色土 ローム粒少量混入。
4 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
5 暗褐色土 焼土ブロック極小・灰混入。
6 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
7 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
8 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
9 暗褐色土 ロームブロック中混入。

第164図　172 ～ 174・177・352号遺構実測図・171・172号遺構出土遺物実測図



第165図　173・174号遺構出土遺物実測図

５°―Wを示す。炉はP １・P ２間の中央ややP ２寄りに検出され、残存する火床長径0.82m短径0.50m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－１°―Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁12㎝、南壁21㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、硬く踏み固められており、ピットは12ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはP １が61㎝、Ｐ２が50㎝、Ｐ３が55㎝、Ｐ４が57㎝を測る。この他P ５が28㎝、Ｐ６が71㎝、Ｐ７が７㎝、Ｐ８が４㎝、Ｐ９が80㎝、P10が36㎝、P11が35㎝、P12が71㎝を測る。

本跡P ８の上面26㎝の位置から内行花文鏡が出土し、調査者はこの地点の破線範囲に土壙墓が存在していたものと捉えていたが、後述するようにこの地点に土壙墓は存在しない。

遺物

本遺構からは356点4,153gの土器片と６点780gの礫、１点264gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、88点1,080gの土師器、267点3,033gの弥生土器、１点40gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

１・２・４・６は、床直ないしは床直上で検出されているが、２は推定プラン外からの検出である。本跡に直接伴うものと判断されるのであれば、遺構プランは一回り大きくなり、調査段階で掘り足りていないことになる。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

174号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号151号。173号竪穴の南側に隣接し、172号・173号竪穴を削平して存在する。長径3.90m推定短径3.80mを測り、主軸方位はN－55°―Wを示す。炉は中央やや西側に偏って検出され、残存する火床長径0.78m短径0.52m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－32°―Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁35㎝、南東壁37㎝、南西壁35㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、173号覆土上部にはロームブロックを主体とする貼床が施されており、この貼床に密着して内行花文鏡と鉄鏃が並んで検出されている。また貼床外の床面に密着して鉄鏃と同時期の刀子も検出されていることから、この３点は当初からセットで存在したものと捉えられ、プランのはっきりしない土壙墓ではなく、本跡に直接関わる遺物と想定される。床面からピットは２ヶ所に検出されるが、一方には須恵器甕と同時期の坏が検出されていることから本跡とは無関係の土坑である。Ｐ１は深さ28㎝を測る。

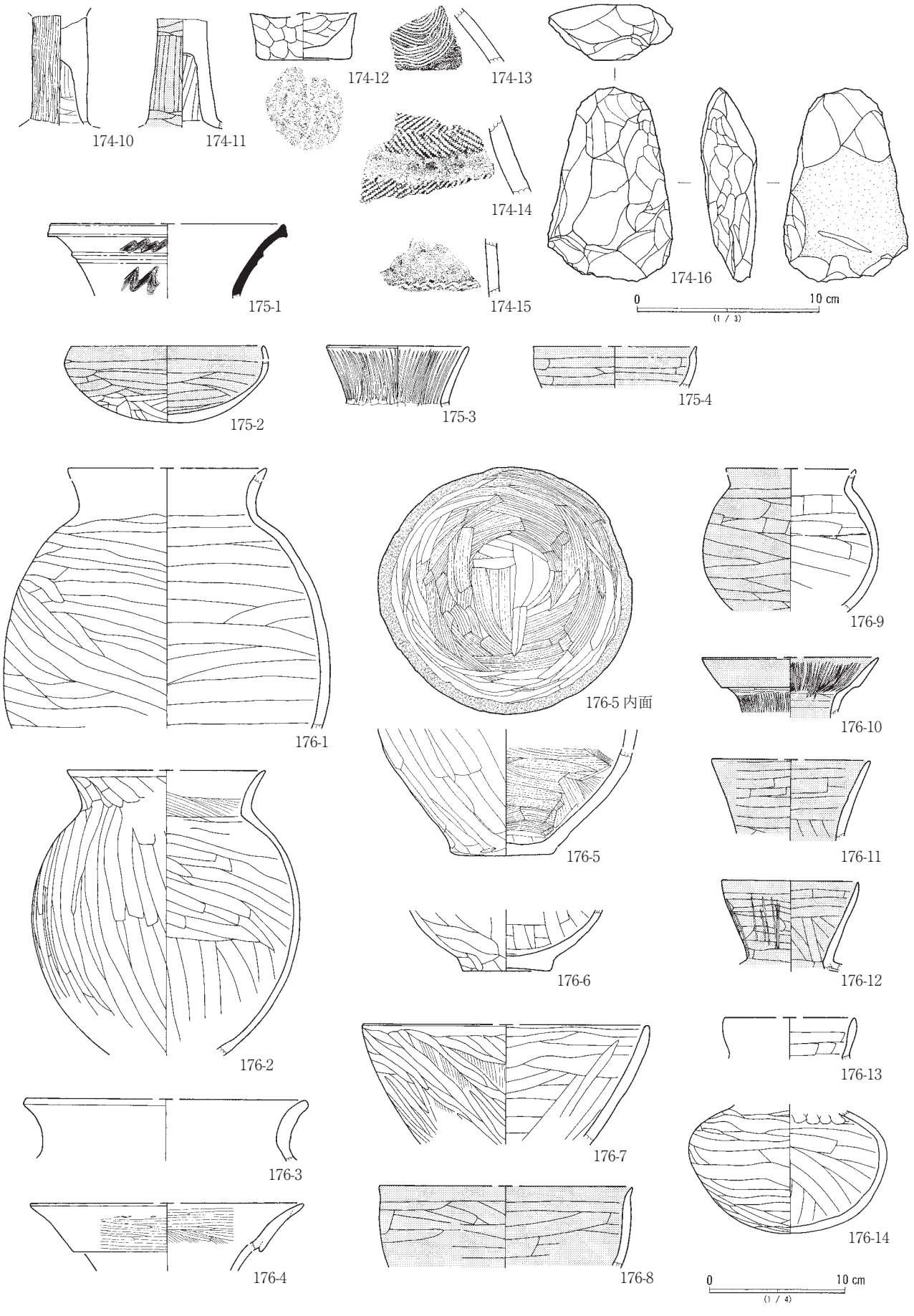
遺物

本遺構からは340点3,993gの土器片と４点160gの礫、１点270gの打製石斧、１点0.13gの臼玉、１点45.6gの内行花文鏡、１点7.7gの刀子、１点5.6gの鉄鏃が検出された。土器片等の内訳は、223点2,793gの土師器、114点1,030gの弥生土器、２点135gの手づくね土器、１点35gのミニチュア土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

１・２・３・16は、床直ないしは床直上で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

175号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号174号Ｐ２。174号竪穴の南コーナー部に位置し、174号竪穴を削平して存在する。長径0.90m短径0.60m深さ33㎝を測り、主軸方位はN－56°―Wを示す。



第166図　174 ～ 176号遺構出土遺物実測図

底面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、須恵器甕・土師器坏を検出する事から174号竪穴とは別期の遺構と判断される。なお図版59に写る二枚重ねの土師器坏も同時期の遺物と推定されるが、遺物は現在行方不明で図化できなかった。

遺物

本遺構からは４点345gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、３点325gの土師器、１点20gの須恵器である。これらの出土遺物の全てを図示した。

１・３は、１が底面に、３が底面よりやや浮いた状況で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられている。

176号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号158号。168号竪穴の上層に存在し、177号竪穴の西側に隣接し、168号・177号竪穴を削平し、352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径5.80m推定短径5.60mを測り、主軸方位はN－83 °－Wを示す。カマドは東壁中央部付近に存在するが、貯蔵穴の位置からやや南に偏って構築されている可能性が高い。残存する火床長径0.39m短径0.36m深さ13㎝を測り、火床長軸方位はN－78 °－Wを示す。

残存する壁高は、東壁41㎝を測り、周溝は存在しない。床面の掘り込み面・状態とも不明で、ピットは12ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ３・Ｐ９あたりが主柱穴らしきピット、位置的にＰ５は貯蔵穴と想定される。深さはＰ１が62㎝、Ｐ２が35㎝を測る。Ｐ３が49㎝、Ｐ４が22㎝、Ｐ５が42㎝、Ｐ６が41㎝、Ｐ７が53㎝、Ｐ８が26㎝、Ｐ９が36㎝、P10が61㎝、P11が70㎝、P12には測定値がない。

貝ブロックは２ヶ所に検出され、Aは2.60m×1.30m、168号竪穴との間に15～17㎝程の間層を挟み厚さ23㎝前後、Bは0.55m×0.35m、厚さ15㎝前後を測る。

なお、カマド前面床レベルは168号竪穴中央部より16㎝高く、貝ブロックまでの間層間も同じレベルな事から、176号竪穴床面は168号竪穴より17㎝ほど高い位置に存在したものと想定される。

遺物

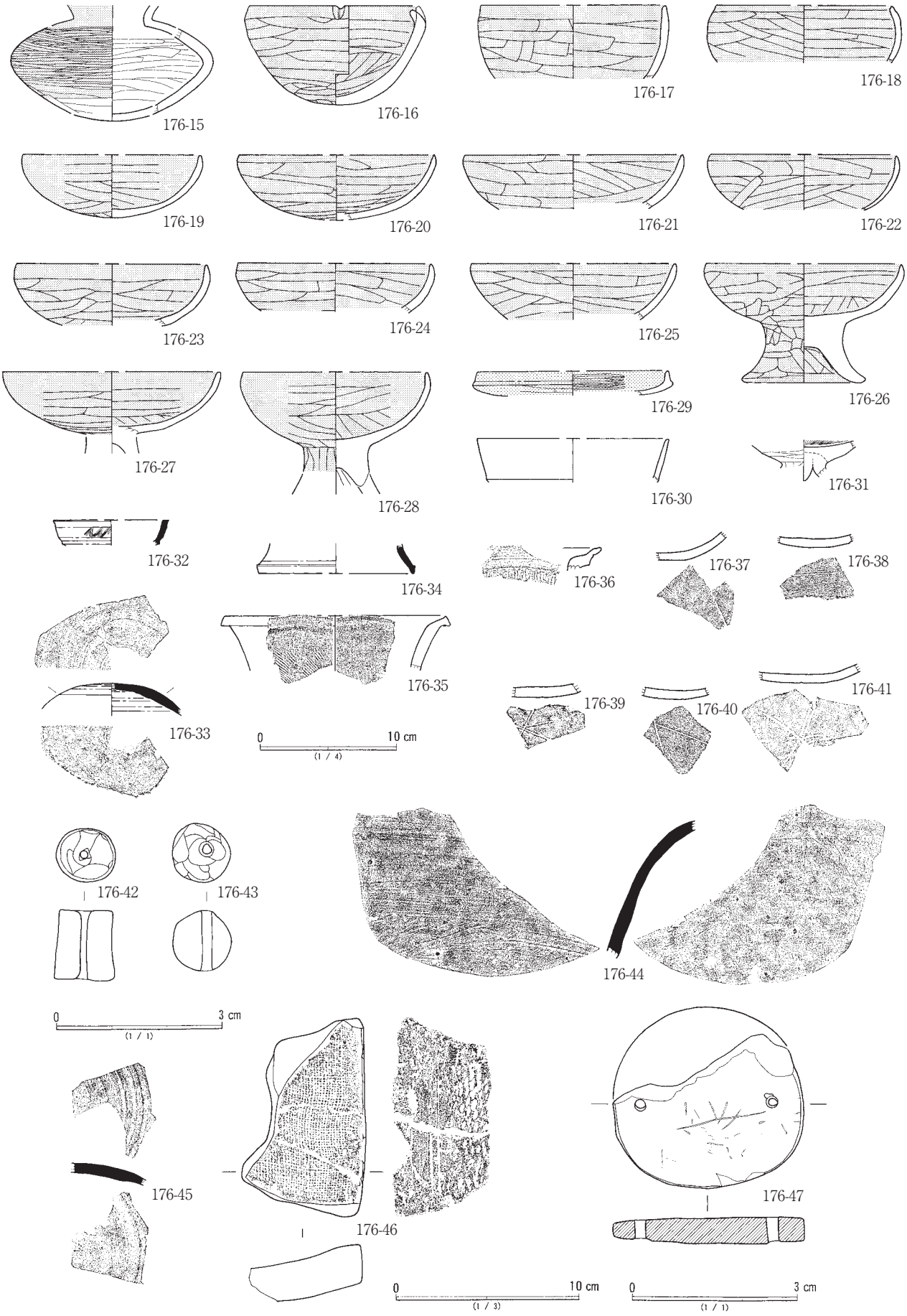
本遺構からは102点6,101gの土器片と１点6.2gの有孔円盤、１点31.8gの土玉、１点49.4gの管状土錘、１点185gの布目瓦が検出された。土器片等の内訳は、94点5,845gの土師器、５点236gの須恵器、３点20gの弥生土器である。これらの出土遺物の内47点を図示した。

１～３・５・９・12・14・15・19・27は、全て168号竪穴床面から14㎝以上高い位置から出土しており、おそらく本跡床面密着状態で検出されたものと推定される。また44は貯蔵穴内－７㎝で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられている。

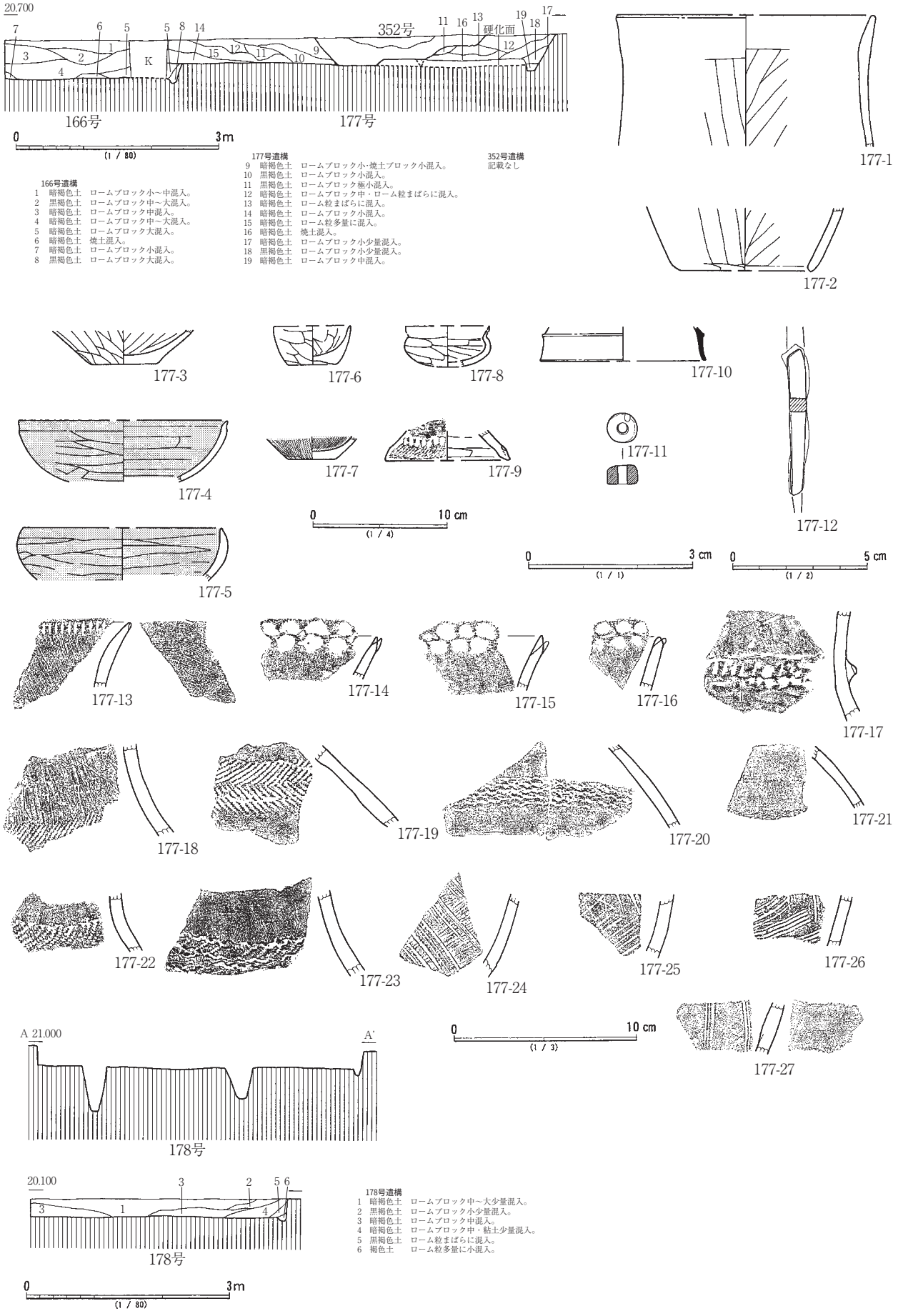
177号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号156号。176号竪穴の北側に隣接し、352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。

本跡西側に存在する粘土ブロックは、当初168号竪穴のカマドとされていた。しかし、168号竪穴は、遺構プランが楕円形であることや出土遺物からもカマドが伴う時期の遺構ではない。また土層断面でも、166号竪穴よりも本跡の方が新しいし、168号竪穴自体もカマドを伴う時期の竪穴ではない。



第167図　176号遺構出土遺物実測図



第168図　166・177・178・352号遺構実測図・177号遺構出土遺物実測図

また本跡と重複する176号竪穴には既にカマドが存在している。そうすると、この粘土ブロックはカマドではないという判断により、最終的にはカマドとして調査をされなかった。

ところで、この粘土ブロックは本当にカマドではないのだろうか。カマドでないにしろ、176号竪穴より新しい段階の遺構に伴うものと判断することは可能であり、位置的には177号竪穴に伴うカマドと想定するのが最も妥当な判断であろう。

本跡は長径7.00m残存短径6.66mを測り、主軸方位はN－34°－Wを示す。西壁中央部よりやや北側に偏った位置にカマドが構築されるが未調査である。

残存する壁高は、北壁39㎝、南壁36㎝を測り、周溝は一部に存在し、深さは３～９㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であるが軟弱である。ピットは14ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ６が主柱穴と想定される。深さはＰ１が49㎝、Ｐ３が57㎝、Ｐ４が68㎝、Ｐ５が48㎝、Ｐ６が53㎝を測る。Ｐ７～P11は周溝内の小ピットで、深さは６～９㎝を測る。この他、P12が６㎝、P13が55㎝、P14が29㎝を測り、Ｐ２には測定値がない。

焼土・炭化物は２ヶ所に検出され、厚さは焼土が12～15㎝、炭化物は６～９㎝を測る。

遺物

本遺構からは770点8,225gの土器片と16点625gの礫、１点0.2gの臼玉、１点9.5gの鉄鏃片が検出された。土器片等の内訳は、538点5,843gの土師器、１点４gの須恵器、229点2,348gの弥生土器、２点30gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内27点を図示した。

11・12は、床直で出土しており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。しかし、カマドが伴うのであれば、須恵器蓋坏・赤彩埦形坏が本跡に伴う可能性が高い。

178号遺構（竪穴住居跡）

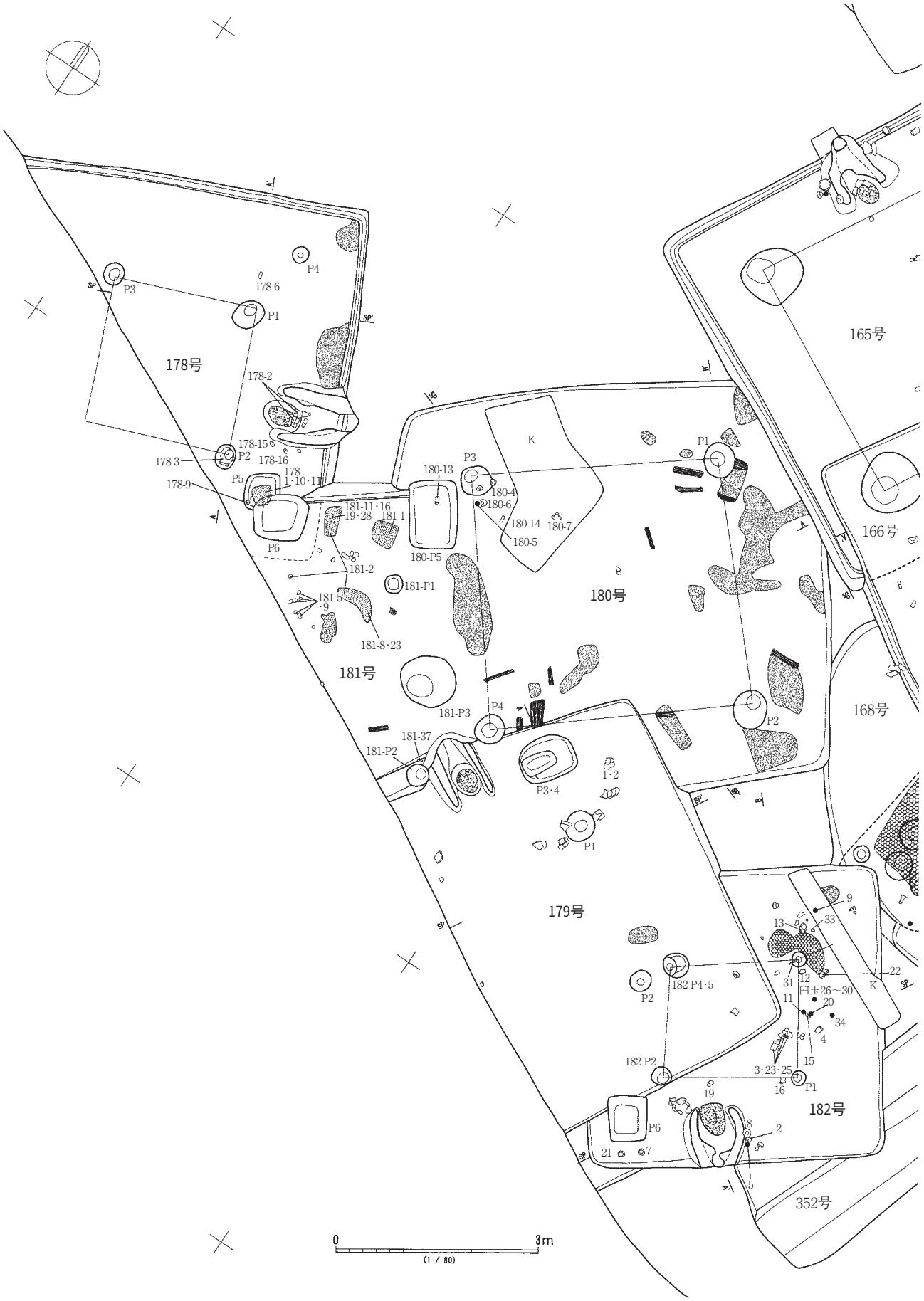
昭和53年度調査時遺構番号178号。調査区中央西端部に位置し、165号竪穴西側に存在し、181号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。残存長径5.30m残存短径5.30mを測り、主軸方位はN－69°－Eを示す。柱穴の位置からカマドは東壁中央やや南側に偏った位置に構築され、残存する火床長径0.40m短径0.26m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－81°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁28㎝、北壁32㎝を測り、残存範囲で周溝は全周し、深さは１～13㎝を測る。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、あまり踏み固められていない。ピットは６ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は主柱穴、Ｐ５・６は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が46㎝、Ｐ２が70㎝、Ｐ３が64㎝、Ｐ５が40㎝、Ｐ６が65㎝を測る。この他、Ｐ４が20㎝を測る。

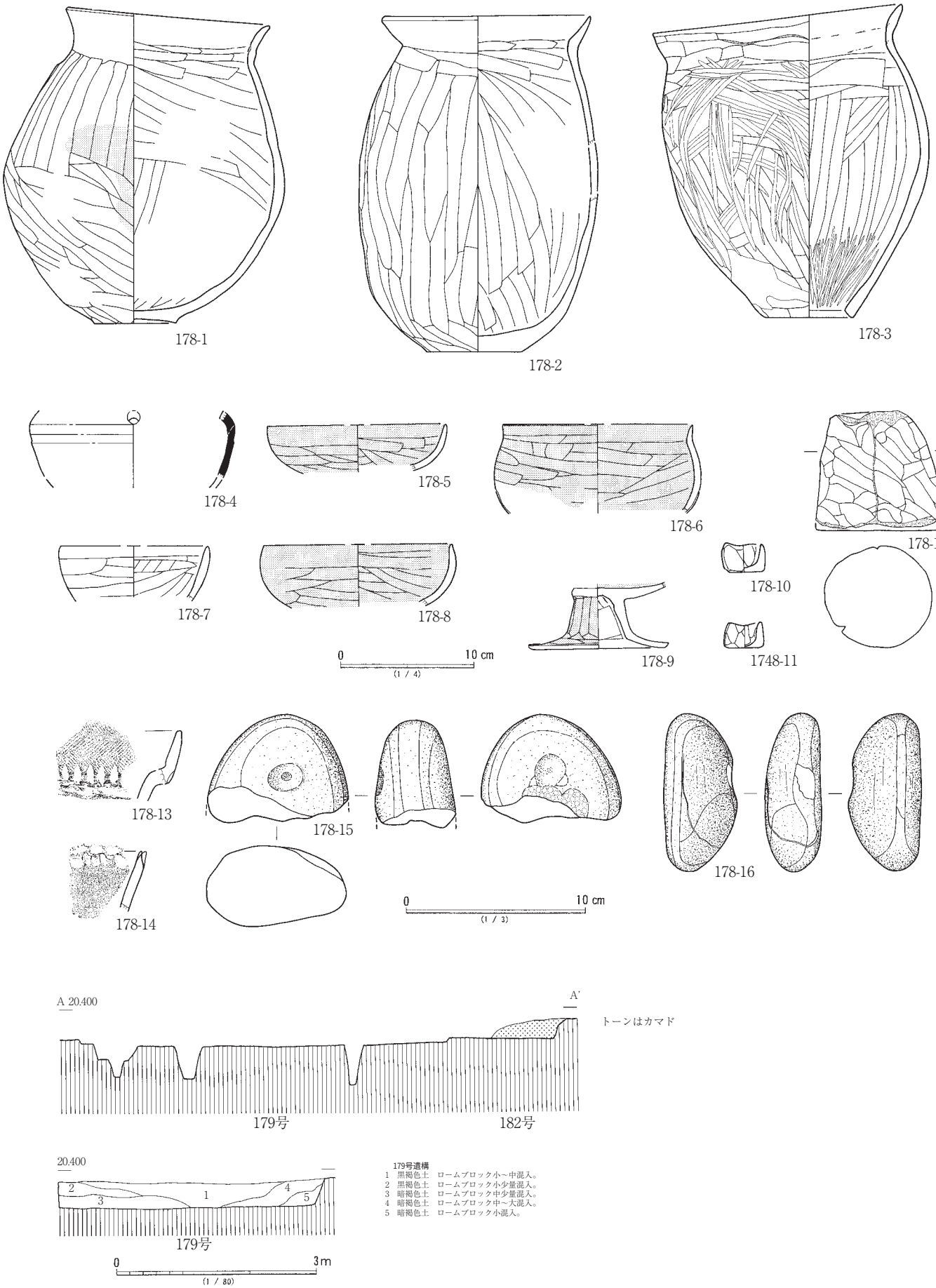
焼土は２ヶ所に検出され、厚さ８㎝を測る。

遺物

本遺構からは160点6,595gの土器片と１点56gの礫、２点379gの磨石、１点480gの支脚が検出された。土器片等の内訳は、123点6,284gの土師器、１点22gの須恵器、33点244gの弥生土器、２点30gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。



第169図　178～182号遺構実測図



第170図　179・182号遺構実測図・178号遺構出土遺物実測図

１～３・６・９～11・15・16は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内や貯蔵穴内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。３はＰ２柱穴内検出の甑であり、柱防腐用に埋納した可能性も考えられる。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

179号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号167号。調査区中央西端部に位置し、178号竪穴東側に存在し、180号・181号・182号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.86m残存短径4.06mを測り、主軸方位はN－60°－Wを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する火床長径0.36m短径0.30m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－68°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁６㎝、西壁４㎝、北壁４㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、あまり踏み固められていない。ピットは３ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２は主柱穴、Ｐ３は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が50㎝、Ｐ２が59㎝、Ｐ３が50㎝を測り、更に中央部が25㎝下がる。

焼土は１ヶ所に検出され、厚さ３㎝を測る。

遺物

本遺構からは769点11,862gの土器片と22点515gの礫、１点40gの石錘が検出された。土器片等の内訳は、642点10,369gの土師器、３点116gの須恵器、122点1,347gの弥生土器、１点10gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内15点を図示した。

１～４は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴う可能性が高いものである。１は須恵器模倣甕であり、非常にシャープな造りである。時期的にはTK－23併行期と考えられる。４は、所謂「比企型坏」であり、３と共にカマド内から出土している。10は須恵器有蓋高坏であり、脚部の４方に長方形透かしが施されるが、底部の回転ヘラケズリの範囲が粗く後退したものであり、TK－23型式の所産と考えられる。９は小片で、把手が付くかどうかわからない椀であるが、初期須恵器の範疇と想定される。

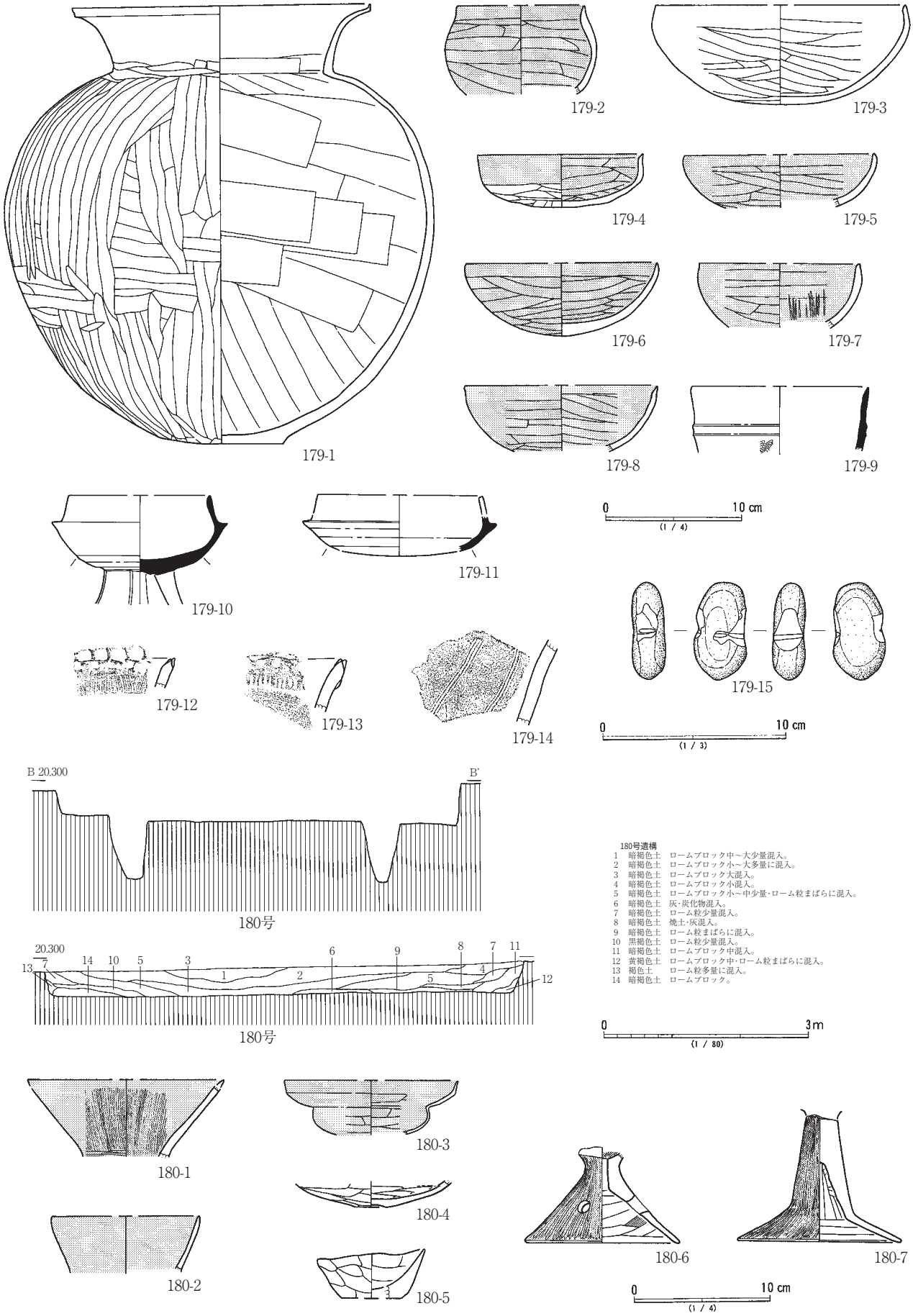
ところで、出土地点の不明な本跡出土遺物３～11までの内、３・４がほぼ同時期、それ以外もまた５世紀末葉のほぼ同時期の遺物である。とすればカマド内から出土した３・４を重視し、本跡の存続年代は５世紀末葉のTK－23併行期と捉えておきたい。そうすると、９の須恵器は、本跡と隣接して重複する182号竪穴に伴うか、あるいは混入品の可能性が高いといえよう。

180号遺構（竪穴住居跡）

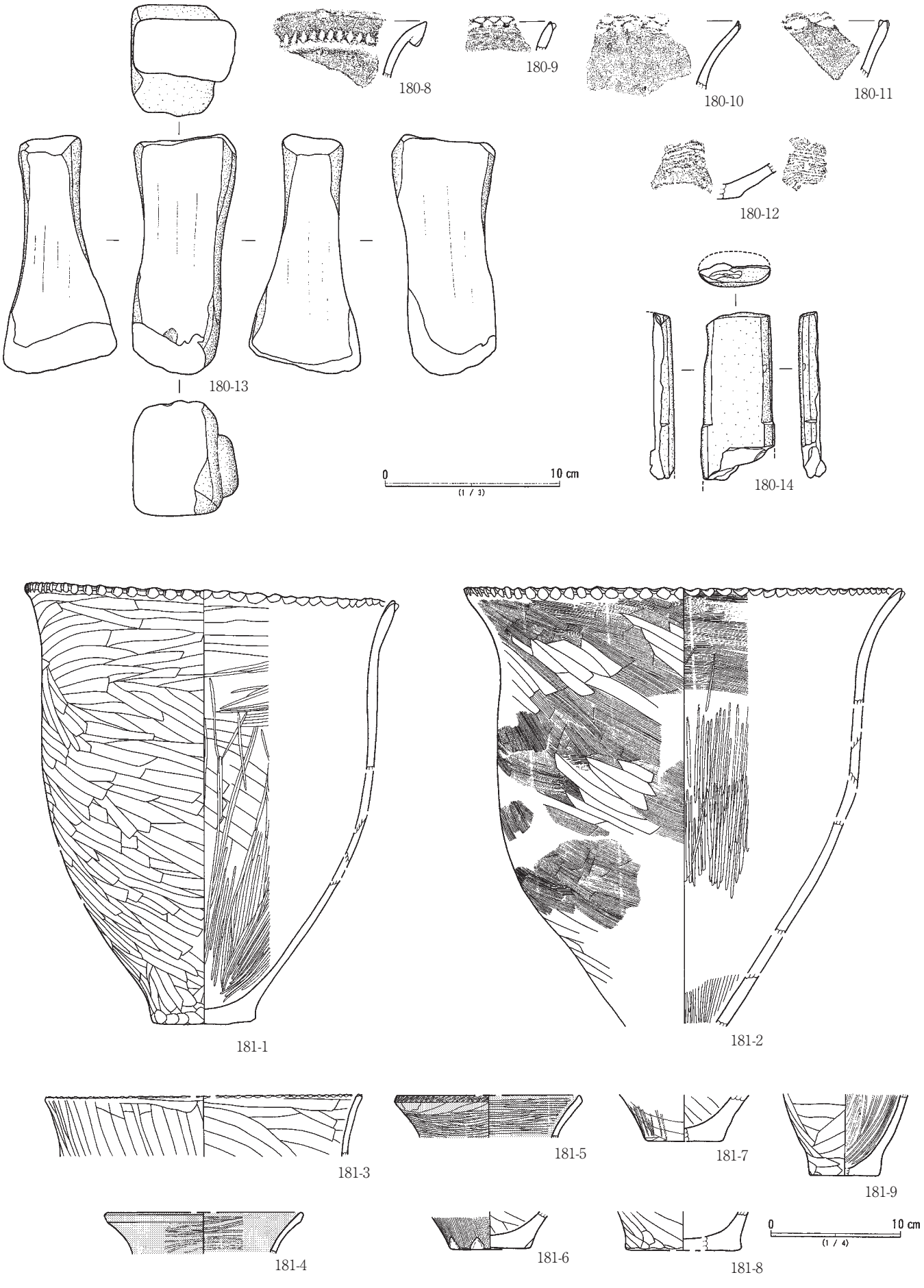
昭和53年度調査時遺構番号168A号。179号竪穴北側に隣接し、165号・179号竪穴に削平され、181号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。推定長径6.40m短径6.12mを測り、主軸方位はN－52°－Eを示す。炉は未検出であるが、おそらくＰ１・Ｐ３間の撹乱に削平されたものと想定される。

残存する壁高はそれぞれ東壁35㎝、西壁31㎝、南壁46㎝、北壁62㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、硬く踏み固められているが凹凸が激しい。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が87㎝、Ｐ２が82㎝、Ｐ３が92㎝、Ｐ４が86㎝、Ｐ５が46㎝を測る。

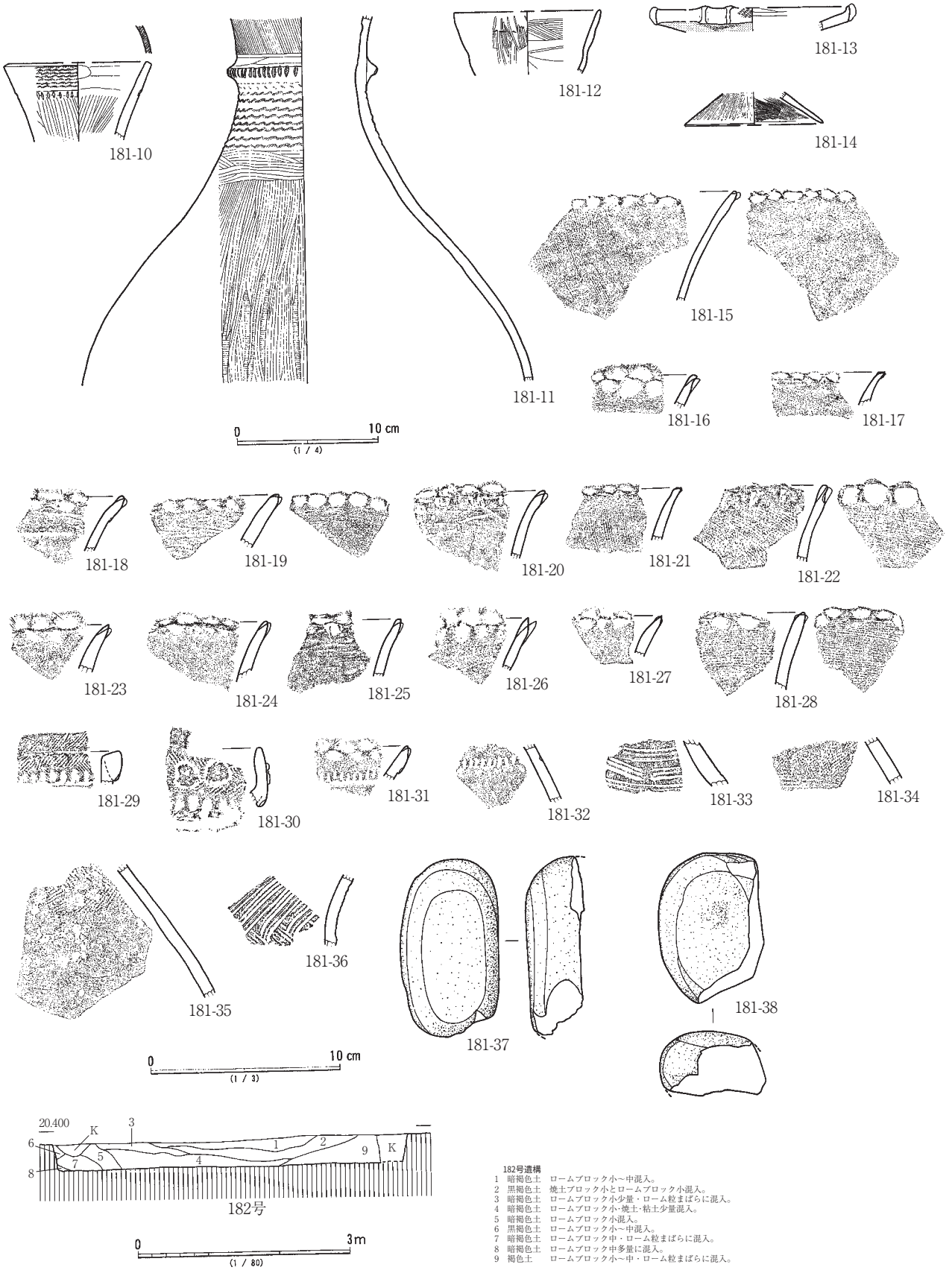
焼土は14ヶ所、炭化物は11ヶ所に検出され、厚さ２～12㎝を測る。



第171図　180号遺構実測図・179・180号遺構出土遺物実測図



第172図　180・181号遺構出土遺物実測図



182号遺構
1　暗褐色土　ロームブロック小～中混入。
2　黒褐色土　焼土ブロック小とロームブロック小混入。
3　暗褐色土　ロームブロック小少量・ローム粒まばらに混入。
4　暗褐色土　ロームブロック小・焼土・粘土少量混入。
5　暗褐色土　ロームブロック小混入。
6　黒褐色土　ロームブロック小～中混入。
7　暗褐色土　ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。
8　暗褐色土　ロームブロック中多量に混入。
9　褐色土　ロームブロック小～中・ローム粒まばらに混入。

第173図　182号遺構実測図・181号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは385点4,356gの土器片と２点140gの礫、１点502gの砥石、１点83gの石剣が検出された。土器片等の内訳は、213点2,492gの土師器、171点1,806gの弥生土器、１点58gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

４～７・13は、床直ないしは床直上、あるいは貯蔵穴底で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

181号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号168B号。180号竪穴西側に隣接し、178号・179号・180号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存径4.40mを測り、出土遺物から宮ノ台式期の竪穴であり、炉は未検出であるが、おそらく調査区域外に所在するものと想定される。

残存する壁高は北西壁だけであり、高さは31㎝を測り、周溝はこの範囲だけに深さ６㎝で残存する。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦でよく踏み固められている。ピットは３ヶ所に検出され、壁に直交するＰ１・Ｐ２は主柱穴と想定され、深さはＰ１が78㎝、Ｐ２が72㎝を測る。この他にＰ３が64㎝を測り、炭化物は２ヶ所に検出されている。

遺物

本遺構からは538点12,336gの土器片と10点755gの礫、２点400gの砥石、１点106gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、25点312gの土師器、１点24gの須恵器、511点11,987gの弥生土器、１点13gの縄文土器である。これらの出土遺物の内38点を図示した。

１・２・５・８・９・11・16・19・23・28・37は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

182号遺構（竪穴住居跡）

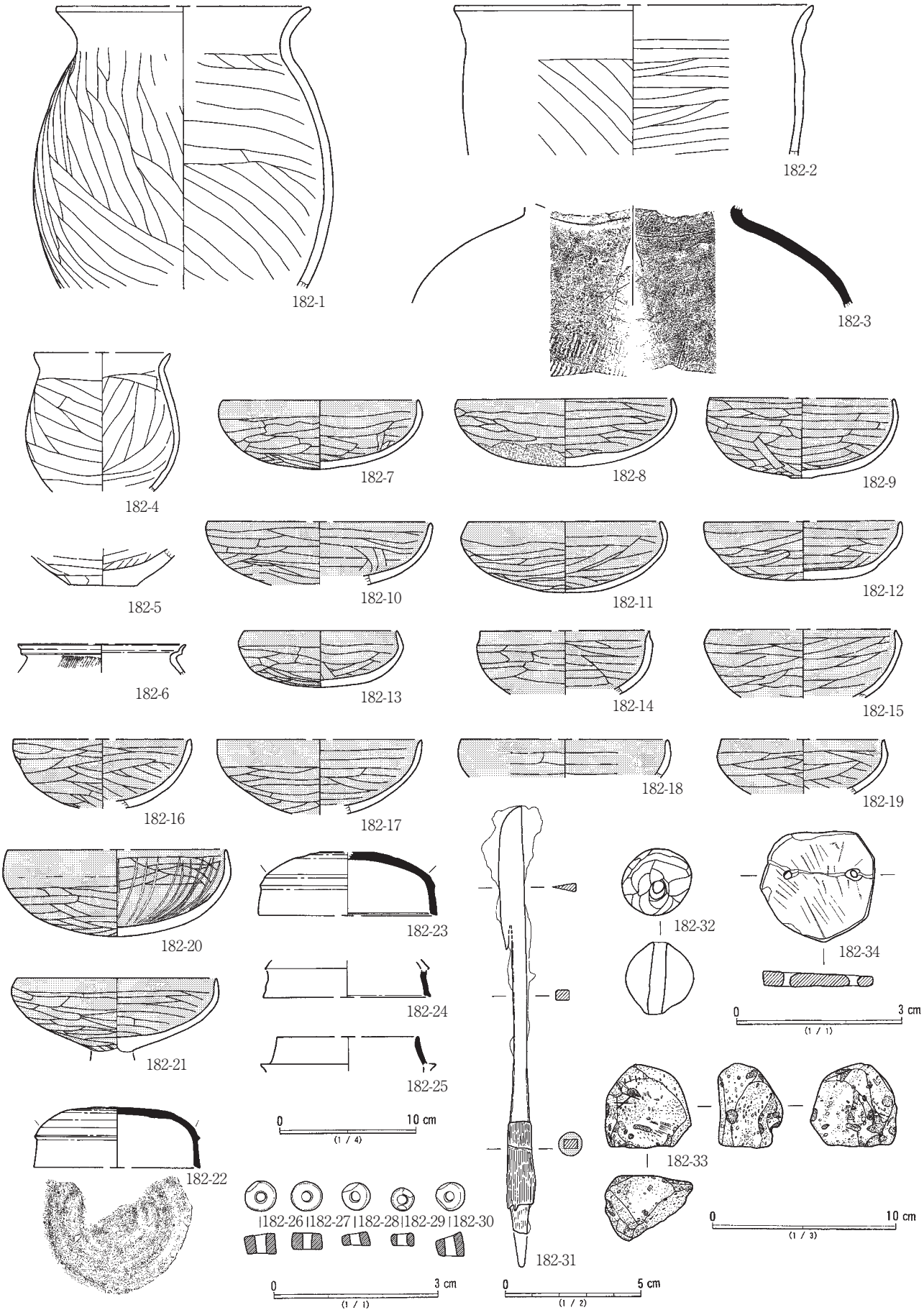
昭和53年度調査時遺構番号166号。179号竪穴の南側に隣接し、169号・171号・173号竪穴を削平し、352号溝に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.46m短径4.40mを測り、主軸方位はN－32°－Eを示す。カマドは南壁中央やや西側に偏った位置に構築され、残存する火床長径0.50m短径0.34m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－54°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁12㎝、南壁37㎝、北壁43㎝を測り、西壁の測定値はなく周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦でよく踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ５は主柱穴、Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が39㎝、Ｐ２が55㎝、Ｐ３が34㎝、Ｐ４が179号床面から18㎝、本跡床面換算では24㎝、Ｐ５が179号床面から34㎝、本跡床面換算で40㎝を測る。Ｐ６が49㎝を測る。

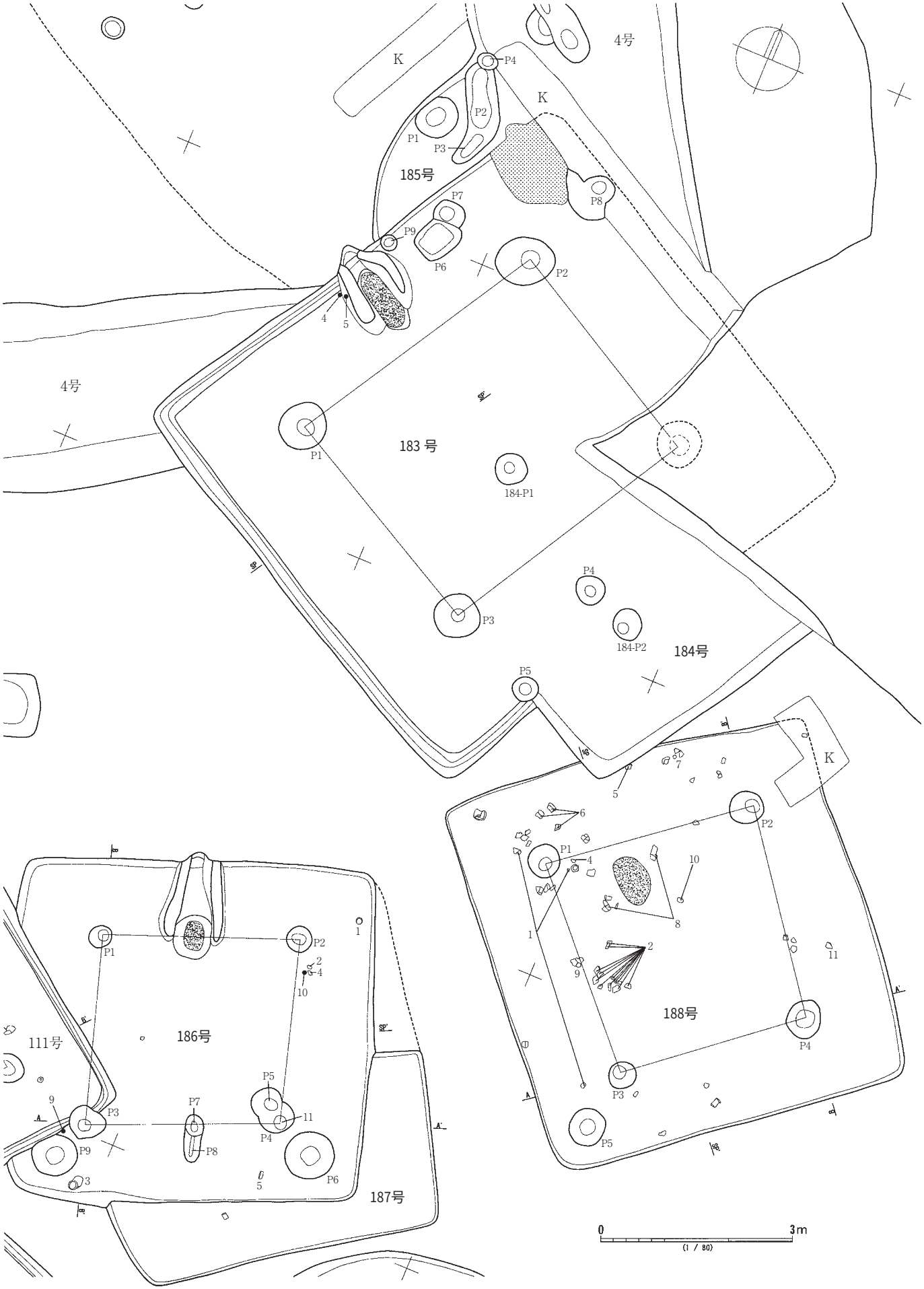
焼土は１ヶ所に検出され、厚さ９㎝を測る。Ｐ３付近の床面から18㎝高い位置で、90×45㎝規模の厚さ２㎝程度の貝ブロックが検出されている。

遺物

本遺構からは506点10,760gの土器片と８点320gの礫、１点12.4gの磨石、１点1.40gの有孔円盤、５点0.67gの臼玉、１点17.1gの鉄鏃、１点53gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、438点9,231gの



第174図　182号遺構出土遺物実測図



第175図　183 ～ 188号遺構実測図

土師器、８点844gの須恵器、59点625gの弥生土器、１点60gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内34点を図示した。

１・３・７～９・11～12・15・16・18～23・25・31は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。２・４・５・13・33は、床面から12㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

なお、須恵器は比較的多数検出されており、22の蓋坏はTK－208型式期に想定される。

183号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号257A号。４号方形周溝墓南側溝および185号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。推定長径8.05m短径7.40mを測り、主軸方位はN－61°－Wを示す。カマドは西壁中央に構築され、残存する火床長径1.00m短径0.38m深さ16㎝を測り、火床長軸方位はN－61°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ西壁15.5㎝、南壁44㎝、北壁2.5㎝を測り、周溝は西側のみ存在し、深さは６㎝前後を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦でよく踏み固められている。ピットは９ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は主柱穴、Ｐ４は入口施設、Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはＰ２が64㎝、Ｐ６が54㎝を測る。この他Ｐ７が80㎝、Ｐ８は72㎝、Ｐ９は31㎝を測る。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５には測定値が存在しなかった。

粘土は北側のコーナー部にカマド形状に１ヶ所に検出されるが、厚さの測定値はない。

遺物

本遺構からは182点3,544gの土器片と２点9.5gの礫、４点188gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、130点3,164gの土師器、49点294gの弥生土器、３点86gの縄文土器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。

４・５はカマド脇の床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

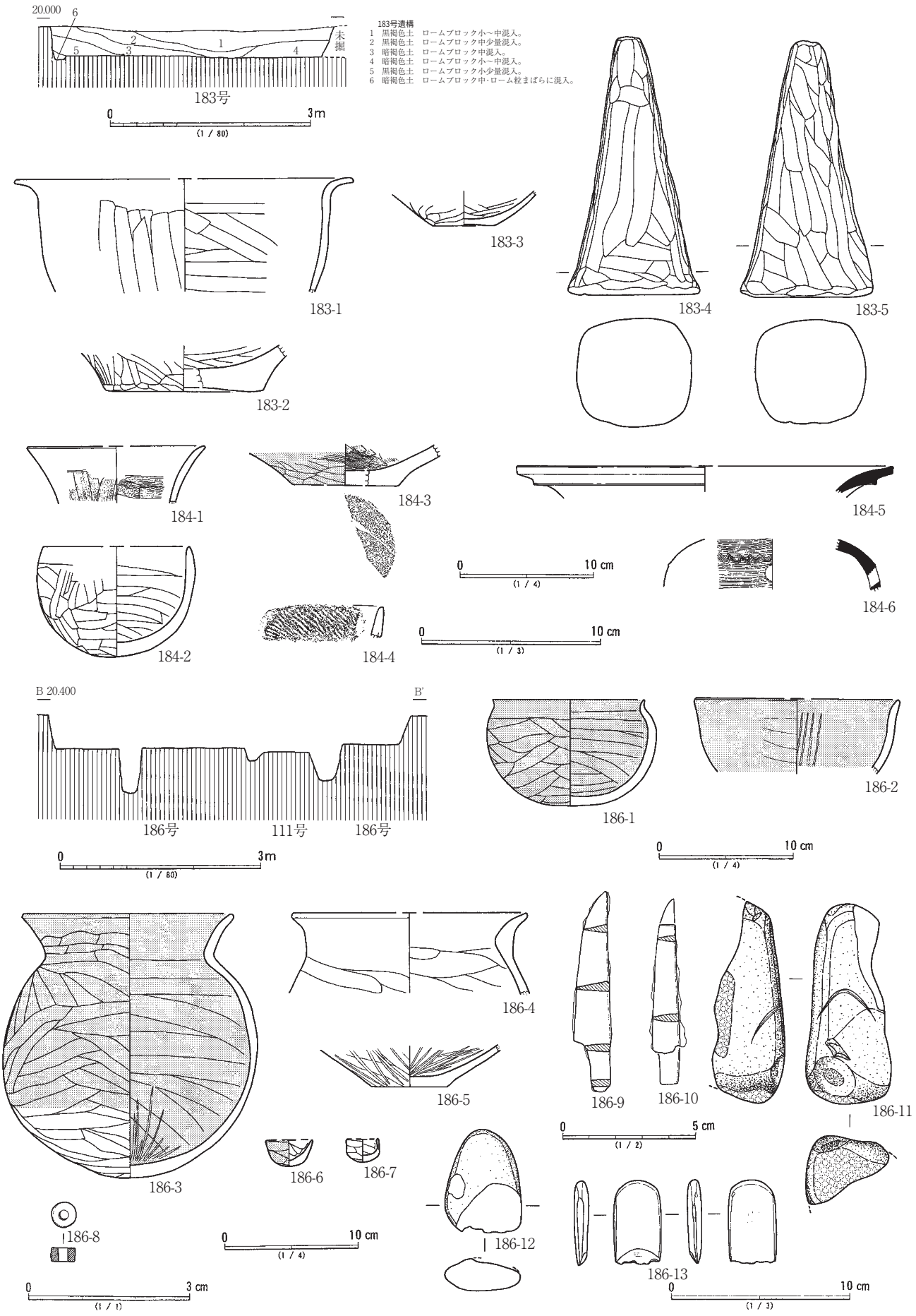
184号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号257B号。188号竪穴を削平し、183号竪穴に削平され存在する竪穴住居跡である。残存長径4.00m短径1.85mを測り、残存する壁高は、南壁18㎝を測り、東壁の測定値はない。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦でよく踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と想定されるが、深さの測定値が存在しなかった。

遺物

本遺構からは105点1,415gの土器片と３点22gの礫が検出された。土器片等の内訳は、48点1,027gの土師器、２点38gの須恵器、51点302gの弥生土器、４点48gの縄文土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

図化した本跡出土遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。しかし記録写真には本跡床直で検出されている完形の土師器坏が残っており、日誌にもこの地点より完形の内黒坏出土とされている。これによく似た黒色処理坏が、遺物に注記が施されていない御林跡遺跡一括遺物24の黒色処理坏である。先の159号竪穴カマド例からしても、本遺構に伴う可能性が極め



第176図　111・183・186号遺構実測図・183・184・186号遺構出土遺物実測図

て高い。したがって、未注記の御林跡遺跡一括遺物は、遺構から出土しているが、ラベルの欠如等によって帰属不明になってしまった遺物の寄集めであるといえる。なお、本跡出土遺物に遺跡一括24が加わることによって、本跡に７世紀中葉の年代感を与えることができる。

185号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号なし号。４号方形周溝墓調査の拡張に際し、183号竪穴に削平されて検出されている。竪穴を削平し、183号竪穴に削平され存在する竪穴住居跡である。残存長径3.20m短径1.30mを測り、残存する壁高は、西壁19㎝を測り、東壁の測定値はない。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦でよく踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が32.5㎝・Ｐ２は43.0㎝、Ｐ３が2.5㎝、Ｐ４には深さの測定値は存在しない。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

186号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号118A号。183号竪穴南側に存在し、187号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.70m短径5.40mを測り、主軸方位はN－17 °－Wを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する火床長径0.46m短径0.30m深さ6㎝を測り、火床長軸方位はN－19 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁47㎝、西壁46㎝、南壁43㎝、北壁52㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦で硬く踏み固められている。ピットは９ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ６・９は貯蔵穴、Ｐ７・８は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が65㎝、Ｐ２が47㎝、Ｐ３が52㎝、Ｐ４が52㎝、Ｐ５が45㎝、Ｐ６が65㎝、Ｐ７が29㎝、Ｐ８が13㎝、Ｐ９が65㎝を測る。

遺物

本遺構からは1,023点12,325gの土器片と７点935gの礫、１点210gの磨石・敲石、１点52gの石斧未製品、１点18.6gの磨製石斧、１点0.10gの臼玉、２点11.4gの刀子が検出された。土器片等の内訳は、653点9,205gの土師器、１点10gの須恵器、365点3,035gの弥生土器、２点15gの手づくね土器、２点60gの縄文土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

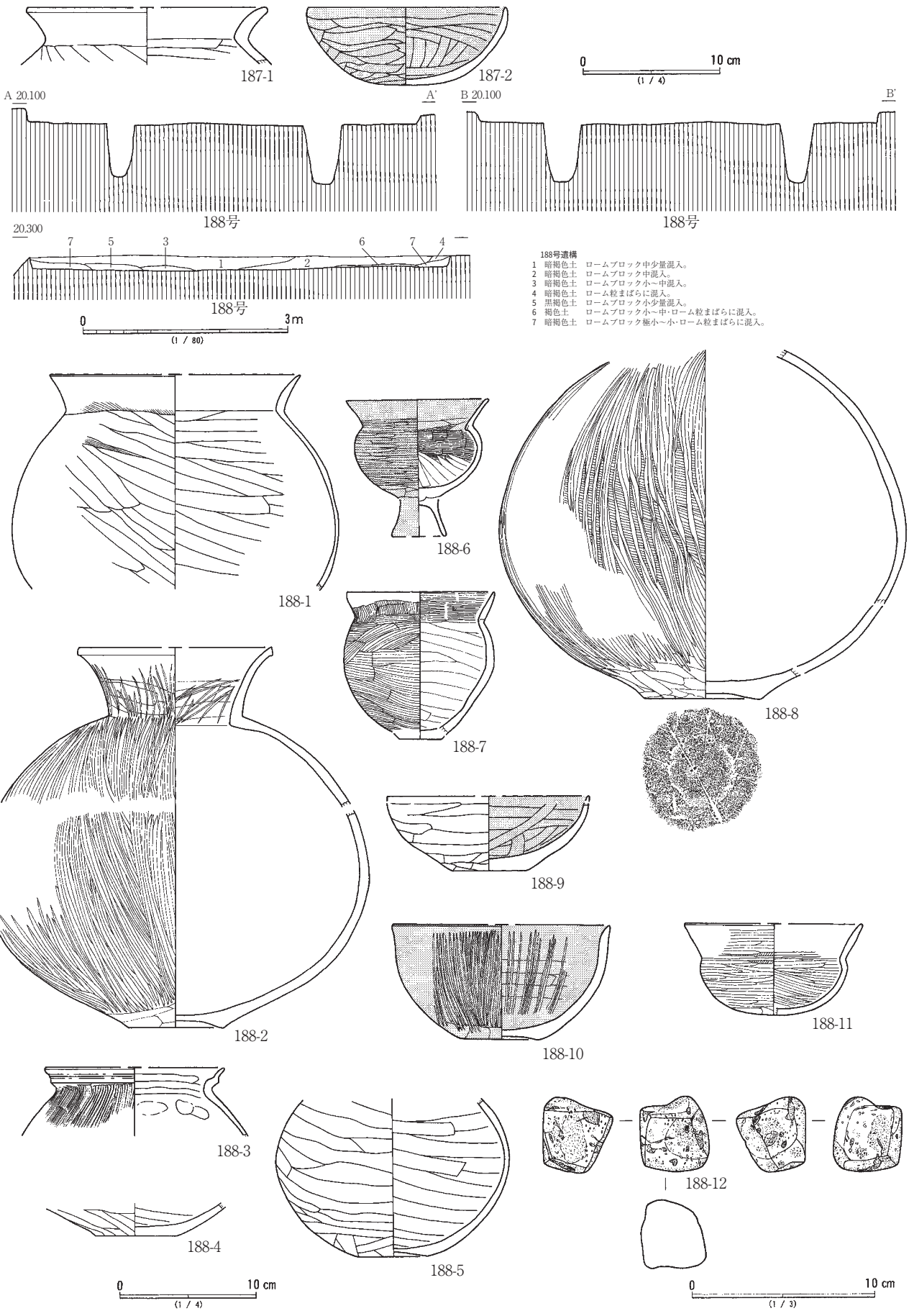
１～４・６・７・８・９・10・11は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

187号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号118B号。186号竪穴南側に隣接し、186号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.26m短径2.82mを測り、主軸方位はN－55 °－Eを示す。炉・カマド等の火床施設は186号竪穴に削平され未検出である。

残存する壁高はそれぞれ東壁27㎝、南壁37㎝を測り、西壁・北壁の測定値はない。周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦で硬く踏み固められているが、ピット等は検出されなかった。

検出プランは長方形であるが、出土遺物が示す時期の竪穴住居であるならば、プランは方形を呈するものと想定される。



第177図　188号遺構実測図・187・188号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは24点434gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、23点429gの土師器、１点５gの弥生土器である。これらの出土遺物の内２点を図示した。

本跡出土遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

188号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号117号。184号竪穴南側に存在し、184号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.12m短径5.92mを測り、主軸方位はN－40 °－Wを示す。炉はP １・P ２の中央ややP １寄りに検出され、残存する火床長径0.80m短径0.50mを測るが深さの記載が無く、火床長軸方位はN－44 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁12㎝、西壁20㎝、南壁19㎝、北壁19㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦で硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはP １が76㎝、Ｐ２が86㎝、Ｐ３が77.5㎝、Ｐ４が86㎝、Ｐ５が62㎝を測る。

遺物

本遺構からは458点11,736gの土器片と５点124gの礫、１点14.3gの磨石、１点55gの布目瓦が検出された。土器片等の内訳は、386点10,751gの土師器、66点850gの弥生土器、６点135gのの縄文土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

１・２・４～11は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

189号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号108号。調査区中央やや東側に位置し、190号・191号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.94m短径5.54mを測り、主軸方位はN－66 °－Wを示す。カマドは西壁中央に構築され、残存する火床長径0.54m短径0.38m深さ10㎝を測り、火床長軸方位はN－66 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁15㎝、西壁44㎝、南壁44㎝を測る。周溝は全周し、深さは４～11㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦で硬く踏み固められており、ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ６は入口施設、Ｐ７は貯蔵穴と想定され、深さはP １が40㎝、Ｐ２が62㎝、Ｐ３が70㎝、Ｐ４は71㎝、Ｐ６は61㎝、Ｐ７は55㎝を測る。他にP ５は76㎝を測る。

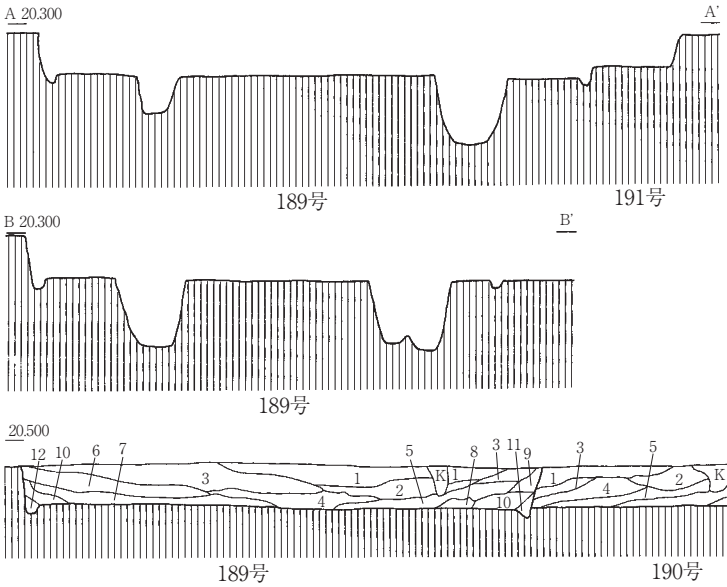
焼土は７ヶ所に検出され、厚さは２～３㎝を測る。

遺物

本遺構からは994点15,619gの土器片と７点232gの礫、１点380gの磨石・敲石、１点83gの石斧未製品、１点6.3gの有孔円盤、１点0.1gの臼玉、１点30gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、750点12,489gの土師器、７点292gの須恵器、229点2,690gの弥生土器、１点16gの手づくね土器、７点132gの縄文土器である。これらの出土遺物の内32点を図示した。

１～３・８・10・14・29・31・32は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、

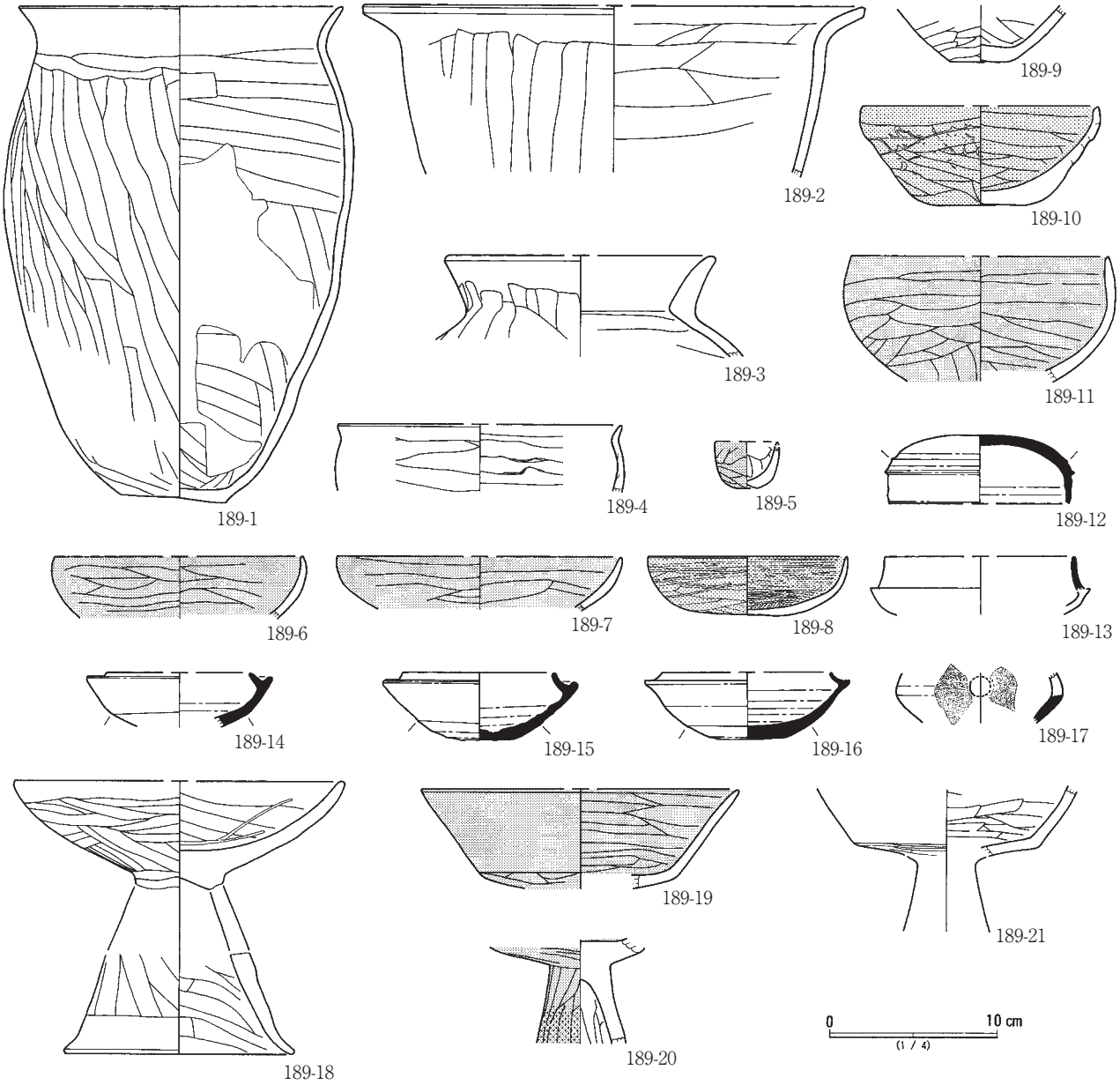
第178図　189～194号遺構実測図



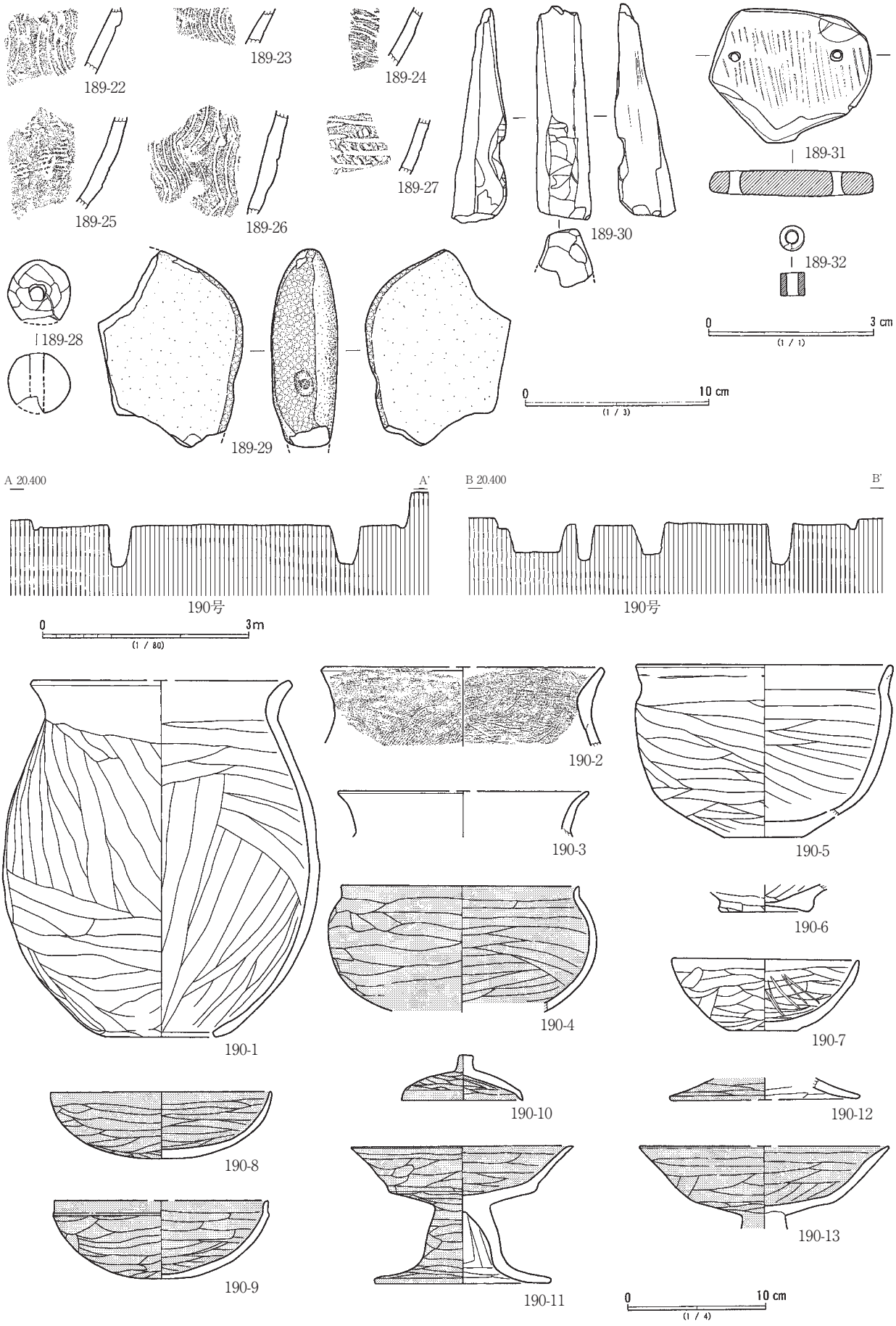
189号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 黒褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック中～大少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中～大・粘土少量混入。
5 黒褐色土 ロームブロック小混入。
6 暗褐色土 ロームブロック小混入。
7 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
8 暗褐色土 焼土ブロック極小混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小混入。
10 暗褐色土 ローム粒まばらに少量混入。
11 暗褐色土 焼土ブロック極小・ロームブロック小混入。
12 黄褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。

190号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中少量
3 黒褐色土 ロームブロック小混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小～中～大・粘土少量混入。
5 黒褐色土 ロームブロック小～中混入。
6 暗褐色土 ロームブロック中混入。
7 暗褐色土 灰・焼土ブロック極小混入。
8 暗褐色土 ロームブロック中混入。

0 3m
(1 / 80)



第179図　189 ～ 191号遺構実測図・189号遺構出土遺物実測図



第180図　190号遺構実測図・189・190号遺構出土遺物実測図

本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は覆土一括ないしは床面よりかなり高い位置で取上げられている。

190号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号110号。189号竪穴の北側に位置し、189号竪穴に削平され、191号・193号・247号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.58m短径5.32mを測り、主軸方位はN－57°－Eを示す。カマドは北東壁中央やや東側に偏って構築され、残存する火床長径0.56m短径0.50m深さ14㎝を測り、火床長軸方位はN－50°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁10㎝、南東壁17㎝、北西壁15㎝、南西壁15㎝を測る。周溝は西側に存在し、深さは４～10㎝を測る。床面は189号竪穴とほぼ同一レベルでハードローム層中に掘り込まれ、平坦で硬く踏み固められており、ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は主柱穴、Ｐ４は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が58㎝、Ｐ２が48㎝、Ｐ３は189号床面から検出され33㎝、本跡床面換算で34㎝を測る。Ｐ４は69㎝を測る。なお、本跡本来の残りの主柱穴は、時期的に新しい189号貼床に阻まれ検出することができなかった。

遺物

本遺構からは839点16,254gの土器片と６点640gの礫、１点383gの磨石・敲石、１点2.3gの有孔円盤、１点0.10gの臼玉が検出された。土器片等の内訳は、546点13,197gの土師器、288点2,964gの弥生土器、５点93gの縄文土器である。これらの出土遺物の内32点を図示した。

１～５・７・８・10～17・19・30・32は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内や貯蔵穴で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。なお、189号竪穴一括で取上げられた12のTK－216型式期の須恵器蓋坏は、本来ならば本跡に伴うものと想定される

191号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号109号。189号竪穴の東側に隣接し、189号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径3.60m残存短径1.80mを測り、南東壁の傾き方位はN－43°－Eを示す。炉は189号竪穴に削平され未検出である。

残存する壁高はそれぞれ北東壁41㎝、南東壁39㎝、南西壁34㎝を測る。周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦で硬く踏み固められており、ピットは１ヶ所に検出された。深さは33㎝を測る。

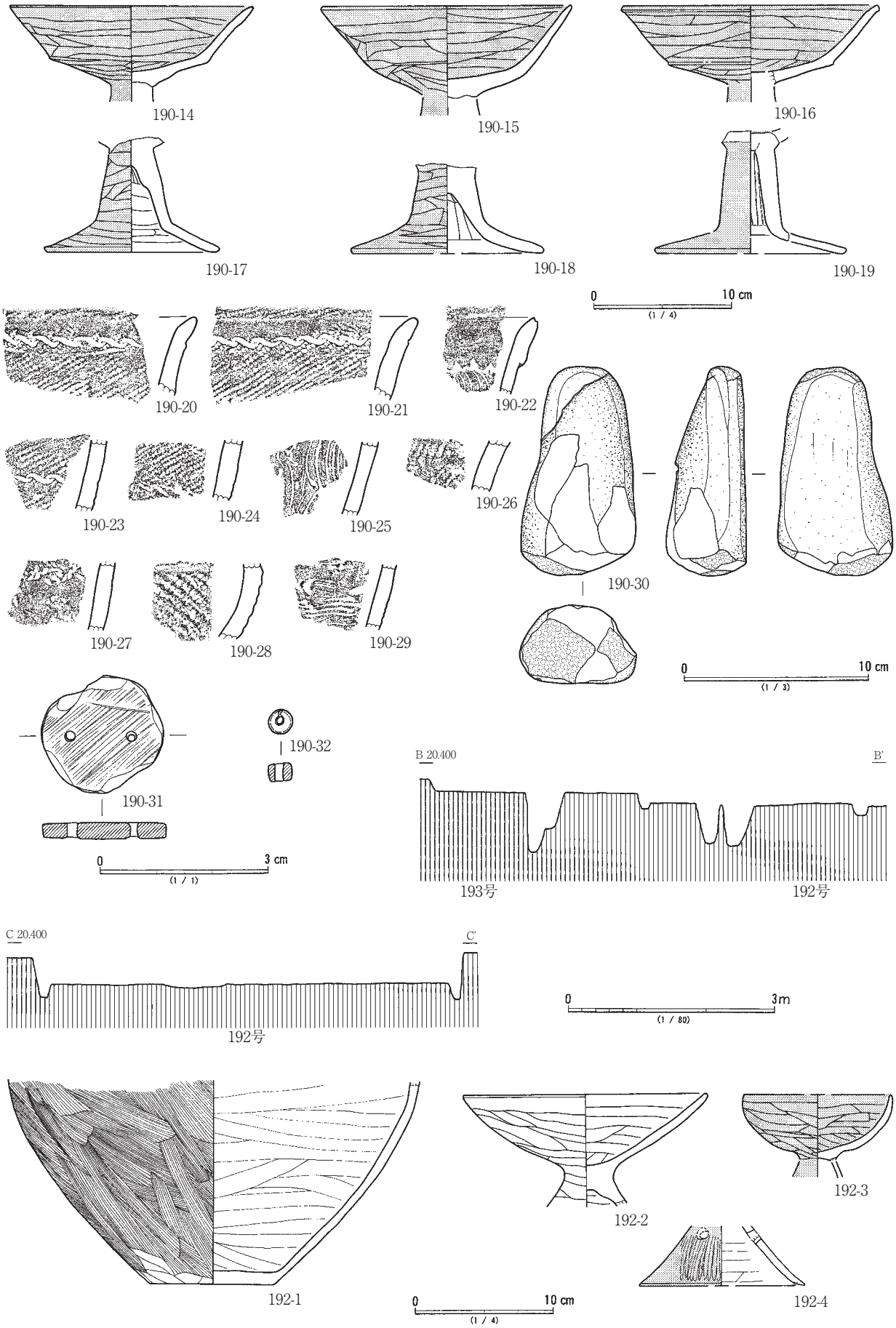
遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

192号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号116号。189号竪穴の西側に位置し、193号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径6.26m短径5.66mを測り、主軸方位はN－34°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南側に偏って検出され、残存する火床長径1.04m短径0.58m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－30°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁14㎝、南東壁45㎝、北西壁38㎝、南西壁44㎝を測る。周溝は途切れながらもほぼ全周し、深さは１～７㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦で硬く踏



第181図　192・193号遺構実測図・190・192号遺構出土遺物実測図

第182図　192・193・246号遺構実測図・192・193号遺構出土遺物実測図

み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはP １が123号竪穴床面からの検出で54㎝、本跡床面換算で56㎝を測る。Ｐ２は61㎝、Ｐ３は63㎝、Ｐ４は29㎝を測る。この他P ５は23㎝を測る。

焼土は２ヶ所に検出され、厚さ２～３㎝を測る。

遺物

本遺構からは317点7,490gの土器片と４点55gの礫、２点110gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、116点4,550gの土師器、200点2,910gの弥生土器、1点30gの近世陶器である。これらの出土遺物の内17点を図示した。

２・16・17は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。１・３・６・７・15は床面から12㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

193号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号112号。192号竪穴の東側に位置し、190号・192号・247号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.94m残存短径3.10mを測り、主軸方位はN-23 °-Wを示す。炉はP １・P ２間の中央やや東側に偏って検出され、残存する火床長径0.86m短径0.64m深さ6㎝を測り、火床長軸方位はN-29 °-Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁15㎝、南壁26㎝、北壁21㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれる平坦な貼床で、部分的に硬く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはP １が192号竪穴床面からの検出で56㎝、本跡床面換算で70㎝を測る。Ｐ２aは84㎝、Ｐ２bは37㎝、Ｐ３は192号竪穴床面からの検出で70㎝、本跡床面換算で84㎝を測る。Ｐ４は78㎝，Ｐ５は48㎝を測る。

焼土・炭化物はそれぞれ２ヶ所に検出され、厚さ４～７㎝を測る。

遺物

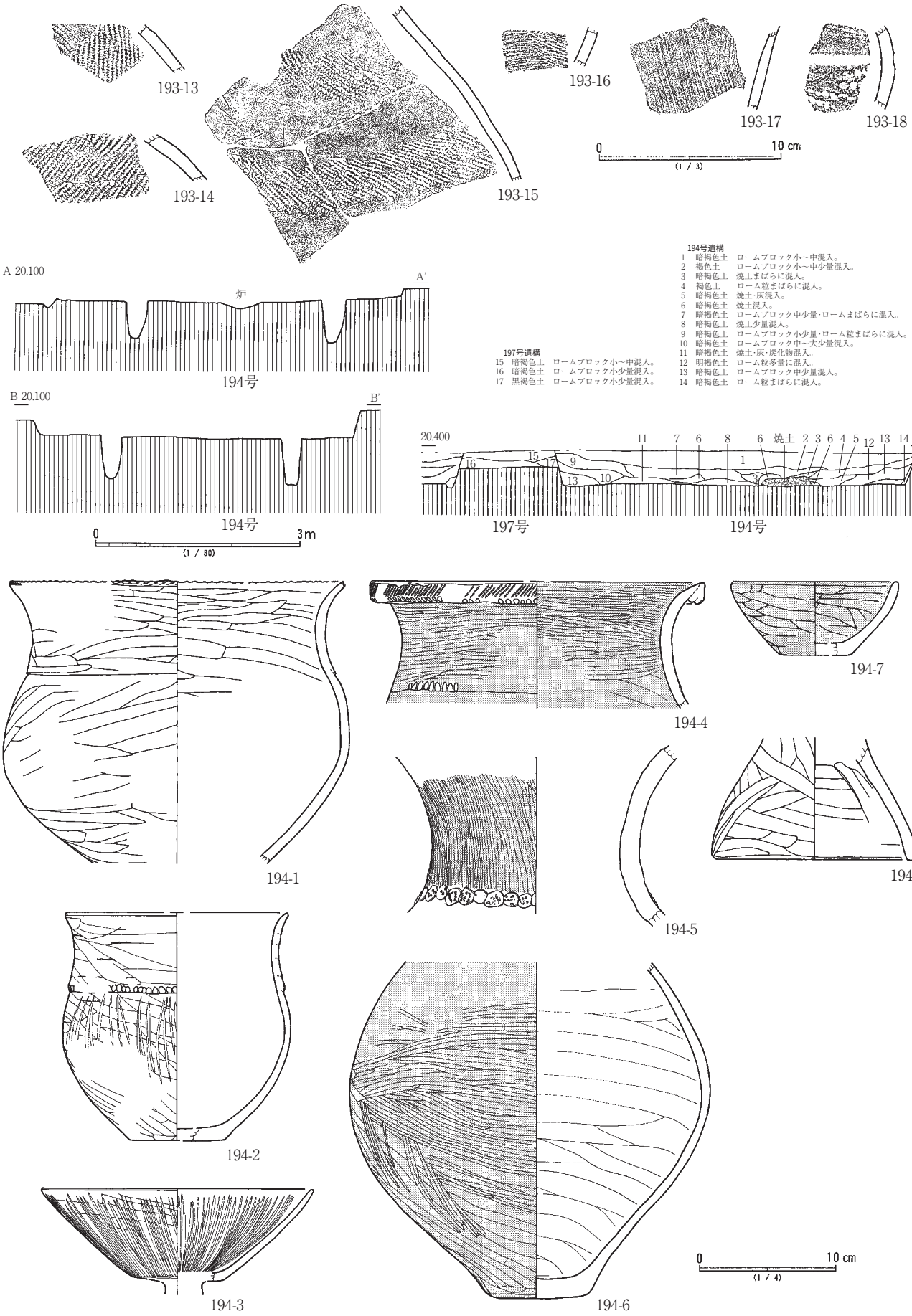
本遺構からは780点12,160gの土器片と８点984gの礫が検出された。土器片等の内訳は、159点2,768gの土師器、612点9,245gの弥生土器、１点６gの手づくね土器、８点141gの縄文土器である。これらの出土遺物の内18点を図示した。

３・６は、炉内火床密着ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。１・２・７は床面から12㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

194号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号104号。192号竪穴の南側に位置し、192号・197号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.34m短径5.26mを測り、主軸方位はN－56 °－Wを示す。炉はP １・P ２間の中央に検出され、残存する火床長径0.92m短径0.56m深さ６㎝を測り、火床長軸方位はN－51 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁45㎝、南東壁42㎝、北西壁39㎝、南西壁18㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ、硬く踏み固められており、ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはP １が63㎝、Ｐ２は53㎝、Ｐ３



第183図　194・197号遺構実測図・193・194号遺構出土遺物実測図

が69㎝、Ｐ４は72㎝を測る。

焼土は５ヶ所に検出され、厚さ７～16㎝を測り、焼土内の８ヶ所に炭化物が認められた。

遺物

本遺構からは319点14,274gの土器片と３点335gの礫が検出された。土器片等の内訳は、20点370gの土師器、298点13,829gの弥生土器、１点75gの縄文土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

１・２・５～８は、床直もしくは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。３・４は床面から20㎝以上浮いた状態で検出されている。

195号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号102号。調査区中央東側に位置し、196～199号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.76m短径5.73mを測り、主軸方位はN－58°－Wを示す。カマドは北西壁中央に構築されるが、撹乱により片袖だけ残して削平されている。

残存する壁高はそれぞれ北東壁27㎝、南東壁54㎝、北西壁55㎝、南西壁52㎝を測る。周溝は全周し、深さは９～15㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦で硬く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設と想定され、深さはＰ１が51㎝、Ｐ２が69㎝、Ｐ３が80㎝、Ｐ４は77㎝、Ｐ５は43㎝を測る。

焼土は１ヶ所に検出されるが、厚さの測定値はない。

遺物

本遺構からは369点8,088gの土器片と10点310gの礫、２点330gの磨石・敲石、２点952gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、127点5,784gの土師器、１点154gの須恵器、240点2,138gの弥生土器である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

１・５・６・９・12・14・20・21は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。２～４・７は床面から12㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

196号遺構（竪穴住居跡）

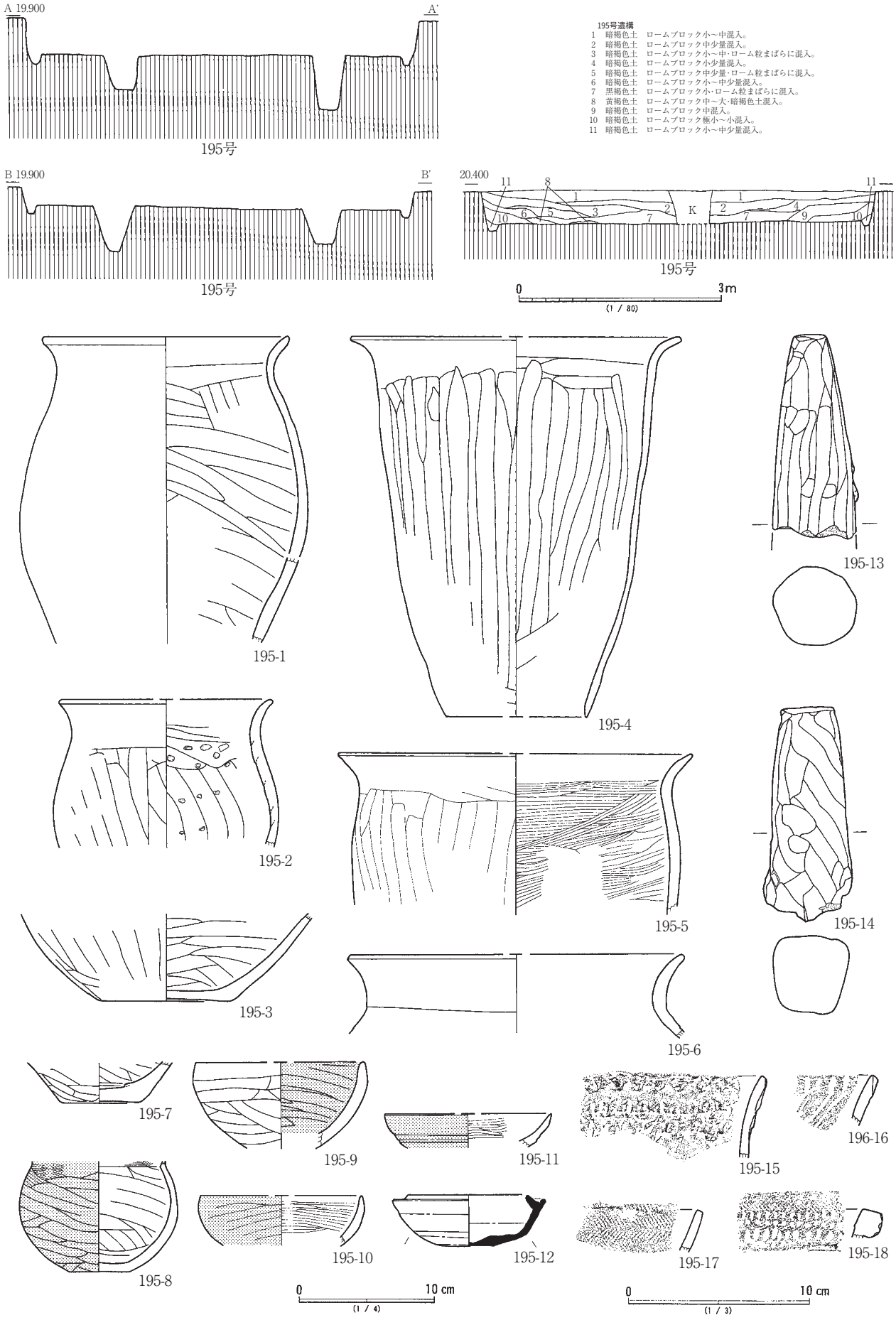
昭和53年度調査時遺構番号127号。195号竪穴の西側に位置し、118号・195号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.14m短径4.86mを測り、主軸方位はN－61°－Eを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや西側に偏って検出され、残存する火床長径0.72m短径0.57m深さ３㎝を測り、火床長軸方位はN－60°－Ｅを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁20㎝、西壁29㎝、北壁27㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦で硬く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が58㎝、Ｐ２が195号竪穴床面から検出され46㎝、本跡床面換算で66㎝を測る。Ｐ４は45㎝、Ｐ５も45㎝を測るが、Ｐ３の測定値は存在しなかった。

遺物

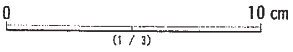
本遺構からは277点7,915gの土器片と43点2,000gの礫、１点22.8gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、144点6,840gの土師器、127点1,000gの弥生土器、３点50gの手づくね土器、３点25gの縄文土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

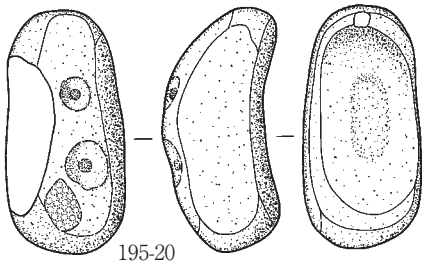
第184図　195～200号遺構実測図



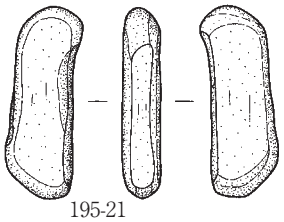
第185図　195号遺構実測図・出土遺物実測図

195-19

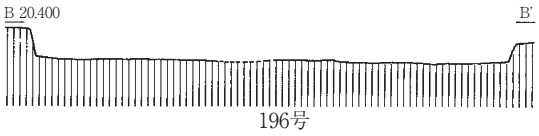




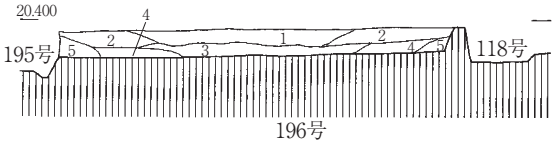
195-20



195-21

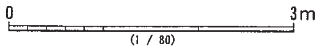


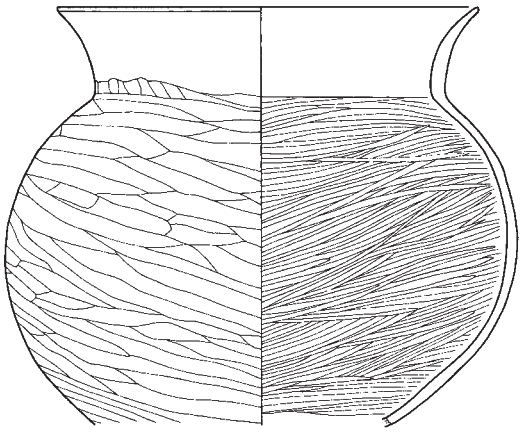
196号



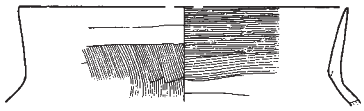
196号

196号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小混入。
3 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
4 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小少量・ローム粒まばらに混入。

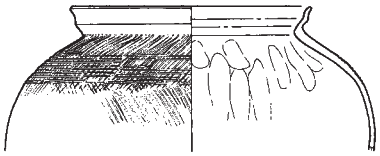




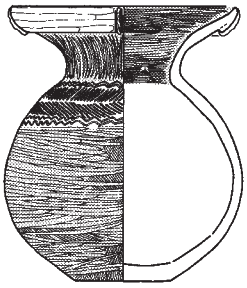
196-1



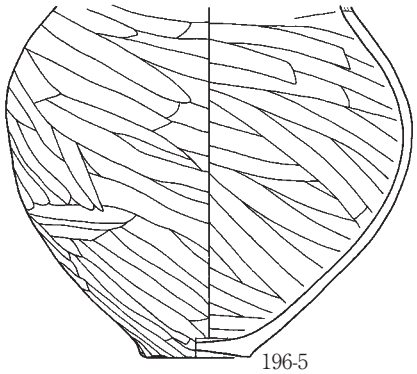
196-2



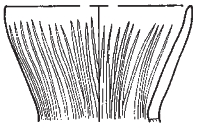
196-3



196-4



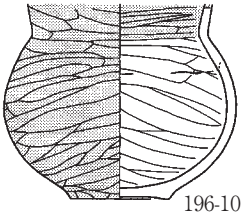
196-5



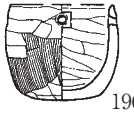
196-7

196-8

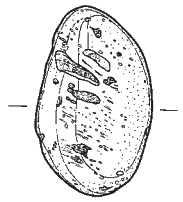
196-9



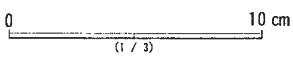
196-10

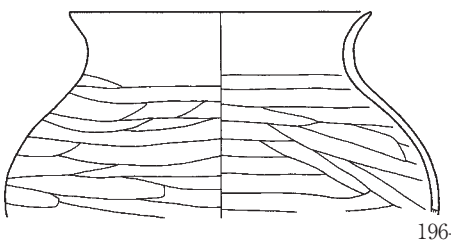


196-11

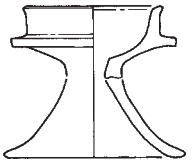


196-14

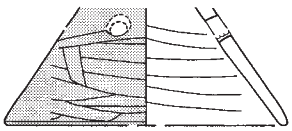




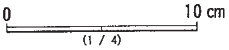
196-6



196-12



196-13



第186図　196号遺構実測図・195・196号遺構出土遺物実測図

１・３・５～７・９・10・12・14は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。４は床面から12㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

197号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号103A号。195号竪穴の北側に隣接し、194号・198号竪穴を削平し、195号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.90m推定短径5.80mを測り、主軸方位はN－43°－Eを示す。炉は195号竪穴に削平され未検出である。

残存する壁高は南東壁25㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、ピットは３ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は主柱穴と想定され、深さはP １が55㎝、Ｐ２が49㎝、Ｐ３は195号竪穴床面から検出され44㎝、本跡床面換算で68㎝を測る。Ｐ４は貯蔵穴と想定され、深さは57㎝を測る。本跡本来の主柱穴のひとつは、時期的に後出する195号貼床に妨げられて検出することはできなかった。

遺物

本遺構からは311点4,853gの土器片と１点210gの礫が検出された。土器片等の内訳は、98点3,087gの土師器、213点1,766gの弥生土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

１～３は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

198号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号103B号。195号竪穴の北側に位置し、122号・195号・197号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径3.32m短径1.36mを測り、炉は197号P １付近で検出された。残存する火床長径0.50m短径0.38m深さ６㎝を測り、火床長軸方位はN－49°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ西壁19㎝、北壁22㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦で、ピットは検出されなかった。

遺物

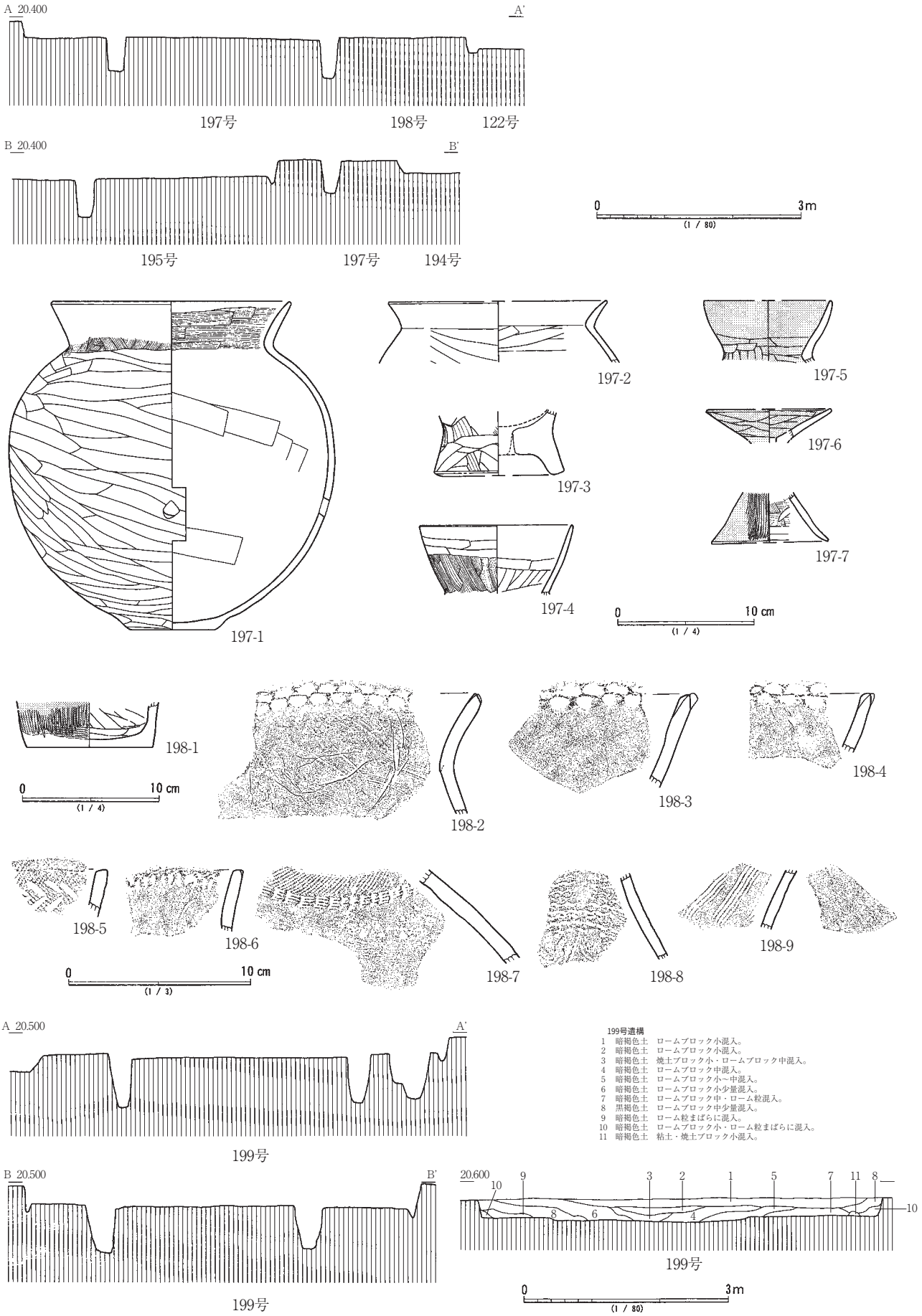
本遺構からは54点905gの土器片と１点10gの礫が検出された。土器片等の内訳は、７点52gの土師器、47点853gの弥生土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

１・７は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

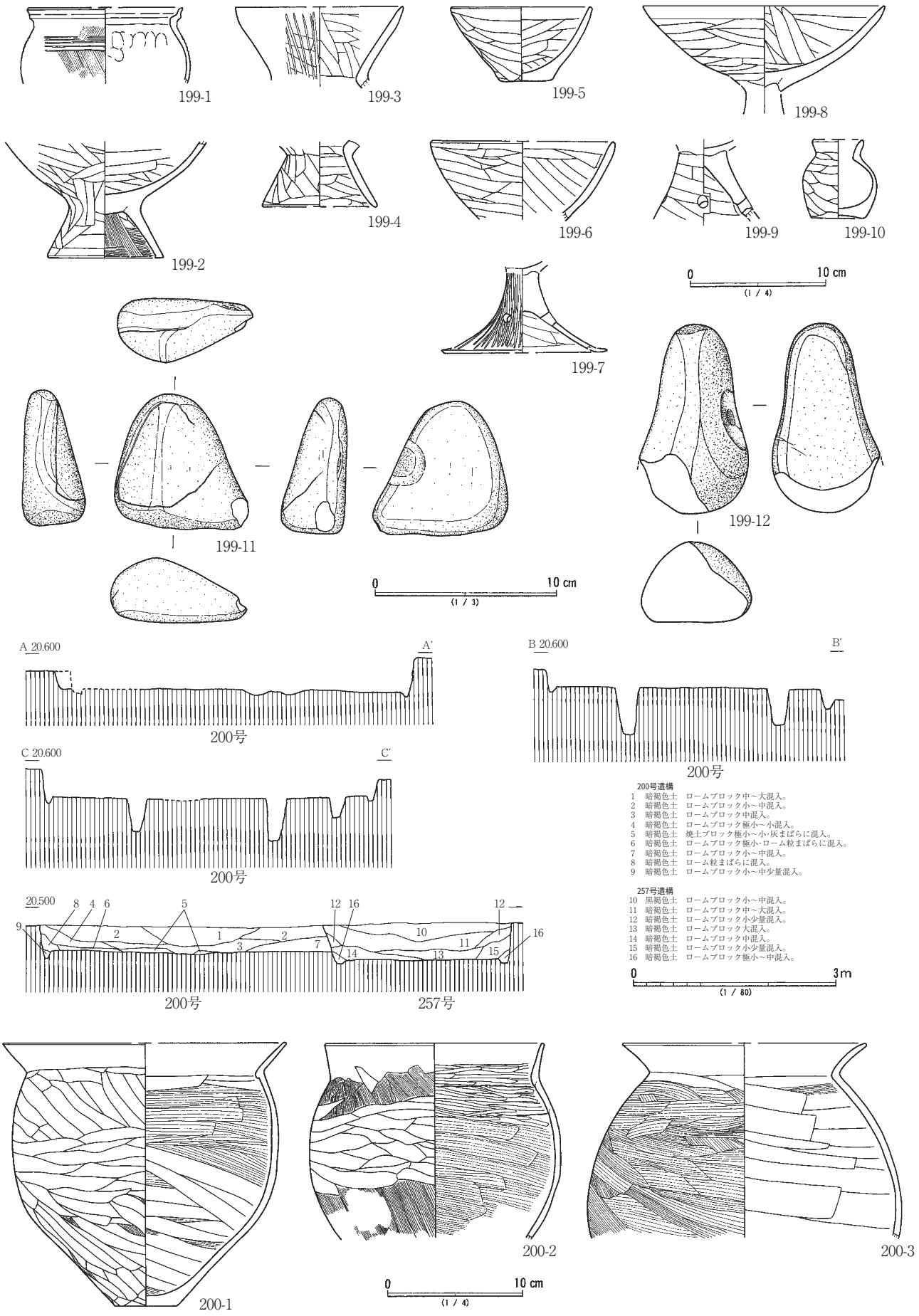
199号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号101号。195号竪穴の西側に位置し、195号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.21m短径5.76mを測り、主軸方位はN－28°－Wを示す。炉は中央やや東側に偏って検出され、残存する火床長径0.94m短径0.50m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－28°－Wを示す。

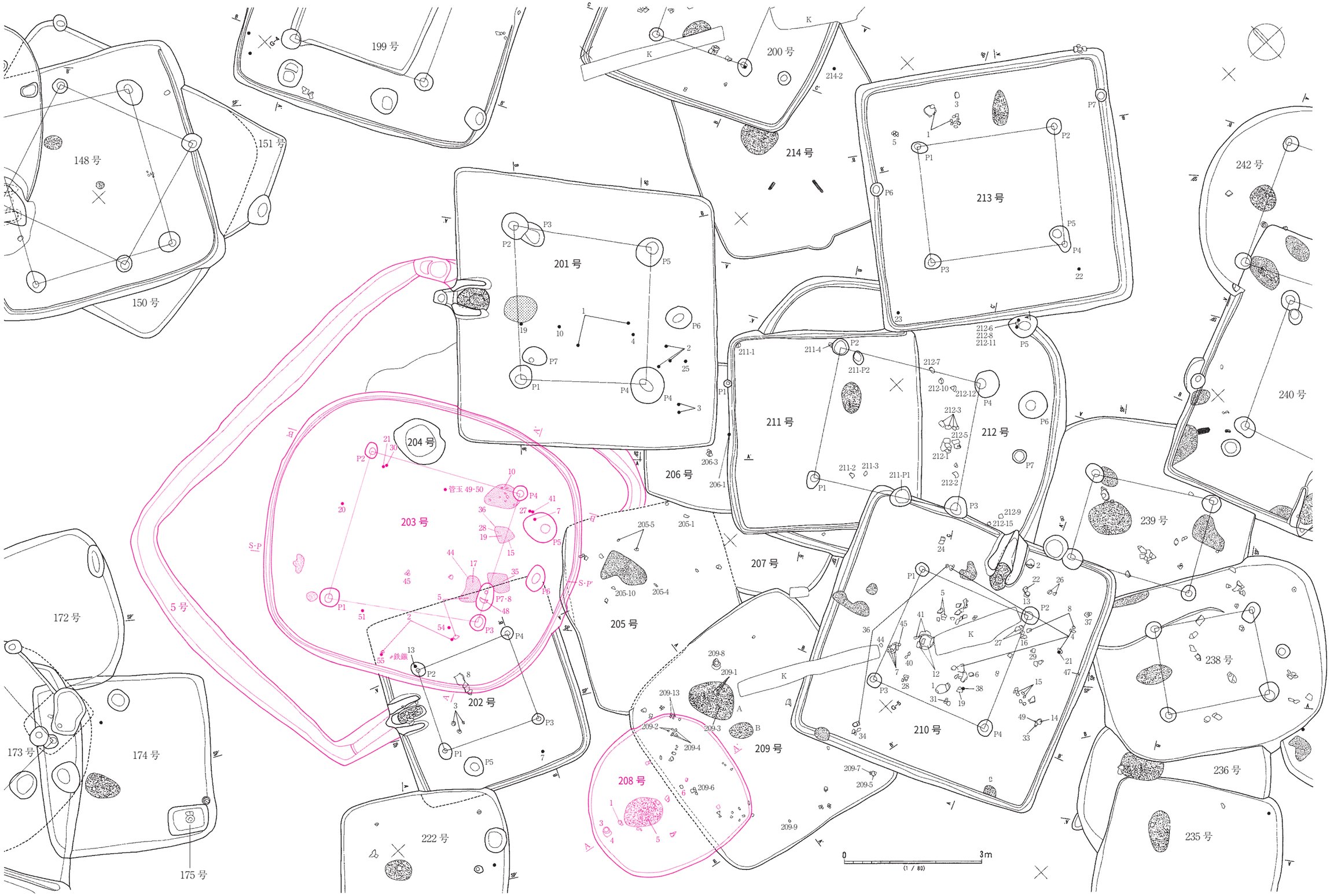
残存する壁高はそれぞれ東壁21㎝、西壁32㎝、南壁36㎝、北壁27㎝を測り、周溝はほぼ全周し、深さ４～13㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、炉の存在する中央は平坦で硬く踏み固められており、主柱穴の外側を結ぶラインが周囲より５㎝ほど高くなるベッド状遺構の床構造を持つ。ピットは９ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定される。深さはP １が78㎝、



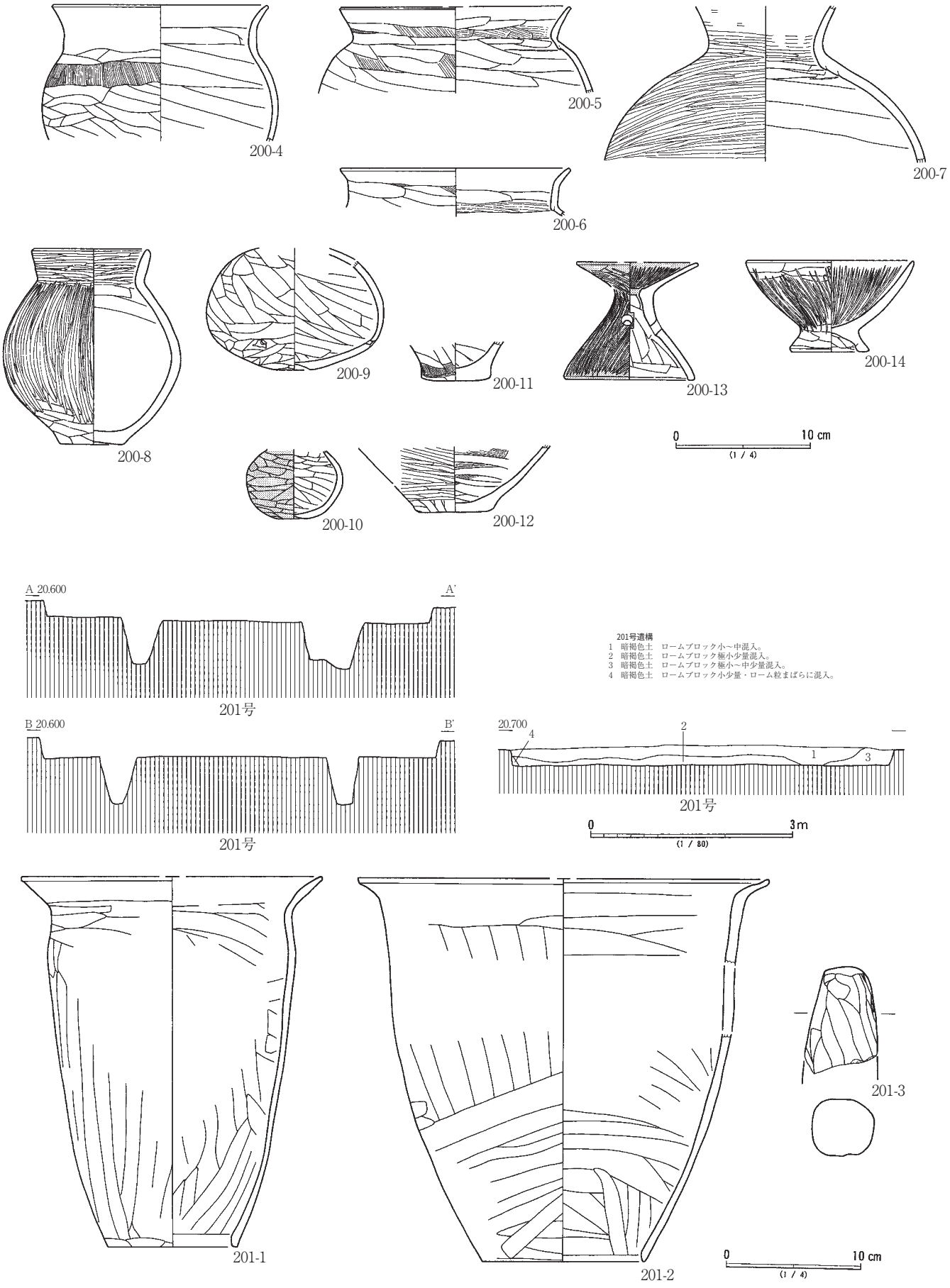
第187図　195・197～199号遺構実測図・197・198号遺構出土遺物実測図



第188図　200・257号遺構実測図・199・200号遺構出土遺物実測図



第190図　201 ～ 214号遺構実測図



第189図　201号遺構実測図・200・201号遺構出土遺物実測図

Ｐ２が47㎝、Ｐ３が71㎝、Ｐ４が62㎝、Ｐ５が56㎝、Ｐ６が42㎝、Ｐ７が46㎝、Ｐ８が43㎝、Ｐ９が68㎝を測る。

東側のコーナー部に焼土１ヶ所検出されるが、厚さの測定値はなかった。

遺物

本遺構からは559点6,420gの土器片と25点1,090gの礫、２点530gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、322点4,190gの土師器、236点2,220gの弥生土器、１点10gの縄文土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

１・２・４・５・７・８・10・11は、ベッド状遺構の床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。12は周溝内で床面から15㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げらており、出土地点を明示できるものはない。

200号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号99号。195号竪穴の南側に位置し、214号竪穴を削平し、258号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.06m短径5.03mを測り、主軸方位はN－65°－Eを示す。炉は３ヶ所に検出された。Aは、Ｐ１・Ｐ２間の中央やや東側に偏って検出され、残存する火床長径0.45m短径0.40m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－35°－Eを示す。Bは、Aの北側に隣接して存在し、残存する火床長径0.58m短径0.32m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－79°－Wを示す。Cは、Ｐ１・Ｐ３間の中央やや東側に検出され、残存する火床長径0.65m残存短径0.28m深さ６㎝を測り、火床長軸方位はN－63°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁56㎝、西壁40㎝、南壁27㎝、北壁51㎝を測り、周溝は検出面で全周し、深さは８～９㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦で硬く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が49㎝、Ｐ２が73㎝、Ｐ３が66㎝、Ｐ４が51㎝、Ｐ５が33㎝を測る。

遺物

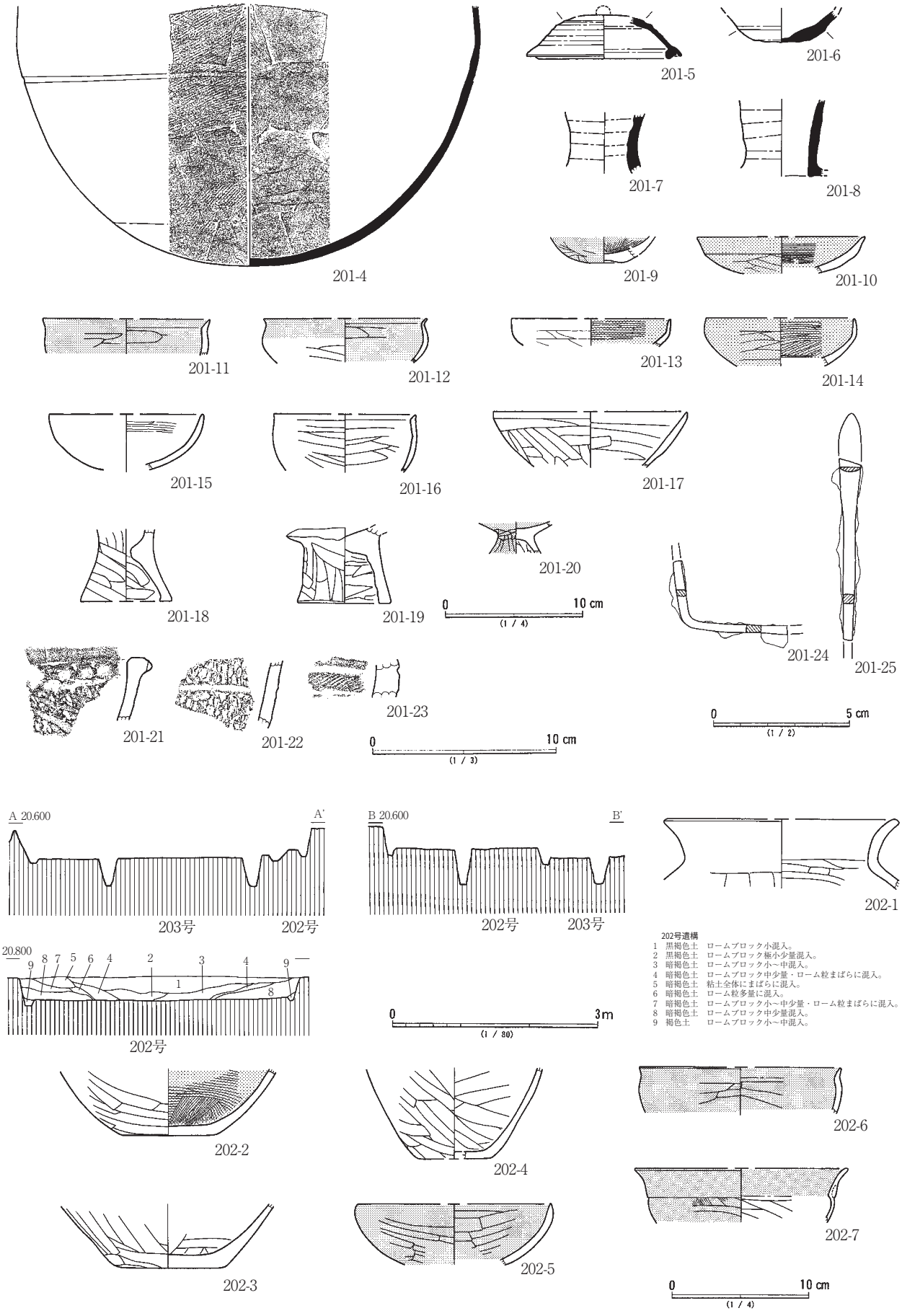
本遺構からは195点7,170gの土器片と３点210gの礫、１点100gの布目瓦が検出された。土器片等の内訳は、109点6,100gの土師器、84点1,005gの弥生土器、２点65gの縄文土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

１～９・13・14は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。10～12は床面から13㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

201号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号86号。調査区中央やや南側に位置し、５号方形周溝墓・206号竪穴・214号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.86m短径5.70mを測り、主軸方位はN－41°－Wを示す。カマドは北西壁中央に構築され、残存する火床長径0.72m短径0.48m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－42°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁30㎝、南東壁23㎝、北西壁27㎝、南西壁27㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、中央部が硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴、Ｐ６は入口施設と想定され、



第191図　202・203号遺構実測図・201・202号遺構出土遺物実測図

深さはP １が71㎝、Ｐ ２が69㎝、Ｐ ３が55㎝、Ｐ ４が64㎝、Ｐ ５が69㎝、Ｐ ６が26㎝、Ｐ ７が36㎝を測る。

カマド前面に粘土ブロックが検出され、厚さは８㎝を測る。

遺物

本遺構からは835点11,019gの土器片と10点670gの礫、１点4.5gの鉄鏃、１点3.8gの鉄器、１点134gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、497点6,604gの土師器、７点1,316gの須恵器、328点3,048gの弥生土器、３点51gの縄文土器である。これらの出土遺物の内25点を図示した。

１～４・10・15・24・25は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。19は床面から26㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

202号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号148号。201号竪穴の西側に位置し、５号方形周溝墓・203号・222号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.32m短径4.10mを測り、主軸方位はN－68 °－Wを示す。カマドは西壁中央に構築され、残存する火床長径0.58m短径0.20m深さ６㎝を測り、火床長軸方位はN－67 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁28㎝、西壁31㎝、南壁32㎝を測り、検出範囲で周溝は全周し、深さは８～ 13㎝を測る。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、カマド周囲が特に硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ １・Ｐ ２・Ｐ ３・Ｐ ４は主柱穴と想定され、深さはP １が55㎝、Ｐ ２が47㎝、Ｐ ３が52㎝、Ｐ ４が40㎝、Ｐ ５が39㎝を測る。

遺物

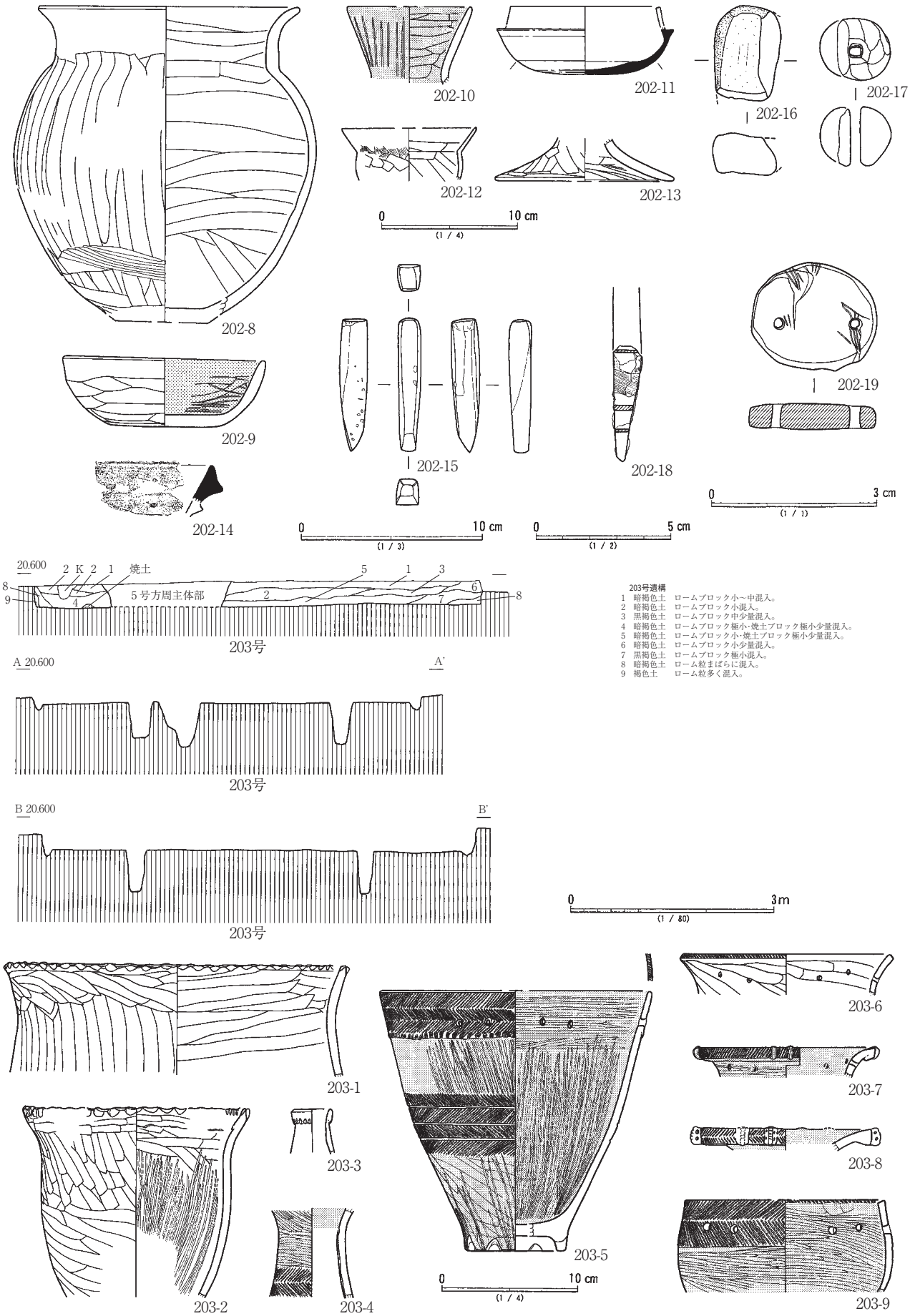
本遺構からは843点10,715gの土器片と６点330gの礫、１点29gの磨製石斧、１点64gの磨石、１点3.7gの有孔円盤、１点29gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、685点8,751gの土師器、３点44gの須恵器、155点1,920gの弥生土器である。これらの出土遺物の内19点を図示した。

３・４・７～９・15は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

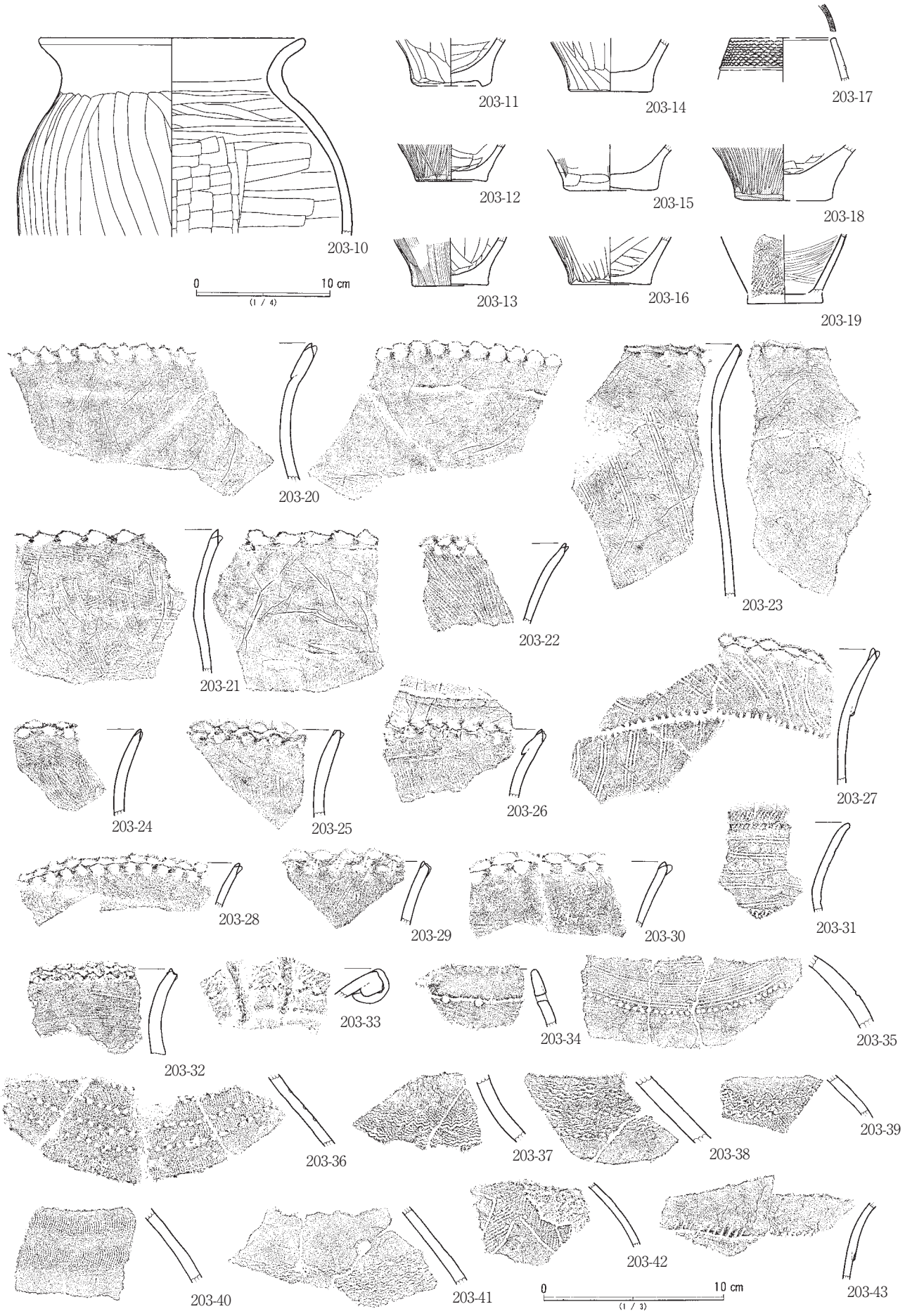
203号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号147号。201号竪穴の北側に位置し、５号方形周溝墓・201号・202号205号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.96m短径6.12mを測り、主軸方位はN－34 °－Wを示す。炉はP １・Ｐ ２間に存在したものと想定されるが、５号方形周溝墓主体部に削平され未検出である。

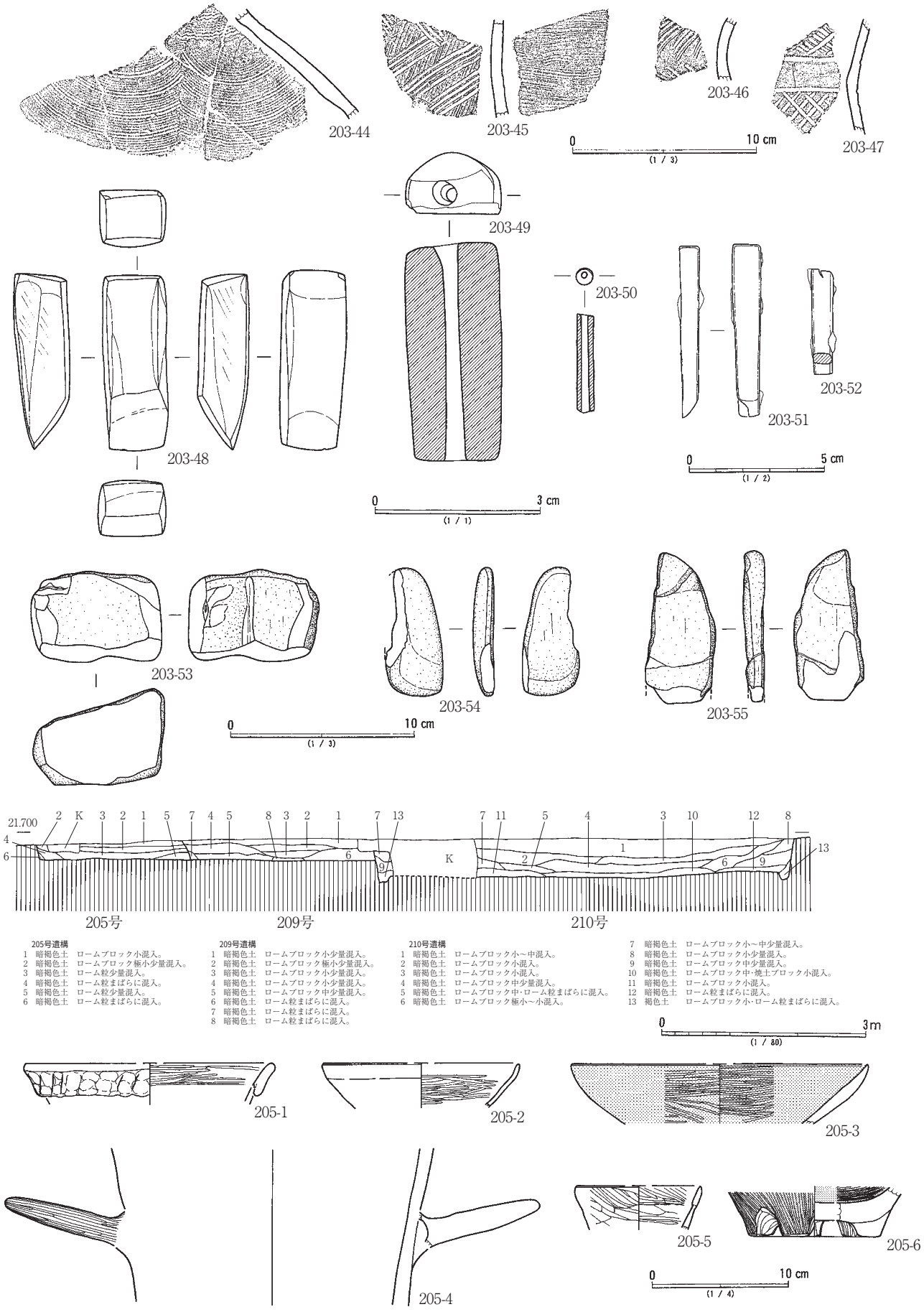
残存する壁高はそれぞれ北東壁37㎝、南東壁44㎝、北西壁38㎝、南西壁41㎝を測り、検出範囲で周溝は全周し、深さは３～ 10㎝を測る。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは８ヶ所に検出された。Ｐ １・Ｐ ２・Ｐ ３・Ｐ ４は主柱穴、Ｐ ５は入口施設、Ｐ ６は貯蔵穴と想定され、深さはP １が60㎝、Ｐ ２が64㎝、Ｐ ３が53㎝、Ｐ ４が59㎝、Ｐ ５が42㎝、Ｐ ６が33㎝、Ｐ ７が68㎝、Ｐ ８が44㎝を測る。



第192図　203号遺構実測図・202・203号遺構出土遺物実測図



第193図　203号遺構出土遺物実測図



第194図　205・209・210号遺構実測図・203・205号遺構出土遺物実測図

焼土は２ヶ所に検出され、厚さは５㎝を測る。

遺物

本遺構からは2.350点32,766gの土器片と８点430gの礫、２点38.4gの磨製石斧、１点206gの砥石、1点42gの磨石、1点15.10gの鏨上鉄器、1点5.2gの棒状鉄器、2点10.70gの管玉が検出された。土器片等の内訳は、127点3,200gの土師器、2点55gの須恵器、2,399点29,475gの弥生土器、2点36gの縄文土器である。これらの出土遺物の内55点を図示した。

７・10・15・19～21・28・30・36・41・48・51・52・54・55は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。２・５・17・35・44・45は床面から12㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

204号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号なし。203号竪穴内に存在し、203号竪穴に削平される土坑である。長径1.10m短径0.93m深さは203号竪穴床面より27㎝を測り、主軸方位はN－２°－Wを示す。底面はハードローム層中に掘り込まれ、ほぼ平坦である。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

205号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号82A号。202号竪穴の東側に位置し、５号方形周溝墓・207号竪穴を削平し、206号・209号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径4.40m短径3.64mを測り、主軸方位はN－31°－Eを示す。炉は未検出であるが、位置的には１ヶ所検出された焼土が炉なのかもしれない。

残存する壁高はそれぞれ南東壁１㎝、北西壁20㎝、南西壁23㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

焼土は１ヶ所に検出され、厚さは５㎝を測る。

遺物

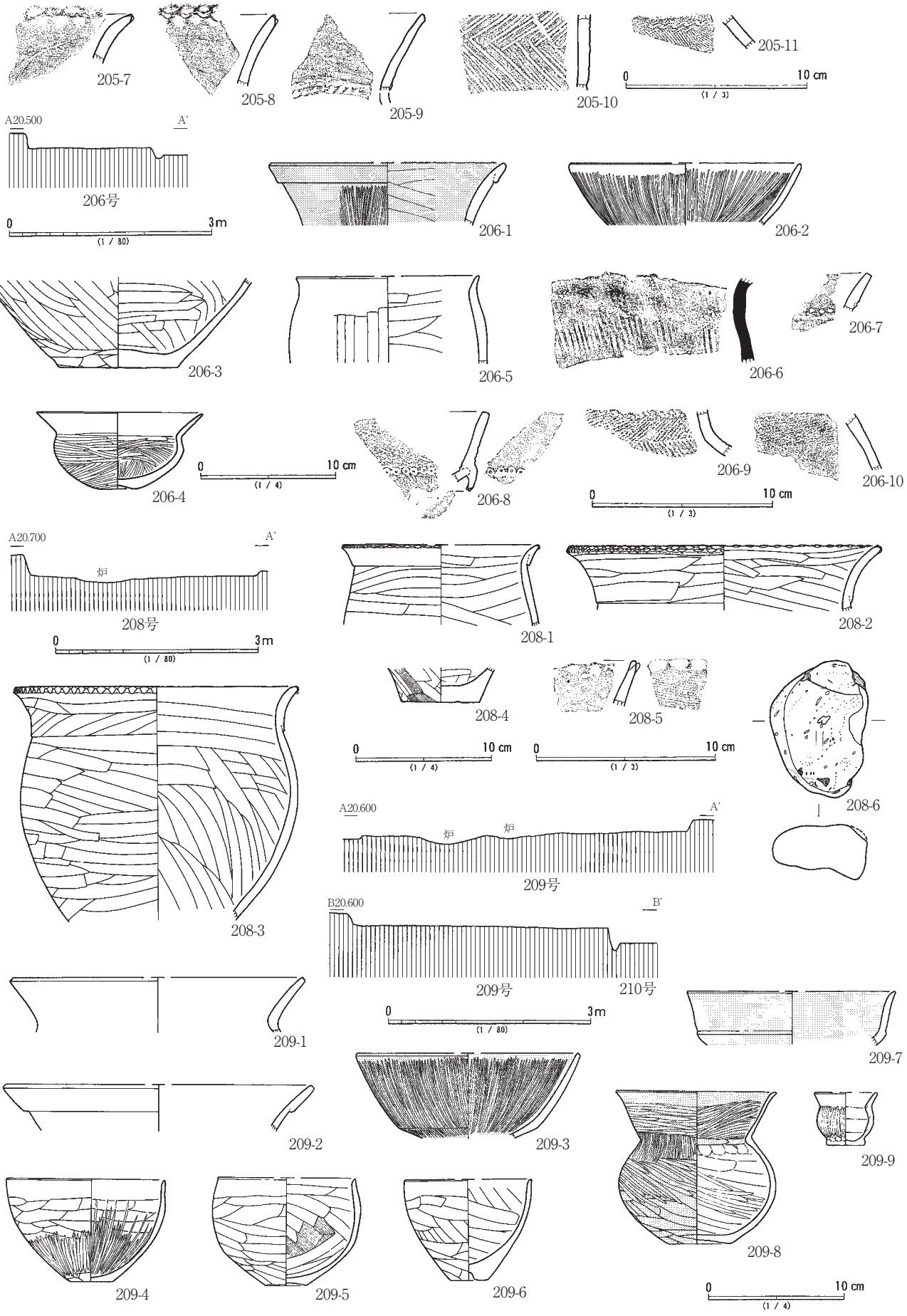
本遺構からは182点2,156gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、73点941gの土師器、109点1,215gの弥生土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。

１・４・５・10は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

206号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号83号。205号竪穴の東側に隣接し、205号・207号竪穴を削平し、201号・211号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.28m残存短径1.84mを測り、主軸方位はN－42°－Eを示す。炉は201号・211号竪穴の何れかに削平されて未検出である。

残存する壁高はそれぞれ北東壁22㎝、北西壁22㎝、南西壁13㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、硬く踏み固められている。Ｐ１は深さ27㎝を測る。



第195図　206・208・209号遺構実測図・205・206・208・209号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは203点2,699gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、116点1,800gの土師器、２点68gの須恵器、84点823gの弥生土器、１点８gの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１・３は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

207号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号82B号。206号竪穴の南側に隣接し、全ての周辺遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径3.00m残存短径1.84mを測り、炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ西壁５㎝、南壁14㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは２点45gの土器片と１点100gの礫が一括で検出された。土器片等の内訳は、１点５gの土師器、１点40gの弥生土器であるが、図化に至る遺物がなかった。

208号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号81号。209号竪穴の西側に位置し、209号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.46m短径3.20mを測り、主軸方位はN－83 °－Wを示す。炉は中央より西側に偏った位置に検出され、残存する火床長径0.88m短径0.68m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－77 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁９㎝、西壁31㎝、南壁34㎝、北壁29㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、炉の周囲が特に硬く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

遺物

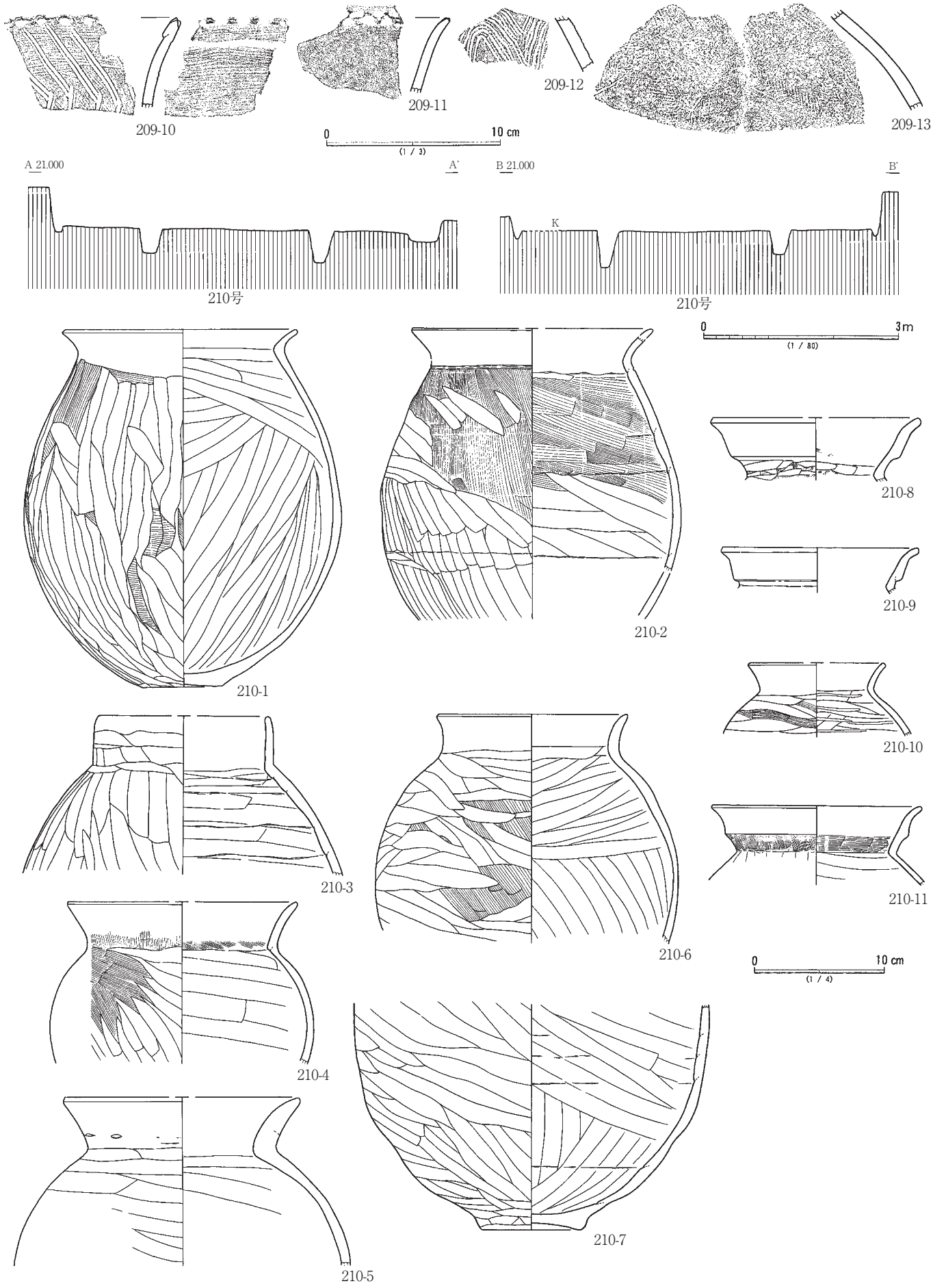
本遺構からは52点2,065gの土器片と１点75gの礫、１点22gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、３点90gの土師器、49点1,975gの弥生土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

１・３・４・５は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

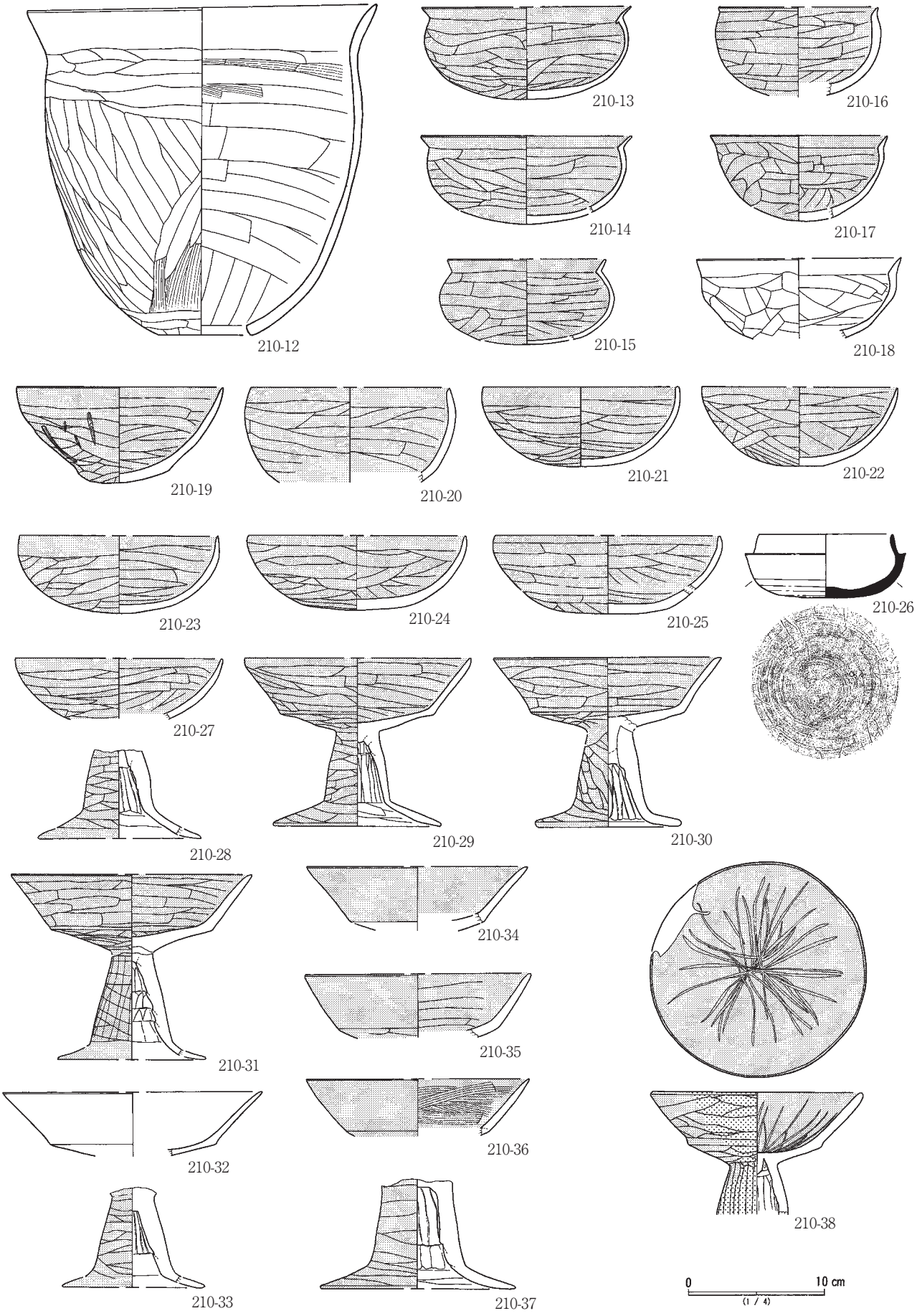
209号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号80号。208号竪穴の東側に位置し、210号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.00m短径4.64mを測り、主軸方位はN－11 °－Eを示す。炉は中央より北側に偏った位置に２基検出された。Aは残存する火床長径1.00m短径0.82m深さ７㎝を測り、火床長軸方位はN－42 °－Wを示す。Bは残存する火床長径0.52m短径0.35m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－52 °－Wを示す。

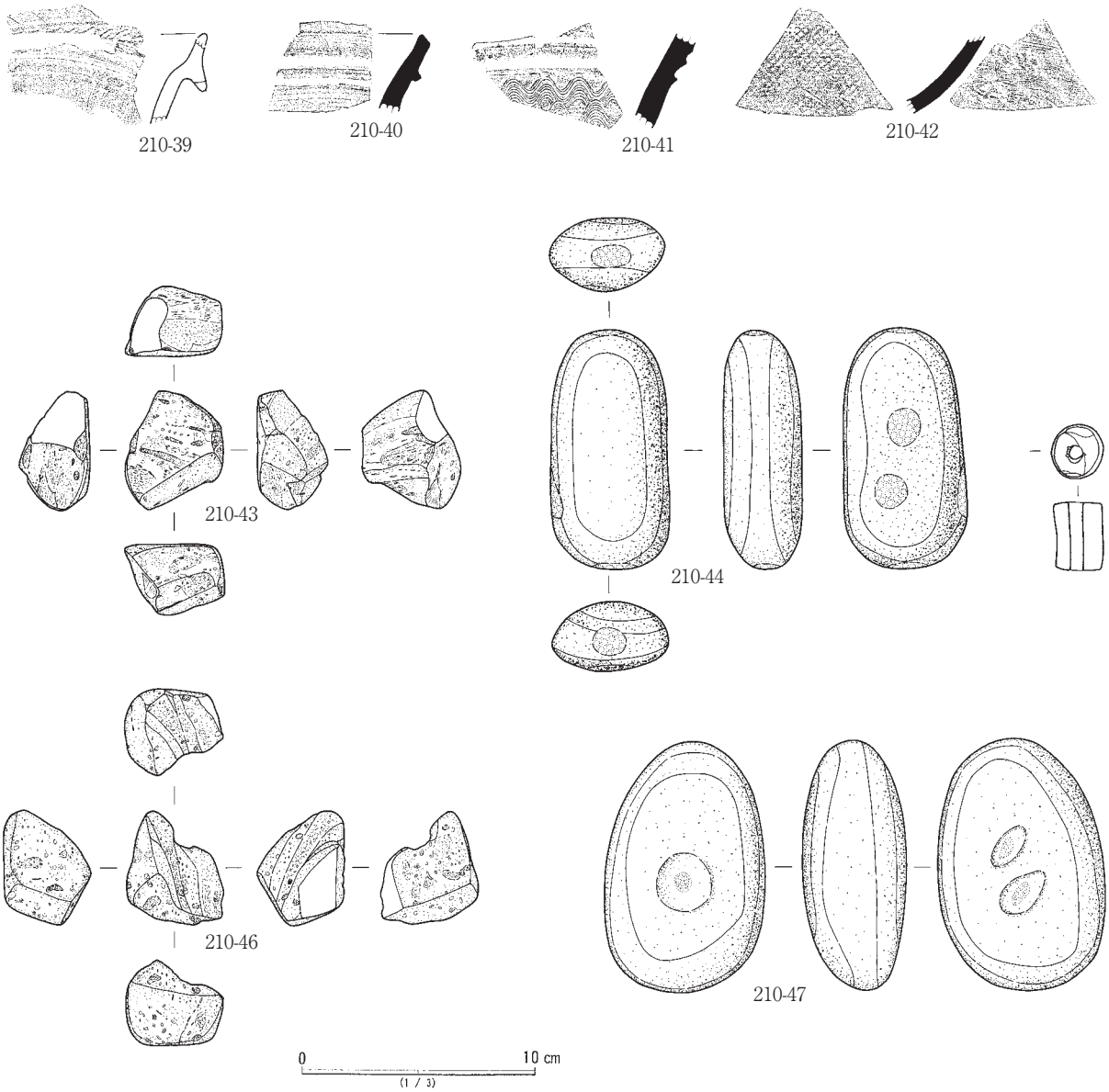
残存する壁高はそれぞれ東壁25㎝、西壁17㎝、南壁16㎝、北壁５㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピッ



第196図　210号遺構実測図・209・210号遺構出土遺物実測図



第197図　210号遺構出土遺物実測図１



第198図　210号遺構出土遺物実測図２

トは検出されなかった。

遺物

本遺構からは277点4,253gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、112点2,292gの土師器、165点1,961gの弥生土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

１～９・13は、床直ないしは床直上、あるいは炉内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

210号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号79号。209号竪穴の東側に隣接し、周囲の遺構全てを削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.86m短径5.78mを測り、主軸方位はN－66 °－Eを示す。カマドは東壁中央やや南側に偏って構築され、残存する火床長径0.62m短径0.38m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－63 °－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁20㎝、西壁62㎝、南壁60㎝、北壁48㎝を測り、検出範囲で周溝は全周し、深さは６～11㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、カマド周囲が特に硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が38㎝、Ｐ２が49㎝、Ｐ３が57㎝、Ｐ４は36㎝を測る。

焼土は５ヶ所に検出され、厚さは５～14㎝を測る。

遺物

本遺構からは2,212点46,470gの土器片と24点795gの礫、３点319.1gの磨石、１点520gの凹石、１点30.1gの紡錘車、１点6.10gの有孔円盤未製品、１点7.40gの扁平勾玉、１点18.2gの管状土錘が検出された。土器片等の内訳は、1,655点40,790gの土師器、４点260gの須恵器、548点5,325gの弥生土器、１点15gの手づくね土器、４点80gの縄文土器である。これらの出土遺物の内50点を図示した。

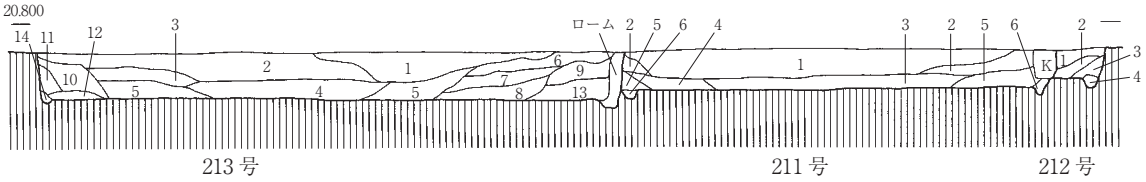
１・２・４～６・８・12～13・16・19・27～29・33・38・41・47は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。７・14・15・21・22・24・26・31・34・36・37・40・44は床から13㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

なお、本跡出土遺物の組み合わせは、TK－216型式古段階の標準的な資料として注目される。

211号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号84号。210号竪穴の北側に隣接し、210号竪穴に削平される以外は周囲の遺構全てを削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.42m短径4.26mを測り、主軸方位はN－42 °－Eを示す。炉は中央からやや北東寄りに偏った位置で検出されており、残存する火床長径0.68m短径0.42m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－41 °－Eを示す。

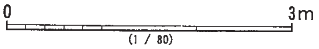
残存する壁高はそれぞれ北東壁13㎝、南東壁６㎝、北西壁10㎝、南西壁12㎝を測り、東側を除いて周溝は全周し、深さは５～11㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が66㎝、Ｐ２が25㎝を測る。

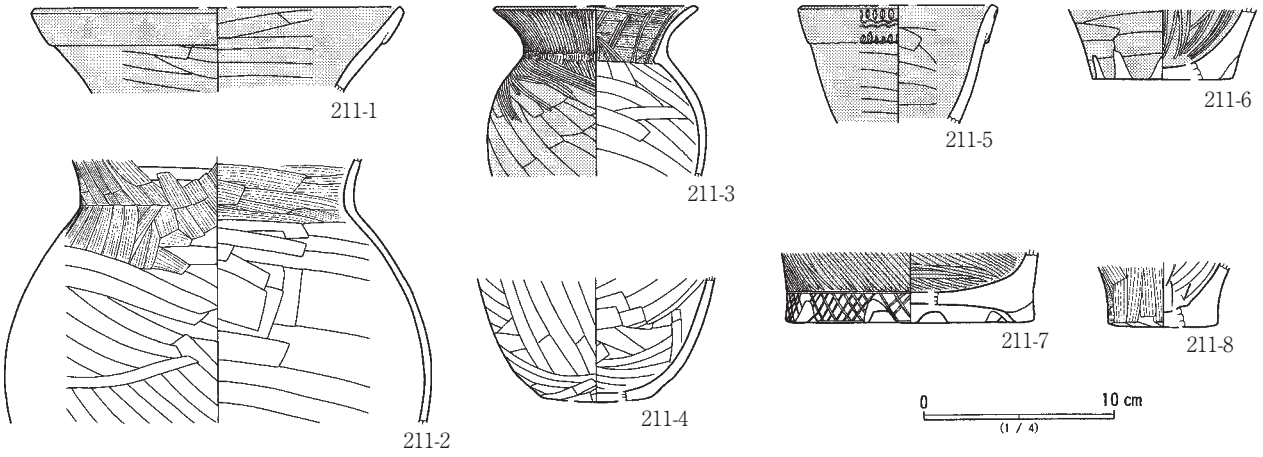


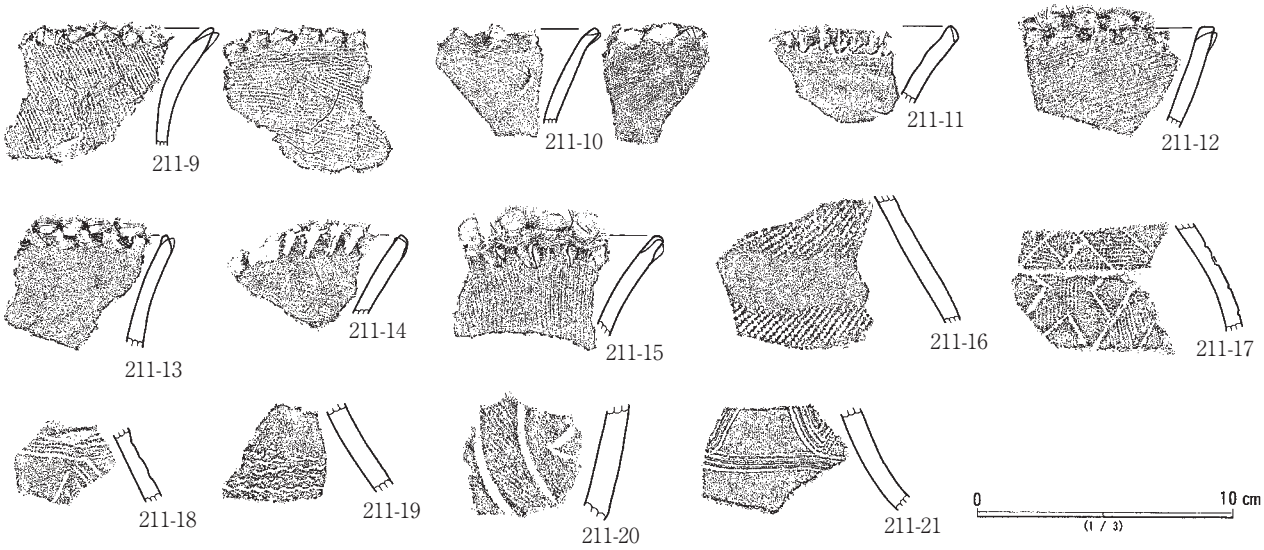
213号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～大多く混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中多く混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小～中・ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 ロームブロック極小・ローム粒まばらに混入。
7 暗褐色土 ロームブロック中混入。
8 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小～中少量・ローム粒まばらに混入。
10 暗褐色土 ロームブロック小～中・ローム粒まばらに混入。
11 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
12 暗褐色土 灰混入。
13 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
14 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。

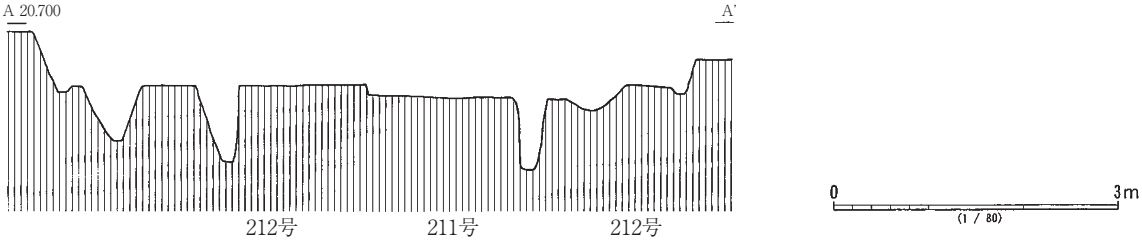
211号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック中混入。
4 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
5 暗褐色土 ロームブロック中少量・ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 ロームブロック中混入。

212号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小混入。
3 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。

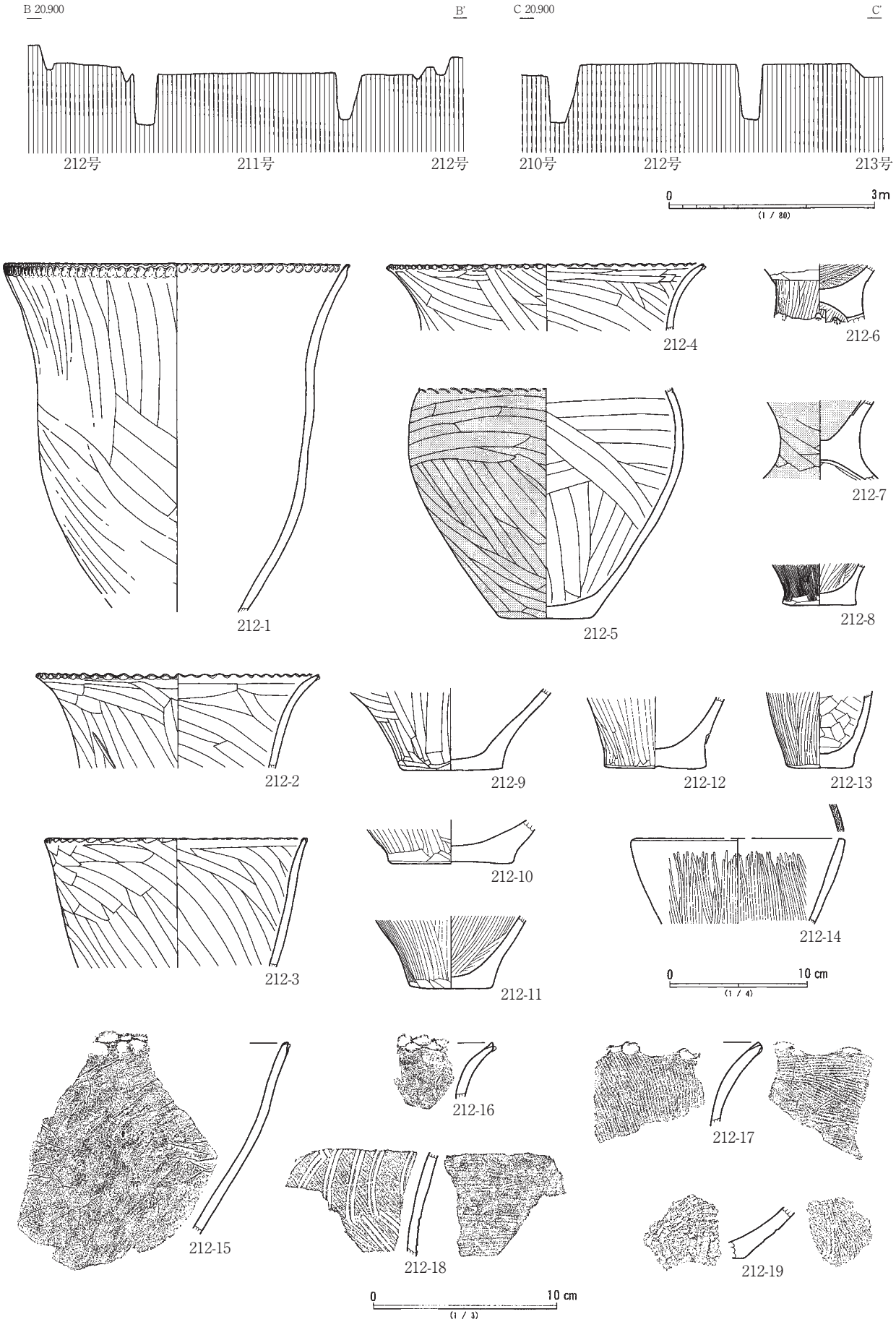








第199図　211 ～ 213号遺構実測図・211号遺構出土遺物実測図



第200図　211・212号遺構実測図・212号遺構出土遺物実測図

焼土は５ヶ所に検出され、厚さは５～14㎝を測る。

遺物

本遺構からは635点6,823gの土器片と５点325gの礫が検出された。土器片等の内訳は、143点1,985gの土師器、489点4,758gの弥生土器、３点80gの縄文土器である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

１・２・４床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

212号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号85号。210号竪穴の直下に存在する竪穴住居跡である。長径6.98m短径6.10mを測り、主軸方位はN－34°－Wを示す。炉は211号竪穴に削平され存在しない。

残存する壁高はそれぞれ東壁26㎝、西壁13㎝、南壁47㎝を測り、検出範囲で周溝は全周し、深さは６～11㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１・Ｐ２は211号竪穴床面からの検出で66㎝・74㎝を測り、本跡床面換算ではそれぞれ79㎝・87㎝を測る。Ｐ３は83㎝、Ｐ４は81㎝、Ｐ５が23㎝、Ｐ６が58㎝、Ｐ７が36㎝を測る。

遺物

本遺構からは370点8,548gの土器片と７点440gの礫が検出された。土器片等の内訳は、26点423gの土師器、343点8,115gの弥生土器、１点10gの縄文土器である。これらの出土遺物の内19点を図示した。

６・８・11がＰ５内で検出した以外、出土位置の判明する遺物は何れも床面から26㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

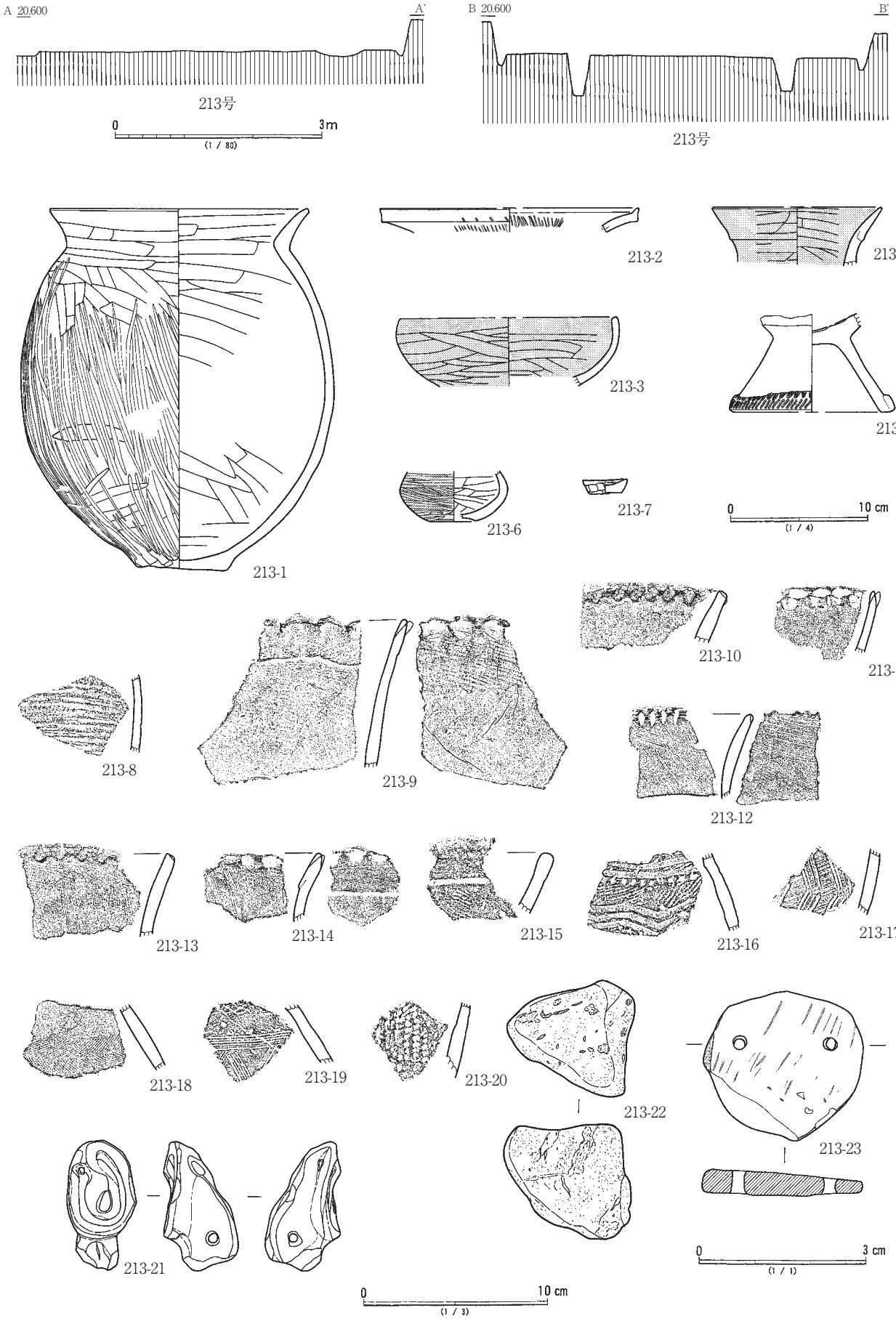
213号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号87号。212号竪穴の東側に隣接し、212号・214号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.66m短径5.60mを測り、主軸方位はN－38°－Eを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央よりややＰ１側の壁際に近い位置で検出されており、残存する火床長径0.80m短径0.34m深さ８㎝を測り、火床長軸方位はN－43°－Eを示す。

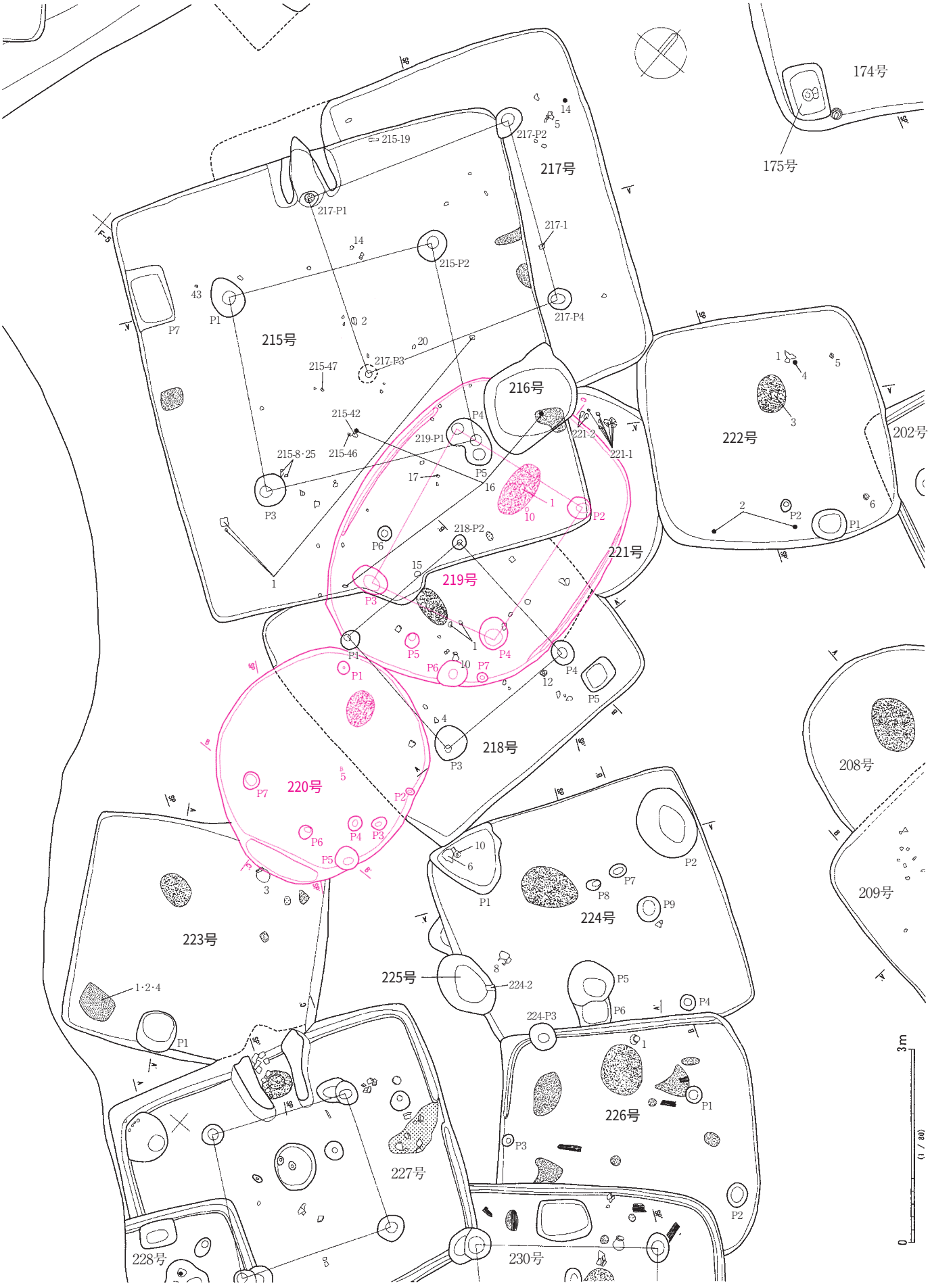
残存する壁高はそれぞれ北東壁45㎝、南東壁57㎝、北西壁45㎝、南西壁59㎝を測り、周溝は全周し、深さは６～17㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が48㎝、Ｐ２が59㎝、Ｐ３が62㎝、Ｐ４が50㎝、Ｐ５が26㎝、Ｐ６が23㎝、Ｐ７が35㎝を測る。

遺物

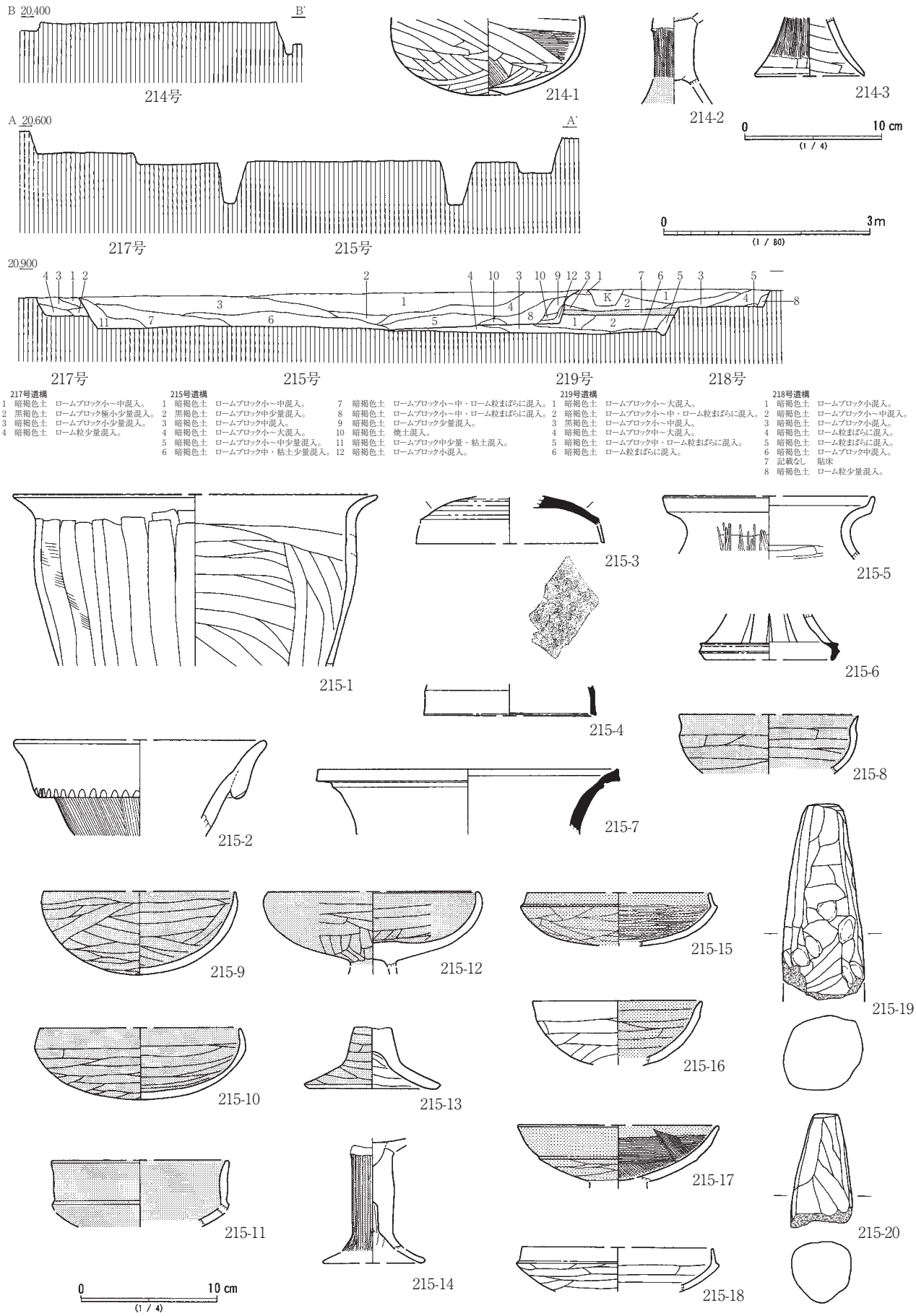
本遺構からは591点9,256gの土器片と１点460gの礫、１点50gの磨石、１点5.8gの有孔円盤、１点80gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、281点5,165gの土師器、306点3,991gの弥生土器、１



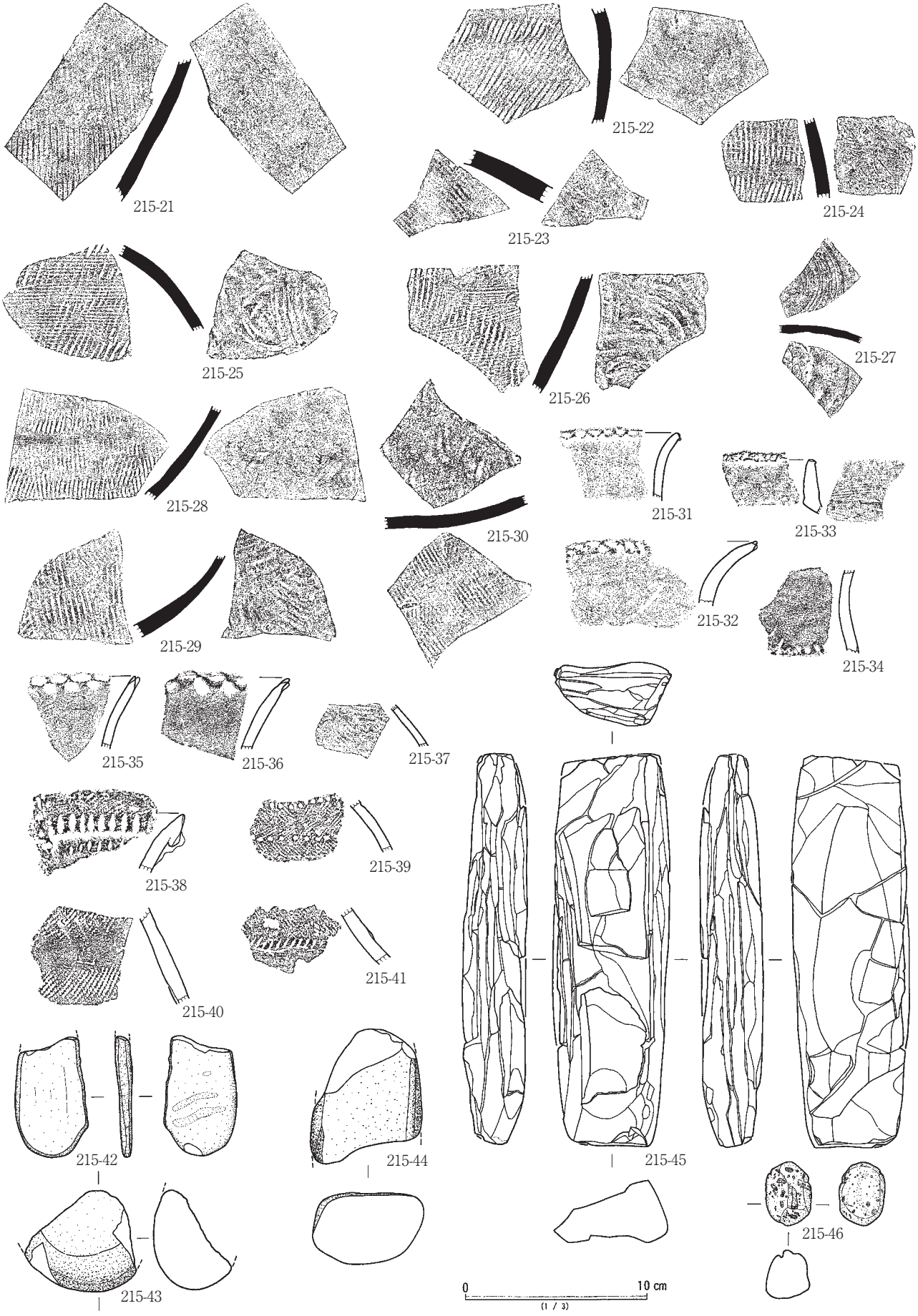
第201図　213号遺構実測図・出土遺物実測図



第202図　215～226号遺構実測図



第203図　214・215・217～219号遺構実測図・214・215号遺構出土遺物実測図



第204図　215号遺構出土遺物実測図

点10gの手づくね土器、３点90gの縄文土器である。これらの出土遺物の内23点を図示した。

１・３・５・22・23は、ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

214号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号100号。213号竪穴の北側に隣接し、200号・201号・213号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径4.38m短径4.22mを測り、主軸方位はN－21°－Eを示す。炉は中央やや西側に偏って検出されており、残存する火床長径0.80m短径0.70m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－66°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁６㎝、西壁９㎝、南壁８㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、全体的にあまり硬く踏み固められていない。ピットは未検出である。

遺物

本遺構からは134点1,360gの土器片と２点220gの礫が検出された。土器片等の内訳は、92点950gの土師器、１点10gの須恵器、41点400gの弥生土器である。これらの出土遺物の内３点を図示した。

２は床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

215号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号159号。遺跡中央南端部、176号竪穴東側に位置し、重複する全ての遺構を削平して存在する竪穴住居跡である。長径6.92m短径6.26mを測り、主軸方位はN－52°－Wを示す。カマドは北西壁中央に構築され、残存する火床長径0.16m短径0.14m深さ12㎝を測り、火床長軸方位はN－55°－Wを示す。

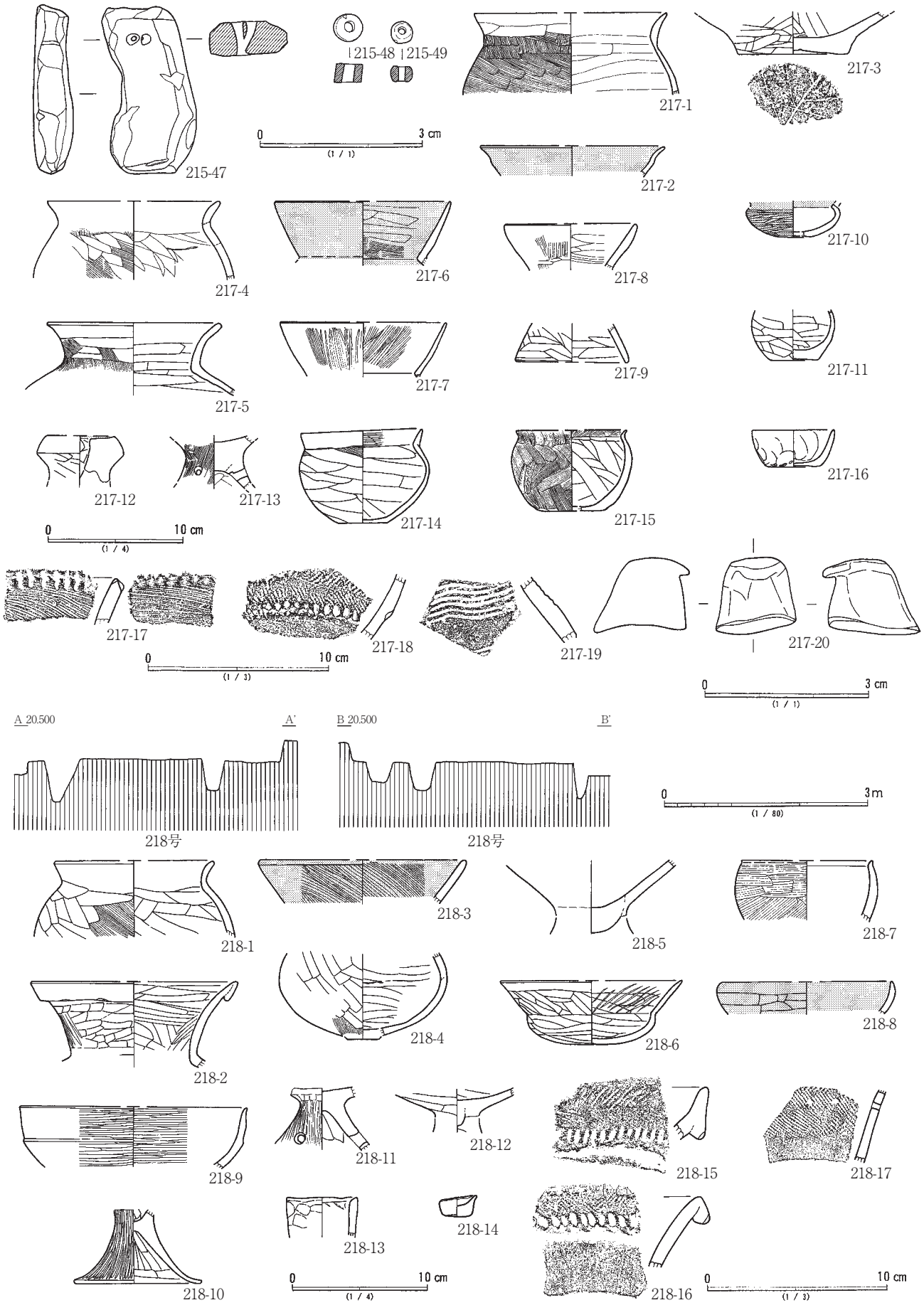
残存する壁高はそれぞれ北東壁19㎝、南東壁16㎝、北西壁28㎝、南西壁34㎝を測る。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ６は入口施設、Ｐ７は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が60㎝、Ｐ２が58㎝、Ｐ３が77㎝、Ｐ４は72㎝、Ｐ５が29㎝、Ｐ６が26㎝、Ｐ７は21㎝を測る。

焼土は東壁際から３ヶ所に検出され、厚さは３～13㎝を測る。

遺物

本遺構からは671点9,834gの土器片と９点290gの礫、４点382.3gの磨石、１点521gの石剣、６点665gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、534点8,110gの土師器、17点454gの須恵器、117点1,179gの弥生土器、３点91gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内49点を図示した。

１・８・15・16・17・25・42・43・46・47・49は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。なお２・14は床直で検出されているが、時期的には隣接する217号竪穴に伴う可能性が高い。



第205図　218号遺構実測図・215・217・218号遺構出土遺物実測図

216号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号なし。215号竪穴内にプランの大半が存在し、215号竪穴に伴う壁際の焼土が本遺構の上に覆い被さることから215号竪穴より古段階の土坑である。長径1.52m短径1.22m、四面の壁高は、東44㎝、西46㎝、南54㎝、北66㎝を測り、主軸方位はN－17 °－Eを示す。底面はハードローム層中に掘り込まれ、ほぼ平坦である。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

217号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号160号。215号竪穴北側に位置し、215号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。215号竪穴カマド調査終了後に再調査しようとしていたのだろう、西側壁の一部と159竪穴カマド内に所在する主柱穴のひとつは火床を10㎝掘下げた状態で中断している。推定長径5.90m短径5.60mを測り、主軸方位はN－58 °－Wを示す。炉は215号竪穴に削平され検出されていない。

残存する壁高はそれぞれ北東壁32㎝、南東壁36㎝、北西壁28㎝を測り、南西壁の測定値はない。周溝は存在せず、床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは３ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が159床面から約10㎝掘って中断、Ｐ２が44㎝、Ｐ４が42㎝を測る。なお、Ｐ３は他の中穴の位置からの復元である。

遺物

本遺構からは514点8,363gの土器片と３点100gの礫、１点3.0gのツマミ状土製品が検出された。土器片等の内訳は、437点7,324gの土師器、２点30gの須恵器、72点893gの弥生土器、１点10gの手づくね土器、１点40gのミニチュア土器、１点66gの常滑片である。これらの出土遺物の内20点を図示した。

５は床直上から検出され、本跡に直接伴うものと判断される。１・14は床面から15㎝以上離れて検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

218号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号163号。215号竪穴東側に位置し、219号・220号・221号竪穴を削平し、215号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径4.64m短径4.50mを測り、主軸方位はN－82 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや東に偏って検出され、残存する火床長径0.62m短径0.36m深さ19㎝を測り、火床長軸方位はN－78 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁30㎝、南壁27㎝、北壁31㎝を測り、周溝は存在せず、床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床で、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が58㎝、Ｐ２が162号竪穴床面から検出され47㎝、本跡床面換算で64㎝を測る。Ｐ３が63㎝、Ｐ４が47㎝、Ｐ５が31㎝を測る。

焼土は１ヶ所に検出され、厚さは５㎝を測る。

遺物

本遺構からは122点2,460gの土器片と２点80gの礫が検出された。土器片等の内訳は、64点1,737gの土師器、57点713gの弥生土器、１点10gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内17点を図示した。

１・４・10・12は床直ないしは床直上から検出され、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

219号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号162号。218号竪穴北側に位置し、215号・218号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.84m短径3.98mを測り、主軸方位はN－９°－Wを示す。炉はP １・P ２間の中央に検出され、残存する火床長径0.89m短径0.48m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－５°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁33㎝、西壁11㎝、南壁31㎝、北壁18㎝を測り、周溝は東西の一部に存在し、深さは２～５㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはP １が64㎝、Ｐ２が73㎝、Ｐ３が78㎝、Ｐ４が76㎝、Ｐ５が19㎝を測る。この他P ６が18㎝、Ｐ７が３㎝を測る。

遺物

本遺構からは141点1,770gの土器片と３点85gの礫が検出された。土器片等の内訳は、11点148gの土師器、130点1,622gの弥生土器である。これらの出土遺物の内17点を図示した。

１・10は床直で検出され、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。なお、３・４・５は、本来215号竪穴に伴うものであろう。

220号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号164号。218号竪穴南側に隣接し、218号・223号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.69m短径3.20mを測り、主軸方位はN－20°－Wを示す。炉は中央北寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.56m短径0.42m深さ７㎝を測り、火床長軸方位はN－８°－Wを示す。

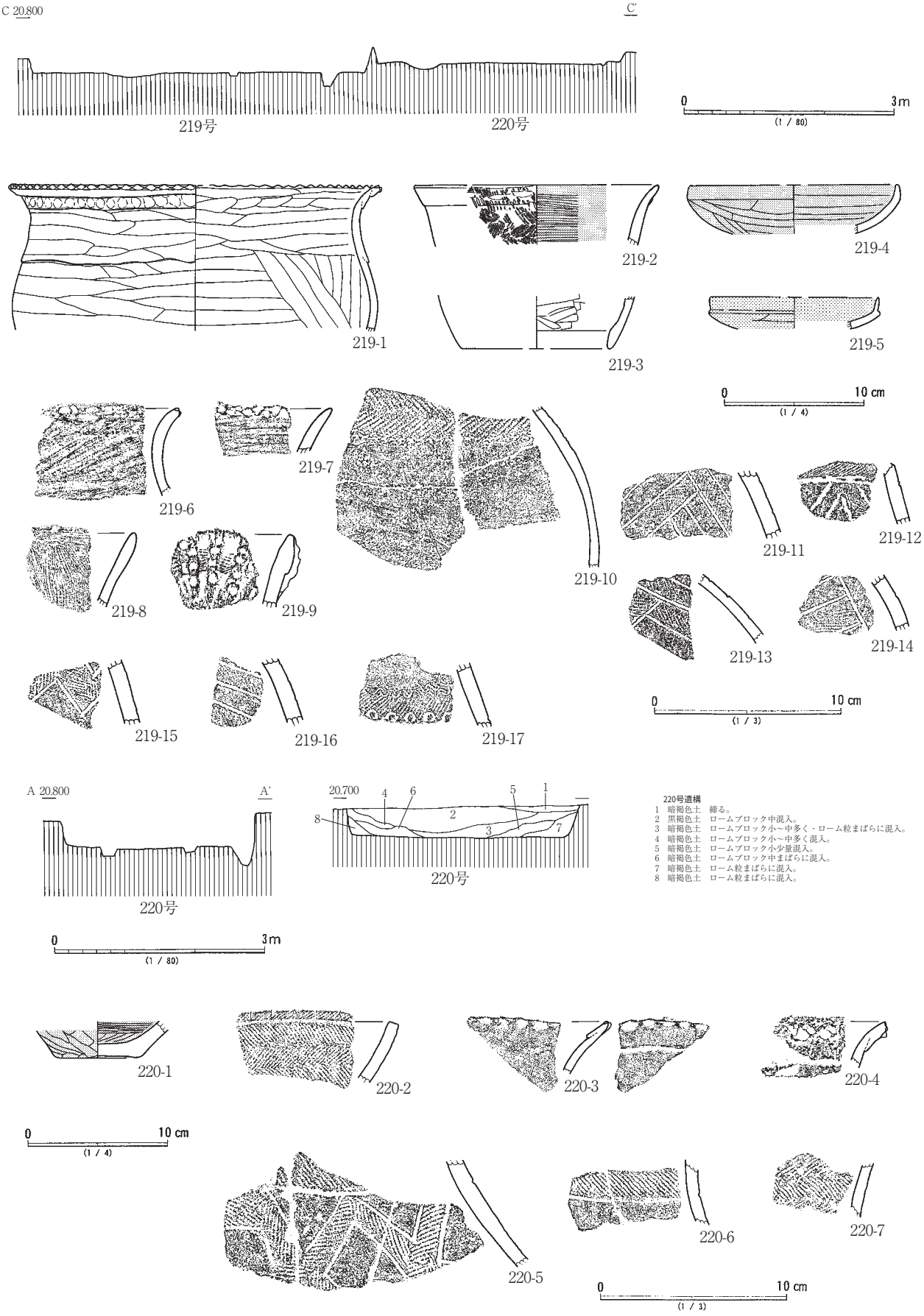
残存する壁高はそれぞれ東壁22㎝、西壁38㎝、南壁43㎝、北壁23㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出されたが、何れも掘り込みが浅く、適正な位置配列がなく、何れが主柱穴なのかわからない。深さはP １が27㎝、Ｐ２が26㎝、Ｐ３が７㎝、Ｐ４が20㎝、Ｐ５が26㎝、Ｐ６が７㎝、Ｐ７が10㎝を測る。

南側にテラスが存在し、高さは床面から５㎝を測る。

遺物

本遺構からは84点735gの土器片と１点10gの礫が検出された。土器片等の内訳は、１点５gの土師器、83点730gの弥生土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

５は床直で検出され、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。



第206図　219・220号遺構実測図・出土遺物実測図

221号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号161号。219号竪穴北側に隣接し、218号・219号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存径3.30mを測るが、遺存状況は極めて不良である。炉は218号竪穴に削平され存在しない。

残存する壁高はそれぞれ東壁34㎝、北壁23㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードロームトップに掘り込まれ、部分的に硬く締まり平坦である。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは４点1,046gの土器片、１点30gの管状土錘が検出された。土器片等の内訳は、１点120gの土師器、３点926gの弥生土器である。これらの出土遺物全てを図示した。

１・２は床直で検出されるが、本跡に直接伴うものは１の鉢形土器と判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

222号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号149号。218号竪穴東側に隣接し、221号を削平し202号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.76m短径3.72mを測り、主軸方位はN－52 °－Wを示す。炉は中央北寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.60m短径0.46m深さ２㎝を測り、火床長軸方位はN－41 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁36㎝、南東壁38㎝、北西壁38㎝、南西壁37㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれた貼床であり、平坦で、全体的に硬く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出されたが、何れも掘り込みが浅い。深さはP １が23㎝、P ２が28㎝を測る。

遺物

本遺構からは535点6,465gの土器片と３点150gの礫、１点2.6gの磨石、１点3.7gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、301点4,020gの土師器、233点2,430gの弥生土器、１点15gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

１～６は床直で検出され、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

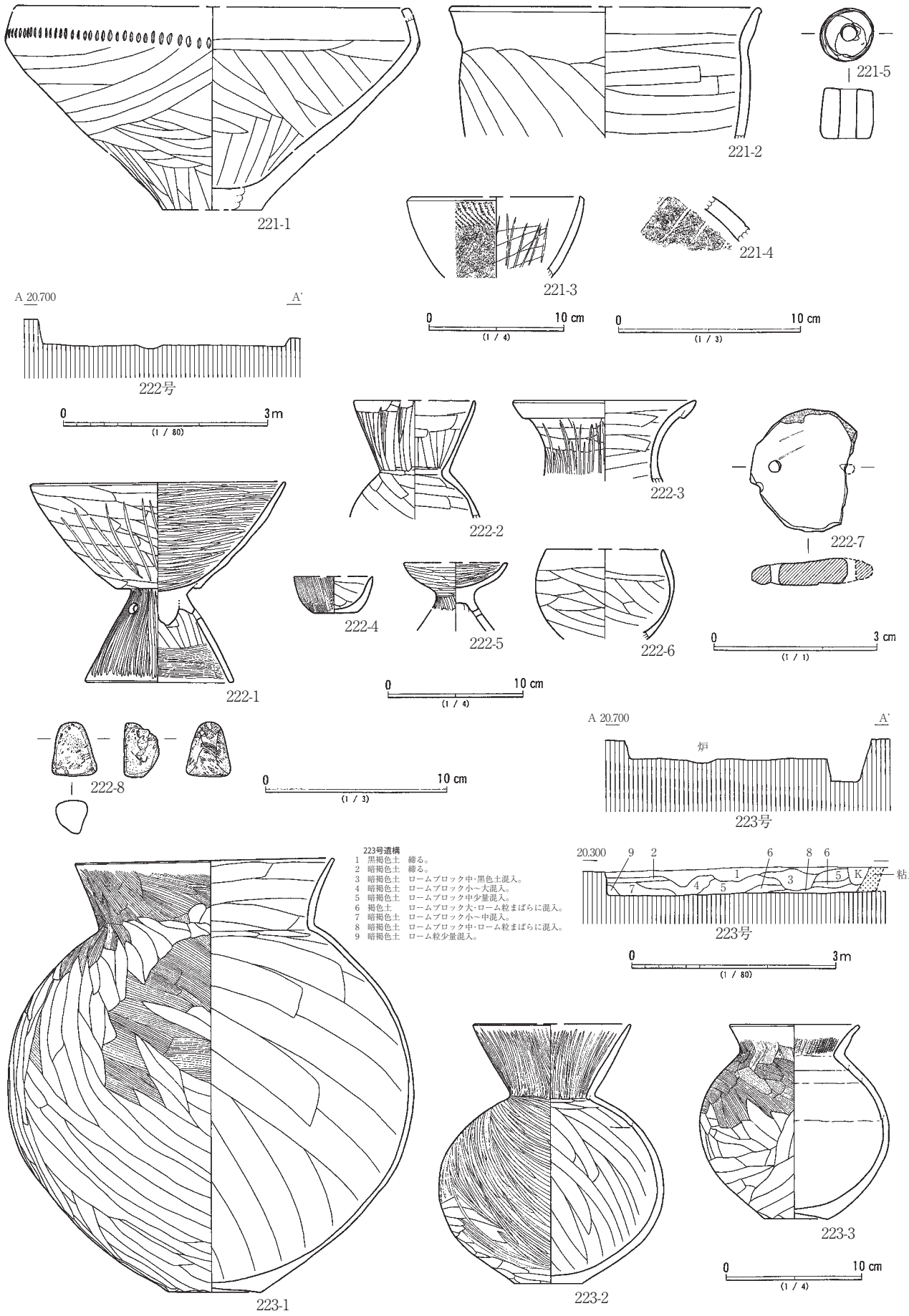
223号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号165号。220号竪穴南側に隣接し、220号を削平し227号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.92m短径3.76mを測り、主軸方位はN－29 °－Wを示す。炉は中央西寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.56m短径0.40m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－79 °－Wを示す。

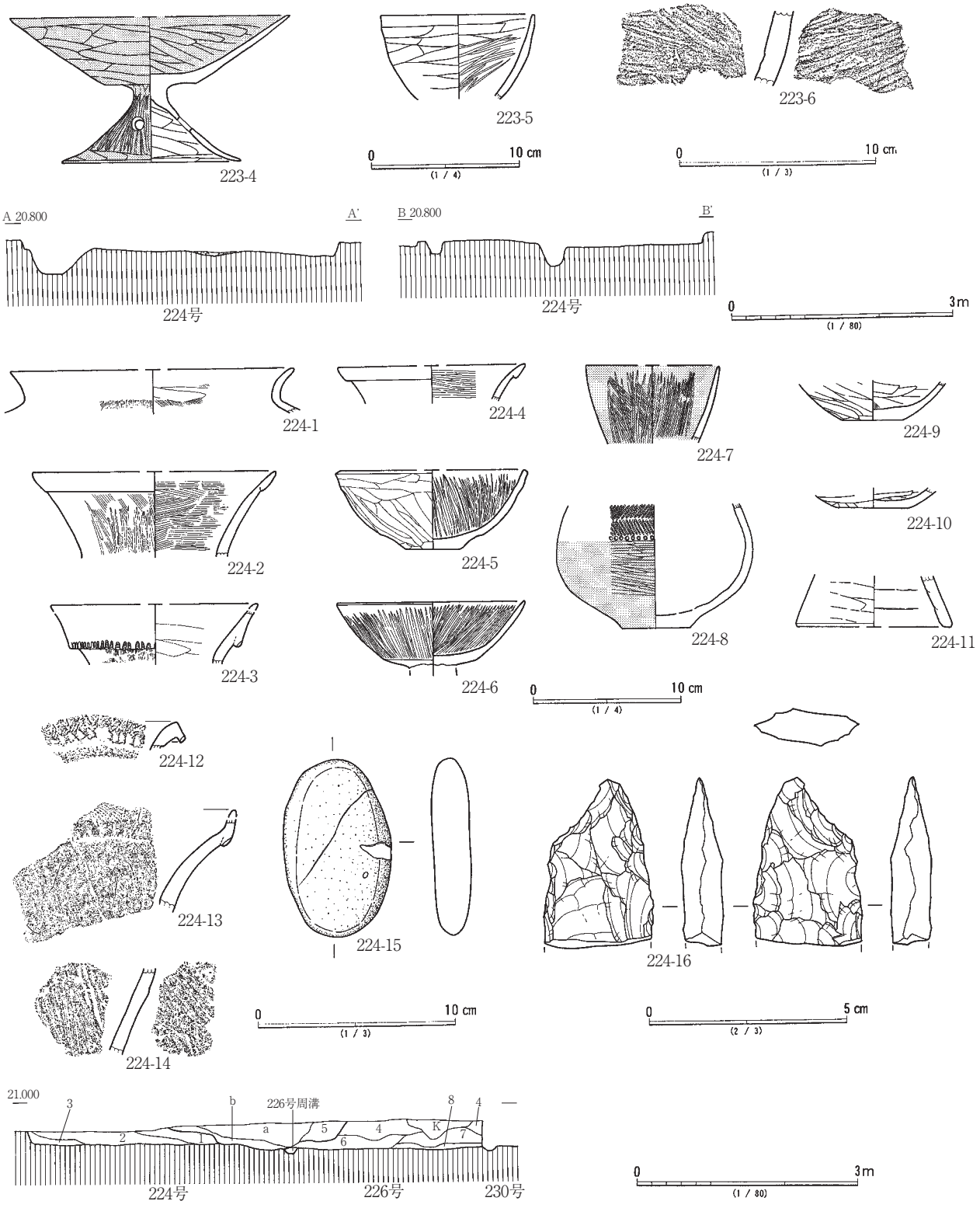
残存する壁高はそれぞれ東壁38㎝、西壁19㎝、南壁29㎝、北壁27㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床であり、平坦で、全体的に硬く踏み固められている。ピットは１ヶ所に検出され、深さは33㎝を測る。

遺物

本遺構からは154点5,604gの土器片と４点62gの礫が検出された。土器片等の内訳は、88点4,976gの土師器、１点８gの須恵器、64点580gの弥生土器、１点40gの早期条痕文系土器である。これらの出



第207図　222・223号遺構実測図・221 ～ 223号遺構出土遺物実測図



224号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小混入。
3 暗褐色土 黒色土まばらに混入。

224号遺構
a 黒褐色土 ロームブロック小混入。
b 暗褐色土 ロームブロック多量に混入。

226号遺構
4 暗褐色土 ロームブロック小混入。
5 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
7 暗褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。
8 暗褐色土 焼土混入。

第208図　224・226号遺構実測図・223・224号遺構出土遺物実測図

土遺物の内６点を図示した。

１・２・４は床直で検出され、本跡に直接伴うものと判断される。３は床面から20㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

224号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号261号。223号竪穴東側に位置し、226号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.34m短径4.05mを測り、主軸方位はN－62 °－Wを示す。炉は中央西寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.92m短径0.62m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－112 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北西壁19㎝、南西壁17㎝、北東壁15㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床であり、平坦で、全体的に硬く踏み固められている。ピットは９ヶ所に検出されたが適正な位置配列がなく、何れが主柱穴なのかわからない。深さはＰ１が６㎝、Ｐ２が35㎝、Ｐ３が39㎝、Ｐ４が17㎝、Ｐ５が30㎝、Ｐ６が24㎝、Ｐ７が９㎝、Ｐ８が18㎝、Ｐ９が29㎝を測る。

遺物

本遺構からは226点3,305gの土器片と10点620gの礫、１点151gの磨石、１点13.5gの尖頭器が検出された。土器片等の内訳は、95点1,855gの土師器、129点1,410gの弥生土器、１点20gの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

２・６・８・10は床直で検出され、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

225号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号なし。224号竪穴内からにプランがはみ出す土坑である。長径1.10m短径0.72m、残存する壁高数値は、南24㎝、北11㎝を測り、主軸方位はN－78 °－Wを示す。底面はハードローム層中に掘り込まれ、ほぼ平坦である。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

226号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号260号。223号竪穴東側に位置し、224号竪穴を削平し、230号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.04m短径3.66mを測り、主軸方位はN－41 °－Wを示す。炉は西壁寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.80m短径0.63m深さ５㎝を測り、火床長軸方位はN－44 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁22㎝、南東壁24㎝、北西壁７㎝、南西壁28㎝を測り、周溝は西側と南側の一部に存在し、深さは４～９㎝を測る。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床であり、平坦であるが、あまり硬く踏み固められていない。ピットは３ヶ所に検出されたが、適正な位置配列がなく、何れが主柱穴なのかわからない。深さはＰ１が21㎝、Ｐ２が29㎝、Ｐ３が28㎝を測る。

焼土は７ヶ所に検出され厚さ２～12㎝を測る。この他炭化物が３ヶ所から検出されている

遺物

第209図　227 ～ 237号遺構実測図

本遺構からは102点1,544gの土器片と９点330gの礫、４点22.6gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、26点581gの土師器、75点961gの弥生土器、１点２gの近世陶器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１は床直で検出され、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

227号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号262A号。223号竪穴南側に位置し、周囲の遺構全てを削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.24m短径4.52mを測り、主軸方位はN－55 °－Wを示す。カマドは北西壁中央に構築され、残存する火床長径0.48m短径0.40m深さ３㎝を測り、火床主軸方位はN－61 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ南東壁12㎝、北西壁21㎝、南西壁23㎝、北東壁21㎝を測り、周溝はほぼ全周し、深さは８～28㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であるが、あまり硬く踏み固められていない。ピットは12ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ６は主柱穴、P11は貯蔵穴、P12は、本跡に伴うと考えられる小型甕を検出することから、貯蔵穴ないしは入口施設と想定される。深さはＰ１が43㎝、Ｐ２が46㎝、Ｐ３が17㎝、Ｐ４が228号床面から41㎝、本跡床面換算で62㎝を測る。Ｐ５が48㎝、Ｐ６が48㎝を測る。この他Ｐ７が39㎝、Ｐ８が29㎝、Ｐ９が21㎝、P10が12㎝、P11が29㎝、P12が228号床面から53㎝、本跡床面換算で64㎝を測る。

なお、本跡と228号竪穴との重複する範囲については、本跡本来の床面を検出する事ができなかった。また、東側の壁付近の床面から粘土ブロックが検出され、厚さは９㎝を測る。

遺物

本遺構からは117点4,879gの土器片と６点300gの礫、１点48gの磨石、１点7.2gの鉄鏃が検出された。土器片等の内訳は、102点4,592gの土師器、４点125gの須恵器、８点112gの弥生土器、２点40gの早期条痕文系土器、１点10gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内25点を図示した。

１・４～７・９～12・19・25は床直ないしは床直上、あるいはカマドやピット内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

228号遺構（竪穴住居跡）

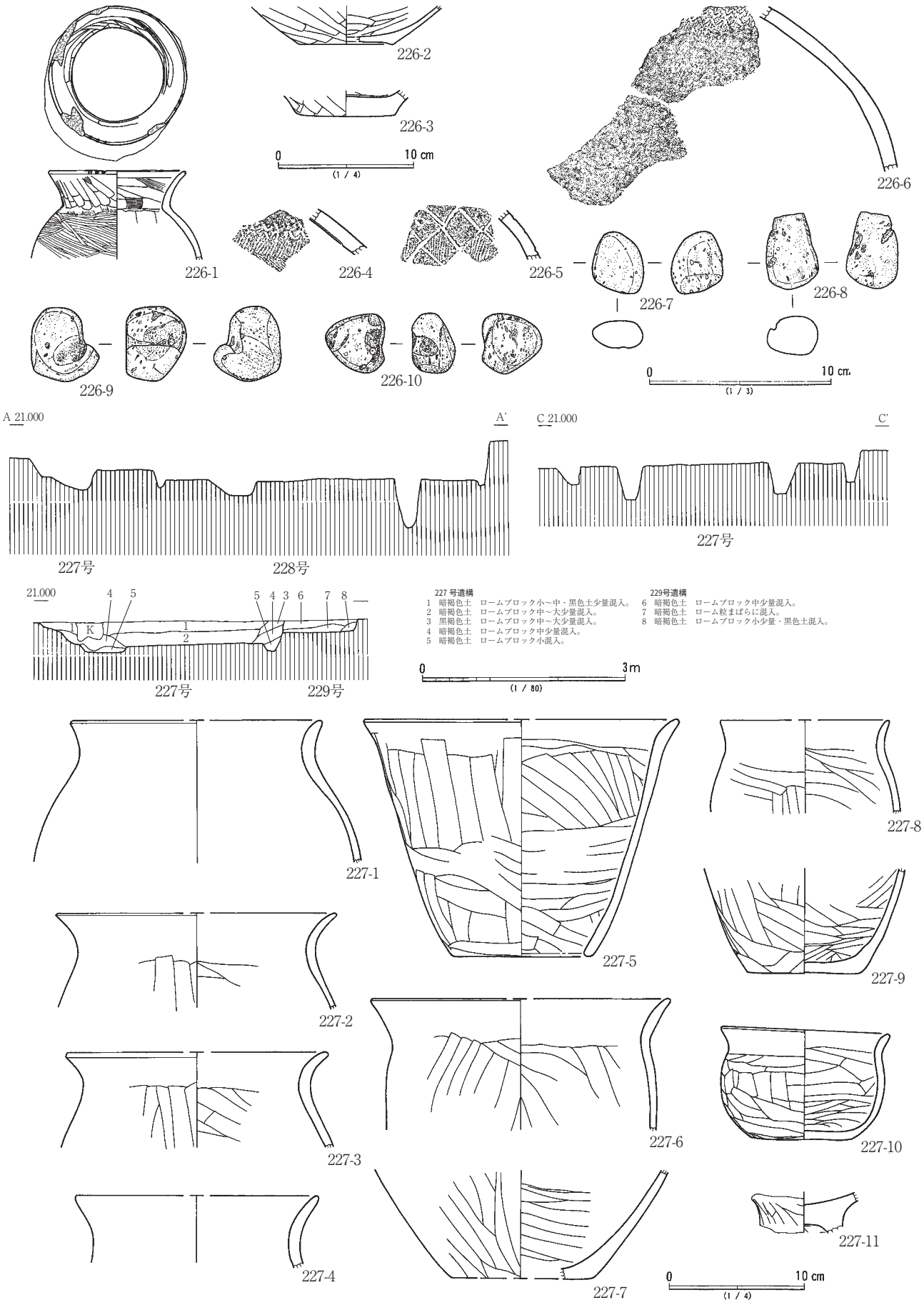
昭和53年度調査時遺構番号262B号。227号竪穴南側に位置し、229号竪穴を削平し、227号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.06m残存短径2.30mを測り、主軸方位はN－60 °－Wを示す。カマドは未検出であるが、時期的に調査区域外に存在するものと想定される。

残存する壁高はそれぞれ南東壁59㎝、北西壁25㎝、北東壁58㎝を測り、検出面での周溝は全周し、深さは７～12㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ３・Ｐ６は主柱穴と想定され、深さはＰ１が24㎝、Ｐ２が22㎝、Ｐ３が39㎝、Ｐ４が25㎝、Ｐ５が68㎝、Ｐ６が32㎝を測る。

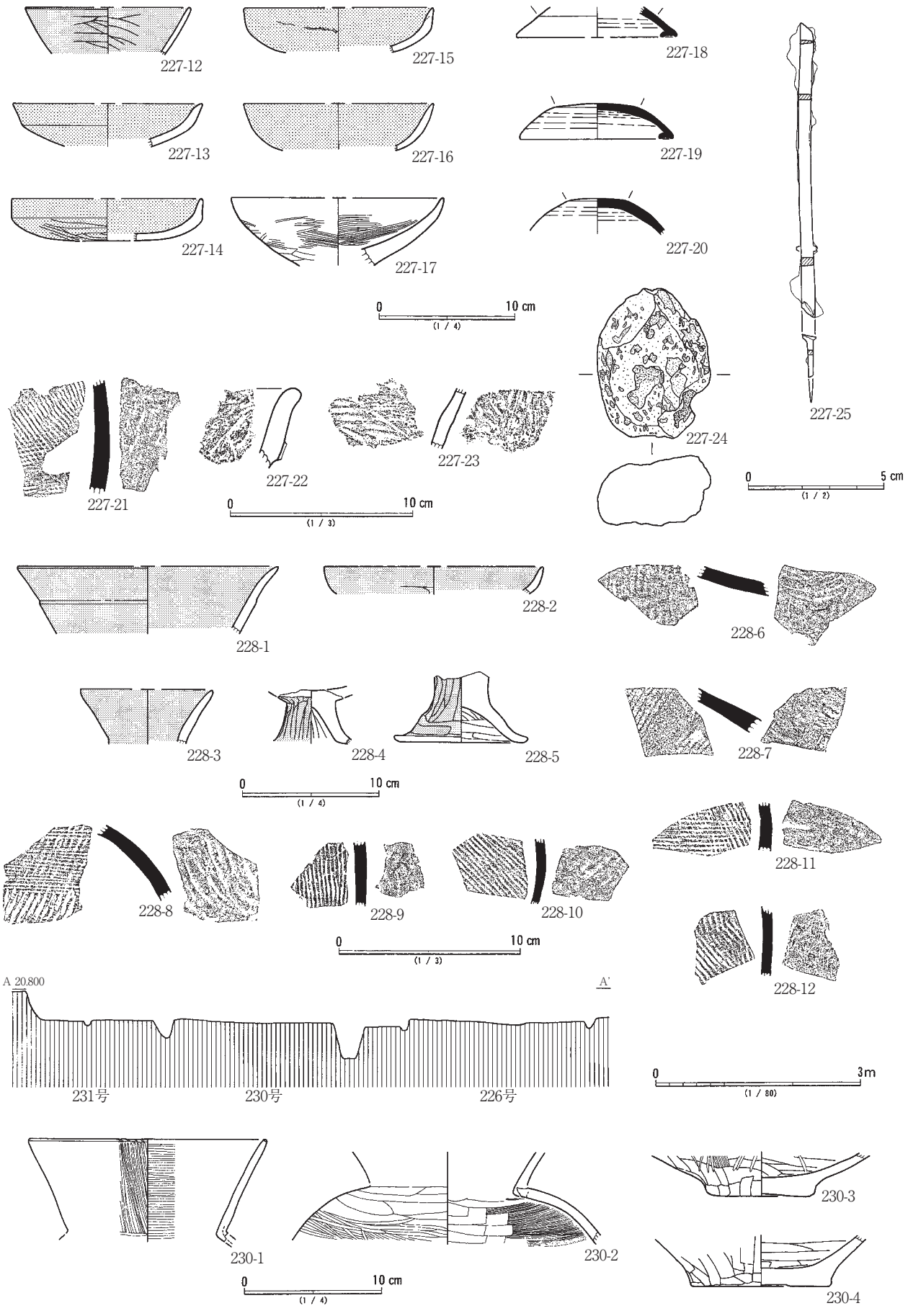
焼土は１ヶ所に検出され、厚さ10㎝を測る。

遺物

本遺構からは598点7,091gの土器片と３点120gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、507点



第210図　227 ～ 229号遺構実測図・226・227号遺構出土遺物実測図



第211図　226・230・231号遺構実測図・227・228・230号遺構出土遺物実測図

6,027gの土師器、７点109gの須恵器、82点943gの弥生土器、２点12gの早期条痕文系土器、である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

５は床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

229号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号259B号。227号竪穴東側に位置し、229号竪穴を削平し、重複する全ての遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存径1.90m深さ27㎝を測り、周溝・ピットは存在しない。

床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床であり、平坦で、硬く踏み固められている。

遺物

本遺構からは10点138gの土師器が検出されたが、小片のため図化に至るものがなかった。

230号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号259A号。227号竪穴東側に位置し、227号竪穴に削平され、226号・229号・231号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.98m短径4.98mを測り、主軸方位はN－41 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央やや東南寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.86m短径0.60m深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－39 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁48㎝、南東壁１㎝、北西壁34㎝、南西壁46㎝を測り、周溝はほぼ全周し、深さは２～24㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは８ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴、Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が41㎝、Ｐ２が23㎝、Ｐ３が51㎝、Ｐ４が49㎝、Ｐ５が27㎝、Ｐ６が28㎝を測る。この他Ｐ７が33㎝、Ｐ８が23㎝を測る。

焼土・炭化物は25ヶ所に検出され、厚さ２～24㎝を測る。

遺物

本遺構からは373点6,703gの土器片と２点95gの礫、１点2.8gの鉄鏃片が検出された。土器片等の内訳は、299点5,718gの土師器、１点10gの須恵器、72点955gの弥生土器、１点20gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

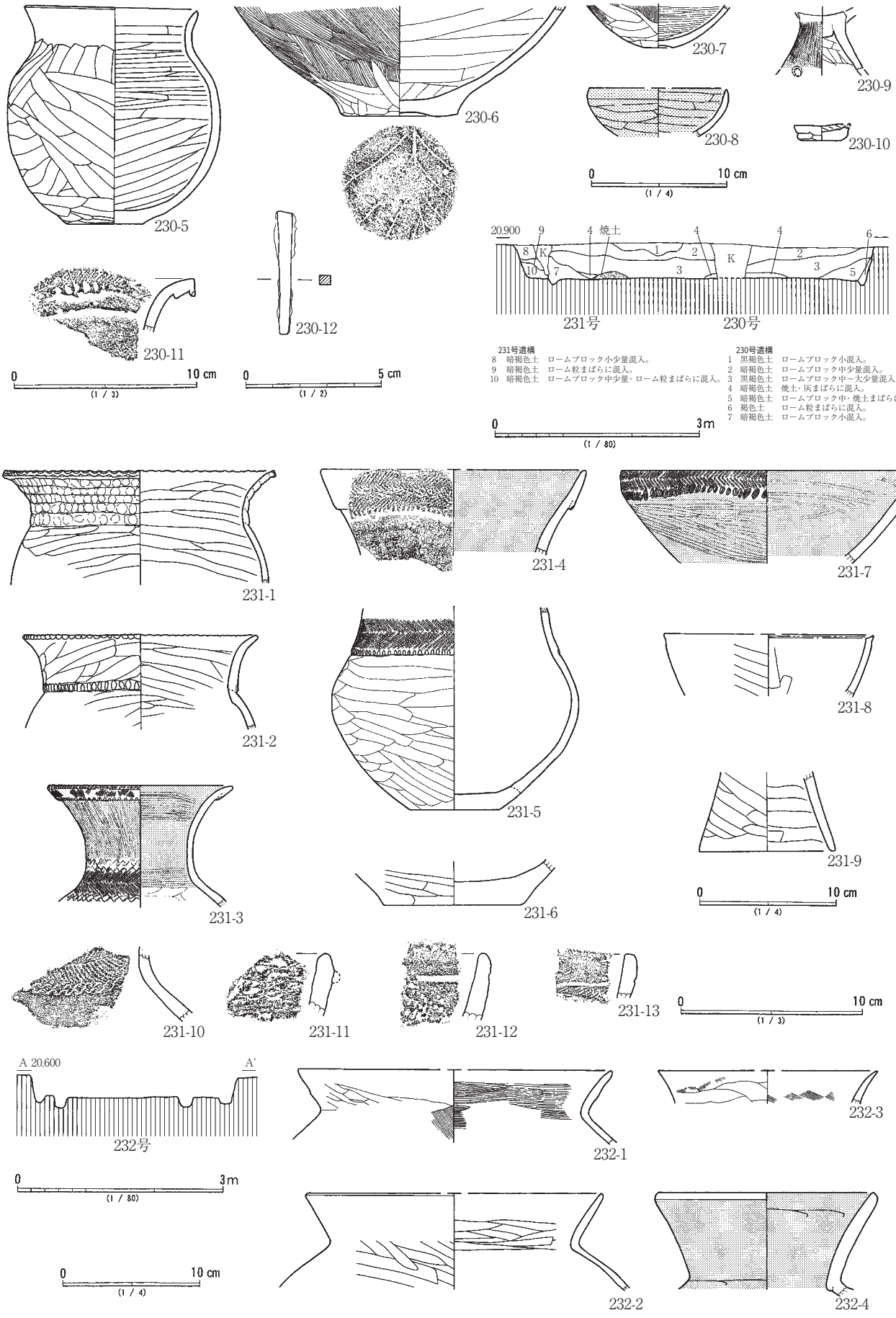
３・５～７・９は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。２は床面から15㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

231号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号258号。230号竪穴南側に位置し、230号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存短径3.95mを測り、主軸方位はN－10 °－Wを示す。炉は230号竪穴に削平され未検出である。

残存する壁高はそれぞれ東壁45㎝、西壁45㎝、南壁46㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さは、Ｐ１が18㎝、Ｐ２が13㎝を測る。

炭化物は１ヶ所に検出され、厚さ５㎝を測る。



第212図　230 ～ 232号遺構実測図・出土遺物実測図

遺物

本遺構からは198点4,446gの土器片と１点27gの礫が検出された。土器片等の内訳は、37点436gの土師器、158点3,966gの弥生土器、１点16gの早期条痕文系土器、２点28gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

１～３・７は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。６・９は床面から15㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

232号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号263号。231号竪穴南側に位置し、231号・233号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.24m推定短径3.14mを測り、主軸方位はN－42 °－Wを示す。炉は中央やや北寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.47m短径0.22m深さ８㎝を測り、火床主軸方位はN－41 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ南東壁33㎝、北西壁39㎝、南西壁37㎝を測り、壁を検出した範囲に周溝は残存し、深さは２～13㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が15㎝、Ｐ２が14㎝、Ｐ３は７㎝を測る。

遺物

本遺構からは169点3,962gの土器片と６点360gの礫が検出された。土器片等の内訳は、83点2,485gの土師器、86点1,477gの弥生土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

13は床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

233号遺構（竪穴住居跡）

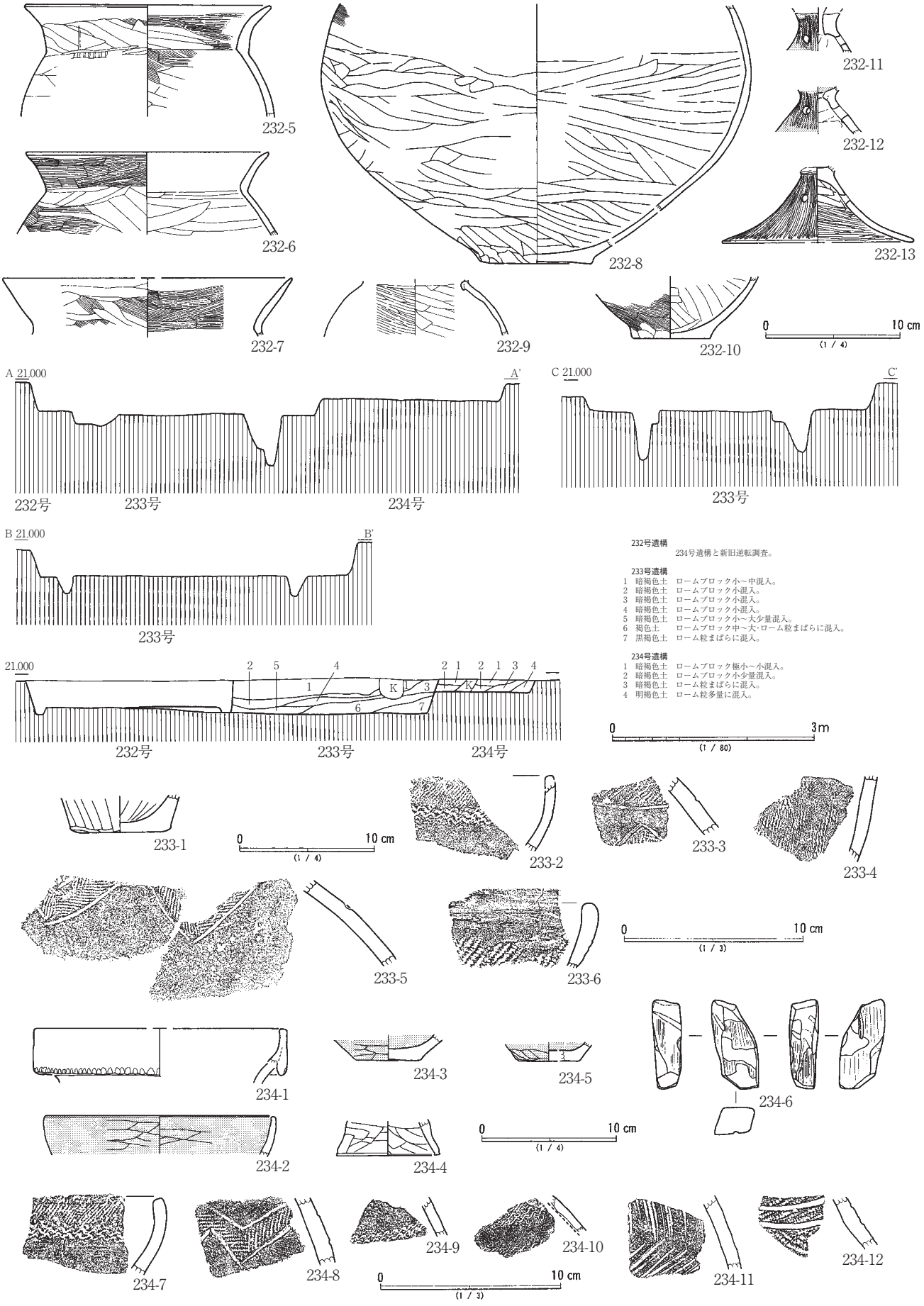
昭和53年度調査時遺構番号76号。232号竪穴東側に位置し、232号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.86m推定短径4.30mを測り、主軸方位はN－20 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央に検出され、残存する火床長径1.05m短径0.58m深さ８㎝を測り、火床主軸方位はN－10 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁33㎝、南壁38㎝、北壁40㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは10ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ６は主柱穴、Ｐ９は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が65㎝、Ｐ２が61㎝、Ｐ３が16㎝、Ｐ４が232床面から71㎝、本跡床面換算で73㎝を測る。Ｐ５が232床面から13㎝、本跡床面換算で15㎝を測る。Ｐ６が72㎝を測る。この他Ｐ７が19㎝、Ｐ８が11㎝、Ｐ９が33㎝、P10が16㎝を測る。

遺物

本遺構からは78点1,170gの土器片と１点54gの礫が検出された。土器片等の内訳は、11点102gの土師器、66点1,038gの弥生土器、１点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

５は床直から20㎝浮いた状態で検出されている以外は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。



第213図　232 ～ 234号遺構実測図・出土遺物実測図

234号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号75号。233号竪穴東側に隣接し、233号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径2.70m短径4.15mを測り、主軸方位はN－92°－Wを示す。炉は中央やや北寄りに検出され、残存する火床長径0.70m短径0.53m深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－68°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁25㎝、南壁22㎝、北壁18㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ平坦であり、あまり硬く踏み固められていない。ピットは１ヶ所に検出され、深さは33㎝を測る。

遺物

本遺構からは281点2,756gの土器片と３点112gの礫、１点22gの砥石が検出された。土器片等の内訳は、123点1,131gの土師器、156点1,583gの弥生土器、２点42gの縄文土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

本跡出土遺物の全ては、覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

235号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号77A号。233号竪穴北側に位置し、236号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.03m短径3.88mを測り、主軸方位はN－39°－Wを示す。炉は中央やや北寄りに検出され、残存する火床長径0.90m短径0.48m深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－44°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ南東壁49㎝、北西壁47㎝、南西壁44㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは98点1,380gの土器片と７点475gの礫、１点148gの磨製石斧、１点72.4gの砥石が検出された。土器片等の内訳は、50点845gの土師器、48点535gの弥生土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

３・５・７は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。６は床面から21㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の出土遺物は、覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

236号遺構（竪穴住居跡）

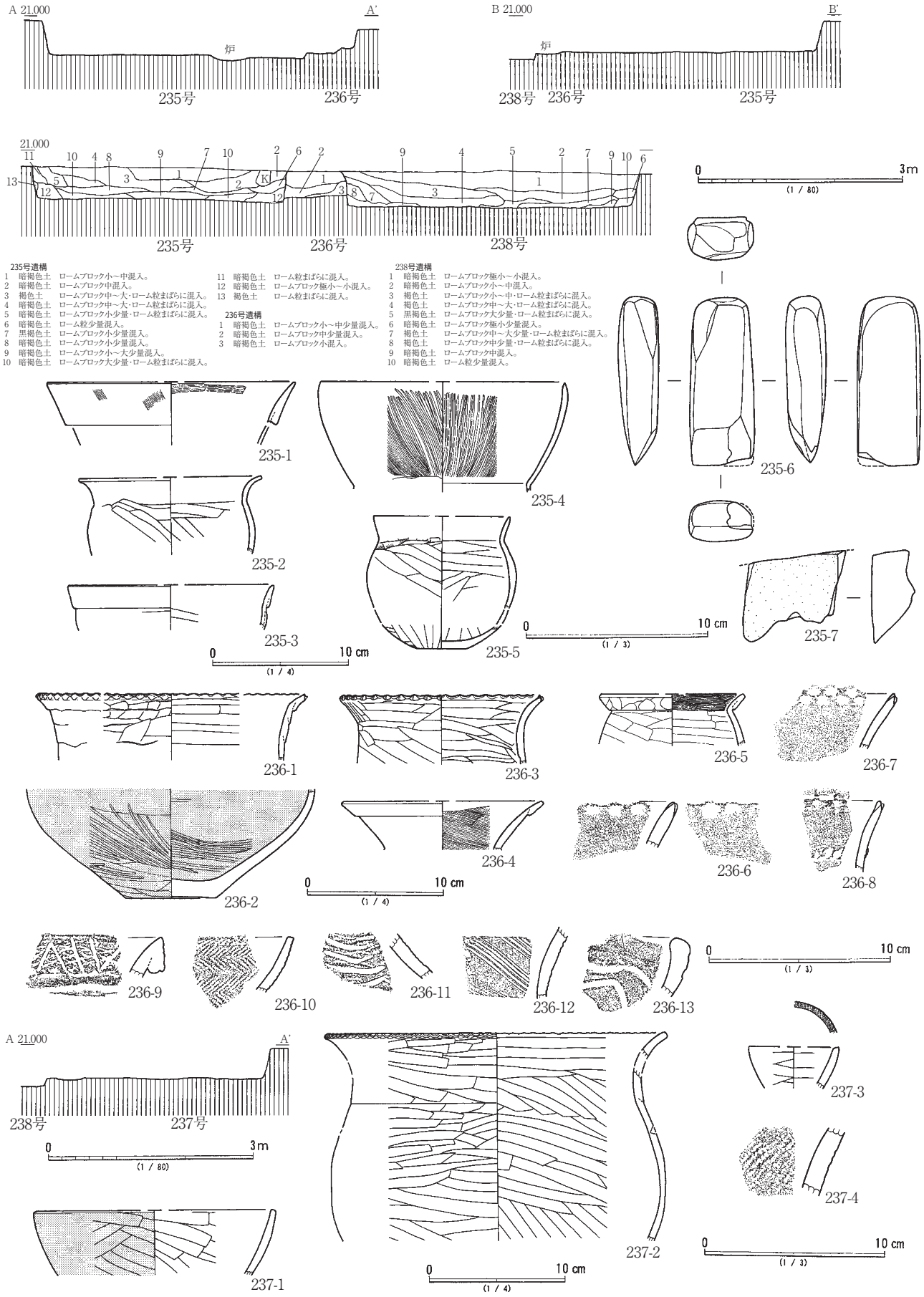
昭和53年度調査時遺構番号77B号。235号竪穴東側に隣接し、235号・238号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.08mを測り、主軸方位はN－41°－Wを示す。炉は中央やや北寄りに検出され、残存する火床長径0.96m短径0.55m深さ９㎝を測り、火床主軸方位はN－41°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ南東壁39㎝、北西壁34㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、硬く踏み固められている。Ｐ１は、深さ28㎝を測る。

遺物

本遺構からは17点650gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、３点70gの土師器、13点560gの弥生土器、１点20gの縄文土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

２は床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の出土遺物は、覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。



235号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中混入。
3 褐色土 ロームブロック中～大・ローム粒まばらに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中～大・ローム粒まばらに混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小少量・ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 ローム粒少量混入。
7 黒褐色土 ロームブロック小少量混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小～大少量混入。
10 暗褐色土 ロームブロック大少量・ローム粒まばらに混入。
11 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
12 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
13 褐色土 ローム粒まばらに混入。

236号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小混入。

238号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 褐色土 ロームブロック小～中・ローム粒まばらに混入。
4 褐色土 ロームブロック中～大・ローム粒まばらに混入。
5 黒褐色土 ロームブロック大少量・ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
7 褐色土 ロームブロック中～大少量・ローム粒まばらに混入。
8 褐色土 ロームブロック中少量・ローム粒まばらに混入。
9 暗褐色土 ロームブロック中混入。
10 暗褐色土 ローム粒少量混入。

第214図　235・236・238号遺構実測図・235～237号出土遺物実測図

237号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号74号。236号竪穴南側に位置し、238号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径4.25m短径3.66を測り、主軸方位はN－38 °－Wを示す。炉は中央やや北寄りに検出され、残存する火床長径0.50m短径0.37m深さ５㎝を測り、火床主軸方位はN－41 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁32㎝、南東壁46㎝、北西壁33㎝、南西壁31㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

焼土は５ヶ所に検出され、厚さは７～10㎝を測る。

遺物

本遺構からは55点1,305gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、12点165gの土師器、１点10gの須恵器、40点1,105gの弥生土器、１点５gの早期条痕文系土器、１点20gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。

１・２・４は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の出土遺物は、覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

238号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号73号。237号竪穴北側に隣接し、236号・237号・239号竪穴を削平し210号に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.00m短径3.92mを測り、主軸方位はN－58 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央に検出され、残存する火床長径0.80m短径0.40m深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－58 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁46㎝、南東壁45㎝、北西壁48㎝、南西壁48㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、硬く踏み固められている。Ｐ１・Ｐ４間の北側が周囲の床面より最大８㎝高くなるベッド状遺構の床面構造を持つ、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が70㎝、Ｐ２が67㎝、Ｐ３が73㎝、Ｐ４が75㎝、Ｐ５が21㎝を測る。

ベッド状遺構の床面から壁際にかけて焼土の堆積が認められたが、厚さの測定値はない。

遺物

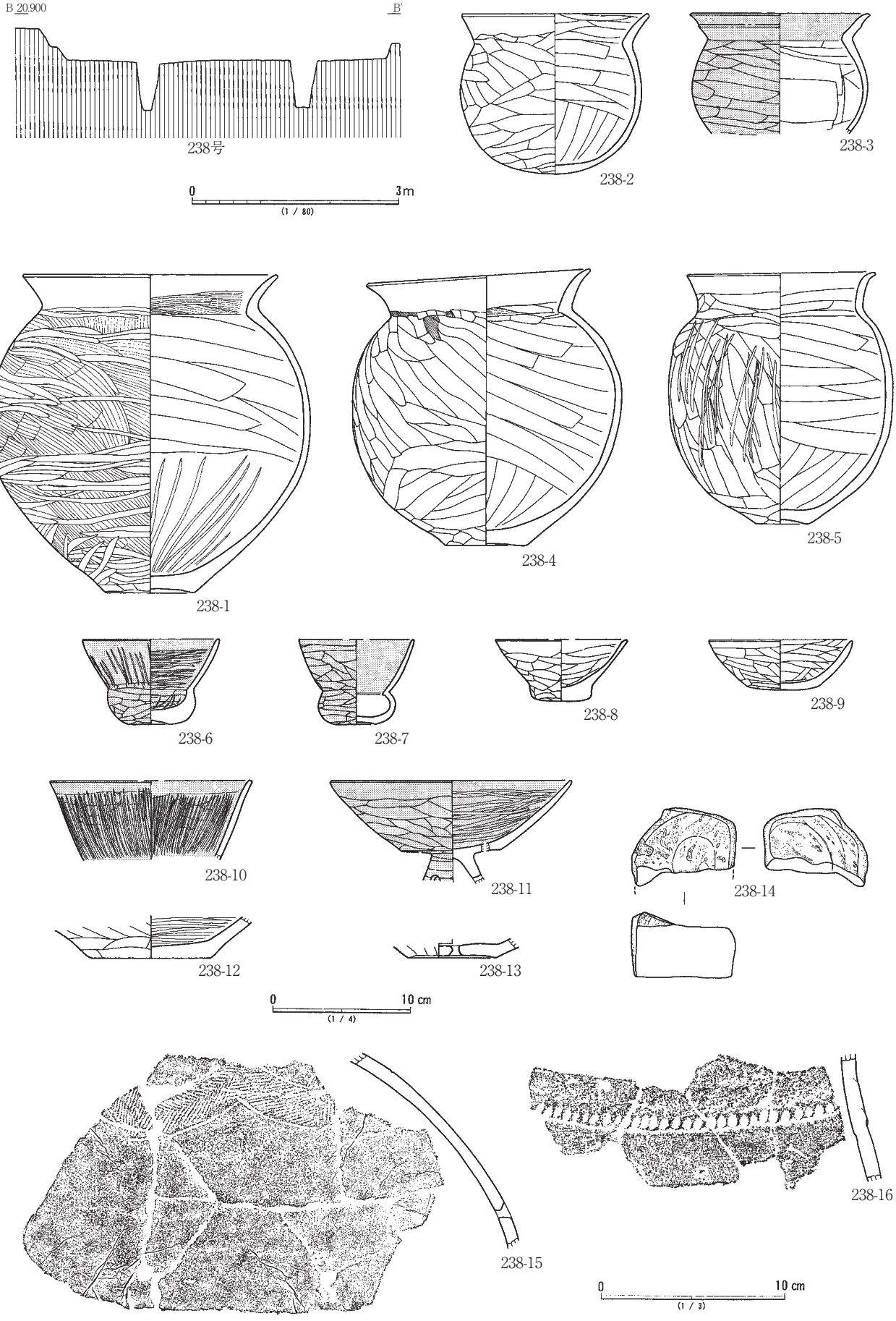
本遺構からは289点8,861gの土器片と３点180gの礫、１点62.8gの凹石が検出された。土器片等の内訳は、52点5,596gの土師器、232点3,160gの弥生土器、５点105gの縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

１～３・６・９・11・13・15・16は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。４・５・７・12は床面から25㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

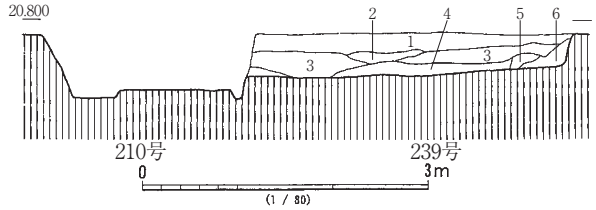
239号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号78号。238号竪穴北側に隣接し、210号・238号・240号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.60m残存短径3.94mを測り、主軸方位はN－32 °－Wを示す。炉はP

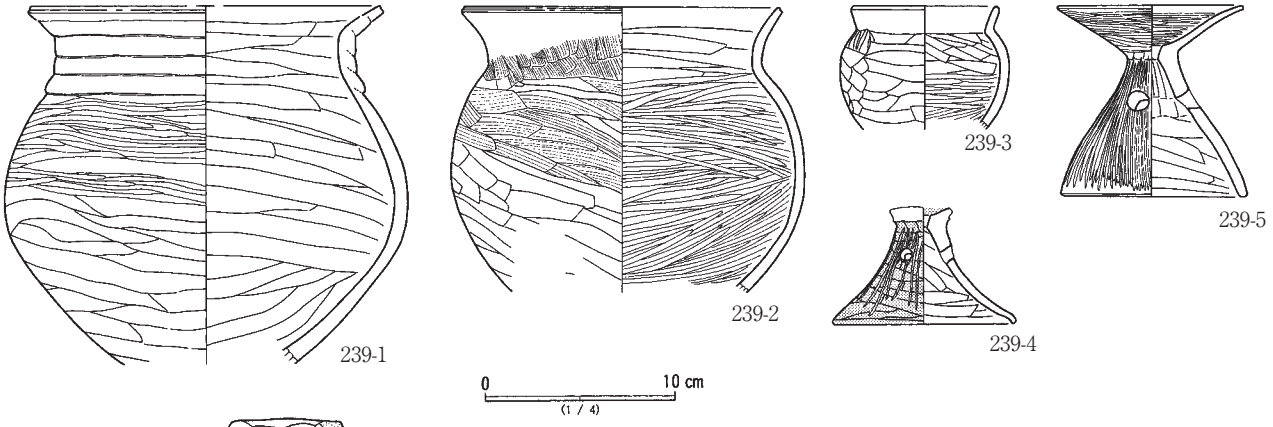
第215図　238 ～ 242号遺構実測図

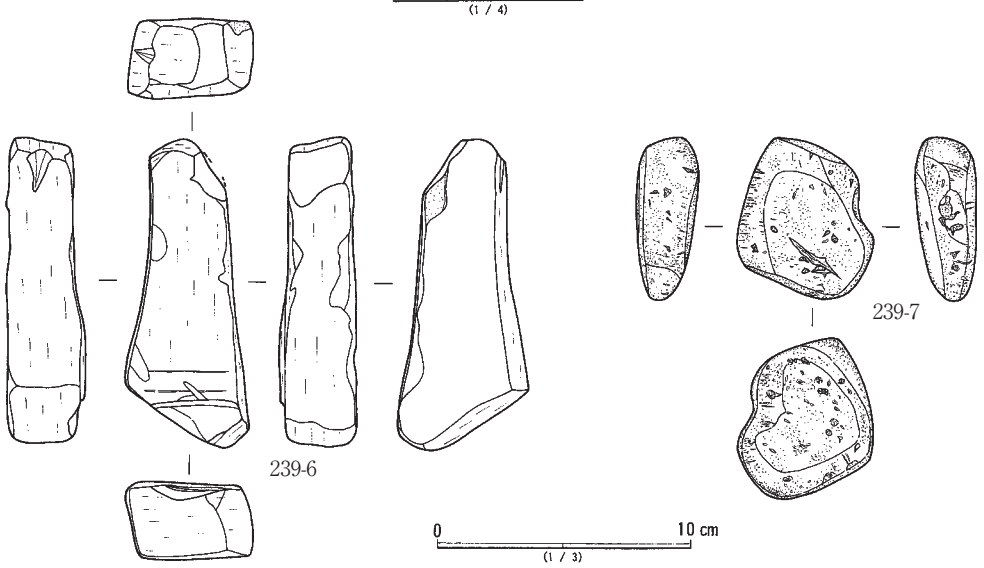


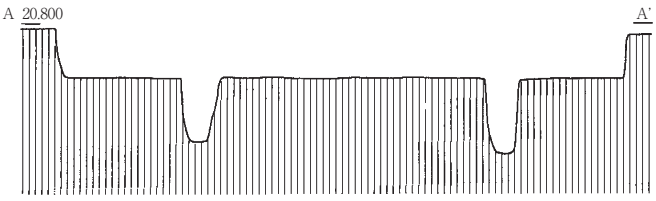
第216図　238号遺構実測図・出土遺物実測図



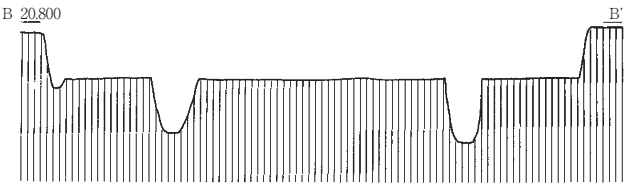
239号遺構
1　暗褐色土　ロームブロック小～中混入。
2　黒褐色土　ロームブロック小少量混入。
3　暗褐色土　ロームブロック小～中混入。
4　暗褐色土　ロームブロック小少量混入。
5　暗褐色土　ローム粒まばらに混入。
6　暗褐色土　ロームブロック極小混入。



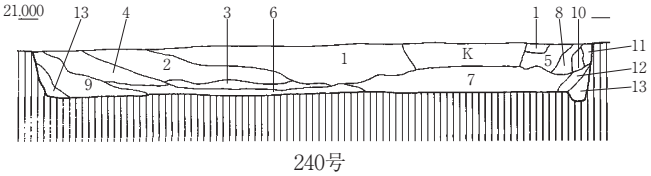




240号

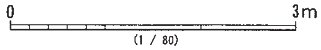


240号



240号

240号遺構
1　黒褐色土　ロームブロック小～中混入。
2　黒褐色土　ロームブロック小～中混入。
3　暗褐色土　ロームブロック小少量混入。
4　暗褐色土　ロームブロック小～中少量混入。
5　暗褐色土　ロームブロック中少量混入。
6　暗褐色土　ロームブロック中少量・ローム粒まばらに混入。
7　暗褐色土　ロームブロック小～中少量混入。
8　黒褐色土　ロームブロック小少量混入。
9　暗褐色土　ロームブロック中少量・ローム粒まばらに混入。
10　暗褐色土　ロームブロック小・焼土ブロック少量混入。
11　暗褐色土　ローム粒多量に混入。
12　暗褐色土　ロームブロック極小・焼土ブロック極小・炭化物少量混入。
13　暗褐色土　ロームブロック極小混入。



第217図　210・239・240号遺構実測図・239号遺構出土遺物実測図

１・Ｐ２間中央やや南側に検出され、残存する火床長径0.94m短径0.74m深さ８㎝を測り、火床主軸方位はN－32°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁37㎝、南東壁35㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり炉を中心とした範囲が硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が69㎝、Ｐ２が70㎝、Ｐ３は238号竪穴床面から53㎝、本跡床面換算で55㎝を測る。Ｐ４は52㎝、Ｐ５は33㎝を測る。

焼土は２ヶ所に検出され、厚さは１～９㎝を測る。

遺物

本遺構からは277点5,823gの土器片と４点156gの礫、１点218gの砥石、１点15.1gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、89点2,771gの土師器、181点2,948gの弥生土器、１点28gの手づくね土器、６点76gの縄文土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

１・２・４・５は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。３は床面から26㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

240号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号72号。238号竪穴東側に隣接し、239号・242号竪穴を削平し・241号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.16m短径5.86mを測り、主軸方位はN－115°－Wを示す。カマドは西壁中央やや南側に偏って構築されており、残存する火床長径0.74m短径0.44m深さ24㎝を測り、火床主軸方位はN－120°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁49㎝、西壁52㎝、南壁50㎝、北壁52㎝を測り、周溝は北側と西側の一部に残存し、深さは５～８㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは10ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ８は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が68㎝、Ｐ２が54㎝、Ｐ３は75㎝、Ｐ４は79㎝、Ｐ５は65㎝、Ｐ６は34㎝、Ｐ７は25㎝、Ｐ８は60㎝、Ｐ９は55㎝、P10は27㎝を測る。

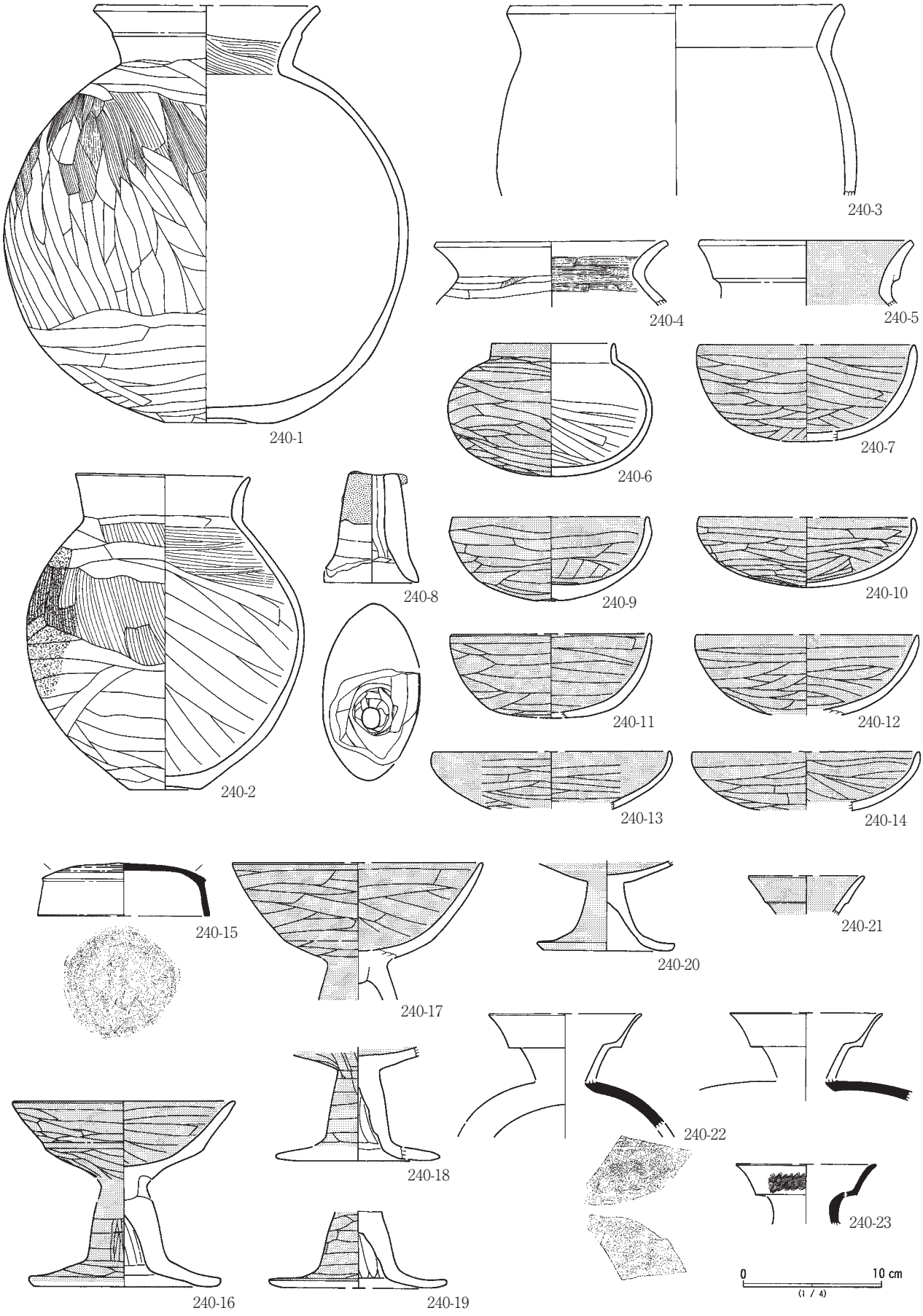
焼土・炭化物は壁際の周囲19ヶ所に検出され、厚さは15～24㎝を測る。

遺物

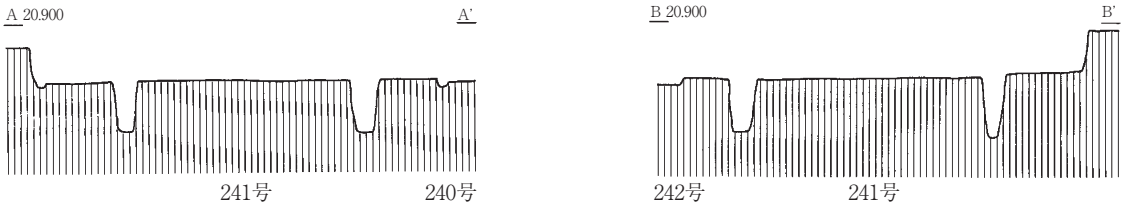
本遺構からは792点18,401gの土器片と13点233gの礫、３点412gの砥石、１点210gの磨石、１点226gの敲石、１点1.20gの翡翠製勾玉、１点180gの高坏脚部転用鞴羽口が検出された。土器片等の内訳は、618点16,302gの土師器、３点206gの須恵器、168点1,845gの弥生土器、３点48gの縄文土器である。これらの出土遺物の内39点を図示した。

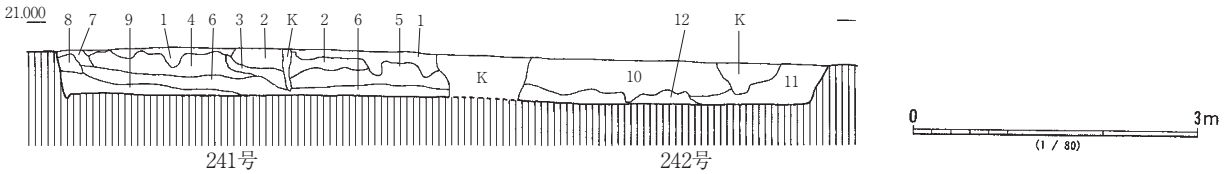
１～６・８・９・10・12・13・16・18・35～39は床直ないしは床直上、あるいはカマドや貯蔵穴内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。15は床面から16㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

なお、本跡からは覆土一括ではあるが、周辺遺跡でもめったに出土しない樽型瓶がTK－216型式期の蓋坏と共に出土しており特筆される。



第218図　240号遺構出土遺物実測図

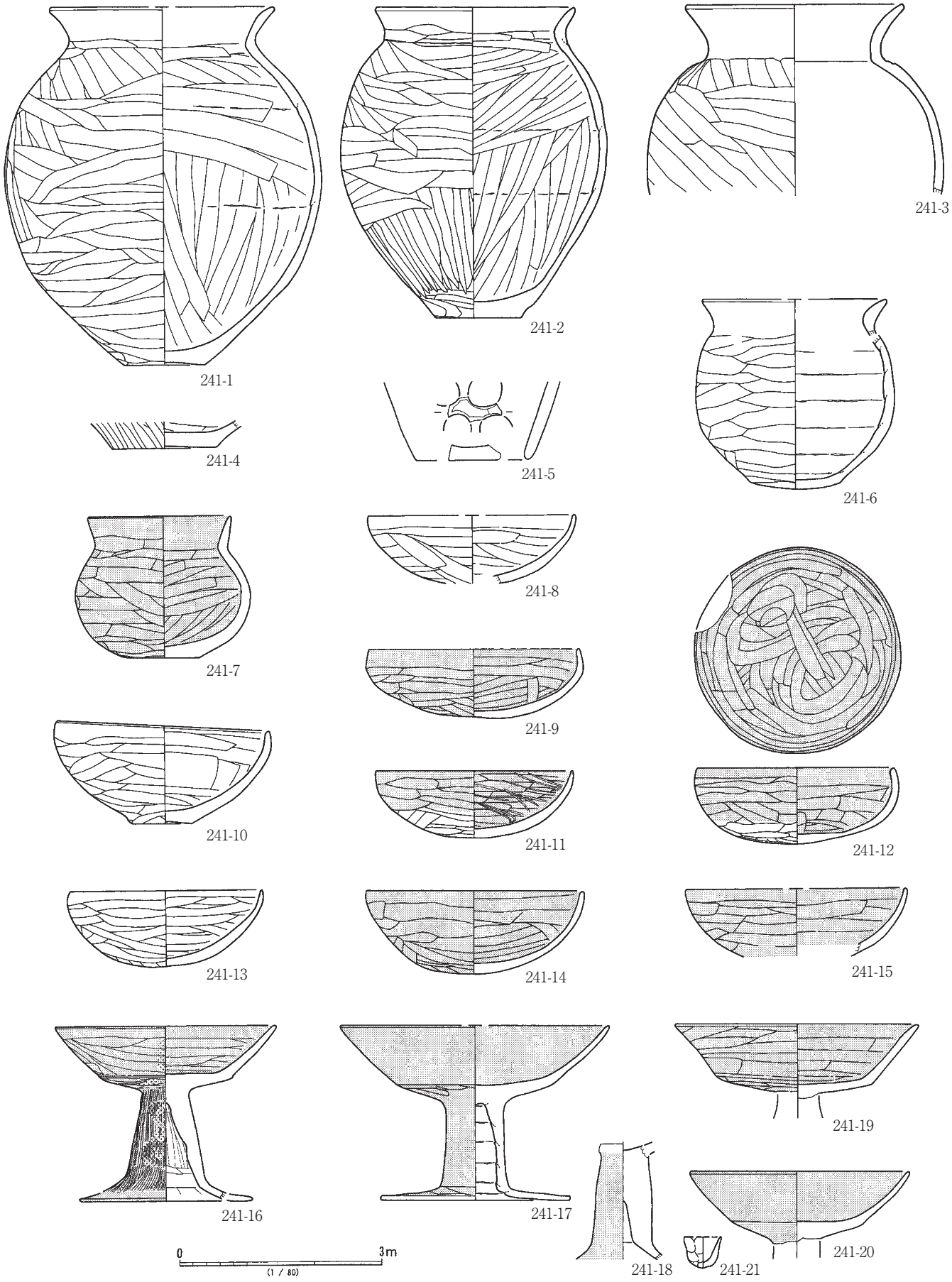




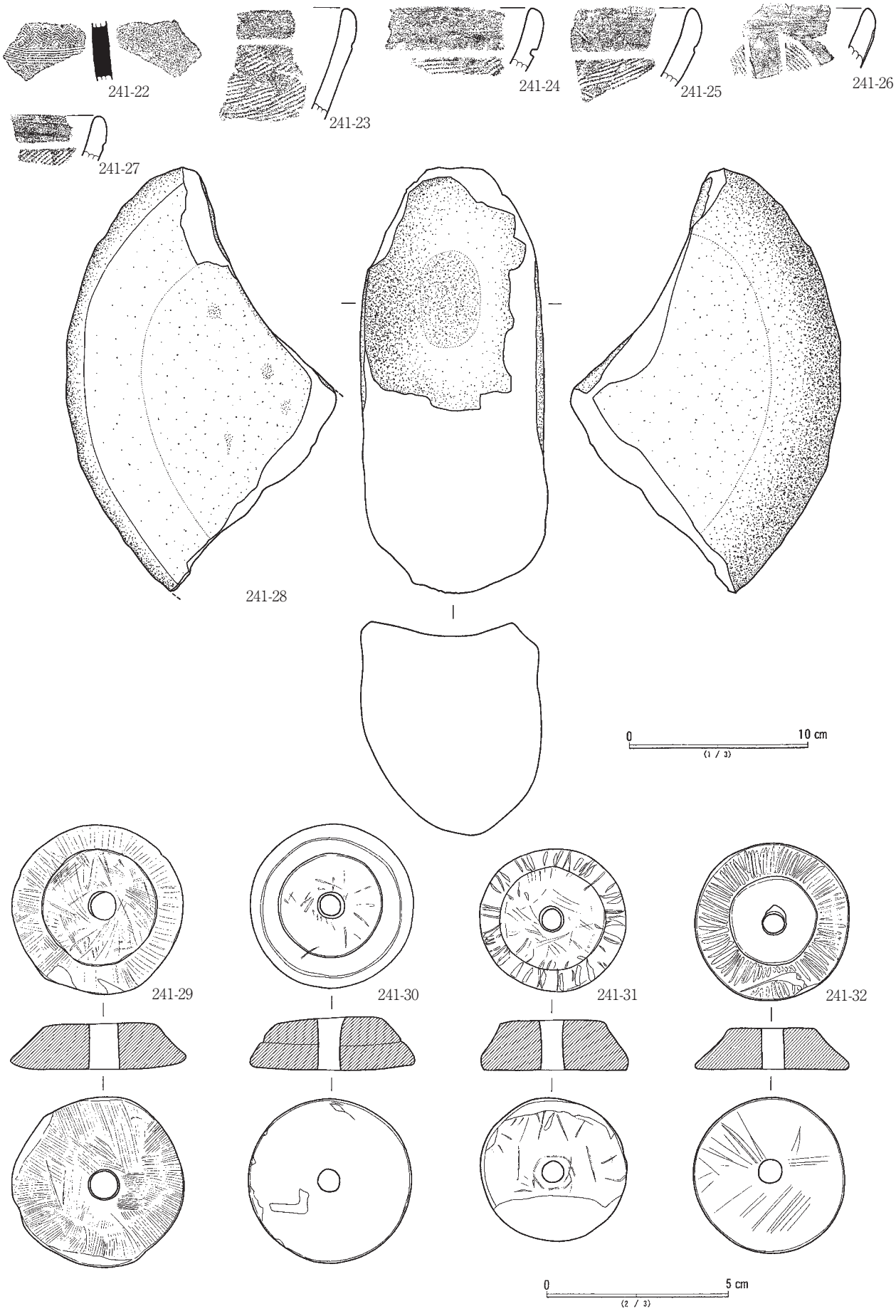
241号遺構
1 黒色土　ロームブロック中混入。
2 暗褐色土　ロームブロック小～大・ローム粒まばらに混入。
3 黒褐色土　ロームブロック中少量混入。
4 暗褐色土　ロームブロック中～大少量混入。
5 黒褐色土　ロームブロック小～大混入。
6 暗褐色土　ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
7 黒褐色土　ロームブロック極小～小少量混入。
8 暗褐色土　ロームブロック中少量・ローム粒まばらに混入。
9 暗褐色土　ロームブロック小～中少量混入。

242号遺構
10 黒褐色土　ロームブロック中～大少量混入。
11 暗褐色土　ローム粒まばらに混入。
12 暗褐色土　ロームブロック小～中少量混入。

第219図　241・242号遺構実測図・240号遺構出土遺物実測図



第220図　241号遺構出土遺物実測図１



第221図　241号遺構出土遺物実測図２

241号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号70号。240号竪穴東側に隣接し、240号・242号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.60m短径4.52mを測り、主軸方位はN－135 °－Wを示す。カマドは南西壁中央やや南側に偏って構築されており、残存する火床長径0.42m短径0.32m深さ８㎝を測り、火床主軸方位はN－140 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁38㎝、南東壁46㎝、北西壁７㎝、南西壁48㎝を測り、検出面で周溝は全周し、深さは５～９㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が66㎝、Ｐ２が55㎝、Ｐ３が78㎝、Ｐ４が51㎝、Ｐ５が62㎝を測る。

焼土は１ヶ所、炭化物は９ヶ所に検出されるが、厚さの測定値がない。

遺物

本遺構からは599点16,738gの土器片と10点610gの礫、１点3,940gの石皿、４点152.2gの紡錘車が検出された。土器片等の内訳は、431点14,824gの土師器、１点15gの須恵器、155点1,604gの弥生土器、１点10gの手づくね土器、11点285gの縄文土器である。これらの出土遺物の内32点を図示した。

１～３・６・10～14・16・19・20・22・28～32は床直ないしは床直上、あるいはカマドや貯蔵穴内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。４・７～９・17は床面から11㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

242号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号71号。240号竪穴北側に隣接し、240号・241号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径5.32m残存短径4.75mを測り、主軸方位はN－28 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央に検出され、残存する火床長径0.58m短径0.56m深さ10㎝を測り、火床主軸方位はN－31 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁32㎝、西壁45㎝、北壁35㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が60㎝、Ｐ２が66㎝、Ｐ３が240号床面から59㎝、本跡床面換算で62㎝を測る。Ｐ４が241号床面から55㎝、本跡床面換算で61㎝を測る。

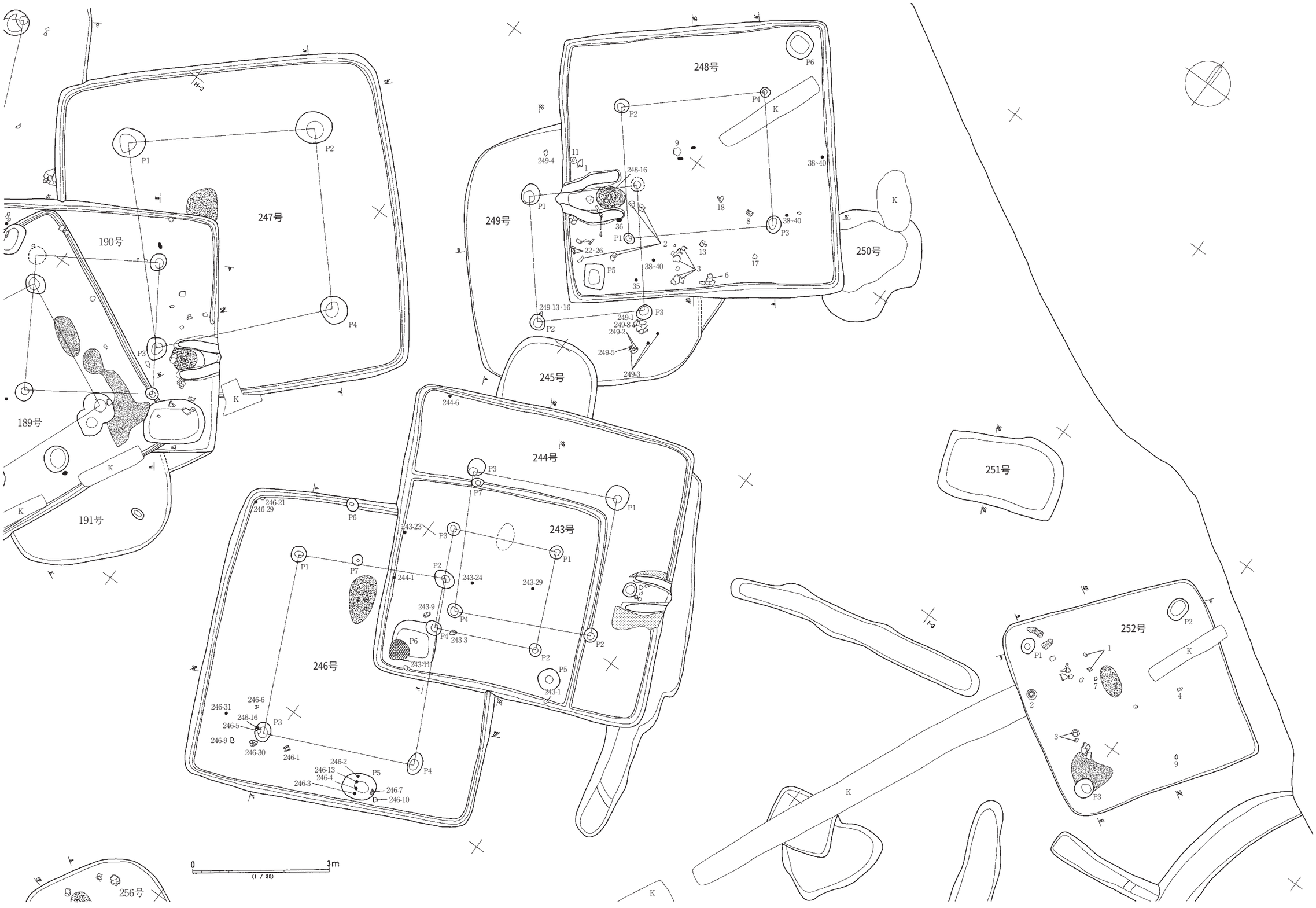
遺物

本遺構からは136点1,699gの土器片と４点370gの礫が検出された。土器片等の内訳は、29点435gの土師器、104点1,234gの弥生土器、３点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

１・２は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

243号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号106号。190号竪穴東側に位置し、246号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.64m短径4.58mを測り、主軸方位はN－66 °－Ｅを示す。炉は遺構平面図には記録されていないが、調査日誌にＰ１・Ｐ３間の中央に存在するとある。規模不明ながら存在していたも



第222図　243 ～ 252号遺構実測図

のとみなしたい。

残存する壁高はそれぞれ東壁７㎝、西壁15㎝、南壁52㎝、北壁３㎝を測り、周溝は全周し、深さは９～19㎝を測る。周溝を244竪穴と共有することから、本跡の拡張住居が244号竪穴と推定される。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は本跡貯蔵穴、Ｐ６は244号貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が57㎝、Ｐ２が58㎝、Ｐ３が56㎝、Ｐ４が58㎝、Ｐ５が97㎝、Ｐ６が63㎝、Ｐ７が19㎝を測る。

遺物

本遺構からは1,236点6,290gの土器片と４点80gの礫、１点29.4gの紡錘車、１点3.2gの有孔円盤、１点0.07gの臼玉、２点60gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、948点3,880gの土師器、４点38gの須恵器、279点2,232gの弥生土器、５点140gの縄文土器である。これらの出土遺物の内31点を図示した。

１・３・９・11・23～25・29は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。２・13は、Ｐ６一括で出土しており244号竪穴に伴う可能性が高い。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

なお、本跡からは覆部端部に円形刺突文付きの手焙土器破片が出土している。

244号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号107号。243号竪穴と壁を共有して検出され、本跡は243号竪穴の拡張後の遺構と想定される。長径6.52m短径6.20mを測り、主軸方位はN－64°－Eを示す。カマドは東壁中央に構築されており、土層断面からも火床の存在が想定されるが、調査図面に火床を示すものがない。

残存する壁高はそれぞれ東壁44㎝、西壁53㎝、南壁44㎝、北壁44㎝を測り、周溝は243号竪穴と一部共有して全周し、深さは５～12㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が58㎝、Ｐ２が39㎝、Ｐ３が38㎝、Ｐ４が243号竪穴床面から49㎝、本跡床面換算で56㎝を測る。カマド前面のＰ５には測定値がなかった。

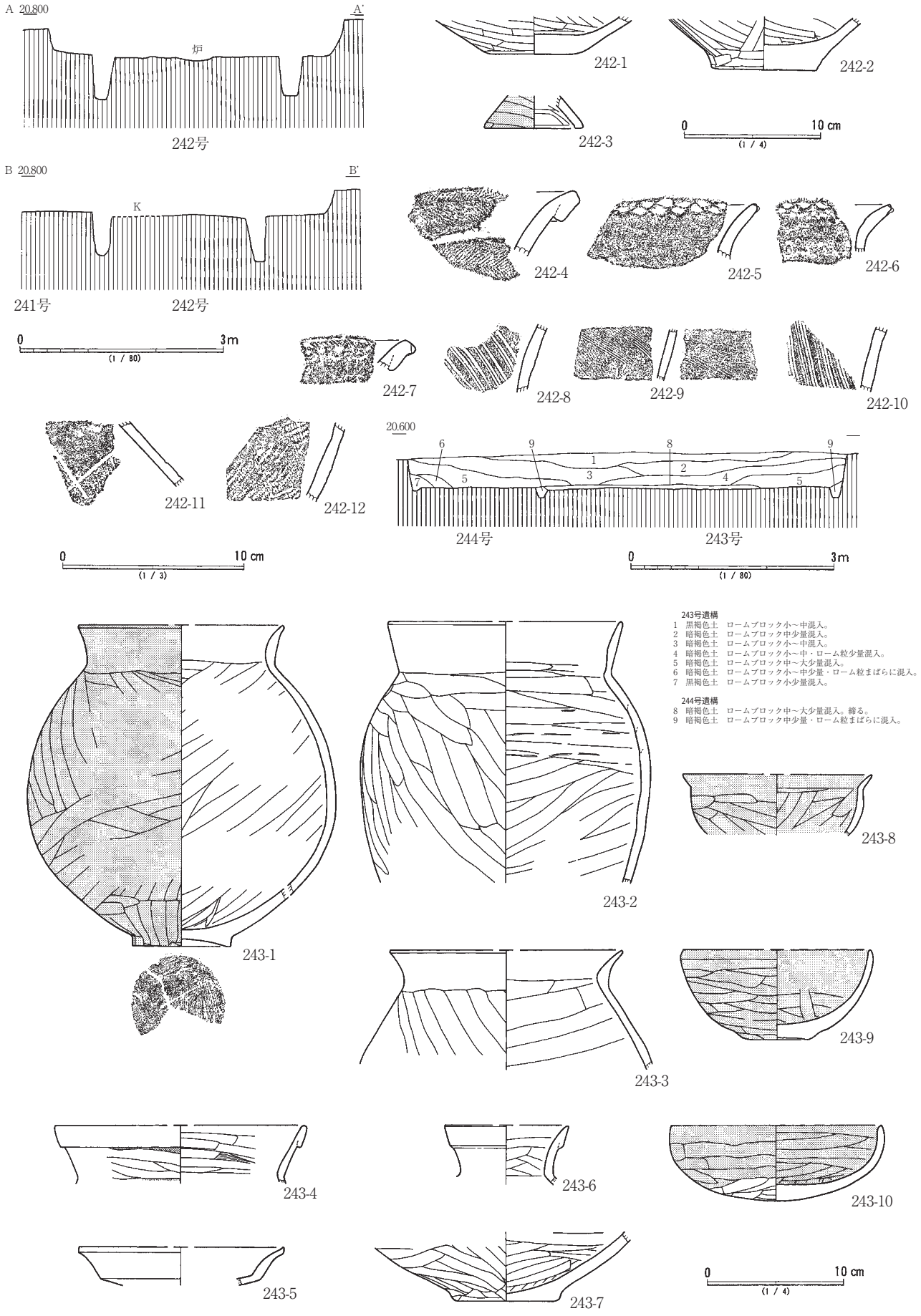
この他44×45㎝規模の貝ブロックが、貯蔵穴に入り込むような形で検出されているが、厚さの測定値は無かった。

遺物

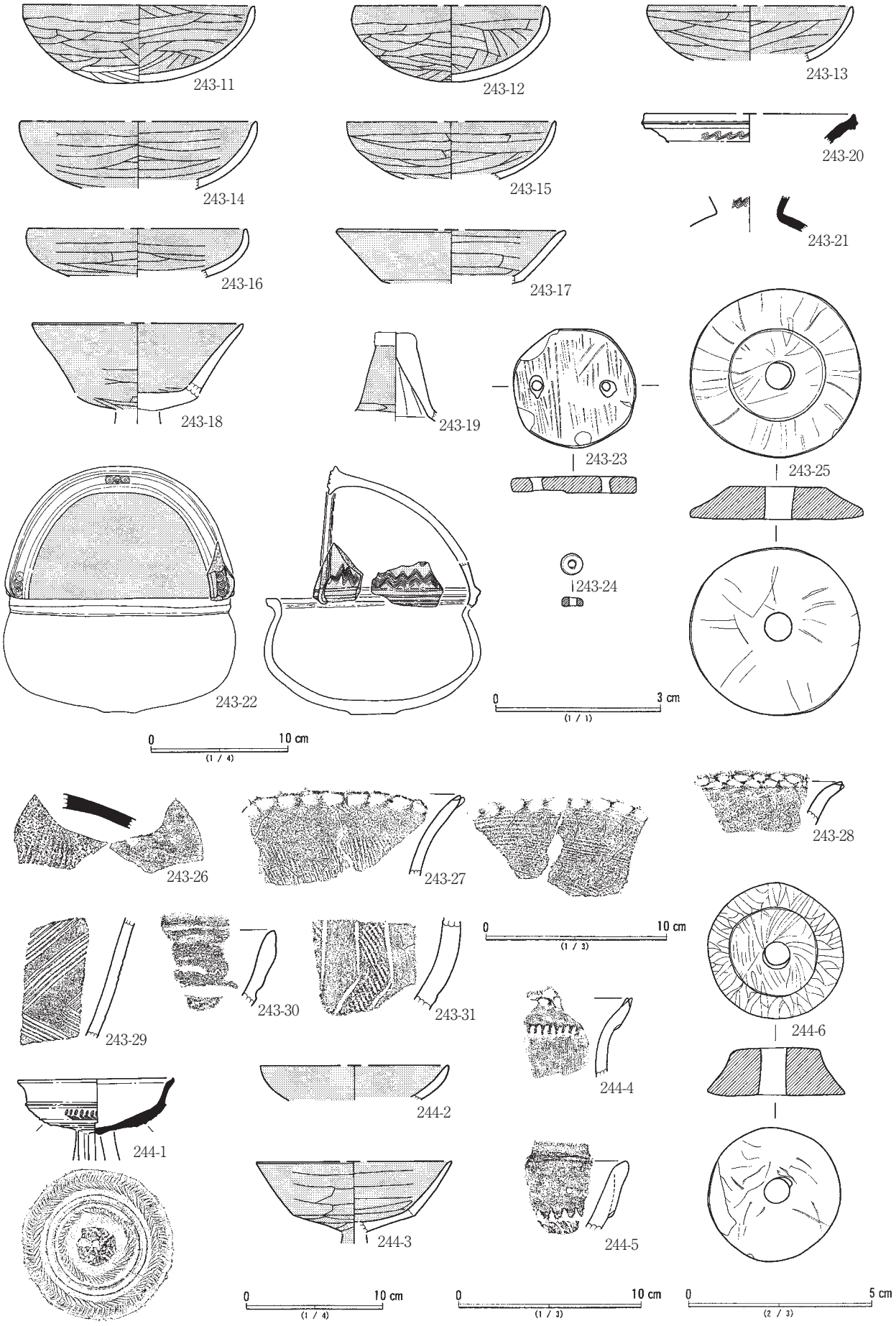
本遺構からは164点2,282gの土器片と１点25.9gの紡錘車、１点18gの布目瓦片が検出された。土器片等の内訳は、136点1,782gの土師器、１点142gの須恵器、27点358gの弥生土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

２・３・６は床直ないしは床直上、あるいはカマドで検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。１は床面から14㎝以上浮いた状態で検出されている。時期的にもTK－10型式併行期の長脚二段透かし高坏と想定され、本跡に直接伴うものではない。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

245号遺構（土坑）



第223図　242 ～ 244号遺構実測図・242・243号遺構出土遺物実測図



第224図　243・244号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号なし。244号竪穴に削平され、249号竪穴を削平する土坑である。残存長径1.52m短径2.18m、深さは40㎝前後を測り、主軸方位はN－23 °－Wを示す。底面はハードローム層中に掘り込まれ、ほぼ平坦である。

遺物

本遺構からは全く遺物が検出されなかった。

246号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号105号。244号竪穴西側に隣接し、244号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.82m短径6.44mを測り、主軸方位はN－26 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央やや南寄りに検出され、残存する火床長径1.10m短径0.58m深さ５㎝を測り、火床主軸方位はN－26 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁28㎝、西壁42㎝、南壁44㎝、北壁33㎝を測り、残存範囲で周溝は全周し、深さは５～13㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が63㎝、Ｐ２が243号床面から42㎝、本跡床面換算で61㎝を測る。Ｐ３が57㎝、Ｐ４が57㎝、Ｐ５が69㎝、Ｐ６が13㎝、Ｐ７が39㎝を測る。

遺物

本遺構からは41点2,671gの土器片と１点372gの砥石、１点91gの磨石、１点10gの有孔円盤未製品、１点10gの土製勾玉が検出された。土器片等の内訳は、14点1,537gの土師器、20点1,042gの弥生土器、２点25gのミニチュア土器、５点67gの縄文土器である。これらの出土遺物の内34点を図示した。

１～７・９・10・13・16・21・29～31は床直ないしは床直上、あるいは貯蔵穴内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

247号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号111号。244号竪穴西側に位置し、190号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径7.42m短径7.38mを測り、主軸方位はN－45 °－Wを示す。炉は中央やや西寄りに検出され、残存する火床長径0.60m短径0.68m深さ３㎝を測り、火床主軸方位はN－35 °－Wを示す。

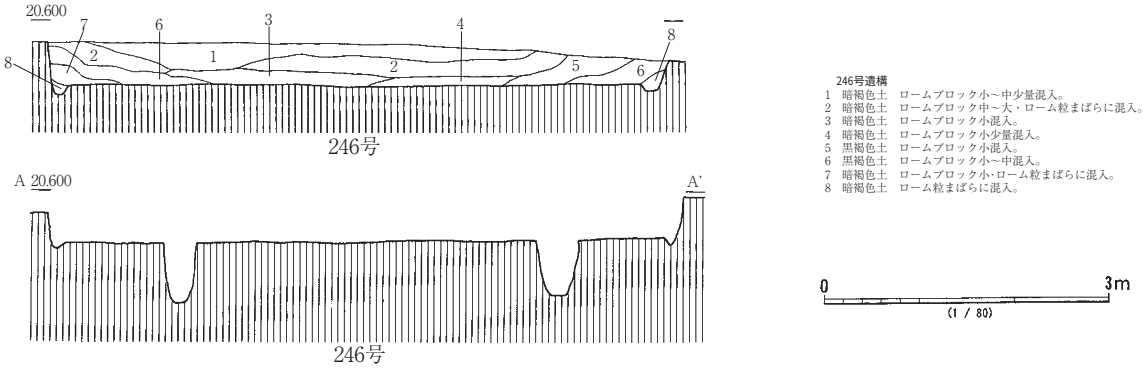
残存する壁高はそれぞれ北東壁27㎝、南東35㎝、北西35㎝、南西９㎝を測り、残存範囲で周溝は全周し、深さは９～16㎝を測る。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床であり、平坦で、全体的に硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が81㎝、Ｐ２が75㎝、Ｐ３が190号床面から41㎝、本跡床面換算で46㎝、Ｐ４は79㎝を測る。

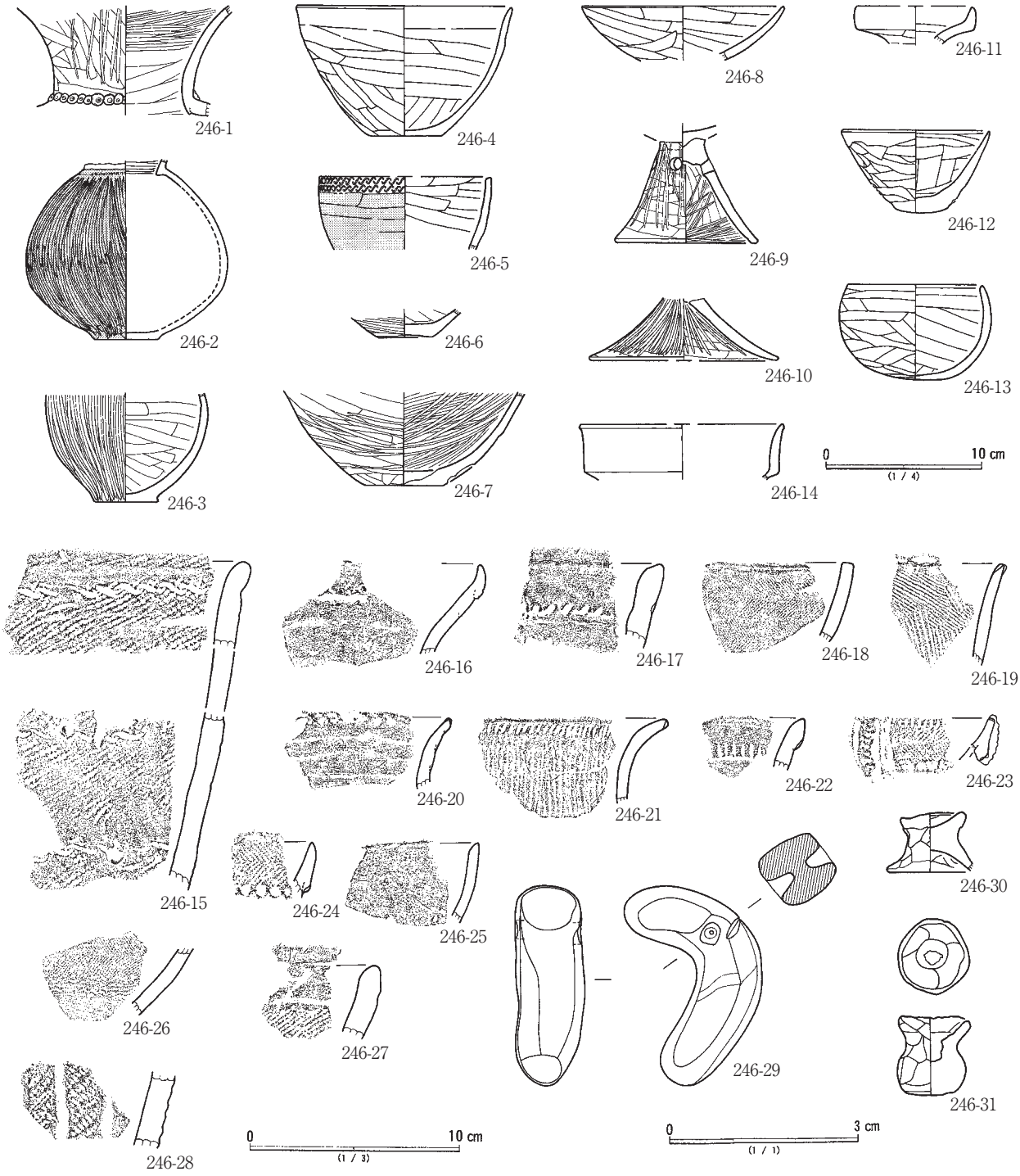
遺物

本遺構からは28点270gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、25点232gの土師器、２点16gの弥生土器、１点22gの縄文土器である。これらの出土遺物の内３点を図示したが、何れも本跡に直接伴うものではない。

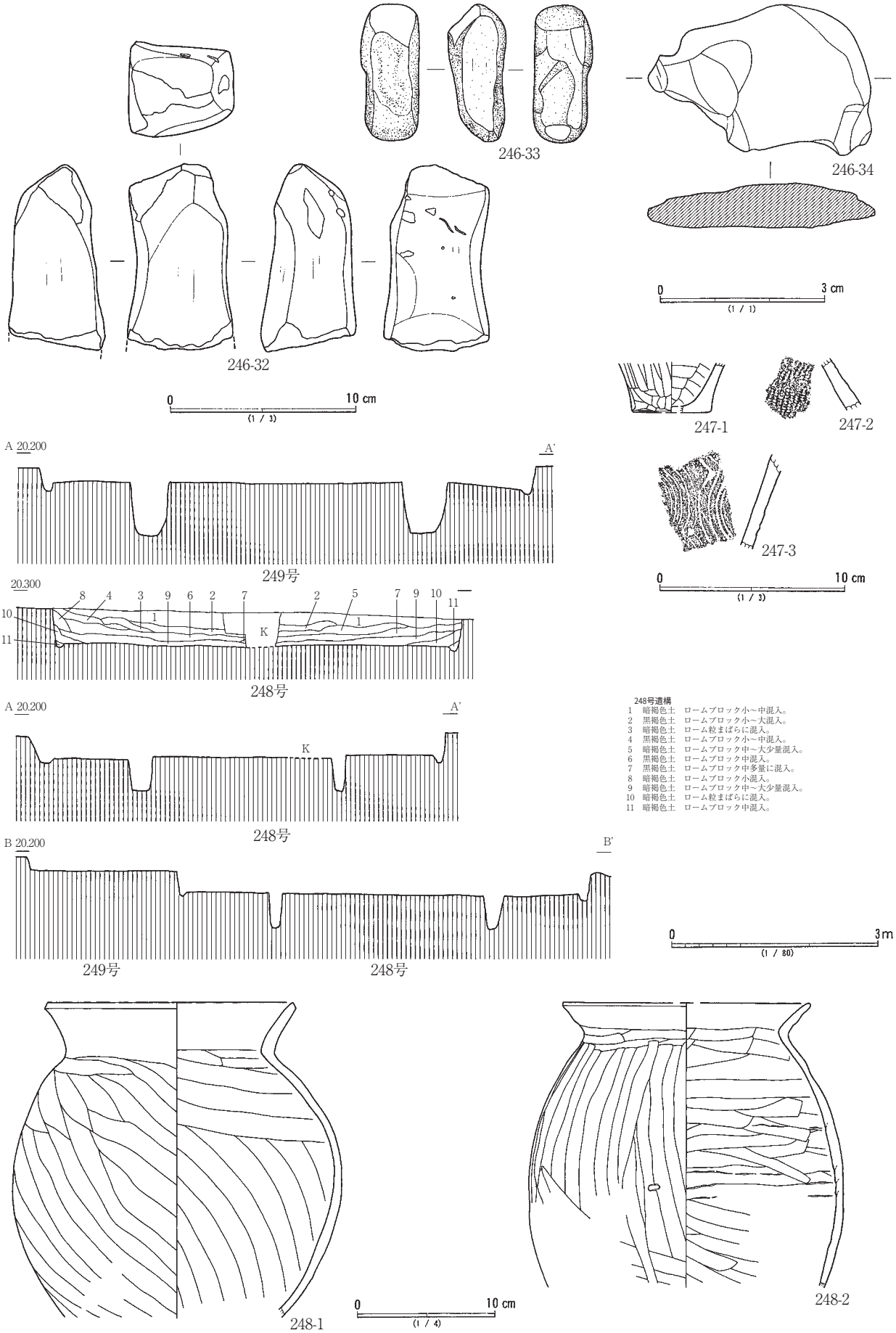
本遺構出土遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

248号遺構（竪穴住居跡）





第225図　246号遺構実測図・出土遺物実測図



第226図　248・249号遺構実測図・246 ～ 248号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号114号。244号竪穴北側に位置し、249号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径6.04m短径5.98mを測り、主軸方位はN－131°－Wを示す。カマドは南西壁中央やや南りに偏って構築され、残存する火床長径0.64m短径0.50m深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－121°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁56㎝、南東60㎝、北西45㎝、南西50㎝を測り、周溝は全周し、深さは４～10㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５・Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはP １が53㎝、Ｐ２が43㎝、Ｐ３が48㎝、Ｐ４が51㎝、Ｐ５が57㎝、Ｐ６が67㎝を測る。

遺物

本遺構からは1429点22,549gの土器片と５点788gの礫、１点13gの紡錘車、１点301gの磨石・敲石、１点37gの磨石、１点4.1gの剥片、３点0.41gの臼玉、３点85gの布目瓦片が検出された。土器片等の内訳は、661点15,461gの土師器、２点40gの須恵器、754点6,788gの弥生土器、１点30gの手づくね土器、11点230gの縄文土器である。これらの出土遺物の内41点を図示した。

１～４・６・９・13・15・16・17・18・19・35・36・38～40は床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。８・11・22・26は床面から20㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

249号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号113号。248号竪穴西側に隣接し、248号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径5.88m推定短径5.00mを測り、主軸方位はN－40°－Wを示す。炉は248号竪穴に削平され未検出である。

残存する壁高はそれぞれ南東20㎝、北西45㎝、南西18㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に硬く踏み固められている。ピットは３ヶ所に検出され、何れも主柱穴と想定される。深さはP １が86㎝、Ｐ２が82㎝、Ｐ３には測定値が記載されていなかった。

遺物

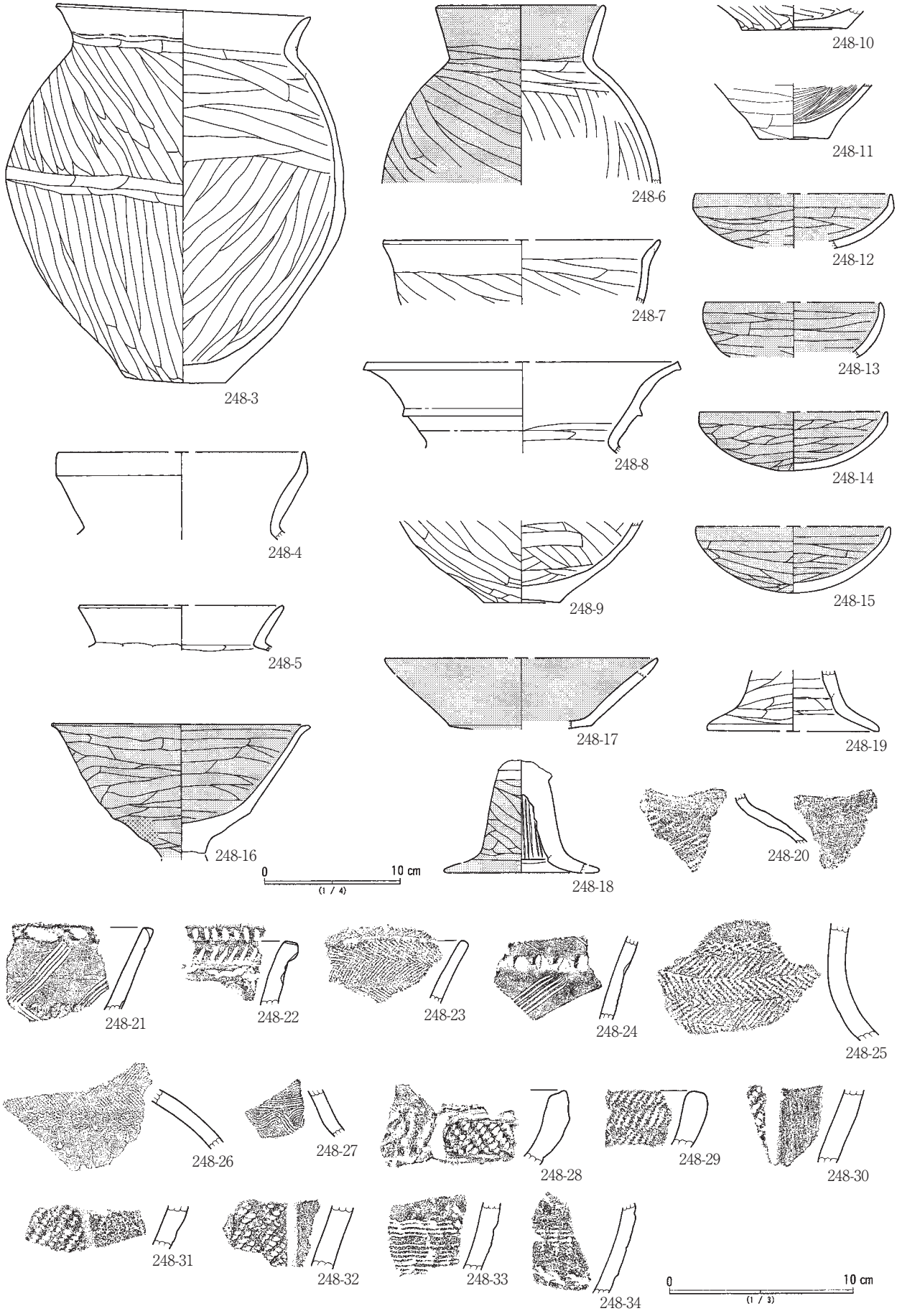
本遺構からは305点6,649gの土器片と８点955gの礫、１点42gの磨製石斧が検出された。土器片等の内訳は、81点1,147gの土師器、213点5,221gの弥生土器、11点281gの縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

１～５・８・13・16は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

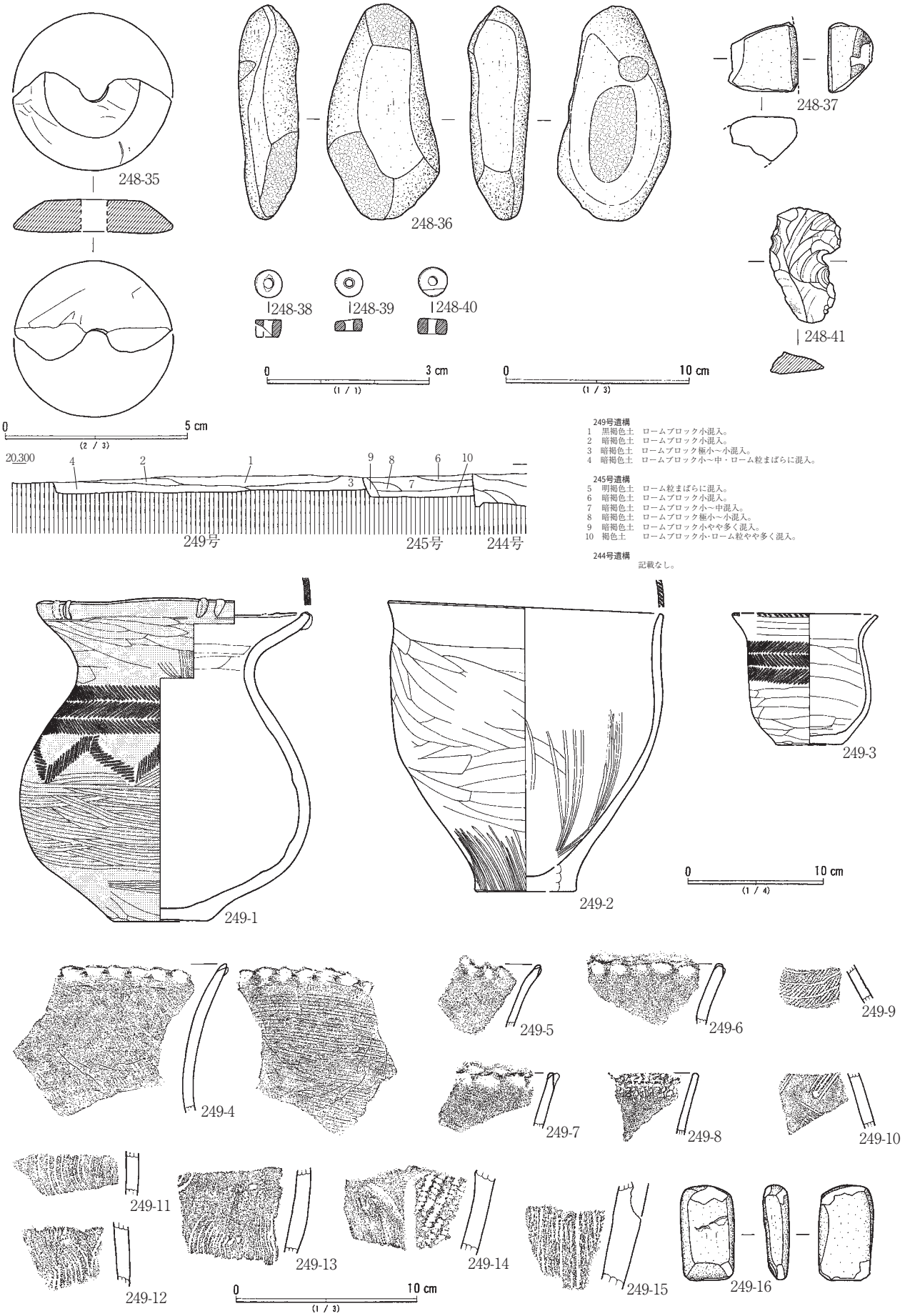
250号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑８号。248号竪穴に削平される土坑である。長径2.50m、深さは最大53㎝、平均的には30㎝前後を測り、主軸方位はN－19°－Wを示す。底面はハードローム層中に掘り込まれ、凹凸が激しい。

遺物



第227図　248号遺構出土遺物実測図



第228図　244・245・249号遺構実測図・248・249号遺構出土遺物実測図

図面・記録写真には残らないが、底面から20㎝浮いた状態で、甕を主体とする破片が散布すると調査日誌に記載される。しかし、本跡から出土したとされる遺物を確認することはできなかった。

251号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号なし。調査日誌の略図に方形周溝墓の北側に単独に存在する土坑で、平坦、遺物は土師と記載された遺構である。略図から読取れる方形周溝墓の溝からの離れ具合で、その遺構が本跡であることが確認される土坑である。250号土坑と252号竪穴の中間点に存在し、長径2.70m短径1.56m深さ25㎝前後を測り、主軸方位はN－65 °－Eを示す。

遺物

図面・記録写真には残らないが、遺物は土師とするメモが存在する。しかし、本跡から出土したとされる遺物を確認することはできなかった。

252号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号115号。251号土坑東側に位置し、単独で存在する竪穴住居跡である。長径4.55m短径4.42mを測り、主軸方位はN－58 °－Wを示す。炉は中央やや南寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.74m短径0.40m深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－62 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁25㎝、西壁23㎝、南壁24㎝、北壁24㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、比較的硬く踏み固められている。ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が47㎝、Ｐ２が42㎝、Ｐ３が68㎝を測る。

焼土は３ケ所に検出され、厚さは１㎝を測る。

遺物

本遺構からは268点3,174.6gの土器片と１点８gの礫が検出された。土器片等の内訳は、198点2,436gの土師器、１点3.6gの須恵器、62点598gの弥生土器、７点137gの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１～４・９は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。７は床面に近い位置で検出されるが時期的に本跡に伴わない。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

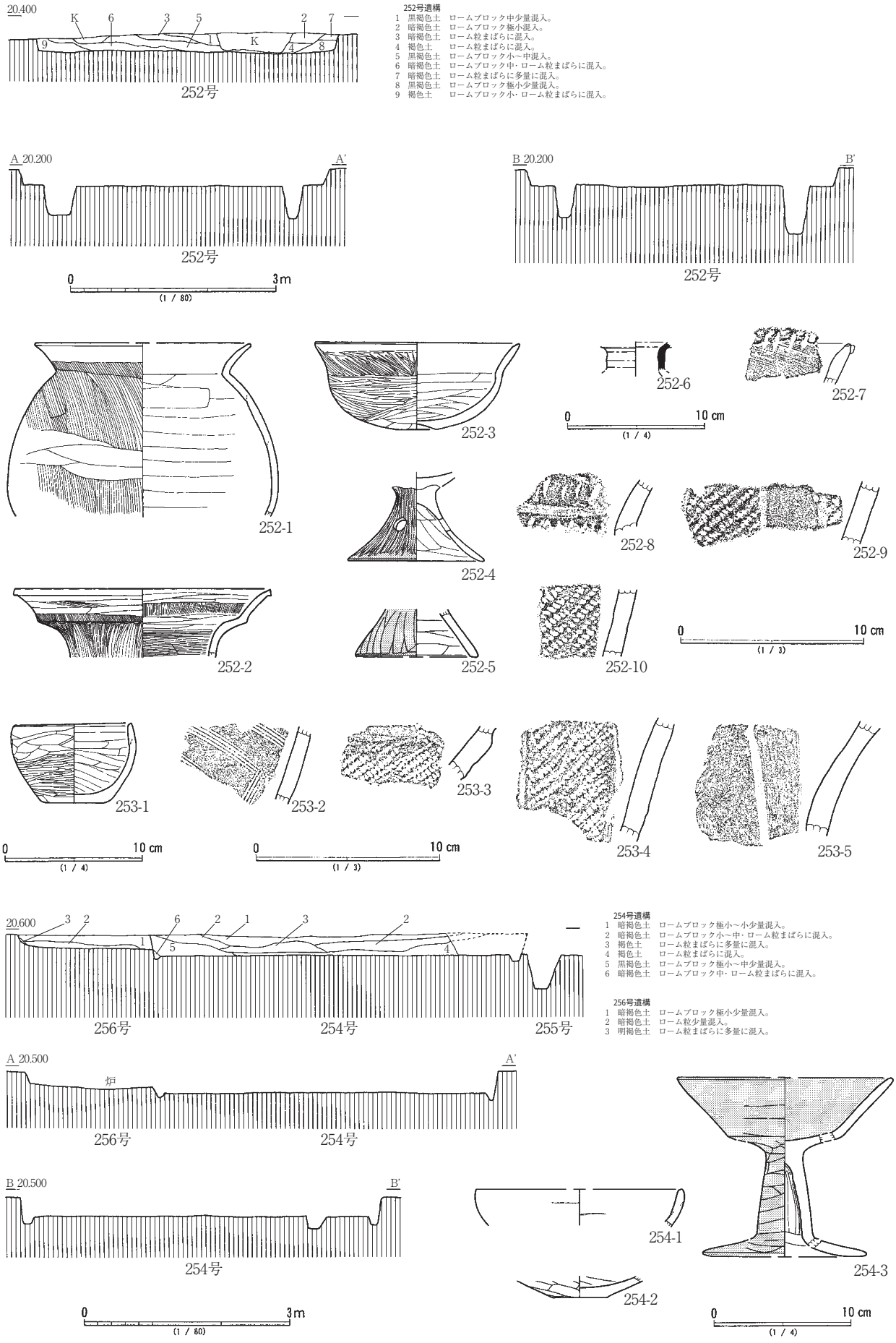
253号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号267号。252号竪穴南側に位置し、単独で存在する竪穴住居跡である。長径3.20m短径3.18mを測り、主軸方位はN－15 °－Wを示す。炉は中央やや北寄りに偏って検出され、残存する火床長径0.46m短径0.24m深さ4.5㎝を測り、火床主軸方位はN－16 °－Wを示す。

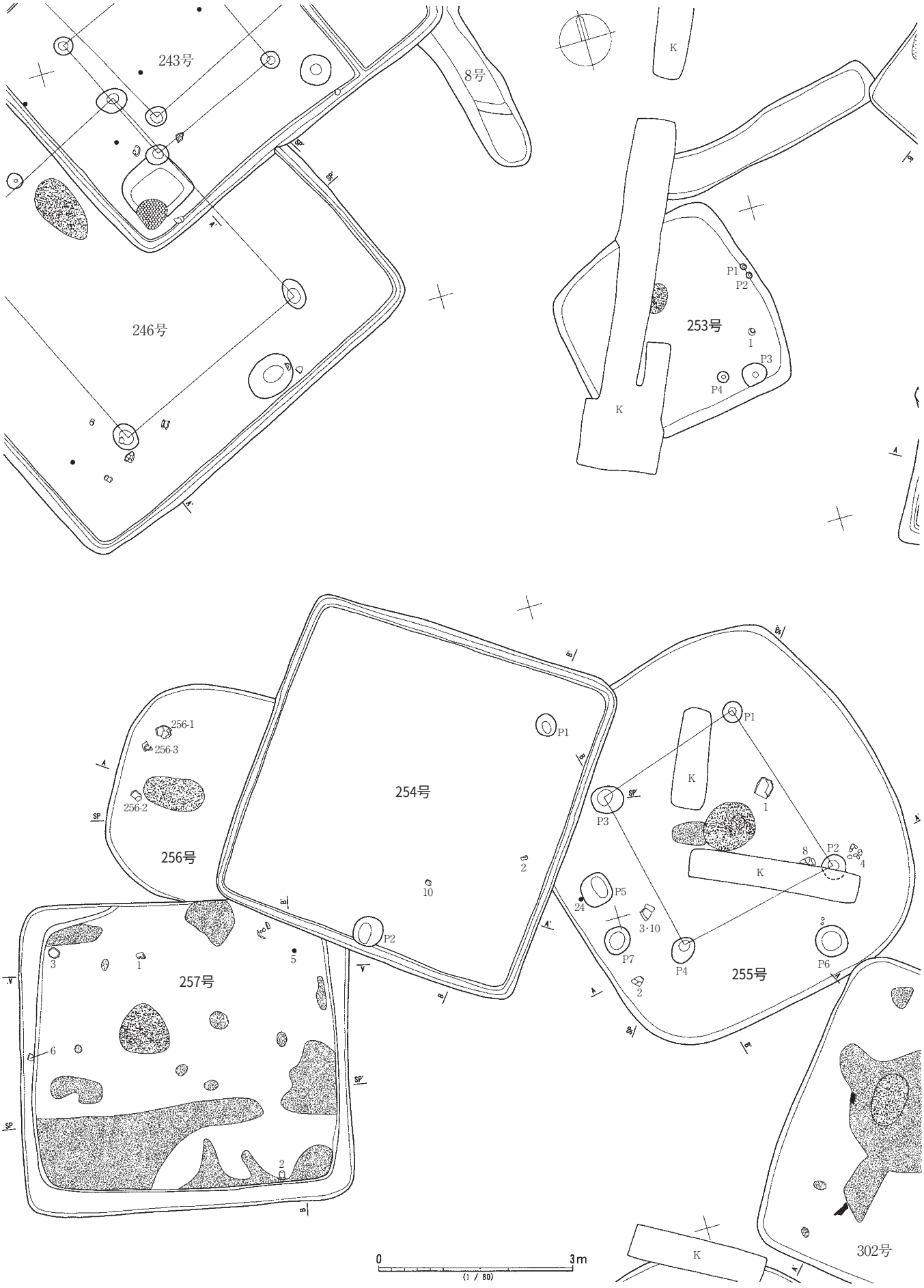
残存する壁高はそれぞれ東壁21㎝、西壁34㎝、南壁37.5㎝、北壁35.5㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム上層中に掘り込まれ、平坦であり、炉を中心とした中央部が硬く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、深さはＰ１が７㎝、Ｐ２が６㎝、Ｐ３が30㎝、Ｐ４が９㎝を測る。

遺物

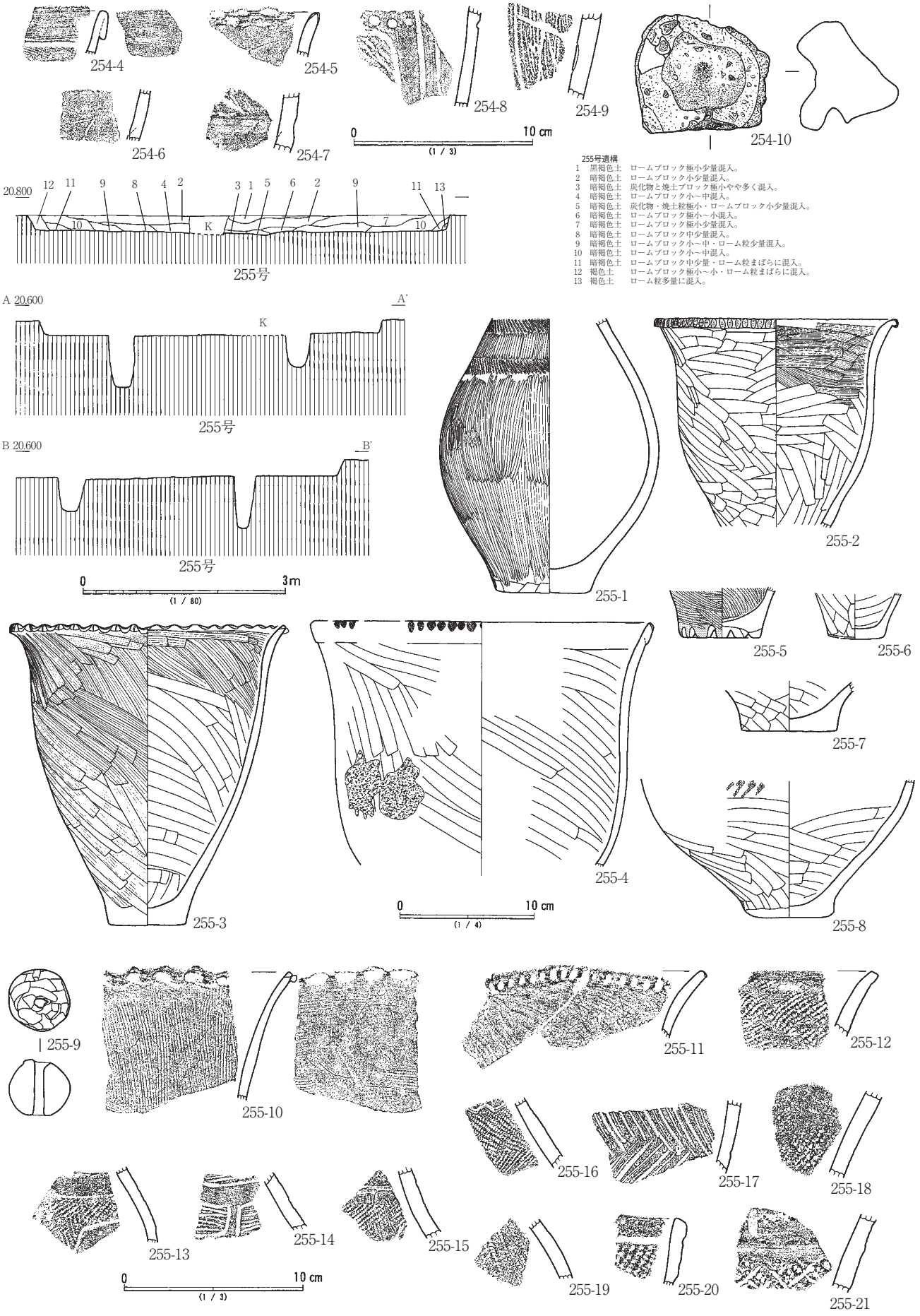
本遺構からは55点861gの土器片と１点７gの礫、２点50gの布目瓦片が検出された。土器片等の内訳は、17点270gの土師器、27点296gの弥生土器、11点295gの縄文土器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。



第229図　252・254～256号遺構実測図・252～254号遺構出土遺物実測図



第230図　253 ～ 257号遺構実測図



第231図　255号遺構実測図・254・255号遺構出土遺物実測図

１は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

254号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号94号。246号竪穴南側に位置し、255号・256号・257号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.22m短径5.04mを測り、主軸方位はN－36°－Eを示す。周囲の遺構の中で最新遺構であるにもかかわらず炉は検出されていない。調査日誌にも精査したがその痕跡が見あたらないと記されている。

残存する壁高はそれぞれ北東壁28㎝、南東壁31㎝、北西壁26㎝、南西壁28㎝を測り、周溝は全周し、深さは４～16㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれており、平坦であるが、あまり硬く踏み固められていない。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が16㎝、Ｐ２は31㎝を測る。

遺物

本遺構からは168点2,529gの土器片と３点750gの礫、１点82gの凹石が検出された。土器片等の内訳は、36点519gの土師器、127点1,945gの弥生土器、５点65gの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

２・10は、床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。遺構プランから見ても本跡の時期は、１～３の土器が示す古墳時代中期であろう。

255号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号36号。254号竪穴東側に隣接し、254号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.72m短径5.40mを測り、主軸方位はN－15°－Wを示す。炉は遺構ほぼ中央に検出され、残存する火床長径0.84m短径0.72m深さ７㎝を測り、火床主軸方位はN－79°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁25㎝、西壁22㎝、南壁24㎝、北壁20㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、炉を中心とした範囲が特に堅く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が44㎝、Ｐ２は49㎝、Ｐ３は49㎝、Ｐ４は77㎝、Ｐ５は57㎝、Ｐ６は33㎝、Ｐ７は20㎝を測る。

焼土は１ヶ所に検出され、厚さは６㎝を測る。

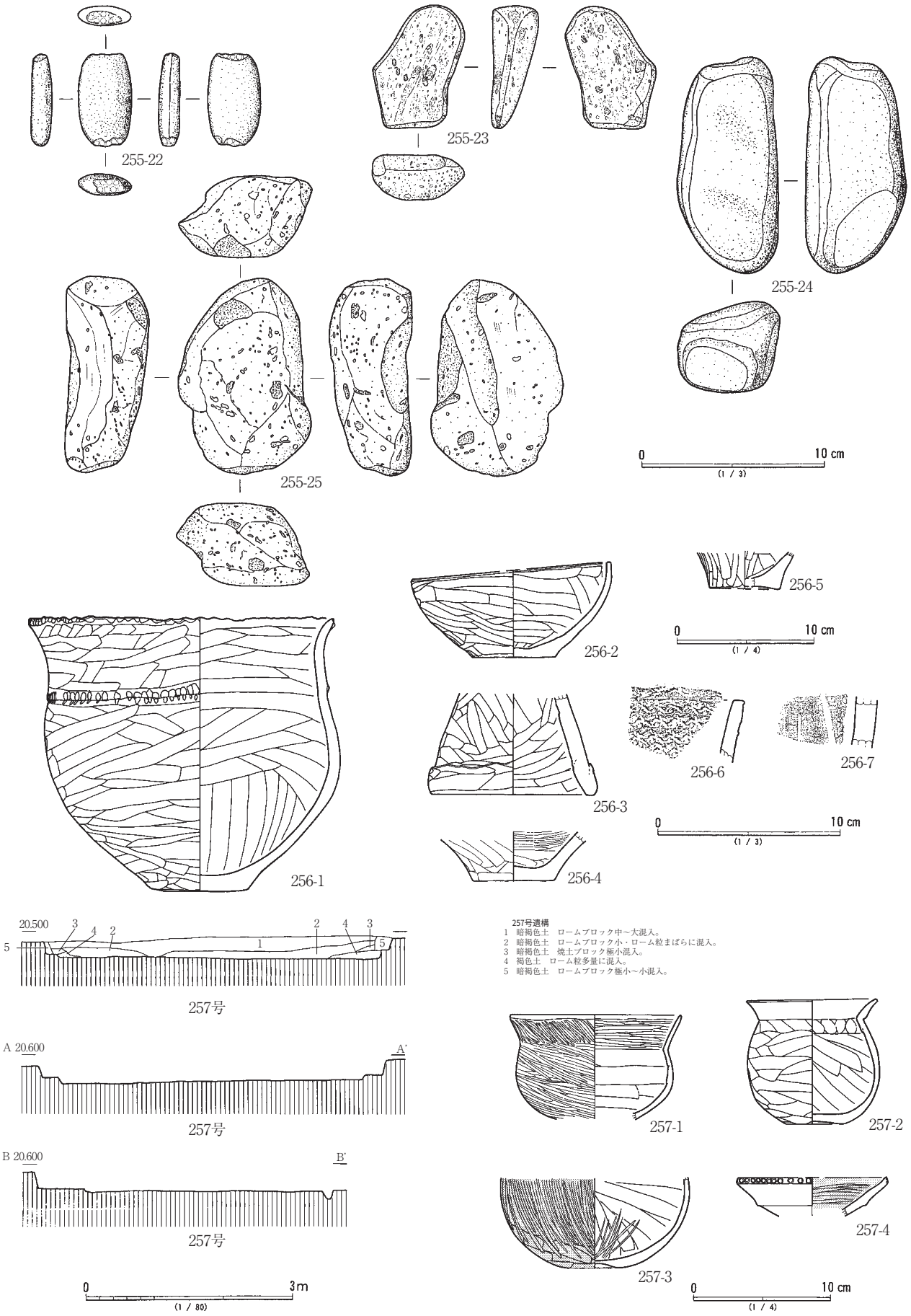
遺物

本遺構からは165点5,408gの土器片と２点40.3gの礫、４点569.7gの磨石、１点30gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、18点504gの土師器、143点4,814gの弥生土器、４点90gの縄文土器である。これらの出土遺物の内25点を図示した。

２・４・８・24は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。１・３・10は床面より18㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

256号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号93号。254号竪穴西側に隣接し、254号・257号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.40m残存短径1.94mを測り、主軸方位はN－59°－Wを示す。炉は中央西寄りに検出され、残存する火床長径0.96m短径0.50m深さ２㎝を測り、火床主軸方位はN－65°－Wを



第232図　257号遺構実測図・255 ～ 257号遺構出土遺物実測図

示す。

残存する壁高はそれぞれ西壁19㎝、南壁16㎝、北壁16㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、やや凹凸が激しく、炉を中心とした範囲が特に堅く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは76点2,767gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、２点13gの土師器、73点2,732gの弥生土器、１点22gの縄文土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

１～３は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

257号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号92号。256号竪穴南側に隣接し、254号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.10m短径4.76mを測り、主軸方位はN－77 °－Wを示す。炉は中央西寄りに検出され、残存する火床長径0.80m短径0.76m深さ３㎝を測り、火床主軸方位はN－41 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁25㎝、西壁31㎝、南壁33㎝、北壁25㎝を測り、周溝は存在しないが、床面に至るまでにベッド状遺構と呼ぶには幅が狭すぎるテラスが、幅10 ～ 30㎝高さ２～８㎝程３方に巡る。床はハードローム層中に掘り込まれ、炉を中心とした範囲が特に堅く踏み固められている。焼土は13 ヶ所に検出され厚さ１～ 18㎝を測るが、ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは156点2,255gの土器片と１点730gの支脚が検出された。土器片等の内訳は、33点896gの土師器、120点1,222gの弥生土器、３点137gの縄文土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

１～３・５・６は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

258号遺構（竪穴住居跡）

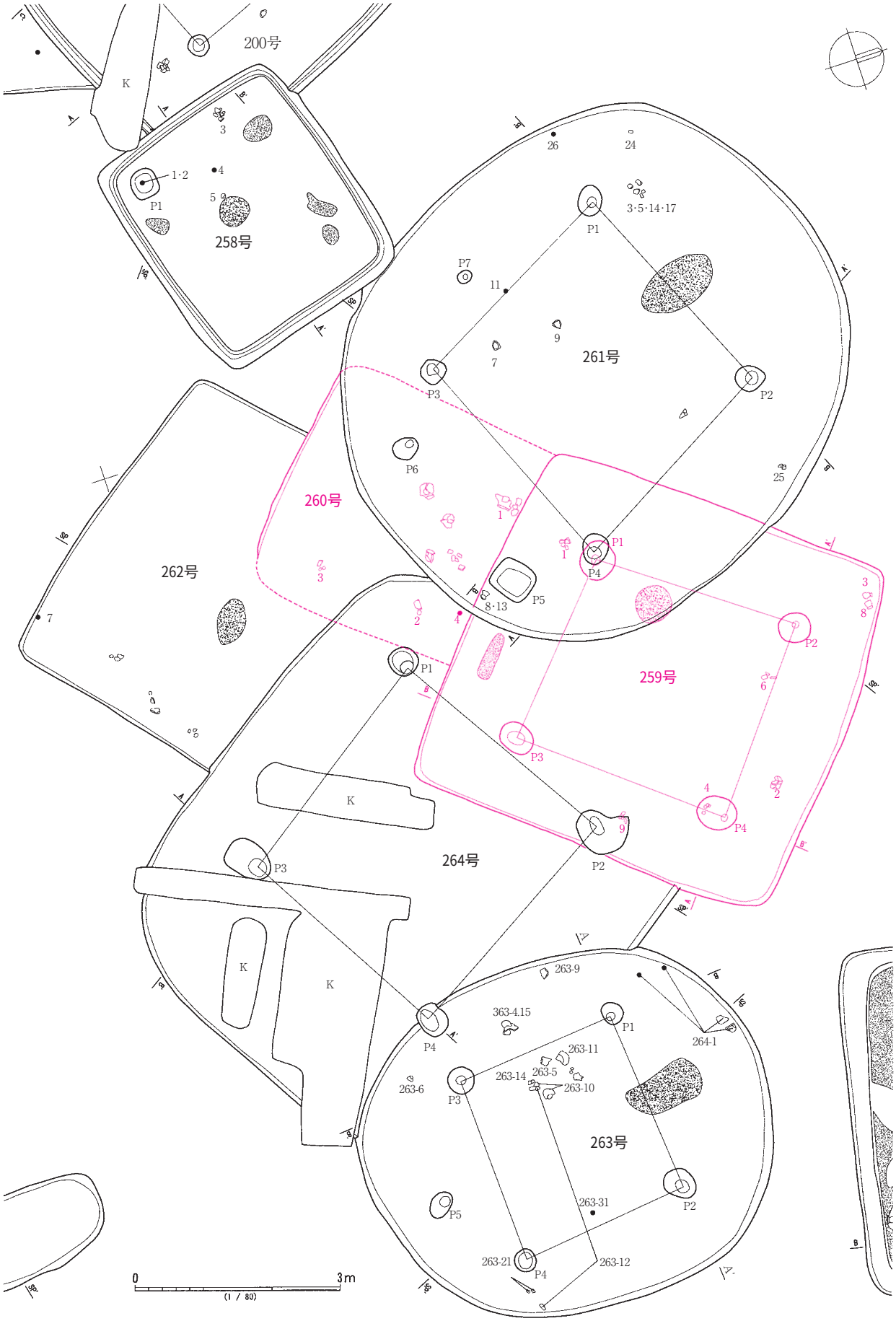
昭和53年度調査時遺構番号98号。200号竪穴東側に隣接し、200号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.64m短径3.24mを測り、主軸方位はN－107 °－Wを示す。炉は中央やや南寄りに検出され、残存する火床長径0.46m短径0.42m深さ３㎝を測り、火床主軸方位はN－108 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁55㎝、西壁53㎝、南壁51㎝、北壁47㎝を測り、周溝は全周し、深さは５～８㎝を測る。床はハードローム層中に掘り込まれ、全体的に堅く踏み固められている。ピットは１ヶ所に検出され、深さは34㎝を測る。

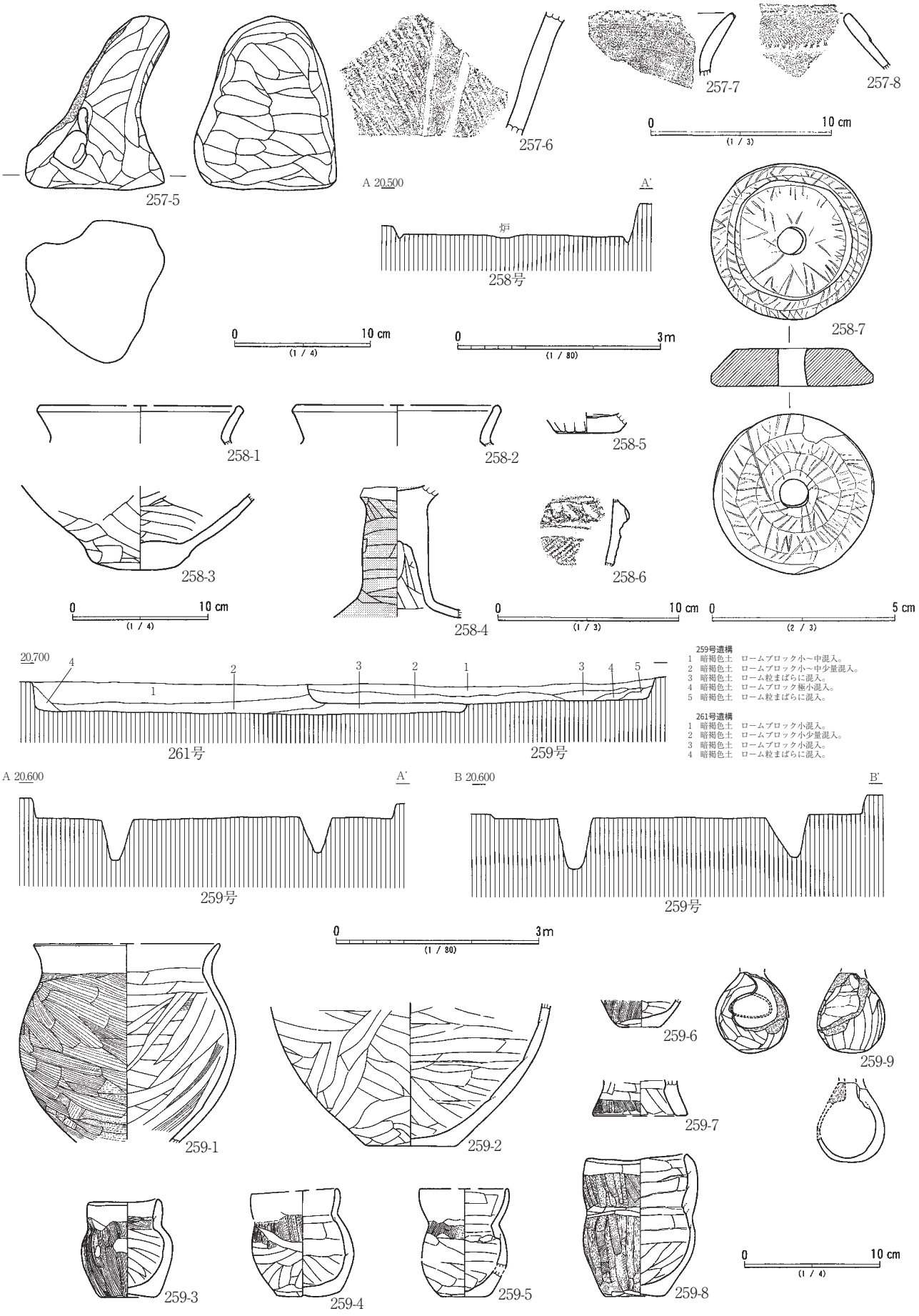
焼土は４ヶ所に検出され、厚さ７～ 12㎝を測る。

遺物

本遺構からは204点3,097gの土器片と２点85gの礫、１点34.5gの紡錘車が検出された。土器片等の内訳は、120点2,125gの土師器、83点960gの弥生土器、１点12gの縄文土器である。これらの出土遺物



第233図　258 ～ 264号遺構実測図



第234図　259・261号遺構実測図・257・258・259号遺構出土遺物実測図

の内７点を図示した。

１～５は、床直ないしは床直上、あるいはピット内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

259号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号97号。258号竪穴東側に位置し、260号・261号・264号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.76m短径5.40mを測り、主軸方位はN－50 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央ややＰ１側に寄って検出され、残存する火床長径0.56m短径0.56m深さ９㎝を測り、火床主軸方位はN－50 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁30㎝、南東壁33㎝、北西壁23㎝、南西壁６㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた厚さ10㎝の貼床であり、平坦かつ全体的に堅く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が261号竪穴床面で76㎝、本跡床面換算で82㎝を測る。Ｐ２が53㎝、Ｐ３が76㎝、Ｐ４が62㎝を測る。

焼土は１ヶ所に検出されるが、厚さの測定値がない。

遺物

本遺構からは92点2,486gの土器片と１点116gの礫が検出された。土器片等の内訳は、49点1,818gの土師器、42点588gの弥生土器、１点80gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

１・３・４・６・８・９は、床密着状態で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。２は床面より25㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

260号遺構（竪穴住居跡）

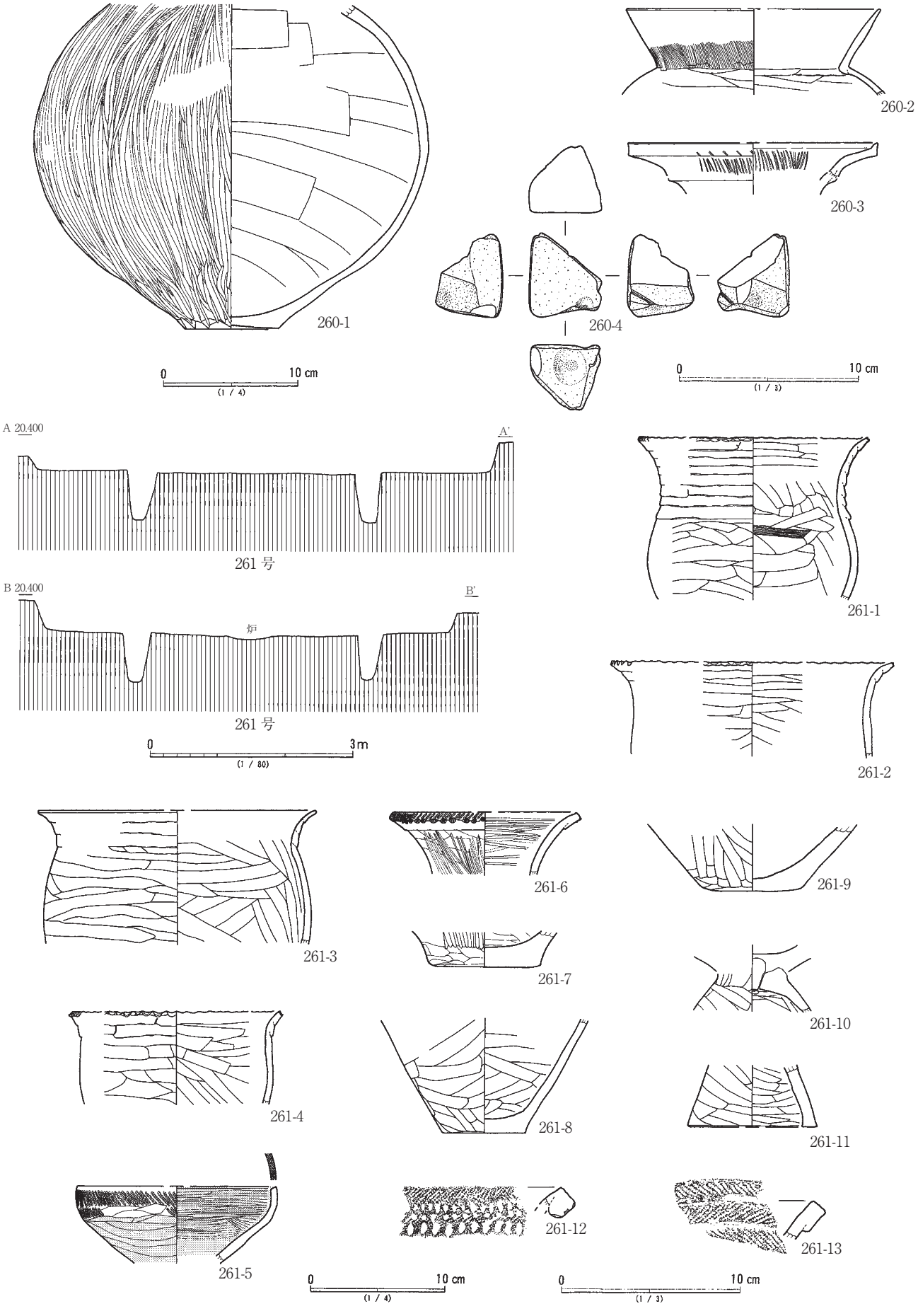
昭和53年度調査時遺構番号89B号。259号竪穴西側に隣接し、259号竪穴に削平され、261号・264号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。推定長径3.60m残存短径3.30mを測り、主軸方位はN－47 °－Wを示す。

残存する壁高は南西壁21㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ部分的に硬化面が残存するが、炉・ピット等は未検出である。本跡床面レベルで比較的大型の土師器破片が261号竪穴覆土上層の破線範囲まで及び、出土遺物量も多いことから、262号竪穴とは別の竪穴と想定される。

遺物

本遺構からは104点3,537gの土器片と21点140gの礫、１点46.4gの凹石が検出された。土器片等の内訳は、21点2,647gの土師器、82点860gの弥生土器、１点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。

１～４は、何れも床密着状態で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。



第235図　261号遺構実測図・260・261号遺構出土遺物実測図

261号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号96号。260号竪穴北側に隣接し、264号竪穴を削平し、259号・260号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径7.68m短径6.84mを測り、主軸方位はN－29°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央に検出され、残存する火床長径1.20m短径0.68m深さ13㎝を測り、火床主軸方位はN－17°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁43㎝、西壁43㎝、南壁25㎝、北壁47㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が70㎝、Ｐ２が74㎝、Ｐ３が67㎝、Ｐ４が74㎝、Ｐ５が37㎝を測る。この他Ｐ６が34㎝、Ｐ７が24㎝を測る。

遺物

本遺構からは732点9,380gの土器片と９点100gの礫、１点174.4gの磨石、１点421gの磨石・凹石、１点53.0gの板状鉄斧が検出された。土器片等の内訳は、131点2,036gの土師器、597点7,286gの弥生土器、４点58gの縄文土器である。これらの出土遺物の内26点を図示した。

３・５・７・９・11・14・17・24は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。８・13・25・26は床面より11㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

24の板状鉄斧は袋の中で剥離・粉砕しながらも、地金の遺存が良かったところが、奇跡的に残存したものである。

262号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号89A号。261号竪穴南に隣接し、264号竪穴を削平し、260号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.96m残存短径3.66mを測り、主軸方位はN－35°－Wを示す。炉は中央やや南よりに検出され、残存する火床長径0.70m短径0.42mを測り、火床主軸方位はN－54°－Wを示すが深さの記録がない。。

残存する壁高はそれぞれ南東壁12㎝、北西壁７㎝、南西壁６㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、あまり堅く踏み固められていない。ピットは未検出である。

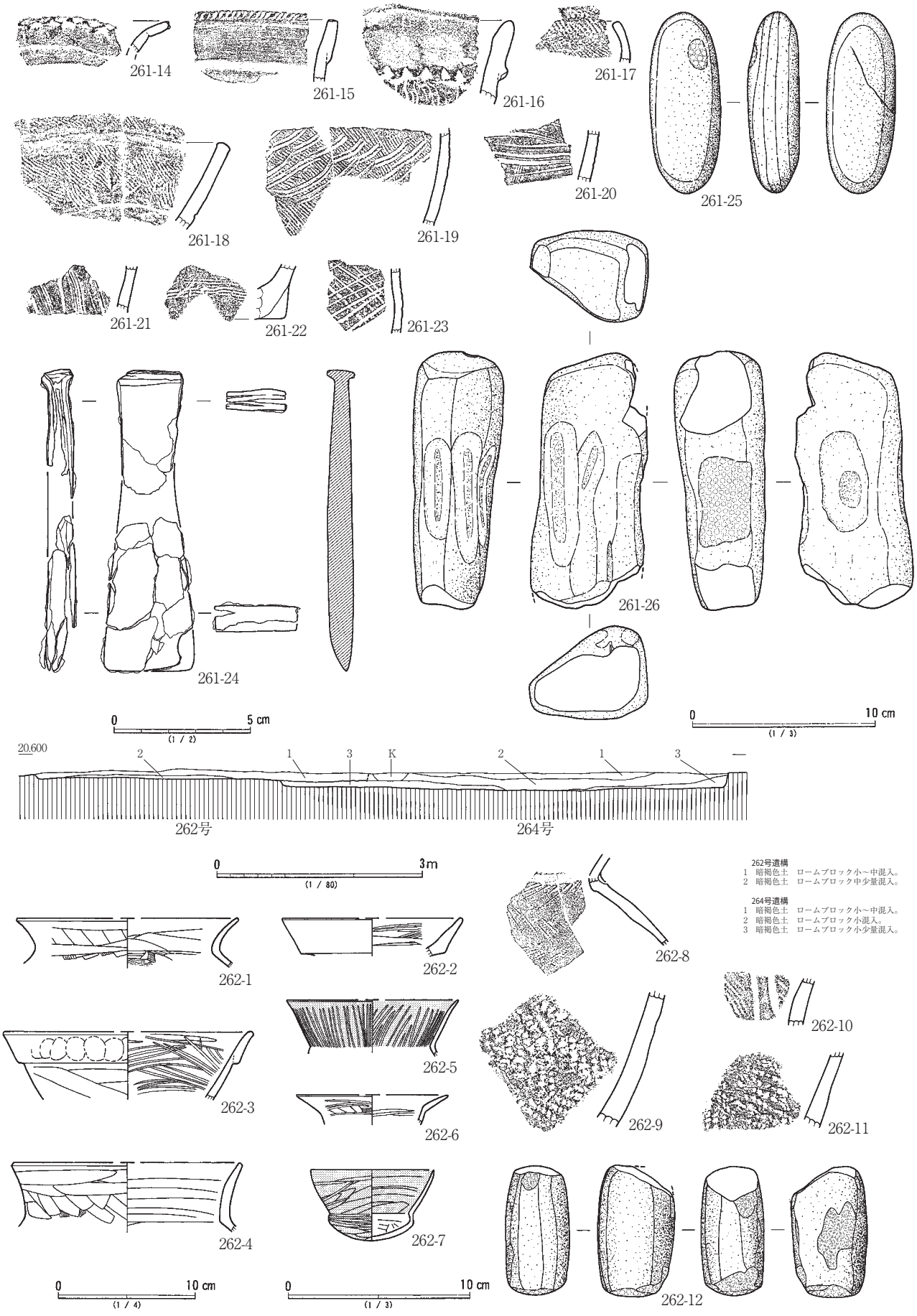
遺物

本遺構からは598点5,377gの土器片と１点176gの磨石・敲石が検出された。土器片等の内訳は、408点3,580gの土師器、184点1,647gの弥生土器、６点150gの縄文土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

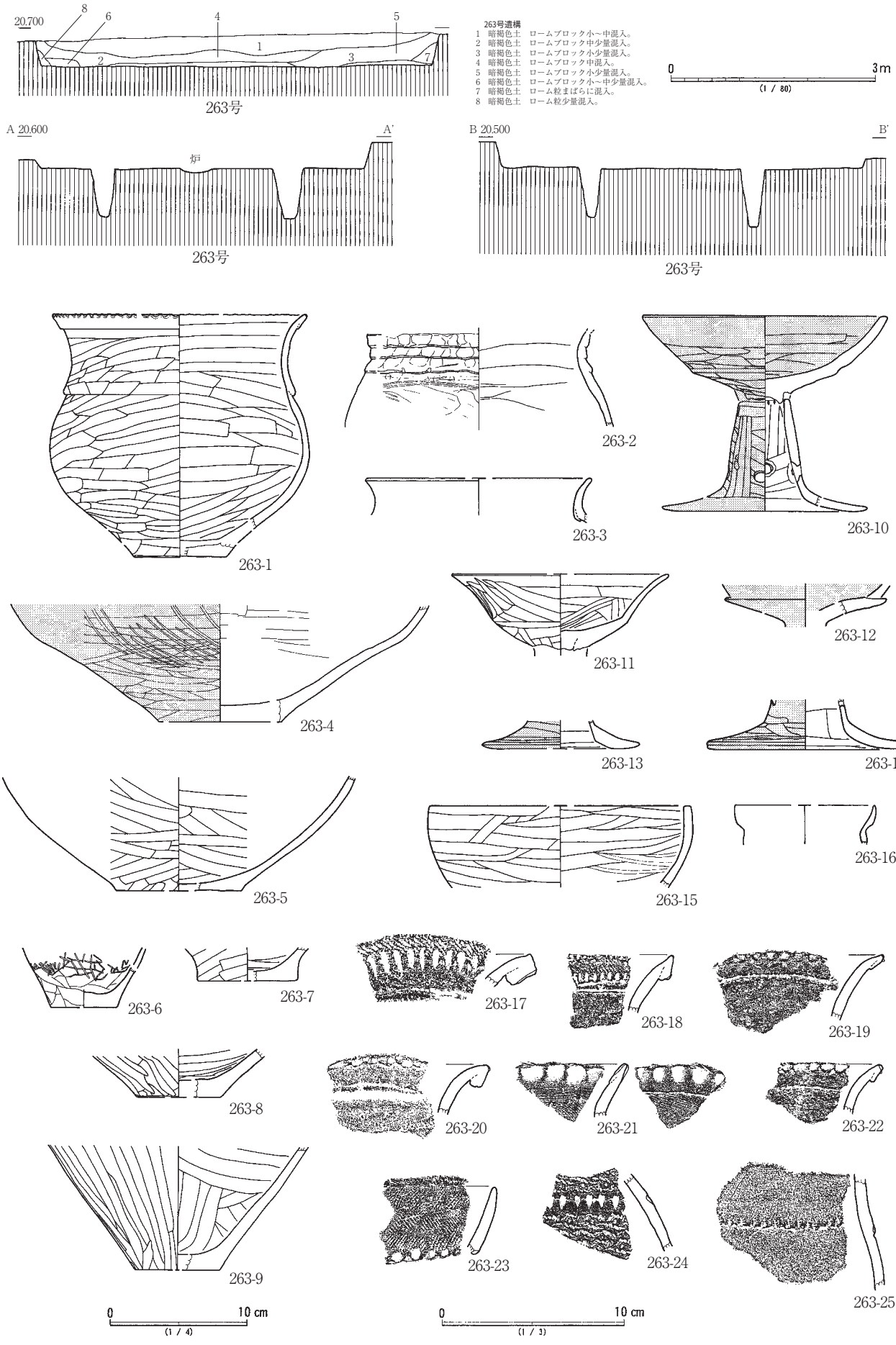
７は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

263号遺構（竪穴住居跡）

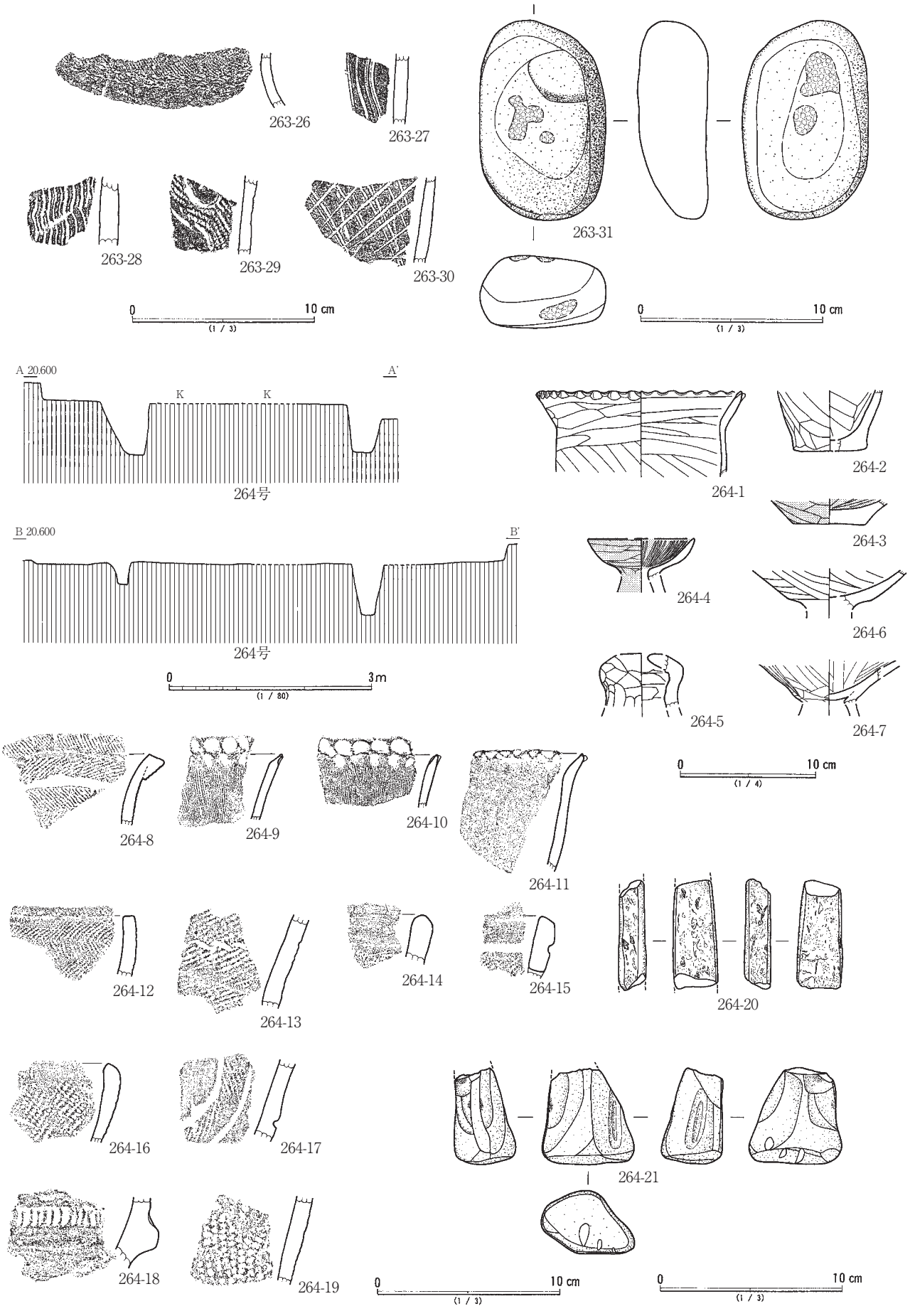
昭和53年度調査時遺構番号91号。262号竪穴東側に存在し、264号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径6.02m短径5.16mを測り、主軸方位はN－６°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間中央に検出され、残存する火床長径1.06m短径0.60m深さ５㎝を測り、火床主軸方位はN－14°－Wを示す。



第236図　262・264号遺構実測図・261・262号遺構出土遺物実測図



第237図　263号遺構実測図・出土遺物実測図



第238図　264号遺構実測図・263・264号遺構出土遺物実測図

残存する壁高はそれぞれ東壁48㎝、西壁23㎝、南壁53㎝、北壁37㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が71㎝、Ｐ２が73㎝、Ｐ３が78㎝、Ｐ４が69㎝、Ｐ５が27㎝を測る。

遺物

本遺構からは879点12,121gの土器片と１点40gの礫、１点490gの磨石・敲石が検出された。土器片等の内訳は、180点3,050gの土師器、696点8,911gの弥生土器、３点160gの縄文土器である。これらの出土遺物の内31点を図示した。

１・４・９・15・26は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。５・６・10～12・14・31は床面より22㎝以上浮いた状態で検出されている。和泉式期の高坏類は、何れも床面から30㎝浮いた状態で検出されており、本跡に直接伴うものではない。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

264号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号90号。263号竪穴西側に存在し、259号・260号・261号・262号・263号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径8.10m短径6.52mを測り、主軸方位はN－33°－Wを示す。炉は259号竪穴に削平され検出されていない。

残存する壁高はそれぞれ北東壁22㎝、南東壁28㎝、北西壁４㎝、南西壁25㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が42㎝、Ｐ２が259号竪穴床面から71㎝、本跡床面換算で77㎝を測る。Ｐ３が77㎝、Ｐ４が68㎝を測る。

遺物

本遺構からは698点7,504gの土器片と７点320gの礫、２点83.2gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、154点2,128gの土師器、529点5,064gの弥生土器、15点312gの縄文土器である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

本跡出土遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

265号遺構（土坑）

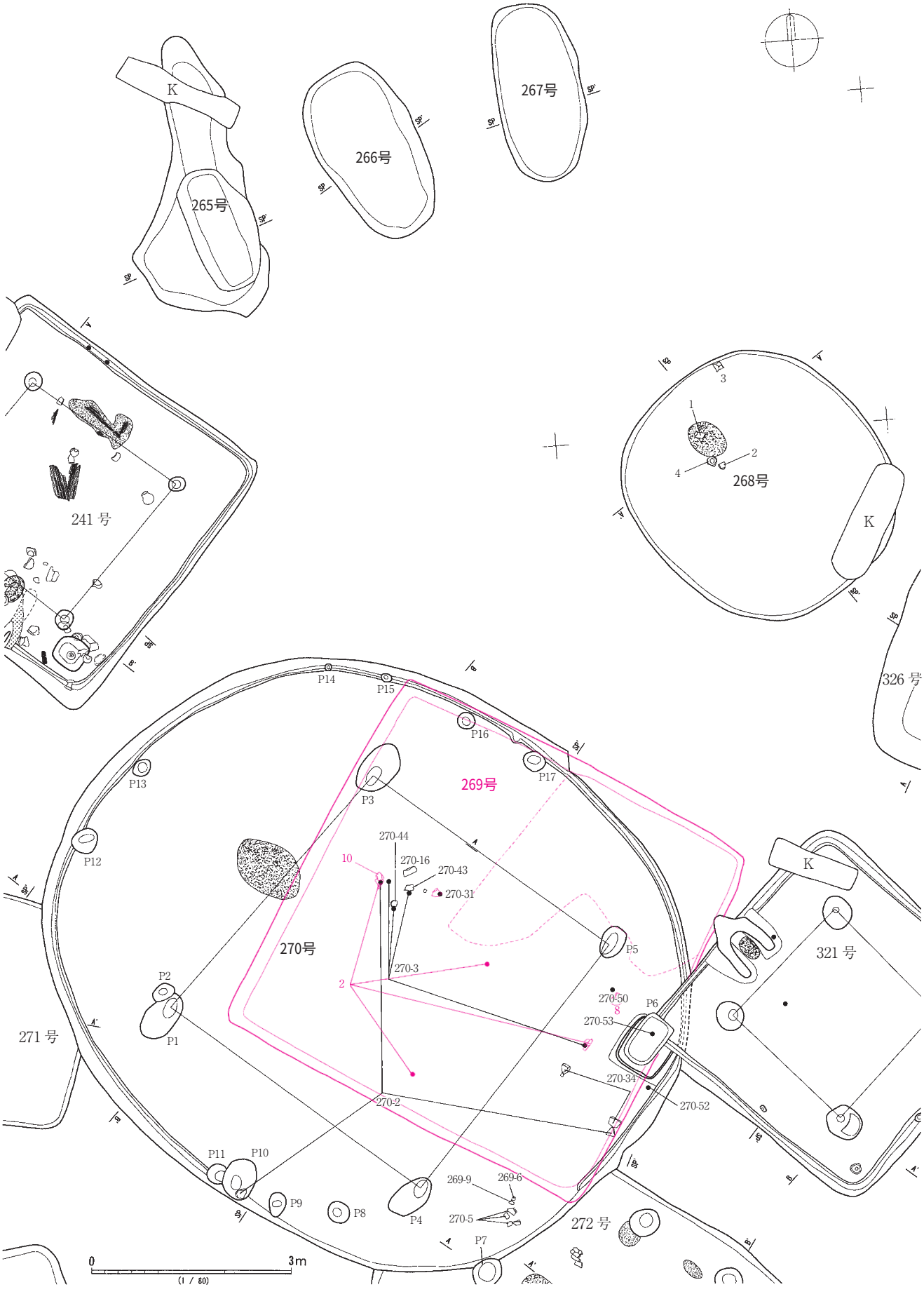
昭和53年度調査時遺構番号土坑４号。264号竪穴の南側、241号竪穴の北東に位置し、単独で存在する土坑である。長径4.38m短径1.22m深さ27㎝前後の不整形な落ち込みの中に長径1.88m短径1.00m深さ22㎝前後で底面平坦な長方形土坑が存在し、長方形土坑の主軸方位はN－17°－Wを示す。東側に隣接する266号土坑から管玉が出土したとされており、土壙墓的性格の土坑と想定される。

遺物

本跡から遺物は全く検出されなかった。

266号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑５号。265号土坑の東に存在し、単独で存在する土坑である。長径2.72m短径1.48m深さ13㎝前後を測り、主軸方位はN－24°－Wを示す。底面平坦な長方形土坑である。



第239図　265 ～ 270号遺構実測図

遺物

本跡からは管玉が出土したと調査日誌に記載されるが、現在行方不明である。遺跡一括遺物の中に管玉１点が存在するが、本跡出土管玉かどうかは不明である。これ以外の遺物は、全く検出されなかった。

267号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑６号。266号土坑の東に存在し、単独で存在する土坑である。長径2.72m短径1.28m深さ22㎝前後を測り、主軸方位はN－５°－Wを示す。底面平坦な長方形土坑である。

遺物

本跡から遺物は全く検出されなかった。

268号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号52号。267号土坑南に単独で存在する竪穴住居跡である。長径4.02m短径3.72mを測り、主軸方位はN－41°－Wを示す。炉は中央北寄りに検出され、残存する火床長径0.64m短径0.46m深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－50°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁26㎝、南東壁32㎝、北西壁26㎝、南西壁40㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは43点967gの土器片と２点200gの礫が検出された。土器片等の内訳は、１点100gの土師器、37点742gの弥生土器、５点125gの縄文土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。

１～４は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

269号遺構（竪穴住居跡）

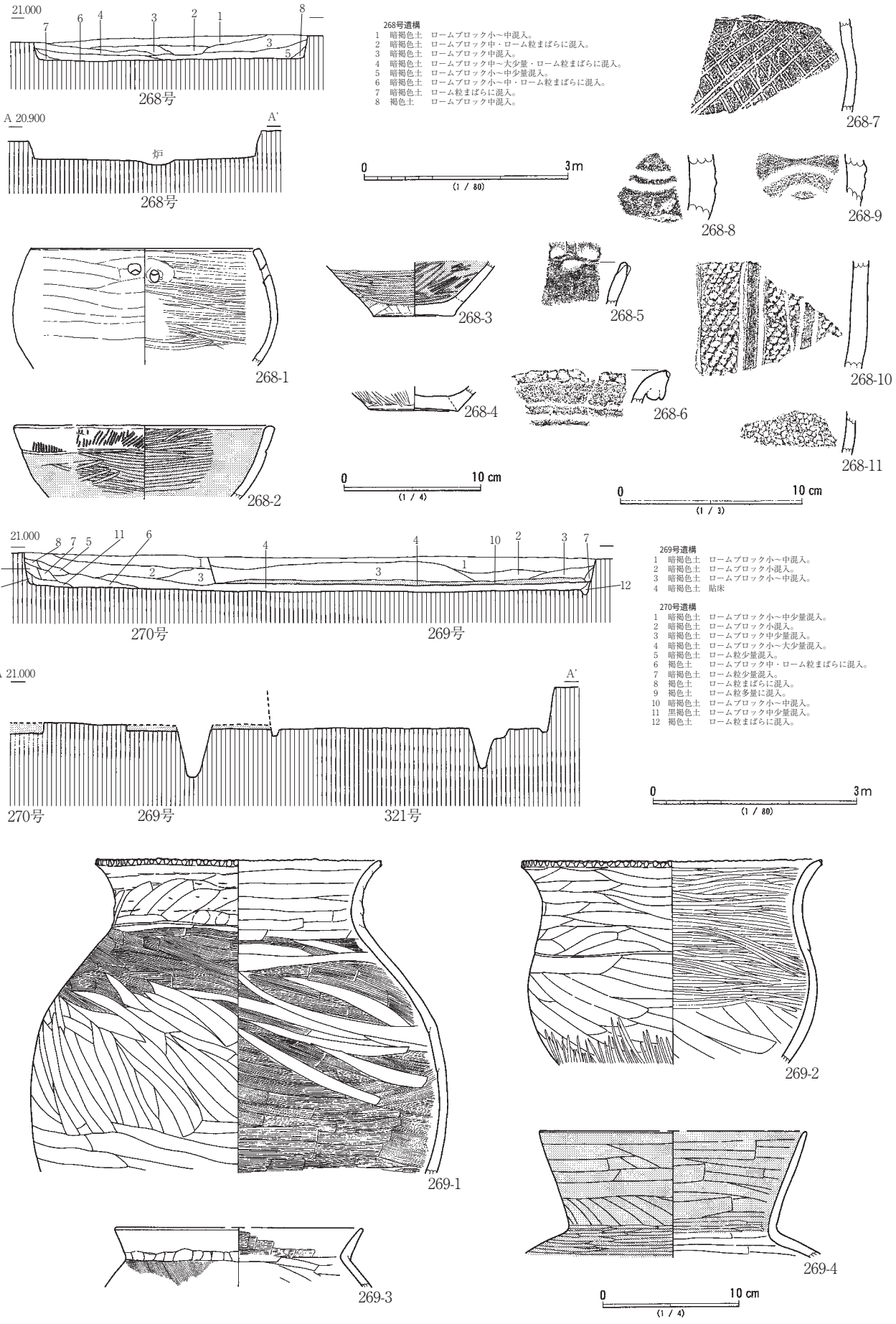
昭和53年度調査時遺構番号59号。268号竪穴南西に位置し、270号竪穴を削平し、321号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。270号竪穴を調査中に、第239図に破線で示した範囲に床面を検出し、はじめてその存在に気づいた遺構であり、結果的に新旧逆調査となってしまっている。推定長径6.00m短径6.00mを測り、主軸方位はN－32°－Wを示す。炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ北東壁36㎝、南東壁37㎝を測り、重複を見なかった範囲に周溝が検出されなかったことから、周溝は存在しないものと想定される。床面はハードローム層中に掘り込まれ、270号竪穴覆土中に厚さ15㎝の貼床を貼り、平坦かつ全体的に堅く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

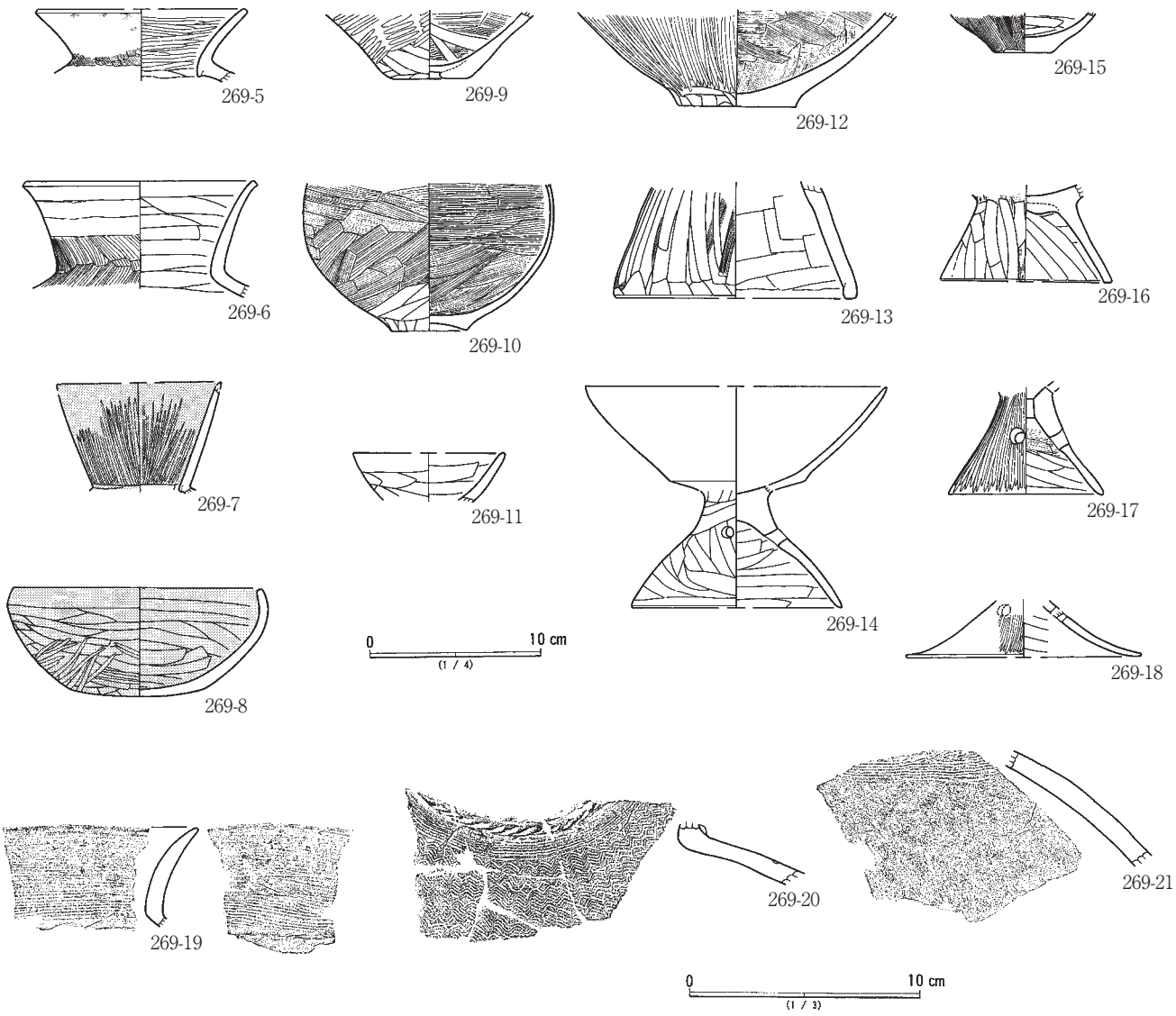
遺物

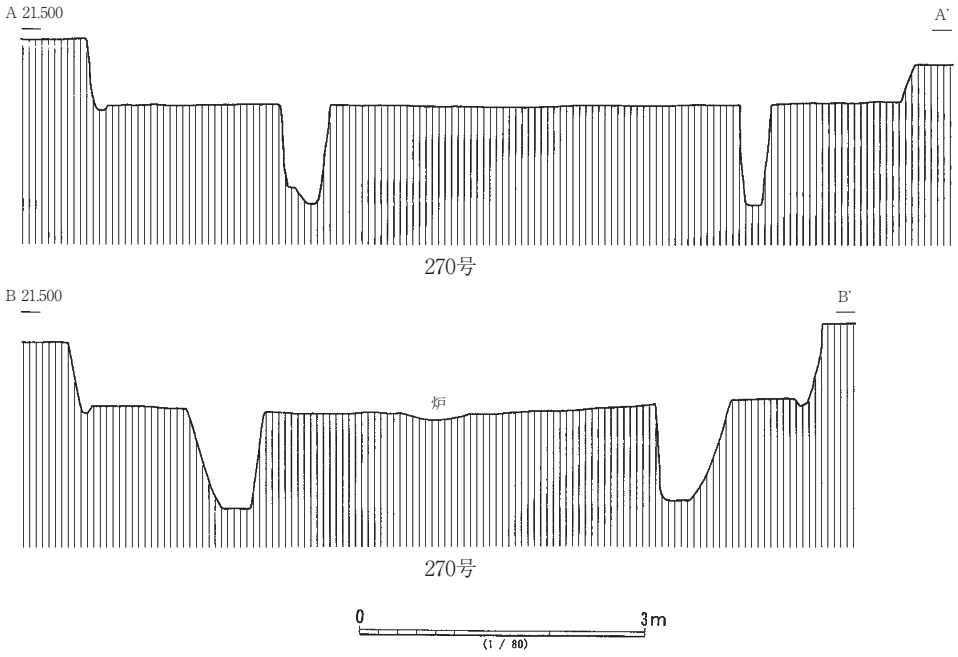
本遺構からは255点8,376gの土器片と１点32gの礫、１点2.00gの有孔円盤未製品、５点50gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、127点3,679gの土師器、２点７gの須恵器、122点4,660gの弥生土器、４点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

６・９～10は床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。８は床直で検出されているが、時期的に本跡に伴うものではない。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

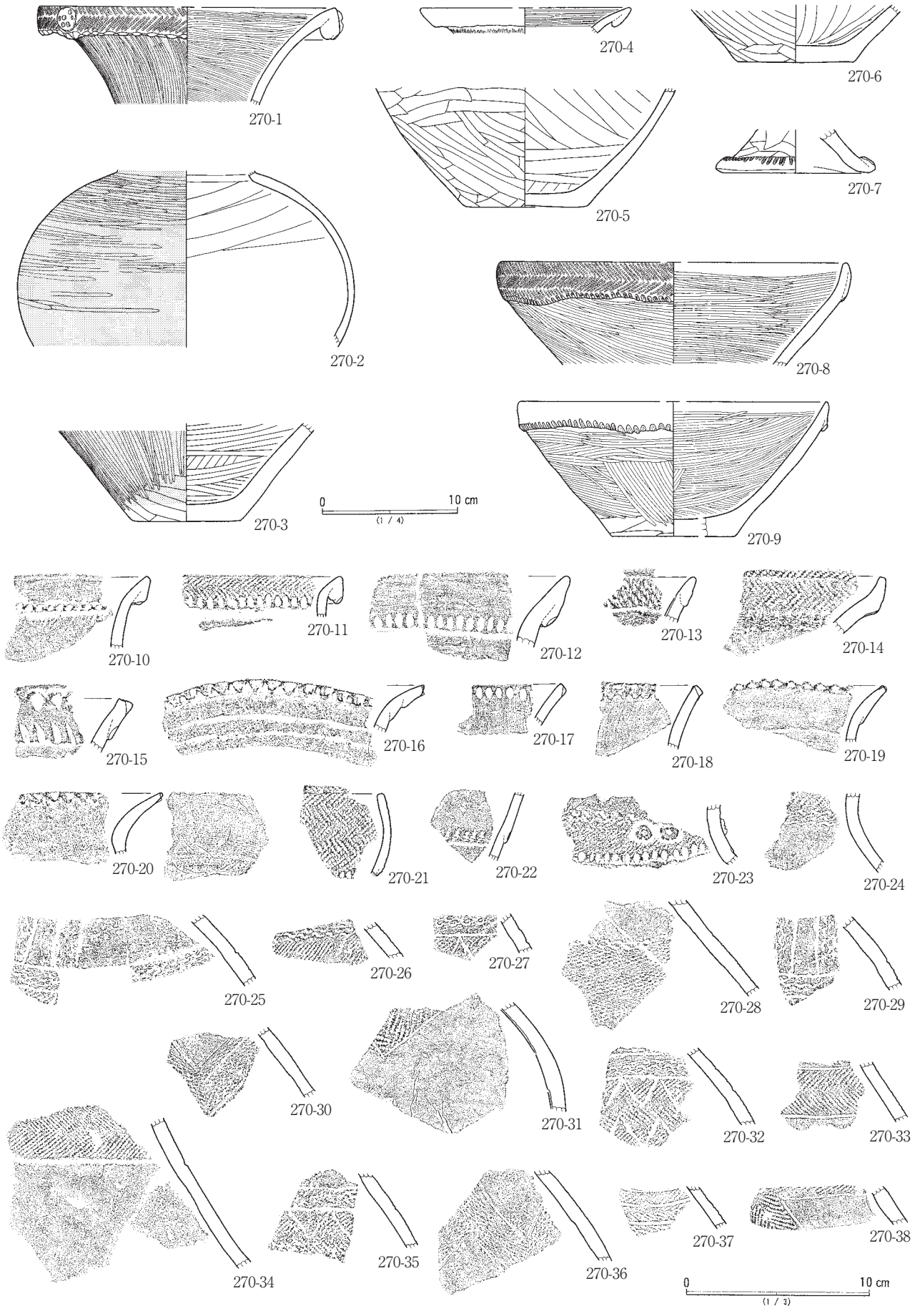


第240図　268 ～ 270・321号遺構実測図・268・269号遺構出土遺物実測図





第241図　270号遺構実測図・269号遺構出土遺物実測図



第242図　270号遺構出土遺物実測図

270号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号58号。269号竪穴直下に位置し、272号竪穴を削平し、269号・321号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径9.75m短径8.50mを測り、主軸方位はN－50 °－Wを示す。炉はP １・P ２間中央に検出され、残存する火床長径1.14m短径0.76m深さ５㎝を測り、火床主軸方位はN－46 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁44㎝、南東壁52㎝、北西壁47㎝、南西壁53㎝を測り、一部を除いて周溝が残存し、深さは４～８㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは17ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴、Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはP １が71㎝、Ｐ２は57㎝、Ｐ３は71㎝、Ｐ４は70㎝、Ｐ５は68㎝を測る。Ｐ６は49㎝、Ｐ７は26㎝、Ｐ８は24㎝、Ｐ９は20㎝、P10は49㎝、P11は12㎝、P12は19㎝、P13は32㎝、P14は４㎝、P15は９㎝、P16は15㎝、P17は29㎝を測る。Ｐ６の周囲には長さ3.1m幅12 ～ 20㎝の周堤帯が存在する。

遺物

本遺構からは1,927点24,930gの土器片と17点702.5gの礫、５点368.9gの磨石、２点308gの凹石、12点260gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、327点5,044gの土師器、1,565点19,411gの弥生土器、35点475gの縄文土器である。これらの出土遺物の内57点を図示した。

２・３・５・16・31・34・43・44・50・52は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

271号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号69号。270号竪穴西側に隣接し、270号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.80m短径3.48mを測り、主軸方位はN－74 °－Wを示す。炉は中央西側に検出され、残存する火床長径0.75m短径0.63m深さ８㎝を測り、火床主軸方位はN－76 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁26㎝、西壁15㎝、南壁26㎝、北壁21㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは２ヶ所に検出された。深さはP １が15㎝、Ｐ２は18㎝を測る。

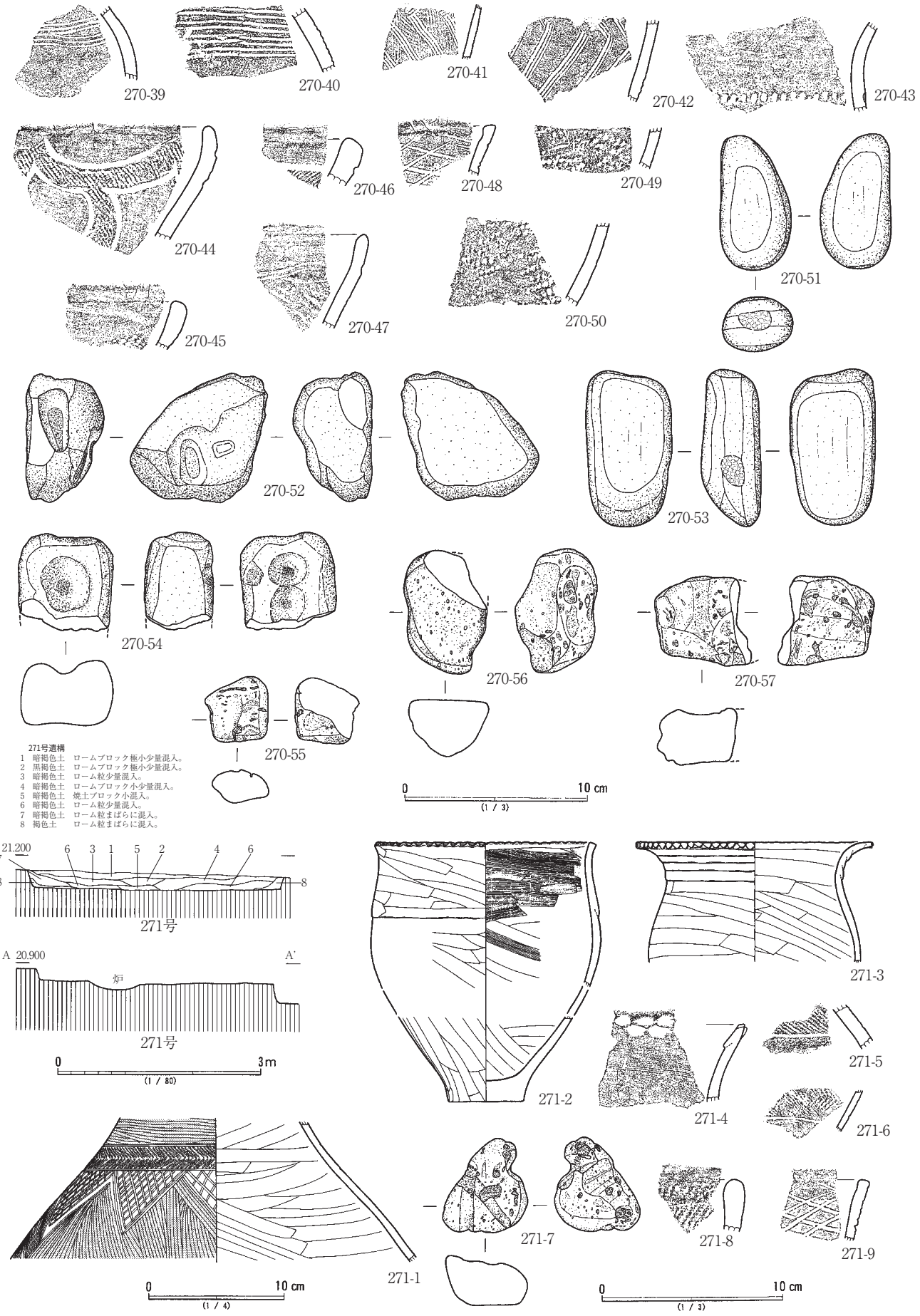
遺物

本遺構からは72点2,015gの土器片と１点8.8gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、３点16gの土師器、65点1,931gの弥生土器、４点68gの縄文土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

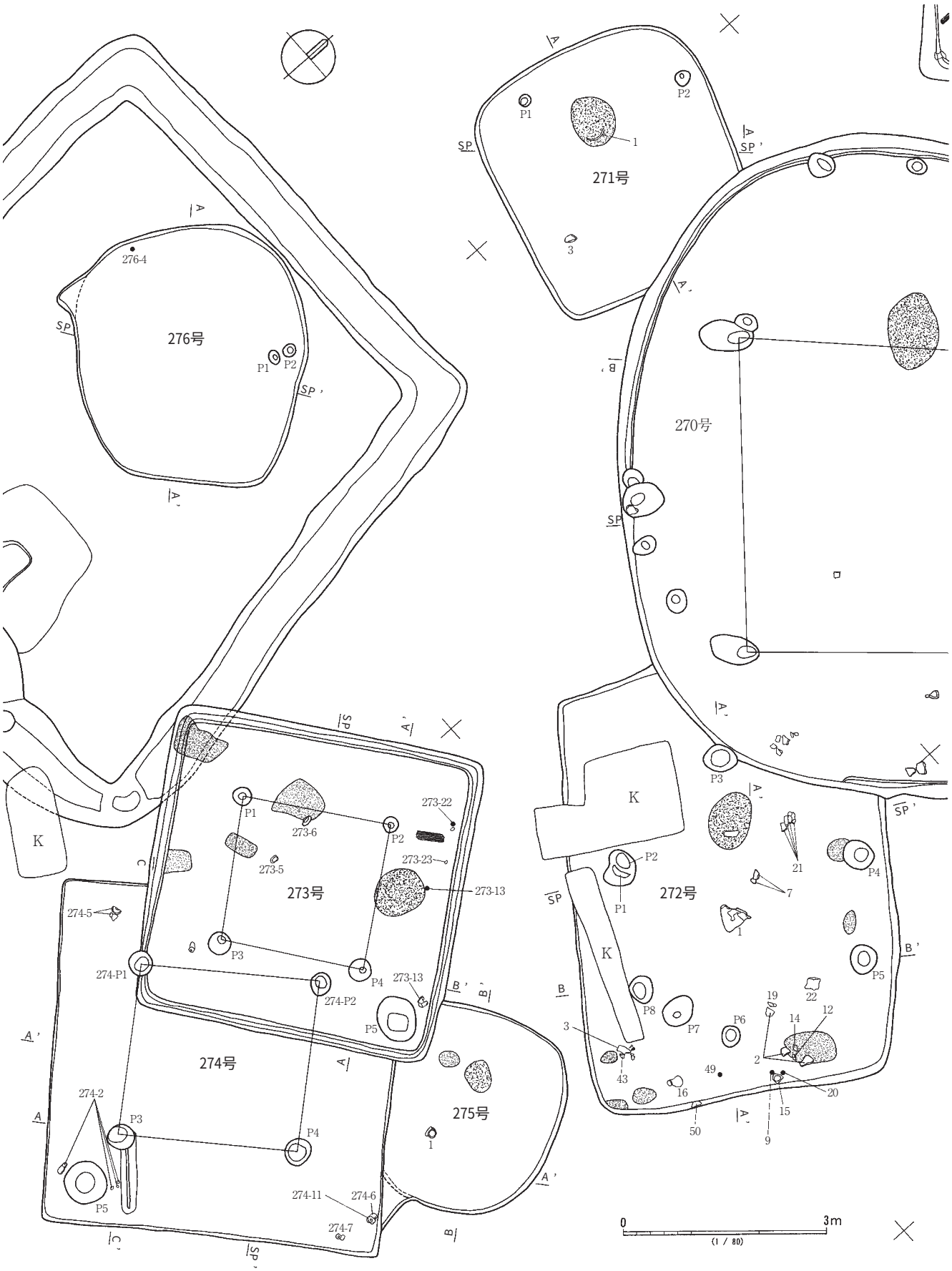
１は炉内火床密着で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。３は床面から21㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

272号遺構（竪穴住居跡）

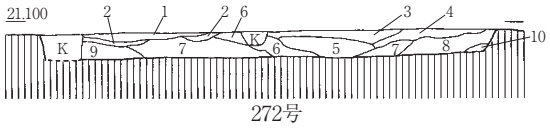
昭和53年度調査時遺構番号57A・B号。270号竪穴南側に隣接し、270号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。調査当時は、覆土の高い位置から出土する遺物と、床面から出土する遺物に時間差があり、２軒の住居が若干の軸ズレで床面をほぼ同じくして重複すると捉えられていたが、床面から出土する遺物は全て宮ノ台式期の遺物であり新段階の遺物が含まれないことから１軒の竪穴として



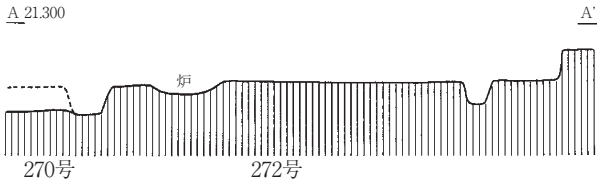
第243図　271号遺構実測図・270・271号遺構出土遺物実測図

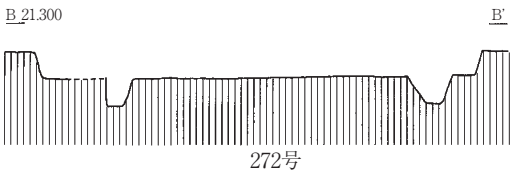


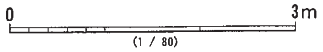
第244図　271 ～ 276号遺構実測図

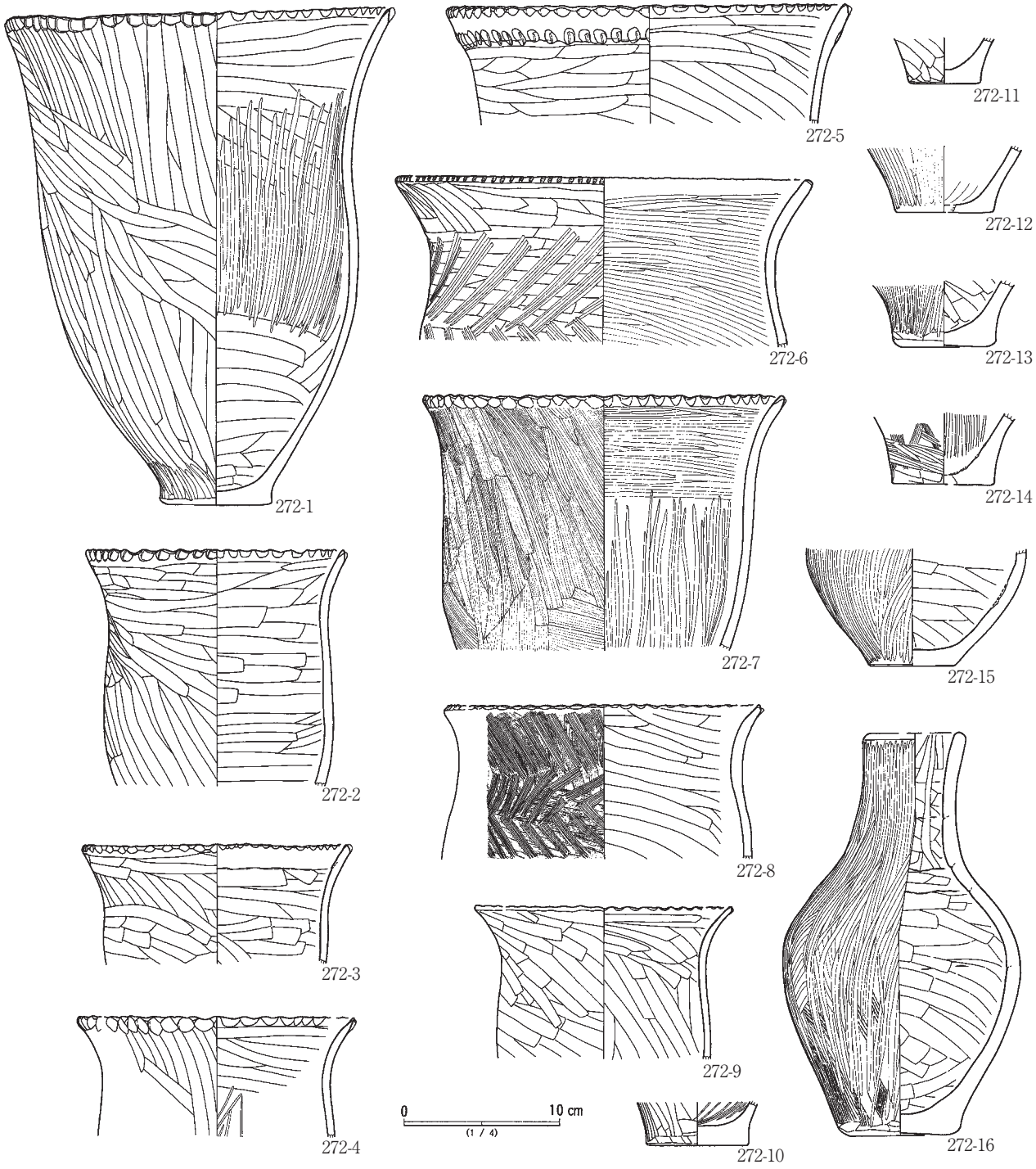


272号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中～大少量・ローム粒まばらに混入。
3 暗褐色土 ロームブロック極小～小少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
5 暗褐色土 ローム粒少量混入。
6 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
7 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
8 褐色土 ロームブロック極小少量・ローム粒まばらに混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小少量・ローム粒まばらに混入。
10 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。

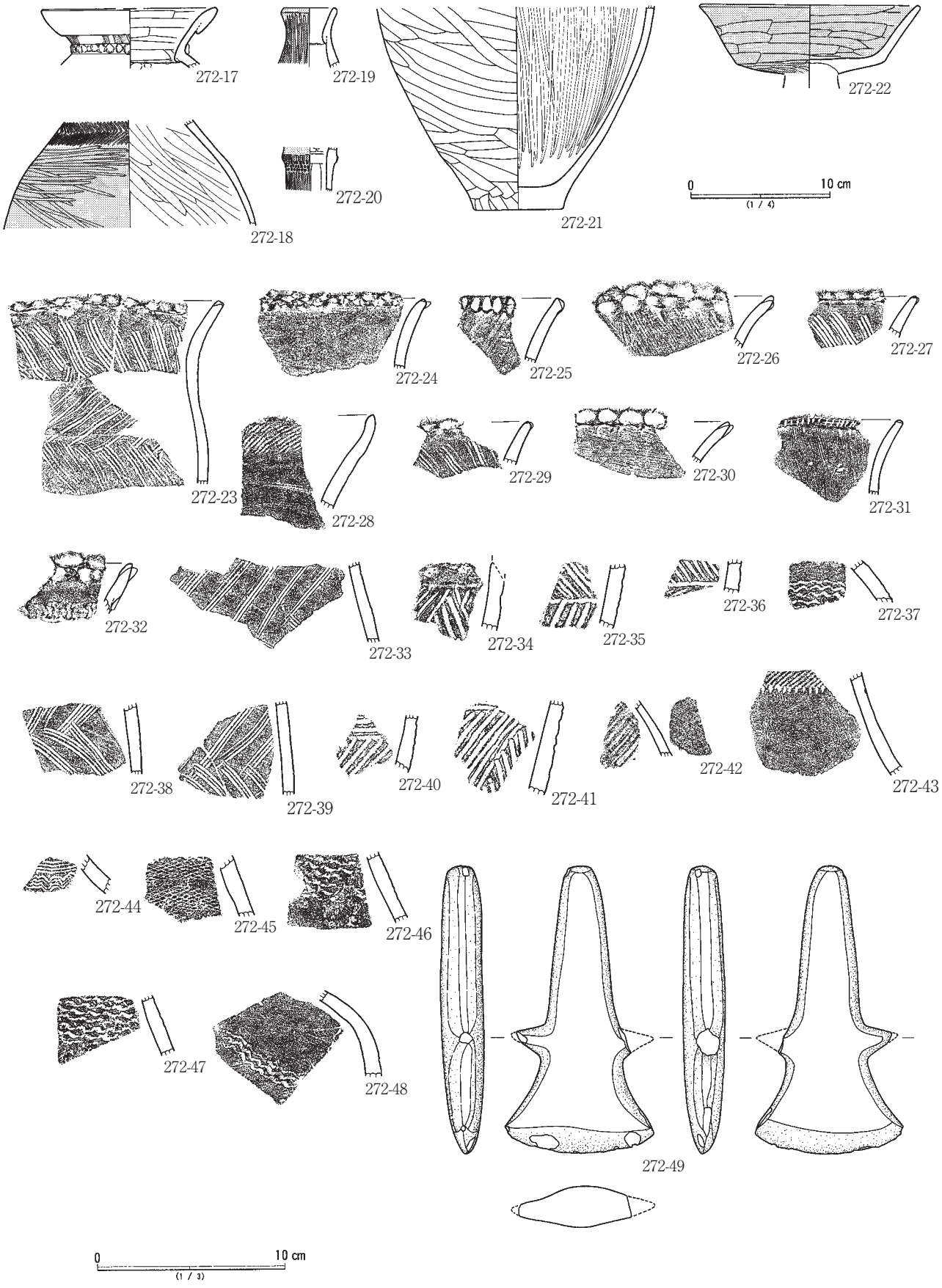




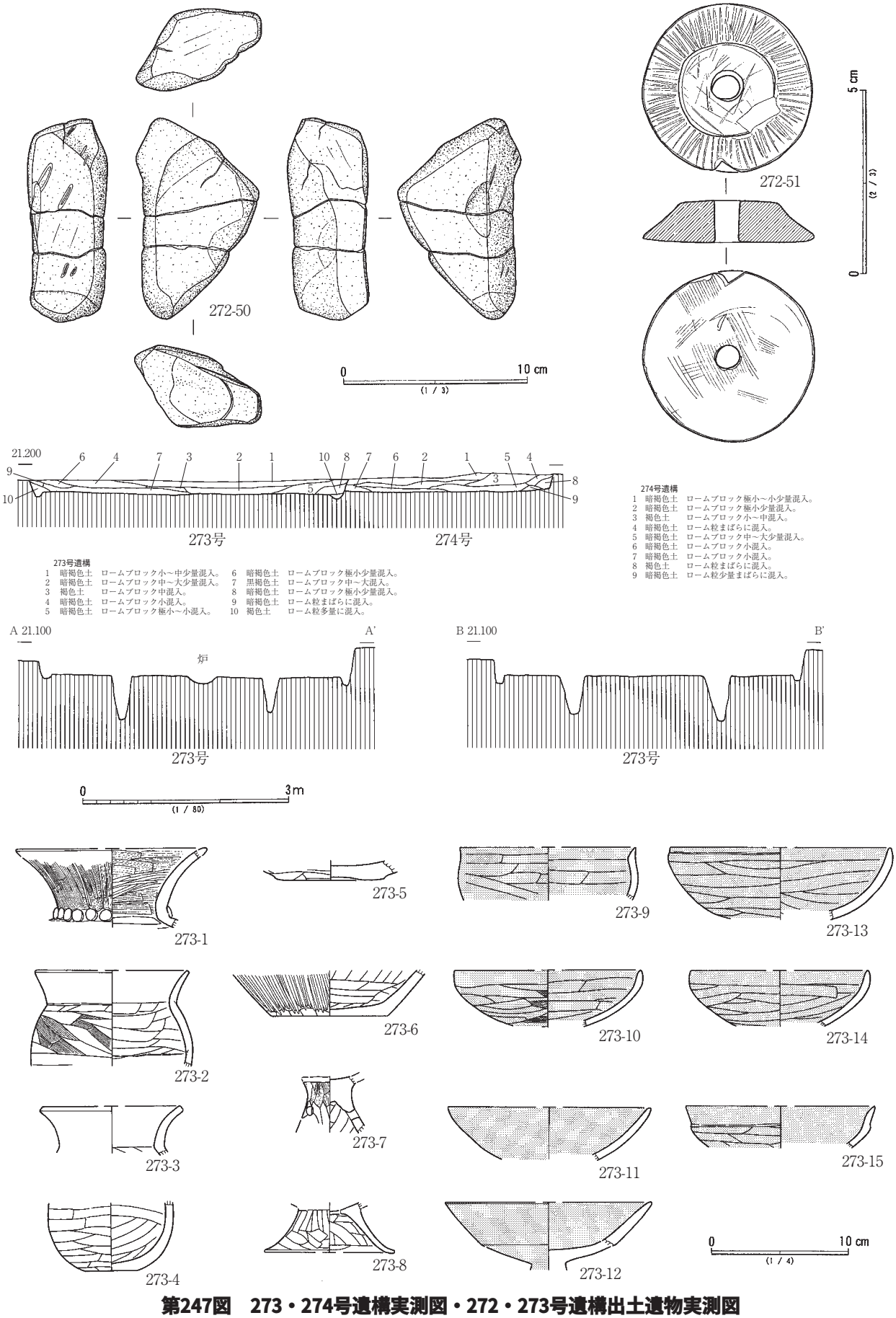




第245図　270・272号遺構実測図・272号出土遺物実測図



第246図　272号遺構出土遺物実測図



第247図　273・274号遺構実測図・272・273号遺構出土遺物実測図

報告する。長径6.50m短径4.73mを測り、主軸方位はN－53°－Wを示す。炉は中央西側に検出され、残存する火床長径0.86m短径0.60m深さ10cmを測り、火床主軸方位はN－32°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁25cm、南東壁32cm、北西壁17cm、南西壁27cmを測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、炉を中心とする範囲が特に堅く踏み固められており、ピットは８ヶ所に検出された。深さはＰ１が21cm、Ｐ２は31cm、Ｐ３は28cm、Ｐ４は35cm、Ｐ５は29cm、Ｐ６は23cm、Ｐ７は27cm、Ｐ８は28cmを測る。

焼土は６ヶ所に検出され、厚さは５～11cmを測る。

遺物

本遺構からは463点12,595gの土器片と４点175gの礫、１点210gの有角石斧、１点305gの砥石、１点32.9gの紡錘車が検出された。土器片等の内訳は、28点4,860gの土師器、435点7,735gの弥生土器である。これらの出土遺物の内51点を図示した。

１～７・12・14・16・19・21・43・49は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。９・15・20・22は床面から15cm以上離れて検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

273号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号60号。272号竪穴西側に位置する。274号竪穴との重複部分には274号貼床が存在したと日誌に記されることから、275号竪穴を削平し、274号竪穴・２号方墳に削平されて存在した竪穴住居跡である。長径4.60m短径4.06mを測り、主軸方位はN－53°－Eを示す。炉はＰ２・Ｐ４間中央よりやや東側に検出され、残存する火床長径0.74m短径0.66m深さ９cmを測り、火床主軸方位はN－14°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁41cm、南東壁24cm、北西壁52cm、南西壁53cmを測り、周溝は全周し、深さは４～14cmを測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が47cm、Ｐ２は50cm、Ｐ３は49cm、Ｐ４は63cm、Ｐ５は49cmを測る。

焼土は４ヶ所に検出され、厚さは２～14cmを測る。

遺物

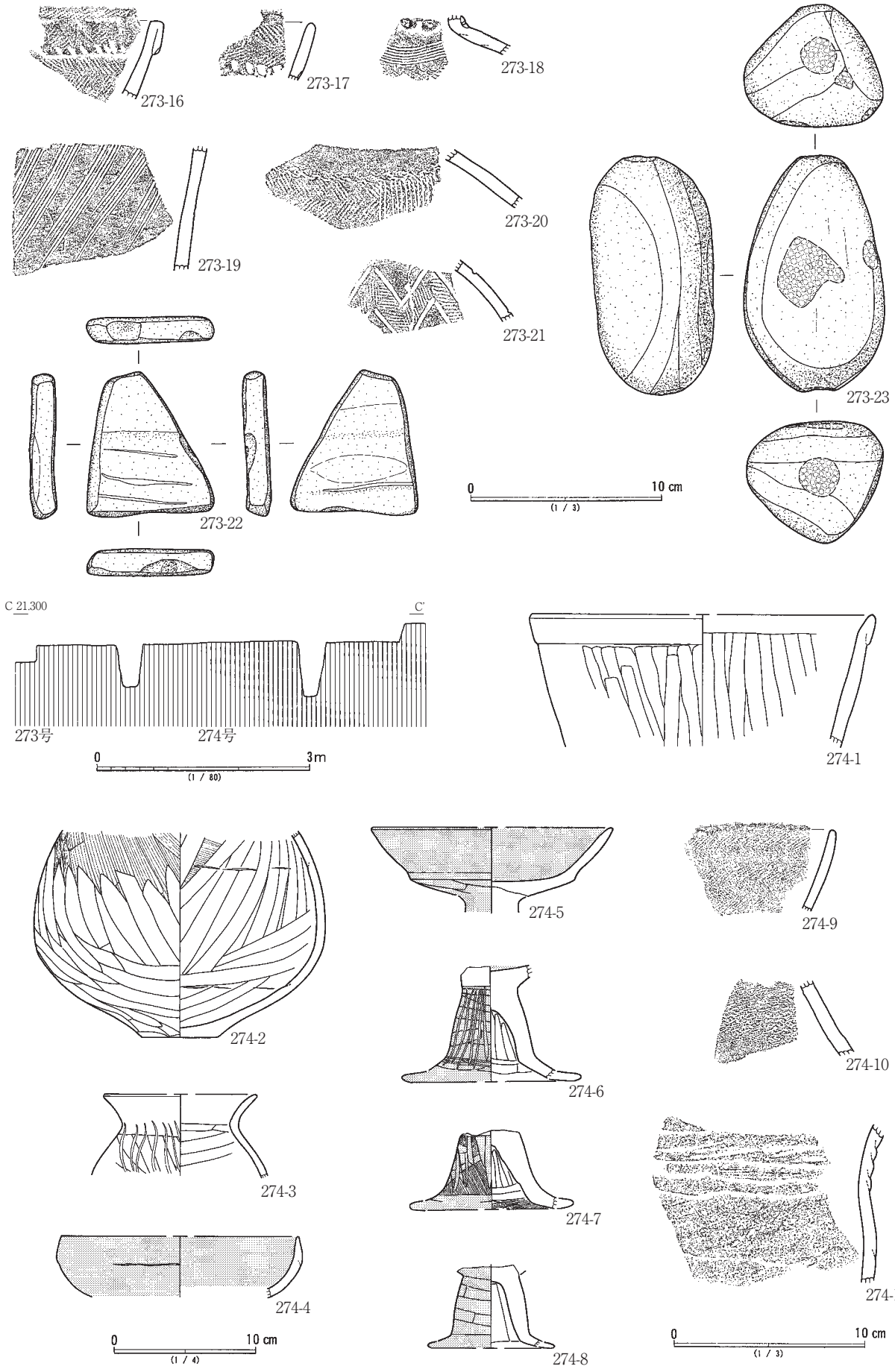
本遺構からは385点5,837gの土器片と４点440gの礫、２点900gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、345点4,585gの土師器、39点1,222gの弥生土器、１点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内23点を図示した。

６・13・22・23は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。５は床から35cm離れて出土している。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

274号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号62号。273号竪穴南に隣接する。273号竪穴との重複部分に貼床をもって構築された竪穴住居跡である。長径5.13m短径5.05mを測り、主軸方位はN－41°－Wを示す。炉は精査したにもかかわらず検出されなかった。

残存する壁高はそれぞれ北東壁５cm、南東壁27cm、北西壁23cm、南西壁25cmを測り、周溝は存在し



第248図　274号遺構実測図・273・274号遺構出土遺物実測図

ない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められるが、中央部が特に堅く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が60㎝、Ｐ２は65㎝、Ｐ３は77㎝、Ｐ４は63㎝、Ｐ５は62㎝を測る。Ｐ３から南東側の壁に向かい長さ1.2m幅23㎝高さ５㎝の周堤帯が存在する。

遺物

本遺構からは159点3,769gの土器片と２点110gの礫が検出された。土器片等の内訳は、92点2,813gの土師器、65点935gの弥生土器、１点６gの早期撚糸文系土器、１点15gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。

２は床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。５・６・７・11は床から10㎝以上離れて出土している。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

275号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号61号。274号竪穴東に隣接し、273号・274号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.02m短径2.50mを測り、主軸方位はN－32°－Wを示す。炉は中央から北西に偏って検出され、残存する火床長径0.46m短径0.36m深さ７㎝を測り、火床主軸方位はN－71°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁17㎝、南東壁15㎝、北西壁12㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、炉の周辺が堅く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは10点449gの土器片と１点17gの礫が検出された。土器片等の内訳は、４点125gの土師器、６点324gの弥生土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。

１は床直で検出された以外は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

276号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号68号。２号終末期方墳の方台部内に存在し、単独で存在する竪穴住居跡である。長径3.80m短径3.40mを測り、主軸方位はN－49°－Wを示す。炉は未検出で、残存する壁高はそれぞれ北東壁９㎝、南東壁７㎝、北西壁15㎝、南西壁５㎝を測り、周溝は存在しない。

床面はソフトローム層中に掘り込まれ軟弱で、中央部分が僅かに堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が29㎝、Ｐ２は24㎝を測る。

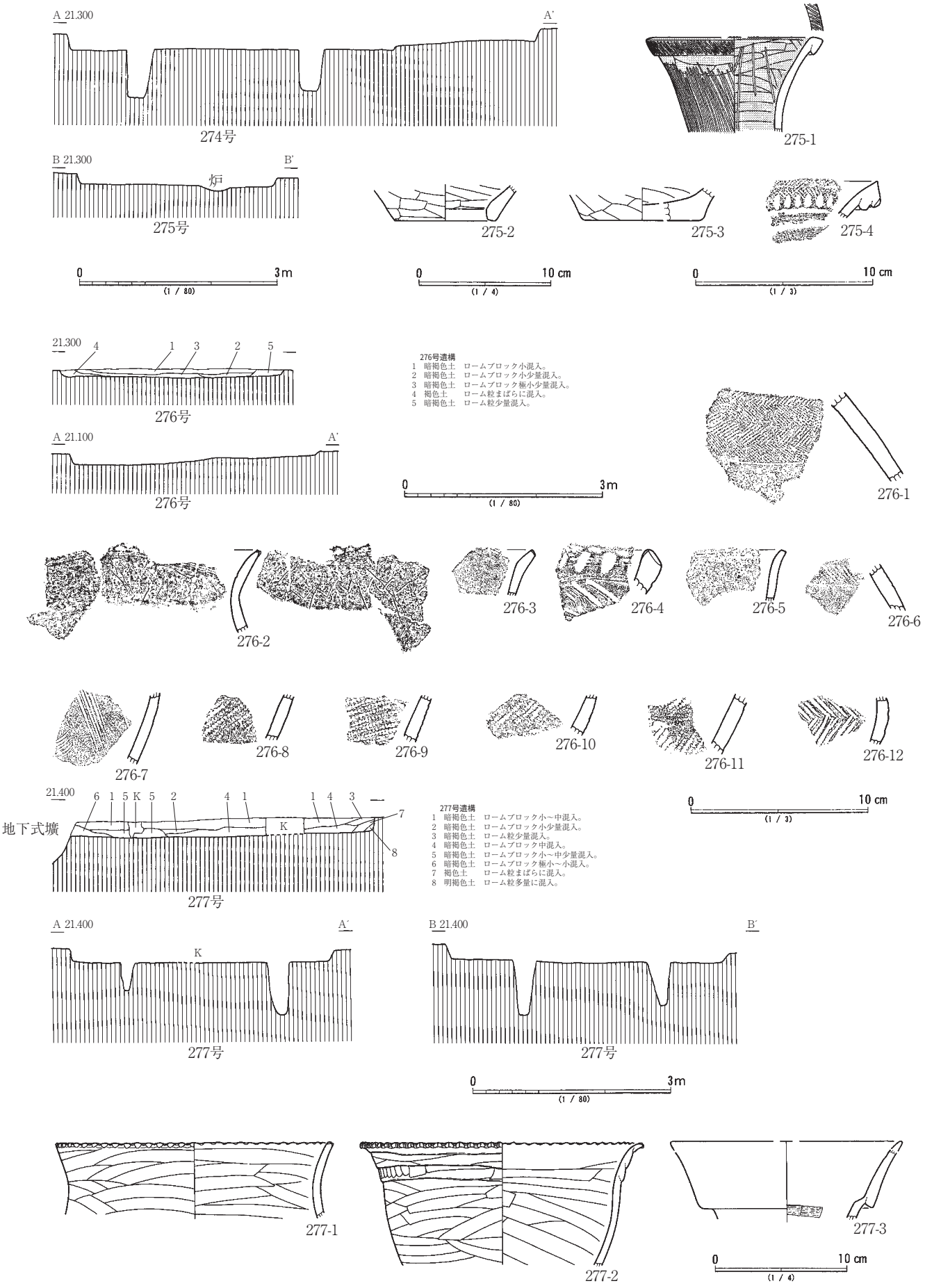
遺物

本遺構からは54点1,201gの土器片と５点82gの礫が検出された。土器片等の内訳は、１点10gの土師器、53点1,191gの弥生土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

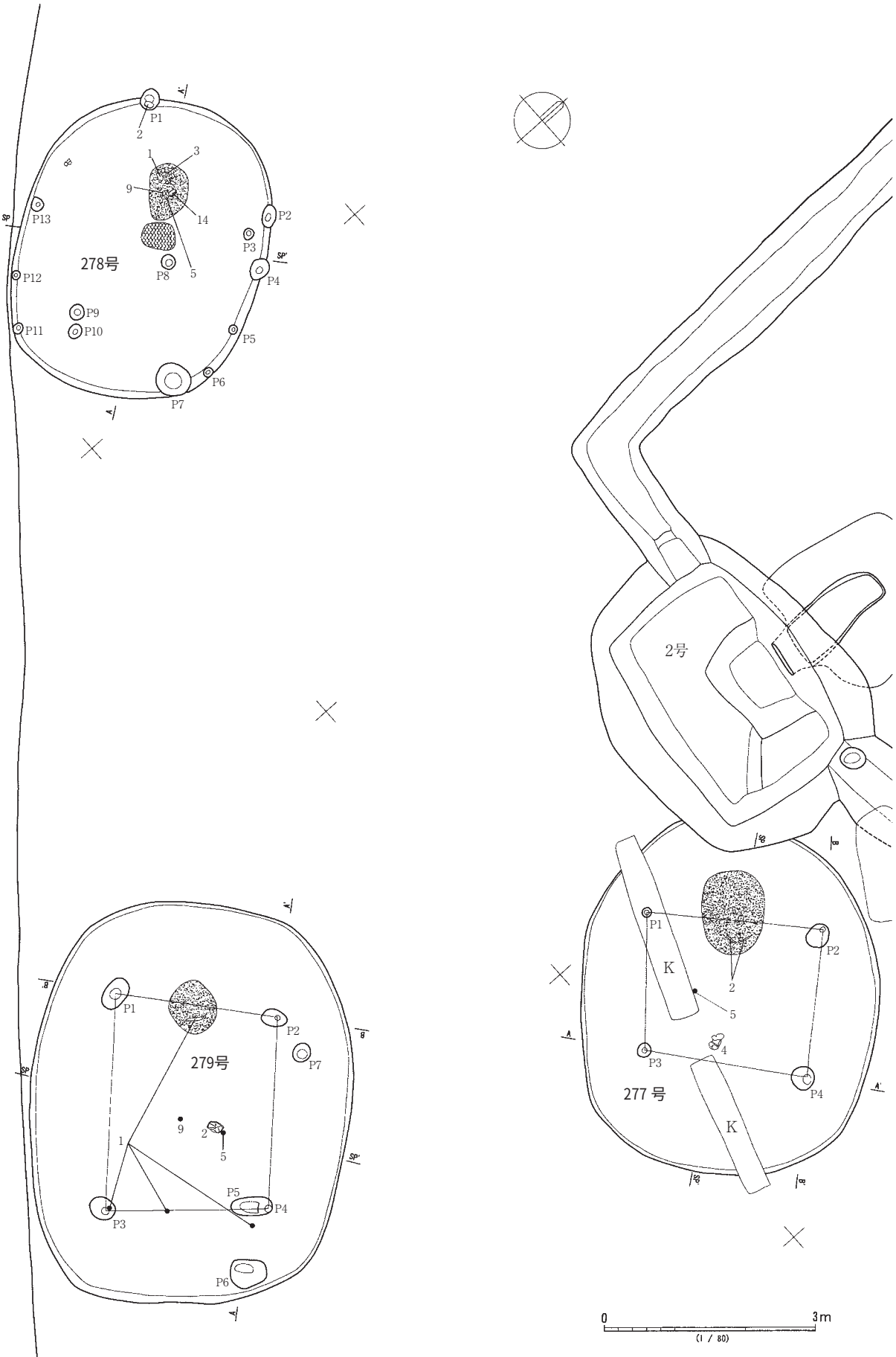
４は床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

277号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号67号。274号竪穴西側に位置し、２号終末期方墳に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.05m短径4.27mを測り、主軸方位はN－44°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間



第249図　274～277号遺構実測図・275～277号遺構出土遺物実測図



第250図　277 ～ 279号遺構実測図

の中央に検出され、残存する火床長径1.18m短径0.88m深さ８㎝を測り、火床主軸方位はN－48 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁16㎝、南東壁21㎝、北西壁13㎝、南西壁17㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定されるが、Ｐ１には深さの測定値がない。Ｐ２は64㎝、Ｐ３は41㎝、Ｐ４は82㎝を測る。

遺物

本遺構からは143点2,792gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、11点239gの土師器、132点2,553gの弥生土器である。これらの出土遺物の内15点を図示した。

２・５は炉内と床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。４は床から15㎝離れて出土している。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

278号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号266号。２号終末期方墳の西側に位置し、単独で存在する竪穴住居跡である。長径4.26m短径3.52mを測り、主軸方位はN－41 °－Wを示す。炉は中央北側に検出され、残存する火床長径0.80m短径0.56m深さ10㎝を測り、火床主軸方位はN－39 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁16㎝、南東壁11㎝、北西壁８㎝、南西壁９㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、炉を中心とした範囲が堅く踏み固められている。ピットは13ヶ所に検出されるが、主柱穴は存在せずＰ３には深さの測定値がない。深さはＰ１が18㎝、Ｐ２は10㎝、Ｐ４が15㎝、Ｐ５は11㎝、Ｐ６は13㎝、Ｐ７は27㎝、Ｐ８は15㎝、Ｐ９は26㎝、P10は23㎝、P11は25㎝、P12は11㎝、P13は29㎝を測る。

貝ブロックは遺構中央に検出された。40×50㎝厚さ13㎝を測る。

遺物

本遺構からは71点2,781gの土器片と１点131gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、20点550gの土師器、49点2,191gの弥生土器、２点40gの早期条痕文系土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

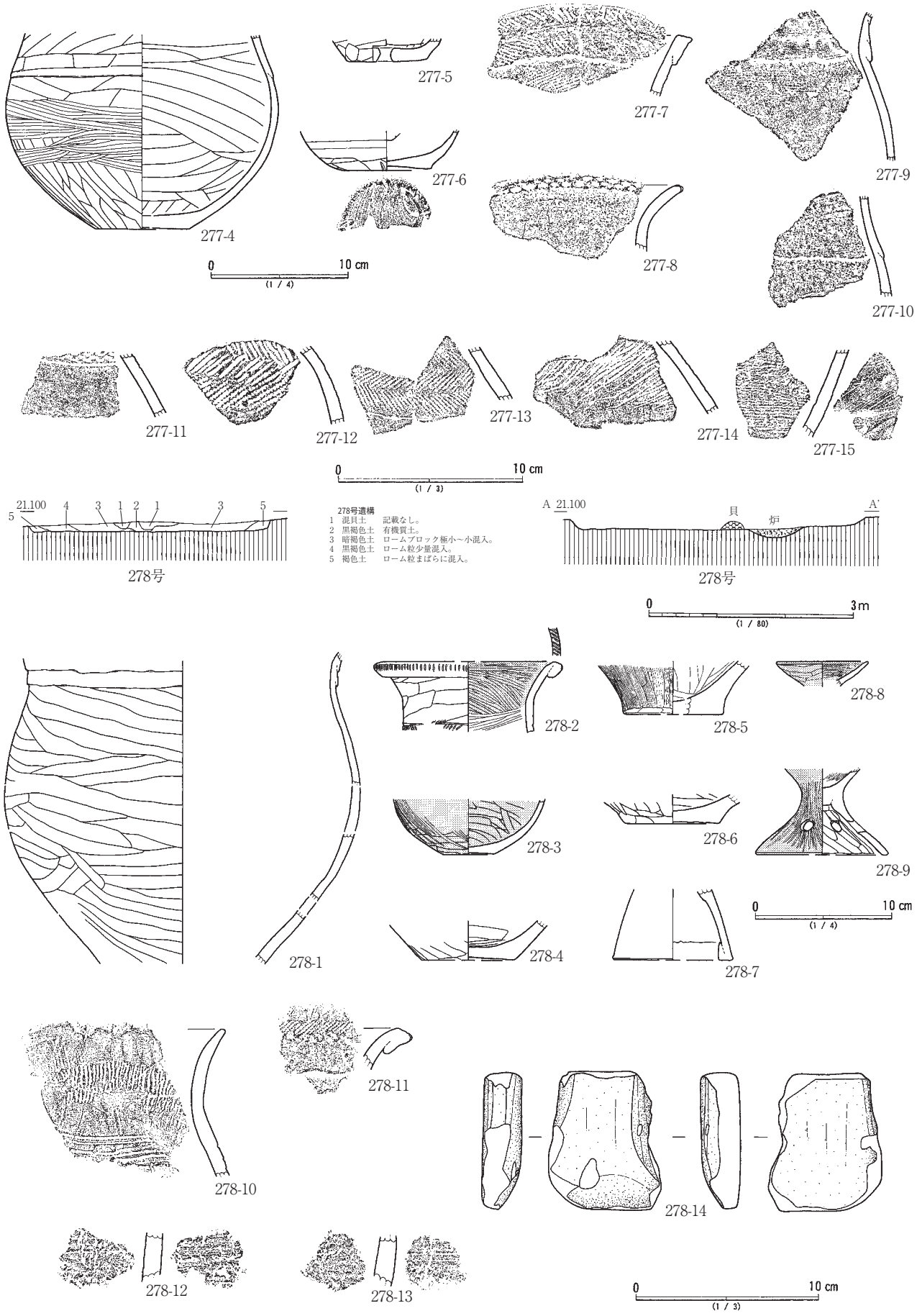
１～３・５・６・８～10は炉内と床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

279号遺構（竪穴住居跡）

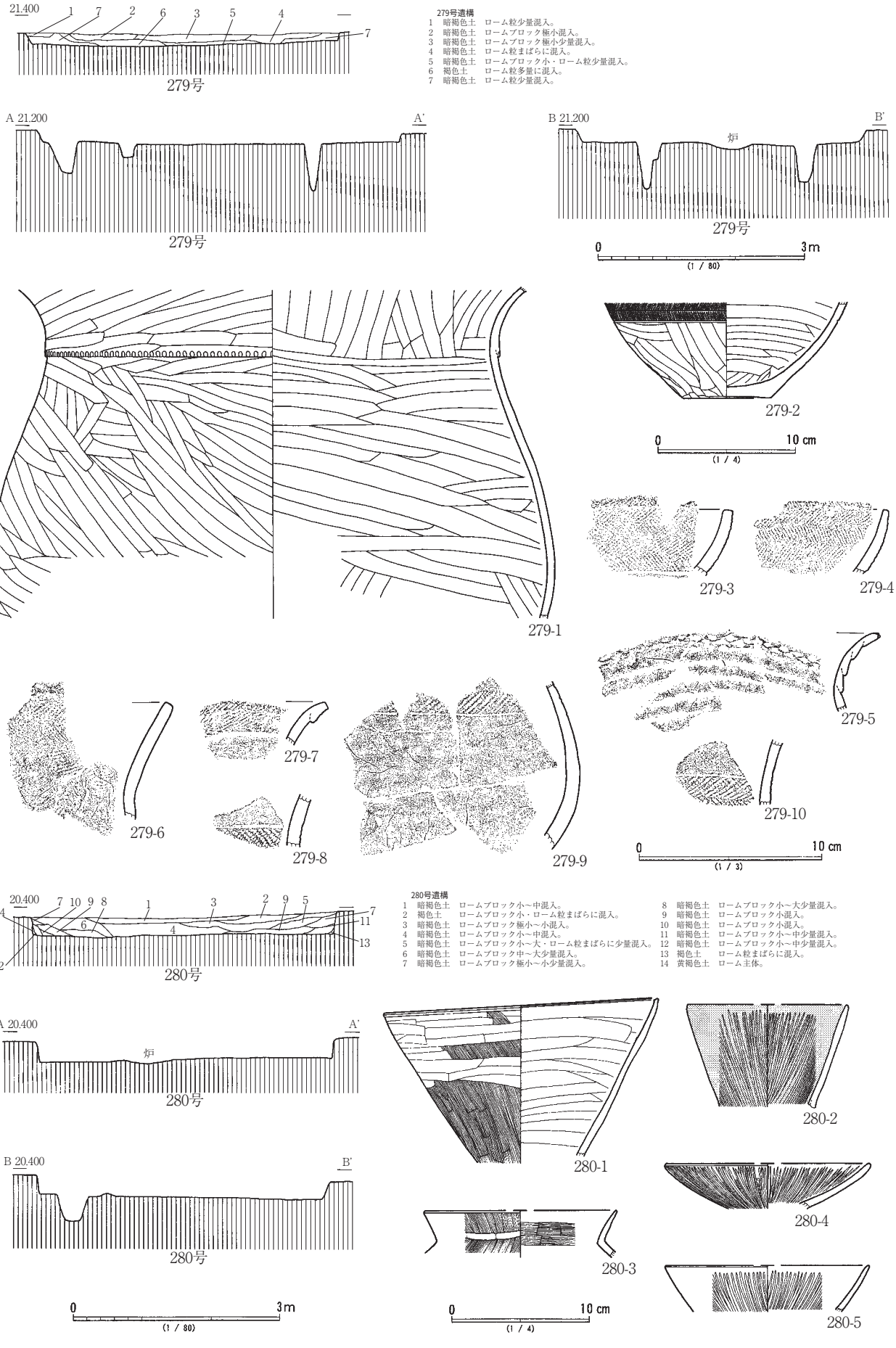
昭和53年度調査時遺構番号66号。２号終末期方墳の南に位置し、単独で存在する竪穴住居跡である。長径5.65m短径4.56mを測り、主軸方位はN－46 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央に検出され、残存する火床長径0.76m短径0.70m深さ７㎝を測り、火床主軸方位はN－46 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁16㎝、南東壁17㎝、北西壁15㎝、南西壁16㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が54㎝、Ｐ２は67㎝、Ｐ３は70㎝、Ｐ４は53㎝、Ｐ５は18㎝、Ｐ６は44㎝、Ｐ７は38㎝を測る。

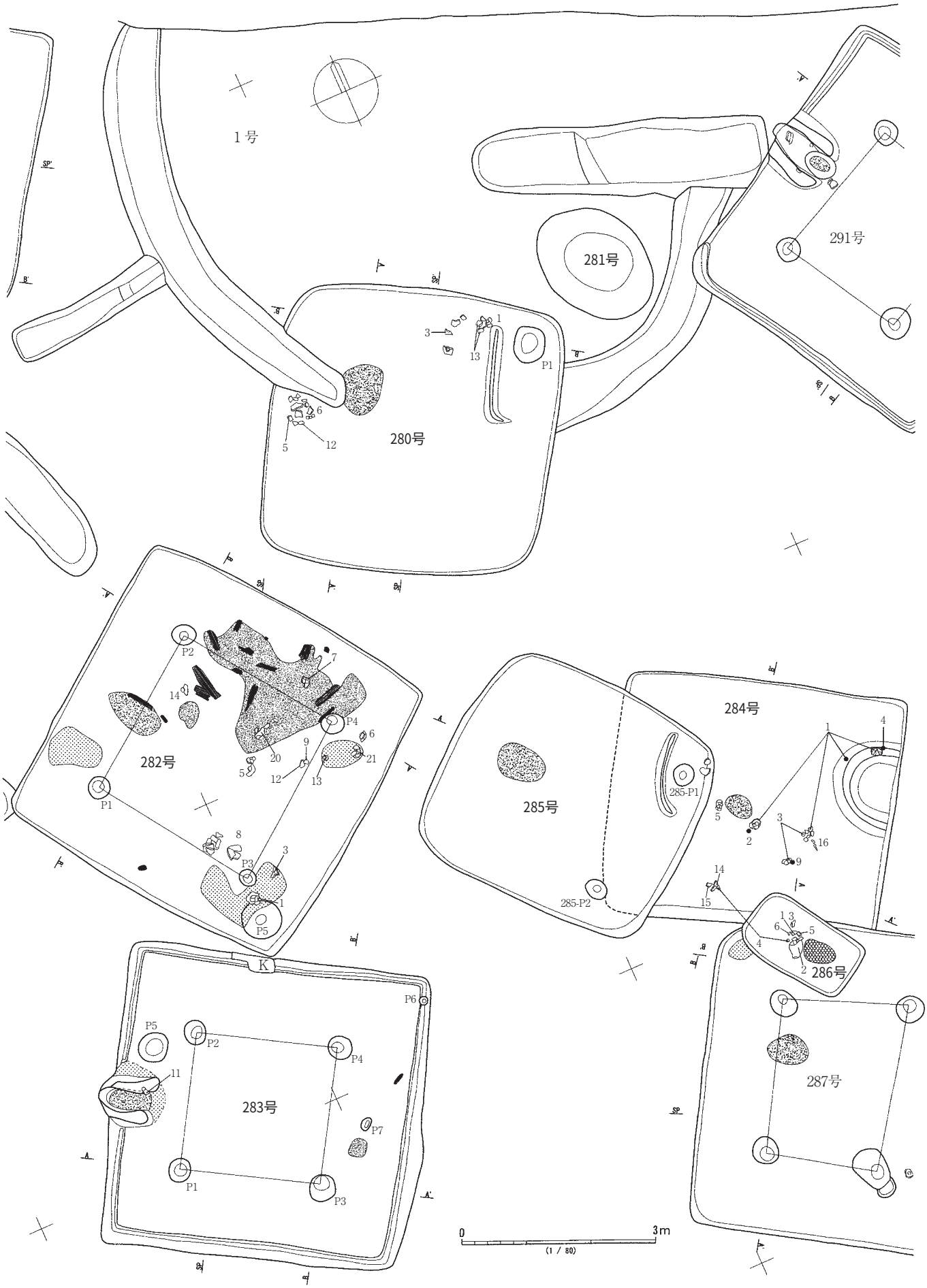
遺物



第251図　278号遺構実測図・277・278号遺構出土遺物実測図



第252図　279・280号遺構実測図・出土遺物実測図



第253図　280 ～ 286号遺構実測図

本遺構からは132点2,647gの土器片と22点1,170gの礫が検出された。土器片等の内訳は、１点28gの土師器、131点2,619gの弥生土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１・２・５・６・９は、炉内や床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

280号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号27号。１号円形周溝の南に位置し、本跡調査後に円形周溝の調査を行っていることから、本跡の方が新しい遺構である。長径4.48m短径4.45mを測り、主軸方位はN－32°－Ｅを示す。炉は中央西側に検出され、残存する火床長径0.80m短径0.62m深さ７㎝を測り、火床長軸方位はN－33°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁28㎝、西壁測定値なし、南壁30㎝、北壁30㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは１ヶ所に検出された。Ｐ１は貯蔵穴と想定され、深さは37㎝を測る。周囲に長さ1.72m幅20㎝、高さ３㎝の周堤帯が存在する。

遺物

本遺構からは186点4,886gの土器片と１点156gの礫が検出された。土器片等の内訳は、146点4,431gの土師器、36点365gの弥生土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

１・５・６・12・13は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。３は床面から12㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

281号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号「Claypit」。１号円形周溝内に存在する土坑である。長径2.00m短径1.52m深さ40㎝前後を測り、主軸方位はN－25°－Wを示す。底面はほぼ平坦な楕円形土坑である。

遺物

本跡から遺物は全く検出されなかった。

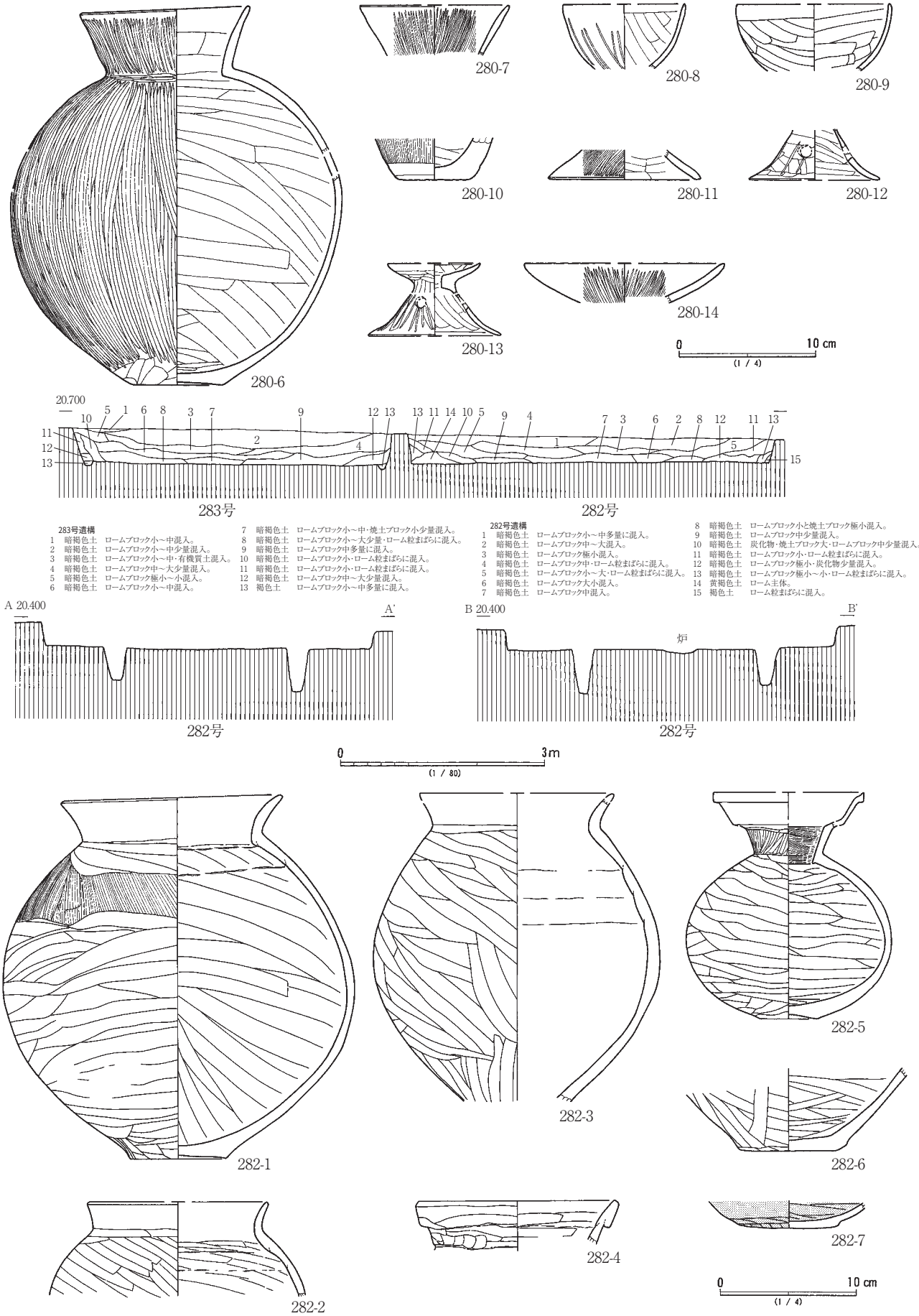
282号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号34号。280号竪穴西側に位置し、単独で存在する竪穴住居跡である。長径5.06m短径4.94mを測り、主軸方位はN－35°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央ややＰ１寄りに検出され、残存する火床長径0.94m短径0.50m深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－32°－Wを示す。

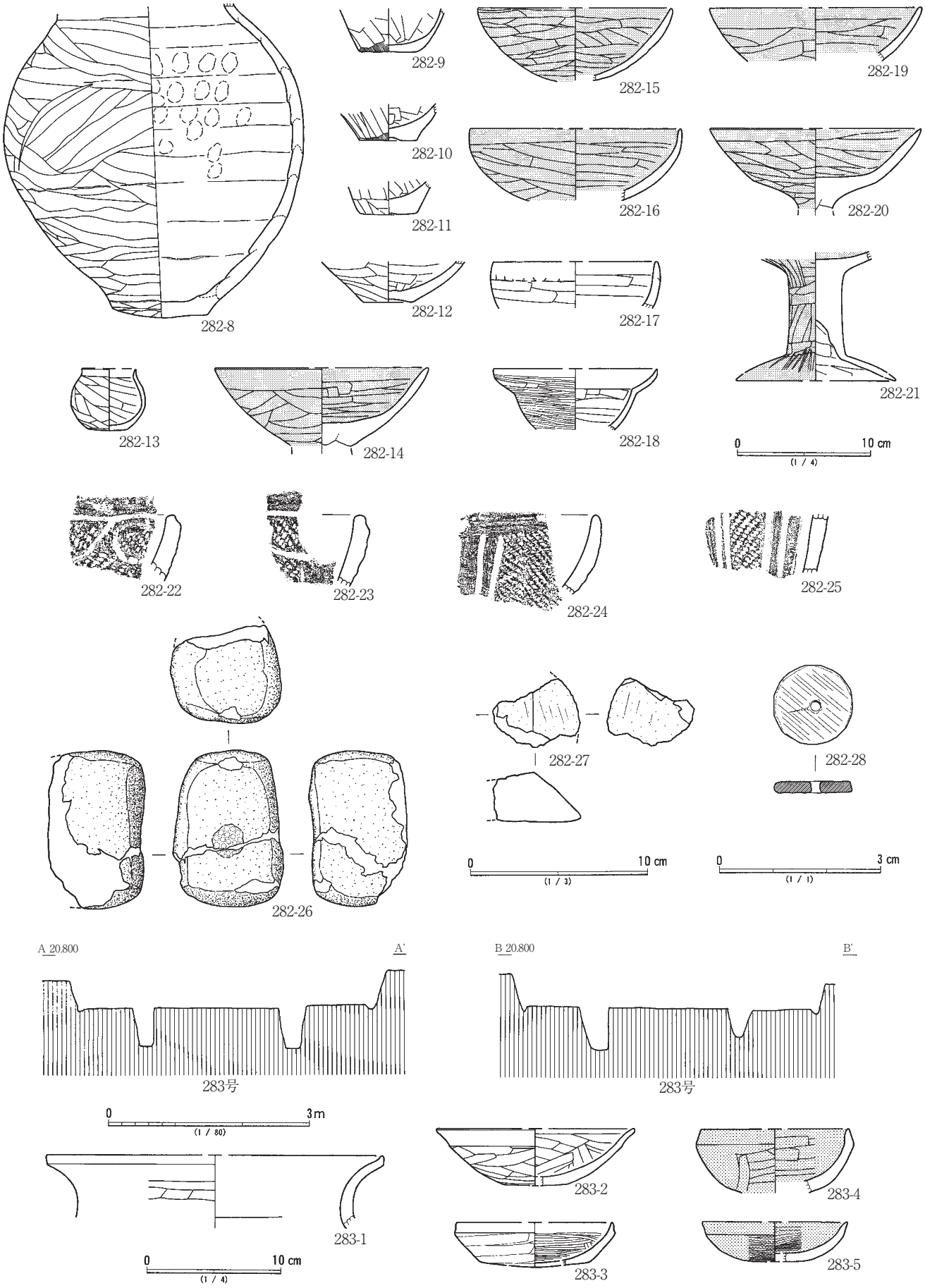
残存する壁高はそれぞれ北東壁35㎝、南東壁34㎝、北西壁30㎝、南西壁41㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは５ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が55㎝、Ｐ２は65㎝、Ｐ３は69㎝、Ｐ４は51㎝、Ｐ５は40㎝を測る。

遺物

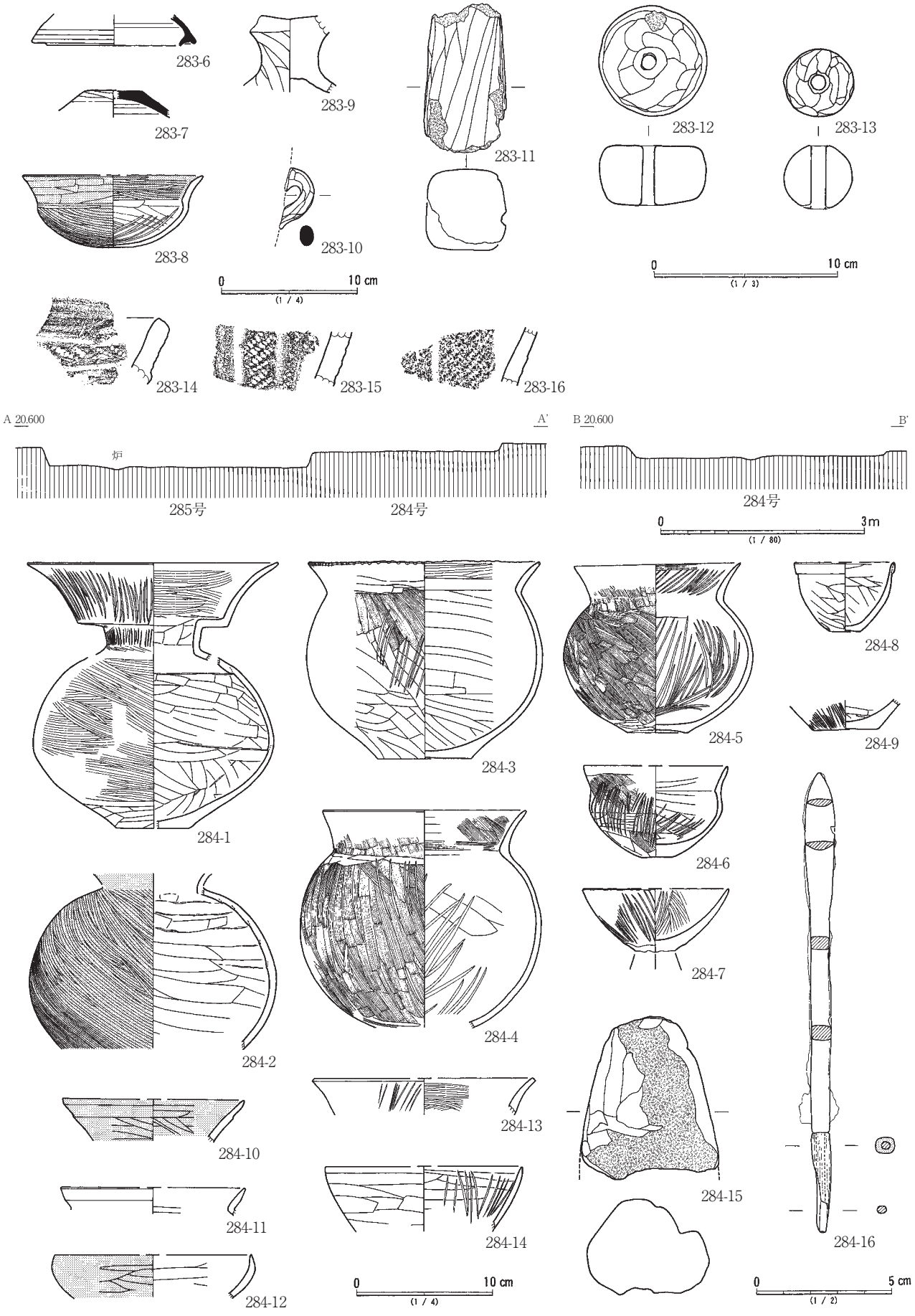
本遺構からは760点18,291gの土器片と７点1,018gの礫、１点420gの磨石・敲石、１点40gの砥石、１点0.89gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、659点16,970gの土師器、74点828gの弥生土器、２点31gの手づくね土器、25点462gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内28点を図示した。



第254図　282・283号遺構実測図・280・282号遺構出土遺物実測図



第255図　283号遺構実測図・282・283号遺構出土遺物実測図



第256図　284・285号遺構実測図・283・284号遺構出土遺物実測図

１・３・５～８・13・14・20・21は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。９・12は床面から24㎝浮いて検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

283号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号35号。282号竪穴南側に位置し、単独で存在する竪穴住居跡である。長径4.85m短径4.67mを測り、主軸方位はN－58°－Wを示す。カマドは西壁中央に構築され、残存する火床長径0.64m短径0.30m深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－60°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁52㎝、西壁41㎝、南壁48㎝、北壁43㎝を測り、周溝は全周し、深さは４～８㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が59㎝、Ｐ２は68㎝、Ｐ３は63㎝、Ｐ４は41㎝、Ｐ５は48㎝、Ｐ６は測定値無し、Ｐ７は10㎝を測る。

遺物

本遺構からは371点4,964gの土器片と８点150gの礫、１点37.5gの支脚、１点80gの土製円盤、１点50gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、316点4,306gの土師器、３点65gの須恵器、42点335gの弥生土器、２点40gの手づくね土器、１点８gの早期条痕文系土器、７点210gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

２・11は、カマド内から検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

284号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号29号。282号竪穴東側に位置し、285号竪穴を削平し、286号土坑に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.45m短径3.78mを測り、主軸方位はN－61°－Wを示す。炉は中央やや西寄りに検出され、残存する火床長径0.45m短径0.32m深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－27°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁15㎝、南壁８㎝、北壁６㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、北側が堅く踏み固められている以外は軟弱であり、ピットは検出されなかった。東壁に接して半円形に、長さ2.7m幅36～42㎝高さ５㎝で周堤帯が巡る。

遺物

本遺構からは167点3,497.6gの土器片と１点90gの礫、１点21.8gの鉄鏃、１点565gの支脚が検出された。土器片等の内訳は、107点3,172.6gの土師器、60点325gの弥生土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

１～５・９・14・15・16は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

285号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号28号。283号竪穴西側に隣接し、284号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.04m短径3.65mを測り、主軸方位はN－40°－Wを示す。炉は中央やや西寄りに検出され、残存する火床長径0.78m短径0.54m深さ３㎝を測り、火床主軸方位はN－44°－Wを示す。

第257図　287 ～ 300号遺構実測図

残存する壁高はそれぞれ北東壁29㎝、南東壁23㎝、北西壁24㎝、南西壁34㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ全体的に堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が33㎝、Ｐ２は25㎝を測る。東壁から若干離れて、長さ1.4m幅16㎝高さ３㎝の周堤帯が存在する。

遺物

本遺構からは６点56gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、３点36gの土師器、３点20gの弥生土器である。これらの出土遺物の内２点を図示した。

本跡出土遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

286号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号なし。287号竪穴調査図面に落ち込みと記されている土坑である。遺構内中央に完形の甕と貝ブロックが検出されており、調査日誌に「甕の帰属遺構要検討。完形であったが子供に踏まれ破損」の旨が記されている。遺物の時期は287号竪穴より新しく、記録写真には287号竪穴を切り込むような状況で遺構プランが検出されていることや、調査図面でも287号竪穴内の粘土堆積を本跡が削平していることから、本跡が284号・287号竪穴を削平したものと判断される。長径1.85m短径1.04mを測り、主軸方位はN－34°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁15㎝、西壁８㎝、南壁７㎝、北壁13㎝を測り、底面ほぼ平坦な長方形を呈する。貝ブロックは50×34㎝の規模で、土坑底面から10㎝程の間層を挟んで、厚さ15㎝程の堆積が認められた。

遺物

本遺構からは６点1,960gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、５点1,956gの土師器、１点４gの縄文土器である。これらの出土遺物の全てを図示した。

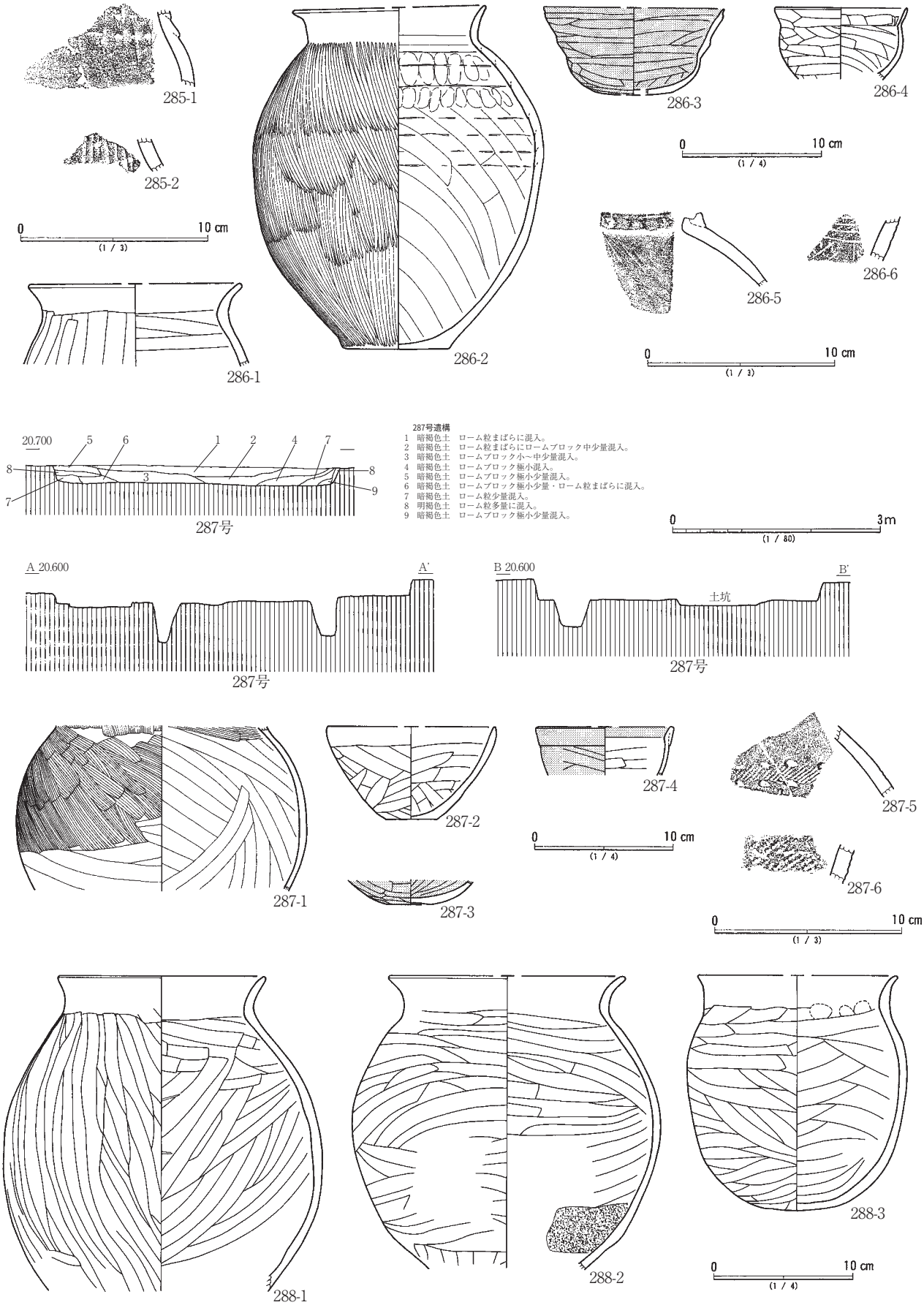
すべて、完形に近い２の甕形土器周辺から検出されているが、４は284号竪穴出土遺物と接合関係を有しており、本来284号竪穴に伴うものと想定される。それ以外の遺物は他の遺構から流れ込みの可能性もあるが、少なくとも１・２は本跡に直接伴うものと判断される。

287号遺構（竪穴住居跡）

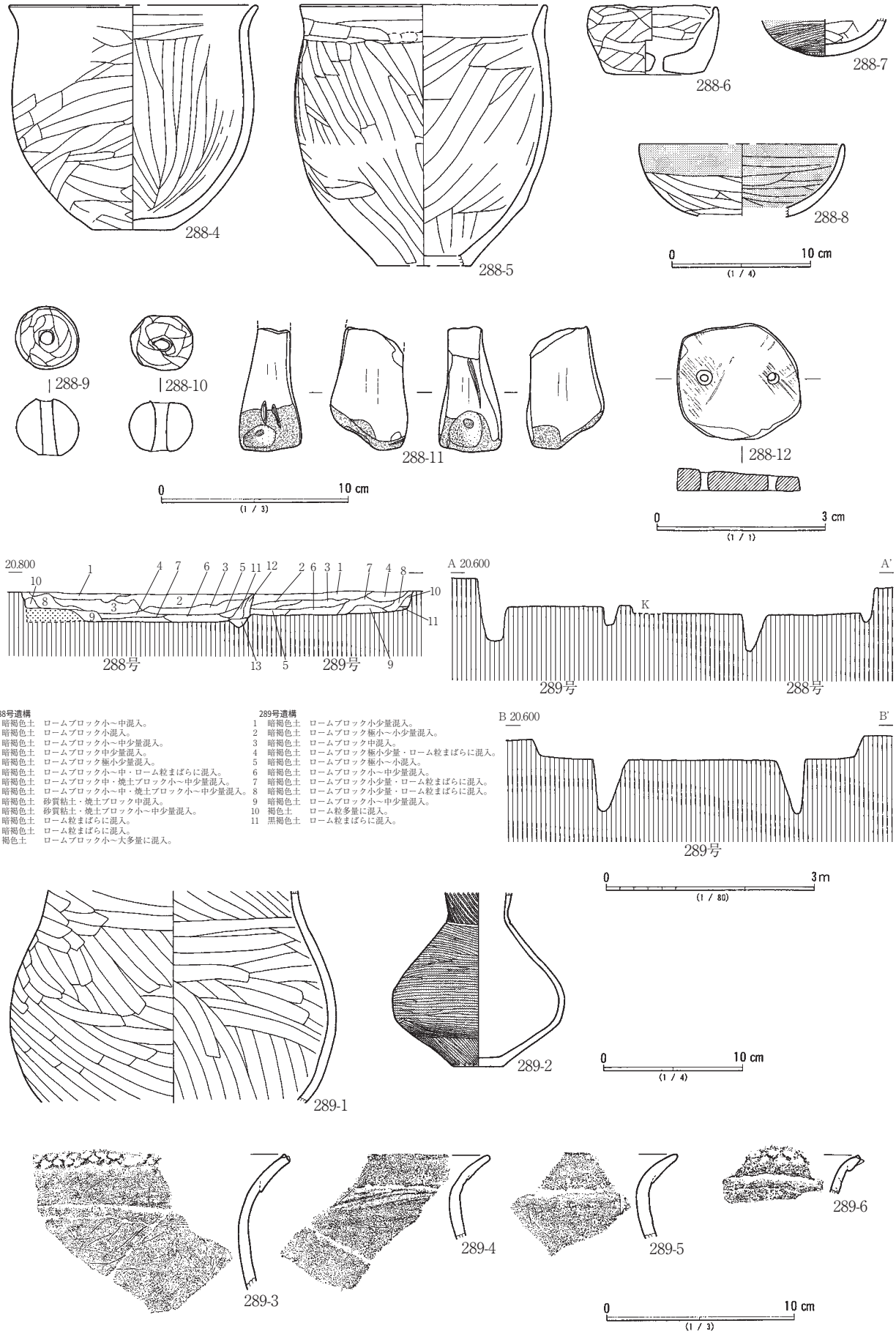
昭和53年度調査時遺構番号33号。286号土坑南側に隣接し、286号土坑・288号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.92m短径4.14mを測り、主軸方位はN－60°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央かなりＰ２寄りの位置で検出され、残存する火床長径0.64m短径0.48m深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－66°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁26㎝、西壁30㎝、南壁23㎝、北壁22㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれるが、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴、Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が54㎝、Ｐ２は57㎝、Ｐ３は20㎝、Ｐ４は76㎝、Ｐ５は67㎝、Ｐ６は41㎝、Ｐ７は30㎝を測る。286号土坑と接するコーナー部より粘土ブロックを検出するが、厚さの測定値はない。

遺物



第258図　287号遺構実測図・285 ～ 288号遺構出土遺物実測図



第259図　288・289号遺構実測図・288・289号遺構出土遺物実測図

本遺構からは115点1,645gの土器片と１点５gの礫が検出された。土器片等の内訳は、98点1,425gの土師器、16点165gの弥生土器、１点55gの手づくね土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

２・３は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。１はPo ４として取上げられたが、平面図中にはPo ３までしか記載されておらず位置不明である。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

288号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号32B号。287号竪穴南側に隣接し、287号・289号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.06m短径3.40mを測り、主軸方位はN－59 °－Eを示す。カマドは東壁中央に構築され、残存する火床長径0.40m短径0.26m深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－66 °－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁47㎝、西壁15㎝、南壁11㎝、北壁41㎝を測り、周溝は東北壁側に存在し、深さは８～９㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦かつ全体的に堅く踏み固められており、ピットは１ヶ所に検出された。Ｐ１は貯蔵穴と想定され、深さは60㎝を測る。貯蔵穴に接して焼土か検出され、厚さ６㎝を測る。

遺物

本遺構からは226点8,309gの土器片と２点320gの礫、１点119gの砥石、１点3.3gの有孔円盤、２点53gの土玉が検出された。土器片等の内訳は、115点6,969gの土師器、111点1,340gの弥生土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

１・３～６は、床直ないしはカマド内から検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

289号遺構（竪穴住居跡）

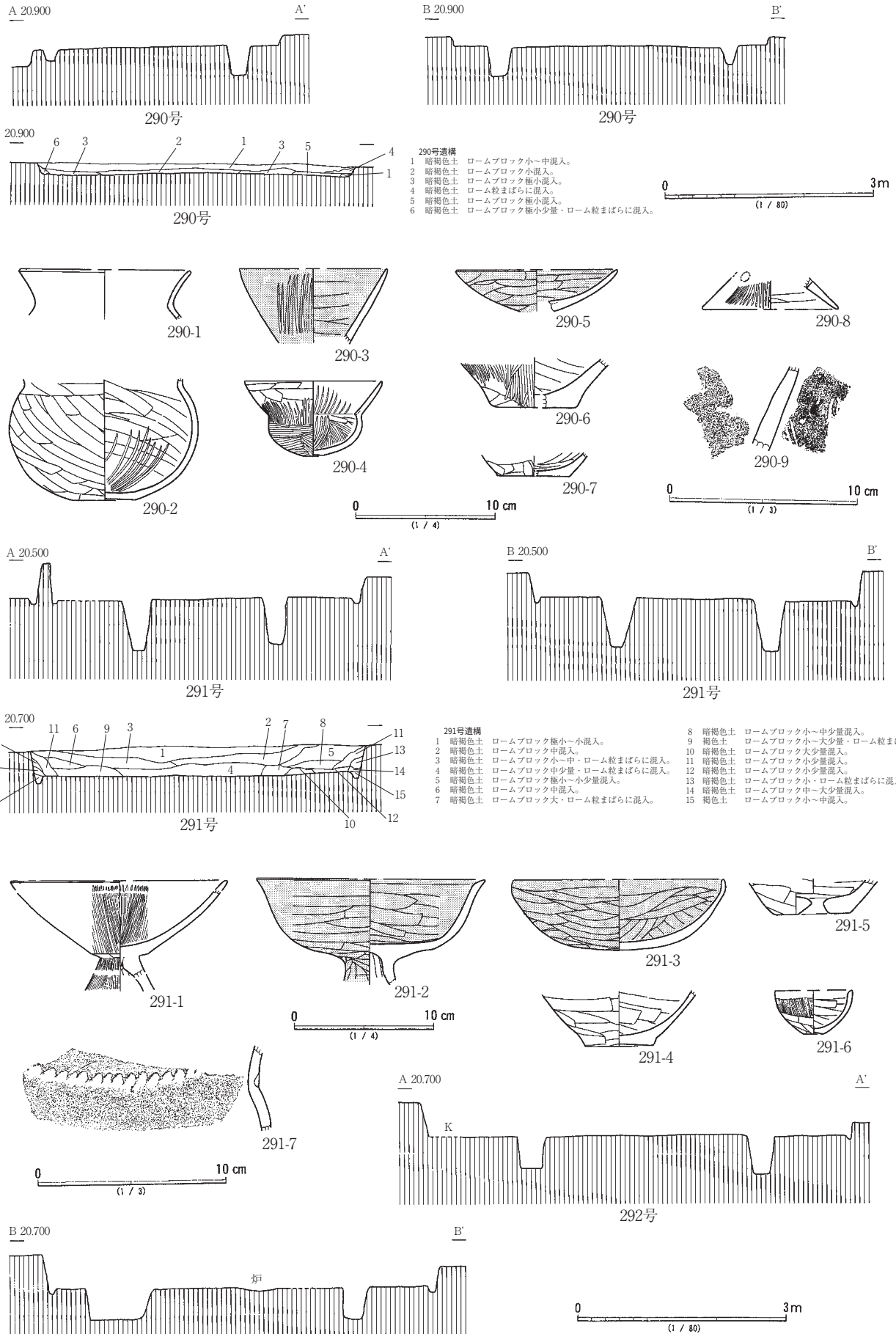
昭和53年度調査時遺構番号32A号。287号竪穴南側に隣接し、288号・290号・310号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径5.60m短径5.12mを測り、主軸方位はN－39 °－Wを示す。炉は288号竪穴に削平され未検出である。

残存する壁高はそれぞれ東壁28㎝、西壁26㎝、南壁34㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であるがあまり堅く踏み固められていない。ピットは７ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴、Ｐ６は入口施設と想定され、深さはＰ１が288号竪穴床面から61㎝、本跡床面換算で72㎝、Ｐ２も同様に53㎝、64㎝を測る。Ｐ３は75㎝、Ｐ４は81㎝、Ｐ５は54㎝、Ｐ６は25㎝、Ｐ７は30㎝を測る。

遺物

本遺構からは172点2,012gの土器片と２点22gの礫が検出された。土器片等の内訳は、10点319gの土師器、160点1,690gの弥生土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

１・３～５は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。



第260図　290 ～ 292号遺構実測図・290・291号遺構出土遺物実測図

290号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号30号。289号竪穴東側に隣接し、289号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.58m短径3.92mを測り、主軸方位はN－29°－Eを示す。重複が少ない割に炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ東壁16㎝、西壁12㎝、南壁14㎝、北壁14㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であるが北側を除いてあまり堅く踏み固められていない。ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定されるが、通常の竪穴に比べかなりコーナーに近い位置で検出されている。深さはＰ１が28㎝、Ｐ２が27㎝、Ｐ３は27㎝、Ｐ４は42㎝を測る。

遺物

本遺構からは93点1,557gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、70点1,237gの土師器、22点300gの弥生土器、１点20gの近世陶器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

２・４は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

291号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号26号。調査区東端部に存在し、１号円形周溝・292号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.80m短径4.56mを測り、主軸方位はN－29°－Wを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する火床長径0.32m短径0.18m深さ５㎝を測り、火床主軸方位はN－26°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁45㎝、西壁34㎝、南壁55㎝、北壁31㎝を測り、周溝はほぼ全周し、深さは１～10㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、やや凹凸があり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が71㎝、Ｐ２が67㎝、Ｐ３は72㎝、Ｐ４は74㎝を測る。

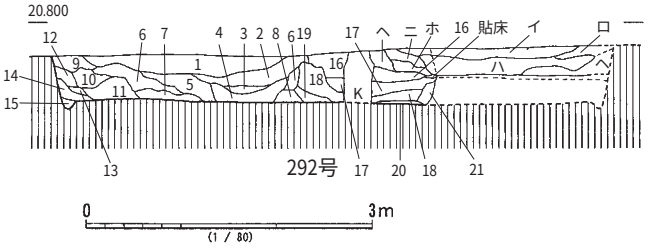
遺物

本遺構からは486点6,005gの土器片と３点21gの礫が検出された。土器片等の内訳は、448点5,464gの土師器、36点515gの弥生土器、１点11gの手づくね土器、１点15gの縄文土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

３は、カマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。１は１号円形周溝に伴う可能性がある。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

292号遺構（竪穴住居跡）

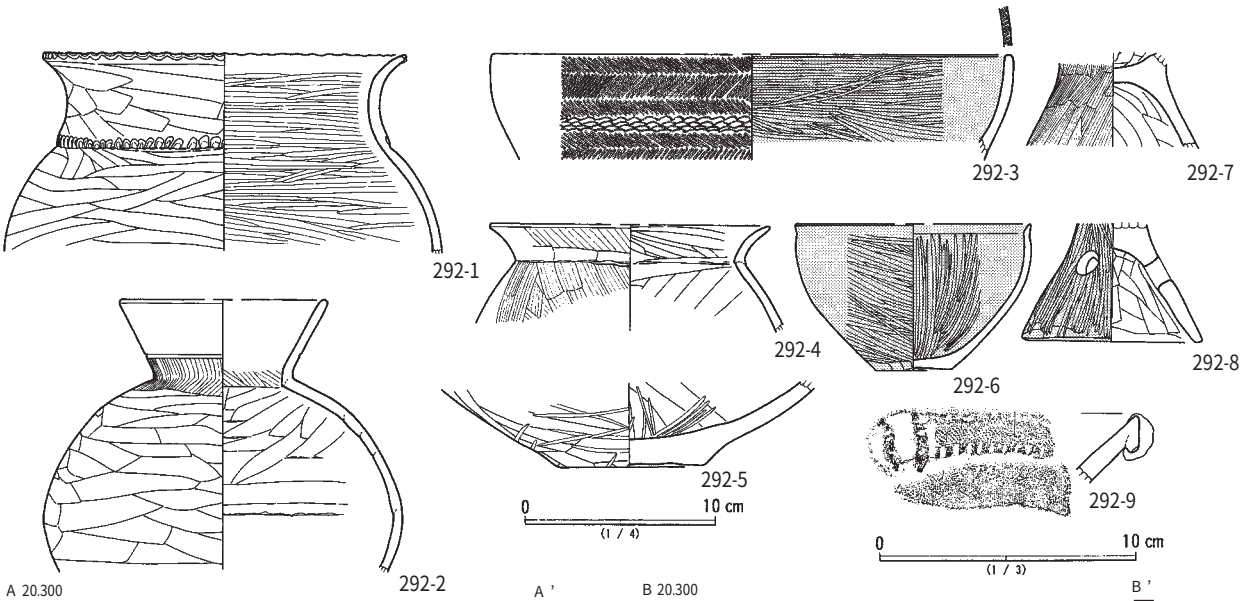
昭和53年度調査時遺構番号25号。291号竪穴南側に隣接し、291号・293号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.15m短径5.80mを測り、主軸方位はN－43°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央ややＰ１よりの若干南側に検出され、残存する火床長径0.96m短径0.75m深さ４㎝を測り、火床長軸方位はN－39°－Wを示す。

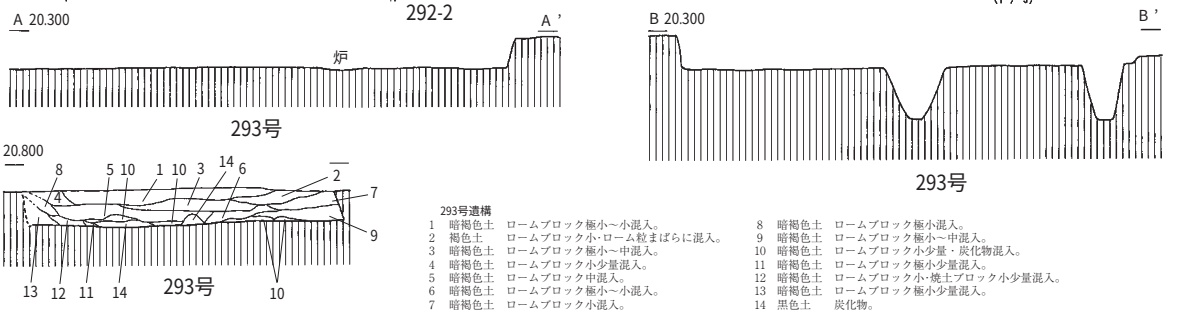


292号遺構

1 暗褐色土 ロームブロック小～大少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
3 暗褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。
4 黒褐色土 ロームブロック小～中混入。
5 褐色土 ロームブロック極大・ローム粒まばらに混入。
6 褐色土 ロームブロック大～極大・ローム粒まばらに混入。
7 褐色土 ロームブロック中～大・ローム粒まばらに混入。
8 褐色土 ロームブロック中～大・ローム粒まばらに混入。
9 褐色土 ロームブロック小～中混入。
10 暗褐色土 ロームブロック小～大少量混入。
11 黒褐色土 ロームブロック小少量混入。
12 暗褐色土 ロームブロック極小・ローム粒まばらに混入。
13 赤褐色土 焼土混入。
14 暗褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。
15 褐色土 ロームブロック極小多量に混入。
16 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
17 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
18 褐色土 ロームブロック大・ローム粒まばらに混入。
19 暗褐色土 ロームブロック中少量・ローム粒まばらに混入。
20 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
21 暗褐色土 ロームブロック小混入。

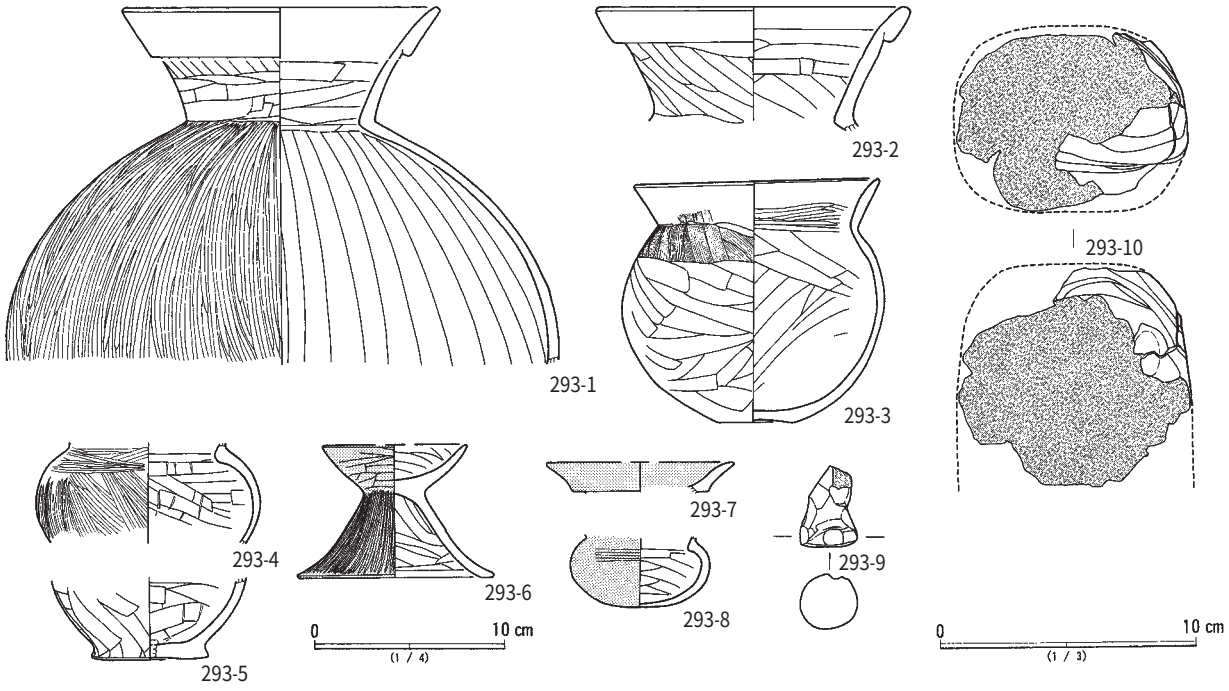
イ 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
ロ 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
ハ 褐色土 ロームブロック小～中混入。
ニ 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
ホ 暗褐色土 ロームブロック小混入。
ヘ 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。





293号遺構

1 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
2 褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
3 暗褐色土 ロームブロック極小～中混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック中混入。
6 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
7 暗褐色土 ロームブロック小混入。
8 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
9 暗褐色土 ロームブロック極小～中混入。
10 暗褐色土 ロームブロック小少量・炭化物混入。
11 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
12 暗褐色土 ロームブロック小・焼土ブロック小少量混入。
13 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
14 黒色土 炭化物。



第261図　292・293号遺構実測図・292・293号遺構出土遺物実測図

残存する壁高はそれぞれ北東壁47㎝、南東壁38㎝、北西壁38㎝、南西壁28㎝を測り、周溝はほぼ全周し、深さは７～10㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦で、全体的に堅く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出された。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が45㎝、Ｐ２が56㎝、Ｐ３は55㎝、Ｐ４は46㎝、Ｐ５は43㎝、Ｐ６は14㎝を測る。

焼土は９ヶ所、炭化物は１ヶ所に検出されるが、厚さの測定値はない。

遺物

本遺構からは277点4,712gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、155点3,580gの土師器、121点1,127gの弥生土器、１点５gの縄文土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

１・３・５・７・８は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

293号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号23号。292号竪穴南側に隣接し、292号竪穴を削平し、294号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.06m短径4.85mを測り、主軸方位はN－56 °－Wを示す。炉は中央やや東側に検出され、残存する火床長径0.77m短径0.47m深さ３㎝を測り、火床主軸方位はN－49 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁33㎝、南東壁31㎝、北西壁６㎝、南西壁25㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、やや凹凸あるが、全体的に堅く踏み固められている。ピットは295号竪穴貼床下から本跡貯蔵穴と想定されるＰ５が検出され、深さは297号床面から60㎝、本跡床面換算で56㎝を測る。

炉の周囲に、建築材と思われる炭化物が11ヶ所に検出された。

遺物

本遺構からは305点5,119gの土器片と５点177gの礫、５点782gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、281点4,698gの土師器、22点371gの弥生土器、１点30gのミニチュア土器、１点20gの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１～３は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

294号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号22A号。293号竪穴南側に隣接して存在する竪穴住居跡である。調査日誌における調査時の所見からも、本跡と295号・297号との重複関係がうまく説明しきれておらず、混乱した状況で調査が行われていたことが窺い知れる。本跡はその掘り方が297号竪穴の炉を削平する竪穴住居跡である。南側の一部に本跡壁面と思われる立ち上がりが存在し、297号竪穴の炉を削平することから、本跡遺構規模は推定長径4.20m短径4.15mの方形と想定され、主軸方位はN－23 °－Ｅを示す。炉はＰ１・Ｐ２中央ややＰ２寄りに検出され、残存する火床長径0.90m短径0.52m深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－73 °－Wを示す。

残存する壁高は南壁６～８㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、やや凹凸あるが、全体的に堅く踏み固められている。本跡と295号竪穴にはピットは検出さ

れない。とされるが、完掘状況写真では、295号竪穴にはピットが明瞭に写っており、炉の位置から判断すれば295号竪穴と重複していた可能性が極めて高い。なお、記録写真から判断すれば、調査図面のカマド前面と南側壁高の床面比高差は本跡下層の297号床面との差であると判断され、本跡と295号竪穴床面との差はほとんど存在しないと想定される。

遺物

調査平面図における本跡推定プラン内からは極めて多量の遺物が出土し、全て本跡に伴うものかのごとく注記が施されている。しかし、カマドを保持しない本跡にも関わらず295号竪穴カマドと想定される粘土周辺や、遺構中央部から検出された極めて多くの遺物が本跡出土遺物として取扱われていることはいったん保留しなければならない。本跡床面は先の南壁から３㎝前後295号竪穴より低く、また295号カマド前面や側面の床レベルから２㎝前後低い。記録写真の観察からも、遺構中央部出土遺物は、297号床上に貼床を施した295号竪穴床面から出土したと思われるほどカマド前面遺物と同一レベルで出土しており、これら出土遺物の大半は本跡より新しい段階の295号竪穴に伴うものと判断することが妥当であろう。

ちなみに本遺構からは777点24,902gの土器片と５点380gの礫、１点41gの磨石、１点330gの磨石・敲石、１点17.1gの刀子と１点2.2gの鉄片が検出され、土器片等の内訳は、686点23,665gの土師器、89点1,112gの弥生土器、２点125gのミニチュア土器であるが、最大２～３㎝しか存在しない本跡覆土からこれだけの遺物が出土する根拠がない。これらの理由により、本跡出土遺物として提示できる遺物はない。

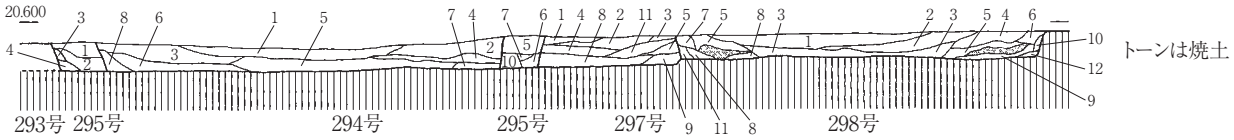
295号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号22B号。293号竪穴南側に隣接し，293号・297号竪穴に貼床をもって構築され、294号・296号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。推定長径5.12m推定短径4.84mの方形と想定され、主軸方位はN－66 °－Wを示す。カマドは北壁際から離れて、東側に偏った位置に構築されるが未調査である。調査図面と記録写真から観察される柱穴の位置から、カマドは壁から離れて存在する初期カマドと想定される。そうすると294号竪穴に存在した炉の存在が気がかりとなる。294号竪穴は本跡主柱穴と重複していること、床面のレベル差がほとんど無いこと等を考慮すると、本跡に拡張・建替え以前の竪穴と想定することが可能であり、そうすると本跡は一時期炉とカマドを共用した竪穴と想定することも可能である。

残存する壁高は西壁24㎝、南壁23㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれた貼床で、やや凹凸あるが、全体的に堅く踏み固められている。本跡にはピットは検出されないとされるが、完掘状況写真では、295号竪穴にはピットが明瞭に写っており、カマドの位置から判断すれば記録写真に写るピットは本跡主柱穴と判断される。規模と深さについては293号・297号調査図面にＰ１を除いて記載されており、それぞれＰ２は293号竪穴床面から60㎝、本跡床面換算で68㎝を測る。Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は297号竪穴床面から62㎝、58㎝、60㎝、本跡床面換算で67㎝、63㎝、65㎝を測る。Ｐ５はその位置から293号竪穴貯蔵穴と想定される。

遺物

本跡からは先の294号竪穴出土遺物の大半が出土したと想定される。294号竪穴からは777点24,902gの土器片と５点380gの礫、１点41gの磨石、１点330gの磨石・敲石、１点17.1gの刀子と１点2.2gの鉄片が検出され、土器片等の内訳は、686点23,665gの土師器、89点1,112gの弥生土器、２点125gのミニ



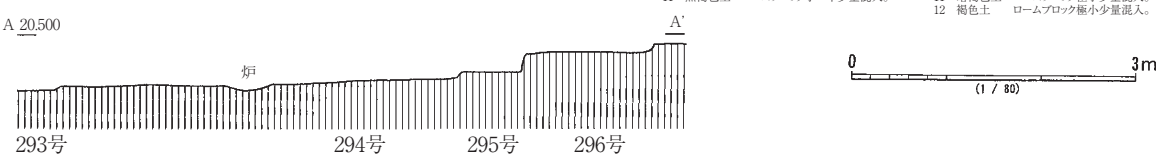
293号遺構
記載なし

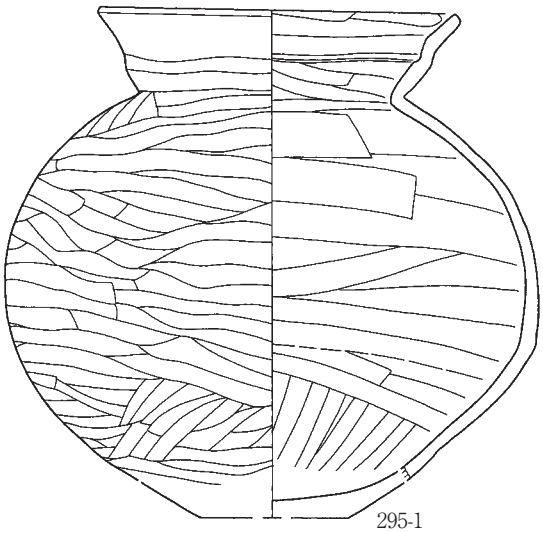
294号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中・焼土ブロック中少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック極小～小少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小～中・焼土ブロック中混入。
5 暗褐色土 ロームブロック中・焼土ブロック小～大混入。
6 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
7 暗褐色土 粘土・焼土ブロック中混入。
8 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。

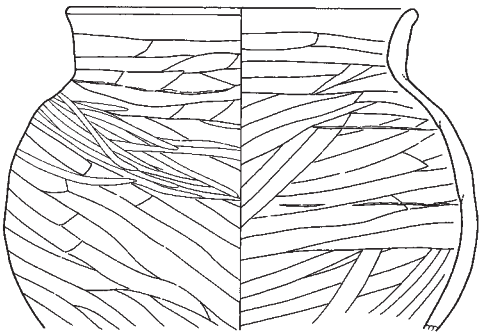
295号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック極小～中少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック極小・ローム粒まばらに混入。

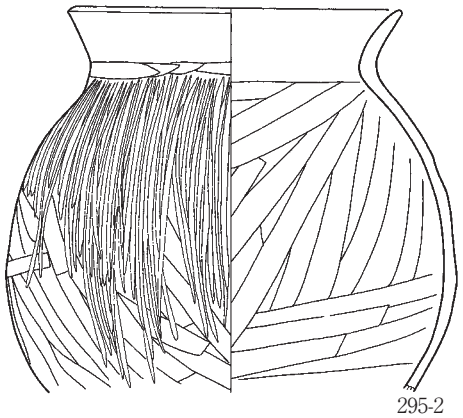
297号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～大混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
5 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
6 暗褐色土 ロームブロック中～極大混入。
7 暗褐色土 ロームブロック大少量混入。
8 暗褐色土 ロームブロック中～極大混入。
9 褐色土 ロームブロック極小～小少量混入。
10 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
11 黒褐色土 ロームブロック小～中少量混入。

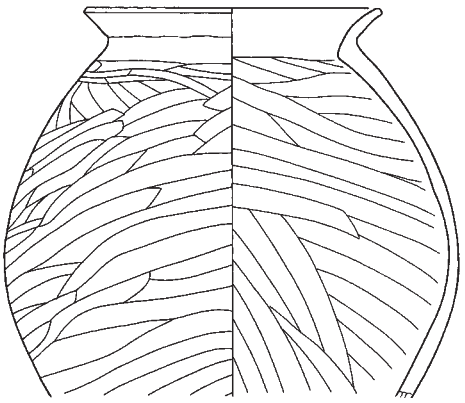
298号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小混入。
3 暗褐色土 ロームブロック極小～中少量混入。
4 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
5 暗褐色土 ロームブロック極小・焼土ブロック極小まばらに混入。
6 褐色土 ロームブロック極小少量・ローム粒まばらに混入。
7 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
8 暗褐色土 焼土少量・灰混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小・焼土まばらに混入。
10 褐色土 ローム粒まばらに混入。
11 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
12 褐色土 ロームブロック極小少量混入。

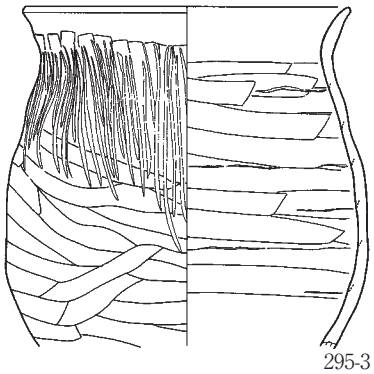


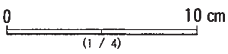

295-1

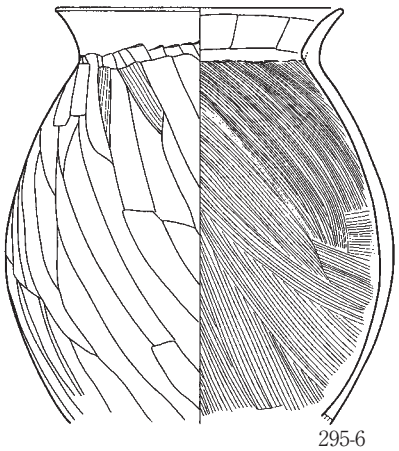

295-4


295-2

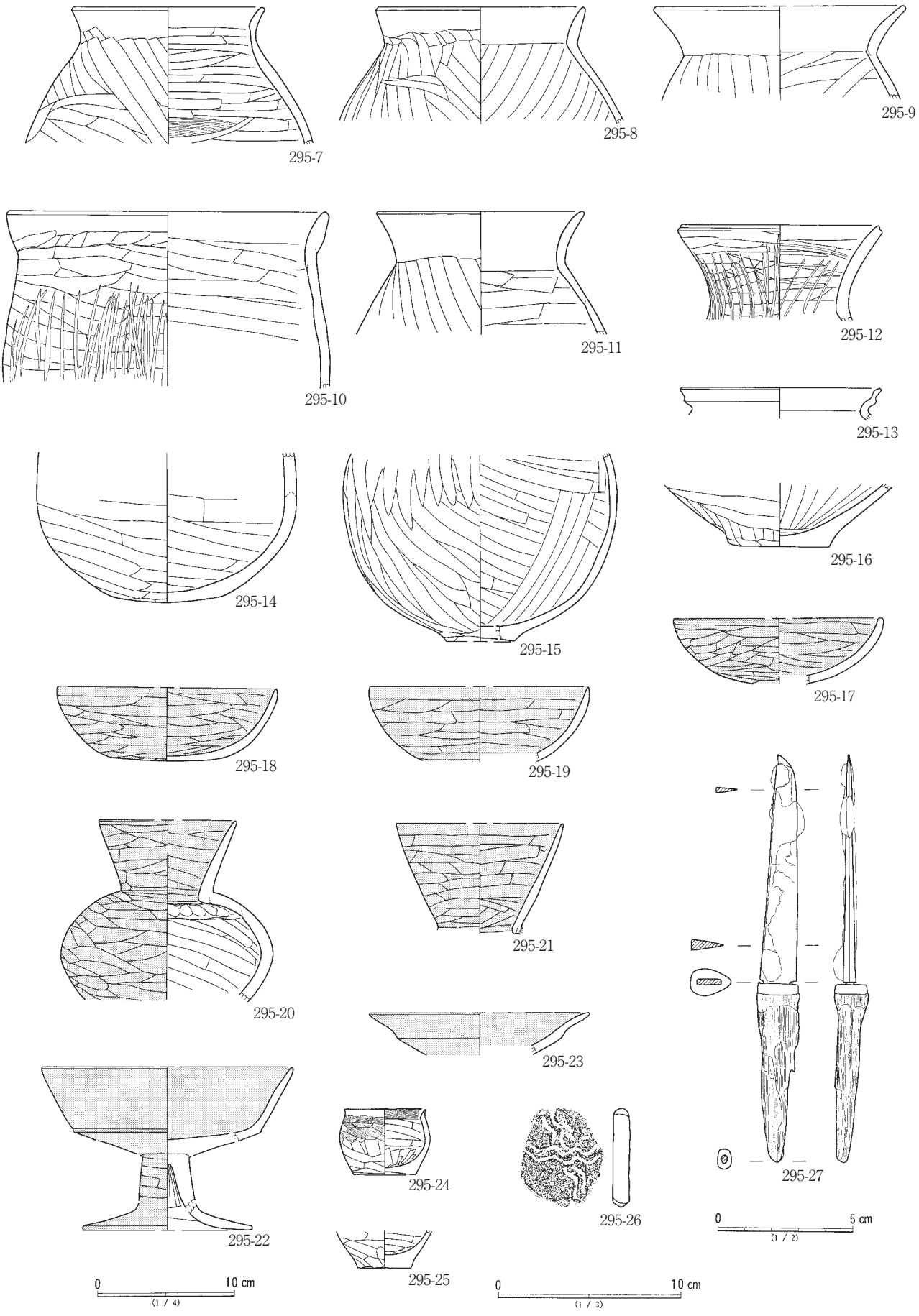

295-5


295-3

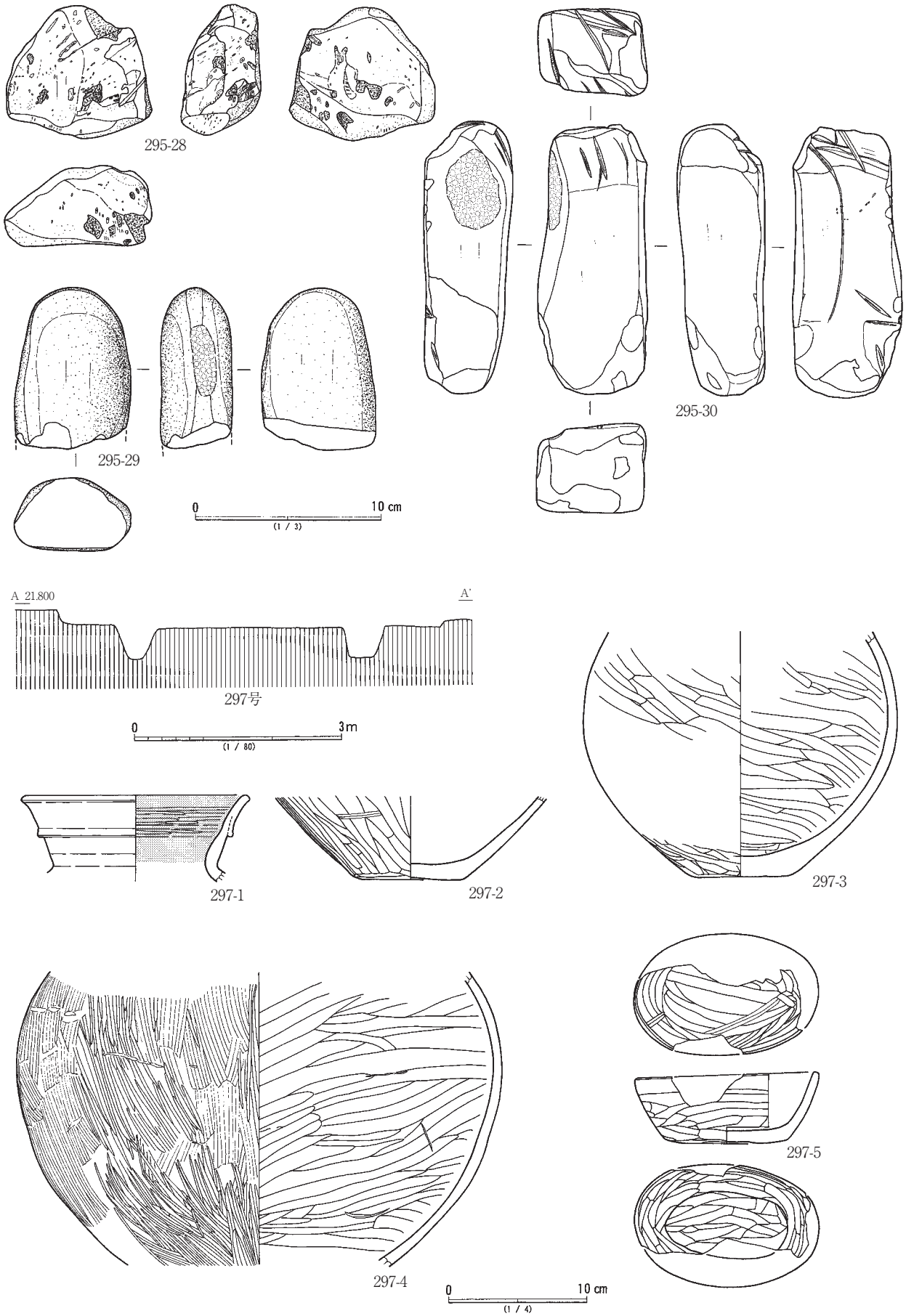



295-6

第262図　293～298号遺構実測図・295号遺構出土遺物実測図



第263図　295号遺構出土遺物実測図



第264図　297号遺構実測図・295・297号遺構出土遺物実測図

チュア土器であるが、これに本跡独自で出土した102点2,469gの土器片と１点619gの砥石が検出され、土器片の内訳は95点2,325gの土師器、７点144gの弥生土器が加算される。これらの出土遺物の内30点を図示した。

１～11・14～16・18・20・22・24・27～30は、床直ないしは床直上あるいはカマド周辺で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。なお、本跡出土遺物は、御林跡遺跡におけるカマド導入期を示し興味深い。

296号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号22C号。295号竪穴南側に隣接し、295号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.08m短径2.95mを測り、主軸方位はN－60°－Wを示す。炉は295号竪穴に削平されて未検出であり、残存する壁高はそれぞれ東壁５㎝、西壁６㎝、南壁７㎝、北壁10㎝を測り、周溝は存在しない。

床面はソフトローム層中に掘り込まれ軟弱で、全体的に踏み固められた痕跡がない。ピットは未検出である。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

297号遺構（竪穴住居跡）

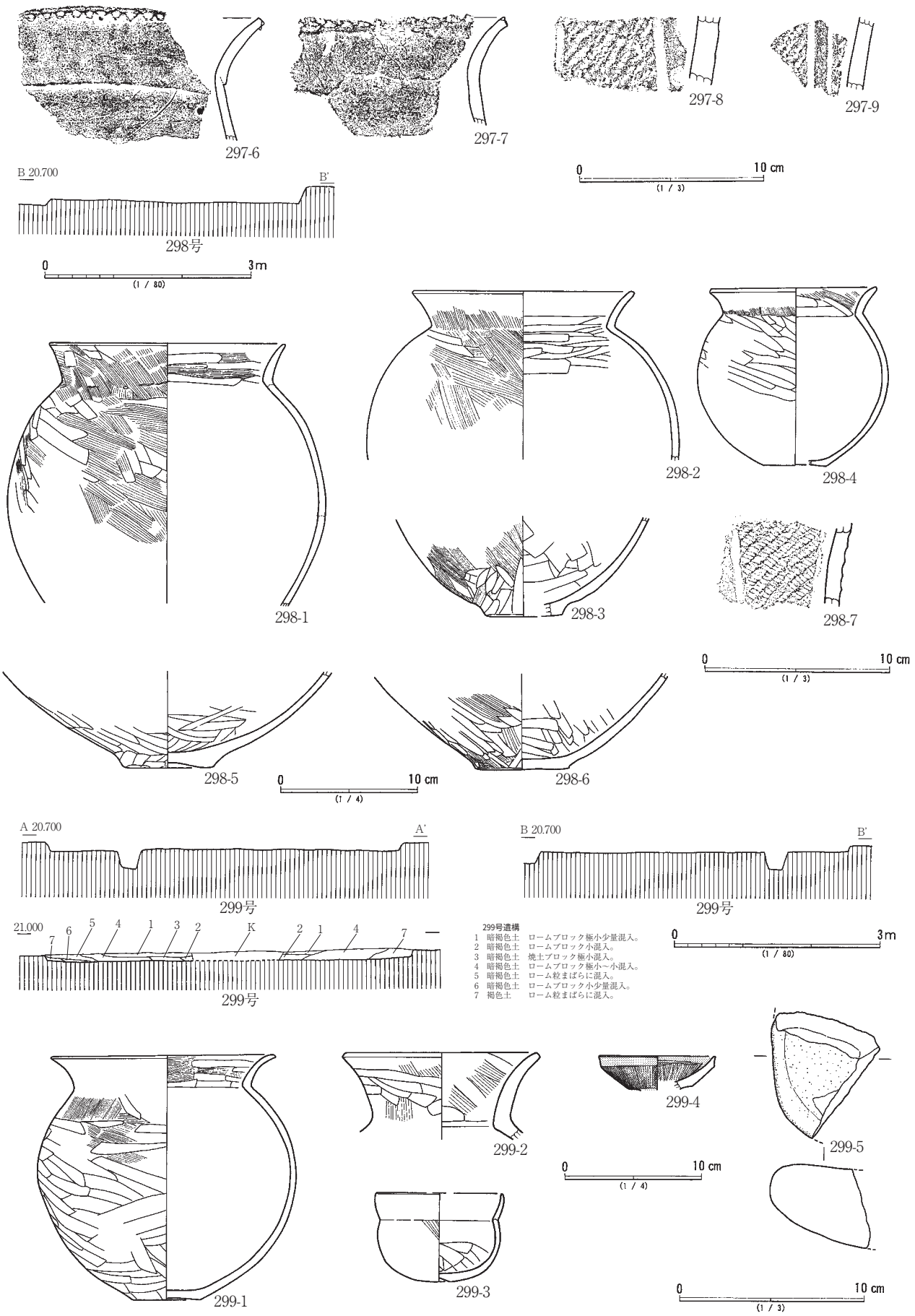
昭和53年度調査時遺構番号20・21号。295号竪穴東側に隣接し、295号・298号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。推定長径6.40m短径5.70mを測り、主軸方位はN－35°－Wを示す。炉は、残存する主柱穴によって想定されるＰ１・Ｐ２間の中央やや南側に、一部294号竪穴に削平されて存在し、残存する火床長径0.70m短径0.50m深さ５㎝を測り、推定火床長軸方位はN－36°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁13㎝、南東壁23㎝、南西壁19㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、北側が床面より７㎝ほど高く、295遺構カマド面と同レベルなことから、調査者はこれを本跡とは別遺構の床面と捉えていたが、この一段高い範囲が本跡掘り方の北壁を越えないことから、所謂ベッド状遺構の床面構造を持つ竪穴住居と捉えた方が無難と考える。なお、このベッド状遺構と想定される遺構は、写真図版97の本跡周辺写真によって、南側にも存在していたことが察知される。床面・ベッド状遺構とも平坦で、全体的に堅く踏み固められている。ピットは８ヶ所に検出された。Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ２が42㎝、Ｐ３は44㎝、Ｐ４は44㎝、Ｐ５は65㎝、Ｐ６は23㎝、Ｐ７は17㎝、Ｐ８は17㎝を測る。Ｐ１は残存する主柱穴によって想定される位置に復元したものである。

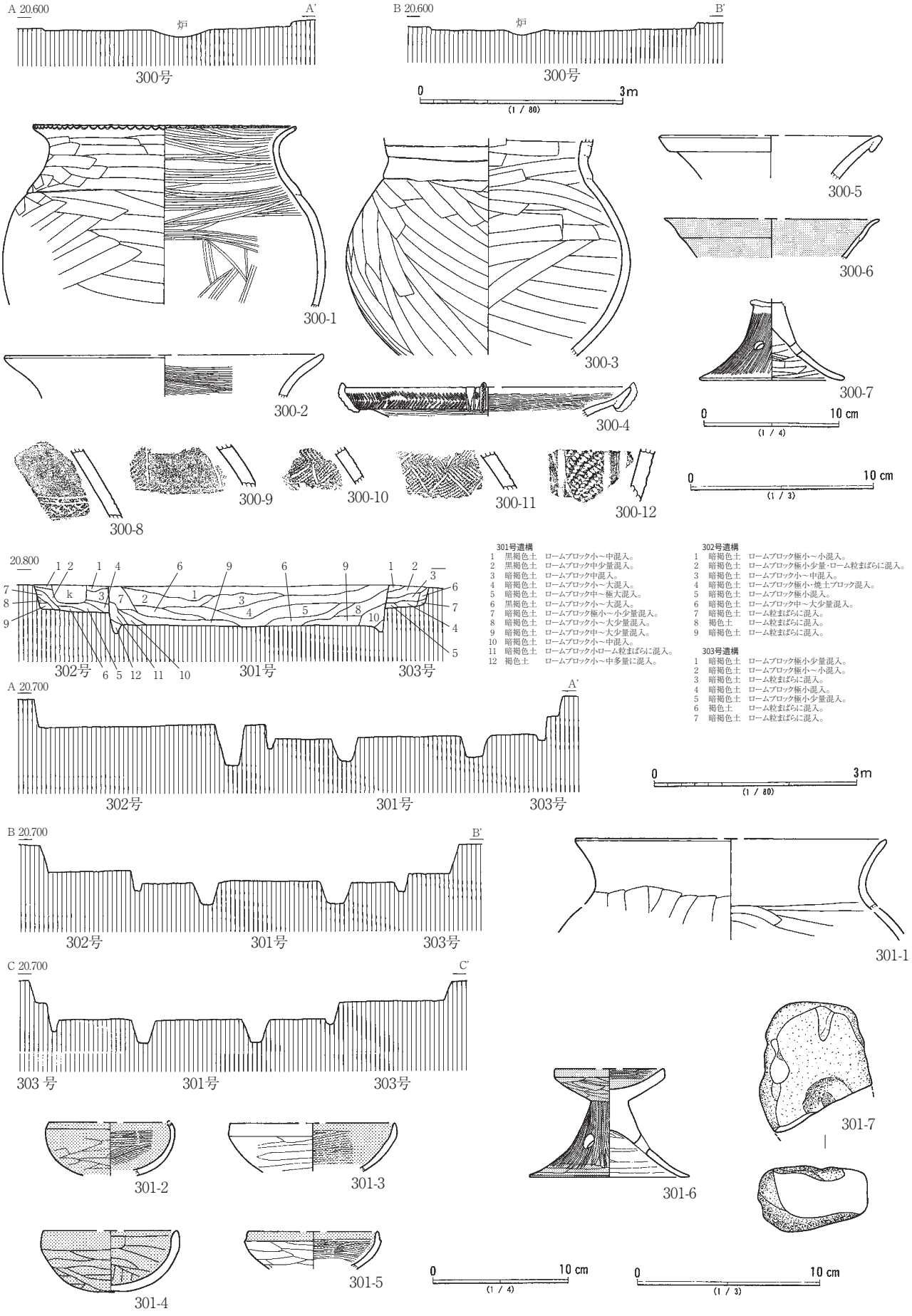
遺物

本遺構からは354点8,879gの土器片と１点10gの礫、７点245gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、297点7,807gの土師器、53点976gの弥生土器、４点96gの縄文土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

２～５は、床直で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。６も床直で検出されているが本跡に直接伴うものとは考えられない。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。



第265図　298・299号遺構実測図・297～299号遺構出土遺物実測図



第266図　300 ～ 303号遺構実測図・300・301号遺構出土遺物実測図

298号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号19号。297号竪穴東側に隣接し、297号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.80m短径3.74mを測り、主軸方位はN－58 °－Wを示す。炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ北東壁24㎝、南東壁14㎝、南西壁12㎝、北西24㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、297号竪穴と重複する範囲には厚さ10㎝程の貼床を形成する。ピットは検出されなかった。焼土は５ヶ所に検出され厚さ１～11㎝を測る。

遺物

本遺構からは192点3,962gの土器片と１点116gの礫が検出された。土器片等の内訳は、184点3,852gの土師器、７点80gの弥生土器、１点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

１～７は、何れも床直ないしは床直上で検出されており、７を除けば本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

299号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号18号。297号竪穴南側に隣接し、297号竪穴と重複して存在する竪穴住居跡である。長径5.35m短径5.10mを測り、主軸方位はN－59 °－Wを示す。炉は遺構中央に存在するゴミ穴によって削平されている。

残存する壁高はそれぞれ北東壁12㎝、南東壁13㎝、南西壁13㎝、北西12㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、軟弱である。ピットは１ヶ所に検出され、深さは25㎝を測る。焼土は２ヶ所に検出され、厚さ２㎝を測る。

遺物

本遺構からは131点2,620gの土器片と１点120gの石皿片が検出された。土器片等の内訳は、99点2,203gの土師器、27点362gの弥生土器、１点５gの手づくね土器、４点50gの縄文土器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。

１・３は、何れも床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

300号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号24号。調査区東端部に単独で存在する竪穴住居跡である。長径3.92m短径3.97mを測り、主軸方位はN－58 °－Wを示す。炉は中央やや北側に検出され、残存する火床長径0.88m短径0.64m深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－52 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁５㎝、南東壁２㎝、南西壁10㎝、北西壁８㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、軟弱である。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは248点2,852gの土器片と１点30gの礫が検出された。土器片等の内訳は、240点2,272gの土師器、７点560gの弥生土器、１点20gの縄文土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

掘り込みが浅いため、２・４・７が炉内より、１・３・５・８・11が床直に近い状態で検出されている。これらの出土遺物のうち12以外は、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

301号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号39号。255号竪穴の南東に位置し、302号・303号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.28m短径4.14mを測り、主軸方位はN－27°－Wを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する火床長径0.84m短径0.32m深さ８㎝を測り、火床主軸方位はN－29°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁28㎝、西壁29㎝、南壁29㎝、北壁23㎝を測り、周溝は全周し、深さは７～14㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、全体的に堅く踏み込まれている。ピットは６ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が34㎝、Ｐ２が34㎝、Ｐ３は36㎝、Ｐ４は35㎝、Ｐ５は22㎝、Ｐ６は43㎝を測る。

Ｐ６から南壁際にかけて厚さ４㎝の粘土ブロックが検出された。Ｐ１付近の床面からは粘土と炭化物が検出されている。

遺物

本遺構からは451点6,050gの土器片と４点850gの礫、１点158gの凹石が検出された。土器片等の内訳は、332点4,488gの土師器、３点22gの須恵器、108点1,382gの弥生土器、７点140gの縄文土器、１点18gの近世陶器である。これらの出土遺物の内18点を図示した。

４・８は、床直上ないしはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

302号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号37号。301号竪穴の北に隣接し、303号竪穴を削平し、301号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.88m短径4.76mを測り、主軸方位はN－53°－Wを示す。炉は中央西側に検出され、残存する火床長径0.84m短径0.52m深さの記載はないが、火床主軸方位はN－37°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁27㎝、北西壁29㎝、南西壁34㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、全体的に堅く踏み込まれている。ピットは未検出であり、焼土は７ヶ所に、炭化物は５ヶ所に検出され厚さ４～12㎝を測る。

遺物

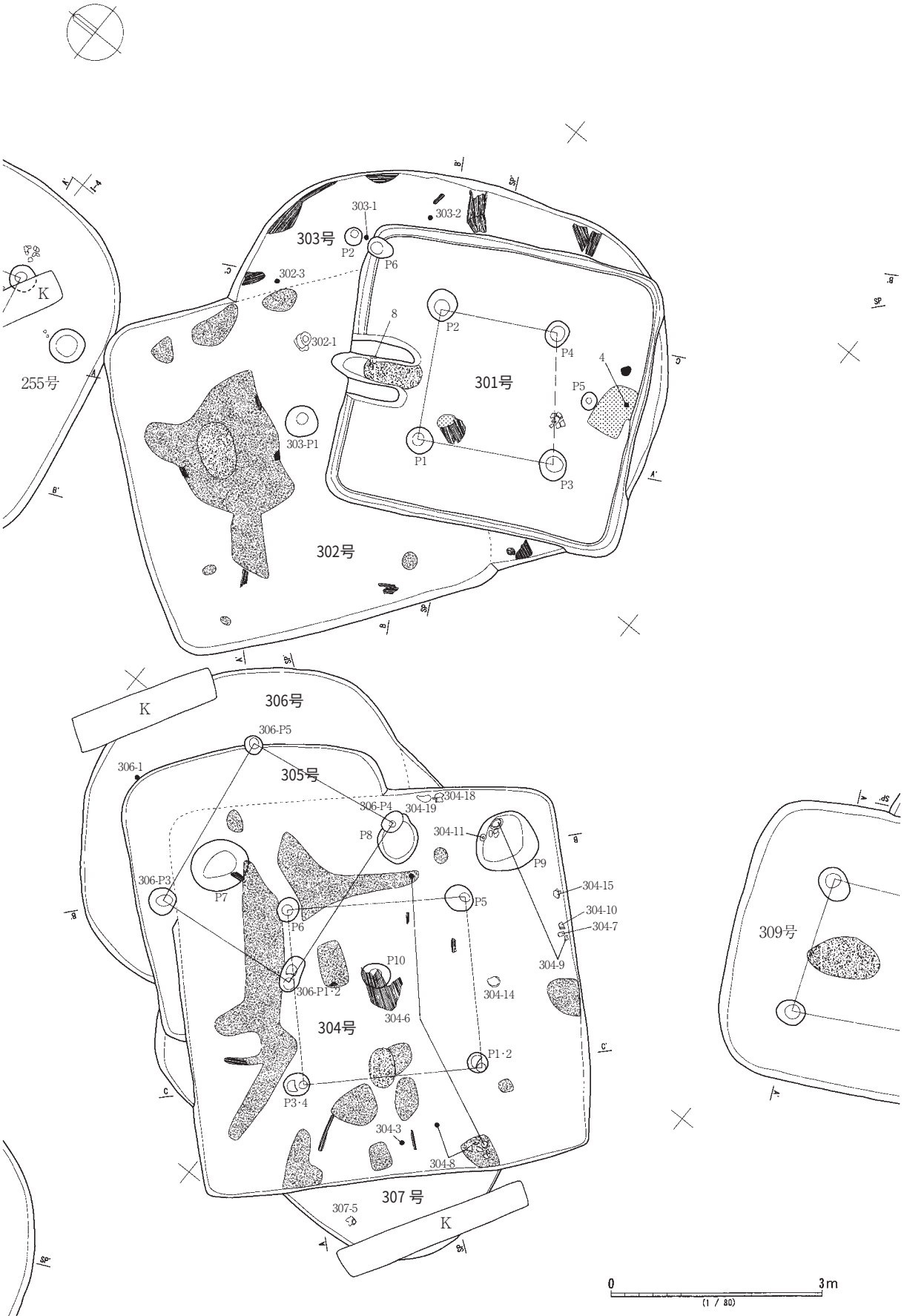
本遺構からは202点4,052gの土器片と２点60gの礫、１点118gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、102点3,007gの土師器、95点955gの弥生土器、５点90gの縄文土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

１は、床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。３は床から13㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

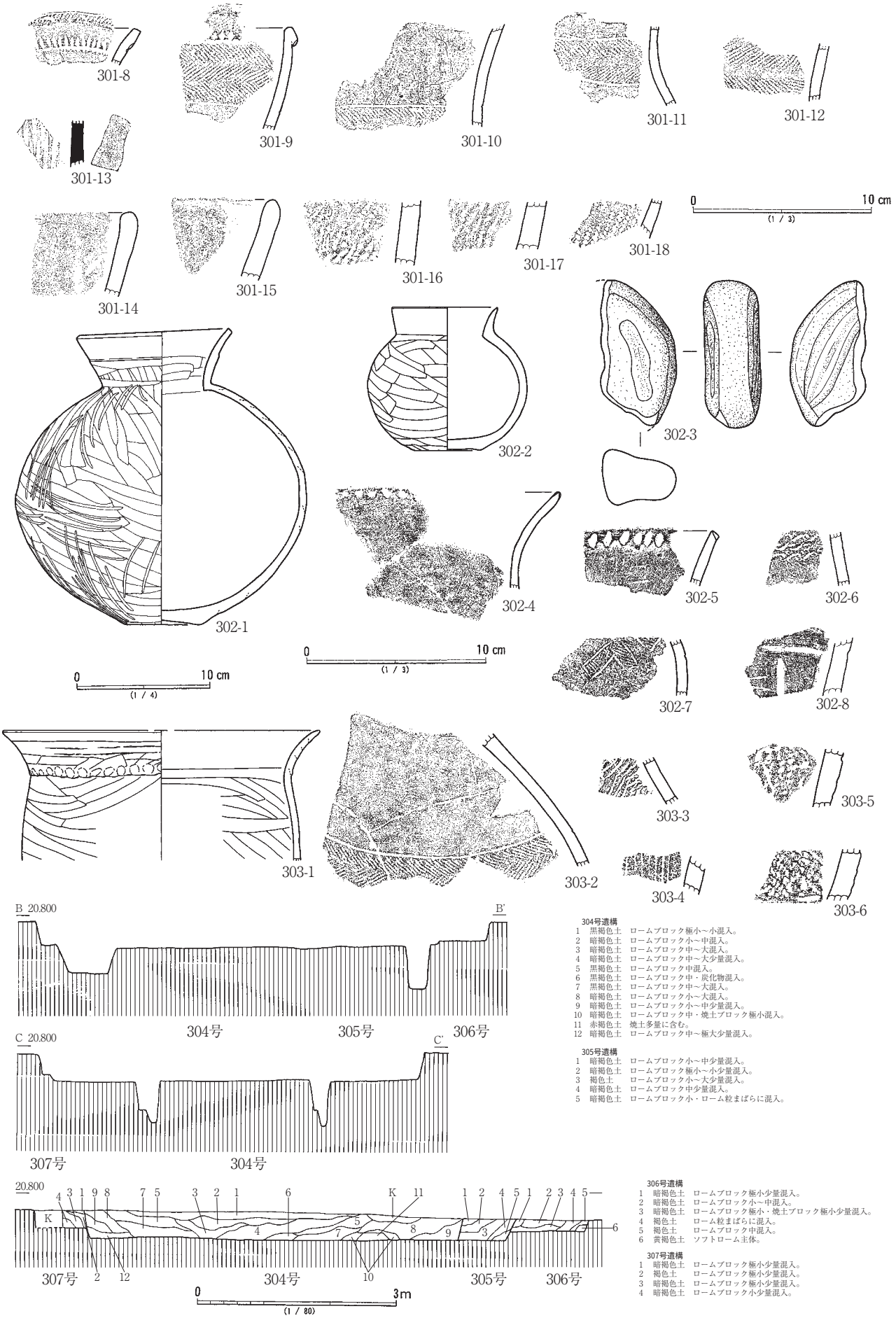
303号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号38号。302号竪穴の東に隣接し、301号・302号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.40mを測り、主軸方位はN－18°－Wを示す。炉は301号竪穴に削平されて存在しない。

残存する壁高はそれぞれ東壁26㎝、西壁35㎝、南壁31㎝、北壁28㎝を測り、周溝は存在しない。床



第267図　301 ～ 307号遺構実測図



304号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック極小～小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中～大少量混入。
5 黒褐色土 ロームブロック中混入。
6 黒褐色土 ロームブロック中・炭化物混入。
7 黒褐色土 ロームブロック中～大混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小～大混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
10 暗褐色土 ロームブロック中・焼土ブロック極小混入。
11 赤褐色土 焼土多量に含む。
12 暗褐色土 ロームブロック中～極大少量混入。

305号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック極小～小少量混入。
3 褐色土 ロームブロック小～大少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。

306号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック極小・焼土ブロック極小少量混入。
4 褐色土 ローム粒まばらに混入。
5 褐色土 ロームブロック中混入。
6 黄褐色土 ソフトローム主体。

307号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
2 褐色土 ロームブロック極小少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。

第268図　304～307号遺構実測図・301～303号遺構出土遺物実測図

面はハードローム層中に掘り込まれ、全体的に堅く踏み込まれている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはP １が60㎝、Ｐ ２が39㎝を測る。壁際には建築材と思われる炭化材が10 ヶ所に検出されている。

遺物

本遺構からは106点862gの土器片と１点５gの礫が検出された。土器片等の内訳は、２点12gの土師器、101点810gの弥生土器、１点15gの早期条痕文系土器、２点25gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内６点を図示した。

１・２は、床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

304号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号48号。301号竪穴の西側に位置し、305号・306号・307号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.70m短径5.54mを測り、主軸方位はN－134 °－Wを示す。炉はP １・Ｐ ３間の中央に検出され、残存する火床長径0.58m短径0.38m、深さの記載はないが、火床主軸方位はN－134 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁27㎝、南東壁41㎝、南西壁17㎝、北西壁40㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは10 ヶ所に検出された。Ｐ １・Ｐ ４・Ｐ ５・Ｐ ６は主柱穴、Ｐ ７・９は貯蔵穴、Ｐ ８は入口施設に伴うものと想定され、深さはP １が68㎝、Ｐ ２が45㎝、Ｐ ３は44㎝、Ｐ ４は63㎝、Ｐ ５は63㎝、Ｐ ６は71㎝、Ｐ ７が44㎝、Ｐ ８は20㎝、Ｐ ９が44㎝、P10が40㎝を測る。

焼土・炭化物は21箇所に検出され厚さは６～ 18㎝を測る。

遺物

本遺構からは781点12,679gの土器片と12点423.1gの礫、１点19.4gの磨石、１点2.2gの管玉が検出された。土器片等の内訳は、494点9,387gの土師器、１点35gの須恵器、274点3,050gの弥生土器、２点７gの手づくね土器、９点180gの縄文土器、１点20gの近世陶器である。これらの出土遺物の内33点を図示した。

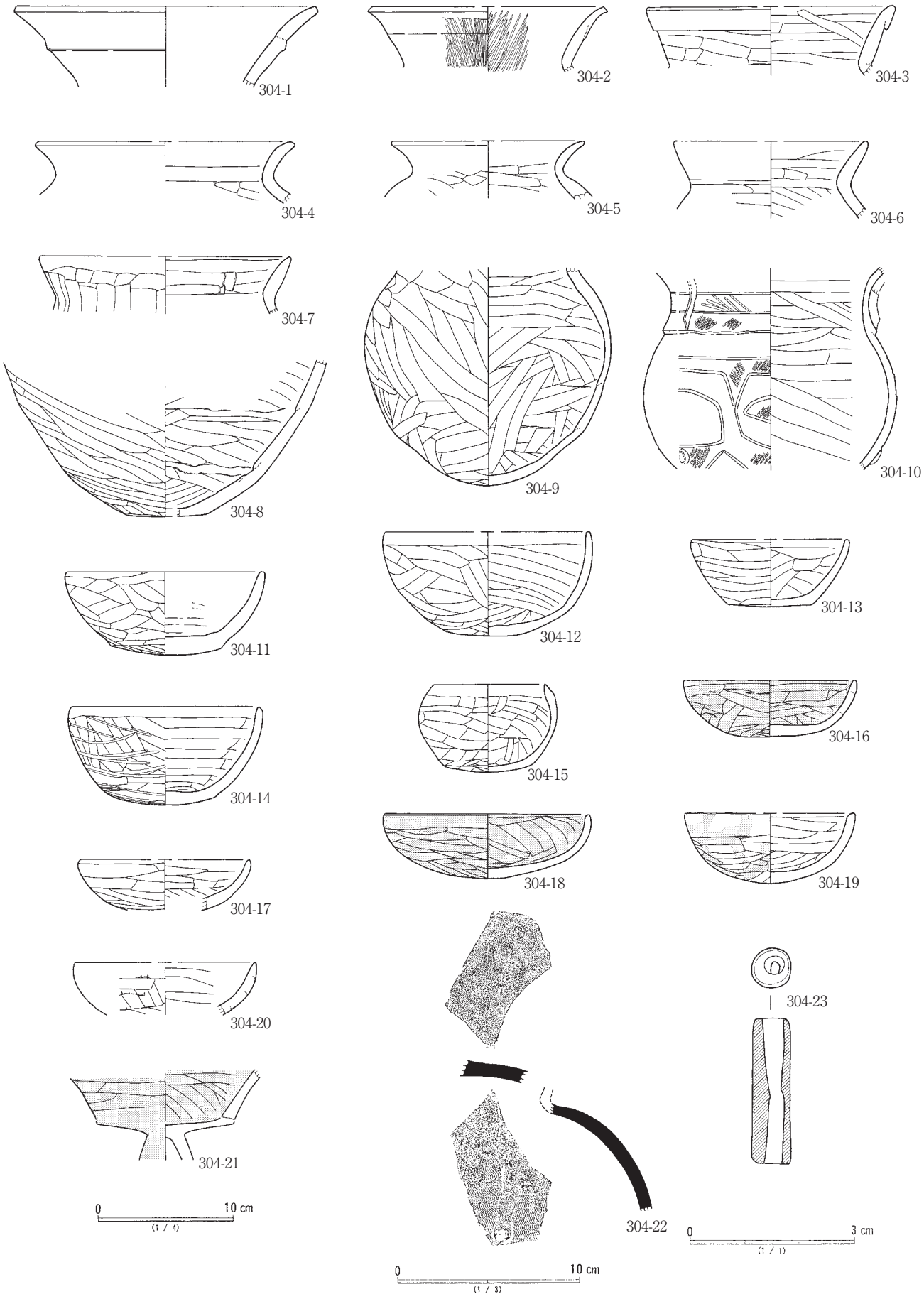
１・２・６・９・11・12・14・16・19・21は、床直ないしは床直上、あるいはピット内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。７・８・10・15・18は床面から12㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

305号遺構（竪穴住居跡）

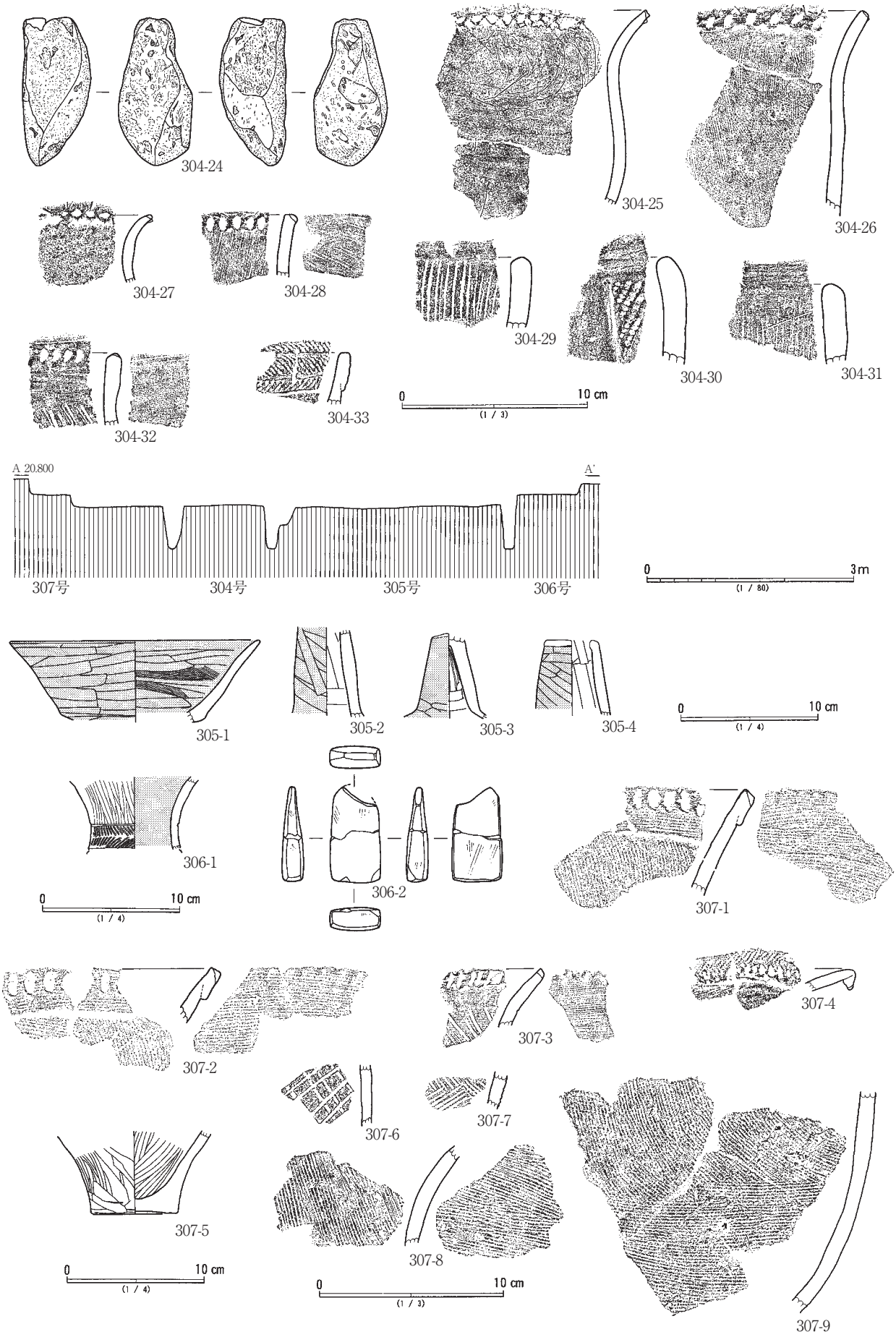
昭和53年度調査時遺構番号49号。304号竪穴の北側に隣接し、306号・307号竪穴を削平し、304号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.90m短径3.80mを測り、主軸方位はN－40 °－Eを示す。炉は304号竪穴に削平され存在しない。

残存する壁高はそれぞれ北東壁11㎝、南西壁６㎝、北西壁10㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは未検出である。

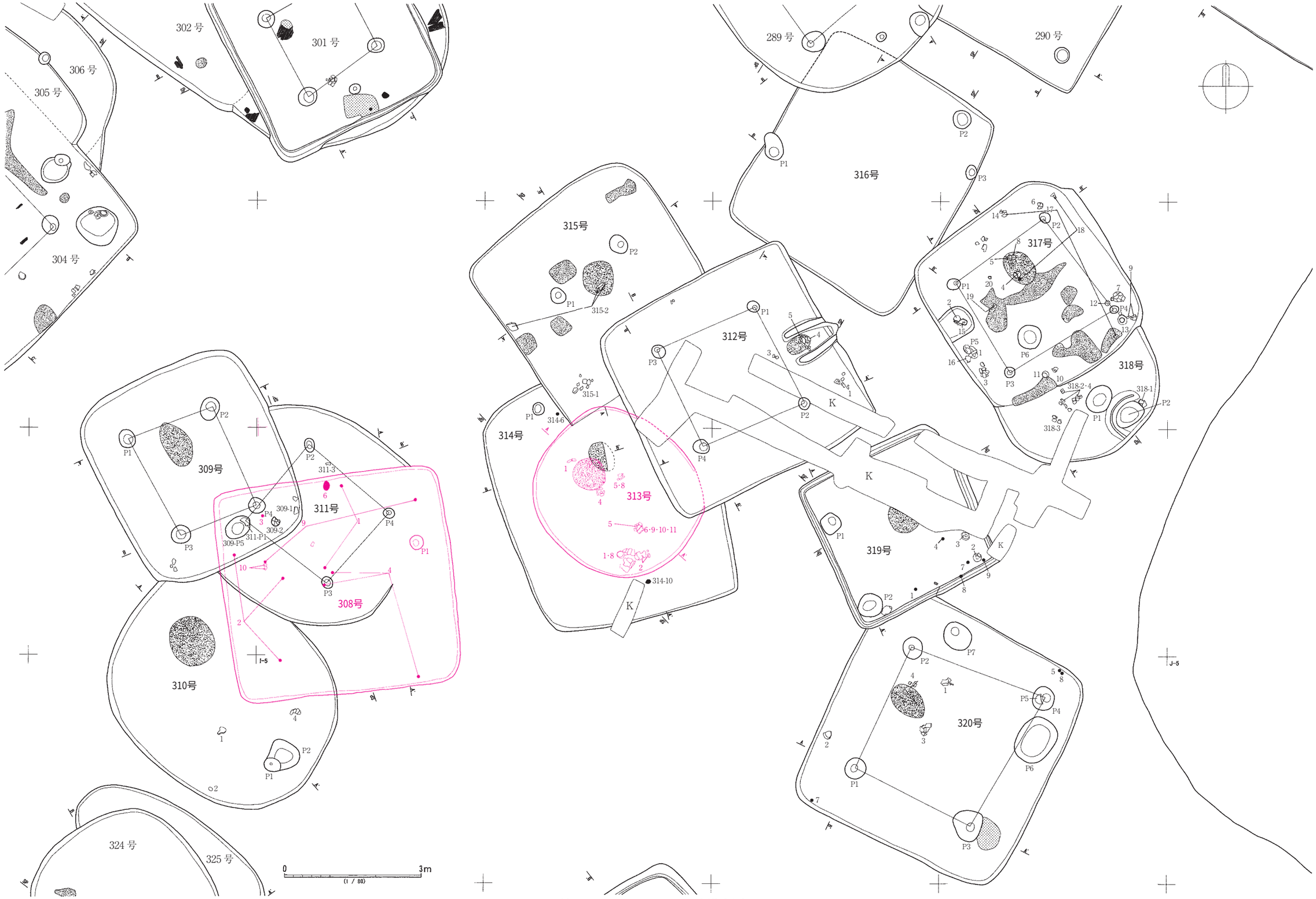
遺物



第269図　304号遺構出土遺物実測図



第270図　304 ～ 307号遺構実測図・出土遺物実測図



第271図　308 ～ 320号遺構実測図

本遺構からは28点759gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、17点620gの土師器、11点139gの弥生土器である。これらの出土遺物の内4点を図示した。

本跡出土遺物は全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。また図化した遺物は全て古墳古代中期のもので、304号竪穴に伴う可能性が高い。

306号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号50号。305号竪穴の北側に隣接し、304号・305号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径5.16mを測り、主軸方位はN－97°－Wを示す。炉は304号竪穴に削平されて存在しない。

残存する壁高はそれぞれ北東壁18㎝、南東壁20㎝、南西壁23㎝、北西壁27㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴と想定され、深さはＰ１が63㎝、Ｐ２が27㎝、Ｐ３は71㎝、Ｐ４は71㎝、Ｐ５は63㎝を測る。

遺物

本遺構からは１点80gの弥生土器と１点20gの砥石が検出され、２点とも図示した。

１は床直で検出されており、本跡に伴う可能性が高い。２は一括で取上げられており、出土地点を明示できない。

307号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号51号。304号竪穴の西側に隣接し、304号・305号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長径5.14mを測り、主軸方位はN－５°－Eを示す。炉は304号竪穴に削平されて存在しない。

残存する壁高はそれぞれ西壁31㎝、南壁21㎝、北壁28㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であるが、あまり堅く踏み固められていない。ピットは未検出である。

遺物

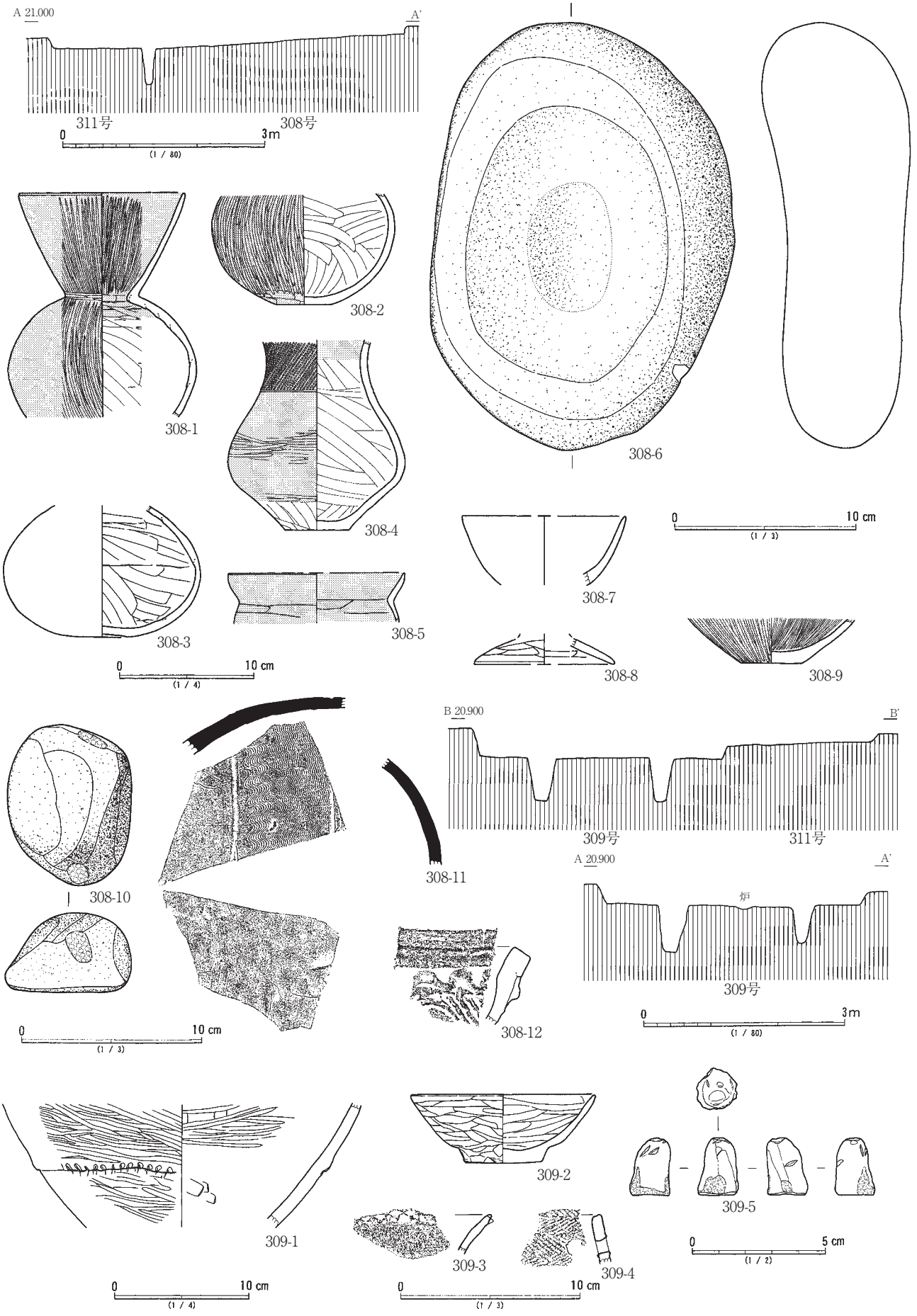
本遺構からは39点936gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、８点120gの土師器、30点806gの弥生土器、１点10gの縄文土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

５は床面から10㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

308号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号44号。301号竪穴の南側に位置し、309号・310号・311号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.10m短径4.83mを測り、主軸方位はN－７°－Wを示す。311号竪穴と新旧逆調査を行っており、炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ東壁11㎝、南壁15㎝を測る。西壁・北壁の測定値はない。周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、堅く踏み固められている。ピットは１ヶ所に検出され、深さは22㎝を測る。



第272図　308・309・311号遺構実測図・308・309号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは174点2,964gの土器片と２点300gの礫、１点4,450gの石皿、１点385gの磨石・敲石、３点20gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、20点960gの土師器、１点69gの須恵器、152点1,905gの弥生土器、１点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

１～４・６・９・10は床面から床直で検出されている。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

309号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号47号。308号竪穴の北側に隣接し、308号竪穴に削平され、310号・311号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.57m短径4.00mを測り、主軸方位はN－26 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南側に検出され、残存する火床長径1.04m短径0.60m、深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－31 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁37㎝、西壁43㎝、南壁30㎝、北壁39㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、堅く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が54㎝、Ｐ２が68㎝、Ｐ３は63㎝、Ｐ４は65㎝、Ｐ５は35㎝を測る。

遺物

本遺構からは85点1,120gの弥生土器と１点60gの礫、１点20gの甑取手が検出された。これらの出土遺物の内５点を図示した。

１・２は床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

310号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号45号。308号竪穴の西側に隣接し、308号・309号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.22m短径4.30mを測り、主軸方位はN－53 °－Wを示す。炉は中央やや北側に検出され、残存する火床長径1.10m短径0.96m、深さ10㎝を測り、火床主軸方位はN－21 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁９㎝、南東壁19㎝、南西壁22㎝、北西壁12㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、炉の周囲が堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が35㎝、Ｐ２は18㎝を測る。

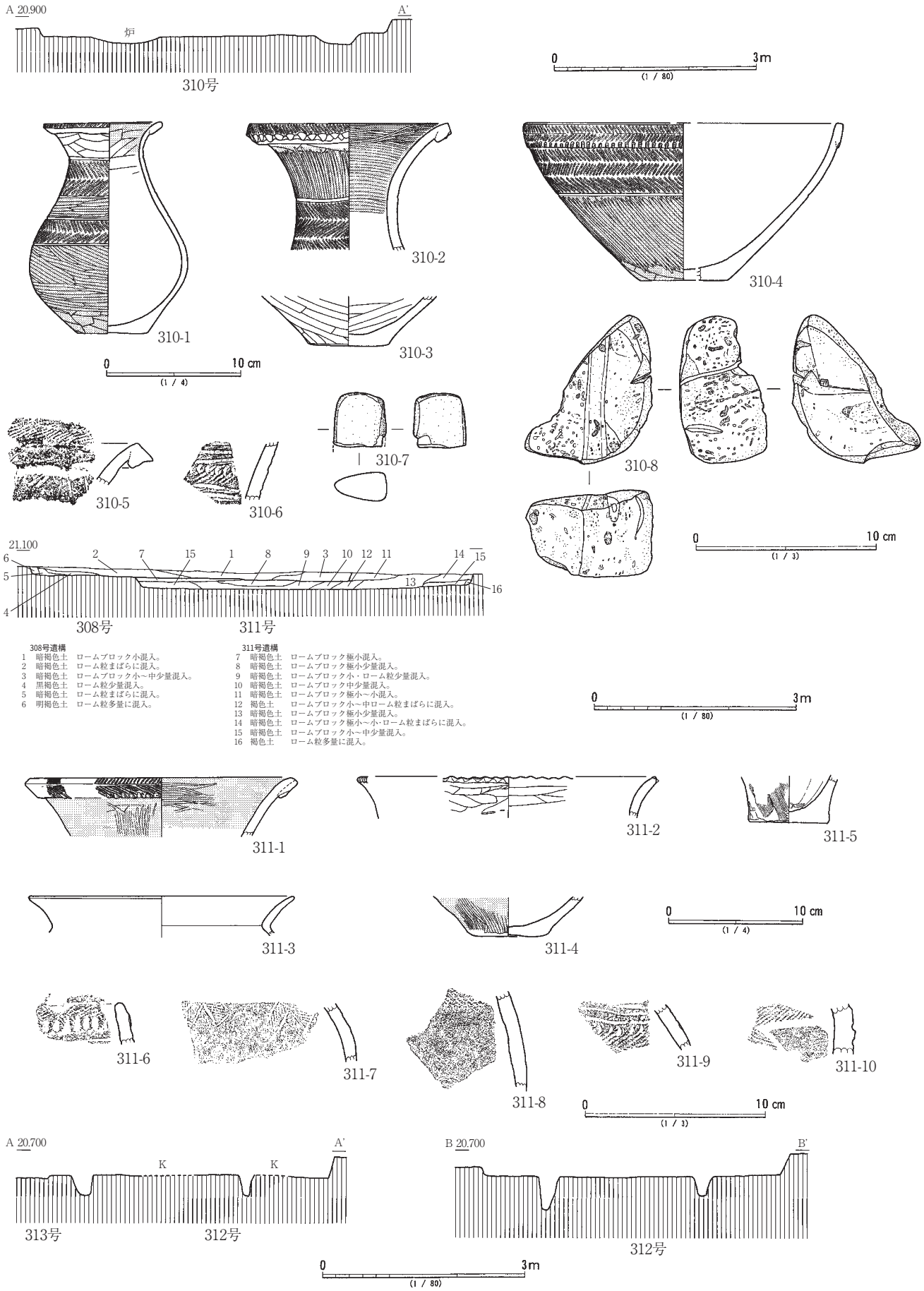
遺物

本遺構からは52点2,736gの土器片と２点75gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、２点200gの土師器、49点2,526gの弥生土器、１点10gの縄文土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

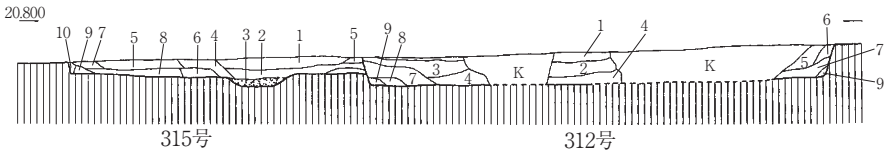
１・２・４は床直から床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

311号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号46号。308号竪穴の北側に隣接し、308号・309号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。短径4.54mを測り、主軸方位はN－51 °－Wを示す。炉は309号竪穴に削平されて未検出である。

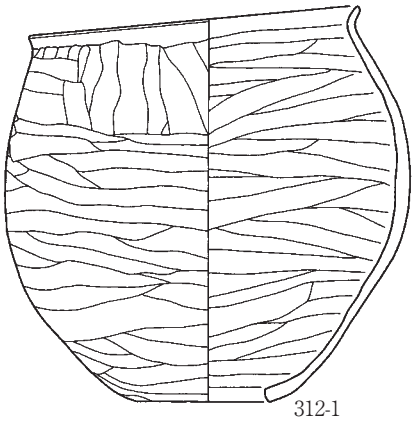


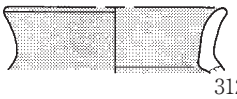
第273図　308・310～312号遺構実測図・310・311号遺構出土遺物実測図

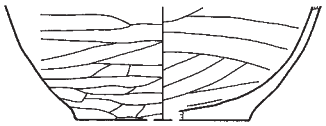


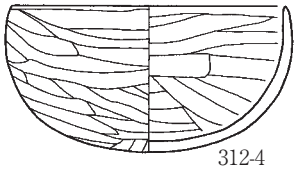
312号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中～大少量混入。
5 褐色土 ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
7 暗褐色土 ロームブロック極小少量・ローム粒まばらに混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小～中少量・ローム粒まばらに混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。

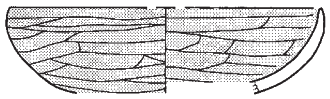
315号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中・焼土ブロック極小少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小・焼土ブロック小少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 焼土ブロック極小～小・ローム粒多量に混入。
7 褐色土 ローム粒まばらに混入。
8 暗褐色土 ロームブロック極小～小少量混入。
9 褐色土 焼土ブロック極小・ローム粒まばらに混入。
10 黄褐色土 ローム粒多量に混入。


312-1

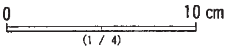

312-2


312-3

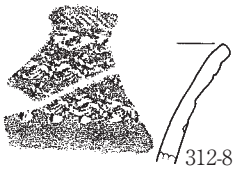

312-4

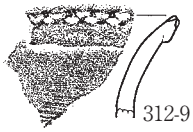

312-5

312-6

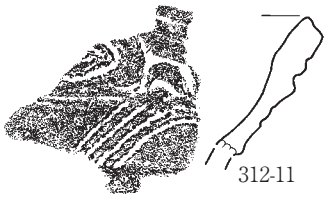


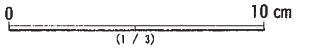
312-7

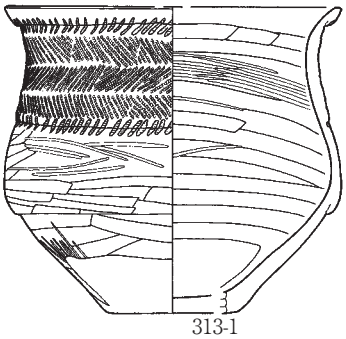

312-8

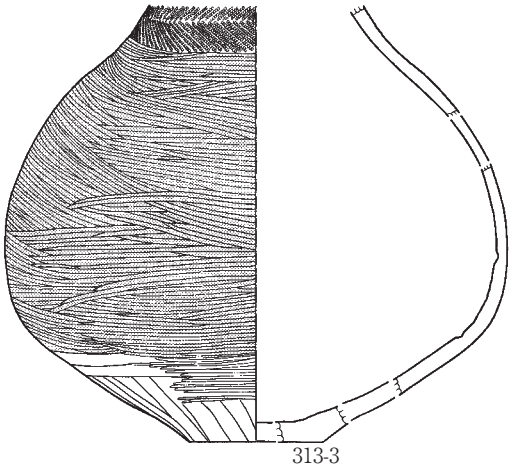

312-9

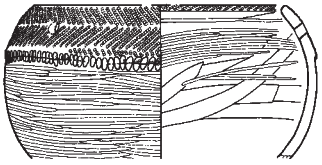
312-10

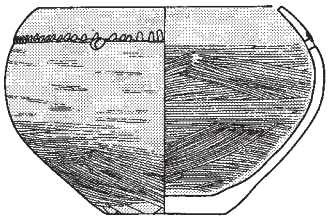

312-11

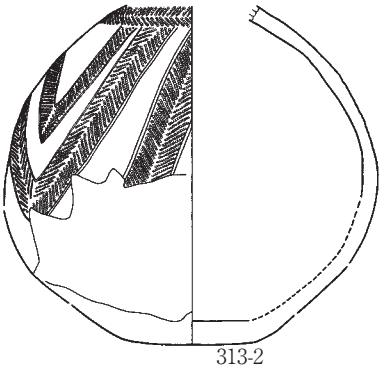


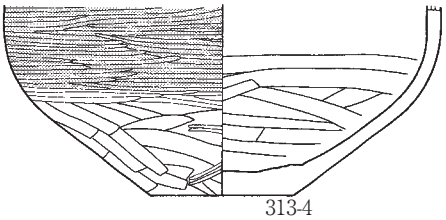

313-1

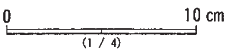

313-3


313-5


313-6


313-2


313-4



第274図　312 ～ 315号遺構実測図・312・313号遺構出土遺物実測図

残存する壁高はそれぞれ北東壁15㎝、南東壁測定値なし、南西壁11㎝、北西壁15㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、全体的に軟弱である。ピットは４ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が32㎝、Ｐ２が52㎝、Ｐ３は測定値なし、Ｐ４は52㎝を測る。

遺物

本遺構からは62点1,063gの弥生土器と１点110gの磨耗瓦が検出された。これらの出土遺物の内10点を図示した。

３は床面から14㎝浮いて検出された。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

312号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号41号。308号竪穴の東側に存在し、313号・314号・315号・316号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.79m短径4.66mを測り、主軸方位はN－66 °－Eを示す。カマドは東壁中央に構築され、残存する火床長径0.55m短径0.35m、深さ16㎝を測り、火床主軸方位はN－62 °－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁32㎝、西壁10㎝、南壁34㎝、北壁24㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、堅く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が45㎝、Ｐ２が32㎝、Ｐ３は47㎝、Ｐ４は28㎝を測る。

遺物

本遺構からは303点4,711gの土器片と４点2,985gの礫、３点44gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、105点3,505gの土師器、１点２gの須恵器、193点1,109gの弥生土器、１点10gの手づくね土器、２点55gの縄文土器、１点30gの近世擂鉢である。これらの出土遺物の内11点を図示した。

１・３・５・６は床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

313号遺構（竪穴住居跡）

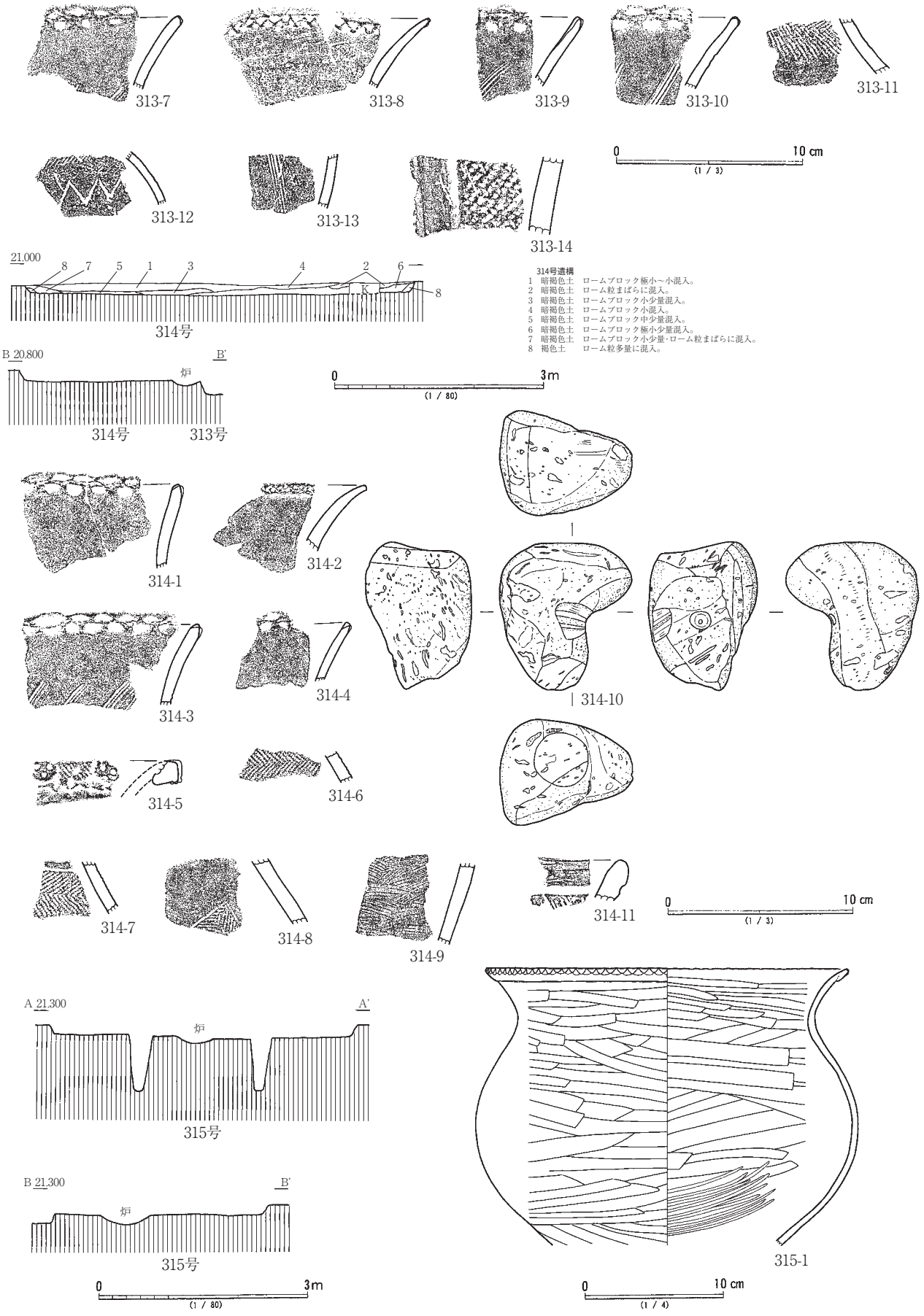
昭和53年度調査時遺構番号43号。312号竪穴の西側に隣接し、312号竪穴に削平され、・314号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.70m短径3.38mを測り、主軸方位はN－51 °－Wを示す。炉は中央やや北西よりに検出され、残存する火床長径0.70m短径0.70m、深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－52 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ南東壁17㎝、北西壁21㎝、南西壁24㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、堅く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは144点7,077gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、23点322gの土師器、120点6,705gの弥生土器、１点50gの縄文土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

１～11は床直ないしは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺



第275図　313 ～ 315号遺構実測図・出土遺物実測図

物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

314号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号42号。312号竪穴の西側に隣接し、312号・313号・315号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.56m短径4.80mを測り、主軸方位はN－15 °－Wを示す。炉は中央やや北よりに検出され、残存する火床長径0.70m短径0.50m、深さ９㎝を測り、火床長軸方位はN－36 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁17㎝、西壁16㎝、南壁14㎝、北壁10㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、堅く踏み固められている。ピットは１ヶ所に検出され、深さは36㎝を測る。

遺物

本遺構からは87点834gの土器片と１点54gの礫、１点39gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、15点135gの土師器、71点697gの弥生土器、１点２gの縄文土器である。これらの出土遺物の内11点を図示した。

６・10は床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

315号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号40号。314号竪穴の北側に隣接し、312号竪穴に削平され、314号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.44m短径4.38mを測り、主軸方位はN－35 °－Wを示す。炉は中央やや北よりに検出され、残存する火床長径0.76m短径0.67m、深さ９㎝を測り、火床主軸方位はN－２ °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁13㎝、北西壁13㎝、南西壁17㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはP １が78㎝、P ２が81㎝を測る。

遺物

本遺構からは182点4,524gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、11点255gの土師器、170点4,239gの弥生土器、１点30gの縄文土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

１・２は床直上ないしは炉内で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

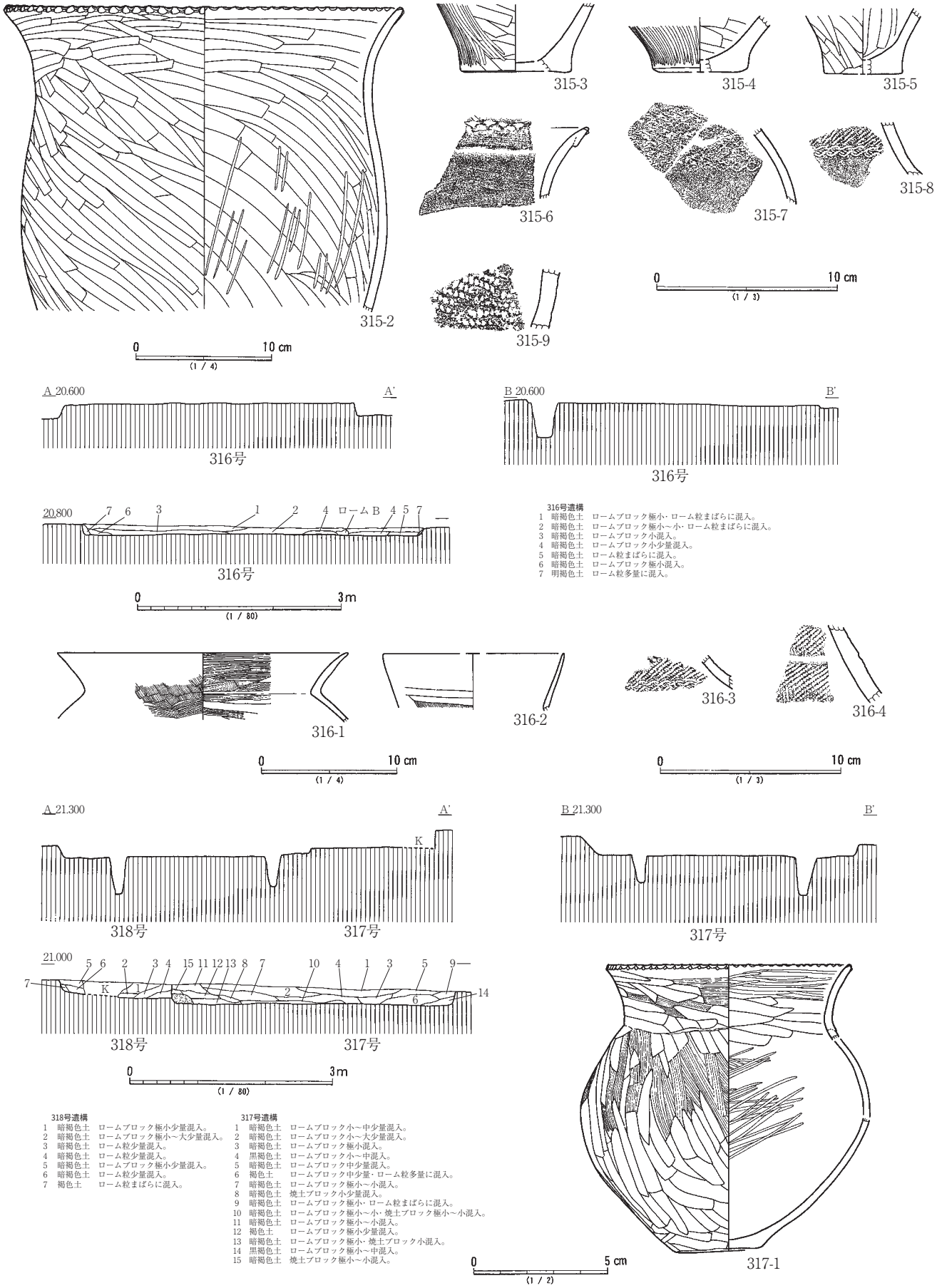
316号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号31号。312号竪穴の北側に隣接し、312号・312号竪穴に削平され、289号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.01m短径4.36mを測り、主軸方位はN－31 °－Eを示す。炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ北東壁18㎝、南東壁15㎝、北西壁７㎝、南西壁15㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であるが、あまり堅く踏み固められていない。ピットは３ヶ所に検出され、深さはP １が51㎝、P ２が33㎝、P ３が29㎝を測る。

遺物

本遺構からは184点1,800gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、151点1,408gの土師器、30点



第276図　316 ～ 318号遺構実測図・315 ～ 317号遺構出土遺物実測図

350gの弥生土器、3点42gの縄文土器である。これらの出土遺物の内4点を図示した。

本遺構出土遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

317号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号17号。316号竪穴の東南に隣接し、316号・318号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.20m短径4.17mを測り、主軸方位はN－35 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南側に検出され、残存する火床長径0.80m短径0.58m、深さ２㎝を測り、火床主軸方位はN－39 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁31㎝、南東壁13㎝、北西壁28、南西壁25㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が55㎝、Ｐ２が42㎝、Ｐ３は49㎝、Ｐ４は20㎝、Ｐ５は14㎝、Ｐ６は28㎝を測る。

焼土は６ヶ所に検出され、厚さは２～14㎝を測る。

遺物

本遺構からは263点12,435gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、91点6,045gの土師器、170点6,350gの弥生土器、１点30の手づくね土器、１点10gの前期繊維土器である。これらの出土遺物の内20点を図示した。

図化した遺物は全て床直で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。

318号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号16号。317号竪穴の南に隣接し、317号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。短径3.70mを測り、主軸方位はN－26 °－Wを示す。炉は317号竪穴に削平され未検出である。

残存する壁高はそれぞれ北東壁21㎝、南東壁21㎝、南西壁16㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、周堤帯に囲まれたＰ２は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が32㎝、Ｐ２が30㎝を測る。

周堤帯は長さ1.6m幅24～28㎝高さ５㎝を測る。

遺物

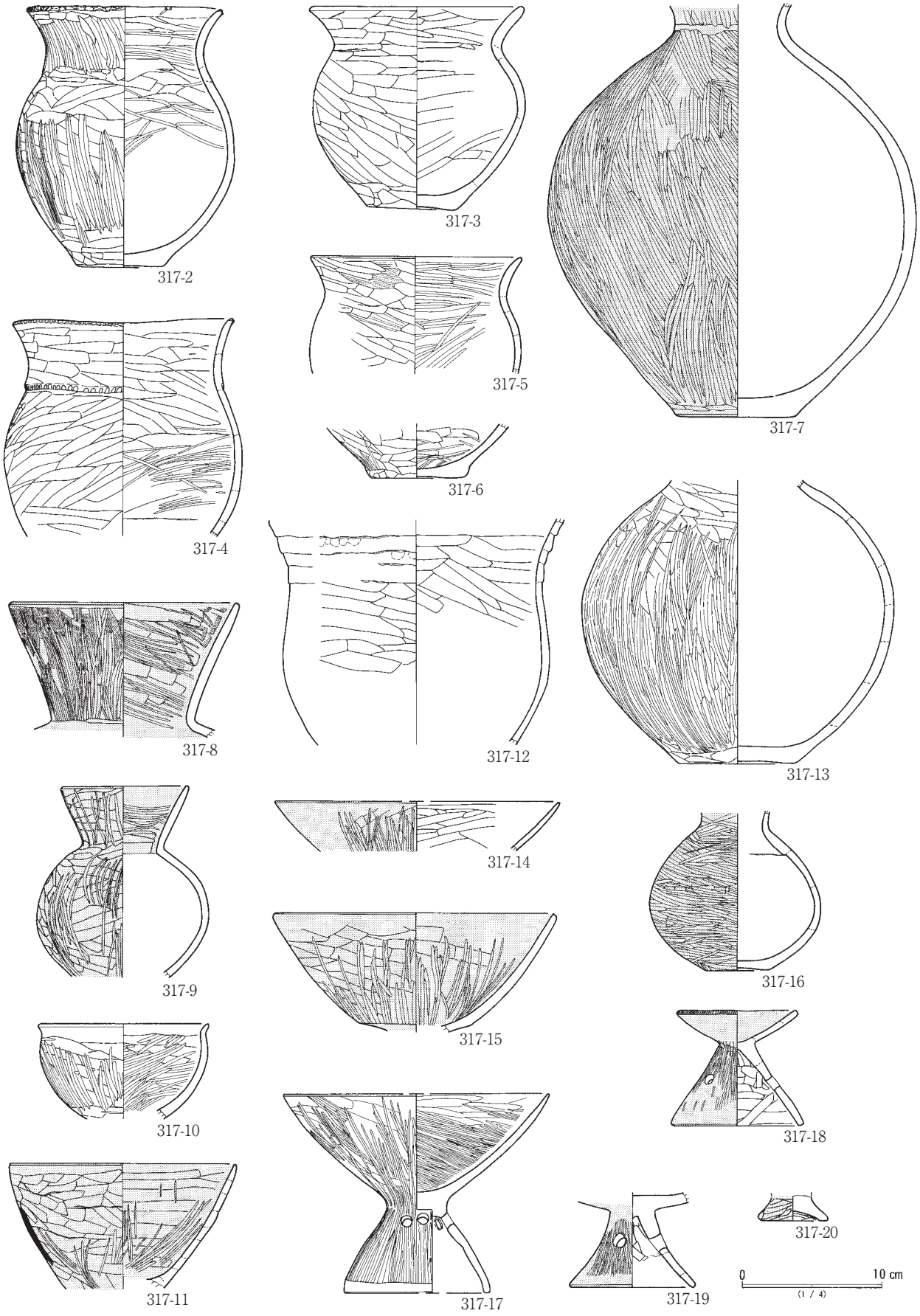
本遺構からは238点3,771gの土器片と１点23gの礫が検出された。土器片等の内訳は、12点94gの土師器、224点3,637gの弥生土器、２点40gの縄文土器である。これらの出土遺物の内４点を図示した。

図化した遺物は全て床直ないしは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。

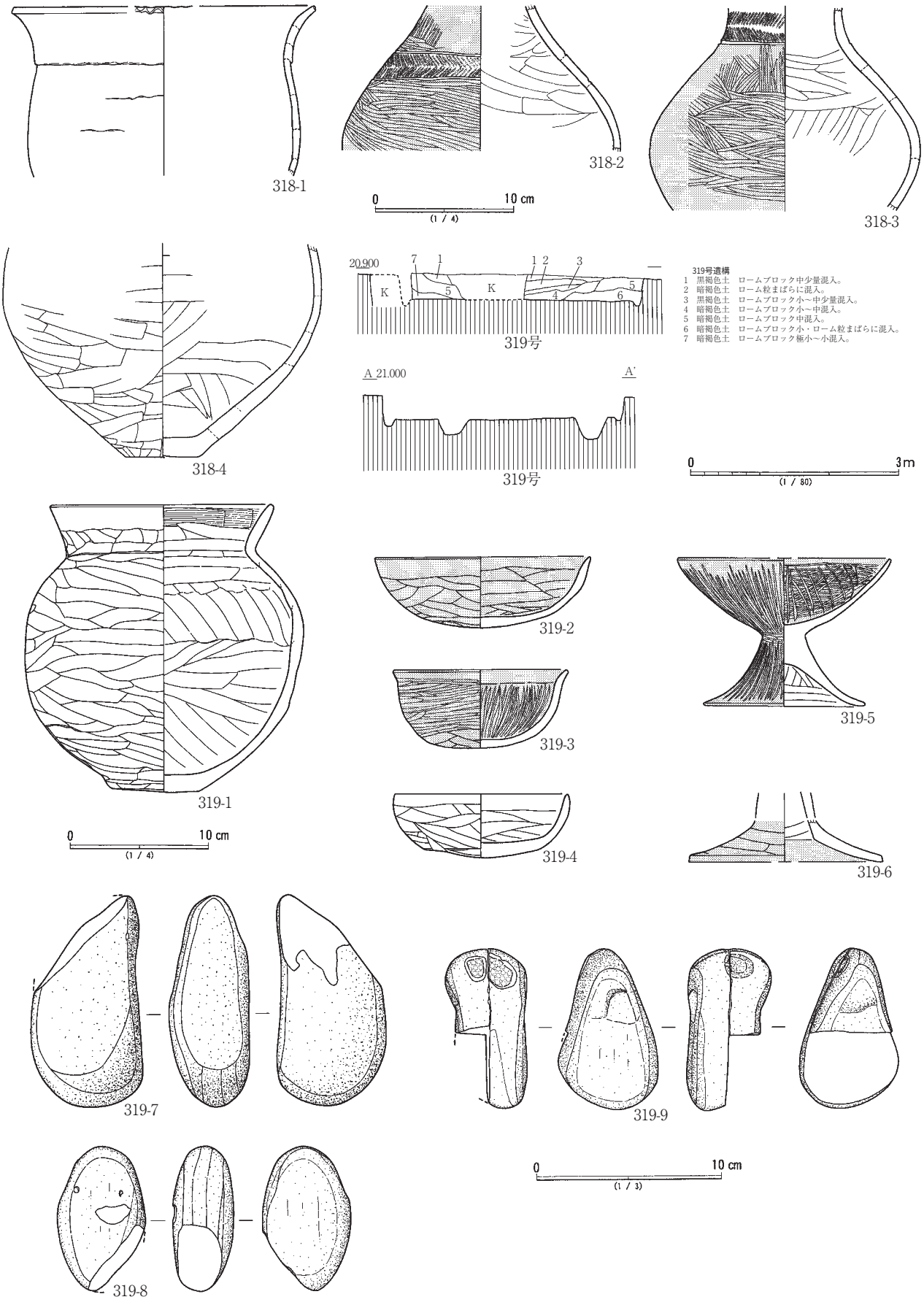
319号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号95号。316号竪穴の南に位置し、317号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.56m短径3.52mを測り、主軸方位はN－22 °－Wを示す。炉は遺構ほぼ中央、僅かに東に偏って検出され、残存する火床長径0.72m短径0.63m、深さ２㎝を測り、火床長軸方位はN－32 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁42㎝、南東壁39㎝、北西壁36㎝、南西壁51㎝を測り、周溝は全周し、深さは３～12㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が22㎝、Ｐ２が35㎝を測る。



第277図　317号遺構出土遺物実測図



第278図　319号遺構実測図・318・319号遺構出土遺物実測図

遺物

本遺構からは74点3,432gの土器片と３点748gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、58点3,202gの土師器、14点194gの弥生土器、２点36gの縄文土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

１～４・７～８は、床直ないしは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。５・６は何れも覆土一括で取上げられたものであるが、320号竪穴出土一括遺物と接合関係を有しており、帰属先不明であるが、５が320号竪穴に、６が本跡に伴うものと想定される。

320号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号15号。319号竪穴の南に隣接し、319号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.32短径5.06mを測り、主軸方位はN－66 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央ややＰ２寄りの南側に検出され、残存する火床長径0.88m短径0.58m、深さ７㎝を測り、火床主軸方位はN－48 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁13㎝、南東壁18㎝、北西壁13㎝、南西壁12㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が68㎝、Ｐ２が60㎝、Ｐ３は51㎝、Ｐ４は44㎝、Ｐ５は31㎝、Ｐ６は20㎝、Ｐ７は55㎝を測る。

粘土は１ヶ所に検出され、厚さは７㎝を測る。

遺物

本遺構からは39点2,252gの土器片と１点100gの砥石が検出された。土器片等の内訳は、28点2,150gの土師器、11点102gの弥生土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

１～５・７・８は、床直ないしは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

321号遺構（竪穴住居跡）

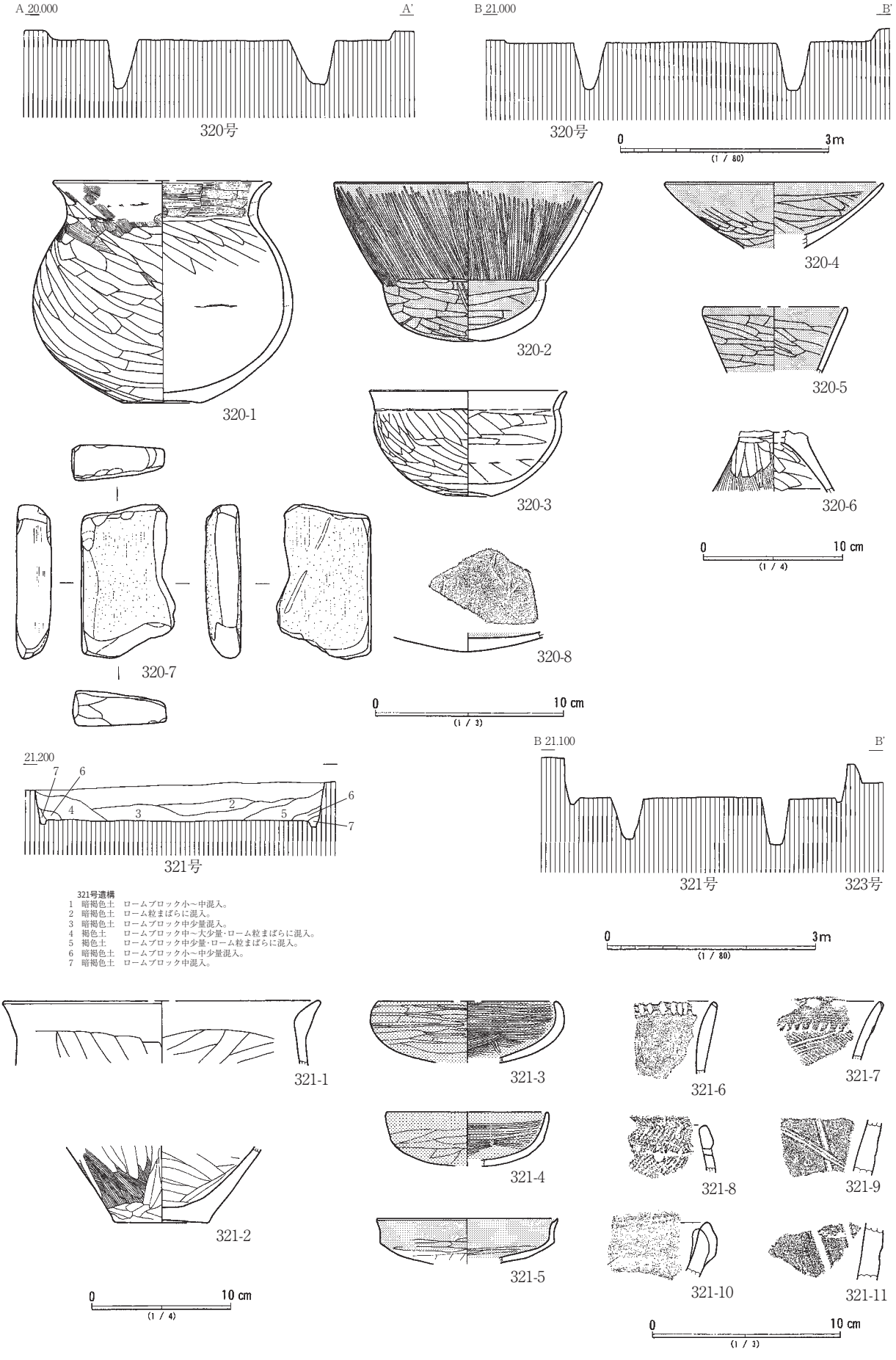
昭和53年度調査時遺構番号88号。269号竪穴の東に隣接し、259号・322号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.20m短径4.12mを測り、主軸方位はN－41 °－Wを示す。カマドは北西壁中央に構築され、残存する火床長径0.36m短径0.24m、深さ８㎝を測り、火床主軸方位はN－40 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁46㎝、南東壁21㎝、北西壁45㎝、南西壁57㎝を測り、周溝は全周し、深さは５～ 11㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは11 ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が67㎝、Ｐ２が60㎝、Ｐ３は59㎝、Ｐ４は69㎝を測る。Ｐ５～ P11は周溝内に検出され深さは９～ 16㎝を測る。

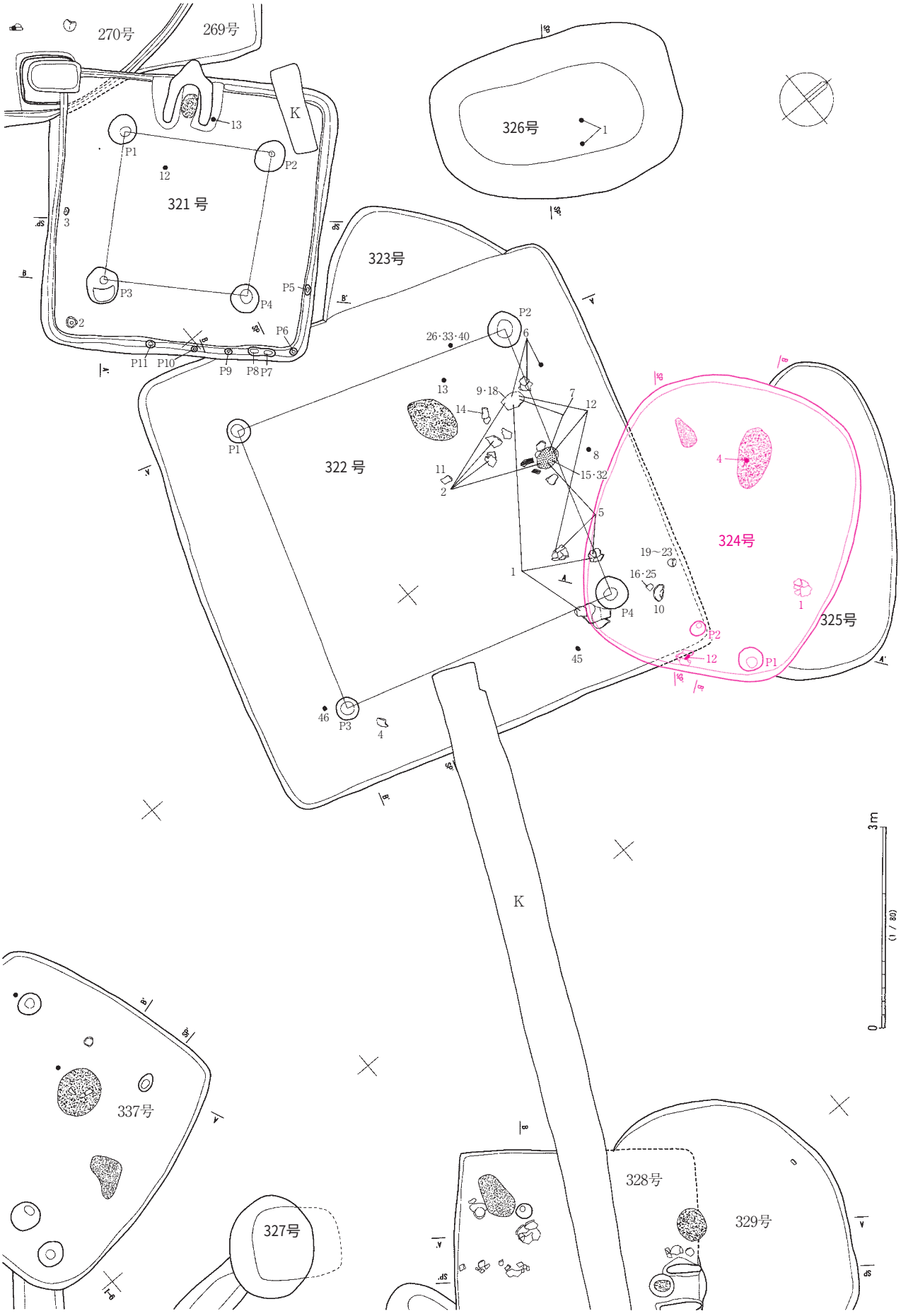
遺物

本遺構からは116点1,863gの土器片と３点36gの礫、２点343gの磨石、１点3.8gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、43点785gの土師器、70点1,018gの弥生土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

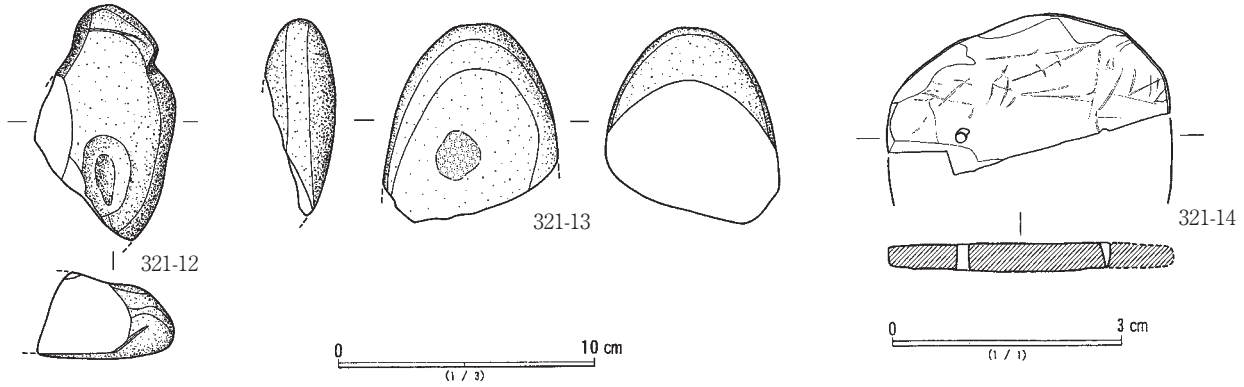
３・12・13は床直ないしは床直上で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。２は床か

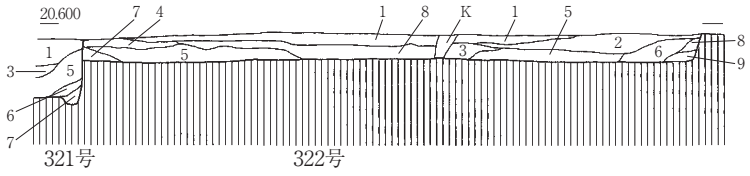


第279図　320・321号遺構実測図・320・321号遺構出土遺物実測図



第280図　321 ～ 327号遺構実測図



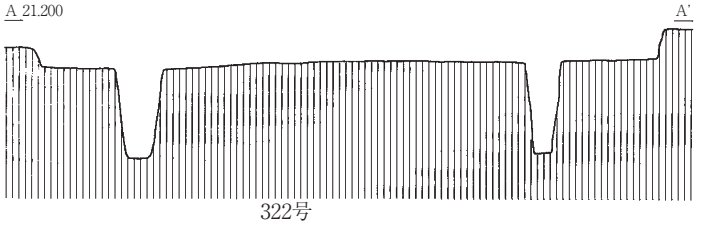


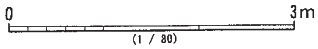
321号遺構

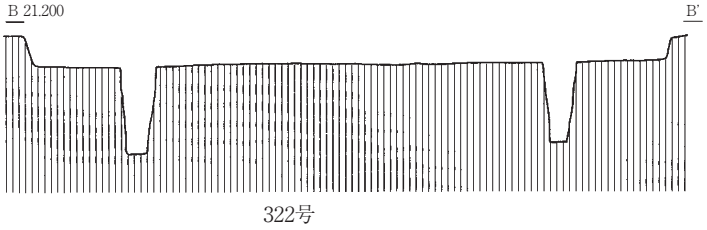
321号遺構の1,3,5,6,7の土層説明に対応。

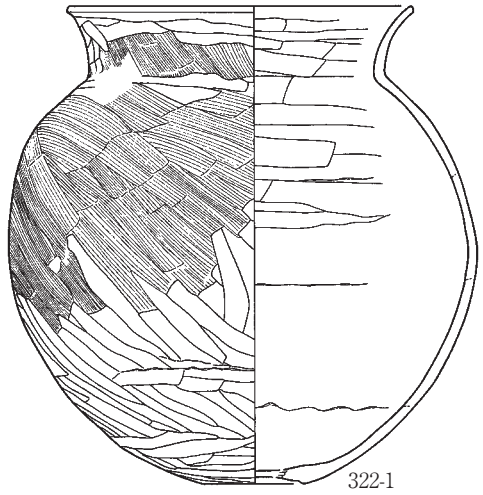
322号遺構

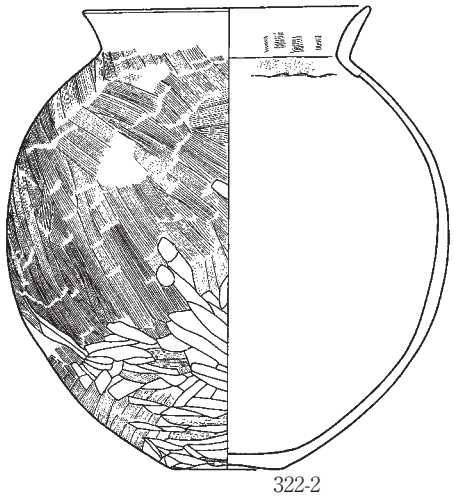
1 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小少量・ローム粒まばらに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック中少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
6 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
7 暗褐色土 ロームブロック小少量・ローム粒まばらに混入。
8 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
9 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。

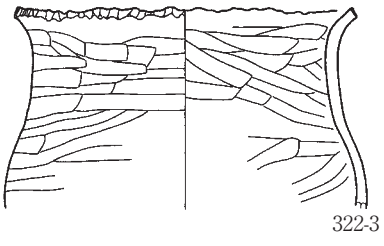




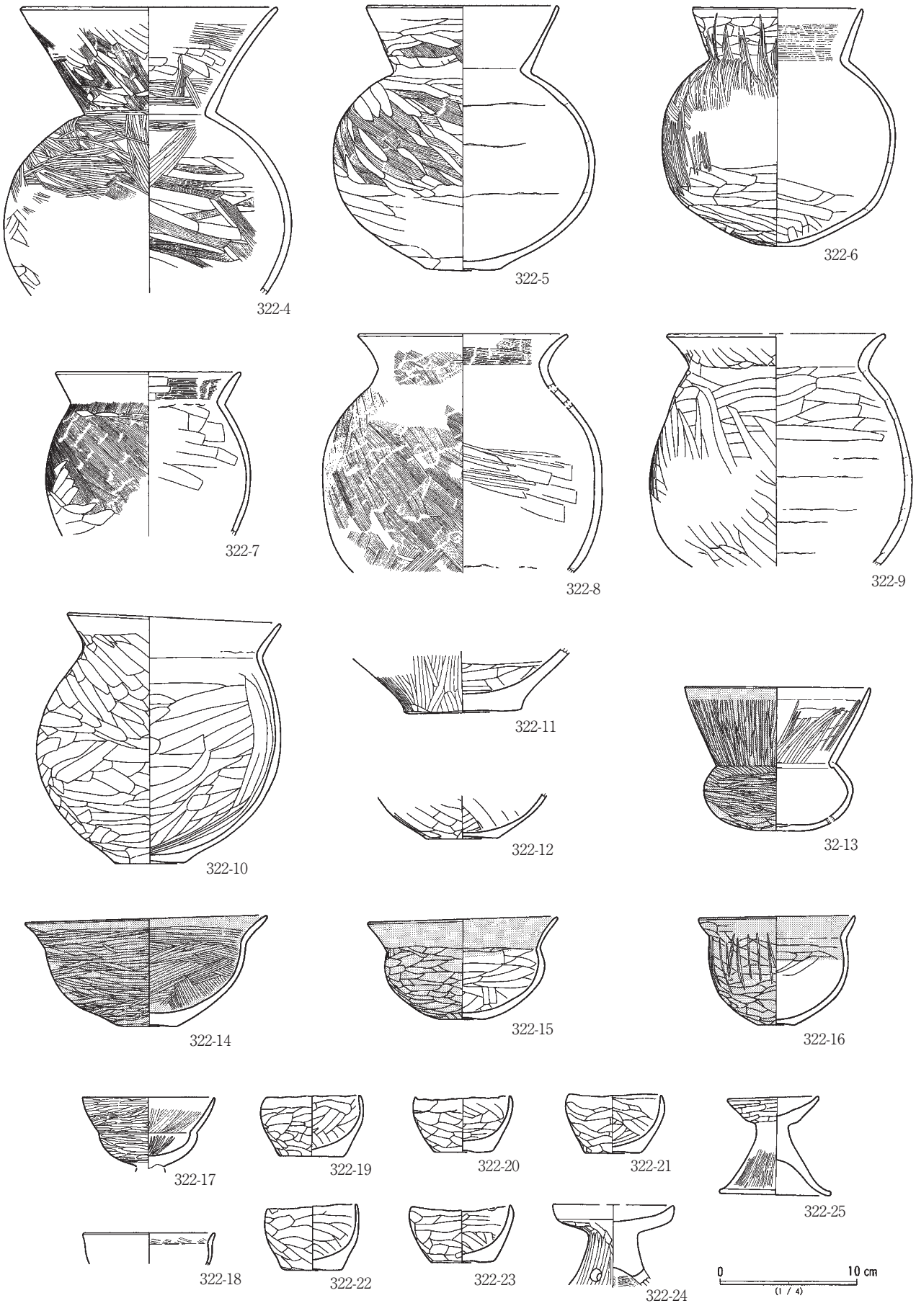








第281図　322号遺構実測図・321・322号遺構出土遺物実測図



第282図　322号遺構出土遺物実測図

ら21㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

322号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号55A号。321号竪穴の東に隣接し、324号竪穴を削平し、321号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径6.92m短径6.72mを測り、主軸方位はN－72 °－Wを示す。炉は中央よりやや北西側に偏って検出され、残存する火床長径0.84m短径0.54m、深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－111 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁26㎝、西壁32㎝、南壁33㎝、北壁21㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴と想定され、深さはＰ１が94㎝、Ｐ２が95㎝、Ｐ３は84㎝、Ｐ４は89㎝を測る。

遺物

本遺構からは314点12,877gの土器片と２点180gの礫、２点474gの磨石、２点238gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、137点11,079gの土師器、171点1,676gの弥生土器、２点20gの早期撚糸文系土器、４点102gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内46点を図示した。

１・２・４～11・13～16・18～23・25・44は床直ないしは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。４は床から25㎝浮いた状態で検出されている。32・33・40や床直に近い状態で検出されているが本跡に直接伴うとは考えられない。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

323号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号55B号。322号竪穴の西に隣接し、322号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。残存長2.96mを測り、炉は322号竪穴に削平され未検出である。

残存する壁高はそれぞれ北西壁16㎝、南西壁23㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に軟弱である。ピットは未検出である。

遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

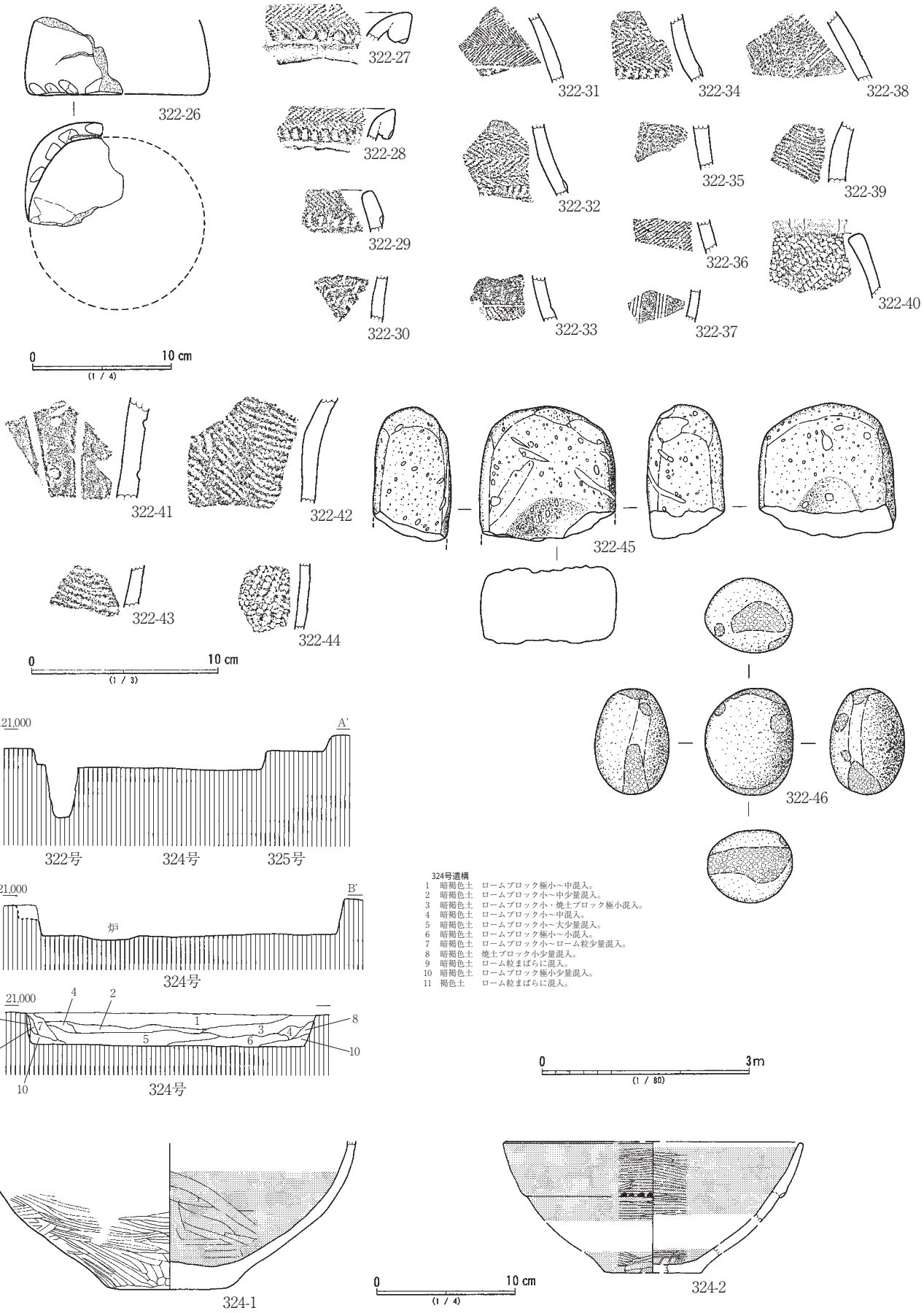
324号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号54号。322号竪穴の東に隣接し、325号竪穴を削平し、322号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.50m短径3.86mを測り、主軸方位はN－31 °－Wを示す。炉は中央よりやや北側に偏って検出され、残存する火床長径0.94m短径0.48m、深さ５㎝を測り、火床主軸方位はN－40 °－Wを示す。

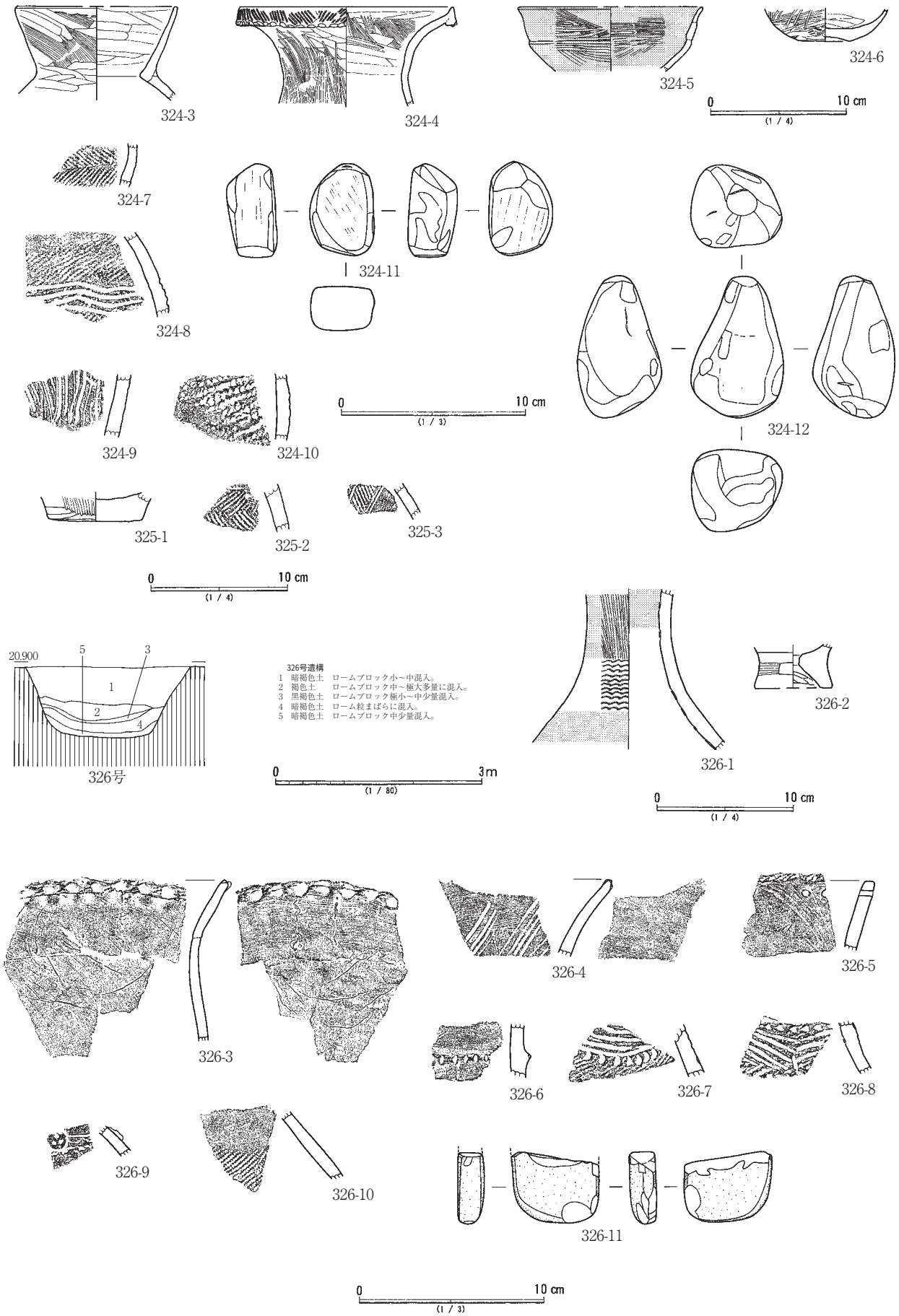
残存する壁高はそれぞれ北東壁29㎝、南東壁49㎝、北西壁45㎝、南西壁46㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が25㎝、Ｐ２が25㎝を測る。

遺物

本遺構からは105点1,905gの土器片と２点245gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、46点385gの土師器、58点1,547gの弥生土器、１点18gの縄文土器である。これらの出土遺物の内12点を図示し



第283図　322・324・325号遺構実測図・322・324号遺構出土遺物実測図



第284図　326号遺構実測図・324 ～ 326号遺構出土遺物実測図

た。

１・４・12は床直ないしは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

325号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号53号。322号竪穴の東に隣接し、325号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.74mを測り、主軸方位はN－51°－Wを示す。炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ北東壁19㎝、南東壁22㎝、南西壁36㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であるが軟弱である。ピットは未検出である。

遺物

本遺構からは17点240gの土器片と１点20gの礫が検出された。土器片等の内訳は、１点５gの土師器、16点235gの弥生土器である。これらの出土遺物の内３点を図示した。

本跡出土遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

326号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑２。321号竪穴の北側に単独で存在する土坑である。長径3.68m短径2.44mを測り、主軸方位はN－28°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁101㎝、西壁96㎝、南壁98㎝、北壁100㎝を測り、底面ほぼ平坦な長方形を呈する。調査所見では土壙墓とされる。

遺物

本遺構からは109点2,626gの土器片と１点50gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、４点140gの土師器、105点2,486gの弥生土器である。これらの出土遺物のうち11点を図示した。

１は底面から21㎝浮いた状態で検出された以外は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。

327号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑20。322号竪穴の南側に位置し、９号方形周溝墓西溝を削平して存在する側壁抉り込み土坑である。長径1.54m短径1.26mを測り、主軸方位はN－46°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁77㎝、西壁70㎝、南壁84㎝、北壁73㎝を測り、底面ほぼ平坦な長方形を呈する。

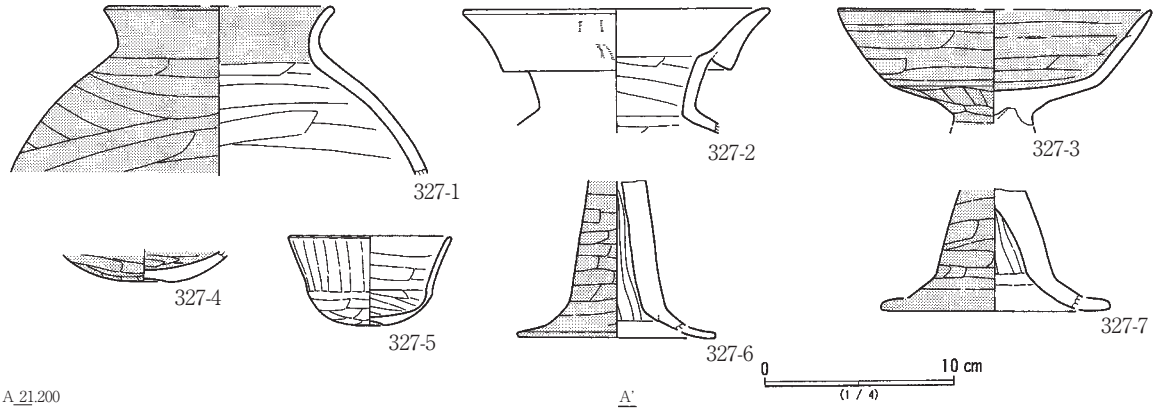
この種の土坑は、古墳時代終末期以降に盛行するものであるが、出土遺物からは古墳時代中期から存在する可能性が考えられる。

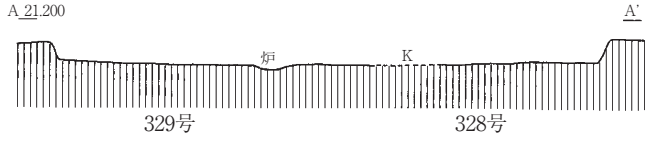
遺物

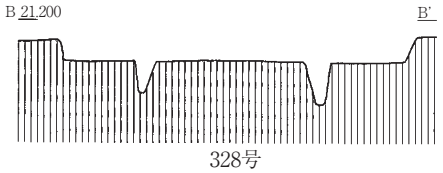
本遺構からは35点1,526gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、28点1,336gの土師器、７点190gの弥生土器である。これらの出土遺物のうち７点を図示した。

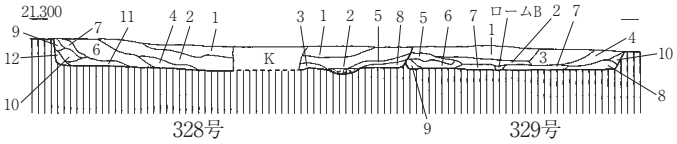
本跡出土遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものはない。しかし、出土遺物は時期的にも古墳時代中期の一時期に限定される。

328号遺構（竪穴住居跡）





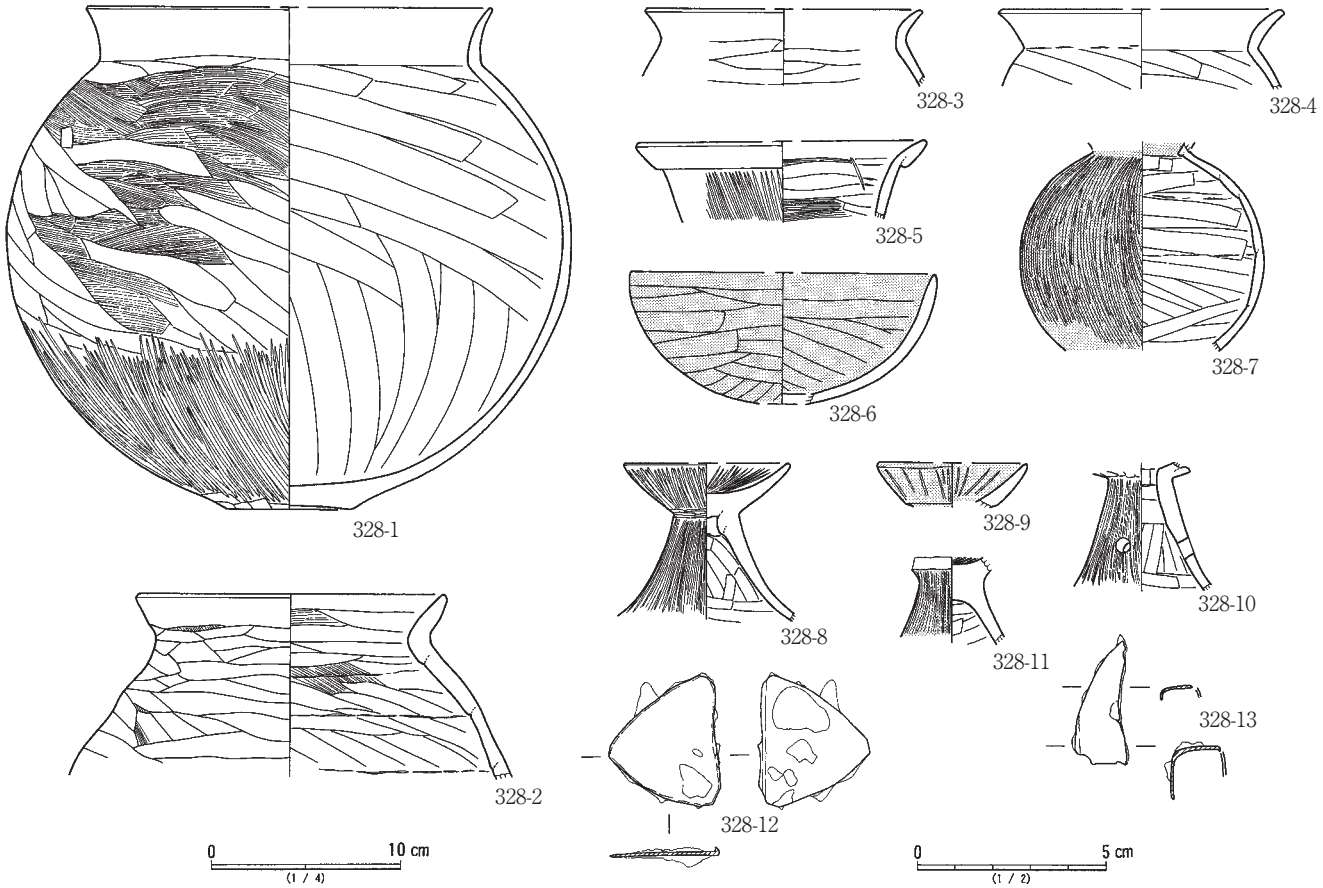




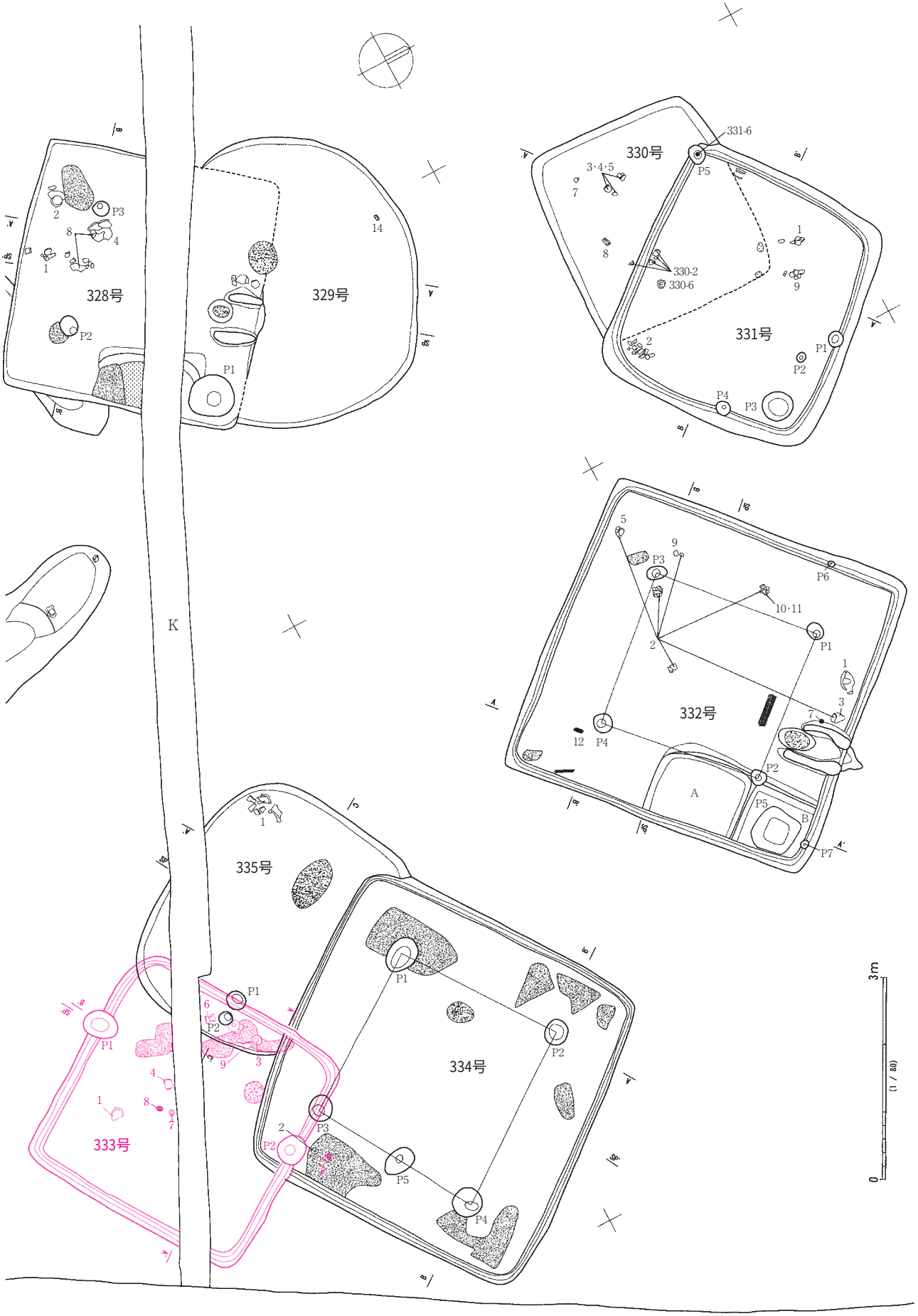
328号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小少量・焼土ブロック極小多量に混入。
4 暗褐色土 ロームブロック極小・焼土ブロック中少量混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
6 褐色土 ロームブロック中少量・ローム粒多量に混入。
7 暗褐色土 ローム粒少量混入。
8 暗褐色土 ローム粒少量混入。
9 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
10 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
11 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
12 明褐色土 ロームブロック極小混入。

329号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
4 暗褐色土 ロームブロック極小少量・ローム粒まばらに混入。
5 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
6 暗褐色土 ロームブロック極小少量・ローム粒まばらに混入。
7 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
8 褐色土 ローム粒まばらに混入。
9 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
10 暗褐色土 ロームブロック極小少量・ローム粒多量に混入。

0 3m
(1 / 80)



第285図　328・329号遺構実測図・327・328号遺構出土遺物実測図



第286図　328 ～ 335号遺構実測図

昭和53年度調査時遺構番号11号。９号方形周溝墓の北側に隣接し、９号方形周溝墓北溝を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.75m短径3.74mを測り、主軸方位はN－40 °－Eを示す。カマドは北東壁中央やや東側に偏って構築され、残存する火床長径0.24m短径0.16m、深さ14㎝を測り、火床主軸方位はN－40 °－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ南東壁29㎝、北西壁21㎝、南西壁24㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは３ヶ所に検出され、Ｐ１は貯蔵穴、Ｐ２・Ｐ３は主柱穴と想定され、深さはＰ１が40㎝、Ｐ２が44㎝、Ｐ３は35㎝を測る。

遺物

本遺構からは632点11,188gの土器片と１点1.6gの礫、２点6.4gの鉄器が検出された。土器片等の内訳は、529点10,440gの土師器、103点748gの弥生土器である。これらの出土遺物の内21点を図示した。

２・４・８は床直ないしは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。１は床から16㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

329号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号12号。328号竪穴の北側に隣接し、328号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.34mを測り、主軸方位はN－64 °－Wを示す。炉は中央やや西側に偏って検出され、残存する火床長径0.50m短径0.42m、深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－77 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁17㎝、南東壁15㎝、北西壁16㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは61点929gの土器片と１点102gの砥石、２点183gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、22点262gの土師器、39点667gの弥生土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

14は床直で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

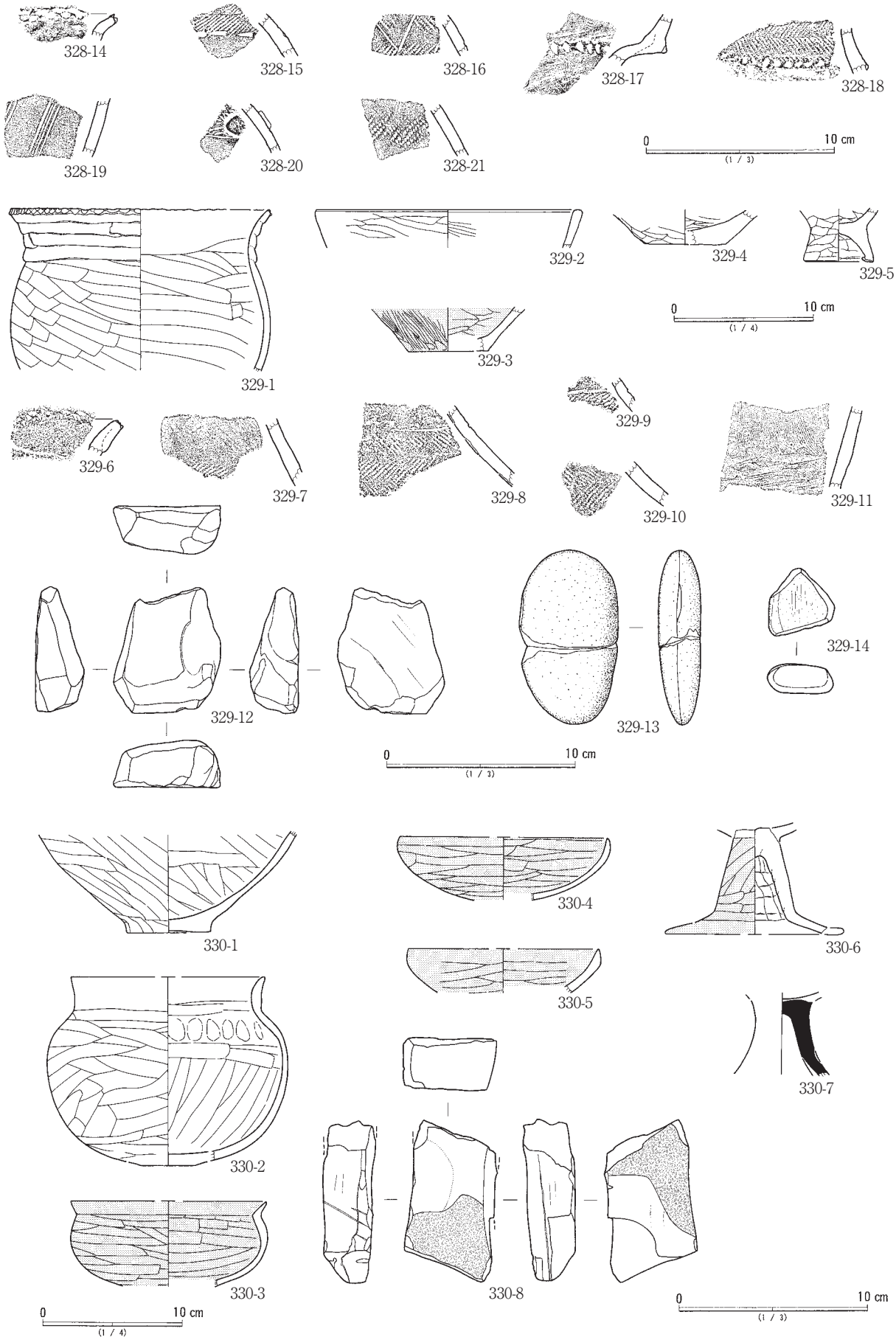
330号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号13号。329号竪穴の北側に位置し、331号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。推定長径3.06m推定短径2.82mを測り、主軸方位はN－88 °－Wを示す。炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ西壁７㎝、南壁12㎝、北壁７㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、軟弱である。ピットは検出されなかった。

遺物

本遺構からは62点2,032gの土器片と１点４gの礫、１点140gの砥石、１点12gの支脚片が検出された。土器片等の内訳は、49点1,835gの土師器、１点65gの須恵器、11点108gの弥生土器、１点24gの縄



第287図　328 ～ 330号遺構出土遺物実測図

文土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

図化した遺物は全て床直で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。

331号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号14号。329号竪穴の北側に隣接し、330号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.85m短径3.39mを測り、主軸方位はN－37°－Wを示す。炉は未検出である。

残存する壁高はそれぞれ北東壁8.5㎝、南東壁6.5㎝、北西壁6.8㎝、南西壁７㎝を測り、周溝は全周し、深さは6.5～8.5㎝を測る。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、深さはＰ１が10.5㎝、Ｐ２が16㎝、Ｐ３は24.5㎝、Ｐ４は35㎝、Ｐ５は21.6㎝を測る。

遺物

本遺構からは430点5,525gの土器片と４点285gの礫が検出された。土器片等の内訳は、305点4,330gの土師器、１点10gの須恵器、123点1,170gの弥生土器、１点15gの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１・２・６・９は、床直ないしは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

332号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号10号。332号竪穴の東に単独で存在する竪穴住居跡である。長径4.74m短径4.64mを測り、主軸方位はN－49°－Eを示す。カマドは北東壁中央やや東側に偏って構築され、残存する火床長径0.38m短径0.26m、深さ26㎝を測り、火床主軸方位はN－44°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁39㎝、南東壁35㎝、北西壁37㎝、南西壁37㎝を測り、周溝は全周し、深さは７～12㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは７ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が66㎝、Ｐ２が57㎝、Ｐ３は53㎝、Ｐ４は66㎝、Ｐ５は44㎝、Ｐ６が７㎝、Ｐ７は15㎝を測る。

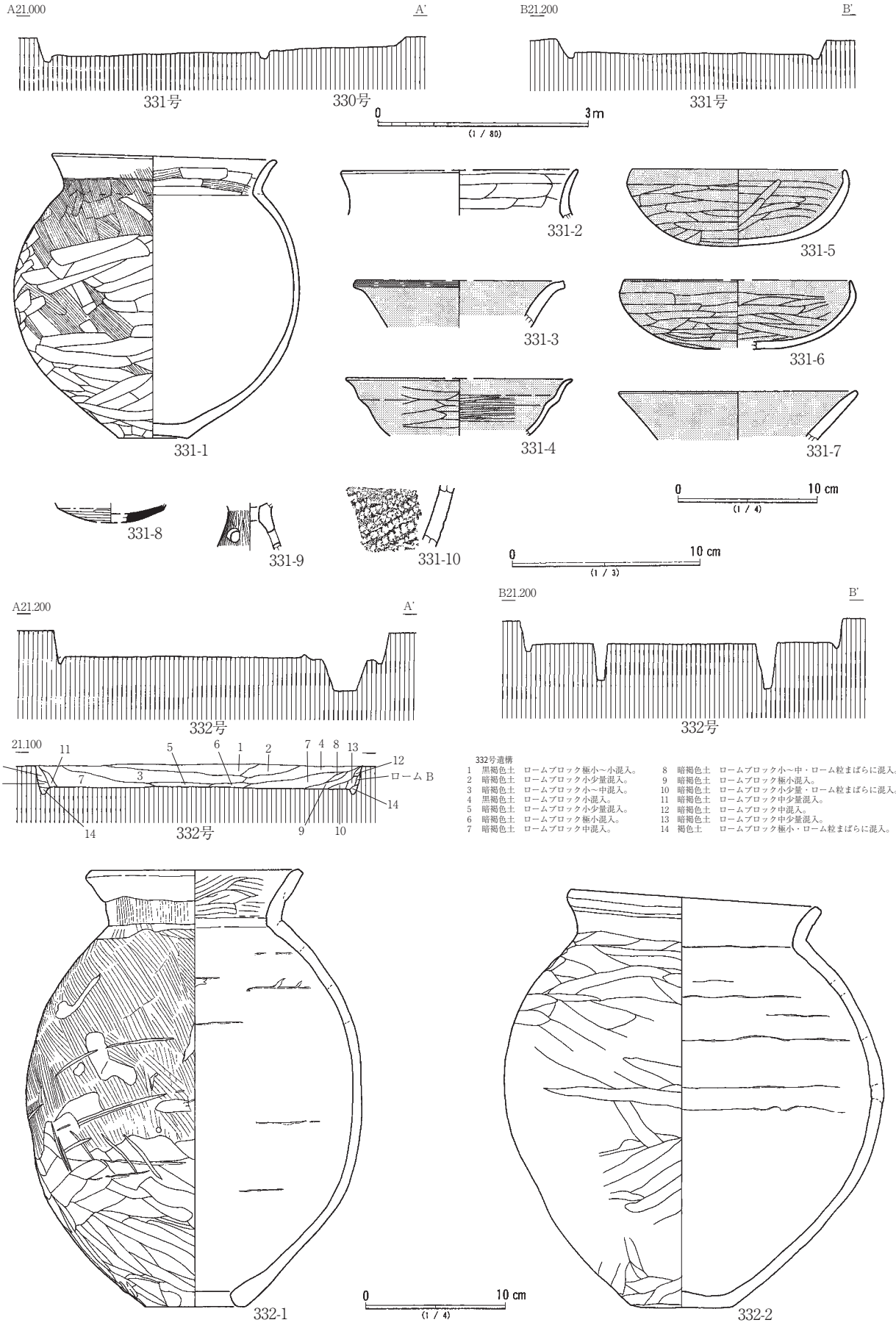
Ｐ５周辺には２ヶ所に周堤帯が存在し、Ｐ５を取り囲むBは、長さ２m幅10～24㎝、高さ６㎝、Aは長さ3.4m幅10～24㎝、高さ５㎝を測る。焼土・炭化物がそれぞれ２ヶ所から検出され、厚さ６㎝を測る。

遺物

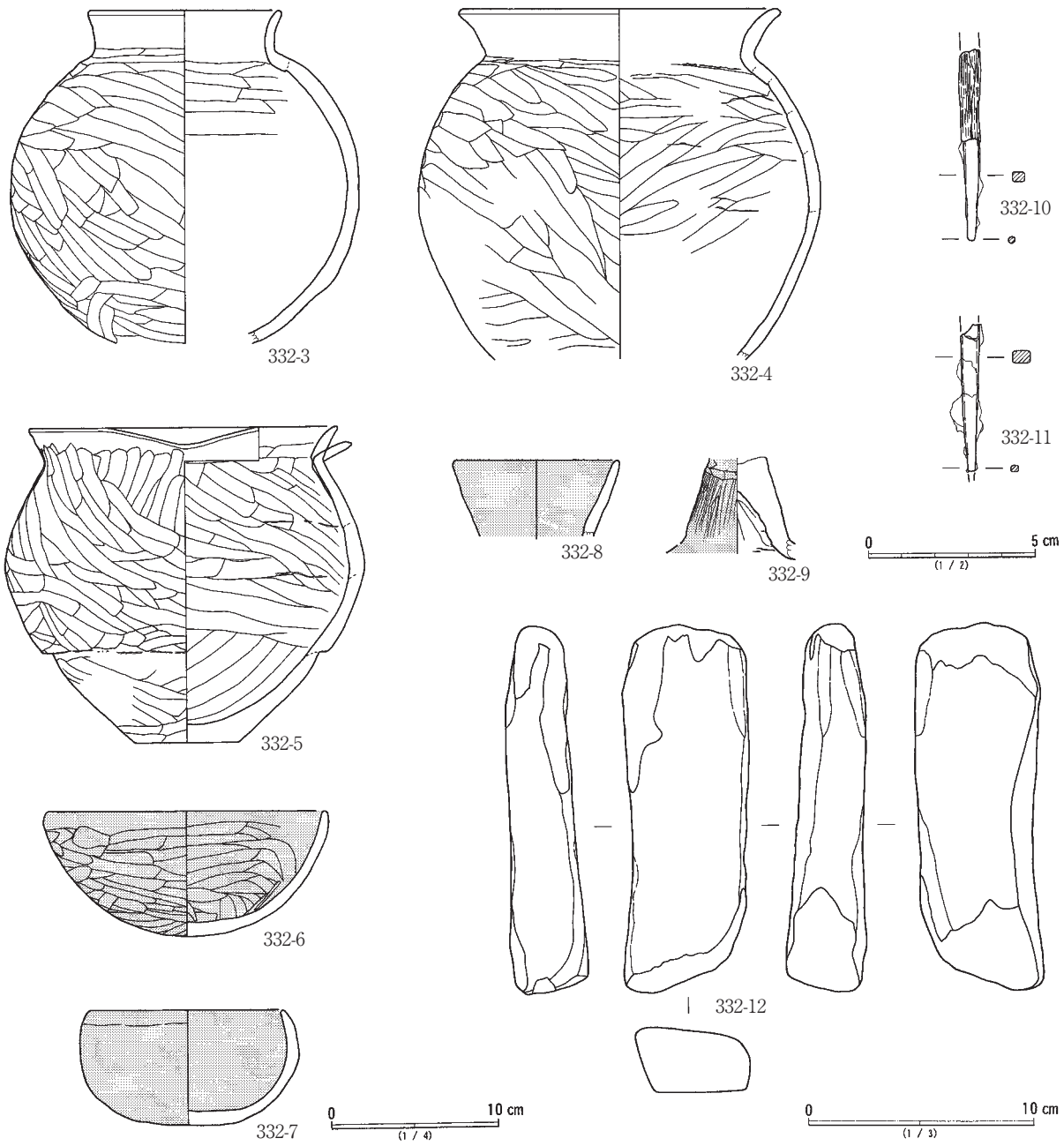
本遺構からは161点11,320gの土器片と１点490gの砥石、２点5.6gの鉄鏃片が検出された。土器片等の内訳は、127点10,960gの土師器、34点360gの弥生土器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

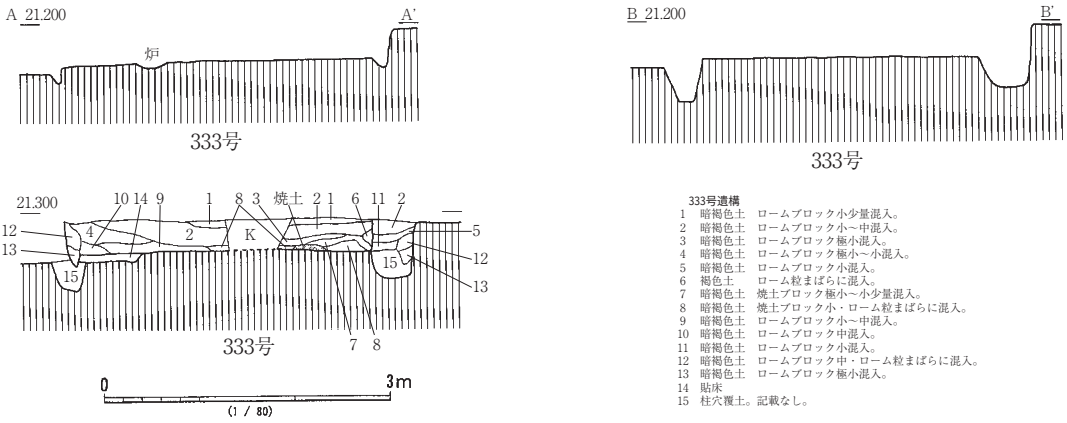
１～４・８・10～12は床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されており、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

333号遺構（竪穴住居跡）



第288図　330 ～ 332号遺構実測図・331・332号遺構出土遺物実測図





333号遺構

1 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
4 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小混入。
6 褐色土 ローム粒まばらに混入。
7 暗褐色土 焼土ブロック極小～小少量混入。
8 暗褐色土 焼土ブロック小・ローム粒まばらに混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
10 暗褐色土 ロームブロック中混入。
11 暗褐色土 ロームブロック小混入。
12 暗褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。
13 暗褐色土 ロームブロック極小混入。
14 貼床
15 柱穴覆土。記載なし。

第289図　333号遺構実測図・332号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号７号。332号竪穴の南に位置し、334号・335号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.62m短径3.62mを測り、主軸方位はN－33°－Wを示す。炉は中央よりかなり北西側に偏って検出され、残存する火床長径0.32m短径0.30m、深さ５㎝を測り、火床主軸方位はN－36°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁32㎝、南東壁33㎝、南西壁33㎝を測り、周溝は全周し、深さは９～14㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはＰ１が30㎝、Ｐ２が40㎝を測る。

焼土は２ヶ所に検出され、厚さは８～10㎝を測る。

遺物

本遺構からは76点2,087gの土器片と２点74gの礫、１点35.6gの磨石、１点480gの支脚が検出された。土器片等の内訳は、33点1,569gの土師器、43点518gの弥生土器である。これらの出土遺物の内９点を図示した。

３・４・６・７・８は床直ないしは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。１は床面から25㎝浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

334号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号９号。333号竪穴の北東に隣接し、333号竪穴に削平され、335号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.84m短径4.72mを測り、主軸方位はN－35°－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央やや南よりに検出され、残存する火床長径0.30m短径0.40m、深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－44°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁33㎝、南東壁47㎝、南西壁７㎝、北西32㎝を測り、周溝は全周し、深さは３～11㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは５ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはＰ１が31㎝、Ｐ２が36㎝、Ｐ３は38㎝、Ｐ４が62㎝、Ｐ５が32㎝を測る。

焼土は７ヶ所に検出され、厚さは３～12㎝を測る。

遺物

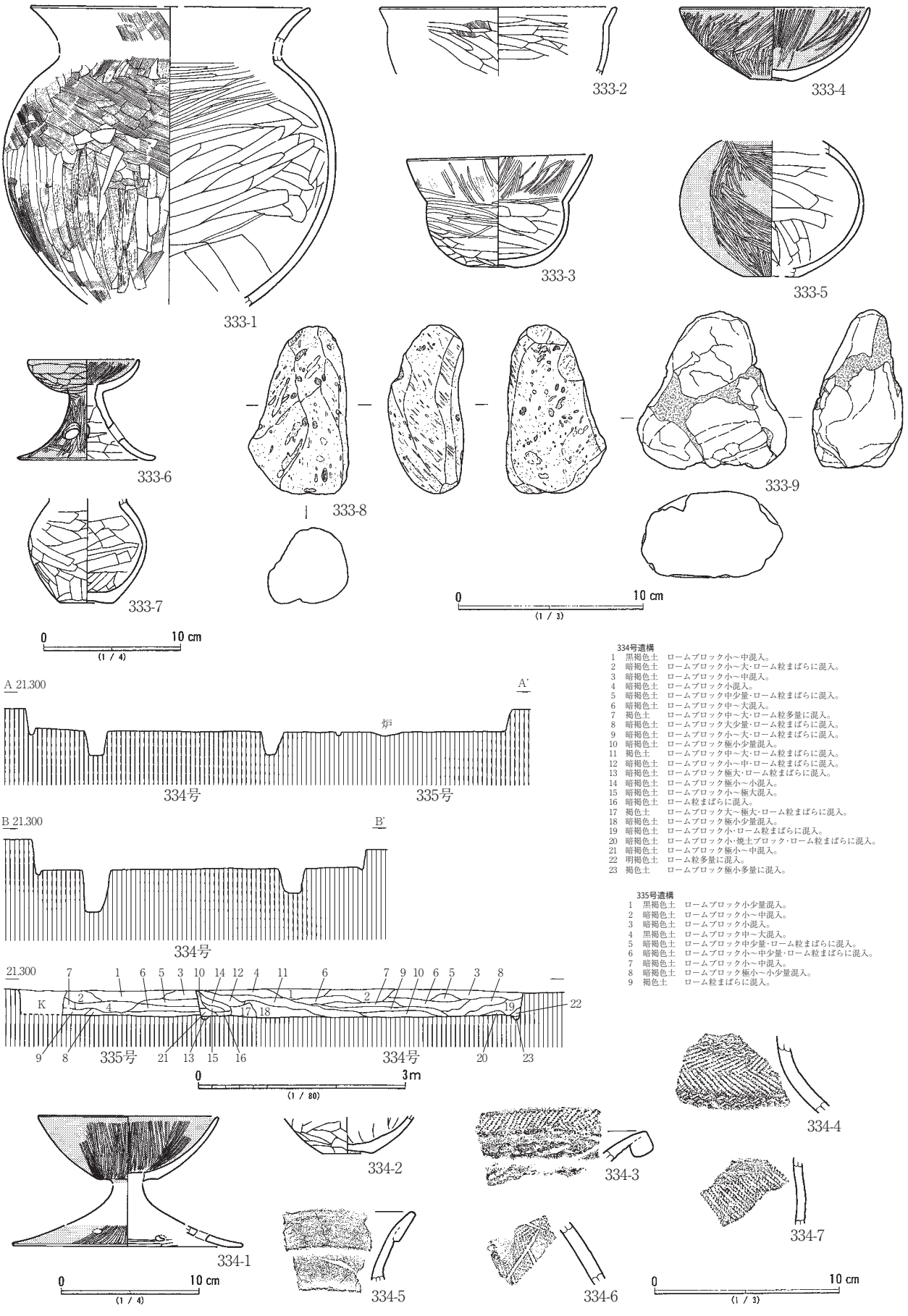
本遺構からは73点862gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、24点425gの土師器、49点437gの弥生土器である。これらの出土遺物の内７点を図示した。

２は床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。１は覆土一括であるが、時期的には333号竪穴に伴う可能性が高い。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

335号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号８号。334号竪穴の西に隣接し、333号・334号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.84m短径3.24mを測り、主軸方位はN－30°－Wを示す。炉は中央北側に検出され、残存する火床長径0.80m短径0.46m、深さ５㎝を測り、火床主軸方位はN－29°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ南東壁11㎝、南西壁37㎝、北西33㎝を測り、周溝存在しない。床面はハー



334号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック小～中混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～大・ローム粒まばらに混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小混入。
5 暗褐色土 ロームブロック中少量・ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 ロームブロック中～大混入。
7 褐色土 ロームブロック中～大・ローム粒多量に混入。
8 暗褐色土 ロームブロック大少量・ローム粒まばらに混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小～大・ローム粒まばらに混入。
10 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
11 褐色土 ロームブロック中～大・ローム粒まばらに混入。
12 暗褐色土 ロームブロック小～中・ローム粒まばらに混入。
13 暗褐色土 ロームブロック極大・ローム粒まばらに混入。
14 暗褐色土 ロームブロック極小～小混入。
15 暗褐色土 ロームブロック小～極大混入。
16 暗褐色土 ローム粒まばらに混入。
17 褐色土 ロームブロック大～極大・ローム粒まばらに混入。
18 暗褐色土 ロームブロック極小少量混入。
19 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
20 暗褐色土 ロームブロック小・焼土ブロック・ローム粒まばらに混入。
21 暗褐色土 ロームブロック極小～中混入。
22 明褐色土 ローム粒多量に混入。
23 褐色土 ロームブロック極小多量に混入。

335号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック小少量混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小混入。
4 黒褐色土 ロームブロック中～大混入。
5 暗褐色土 ロームブロック中少量・ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土 ロームブロック小～中少量・ローム粒まばらに混入。
7 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
8 暗褐色土 ロームブロック極小～小少量混入。
9 褐色土 ローム粒まばらに混入。

第290図　334・335号遺構実測図・333・334号遺構出土遺物実測図

ドローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはP １が21㎝、Ｐ ２が８㎝を測る。

遺物

本遺構からは117点2,474gの土器片と３点115gの礫、１点75gの布目瓦片、１点５gの泥面子片が検出された。土器片等の内訳は、32点243gの土師器、83点2,191gの弥生土器、２点40gの縄文土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

１は床直で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

336号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号63号。274号竪穴の南に隣接し、341号土坑と重複するも、ほぼ単独で存在する竪穴住居跡である。長径9.70m短径8.06mを測り、主軸方位はN－15 °－Wを示す。炉はP １・P ２間の中央やや南側に検出され、残存する火床長径0.64m短径0.54m、深さ７㎝を測り、火床主軸方位はN－４ °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁41㎝、西壁50㎝、南壁51㎝、北壁38㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、Ｐ １・Ｐ ２・Ｐ ３・Ｐ ４は主柱穴と想定され、深さはP １が92㎝、Ｐ ２が98㎝、Ｐ ３は75㎝、Ｐ ４が111㎝を測る。

焼土は炉のすぐ南側に１ヶ所に検出され、厚さは10㎝を測る。

遺物

本遺構からは1,242点15,055gの土器片と14点410gの礫、１点90gの砥石、１点480gの凹石、２点20gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、11点315gの土師器、1,228点14,600gの弥生土器、３点140gの縄文土器である。これらの出土遺物の内56点を図示した。

１・５・６・９・12・20・24・35・38・39・56は、床直もしくは床直上、あるいはピット内で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。他の出土位置のわかる遺物は、何れも床面より11㎝以上浮いて検出されている。52はP ２内からの出土であるが、縄文土器なので本跡に直接伴うものではない。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

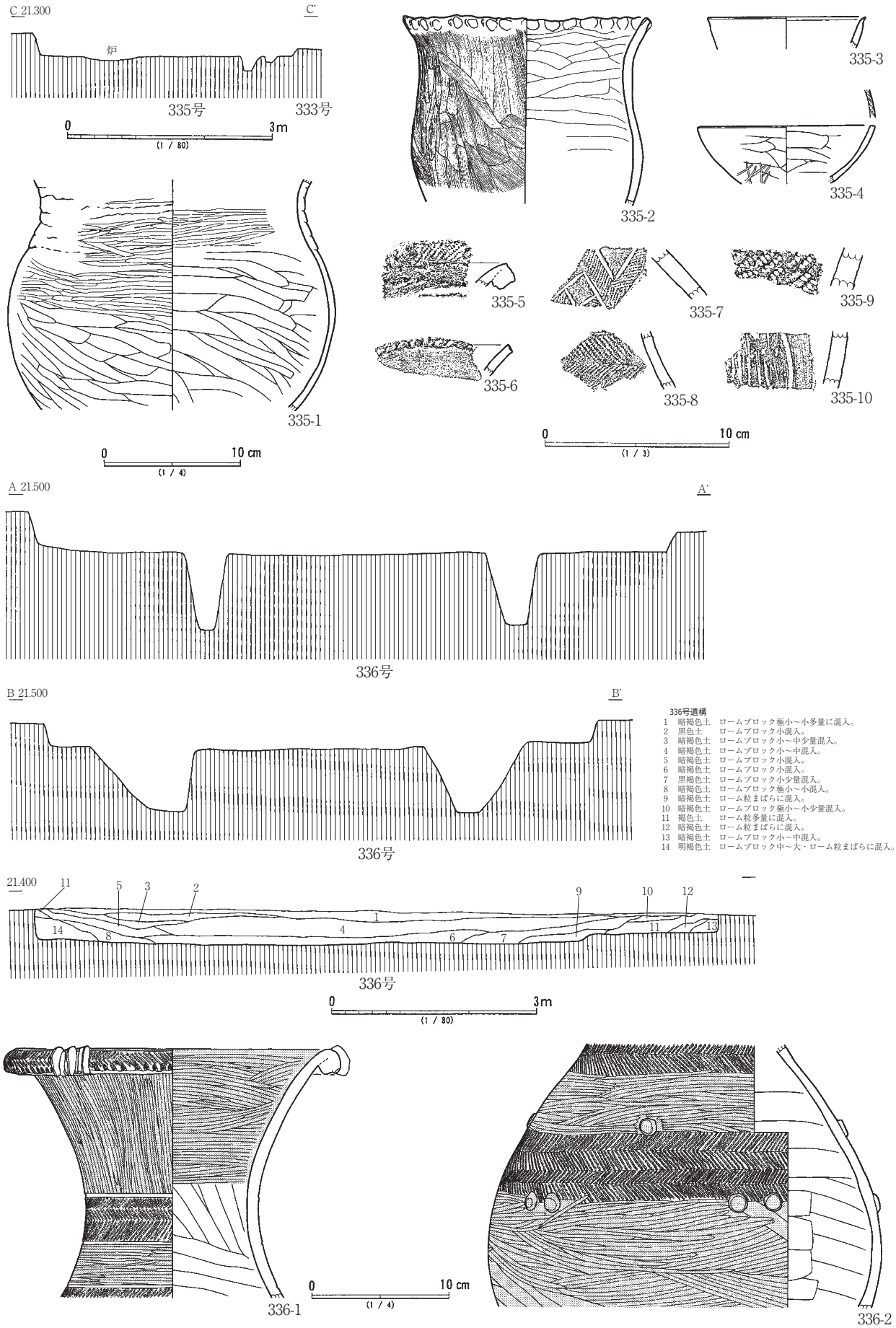
337号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号56号。336号竪穴の東に位置し、時期の新しい溝と重複するも、ほぼ単独で存在する竪穴住居跡である。長径4.26m短径3.78mを測り、主軸方位はN－16 °－Wを示す。炉は中央やや北よりに検出され、残存する火床長径0.74m短径0.64m、深さ10㎝を測り、火床主軸方位はN－12 °－Wを示す。

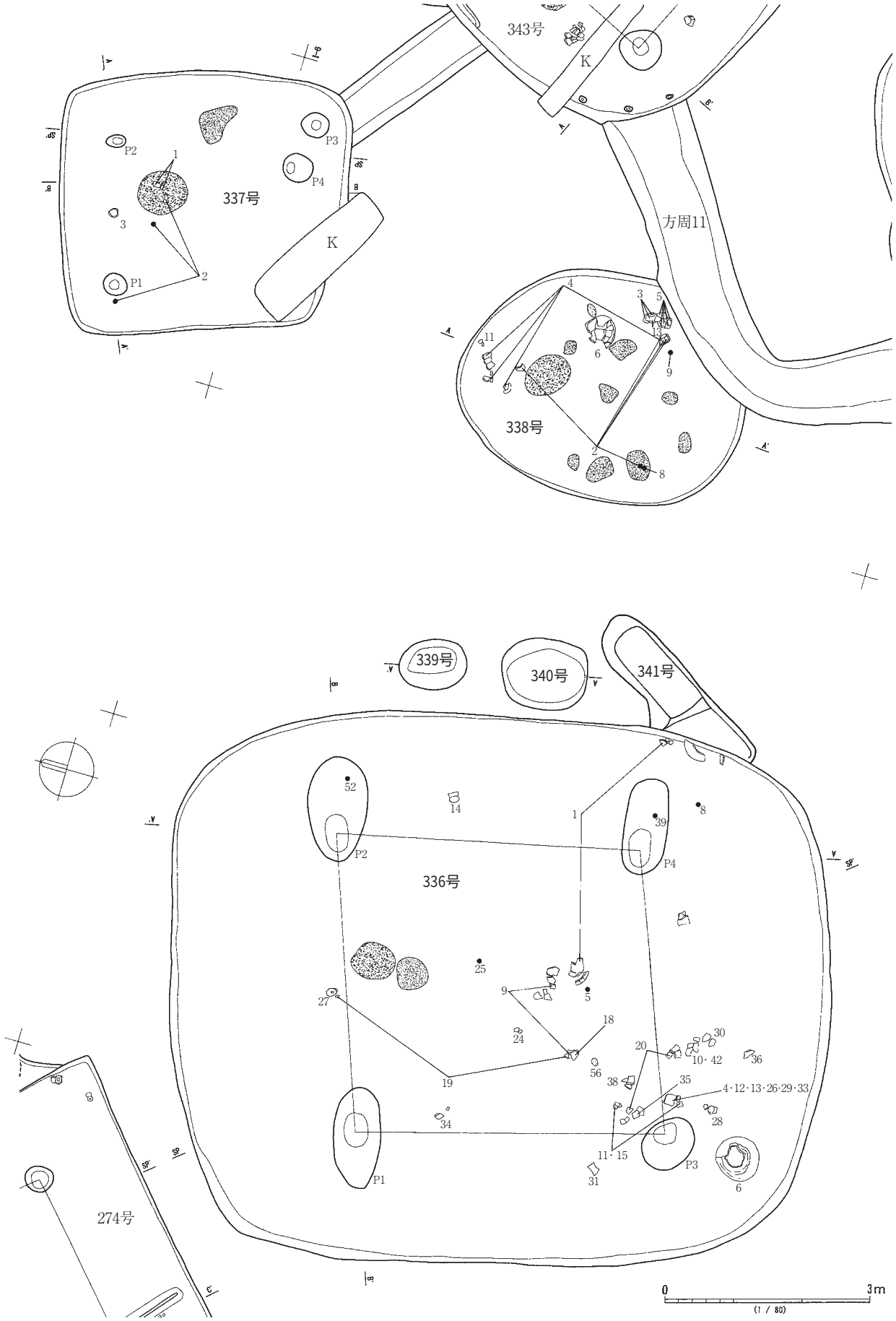
残存する壁高はそれぞれ東壁15㎝、西壁25㎝、南壁25㎝、北壁17㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは４ヶ所に検出され、深さはP １が24㎝、Ｐ ２が26㎝、Ｐ ３は55㎝、Ｐ ４が54㎝を測る。

焼土は１ヶ所に検出され、厚さは４㎝を測る。

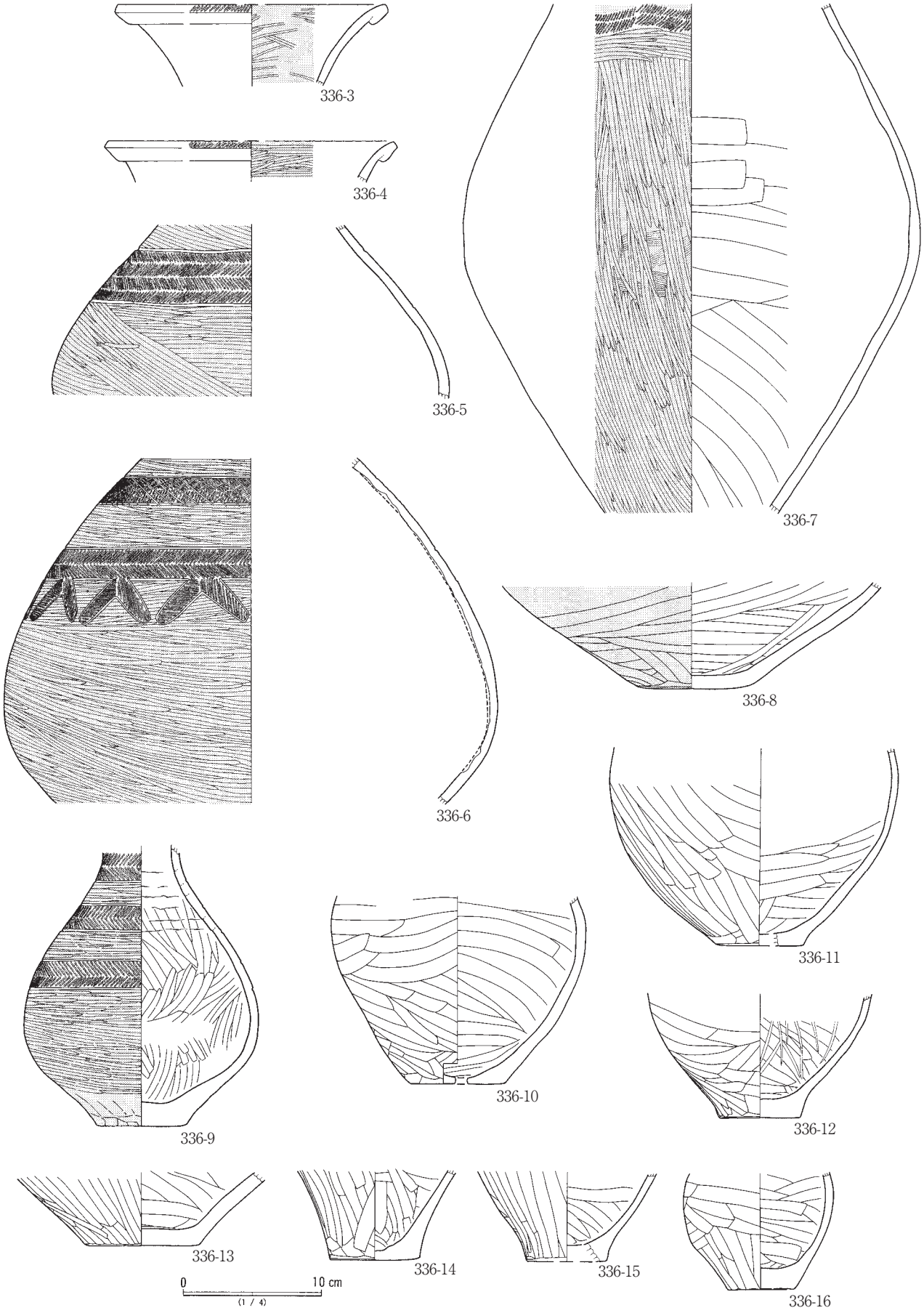
遺物



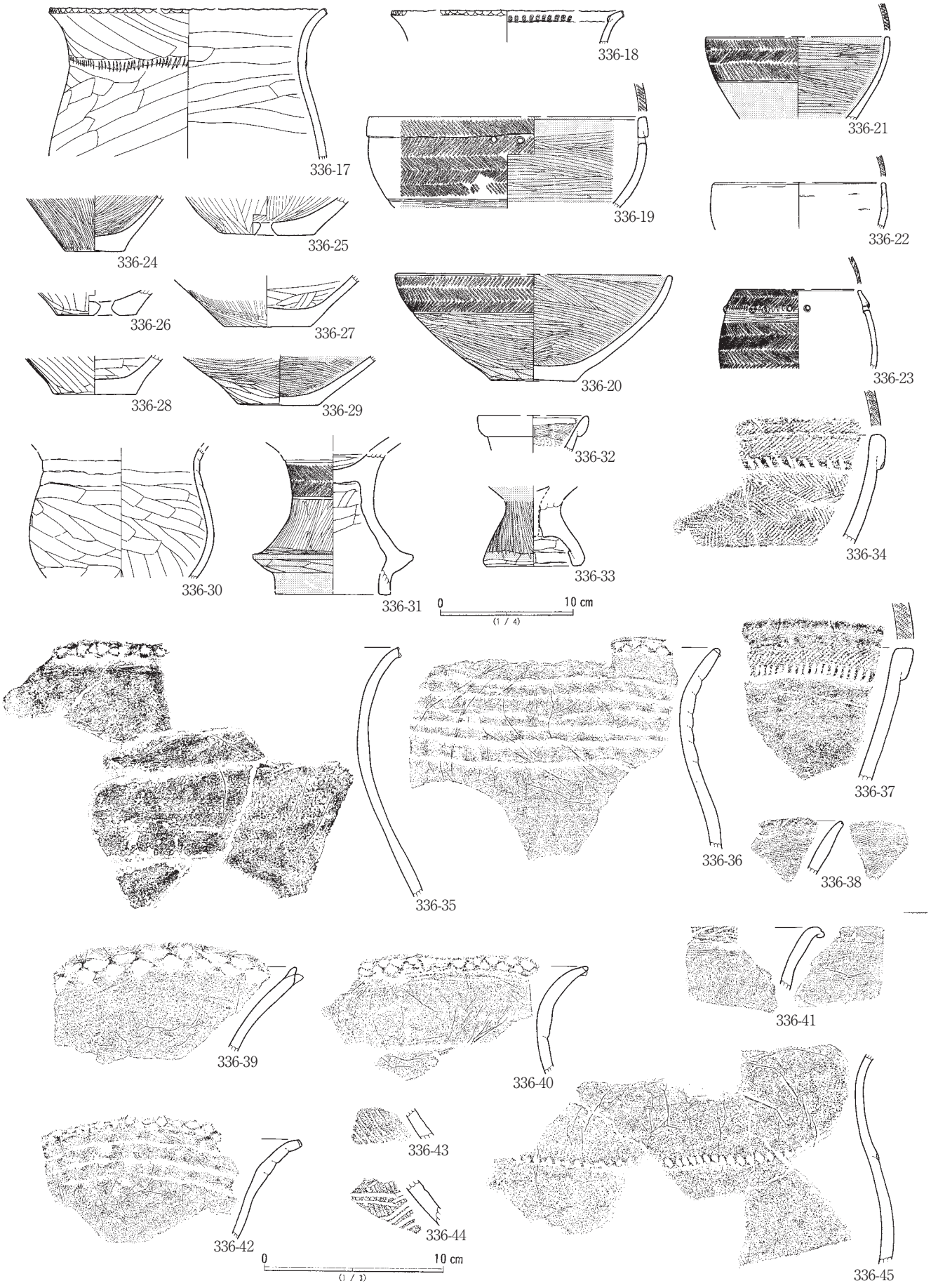
第291図　333・335・336号遺構実測図・335・336号遺構出土遺物実測図



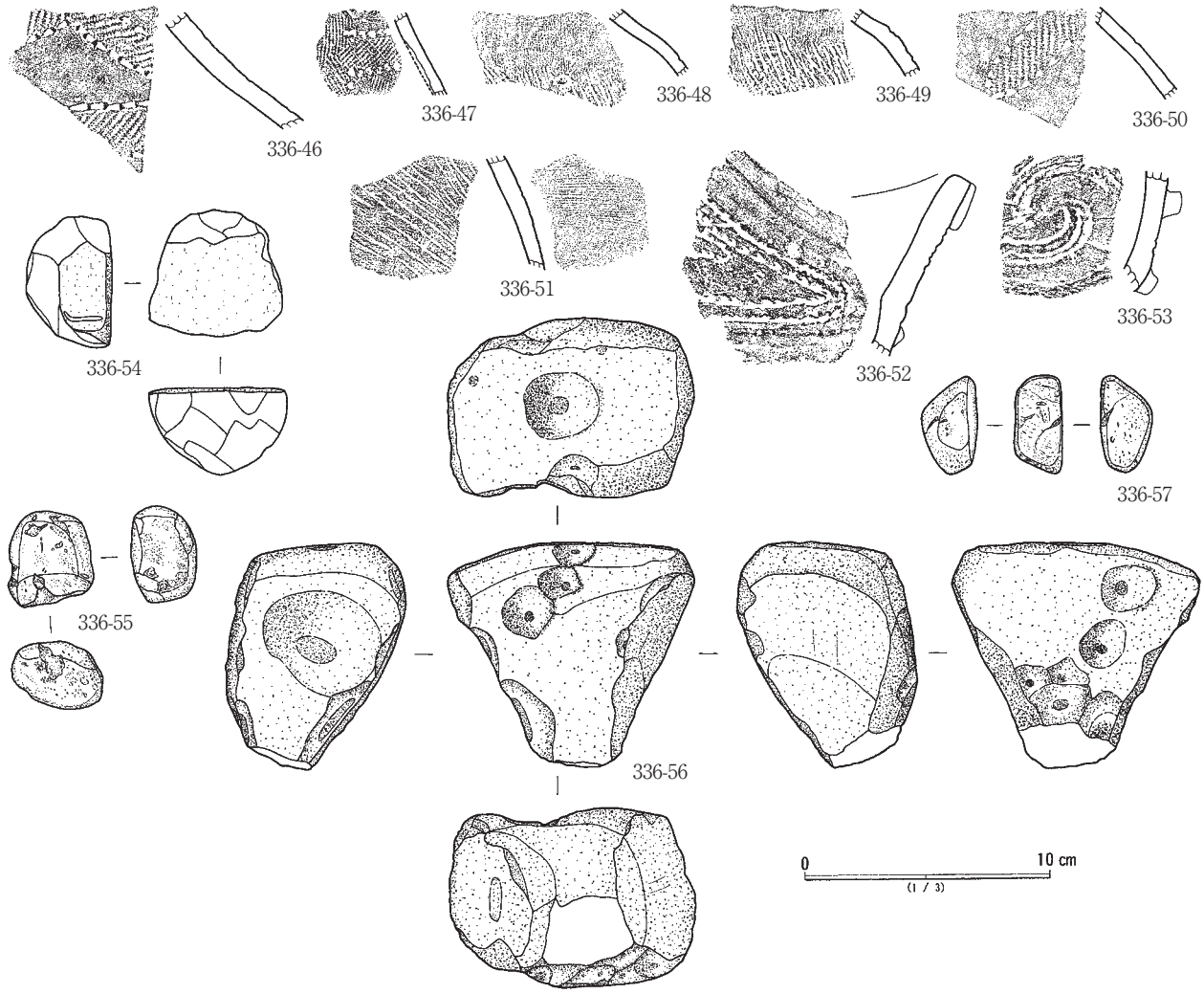
第292図　336 ～ 341号遺構実測図

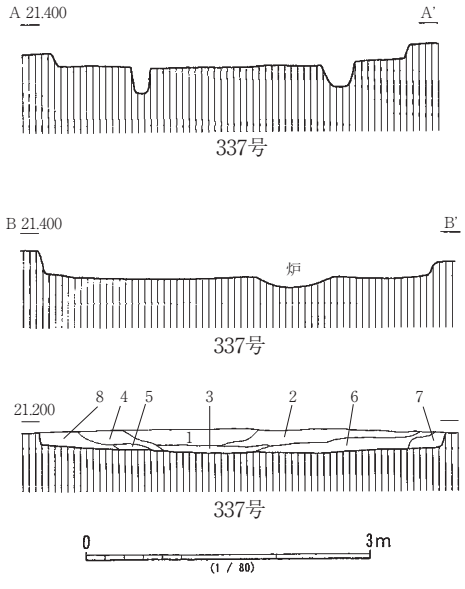


第293図　336号遺構出土遺物実測図１

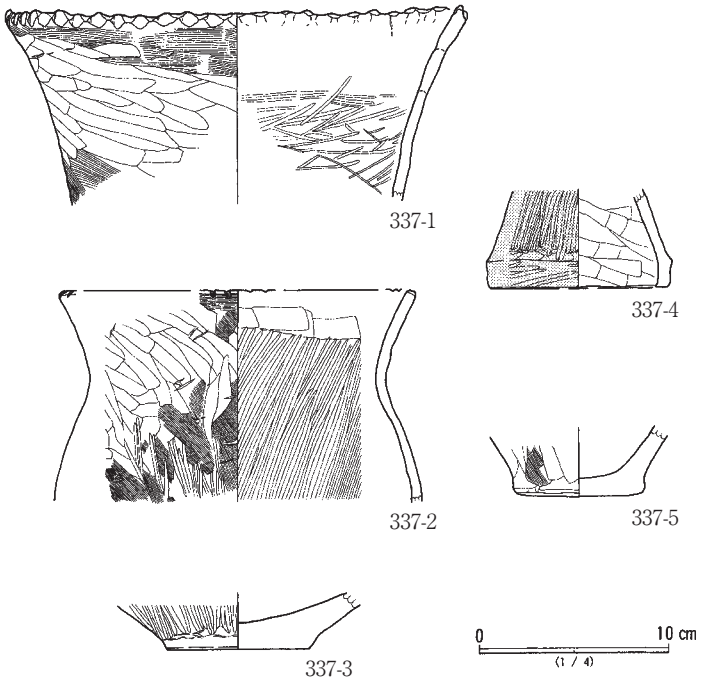


第294図　336号遺構出土遺物実測図２





337号遺構
1 暗褐色土　ロームブロック小～中混入。
2 黒色土　ロームブロック小～大少量混入。
3 暗褐色土　ロームブロック中少量混入。
4 黄褐色土　ロームブロック少量混入。
5 褐色土　ローム粒まばらに混入。
6 暗褐色土　ローム粒まばらに混入。
7 黒褐色土　ローム粒まばらに混入。
8 暗褐色土　ロームブロック小少量・ローム粒まばらに混入。



第295図　337号遺構実測図・336・337号遺構出土遺物実測図

本遺構からは85点1,760gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、17点400gの土師器、68点1,360gの弥生土器である。これらの出土遺物の内５点を図示した。

１・２・３は、床直もしくは炉内密着で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

338号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号５号。336号竪穴の東に位置し、１号方形周溝墓に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.22m短径3.34mを測り、主軸方位はN－２°－Wを示す。炉は中央やや北よりに検出され、残存する火床長径0.72m短径0.52m、深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－51°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁９㎝、西壁４㎝、南壁９㎝、北壁４㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ軟弱であり、ピットは検出されない。焼土は９ヶ所に検出され、厚さは２～16㎝を測る。

遺物

本遺構からは158点6,320gの土器片と、１点15gの礫、１点70gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、18点410gの土師器、139点5,895gの弥生土器、１点15gの近世陶器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

２～６・８・９・11・13は、床直もしくは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

339号遺構（土器棺墓）

昭和53年度調査時遺構番号S１・S２号。調査段階でしばしば遺構番号が変動した遺構である。336号竪穴の東に隣接する土器棺墓である。土坑規模は、長径1.00m短径0.75mを測り、長軸方位はN－19°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ南壁27㎝、北壁23㎝を測り、底面はソフトローム層中に掘り込まれ平坦である。１の土器の上に２の土器を逆さに被せ、合子状に寝かせた状態で出土している。再葬骨等は検出されていないが、可能性としては胎児・乳幼児の遺体を壺の中に入れて葬ったものであろう。

遺物

本遺構からは68点7,548gの土器片が検出された。全て１・２に関わる土器片である。

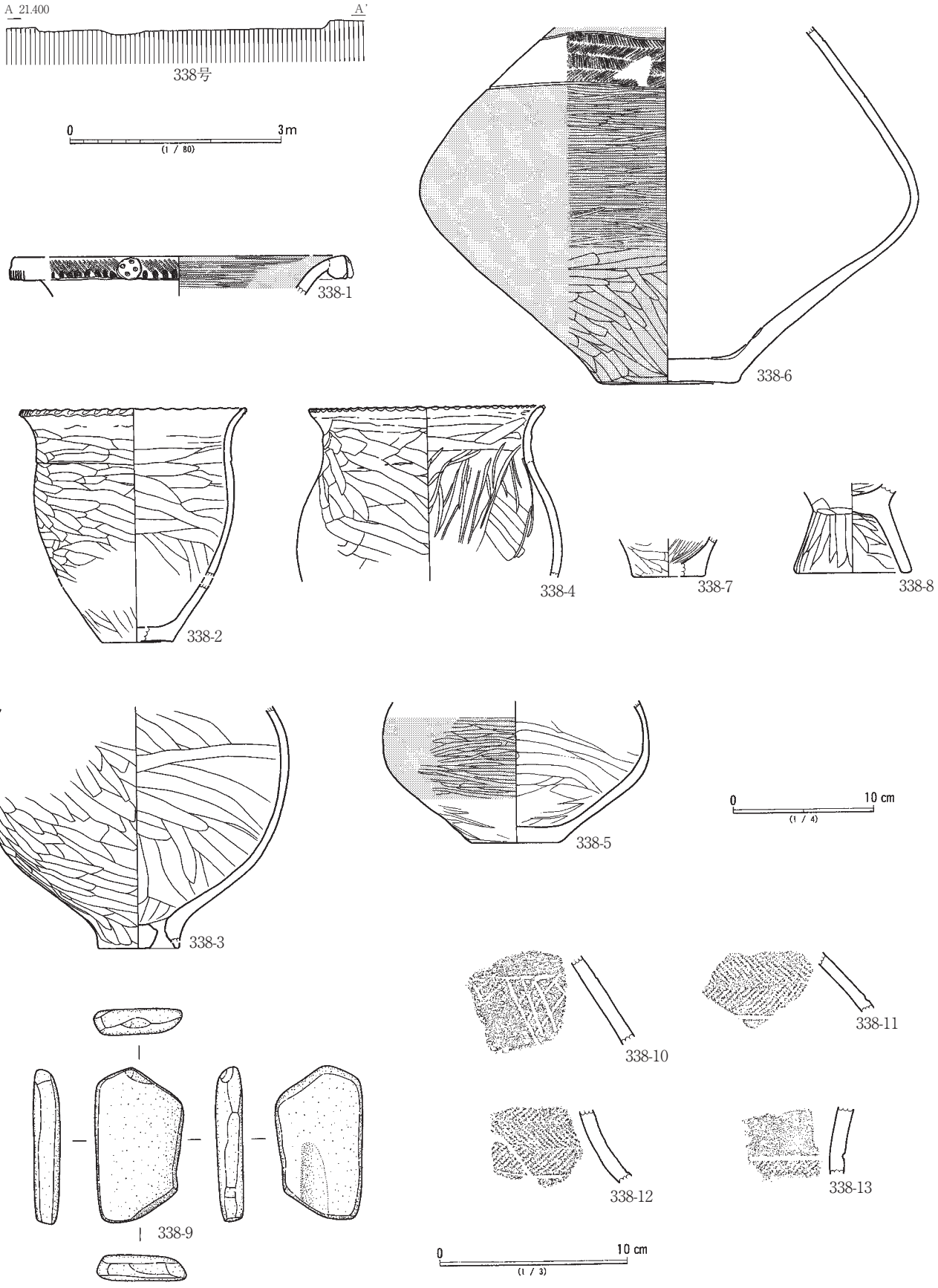
340号遺構（土器棺墓）

昭和53年度調査時遺構番号S１・S２・S４号。調査段階でしばしば遺構番号が変動した遺構である。339号土器棺墓の南に隣接する土器棺墓である。土坑規模は、長径1.26m短径1.04mを測り、主軸方位はN－９°－Wを示す。

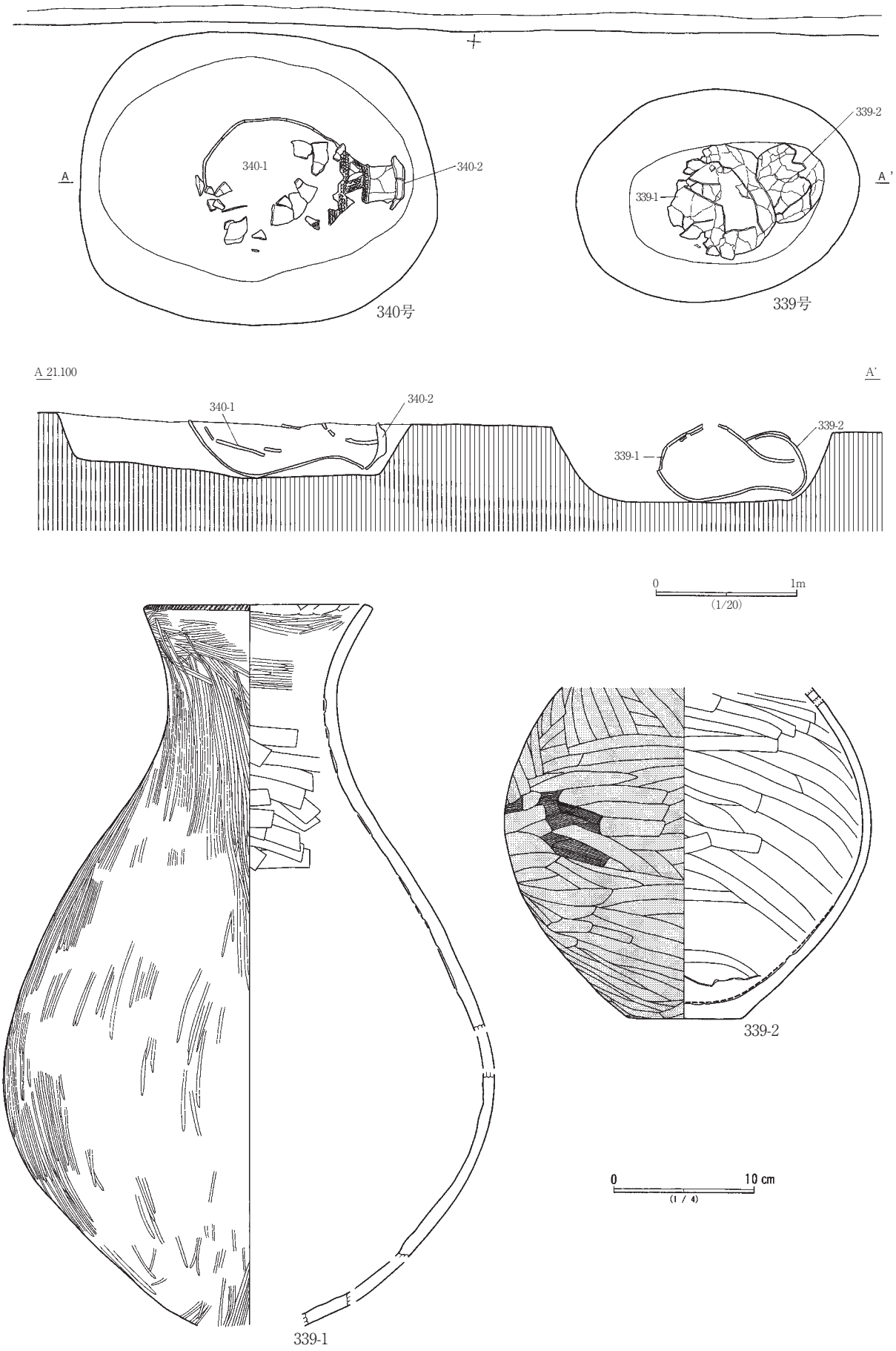
残存する壁高はそれぞれ南壁23㎝、北壁19㎝を測り、底面はソフトローム層中に掘り込まれ平坦である。１の土器の上に２の底部片を逆さにし、蓋転用として被せたまま寝かせた状態で出土している。壺頸部があまりにも細く、再葬骨等は検出されていないが、可能性としては胎児・乳幼児の遺体を壺の中に入れて葬ったものであろう。

遺物

本遺構からは33点11,467gの土器片が検出された。１点を除き全て１・２に関わる土器片である。



第296図　338号遺構出土遺物実測図



第297図　339・340号遺構実測図・339号遺構出土遺物実測図

なお、念のため参考までに別個体の１点も図化した。

341号遺構（土器棺墓）

昭和53年度調査時遺構番号S ３号。340号土器棺墓の南に位置し、336号竪穴に削平されて存在する土坑である。土坑規模は、長径2.88m短径0.94mを測り、主軸方位はN－27 °－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁40㎝、西壁34㎝を測り、底面はハードローム層中に掘り込まれ、西側１m程の範囲が６㎝程高い。336号竪穴と接する位置から１の甕形土器が出土している。

遺物

本遺構からは１点1,350gの弥生土器が検出された。

342号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号６B号。調査区南端部に位置し、９・10・11号方形周溝墓・343号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。長径4.30m短径4.27mを測り、主軸方位はN－41 °－Wを示す。カマドは北壁中央に構築され、残存する火床長径0.57m短径0.42m、深さ４㎝を測り、火床主軸方位はN－51 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁20㎝、西壁７㎝、南壁31㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、343号竪穴と重複する範囲には厚さ10㎝以上の貼床が施され、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは未検出である。

焼土は１ヶ所に検出され、厚さは６㎝を測る。

遺物

本遺構からは423点4,150gの土器片と３点48gの礫、１点17.8gの砥石、１点24.5gの磨石、１点2.2gの鉄鏃片が検出された。土器片等の内訳は、121点1,780gの土師器、297点2,250gの弥生土器、２点25gの手づくね土器、３点95gの縄文土器である。これらの出土遺物の内26点を図示した。

８・11・12・15・17は、床直もしくはカマド内で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

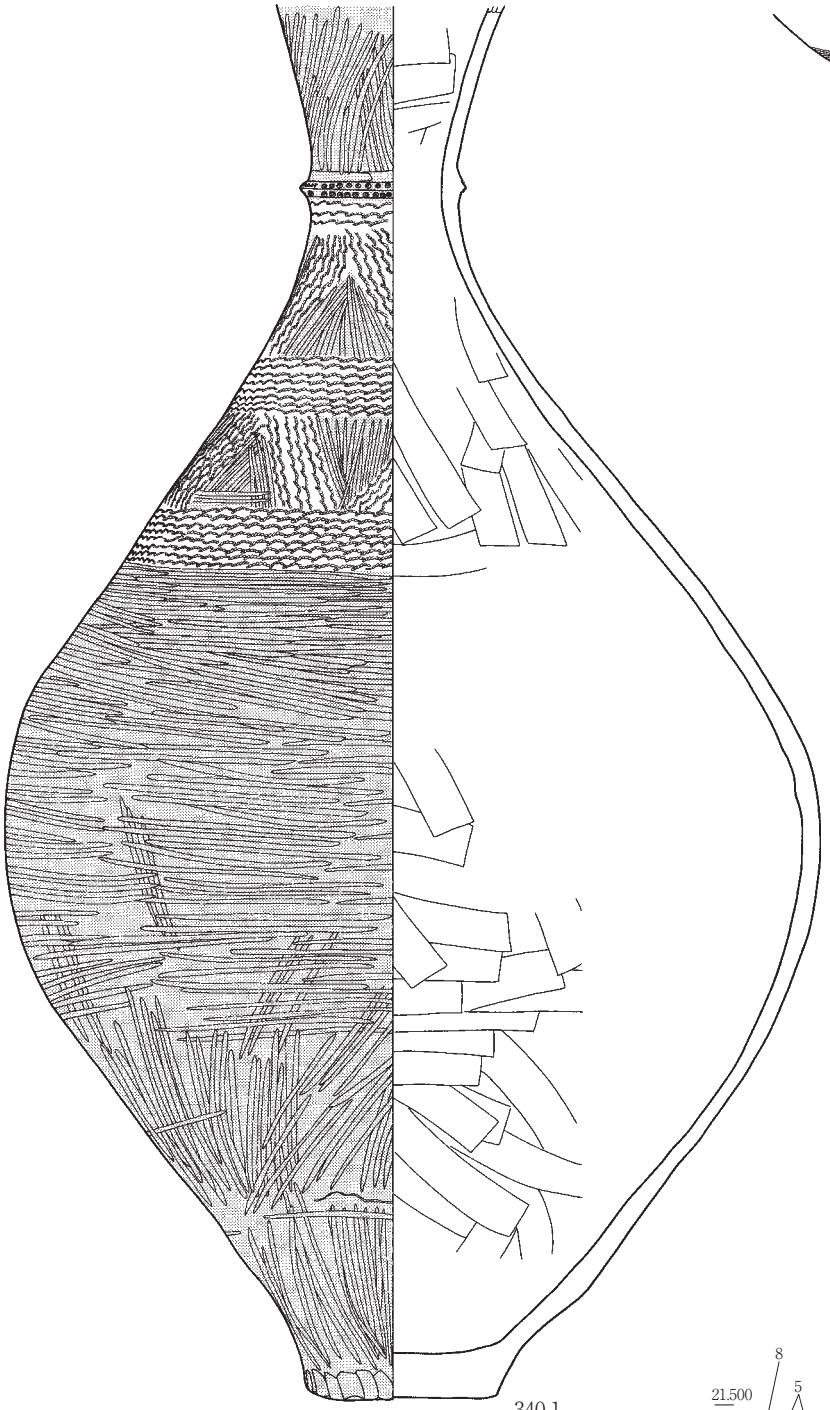
343号遺構（竪穴住居跡）

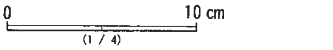
昭和53年度調査時遺構番号６A号。９・10・11号方形周溝墓・342号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径5.95m短径5.08mを測り、主軸方位はN－64 °－Wを示す。炉はP １・P ２間の中央に検出され、残存する火床長径0.90m短径0.54m、深さ８㎝を測り、火床主軸方位はN－58 °－Wを示す。

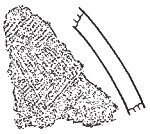
残存する壁高はそれぞれ東壁14㎝、西壁33㎝、南壁40㎝、北壁23㎝を測り、周溝は北から東側に残存し、深さは２～５㎝を測る。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは12 ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は入口施設に伴うものと想定され、深さはP １が75㎝、Ｐ２が69㎝、Ｐ３は71㎝、Ｐ４が73㎝、Ｐ５が30㎝、Ｐ６が10㎝、Ｐ７が３㎝、Ｐ８が９㎝を測る。Ｐ９～ P12は周溝内より検出され、深さは３～ 10㎝を測る。

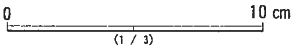
遺物

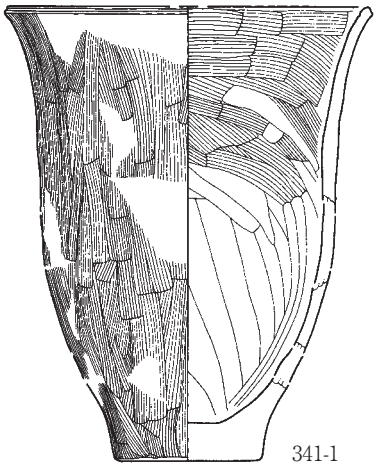
本遺構からは553点10,051gの土器片と14点200gの礫、１点29.1gの磨石が検出された。土器片等の

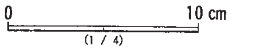


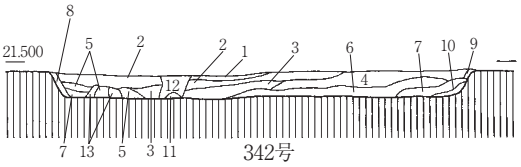


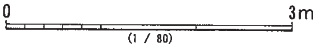


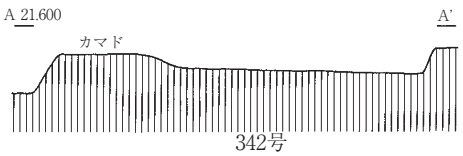


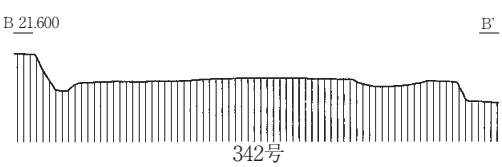






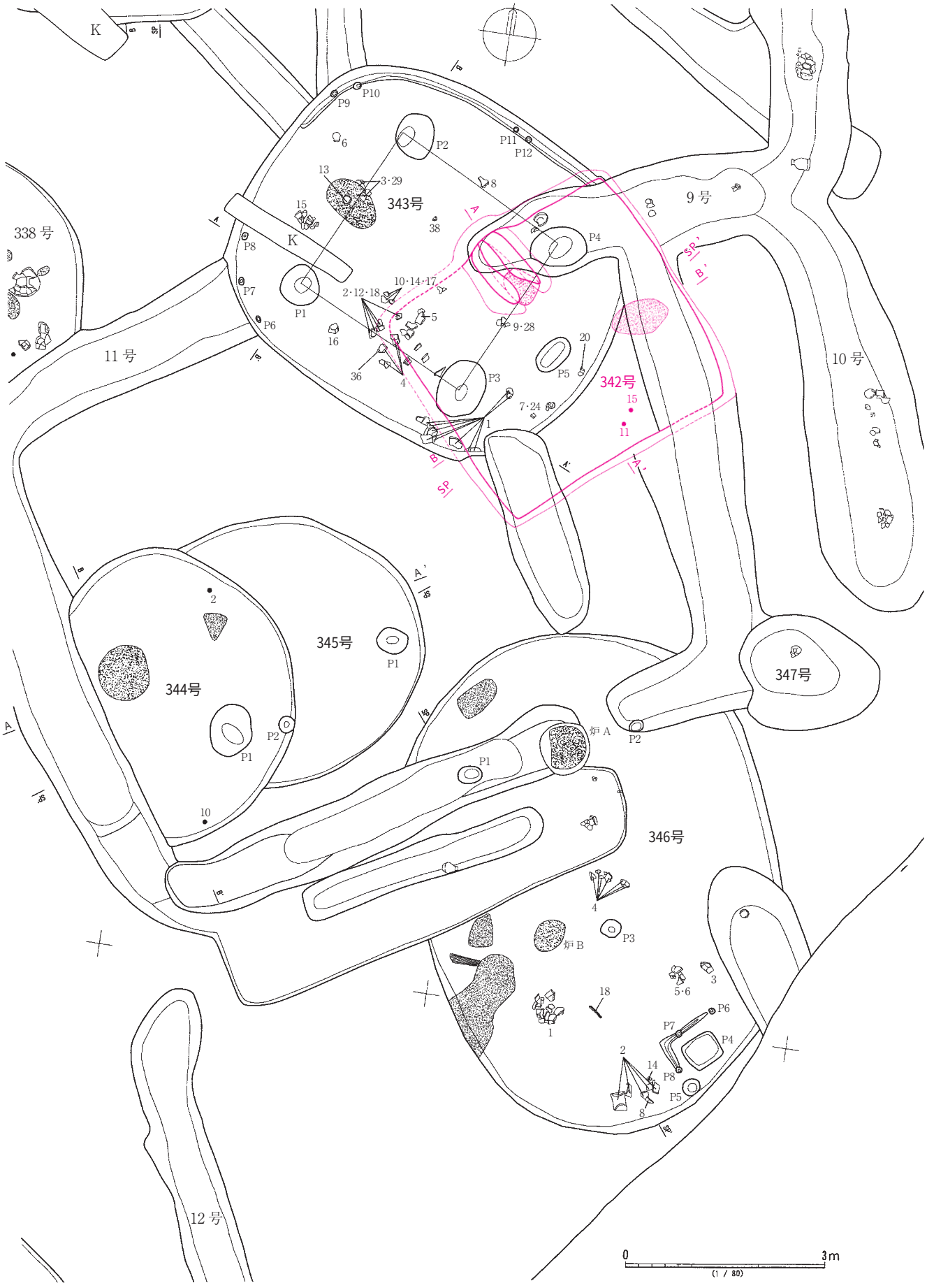




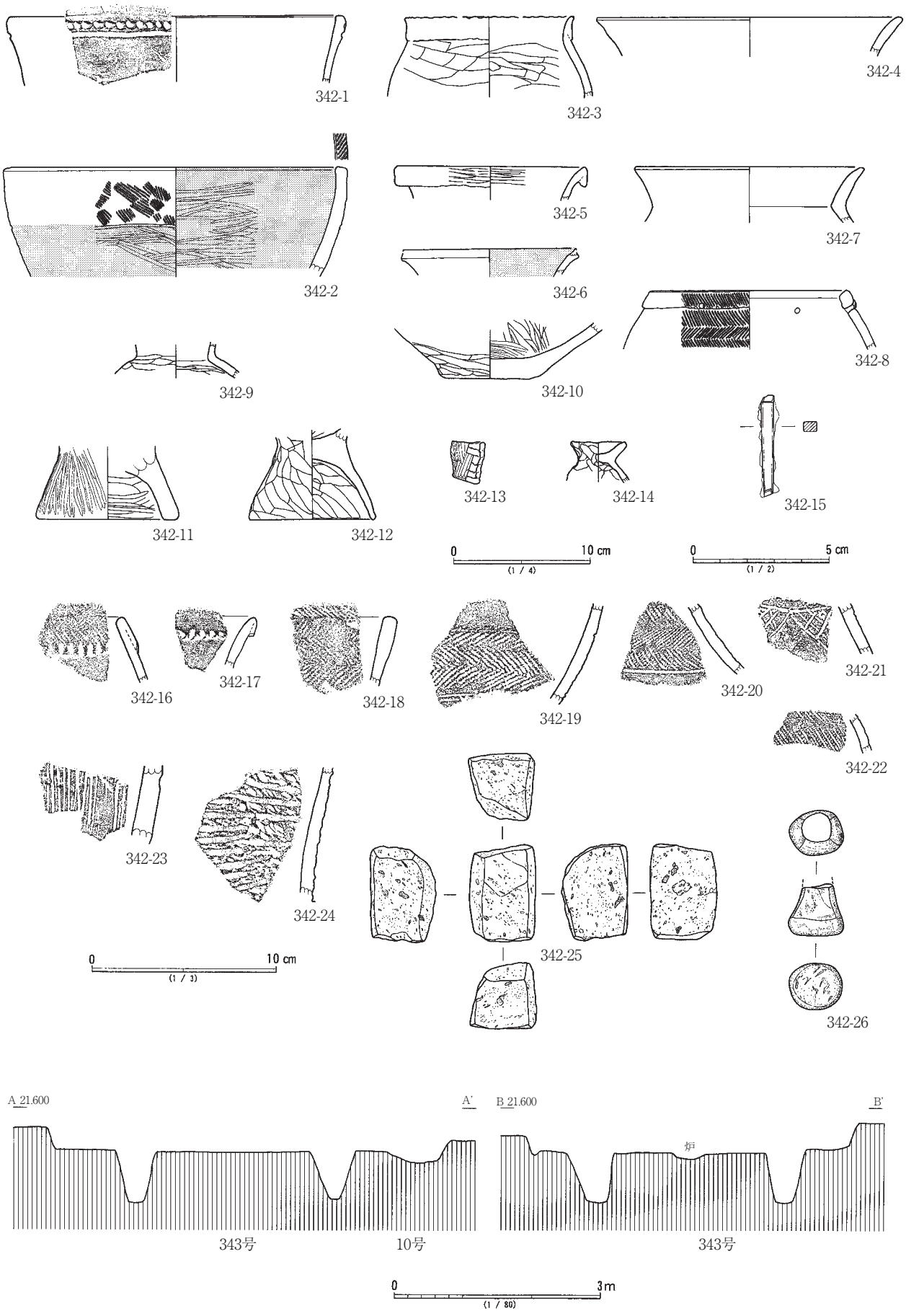


342号遺構
1　黒色土　　ロームブロック小～中混入。
2　暗褐色土　ロームブロック極小～小混入。
3　暗褐色土　ロームブロック極小～小少量混入。
4　暗褐色土　ロームブロック小少量・ローム粒まばらに混入。
5　暗褐色土　ロームブロック極小・焼土ブロック極小混入。
6　暗褐色土　ローム粒少量混入。
7　暗褐色土　ロームブロック極小少量混入。
8　暗褐色土　ロームブロック極小混入。
9　暗褐色土　ロームブロック極小混入。
10　暗褐色土　ロームブロック極小少量・ローム粒まばらに混入。
11　暗褐色土　焼土ブロック極小混入。
12　暗褐色土　ロームブロック極大混入。
13　暗褐色土　ロームブロック小～中混入。

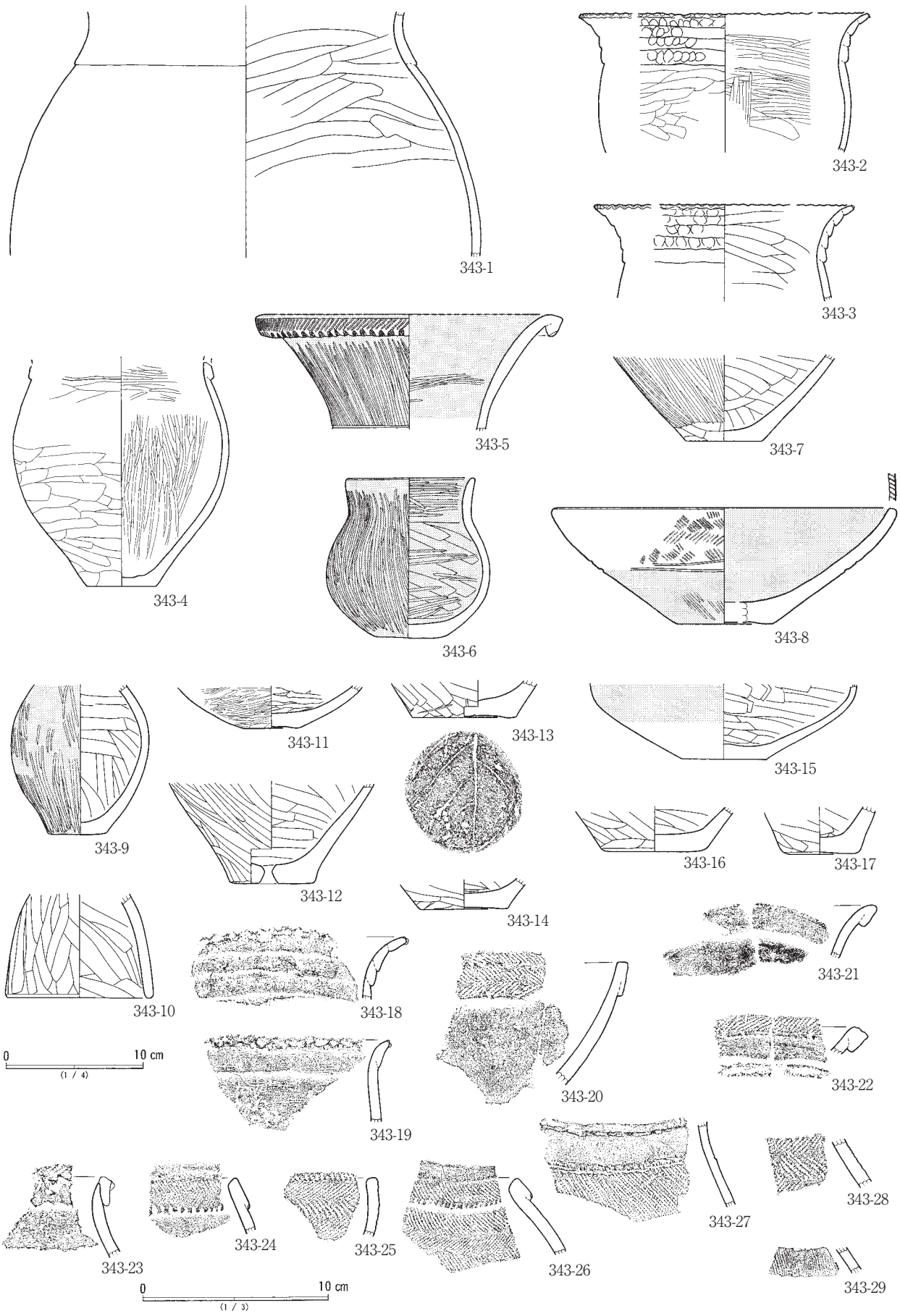
第298図　342号遺構実測図・340・341号遺構出土遺物実測図



第299図　342 ～ 347号遺構実測図



第300図　10・343号遺構実測図・342号遺構出土遺物実測図



第301図　343号遺構出土遺物実測図

内訳は、92点1,619gの土師器、459点8,399gの弥生土器、２点33gの縄文土器である。これらの出土遺物の内38点を図示した。

１～11・12～20・24・28・29・36・38は、床直もしくは床直上、あるいは炉内で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。他の出土位置のわかる遺物は、何れも床面より11㎝以上浮いて検出されている。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

344号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号４号。345号竪穴を削平し、11号方形周溝墓に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径4.38m残存短径2.94mを測り、主軸方位はN－30°－Wを示す。炉は中央やや北西よりに検出され、残存する火床長径0.80m短径0.76m、深さ６㎝を測り、火床主軸方位はN－80°－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁６㎝、南壁17㎝、北壁10㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは２ヶ所に検出され、深さはP １が77㎝、P ２が15㎝を測る。

焼土は１ヶ所に検出され厚さ４㎝を測る。

遺物

本遺構からは78点861gの土器片と３点55gの礫、１点200gの砥石が検出された。土器片等の内訳は、12点171gの土師器、66点690gの弥生土器である。これらの出土遺物の内10点を図示した。

２・10は、床直もしくは床直上で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

345号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号３号。344号竪穴に削平されて存在する竪穴住居跡である。短径4.02mを測り、主軸方位はN－60°－Eを示す。炉は344号竪穴に削平されて未検出である。

残存する壁高はそれぞれ東壁13㎝、南壁９㎝、北壁７㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、軟弱であり、ピットは１ヶ所に検出され、深さは17㎝を測る。

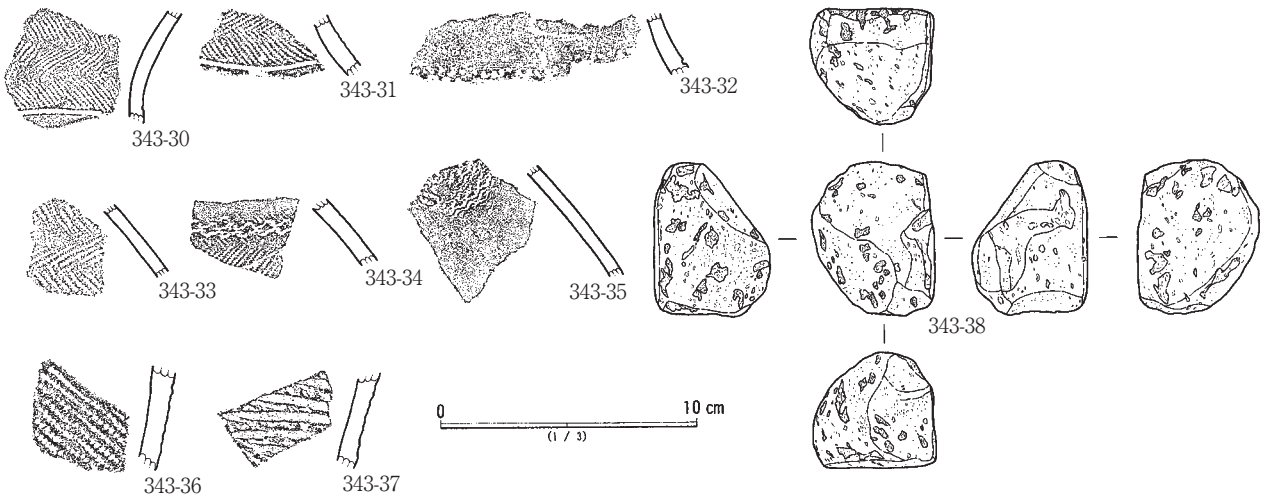
遺物

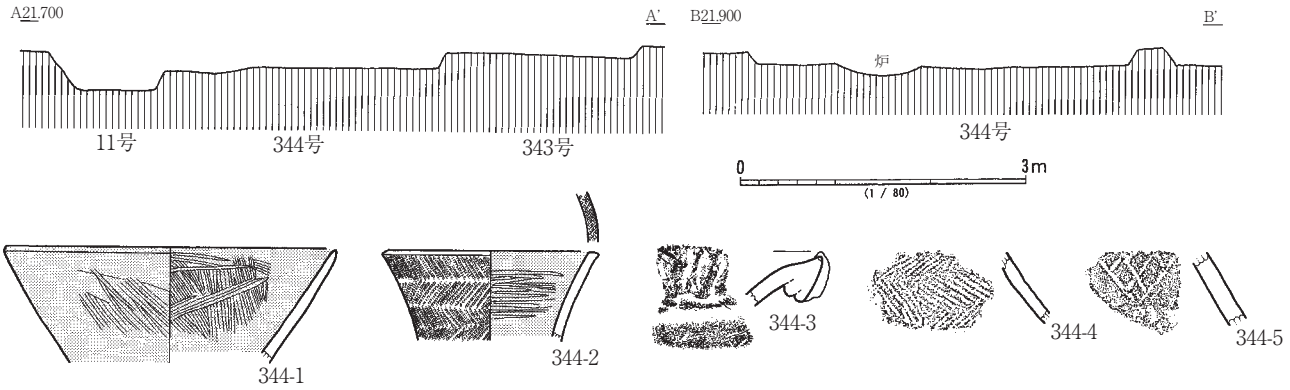
本遺構からは71点560gの土器片と２点30gの礫、１点165gの磨石が検出された。土器片等の内訳は、23点150gの土師器、１点20gの須恵器、47点390gの弥生土器である。これらの出土遺物の内８点を図示した。

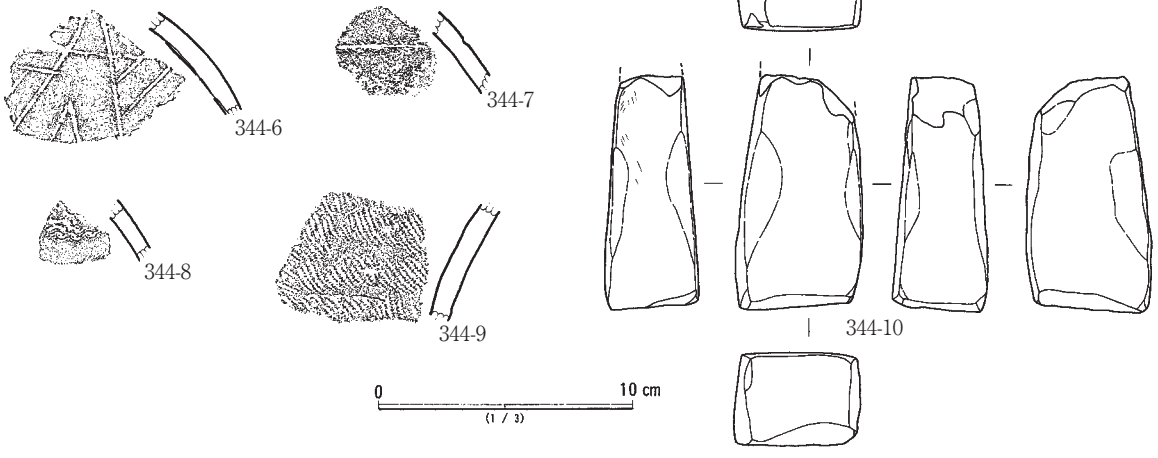
本跡出土遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

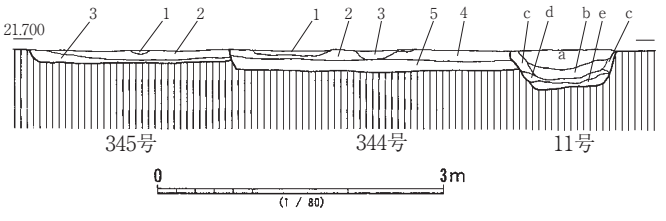
346号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号２号。11・12号方形周溝墓に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径7.58m短径5.48mを測り、主軸方位はN－23°－Wを示す。炉は２ヶ所に検出された。Aは11号方形周溝墓と重複する位置で検出され、残存する火床長径0.65m短径0.52m、深さ３㎝を測り、火床主軸方位はN－17°－Wを示す。Bは中央やや西側に検出され、残存する火床長径0.55m短径0.42m、深さ３㎝を測り、火床主軸方位はN－35°－Eを示す。







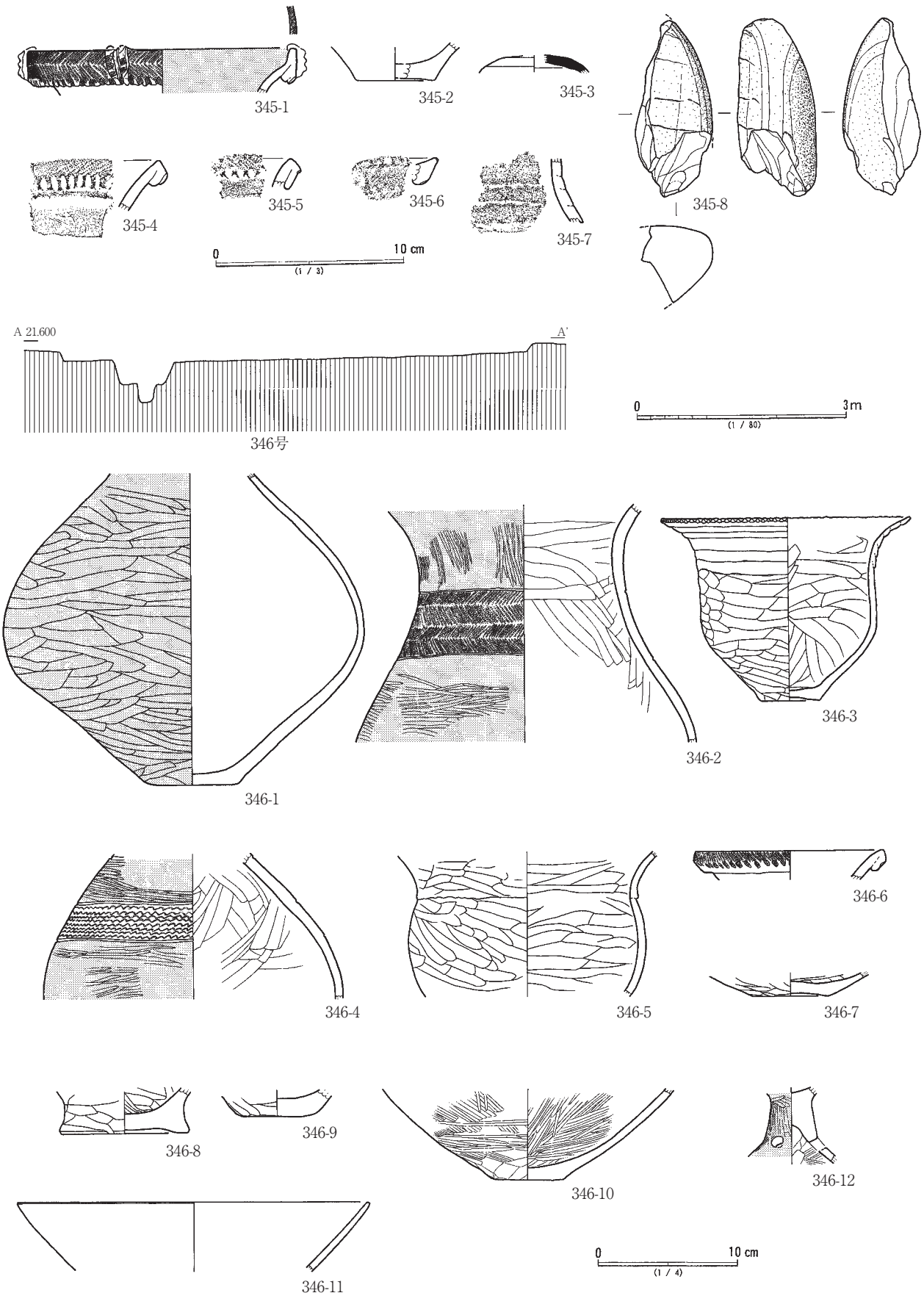


344号遺構
1 暗褐色土　ロームブロック小混入。
2 暗褐色土　ロームブロック小少量混入。
3 暗褐色土　ロームブロック小～大混入。
4 暗褐色土　ロームブロック極小少量混入。
5 暗褐色土　ロームブロック極小少量混入。

345号遺構
1 暗褐色土　灰混入。
2 暗褐色土　ローム粒まばらに混入。
3 暗褐色土　ローム粒まばらに混入。

11号遺構
a 黒褐色土　ロームブロック極小少量混入。
b 黒褐色土　ロームブロック極小・ローム粒まばらに混入。
c 暗褐色土　ロームブロック極小少量混入。
d 褐色土　ロームブロック極小・ローム粒まばらに混入。
e 黄褐色土　ロームブロック。

第302図　11・343～345号遺構実測図・343・344号遺構出土遺物実測図



第303図　346号遺構実測図・345・346号遺構出土遺物実測図

残存する壁高はそれぞれ東壁11㎝、西壁14㎝、南壁11㎝、北壁16㎝を測り、周溝は存在しない。床面はソフトローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは８ヶ所に検出された。Ｐ１は11号方形周溝墓溝底で検出され、深さは26㎝、本跡床面換算で60㎝を測る。Ｐ２は48㎝、Ｐ３は８㎝、Ｐ４が35㎝、Ｐ５が14㎝、Ｐ６が13㎝、Ｐ７が20㎝、Ｐ８が９㎝を測る。Ｐ４は貯蔵穴と想定される。Ｐ４を取り囲む間仕切り溝は、長さ1.25m幅18㎝深さ３㎝を測る。

焼土・炭化物は５ヶ所に検出され、厚さ５～９㎝を測る。

遺物

本遺構からは447点8,510gの土器片と19点1,160gの礫、１点27.5gの磨石、１点110gの布目瓦が検出された。土器片等の内訳は、125点1,777gの土師器、322点6,733gの弥生土器である。これらの出土遺物の内18点を図示した。

１～６・８・14・18は、床直で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

347号遺構（土坑）

昭和53年度調査時遺構番号土坑1号。11号方形周溝墓に削平されて存在する土坑である。長径2.14m短径1.70mを測り、長軸方位はN－93°－Eを示す。

残存する壁高はそれぞれ東壁71㎝、南壁71㎝、北壁65㎝を測り、床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦である。

遺物

本遺構から遺物は全く検出されなかった。

348号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号65号。調査区南端部に位置し、７号方形周溝墓を削平して存在する竪穴住居跡である。長径5.30m短径5.26mを測り、主軸方位はN－38°－Wを示す。カマドは北西壁の中央に構築され、残存する火床長径0.50m短径0.36m、深さ３㎝を測り、火床主軸方位はN－44°－Wを示す。

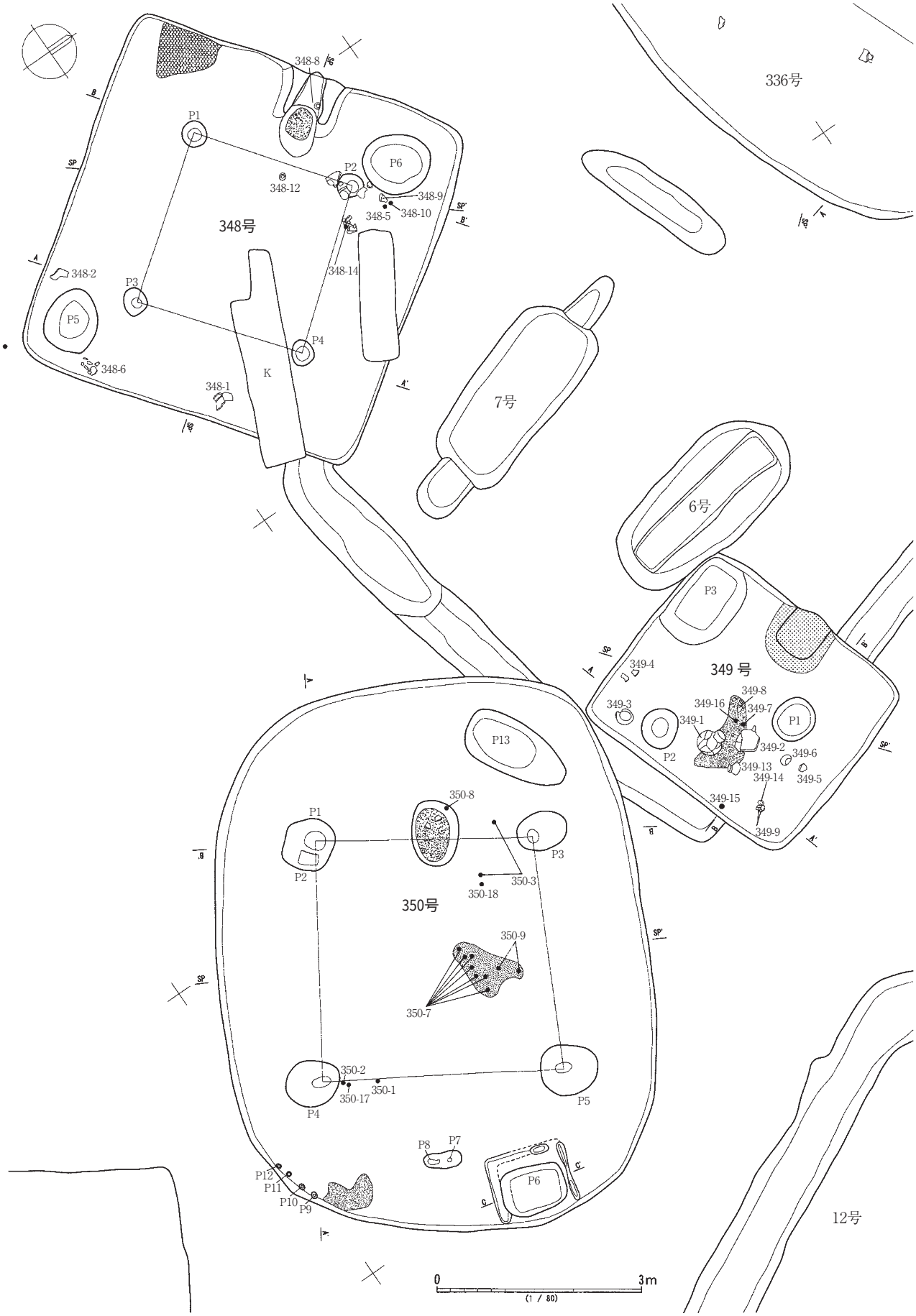
残存する壁高はそれぞれ北東壁30㎝、南東壁31㎝、北西壁19㎝、南西壁26㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは６ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４は主柱穴、Ｐ５・Ｐ６は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が70㎝、Ｐ２が46㎝、Ｐ３は57㎝、Ｐ４が56㎝、Ｐ５は64㎝、Ｐ６が56㎝を測る。

西コーナー部に90×82㎝厚さ15㎝を測る貝ブロックが検出されている。

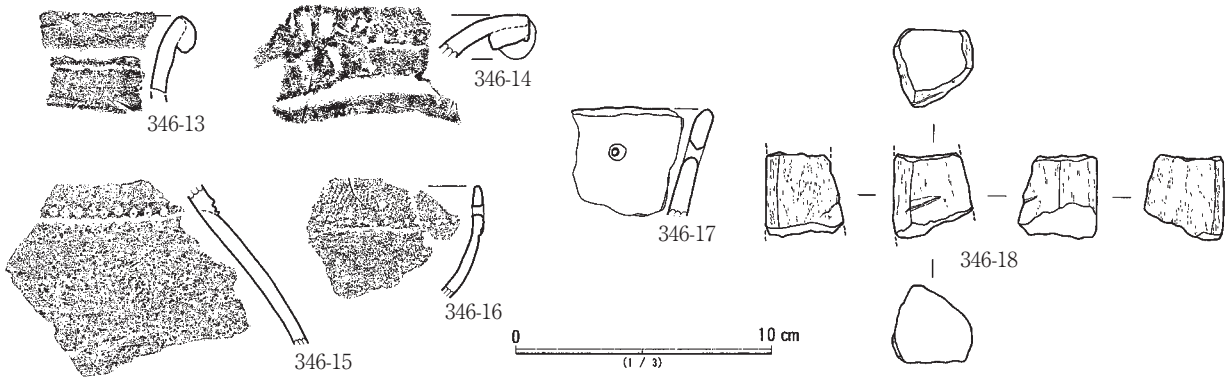
遺物

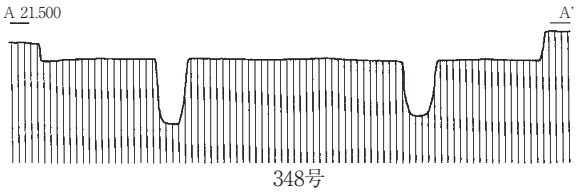
本遺構からは636点12,100gの土器片と２点280gの礫、１点1.4gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、555点11,260gの土師器、５点95gの須恵器、75点735gの弥生土器、１点10gの縄文土器である。これらの出土遺物の内14点を図示した。

１・２・５・６・８～10・12・14は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点

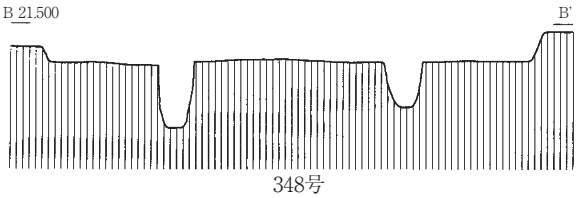


第304図　348 ～ 350号遺構実測図

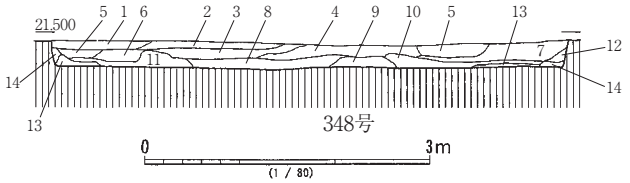




348号



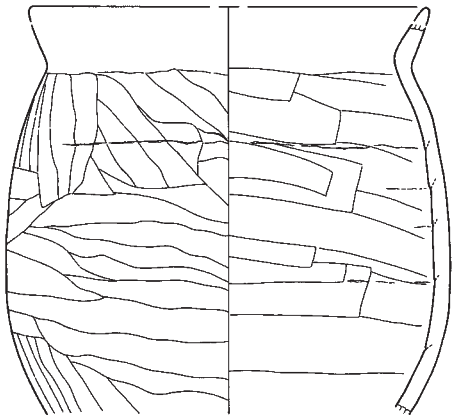
348号



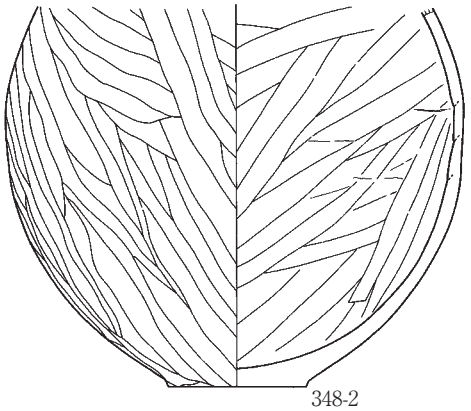
348号

348号遺構

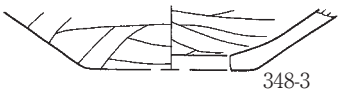
1 暗褐色土 ロームブロック小混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小少量混入。
4 黒褐色土 ロームブロック小～中少量混入。
5 褐色土 ローム粒多量に混入。
6 暗褐色土 ローム粒少量・貝ガラ混入。
7 暗褐色土 ロームブロック小混入。
8 暗褐色土 ロームブロック小混入。
9 暗褐色土 ロームブロック小混入。
10 暗褐色土 焼土ブロック小～中少量・ローム粒まばらに混入。
11 暗褐色土 ロームブロック小・焼土ブロック極小少量混入。
12 暗褐色土 ローム粒少量混入。
13 暗褐色土 ロームブロック小・ローム粒まばらに混入。
14 褐色土 ローム粒まばらに混入。



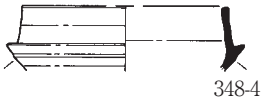
348-1



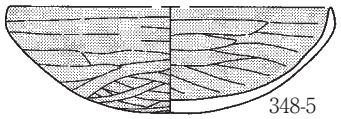
348-2



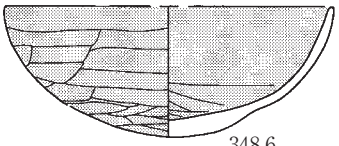
348-3



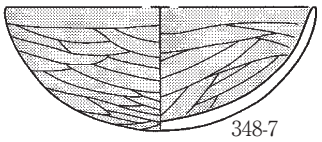
348-4



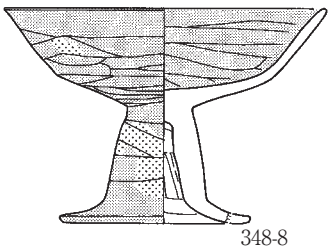
348-5



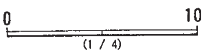
348-6



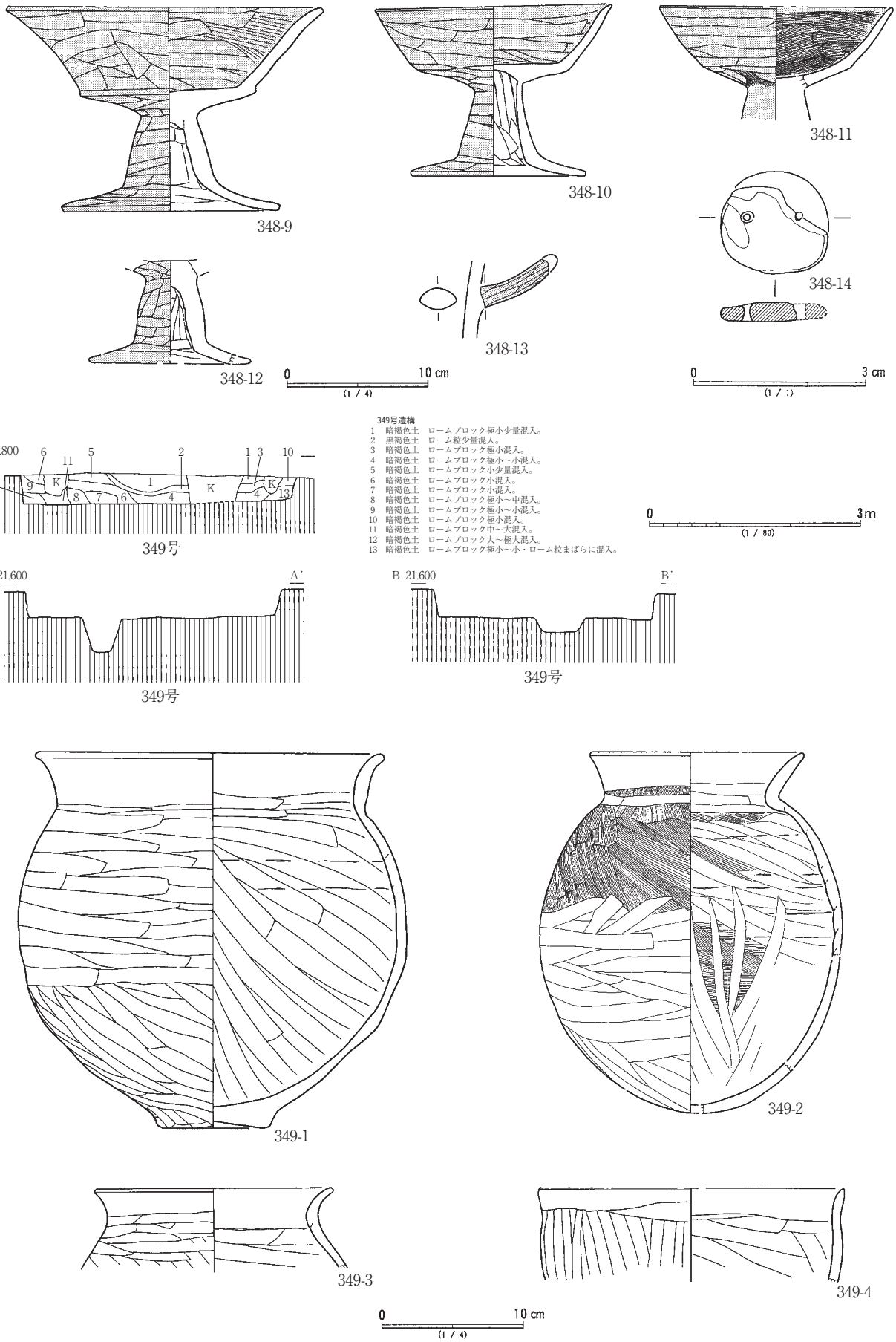
348-7



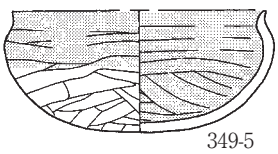
348-8

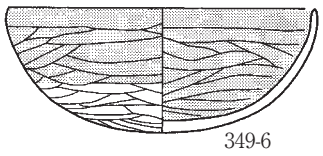


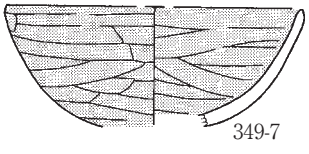
第305図　348号遺構実測図・346・348号遺構出土遺物実測図

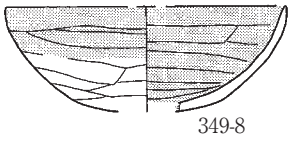


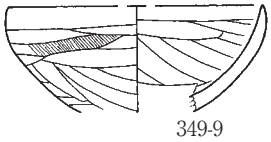
第306図　349号遺構実測図・348・349号遺構出土遺物実測図

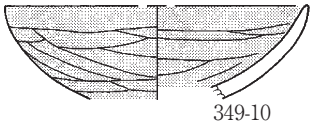

349-5

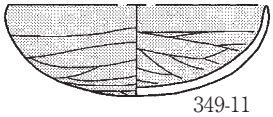

349-6

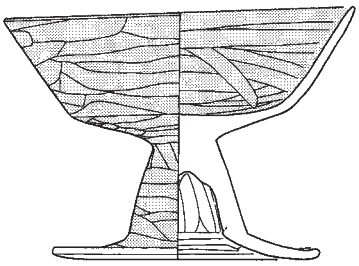

349-7

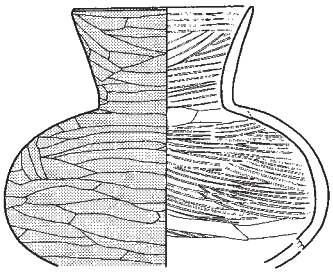

349-8

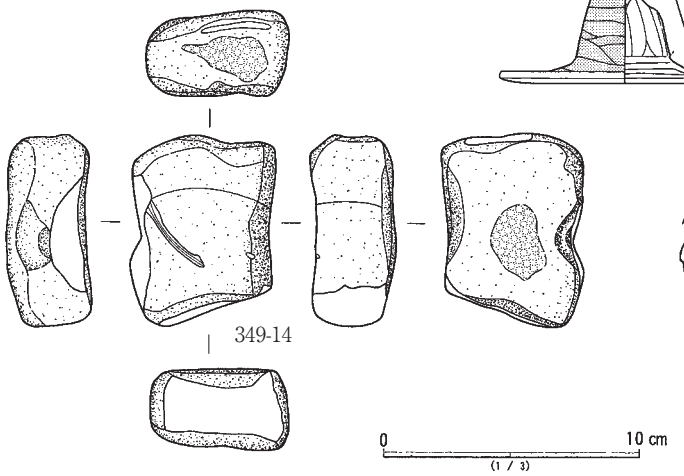

349-9

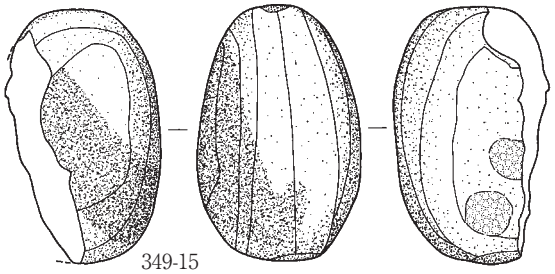

349-10

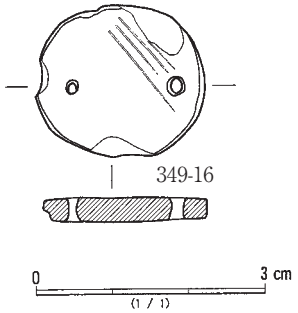

349-11

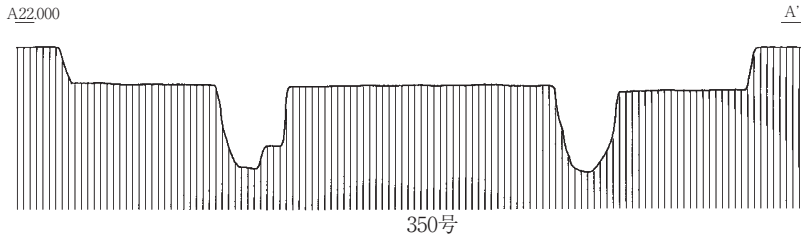

349-12

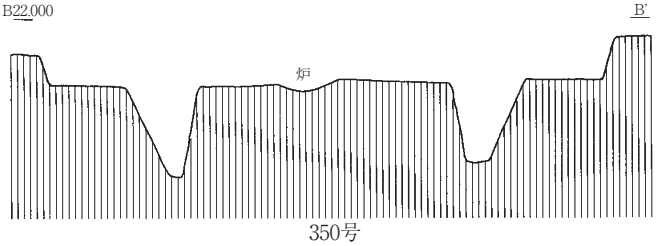

349-13




349-15

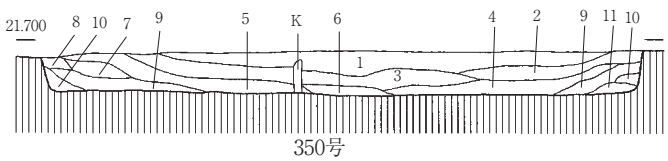


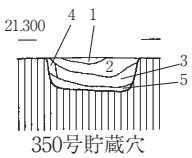


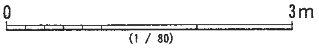


350号遺構
1 黒褐色土 ロームブロック小混入。
2 暗褐色土 記載なし。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
4 褐色土 ロームブロック小～中混入。
5 暗褐色土 ロームブロック小～大少量混入。
6 褐色土 ロームブロック中・ローム粒まばらに混入。
7 褐色土 ロームブロック小～大混入。
8 褐色土 ロームブロック極小少量混入。
9 褐色土 ローム粒まばらに混入。
10 黄褐色土 ロームブロック極小～小多量に混入。
11 暗褐色土 ロームブロック中混入。

350号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック小・黒色土混入。
2 暗褐色土 ロームブロック小～中混入。
3 暗褐色土 ロームブロック小～中・黒色土まばらに混入。
4 暗褐色土 ロームブロック小混入。
5 褐色土 ロームブロック小～大混入。







第307図　350号遺構実測図・349号遺構出土遺物実測図

を明示できるものはない。

349号遺構(竪穴住居跡)

昭和53年度調査時遺構番号64号。調査区南端部に位置し、６号方形周溝墓を削平して存在する竪穴住居跡である。長径3.70m短径3.22mを測り、主軸方位はN－17 °－Wを示す。カマドは北壁の中央に構築されるが未調査である。

残存する壁高はそれぞれ東壁37㎝、西壁38㎝、南壁40㎝、北壁37㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは３ヶ所に検出され、深さはＰ１が18㎝、Ｐ２が46㎝、Ｐ３は60㎝を測る。Ｐ３はその位置から貯蔵穴と想定される。焼土は１ヶ所に検出され厚さ４㎝を測る。

遺物

本遺構からは392点12,495gの土器片と１点230gの礫、１点170gの石皿、１点550gの磨石、１点2.60gの有孔円盤が検出された。土器片等の内訳は、349点11,880gの土師器、43点615gの弥生土器である。これらの出土遺物の内16点を図示した。

１～９・11～16は、床直ないしは床直上、あるいはカマド内で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。他の出土位置のわかるものは床面から14㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

350号遺構（竪穴住居跡）

昭和53年度調査時遺構番号１号。調査区最南端部に位置し、６号方形周溝墓に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径8.08m短径6.36mを測り、主軸方位はN－60 °－Wを示す。炉はＰ１・Ｐ２間の中央に検出され、残存する火床長径0.80m短径0.50m、深さ７㎝を測り、火床主軸方位はN－58 °－Wを示す。

残存する壁高はそれぞれ北東壁34㎝、南東壁43㎝、北西壁39㎝、南西壁45㎝を測り、周溝は存在しない。床面はハードローム層中に掘り込まれ、平坦であり、全体的に堅く踏み固められている。ピットは13ヶ所に検出され、Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５は主柱穴、Ｐ６・P13は貯蔵穴と想定され、深さはＰ１が86㎝、Ｐ２が64㎝、Ｐ３は97㎝、Ｐ４が87㎝、Ｐ５は105㎝、Ｐ６が34㎝、Ｐ７が21㎝、Ｐ８が14㎝を測る。Ｐ９～P12は小ピットで深さの測定値がない。P13は117㎝を測る。

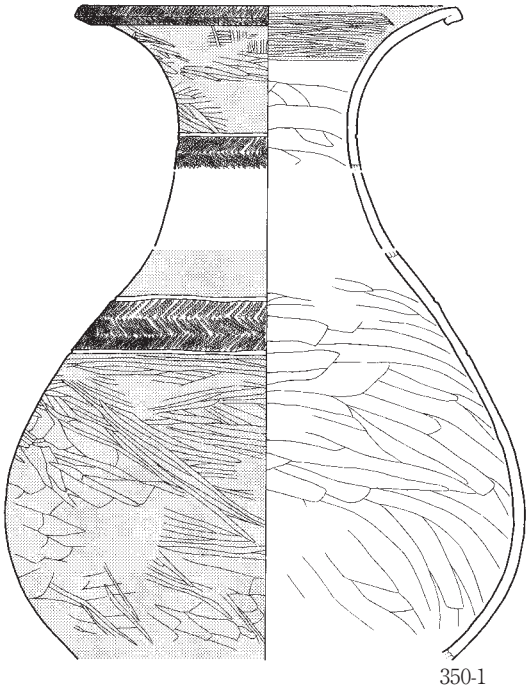
Ｐ６の周囲には間仕切り溝が、幅６～10㎝深さ３㎝前後で廻り、焼土は１ヶ所に検出され厚さ５～13㎝を測る。

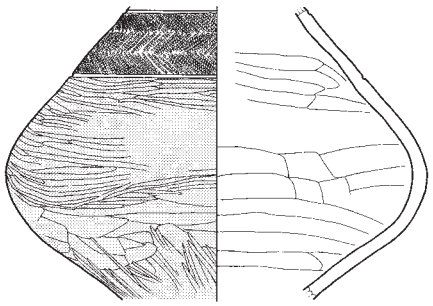
遺物

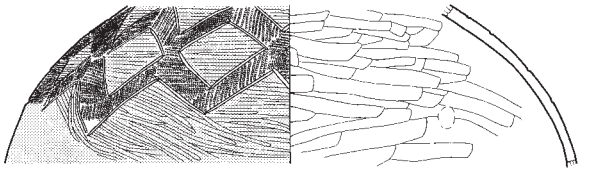
本遺構からは447点13,072gの土器片と10点516.8gの礫が検出された。土器片等の内訳は、37点544gの土師器、407点12,490gの弥生土器、１点10gの手づくね土器、２点28gの縄文土器である。これらの出土遺物の内24点を図示した。

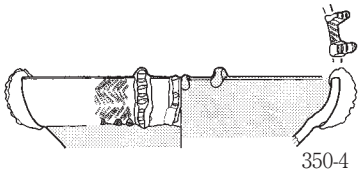
１～３・７～９・17・18は、床直ないしは床直上、あるいは炉内で検出されおり、本跡に直接伴うものと判断される。他の出土位置のわかるものは床面から11㎝以上浮いた状態で検出されている。これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

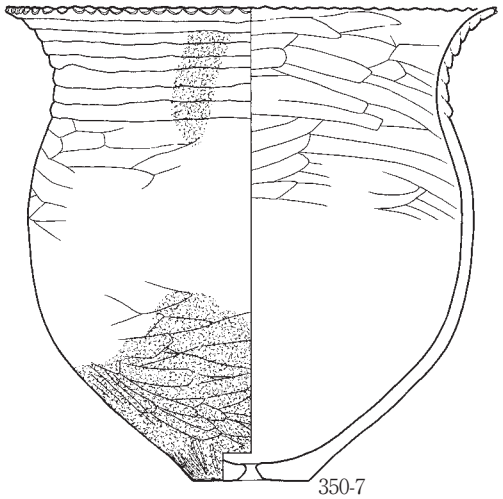
351号遺構（溝）

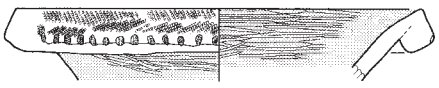

350-1

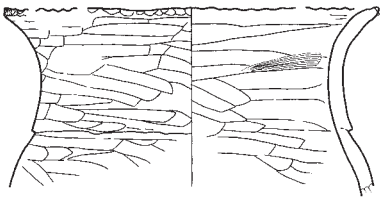

350-2

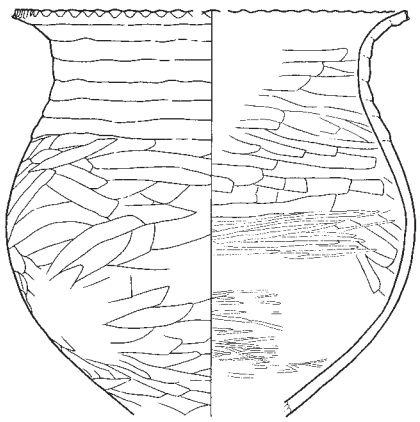

350-3

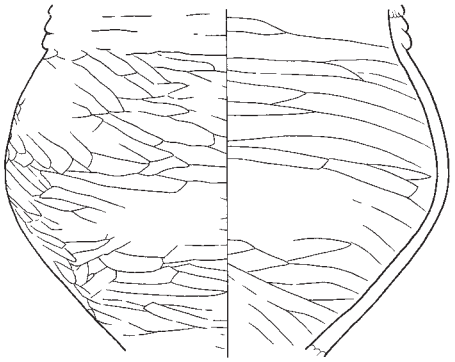

350-4

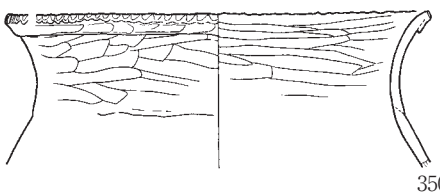

350-7


350-5


350-6


350-9


350-8


350-10

0 10 cm
(1 / 4)

第308図　350号遺構出土遺物実測図

昭和53年度調査時遺構番号溝4号。調査区南北方向に走る溝であり、重複する全ての遺構でも最新段階の遺構である。古墳時代終末期の72号竪穴を削平することから、奈良・平安時代の遺構と推定される。全長62.60m幅0.8 ～ 2.3m前後、深さ60㎝前後を測り、断面形状は逆台形を呈する。

遺物

本遺構からは1,176点15,523ｇの土器片と15点760ｇの礫、1点3.9ｇの扁平勾玉が検出された。土器片等の内訳は、1,095点14,373ｇの土師器、3点90ｇの須恵器、76点980ｇの弥生土器、2点80ｇの手づくね土器である。これらの出土遺物の内13点を図示した。

これらの遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

352号遺構（溝）

昭和53年度調査時遺構番号溝3号。351号溝の東側を調査区南北方向に走る溝であり、重複する全ての遺構でも最新段階の遺構である。古墳時代終末期の108号竪穴を削平することから、奈良・平安時代の遺構と推定される。全長66.80m幅0.8 ～ 1.6m前後、深さ55㎝前後を測り、断面形状は逆台形を呈する。なお本跡は、長期に亘って道路として使用されていたようで、溝底部他いたる所に硬化面が検出されている。

遺物

本遺構からは809点8,125ｇの土器片と12点380ｇの礫、1点113ｇの石皿、1点342ｇの凹石、2点459ｇの磨石・凹石、1点1.6ｇの鏡片が検出された。土器片等の内訳は、359点4,385ｇの土師器、7点160ｇの須恵器、429点3,205ｇの弥生土器、3点35ｇの手づくね土器、8点175ｇの縄文土器、3点165ｇの中～近世陶器である。これらの出土遺物の内12点を図示した。

鏡片は、表採扱いとされていたが、記録写真によって108号竪穴と110号竪穴間の当溝内から出土したことが判明した。

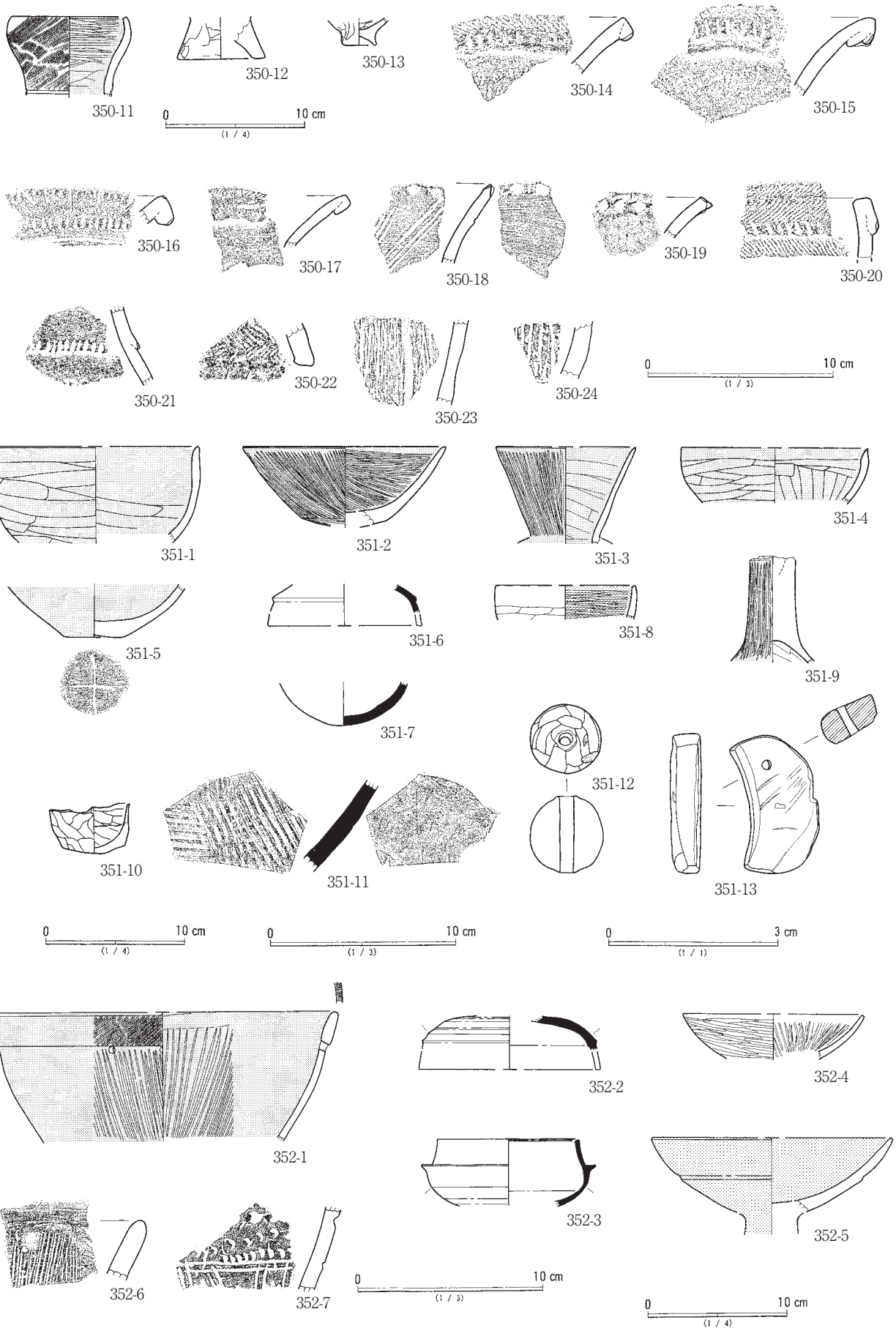
この鏡片は内区と外区を分ける文様帯に4条の隆帯を持ち、隆帯間に櫛歯状の文様帯を持つもので、重圏文鏡類の製品である。隆帯のＲから直径10.1㎝前後の鏡に復元できることから、重圏文鏡より大型で、鏡面の大きさが同程度で、かつ類例の多い内行花文鏡の類に復元できる。

これ以外の遺物は、全て覆土一括で取上げられており、出土地点を明示できるものはない。

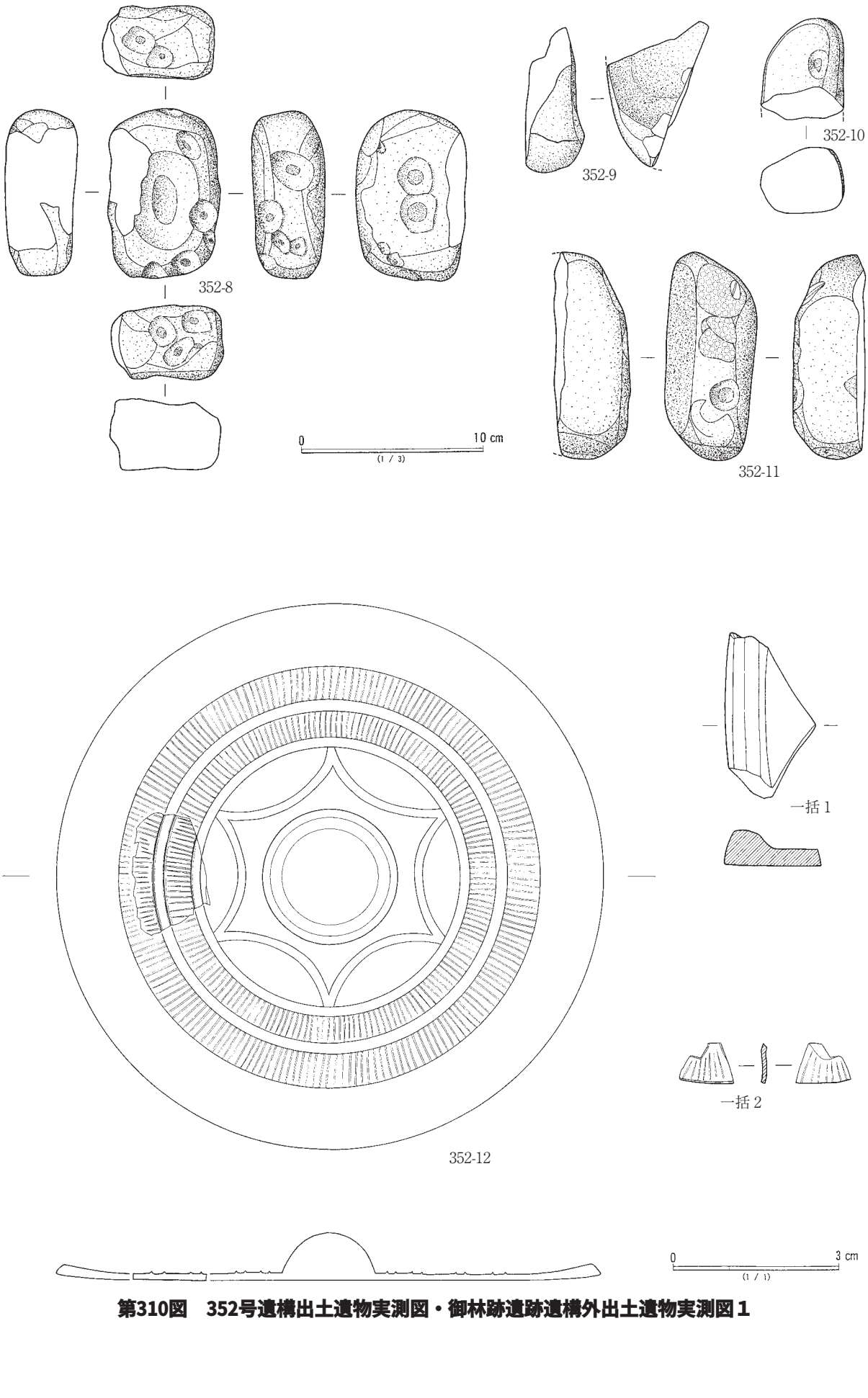
遺跡一括遺物

最後に遺跡一括遺物について触れておきたい。これらの遺物は、表採と記された整理箱の中に保管されていた。中には完形に近い土器や、管玉・勾玉・鏡片などの重要遺物が含まれていた。整理最終段階に実測のため観察してみると、これら遺物の中に擦れて見えない程の注記が施されている遺物が1点存在した。また、図面や記録写真に残されていながら、所在不明の遺物が多々あり、よくよく観察してみると、それら所在不明の遺物の数点がこの整理箱の中に含まれていることが判明した。既に図版の大半が仕上がっており、改めて本来の帰属遺構に挿入することが極めて困難だったため、これら帰属の判明した遺物には遺物番号と併記して本来の帰属遺構を示した。

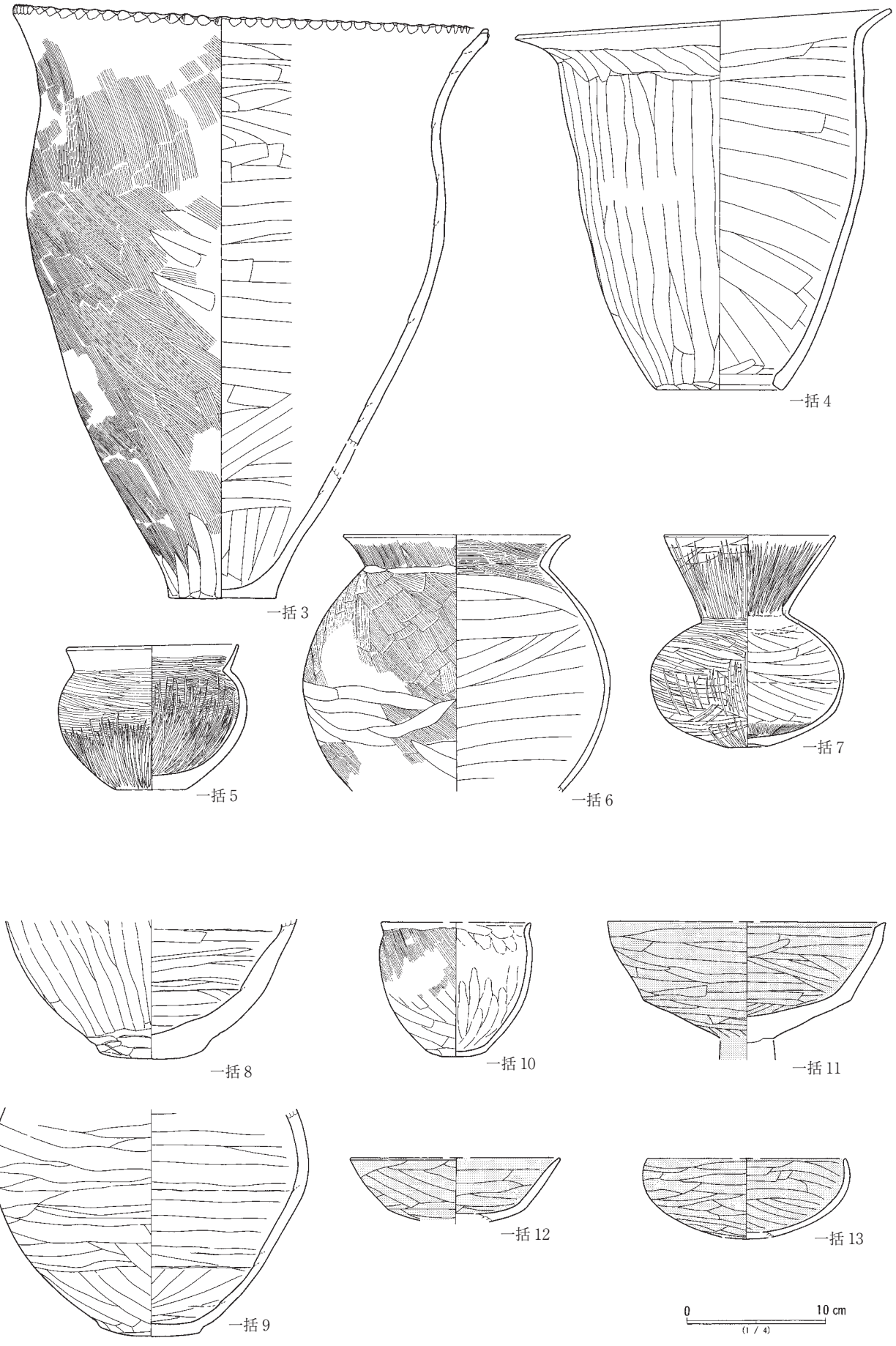
遺跡一括遺物は、5,134点77,034ｇの土器片と、199点5,670.4ｇの礫、1点10.6ｇの磨石、1点220ｇの有角石斧、1点26.8ｇの紡錘車、2点110.4ｇのスクレイパー、1点6.6ｇのナイフ形石器、1点6.20ｇの扁平勾玉、1点2.6ｇの勾玉、4点18.4ｇの有孔円盤、1点0.5ｇ管玉、2点0.13ｇのガラス玉、51点9.1ｇ臼玉、1点12.10ｇの鏡片、1点0,30ｇの釧状銅製品、1点1.8ｇの大観通宝の他錆膨れの激しい鉄銭及び詳



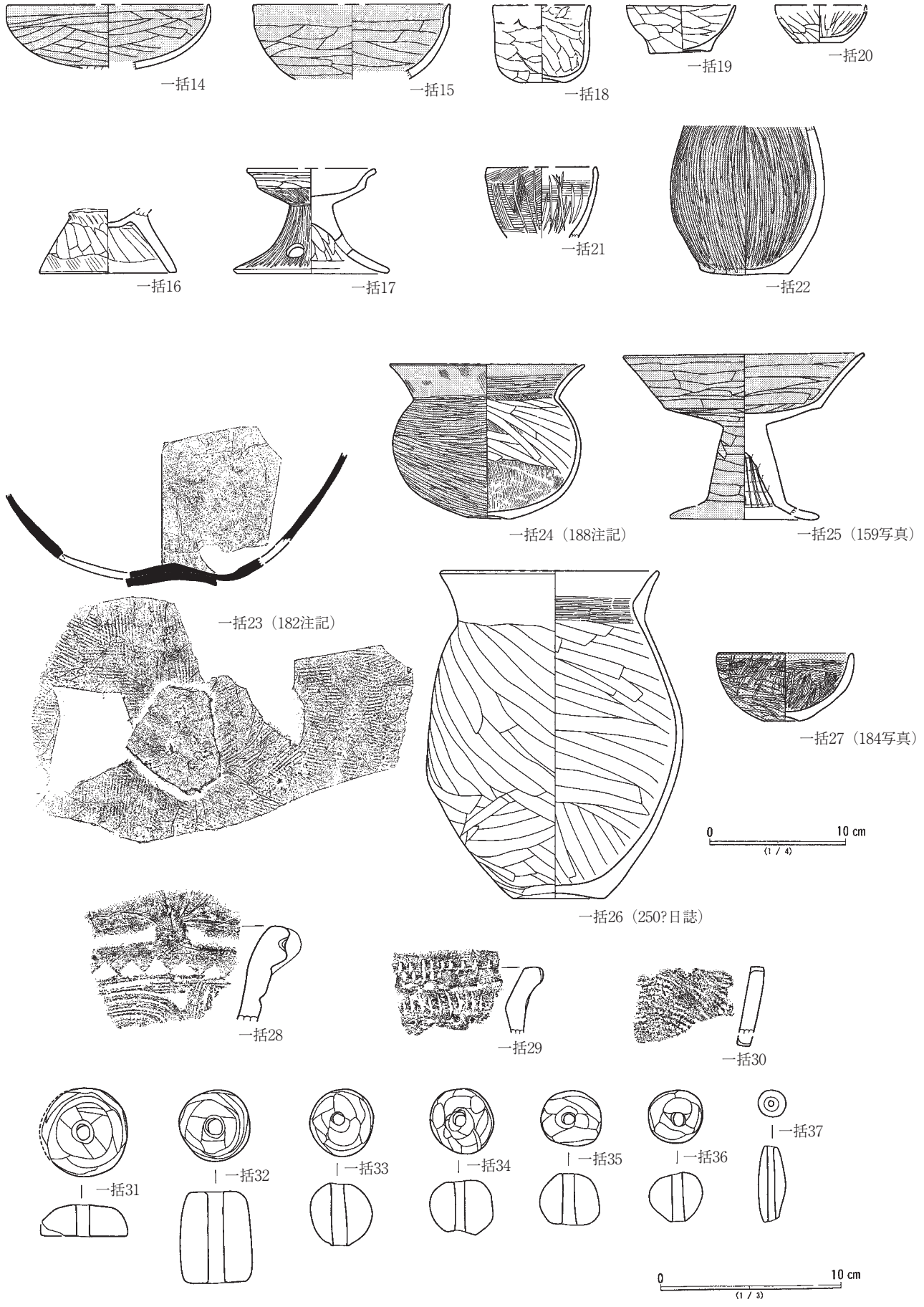
第309図　350 ～ 352号遺構出土遺物実測図



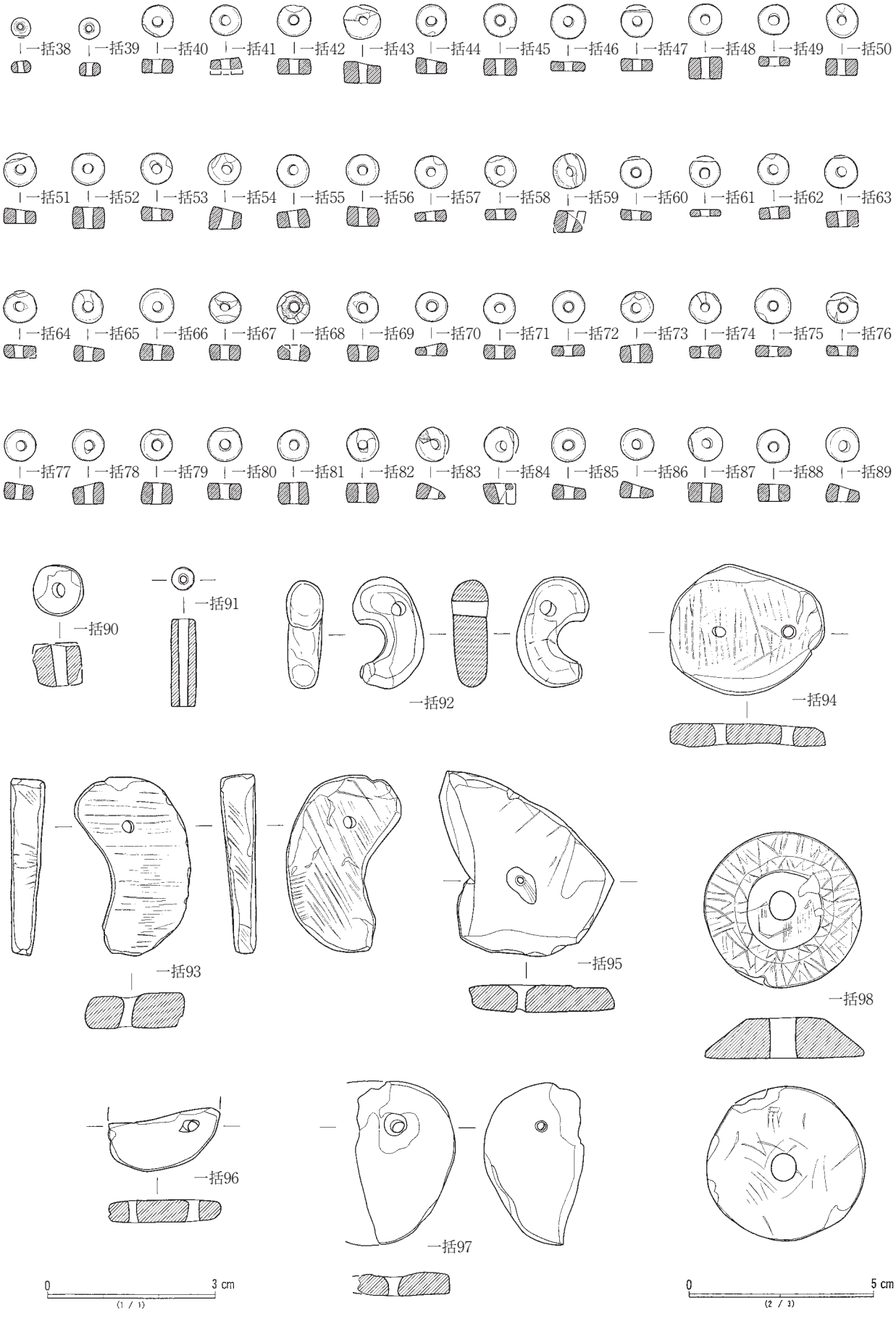
第310図　352号遺構出土遺物実測図・御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図１



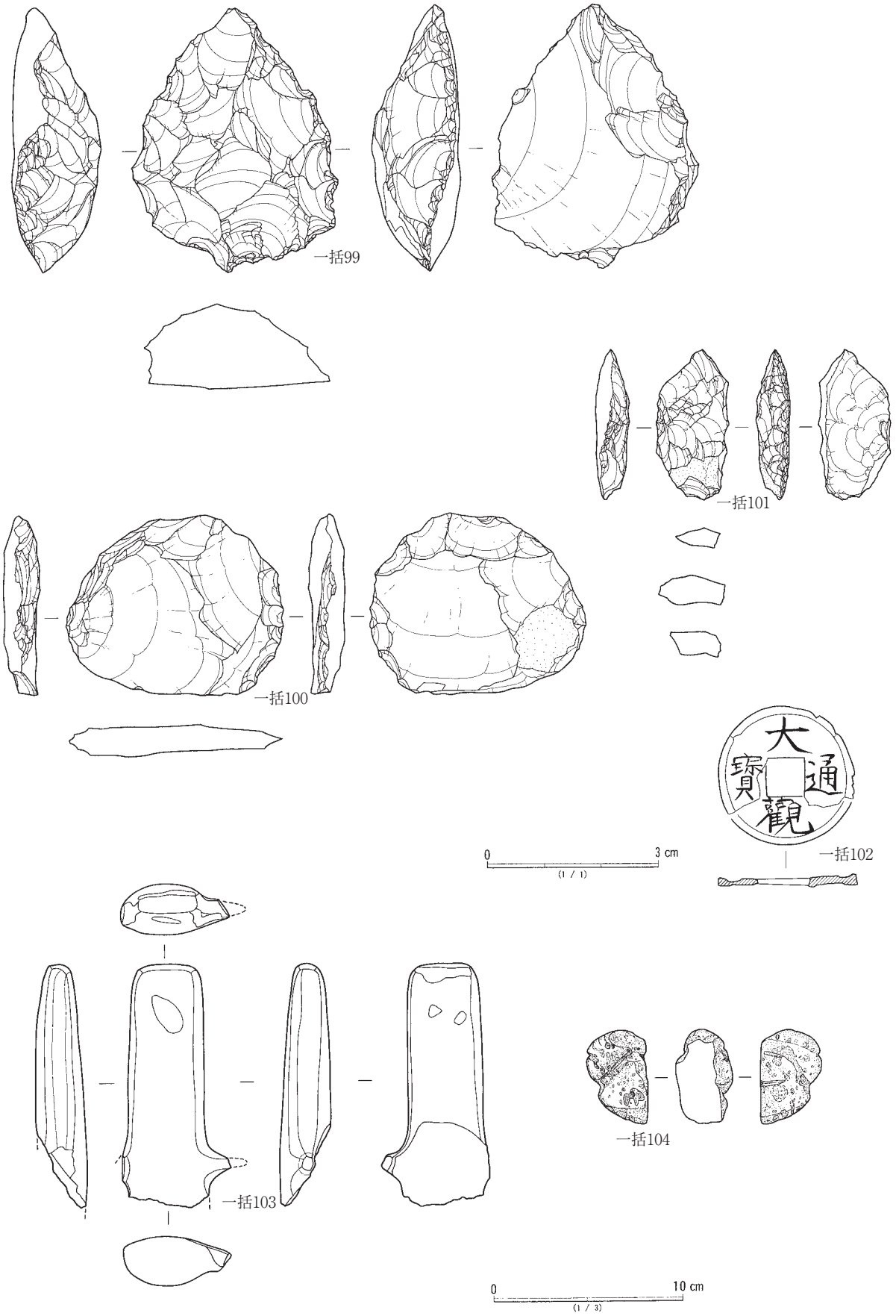
第311図　御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図２



第312図　御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図３



第313図　御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図４



第314図　御林跡遺跡遺構外出土遺物実測図５

細不明な鉄鏃片らしき破片２点が検出された。土器片等の内訳は、3,435点52,138.0ｇの土師器、4点453.0ｇの須恵器、1,459点20,097.0ｇの弥生土器、4点16ｇの手づくね土器、7点200ｇの早期撚糸文系土器、5点87ｇの早期条痕文系土器、219点3,933ｇのその他縄文土器、１点110ｇ近世陶器である。これらの遺物の内104点を図示した。

１は鏡片である。縁部断面は台形を呈し、肉厚で質量があり地金の遺存が良好である。多鈕細文鏡類の舶載鏡の破片と想定されるが鏡式名はわからない。2は当初鏡片と捉えていたが、表裏に細長い鋸歯状文を配しているので、釧か車輪石状の銅板と想定される。103は有角石斧片である。刃部は61号竪穴で出土している。22には溝の注記があるが、どの溝で出土したか判らない。23・24にはそれぞれ182・188号の旧遺構番号を示す注記が存在し、遺物の本来の帰属先が判明する。25・27は記録写真によりそれぞれ159号カマド内出土と184号遺構床面からの出土であることが判明する。

調査日誌の250号土坑記載に、一個体分の土師甕が出土したとされ、26がその候補となる。

カマド

本遺跡検出のカマドを、第314図以降にまとめた。故鈴木英啓氏実測のカマドについては、断面・平面とも良くまとまっていて、ほとんど図面修正の必要が無かったが、残りのカマドについては、断面実測図が存在しても、両袖が残る平面図が存在しないものや、両袖を破線で示したものなど、図面修正が必要なものが多々存在した。

幸い断面図は最低で十文字、大概は「キ」の字以上に両袖の断面形状と火床が理解できるように切断されており、当初のカマド粘土範囲の平面図に断面図を投影して、両袖平面図を復元した。

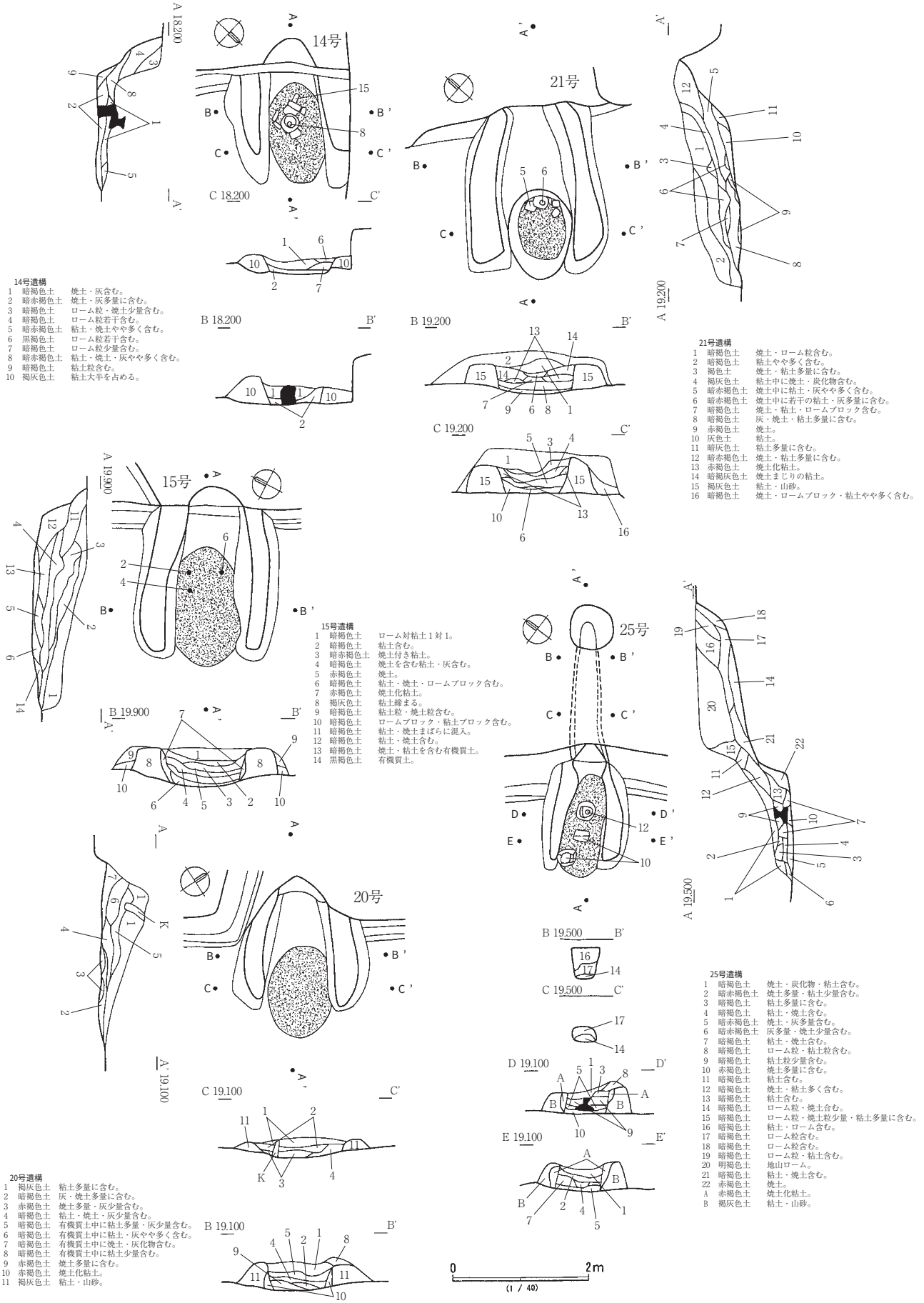
土層断面の土層説明は、複数の調査員が独自の説明を行っており、用語や表現が統一されていなかったので、これを統一して提示した。

本遺跡のカマドの初現は最後の考察で述べるよう、須恵器型式でON－231段階に位置付けられるものであり、5世紀前半でもかなり早い段階に出現し、御林跡遺跡での和泉式開始直後には導入されている（1）。またカマド導入に伴い胴部形状が卵形の丸底甕や大型甑などが流入し、古墳時代前期に比べ土器様式が一変する。

カマド導入期の構築壁は、北東壁・北西壁・南西壁が存在し定まらない。この傾向は次段階以降も継続し、時期によって構築される壁面が決定するという定点はないが、時期を問わずに北東壁・北西壁に構築される例が比較的多い。

こういった中でもON－46 ～ TK－208型式期だけは、これまで全く構築されなかった南東壁に構築する例があり、椎津茶ノ木遺跡（2）や、マミヤク遺跡（3）と同様のカマド配置を見せる。

註１　松浦雄一郎ほか　外原遺跡　船橋市教育委員会1972
　　大村　直　市原市南岩崎遺跡　市原市教育委員会2006
　　南岩崎遺跡では、御林跡遺跡とほぼ同時期に和泉式土器の成立を見るが、TK－216型式期併行期と想定される5b新段階においても竪穴にカマドは伴わない。
註２　木對和紀　市原市椎津茶ノ木遺跡（財）市原市文化財センター 1992
註３　小沢　洋　小浜遺跡群Ⅱ「マミヤク遺跡」（財）君津郡市文化財センター 1989



14号遺構

1	暗褐色土	焼土・灰含む。
2	暗赤褐色土	焼土・灰多量に含む。
3	暗褐色土	ローム粒・焼土少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒若干含む。
5	暗赤褐色土	粘土・焼土やや多く含む。
6	黒褐色土	ローム粒若干含む。
7	暗褐色土	ローム粒少量含む。
8	暗赤褐色土	粘土・焼土・灰やや多く含む。
9	暗褐色土	粘土粒含む。
10	褐灰色土	粘土大半を占める。

21号遺構

1	暗褐色土	焼土・ローム粒含む。
2	暗褐色土	粘土やや多く含む。
3	褐色土	焼土・粘土多量に含む。
4	褐灰色土	粘土中に焼土・炭化物含む。
5	暗赤褐色土	焼土中に粘土・灰やや多く含む。
6	暗赤褐色土	焼土中に若干の粘土・灰多量に含む。
7	暗褐色土	焼土・粘土・ロームブロック含む。
8	暗褐色土	灰・焼土・粘土多量に含む。
9	赤褐色土	焼土。
10	灰色土	粘土。
11	暗灰色土	粘土多量に含む。
12	暗赤褐色土	焼土・粘土多量に含む。
13	赤褐色土	焼土化粘土。
14	暗褐灰色土	焼土まじりの粘土。
15	褐灰色土	粘土・山砂。
16	暗褐色土	焼土・ロームブロック・粘土やや多く含む。

15号遺構

1	暗褐色土	ローム対粘土１対１。
2	暗褐色土	粘土含む。
3	暗赤褐色土	焼土付き粘土。
4	暗褐色土	焼土を含む粘土・灰含む。
5	赤褐色土	焼土。
6	暗褐色土	粘土・焼土・ロームブロック含む。
7	赤褐色土	焼土化粘土。
8	褐灰色土	粘土締まる。
9	暗褐色土	粘土粒・焼土粒含む。
10	暗褐色土	ロームブロック・粘土ブロック含む。
11	暗褐色土	粘土・焼土まばらに混入。
12	暗褐色土	粘土・焼土含む。
13	暗褐色土	焼土・粘土を含む有機質土。
14	黒褐色土	有機質土。

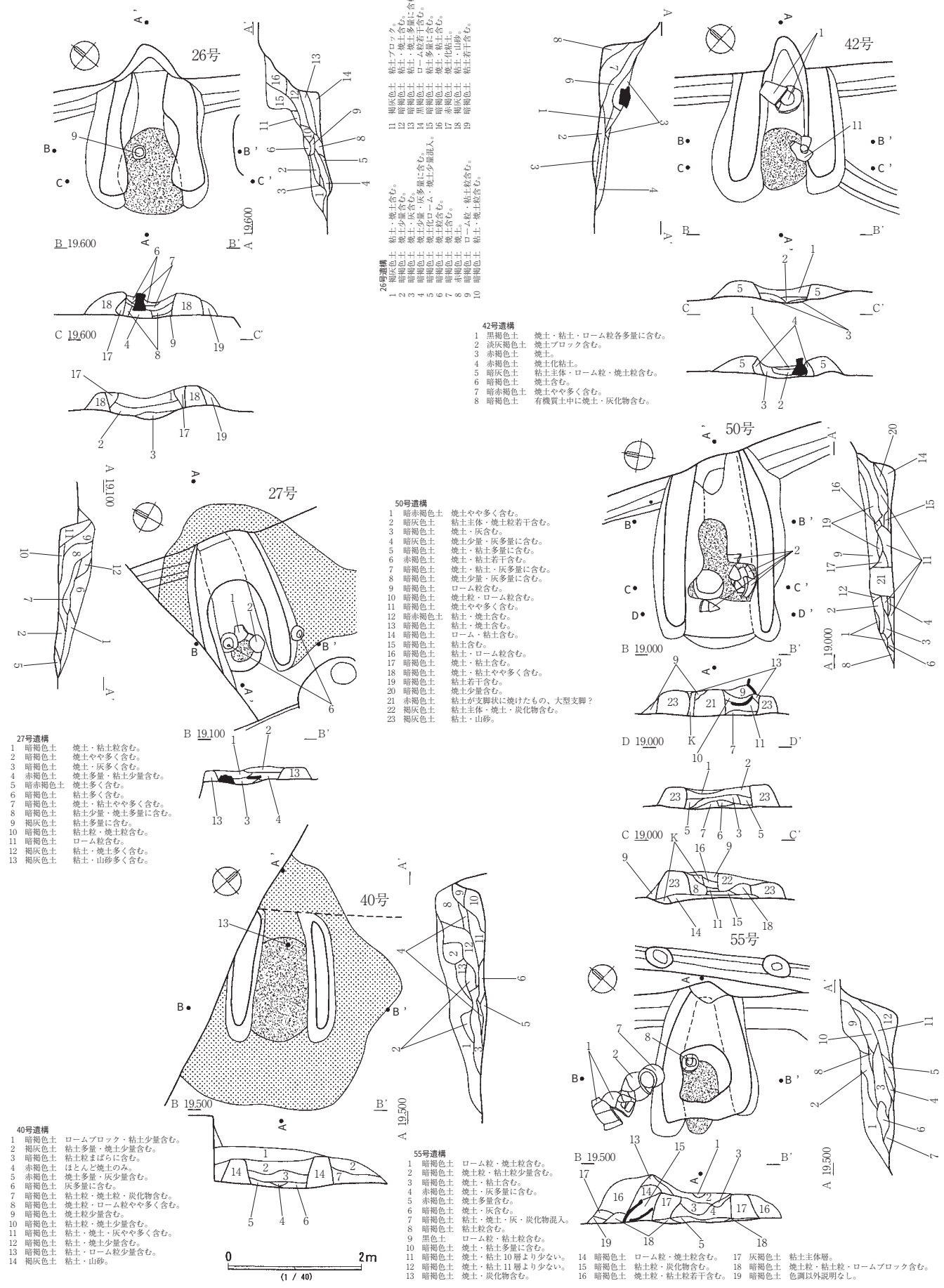
25号遺構

1	暗褐色土	焼土・炭化物・粘土含む。
2	暗赤褐色土	焼土多量・粘土少量含む。
3	暗褐色土	粘土多量に含む。
4	暗褐色土	粘土・焼土含む。
5	暗赤褐色土	焼土・灰多量含む。
6	暗赤褐色土	灰多量・焼土少量含む。
7	暗褐色土	粘土・焼土含む。
8	暗褐色土	ローム粒・粘土粒含む。
9	暗褐色土	粘土粒少量含む。
10	赤褐色土	焼土多量に含む。
11	暗褐色土	粘土含む。
12	暗褐色土	焼土・粘土多く含む。
13	暗褐色土	粘土含む。
14	暗褐色土	ローム粒・焼土含む。
15	暗褐色土	ローム粒・焼土粒少量・粘土多量に含む。
16	暗褐色土	粘土・ローム含む。
17	暗褐色土	ローム粒含む。
18	暗褐色土	ローム粒含む。
19	暗褐色土	ローム粒・粘土含む。
20	明褐色土	地山ローム。
21	暗褐色土	粘土・焼土含む。
22	赤褐色土	焼土。
A	赤褐色土	焼土化粘土。
B	褐灰色土	粘土・山砂。

20号遺構

1	褐灰色土	粘土多量に含む。
2	暗褐色土	灰・焼土多量に含む。
3	赤褐色土	焼土多量・灰少量含む。
4	暗褐色土	粘土・焼土・灰少量含む。
5	暗褐色土	有機質土中に粘土多量・灰少量含む。
6	暗褐色土	有機質土中に粘土・灰やや多く含む。
7	暗褐色土	有機質土中に焼土・灰化物含む。
8	暗褐色土	有機質土中に粘土少量含む。
9	赤褐色土	焼土多量に含む。
10	赤褐色土	焼土化粘土。
11	褐灰色土	粘土・山砂。

第315図　御林跡遺跡カマド実測図１



26号遺構
1 褐灰色土 粘土・焼土含む。
2 暗褐色土 焼土少量含む。
3 暗褐色土 焼土・灰含む。
4 暗褐色土 焼土少量・灰多量に含む。
5 暗褐色土 焼土化ローム・焼土少量混入。
6 暗褐色土 焼土粒含む。
7 暗褐色土 焼土含む。
8 暗褐色土 焼土。
9 暗褐色土 ローム粒・粘土粒含む。
10 暗褐色土 粘土・焼土粒含む。
11 褐灰色土 粘土ブロック。
12 暗褐色土 粘土・焼土含む。
13 暗褐色土 粘土・焼土多量に含む。
14 暗黒褐色土 ローム粒若干含む。
15 暗褐色土 粘土多量に含む。
16 暗褐色土 焼土・粘土含む。
17 赤褐色土 焼土化粘土。
18 褐灰色土 粘土・山砂。
19 暗褐色土 粘土若干含む。

42号遺構
1 黒褐色土 焼土・粘土・ローム粒各多量に含む。
2 淡灰褐色土 焼土ブロック含む。
3 赤褐色土 焼土。
4 赤褐色土 焼土化粘土。
5 暗灰色土 粘土主体・ローム粒・焼土粒含む。
6 暗褐色土 焼土含む。
7 暗赤褐色土 焼土やや多く含む。
8 暗褐色土 有機質土中に焼土・灰化物含む。

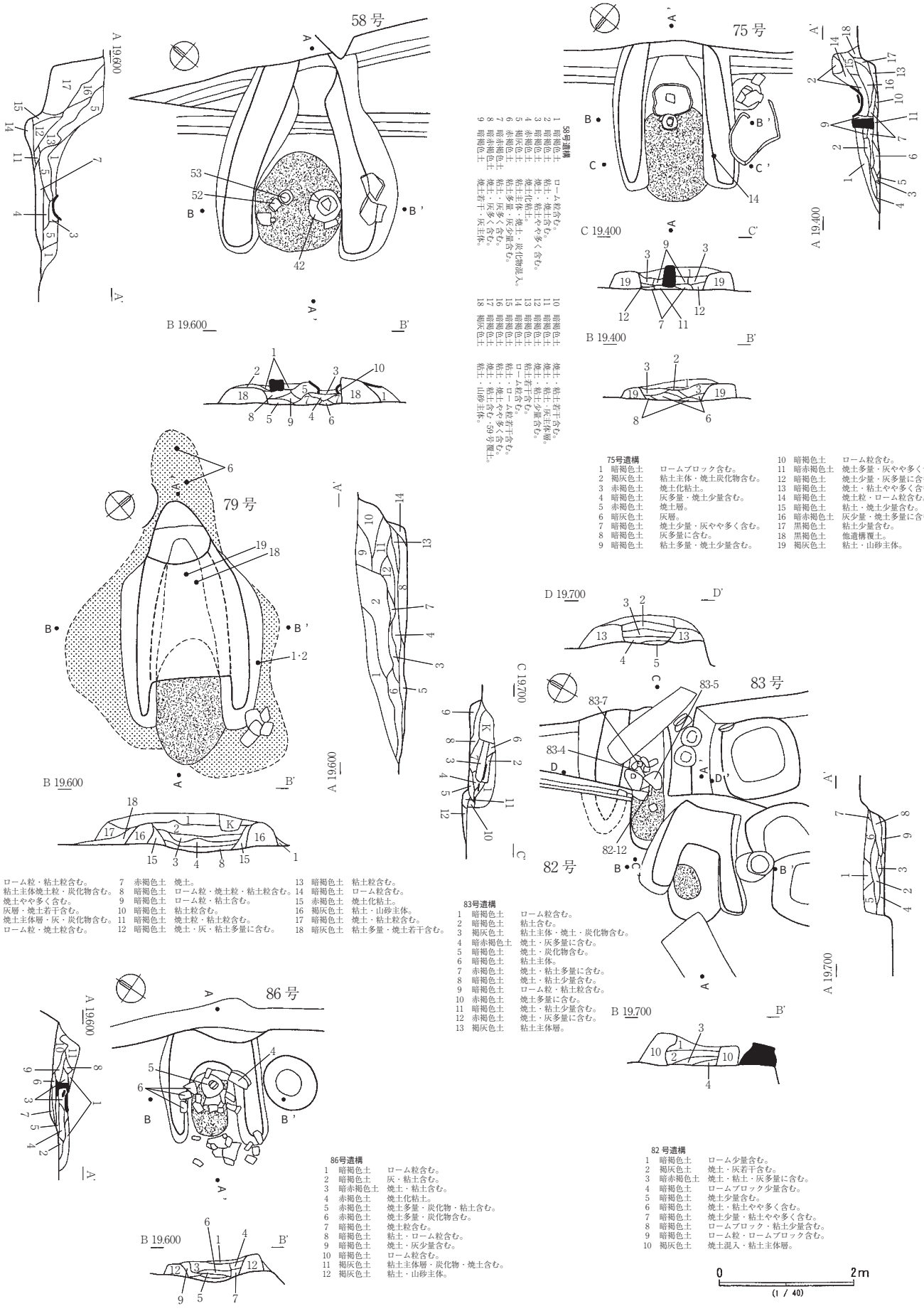
50号遺構
1 暗赤褐色土 焼土やや多く含む。
2 暗灰色土 粘土主体・焼土粒若干含む。
3 暗褐色土 焼土・灰含む。
4 暗灰色土 焼土少量・灰多量に含む。
5 暗褐色土 焼土・粘土多量に含む。
6 赤褐色土 焼土・粘土若干含む。
7 暗褐色土 焼土・粘土・灰多量に含む。
8 暗褐色土 焼土少量・灰多量に含む。
9 暗褐色土 ローム粒含む。
10 暗褐色土 焼土粒・ローム粒含む。
11 暗褐色土 焼土やや多く含む。
12 暗赤褐色土 粘土・焼土含む。
13 暗褐色土 粘土・焼土含む。
14 暗褐色土 ローム・粘土含む。
15 暗褐色土 粘土含む。
16 暗褐色土 粘土・ローム粒含む。
17 暗褐色土 焼土・粘土含む。
18 暗褐色土 焼土・粘土やや多く含む。
19 暗褐色土 粘土若干含む。
20 暗褐色土 焼土少量含む。
21 赤褐色土 粘土が支脚状に焼けたもの、大型支脚？
22 褐灰色土 粘土主体・焼土・炭化物含む。
23 褐灰色土 粘土・山砂。

27号遺構
1 暗褐色土 焼土・粘土粒含む。
2 暗褐色土 焼土やや多く含む。
3 暗褐色土 焼土・灰多く含む。
4 赤褐色土 焼土多量・粘土少量含む。
5 暗赤褐色土 焼土多く含む。
6 暗褐色土 粘土多く含む。
7 暗褐色土 焼土・粘土やや多く含む。
8 暗褐色土 粘土少量・焼土多量に含む。
9 褐灰色土 粘土多量に含む。
10 暗褐色土 粘土粒・焼土粒含む。
11 暗褐色土 ローム粒含む。
12 褐灰色土 粘土・焼土多く含む。
13 褐灰色土 粘土・山砂多く含む。

40号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック・粘土少量含む。
2 褐灰色土 粘土多量・焼土少量含む。
3 暗褐色土 粘土粒まばらに含む。
4 赤褐色土 ほとんど焼土のみ。
5 赤褐色土 焼土多量・灰少量含む。
6 暗褐色土 灰多量に含む。
7 暗褐色土 粘土粒・焼土粒・炭化物含む。
8 暗褐色土 焼土粒・ローム粒やや多く含む。
9 暗褐色土 焼土粒少量含む。
10 暗褐色土 粘土粒・焼土少量含む。
11 暗褐色土 粘土・焼土・灰やや多く含む。
12 暗褐色土 粘土・焼土少量含む。
13 暗褐色土 粘土・ローム粒少量含む。
14 褐灰色土 粘土・山砂。

55号遺構
1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
2 暗褐色土 焼土粒・粘土粒少量含む。
3 暗褐色土 焼土・粘土含む。
4 赤褐色土 焼土・灰多量に含む。
5 赤褐色土 焼土多量含む。
6 暗褐色土 焼土・灰含む。
7 暗褐色土 粘土・焼土・灰・炭化物混入。
8 暗褐色土 粘土粒含む。
9 黒色土 ローム粒・粘土粒含む。
10 暗褐色土 焼土・粘土多量に含む。
11 暗褐色土 焼土・粘土10層より少ない。
12 暗褐色土 焼土・粘土11層より少ない。
13 暗褐色土 焼土・炭化物含む。
14 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
15 暗褐色土 粘土粒・炭化物含む。
16 暗褐色土 焼土粒・粘土粒若干含む。
17 灰褐色土 粘土主体層。
18 暗褐色土 焼土粒・粘土粒・ロームブロック含む。
19 暗褐色土 色調以外説明なし。

第316図　御林跡遺跡カマド実測図２



58号遺構
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 暗褐色土　粘土・焼土含む。
3 暗褐色土　焼土・粘土やや多く含む。
4 赤褐色土　焼土化粘土。
5 褐灰色土　粘土主体・焼土・炭化物混入。
6 暗赤褐色土　粘土多量・灰少量含む。
7 暗赤褐色土　粘土・灰多く含む。
8 暗赤褐色土　焼土多く含む。
9 暗褐色土　焼土若干・灰主体。
10 暗褐色土　焼土・粘土若干含む。
11 暗褐色土　焼土・粘土・灰主体層。
12 暗褐色土　焼土・粘土少量含む。
13 暗褐色土　粘土若干含む。
14 暗褐色土　ローム粒含む。
15 暗褐色土　粘土・ローム粒若干含む。
16 暗褐色土　粘土・焼土やや多く含む。59号覆土。
17 暗褐色土　粘土・山砂主体。
18 褐灰色土

75号遺構
1 暗褐色土　ロームブロック含む。
2 褐灰色土　粘土主体・焼土炭化物含む。
3 赤褐色土　焼土化粘土。
4 暗褐色土　灰多量・焼土少量含む。
5 赤褐色土　焼土層。
6 暗灰色土　灰層。
7 暗褐色土　焼土少量・灰やや多く含む。
8 暗褐色土　灰多量に含む。
9 暗褐色土　粘土多量・焼土少量含む。
10 暗褐色土　ローム粒含む。
11 暗赤褐色土　焼土多量・灰やや多く含む。
12 暗褐色土　焼土少量・灰多量に含む。
13 暗褐色土　焼土・粘土やや多く含む。
14 暗褐色土　焼土粒・ローム粒含む。
15 暗褐色土　粘土・焼土少量含む。
16 暗赤褐色土　灰少量・焼土多量に含む。
17 黒褐色土　粘土少量含む。
18 黒褐色土　他遺構覆土。
19 褐灰色土　粘土・山砂主体。

79号遺構
1 暗褐色土　ローム粒・粘土粒含む。
2 褐灰色土　粘土主体焼土粒・炭化物含む。
3 暗赤褐色土　焼土やや多く含む。
4 暗灰色土　灰層・焼土若干含む。
5 赤褐色土　焼土主体層・灰・炭化物含む。
6 暗褐色土　ローム粒・焼土粒含む。
7 赤褐色土　焼土。
8 暗褐色土　ローム粒・焼土粒・粘土粒含む。
9 暗褐色土　ローム粒・粘土含む。
10 暗褐色土　粘土粒含む。
11 暗褐色土　焼土粒・粘土粒含む。
12 暗褐色土　焼土・灰・粘土多量に含む。
13 暗褐色土　粘土粒含む。
14 暗褐色土　ローム粒含む。
15 赤褐色土　焼土化粘土。
16 褐灰色土　粘土・山砂主体。
17 暗褐色土　焼土・粘土粒含む。
18 暗灰色土　粘土多量・焼土若干含む。

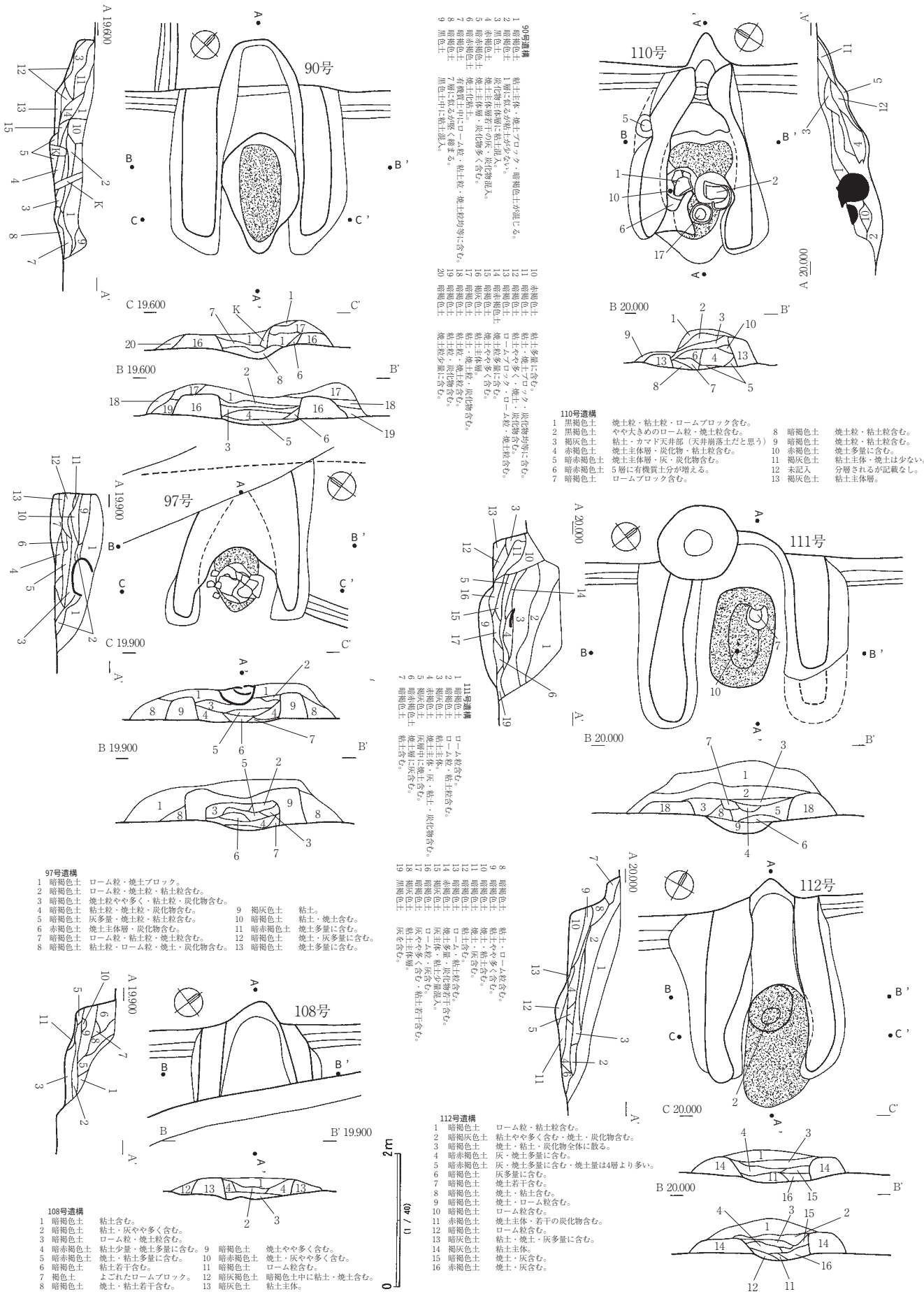
83号遺構
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 暗褐色土　粘土含む。
3 褐灰色土　粘土主体・焼土・炭化物含む。
4 暗赤褐色土　焼土・灰多量に含む。
5 暗褐色土　焼土・炭化物含む。
6 暗褐色土　粘土主体。
7 赤褐色土　焼土・粘土多量に含む。
8 暗褐色土　焼土・粘土少量含む。
9 暗褐色土　ローム粒・粘土粒含む。
10 赤褐色土　焼土多量に含む。
11 暗褐色土　焼土・粘土少量含む。
12 赤褐色土　焼土・灰多量に含む。
13 褐灰色土　粘土主体層。

86号遺構
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 暗褐色土　灰・粘土含む。
3 暗赤褐色土　焼土・粘土含む。
4 赤褐色土　焼土化粘土。
5 赤褐色土　焼土多量・炭化物・粘土含む。
6 赤褐色土　焼土多量・炭化物含む。
7 暗褐色土　焼土粒含む。
8 暗褐色土　粘土・ローム粒含む。
9 暗褐色土　焼土・灰少量含む。
10 暗褐色土　ローム粒含む。
11 褐灰色土　粘土主体層・炭化物・焼土含む。
12 褐灰色土　粘土・山砂主体。

82 号遺構
1 暗褐色土　ローム少量含む。
2 褐灰色土　焼土・灰若干含む。
3 暗赤褐色土　焼土・粘土・灰多量に含む。
4 暗褐色土　ロームブロック少量含む。
5 暗褐色土　焼土少量含む。
6 暗褐色土　焼土・粘土やや多く含む。
7 暗褐色土　焼土少量・粘土やや多く含む。
8 暗褐色土　ロームブロック・粘土少量含む。
9 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック含む。
10 褐灰色土　焼土混入・粘土主体層。

0　2m
(1 / 40)

第317図　御林跡遺跡カマド実測図３



90号遺構
1 暗褐色土　粘土主体・焼土ブロック・暗褐色土が混じる。
2 暗褐色土　1層に似るが焼土が少ない。
3 黒色土　炭化物主体層に粘土混入。
4 赤褐色土　焼土主体層若干の灰・炭化物混入。
5 暗赤褐色土　焼土主体層・炭化物多く含む。
6 暗褐色土　焼土粒土。
7 暗褐色土　有機質土中にローム粒・粘土粒・焼土粒均等に含む。
8 暗褐色土　7層に似るが薄く締まる。
9 黒色土　黒色土中に粘土混入。
10 赤褐色土　粘土多量に含む。
11 暗褐色土　粘土・焼土ブロック・炭化物均等に含む。
12 暗褐色土　粘土やや多く・焼土・炭化物含む。
13 暗褐色土　ロームブロック・ローム粒・焼土粒含む。
14 暗赤褐色土　焼土粒多量に含む。
15 暗褐色土　焼土やや多く含む。
16 褐灰色土　粘土主体層。
17 暗褐色土　粘土・焼土粒・炭化物含む。
18 暗褐色土　粘土粒・炭化物含む。
19 暗褐色土　粘土粒・炭化物含む。
20 暗褐色土　焼土粒少量に含む。

110号遺構
1 黒褐色土　焼土粒・粘土粒・ロームブロック含む。
2 黒褐色土　やや大きめのローム粒・焼土粒含む。
3 褐灰色土　粘土・カマド天井部（天井崩落土だと思う）
4 赤褐色土　焼土主体層・灰化物・粘土粒含む。
5 暗赤褐色土　焼土主体層・灰・炭化物含む。
6 暗赤褐色土　5層に有機質土分が増える。
7 暗褐色土　ロームブロック含む。
8 暗褐色土　焼土粒・粘土粒含む。
9 暗褐色土　焼土粒・粘土粒含む。
10 赤褐色土　焼土多量に含む。
11 褐灰色土　粘土主体・焼土は少ない。
12 未記入　分層されるが記載なし。
13 褐灰色土　粘土主体層。

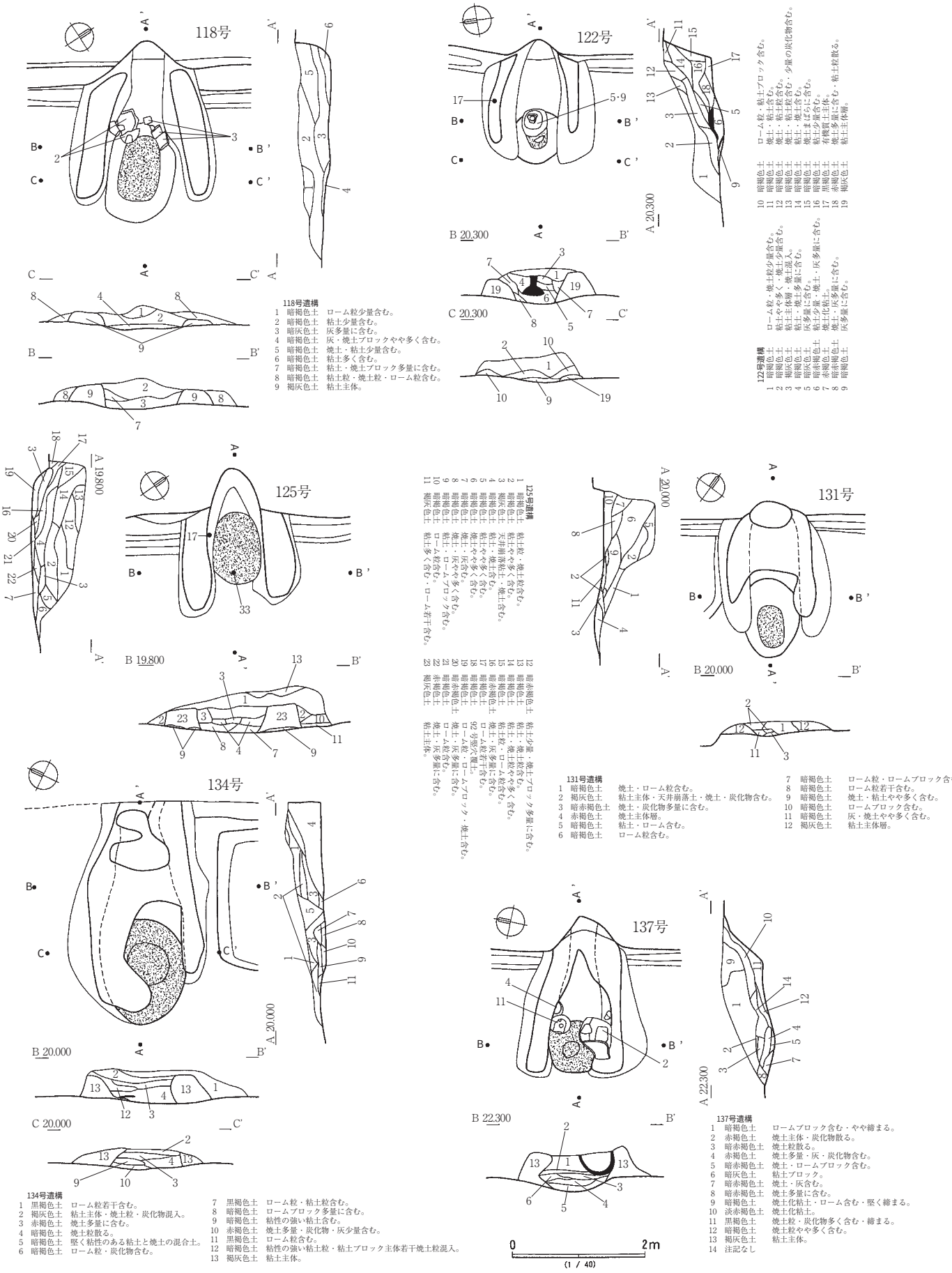
97号遺構
1 暗褐色土　ローム粒・焼土ブロック。
2 暗褐色土　ローム粒・焼土粒・粘土粒含む。
3 暗褐色土　焼土粒やや多く・粘土粒・炭化物含む。
4 暗褐色土　粘土粒・焼土粒・炭化物含む。
5 暗褐色土　灰多量・焼土粒・粘土粒含む。
6 赤褐色土　焼土主体層・炭化物含む。
7 暗褐色土　ローム粒・粘土粒・焼土粒含む。
8 暗褐色土　粘土粒・ローム粒・焼土・炭化物含む。
9 褐灰色土　粘土。
10 暗褐色土　粘土・焼土含む。
11 暗赤褐色土　焼土多量に含む。
12 暗褐色土　焼土・灰多量に含む。
13 暗褐色土　焼土多量に含む。

111号遺構
1 暗褐色土　ローム粒含む。
2 暗褐色土　ローム粒・粘土粒含む。
3 褐灰色土　粘土主体。
4 赤褐色土　焼土主体・灰・粘土・炭化物含む。
5 褐灰色土　灰層中に焼土含む。
6 暗赤褐色土　焼土層に灰含む。
7 暗褐色土　粘土含む。
8 暗褐色土　粘土・ローム粒含む。
9 暗褐色土　粘土やや多く含む。
10 暗褐色土　焼土・粘土含む。
11 暗褐色土　焼土・灰含む。
12 暗褐色土　ローム・粘土粒含む。
13 暗褐色土　焼土多量・炭化物若干含む。
14 赤褐色土　灰主体・粘土分混入。
15 褐灰色土　ローム粒・灰含む。
16 暗褐色土　灰やや多く含む・粘土若干含む。
17 暗褐色土　粘土主体層。
18 褐灰色土　灰を含む。
19 暗褐色土　粘土多量に含む。

112号遺構
1 暗褐色土　ローム粒・粘土粒含む。
2 暗褐灰色土　粘土やや多く含む・焼土・炭化物含む。
3 暗褐色土　焼土・粘土・炭化物全体に散る。
4 暗赤褐色土　灰・焼土多量に含む。
5 暗赤褐色土　灰・焼土多量に含む・焼土量は4層より多い。
6 暗褐色土　灰多量に含む。
7 暗褐色土　焼土若干含む。
8 暗褐色土　焼土・粘土含む。
9 暗褐色土　焼土・ローム粒含む。
10 暗褐色土　ローム粒含む。
11 赤褐色土　焼土主体・若干の炭化物含む。
12 暗褐色土　ローム粒含む。
13 暗灰色土　粘土・焼土・灰多量に含む。
14 褐灰色土　粘土主体。
15 暗褐色土　焼土・灰含む。
16 赤褐色土　焼土・灰含む。

108号遺構
1 暗褐色土　粘土含む。
2 暗褐色土　粘土・灰やや多く含む。
3 暗褐色土　ローム粒・焼土粒含む。
4 暗赤褐色土　粘土少量・焼土多量に含む。
5 暗赤褐色土　焼土・粘土多量に含む。
6 暗褐色土　粘土若干含む。
7 褐色土　よごれたロームブロック。
8 暗褐色土　焼土・粘土若干含む。
9 暗褐色土　焼土やや多く含む。
10 暗赤褐色土　焼土・灰やや多く含む。
11 暗褐色土　ローム粒含む。
12 暗灰褐色土　暗褐色土中に粘土・焼土含む。
13 暗灰色土　粘土主体。

第318図　御林跡遺跡カマド実測図４



118号遺構
1 暗褐色土　ローム粒少量含む。
2 暗褐色土　粘土少量含む。
3 暗灰色土　灰多量に含む。
4 暗褐色土　灰・焼土ブロックやや多く含む。
5 暗褐色土　焼土・粘土少量含む。
6 暗褐色土　粘土多く含む。
7 暗褐色土　粘土・焼土ブロック多量に含む。
8 暗褐色土　粘土粒・焼土粒・ローム粒含む。
9 褐灰色土　粘土主体。

122号遺構
1 暗褐色土　ローム粒・粘土ブロック含む。
2 暗褐色土　焼土・粘土粒含む。
3 暗褐色土　焼土・粘土粒含む。
4 暗褐色土　焼土・粘土粒含む・少量の炭化物含む。
5 暗褐色土　粘土・焼土含む。
6 暗褐色土　焼土ブロックに含む。
7 暗褐色土　焼土少量含む。
8 黒褐色土　有機質土主体。
9 赤褐色土　焼土多量に含む・粘土粒散る。
10 暗褐色土　粘土主体層。
11 暗褐色土　ローム粒・焼土粒少量含む。
12 暗褐色土　粘土やや多く・焼土少量含む。
13 暗褐色土　粘土は体層・焼土混入。
14 暗褐色土　粘土・焼土多量に含む。
15 暗褐色土　灰多量に含む。
16 暗褐色土　粘土少量・焼土・灰多量に含む。
17 暗赤褐色土　焼土化粘土。
18 赤褐色土　焼土・灰多量に含む。
19 暗褐色土　灰多量に含む。

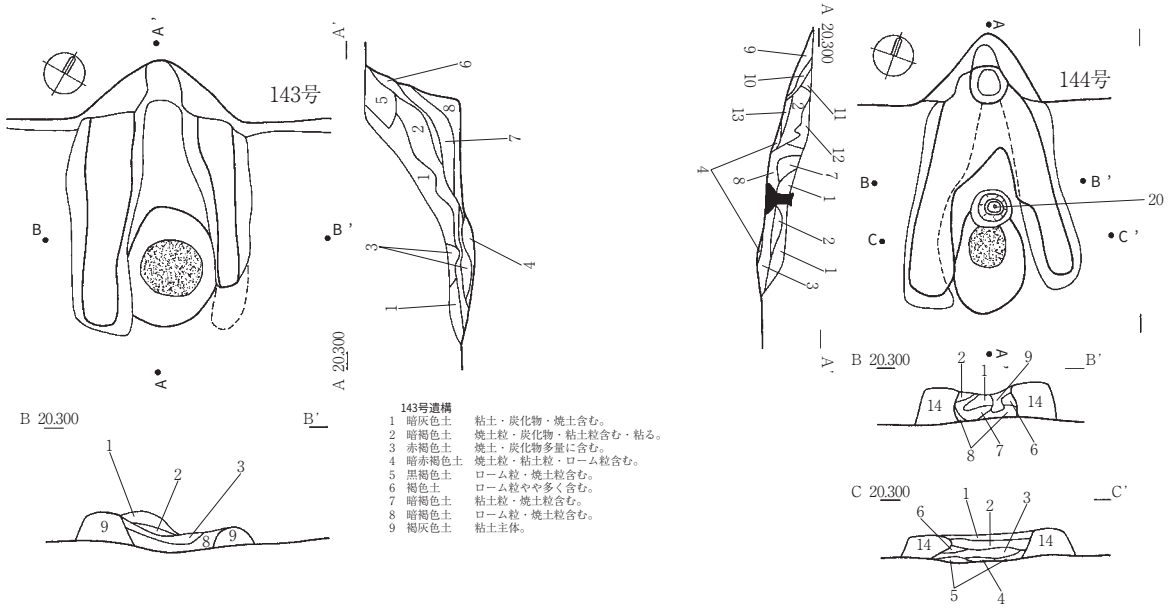
125号遺構
1 暗褐色土　粘土粒・焼土粒含む。
2 暗褐色土　粘土やや多く含む。
3 褐灰色土　天井崩落土・焼土含む。
4 暗褐色土　粘土・焼土含む。
5 暗褐色土　粘土やや多く含む。
6 暗褐色土　焼土やや多く含む。
7 暗褐色土　焼土・灰含む。
8 暗褐色土　焼土・灰やや多く含む。
9 暗褐色土　焼土・ロームブロック含む。
10 暗褐色土　粘土・ローム粒含む。
11 褐灰色土　粘土多く含む・ローム若干含む。
12 暗赤褐色土　粘土少量・焼土ブロック多量に含む。
13 暗褐色土　粘土・焼土粒含む。
14 暗褐色土　粘土やや多く含む。
15 暗褐色土　粘土粒・ローム粒含む。
16 暗赤褐色土　焼土・灰多量に含む。
17 暗褐色土　ローム粒若干含む。
18 暗褐色土　92号竪穴覆土。
19 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土含む。
20 暗赤褐色土　焼土・灰多量に含む。
21 暗褐色土　ローム粒含む。
22 赤褐色土　焼土・灰多量に含む。
23 褐灰色土　粘土主体。

131号遺構
1 暗褐色土　焼土・ローム粒含む。
2 褐灰色土　粘土主体・天井崩落土・焼土・炭化物含む。
3 暗赤褐色土　焼土・炭化物多量に含む。
4 赤褐色土　焼土主体層。
5 暗褐色土　粘土・ローム含む。
6 暗褐色土　ローム粒含む。
7 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック含む。
8 暗褐色土　ローム粒若干含む。
9 暗褐色土　焼土・粘土やや多く含む。
10 暗褐色土　ロームブロック含む。
11 暗褐色土　灰・焼土やや多く含む。
12 褐灰色土　粘土主体層。

134号遺構
1 黒褐色土　ローム粒若干含む。
2 褐灰色土　粘土主体・焼土粒・炭化物混入。
3 赤褐色土　焼土多量に含む。
4 暗褐色土　焼土粒散る。
5 暗褐色土　堅く粘性のある粘土と焼土の混合土。
6 暗褐色土　ローム粒・炭化物含む。
7 黒褐色土　ローム粒・粘土粒含む。
8 暗褐色土　ロームブロック多量に含む。
9 暗褐色土　粘性の強い粘土含む。
10 赤褐色土　焼土多量・炭化物・灰少量含む。
11 黒褐色土　ローム粒含む。
12 暗褐色土　粘性の強い粘土粒・粘土ブロック主体若干焼土粒混入。
13 褐灰色土　粘土主体。

137号遺構
1 暗褐色土　ロームブロック含む・やや締まる。
2 赤褐色土　焼土主体・炭化物散る。
3 暗赤褐色土　焼土粒散る。
4 赤褐色土　焼土多量・灰・炭化物含む。
5 暗赤褐色土　焼土・ロームブロック含む。
6 暗灰色土　粘土ブロック。
7 暗赤褐色土　焼土・灰含む。
8 暗赤褐色土　焼土多量に含む。
9 暗褐色土　焼土化粘土・ローム含む・堅く締まる。
10 淡赤褐色土　焼土化粘土。
11 黒褐色土　焼土粒・炭化物多く含む・締まる。
12 暗褐色土　焼土粒やや多く含む。
13 褐灰色土　粘土主体。
14 注記なし

第319図　御林跡遺跡カマド実測図５

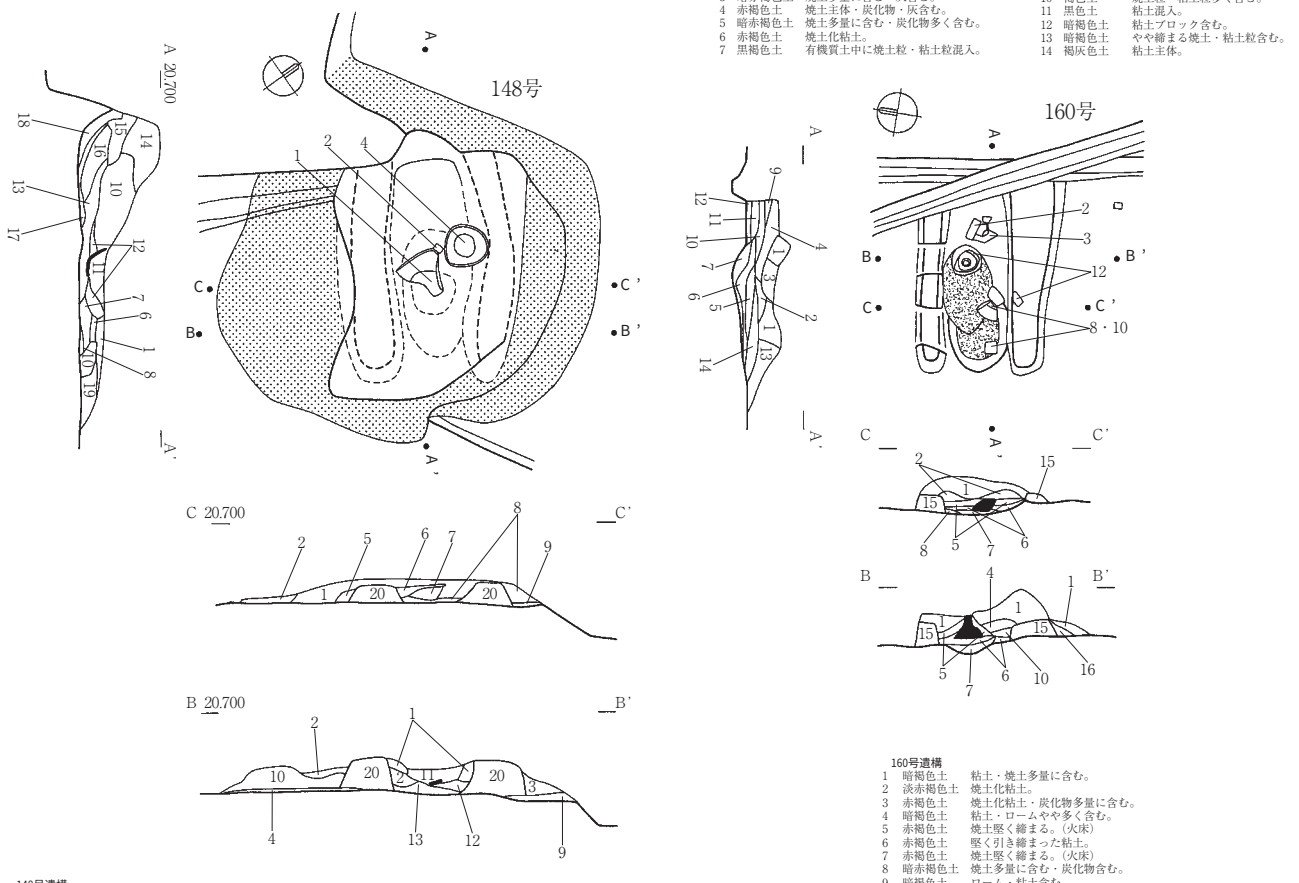


143号遺構

1	暗灰色土	粘土・炭化物・焼土含む。
2	暗褐色土	焼土粒・炭化物・粘土粒含む・粘る。
3	赤褐色土	焼土・炭化物多量に含む。
4	暗赤褐色土	焼土粒・粘土粒・ローム粒含む。
5	黒褐色土	ローム粒・焼土粒含む。
6	褐色土	ローム粒やや多く含む。
7	暗褐色土	粘土粒・焼土粒含む。
8	暗褐色土	ローム粒・焼土粒含む。
9	褐灰色土	粘土主体。

144号遺構

1	暗赤褐色土	粘土主体堅く締まる・焼土粒多量に含む。
2	暗灰色土	粘土主体堅く締まる。
3	暗赤褐色土	焼土多量に含む・灰含む。
4	赤褐色土	焼土主体・炭化物・灰含む。
5	暗赤褐色土	焼土多量に含む・炭化物多く含む。
6	赤褐色土	焼土化粘土。
7	黒褐色土	有機質土中に焼土粒・粘土粒混入。
8	暗赤褐色土	焼土主体。
9	黒褐色土	7層より焼土粒多い。
10	褐色土	焼土粒・粘土粒多く含む。
11	黒色土	粘土混入。
12	暗褐色土	粘土ブロック含む。
13	暗褐色土	やや締まる焼土・粘土粒含む。
14	褐灰色土	粘土主体。



148号遺構

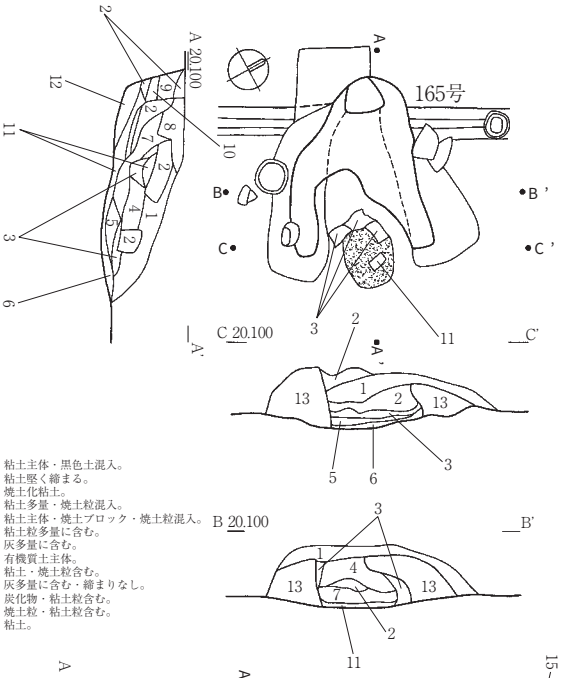
1	暗褐色土	粘土多量・ローム粒含む。
2	暗褐色土	ローム粒・粘土多量。
3	暗褐色土	焼土粒・ローム粒含む。
4	暗褐色土	粘土・ローム粒含む。
5	暗褐色土	粘土含む。
6	暗褐色土	粘土・ローム含む。
7	暗褐色土	粘土多量・焼土含む。
8	暗赤褐色土	焼土・粘土多量に含む。
9	暗褐色土	ローム粒やや多く含む・貼床。
10	暗灰色土	粘土主体・焼土・炭化物含む。
11	暗褐色土	粘土やや多く焼土含む。
12	暗褐色土	粘土・焼土多量に含む。
13	赤褐色土	粘土主体・炭化物含む。
14	暗褐色土	粘土粒・焼土粒含む。
15	暗褐色土	焼土・粘土やや多く焼土含む。
16	暗褐色土	焼土・粘土多量に含む。
17	暗褐色土	粘土少量含む。
18	暗褐色土	粘土まばらに含む。
19	暗褐色土	粘土少量含む。
20	褐灰色土	粘土主体・カマド内面焼土化している。

160号遺構

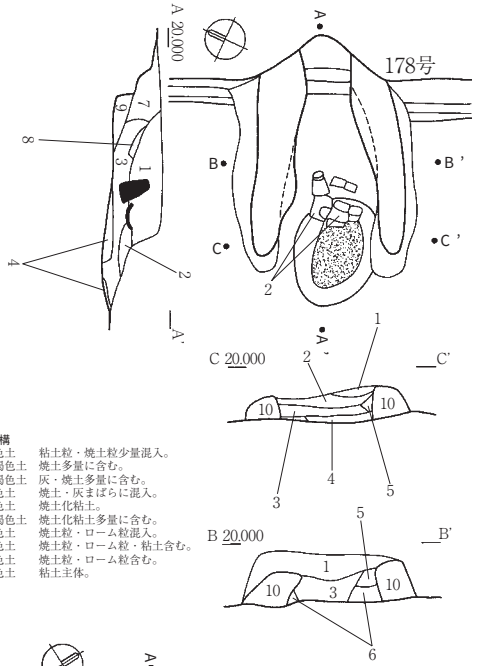
1	暗褐色土	粘土・焼土多量に含む。
2	淡赤褐色土	焼土化粘土。
3	赤褐色土	焼土化粘土・炭化物多量に含む。
4	暗褐色土	粘土・ロームやや多く含む。
5	赤褐色土	焼土堅く締まる。(火床)
6	赤褐色土	堅く引き締まった粘土。
7	赤褐色土	焼土堅く締まる。(火床)
8	暗赤褐色土	焼土多量に含む・炭化物含む。
9	暗褐色土	ローム・粘土含む。
10	淡赤褐色土	焼土化粘土。
11	黄褐色土	ロームブロック多量に含む。
12	暗褐色土	ロームブロック多く含む（貼床）締まる。
13	暗褐色土	粘土・ローム粒含む。
14	黒褐色土	焼土粒・粘土粒・炭化物・ローム粒含む・やや締まる。
15	褐灰色土	粘土主体。
16	赤褐色土	焼土化粘土・締まる。

0 2m
(1 / 40)

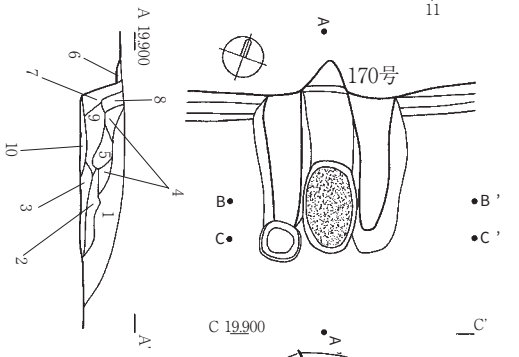
第320図　御林跡遺跡カマド実測図６



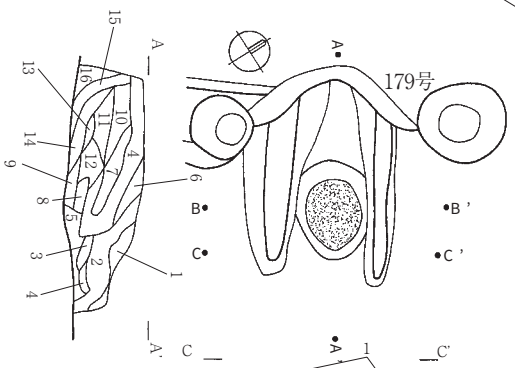
165号遺構
1　暗褐色土　粘土主体・黒色土混入。
2　暗灰褐色土　粘土堅く締まる。
3　赤褐色土　焼土化粘土。
4　暗褐色土　粘土多量・焼土粒混入。
5　暗赤褐色土　粘土主体・焼土ブロック・焼土粒混入。
6　暗赤褐色土　粘土粒多量に含む。
7　淡褐色土　灰多量に含む。
8　黒色土　有機質土主体。
9　暗褐色土　粘土・焼土粒含む。
10　淡褐色土　灰多量に含む・締まりなし。
11　暗褐色土　炭化物・粘土粒含む。
12　暗褐色土　焼土粒・粘土粒含む。
13　褐灰色土　粘土。



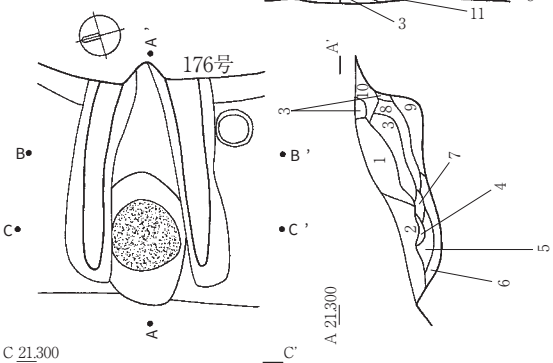
178号遺構
1　暗褐色土　粘土粒・焼土粒少量混入。
2　暗赤褐色土　焼土多量に含む。
3　暗赤褐色土　灰・焼土多量に含む。
4　暗褐色土　焼土・灰まばらに混入。
5　赤褐色土　焼土化粘土。
6　暗赤褐色土　焼土化粘土多量に含む。
7　暗褐色土　焼土粒・ローム粒混入。
8　暗褐色土　焼土粒・ローム粒・粘土含む。
9　暗褐色土　焼土粒・ローム粒含む。
10　暗灰色土　粘土主体。



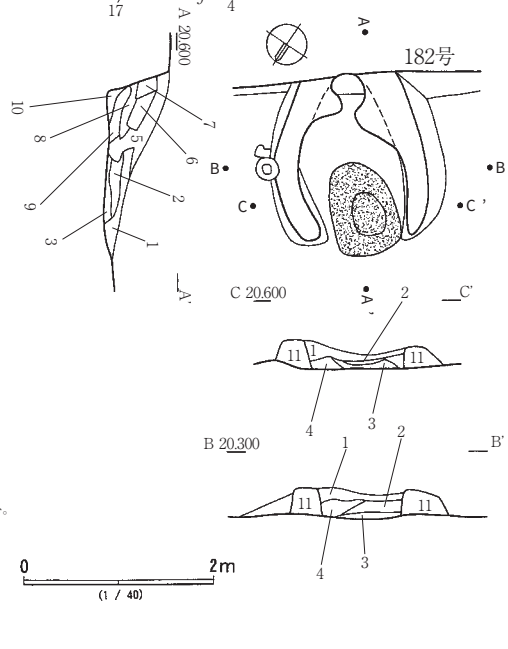
170号遺構
1　暗褐色土　ローム粒含む。
2　暗褐色土　焼土・粘土含む。
3　赤褐色土　焼土・灰・炭化物多量に含む。
4　暗褐色土　粘土含む。
5　暗灰色土　粘土主体・焼土粒・炭化物含む。
6　暗褐色土　ローム粒含む。
7　暗褐色土　ローム粒・粘土含む。
8　暗褐色土　ローム粒含む。
9　暗褐色土　粘土やや多く・灰・焼土含む。
10　暗褐色土　ローム粒含む。
11　暗赤褐色土　焼土粒・粘土粒・炭化物含む。
12　暗赤褐色土　焼土・粘土含む。
13　褐灰色土　粘土主体。



179号遺構
1　暗褐色土　粘土・暗褐色土半々。
2　黒褐色土　粘土・ローム・ブロック・焼土若干含む。
3　赤褐色土　焼土主体。
4　暗灰色土　粘土主体・焼土・炭化物含む。
5　黒色土　有機質土主体。
6　暗灰色土　粘土・焼土・炭化物含む。
7　暗褐色土　粘土主体・焼土・炭化物若干含む。
8　暗褐色土　やわらか粘土多く含む。
9　暗灰色土　粘土・灰多量に含む。
10　暗灰色土　粘土主体・焼土粒多量に含む。
11　暗赤褐色土　焼土粒やや多く含む。
12　暗灰色土　粘土主体・焼土粒多量に含む。
13　暗赤褐色土　焼土やや多く含む。
14　暗褐色土　焼土粒少量含む。
15　灰色土　粘土主体。
16　黒褐色土　有機質土。
17　暗赤褐色土　焼土粒やや多く含む。
18　褐灰色土　粘土主体。

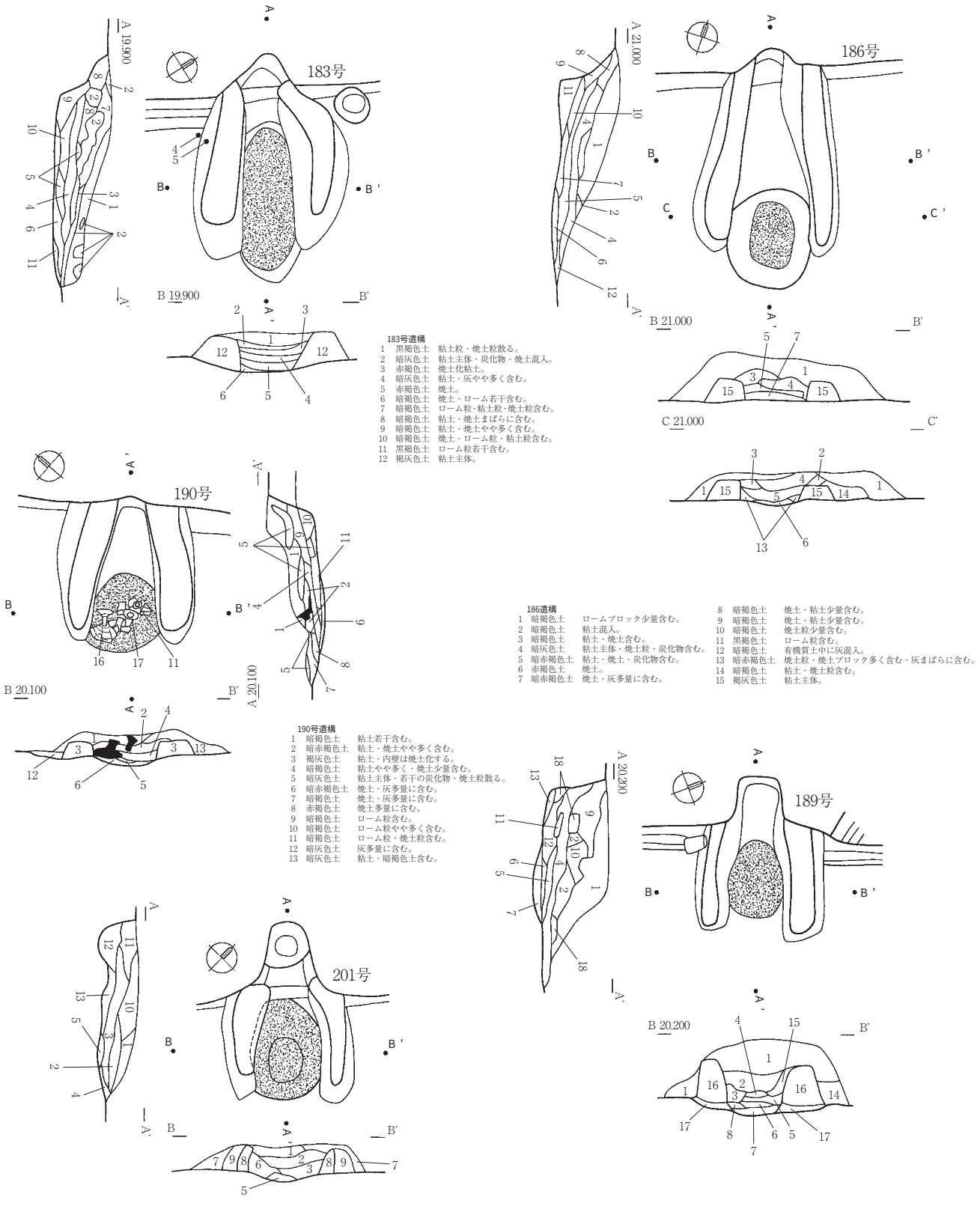


176号遺構
1　暗褐色土　粘土・焼土少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒多く含む。
3　暗灰色土　焼土・粘土多量に含む。
4　暗褐色土　粘土・焼土少量含む。
5　赤褐色土　焼土多量に含む・若干の炭化物・灰含む。
6　暗褐色土　焼土・粘土微量に含む。
7　暗灰色土　粘土ブロック。
8　暗赤褐色土　灰・焼土・炭化物含む。
9　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック含む。
10　暗褐色土　粘土粒・ローム粒含む。
11　暗褐色土　粘土・焼土・ローム粒含む。
12　褐灰色土　粘土主体。



182号遺構
1　暗灰色土　粘土主体・焼土粒やや多く含む。
2　赤褐色土　焼土主体。
3　暗赤褐色土　焼土・炭化物・灰含む。
4　暗赤褐色土　焼土・粘土・炭化物含む・締まりなし。
5　暗褐色土　粘土粒・焼土粒・炭化物含む。
6　灰褐色土　灰色粘土主体。
7　暗褐色土　粘土主体・炭化物・焼土粒含む。
8　赤褐色土　焼土粒・粘土。
9　暗褐色土　炭化物・焼土粒少量含む。
10　褐色土　ローム・ブロック主体。
11　褐灰色土　粘土主体。

第321図　御林跡遺跡カマド実測図７



183号遺構
1 黒褐色土 粘土粒・焼土粒散る。
2 暗灰色土 粘土主体・炭化物・焼土混入。
3 赤褐色土 焼土化粘土。
4 暗灰色土 粘土・灰やや多く含む。
5 赤褐色土 焼土。
6 暗褐色土 焼土・ローム若干含む。
7 暗褐色土 ローム粒・粘土粒・焼土粒含む。
8 暗褐色土 粘土・焼土まばらに含む。
9 暗褐色土 粘土・焼土やや多く含む。
10 暗褐色土 焼土・ローム粒・粘土粒含む。
11 黒褐色土 ローム粒若干含む。
12 褐灰色土 粘土主体。

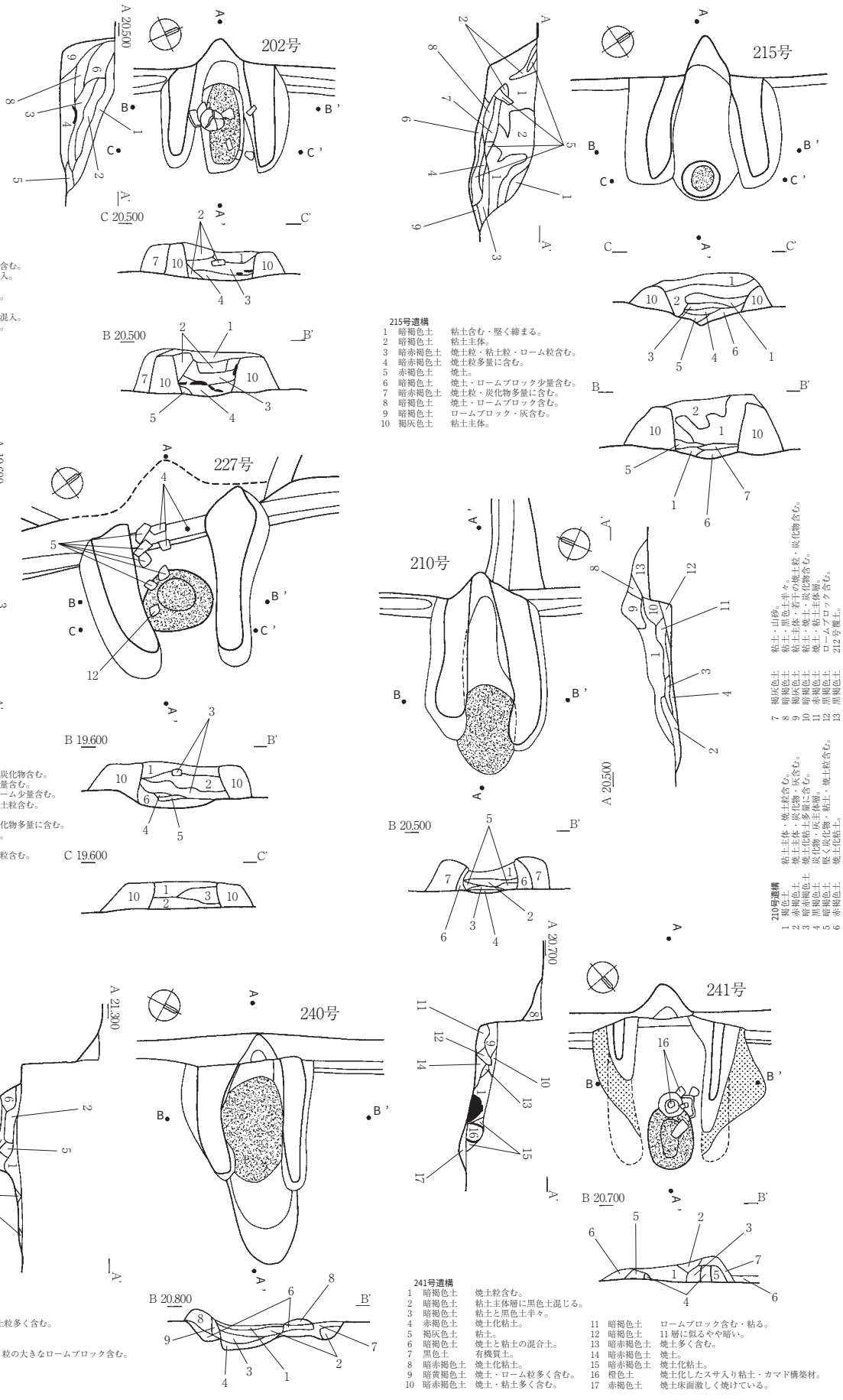
186遺構
1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
2 暗褐色土 粘土混入。
3 暗褐色土 粘土・焼土含む。
4 暗灰色土 粘土主体・焼土粒・炭化物含む。
5 暗赤褐色土 粘土・焼土・炭化物含む。
6 赤褐色土 焼土。
7 暗赤褐色土 焼土・灰多量に含む。
8 暗褐色土 焼土・粘土少量含む。
9 暗褐色土 焼土・粘土少量含む。
10 暗褐色土 焼土粒少量含む。
11 黒褐色土 ローム粒含む。
12 暗褐色土 有機質土中に灰混入。
13 暗赤褐色土 焼土粒・焼土ブロック多く含む・灰まばらに含む。
14 暗褐色土 粘土・焼土粒含む。
15 褐灰色土 粘土主体。

190号遺構
1 暗褐色土 粘土若干含む。
2 暗赤褐色土 粘土・焼土やや多く含む。
3 褐灰色土 粘土・内壁は焼土化する。
4 暗褐色土 粘土やや多く・焼土少量含む。
5 暗灰色土 粘土主体・若干の炭化物・焼土粒散る。
6 暗赤褐色土 焼土・灰多量に含む。
7 暗褐色土 焼土・灰多量に含む。
8 赤褐色土 焼土多量に含む。
9 暗褐色土 ローム粒含む。
10 暗褐色土 ローム粒やや多く含む。
11 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
12 暗灰色土 灰多量に含む。
13 暗灰色土 粘土・暗褐色土含む。

201号遺構
1 暗褐色土 粘土まばらに含む。
2 暗褐色土 粘土粒・焼土粒少量混入。
3 暗褐色土 灰・焼土・粘土粒まばらに含む。
4 暗褐色土 灰・焼土まばらに含む。
5 暗赤褐色土 焼土主体層・炭化物含む。
6 暗褐色土 3層に似るが粘土量が3層より多い。
7 暗褐色土 焼土ブロック・ロームブロック2cm以下混入。
8 赤褐色土 焼土化粘土。
9 褐灰色土 粘土主体層。
10 暗褐色土 粘土と暗褐色土の混合土・よく締まる。
11 暗褐色土 粘土少量混入。
12 暗褐色土 黒色土・粘土斑合半々。
13 暗褐色土 粘土まばらに混入。

189号遺構
1 暗褐色土 ローム粒含む。
2 暗灰色土 粘土多量・ローム少量含む。
3 暗褐色土 粘土少量・焼土多量に含む。
4 赤褐色土 焼土多量・炭化物含む。
5 暗赤褐色土 灰多量・焼土やや多く含む。
6 灰色土 灰多量・炭化物含む。
7 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
8 暗褐色土 粘土・焼土少量含む。
9 暗褐色土 粘土・焼土・ローム粒含む。
10 暗褐色土 粘土・ローム粒含む。
11 赤褐色土 焼土化粘土。
12 暗褐色土 灰・粘土少量含む。
13 暗褐色土 粘土若干含む。
14 暗褐色土 ローム粒含む。
15 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
16 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物含む。
17 褐灰色土 粘土主体。
18 暗灰色土 粘土主体。

第322図　御林跡遺跡カマド実測図８



202号遺構
1 暗褐色土 ローム粒・粘土少量含む。
2 暗灰色土 粘土主体・焼土粒混入。
3 暗褐色土 焼土・粘土含む。
4 暗褐色土 灰・焼土多量に含む。
5 暗灰色土 灰多量に含む。
6 暗褐色土 粘土・ローム粒少量混入。
7 暗褐色土 ロームブロック混入。
8 暗褐色土 6層に灰が混入。
9 暗褐色土 粘土混入。
10 褐灰色土 粘土主体。

215号遺構
1 暗褐色土 粘土含む・堅く締まる。
2 暗褐色土 粘土主体。
3 暗赤褐色土 焼土粒・粘土粒・ローム粒含む。
4 暗赤褐色土 焼土粒多量に含む。
5 赤褐色土 焼土。
6 暗褐色土 焼土・ロームブロック少量含む。
7 暗赤褐色土 焼土粒・炭化物多量に含む。
8 暗褐色土 焼土・ロームブロック含む。
9 暗褐色土 ロームブロック・灰含む。
10 褐灰色土 粘土主体。

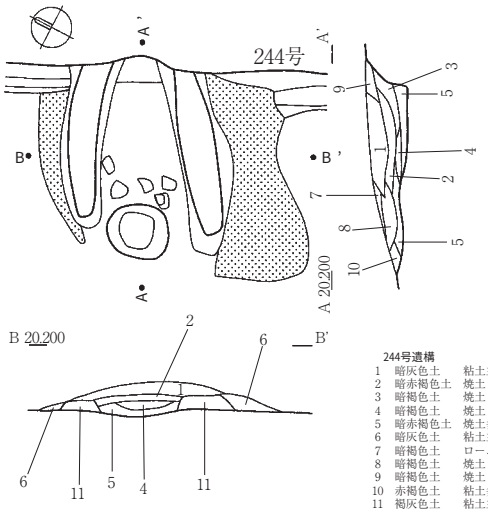
227号遺構
1 暗褐色土 ローム含む。
2 暗褐色土 粘土・ローム含む。
3 暗褐色土 粘土主体・焼土粒・炭化物含む。
4 暗褐色土 粘土多量・ローム少量含む。
5 赤褐色土 焼土多量・粘土・ローム少量含む。
6 暗灰色土 灰主体・炭化物・焼土粒含む。
7 暗褐色土 粘土やや多く含む。
8 暗褐色土 灰・粘土・焼土・炭化物多量に含む。
9 暗褐色土 粘土・焼土少量含む。
10 褐灰色土 粘土主体。
11 黒褐色土 有機質土中にローム粒含む。

210号遺構
褐色土 粘土主体・焼土粒含む。
1 赤褐色土 焼土主体・炭化物・灰含む。
2 暗赤褐色土 焼土化粘土多量に含む。
3 黒褐色土 炭化物・灰主体層。
4 暗褐色土 堅く炭化物・粘土・焼土粒含む。
5 暗褐色土 焼土化粘土。
6 赤褐色土 粘土・山砂。
7 褐灰色土 粘土・黒色土半々。
8 暗褐色土 粘土主体・若干の焼土粒・炭化物含む。
9 褐灰色土 粘土主体・焼土・炭化物含む。
10 暗褐色土 粘土・焼土・炭化物含む。
11 赤褐色土 焼土・粘土主体層。
12 黒褐色土 ロームブロック含む。
13 黒褐色土 212号覆土。

240号遺構
1 黒褐色土 焼土・炭化物含む。
2 暗褐色土 焼土・炭化物含む。
3 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒多く含む。
4 褐灰色土 粘土層。
5 褐色土 ロームブロック。
6 褐色土 焼土少なく・3層より粒の大きなロームブロック含む。
7 明褐色土 粘土・ローム粒半々。
8 褐灰色土 粘土層堅く締まる。
9 赤褐色土 焼土化粘土。

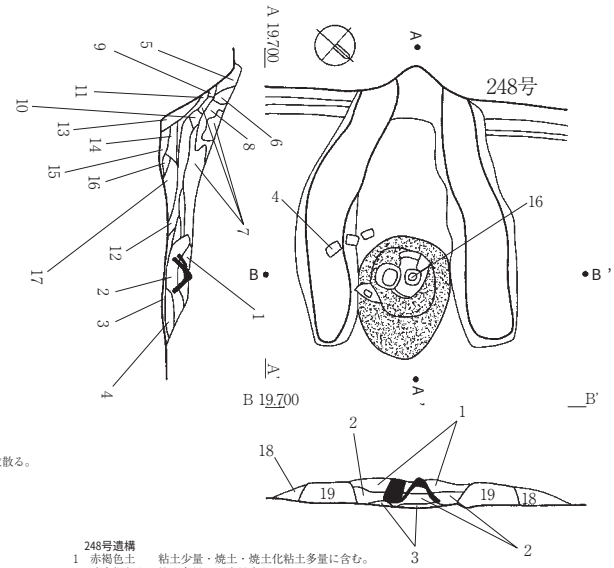
241号遺構
1 暗褐色土 焼土粒含む。
2 暗褐色土 粘土主体層に黒色土混じる。
3 暗褐色土 粘土と黒色土半々。
4 赤褐色土 焼土化粘土。
5 褐灰色土 粘土。
6 暗褐色土 焼土と粘土の混合土。
7 黒色土 有機質土。
8 暗赤褐色土 焼土化粘土。
9 暗黄褐色土 焼土・ローム粒多く含む。
10 暗赤褐色土 焼土・粘土多く含む。
11 暗褐色土 ロームブロック含む・粘る。
12 暗褐色土 11層に似るやや暗い。
13 暗赤褐色土 焼土多く含む。
14 暗赤褐色土 焼土。
15 暗赤褐色土 焼土化粘土。
16 橙色土 焼土化したスサ入り粘土・カマド構築材。
17 赤褐色土 焼土床面激しく焼けている。

第323図　御林跡遺跡カマド実測図９



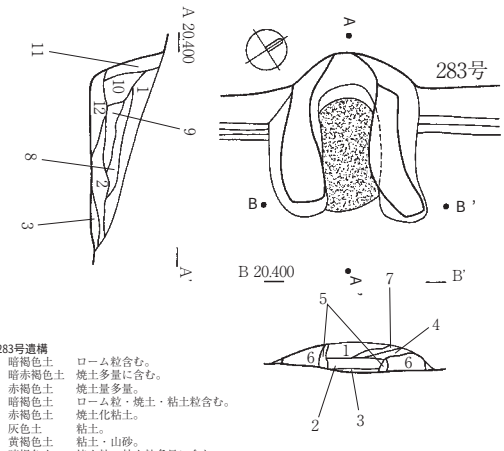
244号遺構

1	暗灰色土	粘土主体・焼土粒散る。
2	暗赤褐色土	焼土・粘土やや多く含む。
3	暗褐色土	焼土・粘土粒含む。
4	暗褐色土	焼土・粘土含む。
5	暗赤褐色土	焼土多量・灰含む。
6	暗灰色土	粘土主体・炭化物・焼土粒散る。
7	暗褐色土	ロームブロック含む。
8	暗褐色土	焼土・粘土多く含む。
9	暗褐色土	焼土・粘土やや多く含む。
10	赤褐色土	粘土多量に含む。
11	褐灰色土	粘土主体。



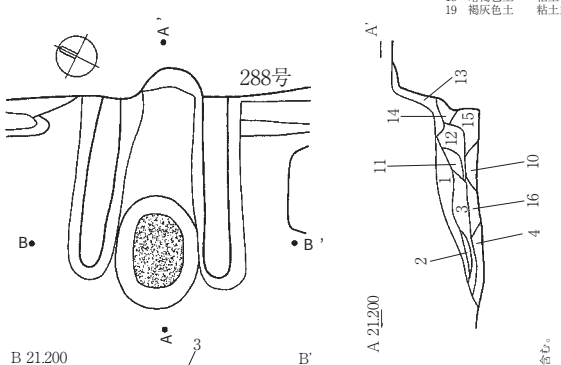
248号遺構

1	赤褐色土	粘土少量・焼土・焼土化粘土多量に含む。
2	暗赤褐色土	焼土多量・灰少量含む。
3	暗赤褐色土	焼土・灰多量に含む。
4	赤褐色土	焼土多量に含む。
5	暗褐色土	粘土粒・焼土粒含む。
6	暗褐色土	粘土粒含む。
7	暗灰色土	粘土主体・焼土粒・炭化物含む。
8	暗褐色土	粘土・焼土少量含む。
9	暗褐色土	粘土少量含む。
10	暗褐色土	粘土・炭化物少量含む。
11	暗褐色土	粘土極少量含む。
12	暗褐色土	ローム粒・焼土粒含む。
13	暗褐色土	ローム粒まばらに含む。
14	暗褐色土	焼土若干含む。
15	暗褐色土	焼土まばらに含む。
16	褐色土	ロームブロック。
17	暗褐色土	粘土粒・焼土ブロック含む。
18	暗褐色土	粘土粒・焼土粒含む。
19	褐灰色土	粘土主体。



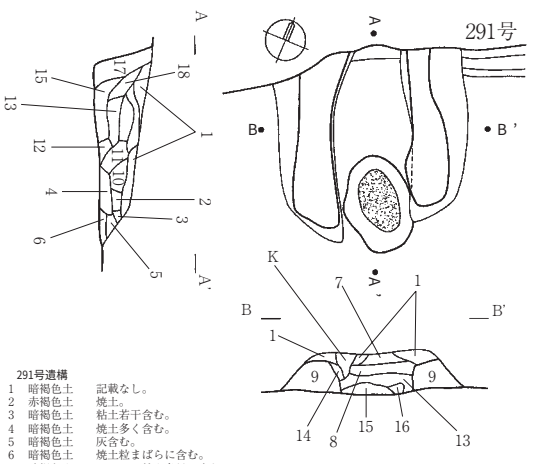
283号遺構

1	暗褐色土	ローム粒含む。
2	暗赤褐色土	焼土多量に含む。
3	赤褐色土	焼土量多量。
4	暗褐色土	ローム粒・焼土・粘土粒含む。
5	赤褐色土	焼土化粘土。
6	灰色土	粘土。
7	黄褐色土	粘土・山砂。
8	暗褐色土	焼土粒・粘土粒多量に含む。
9	黒褐色土	焼土・粘土多量に含む。
10	暗褐色土	ローム粒・焼土・粘土粒含む。
11	褐色色土	ローム粒まばらに含む。
12	暗褐色土	ローム粒・粘土粒含む。



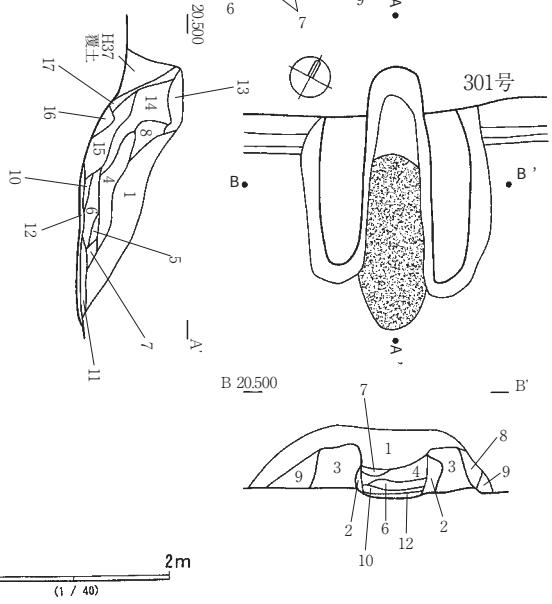
288号遺構

1	暗褐色土	粘土粒・ローム粒含む。
2	赤褐色土	焼土多量に含む。
3	暗褐色土	焼土・灰やや多く含む。
4	暗褐色土	焼土・灰多量に含む。
5	赤褐色土	焼土層
6	暗褐色土	ローム粒・粘土粒やや多く含む。
7	赤褐色土	焼土化粘土。
8	灰色土	粘土。
9	暗褐色土	ローム粒・粘土粒含む。
10	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック含む。
11	暗褐色土	焼土・粘土含む。
12	暗褐色土	焼土・粘土多量に含む。
13	暗褐色土	ローム粒やや多く含み明るい。
14	黄褐色土	ローム粒含む。
15	黒褐色土	ローム粒含む。
16	暗褐色土	焼土やや多く含む。



291号遺構

1	暗褐色土	記載なし。
2	赤褐色土	焼土。
3	暗褐色土	粘土若干含む。
4	暗褐色土	焼土多く含む。
5	暗褐色土	灰含む。
6	暗褐色土	焼土粒まばらに含む。
7	暗褐色土	ブロック粘土多量に含む。
8	暗褐色土	ブロック粘土多量に含む。
9	灰褐色	粘土。
10	暗褐色土	焼土含む。
11	暗褐色土	ローム粒含む。
12	暗褐色土	ローム粒含む。
13	赤褐色土	粘土・焼土多く含む。
14	暗褐色土	粘土含む。
15	黒褐色土	記載なし。
16	黒褐色土	粘土含む。
17	黒褐色土	ローム粒含む。
18	暗褐色土	粘土・焼土含む。

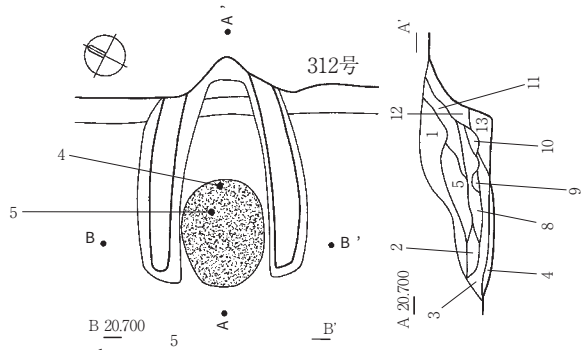


301号遺構

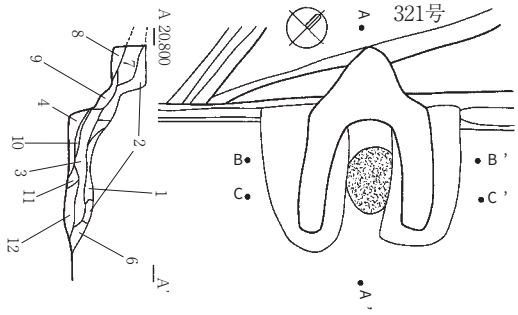
1	暗褐色土	ローム粒含む。
2	赤褐色土	焼土化粘土。
3	褐灰色土	粘土・山砂。
4	暗褐色土	焼土・粘土多量に含む。
5	暗褐色土	粘土・焼土やや多く含む。
6	赤褐色土	焼土多量に含む。
7	暗褐色土	粘土多く含む。
8	暗褐色土	粘土少量含む。
9	暗褐色土	ローム粒・粘土含む。
10	赤褐色土	焼土・灰多量に含む。
11	暗赤褐色土	焼土・灰やや多く含む。
12	暗褐色土	焼土多量・ローム粒・ロームブロック小含む。
13	暗褐色土	ローム粒含む。
14	暗褐色土	粘土・焼土含む。
15	暗褐色土	灰・焼土含む。
16	暗褐色土	ローム粒・ロームブロック含む。
17	褐灰色土	粘土・山砂ブロック。

0　2m
(1 / 40)

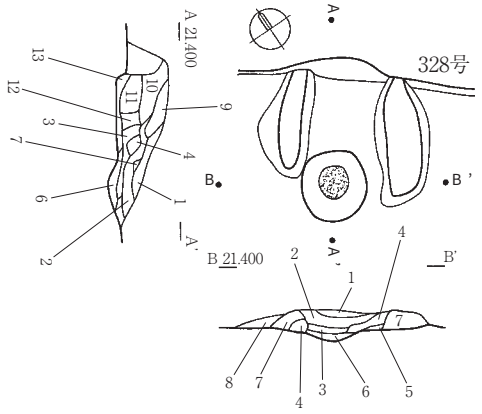
第324図　御林跡遺跡カマド実測図10



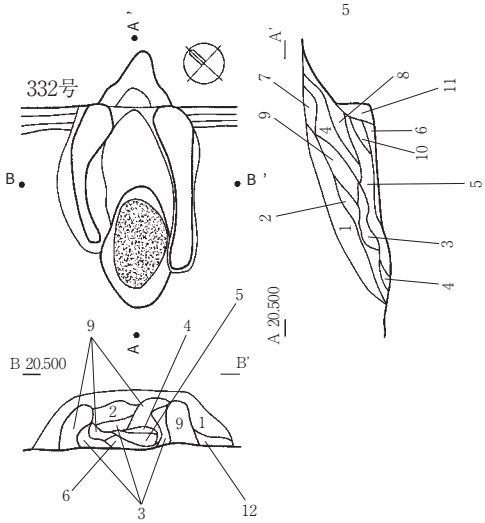
312号遺構
1 暗褐色土 焼土・ローム粒含む。
2 暗褐色土 焼土・粘土粒含む。
3 暗褐色土 焼土・粘土多量・灰少量含む。
4 赤褐色土 焼土・灰多量に含む。
5 暗褐色土 焼土・粘土多量に含む。
6 赤褐色土 焼土化粘土。
7 褐灰色土 粘土・山砂。
8 暗褐色土 焼土・灰含む。
9 暗褐色土 焼土・粘土ブロック。
10 暗褐色土 焼土・粘土堅く脆い。
11 白灰色土 粘土・山砂。
12 暗褐色土 焼土・粘土多量に含む。
13 黒褐色土 有機質土。



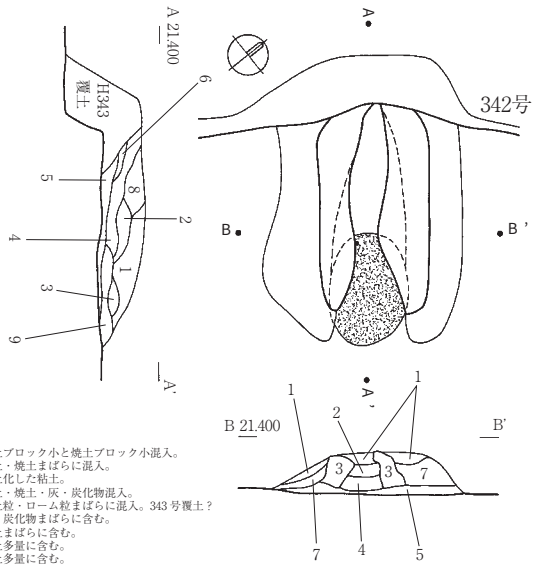
321号遺構
1 暗褐色土 粘土少量含む。
2 暗灰色土 粘土主体・焼土粒含む。
3 暗赤褐色土 焼土・粘土・灰多量に含む。
4 暗褐色土 焼土少量含む。
5 暗赤褐色土 焼土・灰多量に含む。
6 暗褐色土 粘土少量含む。
7 暗褐色土 粘土・焼土散る。
8 暗褐色土 ローム粒含む。
9 暗褐色土 焼土粒散る。
10 赤褐色土 焼土多量に含む・灰散る。
11 灰色土 灰多量に含む。
12 暗褐色土 灰・焼土少量含む。
13 褐灰色土 粘土主体。



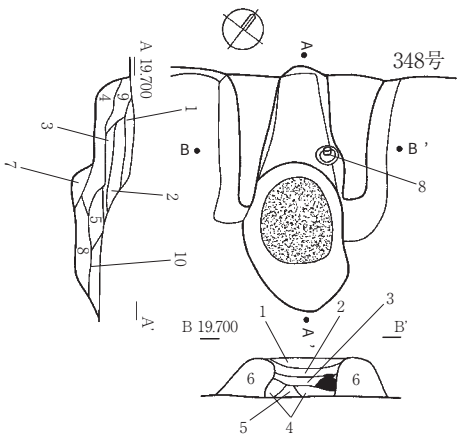
328号遺構
1 暗褐色土 有機質土中に粘土含む。
2 暗褐色土 有機質土中に粘土・焼土含む。
3 赤褐色土 焼土・粘土・炭化物含む。
4 赤褐色土 焼土化粘土・炭化物含む。
5 暗褐色土 有機質土中に焼土・炭化物含む。
6 赤褐色土 焼土・灰・炭化物多量に含む。
7 褐灰色土 粘土多量に含む。
8 黒褐色土 有機質土中に粘土粒含む。
9 暗褐色土 有機質土中に焼土・粘土含む。
10 暗褐色土 有機質土中に焼土粒含む。
11 暗褐色土 有機質土中に焼土粒・粘土粒わずかに含む。
12 暗褐色土 有機質土中に灰・ローム粒若干含む。
13 黒褐色土 有機質土。



332号遺構
1 暗褐色土 粘土粒若干含む。
2 暗褐色土 粘土粒・焼土粒含む。
3 赤褐色土 焼土ブロック多量に含む。(締まり弱)
4 暗赤褐色土 3層より焼土量少ない。
5 赤褐色土 粘土粒・焼土ブロック多量に含む、締まる。
6 黒褐色土 粘土若干含む・有機質性強く焼土粒若干含む。
7 黒褐色土 有機質土中に焼土粒含む。
8 暗褐色土 5㎜大の焼土粒含む・粘る粘土主体。
9 灰色土 ほとんど粘土で占める。
10 黒褐色土 有機質土と焼土の混入。
11 暗褐色土 有機質土中にロームブロック含む。
12 暗褐色土 粘土やや多く含む。



342遺構
1 暗褐色土 粘土ブロック小と焼土ブロック小混入。
2 暗褐色土 粘土・焼土まばらに混入。
3 赤褐色土 焼土化した粘土。
4 暗褐色土 粘土・焼土・灰・炭化物混入。
5 暗褐色土 粘土粒・ローム粒まばらに混入。343号覆土?
6 暗褐色土 灰・炭化物まばらに含む。
7 暗褐色土 粘土まばらに含む。
8 暗褐色土 粘土多量に含む。
9 暗褐色土 焼土多量に含む。



348号遺構
1 暗褐色土 ロームブロック少量混入。
2 暗褐色土 粘土・焼土少量混入。
3 暗褐色土 灰・焼土混入。
4 暗赤褐色土 焼土多量・粘土少量含む。
5 暗赤褐色土 焼土層。
6 褐灰色土 粘土・山砂。
7 黒褐色土 ローム粒少量含む。
8 暗褐色土 焼土粒・粘土粒まばらに含む。
9 暗褐色土 焼土ブロック状に含む。
10 暗褐色土 焼土粒やや多く含む。

0 2m
(1 / 40)

第325図　御林跡遺跡カマド実測図11

第Ⅲ章　自然遺物および自然科学的分析

1　敲甕およびS字甕胎土の材料分析

藤根　　久・長友純子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の特徴から、これら砂粒物の示す地域がいずれであるかを推定することは容易でない。

土器胎土は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、粘土材料は比較的良質とも思える粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される（藤根・今村、2001）。

一方、混和材としての砂粒物は、これら粘土採取の際に粘土層の上下層に分布する砂層などを採取したことが予想される。東海地域には、弥生時代後期の赤彩を施したパレススタイル土器が知られているが、これら３分の１程度の土器では、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれるが（藤根、1998；車崎ほか、1996）、これら火山ガラスは、粘土採取の際に上下層に分布したと思われるテフラ層と予想される。このように、胎土中の混和材は、砂層の特徴である可能性が高く、現河川砂とは大きく異なることから、現在の河川砂との比較では問題が大きい。こうしたことから、以前に堆積した段丘堆積物の砂層などとの比較検討が必要と思われる。土器胎土については、第一に土器に使用した粘土や混和材がどのような特徴を持つかを十分理解することが重要であり、こうした特徴を持つと思われる粘土層や砂層などと比較検討すべきと考える。

ここでは、御林跡遺跡および辺田５号古墳から出土した甕について、これら胎土の粘土および砂粒物の特徴について調べた。

2．試料と方法

試料は、御林跡遺跡および辺田５号古墳から出土した敲甕４試料とS字状口縁台付甕（以下、S字

第３表　胎土材料の検討を行った土器試料

№	遺跡	旧遺構№	新遺構№	新遺物№	遺　物
1	御林跡	85 号	212	19	敲　甕
2		87 号	213	8	敲　甕
3		101 号	199	1	S字甕
4		114 号	248	20	敲　甕
5		117 号	188	3	S字甕
6		120 号	123	1	S字甕
7		127 号	196	3	S字甕
8		157 号	176	36	S字甕
9		166 号	182	6	S字甕
10		168 号	180	12	敲　甕
11		177 号	160	6	S字甕
12		208 号	84	34	S字甕
13		216 号	65	1	S字甕
14		231 号	28	1	S字甕
15	H15 辺田 5 号墳				S字甕
16	H15 御林跡 119 号				S字甕

甕と呼ぶ）12試料の合計16試料である（第３表）。これら土器は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成した。

（１）試料は、始めに岩石カッターで整形し、恒温乾燥機により乾燥した後、全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。

（２）さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成し、スライドグラスに接着した。

（３）その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

試料は、薄片全面について微化石類（放散虫化石、珪藻化石、骨針化石）や大型砂粒などの特徴について観察・記載を行った。なお、ここで使用した各分類群の記載とその特徴は以下の通りである。

［放散虫化石］

放散虫は，放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で，その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は，海生浮遊生珪藻化石とともに外洋性堆積物中によく見られる。

［珪藻化石］

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10～数百μm程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉（1988）や安藤（1990）によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石（淡水種）と分類し、同定できないものは珪藻化石（？）とした。なお、各胎土中の珪藻化石は、その詳細を記載した。

［骨針化石］

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

［植物珪酸体化石］

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10～50μm前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

［胞子化石］

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10～30μm程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

［石英・長石類］

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類（雲母）は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

［長石類］

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カ

リ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO ２％の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

［雲母類］

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO ２％の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

［輝石類］

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO ２％が少ない深成岩、SiO ２％が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO ２％が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO ２％の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。なお、粒子の周囲にガラスが付着し、胎土中にガラス質を伴う場合にはテフラ起源と考える。

［角閃石類］

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のようなSiO ２％が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。なお、粒子の周囲にガラスが付着し、胎土中にガラス質を伴う場合にはテフラ起源と考える。

［ガラス質］

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

［斑晶質・完晶質］

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い

［凝灰岩質］

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山砕屑物などから構成され、非晶質でモザイックな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

［複合石英類］

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英

粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細、0.01 ～ 0.05mmのものを小型、0.05 ～ 0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

［片岩類］

複合石英類は石英の集合している粒子で、これら粒子が片理状組織を示す場合は片岩類とした。

［砂岩質・泥岩質］

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

［不透明・不明］

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

３．結果

土器胎土中の微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。また、[]内は極少ない場合である。

№１：90 ～ 700μmが多い（最大粒径1.6mm）。石英・長石類〉複合石英類（微細）〉複合石英類、斜長石（双晶）、カリ長石（パーサイト）、角閃石類、斑晶質、斜方輝石、ガラス質、凝灰岩質、珪藻化石（海水種*Coscinodiscus*属／ *Thalassiosira*属多い、*Actinocyclus*属、淡水種*Cymbella*属）、骨針化石多産、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）

№２：70 ～ 500μmが多い（最大粒径750μm）。石英・長石類〉複合石英類（微細）〉複合石英類、角閃石類、ガラス質、軽石型ガラス質、凝灰岩質、珪藻化石（海水種*Coscinodiscus*属／ *Thalassiosira*属多い、*Actinocyclus*属、不明種）、骨針化石多い、胞子化石、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）

№３：60 ～ 450μmが多い（最大粒径1.3mm）。石英・長石類〉砂岩質〉複合石英類（微細）、凝灰岩質、珪藻化石（海水種*Coscinodiscus*属／ *Thalassiosira*属）、骨針化石、植物珪酸体化石

№４：130 ～ 500μmが多い（最大粒径700μm、褐色粒子3.9mm）。石英・長石類〉複合石英類（微細）〉斜長石（双晶）、角閃石類、斜方輝石、ガラス質、凝灰岩質、珪藻化石（海水種*Coscinodiscus*属／ *Thalassiosira*属多い、*Actinocyclus*属、不明種）、骨針化石多産、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）

№５：90 ～ 500μmが多い（最大粒径800μm）。斜長石（双晶）〉バブルウォール型ガラス質〉石英・長石類、斜方輝石、斜長石（累帯）、角閃石類、珪藻化石（淡水種*Pinnularia*属、*Eunotia*属、*Cymbella*属、不明種）、胞子化石、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）

№６：70 ～ 600μmが多い（最大粒径1.8mm）。石英・長石類〉複合石英類（微細）〉斜長石（双晶）、角閃石類、単斜輝石、ジルコン、凝灰岩質、[片理複合石英類]、骨針化石、植物珪酸体化石

№７：90 ～ 750μmが多い（最大粒径1.2mm）。石英・長石類〉複合石英類〉複合石英類（微細）、斜長石（双晶）、単斜輝石、カリ長石（パーサイト）、角閃石類、斜方輝石、雲母類、ザクロ石、珪藻化石（淡水種*Eunotia　biareofera*、*Pinnularia*属、*Eunotia*属、不明種多い）、胞子化石、植物珪酸体化

石
№８：100 ～ 600μmが多い（最大粒径800μm）。斜長石（双晶）》斜長石（累帯）〉ガラス質〉石英・長石類、斜方輝石（ガラス付着）、斜長石（累帯）、角閃石類、ガラス質、珪藻化石（淡水種*Pinnularia*属、*Eunotia*属、*Cymbella*属、不明種多産）、胞子化石、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）
№９：70 ～ 750μmが多い（最大粒径1.0mm）。石英・長石類〉斑晶質、[片理複合石英類]、斜方輝石、角閃石類、ジルコン、ガラス質、珪藻化石（淡水種*Pinnularia*属、陸域指標種群*Hantzschia amphioxys*、不明種多い）、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）
№10：100 ～ 400μmが多い（最大粒径700μm）。細粒砂質胎土。石英・長石類〉複合石英類（微細）〉角閃石類、斜長石（双晶）、ガラス質、軽石型ガラス質、凝灰岩質、斜方輝石、単斜輝石、放散虫化石、珪藻化石（海水種*Coscinodiscus*属／ *Thalassiosira*属多い、*Actinocyclus*属、不明種）、骨針化石多産、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）
№11：80 ～ 600μmが多い（最大粒径900μm）。粗粒砂質胎土。石英・長石類〉複合石英類〉斜長石（双晶）、複合石英類（微細）、砂岩質、雲母類、角閃石類、単斜輝石、ジルコン、珪藻化石（淡水種*Eunotia　biareofera*、*Eunotia*属、不明種）、骨針化石、植物珪酸体化石
№12：90 ～ 750μmが多い（最大粒径1.0mm）。石英・長石類〉片理複合石英類〉複合石英類（微細）、凝灰岩質、ガラス質、角閃石類、単斜輝石、放散虫化石、珪藻化石（淡水種*Pinnularia*属、不明種多い）、骨針化石、植物珪酸体化石
№13：100 ～ 600μmが多い（最大粒径1.5mm）。石英・長石類〉片理複合石英類〉複合石英類、複合石英類（微細）、凝灰岩質、角閃石類、単斜輝石、珪藻化石（淡水種*Eunotia*属、*Cymbella*属、不明種多い、陸域指標種群*Hantzschia　amphioxys*）、骨針化石、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）
№14：100 ～ 600μmが多い（最大粒径1.0mm）。斜長石（双晶）〉斜長石（累帯）〉角閃石類、ガラス質、ジルコン、斜方輝石、珪藻化石（淡水種*Pinnularia*属、不明種多い）、骨針化石、植物珪酸体化石（ヨシ属多量に含む）
№15：60 ～ 500μmが多い（最大粒子900μm）。複合石英類（微細）〉砂岩質〉斑晶質、斜長石（双晶）、カリ長石（パーサイト）、角閃石類、単斜輝石、ガラス質、軽石型ガラス質、[片理複合石英類]、珪藻化石（淡水種*Cymbella*属、不明種多い）、胞子化石、植物珪酸体化石（ヨシ属含む）
№16：80 ～ 700μmが多い（最大粒子1.1mm）。複合石英類（微細）>石英･長石類>斜長石（双晶）、斑晶質、角閃石類やや多い、単斜輝石、斜方輝石（ガラス付着）、珪藻化石（淡水種*Pinnularia*属多い、*Cymbella*属多い、不明種多い）、植物珪酸体化石

４．考察

ｉ）微化石類による材料粘土の分類

検討した胎土中には、その薄片全面の観察から、放散虫化石や珪藻化石あるいは骨針化石が検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10 ～数100μm（実際観察される珪藻化石は大きいもので150μm程度）、骨針化石が10 ～ 100μm前後である（植物珪酸体化石が10 ～ 50μm前後）。

一方、砕屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9μm以下、シルトが約3.9 ～ 62.5μm、砂が62.5μm ～ ２mmである（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。

なお、植物珪酸体化石は、粘土中に含まれている場合のほか、製作場において灰質が混入する可能

性があることから、他の微化石類のように粘土の起源を指標するとは限らない。

検討した胎土は、微化石類の種類により、a）海成粘土を用いた胎土、b）淡水成粘土を用いた胎土、c）水成粘土を用いた胎土、に分類された。以下では、分類された粘土の特徴について述べる。なお、海水種珪藻化石と淡水種珪藻化石が同時に含まれている場合には淡水成粘土とした。

a）海成粘土を用いた胎土（４胎土）

これら胎土中には、放散虫化石や海水種珪藻化石の破片が含まれていた。また、骨針化石を多く含む胎土が見られた。なお、淡水種珪藻化石は含まれていなかった。

b） 淡水成粘土を用いた胎土（11胎土）

これら胎土中には、淡水種珪藻化石の破片が含まれていた。なお、骨針化石を含む胎土が多い。なお、試料№１および№12は、放散虫化石または海水種珪藻化石が含まれていたが、粘土の特徴としては淡水成とした。

c）水成粘土を用いた胎土（１胎土）

これらの胎土中には、骨針化石や不明種珪藻化石が含まれていた。

ii）胎土中の砂粒組成による分類

ここで設定した複合鉱物類は、構成する鉱物の種類や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対応しない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。

第４表　土器胎土の粘土と砂粒の特徴

分析№	器種	粘土の特徴							砂粒の特徴							鉱物の特徴				植物珪酸体化石	その他の特徴	材料に関する分類	粘土	砂粒	在地ランク
		種類	放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石		分類	堆積岩類	深成岩類	凝灰岩類	火山岩類	片岩類	テフラ	ジルコン	角閃石類	輝石類	雲母類						
1	敲　甕	淡水成		○	△		◎		Ｃb	○	△	△			△		△	△		◎		Ⅶb	b	b	C
2	敲　甕	海　成		○		△	○		Ｃb	○	△	△			△		△	△		○	ヨシ属珪酸体化石含む	Ⅶa	b	b	C
3	S字甕	海　成		△			△		Ｃe	○		△						△	△	△		Ⅴa	b	b	C
4	敲　甕	海　成	△	△		△	◎		Ｃe	○		△			△		△	△		○	ヨシ属珪酸体化石含む	Ⅴa	a	b	B
5	S字甕	淡水成			○	◎			G						◎		△	△		○	パブルウォール型ガラス多く含む	Ⅲb	c	a	B
6	S字甕	水　成					△		Ｃe	○		△		△		△	△	△		△		Ⅴc	c	b	D
7	S字甕	淡水成			△	○	△		Ｅc	△		○				△	△	△	△	○	ザクロ石含む	Ⅴb	c	b	D
8	S字甕	淡水成			○	◎			G						◎		△	△		○	斜長石にガラス付着	Ⅲb	c	a	B
9	S字甕	淡水成			△	○	△		Ｃd	○			△	△	△	△	△	△		○		Ⅸb	c	a	B
10	敲　甕	海　成	△	△		△	◎		Ｃe	○		△			△		△	△		△	細粒砂質胎土	Ⅴa	a	b	B
11	S字甕	淡水成			◎	△			Ｂc	△	○				△	△	△	△	△	○	粗粒砂質胎土	Ⅶb	c	b	D
12	S字甕	淡水成	△		△	○	△		Ａc	△				○	△		△	△		○		Ⅹb	b	c	D
13	S字甕	淡水成			△	○	△		Ａc	△	△	△		○		△	△	△		△		Ⅹb	c	c	E
14	S字甕	淡水成			△	○			G						◎		△	△		◎	ヨシ属珪酸体化石多産、斜長石多い	Ⅲb	c	a	B
15	S字甕	淡水成			△	○			Ｃd	○			△	△	△		△	△		△		Ⅸb	c	a	B
16	S字甕	淡水成			○	○			Ｃd	○		△	△		△		△	△		△		Ⅸb	c	a	B

ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った（第４表）。岩石の推定は、泥岩質や砂岩質あるいは複合石英類（微細）が堆積岩類、複合石英類（大型）や複合鉱物類（含輝石類・含角閃石類・含雲母類）が深成岩類、凝灰岩質が凝灰岩類、片理複合石英類が片岩類、斑晶質が火山岩類、軽石型ガラス質やガラス質がテフラ（火山噴出物）である。さらに、推定した起源岩石は、第５表の組み合わせに従って分類した。

最も多く見られた組成は、堆積岩類を主体として凝灰岩類などを伴うCe群（４胎土）、堆積岩類を主体とし火山岩類などを伴うCd群である（３胎土）、テフラを主体としたG群（３胎土）、堆積岩類を

主体とし深成岩類などを伴うCb群である（２胎土）、片岩類を主体として堆積岩類などを伴うAc群（２胎土）、深成岩類を主体として堆積岩類などを伴うBc群（１胎土）、凝灰岩類を主体として堆積岩類などを伴うEc群（１胎土）である。

遺跡周辺では、下総層群あるいは上総層群など主に海成層が広く分布する地域であるが、火山噴火によるテフラ層が多く挟在する地域であることから（千葉県立中央博物館、1991など）、テフラや火山岩類は在地材料と考えられる。

iii）胎土材料の分類

粘土材料は、その種類が海成、海－淡水成、淡水成、水成の４種類に分類された。また、砂粒は、Ce群、Cd群、G群、Cb群、Ac群、Bc群、Ec群の７群に分類された。

これらを総合的に分類すると、砂粒組成の分類に基づいて大きくⅢ群、Ⅴ群、Ⅶ群、Ⅸ群、Ⅹ群に分類される。なお、この分類は長平台遺跡出土土器の分類群に従った（藤根・長友、2006）。材料粘土が海成粘土の場合には細分a、淡水成粘土の場合には細分b、水成粘土の場合には細分cである。なお、Cb群とBc群、Ce群とEc群とは同一の分類群とした。

その結果、Ⅲb群が３胎土、Ⅴa群が３胎土、Ⅴb群が１胎土、Ⅴc群が１胎土、Ⅶa群が１胎土、Ⅶb群が２胎土、Ⅸb群が３胎土、Ⅹb群が２胎土であった。

第５表　胎土中の岩石片の分類と組み合わせ

			第１出現群						
			A	B	C	D	E	F	G
			片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ
第２出現群	a	片岩類		Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	深成岩類	Ab		Cb	Db	Eb	Fb	Gb
	c	堆積岩類	Ac	Bc		Dc	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd		Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De		Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef		Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Ef	Fg	

iv）その他の特徴

ここで示した胎土の粘土や砂粒の特徴から分類した一群は、製作地がいずれであるかは別として、類似した材料であることが分かる。このことは、工人が土器作りを行う場合、決まった場所の地層を採掘坑などにより採取したことが予想される。少なくとも、同一の材料である場合には、同一工人によって製作された土器である可能性も否定できない。

ここで検討した敲甕４試料とS字甕12試料について、粘土および砂粒物の特徴について検討した。その結果、粘土は海成粘土、淡水成粘土、水成粘土の３種類に分類され、砂粒はⅢ群、Ⅴ群、Ⅶ群、Ⅸ群、Ⅹ群の５群に分類された。

ここでは、比較的近接地として在地要素の高い微化石類または砂粒を抽出し、胎土材料に関するランク分けを行った。

微化石類は、下総層群あるいは上総層群中においてテフラ層が多く挟在する地域であることから、放散虫化石の出現や海水種珪藻化石あるいは骨針化石の多産が認められる場合は、在地要素が高いと考えられる（ランクa）。なお、これらの出現は同時的である場合が多いようであるが、同時的でない

場合には在地要素がやや低いと考える（ランクb）。その他の場合は、ランクcである。

一方、砂粒は、砂粒組成の分類で述べたように、テフラや火山岩類は在地要素の高い粒子と考える（ランクa）。また、これに付随して出現した堆積岩類と凝灰岩類は、在地要素が次いで高いと考える（ランクb）。その他の片岩類はランクcである。

さらに、微化石類と岩石のランク分けの組み合わせにより、土器胎土をA ～ Eの５段階にランク分けした。すなわち、微化石類および岩石が共にaである場合がランクA、微化石類または岩石のいずれかがaの場合がランクB、微化石類および岩石が共にbの場合がランクC、微化石類または岩石のいずれかがbの場合がランクD、それ以外がランクEである（第５表）。

器種別に見ると、S字甕では、テフラを特徴的に含むBランクが６試料、Cランクが１試料、Dランクが４試料、Eランクが１試料であった。Aランクが最も在地要素の高い材料と判断されるが、BランクのS字甕胎土はAランクに次いで在地要素が高いと考える。

一方、敲甕では、放散虫化石と海水種珪藻化石をともに含み骨針化石を多量に含むBランクが２試料、その他Cランクが２試料であった。同様に、このBランクとした敲甕胎土は、在地要素が高いと考える。

５．おわりに

土器作りは、一般的に微化石類を良好に含むことから、相当良質の粘土層を利用したことが考えられる。今後、土器材料として良質の粘土層の広域的な調査が不可欠と考えている。こうした粘土や砂粒の特徴と比較検討する事により、土器作りあるいは製作地などについての詳細が明らかになるものと考える。また、土器胎土中に混和された軽石などのテフラ起源粒子についてはテフラ同定を行うこと（藤根ほか、2007など）で、土器の製作地の推定やその定義が明確になることが期待される。

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，2,73－88.

千葉県立中央博物館（1991）地学資料　上総層群下部露頭集．千葉県立中央博物館、218p.

地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）『増補改訂　地学事典』，平凡社，1612p.

藤根　久（1998）東海地域（伊勢－三河湾周辺）の弥生および古墳土器の材料．第６回東海考古学フォーラム岐阜大会、土器・墓が語る、108－117.

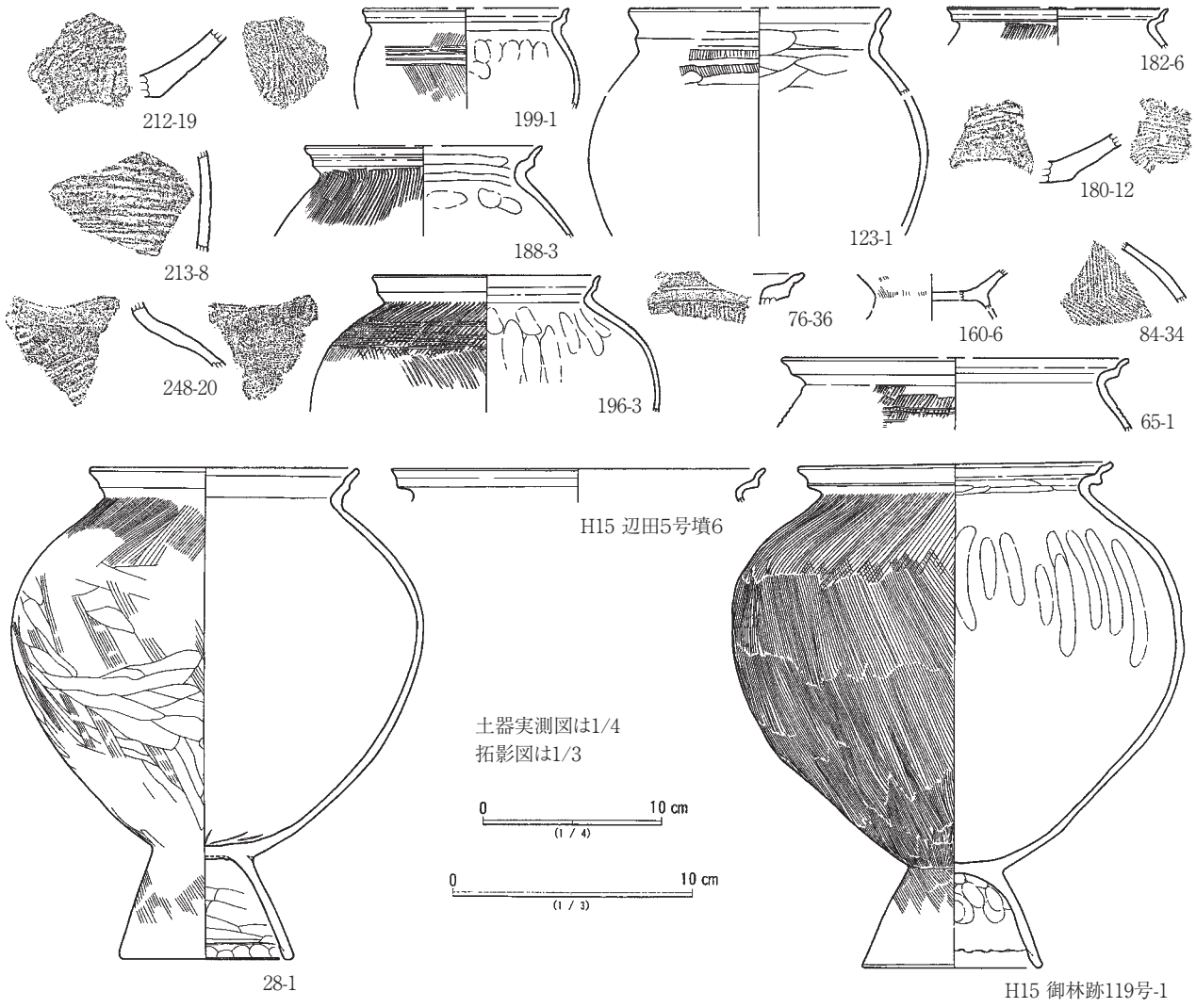
藤根　久・今村美智子（2001）第３節　土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴．「波志江中宿遺跡」、日本道路公団・伊勢崎市・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団、262－277.

藤根　久・今村美智子（2002）３．甕・壺・鉢の胎土材料．財団法人市原市文化財センター調査報告書第98集上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅥ「市原市長平台遺跡」．市原市・財団法人市原市文化財センター、p．201－215.

藤根　久・新藤智子・福岡孝昭（2007）土器の胎土材料と製作地推定の新たな試み．日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集、88－89.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，１－20.

車崎正彦・松本　完・藤根　久・菱田　量・古橋美智子（1996）（39）土器胎土の材料－粘土の起源を中心に－．日本考古学協会第62回大会研究発表要旨、153－156.



第326図　御林跡遺跡胎土分析土器実測図

2　御林跡遺跡301号住居出土のウマ（*Equus　caballus*）

上　奈穂美

本住居では１頭分のウマの歯が出土している。覆土中からは古墳時代終末期の遺物が得られているものの，これらの歯の出土状況が不明であり帰属時期は明らかでない。後世に埋められた可能性も残される。資料の遺存状況はあまり良くない。歯のみが出土し、これらに伴うと思われる上顎骨や下顎骨は激しく損傷し形を留めていなかった。また，復元や計測を実施出来ないほど破損した資料もある。第６表には出土内容と計測値を示した。約120点の資料のうち種同定破片数は17点となる。

右側上顎歯５点と左側２点，右側下顎歯５点と左側５点の他に，遊離歯片を100点ほど確認した。これらの歯には歯槽部分が僅かに付着したものがあり、総て同一の個体に由来した破片とみられる。被熱の痕跡等の加工痕は特に認められなかった。出土位置や層位等の記録が無いものの，１個体分の歯が揃っていることから，これらが歯列通りに並んで歯槽に植立した状態で出土していたものと考えられる。咬耗は弱くどの資料も同程度進んでおり，左右ともに同様な観察結果が得られた。歯冠高の計測値からおおよそ６歳－８歳の個体と推定している。

古代・中近世の遺跡からのウシやウマの出土例（西中川・松元　1991）のうち、頭部のみが遺構内に埋納される例も比較的多くみられる（馬の博物館編　1999、久保・松井　1999)。本資料は遺存状態が悪く，上顎・下顎骨部分のみではなく頭部がそのまま埋められたものの，歯を残して他は消失してしまった可能性が高い。ただし，本住居自体は胴部も収まる程の広さがあるものの，詳細な出土状況が不明であるため，胴部が伴っていたか判別は難しい。そのため埋葬や儀礼，解体等についての検討は行えなかった。

末筆になりましたが、分析の機会を与えて頂きました木對和紀氏（市原市文化財センター）に心より感謝申し上げます。

＜参考文献＞

・馬の博物館編　1999 『鎌倉の武士と馬』

・久保和士・松井章　1999 「第10章　家畜その２－ウマ・ウシ」
『考古学と自然科学－②考古学と動物学』pp. 169－208

・近藤誠司　2001 『ウマの動物学』

・西中川駿・松元光春　1991 「Ⅴ．　遺跡出土骨同定のための基礎的研究」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』pp. 164－188
平成２年度文部省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書

第６表　ウマ歯測定値

NO.	点数	重量 .（g）	部位		形状	残存	歯列 / 咬耗					計測値（mm）			
							P2	P3	P4	M1	M2	全長	歯冠長	歯冠幅	歯冠高
1	1	13.2	上顎遊離歯	右	一部破損	歯冠部	弱					44.2 *	29.0 *	17.7 *	42.6 *
2	1	24.5	上顎遊離歯	右	ほぼ完存	歯冠部		弱				54.0	27.6 *	23.9	47.6
3	1	28.7	上顎遊離歯	右	ほぼ完存	歯冠部			弱			56.9 *	25.8 *	24.6 *	50.2
4	1	18.5	上顎遊離歯	右	ほぼ完存	歯冠部				弱		46.5	23.0 *	23.5 *	40.8
5	1	21.1	上顎遊離歯	右	ほぼ完存	歯冠部					弱	50.9	23.3	21.7 *	46.5 *
6	1	9.5	上顎遊離歯	左	半損	歯冠部	弱					43.2 *	22.3 *	15.7 *	-
7	1	10.3	上顎遊離歯	左	半損	歯冠部		弱				44.2 *	-	-	-
8	1	4.3	下顎遊離歯	右	半損	歯冠部	弱					35.6 *	-	-	-
9	1	11.1	下顎遊離歯	右	半損	歯冠部		弱				46.5 *	23.2 *	-	42.6 *
10	1	15.9	下顎遊離歯	右	ほぼ完存	歯冠部			弱			53.4 *	21.6 *	14.9	51.9 *
11	1	8.3	下顎遊離歯	右	半損	歯冠部				弱		50.8 *	-	-	48.4 *
12	1	5.9	下顎遊離歯	右	半損	歯冠部					弱	52.7 *	22.6 *	-	-
13	1	4.0	下顎遊離歯	左	半損	歯冠部	弱					35.3 *	21.0 *	-	-
14	1	9.8	下顎遊離歯	左	半損	歯冠部		弱				46.5 *	26.2 *	-	45.2 *
15	1	16.6	下顎遊離歯	左	一部破損	歯冠部			弱			56.4 *	27.1 *	-	51.0 *
16	1	6.3	下顎遊離歯	左	半損	歯冠部				弱		51.0	-	-	46.4 *
17	1	6.3	下顎遊離歯	左	半損	歯冠部					弱	52.4 *	-	-	47.8 *
18	100 *	54.2	遊離歯	-	破片	歯冠部の一部									
19	-	33.8	遊離歯	-	破片	-									

* は推定値

3　御林跡遺跡終末期古墳主体部出土人骨の所見

渡辺　新（千葉縄文研究会）

御林跡遺跡終末期古墳主体部から出土した人骨は、解剖学的自然位に無く墓坑内で散乱した状態にある。各骨の部位を同定して照合した結果２体を数える処となったが、いずれも頭蓋は欠失箇所が多く復元するに至らず、四肢長管骨も骨端が失われており、計測に堪える保存状態にない。したがって人骨所見では、個体別に保存部位の同定・観察を記載するに止どめ、歯牙についてのみ計測を実施することにした。

１号人骨

頭蓋骨　脳頭蓋は、側頭骨の左右が概ね欠失無く保存良好である。後頭骨・蝶形骨・頭頂骨の左右・前頭骨は欠失箇所があって各々接合するに至らないが、右で側頭骨－頭頂骨が接合する。３主縫合の状態は内外板で全く閉鎖しない。ラムダ縫合において縫合骨が１箇所みられる。総じて頭蓋厚が著しく薄い。

顔面頭蓋は、鼻骨が比較的保存良好である他は、欠失箇所のある篩骨・上顎骨が保存されるのみ。

下顎骨は、下顎体の一部と下顎枝の右を欠失する。頭蓋から遊離して出土しているが、同一個体とする照合は未完成歯牙の形成状態の一致、右大臼歯列の上下咬合の一致から判断した。

歯　牙　第７表に計測・形態観察の結果を掲出する。記載凡例は市原市埋蔵文化財センター調査報告書第２集『市原市西広貝塚Ⅲ』（本文篇２）p1345に準拠し、分類・表記法については（渡辺1999）に詳細解説してあるので参照いただきたい。

体幹骨　椎骨椎体細片、肋骨破片が保存されるのみ。

上肢骨　上腕骨の左の近位半骨幹と未癒合遠位骨端、尺骨の左の近位半骨幹が保存されるのみ。

下肢骨　腸骨破片、大腿骨の右の骨幹、脛骨骨幹破片が保存されるのみ。

病　変　眼窩の内面上壁に右＝やや軽微／左＝極軽微のクリブラ･オルビタリアを認める（写真１）。クリブラ・オルビタリアは栄養不良・伝染性疾患・拘虫症・慢性消化管出血などによって引き起こされる鉄欠乏性貧血によるものとされる（Hirata，1988）。

年　齢　第２乳臼歯が歯列にあること、第２大臼歯の歯根が分岐部に至らない形成状態にあること、第１大臼歯の根尖が未形成であることから７～８歳前後の小児と判定される。

性　別　骨に性差の兆候が表れない年齢にある。歯冠がかなり小さいことを鑑みるなら女性の可能性がある。

２号人骨

頭蓋骨　脳頭蓋は、後頭骨・側頭骨の左・頭頂骨の左が概ね保存良好である。蝶形骨・前頭骨は大きく欠失する箇所があって全体を接合するに至らない。３主縫合の状態は、冠状縫合が内板＝完全閉鎖／外板＝破線状、矢状縫合が内板＝完全閉鎖／外板＝完全閉鎖、ラムダ縫合が内板＝完全閉鎖／外板＝下部１／３未閉鎖。眉間隆起は発達しないが、外後頭隆起はやや発達している。

顔面頭蓋は、鼻骨・上顎骨・口蓋骨・頬骨の左が比較的保存良好であるのみ。

下顎骨は、下顎体の一部と下顎枝の左の筋突起・関節突起を欠失する。翼突筋粗面の線状隆起が著明

で右２条、左３条をみる。オトガイ棘が著明。切痕の右はやや浅く切れ込んで水かき状を呈する。下顎体高69（１）は33.3mm、下顎体高69（３）は13.7mm。頭蓋から遊離して出土しているが、同一個体とする照合は上下歯列の咬合の一致から判断した。咬合の状態は、上顎切歯の咬耗が舌側から切縁へ向かって傾斜しており、鋏状咬合とみられる。右切歯咬合線上で咬合しあう上顎側切歯近心半と下顎側切歯遠心半で安静咬合時、隙間が生じる形に咬耗することから、日常的に棒状の物をくわえていた可能性がある。

歯　牙　第８表に計測・形態観察の結果を掲出する。記載凡例は市原市埋蔵文化財センター調査報告書第２集『市原市西広貝塚Ⅲ』（本文篇２）p1345に準拠し、分類・表記法については（渡辺1999）に詳細解説してあるので参照いただきたい。

体幹骨　椎骨は、胸椎椎体・腰椎椎体・腰椎突起の破片が複数、上端面の完存する第１仙椎体・仙骨破片が保存される。

肋骨は、第１肋硬骨の右が比較的保存良好である他は、破片１が保存されるのみ。

上肢骨　肩甲骨の右の大破片・上腕骨の右の骨幹・尺骨の右の遠位半骨幹が保存される。

下肢骨　寛骨は、右の恥骨上枝～恥骨体～耳状面の一部を保存する腸骨下半の大破片・恥骨下枝小破片２・腸骨小破片１が保存される。恥骨－腸骨は癒合する。大坐骨切痕は大きく広がる。

大腿骨は左右の骨幹が保存される。柱状性（ピラステル）の発達が弱い。脛骨は左右の骨幹、腓骨は左の外果がわずかに存する骨幹が保存される。

年　齢　頭蓋３主縫合の閉鎖状態、歯の咬耗の進行から加齢段階と判定される。頭蓋３主縫合の閉鎖は個体によって著しく相違するが、内板で閉鎖完了・外板でも閉鎖の進行する様子みるならば40歳以上と考えられる。

性　別　大坐骨切痕が大きく広がること、眉間隆起が発達しないこと、大腿骨の柱状性（ピラステル）の発達が弱いことから女性と判定される。

文　献（骨・歯牙の同定に関する参考・引用文献）

藤田恒太郎・桐野忠大　1976 『歯の解剖学（第21版）』金原出版

藤田恒太郎・桐野忠大・山下靖雄　1995 『歯の解剖学（第22版）』金原出版

金子丑之助　1956 『日本人体解剖学』第一巻　南山堂

Hirata, K. 1988 A Contribution to the Palaeopathology of Cribra Orbitalia in Japanese：1 Cribra Orbitalia in Edo Japanese. The St. Marainna Medical Journal, 16（1）

Hirata, K. 1988 A Contribution to the Palaeopathology of Cribra Orbitalia in Japanese：2 Secular Trends in the Prevalence of Cribra Orbitalia. The St. Marainna Medical Journal, 16（2）

渡辺　新　1999 「千葉市誉田高田貝塚の多数遺体集積合葬」『研究紀要　19』（財）千葉県文化財センター

W. Kahle・H. Leonhardt・W. Platzer 1979 Taschenatlas der Anatomic Georg Thieme Verlag Stuttgart Deutscher Taschenbuch Verlage.

第7表　1号人骨歯牙

歯　種	冠／根	歯冠計測値 m－d	／ b－l	咬　耗	齲　蝕	形　態　観　察
上Ｉ１右						
左						
上Ｉ２右						
左						
上Ｃ　右						
左						
上Ｐ１右						
左	○／×	6.6	9.2	－	－	
上Ｐ２右	未萠出顎内					
左						
上Ｍ１右	○／○	10.0	10.5	0	0	咬頭［4］
左						
上Ｍ２右	○／－	8.9	11.0	－	－	咬頭［3］　根［8］
左	○／×	9.2	11.1	－	－	咬頭［3］　遠心縁辺隆線結節的
上Ｍ３右						
左						
下Ｉ１右	○／△	5.2		1´	0	切縁結節残存
左						
下Ｉ２右						
左						
下Ｃ　右						
左						
下Ｐ１右						
左						
下Ｐ２右						
左						
下Ｍ１右	○／○	9.1	10.1	0	0	Ｙ５　根［7］
左	○／○	9.0	10.3	1´	0	＋５
下Ｍ２右						
左						
下Ｍ３右	おそらく先天欠					
左	おそらく先天欠					
上ｉ１右						
左						
上ｉ２右						
左						
上ｃ　右						
左						
上ｍ１右						
左						
上ｍ２右						
左						
下ｉ１右						
左						
下ｉ２右						
左						
下ｃ　右						
左						
下ｍ１右						
左						
下ｍ２右	○／○	10.5	9.2	1	1	Ｙ５
左	○／○	10.4	8.9	1	1	Ｙ５

註. 下ｍ２右・左の齲蝕箇所はいずれも歯冠遠心隣接面。

第８表　２号人骨歯牙

歯　種	冠／根	歯冠計測値 m－d	／	b－l	咬　耗	齲　蝕	形　態　観　察
上Ｉ１右	○／○	9.3		7.1	2	0	シャベル［ss］
左	○／○	9.2		7.3	2	0	シャベル［ss］
上Ｉ２右	△／△	7.1		6.4	3	0	シャベル［s］　近心半彎入状咬耗
左	歯槽開放						
上Ｃ　右	△／○	8.6			3	0	
左	△／○	8.9		8.8	3	0	
上Ｐ１右	歯槽閉鎖						
左	歯槽開放						
上Ｐ２右	○／○	6.2		9.3	3	1	
左	×／○						
上Ｍ１右	歯槽閉鎖途上						
左	歯槽開放						
上Ｍ２右	○／○	10.4		11.7	1	0	咬頭［３＋］
左	歯槽閉鎖途上						
上Ｍ３右	先天欠						
左	先天欠						
下Ｉ１右							
左							
下Ｉ２右	○／○	6.4		5.9	2	0	シャベル［s］　切縁近心端咬耗小
左							
下Ｃ　右	○／○	7.1		8.2	3	1	尖頭咬耗頬側偏在
左							
下Ｐ１右	○／○	7.0		7.4	1	1	
左	歯槽開放						
下Ｐ２右	○／○	7.9		7.4	1	1	
左	歯槽閉鎖						
下Ｍ１右	歯槽開放						
左	○／△	11.5		11.2	1	1	…５
下Ｍ２右	歯槽開放						
左	○／○	12.0		10.9	1	1	…５
下Ｍ３右	先天欠						
左	先天欠						

註. 齲蝕箇所は、上Ｐ２右が頸部遠心面・咬合面近心半、下Ｃ右が歯冠頬側縁、下Ｐ１右が頸部近心・遠心面、下Ｐ２右が舌側の除く頸部（写真２）、下Ｍ１左が頸部遠心面・咬合面遠心頬側、下Ｍ２左が咬合面頬側・頸部（写真３）。

文　献（歯牙の計測・形態観察に関する参考・引用文献）

Dahlberg,A.A.　1951 The dentition of American Indian.　The physical anthropology of the American Inndian.　The Vikining Fund Inc.，New York.

藤田恒太郎　1949 「歯の計測規準について」人類学雑誌61－１

桐野忠大・中村光雄　1954 「日本人の下顎大臼歯歯冠の形態に関する研究（第二報）」口腔病学会雑誌21

Mizoguchi，Y．1977　Genetic Variability in Tooth Crown Characters：Analysis by the Tetrachoric Correlation Method.　Bull Natn.　Sci.　Mus.，Ser.　D（Anthrop.）３

中村光男　1957 「日本人の下顎大臼歯歯冠の形態に関する研究」解剖学雑誌32

鈴木　誠・酒井琢郎　1956 「日本人歯牙の“Dryopithecus　pattern”について」人類学雑誌64－３

W．Kahle・H．Leonhardt・W．Platzer　1979　Taschenatlas der Anatomic Georg Thieme Verlag Stuttgart Deutscher Taschenbuch Verlage.

渡辺　新　1999 「千葉市誉田高田貝塚の多数遺体集積合葬」『研究紀要19』（財）千葉県文化財センター

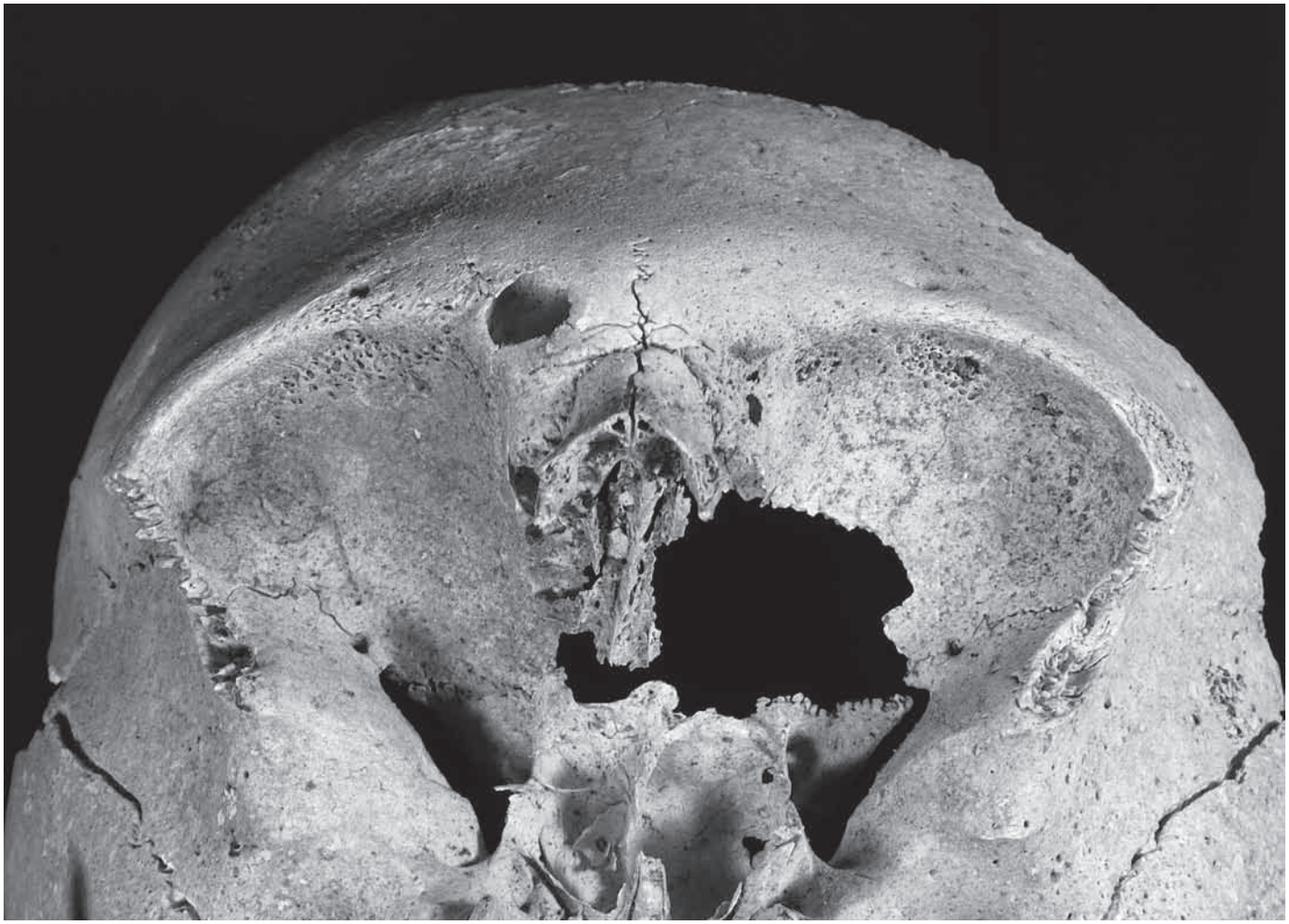


写真１　１号人骨に認められるクリブラ・オルビタリア

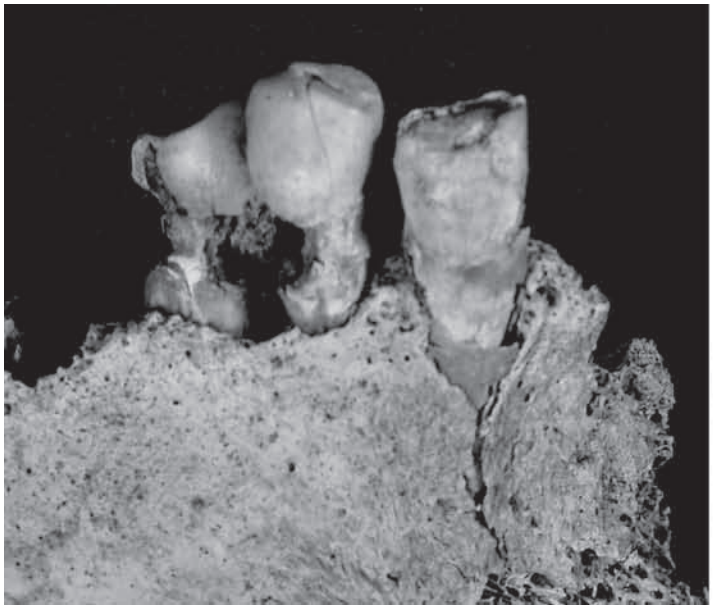


写真２　２号人骨の下C ～ P ２右の齲蝕

写真３　２号人骨の下M １～ M ２左の齲蝕

第327図　２号遺構出土人骨に認められる病状

４　御林跡遺跡出土の貝類遺体について

鶴岡　英一

試料と分析の方法

御林跡遺跡からは、10軒の竪穴住居跡と１基の方形周溝墓から貝層が検出された。貝層の形成時期は弥生時代中期後半から古墳時代終末期にわたり、３号遺構（方形周溝墓）と168号・131号・183号遺構（竪穴住居跡）からは、比較的まとまった量の貝サンプルが採取されている。なお、各貝層の形成時期は第10表、出土状況については本文中の各遺構図面を参照されたい。

採取された貝サンプルの選別作業は、すでに発掘調査現場において行われていたと考えられ、土壌はすべて落とされていた。今回行った分類作業により検出された動物遺存体は大型貝類のみで、微小貝類や脊椎動物骨は認められなかった。しかし、貝サンプルの採取から選別に至る作業がどのような方法で行なわれたのか不明であるため、微小な動物遺存体資料が遺失した可能性は否定できない。

出土貝類種の同定は、市原市埋蔵文化財調査センター所蔵の現生・貝塚出土貝類標本との比較により行った。集計は、腹足綱（巻貝）では軸部を完存するもの、二枚貝綱では殻頂部の残存するものを対象とした。二枚貝類は左右殻の出土数量の多い方をもって出土個体数（最小個体数）とし、出土量の多いハマグリ・シオフキ・アサリの３種については、左右殻の数量の多い方から完形資料を抽出し、１mm目方眼紙上で殻長の計測を行い、２mm階級幅で集計した。また、イボキサゴについても、完形資料を抽出し、デジタルノギスを用いて殻径の計測を行った。

同定結果と組成・サイズの特徴

御林跡遺跡からは、腹足綱（巻貝）５種・二枚貝綱10種の計15種の貝類が同定された（第９表）。183号遺構（竪穴住居跡）から１点のみ検出されたタニシ類を除くと、いずれも東京湾内湾の砂泥底干潟に普通に生息する貝種である。イボキサゴ・アサリ・ハマグリ・シオフキの出土量が圧倒的に多く、これら４種を対象とした採貝活動が想定される。弥生時代中期以降、イボキサゴの割合は減少する傾向が認められるが、イボキサゴを全く含まない遺構も11ヶ所中８ヶ所を占め、小規模な貝層にその傾向が強い。イボキサゴを除いた組成では、弥生時代中期後半はアサリ・ハマグリ・シオフキの比率がほぼ等しく、古墳時代前期はハマグリが減少しシオフキが増加、古墳時代後～終末期はシオフキが減少しアサリが増加する。個々の遺構に目を向けると、同じ古墳時代後期（５世紀）であっても、131号遺構ではアサリ、183号遺構ではハマグリに偏る傾向が認められ、遺構ごとの組成差が大きい。なお、これまでに御林跡遺跡では弥生時代終末～古墳時代初頭の竪穴住居跡に投棄された貝層の分析が行われているが、ここではシオフキの割合が圧倒的に多く、全体の76％を占めていた（鶴岡2004）。

ハマグリの殻長平均値は弥生時代中期後半55.1mm、古墳時代前期67mm、古墳時代後～終末期63.6mmで、古墳時代前期にはかなり大型化し、後期には若干小型化する。シオフキとアサリの殻長平均値は、それぞれ弥生時代中期後半で48.1mmと47.1mm、古墳時代前期で46.4mmと42.2mm、古墳時代後～終末期で49.5mmと46.6mmで、いずれも古墳時代前期に若干小型化する傾向が認められた。一方、イボキサゴの殻径平均値は、弥生時代中期後半17.2mm、古墳時代前期17.7mm、古墳時代後期17.5mmで、ほとんど大きさには変化が認められなかった。

市内では縄文時代以降の貝層の分析事例が徐々に増加しつつあり、主に水田などに生息するマルタニシが弥生時代後期以降、岩礁域に生息するサザエが古墳時代中期以降の貝層から特徴的に含まれるようになることが明らかになってきた（鶴岡2004・2005）。これは、生業の変化や地域間の交流が活発化した証として捉えられる。一方、分析事例が増えてきたとはいえ、縄文時代に比べて貝塚の数・規模ともに著しく減少することから、その出土は非日常的な消費活動の結果とも考えられる。いずれにせよ、どの貝層も小規模であることから、貝類の採取はある程度限定された時期（期間）に行われたものと思われる。また、利用される貝種はかなり限定される傾向が認められるものの、貝層ごとの組成差が大きいことから、貝類採取時における種選択に多様性を持つようになったものと考えられる。いずれも遺構内貝層で、他貝層との混雑が起こらなかった点も、この傾向がより顕著に現れた原因であろう。

これまでの数少ない分析事例をもって各時期の特徴と捉えることは、まだ危険かもしれない。今後さらなるデータの蓄積を重ね、時期差だけでなく、水系や地域間の比較、貝層を残す遺跡や遺構の性格、そして貝類が利用された意義などについても検討を行う必要がある。

【参考文献】

鶴岡英一　2004「付編１　辺田古墳群・御林跡遺跡出土の貝類遺体について」『市原市辺田古墳群・御林跡遺跡』（財）市原市文化財センター

2005「加茂遺跡出土の貝類遺体について」『市原市加茂遺跡A・B地点』（財）市原市文化財センター

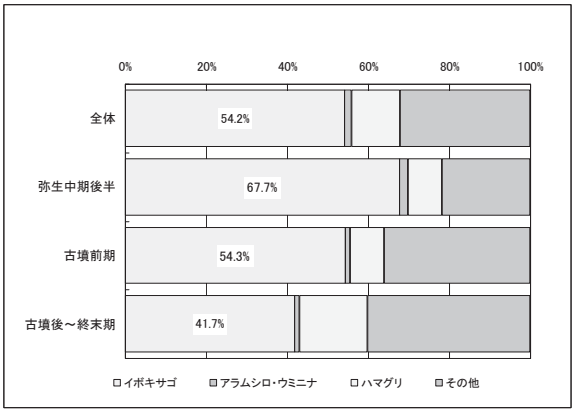
第328図　御林跡遺跡出土の貝類遺体

第９表　出土貝類遺体集計

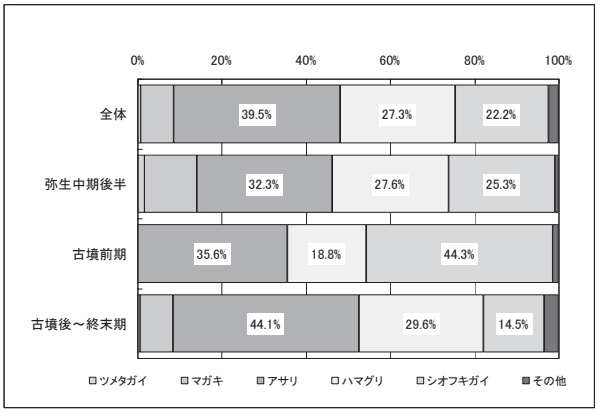
遺構番号			3 号	107 号	279 号	343 号		62 号		168 号	287 号		131 号	183 号	17 号	20 号		-		
旧遺構番号			3 号方形周溝	H247	H66	H6(A)	計	H250	計	H157	H33	計	H142	H257	H254	H236	計	H ？	計	合計
貝層の時期			弥生中期後半					弥生後期		古墳前期			古墳後期		古墳終末			-		
腹足綱	イボキサゴ		578				578			182		182		389			389			1149
	タニシ類													1			1			1
	ウミニナ科		19				19			2	2	4	1	11			12	5	5	40
	ツメタガイ		1			3	4	1	1				5	2			7	2	2	14
	アカニシ		1				1						1	2			3	1	1	5
二枚貝綱	サルボウガイ	L																1	1	1
		R																2	2	2
	マガキ	L	32	1			33						42				42	20	20	95
		R	10				10						12				12	12	12	34
	バカガイ	L																		0
		R												2			2			2
	シオフキガイ	L	53		10	2	65			64	2	66	7	70			77	8	8	216
		R	32		5	1	38			53	2	55	7	61	1		69	5	5	167
	マテガイ	L								1		1		3			3			4
		R												8			8			8
	カガミガイ	L											1	1			2		0	2
		R								1		1		1			1	1	1	3
	アサリ	L	82		1		83			46	6	52	214	21			235	95	95	465
		R	70		1		71			40	7	47	212	18			230	94	94	442
	ハマグリ	L	39		10	7	56			24		24	7	122		27	156	5	5	241
		R	54		6	4	64			28		28	8	118	3	21	150	4	4	246
	オキシジミ	L											1				1			1
		R			1		1						2				2			3
	オオノガイ	L																2	2	2
		R																1	1	1

第10表　時期別貝類組成

全体の組成



イボキサゴ・アラムシロガイ・ウミニナを除いた組成



第11表　ハマグリ殻長計測値　度数分布一覧

殻長mm	3号	279号	343号	弥生中期後半
-10.0				
-12.0				
-14.0				
-16.0				
-18.0				
-20.0				
-22.0				
-24.0				
-26.0				
-28.0				
-30.0				
-32.0				
-34.0				
-36.0				
-38.0				
-40.0	2			2
-42.0	1		1	2
-44.0	1		1	2
-46.0	2			2
-48.0	1			1
-50.0				
-52.0	1			1
-54.0		1		1
-56.0	1			1
-58.0			2	2
-60.0	3			3
-62.0			1	1
-64.0				
-66.0		1		1
-68.0	1	1		2
-70.0				
-72.0				
-74.0	1			1
-76.0				
-78.0		1		1
-80.0	1			1
-82.0				
-84.0				
-86.0				
-88.0				
-90.0				
-92.0				
-94.0				
-96.0				
-98.0				
-100.0				
-102.0				
試料数	15	4	5	24
平均	53.40	65.50	51.80	55.08
標準偏差	12.07	8.53	8.16	11.80

殻長mm	168号	287号	古墳前期
-10.0			
-12.0			
-14.0			
-16.0			
-18.0			
-20.0			
-22.0			
-24.0			
-26.0			
-28.0			
-30.0			
-32.0			
-34.0			
-36.0			
-38.0			
-40.0			
-42.0			
-44.0			
-46.0			
-48.0			
-50.0			
-52.0			
-54.0			
-56.0			
-58.0	1		1
-60.0	2		2
-62.0	1		1
-64.0	2		2
-66.0	2	1	3
-68.0	1		1
-70.0	1		1
-72.0			
-74.0	1		1
-76.0		1	1
-78.0			
-80.0			
-82.0	1		1
-84.0		1	1
-86.0			
-88.0			
-90.0			
-92.0			
-94.0			
-96.0			
-98.0			
-100.0			
-102.0			
試料数	12	3	15
平均	65.17	74.33	67.00
標準偏差	6.45	7.36	7.59

殻長mm	20号	131号	183号	古墳後～終末期
-10.0				
-12.0				
-14.0				
-16.0				
-18.0				
-20.0				
-22.0				
-24.0				
-26.0				
-28.0				
-30.0				
-32.0				
-34.0				
-36.0				
-38.0				
-40.0				
-42.0			1	1
-44.0				
-46.0				
-48.0			1	1
-50.0			2	2
-52.0			3	3
-54.0			6	6
-56.0			5	5
-58.0			8	8
-60.0	3		8	11
-62.0			9	9
-64.0			6	6
-66.0			9	9
-68.0			1	1
-70.0			4	4
-72.0			3	3
-74.0				
-76.0	1		1	2
-78.0	1	1	1	3
-80.0	1		3	4
-82.0			2	2
-84.0			2	2
-86.0				
-88.0			1	1
-90.0				
-92.0				
-94.0		1		1
-96.0		1		1
-98.0				
-100.0				
-102.0				
試料数	6	3	76	85
平均	68.00	88.33	62.26	63.59
標準偏差	9.07	8.06	9.19	10.40

殻長mm	-
-10.0	
-12.0	
-14.0	
-16.0	
-18.0	
-20.0	
-22.0	
-24.0	
-26.0	
-28.0	
-30.0	
-32.0	
-34.0	
-36.0	
-38.0	
-40.0	
-42.0	
-44.0	
-46.0	
-48.0	
-50.0	1
-52.0	
-54.0	
-56.0	
-58.0	
-60.0	
-62.0	
-64.0	1
-66.0	
-68.0	1
-70.0	1
-72.0	
-74.0	
-76.0	
-78.0	
-80.0	
-82.0	1
-84.0	
-86.0	
-88.0	
-90.0	
-92.0	
-94.0	
-96.0	
-98.0	
-100.0	
-102.0	
試料数	5
平均	65.80
標準偏差	10.32

第 12 表　シオフキ殻長計測値　度数分布一覧

殻長㎜	3 号	279 号	343 号	弥生中期後半
-10.0				
-12.0				
-14.0				
-16.0				
-18.0				
-20.0				
-22.0				
-24.0				
-26.0				
-28.0				
-30.0				
-32.0				
-34.0				
-36.0				
-38.0	1			1
-40.0	2			2
-42.0	1			1
-44.0		1		1
-46.0	3	2	1	6
-48.0	4			4
-50.0	5	1		6
-52.0	9	1		10
-54.0	3			3
-56.0	1			1
-58.0	1			1
-60.0				
-62.0				
-64.0				
-66.0				
-68.0				
-70.0				
-72.0				
-74.0				
-76.0				
-78.0				
-80.0				
-82.0				
-84.0				
-86.0				
-88.0				
-90.0				
-92.0				
-94.0				
-96.0				
-98.0				
-100.0				
-102.0				
試料数	30	5	1	36
平均	48.47	46.60	45.00	48.11
標準偏差	4.65	2.94	0.00	4.46

殻長㎜	168 号	287 号	古墳前期
-10.0			
-12.0			
-14.0			
-16.0			
-18.0			
-20.0			
-22.0			
-24.0			
-26.0			
-28.0			
-30.0			
-32.0			
-34.0			
-36.0			
-38.0	1		1
-40.0	2		2
-42.0	1		1
-44.0	6		6
-46.0	11		11
-48.0	8		8
-50.0	8	1	9
-52.0	1		1
-54.0	2		2
-56.0	1	1	2
-58.0			
-60.0			
-62.0			
-64.0			
-66.0			
-68.0			
-70.0			
-72.0			
-74.0			
-76.0			
-78.0			
-80.0			
-82.0			
-84.0			
-86.0			
-88.0			
-90.0			
-92.0			
-94.0			
-96.0			
-98.0			
-100.0			
-102.0			
試料数	41	2	43
平均	46.07	52.00	46.35
標準偏差	3.67	3.00	3.85

殻長㎜	131 号	183 号	古墳後期
-10.0			
-12.0			
-14.0			
-16.0			
-18.0			
-20.0			
-22.0			
-24.0			
-26.0			
-28.0			
-30.0			
-32.0			
-34.0			
-36.0			
-38.0			
-40.0		1	1
-42.0			
-44.0		1	1
-46.0		8	8
-48.0	4	8	12
-50.0		6	6
-52.0		17	17
-54.0		5	5
-56.0		8	8
-58.0			
-60.0			
-62.0			
-64.0			
-66.0			
-68.0			
-70.0			
-72.0			
-74.0			
-76.0			
-78.0			
-80.0			
-82.0			
-84.0			
-86.0			
-88.0			
-90.0			
-92.0			
-94.0			
-96.0			
-98.0			
-100.0			
-102.0			
試料数	4	54	58
平均	47.00	49.70	49.52
標準偏差	0.00	3.61	3.55

殻長㎜	-
-10.0	
-12.0	
-14.0	
-16.0	
-18.0	
-20.0	
-22.0	
-24.0	
-26.0	
-28.0	
-30.0	
-32.0	
-34.0	
-36.0	
-38.0	
-40.0	
-42.0	
-44.0	
-46.0	
-48.0	1
-50.0	2
-52.0	2
-54.0	1
-56.0	
-58.0	
-60.0	
-62.0	
-64.0	
-66.0	
-68.0	
-70.0	
-72.0	
-74.0	
-76.0	
-78.0	
-80.0	
-82.0	
-84.0	
-86.0	
-88.0	
-90.0	
-92.0	
-94.0	
-96.0	
-98.0	
-100.0	
-102.0	
試料数	6
平均	50.00
標準偏差	1.91

第13表　アサリ殻長計測値　度数分布一覧

殻長㎜	3号	279号	弥生中期後半
-10.0			
-12.0			
-14.0			
-16.0			
-18.0			
-20.0			
-22.0			
-24.0			
-26.0			
-28.0			
-30.0			
-32.0			
-34.0			
-36.0			
-38.0			
-40.0			
-42.0	2		2
-44.0	10		10
-46.0	10		10
-48.0	16		16
-50.0	10	1	11
-52.0	7		7
-54.0	1		1
-56.0	1		1
-58.0			
-60.0			
-62.0			
-64.0	1		1
-66.0			
-68.0			
-70.0			
-72.0			
-74.0			
-76.0			
-78.0			
-80.0			
-82.0			
-84.0			
-86.0			
-88.0			
-90.0			
-92.0			
-94.0			
-96.0			
-98.0			
-100.0			
-102.0			
試料数	58	1	59
平均	47.10	49.00	47.14
標準偏差	3.67	0.00	3.64

殻長㎜	168号	287号	古墳前期
-10.0			
-12.0			
-14.0			
-16.0			
-18.0			
-20.0			
-22.0			
-24.0			
-26.0			
-28.0			
-30.0			
-32.0			
-34.0			
-36.0			
-38.0	2		2
-40.0	9		9
-42.0	12		12
-44.0	8	2	10
-46.0	4	2	6
-48.0	2	1	3
-50.0	2		2
-52.0			
-54.0			
-56.0			
-58.0			
-60.0			
-62.0			
-64.0			
-66.0			
-68.0			
-70.0			
-72.0			
-74.0			
-76.0			
-78.0			
-80.0			
-82.0			
-84.0			
-86.0			
-88.0			
-90.0			
-92.0			
-94.0			
-96.0			
-98.0			
-100.0			
-102.0			
試料数	39	5	44
平均	41.87	44.60	42.18
標準偏差	2.93	1.50	2.93

殻長㎜	131号	183号	古墳後期
-10.0			
-12.0			
-14.0			
-16.0			
-18.0			
-20.0			
-22.0			
-24.0			
-26.0			
-28.0			
-30.0			
-32.0			
-34.0			
-36.0		1	1
-38.0			
-40.0	3		3
-42.0	15		15
-44.0	30	6	36
-46.0	39	3	42
-48.0	36	3	39
-50.0	19	2	21
-52.0	14		14
-54.0	7		7
-56.0	4		4
-58.0	4		4
-60.0	2		2
-62.0	2		2
-64.0	1		1
-66.0			
-68.0			
-70.0			
-72.0			
-74.0			
-76.0			
-78.0			
-80.0			
-82.0			
-84.0			
-86.0			
-88.0			
-90.0			
-92.0			
-94.0			
-96.0			
-98.0			
-100.0			
-102.0			
試料数	176	15	191
平均	46.80	44.47	46.61
標準偏差	4.46	3.30	4.43

殻高㎜	-
-10.0	
-12.0	
-14.0	
-16.0	
-18.0	
-20.0	
-22.0	
-24.0	
-26.0	
-28.0	
-30.0	
-32.0	
-34.0	
-36.0	
-38.0	
-40.0	
-42.0	
-44.0	4
-46.0	9
-48.0	11
-50.0	10
-52.0	11
-54.0	3
-56.0	10
-58.0	10
-60.0	1
-62.0	4
-64.0	
-66.0	
-68.0	
-70.0	
-72.0	
-74.0	
-76.0	
-78.0	
-80.0	
-82.0	
-84.0	
-86.0	
-88.0	
-90.0	
-92.0	
-94.0	
-96.0	
-98.0	
-100.0	
-102.0	
試料数	73
平均	51.05
標準偏差	4.95

第Ⅳ章　御林跡遺跡５世紀代の土器変遷

１　はじめに

本来ならば御林跡遺跡全体についてのまとめを行わねばならないところであるが、時間と紙面の都合が許さない。しかし東国の１遺跡において、稀に見る須恵器の出土量であり、特に初期須恵器がもたらす情報量は、御林跡遺跡が持つ考古学研究において欠くことができない情報の１つと考える。また、本遺跡はこれまで混沌としてきた中期和泉式期の標識的な遺跡でもあり、その変遷を解明することは、房総における古墳時代の土器変遷を蟠り無く通すという成果をもたらすものと確信する。今回は５世紀代に絞って御林跡遺跡の変遷をまとめておく。

２　御林跡遺跡における５世紀代の土器変遷

御林跡遺跡の５世紀代の土器変遷を理解するために、目安として０期を提示し、Ⅰ期との格差を明確にする。０期は前期五領式の範疇に属するもので、御林跡遺跡中期Ⅰ期の前段階の立場にある土器群であるが、必ずしも直前段階に位置付けられるものばかりではないことを予め申し上げておく。

０期の資料として、標識遺構53・77・126号遺構を選定し、第329図に提示する。これらは基本的には各住居跡の床面付近で検出されたものであるが、床面から出土したからといって、必ずしも遺構に直接伴う遺物ではないものも含めて提示している。

第Ⅰ期

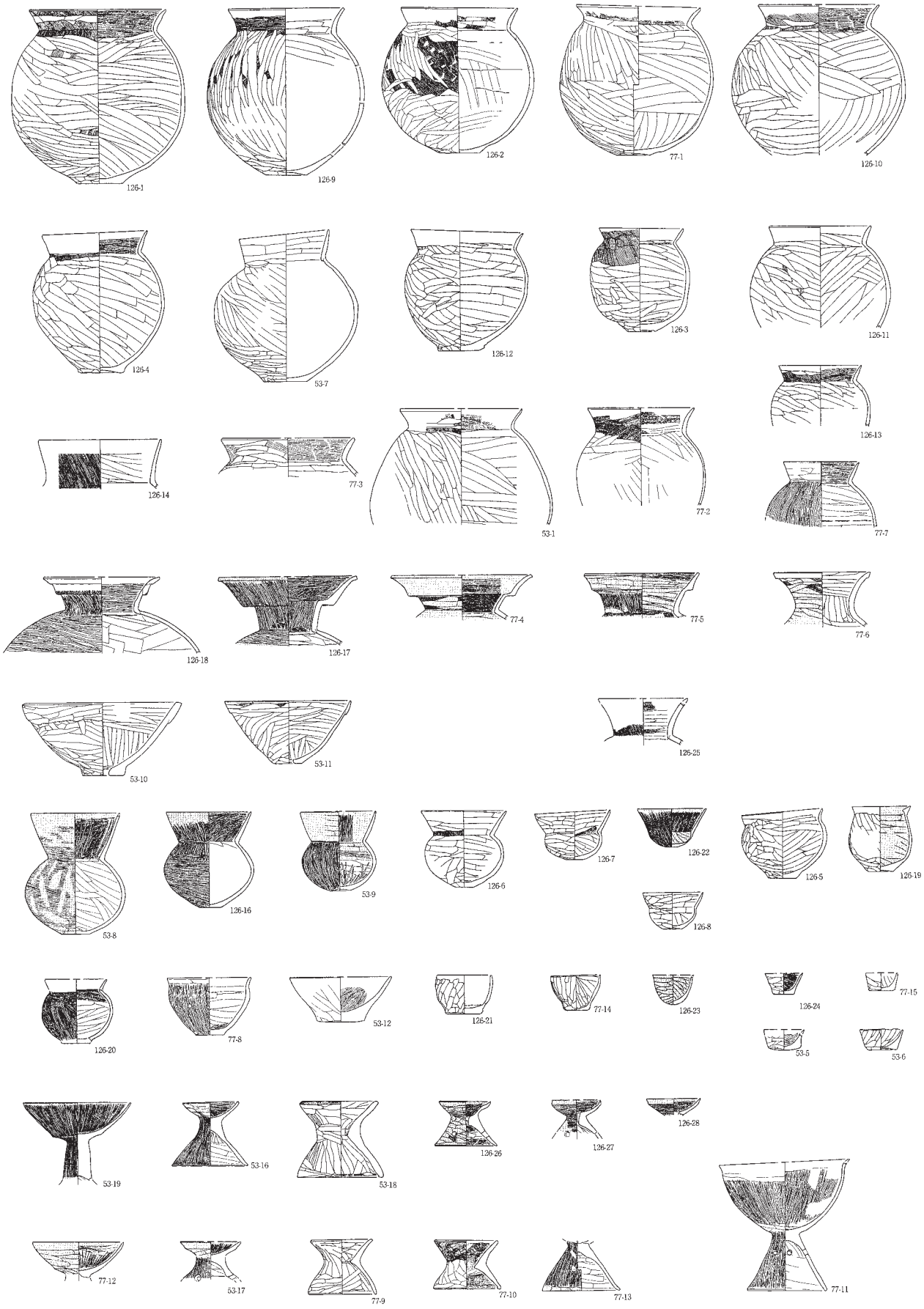
御林跡遺跡におけるカマド導入以前である。したがって、標識遺構にカマドは存在せず、火床施設は炉の段階である。ここでは81・117・282・302・304・319号竪穴出土資料を標識とする。

甕形土器には、肩部にまだハケが残る球胴形タイプが残るが、ハケの喪失した製品がその主体を占め、底部が突出する製品や赤彩が施された製品が散見する。304－９は当期甕形土器の中では珍しい丸底であるが、以後この系譜に連なる丸底甕がⅥ期までは残存する。壺形土器には二重口縁壺が確実に残存するが、既に個体数は少なく、むしろ二重口縁系の頸部の内外面を屈折させた直口壺に近い形状の製品が散見され始め、当期以後も存続する。

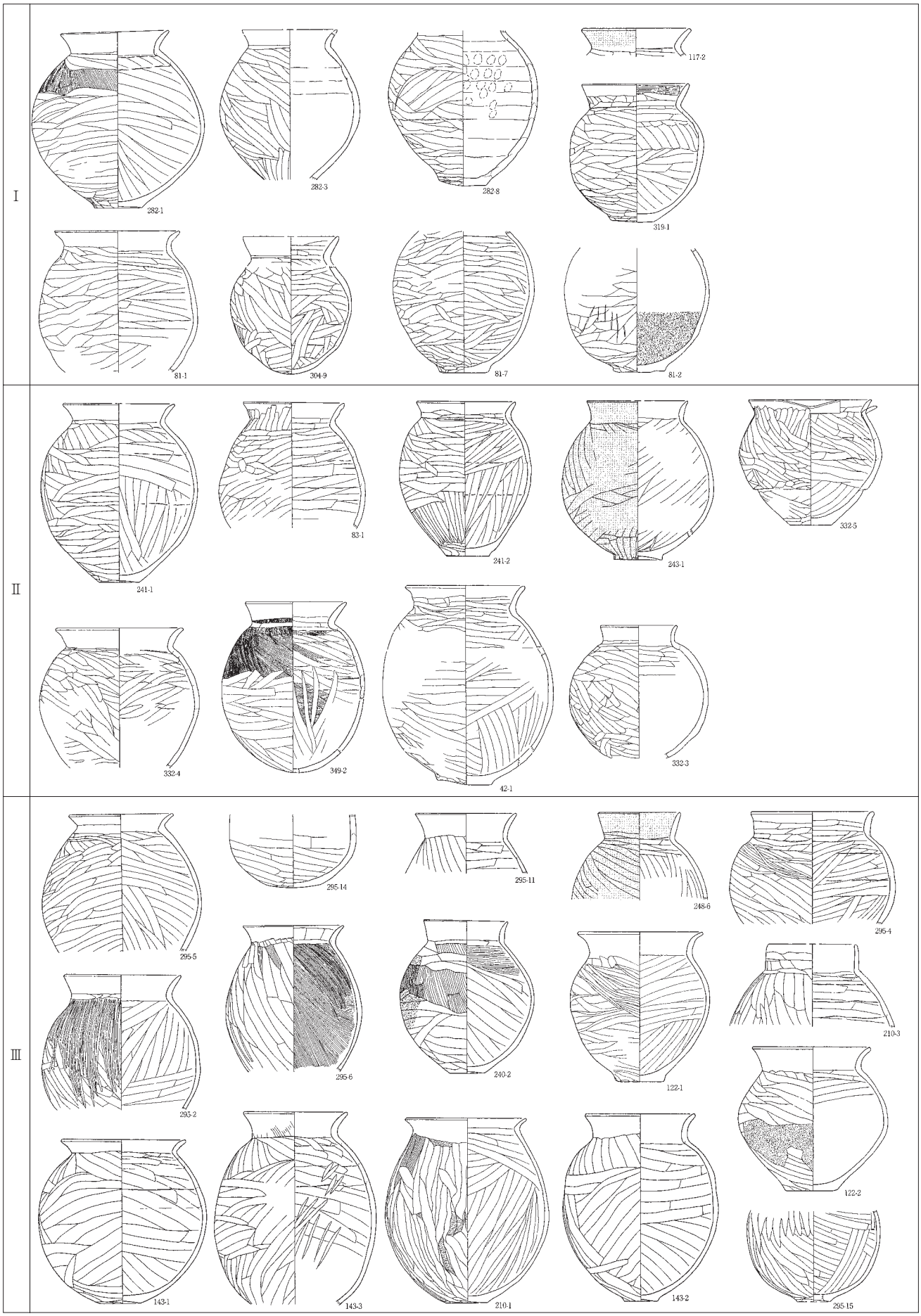
大型甑はカマドの出現と連動するのであろう。この段階の当遺跡では、大型甑はまだ存在していないようで、その検出を見ない。

坏形土器は、平底鉢を除いて０期以前には全く存在しなかった器種であるが、深い丸底椀形・浅い丸底椀形・平底・平底気味の４種が突如として登場する。しかも、鬼高期古段階に普遍的な丸底椀形坏が、既に当期から主流のような存在で、数も多い。ただし、この段階の浅い丸底椀形坏の口唇部には内向する面を持つものが目立つ。また、大ぶりで器高が高く、底部が平底気味に突出する製品が散見され、この段階を代表する器種のひとつと想定される。

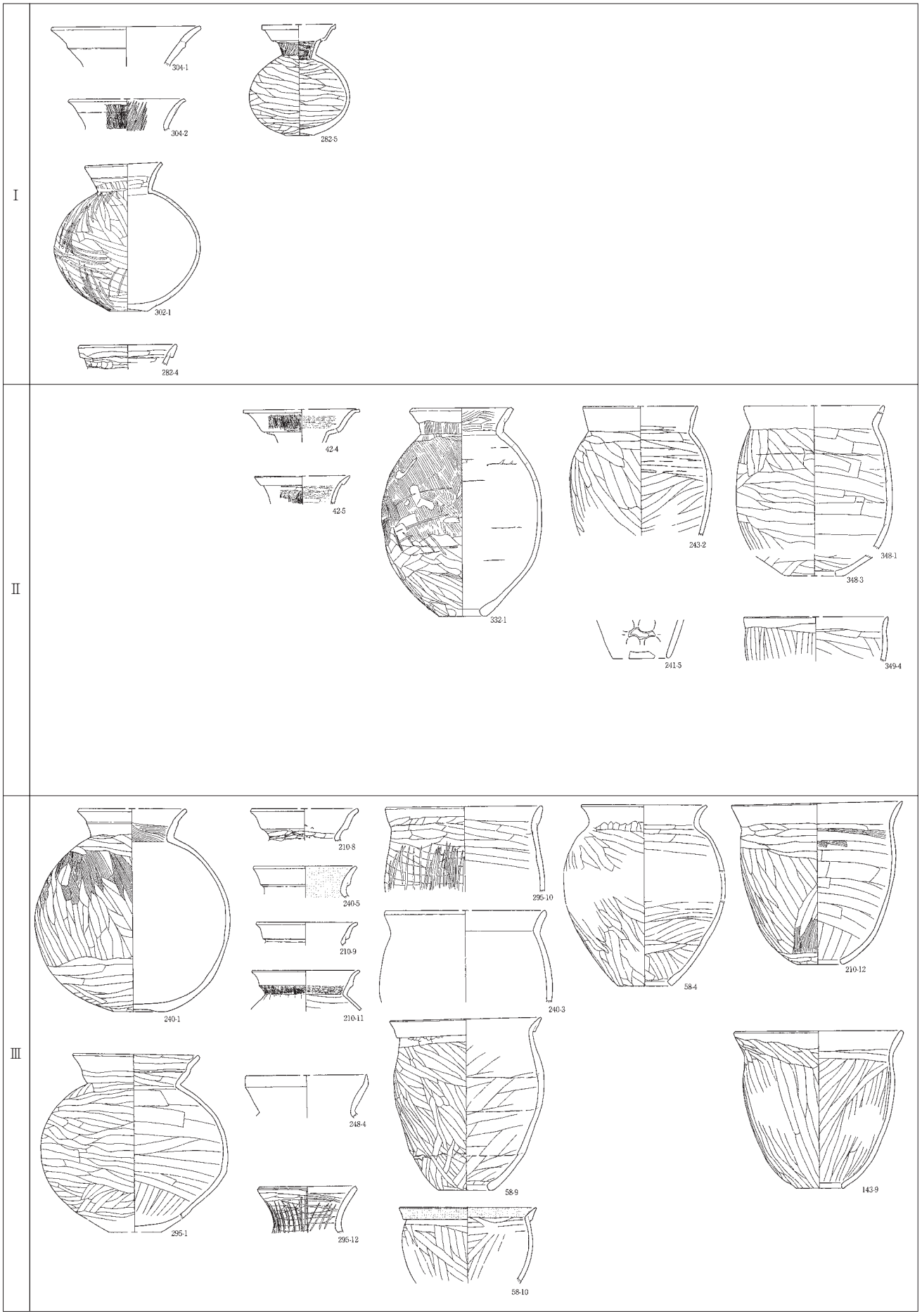
鉢形土器には平底の坏とは形状が全く異なる無彩平底鉢304－13が存在する。このタイプの赤彩鉢は、１号円形周溝出土遺物の中にも存在し、その出自が五領式以前と想定されるが、当遺跡でも検出例は少なく先の１号円形周溝の他には71・130・247・256号竪穴から検出されるだけである。これとは別に、頸部から口縁部にかけて「く」の字外反する平底の鉢が存在する。このタイプに赤彩が加わっ

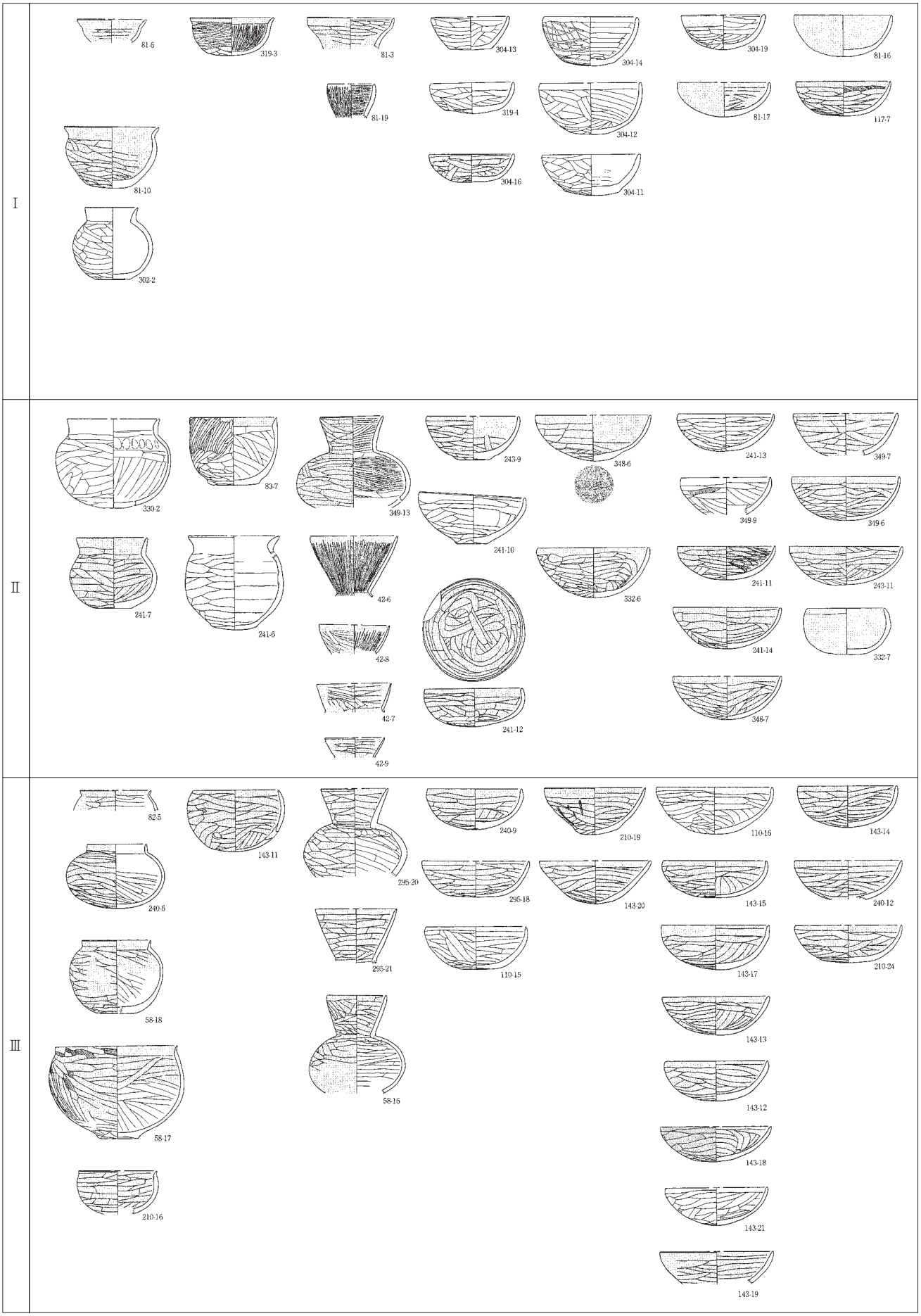


第329図　御林跡遺跡0期(前期)の土器編遷図

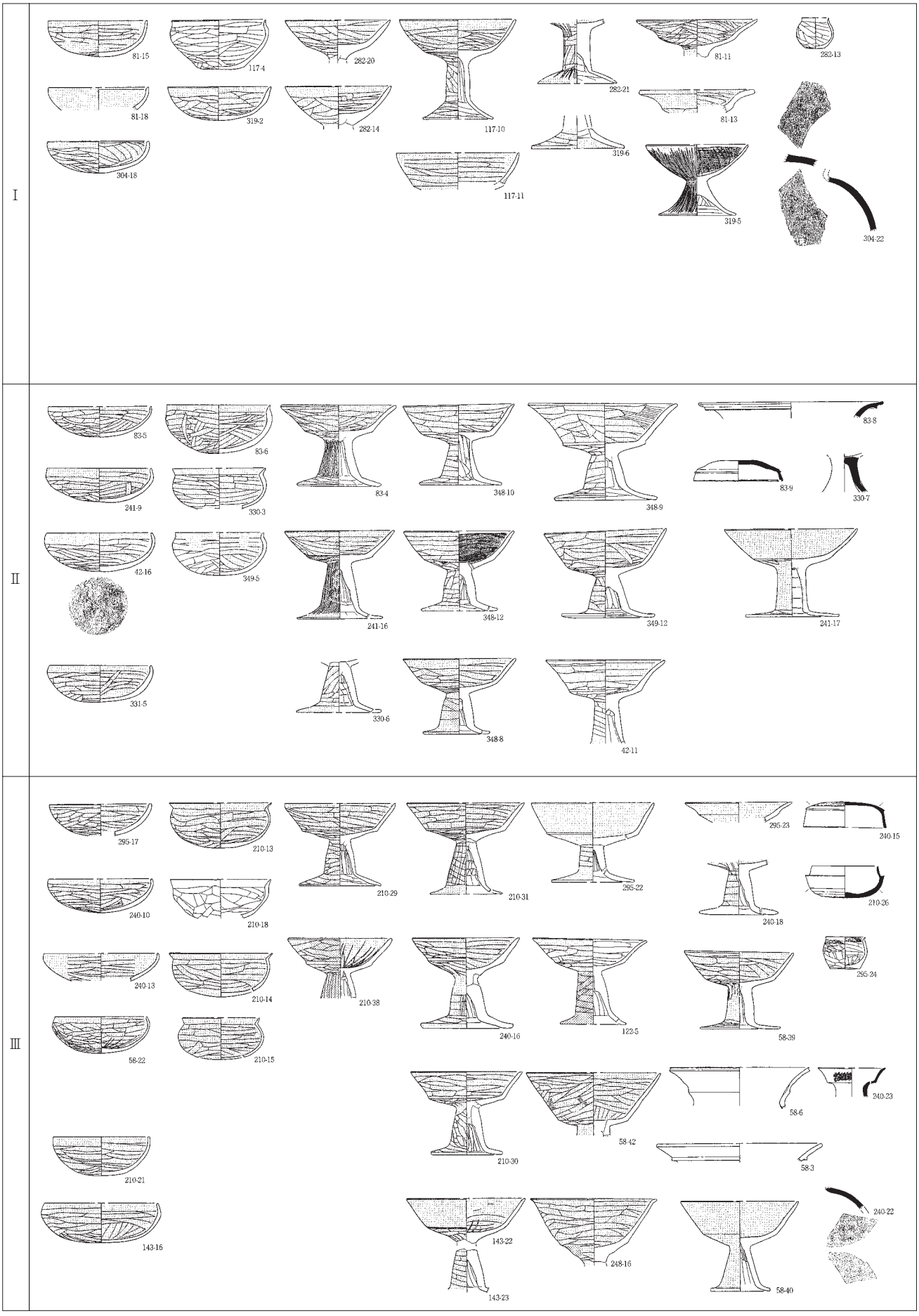


第330図　御林跡遺跡5世紀代Ⅰ～Ⅲ期(中期)の土器編遷図１


I
304-1
304-2
282-5
302-1
282-4
II
42-4
42-5
332-1
243-2
348-1
348-3
241-5
349-4
III
240-1
210-8
240-5
210-9
210-11
248-4
295-12
295-1
295-10
240-3
58-9
58-10
58-4
210-12
143-9



第331図　御林跡遺跡5世紀代Ⅰ～Ⅲ期(中期)の土器編遷図２


I
81-15
117-4
282-20
282-21
81-11
282-13
81-18
319-2
282-14
117-10
319-6
81-13
304-18
117-11
319-5
304-22
II
83-5
83-6
83-4
348-10
348-9
83-8
241-9
330-3
83-9
330-7
42-16
349-5
241-16
348-12
349-12
241-17
331-5
330-6
348-8
42-11
III
295-17
210-13
210-29
210-31
295-22
295-23
240-15
240-10
210-18
240-18
210-26
240-13
210-14
210-38
240-16
122-5
58-39
295-24
58-22
210-15
58-6
240-23
210-30
58-42
58-3
210-21
143-16
143-22
248-16
58-40
240-22
143-23

た製品は、当遺跡上層遺跡の辺田１号墳墳頂部からも検出されている。後続する時期には、このタイプの流れを汲むと想定される頸部から口縁部にかけて「く」の字外反する赤彩丸底鉢が爆発的に増加することから、辺田１号墳の段階から存在した鉢形の坏と捉えておきたい。

高坏には中空と中実タイプの脚部が存在するが、殆ど中膨らみしない。次期に通ずる製品が散見する一方で、坏部がやや浅いタイプや、坏部下端の稜が曖昧なものが存在する。また坏部・脚部の形状は、次段階には一色に統一されるような、押しなべて近似する形状ではないところに当期最大の特徴がある。

その他の器種には、小型甕型土器、大型坩や小型坩などが存在し、赤彩が施された製品が主体を占める。

須恵器は304号竪穴において、樽形𤭯片の初現を見る。小片のため、具体的形状は把握できないが、次段階共伴須恵器がON－231型式併行期と想定されることから、この段階に形状の判明する完形に近い須恵器が伴うとすれば、TG－232期併行段階と想定される。

なお、当期標識遺構である81号竪穴と次期標識遺構である83号遺構は重複関係にあり、当期81号の火床施設は炉、次期83号はカマドへと変化しており、確実に当期の方が古い段階に位置付けることができる。

第Ⅱ期

御林跡遺跡におけるカマド導入期である。標識遺構として42・83・241・243（244）・330・332・348・349号竪穴が存在し、その殆どにカマドが附設される中、330号遺構だけにはカマドが存在しない。また244号竪穴のように、おそらくⅠ期からの建替えに伴って本段階にカマドを保持する例があり、当期にカマドが普及し始める様相の一端が垣間見られる。なお、当期標識遺構83号竪穴と次期標識遺構82号竪穴、および当期標識遺構241号竪穴と次期標識遺構240号竪穴は互いに重複関係を有しており、その前後関係は明白である。

甕形土器には、この段階でもハケが残る製品が残存するが、その器形は当地伝統的な平底系ではなく卵形の丸底であり、新たに熱効率を含めたカマドの導入に伴う畿内布留式後半段階の影響下に成立した甕と想定される。全体的にはハケの喪失した製品がその主体を占め、Ⅰ期からの底部が突出する製品や、赤彩が施された製品が散見する一方で、新手の口縁が直立する直口壺的な製品や、片口甕なども存在する。

壺形土器には二重口縁壺や折返し口縁壺は確実に残存するが、二重口縁系の頸部の内外面を屈折させた壺や、直口壺は当期に良好資料は残存していない。しかし次段階には存在しているので、当期にも存在していたものと推定される。

大型甑はこの段階から確実な存在が認められ、カマドの普及と共に出現する器種の一つであることが窺われる。以後絶えることがないことから、カマドと密接な関係を持つ土器であることはいうまでもない。長胴で、折返し口縁壺の底部を刳りぬいたような製品には、頸部から胴部中位に粗いハケが施されている。この他甕形の甑や深鉢型の甑も存在し、大型甑成立段階にはまず３種類の器形が存在したようである。なお、この段階の甑破片には多孔の製品も存在しており、カマド導入段階の初期には多孔の大型甑が存在していたことを暗示している。

坏・鉢形土器には、前代に引き続き深い丸底椀形・浅い丸底椀形・平底・平底気味の４種が存在す

るが、浅い丸底埦形坏には、内向する面を持つ製品が存在する。頸部から口縁部にかけて「く」の字外反する赤彩丸底鉢形坏は、当期から爆発的に増加するが、前代の無彩平底鉢は当期には確認されない。なお、この段階の坏部内面には、後の赤彩十文字暗文のモデルと想定される意識的なヘラナデ模様を施した製品が存在する。

高坏は、中空でやや脚部が中膨らみした柱状脚部高坏が主流の中で、中膨らみしない柱状脚部の製品が残存する一方で、大型高坏が出現する。また、この段階の外面調整技法は、前代同様横ナデを基調とするが、一部の製品には、脚部に縦ヘラ磨きが施された製品が散見する。坏部と脚部の接合技法はホゾ方式が主体を占める中、小若江北式高坏と接合技法が近似する高坏が存在する。この手の高坏は畿内和泉地方でのD類として捉えられており、その出自は布留式古段階から新段階まで残存する。また、和泉布留３式段階は現状でTG－232の操業段階に近接する時期と捉えられている（1）。

小型器種には、小型深鉢形の平底の鉢や、小型甕型土器、小型短頸壺、大型坩などの赤彩が施された製品が存在し、特に83号出土平底鉢は、大阪長原遺跡出土TG－232期からON－231期須恵器と共伴する土師器鉢形土器と酷似する。また当期の小型甕型土器、小型短頸壺は同じく長原遺跡でTK－73期併行期に共伴する土師器と酷似し、大型坩はSD023出土須恵器と酷似した器形である（2）。

須恵器は83号竪穴において、坏蓋と大型甕が、330号竪穴で高坏脚部が出土している。坏蓋は口唇端部に段を持ち口縁部と体部を分ける稜は比較的鋭い。天井部外面は回転ヘラ削り後、入念な回転ナデが行われ、特に天井部中央付近には、更に不正方向のナデが入念に施されており、当初の回転ヘラケズリの端部の幅と単位がまったくわからない。天井部内面には不正方向のナデが入念に行われており、須恵器１個体に関わる製作時間は非常に長い。現在のところ完形須恵器としては市原市域では最古例と目され、その型式期はON－231 ～濁り池窯併行期と捉えられる（3）。同時に検出された甕形土器片もほぼ同時期の所産と考えられる。330号竪穴検出の高坏脚部は、胎土が白っぽく当初東海産と想定していた。坏部や裾部が存在せず詳細不明ながら、脚の内外面とも丁寧なナデが施されており、その形状から同じくON－231 ～濁り池窯型式併行期の無蓋高坏と想定される。

第III期

御林跡遺跡におけるカマド定着期である。標識遺構として58・82・122・143・210・240・248・295号竪穴が存在し、標識遺構全ての竪穴にカマドが定着する。ただし、295号竪穴は、炉からの建替えに伴ってカマドが附設されており、前段階の330号竪穴にカマドが存在しなかった理由や、244号竪穴のように、建替えに伴ってカマドを保持する例からしても、この段階にカマドが普遍的に定着する様相の一端が垣間見られる。なお、本期標識遺構82・240号竪穴と前期標識遺構83・241号竪穴、及び本期標識遺構143号竪穴と次期標識遺構144号竪穴は互いに重複関係を有しており、その前後関係は明白である。

甕形土器には、第Ⅱ期のカマド導入に伴い新たに成立した卵形の甕形土器の内外面に、荒いハケが顕著に認められ、在地甕にも外面に粗いハケが残る製品が存在する。しかし、在地甕の従来タイプの製品は、ハケ後ヘラナデを行ったものの、ナデ漏れ間にハケが残存してしまった製品が主体で、全体的には消滅の傾向にある反面、ヘラ磨きが施される製品も散見する。なお、当段階の底部は前段階に続き平底・丸底・突出底であり、甕形土器の器形そのものは前段階と大差がない。

壺形土器には、二重口縁系の頸部の内外面を屈折させた壺が存在する一方で、折返し口縁壺・直口

壺は当期に良好資料は残存していない。

大型甑は、折返し口縁系・甕形系・深鉢系の３種の器形が存続する。

坏形土器の底部形状は、前代に引き続き深い丸底埦形・浅い丸底埦形・平底・平底気味丸底の４種の他に尖底気味の製品が加わり５種となる。また浅い丸底埦形坏には、内向する面を持つ製品が一部に存在する。赤彩丸底鉢形坏は当期も存在し、無彩平底鉢は当期には確認されない。

高坏は、柱状中膨らみ高坏が主体で、一部に中膨らみしない柱状脚部の製品が残存し、系譜の異なる坏部深鉢状の大型高坏が出現する。また、この段階の外面調整技法は、前代に引き続き横ナデを基調とするが、一部に脚部縦ヘラ磨きが施された製品がなお散見する。

小型器種には、小型短頸壺、鉢、大型坩などの赤彩が施された製品が存在し、小型甕形土器は伴わないが第Ⅱ期と類似した土器群が存在する。

須恵器は210号竪穴において坏身が、240号竪穴で坏蓋・樽形𤭯片が出土している。210号竪穴坏身、240号竪穴坏蓋は、TK－216型式でも古相の様相を呈している。外面は共に削り幅の狭い回転ヘラ削りを二度以上施し、坏蓋天井部内面や坏身底部内面には不正方向のナデが行われ、須恵器１個体に関わる製作時間は長い。この他須恵器模倣と思われる土師器甕形土器が出土している。

第Ⅳ期

御林跡遺跡における和泉式土器の最盛期であり、坏形土器の内面に暗文が盛んに施される段階である。標識遺構として27・110・134・137・144・170号竪穴が存在し、前記住居で全ての資料が取り揃う充実段階である。また前段階の標識遺構143号と、当期標識遺構の144号竪穴が互いに重複しており、その前後関係は明白である。

甕形土器には、未だ外面にハケが残る製品と、前代からのヘラ磨きが施される製品が散見する中、赤彩甕の検出率が高くなるが、器形そのものは前段階と大差がない。

壺形土器には、二重口縁系の頸部屈折壺や、折返し口縁壺・直口壺は当期まで残存する。

大型甑は前段階に引き続き、折返し口縁系・甕形系・深鉢系の３種類の器形が存続し、一部に小型品や赤彩甑が散見する。甕形の大型甑は、当期の甕形土器の底を刳りぬいた形状となり、一見しただけでは甕との区別がつきにくい。

坏形土器の底部形状は、深い埦形丸底・浅い埦形丸底・平底気味深丸底・平底・尖底・鉢形の６種が存在する。浅い丸底埦形坏に存在した口唇部の内向する面は、当期には殆ど確認されなくなる。これら坏形土器内面にはヘラ磨きによる放射状暗文を持つもの、十文字と一文字の赤彩暗文を持つもの、意味不明の線刻による暗文を持つ製品などが存在し、一種の暗文ブームが存在したようである。

高坏は、柱状中膨らみ高坏一色である。大型高坏は占有率がかなり低下しながらもかろうじて残存するが、中膨らみしない柱状脚部高坏は、この段階完全消滅する。また一部の製品には、脚部に縦ヘラ磨きが施された製品がなお残存する。

小型器種には、小型甕型土器、小型短頸壺、大型坩などの赤彩が施された製品が残存するが、絶対量は前段階に比べて極めて低下する。

須恵器は134・144・170号竪穴から比較的多量に出土する。これらの製品の中には轆轤調整の後手持ちヘラ削りが施された坏蓋、格子叩きの甕、完形に近いON－231併行期の𤭯などの、ON－231期から中村編年Ⅰ型式第２段階期併行期古相遺物が含まれるが、多くは第Ⅱ段階以降の伝世品を含んでい

るものと察知される。110号坏身は体部と口縁部を分ける受部は甘く鈍い。体部は膨れて丸みを持ち、底は平に仕上げている。外面は削り幅の狭い回転ヘラ削りを施し、底部内面には不正方向のナデが行われ、須恵器１個体に関わる製作時間は比較的多い。TK－216型式期に比定できる。

これら遺構に伴う最新段階の遺物は、170号竪穴一括出土の無蓋高坏で、信太山２号窯併行期のTK－216型式期からON－46型式期まで下る可能性がある。この場合、170号竪穴は伝世したON－231期の瑕を床直で検出しながらIV期の中でも最も新しく、Ｖ期前まで下る可能性が高い遺構として位置付けておくことが妥当であろう（4）。

なお、144号竪穴と重複する117号竪穴にはTK－216型式そのものといっても過言ではない坏蓋・坏身のセットが一括で検出されている。144号と重複する部分の遺物は、177号竪穴出土遺物として先に取上げられていることから（写真図版49）、この坏身セットは144号竪穴に伴う可能性が極めて高い遺物であろう。

したがってIV期を代表する須恵器は、110号坏身を含めてTK－216型式期と想定される。

第Ｖ期

御林跡遺跡における高坏形土器に変化が現れる段階で、和泉式土器の終末段階に相当する。標識遺構として50・55・68・102・160・190号竪穴が存在し、後出する段階のVI期標識遺構159号竪穴と当期標識遺構160号竪穴が重複し、その前後関係は明白である。

甕形土器には、未だ外面にハケが残る在地製品が残存する一方で、口唇部が上方に摘み上がる非在地系のハケ甕が出現する。なお、当期も赤彩甕の検出率は高い。在地甕の底部丸底系の製品の中には、円形の窓を開けたものも存在するが、器形そのものは前段階と大差がない。壺形土器には、折返し口縁壺が当期まで残存し、大型甑は、甕形系・深鉢系の２類が存続する。折返し口縁系の口縁部が肥大した製品は、当期の検出を見ないが、次段階に存続しているので消滅はしていない。

坏形土器の底部形状は、深い埦形丸底・浅い埦形丸底・平底・平底気味深丸底・尖底・鉢形の６種が存在し、この段階再び無彩の平底鉢系坏が出現するが、赤彩された平底の坏形土器とほとんど同化して違和感がない。前代の暗文ブームは去り、坏形土器内面に、暗文を持つものは１点も存在しない。なお、浅い丸底埦形坏はこの段階から扁平・縮小化する傾向が認められる。

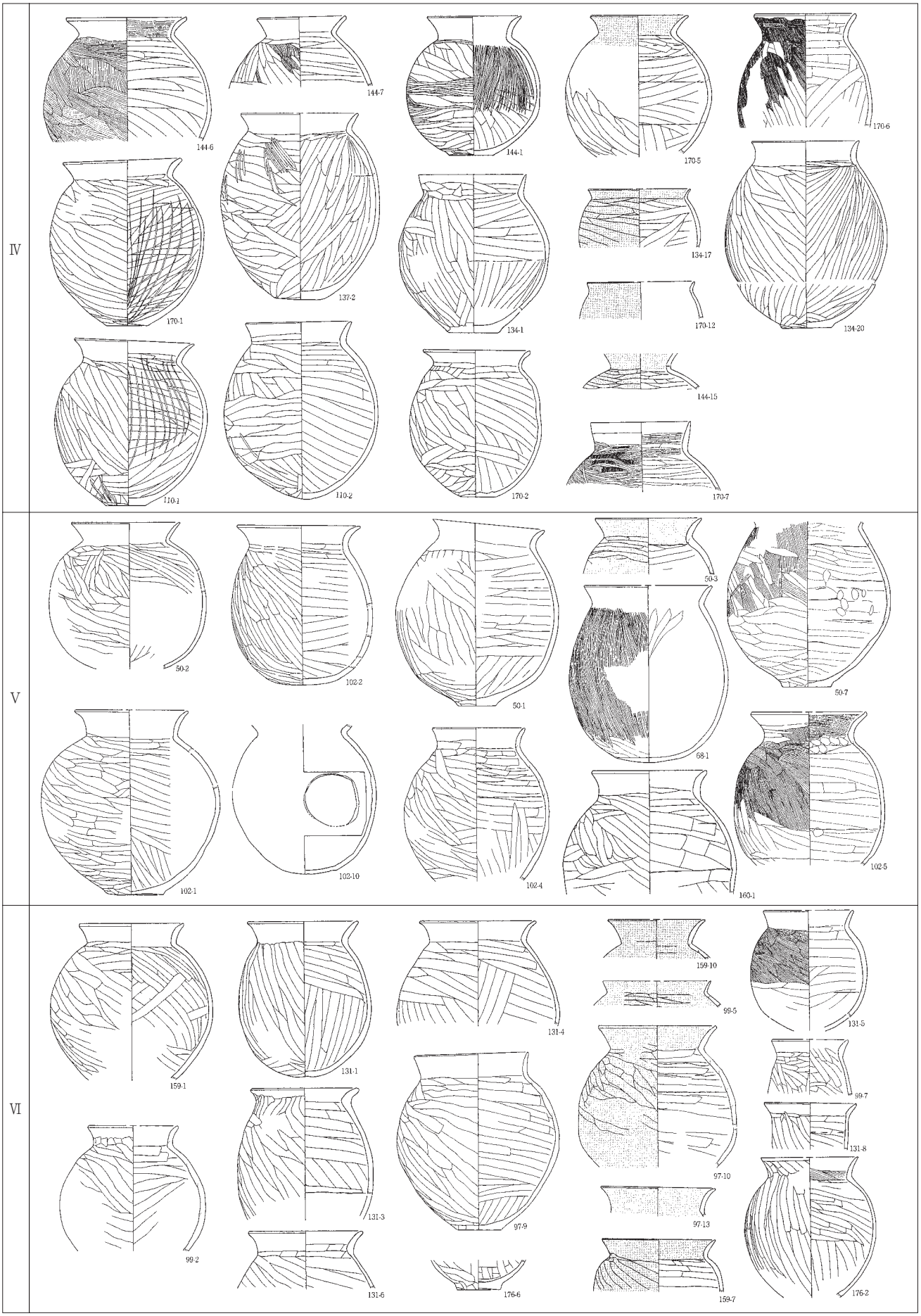
柱状中膨らみ高坏は、なお脚部に縦ヘラ磨きが施された製品が残存するが、脚部の短脚化が進んだものや、坏部が深くなり器形が崩れた製品が目立つようになる。一方では、大型高坏や柱状脚部高坏は完全消滅し、柱状中膨らみ高坏の全盛時代は終焉を迎える。

小型器種には、小型短頸壺、浅鉢、小型鉢、大型坩、土師器蓋などの赤彩品が主体であるが、一部に無彩の製品も存在する。なお大型坩の底部はこれまでの丸底から平底へと変化し、球形の胴部が圧縮された形態となる。

須恵器は102・189号竪穴で出土しているが、189号一括出土の須恵器坏蓋・坏身は、本来190号竪穴との重複接点に存在していたものと捉えここに掲載する。102号坏蓋から、TK－216型式でも最新段階と想定される。

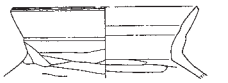
第VI期

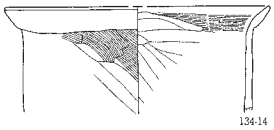
御林跡遺跡における和泉式が終焉し、鬼高式へと移行し始める段階で、標識遺構として97・99・131・159・176号竪穴が存在する。当期標識159号竪穴と前段階標識160号竪穴が重複し、また、当期

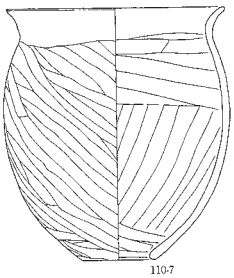


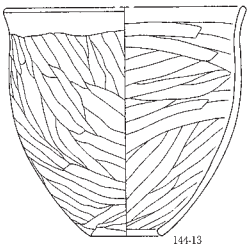
第332図　御林跡遺跡5世紀代Ⅳ～Ⅵ期(中期)の土器編遷図３

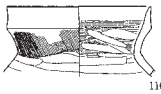
IV

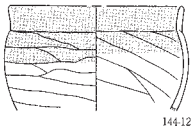

134-16

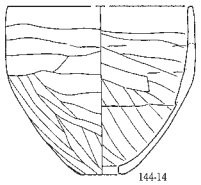

134-14

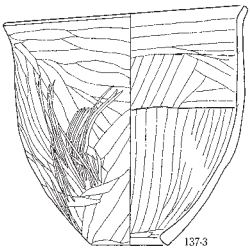

110-7

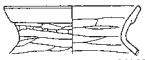

144-13

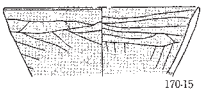

110-5

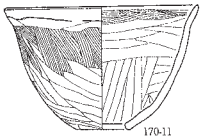

144-12

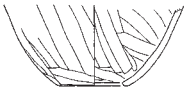

144-14


137-3

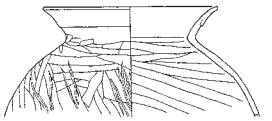

144-18

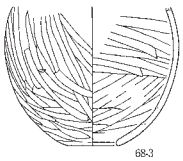

170-15

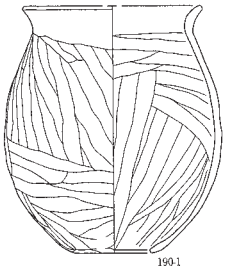

170-11

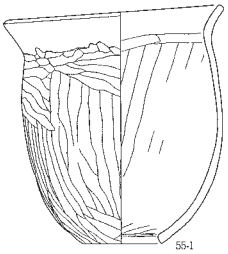

134-15

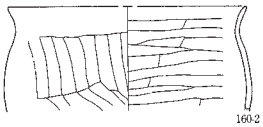
V


102-7

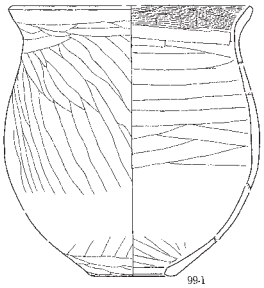

68-3

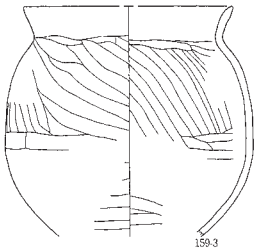

190-1

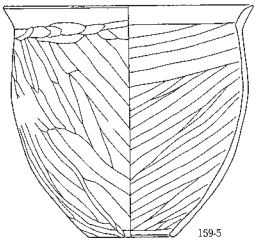

55-1

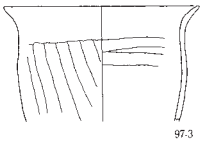

160-2

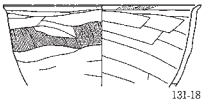
VI

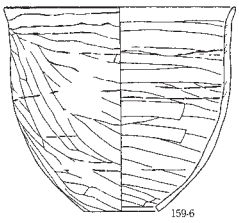

99-1

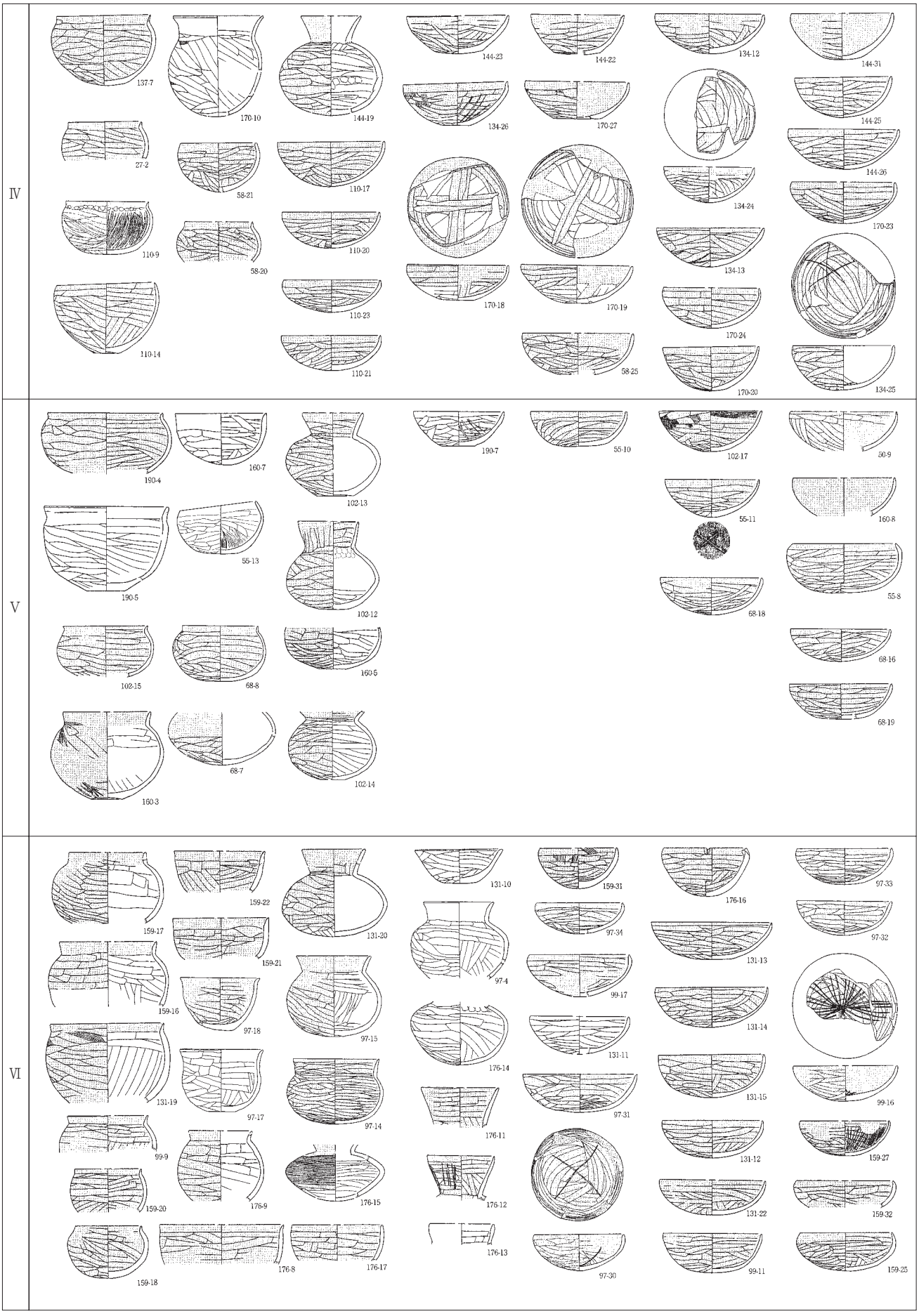

159-3


159-5

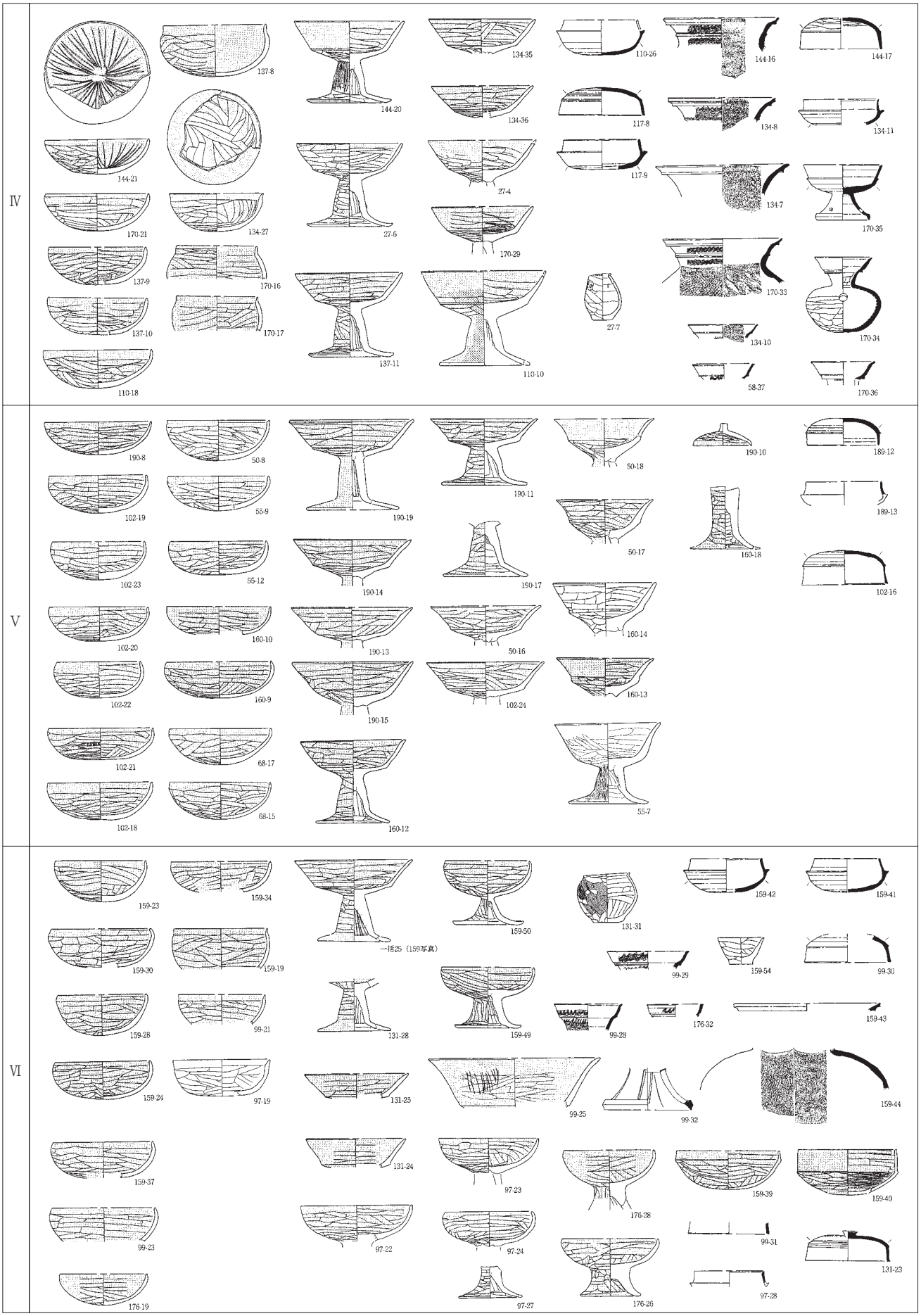

97-3


131-18


159-6



第333図　御林跡遺跡5世紀代Ⅳ～Ⅵ期(中期)の土器編遷図４


Ⅳ
144-21
137-8
144-20
134-35
110-26
144-16
144-17
134-36
117-8
134-8
134-11
27-4
117-9
134-7
170-35
170-21
134-27
27-6
170-29
137-9
170-16
170-33
170-34
137-10
170-17
27-7
134-10
137-11
110-10
58-37
170-36
110-18
Ⅴ
190-8
50-8
190-19
190-11
50-18
190-10
189-12
102-19
55-9
50-17
189-13
102-23
55-12
190-14
190-17
160-18
102-20
160-10
190-13
50-16
160-14
102-16
102-22
160-9
190-15
102-24
160-13
102-21
68-17
55-7
102-18
68-15
160-12
Ⅵ
159-23
159-34
159-42
159-41
159-50
131-31
159-30
159-19
99-29
159-54
99-30
一括25（159写真）
159-28
99-21
131-28
159-49
99-28
176-32
159-43
159-24
97-19
131-25
99-25
99-32
159-44
159-37
131-24
97-23
176-28
159-39
159-40
99-23
97-22
97-24
99-31
131-23
176-19
97-27
176-26
97-28

標識176号竪穴と次期標識182号が互いに重複し、その前後関係は明白である。

甕形土器は、大勢は前段階と殆ど変わらないが、在地のハケ甕は完全消滅する一方で、非在地形の卵形の小型ハケ甕が出現する。御林跡遺跡における和泉式期の住人は、結局のところハケ甕にある程度固執していたことが窺われる。壺形土器は完全消滅し当期には存在しない。

大型甑は、折返し口縁系の口縁部が肥大した製品や・甕形系・深鉢系の３種類の器形が存続し、一部に小型品が散見する。

坏形土器には、赤彩された深い丸底椀形・浅い丸底椀形・平底気味深丸底・尖底・鉢形の５種の他に、無彩の平底鉢系坏が存在するが、無彩の平底鉢系坏は当期を持って消滅する。暗文坏にはヘラ磨きによる放射状暗文と十文字暗文が存在するが、全盛期ほど出土量は多くはない。この段階には須恵器坏蓋を模倣した大型の土師器模倣坏が出現する。

高坏は、柱状中膨らみ高坏が残存するが、占有率はかなり低下する。この高坏は159号カマド内で検出されており、前段階の高坏を支脚として転用していた可能性も考えられる。当期の主体は、前代に比べ著しく器高が縮小した新種の短脚埦形高坏であり、この段階には布留系の大型高坏が出現する。

小型器種には、小型短頸壺、小型深鉢、大型坩などの赤彩が施された製品が主体であるが、一部無彩の製品も散見する。大型坩は丸底に戻るが、前代に増して球形胴部の圧縮化が進む。この中でも176号出土の坩は、胴部が更に圧縮されてソロバン玉形状となる。

須恵器は97・99・131・159号竪穴で出土している。一部に古段階の甕口縁が共伴するが混入細片であり、坏身坏蓋・高坏脚部の須恵器が示す年代は、ON－46型式期からTK－208型式古段階にかけての段階に想定される。

第Ⅶ期

御林跡遺跡における和泉式土器が完全消滅し、遺跡内の土器が完全に鬼高式土器へと転化し、前段階のろ過を通して器種が激減した段階であり、標識遺構として37・75・182号竪穴が存在する。前期標識176号竪穴と当期標識182号竪穴、および次期標識179号が当期標識182号竪穴を媒体として互いに重複し、その前後関係は明白である。

甕形土器は、ハケ甕がついに消滅し、やや胴張りの甕と長胴形甕の２種が主体となり、一部に赤彩甕が残存する。大型甑は､折返し口縁系と甕形系が消滅し､深鉢系１種に限定される。坏形土器には、一部に無彩平底気味を含みながら赤彩された製品が主体で、深い丸底埦形・浅い丸底埦形の２種と、口縁外反するものの３種に限定される。暗文坏としては放射状暗文が施された製品が残存する。

高坏は、短脚埦形高坏に限定され、小型器種には、小型甕、大型坩などの赤彩が施された製品が存在し、特に75号の坩は口頸部が長大した形状となる。

須恵器は37・182号竪穴出土している．182号須恵器坏蓋の一つは典型的なTK－208型式で、もう一つは天井部に釉がかかり、削りの範囲が不明で丸みを帯びたものであるが、口唇部は内傾する弱い凹面を呈し明瞭な段にならない。上記須恵蓋より若干古い様相が窺え、ON－46 ～ TK－208型式古段階にかけての製品と想定される。182号の他の須恵器片は小片であるが、TK－208型式と目され、この段階が概ねTK－208型式期であろうと想定される。

第Ⅷ期

御林跡遺跡における土師器模倣坏が定着する段階であり、標識遺構として14・21・25・26・179号竪穴が存在する。

甕形土器は前段階とほぼ同じで、長胴化した胴部と底部突出した製品が主体となる。大型甑は、深鉢系１種の大小に限定される。埦形の坏形土器には、赤彩された深い丸底・浅い丸底の２種に限定され、暗文坏は存在しない。模倣坏は須恵器蓋模倣が主体で、無彩と赤彩が存在する。14号竪穴出土の須恵器蓋模倣坏はTK－208型式の蓋を、口唇部の弱い凹面に至るまで忠実に模倣した製品である。外来系では、この段階に初めて比企型坏の出現を見る。

高坏は短脚埦形主体で前代と大差なく、唯一脚部３方透かしの布留系大型高坏が存在する。小型器種には小型鉢しか残存せず、小型甕や坩形土器など前代の器種が一掃される。

須恵器は25・179号竪穴から出土しているが、179号出土の古式なコップ形須恵器を除いた製品は、179号出土の脚部３方長方形透かし高坏や、26号出土の口唇部に明瞭な段を残し天井部の丸みが強く小型化した坏蓋から、TK－23型式段階に比定される。

第Ⅸ期

御林跡遺跡における５世紀最終段階で、標識遺構として土器祭祀の可能性が高い17号竪穴資料を提示する。

甕形土器は、前代と殆ど変わらない。深鉢系の甑には大小２種が存在し、大型製品には取っ手が付いている。坏形土器は模倣坏の大小２種で、埦形坏を伴わないのは当竪穴の特殊性であろう。

高坏には前代同様の短脚椀形と、須恵器模倣の脚部３方三角形透かし高坏が存在する。注目できることは、短脚椀形高坏の脚部が前代に比べ長脚化し、模倣坏が小型から大型化への移行段階であるところである。この時期高坏が長脚化に移行するのはTK－47型式からMT－15型式までの間であり、土師器模倣坏の小型から大型化の時期もまたTK－47型式からMT－15型式までの間であることから、須恵器は伴わないが、高坏と模倣坏形土器より、本期をTK－47型式からMT－15型式移行期段階に位置付けることができる。なお土器祭祀とほぼ同時期の資料には36号竪穴を提示することができ、MT－15型式古段階の古墳時代後期初頭に位置付けることができる。

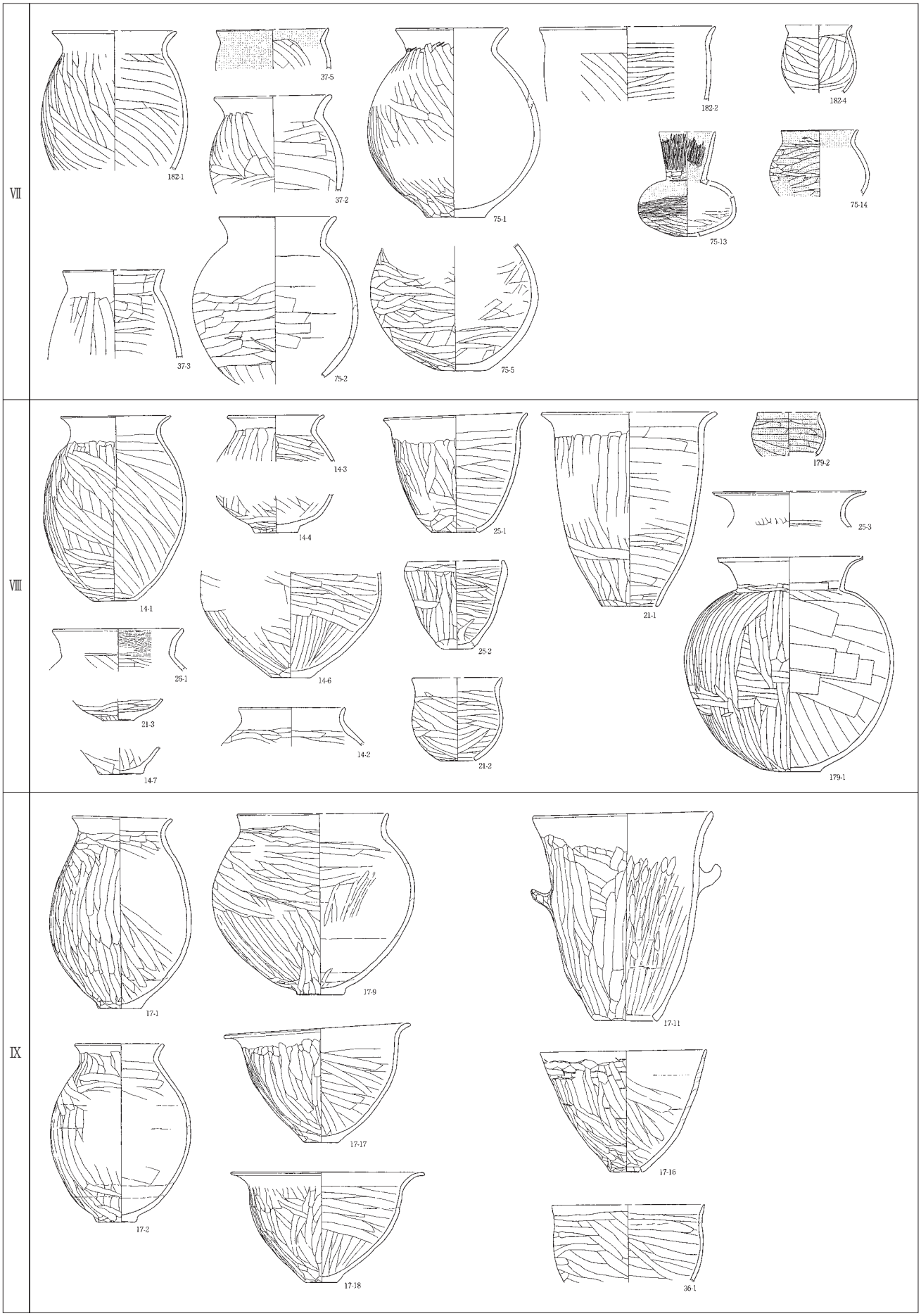
以上０期からⅨ期まで計10期の内、Ⅰ期からⅨ期までが御林跡遺跡における古墳時代中期としての５世紀代の土器様相である。ここで示した０期を除いた各期は、基本的には南岩崎遺跡５a期から６b期と対応する（5）。また、Ⅲ期からⅨ期は、椎津茶ノ木遺跡１a期から３b～４a期に対応する（6）。

３　年代

御林跡遺跡における須恵器初現の確実例は、Ⅱ期83号竪穴出土坏蓋からON－231～濁り池窯併行期であり、Ⅲ期では210号竪穴坏身、240号竪穴坏蓋から、TK－216型式古相、Ⅳ期は110号坏身からTK－216型式、Ⅴ期はTK－216型式期最新段階、Ⅵ期は概ねON－46型式、Ⅶ期はTK－208型式、Ⅷ期は23型式の須恵器を共伴している。また、Ⅸ期は須恵器を伴わないが、高坏と模倣坏形土器より、TK－47型式からMT－15型式移行期段階に位置付けることができる。

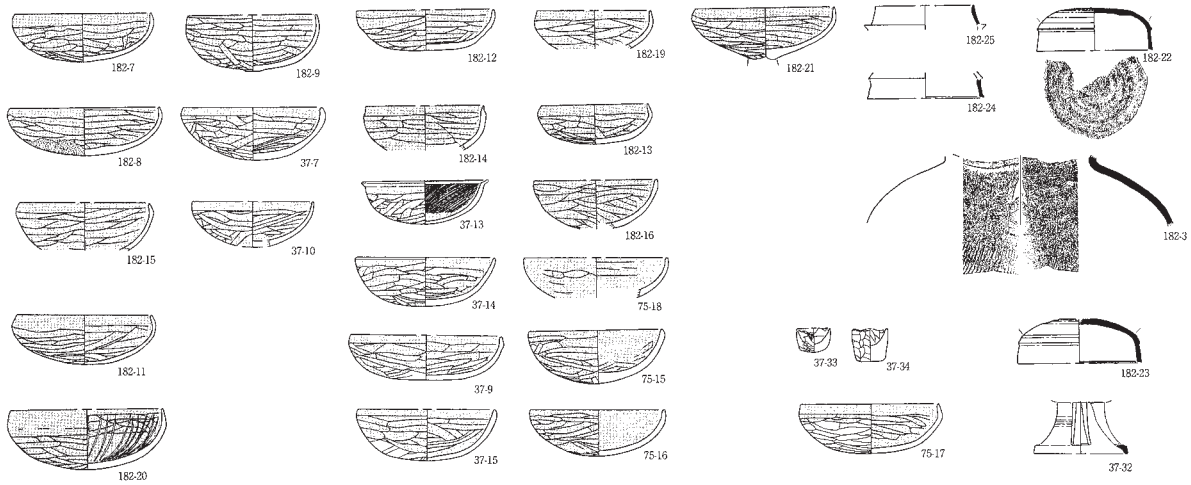
これらの各期と検出須恵器を、近年の須恵器研究成果と当遺跡での重複関係での絶対関係、つまり竪穴住居の耐久年数を踏まえて整理する。

御林跡遺跡の標識遺構では、243号の拡張建替えが244号竪穴、294号の拡張建替えが295号竪穴である以外は何れも短期住居跡であり、その存続年数は10年程度であろうと捉えられている。したがって、

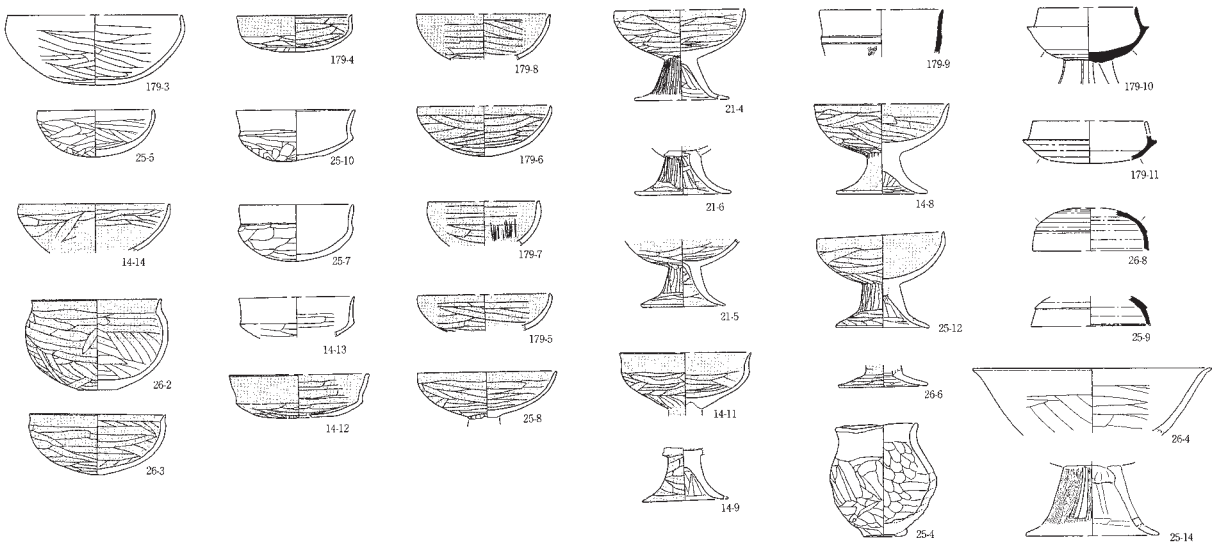


第334図　御林跡遺跡5世紀代Ⅶ～Ⅸ期(中期)の土器編遷図５

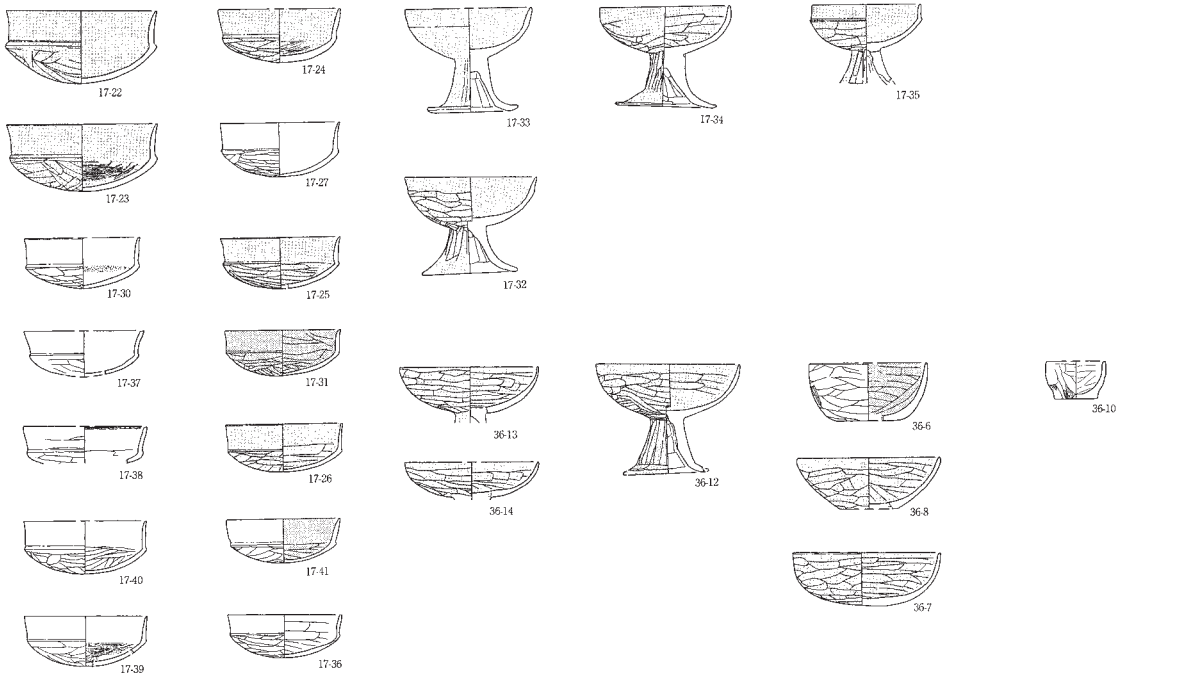
VII

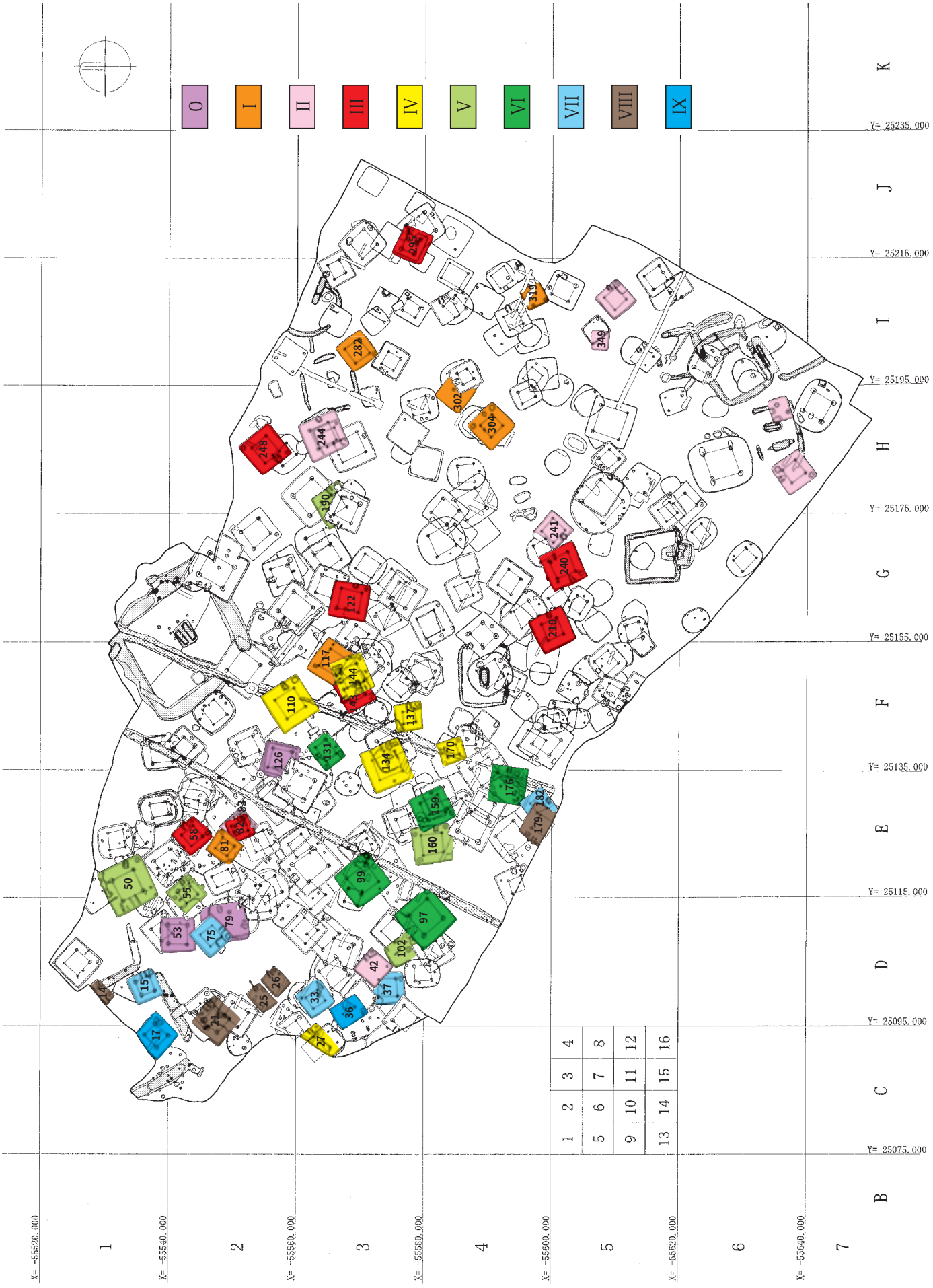

182-7
182-9
182-12
182-19
182-21
182-25
182-24
182-22
182-8
37-7
182-14
182-13
37-13
182-16
182-3
182-15
37-10
37-14
75-18
182-11
37-9
75-15
37-33
37-34
182-23
182-20
37-15
75-16
75-17
37-32

VIII


179-3
179-4
179-8
21-4
179-9
179-10
25-5
25-10
179-6
14-8
179-11
14-14
25-7
179-7
21-6
26-8
26-2
14-13
179-5
21-5
25-12
25-9
14-12
25-8
14-11
26-6
26-4
26-3
14-9
25-4
25-14

IX


17-22
17-24
17-33
17-34
17-35
17-23
17-27
17-32
17-30
17-25
17-37
17-31
36-13
36-6
36-10
17-38
17-26
36-12
36-8
17-40
17-41
36-14
36-7
17-39
17-36



第335図　御林跡遺跡５世紀代の遺構分布図

重複関係の存在するⅠ期81号とⅡ期83号及びⅢ期の82号の間には、各々最低10年程度の竪穴住居の存続年数を与えてやらねばならないであろう。

このことは、次のⅢ期143号とⅣ期144号、Ⅴ期160号とⅥ期159号との重複、Ⅵ期176号とⅦ期182号、且つⅦ期182号とⅧ期179号との重複にも同程度の時間幅を与えねばならないということであり、換言すれば、各期に対して最低でも竪穴住居の存続年数10年程度の時間幅を設定してやらねばならないという絶対条件の存在認識である。

筆者は、かつて椎津茶ノ木遺跡の整理を通じて、鬼高期に幾重にも長期に亘って重複する近接時期の竪穴住居跡から、併行して存在する土師器の変遷を捉えて竪穴住居跡の耐久年数を求め、建替えのない単期住居跡で10年、建替えないしは拡張された痕跡を有する住居跡に20年の存続年数を想定することが可能とした論考を提示したことがある（7）。ここで御林跡遺跡を事例とする和泉式にもこの原理を取り入れ、もう一度これらの絶対条件を整理すると、下表のとおりとなる。

時期	須恵器	標識遺構 （同色の色塗りは重複する標識遺構）	年　代
0		53・77・126	古墳時代前期
Ⅰ	TG－232	81・117・282・302・304・319	410
Ⅱ	ON－231～ 濁り池窯	42・83・241・244・330・332・348・349	420
Ⅲ	TK－73～ 中村Ⅰ－2 段階	58・82・122・143・210・240・248・295	430
Ⅳ	TK－216	27・110・134・144・170	440
Ⅴ	TK－216 新～ ON－46	50・55・68・102・160・190	450
Ⅵ	ON－46～ TK－208 古	97・99・131・159・176	460
Ⅶ	TK－208	37・75・182	470
Ⅷ	TK－23	14・21・25・26・179	480
Ⅸ	TK－47～ MT－15 古	17・36	490～ 500

Ⅰ期は、器形を提示できる須恵器は存在しなかったが、須恵器でのTG－232併行期と想定され、５世紀初頭段階に想定される。Ⅱ期は共伴する須恵器から、ON－231～濁り池窯併行期と想定され西暦420年代に、Ⅲ期は最終段階にTK－216型式最古段階（中村編年Ⅰ－２段階）の須恵器を伴うものと想定され、その存続年間の主体は概ねTK－73段階併行期で430年代、Ⅳ期は伝世する須恵器も含むが、ほぼ純粋なTK－216型式併行期で440年代、Ⅴ期は一部TK－216型式の末葉からON－46型式の一部を含む段階と想定され、450年代頃の年代感が想定される。

続くⅥ期は、概ねON－46～TK－208古段階併行期で460年代に、Ⅶ期は、概ねTK－208型式併行期で470年代に、Ⅷ期はTK－23型式併行期で480年代、Ⅸ期はTK－47型式～MT－15型式初頭併行期で

490年代をやや下った年代感が想定される。

4　おわりに

これまで御林跡遺跡における古墳時代中期土器を概観してきた。Ⅰ期は、竪穴にはまだカマドが導入されておらず、前段階のハケ甕が残る一方で、やや長胴化した甕や胴部卵形の丸底甕がその主体を占め、五領式土器には基本的に存在しない坏形土器や柱状中膨らみ高坏が供膳土器として確実に加わっている。また、器台の完全消滅など、提示した０期に比べ新相の様相が多分に認められる。続くⅡ期には周辺地域でもかなり早期にカマドが登場し、大型甑や初期須恵器が住居住居に確実に伴い、和泉式期が盛大に開花する。しかし、その終焉はⅤ期の須恵器型式におけるTK－216型式新段階であり、先の年代感からすれば、僅か50年間の存続後に消滅し、鬼高式へと移行する。

御林跡遺跡の５世紀土器を振り返って考えてみると、壺・高坏を除いた土師器は殆ど鬼高式と区別がつかない程の僅かな差でしかないにも拘らず、五領式や鬼高式とは別様式と認定されているのは、そのスタイルが強烈なインパクトを与える高坏に左右されているからである。もし、壺や高坏が存在しない和泉期のカマド付き竪穴に、鬼高期の短脚埦型高坏が混入していたら、我々はこれを和泉式と認定できずに鬼高式古段階の竪穴と判定してしまうであろう。

御林跡遺跡が残した古墳時代中期前半の土器群は、良好資料を保持した１集落を完掘することによって、初めて純粋な当域の和泉式土器を捉えたといえる。我々のコピーの羅列によって創出された房総における古墳時代中期前半のイメージはここでリセットし、再起動させなければならないと考える。

註および引用参考文献

註１　西村　歩・池峰龍彦「和泉地域」『古式土師器の年代学』（財）大阪府文化財センター 2006

註２　田中清美　「長原遺跡出土の初期須恵器の検討－長原遺跡東部地区の古墳時代中期集落出土資料を中心に－」『須恵器生産の成立と展開』2005年度（財）大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究発表会　（財）大阪府文化財センター 2005

註３　西口陽一　『野々井西遺跡・ON－231号窯跡』大阪府教育委員会　（財）大阪府埋蔵文化財協会　1994

註４　竹内雅人　『信太山遺跡』大阪府教育委員会　（財）大阪府埋蔵文化財協会　1987

註５　大村　直　『市原市南岩崎遺跡』市原市教育委員会　2006

註６　木對和紀　「竪穴住居の耐久年数から見た房総における古墳時代須恵器の出現と終焉」『市原市文化財センター研究紀要Ⅱ』（財）市原市文化財センター 1993

註７　註６に同じ。単期竪穴住居の耐久年数を10年以上と捉えれば､我国須恵器の操業年代を繰り上げねばならず、かといって、10年未満とすると須恵器の操業年代は繰り下げねばならない。
現在のところ、須恵器研究者は、TG－232段階を遡る持ノ木古墳等に最古段階の国産窯を求めており、その操業開始段階が５世紀初頭前後と想定している。

ま　と　め

最後に御林跡遺跡の整理を振り返って、気づいたことを若干振り返ってまとめとしたい。

御林跡遺跡集落の開始期は弥生時代中期宮ノ台式期である。当期に比定できる遺構は46基存在する。この内61号竪穴からは有角石斧刃部をはじめ様々な石斧が出土し、62号竪穴からは大型の太型蛤刃石斧が検出されている。この他、混交した遺物は全て一括で取上げられており、遺構プランに問題が残る150号竪穴からは太型蛤刃石斧と抉り入り石斧類だけが床直で出土した。また203号竪穴からは長さ3.2㎝の超小型の磨製石斧が、272号竪穴からはほぼ完形の有角石斧が検出されている。これらの時代を通じ、太型蛤刃石斧や有角石斧などの大型石斧が出現する時期は、中期末葉～後期初頭の比較的限定された時期に集中して検出される傾向が認められる。

久ヶ原式の段階には63基の遺構が存在する。５号方形周溝墓主体部からは１点の板状鉄斧と62点のガラス玉が、同じく７号主体部からは12点のガラス玉が検出されている。88号竪穴からは２点の大型太型蛤刃石斧と板状鉄斧が検出され、261号竪穴からは小型の板状鉄斧が検出されている。

次に久ヶ原式末葉から庄内併行期には、21基の遺構が存在し、136号竪穴からは完形の敲甕が出土している。胎土分析により当期の敲甕やS字甕の大半が在地系の粘土で焼成されていることが判明した。

古墳時代前期の五領式期には86基の遺構が存在する。174号遺構からは径7.2㎝程の仿製内行花文鏡が、刀子・鉄鏃と共に床直の状況で検出されている。

古墳時代中期の和泉式期には74基の遺構が検出されている。122号竪穴では、カマド左袖密着で袋状鉄斧が出土している。中期後半のON－46型式からMT－15型式期初頭の鬼高式古段階には22基の遺構が存在するが、前半代に比べ遺構数が激減する傾向が認められる。前半の和泉式期50年で72軒の竪穴数だったのに対し、後半の鬼高式期50年での竪穴数21基は余りにも少ない。しかもこの後、古墳時代終末期に至るまでのおよそ100年間、御林跡遺跡の人々はどこかに姿をくらまし、遺跡が無人状態となる。かつて王賜銘鉄剣を拝領し、畿内王との関係の深かった当域の人々が新たな継体帝の成立段階に集落を突然放棄するのはまったくの偶然なのだろうか。中央の政変と何らかの関連がある様でならない。

古墳時代終末期には23基の遺構が存在する。１基は終末期古墳、１基は土壙であることから、竪穴数は鬼高期と同等数である。終末期古墳の埋葬施設は、この時期国分寺台周辺地域には比較的事例が多い地下式横穴墓で、７～８歳前後の小児と40歳ぐらいの壮年女性の人骨が検出されたことは、大きな成果であったと思われる。終末期古墳の年代は、数少ない残存資料から見出すと、土師器高坏に内外面ともヘラ磨きが盛んに施されるTK－217新段階からTK－46段階にかけての併行期と捉えられ、およそ660～70年代と想定される。

遺跡内の各遺構を横断する溝は、一時期道路として使用されていた遺構でもある。古墳時代終末期の72号・108号竪穴を削平することから、その存続時期の主体は、奈良・平安時代に下るものであろうと推定される。

第14表　御林跡遺跡出土土器観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
1	1	円形周溝	1	土師器鉢 ほぼ完形	一括	(13.6)	4.0	7.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　非常に丁寧なナデ。	内外面赤彩。
1	2	円形周溝	2	手焙り型土器 底部全欠～口縁の極一部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　鉢部平行沈線による斜格子文、中位は凸帯は貼り付け棒状工具によるキザミ目あり。 内　ナデ。	内外面赤彩。
2	1	地下式壙	5	土師器高坏 口縁 1/4 ・脚部全欠	一括	(16.0)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面黒色処理。
2	2	地下式壙	2	土師器坏 口縁 1/8	一括	(10.6)			10YR3/1 黒褐色 10YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面黒色処理。
2	3	地下式壙	1	土師器器台 脚部のみ	堅坑平坦面 ＋ 40.1		9.0		5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
2	4	地下式壙	6	土師器台付甕 底部 1/2	一括		9.4		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
2	5	地下式壙	7	土師器小型鉢 底部完存～胴部 1/2 強	一括		2.4		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。（ケズリに近い） 内　篦ナデ。	
2	6	地下式壙	8	土師器坏 口縁 1/8	一括	(13.4)			10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
2	7	地下式壙	9	土師器坏 口縁 1/8	一括	(13.0)			2.5YR5/3 黄褐色 2.5Y2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
2	8	地下式壙	11	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/2 灰オリーブ色 5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後ナデ。 内　青海波磨り消し。	外面一部に自然釉付着。
2	9	地下式壙	10	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後ナデ。 内　青海波磨り消し。	
2	10	地下式壙	12	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部丸味を持ち肥厚、口唇部には撚り糸文が施されない。 内　ナデ。	早期撚り糸文系土器。
2	11	地下式壙	14	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　撚り糸文。 内　ナデ。	早期撚り糸文系土器。
2	12	地下式壙	13	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　撚り糸文。 内　ナデ。	早期撚り糸文系土器。
2	13	地下式壙	3	須恵器　胴部	一括				10Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲きと回転カキ目、自然釉付着。 内　青海波半磨り消し。	
3	1	方周 3	7	弥生壷 口縁 1/4 弱残	一括	(18.0)			5YR6/4 にぶい橙色	良好	微砂粒含む	外　口唇部細縄文、口縁部 2 連 2 穴貫通孔付棒状浮文、浮文下に棒状工具による連続刺突文他篦ナデ、頸部凸帯に連続円形刺突文を貼り付ける。 内　篦ナデ。	
3	2	方周 3	9	土師器甑？ 口縁 1/16	一括	(15.4)			10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	輪積み。
3	3	方周 3	46	弥生壷 口縁一部欠	S4-po3	12.6			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、頸部ハケ後ナデ、下位は 7 条以上の S 字状結節文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	2 連一組の焼成前穿孔 2 ヶ所。 遺物の注記が S4-PO3 調査日誌より 3 号に伴うと判明。
3	4	方周 3	1	弥生甕 口縁 1/3	一括	(12.8)			10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
3	5	方周 3	11	土師器坩 口縁 1/5	一括	(10.4)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
3	6	方周 3	10	土師器器台 器台受身 1/5 残	周溝内 +27.5				7.5YR7/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
3	7	方周 3	2	弥生甕 底部完存	一括		7.6		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリに近い篦ナデ。 内　篦ナデ。	
3	8	方周 3	5	弥生甕 底部 2/3 残	一括		8.6		5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ状の篦ナデ。 内　篦ナデ、一部剥離。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
3	9	方周 3	6	弥生甕 底部完存	一括		8.0		10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	1.2 ～ 0.8cmの焼成後底部穿孔。
3	10	方周 3	4	弥生甕 底部 1/2 強残	周溝内 +38		(6.8)		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
3	11	方周 3	3	弥生甕 底部完存	一括		5.6		7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
3	12	方周 3	15	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他条線状のハケ。	
3	13	方周 3	19	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/1 褐灰色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
3	14	方周 3	28	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状のハケ。 内　ハケ。	
3	15	方周 3	24	弥生壺　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部棒状浮文、器面磨耗激しい。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
3	16	方周 3	34	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色	良好	微砂粒含む	外　口唇部細縄文、口縁部棒状浮文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	棒状浮文に 2 連一組の穿孔 2 ヶ所。
3	17	方周 3	41	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR2/2 黒褐色	良好	微砂粒含む	外　口唇部細縄文、口縁部棒状浮文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	棒状浮文に 2 連一組の穿孔 2 ヶ所。
3	18	方周 3	45	弥生壺　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画内ハケ、他細縄文一部篦ナデ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
3	19	方周 3	16	弥生甕　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
3	20	方周 3	20	弥生甕　胴部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
3	21	方周 3	17	弥生壺　胴部	一括				10R3/6 暗赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　3 連の S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
3	22	方周 3	18	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、6 条以上の S 字状結節文。 内　器面剥離激しい。	
3	23	方周 3	21	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 2.5Y2/1 黒色	良好	密	外　細縄文と篦ナデ。 内　篦ナデ。	輪積み痕あり。
3	24	方周 3	43	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	金雲母含む	外　2 連の細縄文。 内　ナデ。	阿玉台式土器
3	25	方周 3	22	弥生甕　胴部	一括				5YR6/6 橙色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
3	26	方周 3	30	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　沈線区画内に円形刺突文。 内　篦ナデ。	
3	27	方周 3	32	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、平行沈線と粗い縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 B 式土器。
3	28	方周 3	39	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部縄文。 内　篦ナデ。	
3	29	方周 3	26	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　爪状工具による連続刺突文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
3	30	方周 3	37	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	微砂粒多 金雲母含む	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
3	31	方周 3	38	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　沈線と縄文。 内　篦ナデ。	
3	32	方周 3	42	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
3	33	方周 3	33	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　懸垂文と縄文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
3	34	方周 3	40	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線と粗い縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 B 式土器。
3	35	方周 3	35	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　沈線と条線。 内　ナデ。	
3	36	方周 3	29	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/1 褐灰色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　粗い縄文。 内　篦ミガキ。	
3	37	方周 3	44	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる波状文。 内　摩耗。	
3	38	方周 3	36	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる渦巻き文。 内　ナデ。	
3	39	方周 3	31	縄文深鉢　底部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
3	40	方周 3	12	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y5/1 黄灰色 2.5Y5/2 暗灰色	良好	密	外　平行敲き。 内　青海波スリ消し。	
4	1	方周 4	38	弥生壺 口縁・胴部一部欠・底部完存	北側周溝底	13.8	9.3		7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部 Z 字状結節文施文後 2 連一組のキザミ付棒状浮文貼り付け、頸部との境目にキザミ目を施す、頸部篦ミガキ、胴部との境目に Z 字状結節文、胴部はハケ後篦ナデ後篦ミガキ、胴部上位に意味不明の線刻を施す。 内　篦ナデ。	
4	2	方周 4	35	弥生壺 口縁・胴部一部欠	東側周溝底	7.2	7.6	26.5	5YR4/6 赤褐～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部篦ナデ、頸部篦ナデ後篦ミガキ、胴部縄文施文後指ナデ、底部付近篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他不明。	
4	3	方周 4	28	弥生甕 底部ほぼ完存	S4-4		7.4		10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。平面図に記載無く位置不明。
4	4	方周 4	33	弥生甕 底部ほぼ完存	S4-4		9.0		10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	〃　〃
4	5	方周 4	13	弥生甕 底部 1/2	S4-4		5.4		10YR4/2 灰黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ、底部抉り有り。 内　篦ミガキ。	〃　〃
4	6	方周 4	15	弥生甕 底部 1/4 弱	S4-4		(8.8)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	〃　〃
4	7	方周 4	32	土師器甕 底部 1/4 強	S4-4		(7.2)		2.5YR4/6 赤褐～ 7.5YR6/6 橙色 7.5Y6/4 にぶい橙色	良好	砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。平面図に記載無く位置不明。
4	8	方周 4	16	弥生壺 口縁 1/4	S4-4	(4.0)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文、口縁部原体押捺、他ハケ。 内　篦ナデ。	出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。平面図に記載無く位置不明。
4	9	方周 4	11	弥生高坏 脚部 1/4	S4-4		(10.8)		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	〃　〃
4	10	方周 4	23	土師器高坏 口縁 1/8	S4-4	(13.2)			7.5YR6/6 橙色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	〃　〃
4	11	方周 4	24	土師器五領ハケ甕 口縁 1/8	S4-4	(13.2)			10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	〃　〃
4	12	方周 4	29	土師器ハケ甕 口縁 1/8 強	S4-4	(18.2)			10R3/1 暗赤灰色 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ	内面赤彩。出土位置を示すと思われる S4-1 ・S4-4 の注記あり。平面図に記載無く位置不明。
4	13	方周 4	31	土師器ハケ甕 口縁 1/4 欠	S4-4				10YR5/6 黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　口縁部篦ナデ、胴部ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	出土位置を示すと思われる S4-1 ・S4-4 の注記あり。平面図に記載無く位置不明。
4	14	方周 4	30	土師器ハケ甕 頸部～胴部 1/4	S4-4				10YR3/1 黒灰色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	1 ～ 2㎜大の褐色の粒含む	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	〃　〃
4	15	方周 4	12	弥生高坏 坏部底部のみ～脚部大半欠	S4-4				10YR6/6 明黄褐～ 2.5Y5/3 黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色　10YR5/6 黄褐色（脚・坏部）	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ（脚部）　篦ナデ（坏部）。 内　剥離激しい（脚部）　篦ナデ、剥離激しい（坏部）。	〃　〃

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
4	18	方周 4	25	土師器 S 字甕　胴部	S4-4				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　ハケ。 内　篦ナデ。	搬入品。出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。 平面図に記載無く位置不明。
4	19	方周 4	26	土師器 S 字甕　胴部	S4-4				10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR6/6 明黄褐色	良好	1 ～ 2㎜大の小石含む	外　ハケ。 内　篦ナデ。	搬入品。出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。 平面図に記載無く位置不明。
4	20	方周 4	21	弥生甕　口縁部	S4-4				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具の原体押捺、他ハケ。 内　ハケ後篦ミガキ。	出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。平面図に記載無く位置不明。
4	21	方周 4	19	弥生甕　口縁部	S4-4				2.5Y5/3 黄褐色 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　篦ナデ。	〃　〃
4	22	方周 4	20	弥生甕　口縁部	S4-4				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　折り返し口縁、篦ナデ。	〃　〃
4	23	方周 4	18	弥生壺　胴部	S4-4				10YR4/2 灰黄褐色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　細縄文、篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	〃　〃
4	24	方周 4	5	弥生壺　胴部	S4- 主体部一括				7.5YR5/6 明褐色 2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　器面剥離激しい。	
4	25	方周 4	17	弥生壺　胴部	S4-4				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。平面図に記載無く位置不明。
4	26	方周 4	36	縄文深鉢 胴部 1/2	方台部内一括				10YR2/1 黒色	良好	砂含む	外　口縁部文様帯は楕円形文、胴部は懸垂文間に縄文。 内　ナデ。	
4	27	方周 4	14	弥生壺　胴部	S4-4				7.5YR6/6 橙～ 10YR5/3 にぶい黄褐色 5YR6/6 橙色	良好	黒い砂粒多く含む	外　細縄文による山形文、器面磨耗激しい。 内　摩耗。	出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。平面図に記載無く位置不明。
4	28	方周 4	8	弥生壺　胴部	S4-1				7.5YR6/6 橙色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　平行沈線による波状文。 内　篦ナデ。	〃　〃
4	29	方周 4	9	弥生壺　胴部	S4-1				2.5YR5/6 明赤褐～ 2.5Y3/1 黒褐色 2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　平行沈線による流水文、篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。 平面図に記載無く位置不明。
4	30	方周 4	4	弥生壺　胴部	S4- 主体部一括				10R4/6 赤～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　細縄文。 内　器面剥離激しい。	外面施文以外赤彩。
4	31	方周 4	34	縄文深鉢　口縁部	S4-4				10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　隆帯間に縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 E 式土器。出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。 平面図に記載無く位置不明。
4	32	方周 4	7	縄文深鉢　胴部	S4- 主体部一括				10R4/4 赤褐～ 10YR4/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
4	33	方周 4	10	縄文深鉢　胴部	S4-1				7.5YR4/6 褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	出土位置を示すと思われる S4-1・S4-4 の注記あり。平面図に記載無く位置不明。
4	34	方周 4	27	縄文深鉢　胴部	S4-4				5YR5/6 明赤褐色 10YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　懸垂文と縄文。 内　篦ナデ。	〃　〃
5	1	方周 7	84	弥生壺 胴部 1/3 残 ・底部完存	一括		5.6		7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　剥離。 内　ハケ後篦ナデ、底部付近にハケ残る。	
5	2	方周 7	1	弥生壺 底部 2/3 弱	一括		7.2		10YR2/1 黒色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ、底部摩耗激しい。 内　器面磨耗激しい。	
5	3	方周 7	6	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。	
5	4	方周 7	5	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR7/6 明黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
5	5	方周 7	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/3 にぶい黄橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部原体押捺、他ハケ。 内　篦ナデ。	
5	6	方周 7	4	弥生甕　口縁部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後ナデ。	
5	7	方周 7	9	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y5/1 黄灰色	やや不良	微砂粒多	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
5	8	方周 7	7	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文。 内　篦ナデ。	
5	9	方周 7	2	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文。 内　篦ミガキ、器面磨耗激しい。	
5	10	方周 7	8	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部細縄文、原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
5	11	方周 7	21	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　S 字状結節文下に細縄文。 内　ナデ。	
5	12	方周 7	11	弥生甕　胴部	一括				10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　ハケ。	
5	13	方周 7	13	弥生甕　胴部	一括				10YR3/1 黒灰色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	外面煤付着。
5	14	方周 7	16	弥生壺　胴部	一括				2.5YR6/4 にぶい橙色 10YR5/2 灰黄褐色	やや不良	微砂粒多	外　羽状縄文後篦ミガキ。 内　摩耗。	外面赤彩。
5	15	方周 7	18	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/1 褐灰色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
5	16	方周 7	20	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/4 にぶい赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　沈線文と縄文。 内　篦ナデ。	
5	17	方周 7	19	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　条痕文。 内　ナデ。	加曽利 B 式土器。
6	4	方周 5	4	弥生甕 口縁 1/3 残	一括	(17.0)			10R6/4 赤色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状の篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
6	5	方周 5	5	弥生壺 口縁 1/4 残	一括	(15.0)			7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
6	6	方周 5	3	弥生壺 口縁 1/2 弱	一括	(8.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
6	7	方周 5	6	弥生甕 底部一部欠	一括		7.0		7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　剥離激しい。	
6	9	方周 5	13	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
6	10	方周 5	21	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/1 褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部キザミ、他篦ナデ。 内　ハケ。	
6	11	方周 5	12	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　器面摩耗、他篦ナデ。 内　折り返し口縁内に刺突文。	
6	12	方周 5	22	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色 7.5YR5/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
6	13	方周 5	11	弥生壺　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　櫛描き波状文と連続刺突文。 内　篦ナデ。	
6	14	方周 5	17	弥生鉢　胴部	一括				10R4/6 赤色 7.5R3/4 暗赤色	良好	密	外　細縄文と S 字結節文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
6	15	方周 5	24	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　沈線文内に縄文。 内　篦ナデ。	
6	16	方周 5	23	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　懸垂文と縄文。 内　篦ナデ。	
7	14	方周 6	1	弥生甕 ほぼ完形	周溝内	22.5	6.5	20.2	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部篦ナデ、頸部一段の輪積み原体押捺、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	遺物のレベル記載なし。（写真図版 10 参照）
7	15	方周 6	2	弥生甕 底部 1/2	周溝内		7.6		7.5R4/6 赤～10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　底部篦ナデ、他篦ミガキ。 内　篦ナデ、やや摩耗。	外面赤彩、摩耗激しく単位不明。 遺物のレベル記載なし。（写真図版 10 参照）

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
8	1	方周 8	2	弥生甕 底部ほぼ完存	一括		4.2		10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　摩耗激しい。 内　摩耗激しい。	
8	2	方周 8	1	土師器甕 底部完存	一括		5.0		10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
8	3	方周 8	4	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　平行沈線内に半載竹管による刺突文。 内　ナデ。	
8	4	方周 8	5	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
8	5	方周 8	3	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
9	1	方周 9	4	土師器壺 ほぼ完形	床 +30	16.4	(9.5)	34.4	10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下端にキザミ目、頸部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、頸部篦ナデ、胴部上位ハケ、下位篦ナデ。	焼成後底部穿孔壺。
9	2	方周 9	15	土師器壺 口縁 1/2 弱欠	周溝底 +25	15.6	9.0	25.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部下端に棒状工具による連続刺突文、頸部～胴部篦ミガキ、底部付近篦ナデ。 内　頸部篦ナデ一部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	焼成後底部穿孔壺。
9	3	方周 9	5	土師器台付甕 裾部 3/4 欠・ほぼ完存	周溝底 +40	18.5	(8.0)	22.6	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部ハケ後篦ナデ、脚部篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ後篦ミガキ、脚部篦ナデ。	
9	4	方周 9	1	土師器壺 胴部下端ほぼ完存	周溝底 +2.2		7.8		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	平面図では 9 号方周内に入っている。
9	5	方周 9	17	土師器甕 口縁 3/4 強	周溝底 +36	16.0			7.5YR3/3 暗褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
9	6	方周 9	16	土師器壺 底部完存	周溝底 +6		6.0		7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
9	7	方周 9	7	土師器鉢 底部完存～口縁全欠	一括	(13.4)	4.6	(6.5)	2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。円形周溝と同時期のハケ。
9	8	方周 9	3	土師器鉢 口縁 1/3	一括	(8.0)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ一部篦ミガキ、体部篦ナデ。	
9	9	方周 9	6	弥生甕 底部完存	周溝底密着		6.6		2.5YR にぶい黄色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	北関東系土器。底部外面木葉痕。
9	10	方周 9	8	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部に櫛状工具による連続刺突文、他ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
9	11	方周 9	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
9	12	方周 9	9	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
9	13	方周 9	13	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　半載竹管による連続刺突文間に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
9	14	方周 9	11	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　羽状縄文と円形竹管文を横位に連続刺突。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
9	15	方周 9	2	弥生広口壺　胴部	周溝底 +12.2				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　頸部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ナデ。	
9	16	方周 9	12	弥生甕　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ナデ。	
9	17	方周 9	14	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、貝殻復縁文。 内　篦ナデ。	
10	1	方周 2	10	土師器甕 口縁 2/3 欠	周溝底 +28	(21.6)	6.4	23.9	7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	
10	2	方周 2	9	土師器甕 ほぼ完形	周溝底 +44	14.0	4.5	13.3	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ一部篦ミガキ、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	外面輪積み痕あり。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
10	3	方周 2	12	土師器台付甕 底部完存～脚部 2/3 口縁全欠	周溝底 +38		9.2		7.5YR2/2 黒褐色 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
10	4	方周 2	7	土師器甕 口縁 1/4	一括	(14.8)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部ハケ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
10	5	方周 2	32	土師器甕 口縁 1/3	一括	(18.5)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
10	6	方周 2	31	土師器甕 口縁～胴部一部欠	周溝底 +28	16.5	4.0	13.2	7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面一部器面剥離。
10	7	方周 2	6	土師器坩 口縁 3/4 ～胴部 1/2	一括	9.6			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部上端ハケ、下端篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
10	8	方周 2	5	土師器高坏 口縁の極一部～坏部 1/4	周溝底 +44	(16.0)			5YR4/6 赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。口縁の残り不良の為、口径の誤差大と推定される。
10	9	方周 2	39	土師器高坏 脚部 1/8 残	一括		(23.6)		5YR6/6 橙色	良好	微砂粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ、内面裾部に意味不明な線刻。	
10	10	方周 2	27	弥生広口口縁壺 口縁 1/8 残・胴部 1/4 残	一括	(16.2)			7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇～頸部縄文、無文帯経て胴部中位よりふたたび縄文を施す。 内　口縁部縄文、胴部篦ナデ。	北関東系土器。
10	11	方周 2	4	土師器高坏 脚部ほぼ完存	一括		8.2		2.5YR4/6 赤褐～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面一部赤彩。
10	12	方周 2	30	土師器甕 底部 1/2	周溝底 +28		6.8		7.5YR2/1 黒色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
10	13	方周 2	2	土師器敲き甕 底部完存	一括		4.4		7.5YR6/6 橙色 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　敲き。 内　ハケ後ナデ。	
10	14	方周 2	38	弥生甕 底部完存	一括		5.3		10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
10	15	方周 2	36	弥生甕 底部完存	一括		5.2		10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　篦ナデ。	
10	16	方周 2	37	弥生甕 底部 1/3 残	一括		(6.9)		10YR5/3 にぶい黄褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ、底部篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
10	17	方周 2	21	弥生壺　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
10	18	方周 2	26	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺。 内　篦ミガキ？	3 段以上の輪積み。
10	19	方周 2	25	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺。 内　篦ナデ。	
10	20	方周 2	22	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後ハケ。 内　篦ナデ後ハケ。	
10	21	方周 2	17	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	微砂粒含む	外　口唇部細縄文、口縁部 13 条の S 字結節文と棒状工具による連続刺突文、体部平行沈線による山形文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。NO-26 と同一個体。
10	22	方周 2	14	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　剥離激しい。	
10	23	方周 2	19	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 10R5/6 赤色	良好	微砂粒含む	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　篦ナデ。	
10	24	方周 2	41	縄文深鉢　胴部	一括				2.5Y7/3 浅黄色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	微砂粒含む	外　半截竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
10	25	方周 2	15	弥生甕　口縁部	一括				5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇～口縁部に細縄文、他ハケ。 内　折り返し口縁に細縄文、他篦ナデ。	
10	26	方周 2	34	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	微砂粒含む	外　口縁部下位に棒状工具による連続刺突文、体部平行沈線による山形文。 内　篦ナデ。	NO-21 と同一個体。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
10	27	方周 2	13	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/6 赤色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　沈線区画に 5 条の S 字結節文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
10	28	方周 2	33	弥生壺　胴部	一括				10YR7/4n にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
10	29	方周 2	18	弥生壺　胴部	一括				10YR4/6 赤色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　沈線下位に細縄文。 内　剥離激しい。	外面施文以外赤彩。
10	30	方周 2	24	弥生壺　胴部	一括				10YR4/1 褐灰色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　羽状縄文と S 字結節文。 内　篦ナデ。	
10	31	方周 2	23	弥生壺　胴部	一括				7.5Y1.7/1 黒色 10YR4/1 褐灰色	良好	微砂粒多	外　頸部に細縄文、他篦ナデ。 内　ナデ。	
10	32	方周 2	16	弥生甕　胴部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
10	33	方周 2	40	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　沈線による懸垂文間に縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 E 式土器？。
10	34	方周 2	35	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	礫含む	外　沈線による懸垂文間に縄文。 内　剥離。	外面赤彩。
10	35	方周 2	28	縄文深鉢　胴部	一括	（16.2）			2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　平行沈線と粗い縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 B 式土器。
11	1	方周 1	1	弥生甕 口縁 1/8 ～胴部 1/4 弱	一括	（20.6）			10YR6/4 にぶい黄橙色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、頸部に一段の輪積み痕。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	外面剥離激しい。
11	2	方周 1	2	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐～ 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と原体押捺、2 連一組の棒状浮文。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
11	3	方周 1	3	弥生壺　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
12	1	方周 10	1	弥生壺 ほぼ完形	東側周溝底 +4	14.4	8.6	32.8	10R4/8 赤色 10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面全面・内面頸部中位まで赤彩。
12	2	方周 10	2	弥生底部穿孔壺 胴部一部欠	東側周溝底 +4	15.9	5.6	19.5	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁下位に棒状工具によるキザミ目、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	焼成後底部穿孔。外面全面・内面頸部上位まで赤彩。
12	3	方周 10	3	弥生鉢 口縁 1/8	北側周溝底 +14	（16.6）			7.5YR6/6 橙色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　口唇部細縄文、他篦ナデ。	
12	4	方周 10	4	土師器甕 胴部 1/4 弱	東側周溝底				10YR4/1 褐灰色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
12	5	方周 10	6	土師器坩 頸部 1/3	一括				7.5YR6/4 にぶい橙～ 5YR5/6 にぶい明赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
12	6	方周 10	5	土師器甕 底部 1/4 弱	北側周溝 +18		（5.9）		7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
13	1	265	1	土師器甕 胴部一部欠	床直	16.4			5YR3/2 暗赤褐～ 5YR5/6 明赤褐色 5YR3/2 暗赤褐～ 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	口縁部内外面赤彩。
13	2	265	4	土師器坩 口縁 1/3	一括	（15.2）	4.0	8.5	10YR3/3 暗褐色 10YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ。底部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ミガキ。底部篦ナデ。	
13	3	265	6	土師器甕 口縁 1/4	一括	（12.0）			5YR5/6 明赤褐色 5YR2/1 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ後篦ミガキ。	
13	4	265	2	土師器甕 底部 3/4	一括		7.1		5YR5/6 明赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
13	5	265	3	土師器甕 底部完存	一括		8.5		7.5YR5/6 明褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
13	6	265	10	土師器坩 底部 2/3	一括		3.4		5YR4/6 赤褐色 5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　丁寧な篦ナデ。	底部に径 1.0cmの焼成後穿孔。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
13	7	265	17	弥生鉢 底部完存	一括		4.2		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
13	8	265	16	縄文深鉢 底部完存	一括		4.8		7.5YR6/6 橙色 7.5YR4/1 褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部外面網代痕。
13	9	265	14	土師器坏 口縁の 2/3	床 +3	15.5		6.5	7.5YR5/4 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部ナデ後篦ミガキ。器面磨耗するが篦ミガキ残る。	外面に輪積み痕残る。
13	10	265	13	土師器坏 口縁の 1/3	床 -1	(15.6)		6.5	10R3/4 暗赤褐色 10R3/6 暗赤褐色	良好	5㎜大の礫目立つ	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部ナデ。	内外面赤彩。
13	11	265	12	土師器坏 口縁の一部欠	床 -6				10R4/6 赤色	良好	5㎜大の礫目立つ	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。底部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。	内外面赤彩。
13	12	265	9	土師器坏 口縁の 1/5	床 +7	(15.2)		4.0	10YR6/6 明黄褐～ 10R4/6 赤色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。底部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	内外面赤彩。底部外面指が入り上げ底。
13	13	265	7	土師器高坏 脚部全欠	床 +3	16.3			10R4/6 赤色	良好	密	外　坏部下端篦ナデ。上端部は磨耗により不明。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
13	14	265	8	土師器高坏 脚部のみ	床直				7.5YR5/6 明褐～ 10R4/6 赤色 7.5YR5/6 明褐色	良好	微砂粒多	外　篦ケズリ。磨耗激しい。 内　坏部篦ナデ。脚部掻き取り後篦ケズリ。	脚内面以外赤彩。
13	15	265	11	土師器器台 口縁・裾部全欠	一括				10R4/6 赤色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
13	19	265	5	土師器手焙り 覆部端部 1/5	一括				5YR5/6 明赤褐色 5YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦状工具による平行沈線により綾杉文を形成。円形竹管の文様配列 3 対 2。　内　篦ナデ。	神門三号墳手焙りと同形同寸。焼成・色調・調整・胎土とも酷似。神門の綾杉文と異なり当方は交差、円形竹管文様配列 2 対 3 が 3 対 2 と逆転する。図は神門手焙りに当方文様配列を組み込んだもの。
14	1	255	1	土師器甕 ほぼ完形	床直	16.6	6.5	27.7	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部縦篦ケズリ後斜め方向の篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
14	2	255	5	土師器甕 口縁完存	床直	16.0			2.5YR4/8 赤褐～ 10YR2/1 黒褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
14	3	255	6	土師器高坏 口縁完存	周溝内一括	14.4			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
14	4	255	2	土師器甕 底部の 1/2	一括		6.5		7.5YR4/3 褐色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	底部突出。
14	5	255	4	土師器甕 胴部の 1/3	床 +1				7.5YR6/6 橙色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
14	6	255	3	土師器甕 底部 2/3 ～胴部 1/2 弱	カマド脇 +4		5.8		10YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
14	7	255	15	土師器甕 底部の 3/4 強	カマド袖 +3		6.8		7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	底部木葉痕。
14	8	255	7	土師器高坏 脚完存～口縁 1/2 弱	カマド	(14.4)	9.7	9.7	10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部ナデ、脚部篦ケズリ後丁寧な横ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
14	9	255	9	土師器高坏 坏部・裾部全欠	床直				2.5YR4/6 赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　縦篦ケズリ後横方向篦ナデ。 内　粗い篦ナデ。	坏部内面・脚外面赤彩。
14	10	255	10	土師器高坏 坏部・裾部全欠	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ。脚部篦ナデ。	
14	11	255	8	土師器高坏 体部 2/3 ～口縁 1/2 弱	P3 底面	(14.0)			5YR4/6 赤褐色 5YR6/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩やや摩耗。部分的に赤彩残る。
14	12	255	13	土師器坏 口縁 1/6	P3 内床 -10	(14.9)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。口唇部須恵器模倣の弱い段。
14	13	255	14	土師器坏 口縁 1/8	一括	(12.2)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	赤味がかるが無彩。
14	14	255	12	土師器坏 口縁 2/3	カマド内一括	16.0			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。外面やや磨耗。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
15	1	253A	4	土師器甕 口縁～胴部 1/2 弱	カマド (火床上 20)	(15.8)			5YR3/4 暗赤褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
15	2	253A	1	土師器甕 口縁 3/4　底部全欠	カマド内	15.0			2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	微砂粒多 (砂 っ ぽい)	外　口縁部ナデ、胴部剥離。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	器面磨耗、剥離激しい。触るとボロボロと崩れる。
15	3	253A	2	土師器甕 胴部一部欠	カマド前面 床直	14.4	6.3	20.0	2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部丁寧な篦ナデ。	かなり赤味強いが赤彩ではない。胎土中まで赤い。
15	4	253A	3	土師器甕 底部完存	カマド内一括	4.8			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	NO-2 とは器厚の違いで別個体？
15	5	253A	9	土師器坩 or 鉢 底部完存	床 +4		3.4		10R4/8 赤色	良好	密	外　底部篦ケズリ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。底部径 0.2cm程の窪み。
15	6	253A	5	土師器坏（塊） 口縁 1/3 ～底部完存	一括	(14.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇～体部ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　ナデ。	内面器面剥離激しい、一部赤彩残る。
15	7	253A	7	土師器坏 口縁 1/5 欠	床 -2	13.3		5.4	10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
15	8	253A	14	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(15.0)			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
15	9	253A	15	土師器高坏 口縁 1/8	一括	(17.6)			10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
15	10	253A	8	土師器高坏 口縁 1/2 弱	周溝内 -2	(14.4)			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	口径（14.4）<=（12.4）。
15	11	253A	6	土師器鉢 口縁 1/4	周溝内 -2	(14.0)			2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
15	12	253A	10	土師器高坏 坏部 1/4 強	床 +13	(14.0)			10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色（脚内）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ後篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
15	13	253A	12	土師器高坏 脚部のみ	床 -2				10R3/6 暗赤色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	5㎜大の礫含む	外　篦ケズリ後篦ナデ、一次整形の篦ケズリの方が目だつ。 内　粗い掻き取り。	外面摩耗激しい。脚部転用砥石。外面赤彩。 脚部外面に大きく 4 ヶ所以上の、刃物をあてがった跡がある。
15	14	253A	11	土師器高坏 脚部のみ	床 +3				10R4/6 赤色 2.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ナデ（丁寧）。 内　篦ケズリ。	外面赤彩。
15	15	253A	16	手捏土器鉢 底部 1/2 強残	一括		3.9		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ。	外面底部に粘土粒付着の跡。 焼成すこぶる安定感悪い。
16	1	253B	1	土師器高坏 坏部 1/4	床 +21	(19.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。灰が付着。
17	1	254	8	土師器甕 ほぼ完形	床 +7	14.8	6.5	29.0	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	外面のケズリ方向は下から上。
17	2	254	1	土師器甕 胴部の一部欠	床 +4	13.0	6.2	26.8	7.5YR5/4 明褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	底部突出。胴部の一部は、横から斜め方向の篦ケズリ。
17	3	254	7	土師器甕 口縁 1/2 欠	床 +8	(15.0)	5.6	28.7	2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
17	4	254	4	土師器甕 口縁の 2/3 欠	床直	(16.0)	6.6	25.5	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ（汚れ激しい）。	
17	5	254	6	土師器甕 胴部の 1/2 欠	床 +17	15.0			7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部以下弱い篦ナデ後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。
17	6	254	11	土師器短頸壺 胴部の一部欠	床 +5	10.8	6.4	17.7	7.5YR4/1 褐 灰 ～ 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	
17	7	254	3	土師器甕 胴部の一部欠	床 +2	14.0	6.0	16.8	10R5/6 赤色（赤彩） 2.5Y6/2 灰黄色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ、頸部ナデ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	外面の 2/3、内面の 1/5 の範囲に赤彩。 底部にゲタ状圧痕はない。
17	8	254	18	土師器甕？ 口縁・底部 2/3 欠	床 +7		(5.1)		10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
17	9	254	2	土師器甕 胴部 1/2 欠	床 +22	(22.1)	7.0	27.2	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　篦ナデ後一部指ナデ。	
17	10	254	10	土師器甕 口 縁 3/4 ～ 胴 部 の 1/2 欠	床 +7	(20.0)	7.4	28.4	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	内面器面剥離やや激しい。全体的に歪みが大きく自力で立つことができない。（底部が土器の中心に存在しない）復元実測。
17	11	254	13	土師器甑 口縁 1/5 欠	床 +5	26.6	9.3	31.3	5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ一部に指押さえ痕残る。	左右の 2 ヶ所に、大きさと位置の異なる把手を持つ。
17	12	254	73	土師器甕 口縁～胴部 1/3 弱	床 +15	(24.0)			7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部ナデ、篦ナデ。	
17	13	254	5	土師器甕 底部全欠・口縁・胴部一部欠く	床 +4	29.5			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
17	14	254	14	土師器甑 胴部一部欠	床 +23	26.8	9.2	21.1	10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
17	15	254	38	土師器甑 口縁 1/4 残	床 +8	(13.6)			10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
17	16	254	12	土師器甑 口縁～胴部の一部欠	床 +22	25.0	5.0	18.4	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	
17	17	254	15	土師器鉢 ほぼ完形	床 +17・+22	28.0	5.2	18.0	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
17	18	254	16	土師器鉢 胴部一部欠	床 +24	29.2	4.8	16.7	5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR5/6 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
17	19	254	17	土師器鉢 口縁 1/2 残・底部全欠	床 +10・+41	29.1			7.5YR4/4 褐色 7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
17	20	254	23	土師器鉢 完形	床 +9	15.8	6.9	7.2	5YR5/6 明赤褐色 10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	外面の（ナデの範囲）と内面赤彩。
17	21	254	9	土師器短頸壺 口縁～胴部の 1/2	床 +9	(13.3)			2.5YR5/6 赤褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ。	
17	22	254	25	土師器坏 口縁胴部の一部欠	床 -1	16.0		7.7	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。内面磨耗激しい。 赤彩色は 10R4/4 赤褐色、部分的に残る。
17	23	254	24	土師器坏 ほぼ完形	床 +35	16.0		7.1	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後弱い篦ミガキ。	内外面赤彩。大型品。 かなり赤っぽい胎土であるが、赤彩の痕跡が認められる。
17	24	254	26	土師器坏 口縁 2/3 欠	床 +9	(13.0)		5.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦後篦ミガキ。	内外面赤彩。胎土自体が赤く焼き上っているが、内外面に赤彩の痕跡があるため恐らく赤彩であろう。立ち上がり部分の内外面の器面剥離激しい。
17	25	254	35	土師器坏 口縁～底部 1/4 欠	床 -6 ？	12.8		5.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
17	26	254	31	土師器坏 口縁 1/4 欠	床 -2	12.3		5.1	7.5YR5/6 明褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
17	27	254	28	土師器坏 ほぼ完形	床 +4	12.6		5.8	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部ナデ。	内面器面磨耗激しい。赤彩痕跡は内外面とも認められない。
17	28	254	43	手捏土器鉢 口縁大半欠	一括	(5.1)	3.8	3.3	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ、指押さえ。 内　指ナデ。	外面指紋残る。
17	29	254	44	手捏土器鉢 口縁～胴部 3/4	一括	5.1		2.1	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ、指押さえ。 内　指ナデ。	外面指紋残る。
17	30	254	27	土師器坏 全体 1/2 弱残	一括	(12.4)		5.4	10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内面の一部に煤付着。
17	31	254	32	土師器坏 完形	床 +6	12.3		4.8	10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
17	32	254	19	土師器高坏 脚裾 2/3	床 +5	14.0	（10.2）	10.4	5YR5/6 明赤褐色 2.5Y6/2 灰黄～ 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁、脚裾部ナデ、坏～脚部篦ケズリ。 内　摩耗により不明（坏部）、脚部篦ケズリ、裾部ナデ。	脚部内面以外赤彩。
17	33	254	21	土師器高坏 坏部 2/3 欠	床 +20	（13.5）	9.6	11.0	5YR5/6 明赤褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　脚部篦ケズリ。 内　脚部篦ナデ。	脚部内面以外赤彩。坏部内外面磨耗激しい。
17	34	254	20	土師器高坏 口縁 1/3 欠・坏部 1/3 欠	床 +14	13.8	10.8	11.0	5YR6/6 橙色	良好	褐色粒多	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　坏部篦ナデ、脚部篦ケズリ。	脚部内面以外赤彩。内外面器面やや磨耗激しい。
17	35	254	22	土師器高坏 口縁一部・脚裾部全欠	床 +24	11.5			10R3/4 暗赤褐色 10R8/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ケズリ残る丁寧な篦ナデ。 内　坏部丁寧な篦ナデ、脚部丁寧な篦ケズリ。	脚部内面以外赤彩。 脚の 3 方に長三角形の透かし。透かし窓は丁寧な面取り。 TK23 以降の模倣高坏と考える。
17	36	254	36	土師器坏 口縁 1/2 欠	床 +15	12.2		4.6	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	口唇部は須恵器状の面取り。明瞭な段とはならない。
17	37	254	30	土師器坏 口縁 1/3 強残	床 +35	（12.8）		（4.9）	2.5YR5/6 明赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面器面剥離やや激しい。 口唇部は弱い凹面状を呈し、須恵器の造りに近い。
17	38	254	75	土師器坏 口縁 1/4 弱残	床 +24	（13.0）			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　篦ナデ。	口唇端部は緩やかな凹面状の段をなし、より須恵器の造りに近い坏である。
17	39	254	29	土師器坏 口縁 1/3 欠	床 +4	13.0		5.3	5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	外面やや剥離あり。
17	40	254	34	土師器坏 口縁 1/3 ～胴部 1/2 残	一括	（13.0）		5.6	5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
17	41	254	33	土師器坏 完形	床直	12.0		4.7	10YR4/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。	内面黒色処理。
17	42	254	41	土師器鉢 口縁 1/4	床 +15	（7.0）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、体部篦ナデ。	
17	43	254	42	須恵器甕 肩部極一部	床 +20				5Y6/1 灰色	良好	1㎜大の白色粒含む	外　ロクロ、胴部最大径付近に列点文。 内　ロクロ。	
17	51	254	49	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR2/4 灰黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による刺突文。平行沈線間に三角形の刺突文。 内　ナデ。	前期浮島系式土器。
17	52	254	62	縄文深鉢　口縁部	床 +5				2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　半截竹管による連続刺突文。 内　ナデ。	前期諸磯系土器。
17	53	254	53	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	前期諸磯系土器。
17	54	254	65	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6 褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　半截竹管による連続刺突文。 内　ナデ。	前期諸磯系土器。
17	55	254	58	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	後期加曽利 B 式土器。
17	56	254	63	縄文深鉢　胴部	床 +14				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線文と刺突文。 内　篦ナデ。	前期諸磯系土器。
17	57	254	61	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	前期諸磯系土器。
17	58	254	51	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	前期諸磯系土器。
17	59	254	48	縄文深鉢　胴部	一括				10YR3/3 暗褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	微砂粒多	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	後期加曽利 B 式土器。
17	60	254	54	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	前期諸磯系土器。
17	61	254	66	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	前期諸磯系土器。
17	62	254	68	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　太い平行沈線文。 内　ナデ。	後期加曽利 B 式土器

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
17	63	254	52	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	前期諸磯系土器。
17	64	254	64	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	前期諸磯系土器。
17	65	254	59	縄文深鉢　底部	一括				7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　三角形の連続刺突文。 内　ナデ？。	前期諸磯系土器。
17	66	254	57	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
17	67	254	55	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
17	68	254	60	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	砂粒多	外　連続刺突文と平行沈線文。 内　篦ナデ。	
17	69	254	56	弥生装飾壺　胴部	床 +7				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　S 字状結節文と細縄文。 内　篦ナデ。	
17	70	254	50	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
18	1	264	3	弥生甕 底部 1/3	一括		(6.8)		10YR6/4 にぶい黄橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
18	2	264	1	土師器甑 底部 1/6	一括		(9.6)		7.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	17 号に伴う。
18	3	264	4	弥生壺 底部 1/5	一括		(6.4)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離激しい。	
18	5	264	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 5YR6/6 橙色	良好	白色小石含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。	
18	6	264	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部ハケ。 内　ハケ。	
18	7	264	10	弥生甕　口縁部	一括				5Y2/1 黒色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
18	8	264	6	弥生鉢　口縁付近	一括				7.5YR6/6 橙色 7.5Y2/1 黒色	良好	密	外　口縁部 S 字状結節文と連続刺突文、胴部櫛描き波状文。 内　篦ミガキ。	
18	9	264	8	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線文と細縄文。 内　篦ミガキ。	
18	10	264	9	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙～10R4/6 赤色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線の上位に S 字状結節文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
18	11	264	12	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ、櫛描き文。 内　篦ナデ。	
20	1	236	17	土師器坏 全体 1/5	一括	(11.0)			10YR1.7/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
20	2	236	9	土師器坏 全体 1/2 強	一括	11.5		3.7	10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。有段口縁坏。
20	3	236	16	土師器坏 口縁 1/4	一括	(11.4)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面黒色処理の痕残る。
20	4	236	14	土師器坏 全体 1/3	床 +11	(11.4)			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
20	5	236	15	土師器坏 口縁 1/4	一括	(11.5)			10YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
20	6	236	10	土師器坏 全体 1/2	一括	10.4			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
20	7	236	27	須恵器蓋 全体 1/4	一括	(10.8)			2.5YR5/1 黄灰色	良好	密	外　ロクロ回転篦ケズリ、切り離し後手持ち篦ケズリ。 内　ロクロナデ。	ロクロ回転逆時計廻り。
20	8	236	26	須恵器[illegible] 胴部極一部	一括				5Y4/1 灰色 5Y5/1 灰色	良好	密	外　ケズリ後ロクロナデ？一部自然釉付着。 内　ロクロナデ、一部自然釉付着。	小片の為単位不明。
20	9	236	28	須恵器蓋 or 鉢 口縁極一部	一括				2.5Y3/1 黒褐色	良好	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	小片の為単位不明。造りは非常に丁寧。半島系の製品か？
20	10	236	29	須恵器高坏 脚部 1/10	一括		(11.6)		7.5Y6/1 灰色 7.5Y4/1 灰色	良好	密	外　灰色の自然釉。端部はシャープで鋭い。 内　ナデ。	長三角形４方透かしに復元可。 断面はあずき色。よく焼き上がっている。
20	11	236	24	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(17.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
20	12	236	8	土師器坏 全体 1/2 弱	一括	(11.8)			10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
20	13	236	13	土師器坏 全体 1/4	一括	(11.6)			10YR4/2 褐灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。外面輪積み痕あり。
20	14	236	18	土師器坏 口縁 1/5	床 +34	(12.0)			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　器面磨耗激しい。 内　器面磨耗激しい。	内外面黒色処理。内外面摩耗激しい。
20	15	236	25	土師器坏 口縁 1/16	一括	(14.8)			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	有段口縁坏。 小片の為単位不明。
20	16	236	11	土師器坏 全体 1/3	一括	(10.9)		(3.5)	7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
20	17	236	19	土師器坏 口縁 1/5	一括	(10.6)			5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
20	18	236	21	土師器高坏 脚部（裾・坏部欠）	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
20	19	236	12	土師器高坏 1/3 弱	床 +3	(12.7)	9.8	8.3	5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ、脚部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ、脚部篦ケズリ。	脚内面以外黒色処理。
20	20	236	4	土師器甕 全体 1/3	床 +32	(16.8)	6.5	(22.2)	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
20	21	236	5	土師器甕 口縁 1/4	床 +15	(15.0)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
20	22	236	38	土師器小型甕 底部大半欠	床 +21	14.4	(6.8)	11.0	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
20	23	236	2	土師器甑 全体 1/3	床 +11	27.3			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
20	24	236	1	土師器甑 全体 3/4	一括	27.2	(9.3)	27.1	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。	
20	25	236	23	土師器甕 口縁 1/4	床 +16	(12.0)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　器面磨耗激しい。 内　器面磨耗激しい。	内外面摩耗激しい。
20	26	236	7	土師器甕 底部完存	一括		7.4		5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
20	27	236	20	土師器鉢 底部 1/5	一括		(7.0)		10YR2/1 黒色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	内外面黒色処理。底部木葉痕。
20	28	236	6	土師器甕 底部完存	床 +6		7.0		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　ナデ。	
20	29	236	3	土師器甑 全体 3/4	床 +3	29.6			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
20	32	236	31	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
20	33	236	36	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部に細縄文による羽状縄文。 内　篦ナデ。	
20	34	236	33	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
20	35	236	32	弥生壺　口縁部	一括				2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
20	36	236	34	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　細縄文による羽状縄文を施す　他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	文様部分は無彩、他赤彩。
20	37	236	35	弥生壺　胴部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　ハケ後平行沈線文。 内　篦ナデ。	
21	1	237A	1	土師器甕 口縁 2/5 ～底部 4/5	床 +3	(26.1)	8.7	29.3	5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
21	2	237A	2	土師器小型甕 口縁 1/4 ～底部 3/4	床 +3	(13.4)	5.3	12.6	5YR3/2 暗赤褐色 5YR3/4 暗赤褐色	良好	1 ～ 2㎜大の礫多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
21	3	237A	14	土師器甕 底部完存	カマド内		4.8		2.5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒 やや多い	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
21	4	237A	3	土師器高坏 坏部 1/3 ～脚部完存 裾部全欠	床 +6	(14.8)	(10.0)	(9.6)	2.5YR4/6 赤褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色（脚内面）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ、脚部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ケズリ。	脚内面以外赤彩。
21	5	237A	4	土師器高坏 脚部完存～坏部 1/2 口縁全欠	カマド火床 +5		9.0		2.5YR4/8 赤褐色 2.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　体部～脚部篦ケズリ、裾篦ナデ。 内　体部篦ナデ、脚部篦ケズリ、裾部ナデ。	外面は摩耗により、赤彩が殆ど飛ぶ。 脚部内面赤彩非常に珍しい。
21	6	237A	5	土師器高坏 脚部 2/3	カマド火床 +5		10.2		2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。 内　体部篦ナデ、脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	内外面やや摩耗激しく、赤彩飛ぶ。
21	7	237A	9	土師器高坏 脚部 1/2・裾部欠	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ 内　粗い掻き取り状の篦ケズリ。	22 号一括と接合。
21	8	237A	11	土師器坏 口縁 1/4	床 +28	(14.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
21	9	237A	10	土師器坏 口縁 1/3	床 +28	(12.9)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
22	1	238	1	土師器甕 口縁 1/3 ～底部 1/3	床 +8	(16.4)	(9.2)	(25.4)	7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	接合しないが全体の層状がわかる。
22	2	238	2	土師器甕 口縁 1/4 弱	床 +14	(18.2)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
22	3	238	4	土師器短頸壺 口縁 1/6	床 +34	(14.4)			10R4/6 赤色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、篦ナデ。	内外面赤彩。
22	4	238	6	土師器坏 全体 1/3	床 +14	(15.0)		(6.1)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	おそらく平底、内面篦ミガキによる放射状暗文。 内外面赤彩。
22	5	238	12	土師器高坏 脚部裾大半欠く	床 +16		(9.6)		10R4/6 赤色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ケズリ。	外面赤彩。
22	6	238	9	土師器坏 口縁 1/3	一括	(12.6)		(5.6)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内面やや摩耗。土器胎土自体が赤い土器で赤彩ではない。
22	7	238	11	土師器高坏 脚部のみ	床 +16				10R4/6 赤色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　掻き取り後篦ナデ。	外面赤彩。
22	8	238	10	土師器坏 底部完存	一括		4.0		5YR5/4 にぶい赤褐色 10R4/6 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
22	9	238	5	土師器台付甕 脚部 1/3	一括		(8.8)		7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
22	10	238	14	弥生壺　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色 10R3/4 暗赤色（赤彩）	良好	微砂粒多	外　折り返し口縁、口唇部下端キザミ目、他細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
22	11	238	22	弥生甕　口縁部	床 +12				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、ハケ。 内　ハケ。	
22	12	238	16	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
22	13	238	17	弥生甕　口縁部	一括				5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、櫛描き文。 内　篦ナデ。	
22	14	238	25	縄文深鉢　口縁部	床 +44				2.5YR4/6 赤褐色	良好	繊維含む	外　斜行縄文。 内　ナデ。	
22	15	238	21	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、ハケ。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
22	16	238	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、ハケ。 内　ハケ後ナデ。	
22	17	238	20	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線による流水文。 内　篦ナデ。	
22	18	238	19	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ミガキ。	
22	19	238	15	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文。 内　篦ナデ。	
24	1	235	3	弥生広口壺 口縁 1/4 強残	一括	(9.8)			10YR6/4 にぶい黄橙色 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口縁～頸部細縄文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
24	2	235	10	手捏土器鉢 口縁全欠 胴～底部 2/3 残	床直		3.5		10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　指ナデ。 内　ハケ後指ナデ。	
24	3	235	2	土師器甕 口縁 1/5 弱残	一括	(11.6)			7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
24	4	235	1	土師器甕 底部 1/2 残	一括		4.5		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
24	5	235	7	弥生甕　口縁部	一括				5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
24	6	235	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他条線状のナデ。 内　条線状のナデ。	
24	7	235	6	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　篦ミガキ。	
24	8	235	5	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　3 条の平行沈線。 内　篦ナデ。	外面施文以外は赤彩。
24	9	235	9	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	
25	1	222	3	土師器甕 口縁、胴部の一部欠	床直	21.7	7.2	18.0	2.5YR4/6 赤褐色	良好	2㎜大の礫多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
25	2	222	4	土師器鉢 全体 1/6	床 -1	(14.4)			5YR4/6 赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
25	3	222	2	土師器甕 口縁 1/8	一括	(23.0)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ一部篦ケズリ後ナデ。 内　口縁部ナデ一部篦ナデ。	須恵器模放甕。
25	4	222	1	土師器小型壺 完形	P1 内	8.8	4.7	12.1	2.5YR4/4 にぶい赤褐色 5YR3/2 暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部指ナデ、胴部粗い篦ケズリ後一部指ナデ、底部粗い篦ケズリ。 内　口縁部指ナデ、胴部指ナデ。	底部には粘土のかたまりが付着したまま焼成される。 かなり粗い造りで手捏に近い。内面輪積み明瞭。
25	5	222	7	土師器坏 口縁 1/4 欠	床 +3	12.2		5.0	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部粗い篦ケズリ。 内　丁寧な篦ナデ。	
25	6	222	9	土師器坏 口縁 1/4	一括	(13.1)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
25	7	222	11	土師器坏 口縁一部欠	床-2	12.0		6.0	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ（少し粗め）。 内　全体ナデ。	赤味強いが赤彩ではない。
25	8	222	6	土師器高坏 坏部2/3強	一括	14.7			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
25	9	222	15	須恵器蓋 天井部一部～口縁部極一部	一括	(12.8)			7.5Y4/1 灰色 7.5Y5/1 灰色	良好	密	内外　ロクロ整形。	天井部と口縁部を分ける稜は突出するも鈍い。 口唇部は段をなすが、外面は自然釉により調整やや不明瞭。
25	10	222	12	土師器坏 口縁一部欠	火床直上	12.6		5.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部粗い篦ケズリ。 内　ナデ。	口唇部須恵器状に面取り。 赤彩は施されないが、赤味の強い胎土である。
25	11	222	13	土師器坩 口縁～頸部1/4弱	一括	(15.4)			2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
25	12	222	5	土師器高坏 はぼ完形	カマド火床	13.4	9.8	10.1	10R4/8 赤～5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体～脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。 内　坏部ナデ、脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩一部赤彩とぶ。 支脚転用坏。
25	13	222	8	土師器坏 口縁1/4	一括	(15.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
25	14	222	14	土師器高坏 脚部2/3	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　粗い篦ケズリ後篦ナデ。	脚の3方に長三角形透かし。
26	1	221	4	土師器甕 口縁1/4	貯蔵穴底	(19.8)			10YR3/3 暗褐色	良好	微砂粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	
26	2	221	1	土師器短頸壺 口縁1/4強～底部完存	床直	(13.8)	4.2	8.5	10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色（内面赤彩以外）	良好	5㎜大礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面赤彩・内面胴部中位まで赤彩。
26	3	221	2	土師器坏 口縁1/4～底部完存	カマ内	(14.4)		6.3	10R4/6 赤色	良好	5㎜大礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
26	4	221	7	土師器高坏 口縁1/8	一括	(25.8)			7.5YR4/4 褐色	良好	2㎜大礫多	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	布留系大型高坏。
26	5	221	8	土師器高坏 口縁1/8	一括	(18.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
26	6	221	13	土師器高坏 脚部完存	床直		9.5		10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
26	7	221	10	土師器坏 口縁1/4弱	一括	(10.6)			5YR5/6 明赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後一部篦ミガキ。	内面黒色処理。
26	8	221	3	須恵器蓋 口縁一部・天井部1/4	一括	(12.2)		(4.5)	10Y3/1 オリーブ黒色 7.5Y5/1 灰色	良好	2㎜大白色粒含む	外　天井部3/4の範囲を逆時計廻りの回転篦ケズリ。稜はやや鋭く突出、天井部は丸く仕上げる。 内　ロクロナデ、端部は凹面をなして内傾するが、明瞭な段を成すまでに至っていない。	稜の鋭さや端部の仕上げが凹面をなして内傾するなど、やや古い様相を残しながらも、天井部の仕上がりは丸く、立ちあがりも低い。TK23併行段階と考える。外面の自然釉は、特に稜付近に集中し、ケズリ範囲もやや不明瞭。
26	10	221	19	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
26	11	221	15	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
26	12	221	20	弥生鉢　口縁部	一括				10R3/6 暗赤色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部直下に指頭による押捺文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
26	13	221	21	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　櫛状工具による平行沈線文。 内　篦ナデ。	
26	14	221	16	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 10R6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文による羽状縄文とS字状結節文、他篦ミガキ。 内　器面磨耗。	外面赤彩。
26	15	221	18	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 10R6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文とS字状結節文、他篦ミガキ。 内　器面磨耗。	外面赤彩。
27	1	232	6	土師器甕 口縁1/4	カマド内	(18.0)			10YR2/2 黒褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
27	2	232	7	土師器短頸壺 口縁 1/4	カマド内	(11.0)			10R3/6 暗赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
27	3	232	3	土師器高坏 口縁 1/8	一括	(16.8)			10R4/8 赤色	良好	5㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、篦ナデ。 内　口縁部ナデ、篦ナデ。	内外面赤彩。
27	4	232	2	土師器高坏 口縁全欠・坏部 2/3	床直				10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、篦ナデ。 内　口縁部ナデ、篦ナデ。	内外面赤彩。
27	5	232	4	土師器高坏 口縁 1/6	一括	(14.6)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、篦ナデ。 内　口縁部ナデ、篦ナデ。	内外面赤彩。外面に一条の沈線。
27	6	232	1	土師器高坏 ほぼ完形	カマド内	18.9	13.0	12.5	10R4/8 赤色 10R4/8 赤～ 2.5YR4/6 赤褐色	良好	1 ～ 5㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部指による掻き取り。裾篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
27	7	232	8	土師器壺 底部完存・口縁全欠	床直		2.7		10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。頸部に円形竹管による連続刺突文。 内　ナデ。輪積み明瞭。	胴部 1 ヶ所に焼成後穿孔。
27	8	232	9	手捏土器鉢 底部完存・口縁全欠	一括		3.7		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
28	1	231A	10	土師器 S 字甕 全体 2/3 残	一括	14.9	9.4	27.5	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　指ナデ。	
28	2	231A	34	弥生（土師器）甕 ほぼ完形	P3 底面	21.9	7.7	21.9	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ後ナデ一部篦ミガキ、胴部篦ミガキ。	胴部下端径 1.0cm程の焼成後穿孔。
28	3	231A	9	土師器二重口縁部壺 胴部一部欠	一括	13.2	6.4	18.9	10YR6/3 にぶい黄褐色～ 2/1 黒色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁～頸部ハケ、胴部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁～頸部ハケ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
28	4	231A	3	土師器坩 口縁 1/4 ～底部 3/4	一括	(11.0)	3.5	12.0	5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
28	5	231A	35	土師器坩 口縁 1/4 ～頸部 1/2	一括	(16.6)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
28	6	231A	5	土師器坩 底部 1/3 ～胴部 2/3	一括		(3.7)		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ、頸部指ナデ。	（赤彩ではない）。
28	7	231A	4	土師器坩 口縁～胴部 4/5	一括	(9.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
28	8	231A	12	土師器小型甕 口縁～胴部 1/4	一括	(11.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
28	9	231A	2	土師器坩 胴部ほぼ完存～口縁 1/8	一括	(8.2)	3.4	9.2	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	歪みを復元。
28	10	231A	7	土師器坩 1/2 強	一括	7.5	6.0	7.5	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	輪積み残る。
28	11	231A	8	小型広口壺 口縁 1/4 ～胴部一部欠	一括	9.1	4.8	9.5	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	NO-22 に似る。
28	12	231A	16	土師器鉢 胴部 1/8	一括	14.0			2.5Y4/4 にぶい赤褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面口縁部赤彩。　非常に薄く造られる。
28	13	231A	19	土師器小型甕 口縁 1/6	一括	(10.2)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
28	14	231A	20	土師器坩 口縁 1/3	一括	(8.6)			10R5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
28	15	231A	6	土師器坩 口縁の 2/3	一括	8.6			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
28	16	231A	15	土師器坩 口縁 1/3	一括	(10.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
28	17	231A	13	土師器坩 口縁 1/3	一括	(8.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	口縁部内面に明瞭な段。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
28	18	231A	22	土師器小型甕 口縁 1/4	一括	(11.8)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ 内　口縁部ナデ。	
28	19	231A	18	土師器坩 口縁 1/4 弱	一括	(8.8)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
28	20	231A	14	土師器坩 口縁の 5/6	一括	9.8			10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ナデ。	頸部外面 2 連一組の径 0.3cm程の穿孔。
28	21	231A	17	土師器坩 口縁の 1/4	一括	(7.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ナデ、胴部指ナデ。	
28	22	231A	24	土師器小型広口壺？ 底部完存	一括		5.4		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	NO-11 に似る。
28	23	231A	23	土師器坩 底部完存	一括		3.8		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　底部篦ケズリ。 内　底部粗い篦ナデ。	
28	24	231A	11	土師器器台 口縁 1/2 ～底部 3/4	一括	(7.8)	(16.6)	7.2	10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色（脚部）	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部ハケ後篦ナデ、裾部篦ナデ後ナデ。	脚内面以外赤彩。脚の 3 方に穿孔。
28	25	231A	29	弥生壺　口縁部	一括				2.5Y2/2 極暗赤褐色	良好	密	外　口唇部棒状浮文 3 連。 内　篦ミガキ。	
28	26	231A	31	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	砂粒多	外　平行沈線による山形文。 内　篦ナデ。	
28	27	231A	30	弥生壺　口縁部	一括				5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、篦ミガキ。 内　口唇部篦ミガキ。	内外面赤彩。
29	1	231B	1	土師器埦　ほぼ完形	床面	12.2	5.4	10.5	10YR3/2 黒褐色	良好	1㎜大の小礫多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	29 号より 27 号に伴う可能性が強い。
31	1	234A	2	弥生甕 全体 1/3	床 +11		7.6		7.5YR4/6 褐～ 7.5YR2/1 黒色 7.5YR4/4 褐色	良好	砂含む	外　頸部円形刺突文間に羽状縄文、胴部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
31	2	234A	1	土師器坏 口縁 1/2 弱欠	一括	12.6		3.9	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
31	3	234A	4	弥生壺 胴部 1/6	一括				7.5YR4/4 褐～ 7.5YR2/1 黒色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	砂粒含む	外　頸部と胴部中位に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
31	4	234A	3	弥生甕 底部全欠	床 +7	25.4			5YR3/2 暗赤褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。	
31	5	234A	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
31	6	234A	8	弥生甕　口縁部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
31	7	234A	9	弥生甕　口縁部	床 +7				10YR5/6 黄褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
31	8	234A	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
31	9	234A	6	弥生甕　口縁部	一括				5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
31	10	234A	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄褐色（口縁部） 10R4/4 赤褐色（胴部） 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口唇部口縁部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
31	11	234A	10	弥生甕　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
32	1	234B	4	土師器坏 口縁 1/8	一括	(13.0)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
32	2	234B	1	土師器甕 底部 1/3 欠	一括		(7.0)		7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
32	3	234B	2	土師器甕 底部 1/4 強	一括		(4.2)		10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
32	4	234B	3	土師器高坏 脚部 1/2 弱	一括				2.5YR4/6 赤褐色（坏部内外） 2.5YR4/6 赤褐色（脚部） 7.5YR5/6 明褐色（脚部）	良好	密	外　篦ナデ（脚部） 内　篦ナデ（坏部・脚部）	脚部外面・坏部内面赤彩。
32	5	234B	10	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/4 褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	
32	6	234B	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
32	7	234B	5	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、羽状縄文。 内　篦ミガキ。	
32	8	234B	9	弥生甕　胴部	一括				7.5YR1.7/1 黒色 7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　胴部原体押捺。 内　ナデ。	
32	9	234B	8	弥生壺　口縁部	一括				10YR4/6 赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、粘土紐貼り付け凸帯部に円形竹管抜取り痕あり。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
32	10	234B	12	縄文壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	砂粒含む	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
33	1	224	4	土師器鉢 口縁 1/4 ～底部 4/5	床 +7	(20.4)	5.8	21.0	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
33	2	224	8	土師器坏 口縁一部欠	P5 内 -29	10.5	2.8	5.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。外面の底部のみ赤彩が施されない。 平底の坏。
33	3	224	5	土師器坏 全体の 2/3	床直	13.8		6.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。底部外面意味不明の線刻。
33	4	224	7	土師器坏 口縁 1/3	一括	(14.4)			10R6/3 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
33	5	224	12	土師器坏 底部完存～口縁 1/12	一括	(13.0)		6.7	10R3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。 内外面摩耗により、ケズリとナデの単位不明。
33	6	224	6	土師器坏 全体の 1/3 強	床 +8	(13.4)		5.2	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	篦ケズリ十分ではない。土器外面に亀裂あり。
33	7	224	13	土師器小型鉢 完形	P5 内 -33	7.8	4.0	3.8	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
33	8	224	1	須恵器壺 胴部の一部	一括				5Y7/1 白灰色	良好	密	外　格子風敲き。回転カキ目。 内　同心円文（青海波）を丁寧に磨り消すも、中央が円形凹帯として残る。	
33	9	224	2	土師器甕 底部完存	一括		6.8		7.5YR4/4 褐色	やや不良	微砂粒多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	やや砂っぽい。
33	10	224	3	土師器甕 底部完存	床 +8		5.6		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内面器面やや摩耗。
33	11	224	9	手捏土器鉢 底部完存	一括	3.1			10YR4/3 にぶい黄褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	内面赤彩。
33	13	224	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/1 褐灰色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、他ハケ。 内　篦ナデ。	
33	14	224	18	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、他ハケ。 内　ハケ後ナデ。	
33	15	224	20	弥生鉢　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
33	16	224	16	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口唇部Ｓ字状結節文と原体押捺、頸部篦ミガキ。 内　器面剥離激しい。	
33	17	224	19	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文施文後、三連の棒状浮文貼付け、口縁部下端指頭押捺文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
33	18	224	17	弥生鉢　口縁部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
33	19	224	22	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文施文後、円形浮文貼付け、口縁部下端指頭押捺文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
33	20	224	15	弥生鉢　胴部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　羽状縄文と３連のＳ字状結節文。 内　篦ナデ？。	内面摩耗激しい。
35	1	223	2	土師器坩 胴部 1/2 弱	一括				10R5/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
35	2	223	1	土師器甕 底部 1/3	床 +5		(9.0)		7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
35	3	223	4	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR5/6 橙色	良好	密	外　口唇部にキザミ、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
35	4	223	6	弥生鉢　口縁付近	一括				外？ 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文とＳ字状結節文、他原体押捺。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
35	5	223	5	弥生壺　頸部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　細縄文と櫛描き文。 内　篦ナデ。	
35	6	223	3	弥生壺　胴部	床 +5				10R4/6 赤～ 7.5YR6/8 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線による山形文に羽状縄文とＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
36	1	229	1	土師器甑 口縁 1/3	周溝上　床 +9	(23.0)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
36	2	229	15	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/8	床 +7	(20.4)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　折り返し口縁、ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
36	3	229	16	土師器坩 口縁 1/8	一括	(13.6)			2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	外面赤彩。
36	4	229	25	土師器鉢 口縁 1/6	一括	(14.8)			5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ後粗い篦ミガキ。	
36	5	229	3	土師器甕 底部完存～胴部中位	カマド内一括				7.5YR3/2 黒褐色	良好	微砂粒多	外　器面剥離。 内　篦ナデ。	丸底の甕。
36	6	229	13	土師器鉢 口縁 1/4 ～底部 1/3 底部中央欠	床 +8	(12.6)	(6.6)	6.1	7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ	内面黒色処理。
36	7	229	9	土師器坏 2/3 残	床 +7	15.8		5.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
36	8	229	10	土師器坏 口縁 1/2 強～底部極一部残	一括	15.0	(6.2)	5.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
36	9	229	14	土師器坩 口縁 1/2 弱	一括	(7.4)			10R4/6 赤～ 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ後篦ミガキ、胴部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。	外面全面 ・内面口縁部赤彩。
36	10	229	11	土師器鉢 底部 1/2 ～口縁 1/6	一括	(6.2)	4.6	4.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
36	11	229	12	手捏土器鉢 底部完存～口縁 1/2 弱	床 +4	(6.4)	4.8	3.8	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
36	12	229	5	土師器高坏 口縁 1/3・脚裾端部全欠	床 +2　床直	15.2	(9.2)	11.9	10R4/6 赤色	良好	1㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、体～脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚内面篦ケズリ、裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。内面器面磨耗激しい。
36	13	229	7	土師器高坏 口縁 1/2 強残 ・ 脚全欠	床 +5	14.7			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。器面やや摩耗。
36	14	229	6	土師器高坏 口縁 1/3 ～体部 1/2	床 +8	(14.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
36	15	229	29	手捏土器鉢 口縁全欠底部完存	一括		4.0		7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　ハケ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
36	16	229	28	手捏土器鉢 完形	一括	4.0	3.8	2.0	2.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
36	17	229	8	土師器高坏 脚部のみ・裾部全欠	床 +22				10R4/6 赤色 7.5YR4/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
36	18	229	26	土師器高坏 （脚裾部 2/3 欠）	一括		(8.4)		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部篦ケズリ。	脚内面以外赤彩。
36	21	229	18	弥生鉢　口縁部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文、胴部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
36	22	229	31	須恵器甕　胴部	一括				10Y8/1 灰白色	良好	密	外　平行敲きと回転カキ目。 内　青海波を丁寧にスリ消す。	
37	1	227	1	土師器甕 口縁部完存・胴部 2/3	床 +7	11.3			10R4/8 赤色 10R4/8 赤～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ　胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ　胴部篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。 口縁～頸部のナデ特に丁寧。
37	2	227	2	土師器甕 口縁部 1/8・胴部 1/4	床 +10	(17.4)			2.5YR3/6 暗赤褐～ 2.5YR1.7/1 赤黒色 2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ　他篦ケズリ。 内　口縁部ナデ　他篦ナデ。	
37	3	227	7	土師器甕 口縁部 1/4 ・胴部 1/8	一括	(15.1)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ　他篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
37	4	227	4	土師器甕 口縁 1/4 強	一括	(17.9)			10YR6/6 明黄褐色	良好	砂少し含む	外　口縁部ナデ　他篦ケズリ。 内　口縁部ナデ　他篦ナデ。	
37	5	227	28	土師器甕 口縁部 1/8 強	一括	(16.7)			10YR4/8 赤色 10YR4/8 赤～ 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他摩耗激しい。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。
37	6	227	30	土師器鉢 口縁 1/8 弱	一括	(15.4)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
37	7	227	10	土師器坏 口縁部 1/2 ・全体 1/3	床 +14	(14.5)		5.6	10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ　体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ　体部篦ナデ。	内外面赤彩・外面底部無彩。
37	8	227	5	土師器甕 底部 3/4 強	一括		6.5		5YR4/3 にぶい赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	砂少し含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
37	9	227	18	土師器坏 口縁～底部 1/4 強	床 +14	(15.7)			10R4/8 赤色 10R4/8 赤～ 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩・外面底部無彩。
37	10	227	12	土師器坏 全体 1/2 弱	床 +7	(12.6)			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
37	11	227	32	土師器甕 底部 1/2 弱	一括	(6.7)			2.5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
37	12	227	24	土師器坩 底部ほぼ完存	一括		3.8		10YR5/6 黄褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
37	13	227	11	土師器坏 ほぼ完形	一括	13.3		4.5	2.5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ　体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ　体部篦ミガキ。	内外面赤彩。口縁部面取り。
37	14	227	8	土師器坏 口縁 2/3	床 +16	(14.7)		5.2	10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ　体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ　体部篦ナデ。	内外面赤彩。
37	15	227	9	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.4)		5.4	10R4/4 赤褐色 10R4/4 赤褐～ 10YR2/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ　体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ　体部篦ナデ。	内外面赤彩・外面底部無彩。
37	16	227	15	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(14.6)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　器面磨耗激しく不明。	内外面赤彩。
37	17	227	21	土師器坏 全体 1/4 弱	一括	(16.0)			10R4/8 赤～ 10YR2/1 黒色 10YR4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩・外面底部無彩。
37	18	227	14	土師器坏 口縁 1/3	床 +15	(13.4)			10R4/8 赤色	良好	砂粒多	外　口縁～体部ナデ、体部下位篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
37	19	227	20	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.7)			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
37	20	227	13	土師器坏 全体 1/4	一括	(13.0)			2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/6 赤褐～ 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩 ・外面底部無彩。
37	21	227	19	土師器坏 口縁 1/4	一括	(15.8)			10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
37	22	227	31	土師器坏 口縁 1/8 弱	一括	(13.0)			7.5YR5/6 明褐色 7.5YR2/2 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
37	23	227	22	土師器坏 口縁 1/5 強	一括	(15.4)			7.5YR5/6 明褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	砂含む	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内面赤彩。
37	24	227	23	土師器坏 口縁 1/16	一括	(13.0)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。小片の為ナデケズリの単位不明。
37	25	227	16	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(15.0)			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ　体部篦ナデ？。 内　口縁部ナデ　体部篦ナデ？。	内外面赤彩痕あり。器面磨耗激しく篦ナデの単位不明。
37	26	227	25	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(20.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ　他篦ナデ。 内　口縁部ナデ　他篦ナデ。	内外面赤彩。
37	27	227	29	土師器結合器台 受け部 1/10	床 +8				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
37	28	227	17	土師器坏 口縁 1/5 強	一括	(15.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ　体部篦ナデ？。 内　口縁部ナデ　体部篦ナデ？。	内外面赤彩痕あり。器面磨耗激しく篦ナデの単位不明。
37	29	227	27	土師器坩 口縁部 1/16	一括	(17.1)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
37	30	227	26	土師器高坏 脚部 1/8	一括		(12.8)		10YR5/6 黄褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　裾部篦ナデ。 内　裾部篦ナデ。	外面赤彩。
37	32	227	36	須恵器高坏 脚部 1/8・裾部全欠	一括				N-5/ 灰色 断面 5YR3/3 暗赤褐色	良好	密	外　回転ナデと回転カキ目。 内　ロクロ回転ナデ。	両端の透かし窓の残長から長方形 4 方透かし。裾部付近は自然釉付着。 TK-208 併行か？
37	33	227	33	手捏土器鉢 口縁部 1/5・底部完存	一括	(3.5)		2.5	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ指成形。 内　指ナデ指成形。	指紋の跡残る。
37	34	227	34	手捏土器鉢 口縁部 1/2・底部完存	一括	(3.6)	3.4	2.8	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　指ナデ指成形。 内　指ナデ指成形。	
38	2	228A	1	土師器高坏 脚部 2/3	床 +36				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　坏内面篦ナデ、脚内面篦ケズリ。	7C 型の高坏。
39	1	229	24	土師器二重口縁壺 口縁 1/4 ～底部完存	床 +25	(13.4)	5.0	14.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	頸部内面に円形竹管による連続刺突文。 外面全面、内面口縁～頸部まで赤彩。
39	2	229	22	土師器甕 底部～胴部 1/2	床 +7		(6.4)		7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後一部篦ナデ後一部篦ミガキ。	
39	3	229	23	土師器坏 底部完存～体部 1/2	床 +5		6.0		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
39	4	228B	3	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文と原体押捺、胴部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
39	5	228B	1	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ミガキ。	
39	6	228B	2	弥生甕　胴部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　頸部原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
40	1	233A	1	土師器甕 口縁 1/4	一括	(13.4)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
40	2	233A	2	土師器甑 口縁 1/8	一括	(22.0)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
40	3	233A	14	須恵器蓋 口縁 1/8 弱	一括	(14.2)			2.5Y6/2 灰黄色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
40	4	233A	15	須恵器長頸壺 口縁～頸部 1/2 弱	一括				5Y5/2 灰オリーブ色	良好	密	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	
40	5	233A	9	手捏土器鉢 底部ほぼ完存	一括		5.1		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ、一部指ナデ。 内　篦ナデ。	
40	6	233A	8	土師器結合器台 坏部 1/8	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
40	7	233A	3	土師器坏 口縁部 1/3 欠	カマド内一括	12.8		4.0	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　器面磨耗激しい。 内　器面磨耗激しい。	
40	8	233A	4	土師器高坏 胴部 1/4 弱	一括				7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　体部篦ケズリ。 内　体部篦ケズリ後篦ミガキ。	内外面黒色処理。
40	9	233A	5	土師器坏 口縁部 1/8	一括	(13.6)			7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
40	10	233A	7	土師器高坏 脚部完存	床 +34				2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
40	11	233A	6	土師器高坏 脚部完存	一括				2.5YR4/6 赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指による粗い掻き取り、ホゾによる差込み。	外面赤彩。
40	14	233A	12	弥生装飾壺　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　半截竹管による連続刺突文間に細縄文。 内　篦ナデ。	
40	15	233A	10	弥生装飾壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文とＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
40	16	233A	11	弥生装飾壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　２連のＳ字状結節文。 内　ナデ。	
40	17	233A	13	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　貝殻腹縁文。 内　ナデ。	
41	1	233B	16	弥生甕 口縁 1/4 弱	一括	(25.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　折り返し口縁、他ハケ。	
41	2	233B	2	土師器坏 口縁 1/8 弱残	一括	(15.4)			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
41	3	233B	1	弥生甕 底部 1/8 残	一括		(10.0)		5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
41	4	233B	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	輪積み。
41	5	233B	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
41	6	233B	3	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ナデ。	
41	7	233B	15	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状のナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
41	8	233B	6	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
41	9	233B	8	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　羽状縄文とＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
41	10	233B	5	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　羽状縄文とＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
41	11	233B	7	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と羽状縄文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
41	12	233B	10	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　羽状縄文とＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
41	13	233B	4	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　S 字状結節文と細縄文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
41	14	233B	12	弥生鉢　胴部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部細縄文と原体押捺、胴部篦ミガキ。 内　篦ナデ一部篦ミガキ。	胴部外面赤彩痕あり。
41	15	233B	13	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　羽状縄文と S 字状結節文。 内　篦ナデ。	
41	16	233B	11	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　羽状縄文と S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
42	1	225	1	土師器甕 底部完存～胴部 1/2	床直	17.8	8.2	(29.2)	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂粒多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	底部外面大胆な篦ケズリで安定感なし。自立出来ない。
42	2	225	3	土師器甕 口縁部完存	床 +5	16.2			7.5YR4/4 褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
42	3	225	8	土師器甕 口縁 1/2 弱残	床 +3	(18.6)			10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	5㎜大礫含む	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
42	4	225	11	土師器二重口縁壺 口縁 1/4 弱	一括	(17.4)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部ハケ後篦ミガキ。 内　口唇部ナデ、口縁部ハケ後篦ミガキ。	
42	5	225	10	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/3	一括	(14.4)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部ハケ後ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ後一部篦ミガキ。	
42	6	225	9	土師器坩 口縁 1/4	一括	(13.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
42	7	225	13	土師器坩 口縁 1/6	一括	(11.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
42	8	225	14	土師器坩 口縁 1/4	一括	(10.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　丁寧な篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
42	9	225	16	土師器坩 口縁 1/6	一括	(9.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。 口唇部外面沈線状に窪む。
42	10	225	17	土師器器台 口縁 1/4	一括	(7.8)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。体部篦ナデ。	
42	11	225	7	土師器高坏 脚裾部全欠～口縁一部欠	カマド	18.0			10R4/6 赤色	良好	密	外　坏部ハケ後篦ナデ、脚部篦ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部篦ケズリ。	内外面赤彩。
42	12	225	20	土師器高坏 口縁部・脚裾部全欠	床 +8				10R4/6 赤色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り後指ナデ。	脚内面以外赤彩。
42	13	225	19	土師器高坏 口縁部脚裾部全欠	床 +24				10YR4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　柱状脚部指掻き取り、裾部付近篦ナデ。	外面赤彩。
42	14	225	18	土師器高坏 脚部のみ	床 +26				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　粗い篦ケズリ。	
42	15	225	6	土師器坏 底部完存～口縁 1/12	床 +3	(10.4)		4.1	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、底部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
42	16	225	4	土師器坏 口縁の極一部欠	床 +4	16.0		5.8	10R4/6 赤色	良好	5㎜大礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	ナデ非常に丁寧、底部外面に十文字の線刻。 内外面赤彩。
42	17	225	5	土師器坏 口縁一部欠	床 +25	14.1		6.4	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
42	18	225	12	土師器坏 底部～口唇部直前付近 1/2 弱残	一括	(14.2)	4.0	(5.5)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	口唇部は接合に致らぬ同一個体から復元、本体は口唇部の直前まで残存。平底ぎみの坏。
43	1	226	1	土師器甕 口縁 1/4 弱	一括	(18.8)			10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
43	2	226	2	土師器甕 頸部 1/8 強	一括	(19.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ナデ、胴部ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
43	3	226	4	土師器甕 口縁 1/8	一括		(8.8)		10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
43	4	226	9	土師器鉢 口縁 1/8 強	一括	(11.0)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
43	5	226	10	土師器坩 口縁 1/8 弱	一括	(12.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。
43	6	226	8	土師器鉢 口縁 1/4 弱	一括	(12.0)			10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
43	7	226	3	土師器甕 底部 1/4 弱	一括		(5.6)		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ、一部に指紋残る。 内　篦ナデ。	
43	8	226	6	土師器高坏 脚裾部 1/8	一括		(9.0)		2.5YR5/8 明赤褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　器面磨耗激しい。 内　裾部ナデ、他篦ナデ。	
43	9	226	5	土師器高坏 脚裾部 1/4 欠	一括		8.0		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
43	10	226	7	土師器高坏 脚部 1/4 欠	一括		4.1		10R4/6 赤色（坏部内外） 10R4/6 赤～ 10YR5/4 にぶい黄褐色（脚部）	良好	密	外　篦ミガキ。（坏部・脚部） 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
43	13	226	12	須恵器樽形𤭯　胴部	一括				10Y5/2 オリーブ灰色	良好	密	外　弱い沈線の左右に櫛描き波状文、自然釉付着。 内　ロクロナデ。	
44	1	番号なし	1	土師器甕 口縁 1/4 強	床直	(22.7)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
44	2	番号なし	2	土師器甕 底部完存	床直		6.5		7.5YR4/6 褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後篦ケズリ、一部篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
45	1	200A	14	弥生甕 口縁 1/4	カマド内	(12.2)			10YR3/1 黒褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	2～5㎜大の小石含む	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ後篦ナデ。 内　胴部ハケ後篦ナデ。	内外面の一部ハケ状の条線。
45	2	200A	15	弥生甕 底部完存	床 直		7.8		10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
45	3	200A	3	弥生壺　口縁部	一括				2.5Y5/2 暗灰黄～ 2.5YR3/1 黒褐色 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	密	外　折返し口縁、口縁部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
45	4	200A	7	弥生鉢　口縁部	一括				10YR6/6 明黄褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文、下位に原体押捺。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
45	5	200A	4	弥生広口壺　口縁部	一括				10YR6/6 明黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
45	6	200A	10	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐～ 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文。 内　篦ナデ。	
45	7	200A	6	弥生甕　口縁部	一括				5YR3/1 黒褐色 7.5YR3/2 黒褐～ 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　ナデ。	
45	8	200A	8	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/3 褐～ 10R4/6 赤色	良好	密	外　細縄文下位に S 字状結節文。 内　篦ナデ。	内外面施文以外赤彩。
45	9	200A	2	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/2 黒褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　器面剥離激しい。	
45	10	200A	5	弥生甕　胴部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ミガキ。	
46	1	200B	1	土師器甑 全体 1/2 弱	床 +17	(23.4)	(10.2)	(24.5)	7.5YR4/4 褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
46	2	200B	4	土師器甕 口縁～胴部中位ほぼ完存	床 +17	14.6			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部以下篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面の篦ミガキ非常に丁寧。
46	3	200B	7	土師器甕 口縁 1/3	床 +15	(17.0)			5YR4/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。（単位不明） 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面摩耗。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
46	4	200B	25	土師器甕 口縁 1/6	一括	(16.2)			5YR4/4 にぶい赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、頸部ハケ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、頸部篦ナデ。	
46	5	200B	20	土師器壺 口縁 1/10	一括	23.4			10R5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部篦ミガキ、頸部ハケ。 内　口縁部篦ミガキ、	
46	6	200B	17	土師器甕 口縁 1/3	一括	(18.6)			2.5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。 内面口唇部を中心にタール付着。
46	7	200B	2	土師器甕 底部完存	床 +17		5.6		7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後粗い篦ミガキ。	
46	8	200B	3	土師器甕 底部完存	床 +17		6.2		2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
46	9	200B	8	土師器甕 底部完存	床 +2		7.2		2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
46	10	200B	6	土師器甕　底部	床 +7	(16.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
46	11	200B	26	土師器高坏 口縁 1/4	一括	(15.3)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部篦ナデ。 内　口唇部ナデ、体部篦ナデ	
46	12	200B	27	土師器高坏 脚部 1/4	一括				10R4/6 赤色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ。	外面赤彩。 脚の 4 方に穿孔。
46	13	200B	13	土師器坩 口縁一部欠	床 + 11	10.0	2.4	6.9	10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 10R2/1 赤黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。外面頸部に一条の沈線、底部付近剥離。
46	14	200B	21	土師器坩 口縁 4/5 以上	一括	7.7			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
46	15	200B	10	土師器坏 口縁一部・底部全欠	床 - 9（床直）	15.0		(6.3)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。 内面に篦ミガキによる十文字の暗文。
46	16	200B	24	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(14.4)			10R4/6 赤色（赤彩）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
46	17	200B	12	土師器坏 口縁部 1/3	床 +2	(15.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
46	18	200B	11	土師器坏 口縁部 1/3	床 +4	(14.8)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面に輪積み痕。 赤彩は施されないが、土器自体の赤味強い。
46	19	200B	19	土師器坏 底部 1/2 ・口縁全欠	一括		5.6		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。 口径（13.2）cm・器高（5.0）cm程の平底の坏に復元できる。
46	20	200B	23	土師器坏 口縁 1/6	一括	(14.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
46	21	200B	22	土師器高坏 脚部のみ・裾部全欠	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指による掻き取り後一部篦ケズリ。	外面赤彩。
48	1	199	1	土師器甕 底部 1/2 欠	床 +19	12.5	7.8	22.5	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
48	2	199	3	土師器高坏 坏部 1/2 強	床 +16	22.2			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。	
48	3	199	6	土師器台付甕 脚裾部全欠	一括				2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR3/2 暗赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
48	4	199	7	手捏土器鉢 口唇部欠	一括		4.1		10YR3/2 黒褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　粗い篦ケズリ。 内　指ナデ。	
48	5	199	8	弥生壺　口縁部	一括				5YR5/6 明褐色～ 10R4/6 赤色	良好	微砂粒多	外　折り返し口縁、口唇部羽状縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
48	6	199	11	弥生壺　頸部	一括				5YR4/8 赤褐色 10YR5/4 にぶい褐色	やや不良	微砂粒多	外　頸部貼り付け凹帯上に棒状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
48	7	199	10	弥生鉢　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。2ヶ所の径 0.3cm程の穿孔。
48	8	199	9	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙～ 10R4/6 赤色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	微砂粒多	外　9条以上のS字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
49	1	230	1	土師器甕 口縁 1/4	一括	(14.6)			10YR5/6 黄褐～ 10YR2/1 黒色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ。 内　ハケ。	
49	2	230	2	土師器鉢 全体 1/3	一括	(7.0)	(4.8)	(4.1)	10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
49	3	230	8	弥生壺　口縁部	一括				2.5Y6/3 にぶい黄色 2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　口縁部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
49	4	230	7	弥生壺　胴部	床直				7.5YR5/6 明褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　羽状縄文とその下部にS字状結節文。 内　篦ナデ。	
49	5	230	9	弥生鉢　胴部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
50	1	251	1	土師器甕 口縁一部欠	床直	16.8	5.8	28.0	5YR4/6 赤褐～ 5YR2/2 黒褐色	良好	密	外　口縁ナデ。胴部篦ケズリ。 内　口縁ナデ。胴部篦ナデ。	
50	2	251	3	土師器甕 胴部 1/2 ～底部全欠	カマド内	16.4			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁ナデ。胴部篦ナデ。 内　口縁ナデ。胴部篦ナデ。	
50	3	251	4	土師器甕 口縁完存	床 -2	16.0			10R4/6 赤色 7.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。胴部篦ナデ。	外面全面 ・内面口縁部赤彩。
50	4	251	2	土師器甕 口縁完存 ・全体 1/2	一括	14.4			10YR6/4 にぶい黄褐色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　口縁部ナデ。胴部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ。胴部篦ナデ。	
50	5	251	6	土師器甕 口縁 1/4	P5 内床 -11	(16.0)			10YR2/2 黒褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。胴部篦ナデ。	
50	6	251	7	土師器甕 口縁 1/5	一括	(22.2)			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ。胴部篦ナデ。	
50	7	251	5	土師器甕 口縁全欠	床 +10		7.2		5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい 橙～ 7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　粗いハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ、一部指押さえ。	輪積み残る。
50	8	251	10	土師器坏 口縁 1/4 欠	床 +13	15.5		6.1	10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部ナデ。	内外面赤彩。
50	9	251	11	土師器坏 口縁の 1/3	床 +2	(16.0)			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面摩耗激しいが、赤彩残る。
50	10	251	13	土師器坏 口縁 1/8	一括	(14.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。外面摩耗。
50	11	251	12	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
50	12	251	14	土師器坏 口縁 1/6	一括	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
50	13	251	15	土師器坏 口縁 1/8	一括	(15.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
50	14	251	9	土師器二重口縁壺 口縁 1/8	一括	(14.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部ハケ後一部篦ミガキ。 内　ハケ。	
50	15	251	8	土師器坩 頸部 1/4	一括				10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ。胴部篦ナデ。	胴部内面以外赤彩。
50	16	251	18	土師器高坏 坏部 2/3	床 +6	16.6			10R3/4 暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
50	17	251	16	土師器高坏 坏部 1/4	一括	(14.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
50	18	251	17	土師器高坏 口縁全欠・坏部 1/2	一括				10R4/6 赤色	良好	5㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
50	19	251	21	土師器器台 脚部 1/2・裾全欠	一括				10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ、脚部ハケ後ナデ。	脚内面以外赤彩。脚接合部内面にハケでキザミを入れる。 脚の 3 方に穿孔。
50	20	251	19	土師器器台 脚部 1/2・裾全欠	一括				10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。脚部ハケ後ナデ。	脚内面以外赤彩。
50	21	251	20	土師器器台 脚部 1/3・裾全欠	一括				10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。脚部ハケ後ナデ。	脚内面以外赤彩。 脚の 3 方に穿孔。
51	1	256	9	弥生甕 底部 1/3 強残	一括		（10.0）		10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	底部木葉痕。
51	2	256	1	土師器甕 底部 3/4	一括		5.8		7.5YR4/2 灰褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
51	3	256	2	土師器甕 底部 1/3	一括		（5.4）		7.5YR4/3 褐色	良好	微砂粒多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
51	4	256	5	土師器甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
51	5	256	6	土師器甕　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
51	6	256	7	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
51	7	256	4	土師器坩　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
51	8	256	8	弥生甕　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
51	9	256	10	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺文、他平行沈線。 内　折り返し口縁。	
51	10	256	12	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　平行沈線。 内　篦ナデ。	
51	11	256	11	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
52	1	252	1	土師器高坏 口縁・底部一部欠	床 +7	16.8	8.0	10.1	10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚部 3 方に穿孔。
52	2	252	3	土師器坏 口縁 1/8	一括	（13.6）			10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
52	3	252	2	土師器高坏 口縁 1/3	床 +7	（22.2）			7.5YR6/6 橙色 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ミガキ。	外面輪積み痕。
53	1	240	14	土師器甕 底部全欠 口縁大半欠く	床 +4	（17.6）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	口唇部つまみ上がる。
53	2	240	16	土師器甕 底部完存	一括		6.6		5YR5/3 にぶい赤褐色 2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ 内　篦ナデ、一部器面剥離。	
53	3	240	18	土師器坏 底部完存	一括		（3.5）		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ケズリ？。 内　篦ナデ。	外面摩耗の為単位不明。 内外面赤彩。底部に十文字の線刻。
53	4	240	17	土師器坏 底部完存	一括		4.1		10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR4/6 赤色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	外面無彩。内面摩耗やや激しいが赤彩の痕跡残る。
53	5	240	13	手捏土器鉢 底部完存～口縁全欠	床 +9		4.6		10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　粗い篦ミガキ。	
53	6	240	12	手捏土器鉢 口縁一部欠	床直	6.2	4.1	3.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
53	7	240	1	土師器壺 胴部一部欠	床 +4	13.0	6.0	21.9	10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ後ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ後ナデ、胴部篦ナデ？。	胴部内面石膏、テープ痕でよく見えない。
53	8	240	7	土師器坩 胴部一部欠	床 +4	12.8	4.0	17.4	10R4/6 赤～7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	外面全面 ・内面口縁部赤彩。
53	9	240	8	土師器坩 底部完存～口縁 1/12	床 +2	(11.0)	2.6		10R4/6 赤色 10R4/6 赤～7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部篦ミガキ、底部付近篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。	外面赤彩 ・内面胴部中位付近まで赤彩。
53	10	240	10	土師器鉢形甕 ほぼ完形	床 +3	23.0	4.8	10.5	2.5YR4/6 赤褐色	良好	5㎜大の礫含む	外　折り返し口縁、篦ケズリに近い篦ナデ。 内　篦ケズリ、底部付近一部篦ナデ。	口唇部面取り。 底部に径 2.0㎝×1.5㎝程の楕円孔一孔あり。
53	11	240	11	土師器鉢形甕 口縁一部欠	床 +4	18.4	4.0	9.1	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部中央に幅 1.2㎝の円孔。
53	12	240	15	土師器鉢 底部 1/2 強～口縁一部	一括	(14.7)	6.9	6.5	10R3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　粗い篦ミガキ。	
53	13	240	2	土師器坏 全体 1/3	一括	(14.5)		(4.6)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
53	14	240	3	土師器坏 口縁 1/3 強～底部 2/3	一括	12.0		5.5	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ？、体部篦ケズリ？。 内　口縁部ナデ？、体部ナデ。	内外面の一部に赤彩残る。 外面の器面磨耗・剥離激しく、詳細単位不明。
53	15	240	4	土師器坏 口縁 1/2 弱	一括	(12.4)			7.5YR1.7/1 黒色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。 内　篦ナデ一部ハケ状の篦ナデ。	外面黒色処理。内面無彩。
53	16	240	5	土師器器台形高坏 脚部一部欠	床 +3	8.1	11.0	9.3	10R4/6 赤色 10R4/6 赤～7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ一部篦ミガキ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	外面全面 ・内面坏部赤彩。
53	17	240	19	土師器高坏 脚裾部全欠	床 +4	(8.8)			10R3/4 暗赤色 5YR4/6 赤褐色（脚部内面）	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ナデ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	外面全面 ・内面坏部赤彩。
53	18	240	9	土師器器台 ほぼ完形	pit 内 -19	11.4	12.4	11.0	7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口唇部ハケ、胴部ハケ後篦ナデ、脚端部にハケ残る。 内　篦ナデ、裾部ハケ残る。	器壁厚く重い。
53	19	240	6	土師器高坏 脚裾部全欠	床 +7	15.5			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	内外面赤彩。柱実脚。
53	20	240	28	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい褐色	良好	繊維含む	外　平行沈線文。 内　ナデ。	NO-29 の口縁部？
53	21	240	27	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	後期加曽利 B 式土器。
53	22	240	26	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、胴部単節縄文。 内　篦ナデ。	
53	23	240	30	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　湯巻文。 内　ナデ。	諸磯 C 式。（前期）
53	24	240	32	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　単節縄文。 内　ナデ。	
53	25	240	34	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい褐色	良好	繊維含む	外　円形竹管文と平行沈線文。 内　ナデ。	早期条痕文系土器。（早期鵜ヶ島台式土器） NO-27 と同一個体。
53	26	240	33	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	繊維含む	外　単節縄文。 内　条痕文。	早期条痕文系土器。
53	27	240	31	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい褐色	良好	繊維含む	外　平行沈線文。 内　ナデ。	早期条痕文系土器。NO-25 と同一個体。
53	28	240	35	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　器面剥離。	
53	29	240	29	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい褐色	良好	繊維含む	外　平行沈線文と連続刺突文。 内　ナデ。	早期条痕文系土器。
54	1	239	1	土師器甕 口縁 1/4 弱	一括	(18.6)			7.5YR5/3 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	輪積み痕あり。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
54	2	239	2	土師器甕 口縁 1/5	一括	（13.6）			7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
54	3	239	3	土師器甕 口縁 1/5 弱残	一括	（17.4）			10YR2/4 灰黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
54	4	239	4	土師器甕 口縁 1/4 弱残	床直	（15.2）			10YR2/4 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　器面磨耗。 内　篦ナデ。	
54	5	239	5	土師器高坏 口縁・脚部全欠	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩後摩耗。
54	6	239	6	須恵器甕　胴部	一括				7.5Y6/1 灰色 7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後回転カキ目。 内　青海波残る	外面一部自然釉付着。
55	1	242	1	土師器甑 口縁 1/4 欠	カマド 左袖脇 +2		8.2	25.2	7.5YR4/3 褐色	良好	砂粒やや多	外　口縁部ナデ、頸部粗い指ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部面取り。
55	2	242	2	土師器甕 頸部～底部	カマド左袖脇 床直				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	1～5㎜大の礫多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	胴部最大径 20.2cm。底部丸く、自立出来ない。 内面輪積痕多い。
55	3	242	12	土師器二重口縁壺 口縁 1/8	一括	（17.2）			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ナデ、　口唇部面取り。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
55	4	242	16	土師器壺 口縁 1/8	一括	（15.7）			2.5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、ハケ。 内　ハケ。	
55	5	242	11	土師器台付甕 脚部 1/2 弱	一括		（8.8）		5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
55	6	242	14	土師器坩 口縁 1/4	一括	（14.6）			2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
55	7	242	3	土師器高坏 脚裾 3/4 欠	カマド左袖脇	16.0	（12.0）	12.3	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ、脚部細かい篦ケズリ後ナデ、裾篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ナデ。	坏部と脚部はホゾにより接合。 かなり赤味強いが赤彩ではない。地粘土が赤い。
55	8	242	10	土師器坏 2/3 強	カマド内	14.5	2.0	7.5	10R4/8 赤～ 10YR6/4 にぶい黄橙色 10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	底部外面以外赤彩。中央部径 2cm程の窪み（底部）
55	9	242	7	土師器坏 口縁～底部 1/4 欠	床 +6	15.2		（5.3）	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
55	10	242	9	土師器坏 ほぼ完形	カマド前床 -1	14.4		5.4	10R5/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	底部よく削られ平底に近い。 内外面やや摩耗するが赤彩痕残る。
55	11	242	8	土師器坏 口縁 1/3 欠	床 +6	14.2		5.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。底部十文字の線刻。
55	12	242	5	土師器坏 ほぼ完形	P6 内 -13	14.5	3.8	5.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。 底部は凹面をなし平底の坏。
55	13	242	6	土師器坏（塊） 口縁 1/4 欠	床 +6	11.5		8.0	10R2/2 極暗赤褐色 10R2/2 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	口径最大径 12.0cm。 口縁の一方が、直線的に変形する。赤味がかるが赤彩ではない。
55	15	242	24	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部キザミ目、他平行沈線文。 内　篦ナデ。	
55	16	242	19	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　棒状工具による連続刺突文。 内　ナデ。	縄文前期（浮島・諸磯）系。
55	17	242	22	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色 7.5YR4/4 褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　ナデ。	黒浜（前期中～後葉）
55	18	242	21	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/6 にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　斜縄文。 内　ナデ。	前期後葉。
55	19	242	23	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色 7.5YR4/4 褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　ナデ。	黒浜（前期中～後葉）
55	20	242	20	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/5 にぶい褐色	良好	繊維含む	外　縄文。 内　ナデ。	前期中～後葉。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
55	21	242	17	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　平行沈線間に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
56	1	241	5	弥生壺 口縁全欠 胴部上位 2/3	床直				10R4/4 赤褐色 7.5R4/4 にぶい赤色	良好	密	外　頸部円形竹管よる連続刺突文、胴部篦ミガキ。 内　器面摩耗剥離激しい。	外面全面・内面頸部まで赤彩。
56	2	241	3	土師器坩 胴部 1/3	床直				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
56	3	241	1	土師器高坏 口縁 1/4 強	床直	（12.0）			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
56	4	241	2	土師器器台 口縁 1/4	一括	（8.4）			10R5/6 赤色 10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
56	5	241	4	土師器坏 全体 1/3	床直	（15.0）		5.6	10R4/4 赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
56	6	241	6	縄文深鉢　胴部	床直				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　平行沈線と円形竹管文。 内　ナデ。	早期条痕文系土器。早期鵜ヶ島台式土器。
57	1	243	2	土師器甕 口縁 1/8 弱	一括	（18.5）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	
57	2	243	4	土師器坩 口縁 1/8	一括	（15.8）			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
57	5	243	1	土師器甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　口縁部ハケ。 内　口縁部ハケ。	
57	6	243	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部及び口縁部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
57	7	243	13	弥生壺　口縁部	一括				10R3/6 暗赤色	良好	砂含む	外　口縁部棒状浮文、篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
57	8	243	15	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
57	9	243	14	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色 7.5YR5/4 にぶい褐～7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部原体によるミガキ。 内　篦ナデ。	
57	10	243	8	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/8 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文一部に円形浮文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。NO-11 と同一個体。
57	11	243	6	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/8 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文一部に円形浮文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。NO-10 と同一個体。
57	12	243	5	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1～2㎜大の小石含む	外　細縄文と篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
57	13	243	11	弥生壺　胴部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文と平行沈線、他篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	NO-14 と同一個体。
57	14	243	10	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文と平行沈線、他篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	NO-13 と同一個体。
57	15	243	12	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6 赤褐～7.5YR5/6 明褐色 7.5YR3/2 黒褐色	良好	砂粒多含む	外　平行沈線による波状文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。NO-16 と同一個体。
57	16	243	7	弥生壺　胴部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒多含む	外　平行沈線による波状文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。NO-15 と同一個体。
58	1	217A	1	土師器甕 底部大半欠	床 +10	26.1	（6.2）	34.2	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　器面剥離により殆ど不明。	外面磨耗激しい。
58	2	217A	2	土師器甕 底部全欠	床 +10	16.8			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
58	3	217A	33	土師器二重口縁壺 口縁 1/12	一括	（24.6）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　丁寧な篦ナデ。 内　丁寧な篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
58	4	217A	8	土師器甕 胴部中位欠	カマド内	18.6	8.0	(27.0)	10R4/6 赤～ 5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面共にやや器面剥離激しい箇所あり。
58	5	217A	3	土師器甕 底部全欠	床 +9	16.0			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口縁部に指圧痕。
58	6	217A	32	土師器二重口縁壺 口縁 1/8	一括	(21.0)			5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	器面剥離激しい。
58	7	217A	28	土師器甕 口縁完存	床 +2	16.4			2.5YR5/6 明赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
58	8	217A	6	土師器甕 口縁 1/4	床 +35	(17.0)			5YR3/2 暗赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
58	9	217A	7	土師器甑 ほぼ完形	床 +4	26.0	8.2	25.9	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部位ナデ一部指入る、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
58	10	217A	9	土師器甑 口縁部ほぼ完存	床 +11	20.4			10R5/6 赤～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁～頸部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面口縁部赤彩。
58	11	217A	4	土師器甕 口縁 1/3	床 +27	(15.8)			7.5YR5/6 明褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
58	12	217A	29	土師器小型甕 口縁 1/4	一括	(12.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	13	217A	31	土師器二重口縁壺 口縁 1/8	一括	(18.2)			7.5YR6/6 橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	器面磨耗。
58	14	217A	27	土師器甕 口縁 1/3	床 +4	(17.0)			2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
58	15	217A	5	土師器甕 口縁 1/3	床 +2	(14.0)			5YR4/3 にぶい赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
58	16	217A	10	土師器坩 口縁一部～底部全欠	床 +15	8.9			10R5/6 赤色 10R2/2 極暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部丁寧な篦ナデ、胴部は粗い篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。
58	17	217A	22	土師器短頸壺 底部 1/2	床 +9	18.2	6.2	14.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ後篦ケズリ。縦方向と底部付近は篦ケズリ後弱いナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	外面底部以外・内面胴部中位まで赤彩。
58	18	217A	21	土師器短頸壺 口縁 1/3	床 +19	(10.2)	6.1	11.1	10R4/6 赤色 10YR4/6 ～ 5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。胴部中位篦ナデ。下位篦ケズリ。 内　口縁部ナデ。胴部篦ナデ。	外面全面、内面胴部中位まで赤彩。赤彩範囲と非赤彩範囲の色差微弱。 胎土そのものに鉄分を多く含んでいるものと推定。
58	19	217A	50	土師器坩 胴部 1/3	一括				10R4/6 赤色 10R5/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。赤彩以外の範囲も赤く仕上がる。
58	20	217A	48	土師器短頸壺 口縁 1/3	床 +20	(10.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	21	217A	15	土師器埦 口縁 1/4	床 +12	(11.4)		(7.5)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	22	217A	12	土師器坏 ほぼ完形	床 +11	13.8		5.5	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキによる放射状暗文。	内外面赤彩。
58	23	217A	16	土師器坏 口縁一部欠	床 +25	15.7		6.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。	内外面赤彩。内面ハケかなり残る。
58	24	217A	11	土師器坏 口縁 2/3 欠	床 +10	(15.8)		5.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	25	217A	18	土師器坏 口縁 1/3	注記なし	(16.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。口縁部の内面器面剥離やや激しい。
58	26	217A	14	土師器坏 口縁 1/3 ～底部の一部欠	床 +15	15.2		5.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	27	217A	58	土師器坏 口縁 1/3	床 +12	(17.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
58	28	217A	13	土師器坏 口縁 1/4	床 +7	(14.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、磨耗により不明。	内外面赤彩。
58	29	217A	52	土師器坏 口縁 1/3	一括	(14.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	30	217A	57	土師器坏 口縁 1/3	中央床 +4	(14.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	31	217A	61	土師器坏 口縁 1/3	床 +4	(13.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	32	217A	64	土師器坏 口縁 1/3	一括	(15.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	33	217A	63	土師器坏 口縁 1/2 弱	床 +15	(13.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	34	217A	17	土師器坏 口縁 1/2 弱	一括	(12.4)			10YR4/2 灰黄褐～ 10YR6/6 明黄褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	内外面黒色処理。混入品。
58	35	217A	49	土師器坏 口縁 1/8	一括	(14.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、篦ケズリ後体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
58	36	217A	30	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(14.6)			7.5YR2/3 黒褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面胴部器面磨耗
58	37	217A	80	須恵器𤭯 口縁 1/8	一括	(9.3)			N-3/ 暗灰色	良好	密	外　口唇部は弱く緩やかな凹状を呈す、ロクロナデ、頸部シャープな櫛描き波状文。 内　ロクロナデ。	全体的な造りは非常にシャープ。
58	38	217A	38	土師器高坏 口縁 1/3	一括	(17.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
58	39	217A	20	土師器高坏 裾 2/3	床 +2	16.2	12.1	11.7	10R4/8 赤色	良好	密	外　坏・裾部篦ナデ。坏部下端～脚部篦ケズリ後弱いナデ。 内　坏・裾部篦ナデ。脚部掻き取り後指ナデ。	脚内面以外赤彩。
58	40	217A	19	土師器高坏 口縁・裾部の 1/3	焼土密着 +13	(17.7)	(8.8)	13.5	2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　ナデ 内　坏・裾部篦ナデ。脚部篦ケズリ。	脚内面以外赤彩。器面磨耗激しくナデ等単位不明。
58	41	217A	37	土師器高坏 口縁 2/3	一括	16.2			10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
58	42	217A	36	土師器高坏 口縁 1/2 弱	カマド内 床 +4・+7	(20.0)			10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
58	43	217A	45	土師器高坏 脚部のみ	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　縦篦ケズリ後横方向の篦ナデ。 内　指掻き取り。篦ケズリ後篦ナデ。	外面赤彩。
58	44	217A	44	土師器高坏 脚部のみ	床 +20				10R4/4 赤色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　縦篦ケズリ後横方向の篦ナデ。 内　指掻き取り。篦ケズリ後篦ナデ。	外面赤彩。
58	45	217A	66	手捏土器鉢 口縁の大半欠く	一括	(3.7)	2.6	1.9	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
58	46	217A	40	土師器高坏 口縁～底部 1/3・脚部完存	一括	(9.6)	(7.0)	6.5	10YR4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
58	47	217A	41	土師器高坏 脚部 1/3	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　掻き取り後粗い篦ケズリ。	外面赤彩。
58	48	217A	46	土師器高坏 脚部のみ	一括				5YR4/6 赤褐色 7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　指掻き取り後、篦ケズリ。	外面赤彩。
58	49	217A	43	土師器高坏 脚部のみ	一括				10R4/6 赤色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ナデ。 内　指掻き取り後、粗い篦ケズリ。	外面一次整形の縦篦ケズリ目立つ。外面のみ赤彩であるが、内面の色もかなり赤く、無彩でも赤く仕上がる。
58	50	217A	42	土師器高坏 脚部のみ	一括				10YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り後、粗い篦ケズリ。	外面赤彩の痕跡。
58	57	217A	81	須恵器甕　胴部	一括				10YR5/1 褐灰色	良好	1㎜大の白色粒含む	外　回転カキ目。 内　青海波磨り消し。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
58	58	217A	79	須恵器瓶　胴部	一括				7.5Y6/2 灰オリーブ色	良好	2㎜大の白色粒含む	外　回転カキ目。 内　ロクロナデ強。	外面の回転カキ目から、フラスコ瓶か提瓶類。
58	59	217A	78	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文。 内　口唇部指頭押捺文、ハケ。	
58	60	217A	75	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部に指頭押捺文。 内　磨耗激しく不明。	
58	61	217A	70	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　折り返し口縁。口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
58	62	217A	72	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　折り返し口縁。口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
58	63	217A	71	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　指頭押捺波状文。 内　指頭押捺波状文。	
58	64	217A	73	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/6 赤褐～ 10YR5/6 黄褐色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	砂粒多	外　平行沈線による山形文内に細縄文。 内　剥離激しく不明。	
58	65	217A	76	弥生広口壺　胴部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　蛇行沈線の下に細縄文。 内　篦ナデ。	NO-67 と同一個体。
58	66	217A	68	弥生壺　胴部	一括				10R3/6 赤～ 10R3/1 暗赤灰色 5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　数条の平行沈線間に 4 条の S 字状結節文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
58	67	217A	77	弥生広口壺　胴部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　蛇行沈線の下に細縄文、上位にハケ。 内　篦ナデ。	NO-65 と同一個体。
58	68	217A	67	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　S 字状結節文間に指頭押捺文。 内　篦ナデ。	
61	1	248	4	弥生壺 頸部～胴部 2/3 残 口縁・底部全欠	床 +5・+15				7.5R4/6 赤～ 5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　半截竹管による平行区画内と山形文内に細縄文、他篦ミガキ。 内　器面剥離。	外面赤彩。
61	2	248	6	弥生壺 口縁全欠 胴部一部欠・底部完存	床 +15		7.6		5YR5/6 明赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	小石含む	外　頸～胴部ハケ後細縄文、胴部下位はハケ後篦ナデ後篦ミガキ、底部篦ケズリ。 内　不明。	内面は石膏が入っている為測定不能。
61	3	248	16	弥生壺 口縁完存	周溝内 +27	5.6			10R4/6 赤色 10R5/6 赤～ 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、頸部ハケ後篦ミガキ、頸部中央に高さ 5㎜前後の凸帯を貼り付ける。 内　ハケ後篦ミガキ。	外面全面・内面口縁～頸部上位まで赤彩。
61	4	248	17	弥生壺 胴部～底部 1/2 弱残	床 +15		(6.2)		10R3/2 暗赤褐～ 10R4/6 赤色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部指ナデ。	外面赤彩。
61	5	248	1	弥生壺 口縁・底部全欠 頸部～胴部 1/2 弱残	一括				7.5YR5/8 明褐色 10YR4/4 褐色	良好	密	外　頸部と胴部上位に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
61	6	248	9	弥生甕 口縁～胴部 3/4 残・底部完存	床直	19.8	6.2	27.3	7.5YR4/2 灰褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、頸～胴部ハケ状工具による篦ナデ（細かい状線）、底部篦ケズリ。 内　篦ナデ。	底部穿孔
61	7	248	5	弥生壺 口縁部全欠・頸部～底部 2/3 残・底部 1/3 残	床 +15		(7.4)		7.5R4/6 赤～ 7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文を施し、他篦ミガキ。 内　ハケ、底部のみ篦ミガキ。	外面施文以外赤彩。内面頸部上位まで赤彩。
61	8	248	3	弥生壺 口縁・底部全欠・頸部～胴部 2/3 残	一括				7.5R3/6 暗赤～ 5YR5/6 明赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　半截竹管による連続刺突文区画内を篦ミガキ。 内　器面磨耗。	外面施文以外赤彩。 内面 2 段以上の輪積み。
61	9	248	11	弥生甕 口縁～底部 1/2 弱残	床 +6・+15	(15.0)	(6.2)	24.3	2.5YR5/6 明赤褐色 10YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、頸部ハケ後篦ナデ一部篦ミガキ。 内　頸～胴部上位に篦ミガキ、胴部下位に篦ナデ。	
61	10	248	8	弥生壺 頸部～胴部 1/2 強残	一括				10R3/6 暗赤 ～ 7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線文内に細縄文、細縄文による舌状文。 内　指ナデ後篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
61	11	248	12	弥生甕 口縁 1/3 残	床 +6・+21	(25.6)			2.5YR3/1 暗赤灰色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後一部ナデ。 内　篦ミガキ。	
61	12	248	14	弥生壺 口縁 1/2 残	床 +15	10.8			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ一部ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
61	13	248	13	弥生甕 胴部 1/3 残 口縁・底部全欠	床 +15				5YR6/6 橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
61	14	248	60	土師器ミニチュア壺 口縁全欠	一括		2.4		7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　棒状工具による掻き取り。	
61	15	248	2	弥生甕 口縁 3/4 残	床 +15・+21	34.2			5YR6/6 橙色 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部指頭押捺波状文、下段に指による連続押捺文、胴部櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
61	16	248	10	弥生甕 口縁 2/3 残	床 +21	21.4			10YR2/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、胴部ハケ。 内　ハケ後篦ナデ一部篦ミガキ。	
61	17	248	77	弥生甕 口縁 1/2 強残　胴部 3/4 残・底部全欠	床 +40	20.6			10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	小石含む	外　口唇部指頭押捺、他ハケ後ナデ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
61	18	248	7	弥生壺 胴部 1/2・底部完存	床直		5.8		2.5YR5/6 明赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　胴部ハケ後篦ミガキ、底部篦ナデ。 内　胴部ハケ後篦ミガキ、底部篦ナデ。	
61	19	248	18	弥生壺 底部完存	床 +6		7.5		7.5YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	底部木葉痕。
61	20	248	19	弥生壺 底部完存	床直		6.3		2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
61	21	248	89	縄文深鉢 底部 1/4 弱残	床 +21		(9.8)		5YR6/6 橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ後単節縄文。 内　ナデ。	
61	22	248	20	弥生壺 底部完存	床 +15		6.7		5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　底部篦ケズリ、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
61	23	248	90	弥生甕 底部 1/5 残	床 +40		(10.8)		2.5YR2/1 黒色	良好	7㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	
61	24	248	91	弥生甕 底部 1/5 残	床 +40		(7.6)		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ、大半は摩耗。 内　器面剥離。	外面部分的に赤彩の痕跡あり。
61	25	248	15	弥生壺 胴部 2/3 残・底部 1/2 弱残	床直		(4.8)		10R4/8 赤色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　胴部中位に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	外面施文以外赤彩。
61	26	248	61	土師器甕 口縁 1/5 残	一括	(19.6)			10YR3/2 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後一部ナデ。 内　口縁部ハケ、他篦ナデ。	
61	27	248	62	土師器鉢 口縁 1/4 強残	床 +15	(13.8)			5YR3/1 黒褐色 5YR4/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	外面は表現すべきか否かのハケ状の条線。
61	28	248	21	土師器坏 口縁部 1/3 残	一括	(14.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部篦ナデ。 内　口唇部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
61	29	248	29	弥生甕　口縁部	床 +15				7.5YR7/6 橙色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
61	30	248	37	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
61	31	248	30	弥生甕　口縁部	床 +15				5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
61	32	248	25	弥生甕　口縁部	床 +15				7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文の下位に原体による羽状押捺文、ハケ状工具による篦ナデ。 内　ハケ状工具による篦ナデ。	
61	33	248	28	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。	
61	34	248	26	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	0.4㎜大の礫含む	外　口唇部指頭押捺波状文、原体による連続押捺文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
61	35	248	35	弥生甕　口縁部	一括				10YR2/4 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後ナデ。	
61	36	248	36	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
61	37	248	38	弥生甕　口縁部	未注記				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他指によるキザミ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
61	38	248	33	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部２段の指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
61	39	248	34	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部２段の指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
61	40	248	31	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部原体による連続押捺文、他ハケ。 内　ハケ後ナデ。	
61	41	248	41	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　粗いハケ。 内　篦ナデ。	
61	42	248	43	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5Y5/3 黄褐色	良好	微砂粒多	外　平行沈線による羽状文。 内　篦ナデ。	
61	43	248	23	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ、他Ｓ字状結節文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
61	44	248	22	弥生壺　頸部	床 +9・+15				2.5YR4/3 にぶい赤褐～7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　頸部Ｓ字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
61	45	248	55	弥生壺　胴部	一括				10Y2/1 黒色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線間に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
61	46	248	64	弥生壺　胴部	一括				10R5/6 赤色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
61	47	248	47	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後Ｓ字状結節文。 内　器面摩耗。	
61	48	248	40	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐～7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文と細縄文。 内　器面剥離。	
61	49	248	51	弥生壺　胴部	床直				7.5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行沈線による羽状文。 内　器面磨耗。	
61	50	248	39	弥生壺　胴部	床 +15				10YR4/6 赤～7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　胴部４段以上の細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
61	51	248	24	弥生壺　胴部	床 +40				10R4/6 赤色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	5㎜大の礫含む	外　平行沈線による山形文。 内　篦ナデ。	
61	52	248	49	弥生壺　胴部	一括				N-2/0 黒色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き平行沈線文。 内　篦ナデ。	
61	53	248	66	弥生壺　胴部	一括				10R5/6 赤色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き平行沈線文、他一部に円形浮文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
61	54	248	63	弥生壺　胴部	一括				10R5/6 赤色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　櫛描き平行沈線文、他一部に円形浮文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
61	55	248	45	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　縄文施文後に平行沈線文。 内　篦ナデ。	
61	56	248	44	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　櫛描き平行沈線文と棒状工具による連続刺突文。 内　器面剥離。	
61	57	248	80	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線内に爪形文。 内　ナデ。	
61	58	248	83	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇～口縁部にかけて粘土紐貼り付けによる隆帯、沈線文内に爪形文。 内　ナデ。	
61	59	248	78	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部沈線文と縄文。 内　ナデ後篦ミガキ。	
61	60	248	85	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　条痕文。 内　ナデ。	
61	61	248	82	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　棒状工具による連続刺突文。 内　ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
61	62	248	88	縄文深鉢　胴部	一括				5Y6/6 橙色	良好	密	外　条痕文。 内　ナデ。	
61	63	248	87	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　条痕文。 内　ナデ。	
61	64	248	84	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　条痕文。 内　ナデ。	
61	65	248	79	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　粘土紐貼り付けによる隆帯文内に指頭押捺文、沈線区画内に縄文。 内　ナデ。	
61	66	248	86	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　条痕文。 内　条痕文。	
61	67	248	81	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR3/1 暗赤灰色	良好	微砂粒含む	外　平行沈線内に爪形文。 内　ナデ。	
62	1	250	1	弥生甕 全体 2/3	床 +11	24.6	6.2	28.1	2.5YR5/8 明赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺波状文。頸部ハケ後櫛描き波状文、他ハケ後篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内面胴部下端は剥離。
62	2	250	4	弥生甕 口縁 1/3	床 +7	22.0			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
62	3	250	7	弥生広口壺 口縁 1/4 弱	一括	(12.0)			2.5YR4/6 赤褐色 N1.5/0 黒色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	頸部の 2 ヶ所に穿孔。
62	4	250	2	弥生甕 底部完存	床 +10		8.6		10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離激しい。	
62	5	250	3	弥生甕 底部完存	床 +7		6.0		2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　（篦ミガキ）剥離によって大部分不明。	
62	6	250	6	弥生高坏 脚部 4/5	一括		7.0		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
62	8	250	10	弥生壺　口縁部	一括				5YR4/6 赤褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁。口縁部羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。4 連一組のキザミ付棒状浮文。
62	9	250	15	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐～ N2/0 黒色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。	
62	10	250	13	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR5/8 明赤褐～ 7.5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　篦ナデ	
62	11	250	11	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ、平行沈線による波形文。 内　内面磨耗。	外面赤彩。
62	12	250	12	弥生壺　頸部	一括				10YR4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　頸部棒状工具による連続刺突文。 内　器面剥離。	外面赤彩。
62	13	250	14	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒多	外　棒状工具による連続刺突文。 内　器面剥離。	3 段以上の輪積み。
63	1	249A	5	土師器甕 胴部 1/4	床 +13				7.5YR4/3 褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
63	2	249A	4	土師器甕 口縁 1/4	一括	(16.4)			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	
63	3	249A	1	土師器坏 底部の一部欠	床 +2	15.0		5.5	10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ　体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ　体部篦ナデ。	内外面赤彩。
63	4	249A	3	土師器器台 口縁の 1/3 強	一括	(8.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面赤彩。
63	5	249A	2	土師器高坏 坏部大半欠	一括		5.2		7.5YR5/4 にぶい褐～ 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部指ナデ。	
63	6	249A	6	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。2 連の S 字状結節文間に指頭押捺文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
63	7	249A	11	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁。口唇部指頭押捺波状文。S 字状結節文。 内　篦ナデ。	
63	8	249A	12	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	加曽利 B 式土器。
63	9	249A	10	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　細縄文間に 4 連の S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
63	10	249A	14	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部条痕文。 内　ナデ。	
63	11	249A	9	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
63	12	249A	13	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文。 内　篦ミガキ。	
63	13	249A	8	弥生鉢　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　2 段の細縄文間を篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
63	14	249A	7	弥生壺　頸部	一括				2.5YR5/2 暗灰黄色	良好	密	外　頸部細縄文。 内　ナデ。	
63	15	249A	16	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	
63	16	249A	15	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	微砂粒多	外　半截竹管による連続刺突文。 内　ナデ	
65	1	216	6	土師器 S 字甕 口縁 1/8 残	一括	(19.2)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケのち肩部に横位の平行沈線。 内　ナデ。	
65	2	216	4	土師器壺 口縁 1/2	床 +17	16.2			10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
65	3	216	10	土師器甕 底部 1/4 ～胴部一部	床直		(7.4)		10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
65	4	216	9	土師器高坏 脚部 1/3	一括		(10.4)		10R5/6 赤色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ミガキ、裾部篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
65	5	216	5	土師器器台 脚部 1/2	一括		11.4		2.5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒多	外　篦ケズリ後（粗い篦ナデ？）裾部篦ナデ。 内　篦ケズリ後（粗い篦ナデ？）裾部篦ナデ。	脚の 4 方に径 1.5cm程の穿孔。
65	6	216	3	土師器器台 脚部 1/2 強欠	床 +8	6.5	(12.0)	7.5	10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部ハケ後篦ナデ、脚部篦ナデ後篦ミガキ。 内　坏部篦ナデ、脚部奥指ナデ、中位ハケ後篦ナデ、裾部篦ナデ。	
65	7	216	1	土師器坩 胴部 1/2 欠	床直	9.2	2.8	12.0	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。（胴中は多量の石膏により調整痕が見えない）	
65	10	216	18	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
65	11	216	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
65	12	216	16	弥生壺　胴部	一括				5YR3/3 暗赤褐色	良好	密	外　平行沈線間に S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　粗い篦ナデ。	外面赤彩。
65	13	216	17	弥生壺　胴部	床直				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　肩部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
66	1	244A	7	弥生甕 ほぼ完存	一括	21.0	6.0	25.7	10YR7/1 黒色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	2 ～ 3㎜の礫含む	外　口唇部指頭押捺文、頸～胴部ハケ状工具による篦ナデ。（細かい条線） 内　折り返し口縁、篦ナデ。	
66	2	244A	6	弥生甕 口縁 1/3 残	一括	(16.4)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、頸部棒状工具による連続キザミ、他篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
66	3	244A	8	弥生鉢 口縁ほぼ全欠・胴部一部欠・底部 2/3 残	炉内一括	(16.8)	6.8	10.0	10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部円形竹管による連続刺突文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
66	4	244A	1	土師器壺 口縁 1/5 残	一括	(13.6)			5YR6/6 橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
66	5	244A	9	弥生甕 底部 1/4 残	一括		(8.2)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ一部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
66	6	244A	10	弥生壺 底部完存	一括		3.7		7.5R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　底部篦ナデ。 内　粗い篦ナデ。	外面赤彩。
66	7	244A	11	弥生甕 底部 1/3 残	一括		(5.2)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
66	9	244A	12	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後一部篦ナデ。	
66	10	244A	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後ナデ。	
66	11	244A	16	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　折返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。	
66	12	244A	13	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
66	13	244A	15	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
66	14	244A	18	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
66	15	244A	20	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部下位に円形竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
66	16	244A	14	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　頸部原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
66	17	244A	21	弥生鉢　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　細縄文、他ハケ。 内　篦ナデ。	
66	18	244A	19	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
66	19	244A	25	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　篦ナデ。	称名寺式土器。
66	20	244A	23	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　懸垂文間に細縄文。 内　篦ナデ。	
66	21	244A	22	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 E 式土器。
66	22	244A	24	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　篦ナデ。	称名寺式土器。
68	1	215A	24	土師器甕 底部完存～口縁 1/4	床 +19	(19.2)	10.0	26.4	10YR2/1 黒色 7.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ミガキ。（光沢あり） 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。（石膏充填され大部分不明）	
68	2	215A	1	土師器甕 口縁 1/3	一括	(16.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
68	3	215A	30	土師器甑 底部～胴部 1/2・底部ほぼ完存	床 +18	5.2			10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
68	4	215A	9	土師器鉢 底部 1/4	一括		(4.4)		10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
68	5	215A	32	弥生壺 底部完存	床 +25		10.0		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面胴部中位以上赤彩。
68	6	215A	25	土師器台付甕 底部ほぼ完存	床 +32		9.5		5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
68	7	215A	31	土師器坩 底部完存	床 +18				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩。
68	8	215A	26	土師器鉢 口縁一部欠	床 +19	11.2		8.3	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。胴部篦ナデ。	
68	9	215A	12	土師器高坏 脚部のみ	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り、他篦ナデ。	外面赤彩。
68	10	215A	2	土師器高坏 口縁全欠	床 +13				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
68	11	215A	4	土師器高坏 脚部 1/3	一括		(8.0)		10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後指ナデ。 内　指ナデ。	
68	12	215A	29	土師器器台？ 底部 1/4	一括		(9.0)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
68	13	215A	15	土師器高坏 脚部完存（坏部全欠）	床 +7 （溝の上）		12.2		10R4/6 赤色	良好	5㎜大礫含む	外　篦ナデ。 内　脚部篦ケズリに近い掻き取り、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
68	14	215A	11	土師器器台 坏部・脚端部欠	床 +9				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 4 方に穿孔。
68	15	215A	19	土師器坏 口縁 1/3 強欠	床 +19	15.2		5.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
68	16	215A	18	土師器坏 ほぼ完形	床 +20	15.2		4.8	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
68	17	215A	16	土師器坏 ほぼ完形	床 +18	15.2		5.4	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
68	18	215A	20	土師器坏 1/2 強	一括	15.4		5.5	2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
68	19	215A	17	土師器坏 底部～口縁 1/2 弱	床 +21	(15.4)		(5.2)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
68	20	215A	5	土師器高坏 口縁 1/8	一括	(18.2)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
68	21	215A	8	土師器高坏 脚部完存・裾全欠	床 +19（溝）				10R4/6 赤色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り、他篦ナデ。	外面赤彩。
68	22	215A	13	土師器高坏 口縁 1/6	一括	(17.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
68	29	215A	10	土師器壺　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、折り返し部に原体押捺、口縁部ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
68	30	215A	38	弥生壺　口縁部	一括				5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　口唇部羽状縄文と原体押捺、篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
68	31	215A	40	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
68	32	215A	37	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、篦ナデ。 内　篦ナデ。	
68	33	215A	39	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
68	34	215A	36	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　指頭押捺文とＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
68	35	215A	34	弥生壺　胴部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　羽状縄文とＳ字状結節文、篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
68	36	215A	35	弥生甕　胴部	床 +19				10YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
68	37	215A	33	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
69	1	215B	4	弥生甕 口縁1/3 残	床直	(19.6)			5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ一部ナデ。 内　口縁部ハケ、他篦ナデ。	
69	2	215B	1	弥生壺　胴部	床直				10R3/3 暗赤褐色 2.5Y3/1 黒褐色	良好	密	外　沈線による山形文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面山形文内赤彩。
69	3	215B	3	弥生壺 口縁・底部全欠・頸部3/4 残・胴部1/2 残	床直				10YR6/3 にぶい黄橙色 10YR2/1 黒色	良好	密	外　頸部篦ナデ、胴部細縄文後全体的に篦ナデ、下位篦ミガキ。 内　内面器面磨耗激しい。	
71	1	214	1	土師器甕 口縁・胴部一部欠	床 +8	15.1	6.9	17.8	7.5YR2/3 極暗褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
71	2	214	4	土師器甕 口縁1/4 ～胴部1/2	床 +10	(17.8)			10YR3/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	
71	3	214	3	土師器甕 口縁1/3 ～底部全欠	床 +19	17.6			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　ハケ、一部指圧痕残る。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
71	4	214	2	土師器甕 口縁1/3 ～胴部一部欠	床 +9	18.0		23.8	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	丸底。
71	5	214	6	土師器壺 口縁2/3	一括	14.6			10YR4/4 褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
71	6	214	12	土師器壺 口縁1/4	一括	(14.6)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
71	7	214	8	土師器甕 底部完存	一括		4.8		7.5YR4/6 褐色 7.5YR2/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
71	8	214	7	土師器鉢 口縁1/3 欠	床 -2	14.3	5.2		10YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ケズリに近い篦ナデ。 内　篦ナデ。	
71	9	214	14	土師器ミニチュア坩 完形	床 +37	6.2	4.4	5.9	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指ナデ、胴部ハケ後篦ケズリ。 内　口縁部ハケ後指ナデ、胴部篦ケズリ。	
71	10	214	5	土師器高坏 口縁2/3	床 +2	19.0			10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1～2㎜大の小礫多	外　粗い篦ナデ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
71	11	214	11	土師器坩 口縁1/2 ～胴部上位1/2	床 +5	9.4			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ、胴部指ナデ。	
71	12	214	9	土師器坩 口縁1/4	一括	(9.2)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
71	13	214	13	土師器坩 口縁1/4	一括	(8.2)			2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/6 赤褐～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部まで赤彩。
71	14	214	37	弥生甕　口縁部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、ハケ。 内　内側に折り返し口縁。	
71	15	214	34	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、波状文頸部原体押捺、ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
71	16	214	32	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、以下指頭押捺文。 内　篦ナデ。	
71	17	214	31	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、二状のＳ字状結節文と指頭押捺文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
71	18	214	30	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR2/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。	
71	19	214	36	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色 2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　折り返し口縁、口唇部細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
71	20	214	28	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部三条の平行沈線間に細縄文、頸部円形竹管による連続刺突文。 内　口唇部付近ハケ、他篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
71	21	214	26	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　頸部二条の平行沈線以下に細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
71	22	214	35	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　五条の平行沈線間に細縄文。 内　ナデ。	
71	23	214	25	縄文深鉢　胴部	一括				5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　胴部二条の沈線による懸垂文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
71	24	214	24	縄文深鉢　胴部	一括				5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　胴部一条の沈線による懸垂文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
72	1	245A	3	土師器甕 頸部～胴部 1/4	床 +2				10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　頸部ナデ、体部篦ケズリ。 内　頸部ナデ、体部篦ナデ。	
72	2	245A	2	土師器甕 口縁～胴部 1/2	床 +21	24.4			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
72	3	245A	1	土師器甕 口縁～胴部 1/6 欠	床 +10	23.3	7.4	19.0	10YR4/6 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
72	4	245A	11	土師器鉢 口縁 1/2 欠	床 +2	17.6	4.5	5.2	7.5YR1.7/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面黒色処理。
72	5	245A	5	土師器坏 全体 1/4	一括	(14.4)		4.4	10YR4/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
72	6	245A	7	土師器坏 口縁 1/12	一括	(14.2)			10YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
72	7	245A	10	土師器坏 口縁 1/8 弱	一括	(14.8)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ。	有段口縁坏。小片の為単位不明。
72	8	245A	6	土師器坏 口縁 1/16	一括	(13.8)			5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面黒色処理。
72	9	245A	8	土師器坏 口縁 1/8	一括	(12.4)			N2/0 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
72	10	245A	9	土師器坏 体部 1/8	一括				10YR1/3 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
72	11	245A	4	土師器高坏 口縁・脚裾部全欠	床 +3				7.5YR1.7/1 黒色 7.5YR1.7/1 黒～7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　坏部篦ケズリ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ケズリ、脚部篦ナデ。	脚内面以外黒色処理。
72	12	245A	17	土師器高坏 坏部 1/5	一括		(7.4)		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
72	13	245A	16	土師器高坏 脚裾部 1/4	一括		(10.4)		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　脚部ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の３方に穿孔。
72	14	245A	19	土師器坩 胴部 1/4	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
72	15	245A	15	手捏土器鉢 底部完存	一括		3.2		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　篦ナデ。	
72	16	245A	18	土師器坩 口縁部 1/12	床 +0	(11.0)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
72	17	245A	14	土師器鉢 口縁～底部 1/5	一括	14.3	(4.2)	6.9	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口縁面取り。
72	20	245A	21	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐色	良好	砂含む	外　沈線文内に縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
72	21	245A	20	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
73	1	246	1	弥生壺 口縁 1/2 弱	床直	(22.0)			5YR6/6 橙～10R3/6 暗赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部羽状縄文と棒状工具によるキザミ目、頸～胴部上位にＳ字状結節文間に羽状縄文、沈線区画内に細縄文、他篦ミガキ。 内　口縁～頸部篦ミガキ、他胴部篦ナデ。	外面施文以外赤彩。口縁部４連の棒状浮文４ヶ所。頸部２連の円形竹管文に付円形浮文４ヶ所。内面口縁部赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
73	2	246	2	弥生直口壺 口縁～胴部 2/3 残・底部全欠	床直	(13.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ナデ、胴部篦ミガキ。	内面口縁部器面剥離。
73	3	246	3	弥生壺 口縁 2/3 胴部～底部 1/3 残	床 +5	9.2	(3.4)	13.5	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁～胴部篦ナデ、底部粗い篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ、頸部指ナデ、胴部篦ナデ。	
73	4	246	11	土師器坏 口縁 1/8 弱残	一括	(14.8)			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理が摩耗で飛ぶ。
73	5	246	7	土師器坏 口縁 1/5 残	一括	(13.2)			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面黒色処理。
73	6	246	10	土師器坏 口縁 1/8 残	一括	(15.2)			10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後一部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
73	7	246	9	土師器坏 口縁 1/8 残	一括	(12.2)			10YR3/2 黒褐～ 7.5YR6/4 橙色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
73	8	246	8	土師器坏 口縁 1/8 残	一括	(10.0)			10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ケズリ。 内　篦ナデ。	内面黒色処理。
73	9	246	13	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR3/1 黒褐色 5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　平行沈線文内に連続刺突文。 内　篦ミガキ。	
73	10	246	12	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　楕円区画内に縄文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
73	11	246	14	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線文内に竹管による円形連続刺突文と縄文。 内　ナデ。	
73	12	246	16	縄文深鉢　底部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	良好	1㎜大の礫含む	外　底部付近まで単節縄文を疎らに施す。 内　ナデ。	
74	1	土坑 245 B・C	3	弥生壺 口縁 1/3 ・胴部 1/3 強	土坑底 +2	(14.6)			10R4/8 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部下端に原体押捺、口縁部ナデ、頸部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口唇部下端原体押捺、口縁部ナデ、頸部篦ナデ後篦ミガキ。	外面全面 ・内面口縁～頸部赤彩。内面器面剥離激しい。
74	2	土坑 245 B・C	1	土師器二重口縁壺 頸部 3/4 強	土坑底 +3				5YR5/6 明赤褐色	良好	1～2㎜大の小石含む	外　口縁部ハケ、胴部篦ミガキ、頸部間突帯がはがれた痕跡がある。 内　頸部篦ミガキ他器面剥離、胴部篦ナデ。	頸部外面付近に凸帯が貼り付く、接合部は一次調整にハケ、凸帯貼り付け後頸部篦ミガキ。
74	3	土坑 245 B・C	2	土師器ハケ甕 ほぼ完形	土坑底 +7	13.8	3.2	12.4	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
75	1	220	2	土師器甕 胴部 2/3	カマド内他	16.6	8.5	28.3	5YR6/6 橙色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ（よく見えない）。	内面摩耗。
75	2	220	3	土師器甕 底部全欠 口縁部 1/3 強	カマド脇他	(17.3)			5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面上半部摩耗、篦ナデか ?。
75	3	220	4	土師器甕 口縁部完存	床 +5	15.7			10YR6/6 明黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	褐色粒含む	外　口縁部ナデ、他篦ケズリ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部面取り。　内面摩耗剥離やや激しく単位不明。
75	4	220	7	土師器二重口縁壺 口縁 1/6	一括	(18.8)			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、ハケ後一部篦ナデ。 内　ハケ後一部篦ナデ。	内外面赤彩。非常に丁寧に作られた土器。
75	5	220	1	土師器甕 口縁部全欠・底部完存	カマド脇他		6.5		2.5YR5/4 にぶい赤褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
75	6	220	6	土師器壺 口縁部 1/3	床 +25	(15.1)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
75	7	220	16	手捏土器鉢 底部 1/2	一括		(4.4)		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　指ナデ。 内　篦ナデ。	
75	8	220	17	弥生甕 口縁部 1/6	カマド内	(12.0)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ、口唇部指頭押捺波状文。 内　ハケ後篦ナデ。	
75	9	220	10	土師器高坏 坏部の 1/3 強	一括	(18.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
75	10	220	5	土師器甕 底部 1/3 強	床 +3		(10.8)		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　不明。 内　篦ナデ。	外器面摩耗激しい。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
75	11	220	15	土師器甕 底部 1/8	一括		(7.0)		2.5YR5/8 明赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
75	13	220	8	土師器坩 口縁の 1/5 ～底部 1/2	床 -1	(8.1)	3.3	15.6	10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ、胴部下端丁寧な篦ケズリ。 内　口縁～頸部篦ミガキ、他篦ナデ。	外面全面 ・内面頸部まで赤彩。
75	14	220	9	土師器小型甕 口縁 1/4 ～底部全欠	カマド袖密着	11.4			10R4/8 赤色 10R4/8 赤～ 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口縁部ナデ胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ（石膏の為不明）。	外面全面 ・内面口縁部のみ赤彩。
75	15	220	14	土師器坏 ほぼ完形	床 +3	14.0		5.6	10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部丁寧なナデに近い篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
75	16	220	11	土師器坏 口縁 2/3	床 -1	(14.2)		4.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　篦ナデ（単位不明）。	内外面赤彩。内面器面剥離激しい。
75	17	220	12	土師器坏 口縁 3/5	床 +5	14.6		5.2	2.5YR4/8 赤褐～ 10YR6/6 明黄褐色 2.5YR54/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ナデに近い篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内面全面 ・外面口縁部赤彩。
75	18	220	13	土師器坏 口縁 1/8	床 +5	(15.1)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
75	20	220	23	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
75	21	220	24	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	繊維含む	外　円形竹管文と半截竹管による平行沈線。 内　ナデ。	早期鵜ヶ島台式土器。
75	22	220	25	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 5YR6/8 橙色	良好	密	外　円形押捺。凹帯間に細縄文。 内　剥離激しい。	
75	23	220	26	縄文深鉢　胴部	一括				2.5Y5/3 黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　斜行細縄文。 内　剥離激しい。	
75	24	220	22	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線と縄文。 内　ナデ。	加曽利 B 式土器。
77	1	218B ・219	1	土師器甕 口縁 1/2 強欠	床 +10	(17.8)	4.7	21.5	5Y7/1 灰白色 2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部面取り。 内面つまみ上がる。外面は環元焼成ぎみの色調となる。
77	2	218B ・219	3	土師器甕 口縁 1/4 弱～胴部中位	床 +6	(15.4)			10YR3/1 黒褐色 5YR3/3 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
77	3	218B ・219	16	土師器甕 口縁 1/4	床直	(18.8)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
77	4	218B ・219	4	土師器二重口縁壺 口縁一部～頸部 1/4	一括	(20.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、頸部ハケ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
77	5	218B ・219	10	土師器二重口縁壺 口縁～頸部完存	床直	16.6			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、頸部ハケ後篦ミガキ、胴部ハケ。 内　口縁部篦ナデ後一部篦ミガキ、頸部ハケ後ナデ。	内外面赤彩。
77	6	218B ・219	14	土師器壺 口縁 3/4	レベル 記載なし	13.9			2.5YR4/6 赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
77	7	218B ・219	2	土師器坩 口縁～胴部中位 1/2 強	床 +9・+24	11.8			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部篦ナデ、胴部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
77	8	218B ・219	15	土師器鉢 口縁 1/2 弱～底部完存	床 -4	(12.0)	4.2	8.3	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部篦ミガキ、底部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、底部篦ミガキ。	
77	9	218B ・219	6	土師器器台 口縁極一部欠（ほぼ完形）	床 -2	9.0	9.8	8.0	10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
77	10	218B ・219	5	土師器器台 口縁と裾一部欠	床 +6	9.2	9.8	7.2	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
77	11	218B ・219	11	土師器高坏 口唇部全欠他ほぼ 2/3 以上残	床直		11.4		7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ、脚部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚の 4 方に穿孔。
77	12	218B ・219	12	土師器高坏 坏部完存・脚部全欠	床 +15	13.1			10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
77	13	218B・219	7	土師器高坏 脚裾一部～坏部全欠	床 -4		(11.2)		10R4/4 赤褐色 5YR4/6 赤褐色（脚内面）	良好	密	外　篦ミガキ、裾部篦ナデ。 内　篦ナデ。	坏部内面 ・脚部外面赤彩。
77	14	218B・219	13	土師器鉢 口縁 3/4 ～底部 2/3	床 +15	7.2	3.8	5.2	10YR2/2 黒褐色	良好	密	外　粗い篦ナデ。 内　粗い篦ナデ。	
77	15	218B・219	18	土師器ミニチュア鉢 口縁 1/4 ～底部 3/4	一括	4.7	3.8	2.5	10YR2/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
78	1	218A	1	弥生甕 口縁 1/2 弱 胴部 2/3・底部完存	床 +6	(17.6)	6.6	13.4	5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
79	1	206	2	土師器甕 口縁ほぼ完存・胴部～底部 1/2 弱	カマド	13.5	9.3	18.2	10YR3/3 暗褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1～2㎜大の砂粒多含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
79	2	206	1	土師器甕 底部完存	カマド		5.4		2.5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	1㎜大の砂粒多含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
79	3	206	3	弥生壺 胴部 1/2 弱	床直		5.4		10YR5/6 黄褐色	良好	1～5㎜大の茶褐色粒含む	外　胴部篦ナデ後上部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
79	4	206	7	土師器甕 底部完存	一括		6.6		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　胴部ハケ後篦ナデ、底部篦ケズリ。 内　胴部ハケ後篦ナデ、底部ハケ後篦ミガキ。	底部は逆時計回転を主に篦ケズリを行う。
79	5	206	9	土師器坏船型 全体 1/2 弱	床直	(13.6)			10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ。	指紋あり。
79	6	206	4	弥生壺 頸部 1/2	床 +33				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後頸部に櫛描き文と櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
79	7	206	15	土師器坩 胴部 1/4	床直				2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/6 赤褐～ 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指ナデ。	外面全面 ・内面頸部まで赤彩。
79	8	206	5	土師器鉢 口縁～胴部 1/2 弱・底部全欠	一括	(9.2)			10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
79	9	206	6	土師器坩 口縁～頸部 1/3	一括	(6.2)			7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙～ 7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後篦ミガキ。	内面黒色処理。
79	10	206	10	土師器坏 全体 1/4 弱	一括	(11.8)			7.5YR3/2 黒褐～ 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　口縁部篦ミガキ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理の痕跡残る。
79	11	206	11	土師器坏 口縁 1/4	一括	(13.8)			7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
79	12	206	12	土師器坏 口縁 1/8	一括	(12.0)			5YR4/1 褐灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
79	13	206	13	土師器坏 口縁 1/8 弱	一括	(12.8)			7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
79	14	206	8	土師器甕 底部完存	一括		4.2		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
79	15	206	17	手捏土器鉢 ほぼ完形	床直	6.0	4.2	3.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形後篦ナデ。	
79	16	206	18	手捏土器鉢 ほぼ完形	床直	4.8	4.0	3.3	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
79	17	206	19	手捏土器鉢 底部 1/5 欠	床直		3.5		2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	1㎜大の礫多量含む	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
79	20	206	21	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y7/2 灰黄色	良好	密	外　格子風敲き。 内　青海波磨り消し。	
79	21	206	20	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y7/2 灰黄色	良好	密	外　格子風敲き。 内　青海波磨り消し。	
79	22	206	23	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y5/2 暗灰黄色 2.5Y5/1 黄灰色	良好	密	外　平行敲き。 内　半磨り消し。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
80	1	210A・B	2	土師器甕 底部大半欠く	一括	18.7	10.0	25.2	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ、底部付近篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
80	2	210A・B	3	土師器甕 ほぼ完形	レベル記載なし	23.9	8.0	22.5	10YR4/6 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
80	3	210A・B	4	土師器甕 口縁 1/2 強欠	床 +7	(20.0)	7.8	18.7	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部篦ナデ、胴部篦ミガキ、底部付近篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	頸部外面輪積み痕の弱い段を有する。 外面器面剥離。
80	4	210A・B	5	土師器甕 口縁の大半欠く　底部完存	床直	(17.0)	6.2	18.0	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、頸部篦ナデ一段の輪積み痕を残す、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	底部に約 1.0㎝程の焼成後穿孔。
80	5	210A・B	1	土師器片口甕 ほぼ完形	炉内 -6	19.2	8.7	25.2	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　片口口縁、口縁部篦ナデ、頸部弱い段、胴部篦ナデ後篦ミガキ、底部強い段、篦ケズリに近い篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
80	6	210A・B	12	土師器折り返し口縁壺 ほぼ完形	床直	13.2	6.6	27.3	7.5YR6/6 橙色	良好	微砂粒含む	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部上位篦ミガキ、下位篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ一部篦ミガキ、胴部内面調整不明。	
80	7	210A・B	20	土師器器台 口縁一部欠	レベル記載なし	8.0	9.4	6.6	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ、口縁部に 2 連の円形浮文 4 ヶ所貼り付け、口唇部下位に棒状工具によるキザミ目。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
80	8	210A・B	19	土師器器台 裾部一部欠	床直	8.6	11.1	7.0	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、口縁部下端に棒状工具によるキザミ目、体部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
80	9	210A・B	23	土師器鉢 口縁一部欠	床直	9.0	2.7	6.3	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
80	10	210A・B	25	土師器鉢 ほぼ完形	床直	6.1	3.6	6.9	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
80	11	210A・B	24	土師器鉢 ほぼ完形	床直	7.7	2.6	5.4	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
80	12	210A・B	6	土師器坩 ほぼ完形	床直	8.2	4.4	10.5	10YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
80	13	210A・B	7	土師器坩 底部完存～口縁全欠	床直		5.4		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
80	14	210A・B	10	土師器壺 底部 1/2 弱	床直		(7.2)		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
80	15	210A・B	9	土師器甕 底部完存	一括		7.6		5YR3/4 暗赤褐色 5YR2/1 黒褐色	良好	密	外　粗い篦ミガキ後篦ナデ。 内　粗い篦ミガキ。	
80	16	210A・B	22	土師器高坏 脚部 3/4	一括		13.0		5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ、裾ナデ。 内　篦ナデ、裾ナデ。	脚の 4 方に穿孔。
80	17	210A・B	21	土師器高坏 脚部のみ	床直		14.8		5YR3/4 暗赤褐色	良好	砂粒多	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ一部篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
80	18	210A・B	16	土師器高坏 口縁 1/3 ・ 裾 2/3 欠	床直	13.7	(12.5)	9.8	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	
80	19	210A・B	13	土師器高坏 口縁一部欠	床直	21.1	11.8	13.2	2.5Y5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ミガキ下端篦ナデ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部指ナデ後篦ナデ。	脚内面以外赤彩。脚の 3 方に穿孔。 坏部内面はやや摩耗激しい。
80	20	210A・B	14	土師器高坏 完形	床直	17.7	10.3	15.4	5YR4/3 にぶい赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、坏部篦ナデ後篦ミガキ、脚部篦ナデ後篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ、裾端部は小さく内側に折り曲げる。	坏部内面赤彩。
80	21	210A・B	15	土師器高坏 脚・裾部 4/5 欠く	床直	16.8	(9.9)	11.4	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ後篦ミガキ、脚部篦ナデ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	
81	1	211A	1	土師器甕 口唇部 2/3	床 +6	(18.6)			7.5YR5/6 明褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	2 ～ 3㎜大の小礫含む	外　口縁部ナデ、胴部上位篦ケズリ後篦ナデ。中位以下篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
81	2	211A	2	土師器甕 底部完存～胴部 1/2	一括		7.7		7.5YR4/4 褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	1㎜大の小礫含む	外　粗い篦ケズリ。 内　器面剥離激しく不明。	内面器面剥離激しいが、底から 9.0㎝程の範囲に煤が付着した痕跡が残る。底部平ではなく非常に不安定な土器。
81	3	211A	20	土師器坩 口縁 1/4	一括	(13.0)			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
81	4	211A	15	土師器坩 口縁 1/4	一括	(12.0)			7.5YR6/6 橙色 10R4/8 赤色	良好	密	外　ナデ。やや摩耗激しい。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
81	5	211A	19	土師器坩 口縁 1/4	一括	(11.4)			10R4/8 赤色 10R3/6 暗赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
81	6	211A	16	土師器坩 口縁 1/8	一括	(10.4)			10R4/8 赤～ 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
81	7	211A	3	土師器甕 底部完存～胴部 1/2 強	床 +3		7.4		7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	2㎜大の小礫含む	外　篦ケズリ後一部ナデ。 内　篦ナデ。	
81	8	211A	4	土師器甕 底部完存	一括		7.3		5YR5/6 明赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	2㎜大の小礫多	外　ハケ後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
81	9	211A	17	土師器坩 底部 4/5	一括		4.0		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
81	10	211A	5	土師器鉢 ほぼ完形	床 -3	14.2	6.2	9.2	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。内面頸部付近器面剥離激しい。底部丸み帯び、安定性に欠く。
81	11	211A	10	土師器高坏 坏部 4/5	床 -12	18.1			10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
81	12	211A	13	土師器高坏 口縁 1/12	一括	(19.4)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
81	13	211A	11	土師器高坏 坏部 1/3	床 +6	(17.0)			10R4/8 赤色	良好	密	外　稜線上位ナデ。稜線下位篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。全体的に鈍重でにぶい造り。
81	14	211A	12	土師器高坏 裾部 3/4 欠	一括		(10.0)		10R4/8 赤色 10R4/8 赤～ 5YR5/6 明赤褐色（脚内）	良好	密	外　脚部横篦ミガキ。裾部篦ナデ。 内　篦ナデ。	柱実脚。脚部内面以外赤彩。
81	15	211A	6	土師器坏 ほぼ完形	一括	14.9		5.5	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
81	16	211A	9	土師器坏 口縁 1/5 ～体部	一括	(14.8)		6.2	2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR6/6 橙～ 10R4/8 赤色	良好	密	外　器面剥離激しく不明。 内　器面剥離激しく不明。	内外面赤彩痕残る。
81	17	211A	7	土師器坏 口縁 3/4 欠	床直	(13.9)		5.2	10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。外面器面磨耗激しい。
81	18	211A	8	土師器坏 口縁 1/4	一括	(15.2)			2.5YR5/8 明赤褐～ 10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面器面磨耗激しい。
81	19	211A	18	土師器坩 口縁 1/4	一括	(7.0)			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　粗い篦ミガキ。 内　粗い篦ミガキ。	内外面赤彩。
81	21	211A	22	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
81	22	211A	23	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、以下 2 連の S 字状結節文と指頭押捺文。 内　篦ナデ。	
81	23	211A	21	弥生甕　口縁部	床 +3				10YR4/2 灰黄褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
81	24	211A	24	弥生壺　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文と連続押捺文。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
81	25	211A	25	弥生鉢　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部 S 字状結節文。 内　篦ナデ。	
81	26	211A	26	弥生甕　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　ハケ。	
81	27	211A	27	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR3/3 暗橙色	良好	密	外　沈線文内に縄文、沈線上位に棒状工具による連続刺突文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	加曽利 B 精製土器。
82	1	212A	3	土師器甕 口縁 1/2 底部全欠	P6 内床 -20	(16.0)			2.5YR4/8 赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部上位篦ナデ、中位以下篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面は非常に丁寧な篦ナデ。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
82	2	212A	2	土師器甕 口縁完存 1/2	カマド脇 床直	16.6			7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
82	3	212A	18	土師器小型甕 底部 3/4	一括		5.4		10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
82	4	212A	15	土師器甕 底部 3/4	床 +7		7.4		5YR2/3 暗赤褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
82	5	212A	23	土師器鉢 口縁 1/6	一括	（10.6）			10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面 ・内面口縁部赤彩。
82	6	212A	17	土師器甕 底部 1/4	床 +29		（7.2）		7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
82	7	212A	19	土師器坩 底部完存	床 +29		3.0		7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
82	8	212A	25	土師器器台 口縁 1/4	一括	（6.0）			10R4/6 赤色			外　ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
82	9	212A	26	土師器ミニチュア甕 底部完存	一括		3.4		5YR4/6 赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
82	10	212A	27	手捏土器鉢 口唇部全欠	一括	（5.0）	2.6	2.4	7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後指ナデ。 内　篦ナデ後指ナデ。	
82	11	212A	5	土師器甕 口縁 1/2 弱	床 -20	（18.0）			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
82	12	212A	12	土師器高坏 坏部全欠 ・裾部 2/3 欠	カマド		（12.4）		7.5YR6/1 灰～ 10R4/8 赤色 10R4/8 赤～ 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　脚部篦ナデ後篦ミガキ？。 内　篦ナデ？。	脚の 3 方に穿孔。坏部内面、脚部外面赤彩。 外面に多量の灰が付着。支脚転用か？器面磨耗激しい。
82	13	212A	13	土師器高坏 脚部のみ	床 +20				2.5YR3/6 暗赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の礫多	外　縦方向の篦ケズリ後横方向の篦ナデ。 内　粗い掻き取り。裾篦ナデ。	外面赤彩。輪積み明瞭。
83	1	212B	1	土師器甕 1/2 残	カマド	15.0			2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面の一部器面剥離。
83	2	212B	4	土師器甕 口縁完存	カマド	15.2			7.5YR6/6 橙色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ？。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面器面磨耗激しい。内面輪積み明瞭。
83	3	212B	6	土師器甕 口縁 1/4	カマド	（18.4）			7.5YR5/6 明褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
83	4	212B	11	土師器高坏 脚部 1/2 欠	マカド	17.0	13.6	12.3	10R4/6 赤色 5YR3/3 暗赤褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ。脚部篦ケズリ後篦ミガキ。裾部篦ナデ。 内　坏部篦ナデ。脚部篦ケズリ。裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
83	5	212B	10	土師器坏 口縁 1/4	カマド	（15.4）		4.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。底部外面に線刻。
83	6	212B	9	土師器坏 ほぼ完形	カマド袖上 密着	15.6		7.2	10R4/8 赤～ 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。摩耗により地色出る。
83	7	212B	8	土師器鉢 ほぼ完形	カマド	13.0	7.8	10.0	2.5YR4/6 赤褐～ 5YR3/1 黒褐色 2.5YR4/6 赤褐～ 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　胴部中位まで細かい篦ナデ、胴部中位以下篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面胴部中位まで、内面口縁部のみ赤彩。
83	8	212B	22	須恵器甕 口縁 1/8	一括	26.6			5GY5/1 オリーブ灰色	良好	密	外　口唇部面取り。 内　ロクロナデ。	黒色粒含むが非常に緻密。
83	9	212B	20	須恵器蓋 完形	カマド脇 床直	13.5		3.3	5B5/1 青灰色 5B6/1 青灰色	良好	密（白色微砂粒含む）	外　ロクロナデ、天井部不整方向ナデ。 内　口縁部ロクロナデ、天井部不整方向の手持ちナデ。	口縁部と天井部を分ける稜は鋭い。口唇端部内面は折り返しによる鈍い段をなす特徴的な造りである。
84	1	208・209	16	弥生甕 口縁 1/3 残弱　胴部 3/4 残・底部全欠	一括	（17.8）			5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部指圧痕、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	口縁部 8 段の輪積み。
84	2	208・209	33	土師器甕 口縁 1/4 残	一括	（18.0）			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ。	
84	3	208・209	32	土師器甕 口縁 1/3 弱残	一括	（15.4）			7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
84	4	208・209	30	土師器壺 口縁 1/16 弱残	床 +19	(9.4)			10YR6/4 にぶい黄橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
84	5	208・209	26	土師器壺 口縁 1/16 残	一括	(21.4)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他ハケ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
84	6	208・209	2	土師器甕 口縁 1/4 弱	一括	(8.8)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、ハケ後篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸部指押さえ。	2 段の輪積み痕。
84	7	208・209	21	土師器坩 口縁 1/4 残	床 +8	(6.4)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部細縄文、他篦ナデ、頸部に 6 ヶ所の円形浮文。 内　篦ナデ。	
84	8	208・209	28	土師器壺 口縁 1/3 残	一括	(12.5)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
84	9	208・209	20	土師器坩 口縁 1/3 残	床 +8	(7.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
84	10	208・209	24	土師器壺 口縁 1/3 残	一括	(13.2)			7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
84	11	208・209	25	土師器壺 口縁 1/5 残	一括	(13.8)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、頸部ハケ後一部ナデ。 内　篦ナデ。	
84	12	208・209	17	弥生甕 底部 2/3 残	一括		9.8		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　底部ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
84	13	208・209	23	土師器甕 底部 3/4 強残	床 +4		7.8		7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
84	14	208・209	1	土師器甕 底部完存	一括		4.0		2.5Y5/3 黄褐色 2.5Y5/3 黄褐～ 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
84	15	208・209	22	土師器台付甕 脚部 1/3 残	一括		(5.2)		7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ケズリ。	
84	16	208・209	34	土師器台付甕 脚部 1/4 弱残	一括		(11.4)		7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
84	17	208・209	6	土師器坩 口縁 1/8 強	一括	(8.6)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
84	18	208・209	8	土師器坩 口縁 1/4	一括	(11.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
84	19	208・209	9	土師器坩 口縁 1/8 強	一括	(10.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	内外面赤彩。
84	20	208・209	5	土師器器台 坏部 1/4 弱	一括	(8.1)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面赤彩。
84	21	208・209	18	弥生壺 口縁・胴部 2/3 残・底部完存	床 +8	8.2	4.8	13.4	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ、底部篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ。	外面全面 ・内面口縁～頸部上位まで赤彩。 内面測定不能。
84	22	208・209	10	土師器埦 口縁 1/4 弱	一括	(14.8)			5YR6/6 橙色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
84	23	208・209	11	土師器坏 口縁 1/8	一括	(14.6)			2.5Y3/1 黒褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
84	24	208・209	27	土師器二重口縁壺 口縁 1/16 弱残	一括	(12.3)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
84	25	208・209	7	土師器坩 口縁 1/8	一括	(13.6)			10YR5/6 黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
84	26	208・209	29	土師器鉢 口縁 1/8 弱残・底部完存	一括	(15.8)	5.8	6.2	10R5/6 赤色	良好	1㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	内外面赤彩。
84	27	208・209	31	土師器鉢 口縁 1/8 弱残	一括	(13.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
84	28	208・209	4	土師器器台 脚部 1/8	一括		（12.8）		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
84	29	208・209	19	土師器器台 口 縁 1/3 残・ 底 部 1/3 残	床 -21	（5.9）	（8.1）	6.4	2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
84	30	208・209	3	土師器器台 坏 部 1/4 弱・ 脚 部 1/4 欠	一括	（6.4）	9.8	8.7	5YR4/3 にぶい赤褐色　7.5YR4/6 赤色 10R4/6 赤色　10YR3/1 黒褐色（脚部）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ、脚部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。脚の 3 方に穿孔。
84	33	208・209	35	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 10YR3/1 黒褐色　2.5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ状工具による平行沈線間に S 字状結節文、上位篦ミガキ、下位ハケ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
84	34	208・209	12	土師器 S 字甕　胴部	一括				7.5YR7/4 にぶい橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ナデ。	
84	35	208・209	13	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/3 暗赤褐～ 2.5Y2/1 黒色 5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	砂含む	外　沈線区画に S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
84	36	208・209	14	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　S 字状結節文間に縄文。 内　篦ナデ。	内面器面剥離。
84	37	208・209	15	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 にぶい橙色	良好	密	外　縄文。 内　摩耗激しい。	
86	1	207	10	土師器甕 底部大半欠	床 +4	16.2	（5.8）	23.6	10YR3/2 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	5㎜大の礫まばらに含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
86	2	207	2	土師器甕 口縁～胴部一部欠	床 +2	15.6	7.2	24.8	7.5YR3/1 黒褐色	良好	2㎜大の礫多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	胴部中位焼成後径 11.0cm程の円形窓穿つ。
86	3	207	6	土師器鉢 口縁 1/4	一括	（13.8）			10YR3/1 黒褐～ 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
86	4	207	8	土師器高坏 脚部全欠	カマド	11.4			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
86	5	207	7	土師器高坏 裾部 2/3 強～口縁全欠	カマド		14.8		10R6/4 赤～ 5YR5/6 明赤褐色	良好	1㎜大礫多（砂っぽい）	外　篦ナデ。 内　篦ナデ（坏部）指による掻き取り後下端篦ケズリ、裾部篦ナデ（脚部）。	純重で重い。坏部外面灰付着。 脚部内面のみ無彩。
86	6	207	1	土師器甕 口縁 1/2・底部完存	カマド内 +21	17.6	7.4	27.8	10YR6/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
86	7	207	5	土師器甕 口縁 1/6 ～胴部 1/3	一括	（18.0）			7.5YR2/1 黒色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
86	8	207	4	土師器甕 口縁 1/2	一括	17.2			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面やや器面剥離あり。
86	9	207	3	土師器甕 底部全欠～口縁一部欠	カマド内 +20	16.8			2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
87	1	205	1	土師器甕 底部～脚部一部	床直	14.6	7.4	24.1	7.5YR6/4 いぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	注記不明 205 号とは読めない。
87	2	205	6	土師器甕 口縁～胴部 1/2 強	床 +13	19.6			5Y6/6 橙色	良好	密	外　器面磨耗。 内　器面磨耗。	
87	3	205	2	土師器甕 口縁 1/3 ～胴部 1/2	床直	（16.8）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部敲き後ハケ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
87	4	205	14	土師器鉢 口縁 1/5	一括	（19.8）			10YR4/2 灰黄褐色 2.5Y3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。	内面黒色処理。
87	5	205	15	土師器鉢 口縁 1/8	一括	（13.2）			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	5㎜大の褐色粒含	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ハケ、体部篦ナデ。	
87	6	205	17	土師器坏 口縁 1/8	床 +13	（14.0）			2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
87	7	205	16	土師器坏 口縁 1/8	一括	（19.0）			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	内外面黒色処理。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
87	8	205	18	土師器坏 口縁1/8	一括	(12.6)			2.5Y3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部器面磨耗。 内　篦ミガキ。	内面黒色処理。
87	9	205	7	土師器短頸壺 口縁1/8	一括	(12.6)			10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
87	10	205	3	土師器坩 底部全欠	床 +4	7.2			10R5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
87	11	205	5	弥生鉢 底部完存～口縁1/4	床直	(8.6)	3.0	7.0	7.5YR5/6 明褐色	良好	3㎜大褐色礫含む	外　折り返し口縁、口縁部原体押捺、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口縁部に焼成後径 0.6cm程の円形穿孔１ヶ所。
87	12	205	12	土師器高坏 坏部1/8	一括	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
87	13	205	4	土師器高坏 坏部・脚裾部全欠	床直				10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	褐色粒含む	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	坏部と脚部の接合はホゾ方式。 脚の３方に穿孔。
87	16	205	23	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
87	17	205	8	土師器甕　口縁部	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
87	18	205	22	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
87	19	205	25	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
87	20	205	24	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　細縄文による山形文、他ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
87	21	205	26	弥生壺　胴部	一括				5YR6/4 にぶい赤褐色	良好	微砂粒多	外　平行沈線文。 内　器面剥離。	
88	1	204	4	弥生甕 口縁1/8	床直	(20.2)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
88	2	204	5	弥生広口壺 口縁1/4弱	一括	(23.5)			10R4/6 赤色 10R4/6 赤～2.5Y4/4 オリーブ褐色	良好	砂含む	外　口唇部細縄文、頸部篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
88	3	204	1	弥生甕 全体1/4	一括	(14.8)			7.5YR5/4 にぶい褐～7.5YR3/1 黒褐色	良好	砂含む	外　折返し口縁、口唇部と頸部棒状工具による押捺文、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	
88	4	204	3	弥生鉢 口縁1/4強	一括	(20.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。口縁部下位に２孔の穿孔。
88	5	204	2	弥生壺　胴部	床直				10R4/6 赤色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　胴部羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
88	6	204	17	弥生壺 口縁1/8	一括	(9.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ミガキ一部剥離。 内　篦ミガキ一部剥離。	内外面赤彩。
88	7	204	10	弥生壺 口縁一部残頸部ほぼ完存	一括	(2.8)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部下に櫛描き波状文、頸部平行沈線間の凸帯に棒状工具によるキザミ。 内　篦ナデ。	
88	8	204	9	弥生壺 頸部のみ	一括				10R4/3 赤褐色 10R4/6 赤～10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　頸部篦ミガキ、沈線下に細縄文。 内　篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。 内面摩耗激しい。
88	9	204	11	弥生壺 口縁1/4弱	床直	(10.4)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	砂含む	外　折り返し口縁、口縁部棒状浮文と細縄文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
88	10	204	15	弥生甕 底部1/4強	一括		5.6		2.5YR5/6 明赤褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
88	11	204	16	弥生甕 底部1/4	一括		(7.2)		10YR6/6 明黄褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
88	12	204	14	弥生甕 底部1/4	一括		5.0		10YR4/2 灰黄褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　ハケ後篦ケズリ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
88	13	204	13	弥生甕 底部完存	一括		(5.8)		5YR4/6 赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。輪積み痕あり。
88	14	204	12	弥生甕 底部 1/4 欠	一括		5.7		10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
88	19	204	6	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
88	20	204	8	弥生甕　口縁部	一括				10R4/6 赤～ 7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。	
88	21	204	29	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部棒状工具によるキザミ、頸部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
88	22	204	27	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/6 赤 褐 ～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部 S 字状結節文。 内　篦ナデ。	外面全面・内面口縁部まで赤彩。
88	23	204	19	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤～ 7.5YR6/6 橙色 10R4/6 赤色	良好	密	外　羽状縄文を交互に施し、方形区画文を構成する、他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	羽状縄文以外赤彩。
88	24	204	18	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色　2.5YR5/6 明赤褐～ 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　頸部突帯貼り付け後棒状工具による連続刺突文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
88	25	204	23	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　頸部に細縄文と平行沈線と波状文を施した後、円形浮文 2 ヶ所に貼り付ける。 内　剥離。	
88	26	204	26	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　S 字状結節文。 内　篦ナデ。	
88	27	204	22	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
88	28	204	20	弥生壺　胴部	一括				2.5Y5/3 黄褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	1 ～ 2㎜ 小石含む	外　細縄文と棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
88	29	204	25	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/3 暗赤褐～ 10YR5/4 にぶい黄褐色　10YR5/4 にぶい黄褐～ 10YR2/1 黒色	良好	密	外　沈線区画内篦ミガキ、他細縄文による山形文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
89	1	203	2	土師器壺 底部完存	床 +4	18.0	8.0	(38.0)	10YR5/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部ハケ後粗い篦ミガキ、胴部ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸部粗い篦ミガキ、胴部篦ナデ、底部付近篦ミガキ。	
89	2	203	1	土師器小型甕 口縁 1/2 弱	床 -1	(16.8)	2.2	12.5	7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、頸部ハケ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
89	3	203	5	弥生甕 底部 1/3 強	床 +5		(6.6)		10YR4/2 灰黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	砂粒多	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	
89	4	203	8	土師器高坏 口縁 1/6	一括	(12.8)			10Y4/6 赤色	良好	1㎜大砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
89	5	203	11	須恵器甕 口縁 1/8 弱	一括		(21.8)		7.5Y5/1 灰色 10Y5/2 オリーブ灰～ 3/1 オリーブ黒色	良好	密	外　断面ににぶい三角形による凸帯を巡らし、口縁端部は凹面をなす。 内　自然釉付着。	216 併行、TK305・306 号窯に類似品あり。
89	6	203	4	土師器器台 全体 1/2 強	一括	9.0	(11.7)	8.4	10R4/6 赤～ 5YR4/4 にぶい赤褐色（脚内面）	良好	密	外　坏部篦ナデ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部ハケ後篦ナデ。	脚内面以外赤彩。脚の 3 方に穿孔。
89	7	203	7	土師器器台 脚 1/3	一括		(11.4)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ハケ後一部篦ナデ。	
90	1	188	1	土師器甕 口縁 1/8 強	一括	(19.2)			5YR6/6 橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。	
90	2	188	17	須恵器甕 口縁 1/12	一括	(17.0)			7.5Y7/1 灰白色	良好	密	外　頸部に細い櫛描き波状文。 内　口縁部ナデ。	
90	3	188	16	須恵器蓋 口縁 1/5	一括	(13.8)		3.8	10Y4/1 灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、天井部回転篦ケズリ、ケズリ方向は逆時計回転。 内　口縁部ナデ、天井部ロクロ回転ナデ。	
90	4	188	2	土師器坩 胴部 1/3	床 +9				2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/6 赤褐～ 10YR6/6 明黄褐色	良好	1 ～ 2㎜大の茶褐粒含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	外面胴部赤彩、内面頸部赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
90	5	188	13	土師器高坏 口縁1/8強	一括	(17.0)			5YR5/8 明赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
90	6	188	10	土師器坏 口縁1/8弱	床+2	(12.2)			7.5YR1.7/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
90	7	188	14	土師器高坏 坏部1/8	一括				10YR4/6 赤色	良好	微砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
90	8	188	3	土師器坏 口縁1/4強	床+8	(13.0)			10YR3/1 黒褐～10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
90	9	188	8	土師器坏 口縁1/8強	一括	(13.5)			5YR3/1 黒褐～5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
90	10	188	9	土師器坏 口縁1/4弱	一括	(14.0)			10YR4/2 灰黄褐～2.5YR5/6 明赤褐色　2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
90	11	188	5	土師器坏 口縁1/8	一括	(10.6)			10YR5/2 灰黄褐～10YR3/1 黒褐色 10YR2/1 黒～10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
90	12	188	6	土師器坏 口縁1/8弱	一括	(14.0)			10YR3/1 黒褐～10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
90	13	188	4	土師器坏 口縁1/4強	一括	(14.8)			10YR3/2 黒褐～7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部篦ミガキ、体部篦ケズリ。 内　口縁篦ミガキ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
90	14	188	11	土師器坏 口縁1/8弱	床+2	(14.0)			2.5Y5/3 黄褐～10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　器面摩耗激しい	内外面黒色処理。
90	15	188	15	手捏土器鉢 口縁1/4欠	床+7	5.0	3.3	3.7	10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐～10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
91	1	189	1	土師器甕 口縁3/4	床+22	14.6			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
91	2	189	2	土師器甕 口縁完存	床+16	15.1			5YR3/4 暗赤褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部器面剥離。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	注記189号 po3は図面ではかなり小さな遺物、91号に伴うものと判断。
91	3	189	7	土師器高坏 坏部完存	床+9	17.2	11.8	(13.0)	10R4/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部指掻き取り、裾部ナデやや摩耗。	脚内面以外赤彩。
91	4	189	11	ミニチュア土器壺 完形	床+14	4.5		3.3	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	非常に丁寧に造られた手捏土器。
91	5	189	3	土師器甕 底部完存	床+23		6.4		7.5YR3/4 暗褐色	やや不良	砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
91	6	189	9	土師器坩 底部完存	床+14		3.6		2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
92	1	195	12	土師器折り返し口縁壺 口縁1/4弱	一括	(20.3)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁　頸部ハケ。 内　口縁部篦ナデ。	内面剥離激しい。
92	2	195	18	土師器折り返し口縁壺 口縁1/8	一括	(14.8)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁部棒状工具によるキザミ目　頸部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
92	3	195	11	土師器甕 口縁1/4弱	一括	(17.7)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ　胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
92	4	195	17	土師器二重口縁壺 口縁1/8	一括	(20.7)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ　他篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	
92	5	195	10	土師器甕 口縁1/4	一括	(14.6)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
92	6	195	16	土師器二重口縁壺 口縁1/8	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離激しい。	
92	7	195	8	土師器甕 口縁1/8	一括	(13.0)			10R4/6 赤色 10R4/6 赤～7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ　胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部のみ赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
92	8	195	19	土師器二重口縁壺 口縁 1/12	一括				10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
92	9	195	26	須恵器壺 口縁 1/8 弱	一括	(17.4)			7.5Y6/1 灰色 7.5Y4/2 灰オリーブ色	良好	密	外　頸部外面 2 条の凸帯間に櫛描き波状文。 内　全面的にうぐいす色の自然釉付着。	薄手。凸帯は比較的シャープ。
92	10	195	13	土師器甕 底部完存	一括		6.1		7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
92	11	195	15	土師器坩 口縁 1/8 弱	一括	(11.0)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口唇部ナデ、口縁部篦ミガキ。	内外面赤彩。
92	12	195	2	土師器坏 全体 1/2	一括	(13.8)		6.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
92	13	195	1	土師器坏 全体 1/4 強	一括	(13.6)		5.4	10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
92	14	195	3	土師器坏 全体 1/2 弱	一括	(15.2)		5.1	10R3/4 暗赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
92	15	195	5	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(13.6)			10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
92	16	195	4	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(14.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
92	17	195	7	土師器坏 口縁 1/8	一括	(14.4)			10R5/6 赤色	良好	密	外　器面磨耗激しい。 内　器面磨耗激しい。	内外面赤彩。
92	18	195	6	土師器坏 口縁 1/5	一括	(14.6)			10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
92	20	195	14	土師器小型甕 底部完存	一括		3.8		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
92	21	195	9	土師器坏 口縁 1/2 弱	一括	(9.7)			10YR1.7/1 黒色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	外面体部摩耗激しく不明。 内外面黒色処理。
92	22	195	25	須恵器蓋 口縁 1/12	一括	(6.9)			7.5YR5/1 灰色	良好	密	外　ロクロ整形、ロクロナデ。 内　ロクロ整形、ロクロナデ。	
92	23	195	23	須恵器蓋 全体 1/2 弱	一括	(10.8)			5Y5/2 灰オリーブ色	良好	密	外　ロクロ整形、ロクロナデ天井部付近回転篦ケズリ。 内　ロクロナデ、天井部付近不整方向ナデ。	
92	24	195	38	弥生甕　口縁部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
92	25	195	21	土師器甕　口縁部	一括				7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ 内　ナデ、頸部篦ナデ。	
92	26	195	20	土師器折り返し口縁壺 胴部 1/8	一括				10YR5/6 黄褐色	良好	砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
92	27	195	40	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　S 字状縄節文内に細縄文。 内　篦ナデ。	
92	28	195	41	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y6/4 にぶい黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
92	29	195	22	土師器折り返し口縁壺 口縁部	一括				7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ハケ後ナデ、口縁下端部原体押捺。 内　ハケ後ナデ。	
92	30	195	39	弥生甕　胴部	一括				2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
92	31	195	43	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、他平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利 B 式土器。
93	1	202	1	土師器甕 ほぼ完形	貯蔵穴内 -23	17.6	6.4	25.3	5YR4/2 灰褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	5㎜大の小礫多	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、底部付近一部篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
93	2	202	2	土師器甕 口縁1/4弱	床+34	(15.4)			7.5YR4/3褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
93	3	202	3	土師器甑 底部完存	一括		6.0		7.5YR5/6明褐色	良好	微砂粒多	外　粗い篦ケズリ。 内　粗い篦ナデ。	底部4.8～3.4cmの一孔。
93	4	202	4	土師器坏 口縁1/4	一括	(16.0)		(5.4)	10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
93	5	202	5	土師器高坏 坏部下端のみ	床+5				10R4/6赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
93	6	202	6	土師器器台 脚部1/4	一括		(8.0)		10YR3/2黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
95	1	201	5	土師器二重口縁壺 口縁1/8	一括	(26.0)			5YR5/4にぶい橙色	良好	密	外　口縁部上位ナデ、下位篦ナデ。 内　口縁部上位ナデ、下位篦ナデ。	口縁部内面の粘土紐積み上げ箇所に沈線。
95	2	201	2	土師器坩 口縁1/2	床+3	8.4			7.5YR3/3暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	輪積み痕明瞭。
95	3	201	1	土師器坩 ほぼ完形	床+17	12.4	3.8	7.2	5YR4/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
95	4	201	4	土師器坩 底部完存	一括		2.2		10R4/6赤色 7.5YR6/4にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
95	5	201	3	土師器坩 口縁1/4弱	一括	(9.4)			2.5YR5/6明赤褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部ナデ、他ハケ後篦ナデ。 内　口唇部ナデ、他ハケ後篦ナデ。	外面赤彩。
95	6	201	7	土師器坏 口縁部1/4弱	一括	(15.0)		(4.5)	10R4/4赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
95	7	201	8	土師器坏 口縁部1/4	一括	(14.2)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
95	8	201	9	土師器坏 口縁1/8	一括	(14.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
95	9	201	6	土師器高坏 脚部2/3・裾部全欠	一括				5YR4/6赤褐色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚の3方に穿孔。 坏部内面、脚外面赤彩。
95	11	201	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
95	12	201	12	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
95	13	201	14	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部ナデ。 内　口縁部篦ナデ後篦ミガキ。	
95	14	201	17	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部8条のS字状結節文とキザミ目付き棒状浮文。 内　篦ミガキ。	
95	15	201	15	弥生壺？　口縁部	一括				10R4/6赤色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　篦状工具によるキザミ目。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩。
95	16	201	16	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR4/6赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部S字状結節文と原体押捺。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
95	17	201	10	弥生広口壺　胴部	一括				10YR3/1黒褐色 10YR5/6黄褐色	良好	密	外　細縄文間を篦ミガキによる磨り消し。 内　ハケ。	おそらく口縁部の近く。
95	18	201	11	弥生壺　胴部	一括				2.5Y3/1黒褐色 2.5Y4/1黄灰色	良好	密	外　細縄文による山形文。 内　篦ナデ。	
95	19	201	18	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　棒状工具による連続刺突文間に非状に細かい細縄文を施し、施文以外は篦ミガキ。 内　篦ナデ？	
96	1	187	1	土師器鉢 底部完存	床+2		8.0		5YR5/8明赤褐色 10YR6/6明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
96	2	187	6	弥生甕 底部 1/2 強	床直		6.6		2.5Y6/3 にぶい黄色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
96	3	187	7	弥生鉢 底部 1/2	床 +6		(5.6)		10R4/6 赤 ～ 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	底部に U 字形の抉り。
96	4	187	2	土師器鉢 口縁 1/4	床 +3	(19.6)			7.5YR7/6 橙色 2.5YR4/2 暗灰黄色	良好	1㎜大の砂粒多含む	外　摩耗 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	
96	5	187	3	土師器高坏 坏部全体 1/4 強	一括	(10.6)			10R4/6 赤色	良好	1 ～ 2㎜大の小石含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面赤彩。
96	6	187	5	土師器甕 底部 1/4 強	床 +5		(7.4)		7.5YR4/3 褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
96	7	187	4	土師器器台 脚裾部 1/4 強	床直		(13.0)		5Y6/2 灰オリーブ～ 2.5Y4/3 オリーブ褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
96	8	187	14	弥生甕　口縁部	床直				7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、頸部に爪形文。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
96	9	187	11	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/6 褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、下位に細縄文。 内　口縁部細縄文。	
96	10	187	15	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
96	11	187	10	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
96	12	187	12	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ケズリ。	
96	13	187	8	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR2/1 黒色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、胴部櫛描き文。 内　篦ナデ。	
96	14	187	9	弥生甕　口縁部	一括				5YR4/2 灰褐色 5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
96	15	187	16	弥生壺　胴部	一括				10R4/8 赤色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　隆帯にキザミ目。 内　摩耗。	
96	16	187	13	弥生壺　胴部	床 +3				10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5Y6/3 にぶい黄色	良好	1㎜大の砂粒多く含む	外　沈線文間に羽状縄文、沈線下に山形文。 内　剥離。	
97	1	182A	2	土師器甕 口縁・胴部一部欠	遺構外（東壁確認面 +15）	16.0	6.2	23.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	5㎜～ 1cm 大礫含む	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
97	2	182A	5	土師器甕 口縁部ほぼ完存	床直	14.6			5YR6/6 橙色	良好	1 ～ 2㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
97	3	182A	21	土師器甑 口縁 1/4	床 +35（カマド粘土上）	(20.4)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面摩耗やや激しい。
97	4	182A	9	土師器小型甕 口縁 3/4 ～底部全欠	床 +15	10.6			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
97	9	182A	1	土師器甕 ほぼ完形	カマド （火床上 12）	17.2	6.5	26.5	2.5YR5/6 明 赤 褐 ～ 2.5YR3/2 暗赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	底部付近の外面に粘土付着。
97	10	182A	4	土師器甕 口縁 1/4 ～胴部 1/2 強	床 +14	(17.8)			2.5YR4/4 にぶい赤褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部のみ赤彩。 口唇部つまみ上る。
97	11	182A	6	土師器甕 口縁 1/2 ～胴部 1/4	床 +13	17.2			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。	胴部器面剥離激しく不明。
97	12	182A	3	土師器甕 口縁全欠	床 +27		6.5		7.5YR6/6 橙色	良好	2㎜大の礫多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
97	13	182A	7	土師器甕 口縁 1/4	床 +15	(17.2)			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
97	14	182A	8	土師器短頸壺 口縁の一部欠	一括	13.0		9.8	10R4/6 赤色	良好	密	外　非常に丁寧な篦ナデ。 内　非常に丁寧な篦ナデ。	内外面赤彩。
97	15	182A	10	土師器小型甕 口縁 1/4 ～胴部 2/3	床 +27	(11.4)	2.6	12.0	10R4/6 赤～ 2.5YR3/3 暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
97	16	182A	28	土師器坩 底部完存	一括		3.2		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
97	17	182A	11	土師器鉢 口縁 1/2 ～底部ほぼ完存	床 +14	12.6	4.0	9.2	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
97	18	182A	12	土師器鉢 底部完存～口縁 1/4	床 +14		5.4	7.9	2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。 底部は丸く不安定。
97	19	182A	37	土師器鉢 口縁 1/6	床 +19	(14.6)		(5.4)	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	8C 初頭の鉢か？混入品。
97	20	182A	23	土師器鉢 口縁 1/3	遺構外 +15	(17.6)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	五領期の鉢本遺構に伴わない。
97	21	182A	24	土師器台付甕 底部 1/3	一括		(9.2)		2.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ。	
97	22	182A	20	土師器高坏 口縁 1/4 強	一括	(16.6)			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
97	23	182A	19	土師器高坏 脚部全欠	床 +19	14.9			7.5YR6/6 橙色 2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
97	24	182A	18	土師器高坏 脚部全欠	床 +14	13.1			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
97	25	182A	33	土師器高坏 脚部・裾全欠	床 +12				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ケズリ。	外面赤彩。
97	26	182A	32	土師器高坏 脚部のみ	床 +19		10.0		10R4/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　縦篦ケズリ後横ナデ。 内　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
97	27	182A	31	土師器高坏 脚部のみ	床 +2		9.4		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
97	28	182A	44	須恵器坏身 口縁 1/8	一括	10.4)			2.5Y5/1 黄灰色	良好	密 （キメ細かい）	外　内　ロクロ整形、薄手。	遺存度悪くロクロ回転不明。口唇部シャープで明瞭な段。
97	29	182A	42	須恵器坏身 口縁 1/8	一括	(11.4)			7.5Y5/1 灰色	良好	密 （ややキメ粗い）	外　ロクロ整形、受部沈線状に凹む。 内　口唇部段内傾強く、体部は丸味をおびる。	遺存度悪くロクロ回転不明、ロクロ目はナデによりよく見えない。 脚付高坏？（TK ＝ 47 併行）
97	30	182A	15	土師器坏 口縁～体部の一部欠	カマド （火床 +30）	13.5		5.5	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。 内面に線刻による十文字の暗文。
97	31	182A	14	土師器坏 全体 1/2	床直	17.1		5.7	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後放射状暗文風の篦ミガキ。	内外面赤彩。
97	32	182A	17	土師器坏 ほぼ完形	床 +8	14.3		5.1	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
97	33	182A	13	土師器坏 ほぼ完形	床 +24 （カマド脇）	14.2		5.4	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
97	34	182A	16	土師器坏 全体 1/2 弱	床直	13.0		4.7	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
97	35	182A	36	土師器坏 口縁 1/3	一括	(14.6)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
97	36	182A	47	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　平行沈線間に棒状工具による刺突文。 内　ナデ。	
97	37	182A	46	弥生壺　口縁部	床 +27				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文と原体押捺文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
98	1	182B	4	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大白色粒多	外　折り返し口縁、口縁部下端原体押捺。 内　篦ナデ。	
98	2	182B	1	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。	
98	3	182B	3	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	
99	1	180	1	土師器甑 口縁 1/4 ～胴部 1/2・底部完存	床直	(25.0)	8.0	28.4	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
99	2	180	2	土師器甕 口縁 1/10 ～胴部 1/2	一括	(13.7)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
99	3	180	4	土師器甕 口縁 1/3	床 -2	(20.0)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部面取り。
99	4	180	5	土師器甕 底部完存	一括		7.9		2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内面やや摩耗激しい。
99	5	180	6	土師器甕 口縁 1/8	一括	(16.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	6	180	33	土師器二重口縁壺 頸部～胴部上位 1/4	一括	(10.5)			10R4/6 赤～ 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　非常に丁寧な篦ナデ 内　頸部篦ナデ、胴部指押さえ。	外面全体・内面頸部赤彩。内面輪積み残る。
99	7	180	9	土師器甕 口縁 1/4	一括	(11.4)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
99	8	180	12	土師器鉢 口縁 1/4 弱	一括	(13.2)			2.5YR3/4 暗赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	9	180	11	土師器短頸壺 口縁 1/4	一括	(12.2)			2.5YR3/4 暗赤褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	10	180	30	土師器鉢 口縁 1/6	一括	(18.1)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部櫛状の粗いハケ後指ナデ、指文残る。造り雑。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
99	11	180	14	土師器坏 口縁 1/3 ～体部 1/2	一括	(14.8)		6.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	12	180	25	土師器坏 口縁 1/8 ～底部完存	一括	(13.6)		5.8	10R3/4 暗赤～ 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。内外面磨耗やや激しい。 赤彩の大半は磨耗により飛ぶ。
99	13	180	22	土師器坏 口縁 1/4 強	一括	(14.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	14	180	13	土師器坏 口縁 2/3	一括	14.8		(5.4)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	15	180	16	土師器坏 口縁 1/3	一括	(14.9)		(5.1)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	16	180	15	土師器坏 口縁 1/12	一括	(15.8)		5.4	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　篦ナデ後篦ミガキによる、放射状暗文。	内外面赤彩。
99	17	180	18	土師器坏 口縁 1/2	一括	15.0		(6.3)	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	18	180	17	土師器坏 口縁 1/3	一括	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	19	180	26	土師器坏 口縁 1/4 強	一括	(15.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	20	180	27	土師器坏 口縁 1/4 強	一括	(15.8)			10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	21	180	23	土師器坏 口縁 1/4 強	一括	(13.1)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
99	22	180	21	土師器坏 口縁 1/3	一括	(13.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	23	180	20	土師器坏 口縁 1/3	一括	(15.4)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	24	180	19	土師器坏 口縁 1/3	一括	(16.7)			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
99	25	180	10	土師器高坏 口縁 1/8	一括	(25.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。	内外面赤彩。 布留系大型高坏。
99	26	180	34	土師器坩 底部完存	一括		1.8		10YR4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
99	27	180	35	土師器坩 全体 1/4 弱	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
99	28	180	39	須恵器𤭯 口縁～頸部 1/4	一括				5Y5/1 灰色 5Y3/1 オリーブ黒色	良好	密	外　2 条の細い櫛描き波状文、凸帯の端部は丸く鈍い。 内　口唇部は内傾する面を有するが、明瞭な段にはならない。内面の全域に自然釉付着。	
99	29	180	38	須恵器𤭯 口縁 1/6	一括	(12.4)			5Y4/1 灰色	良好	密	外　2 条の細い櫛描き波状文。 内　口縁端部は平らに収め弱い段状の面、完然に段をなすには至らない。自然釉付着。	
99	30	180	37	須恵器蓋 口縁 1/8	一括	(13.0)			5Y5/1 灰色	良好	密	外　天井部 2/3 以上に回転篦ケズリ、天井部と口縁部をわける稜は丸く鈍い、口縁端部は段をなさず平らに仕上げる。 内　ロクロ回転ナデ。	
99	31	180	43	須恵器蓋 口縁 1/12	一括	(12.1)			5Y4/1 灰色	良好	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ、口唇部は弱い内傾明瞭な段をなすに至らない。	
99	32	180	41	須恵器高坏 脚部 1/4	一括		(13.1)		2.5Y5/1 黄灰色 7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　自然釉の膜により不明、脚端部はシャープな作り。 内　横ナデ。	断面 7.5YR3/3 暗褐色。脚に 2 ヶ所の透かし孔が存在し、脚の 4 方に長方形透かしと判断される。内面沈線あり。
99	34	180	54	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y5/2 暗灰黄色 5Y4/2 灰オリーブ色	良好	密	外　平行敲き、底部付近にツメ具をつないだ粘土が付着する。 内　当具を丁寧にスリ消す、底部付近に自然釉付着。	
100	1	179B	5	土師器二重口縁壺 口縁 1/4 弱	一括	(17.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、頸部篦ナデ。	
100	2	179B	1	土師器高坏 口縁 3/4 ～脚部中位	床 +3	18.6			10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ、脚部粗い篦ケズリ。	脚部内面ホゾにより坏部と接合、粘土粒がホゾと脚内面に貼り付いたまま焼成される。　脚の 1 方に 0.4cm程の焼成後穿孔。
100	3	179B	7	弥生壺（大廓系） 口縁 1/12	一括	(21.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	口唇部わずかに肥大。
100	4	179B	3	土師器坩 口縁 1/4	一括	(9.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
100	5	179B	4	土師器台付甕 底部 1/3	床 -2		(7.4)		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
102	1	197	1	土師器甕 口縁 1/2 ～底部完存	床 -3	17.0	8.6	27.6	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	2㎜大の褐色粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、底部付近篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
102	2	197	3	土師器甕 口縁 1/3 欠	床 +2	18.7		24.0	5YR3/2 暗褐色	良好	褐色粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面石膏垂れ流れ多。丸底。
102	3	197	2	土師器甕 胴部一部欠	床 +3	16.4		24.2	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	3㎜大の褐色粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデに近い篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部石膏垂れ流れにより不明。	丸底で不安定。
102	4	197	4	土師器甕 底部全欠他ほぼ完存	床 +10	14.1			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	2㎜大の小礫多	外　口縁部ナデ、胴部上位篦ナデ下位篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
102	5	197	8	土師器甕 口縁 1/3 ～胴部 1/2	床 +3	(17.4)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、頸～胴部ハケ後篦ナデ一部指押さえ。	
102	6	197	9	土師器甕 底部全欠・口縁一部欠	床 +4	16.4			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
102	7	197	10	土師器壺 口縁 1/2 強	床 +11	18.4			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
102	8	197	6	土師器甕 底部～頸部 2/3	床 +23		5.5		7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
102	9	197	5	土師器甕 口縁・底部全欠 胴部ほぼ完存	床 +5				7.5YR3/3 暗褐色	良好	微砂粒多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
102	10	197	7	土師器甕 口縁全欠	床 +7				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　器面剥離後摩耗。 内　器面剥離激しい（石膏隆起も著しい）	焼成後胴部中位に幅 8.0cm前後の円窓穿つ。丸底土器。
102	11	197	28	土師器甕 底部完存	床 +2		6.8		2.5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒多	外　篦ナデ。 内　ハケ。	
102	12	197	11	土師器坩 口縁 3/4 欠	床 +4	(9.2)	4.4	13.2	10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ、頸部指整形。	外面全面・内面口縁部赤彩。
102	13	197	12	土師器坩 口縁全欠他完存	床 +5	(9.2)	5.4	(12.5)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。
102	14	197	13	土師器坩 底部～胴部完存 口縁全欠	床 +10				10R4/6 赤色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	3㎜大の褐色粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。
102	15	197	14	土師器鉢 底部全欠～口縁ほぼ完存	一括	12.8			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
102	16	197	16	須恵器蓋 天井部大半残存	床 +17 25 号一括と接合	(13.0)			N-3/1 暗灰～ 2.5GY7/1 明オリーブ灰色 N-5/1 緑灰色	良好	2㎜大の白色 粒若干含む	外　天井部時計回転の回転篦ケズリ。口縁部立ち上がりは高く稜は鋭い。 内　ロクロナデ、天井部中央付近は不整方向の指ナデ。（単位長さは不明）	外面天井部の大半に自然釉付着する。内面口唇部は平らに仕上げ、明瞭な段をなすまでには至らない。
102	17	197	22	土師器坏 口縁一部欠	一括	15.4		6.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	内外面赤彩。
102	18	197	23	土師器坏 口縁 1/2 ～底部完存	一括	15.7		5.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
102	19	197	20	土師器坏 ほぼ完形	床 +5	14.8		5.6	10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
102	20	197	17	土師器坏 口縁一部欠	床 +17	14.8		5.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。やや歪な土器。
102	21	197	18	土師器坏 ほぼ完形	床 +4	15.8		4.7	10R4/8 赤色	良好	2㎜大の褐色粒含む	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
102	22	197	21	土師器坏 ほぼ完形	床 +7	12.6		5.4	10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
102	23	197	19	土師器坏 底部完存～口縁 3/4 欠	床 +10	(13.8)		5.8	10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
102	24	197	15	土師器高坏 坏部ほぼ完存・脚部全欠	床 +10	17.6			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。	内外面赤彩。
102	25	197	24	土師器坩 口縁 1/6	一括	(10.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。	内外面赤彩。
102	26	197	29	縄文深鉢　底部	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ？ 内　篦ナデ。	底部木葉痕。
103	1	198	4	土師器器台 底部 1/16	一括		(9.2)		2.5YR3/6 暗赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。径 1.0cm程の穿孔。
103	2	198	3	土師器器台 底部 1/8	一括		(11.0)		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　器面磨耗。 内　器面磨耗。	径 1.0cm程の穿孔が確認される。
103	3	198	10	土師器甕　口縁部	一括				7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部輪積み痕。 内　ハケ。	
103	4	198	1	土師器甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部面取り、口縁部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
103	5	198	2	土師器壺　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁部ハケ、頸部篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
103	6	198	14	弥生壺　口縁部	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口唇部ハケ後原体押捺、胴部ハケ後櫛描き文。 内　ハケ。	
103	7	198	13	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文施文後２連の円形浮文、口縁下端部は原体押捺。 内　篦ミガキ。	折り返し口縁部と頸部の境に円形の貫通孔１ヶ所が確認される。
104	1	196	1	土師器甕 口縁 1/3	一括	(16.6)			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部面取り。非常に薄い甕。
104	2	196	2	土師器甕 口縁 1/3	一括	(19.2)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部面取り。非常に薄い甕。
104	3	196	3	土師器甕底部 底部 4/5 残	一括		8.0		5YR5/6 明赤褐色 2.5YR6/2 灰黄色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
104	4	196	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
104	5	196	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
104	6	196	4	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁部に原体押捺。 内　篦ナデ。	
104	7	196	11	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文。 内　器面剥離。	内面赤彩の痕跡残る。
104	8	196	10	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　S 字状結節文と細縄文、他篦ミガキ。 内　器面剥離激しい。	
104	9	196	9	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　沈線文。 内　篦ナデ。	
104	10	196	6	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　半截竹管による平行沈線文と連続刺突文。 内　篦ナデ。	
104	11	196	12	須恵器甕　胴部	一括				7.5Y5/1 灰色 7.5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き。 内　青海波半磨り消し。	
106	1	土坑 12	1	土師器坩 口縁 1/4	一括	(8.0)			10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ後ナデ、胴部篦ナデ。	
106	2	土坑 12	2	土師器器台 口縁・裾部全欠	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	やや砂粒多	外　篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部粗い篦ナデ。	
106	3	土坑 12	6	弥生壺 底部 1/5	一括		(5.8)		7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　器面磨耗。	
106	4	土坑 12	5	土師器甕 底部 1/6	一括		(5.8)		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
107	1	247	15	弥生広口壺 口縁～胴部 1/4 弱	床 +13	(27.0)			7.5YR7/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ハケ状工具によるキザミ間に６連のＺ字状結節文。胴部篦ナデ後９連のＺ字状結節文とＺ字状結節文による山形文。 内　篦ミガキ。	口縁部２連の棒状浮文。
107	2	247	5	弥生壺 口縁 2/3 頸部完存	床直	6.6			5YR6/6 橙色 2.5YR5/3 黄褐色	良好	密	外口唇～口縁部細縄文、頸部篦ミガキ後折り返し口縁部の下端を指押さえ。 内　篦ナデ。	
107	3	247	28	弥生壺 口縁完存 頸部～底部 1/3	床 +22	7.4	(6.6)	(31.5)	5YR3/1 黒褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	口縁部と胴部の色調がまったく異なる土器。 口縁部の色調は 2.5YR5/6 明赤褐色。
107	4	247	16	弥生壺 口縁・底部全欠	一括				7.5R4/6 赤色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　頸・胴部に棒状工具による刺突文間にＺ字状（L）結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩ではない。
107	5	247	6	弥生壺 胴部 1/2 弱	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　胴部に棒状工具による平行沈線文と波状文。他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
107	6	247	26	弥生壺 底部 1/2	床 +22		7.0		7.5YR6/6 橙～ 7.5R4/6 赤色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後ハケ、指ナデ一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
107	7	247	17	弥生壺 口縁・底部全欠胴部 1/4 弱残	床 +28				7.5R4/6 赤～ 7.5YR1/2 黒色 7.5YR4/6 にぶい橙色	良好	密	外　胴部上位に細縄文による羽状縄文と細縄文による弧線文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
107	8	247	1	弥生壺 口縁・底部全欠	床 +44				10R5/6 赤色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　胴部中位ハケ後篦ナデ、他篦ミガキ、底部下端篦ナデ。 内　頸部より上位篦ミガキ。	石膏による復元の為測定不可能。
107	9	247	2	弥生壺 全体 3/4	床 +24	8.1	5.2	(24.6)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、頸部連続竹管文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面全面、内面口縁部赤彩。
107	10	247	10	弥生甕 口縁 1/2 弱	一括	(24.6)			10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
107	11	247	13	弥生甕 口縁 1/3 弱	一括	(18.8)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
107	12	247	4	弥生甕 口縁 2/3	床 +19	19.8			10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後一部篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
107	13	247	8	弥生甕 胴部 1/4	一括	(17.4)			10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
107	14	247	11	弥生甕 口縁 1/4 弱	一括	(23.3)			10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部ハケ後篦ナデ、頸部櫛描き文。 内　ハケ後篦ナデ。	
107	15	247	14	弥生甕 口縁 1/2 弱	一括	(16.4)			7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
107	16	247	27	弥生鉢 口縁 1/4	一括	(19.6)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部羽状縄文とハケ状工具によるキザミ。 内　篦ナデ。	
107	17	247	7	弥生甕 口縁 1/4	床 +15	(16.8)			10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR6/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ後篦ミガキ。	
107	18	247	18	弥生壺 底部完存	床 +5		7.3		10YR3/6 暗赤色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
107	19	247	24	弥生壺 底部完存	床 +16		6.2		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	
107	20	247	25	弥生甕 底部ほぼ完存	床 +37		10.6		10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
107	21	247	61	弥生甕 胴部 2/3 弱	一括				7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　ハケ 内　篦ナデ。	
107	22	247	20	弥生壺 底部完存	床 +19		7.2		10YR3/6 暗赤色 10YR4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
107	23	247	21	弥生壺 底部完存	一括		6.8		10YR3/6 暗赤～ 7.5YR2/1 黒色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後ハケ。	外面赤彩。内面一部磨耗。
107	24	247	65	弥生鉢 底部 1/8	床 +41		(9.2)		7.5YR6/6 橙～ 5YR5/6 明赤褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	底部に U 字形の抉り
107	25	247	3	弥生鉢 口縁～胴部 1/3 底部完存	一括	(16.9)	5.6	9.4	10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、他ハケ後篦ミガキ、底部篦ケズリ。 内　ハケ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
107	26	247	35	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
107	27	247	42	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部棒状工具による連続刺突文、他篦ナデ。 内　折り返し口縁。	
107	28	247	43	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺。口縁部上位は細縄文、下位はハケ。 内　篦ナデ。	
107	29	247	31	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
107	30	247	32	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
107	31	247	48	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外口唇部キザミ、他ハケ。 内　ハケ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
107	32	247	45	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後ハケ。	
107	33	247	36	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
107	34	247	33	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部３連の指頭押捺文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
107	35	247	34	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/3 暗褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部４連の指頭押捺文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
107	36	247	37	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
107	37	247	44	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他櫛描き文。 内　篦ナデ。	
107	38	247	30	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
107	39	247	38	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
107	40	247	46	弥生甕　口縁部	一括				10R4/6 赤色 10R5/6 赤色	良好	密	外　口唇部指頭押捺。 内　篦ミガキ。	
107	41	247	41	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ミガキ。	口縁部棒状工具による径 2.3㎝程の２ヶ所の穿孔。
107	42	247	40	弥生壺　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部細縄文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。 口縁部棒状浮文に２ヶ所の穿孔。
107	43	247	58	弥生鉢　口縁部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色 2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部細縄文とキザミ。 内　篦ミガキ	内外面赤彩。 口縁部棒状浮文。
107	44	247	56	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部細縄文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	径 4㎜程の穿孔２ヶ所
107	45	247	39	弥生広口壺　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　折り返し口縁。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
107	46	247	68	弥生壺　胴部	一括				5YR5/4 にぶい褐色 5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　平行沈線文下に８連のＺ字状（L）結節文。 内　篦ナデ。	
107	47	247	69	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　平行沈線文下に８連のＺ字状（L）結節文。 内　篦ナデ。	
107	48	247	70	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　平行沈線文下に８連のＺ字状（L）結節文。 内　篦ナデ。	
107	49	247	71	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　平行沈線文下に８連のＺ字状（L）結節文。 内　篦ナデ。	
107	50	247	66	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　円形竹管による連続刺突文間に８連のＺ字状（L）結節文､他ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
107	51	247	57	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐～7.5R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ状工具による沈線文と円形竹管文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
107	52	247	55	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐～7.5R4/6 赤色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ状工具による円形沈線文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
107	53	247	53	弥生壺　胴部	一括				7.5R4/6 赤～7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ状工具による沈線文と円形竹管文の組合せによる文様帯上に円形竹管文付き円形浮文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。２段以上の輪積み。
107	54	247	52	弥生壺　胴部	一括				10R3/4 暗赤色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文による山形文と平行沈線文。 内　器面剥離。	外面赤彩。円形浮文に３ヶ所の穿孔。
107	55	247	17-3	弥生壺　胴部	一括				7.5R4/6 赤色 7.5YR4/6 にぶい橙色	良好	密	外　羽状縄文、他ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
107	56	247	62-1	弥生壺　胴部	一括				10R4/4 赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	
107	57	247	62-2	弥生壺　胴部	一括				10R4/4 赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
107	58	247	62	弥生壺　胴部	床 +18・一括				10R4/4 赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後Ｓ字状結節文。 内　ハケ後篦ナデ。	外面赤彩。
107	59	247	50	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　頸部にＳ字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
107	60	247	63	弥生甕　胴部	一括				2.5Y3/1 黒褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　ハケ状工具による沈線文。 内　篦ナデ。	流水文系土器。
107	61	247	49	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文。 内　篦ナデ。	
108	1	125	2	土師器甕 口縁 1/4	一括	（18.8）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
108	2	125	3	土師器甕 口縁 1/4 弱	床 +1	（15.4）			7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
108	3	125	1	土師器甑 底部 3/4	床 +14		9.0		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
108	4	125	6	土師器坏 口縁 1/8	一括	（14.0）			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
108	5	125	7	土師器坏 口縁 1/4 弱	床直	（12.4）			2.5Y3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　全面ナデ。	内外面黒色処理。
108	6	125	12	土師器高坏 脚部のみ	床直				10R4/6 赤色 2.5YR4/2 暗灰黄色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ一部指ナデ。	外面赤彩。脚内面輪積み明瞭。
108	7	125	14	土師器台付甕 底部 1/2 弱	床 +25		（9.8）		2.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
108	8	125	24	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後回転カキ目。 内　青海波の丁寧な磨り消し。	
108	9	125	17	弥生甕　口縁部	床 +6				10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
108	10	125	32	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　口唇部細縄文、他細縄文。 内　口唇部細縄文、他細縄文。	北関東系土器。
108	11	125	18	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
108	12	125	19	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　沈線区画内に縄文を施す。 内　篦ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
108	13	125	21	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　胴部磨り消し懸垂文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
108	14	125	20	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　胴部磨り消し懸垂文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
110	1	130	1	土師器甕 ほぼ完存	カマド甲内	18.0	5.8	25.2	5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
110	2	130	2	土師器甕 口縁 1/2 欠	カマド乙内	16.0		26.5	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ一部細い篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	丸底。
110	3	130	4	土師器甕 口縁 1/3 ～胴部 1/2	床直	（17.4）			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。	
110	4	130	5	土師器甕 口縁 1/4	床 +32	（15.8）			5YR4/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
110	5	130	7	土師器広口壺 口唇部 1/2 欠	カマド左袖	15.1			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。	直口壺。
110	6	130	3	土師器甕 底部完存	カマド内		5.4		5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
110	7	130	24	土師器甑 口縁 1/4 欠	床直	23.0		26.5	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂粒やや多	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
110	8	130	22	土師器短頸壺 口縁 1/4	一括	10.0			2.5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面赤彩。
110	9	130	8	土師器鉢 ほぼ完形	床 -1	12.4		7.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部指頭押捺後ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部指頭押捺後ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
110	10	130	62	土師器高坏 口唇部脚裾部全欠他ほぼ完存	カマド内				2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体～脚部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ、脚部指掻き取り、裾部ナデ。	内外面赤彩。二次加熱を受けて器面剥離している。部分的にカマド粘土が付着したまま二次焼成されるなど器面がボロボロになっている。器壁厚く鈍重な土器、おそらく支脚として転用された高坏。
110	11	130	23	土師器高坏 坏部完存・脚部全欠	床 +2	16.7			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
110	12	130	20	土師器器台 口縁 1/8	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
110	13	130	28	土師器坩 口縁 1/2 弱	一括	(11.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁ナデ、頸部篦ナデ。 内　口縁ナデ、頸部篦ナデ。	内外面赤彩。
110	14	130	9	土師器鉢 口縁 1/4 欠	床直	14.8	3.6	10.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
110	15	130	16	土師器坏 口縁 1/4 欠	床直	15.0	4.0	6.3	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
110	16	130	13	土師器坏 ほぼ完形	床直	17.3		7.0	2.5YR5/6 明赤褐色（赤彩色） 10R6/4 にぶい橙色（無彩）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面 1/2・内面全面赤彩。
110	17	130	12	土師器坏 完形	カマド内	16.2		6.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
110	18	130	15	土師器坏 口縁 1/4 欠	床 +3	16.4		5.8	10YR4/6 赤色（赤彩） 7.5YR5/4 にぶい褐色（無彩）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩（外面底部のみ無彩）。
110	19	130	17	土師器坏 口縁 1/3	一括	(14.9)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
110	20	130	10	土師器坏 完形	床直	14.7		5.5	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
110	21	130	14	土師器坏 ほぼ完形	床直	15.0		5.4	10YR4/6 赤色（赤彩） 7.5YR5/4 にぶい褐色（無彩）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩（外面底部のみ無彩）。
110	22	130	30	土師器坏 口縁 1/4	一括	(13.8)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
110	23	130	11	土師器坏 ほぼ完形	床 +3	14.5		4.9	2.5YR5/6 明赤褐色（赤彩色） 10R6/4 にぶい黄橙色（無彩）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩（外面底部のみ無彩）。
110	24	130	18	土師器高坏 口縁 1/4	床 +20	(14.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
110	25	130	26	有段口縁鉢 口縁 1/8	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。非常に薄手造り。
110	26	130	32	須恵器坏身 底部 1/4 強	一括				5Y6/2 灰オリーブ色 10Y6/4 にぶい黄橙色	やや不良	密	外　ロクロ整形、ケズリ方向時計回転。 内　ロクロナデ、底部付近は不整方向のナデ。	全体的に薄手でシャープな造り。 ケズリ方向時計回転。内面未還元。
110	27	130	21	土師器ミニチュア鉢 口縁 1/8	床直				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
110	28	130	36	須恵器坏 口縁 1/8	一括	(14.0)			5Y5/1 灰色	良好	密	外　ロクロ、自然釉付着。 内　ロクロナデ。	混入品。TK209。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
110	29	130	33	須恵器高坏 脚接合部 1/4 弱	一括				10Y4/1 灰色 5Y5/1 灰色	良好	密	外　ロクロ整形、全体的に自然釉付着。 内　ロクロナデ、脚部と坏部の接合部は焼きぶくれで大きく歪む。	焼きぶくれの失敗品。混入品。長脚二段透かし。
110	30	130	53	土師器壺　口縁部	床 +2				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下端に三角形の押捺文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
110	31	130	54	土師器壺　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下端に原体押捺文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
110	32	130	55	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と原体押捺文。 内　円形竹管文、内側から表の原体押捺にかけて、径 2㎜程の焼成前穿孔。	
111	1	119	6	土師器甕 口縁 1/4	一括	(11.0)			10R5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部つまみ上がる。
111	2	119	4	土師器坏 口縁 1/6	一括	(13.0)		(3.3)	10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面黒色処理。
111	3	119	3	土師器坏 口縁 1/4	一括	(12.8)		3.4	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面黒色処理。
111	4	119	20	土師器坏 口縁 1/4 欠	床 +3	13.0		3.5	2.5YR4/6 赤褐色（口縁部） 10R5/3 にぶい黄褐色（内面及び外面体部）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	比企型坏。口縁部に赤彩痕あり。内面黒色処理。
111	5	119	7	須恵器蓋 口縁一部欠	一括	13.1		3.7	5Y6/1 灰色	良好	1～2㎜大の白色粒含む	外　口縁部ロクロナデ、天井部回転篦ケズリ。（逆時計回転） 内　口縁部ロクロナデ、天井部中央に手持ちナデあり。	
111	6	119	2	土師器高坏 坏部ほぼ完形	一括	14.0			10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面黒色処理。
111	7	119	1	土師器高坏 坏部 3/4 強	カマド	17.6			7.5YR4/3 褐色	良好	砂粒やや多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面黒色処理。
111	8	119	5	土師器鉢 口縁 1/3 強	床直	(18.6)			10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ミガキ、体部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後篦ミガキ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面黒色処理。
111	11	119	12	埴輪片　胴部	一括				7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
112	1	123	2	土師器甕 口縁 1/8～胴部 1/4	一括	(15.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
112	2	123	4	土師器坏 口縁 1/8	カマド一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。 内外面摩耗激しい。
112	3	123	3	土師器高坏 脚部・裾部全欠以外脚部完存	床直				10R4/6 赤色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ケズリ。	脚外面赤彩。
112	4	123	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　指頭押捺波状文、他ハケ後ナデ。 内　指頭押捺波状文、他ハケ。	
112	5	123	8	弥生甕　胴部	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	北関東系土器。輪積み痕明瞭。
113	1	122	4	土師器甕 口縁 1/2 弱	床 +3	(15.4)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
113	2	122	3	土師器坏 口縁 1/12	床直	(12.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　器面磨耗激しい。 内　器面磨耗激しい。	内外面に赤彩を施した痕跡をとどめる。
113	3	122	2	土師器高坏 坏部・脚裾部全欠・脚部完存	床 +19				10R4/8 赤色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　柱状脚部指ナデ、裾部篦ナデ。	脚外面赤彩。10R4/6 赤色（脚内面）
113	4	122	1	土師器高坏 脚部完存～裾部 1/6	床直		(10.4)		10R4/6 赤色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指ナデ、裾部篦ナデ。	外面全面・坏部内面赤彩。
114	1	124	2	土師器甕 口縁 1/4	床直	(17.4)			10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
114	2	124	1	土師器甕 口縁 7/8 残	床直	14.6			10YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ、他ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、他ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
114	3	124	3	土師器坩 口縁 1/4	一括	(8.2)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ハケ後篦ナデ。 内　口唇部ハケ後篦ナデ。	
114	4	124	5	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(8.0)			2.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　器面磨耗激しい。 内　器面磨耗激しい。	
114	5	124	4	土師器高坏 口縁 1/8	一括				2.5YR3/3 暗赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
114	6	124	6	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状のハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、ハケ後篦ナデ。	
114	7	124	7	土師器壺　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文と原体押捺、部分的にＳ字状結節文入る。 内　ナデ。	
117	1	126	3	土師器甕 口縁 1/8	一括	(20.4)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
117	2	126	1	土師器甕 口縁 1/2	床直	16.4			2.5YR4/6 赤褐～ 10YR3/4 にぶい黄褐色 7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ、胴部篦ナデ。	外面口縁部一部赤彩。
117	3	126	2	土師器甑 口縁 1/8	一括	(20.0)			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
117	4	126	5	土師器埦 ほぼ完形	床 -31 （貯蔵穴内）	14.0	7.2	7.5	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	茶褐色粒含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ（篦ナデ粗い）。	平底の坏。底～坏部外面煤付着。 木葉痕は認められない。
117	5	126	12	土師器坏 口縁 1/4	床 +13	(16.6)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	褐色１㎜大の小石含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	駿豆系坏。
117	6	126	11	土師器坏 口縁 1/4	一括	(15.6)			5YR3/2 暗赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
117	7	126	6	土師器坏 完形	床 +4	14.2		5.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。	内外面赤彩。
117	8	126	9	須恵器蓋 口縁 1/4 ～天井部完存	一括	(12.8)			5Y5/1 灰色	良好	密	外　ロクロ整形、天井部回転篦ケズリ後指ナデ。 内　ロクロ整形、ロクロナデ、天井部不整方向の手持ちナデ。	回転篦ケズリは時計回転。
117	9	126	10	須恵器坏身 口縁 1/4 弱	一括	(11.4)			5Y5/1 灰色	良好	密	外　ロクロ整形、底部回転篦ケズリ。 内　ロクロナデ。	ケズリ方向時計廻り。ケズリは鋭い。 受け部と NO-8 の口縁がぴったり一致する。
117	10	126	4	土師器高坏 脚裾部 3/4 欠	床 +18 貯蔵穴内 -31	17.5	(10.6)	14.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏～胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、脚部内面指掻き取り後ナデ、裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。P5 貯蔵穴内出土一括破片と接合。
117	11	126	8	土師器高坏 口縁 1/6	床 +13	(18.4)			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。NO-4 とは別個体。
117	12	126	7	土師器高坏 脚部 1/4 強	床 +13		(13.0)		2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
117	13	126	15	ミニチュア壺（手捏） 完形	一括	2.5	1.5	3.1	10YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	指ナデ、指紋の痕がハケ状に残る。
118	1	128	4	土師器甕 口縁 1/4	一括	(19.6)			7.5YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面明瞭な輪積み痕あり。
118	2	128	2	土師器小型甕 底部完存～口縁 1/4	カマド		7.8	15.2	5YR4/8 赤褐色	良好	2㎜大礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
118	3	128	1	土師器甕 底部完存～口縁全欠	カマド		5.8		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
118	4	128	5	土師器高坏口縁 1/8	一括	(17.2)			7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面黒色処理。
118	5	128	6	土師器坏 口縁 1/4	一括	(15.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
118	6	128	11	手捏土器鉢 口縁 1/4	一括	(9.0)			5YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指ナデ、胴部指ナデ一部篦ナデ。 内　折り返し口縁、口縁部指ナデ後ハケ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
118	7	128	10	須恵器蓋 口縁 1/3	一括	(10.6)		3.2	5Y6/1 灰色	良好	密	外　天井部回転篦ケズリ後手持ちケズリ。 内　口縁部ロクロナデ、天井部付近は雑で強いケズリに近いナデ、ケズリの方向は時計廻り。	
118	8	128	19	須恵器把手付埦 口縁 1/8 ～底部 1/4 弱	H-189・168 118 の一括				10Y5/1 灰色	良好	密	外　口縁部下に端部があまくにぶい二条の凸帯を有し、口縁部はロクロナデ、体部中央には櫛描き波状文を施し、体部下端は一条の沈線で区画し、底部に到るまで不整方向の手持ち篦ケズリを施す。 内　ナデ、底部手持ちナデ？凹凸がやや激しい。	
118	9	128	8	土師器大型坏 口縁 1/6	床 +7	(20.0)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部篦ミガキ、体部篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	
120	1	129A	4	土師器鉢 口縁 1/12	一括	(14.6)			10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全体・内面口縁部赤彩。
120	2	129A	5	土師器高坏 口縁 1/10	一括	(19.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
120	3	129A	6	土師器高坏 底部完存	一括		9.8		10R4/6 赤色（坏部内面） 7.5YR5/4 にぶい褐色（脚内面）	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	坏部内面・脚部外面赤彩。
121	1	129B	2	土師器甕 口縁 1/4 弱	床 -4 床直	(24.6)			7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁～頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
121	2	129B	1	土師器壺 底部完存	V 字溝上ハリ 床直		8.0		7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
122	1	121	2	土師器甕 胴部一部欠	床 +9	18.9	7.4	21.5	5YR3/2 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
122	2	121	3	土師器甕 胴部一部欠	床直	17.8	7.6	21.6	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面煤付着。内面必要以上の石膏注入により詳細不明。
122	3	121	7	土師器甕 口縁 3/4 強	土器群床直	19.3			10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
122	4	121	6	土師器甕 口縁 1/4 ～頸部 3/4	床直	19.4			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
122	5	121	8	土師器高坏 口縁 1/4 欠 脚 部 完 存・裾部全欠	カマド	17.1			2.5YR3/4 暗赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部指掻き取り、裾部ナデ。	支脚転用・・・外面赤彩、赤彩の上に灰・煤・粘土が付着。
122	6	121	12	土師器高坏 口縁 1/8 ～坏部 1/4	床直	(20.0)			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
122	7	121	9	土師器高坏 口縁全欠	床 +9		(9.8)		10R4/6 赤色 7.5YR4/4 褐色（脚内）	良好	密	外　篦ナデ。 内　脚内面指掻き取り、裾部ナデ。	脚内面以外赤彩。
122	8	121	1	土師器甕 ほぼ完形	床直	16.6	5.8	24.3	2.5YR5/6 明赤褐～ 5YR3/2 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	タール付着部分暗赤褐色を呈する。 色調赤味強いが赤彩ではない。
122	9	121	14	土師器壺 胴部 1/3	カマド				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後一部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
122	10	121	4	土師器甕 底部全欠	床 +10	16.6			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
122	11	121	5	土師器甕 底部 3/4 強	床直		7.8		5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
122	12	121	15	須恵器高坏 脚部・裾部全欠	一括				5Y5/1 灰色	不良	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	外面に一条の沈線をめぐる。焼成あまく、ザラザラする。
122	13	121	10	土師器高坏 脚裾部全欠	床 +8				10R4/6 赤色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
122	14	121	11	土師器高坏 裾全欠	床直				10R5/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部内面篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面全面・脚部赤彩。
123	1	120	4	土師器 S 字甕 口縁 1/4 弱残	床直	(14.4)			10R4/6 赤色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
123	2	120	1	土師器甕 口縁 1/2	床 +4 床直	19.0			5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
123	3	120	2	土師器甕 口縁ほぼ完存	床直	16.0			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺波状文、口縁部ハケ後篦ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
123	4	120	3	土師器二重口縁壺 口縁 1/4	一括	(16.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部下部に棒状工具による連続刺突文、頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
123	5	120	7	土師器坩 底部完存	一括		1.8		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
123	6	120	8	土師器坩 口縁 1/2 欠	床直	10.6	3.3	13.1	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ一部観察不能。	外面全面・内面口縁部赤彩。
123	7	120	9	土師器器台 坏・裾部全欠	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色（脚内面）	良好	密	外　篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
123	8	120	5	土師器高坏 脚部完存	床直？		13.2		2.5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ、裾部ハケ後篦ナデ。	
123	9	120	6	土師器高坏 脚部 2/3	一括		11.8		5YR6/6 橙色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面やや摩耗激しい。
124	1	溝 5	1	土師器模倣坏 口縁 1/12	一括	(13.2)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面やや器面摩耗。 口唇部を凹帯状につくり比較的須恵器を忠実に模倣する。
124	2	溝 5	2	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色 10YR3/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部爪付指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
124	3	溝 5	5	弥生甕　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	
124	4	溝 5	4	弥生甕　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	
124	5	溝 5	7	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/6 褐色 5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部を凹面に整形し一部に突帯を貼り付る、胴部縄文施文。 内　ナデ。	NO-6 と同一個体。縄文前期前半の土器。
124	6	溝 5	6	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/6 褐色 5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	NO-5 と同一個体（ものすごく近い部位だが接合せず）。
125	1	194	7	土師器甑 口縁 1/8	床直	(22.8)			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
125	2	194	6	土師器甕 口縁 1/8	一括		(21.6)		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。	口唇部つまみ上がる。
125	3	194	2	土師器甕 口縁～胴部 1/4	床 +10	(17.6)			10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ。	内面摩耗の為不明。輪積み痕あり。
125	4	194	1	土師器甑 ほぼ完形	床 +1	24.6	7.8	24.0	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
125	5	194	23	土師器坩 口縁 1/4 弱	一括	(11.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
125	6	194	25	土師器坩 口縁 1/4 弱	一括	(10.0)			5YR6/8 橙色	良好	密	外　器面磨耗。 内　器面磨耗。	内外面赤彩。
125	7	194	24	土師器坩 口縁 1/6	一括	(11.0)			5YR5/6 明赤褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
125	8	194	3	土師器甑 口縁 1/4	床直	(25.6)			5YR6/8 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
125	9	194	4	土師器甑 口縁 1/16	一括	(28.6)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
125	10	194	5	土師器甑 底部 1/4	床直		(7.2)		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　底部篦ナデ、胴部篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
125	11	194	8	土師器塊 胴部一部欠	一括	10.6	2.2	8.2	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。NO-11 と同一個体。
125	12	194	21	土師器器台 坏部 1/4	一括	(8.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部篦ミガキ、体部篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
125	13	194	22	手捏土器台付甕 底部 1/4	一括		(4.6)		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
125	14	194	15	土師器高坏 裾部全欠	床 +10				10R4/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り後篦ナデ。	外面赤彩。坏部内面赤彩。
125	15	194	16	土師器高坏 脚部のみ	床直				10R5/6 赤色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り後篦ナデ。	外面赤彩。
125	16	194	19	土師器高坏 脚部のみ	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
125	17	194	12	土師器坏 ほぼ完形	床 +13	12.0		4.8	2.5YR6/8 橙色	良好	砂粒含む	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
125	18	194	11	土師器坏 口縁 1/3	床直	(11.0)			10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
125	19	194	9	土師器坏 口縁 1/4 欠	床 +18	12.1		4.0	7.5YR1.7/1 黒～ 10YR5/6 黄褐色 7.5YR6/6 橙～ 7.5YR2/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
125	20	194	10	土師器坏 口縁 1/8	床直	(11.8)			2.5Y3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
125	21	194	13	須恵器蓋 口縁 1/3 欠	床直	11.4		4.8	5Y7/2 灰白色	良好	密	外　ロクロ、天井部付近を回転篦ケズリ、ケズリ方向は時計回転、天井部は篦ケズリによって平らに仕上がる。 内　天井部付近ロクロナデ、摩耗によりザラつく。	湖西産。
125	22	194	14	須恵器高坏 脚部 1/8	一括		(9.1)		2.5Y6/2 灰黄褐色	良好	密	外　ロクロ回転ナデ。 内　ロクロ回転ナデ。	造りやや不良。
125	23	194	17	土師器高坏 坏部 1/8 強	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
125	24	194	20	カワラケ 底部完存	一括		6.1		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　手持ち篦ケズリ、底部回転糸切りっぱなし。 内　ロクロナデ。	
126	1	213 A・B	1	土師器甕 口縁 1/4 ～胴部 2/3 欠	床 +3	19.5	6.6	25.0	10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、底部付近はケズリに近い。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
126	2	213 A・B	2	土師器甕 口縁～胴部一部欠	床 -1	16.7	5.7	21.0	7.5YR6/6 にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	内面輪積み痕あり。
126	3	213 A・B	3	土師器甕 ほぼ完形	床 +2	12.0	4.1	9.8	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、肩部より上ハケ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
126	4	213 A・B	5	土師器甕 ほぼ完形	床直	15.2	6.7	20.3	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
126	5	213 A・B	12	土師器小型甕 口縁一部欠	床 +2	11.8	3.9	10.1	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。	
126	6	213 A・B	20	土師器坩 底部完存・口縁 3/4 欠	床 -8	(12.2)	2.7	11.0	5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ、底部付近は篦ケズリに近い。 内　篦ナデ。	
126	7	213 A・B	9	土師器坩 完形	床 +1	11.9	2.2	7.1	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
126	8	213 A・B	11	土師器坩 口縁・胴部一部欠	床 +4	18.7	2.8	5.3	7.5YR6/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
126	9	213 A・B	4	土師器甕 口縁・胴部一部欠	床 -2	16.5	5.8	24.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	内面器面剥離やや激しい。
126	10	213 A・B	21	土師器甕 口縁～胴部 1/3	床 -1	(17.4)			7.5YR5/6 明 褐 ～ 7.5YR3/2 黒 褐色	良好	密	外　口縁～頸部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁～頸部ハケ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
126	11	213A・B	22	土師器甕 口縁1/2	床+3	14.7			7.5YR2/1黒色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
126	12	213A・B	6	土師器甕 口縁一部欠	床+1	16.2	6.7	17.5	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
126	13	213A・B	23	土師器小型甕 口縁完存～胴部1/5	床+1	11.8			7.5YR4/4褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	
126	14	213A・B	27	土師器甕 口縁1/4	一括	(17.6)			10YR4/2灰黄褐色 7.5YR4/4褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ。 内　篦ナデ。	
126	15	213A・B	25	土師器甕 底部完存	床-1		5.0		2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
126	16	213A・B	8	土師器坩 口縁3/4欠	床+6	(12.2)	3.0	13.8	10R3/6暗赤褐色 10R3/6暗赤褐～5YR2/3極暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ミガキ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ	外面全面・内面口縁部赤彩。
126	17	213A・B	30	土師器二重口縁壺 口縁1/3強	床+6	(19.8)			2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　口縁～頸部ハケ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
126	18	213A・B	29	土師器二重口縁壺 口縁1/3強	床-3	(17.8)			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部下端キザミ目以下篦ミガキ。 内　口縁部粗い篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
126	19	213A・B	38	土師器小型甕 口縁～胴部1/3欠	一括	8.4	3.8	9.3	5YR4/4にぶい赤褐色 10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。胴部篦ナデ。	内面赤彩。
126	20	213A・B	17	土師器坩 胴部完存 口縁・底部全欠	床+1				10YR5/3にぶい黄褐色 10YR5/4にうい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
126	21	213A・B	14	土師器鉢 完形	床+5	7.9	5.5	5.6	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　器面剥離。	
126	22	213A・B	10	土師器坩 口縁一部欠	床+2	10.0	1.3	5.5	2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
126	23	213A・B	19	手捏土器鉢 口縁全欠・底部～胴部3/4残	床+18				2.5YR3/6暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
126	24	213A・B	18	手捏土器鉢 底部完存～口縁2/3欠	床-2	(5.4)	3.0	3.1	7.5YR4/4褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　ハケ。	
126	25	213A・B	26	土師器壺 口縁全欠・頸部完存	床直				7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
126	26	213A・B	15	土師器器台 口縁一部欠	床直	7.4	8.9	6.4	2.5YR4/6赤褐色 2.5YR4/8赤褐色（脚部）	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ナデ後粗い篦ミガキ、脚部ハケ後篦ナデ。 内　坏部粗い篦ミガキ、脚部ハケ後一部篦ナデ。	内外面赤彩（脚内面除く）。脚の3方に穿孔。
126	27	213A・B	16	土師器器台 坏部2/3～脚部の一部	床-2	(7.0)			5YR4/6赤褐色 10YR5/4にぶい黄褐色（脚部）	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	内外面赤彩（脚内面除く）。脚の3方に穿孔？
126	28	213A・B	39	土師器器台 坏部2/3残・脚全欠	一括	7.8			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ミガキ。	内外面赤彩。
126	29	213A・B	40	土師器台付甕 脚部1/4	一括		(9.6)		7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
126	30	213A・B	54	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/6黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺。 内　摩耗。	
126	31	213A・B	53	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR5/3黄褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　指頭押捺による爪形文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
126	32	213A・B	52	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　頸部細かい篦ナデ、斜行細縄文。 内　篦ナデ。	
126	33	213A・B	48	弥生壺　胴部	一括				10R4/6赤色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　頸部棒状工具による長方形刺突文と平行沈線。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩。NO-34・NO-35・NO-36と同一個体。 （ただしNO35の頸部より若干胴部に近い位置）。
126	34	213A・B	51	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/6暗赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外　頸部棒状工具による長方形刺突文と平行沈線。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩。NO-33・NO-35・NO-36と同一個体。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
126	35	213A・B	49	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　頸部棒状工具による長方形刺突文と平行沈線。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩。NO-33・NO-34・NO-36 と同一個体。
126	36	213A・B	50	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　頸部棒状工具による長方形刺突文と平行沈線。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩。NO-33・NO-34・NO-35 と同一個体。
127	1	131A	1	弥生甕 口縁 1/3	炉内火床密着	(21.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部キザミ目、胴部ハケ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
127	2	131A	2	弥生甕 底部付近 1/4	床 +25				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
127	3	131A	5	弥生甕 底部 1/4	一括		(6.2)		7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
127	4	131A	6	弥生甕 底部 3/4	一括		7.0		7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	
127	5	131A	4	弥生甕 底部 1/2	床 +23		6.0		7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	底部木葉痕。
127	6	131A	3	弥生甕 底部 1/3	一括		(5.4)		7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
127	7	131A	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
127	8	131A	14	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
127	9	131A	11	弥生広口壺　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部下端原体押捺、頸部羽状縄文、円形凸文に円形竹管文、左右に沈線文を施す。 内　ハケ後篦ナデ。	外面施文以外赤彩・内面全面赤彩。
127	10	131A	12	弥生壺胴部	一括				2.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線文及びＳ字状結節文、区画内に細縄文を施す。 内　篦ナデ。	
127	11	131A	7	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　細縄文と平行沈線による波状文。 内　篦ナデ。	
127	12	131A	13	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線文内に細縄文を施す。 内　器面剥離激しい。	
127	13	131A	8	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　沈線による羽状文。 内　ナデ。	
127	14	131A	9	弥生甕　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と指頭押捺文。 内　ナデ。	
128	1	131B	11	土師器壺 口縁 1/8	一括	(22.4)			2.5Y7/4 浅黄色	良好	有色粒多	外　折り返し口縁、他ナデ。 内　ナデ。	胎土が非存地。搬入土器（大廓式土器）。 前期中葉。
128	2	131B	3	土師器二重口縁壺 頸部 1/8	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ。	
128	3	131B	4	土師器二重口縁壺 頸部 1/4	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
128	4	131B	1	土師器甕 口縁 1/3	一括	(17.8)			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。	
128	5	131B	2	土師器甕 底部完存	一括		5.6		10YR2/1 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
128	6	131B	10	土師器坩 口縁 1/6	一括	(12.6)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ。	
128	7	131B	7	土師器坩 口縁 1/6	一括	(8.8)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁～頸部ハケ後ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
128	8	131B	9	土師器鉢 口縁 1/3	一括	(9.0)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
128	9	131B	13	土師器器台 口縁 1/4 弱	一括	(7.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
128	10	131B	5	土師器高坏 脚部 1/2	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚部外面赤彩。
128	11	131B	12	土師器装飾器台 受部 1/8	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ナデ。	幅 2.0㎝程の透かし孔。全体的に磨耗。
128	12	131B	14	土師器高坏 口縁 1/6	一括	(18.0)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
128	13	131B	6	土師器坏 口縁 1/8	一括	(15.4)			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
128	14	131B	15	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
128	15	131B	16	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(16.2)			2.5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
129	1	193	2	土師器甕　頸部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他ハケ。 内　ハケ。	
129	2	193	4	土師器甕　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
129	3	193	1	土師器甕　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色 7.5YR5/6 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
129	4	193	3	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
130	1	190	1	土師器甕 口縁 1/4 ～胴部一部欠	床（+10）	18.1	6.3	23.6	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ、胴部ハケ後篦ナデ。	
130	2	190	2	土師器甕 ほぼ完形	床直	14.6	5.7	19.6	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
130	3	190	3	土師器甕 ほぼ完形	床直	14.0	4.8	13.3	5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
130	4	190	5	土師器甕 口縁 1/4 弱	床直	(16.0)			7.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部面取り。
130	5	190	4	土師器壺 口縁全欠・胴部大半残	床直		6.0		10R3/6 暗赤色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
130	6	191	21	土師器坩 口縁 1/12	一括	(14.7)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
130	7	190	14	土師器坩 口縁 1/8	一括	(12.4)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ミガキ。	
130	8	191	27	土師器坩 口縁～胴部 2/3・底部全欠	床直	11.0			2.5YR5/6 明赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	赤味がかるが赤彩ではない。
130	9	190	6	土師器高坏 坏部完存	床 +10	(15.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後一部篦ミガキ。	内外面赤彩。
130	10	190	7	土師器高坏 坏部 1/2 弱	床直	(18.2)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
130	11	191	23	土師器高坏 脚部 1/3 強	一括		(9.2)		7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚の 2 ヶ所 3 連一組の穿孔。
130	12	191	24	土師器器台 坏部 1/4	一括	(7.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
130	13	191	30	土師器器台 坏部口縁 1/4 欠	一括	7.2			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ。 内　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。	18 号から移動。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
130	14	190	12	土師器器台 口縁 1/3 残	床 +10	(6.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
130	15	191	22	土師器高坏 脚部 1/4 弱	一括		(12.0)		5YR5/8 明赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	おそらく脚の 3 方に穿孔。
130	16	191	20	土師器鉢 ほぼ完形	床 +7	7.4	2.5	3.4	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
130	17	190	10	手捏土器鉢 完形	一括	4.5	3.7	3.1	10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	一部明瞭に指紋残る。
130	18	191	19	手捏土器鉢 口縁一部欠	一括	5.8	3.0	4.0	10YR4/4 褐色	良好	密	外　指ナデ整形。 内　指ナデ整形。	粘土粒付着のまま焼成。
130	19	190	11	手捏土器鉢 口縁～底部 1/3	一括	(6.0)	(2.2)	2.9	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　丁寧な指ナデ。 内　ハケ。	
130	20	191	26	土師器坏 口縁 1/8	一括	(11.3)			10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	黒色処理。
130	21	191	28	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　頸部三条の細縄文。 内　篦ナデ。	
130	22	191	29	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　円形竹管文と半截竹管による連続刺突文、篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
131	1	142	2	土師器甕 口縁 1/2 欠	床 +4	16.7		23.3	7.5YR4/4 褐色	良好	砂粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	底部丸底。
131	2	142	1	土師器甕 底部全欠	床 +20	19.5			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
131	3	142	3	土師器甕 底部全欠	床 +4	16.2			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
131	4	142	16	土師器甕 口縁 3/4	床 +4・+8	17.6			7.5YR2/3 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
131	5	142	15	土師器甕 底部全欠・口縁 3/4 欠	一括				5YR3/3 暗赤褐色	良好	3㎜大砂礫含む	外　口縁部ナデ、胴部上位ハケ、下位篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	鬼高期のハケ甕。
131	6	142	19	土師器甕 口縁一部欠	床 +10	17.4			5YR3/2 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
131	7	142	11	土師器甕 口縁完存	床 +20	14.7			5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
131	8	142	17	土師器小型甑 口縁 1/2	一括	14.0			5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面輪積み痕明瞭。
131	9	142	20	土師器甕 底部完存	床 +4		7.0		5YR3/4 暗赤褐色	良好	1㎜大砂礫含む	外　篦ケズリ。 内　ハケ後篦ナデ。	
131	10	142	6	土師器坏 口縁 2/3 欠	床 +10	13.2		5.1	5YR4/6 明赤褐色	良好	1㎜大砂礫含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	平底ぎみの坏。
131	11	142	24	土師器坏 口縁 1/4	床 +8	(14.8)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩ではない。
131	12	142	7	土師器坏 口縁 1/4 欠	床直	15.0		5.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
131	13	142	8	土師器坏 口縁 1/3 欠	床直	18.0		5.4	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	3 枚重ね最下。本遺構の観察から篦ケズリ後篦ナデは、赤彩、塗布によるナデであることが認められる。
131	14	142	10	土師器坏 完形	3 枚重ね中	16.8		6.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。3 枚重ねの上に NO-15、最下に NO-13。
131	15	142	5	土師器坏 口縁 1/3 欠	3 枚重ね上	15.8		6.4	10R4/6 赤色	良好	1㎜大砂礫多	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。3 枚重ねの中に NO-14、最下に NO-13。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
131	16	142	25	土師器坏 口縁1/6～底部完存	一括	(14.6)		5.2	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
131	17	142	26	土師器坏 口縁1/4	床 +4	(16.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
131	18	142	14	土師器甑 口縁1/2	床 +10	21.8			7.5YR3/3 暗褐色	良好	5㎜大礫含む	外　口縁部篦ナデ、胴部一部ハケ後篦ケズリ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
131	19	142	12	土師器鉢 口縁1/4	床 +4	17.0			10R4/6 赤～ 7.5YR4/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部のみ赤彩。
131	20	142	4	土師器坩 口縁全欠・胴部完存	床 +4				10R4/6 赤～ 7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ、胴部不明。	外面底部以外、内面胴部以外赤彩。
131	21	142	23	土師器坏 口縁1/4～底部1/2	一括	(16.0)		6.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
131	22	142	22	土師器坏 口縁1/4～底部完存	床 -9	(15.8)		5.3	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
131	23	142	13	須恵器蓋 ほぼ完形	床 +13	12.8		4.4	5Y5/1 灰～ 5Y6/3 オリーブ黄色	良好	密	外　天井部2/3以上の範囲に回転篦ケズリ、天井部の大半を自然釉が占め、櫛状工具による連続刺突文（列点文の可能性大）篦ケズリの回転方向等不明瞭。 内　時計回転の回転ナデ、天井部付近一方向の手持ちナデ、口唇部端部は明瞭な段。	
131	24	142	40	土師器高坏 口縁1/8	一括	(14.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
131	25	142	39	土師器高坏 口縁1/6	一括	(15.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
131	26	142	28	土師器高坏 口縁・脚部全欠	床 +8				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
131	27	142	32	土師器高坏 坏部下端～脚部	床 +4				10R3/4 暗赤色	良好	砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚部内面以外赤彩。
131	28	142	31	土師器高坏 坏部下端～脚部	床直				10R4/6 赤色 10R3/6 暗赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り後ナデ。	脚内面以外赤彩。胎土自体がかなり赤味がかった土器である。
131	29	142	30	土師器高坏 坏部下端～脚部	床 +13				2.5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒含む	外　脚部篦ナデ。 内　指掻き取り後篦ナデ。	全体的に赤味がかるが、赤彩は施されていない。
131	30	142	29	土師器高坏 裾部1/3欠	床 +13		12.5		2.5YR4/6 赤褐色 5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ナデ。 内　篦ケズリ後篦ナデ。	外面赤彩。
131	31	142	9	土師器鉢 口縁一部欠（ほぼ完形）	床 +10	7.0	4.6	7.4	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、一部ケズリ残しの粘土を指で貼り付ける。 内　篦ナデ。	
131	32	142	36	土師器高坏 底部1/3	床直		(11.1)		10R4/8 赤色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。内面は赤彩ではないが、粘土自体が非常に赤味がかる。
131	33	142	42	手捏土器鉢 口縁一部欠	カマド	5.0	3.6	2.2	2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
131	34	142	41	手捏土器鉢 底部完存・口縁大半欠	一括	(5.0)	3.5	2.4	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
131	40	142	59	種子 全体1/2	一括				7.5YR4/2 灰褐色				長さ　2.15cm・幅 1.7cm・厚さ 1.1cm・重量 1.2g。
131	41	142	60	種子 全体1/2	一括				7.5YR4/2 灰褐色				長さ　1.7cm・幅 1.45cm・厚さ 1.0cm・重量 0.7g。
133	1	192	3	弥生甕 口縁1/4弱残胴部1/2残・底部全欠	一括	(17.2)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒多	外　胴部中位の段に棒状工具による押捺文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	輪積み。
133	2	192	1	土師器甕 胴部～底部ほぼ完存	床直		8.0		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
133	3	192	5	弥生壺 口縁・底部全欠・胴部上位ほぼ完存	床直				5YR5/6 明赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　細縄文と一部原体のほぐれたＳ字状結節文、沈線による山形文、他篦ナデ。 内　粗い篦ナデ。	輪積み明瞭に残る、全体的に雑な土器。
133	4	192	4	弥生甕？ 口縁全欠　胴部・底部ほぼ完存	床直		7.1		10YR5/6 黄褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	1㎜大の赤褐色粒多量含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	一段の輪積み痕、底部焼成後穿孔。
133	5	192	14	土師器甕 底部1/2弱残	一括		（5.2）		7.5YR4/2 灰褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	底部はドーナツ状の粘土紐貼り付け。
133	6	192	13	土師器壺 底部完存	床直	8.4			5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
133	7	192	6	土師器器台 脚部一部欠	床直		（12.8）		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚の一部Ｕ字形にカットされる。
133	8	192	2	弥生鉢 底部全欠口縁3/4強残	床直	13.1			7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
133	9	192	8	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、折り返し口縁部に原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
133	10	192	9	弥生壺　胴部	一括				2.5YR 明赤褐色	良好	密	外　円形竹管による連続刺突文の上位にＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
133	11	192	10	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　山形文内に羽状縄文。 内　篦ナデ。	
133	12	192	7	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
133	13	192	11	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　摩耗激しい。	
134	1	143A	4	土師器甕 底部全欠	床-15	16.2	（7.2）	（23.6）	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ一部篦ナデ、胴部篦ナデ。	
134	2	143A	1	土師器甕 底部全欠以外ほぼ完存	床-15	16.2			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
134	3	143A	3	土師器甕 底部全欠以外ほぼ完存	貯蔵穴内	15.7			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
134	4	143A	2	土師器甕 底部全欠（他ほぼ完存）	貯蔵穴一括	17.2			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
134	5	143A	22	土師器甕 口縁1/3	床直	（17.2）			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
134	6	143A	23	土師器甕 口縁1/4	床+13	（17.2）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	7	143A	62	須恵器甕 口縁1/10	床+13	（20.0）			ValueN-4/ 灰色 5Y5/1 灰色	良好	密	外　口縁部回転ナデ、口縁部突出は鋭くシャープ。 内　自然釉付着。	
134	8	143A	63	須恵器甕 口縁1/8	一括	（16.0）			10Y5/1 灰色	良好	密	外　口縁端部凹面を呈し、口縁部下に断面三角形の凸帯、凸帯と凸帯間には櫛描き波状文を施す。 内　自然釉付着。	
134	9	143A	67	須恵器甕 底部付近の1/3強	一括				ValueN-5/ 灰色 ValueN-5/ 灰色	良好	密	外　回転カキ目後一部ナデ、底部付近は丁寧な不整方向のナデ。 内　ロクロナデ、底部付近は敲き後ナデ。	
134	10	143A	68	須恵器[illegible] 口縁1/4（3片）	一括	（10.4）			7.5Y3/2 オリーブ黒色	良好	密	外　ロクロナデ、凸帯下に櫛描き波状文。（濃いうぐいす色の自然釉付着） 内　ロクロナデ。（濃いうぐいす色の自然釉付着）	極めて薄い。
134	11	143A	65	須恵器坏 口縁1/6	床+13	（11.3）			10Y4/1 灰色	良好	密	外　口縁～体部回転ナデ、下端は回転篦ケズリ。 内　口縁～体部回転ナデ、口唇部はシャープ。	
134	12	143A	46	土師器坏 口縁1/2欠	一括	16.3		5.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	13	143A	47	土師器坏 口縁1/3欠	床-10・-15	16.2		5.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ一部沈線状の粗いケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
134	14	143A	12	土師器甕 口縁部 1/3 残	一括	(28.0)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、胴部ハケ後篦ケズリ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
134	15	143A	9	土師器甕 底部 1/2	床 -4・+4		7.2		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
134	16	143A	14	土師器壺 口縁 1/2 弱	一括	(19.6)			5YR5/6 明赤褐色	良好	1㎜大 小礫多	外　口唇部面取り後一条凹帯、口縁部ナデ、頸部～胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、口縁部中段指ナデによる凹帯、胴部篦ナデ。	
134	17	143A	56	土師器甕 口縁 1/4	貝ブロックの上 +9	(15.4)			10R4/6 赤色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
134	18	143A	19	土師器壺 口縁 1/3	床 +11	(18.4)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部指押さえ。	口唇部面取り。
134	19	143A	15	土師器甕 口縁 1/4	床 +17	(13.3)			10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	貝ブロックの上混入。
134	20	143A	5	土師器甕 底部完存	床直		8.0		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
134	21	143A	24	縄文深鉢？ 口縁 1/6	一括				5YR4/4 褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ミガキ。	
134	22	143A	55	土師器短頸壺 口縁 1/4	一括	(12.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。外面器面剥離。
134	23	143A	7	土師器坏 口縁 1/3 欠	一括	14.2		53.0	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。器面やや摩耗し赤彩飛ぶ。
134	24	143A	61	土師器坏 口縁 1/4 強	床 +18	(13.6)		5.4	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面赤彩による十字文の暗文。
134	25	143A	6	土師器坏 口縁 1/2 強欠	一括	(15.2)		6.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。内面に 3 本線による線刻。
134	26	143A	26	土師器坏 全体 1/2	カマド 136 号一括	15.6	3.9	6.3	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部粗いハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後放射状暗文風の篦ミガキ。	内外面赤彩。
134	27	143A	8	土師器坏 口縁 3/4 欠	床 +18	(14.1)		5.8	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面赤彩。内面底部一文字の赤彩による暗文。
134	28	143A	52	土師器坏 口縁 1/4	床 +10	(13.6)			10R4/6 赤色	良好	5㎜大礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	29	143A	48	土師器坏 口縁 2/3 欠	一括	(14.2)		(5.7)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	30	143A	50	土師器坏 口縁 1/4 欠	一括	14.0		(4.6)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	31	143A	53	土師器坏 口縁 1/4	一括	(15.0)		(4.9)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	32	143A	51	土師器坏 口縁 1/3	一括	(16.0)			10R4/6 赤～ 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩であるが、器面剥離激しい。
134	33	143A	49	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	34	143A	54	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	35	143A	25	土師器高坏 口縁完存・脚部全欠	床直	16.0			2.5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	36	143A	27	土師器高坏 口縁 1/4 強	床 +7	(15.2)			2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
134	37	143A	44	土師器高坏 脚部のみ	床 -2				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　脚部上部横ナデ、中位粗い篦ケズリ、裾部篦ナデ。 内　指掻き取り、指ナデ、裾部ナデ。	脚の 2 方（均等ではない位置）に径 0.7 ～ 0.3㎝程の焼成後穿孔の円孔。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
134	38	143A	43	土師器高坏 脚部 1/4	床 +10		（10.8）		10R4/6 赤色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　脚部篦ナデ。 内　脚部篦ナデ。	外面赤彩。
134	39	143A	79	須恵器甕　胴部	一括				7.5Y4/1 灰色 7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後ナデ。 内　青海波磨り消し。	
134	40	143A	80	須恵器蓋 天井部 1/2	一括				ValueN-4/ オリーブ灰色	良好	密	外　時計廻りの回転篦ケズリ。 内　回転ナデ。	
134	41	143A	35	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、平行沈線文。 内　口唇部ナデ、口唇部下一条沈線、他篦ナデ。	
134	42	143A	13	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 B 式土器。
136	1	144	4	土師器高坏 口縁 1/2 強	レベル 記載なし	19.0			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
136	2	144	3	土師器鉢 口縁 1/2	一括	9.2			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
136	3	144	6	土師器甕 口縁 1/6 強	一括	（24.4）			10YR にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
136	4	144	5	土師器高坏 口縁 1/8	一括	（13.1）			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
136	5	144	9	土師器坏 口縁 1/6 強	一括	（17.0）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
136	6	144	8	土師器坏 口縁 1/6	一括	（16.6）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
136	7	144	1	庄内敲き甕 完形	床直	16.2	5.1	20.3	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部面取り、口縁部ハケ後ナデ、胴部敲き後ハケ一部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部キメ細かいハケ、底部篦ナデ後篦ミガキ。	
136	8	144	2	土師器甕 口縁 1/2 弱	一括	（19.3）			10YR3/2 黒褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
136	9	144	28	弥生壺 口縁～頸部全欠	一括		7.3		5YR5/6 赤褐色	良好	密	外　頸～肩部 S 字状結節文、胴部篦ミガキ。 内　頸部篦ミガキ、胴部篦ナデ？（よく見えない）	内面赤彩痕跡あるが大半飛ぶ、内面一部測定不能。
136	10	144	10	土師器蓋 口縁 1/4 強	一括	（8.9）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、天井部篦ナデ、つまみ部ナデ。 内　口縁部ナデ、天井部篦ナデ。	内外面赤彩。
136	11	144	11	須恵器坏 口縁 1/8	一括	（9.8）			5Y6/1 灰色	良好	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	
136	12	144	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　折り返し口縁。口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
136	13	144	16	弥生甕　口縁部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺文。 内　篦ナデ。	
136	14	144	14	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文、原体押捺文。 内　篦ナデ。	
136	15	144	20	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
136	16	144	15	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ミガキ。	
136	17	144	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き文。 内　篦ナデ。	
136	18	144	18	弥生鉢　口縁部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
136	19	144	21	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部下に棒状工具による連続刺突文。 内　ナデ。	赤彩？

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
137	1	146	1	土師器甕 底部一部欠（ほぼ完形）	カマド右脇+5	16.2	4.9	2.8	7.5YR3/4 暗褐色	良好	砂粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
137	2	146	2	土師器甕 口縁3/4欠他ほぼ完形	カマド	（17.7）	7.6	27.8	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
137	3	146	3	土師器甑 口縁1/2欠	貯蔵穴-26	25.8	9.0	25.1	5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
137	4	146	4	土師器甕 底部2/3～胴部一部	カマド		7.6		10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
137	5	146	11	土師器台付甕 底部1/4	一括		（10.0）		2.5YR5/3 黄褐色	良好	1㎜大褐色粒多	外　篦ケズリ後裾部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
137	6	146	10	土師器高坏 脚部完存・裾3/4欠	一括		（10.0）		10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚の3方に穿孔。
137	7	146	6	土師器短頸壺 ほぼ完形	貯蔵穴周辺 床直	14.1		10.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
137	8	146	7	土師器短頸壺 全体1/2	貯蔵穴周辺 床直	（15.4）		7.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、器面剥離激しい。	内外面赤彩。
137	9	146	9	土師器坏 全体1/3	貯蔵穴周辺 床直	（14.5）		（5.8）	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
137	10	146	8	土師器坏 口縁1/2弱	床直	（15.9）		（5.5）	10R4/6 赤色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面1/2～内面全面赤彩。
137	11	146	5	土師器高坏 ほぼ完形	カマド	16.2	12.8	12.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏～脚部篦ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部指掻き取り、裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
137	12	146	12	弥生壺　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺。 内　口唇部円形竹管文下に2連のS字状結節文帯、他ハケ、篦ミガキ。	内外面赤彩。
138	1	138B	1	土師器坩 口縁1/8	一括	（6.0）			10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
139	1	132	5	土師器甕 口縁1/2～胴部3/4・底部全欠	床+15	19.7			10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	2	132	20	土師器甕 口縁1/3	一括	17.8			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	3	132	9	土師器甕 口縁完存	床+23	17.2			10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
139	4	132	1	土師器甕 口縁～胴部一部欠	床+16	16.6	5.8	22.4	10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
139	5	132	4	土師器甕 口縁1/2～底部完存	床+10	15.2	5.0	16.0	5YR2/3 極暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
139	6	132	2	土師器甕 口縁1/3～底部完存	床+13	（15.4）	5.8	17.6	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	7	132	7	土師器甕 口縁1/4～胴部2/3・底部完存	床+8・+9	（14.4）	4.4	15.2	7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	
139	8	132	12	土師器坩 口縁1/3欠	床+4	11.5	3.7	11.3	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
139	9	132	17	土師器鉢 口縁1/8～底部完存	床+12	（9.8）	4.8	7.6	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	10	132	18	土師器鉢 口縁1/12～底部完存	一括	（10.4）	4.7	8.0	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部指ナデ、胴部粗い篦ナデ（ケズリに近い）。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	11	132	30	土師器鉢 口縁1/3	一括	10.4	2.2	5.5	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	砂粒含む	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
139	12	132	3	土師器甕 口縁・胴部一部欠	床 +23	16.4	6.8	22.1	5YR4/6 赤褐色	不良	砂粒多	外　口縁部篦ケズリ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	非常に造りの雑な土器、レベルの高さから混入と推定される。
139	13	132	19	土師器甕 口縁 1/4 ～胴部 1/2	床 +5 ～ 20	(13.2)			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	14	132	62	土師器甕 口縁 1/2	床 +12	20.0			7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	15	132	15	土師器台付甕 口縁 1/8 ～胴部 3/4・脚全欠	床 +7	(14.2)			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	16	132	16	土師器台付甕 口縁 1/2 ～脚部 1/4	床 +7	15.2	7.6	25.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後一部篦ナデ、脚部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ、脚部篦ナデ。	
139	17	132	14	土師器台付甕 底部完存～胴部 1/2	床 +5・+13		9.6		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　胴部ハケ後一部篦ナデ、脚部ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
139	18	132	13	土師器台付甕 脚部以外完存	床 +7	14.8			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
139	19	132	8	土師器甕 胴部 1/3	床 +8	(13.6)			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
139	20	132	6	土師器甕 口縁～胴部 1/2 弱	床 -36pit 内	(13.0)			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	21	132	24	土師器壺 口縁 1/2 弱～頸部完存	床 +18	(15.4)			10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、頸部篦ナデ。	
139	22	132	23	土師器壺 口縁 4/5	床 +6	16.0			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部ナデ、口縁部ハケ後篦ミガキ、頸部ハケ後篦ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
139	23	132	10	土師器坩 口縁 1/4 欠	床直	13.0	4.6	13.2	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後一部篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部上位篦ナデ、下位ハケ。	
139	24	132	11	土師器坩 口縁 3/4 欠	床 +5	(10.6)	5.0	12.1	10YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
139	25	132	29	土師器鉢 底部完存～胴部 1/4	一括		4.0		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂粒やや多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
139	26	132	28	土師器鉢 底部完存～胴部 1/2	床 +7		4.0		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
139	27	132	36	土師器台付甕 脚部 1/3	一括		(9.0)		10YR4/4 褐色	良好	密	外　粗い篦ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
139	28	132	37	土師器台付甕 脚部ほぼ完存	一括		7.6		10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
139	29	132	33	土師器高坏 坏部 2/3（口縁全欠）	床 +21	(22.2)			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
139	30	132	34	土師器高坏 口縁 1/3・脚部全欠	床 +3	(19.4)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	非常に薄手造り。
139	31	132	31	土師器高坏 脚部完存・坏部全欠	床 +7		10.8		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
139	32	132	32	土師器高坏 脚部ほぼ完存	pit 上床直		11.2		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
139	33	132	35	土師器器台 口縁 3/4 ～脚部 1/4 強	床 +15	8.3	13.6	9.1	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
140	1	133	3	土師器甕 口縁 1/4 弱	一括	(17.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
140	2	133	1	土師器甕 口縁ほぼ完存	一括	16.6			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ナデ。 内　口縁部ナデ、端部つまみ上がる、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
140	3	133	5	土師器甕 口縁 1/8	一括	(17.8)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
140	4	133	4	土師器甕 口縁 1/6	一括	(19.2)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
140	5	133	10	土師器短頸壺 口縁 1/6	一括	(10.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
140	6	133	8	土師器坏 口縁 1/3	一括	(14.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
140	7	133	12	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(14.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
140	8	133	7	弥生甕 底部 3/4	一括		8.4		7.5YR4/3 褐色	良好	やや 砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
140	9	133	11	土師器坏 底部完存	一括		4.0		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。底部外面十文字の線刻あり。
140	10	133	16	弥生鉢　口縁部	一括				2.5Y5/3 黄褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	砂粒多	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、原体押捺と羽状縄文、体部 2 段以上の羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
140	11	133	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺による波状文、胴部縦ハケ。 内　口唇部原体押捺による波状文、胴部横ハケ。	
140	12	133	15	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　平行沈線文間に細縄文、篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
141	1	145	3	土師器甕 口縁 1/8 弱	一括	(19.8)			7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ。	
141	2	145	1	土師器鉢 口縁 1/4	一括	(14.8)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁部篦ナデ後篦ミガキ。	
141	3	145	4	弥生甕 底部ほぼ完形	床 +6		6.4		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
141	5	145	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐～ 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ナデ。	
141	6	145	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/6 明黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ナデ。	
141	7	145	6	弥生甕　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙～ 10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	砂含む	外　頸部原体押捺による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
141	8	145	7	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　円形竹管による刺突文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。107 号 NO-12 と似ている。
142	1	138A	1	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/3	一括	(14.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	頸部の 4 方に径 0.5cm程の焼成後穿孔あり。
142	2	138A	6	土師器坩 口縁 1/8	一括	(12.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	内外面赤彩。
142	3	138A	7	土師器坩 口縁 1/4	一括	(7.0)			7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
142	4	138A	8	土師器甕 底部 1/2 弱	一括		(8.6)		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	底部木葉痕。
142	5	138A	3	土師器坩 口縁一部欠	床直	11.1	3.6	6.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ナデ一部篦ミガキ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
142	6	138A	2	土師器小型坩 底部完存～口縁 1/4	一括	(6.8)	2.6	5.9	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
142	7	138A	5	土師器坩 口縁一部欠	一括	9.9			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
142	8	138A	4	土師器坩 底部完存～胴部 1/2 弱	床 +5		2.0		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
142	9	138A	10	土師器甕　口縁部	一括				7.5YR4/1 褐灰色	良好	密	外　口唇部原体押捺、口縁部ハケ。 内　口唇部原体押捺、口縁部ハケ。	
142	10	138A	12	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺。 内　ナデ。	
142	11	138A	11	弥生壺　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	不良	砂っぽい	外　折り返し口縁、口唇部下に原体押捺。 内　ナデ。	
142	12	138A	17	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画の上下に羽状縄文と細縄文による山形文、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
143	1	134	2	土師器甕 ほぼ完形	貯蔵穴付近 床直	18.7	5.8	24.5	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
143	2	134	19	土師器甕 口縁 1/2	床直	16.6	5.2	28.0	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
143	3	134	1	土師器甕 口縁完存～底部全欠	貯蔵穴付近 床直	15.6			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	2㎜大礫含む	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ一部に篦ミガキ状の痕跡あり。	
143	4	134	17	土師器甕 口縁 1/2 ～胴部 1/3	床直	18.4			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
143	5	134	3	土師器甕 口縁ほぼ完存～胴部一部	床直	18.6			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
143	6	134	4	土師器甕 口縁全欠・底部完存	床 -1		4.0		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	丸底。
143	7	134	5	土師器甕 口縁 1/4 欠	床直	15.2			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面摩耗。
143	8	134	18	土師器甕 底部完存	床直				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	丸底。
143	9	134	6	土師器甑 胴部一部欠	カマド脇 床 +1	25.5	7.3	23.5	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
143	10	134	20	土師器甕 底部完存	レベル 記載なし		5.9		7.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
143	11	134	16	土師器塊 完形	貯蔵穴付近 床直	12.7		9.2	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。内面から外面方向に径 1.5cm程の焼成後穿孔。
143	12	134	9	土師器坏 口縁・体部 1/6 欠	床直	15.4		5.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
143	13	134	8	土師器坏 ほぼ完形	貯蔵穴付近 床直	16.1		5.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
143	14	134	11	土師器坏 口縁一部欠	貯蔵穴内 床 -23	14.8		6.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
143	15	134	12	土師器坏 完形	床 -23 以上	15.4		5.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
143	16	134	10	土師器坏 口縁 3/4 欠	床 -1	(17.0)		5.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
143	17	134	14	土師器坏 完形	貯蔵穴内 床 -17	16.2		6.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
143	18	134	7	土師器坏 口縁一部欠	貯蔵穴内 床 -20	16.6		5.4	10R2/1 赤黒色 10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩後外面部のみ黒色処理 （漆仕上げ？非常にめずらしい。）
143	19	134	24	土師器坏 口縁 1/6 強	床 +2	(17.0)			10R4/6 赤色	良好	5㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
143	20	134	15	土師器坏 1/2 弱	床直	(16.6)		6.4	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
143	21	134	13	土師器坏 口縁 3/4 欠	床 +12	(15.2)		5.6	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ、底部にハケ残る。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	赤彩は施されない。
143	22	134	22	土師器高坏 脚部全欠口縁の大半欠く	床 -9 一括	(17.8)			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後一部篦ミガキ。	内外面赤彩。口縁部と体部を分ける稜線は沈線となりぼやける。
143	23	134	23	土師器高坏 脚部裾部全欠	貯蔵穴内 床 -20				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り。	外面赤彩。
144	1	135	6	土師器甕 口縁一部欠	床直	14.2	6.7	20.7	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
144	2	135	13	土師器甕 底部全欠	床直	16.0			5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面に指圧痕残る。
144	3	135	32	土師器甕 口縁 1/2	（貯蔵穴内 -23）	18.0			5YR3/2 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
144	4	135	33	土師器甕 口縁 1/2	一括	18.0			5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
144	5	135	5	土師器甕 口縁 1/4 ～胴部 1/2	床 +5	(14.4)			7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
144	6	135	4	土師器甕 口縁～胴部 1/2	床 +10	18.0			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	1㎜大の砂礫多	外　口縁部ナデ、胴部粗いハケ。 内　口縁部粗いハケ、胴部篦ナデ。	
144	7	135	14	土師器甕 口縁一部欠	床直	13.5			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
144	8	135	16	土師器甕 口縁完存	床 +4	17.8			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、指圧痕残る。	
144	9	135	2	土師器甕 全体 1/2	床 +20	16.2			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
144	10	135	8	土師器甕 底部完存～胴部 1/2	床 +4		7.6		7.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ、底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内面輪積痕残る。
144	11	135	10	土師器甕 底部完存	床 +4		6.0		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
144	12	135	29	土師器甑 口縁 1/4	一括	(18.2)			2.5YR8/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ナデ。 内　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面の上位に赤彩を施した痕跡が残る。
144	13	135	1	土師器甑 底部完存～口縁 1/4	床 -7	(25.8)	7.4	23.9	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
144	14	135	3	土師器甑 口縁 3/4・底部 1/2 欠	床 +23	(19.4)	4.8	17.5	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
144	15	135	28	土師器壺 頸部 1/3	カマド一括 土坑				2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
144	16	135	49	須恵器壺 口縁 1/12	床直	(17.4)			2.5Y6/1 黄灰色	良好	密	外　凸帯二条が巡り端部は、鈍く丸く頸部の凸帯を挟んで波状文からなる文様帯が巡る。 内　ロクロナデ。	146 号柱穴上。
144	17	135	19	須恵器坏蓋 口縁～天井部 1/4 弱	床 +4	(12.4)			2.5Y5/1 灰色	良好	密	外　口縁部回転ナデ、天井部回転ナデ後不整方向の手持ち篦ケズリ。 内　口縁部回転ナデ、天井部回転ナデ後不整方向の手持ち篦ナデ。	口唇端部は平坦、稜は丸くにぶい感を与える入念な調整。
144	18	135	17	土師器折り返し口縁壺 口縁完存	貯蔵穴内	14.5			7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
144	19	135	18	土師器坩 口縁全欠・胴部 1/2	床 +4				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。内面指圧痕あり。
144	20	135	7	土師器高坏 ほぼ完形	カマド	16.5	12.6	12.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　坏部口縁部ナデ、脚部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　坏部口縁部篦ナデ、脚部指掻き取り、裾部篦ナデ。	脚内面口縁部に粘土付着以外赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
144	21	135	11	土師器坏 口縁 1/2 ～底部完存	床 +3	15.8		5.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ後篦ミガキによる放射状暗文。	内外面赤彩。
144	22	135	31	土師器坏 全体 1/5	カマド内一括	(14.0)	7.0	6.0	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面淡い赤彩。
144	23	135	30	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(15.4)	7.0	5.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。	内外面赤彩。内外面の篦ナデは非常に丁寧。
144	24	135	9	土師器坏 口縁一部欠	床 +19	15.1		5.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
144	25	135	15	土師器坏 口縁 1/12 欠	床 -3	17.7		6.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
144	26	135	12	土師器坏 口縁 1/2 ～底部完存	床 -3	16.6		6.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
144	27	135	25	土師器坏 口縁 1/2 弱	カマド一括	(13.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
144	28	135	22	土師器坏 口縁 1/4 ～胴部 1/2	床直	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。外面篦ケズリ後ナデ明瞭。
144	29	135	20	土師器坏 口縁 3/4	一括	15.4			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。（やや器面剥離激しい）	内外面赤彩。
144	30	135	21	土師器坏 口縁 1/4	床 -3	(14.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
144	31	135	23	土師器鉢 底部完存～口縁 1/12	床直	(15.2)		6.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。（やや摩耗） 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。（器面剥離）	内外面赤彩。
144	32	135	24	土師器坏 口縁 1/3 強	床直	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
145	1	136	26	土師器甕 口縁 1/4 ～底部全欠	一括	16.0			10YR2/2 黒褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。	
145	2	136	25	土師器甕 底部全欠	一括	19.2			5YR2/2 黒褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ、肩部指圧痕あり。	内面口唇部面取り。
145	3	136	1	土師器甕 口縁 1/4 ～胴部 1/3	床 +1	(19.8)			10YR2/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
145	4	136	27	土師器甕 口縁・底部全欠・胴部 1/2	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
145	5	136	33	土師器鉢 口縁 1/4 弱	一括	(18.0)			7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後ナデ。	
145	6	136	8	土師器甑 底部 1/3	一括		(6.0)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
145	7	136	4	土師器高坏 脚部 1/4	床 +4		(13.1)		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
145	8	136	32	土師器高坏 坏・脚裾部全欠	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後中心部ナデ。	
145	9	136	6	土師器坏 口縁 1/12	一括	(11.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面口縁部・内面全面赤彩。 終末期の比企型坏。
145	10	136	29	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/4 残	一括	(15.6)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ後篦ミガキ。	
145	11	136	31	土師器小型甕 口縁 1/8 ～胴部上位 1/4	一括	(14.0)			5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
145	12	136	5	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(9.2)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口縁部輪積み明瞭。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
145	13	136	2	土師器鉢 口縁 1/4	床直	(9.6)	(2.7)	6.6	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
145	14	136	3	土師器ミニチュア鉢 底部 1/2 強～口縁 1/4	床 +1	(6.4)	(3.0)	4.5	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
145	15	136	30	土師器坩 底部完存～口縁 1/4	一括	(7.2)	2.5	4.4	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ミガキ。	
145	16	136	14	弥生甕　口縁部	床 +1				10YR6/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	外面頸部 4 段の輪積み痕。
145	17	136	12	土師器甕　口縁部	一括				7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ目、口縁部ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	
145	18	136	21	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇～口縁部 S 字結節文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
145	19	136	20	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部 S 字状結節文。 内　篦ナデ。	
145	20	136	18	弥生壺　胴部	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
145	21	136	16	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　沈線文の上位に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
145	22	136	17	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	微砂粒多	外　頸部羽状縄文。 内　器面剥離。	
146	1	137A	11	弥生甕 口縁 1/8	一括	(23.6)			10YR5/6 黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
146	2	137A	1	土師器甕 口縁 1/4 弱	一括	(16.4)			7.5YR5/6 明褐色	良好	1 ～ 2㎜大の小石多く含む	外　口縁部ナデ、他ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他ハケ後篦ナデ。	
146	3	137A	2	土師器甕 口縁 1/5	一括	(18.2)			10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他ハケ後ナデ。 内　口縁部ナデ。	
146	4	137A	12	弥生甕 口縁部 1/4 弱	一括	(17.4)			10YR3/2 黒褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
146	5	137A	3	土師器甕 口縁 1/8 強	一括	(19.0)			7.5YR5/6 明褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他ハケ。	
146	6	137A	17	弥生壺 口縁 1/8 弱	一括	(10.6)			7.5YR5/6 明褐～ 10YR6/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
146	7	137A	13	弥生甕 底部ほぼ完存	一括		5.6		10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
146	8	137A	4	土師器甕 底部 1/2	一括		4.4		10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5Y3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
146	9	137A	14	弥生甕 底部完存	床 +3		5.4		7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
146	10	137A	6	弥生高杯 脚部 1/4	一括		(9.0)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ、脚端部折り返し。 内　篦ナデ。	
146	11	137A	7	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(15.4)			10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
146	12	137A	18	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR5/8 明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
146	13	137A	20	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 7.5YR6/6 橙色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	1㎜大の黄褐色の粒含む	外　羽状縄文下にS字状結節文と山形文。 内　剥離激しい。	外面赤彩？
146	14	137A	21	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文下にS字状結節文。 内　剥離激しい。	外面S字状結節文下赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
146	15	137A	24	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　縄文と篦ナデ。 内　篦ナデ。	
148	1	141A	1	土師器甕 底部完存	カマド		9.8		7.5YR5/6 明褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	1 ～ 6㎜大の小石含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
148	2	141A	3	土師器甕 口縁 1/5	カマド	(16.6)			7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR4/4 褐色	良好	1㎜大の砂粒含む	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
148	3	141A	7	土師器坏 口縁 1/8 弱	一括	(13.4)			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
148	4	141A	2	土師器甕 ほぼ完存	カマド		8.6		10R5/6 赤色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
148	5	141A	6	土師器高坏 裾部全欠・脚部のみ	一括				5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
148	6	141A	11	弥生甕 底部完存	一括		5.8		5YR5/6 明赤褐 ～ 10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙～ 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
148	7	141A	18	手捏土器高坏？ 坏部 3/4 欠	一括		(2.0)		10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
148	8	141A	4	手捏土器鉢 底部ほぼ完存	一括		3.0		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
148	9	141A	5	手捏土器鉢 全体 1/4 強	一括	(4.8)	(4.0)	2.3	7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指ナデ。	
148	10	141A	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	1㎜大の小石多く含む	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面頸部 2 段の輪積み。
148	11	141A	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
148	12	141A	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文。 内　ハケ。	
148	13	141A	10	弥生甕　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　櫛描き文下に細縄文。 内　篦ナデ。	
148	14	141A	13	弥生甕　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色　2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 10YR6/6 明黄褐色	良好	1㎜大の粒多く含む	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	内面上部赤彩。
148	15	141A	12	弥生甕　胴部	一括				10YR6/6 明黄褐～ 2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線による山形文の周辺に平行沈線文、上位に細縄文。 内　篦ナデ。	
149	1	139	13	土師器甕 口縁～底部 1/2	一括	15.2	7.5	16.4	10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
149	2	139	5	弥生甕 口縁 1/8	床 +7	(16.4)			10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部篦ナデ。 内　口唇部端部付近を内傾に折り曲げる、頸部篦ナデ。	
149	3	139	19	土師器二重口縁壺 口縁 1/12	一括	(19.6)			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
149	4	139	3	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/8	一括	(14.8)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
149	5	139	18	土師器二重口縁壺 口縁 1/12	一括	(18.8)			10YR4/4 褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
149	6	139	2	弥生広口壺 口縁 1/6	床 +7	(13.4)			5YR4/6 赤褐色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文、端部に原体押捺、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面赤彩。
149	7	139	14	土師器壺 口縁～頸部 1/4 弱	一括	(15.0)			10YR5/3 黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
149	8	139	1	弥生壺 底部完存	床 +4		10.0		7.5YR6/4 にぶい橙色（無彩） 2.5YR3/6 暗赤褐色（赤彩）	良好	密	外　底部付近篦ケズリ、他篦ミガキ。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩。NO-25 と同一個体？

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
149	9	139	20	土師器高坏 口縁 1/4 弱	一括	(16.4)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
149	10	139	15	土師器鉢 全体 1/3	一括	(6.4)	(3.0)	4.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
149	11	139	21	土師器甕 底部完存	一括		4.4		2.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
149	12	139	17	弥生壺 底部 1/3	床 +10		(7.0)		2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
149	13	139	16	土師器台付甕 底部 1/8	一括		(12.0)		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後一部ナデ。	
149	14	139	4	弥生高坏 脚部 1/2	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
149	15	139	27	須恵器蓋 つまみ部分	一括				10Y5/1 灰色	良好	密	外　ナデ。 内　回転ナデと不整方向ナデ。	
149	16	139	28	須恵器坏 口縁 1/12	床 +18	(11.4)			10Y4/1 灰色	良好	密（白色粒含む）	外　自然釉付着、時計回転篦ケズリ。 内　ロクロナデ。	
149	17	139	7	弥生壺　口縁部	床 +13				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ（器面剥離激しい）	
149	18	139	24	弥生甕　口縁部	一括				7.5 ＹＲ 3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、櫛ガキ文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	
149	19	139	26	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR4/2 暗灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
149	20	139	22	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	
149	21	139	23	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口唇部指頭押捺文、口縁部ナデ。	
149	22	139	25	弥生甕　口縁部	一括				7.5 ＹＲ 3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他粗い篦ナデ。	
149	23	139	9	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	褐色粒含む	外　S 字状結節文下に細縄文。 内　篦ナデ？。	NO-25 と同一個体？
149	24	139	10	弥生壺　胴部	床 +9				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　沈線による幾何学文様帯内に細縄文、下位に S 字状結節文 内　篦ナデ。	
149	25	139	1’	弥生壺 1 の直上部分～底部完存	床 +7				7.5YR6/4 にぶい橙色（無彩） 2.5YR3/6 暗赤褐色（赤彩）	良好	密	外　沈線区画による山形文内に細縄文。S 字状結節文間に挟まれた範囲に細縄文による羽状縄文、施文後 4 連 1 組の棒状浮文を貼り付ける。	無紋帯赤彩。NO-8 と同一個体？
149	26	139	30	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ミガキ。	
149	27	139	29	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
150	1	140	2	土師器二重口縁壺 口縁 1/12	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
150	2	140	1	土師器甕 口縁 1/8	一括	(15.0)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
150	3	140	4	土師器坩 口縁 1/8	一括	(16.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
150	4	140	7	土師器甕 底部 1/4	一括		(6.7)		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
150	5	140	6	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
150	6	140	5	弥生甕　口縁部	一括				5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	
152	1	186	1	土師器甕 口縁～胴部 1/4 欠	床 +24	18.4	6.6	24.9	7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ（非常に丁寧）。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ（非常に丁寧）。	底部平らではなく不安定。
152	2	186	20	土師器坩 頸部～胴部 1/4	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
152	3	186	2	土師器甕 底部完存	床 +24		9.9		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	底部平らではなく不安定。
152	4	186	5	土師器甕 底部 4/5	床 +14		8.4		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
152	5	186	3	土師器甕 底部完存	床 +29		8.4		5YR4/6 赤褐色 7.5YR3/1 黒褐色（内黒）	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
152	6	186	17	小型短頸壺 口縁大半欠・ほぼ完形	床 +33	(6.3)	3.5	8.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。 丁寧に造られている割りに胎土の粗さが目立つ。
152	7	186	18	土師器小型甕 口縁～頸部 1/8	一括	(11.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
152	8	186	7	土師器坏 口縁 1/3 ～底部完存	床 -1	(15.6)		4.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
152	9	186	8	土師器坏 口縁 3/4・底部全欠	一括	15.0			2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
152	10	186	10	土師器高坏 坏部ほぼ完存・脚部全欠	床 +44	18.0			10R4/6 赤色	不良	砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
152	11	186	12	土師器高坏 口縁全欠・坏部 3/4	床 +31				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
152	12	186	14	土師器高坏 脚部のみ	床 +44				10R4/6 赤色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指掻き取り、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
152	13	186	11	土師器高坏 裾部 2/3 欠	床 +7		(11.0)		10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
152	14	186	13	土師器高坏 脚部のみ	床 +33				10R4/6 赤色 5YR3/3 暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
152	15	186	15	土師器高坏 柱状脚部のみ	一括				10R4/6 赤色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。前期高坏 153 号に伴う？。
153	1	183 185	2	土師器甕 口縁 2/3 欠	床直	18.6	6.0	23.8	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部ハケ後篦ミガキ。	内面胴部の一部にハケ残る。
153	2	183 185	1	土師器甕 口縁 1/2 ～底部完存	床直	17.6	5.8	22.9	7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ナデ、胴部ハケ後下端篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ下端篦ミガキ。	
153	3	183 185	3	土師器坩 底部欠	床直	12.1			10R3/6 暗赤色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	外面全面・口縁部内面赤彩。
153	4	183 185	4	土師器坩 ほぼ完形	床直	9.8		9.8	10R4/6 赤色 7.5YR4/2 灰褐色（胴部内面）	良好	密	外　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
153	5	183 185	5	土師器坩 ほぼ完形	床直	10.0	2.3	7.1	10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外赤彩。
153	6	183 185	6	土師器坩 口縁全欠・胴部 3/4	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面全面・口縁部内面赤彩。
153	7	183 185	9	土師器高坏 坏部下端のみ	床 +3				10R4/6 赤色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
153	8	183 185	12	土師器高坏 口縁 1/8	一括	(19.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	外面全面・内面杯部のみ赤彩。明らかに 186 号に伴う遺物。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
153	9	183 185	7	土師器坏 口縁 1/3	一括	（14.6）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
153	11	183 185	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇～口縁部ハケ後指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
153	12	183 185	18	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、ハケ状工具による櫛描き文。 内　ナデ。	
154	1	184	1	土師器甕 口縁 1/3	床直	（22.0）			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　ハケ後一部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後一部篦ナデ、頸部篦ナデ。	
154	2	184	5	土師器大坩 口縁完存	床直	12.4			2.5YR4/6 明赤褐色 2.5YR2/1 赤黒色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後一部篦ナデ後篦ミガキ。	胴部内面以外赤彩。
154	3	184	4	土師器小型壺 口縁 3/4	床 +2	11.1			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、頸～胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。	
154	4	184	2	土師器甕 底部完存	床直		7.1		10R5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
154	5	184	3	土師器坏 口縁 2/3	床直・一括	16.9		4.5	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
154	6	184	6	須恵器多孔甑 底部の一部	一括				5Y7/2 灰白色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	径 2.6cm程の円孔が 6 ヶ所に存在すると考えられる。
155	1	181	1	土師器甕 口縁 1/3	一括	（16.2）			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
155	2	181	3	土師器甕 底部 3/4	一括		6.2		10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
155	3	181	2	土師器甕 胴部 1/4 強	床 +3		5.2		7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
155	4	181	4	土師器器台 脚部 1/4	一括		（8.0）		10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
156	1	土壙 10	1	土師器甕 口縁 1/4	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
156	2	土壙 10	4	土師器坏 口縁 1/4	一括	（14.2）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
156	3	土壙 10	2	土師器ミニチュア壺 底部完存～口縁 1/4	一括	（6.8）	4.2	5.6	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部指ナデ。	
157	1	176A	1	土師器甕 口縁 5/6	床 +4	16.4			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	口縁部 5/6 以上存在するが接合出来ない。
157	2	176A	8	土師器甕（甑） 口縁 1/4	床 +2・+15	（17.2）			5YR4/4 にぶい赤褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面赤彩。
157	3	176A	19	土師器二重口縁壺 口縁 1/8 残	一括	（21.2）			5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
157	4	176A	23	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/12	一括	（18.4）			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ。 内　器面剥離激しい。	
157	5	176A	22	土師器壺 口縁 1/4	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
157	6	176A	10	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	（16.6）			2.5YR4/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
157	7	176A	4	土師器坏 口縁 1/4 ～底部 1/2 強	一括	（13.3）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。外面器面磨耗。
157	8	176A	5	土師器坏 口縁 1/4 欠	床 +10	13.6		5.3	10R4/6 赤色 5YR5/6 明赤褐色（外面無彩箇所）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
157	9	176A	11	土師器坏 口縁 1/4 強	一括	(15.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
157	10	176A	9	土師器坏 口縁 1/3	一括	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
157	11	176A	13	土師器坏 口縁 1/8	一括	(16.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
157	12	176A	3	土師器坏 口縁 3/4	床 +3	13.8		(6.3)	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。器面磨耗し赤彩のほとんどが飛ぶ。
157	13	176A	6	土師器坏 口縁 1/4	床 +4	(14.4)		(5.6)	10R4/6 赤色	良好	褐色粒多	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
157	14	176A	14	土師器坏 口縁 1/8	一括	(13.0)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	赤味がかるが赤彩ではない。
157	15	176A	25	土師器鉢 口縁 1/12	一括	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩であるが器面剥離し赤彩飛ぶ。
157	16	176A	7	土師器鉢 口縁部 1/4	床 +16	(10.0)		(5.5)	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
157	17	176A	26	土師器坩 口縁 1/8	一括	(9.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
157	18	176A	24	土師器台付甕 底部 1/6	一括		(10.8)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　脚端部ナデ、他ハケ後篦ナデ。 内　脚端部ナデ、他ハケ後篦ナデ。	
157	19	176A	20	土師器高坏 柱状脚部のみ・坏部 裾部全欠	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　粗い篦ナデ。	外面赤彩。
157	20	176A	21	土師器器台 or 台付甕 底部 1/2	床 +6 炉付近		5.6		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指ナデ。	
157	21	176A	29	土師器器台 底部 1/4	一括		(6.2)		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　器面磨耗。 内　指ナデ。	
157	22	176A	32	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、折り返し口縁部原体押捺。 内　篦ナデ。	
157	23	176A	31	弥生壺　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、折り返し口縁。 内　篦ナデ。	
157	24	176A	35	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺、折り返し口縁。 内　篦ミガキ。	
157	25	176A	34	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。	
157	26	176A	33	弥生壺　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 5YR1/6 赤褐色	良好	密	外　山形文と平行沈線文内に細縄文を充填。 内　篦ナデ。	
157	27	176A	44	須恵器甕　頸部	一括				5Y6/1 灰色	良好	1㎜大の白色粒含	外　回転ナデ。 内　回転ナデ。	
157	28	176A	41	須恵器甕　胴部	一括				5Y5/2 灰オリーブ色 5Y7/1 灰白色	良好	密	外　平行敲き後回転ナデ。 内　青海波を磨り消し。	
157	29	176A	42	須恵器甕　胴部	一括				5Y4/1 灰色 5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後指による回転ナデ、横方向のナデ明瞭。 内　青海波を磨り消し。	
158	1	176B	1	土師器甕 胴部上半 1/4	床 +1				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
158	2	176B	4	土師器台付甕 脚部 1/3	床 +7		(11.2)		2.5Y7/2 灰黄色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後一部篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
158	3	176B	3	弥生甕　胴部	床 +7				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　頸部原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
159	1	173	124	土師器甕 口縁3/4～胴部1/2弱	床+10	15.7			5YR4/4にぶい赤褐色	良好	5㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
159	2	173	1	土師器甕 口縁1/10～胴部1/2	土器群 +18・+27	(19.6)			10YR6/4にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
159	3	173	2	土師器甕 口縁1/4～胴部1/3	土器群+25 床+15	(22.2)			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
159	4	173	3	土師器甕 口縁1/2	床+26	15.4			7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
159	5	173	123	土師器甑 口縁1/2弱・底部1/4欠	床+19	26.4	9.0	24.4	5YR5/6明赤褐色	良好	2㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
159	6	173	18	土師器甑 口縁1/2～底部完存	床+18・+26	24.4	7.8	21.5	5YR6/8橙色	良好	茶褐色粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面とも輪積み痕明瞭に残る。
159	7	173	5	土師器甕 口縁5/6強	床+11・+31	17.0			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面、内面口縁部赤彩。
159	8	173	4	土師器甕 口縁1/2	一括	19.8			10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
159	9	173	12	土師器甕 口縁1/3	床+13	(15.4)			2.5YR3/8明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
159	10	173	24	土師器甕 口縁1/4弱	床+16・+34	(14.6)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。　内面輪積み痕あり。
159	11	173	25	土師器坩 口縁1/4	床+27	(10.0)			5YR5/6明赤褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
159	12	173	19	土師器甑 口縁1/8	床+25	(20.2)			7.5YR4/4褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　口唇部折り返し、ハケ後篦ナデ。 内　器面剥離激しい。	
159	13	173	26	土師器甑 底部1/3	床+18		(7.2)		7.5YR4/3褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
159	14	173	6	土師器甕 底部完存	床+9		7.0		2.5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ後雑な篦ミガキ。 内　ハケ後雑な篦ミガキ。	
159	15	173	63	土師器短頸壺 口縁1/2弱	床+22	(11.6)			7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
159	16	173	9	土師器短頸壺 口縁1/4	床+10	(14.6)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面中位より上、内面口縁部赤彩。
159	17	173	106	土師器短頸壺 胴部1/2弱	床+4	(11.7)			10R4/6赤色 10YR6/3にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面全体・口縁部赤彩。
159	18	173	129	土師器短頸壺 口縁1/4欠	床+15	10.0		7.8	10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	19	173	82	土師器塊 口縁2/3残	床+13	14.0			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	20	173	102	土師器短頸壺 口縁1/4強	一括	(10.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	21	173	101	土師器鉢 口縁1/4	床+18	(14.4)			10R4/6赤色	良好	2㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	22	173	100	土師器鉢 口縁1/4	床+16	(13.6)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリに近いナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	23	173	77	土師器坏 完形	床+3	13.6		6.0	10R5/8赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	24	173	127	土師器坏 口縁1/4欠	床+8	14.3		5.7	10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
159	25	173	78	土師器坏 口縁 1/4 欠	床 +11	13.9		5.8	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	26	173	89	土師器坏 底部完存～口縁 1/8	床 +14	(15.8)			10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。 内外赤彩の大半が飛び、地色が出る。
159	27	173	81	土師器坏 口縁 2/5 ～底部完存	床 +15	(13.4)		5.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後放射状暗文の篦ミガキ。	内外面赤彩。
159	28	173	126	土師器坏 底部完存～口縁 1/4	床 +12	(13.4)		7.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	29	173	93	土師器坏 口縁 1/4 強	床 +25	(15.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。内外面ともやや器面が摩耗している。
159	30	173	79	土師器坏 口縁 1/4 残	床直	(15.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	31	173	91	土師器坏 口縁 1/4 ～底部 1/2	床 +14				10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ一部ハケ残る。 内　口縁部ハケ後ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	32	173	86	土師器坏 口縁 1/3 強	床 +10	(14.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	33	173	83	土師器坏 口縁 1/2 弱	床 +27	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	34	173	90	土師器坏 口縁 1/3	床 +3・+10	(15.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	35	173	87	土師器坏 口縁 1/3	床 +23	(10.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
159	36	173	85	土師器坏 口縁 1/3	一括	(12.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後一部放射状暗文状の篦ミガキ。	内外面赤彩。
159	37	173	80	土師器坏 口縁 1/2 強・底部全欠	床直	15.0			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	38	173	84	土師器坏 口縁 1/3 残	一括	(15.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	39	173	76	土師器坏 口縁 1/4 強～底部	床 +2	(15.4)		5.8	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
159	40	173	128	土師器模倣坏 口縁 3/4 残・底部全欠	床 +19	14.8		(6.8)	10R4/6 赤色	良好	1㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部篦ナデ、体部篦ミガキ。	内外面赤彩。
159	41	173	31	須恵器坏身 口縁一部～受部～底部 1/4 強	床 +9	(9.8)		5.0	7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　体・底部は 1/2 以上を時計廻りの非常に丁寧な回転篦ケズリを施し、底部は平らに仕上げる。受部は鈍く水平に突出し、立ち上がりは 2㎝を計り、端部は丸く仕上げる。 内　丁寧なロクロナデ、底部付近はロクロナデ後不整方向の手持ちナデ仕上げ。	底部外面に篦記号あり。TK-216 併行。
159	42	173	30	須恵器坏 口縁 1/2 弱	床 +30	(10.8)		5.0	10Y5/1 灰色	良好 断面はセピア色	密	外　体・底部は 2/3 以上を時計廻りの非常に丁寧な回転篦ケズリを施し、底部は平らに仕上げる。受部は非常にシャープで外方へ突出する立ち上がりは 1.8㎝を計り、端部はわずかな凹面をなして内傾する。 内　非常に丁寧なロクロナデ、底部付近はロクロナデ後一方向の手持ちナデ仕上げ。	TK208 併行。
159	43	173	34	須恵器甕 口縁 1/12	一括	(20.0)			5Y5/1 灰色 2.5Y7/2 灰黄色	良好	密	外　ナデ、凹帯は比較的シャープ。 内　ナデ、自然釉付着。	内外面とも器面剥離激しい。
159	44	173	29	須恵器甕 肩部 1/4	床 +15・+19・+25				5GY5/1 オリーブ灰色 7.5Y6/1 灰色	良好	密	外　肩部に敲き痕。 内　頸部との接合部は指ナデ、一部に明瞭な指紋を残す。胴部は同心円文を丁寧に磨り消す。	外面は全面的に自然釉が付着する。
159	45	173	111	土師器高坏 脚部完存	床 +4		8.3		10R4/6 赤色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ケズリ。	外面赤彩。
159	46	173	114	土師器高坏 脚部 3/4	床 +10		10.6		10R4/6 赤色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。 内　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
159	47	173	115	土師器高坏 柱状部完存・裾部 3/4 欠	床 +13		(9.2)		10R4/6 赤色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
159	48	173	107	土師器高坏 脚柱状部完存	床 +5		12.0		10R4/6 赤色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り、篦ケズリ。	外面赤彩。
159	49	173	108	土師器高坏 口縁 1/3 ～胴部 1/2	床 +11・+17	(14.8)	10.0	9.0	10R4/6 赤色 10YR4/1 褐灰色（脚内面）	良好	密	外　口縁部ナデ、坏・脚部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ、脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面全面・坏部内面赤彩。
159	50	173	113	土師器高坏 脚部完存口縁～脚部裾部 1/4	床 +11・+26	(12.6)	(10.6)	9.6	10R4/6 赤色 5YR4/6 赤褐色（脚内面）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ケズリ。	外面全面・坏部内面赤彩。
159	53	173	130	手捏土器鉢 完形	床 +10	3.9	3.0	2.9	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	内面に輪積痕あり。
159	54	173	131	手捏土器鉢 底部完存～口縁 1/3	一括	(7.0)	3.6	4.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
159	56	173	58	須恵器甕　胴部	一括				7.5Y5/1 灰色 7.5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き。 内　同心円文を丁寧に磨り消す。	
159	57	173	59	須恵器甕　胴部	一括				5Y5/1 灰色 5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後ロクロ回転を利用したナデ。 内　同心円文を丁寧に磨り消す。	
160	1	177	7	土師器甕 口縁 1/2	床直　床 -1	17.0			10YR3/3 暗褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
160	2	177	8	土師器甑 口縁 1/6	床 +15 カマド	(25.0)			10YR3/2 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
160	3	177	9	土師器短頸壺 口縁 1/4 ～底部 1/2	床 +5 カマド	(13.2)	4.6	13.0	10YR4/6 赤色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面とも器面剥離激しい。 外面全面・内面口縁部赤彩。
160	4	177	22	土師器坩 口縁 1/8	一括	(17.6)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
160	5	177	16	土師器坩 底部 2/3 ～胴部 1/2 弱	床 -3		4.0		10R4/6 赤色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
160	6	177	25	土師器台付甕 脚部 1/4 弱残	一括				2.5Y8/2 灰白色 2.5YR6/3 にぶい黄色	良好	密	外　ハケ。 内　摩耗により不明。	
160	7	177	10	土師器鉢 口縁 1/3 欠	床 +15	13.7		7.8	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	5㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
160	8	177	12	土師器坏 口縁 1/3	カマド	(15.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。 内外面器面摩耗。
160	9	177	11	土師器坏 口縁 1/3 強～底部完存	床 +5	(15.6)		5.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
160	10	177	13	土師器坏 口縁 1/6	カマド	(15.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
160	11	177	14	土師器坏 口縁 1/4	一括	(11.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
160	12	177	2	土師器高坏 裾部一部欠（ほぼ完形）	カマド内	15.8	11.0	12.5	10R4/6 赤色 2.5YR5/8 明赤褐色（脚内面）	良好	密	外　篦ナデ。 内　坏部口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部指ナデ、裾部ナデ。	支脚転用高坏。外面全面・坏部内面赤彩。
160	13	177	3	土師器高坏 口縁 1/3 強～脚部全欠	床 +20	(14.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
160	14	177	1	土師器高坏 口縁一部～脚部全欠	床 +9	15.6			2.5YR3/4 暗赤褐色	良好	1 ～ 5㎜大の礫多	外　篦ナデ。 内　口縁ナデ、体部篦ナデ。	厚みがあり重量が重い。
160	15	177	4	土師器高坏 坏部・脚端部欠	床 +29				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指掻き取り後裾部付近篦ケズリ。	外面全面・坏部内面赤彩。
160	16	177	19	土師器器台 口縁 1/4	一括	(8.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
160	17	177	6	土師器高坏 坏部・脚端部欠	床直				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
160	18	177	5	土師器高坏 坏部・脚端部欠	床 +2				2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　筐ナデ。 内　ハケ後筐ケズリ。	外面赤彩。 坏部内面は器面剥離激しい。
161	1	172	9	土師器二重口縁壺 頸部～胴部上位 1/4	床 +15				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　頸部粗い筐ミガキ、胴部上半ハケ後筐ミガキ、中位ハケ後筐ナデ。 内　口縁～頸部筐ミガキ、胴部筐ナデ一部指押さえ。	
161	2	172	10	土師器二重口縁壺 口縁 1/12	一括	(20.0)			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部上位ハケ後筐ミガキ、下位筐ナデ。 内　口縁部上位ハケ後筐ナデ。	
161	3	172	7	土師器甕 口縁完存～胴部一部	床 +2 ・+7	15.0			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部筐ケズリ、胴部筐ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部一部筐ナデ後筐ミガキ、胴部筐ナデ。	
161	4	172	5	土師器甕 口縁 1/4	床 +12	(18.4)			10YR3/2 黒褐色 10YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後筐ナデ、胴部上位筐ミガキ、下位筐ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部筐ナデ。	
161	5	172	2	土師器甕 口縁部ほぼ完形	床 +5	7.2			7.5YR4/4 褐～3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後一部ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部筐ナデ後一部筐ミガキ。	
161	6	172	8	土師器甕 口縁 1/4	一括・床 +20	(19.4)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部粗い筐ナデ、胴部丁寧な筐ナデ。 内　筐ナデ。	
161	7	172	1	土師器台付甕 口縁 3/4 強　脚端部全欠	Pit 上	16.0			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ、頸部一部筐ナデ。 内　ハケ、胴部下部ハケ後筐ミガキ。	
161	8	172	6	土師器甕 口縁 1/2	Pit 上	16.6			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　ハケ後筐ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部筐ナデ。	
161	9	172	4	土師器甕 底部完存～胴部 1/2	床直 Pit 上		5.4		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　胴部筐ナデ、下端部粗い筐ケズリ。 内　胴部筐ナデ、下端部筐ミガキ。	
161	10	172	3	土師器甕 底部 1/3 胴部 3/4	床直		(5.0)		7.5YR2/2 黒褐色 7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　ハケ後筐ナデ。 内　筐ナデ。	内面は石膏が多く大半不明、輪積痕筐ナデなどが一部で確認出来る。
161	11	172	11	土師器坩 口縁 1/2 弱	一括	(8.6)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後筐ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部筐ナデ。	
161	12	172	15	土師器鉢 or 坩 口縁 1/2 弱	一括	(8.1)			10R4/4 褐色 2.5YR4/1 黄灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部筐ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部筐ナデ。	
161	13	172	16	土師器器台 口縁 1/3 強	一括	(8.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部筐ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部筐ミガキ。	
161	14	172	13	土師器鉢 口縁 1/4	一括	(13.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部筐ナデ。 内　口縁部ナデ、体部筐ナデ。	内外面赤彩。
161	15	172	22	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	全雲母含む	外　半截竹管を棒状工具による連続刺突文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
161	16	172	19	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文他ナデ。	
161	17	172	20	弥生鉢　口縁部	一括				10R6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　器面磨耗。	径 0.5cm程の穿孔 2 ヶ所。
161	18	172	21	弥生壺　胴部	一括				10R3/6 暗赤色 2.5YR2/2 極暗赤褐色	良好	密	外　平行沈線他筐ミガキ。 内　筐ナデ。	内面ややもろい。
162	1	175	1	土師器甕 底部 1/2 弱	床直		(9.4)		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　底部付近筐ケズリ、胴部筐ミガキ。 内　筐ナデ、やや器面摩耗。	
162	2	175	3	土師器高坏 脚部 1/2	一括		5.9		10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後筐ナデ。 内　筐ナデ。	
162	3	175	11	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
162	4	175	10	弥生壺　胴部	床直				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	1㎜大砂粒多	外　櫛ガキ文による平行沈線区画内に細縄文。 内　器面剥離、砂粒多。	
162	5	175	6	土師器坏　底部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　筐ケズリ。 内　筐ナデ。	底部外面人の字状の線刻。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
163	1	174	1	土師器甕 頸部1/5	一括	(17.4)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ケズリ。	
163	2	174	2	土師器器台 裾部全欠	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
165	1	170	4	土師器甑 全体1/2	床直	19.6			5YR5/6 明赤褐色	良好	1～2㎜の小石多く含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
165	2	170	1	土師器甕 口縁1/8 胴部～底部1/2強	床直				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　頸部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　頸部ナデ、胴部篦ナデ。	
165	3	170	2	土師器甕 口縁～頸部ほぼ完存	カマド	20.2			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
165	4	170	3	土師器甕 全体1/3	床直	(14.2)	7.0	14.7	7.5YR5/8 明褐色 2.5YR3/2 黒褐色	良好	砂含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
165	5	170	24	土師器甕 頸部1/8	一括				7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　胴部篦ナデ。 内　胴部篦ケズリ。	
165	6	170	9	土師器高坏 坏部全体1/2強	床直	(19.8)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
165	7	170	32	土師器高坏 脚部1/2	一括				7.5YR6/6 橙色（坏外・脚部内外面） 5YR5/6 明褐色（坏内面）	良好	密	外　篦ケズリ。　内　篦ナデ後篦ミガキ。（坏部） 外　篦ケズリ。　内　篦ケズリ。（脚部）	坏部外面小片の為単位不明。
165	8	170	8	土師器高坏 脚部ほぼ完存	床+5		(10.4)		7.5YR6/6 橙色（坏部内面・脚部外面）5YR5/6 明赤褐～10YR5/4 にぶい黄褐色（脚部内）	良好	密	外　裾部ナデ、他篦ケズリ。 内　裾部ナデ、他篦ケズリ。	
165	9	170	5	土師器坏 ほぼ完形	床直	14.2		4.6	10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
165	10	170	7	土師器坏 全体1/2強	床+1	14.8		4.2	10YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
165	11	170	6	土師器坏 ほぼ完形	カマド	13.0		3.8	7.5YR2/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
165	12	170	19	土師器坏 全体1/4	一括	(13.2)		3.8	7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
165	13	170	27	土師器坏 口縁1/8弱	一括	(14.4)			7.5YR2/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ。	外面小片の為単位不明。 内外面黒色処理。
165	14	170	29	土師器坏 口縁1/8弱	一括	(14.2)			7.5YR2/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。	外面小片の為単位不明。 内外面黒色処理。
165	15	170	20	土師器坏 口縁1/4弱	カマド	(13.2)			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
165	16	170	31	土師器坏 口縁1/8	一括	(16.0)			7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	外面小片の為単位不明。 内外面黒色処理。
165	17	170	21	土師器坏 全体1/8	一括	(11.4)			7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
165	18	170	12	須恵器坏（身） 完形	カマド	9.8		3.7	5Y6/1 灰色	良好	密	外　口縁～体部回転ナデ、底部時計廻りの回転篦ケズリ。 内　ロクロナデ、底部一方向の指ナデ。	
165	19	170	34	須恵器蓋 1/2弱	一括	(9.6)			7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　ロクロ整形、天井部外面手持ち篦ケズリ？ 内　ロクロナデ。	
165	20	170	35	須恵器蓋 全体1/8	一括				7.5Y6/1 灰色	良好	密	外　天井部付近時計廻りの回転篦ケズリ。 内　ロクロナデ。	
165	21	170	13	須恵器長頸壺蓋 口縁1/4	床+13	(7.0)			7.5YR5/3 灰オリーブ 5Y7/1 灰白色	良好	密	外　ロクロ仕上げ、うぐいす色の自然釉が厚く均等に付着。 内　ロクロナデ。	
165	22	170	33	須恵器高坏 or 高盤 脚基部1/4弱	一括				10Y4/1 灰色	不良	砂っぽい	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
165	23	170	38	須恵器蓋 天井部 1/4	一括				5B5/1 青灰色	良好	密	外　ロクロナデ、天井部と口縁部を分ける稜は比較的鋭い。 内　ロクロナデ。	
165	24	170	10	手捏土器鉢 口縁 1/4 欠	床 +9	5.3		3.2	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
165	25	170	16	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　口唇部下沈線文、平行沈線文間を磨り消し縄文。 内　器面剥離。	
165	26	170	17	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR2/1 黒色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂含む	外　平行沈線文。 内　器面剥離。	
166	1	169	7	土師器壺 口縁 1/12	一括	(23.4)			10YR4/2 灰黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、頸部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
166	2	169	3	土師器甕　底部完存	床 +25		7.0		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　器面磨耗。 内　器面磨耗。	
166	3	169	6	土師器高坏　裾部全欠	床直				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ケズリ。	外面赤彩。 脚の 3 方に穿孔。
166	4	169	5	土師器高坏 脚部 1/2・裾部全欠	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　指ナデ後一部ハケ。	外面赤彩。
166	5	169	4	土師器器台 脚部 1/4	一括		(14.2)		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。不留系 X 型器台。
166	6	169	16	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、ハケ後櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	
166	7	169	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
166	8	169	19	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
167	1	171	1	土師器甕 口縁 1/4	一括	(16.0)			10YR5/8 黄褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	砂含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面口縁～頸部赤彩。
167	2	171	3	土師器坏 口縁 1/8	一括	(15.8)			10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキによる放射状暗文。	内外面赤彩。
167	3	171	2	土師器坏 口縁 1/8 強	一括	(15.4)			10R4/6 赤色	良好	砂含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
167	4	171	4	土師器坏 口縁 1/8 弱	一括	(14.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
167	5	171	9	弥生壺 口縁 1/4 強	一括	(7.2)			5YR4/6 赤褐～ 10YR4/3 にぶい黄褐色　5YR5/6 明赤褐～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
167	6	171	8	弥生甕 底部 1/2 弱	一括		(5.5)		7.5YR5/6 明褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ケズリ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
167	7	171	16	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
167	8	171	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/4 褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部原体によるキザミ。 内　篦ナデ。	
167	9	171	14	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　折り返し口縁、棒状工具によるキザミ。	
167	10	171	15	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
167	11	171	7	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
167	12	171	20	弥生鉢　口縁部	171 炉内 -8				10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部羽状縄文他篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
167	13	171	10	弥生壺　頸部	一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　平行沈線区画外に細縄文。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
167	14	171	19	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	金雲母含む	外　口唇部肥大、沈線文を施す。 内　篦ナデ。	阿玉台式土器。
167	15	171	18	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　撚り糸文。 内　篦ナデ。	
168	1	157	8	土師器器台 底部 1/4 弱	一括		（11.8）		10R5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　指ナデ後ハケ。	脚の 3 方に穿孔。
168	2	157	3	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部に原体押捺他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
168	3	157	4	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁部に細縄文。 内　ナデ。	内面赤彩。
168	4	157	1	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	砂粒多	外　細縄文施文後に S 字状結節文。 内　ナデ。	
168	5	157	7	弥生鉢？口縁部	一括				10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文。 内　ナデ。	
168	6	157	5	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　原体による連続刺突文。 内　器面磨耗。	内外面赤彩。
168	7	157	6	弥生壺　頸部	一括				10R4/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　頸部平行沈線による文様帯 内　ナデ。	外面赤彩。
168	8	157	2	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　深線文による施文。 内　口縁部粘土紐貼り付け。	
169	1	155	1	弥生壺 口縁 1/5 残	一括	（19.2）			10R4/6 赤～ 7.5YR6/4 にぶい橙色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁に細縄文と原体押捺、頸部原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。 口縁部に 2 連一組の穿孔。
169	2	155	2	弥生甕 底部 1/4 強残	一括		（4.2）		7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
169	3	155	6	弥生甕　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後櫛描き文。 内　篦ナデ。	
170	1	154	1	土師器甕 胴部一部欠	床 +15	17.8	6.1	25.1	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部放射状暗文風の篦ミガキ。	
170	2	154	2	土師器甕 胴部一部欠	カマド	16.1	5.2	22.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
170	3	154	3	土師器甕 口縁 1/4 ～胴部一部欠	床 +15	18.0	（8.0）	21.5	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ後ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ後一部篦ミガキ。	
170	4	154	8	土師器甕 底部全欠	床 +24	16.2			5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
170	5	154	7	土師器甕 底部全欠	床直	15.8			10R4/6 赤～ 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁～胴部中位ナデ、胴部下位篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面胴部上位・内面口縁部赤彩。外面中位篦ケズリ後ナデ、非常に丁寧なナデで篦ケズリ痕を完全に磨り消す。
170	6	154	6	土師器甕 口縁 3/4 ～胴部中位	床 +14	（15.4）			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後一部ナデ、胴部ハケ後一部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
170	7	154	5	土師器直口壺 口縁完存	床直	15.0			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
170	8	154	9	土師器甕 底部全欠	カマド脇 +20	13.8			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
170	9	154	11	土師器甕 口縁完存	床直	15.8			5YR4/6 赤褐色	良好	3㎜大の礫多量に含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
170	10	154	4	土師器甕 口縁 1/2 弱～底部一部欠	床直	13.6		（15.0）	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	丸底か？

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
170	11	154	12	土師器甕 全体 2/3	床 -1	21.6	5.7	13.1	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部粗いハケ後篦ケズリ。 内　口唇部ナデ、口縁部粗いハケ、胴部篦ナデ。	外面一部輪積痕残る。
170	12	154	40	土師器小型甕 口縁 1/8	床 +9	(16.1)			10R4/6 赤色 7.5YR4/6 橙色	良好	密	外　器面剥離激しい。 内　器面剥離激しい。	外面に赤彩痕跡残る。
170	13	154	10	土師器甕 口縁 3/4	床 +14	13.8			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
170	14	154	37	土師器甕 底部 1/3	一括		(5.5)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　敲き。 内　篦ナデ。	
170	15	154	42	土師器甕 口縁 1/4	床 +15	(20.8)			10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	16	154	39	土師器短頸壺 口縁 1/4 弱	一括	(12.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	17	154	38	土師器短頸壺 口縁 1/4 弱	一括	(12.2)			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	18	154	62	土師器坏 口縁 3/4 欠	一括	15.2	5.0	5.2	10R4/6 赤～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁～体部篦ナデ、底部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面 1/2 赤彩。内面は赤彩による筆書状の十文字暗文。
170	19	154	63	土師器坏 全体 1/2 強	一括	16.7	3.4	5.6	10R4/6 赤～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、底部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面 2/3 赤彩。内面は赤彩による筆書状の十文字暗文。
170	20	154	13	土師器坏 口縁 1/3 欠	床 +20	14.5		6.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	21	154	15	土師器坏 口縁 1/2	床直	15.4		5.6	10YR5/4 にぶい黄褐～ 10R4/6 赤色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面の上位・内面全面赤彩。
170	22	154	16	土師器坏 口縁 1/4 欠	一括	15.6		5.1	10R3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	23	154	14	土師器坏 全体 1/2 弱	床 +10	(15.6)		6.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	24	154	57	土師器坏 口縁 1/4 ～底部完存	一括	(14.4)			10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	25	154	55	土師器坏 口縁 1/3	一括	(15.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	26	154	56	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(15.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	27	154	53	土師器坏 1/2 弱	一括	(17.6)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。 内　器面磨耗。	内外面赤彩。平底の坏、外面に一次整形のハケ痕が残る。
170	28	154	54	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
170	29	154	17	土師器高坏 脚全欠・口縁 5/6 欠	床 +10	(15.4)			10R3/6 暗赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
170	30	154	50	土師器高坏 脚柱状部のみ	一括				10YR4/6 赤色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り後篦ケズリ。	外面赤彩。
170	31	154	51	土師器高坏 脚部のみ	一括				10YR4/6 赤色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り後篦ナデ。	外面赤彩。
170	32	154	49	土師器高坏 裾部 1/3	床 +18		(12.0)		10R4/4 赤褐色 2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
170	33	154	19	須恵器甕 口縁～頸部 1/3	1 括	(18.0)			7.5Y6/1 灰色	良好	密	外　口縁部端部と頸部に断面三角形のにぶい凸帯を配し、頸部凸を挟んで櫛描き波状文が施される。肩部には格子目敲きを指ナデによって、磨り消した痕跡が認められる。 内　口唇部ロクロナデ、頸部篦ナデ一部に指圧痕残る。肩部に当具痕残るが、青海波は磨り消されている。	外面格子敲きが認められる事から古段階須恵器。1 型式 1 段階併行。TK85 小型甕 B 類に属するものと考えられる。186or187 号と接合。144 号土器と同一個体？

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
170	34	154	20	須恵器𤭯 口縁 1/3 欠	床直	8.7		11.3	5B4/1 暗青灰色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部～胴部上位ロクロ回転ナデ？胴部上位横方向篦ナデ、下位手持ち篦ナデ。 内　口縁部中位ロクロ回転ナデ？頸部手持ち篦ナデ、胴部内面不明。	口唇端部を丸く収め最大径は胴部におき、やや肩が張り、外面には何の文様帯も施さない。
170	35	154	18	須恵器無蓋高坏 口縁 3/4・脚部 1/4 弱	一括	(11.8)	7.8	8.3	5B4/1 暗青灰色 10Y5/1 灰色	良好	2㎜大の白色粒目立つ	外　口縁部ロクロ回転ナデ、体部の 2/3 以上の範囲に逆時計回転の回転篦ケズリ、脚部回転ナデ。 内　口唇部は内傾する弱い凹状をなす、坏部回転ナデ、底部一方向の手持ちナデ、脚内部回転ナデ。	脚の 3 方に径 0.5cm程の内孔。
170	36	154	66	須恵器𤭯 口縁 1/4 弱	一括	(9.6)			7.5Y4/1 灰色	良好	密	外　頸部櫛描き波状文の捲れが強い。 内　自然釉付着。	
170	37	154	21	渥美甕　口縁部	一括				2.5Y3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部自然釉付着、口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	12C 中～後葉。
170	38	154	64	須恵器甕　胴部	一括				7.5Y6/2 灰オリーブ 7.5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き。自然釉付着 内　青海波を丁寧に磨り消す。	
170	39	154	65	須恵器蓋 口縁部極一部	一括				7.5Y4/1 灰色	良好	密	外　回転篦ケズリ、ケズリ方向は時計回転。 内　回転ナデ。	
170	40	154	58	土師器坏　底部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内面赤彩。底部外面に十文字の線刻。
170	41	154	32	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部原体によるキザミ目，他ハケ。 内　ハケ。	
170	42	154	34	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
170	43	154	30	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
171	1	153	8	土師器甕 口縁 1/8	床直	(15.0)			2.5Y4/1 黄灰色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	
171	2	153	7	土師器甕 口縁 1/8	床 +2	(15.8)			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	
171	3	153	1	土師器高坏 脚部 1/4 強	一括		(10.5)		7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り後ハケ。	脚の 4 方に穿孔か？ 中心をやや外れた所に脚部と坏部をつなぐホゾ穴あり。
171	4	153	6	土師器甕 底部完存	床 +8		7.5		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ、やや器面剥離。	
171	5	153	12	弥生壺　頸部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　頸部外面凸帯上に棒状工具による連続刺突文、他篦ミガキ。 内　器面剥離。	
171	6	153	11	弥生甕　口縁部	床 +2				2.5Y6/2 灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
171	7	153	9	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部細縄文、端部に棒状工具によるキザミ状の連続刺突文。 内　篦ミガキ。	
171	8	153	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文。 内　篦ナデ。	
172	1	150	1	弥生壺 頸部 1/2 強	炉内火床密着				10YR6/4 にぶい黄橙～ 2.5YR4/4 にぶい赤褐色　2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の粒多含む	外　沈線区画の上に羽状縄文、下位篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面篦ミガキ部分赤彩。内面上部赤彩。
172	2	150	2	弥生壺 底部完存	一括		6.8		2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 7.5YR5/4 にぶい褐色　10R5/8 赤～ 10YR 4/3 にぶい黄褐色	良好	0.5㎜大粒多含む	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
172	3	150	20	土師器敲き甕 底部 1/4	一括		(5.6)		7.5YR6/6 橙 ～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	1 ～ 4㎜大茶褐色粒少含む	外　敲き後一部篦ナデ。 内　ハケ。	NO-18 と同一個体。
172	4	150	3	弥生甕 底部 1/2	一括		3.8		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
172	5	150	5	土師器坏 口縁 1/6	一括	(14.0)			10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口唇部外面沈線状の凹帯、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
172	6	150	4	土師器器台 口縁 1/4 弱	一括	(6.8)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
172	7	150	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5Y4/4 オリーブ褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、一部櫛描き波状文。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
172	8	150	7	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐～ 10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/6 黄 褐～ 2.5Y4/2 暗 灰 黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状のハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他条線状のハケ。	
172	9	150	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
172	10	150	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
172	11	150	12	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y5/4 黄褐色 2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ目。 内　篦ナデ。	
172	12	150	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
172	13	150	19	弥生甕　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
172	14	150	17	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/4 にぶい赤褐～ 7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線とＳ字状結節文による山形文内に細縄文。 内　篦ナデ。	
172	15	150	8	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁下位に原体押捺、他篦ミガキ。 内　口縁部ナデ。	
172	16	150	15	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
172	17	150	16	弥生壺　頸部	一括				2.5YR5/4 黄褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　頸部細縄文。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩。
172	18	150	21	土師器敲き甕　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 7.5YR5/6 明褐色	良好	1～4㎜大茶褐色粒少含む	外　敲き。 内　ハケ。	NO-3 と同一個体。
173	1	152	1	弥生甕 口縁 1/5 残	床直	(19.8)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部櫛描き波状文、胴部下位篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺文、他篦ナデ後篦ミガキ。	
173	2	152	14	弥生壺 頸部 1/3 残	床 +7・+14	(13.0)			7.5YR5/6 明褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　４方向に棒状工具によるキザミ目付の２本一組の隆帯を貼り付け、頸部に一条の隆帯を施し、他ハケ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
173	3	152	12	土師器甕 口縁部 1/5 残	一括	(16.4)			7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
173	4	152	4	弥生甕 底部 1/4 残	床 +14		(5.6)		10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
173	5	152	13	手捏土器鉢 底部完存口縁～胴部 1/2 強残	一括		1.6	3.6	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
173	6	152	3	弥生鉢 口縁部・底部全欠・胴部 1/5 欠	床 +6	(21.2)			5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部細縄文とＳ字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
173	7	152	5	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
173	8	152	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目。 内　折り返し口縁、他ハケ。	
173	9	152	6	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y4/2 暗灰色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
173	10	152	9	弥生壺　頸部	一括				10YR5/6 黄褐色 2.5Y5/3 黄褐色	良好	1.5㎜大の礫含む	外　頸部細縄文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
173	11	152	8	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	
173	12	152	10	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色 2.5Y2/3 オリーブ褐色	良好	密	外　細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
174	5	151	7	土師器甕 口縁 1/8	一括	(13.8)			7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ。 内　ナデ。	
174	6	151	4	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(9.0)			7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部上位篦ナデ、下位横方向の篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	ワイングラス型土器。
174	7	151	9	土師器高坏 脚部 1/2	一括				5YR4/5 にぶい赤褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面粗い赤彩。脚の 4 方に径 0.5cm程の焼成前穿孔。
174	8	151	3	土師器坏 口縁 1/4	一括	(13.5)			2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
174	9	151	10	土師器ミニチュア高坏 脚部のみ	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
174	10	151	5	土師器高坏 脚部のみ	一括				2.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
174	11	151	6	土師器高坏 脚部のみ	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　縦ナデ後横ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
174	12	151	8	手捏土器鉢 底部完存～口縁 1/2 弱	一括	(7.8)	7.0	3.4	5YR4/6 明赤褐色	良好	砂粒多	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	底部木葉痕あり。
174	13	151	18	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線による同心円。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
174	14	151	16	弥生壺　頸部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10R4/6 赤色（赤彩帯）	良好	密	外　頸部篦ミガキ赤彩帯を狭んで羽状縄文。 内　篦ナデ。	頸部に径 6mm程の焼成後穿孔。
174	15	151	17	弥生広口壺　胴部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　S 字状結節文。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
175	1	151	14	須恵器甕 頸部～口縁 1/8	一括	(17.2)			2.5Y6/1 黄灰色	良好	密	外　頸部外面に断面鋭い三角形の突帯 2 条、凸帯の上下に櫛描き波状文。 内　ナデ。	
175	2	151	1	土師器坏 口縁 1/2 弱～底部完存	土坑内	(14.1)		5.6	7.5YR5/4 にぶい褐色（一部無彩） 10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面 1/2・内面全面赤彩。　レベル記載なし。
175	3	151	12	土師器坩 口縁部完存	土坑内	10.5			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	レベル記載なし。
175	4	151	2	土師器坏 口縁 1/4	一括	(12.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	1	158	22	土師器甕 頸部～胴部中位 3/4	床直				7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
176	2	158	23	土師器甕 口縁～胴部 1/4	床直	(14.6)			10YR3/1 黒褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ、胴部篦ナデ。	
176	3	158	21	土師器甕 口縁 1/4	カマド一括	(21.0)			5YR4/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
176	4	158	28	土師器二重口縁壺 口縁 1/8	一括	(20.0)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ。（一部にハケ残る）	
176	5	158	1	土師器甕 底部完存	カマド		7.5		2.5YR5/6 明赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ケズリ。 内　ハケ後篦ナデ。	
176	6	158	20	土師器甕 底部完存	一括		6.4		7.5YR4/4 褐色 10YR3/3 暗褐色	良好	砂粒多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
176	7	158	27	土師器鉢 or 甑 口縁 1/4	一括	(21.2)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部粗いハケ後粗い篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
176	8	158	30	土師器鉢 口縁 1/4	一括	(18.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	9	158	14	土師器小型甕 胴部 1/3	床 +(2)				5YR4/4 褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面赤彩を施した痕跡が認められる。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
176	10	158	17	土師器小型壺 口縁 1/3	一括	(13.0)			10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
176	11	158	18	土師器坩 口縁 1/8	一括	(11.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、頸部篦ナデ。 内　口唇部ナデ、頸部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	12	158	15	土師器坩 口縁ほぼ完存・胴部 全欠	床 +(7)	10.1			10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、頸部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口唇部ナデ、頸部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	13	158	19	土師器坩 口縁 1/3	一括	(9.6)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部篦ナデ。	
176	14	158	13	土師器坩 口縁全欠・胴部完存	床 +14・-3				10YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ、肩部指押さえ。	
176	15	158	16	土師器坩 胴部 1/4	床直				10R4/6 赤～ 2/1 赤黒色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面胴部中位赤彩。
176	16	158	29	土師器片口鉢 ほぼ完形	一括	12.5		7.3	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。口唇部に片口状の窪みあり。
176	17	158	11	土師器鉢 口縁 1/4	一括	(13.6)			10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	18	158	33	土師器坏 口縁 1/3	一括	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	19	158	36	土師器坏 口縁～底部 1/3	床 +2	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	20	158	6	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.3)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	21	158	34	土師器坏 口縁 1/4	一括	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	22	158	5	土師器坏 口縁 1/4	一括	(13.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	23	158	35	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	24	158	31	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	25	158	32	土師器坏 口縁 1/4	一括	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	26	158	24	土師器高坏 口唇・脚端部 2/3 欠	一括	(14.4)	(9.1)	8.7	10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ナデ。	内外面赤彩。脚部内面までの赤彩は非常にめずらしい。
176	27	158	26	土師器高坏 口縁 1/6	床 +17	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
176	28	158	25	土師器高坏 坏部 1/4 ～脚部の一部	一括	(13.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ、脚部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ナデ。	外面全面・内面杯部赤彩。
176	29	158	10	土師器坏 口縁 1/8	一括	(14.0)			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁ナデ、体部篦ケズリ。 内　全面篦ミガキ。	内外黒色処理。溝に伴うと想定、他別個体 1 点あり。
176	30	158	12	土師器坏 口縁 1/12	一括	(14.1)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
176	31	158	2	土師器高坏 接合部・坏部・底部 1/4	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ。 内　坏部篦ミガキ。	
176	32	158	43	須恵器𤭯 口縁 1/12	一括	(8.4)			N-2 黒色 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	良好	密	外　櫛描き波状文、自然釉付着。 内　自然釉付着。	
176	33	158	47	須恵器蓋 天井部 1/3	一括				5Y5/1 灰色	良好	密	外　回転篦ケズリ、ケズリ方向時計回転、全体的に薄く丁寧でシャープな造り。 内　中央部手持ちナデ、外側に向って回転ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
176	34	158	42	須恵器高坏 脚部 1/12	一括		（11.4）		5Y3/1 オリーブ黒色 5Y5/1 灰色	良好	密	外　ロクロナデ、白色の自然釉薄く掛かる。 内　ロクロナデ、白色の自然釉薄く掛かる。	
176	35	158	9	円筒埴輪片 口縁 1/8	一括	（16.2）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　やや粗めのハケ。 内　ハケ後ナデ。	溝に伴うと想定。
176	36	158	37	土師器 S 字甕 口縁極一部	一括				10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
176	37	158	39	土師器坏　底部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。平底の坏、底部外面に線刻あり。
176	38	158	7	土師器坏　底部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　線刻あり。 内　線刻あり。	
176	39	158	38	土師器坏　底部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。底部外面に米印の線刻。
176	40	158	8	土師器坏　底部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　線刻あり。 内　線刻あり。	
176	41	158	40	土師器坏　底部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。底部外面に米印の線刻。
176	44	158	3	須恵器大甕 底部極一部	貯蔵穴内 -7				7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　横方向のナデ後不整方向のナデ。 内　横方向のナデ後不整方向のナデ。	指跡明瞭に残る。
176	45	158	41	須恵器蓋 天井部 1/8	一括				5Y4/1 灰色	良好	白色粒含む	外　回転篦ケズリ、ケズリ方向は時計回転。 内　ロクロナデ、天井部付近は一方向のナデ。	
177	1	156	6	土師器甑 口縁 1/12	一括	（19.2）			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
177	2	156	7	土師器甑 底部 1/8	一括		（9.6）		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
177	3	156	8	土師器甕 底部 1/2	一括		5.0		5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
177	4	156	31	土師器坏 口縁 1/6	一括	（15.4）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
177	5	156	33	土師器坏 口縁 1/4 残	一括	（14.6）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
177	6	156	2	手捏土器鉢 底部 1/2 ～口縁一部残	一括	（5.8）	3.6	2.85	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
177	7	156	1	土師器坩 底部 1/2	一括		3.4		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
177	8	156	3	手捏土器坩 胴部 1/2 弱	一括	（6.2）		（3.0）	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
177	9	156	15	弥生高坏 裾部 1/4 弱	一括		（9.3）		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　裾部折り返し、細縄文施文後原体押捺。 内　篦ナデ。	
177	10	156	27	須恵器蓋 口縁～稜部 1/12	一括	（12.2）			5Y5/1 灰色	良好	密	外　口縁部丁寧なロクロナデ。 内　口縁部丁寧なロクロナデ。	天井部自然釉、薄手造りで丁寧。
177	13	156	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による連続刺突文、他ハケ。 内　ハケ後ナデ。	
177	14	156	12	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	
177	15	156	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	
177	16	156	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
177	17	156	24	弥生壺　頸部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　頸部凸帯貼り付け後に棒状工具によるキザミ目、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
177	18	156	21	弥生壺　頸部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　頸部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
177	19	156	25	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　羽状縄文。 内　器面剥離激しい。	外面羽状縄文以外赤彩。
177	20	156	26	弥生壺　胴部	一括				10YR4/6 赤色	良好	密	外　S 字状結節文施文後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
177	21	156	23	弥生壺　胴部	一括				10R3/6 暗赤色	良好	密	外　S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
177	22	156	22	弥生壺　頸部	一括				10YR6/3 にぶい黄褐色	良好	2㎜大礫含む	外　頸部細縄文。 内　篦ナデ。	
177	23	156	20	弥生壺　頸部	一括				7.5YR6/3 褐色	良好	密	外　ハケ後 4 連以上の S 字状結節文後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
177	24	156	19	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
177	25	156	18	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
177	26	156	16	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ミガキ。	
177	27	156	17	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　ハケ。	内面輪積痕あり。
178	1	178	1	土師器甕 ほぼ完形	貯蔵穴内 -37	15.5	6.2	23.8	5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面とも器面剥離あり。 外面の一部には粘土と灰が付着している。（図赤範囲）
178	2	178	2	土師器甕 ほぼ完形	カマド内	15.7	7.2	25.4	7.5YR5/6 明褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
178	3	178	3	土師器甑 ほぼ完形	P2 内 -29	18.9	6.6	23.7	7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ、一部器面剥離。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。	柱抜き取り後投入？
178	4	178	18	須恵器𤭯 胴部極一部	一括				10Y3/1 オリーブ黒 5Y5/1 灰色	良好	白色粒含む	外　回転カキ目状の痕跡あり、指紋明瞭に残り歪、円孔付近に自然釉付着。櫛描き波状文が施文されるが、大半は自然釉により見えない。 内　ロクロナデ、円孔内面に自然釉付着、円孔径は推定 1cm。	
178	5	178	6	土師器坏 口縁 1/4	一括	（13.5）			5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。器面磨耗により赤彩とぶ。
178	6	178	4	土師器短頸壺 口縁 1/3	床 +5	（14.3）			10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
178	7	178	13	土師器鉢 口縁 1/3	一括	（11.1）			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
178	8	178	8	土師器坏 口縁 1/8	一括	（14.2）			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。器面磨耗により赤彩とぶ。
178	9	178	11	土師器高坏 坏部大半欠・脚部ほぼ完存	貯蔵穴内 -12		11.6		10R4/6 赤色 5YR6/6 橙色（脚内面）	良好	密	外　脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。 内　掻き取り後篦ケズリ、裾部ナデ。	外面脚部赤彩 内面坏部赤彩。
178	10	178	15	手捏土器鉢 ほぼ完形	貯蔵穴内 -36	2.8	2.4	2.3	7.5YR5/4 にぶい褐色	不良	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
178	11	178	14	手捏土器鉢 完形	貯蔵穴内 -36	2.6	3.0	2.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	不良	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
178	13	178	16	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	
178	14	178	17	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	不良	砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他器面磨耗。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
179	1	167	1	土師器甕 口縁 1/2 弱～胴部一部欠	床 +2 ～ +6 の間	21.9	9.1	32.3	10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部非常に丁寧な篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部非常に丁寧な篦ナデ。	須恵器模倣品。口唇部つまみ上がる。
179	2	167	23	土師器短頸壺 口縁 1/4 弱	床 -6	(9.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
179	3	167	18	土師器坏 口縁～底部 1/6	カマド一括	(18.4)		7.3	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
179	4	167	2	土師器坏 口縁一部欠	カマド一括	12.3		3.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。比企型坏、注記に 179 号カマドと記載されるが、179 号カマド図面内に見当たらない。誤注記と思われ 179 号には伴わない。165 号に伴う？
179	5	167	21	土師器坏 口縁 1/6	一括	(14.0)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
179	6	167	4	土師器坏 底部完存～口縁 1/4 弱	一括	(14.0)		5.3	10R4/6 赤色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
179	7	167	27	土師器坏 口縁 1/8	一括	(11.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
179	8	167	25	土師器坏 口縁 1/8 強	一括	(14.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
179	9	167	31	須恵器塊 口縁 1/10	一括	(13.0)			7.5Y 灰色	良好	密	外　口縁部丁寧なロクロナデ、2 条の突帯下位に櫛描き波状文を施し、突帯は 2 条とも非常にシャープ。 内　丁寧なロクロナデ。	
179	10	167	3	須恵器高坏 受部 1/2 弱 ～ 口縁 1/4 脚部全欠	一括	((10.3)			5Y7/1 灰白色	やや あまい	1㎜大の白色粒含む	外　底部ロクロケズリ後ロクロナデ、立ち上がりは内傾し端部は丸く仕上げる。 内　ロクロナデ、底部中央は一方向の手持ちナデ。	底部外面に残る 1.4 ㎝透かし幅より 4 方長方形透かしと考えられる。182 号 -25 と同一個体。
179	11	167	33	須恵器坏身 受部 1/12	一括				7.5Y6/1 灰色	良好	密	外　ロクロ篦ケズリ、ケズリの方向は時計回転、受部は横方向に水平に伸び端部は鈍い。 内　丁寧なロクロナデ。	
179	12	167	12	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
179	13	167	11	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	不良	微砂粒多	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、折り返し部に棒状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文。	
179	14	167	10	弥生甕　胴部	一括				7.5YR4/1 褐灰色	良好	密	外　櫛ガキ波状文。 内　篦ミガキ。	
180	1	168A	8	土師器坩 頸部 1/4	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
180	2	168A	10	土師器坩 口縁 1/8	一括	(11.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
180	3	168A	7	土師器坩 口縁 1/8	一括	(12.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
180	4	168A	6	土師器坩 底部 1/2 強	床直		2.4		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
180	5	168A	22	手捏土器鉢 口縁 1/4 欠	床直	8.0	4.4	3.6	10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　指ナデ、指整形。 内　篦ナデ。	
180	6	168A	16	土師器器台 坏部全欠	床直		11.4		10R4/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部ハケ後篦ナデ。	外面赤彩。
180	7	168A	20	土師器高坏 脚部 3/4 以上	床 +8		12.0		10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
180	8	168A	24	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部下端原体押捺。 内　篦ナデ。	
180	9	168A	28	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
180	10	168A	25	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
180	11	168A	26	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。	
180	12	168A	23	土師器庄内敲き甕底部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　敲き。 内　ハケ。	
181	1	168B	8	弥生甕 口縁 2/3 残 胴部一部欠・底部完存	床直	28.2	8.0	34.0	5YR4/8 赤褐色 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
181	2	168B	9	弥生甕 口縁 3/4 残 胴部一部欠・底部全欠	床直	33.2		(35.5)	5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁～頸部ハケ、胴部篦ミガキ。	
181	3	168B	11	弥生甕 口縁 1/4 強	一括	(24.2)			10YR6/4 にぶい黄橙～ 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
181	4	168B	3	土師器甕 口縁 1/8 弱	一括	(14.8)			2.5YR4/6 赤褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
181	5	168B	12	弥生甕 口縁 1/4 強	一括 床 +4	(14.0)			7.5YR5/6 明褐～ 2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	口唇部以外赤彩。
181	6	168B	7	弥生鉢 底部 1/2 弱	一括		(6.2)		10YR3/1 黒褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面底部に U 字形の抉り。
181	7	168B	5	弥生甕 底部 1/2 弱	一括		(6.0)		7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
181	8	168B	6	弥生甕 底部 1/4 弱	床 +10		(8.8)		10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐～ 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面器面剥離激しい。
181	9	168B	4	弥生壺 底部 1/4 強	床 +4	(5.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
181	10	168B	13	弥生壺 口縁 1/4 強	一括	(9.8)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文 8 段以上の S 字状結節文、口縁部下位原体押捺、他篦ミガキ。 内　口縁部篦ナデ、他篦ミガキ。	
181	11	168B	10	弥生壺 頸部～胴部 1/4 弱	床直				10YR5/4 にぶい黄褐～ 10YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　頸部突帯に原体押捺、突帯上位ハケ後篦ナデ、下部 8 段の S 字状結節文、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
181	12	168B	2	土師器坩 口縁 1/8	一括	(10.4)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
181	13	168B	44	弥生壺 口縁 1/8 弱	一括	(13.4)			5YR5/6 明赤褐～ 2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と棒状浮文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面口縁部以外赤彩。
181	14	168B	1	土師器高坏 脚裾部 1/4	一括		(9.8)		7.5YR5/6 明褐～ 10YR4/3 にぶい黄褐色　10YR5/6 黄褐～ 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　裾部ナデ、他篦ミガキ。 内　裾部ナデ、他ハケ。	
181	15	168B	15	弥生甕　口縁部	一括				10YR7/6 明黄褐色 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	
181	16	168B	30	弥生甕　口縁部	床直				5YR5/4 にぶい赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
181	17	168B	29	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
181	18	168B	28	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他篦ナデ、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
181	19	168B	18	弥生甕　口縁部	床直				10YR3/1 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
181	20	168B	20	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
181	21	168B	22	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
181	22	168B	16	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
181	23	168B	21	弥生甕　口縁部	床 +9				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	
181	24	168B	19	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
181	25	168B	34	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/8 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
181	26	168B	32	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
181	27	168B	33	弥生甕　口縁部	注記なし				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
181	28	168B	17	弥生甕　口縁部	床直				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
181	29	168B	36	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR4/4 にぶい赤褐～10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇～口縁部に細縄文と原体押捺。 内　篦ナデ。	
181	30	168B	39	弥生壺　口縁部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文とＳ字状結節文を施し、２連の円形浮文を貼り付ける、口縁部下部原体押捺。 内　篦ナデ。	
181	31	168B	42	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁下部原体押捺。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
181	32	168B	41	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/3 にぶい赤褐～7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　原体押捺、他篦ミガキ 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
181	33	168B	27	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	
181	34	168B	37	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐～10R4/8 赤色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文以外篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
181	35	168B	38	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　細縄文、他篦ミガキ。 内　粗い篦ナデ。	
181	36	168B	24	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ナデ。	
182	1	166	1	土師器甕 口縁 1/3 強	床 +9	(18.6)			7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR4/4 褐色	良好	1㎜大砂粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
182	2	166	2	土師器甑 口縁～胴部 1/8	床 +23	(26.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
182	3	166	26	須恵器甕　胴部	床直				10Y4/2 オリーブ灰色 5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き間に３条以上の横ナデ、大半に自然釉付着。 内　頸部ロクロナデ、胴部内面青海波を丁寧なナデで磨り消す。	
182	4	166	6	土師器小型甕 口縁 1/3	床 +13	(10.0)			5YR4/4 褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
182	5	166	5	土師器甕 底部完存	カマド上 +28		5.0		5YR3/2 暗赤褐色 5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
182	6	166	31	土師器Ｓ字甕 口縁 1/8 残	一括	(12.3)			2.5YR6/3 にぶい黄色	良好	密	外　ハケ。 内　ナデ。	
182	7	166	9	土師器坏 口縁一部欠	床直	14.4		5.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	8	166	7	土師器坏 口縁 1/3 欠	カマド粘土上	15.8		5.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ、底部付近器面剥離激しい。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	9	166	13	土師器坏 全体 1/4 強	床 +10	(13.6)	(1.6)	5.9	2.5YR5/6 明赤褐色	やや不良	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。平底。（撹乱の上 -4）
182	10	166	12	土師器坏 口縁 1/3 強	一括	(16.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。内面一部摩耗。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
182	11	166	8	土師器坏 口縁一部欠	床直	14.2		5.2	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	12	166	11	土師器坏 底部 1/2 強～口縁 1/4	床直	(14.5)		4.2	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、底部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	13	166	10	土師器坏 口縁 1/3 欠	床 +12	11.4		4.2	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	14	166	18	土師器坏 口縁 1/4	一括	(12.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	15	166	16	土師器坏 口縁 1/4	床直	(13.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	16	166	14	土師器坏 口縁 1/4	床直	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	17	166	19	土師器坏 口縁 1/4	一括	(15.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	18	166	22	土師器坏 口縁 1/4 弱	カマド一括	(15.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	19	166	17	土師器坏 口縁 1/3	床 +7	(12.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	20	166	20	土師器坏 口縁 1/4 強	179 号一括 床直	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部付近器面剥離激しい、中～底部篦ナデ。 内　篦ナデ後放射状暗文。	内外面赤彩。
182	21	166	23	土師器高坏 坏部完存・脚部全欠	床直	14.6			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
182	22	166	41	須恵器蓋 口縁 1/3 ～天井部 3/4	床 +9	(12.2)			5Y5/1 灰色 10R6/4 にぶい黄橙色	やや不良	密	外　天井部と口縁部を分ける稜は比較的鋭くシャープ、天井部の 2/3 以上に時計廻りの回転篦ケズリ、天部は一方向の手持ち篦ケズリ、口唇端部はわずかに内傾し弱い段をなす。 内　ロクロナデ、天部は一方向の手持ちナデ。	内面の焼成不良の為色調が褐色味をおびる。
182	23	166	27	須恵器蓋 口縁 1/16 ～天井部 1/6	一括	(11.5)			7.5Y5/2 灰オリーブ色 5Y5/1 灰色	良好	密	外　体部に 2 度以上の回転篦ケズリを施し、口唇端部は弱い凹帯を持ち体部と天井部を分ける稜は短いが比較的鋭くシャープ、天井部自然釉付着により篦ケズリ幅等不明。 内　体部ロクロナデ、天井部付近一方向の不揃いな手持ちナデ。	
182	24	166	30	須恵器坏蓋 全体 1/16	一括	(12.4)			2.5YR6/2 灰黄色	良好	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	誤差大。
182	25	166	29	須恵器高坏 受部 1/2 弱～口縁 1/4 脚部全欠	一括	((10.3)			5Y7/1 灰白色	やややまい	1㎜大の白色粒含む	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	底部外面に残る 1.4cm透かし幅より、4 方長方形透かしと考えられる。 179 号 -10 と同一個体。
183	1	257A	1	土師器甕 口縁 1/8	一括	(25.0)			7.5YR4/3 褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
183	2	257A	3	土師器甕 底部 1/2 弱	一括		(11.8)		2.5YR4/6 赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
183	3	257A	2	土師器甕 底部完存	一括		4.6		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
184	1	257B	2	土師器甕 1/4 弱	一括	(13.2)			7.5YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁ナデ　頸部ハケ。 内　口縁ナデ　頸部ハケ。	
184	2	257B	1	土師器鉢 1/2 弱	一括	(10.9)		8.2	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁ナデ　体部篦ケズリ。 内　口縁ナデ　体部篦ナデ。	
184	3	257B	3	土師器壺 底部 1/4 弱	一括		(8.0)		外　5YR4/6 赤褐色 内　10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ。	外面赤彩。　底部木葉痕。
184	4	257B	4	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/4 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文。 内　篦ナデ。	
184	5	257B	6	須恵器甕 口縁 1/16	一括	(26.4)			外　10Y3/1 オリーブ黒色 内　10Y4/1 灰色	良好	密 （非常にきめ細かい）	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	中型甕 D 類に属し陶邑古段階に比定される 1-1 ～ 1-2 段階。 断面セピア色よく焼けている。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
184	6	257B	5	須恵器蹟　胴部	一括				外　10Y5/1 灰色 内　10Y4/1 灰色	良好	密	外　回転カキ目施文後円孔の上部に櫛描き波状文。 内　指ナデ。	
186	1	118A	4	土師器鉢 ほぼ完形	床直	11.4		8.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
186	2	118A	5	土師器鉢 口縁 1/12	床直	(15.4)			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部放射状暗文風の篦ミガキ。	内外面赤彩。
186	3	118A	1	土師器甕 ほぼ完存	床直	15.8		19.8	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ一部篦ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、底部篦ミガキ。	外面胴部中位まで、内面全面薄く粗い赤彩。 丸底。
186	4	118A	3	土師器甕 口縁 1/4	床直	(17.7)			5YR5/6 明赤褐色	良好	5㎜大褐色粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
186	5	118A	2	土師器甕 底部完存	床 +19		5.8		5YR4/6 赤褐色 7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
186	6	118A	8	手捏土器鉢 口縁 1/2	カマド一括	3.5		2.0	10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	外面赤彩。
186	7	118A	16	手捏土器鉢 口縁 1/4 ～底部完存	カマド一括	(2.5)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
187	1	118B	2	土師器甕 口縁 1/4	一括	(17.8)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
187	2	118B	1	土師器坏 底部完存～口縁 1/2	一括	14.6			2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色（外面底部）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面底部のぞき内外面赤彩。
188	1	117	9	土師器甕 口縁 1/3 強	床直・床 +9	(18.4)			10YR4/2 灰黄褐色	良好	1㎜大砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
188	2	117	1	土師器壺 口縁 1/4 ～底部 1/2	床直	(14.1)	(7.0)	(27.9)	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ミガキ、底部篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ、大半石膏により不明。	外面口縁部面取り。 器高については胴部が無理なくつながるラインにて復元。
188	3	117	10	土師器 S 字甕 口縁 1/4 弱残	一括	(13.0)			10YR6/3 にぶい黄橙色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　ハケ。 内　指ナデ。	
188	4	117	6	土師器甕 底部完存	床 +7		6.0		5YR4/6 赤褐色 5YR3/1 黒褐色	良好	砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
188	5	117	3	土師器壺 底部 4/5 ～胴部 2/3	床 +3		5.0		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
188	6	117	17	土師器台付坩 坩部 2/3・脚部全欠	床 +6	(10.4)			10R4/6 赤色 5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	外面全面・内面口縁部のみ赤彩。 底部にホゾがあることから台付坩と考えられる。
188	7	117	8	土師器小型甕 底部全欠	床直	10.8	(3.0)	(10.8)	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂粒含む	外　口縁部ナデ、頸～胴部粗いハケ。 内　口縁部粗いハケ、胴部篦ナデ。	
188	8	117	2	土師器壺 底部完存～胴部 2/3・口縁部全欠	床直・床 +4		8.4		10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　胴部中位ハケ後篦ミガキ、底部篦ケズリ後篦ナデ。 内　不明（石膏）篦ナデ？	底部木葉痕あり。
188	9	117	5	土師器坏 底部 2/3	床 -1	(14.8)	5.4	(5.5)	7.5YR6/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
188	10	117	7	土師器鉢 底部完存～口縁 1/8 強	床直	(16.0)	5.4	8.4	2.5Y4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後 3 ～ 4 本 1 組の放射状暗文、底部付近器面剥離激しい。	内外面赤彩。
188	11	117	11	土師器坩 胴部 1/4 ～口縁 1/8	床 +6	(13.0)		6.7	7.5YR4/4 褐色 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ミガキ、胴部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後一部篦ミガキ、胴部篦ミガキ。	
189	1	108	1	土師器甕 口縁・胴部の一部欠	床直・カマド	19.4	6.4	29.6	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
189	2	108	12	土師器甑 口縁 1/4	床 +25	28.8			10YR7/6 明黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
189	3	108	13	土師器甕 口縁 1/4	床 +5	(15.6)			5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面赤彩？

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
189	4	108	14	土師器甕 口縁1/8	一括	(16.8)			2.5Y3/1黒褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内面輪積み痕あり。
189	5	108	15	手捏土器鉢 口縁部欠	一括		1.4	(2.5)	10R5/6赤色 5YR6/6橙色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	外面赤彩。
189	6	108	19	土師器坏 口縁1/5	一括	(14.8)		(3.7)	2.5YR5/6赤褐色 2.5YR4/2灰赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
189	7	108	18	土師器坏 口縁1/4	一括	(17.0)			2.5YR5/6赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
189	8	108	7	土師器坏 口縁1/4欠	床直	12.0	4.5	3.5	10YR2/1黒色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ミガキ、体部篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁～体部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面黒色処理。
189	9	108	23	土師器甕 底部完存～胴部の一部	一括		3.6		7.5YR6/6橙色 5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
189	10	108	6	土師器鉢 底部完存・口縁3/4欠	床+7	14.2	5.3	6.0	7.5YR6/6橙色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。輪積み明瞭。
189	11	108	17	土師器坏 口縁1/4	一括	15.8			2.5YR5/4にぶい橙色 10R5/4赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
189	12	108	26	須恵器蓋 全体1/4弱	一括	(10.8)		4.1	7.5Y6/1灰色 7.5Y5/1灰色	良好	密	外　天井部2/3以上丁寧な回転篦ケズリ、天井部ほぼ全域に自然釉、ケズリ幅は狭く丁寧、稜は鋭くシャープ、自然釉付着。 内　回転ナデ天井部中央付近は指ナデ。	外面口唇部に弱い段状の面取り。
189	13	108	25	須恵器坏身 口縁1/16	一括				7.5Y5/1灰色	良好	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ。	小片の為口径、傾き等異差大。
189	14	108	4	須恵器坏 口縁1/5	カマド	(8.6)			10Y5/1灰色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　ロクロ整形底部、回転篦ケズリ。 内　ロクロナデ。	全体的にシャープ。陶邑産？
189	15	108	2	須恵器坏 口縁1/4欠	床+28	9.2		4.0	5GY5/1オリーブ灰色	良好	多孔質 （地方窯）	外　時計回転篦ケズリ後さらに底部を不整方向に篦ケズリ。 内　ロクロナデ。	湖西産。
189	16	108	3	須恵器坏 口縁1/4～底部1/2	一括	(10.2)		4.0	5Y6/1灰色 7.5YR5/3にぶい褐色	良好	密	外　ロクロ整形、底部回転篦ケズリ、ケズリ方向逆時計回転。 内　ロクロナデ。	全体的にシャープ、特に口縁部は薄手の造りである。
189	17	108	5	須恵器𤭯 胴部極一部	一括				7.5Y3/1オリーブ黒色 7.5Y4/1灰色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ロクロ。	外面想定孔1.0cm。
189	18	108	8	土師器高坏 坏部下端完存～口縁1/6	床+30	(15.6)			5YR6/8橙色 5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ、脚部篦ケズリ、裾部ナデ。 内　口縁部ナデ後一部篦ミガキ、体部篦ケズリ、脚部篦ナデ、裾部ナデ。	
189	19	108	21	土師器高坏 口縁1/4	一括	(18.6)			10R3/4暗赤色	良好	砂粒含む	外　坏部ナデ、底部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
189	20	108	20	土師器高坏 脚部1/2～坏部下端の一部	一括		(5.6)	(7.2)	7.5YR7/8黄橙色 10R5/6赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部指による掻き取り。	外面全面・内面坏部のみ赤彩（粘土・灰付着）。
189	21	108	22	土師器高坏 坏部下端1/2弱～口縁全欠	一括	(20.0)		(3.5)	5YR5/6明赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	小石含む	外　坏部上端部篦ナデ、下端部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
189	22	108	34	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/8明赤褐色 2.5YR5/8明赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	加曽利B式土器。
189	23	108	36	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/6明黄褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　平行沈線による円形文。 内　ナデ。	加曽利B式土器。
189	24	108	16	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/6明黄褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　平行沈線による円形文。 内　ナデ。	加曽利B式土器。
189	25	108	33	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6橙色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　櫛状工具による平行沈線文。 内　剥離。	加曽利B式土器。
189	26	108	32	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/8橙色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	加曽利B式土器。
189	27	108	35	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文間に縄文。 内　ナデ。	加曽利B式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
190	1	110	10	土師器甕 底部 3/4 ～口縁 1/4	カマド右脇 pit 内 -43	（19.0）	8.0	26.0	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
190	2	110	17	土師器甕 口縁 1/4 弱	床 +6	（20.6）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ。	
190	3	110	18	土師器甕 口縁 1/2 弱	カマド上 +1	（18.2）			2.5YR4/6 赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
190	4	110	12	土師器短頸壺 口縁 3/4 ～底部全欠	カマド上 +1 床 +1	17.3			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩、外面は赤彩ほとんど飛ぶ。
190	5	110	11	土師器鉢 口縁 2/3 ～底部極一部	カマド上 +1	18.8	（5.7）	12.6	7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面口縁部に明瞭な輪積み痕あり。
190	6	110	20	土師器甕 底部完存	一括		6.4		7.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
190	7	110	14	土師器坏 口縁一部欠	pit 内 -43 （貯蔵穴内）	13.7	4.8	5.3	2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	赤味がかるが、赤彩ではない。平底の坏。
190	8	110	15	土師器坏 口縁 1/2 ～底部完存	床直	16.0		4.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
190	9	110	16	土師器坏 口縁 1/4 強	床 +26				10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。 模倣坏レベル壁際の床から 26cm上なので、本遺構には伴わない。
190	10	110	21	土師器蓋 ほぼ完形	貯蔵穴内一括	8.8		3.3	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、天井部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、天井部篦ナデ。	内外面赤彩。乳頭状のつまみ。
190	11	110	3	土師器高坏 口縁・裾一部欠	カマド上 +1	16.2	12.7	10.0	2.5YR4/6 赤褐色（赤彩） 2.5YR4/8 赤褐色（脚内面）	良好	密	外　口縁部ナデ、坏～胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、坏裾部篦ナデ、脚内面篦ケズリ。	外面全面・内面坏部まで赤彩。 和泉末期の高坏。
190	12	110	8	土師器高坏 裾部 1/4	カマド一括		（13.9）		10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
190	13	110	5	土師器高坏 口縁 1/4 弱～坏底部	カマド脇	（18.2）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
190	14	110	2	土師器高坏 口縁 3/4	pit 内 -5	17.7			10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
190	15	110	1	土師器高坏 坏部完存	カマド上 +1	18.2			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
190	16	110	6	土師器高坏 口縁 1/2	カマド +2 カマド上 +1	18.4			10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
190	17	110	4	土師器高坏 脚部ほぼ完存	カマド		12.7		10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　脚部篦ナデ。 内　裾部篦ナデ、脚部内面篦ケズリ。	外面赤彩。
190	18	110	7	土師器高坏 脚部完存～裾部 1/6	一括		（14.0）		10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　脚部篦ケズリ、裾部ナデ。	外面赤彩。
190	19	110	9	土師器高坏 脚部のみ	床直				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　摩耗激しく不明。 内　指掻き取り、裾部ナデ。	外面赤彩。
190	20	110	27	弥生（中期？）深鉢？ 口縁	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部単節縄文、口縁部Ｓ字状結節文から斜縄文。 内　篦ナデ、やや剥離激しい。	NO-21 と同一個体。
190	21	110	26	弥生（中期？）深鉢？ 口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部単節縄文、口縁部Ｓ字状結節文から斜縄文。 内　篦ナデ、やや剥離激しい。	NO-20 と同一個体。
190	22	110	33	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　折り返し口縁に山形文状のキザミ目、他平行沈線文。 内　ナデ。	弥生中期。
190	23	110	30	弥生深鉢？　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と単節縄文。 内　器面剥離激しい。	
190	24	110	32	弥生壷？　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大礫多	外　羽状縄文？ 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
190	25	110	31	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/4 褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
190	26	110	35	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　縄文。 内　器面剥離。	
190	27	110	29	縄文深鉢？　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　S 字状結節文風の縄文。 内　ナデ。	
190	28	110	28	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部文様帯間に縄文。 内　篦ミガキ。	
190	29	110	34	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　櫛状工具による平行沈線文。 内　ナデ。	
192	1	116	6	土師器甕 底部完存	床 +15		9.0		7.5YR3/4 暗褐色	良好	砂粒多	外　ハケ、底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
192	2	116	2	土師器高坏 坏部 1/2 強	床 +3	17.8			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部指ナデ。	
192	3	116	1	土師器高坏 坏部 1/2 弱	床 +19	(11.6)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
192	4	116	3	土師器高坏 脚部 1/3	一括		(12.0)		2.5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。脚の 3 方に穿孔。
192	5	116	5	弥生壺 口縁一部残　胴部・底部完存	一括	(7.0)	5.5	15.6	10R4/8 赤色	良好	密	外　頸～胴部上位にかけて平行沈線区画内の 4 ヶ所に細縄文、4 ヶ所に縦方向の篦ミガキ、他横篦ミガキ。 内　詳細不明。	外面施文以外・内面口縁部赤彩。
192	6	116	8	弥生甕 底部完存	床 +19		6.6		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1mm大白色粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
192	7	116	10	土師器甕 底部完存	床 +15		4.0		7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
192	8	116	9	土師器甕 底部完存	一括		3.0		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
192	9	116	4	土師器鉢 底部 3/4～口縁 1/4	一括	(9.8)	4.0	6.5	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
192	10	116	7	土師器壺　口縁部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部にハケ状工具によるキザミ目、他ハケ後ナデ。 内　篦ナデ。	
192	11	116	11	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁に羽状縄文、沈線区画と原体押捺間に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。内面器面一部剥離。
192	12	116	15	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/3 暗赤褐色	良好	密	外　沈線区画内細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
192	13	116	13	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　S 字状結節文とハケ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
192	14	116	12	弥生甕　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ハケ。	北関東系土器。
192	15	116	14	弥生壺　胴部	床 +12				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後 6 連の S 字状結節文。 内　指ナデ。	
193	1	112	1	弥生甕 口縁 1/2 弱欠	床 +14	(24.6)	(6.8)	31.3	10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。底部付近一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	底部 1.4 ～ 1.0cmの焼成後穿孔
193	2	112	2	弥生甕 全体 1/4 強	床 +17	(16.8)	6.4	17.5	2.5YR5/6 明 赤 褐 ～ 7.5YR4/1 褐灰色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
193	3	112	5	弥生甕 底部 1/2	炉 -7		5.0		5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
193	4	112	25	弥生台付埦 口縁全欠	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
193	5	112	24	土師器坩？ 底部完存	一括		5.0		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面輪積み部分に歪みあり。
193	6	112	3	弥生甕 底部完存	床 +7		7.2		10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
193	7	112	4	弥生甕 底部完存	床 +17		6.4		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
193	8	112	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
193	9	112	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の褐色粒含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	
193	10	112	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
193	11	112	9	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁下端部原体押捺と羽状縄文。 内　篦ナデ。	折り返し口縁部以外内外面赤彩。
193	12	112	8	弥生壺　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文。 内　ナデ。	内面赤彩。
193	13	112	19	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
193	14	112	7	弥生壺　胴部	一括				2.5Y4/2 暗灰黄色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	1 ～ 3㎜大の小石含む	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
193	15	112	6	弥生壺　胴部	一括				10R4/4 赤褐～ 7.5YR5/6 明褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　細縄文による文様帯間は篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
193	16	112	12	弥生甕　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ハケ後篦ナデ。	
193	17	112	11	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐～ 10YR6/4 にぶい黄橙色　7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
193	18	112	18	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線と単節縄文。 内　器面剥離。	加曽利 E 式土器。
194	1	104	1	弥生坩 口縁～胴部 2/3 残・底部全欠	床直	(24.4)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面頸部一段の輪積みあり。
194	2	104	3	弥生甕 口縁一部　胴部 3/4・底部 1/2 残	床直	(16.2)	7.0	16.8	2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	微砂粒多	外　頸部に連続キザミ、他篦ナデ。 内　石膏が被吸してよく見えない、一部篦ミガキ。	頸部に 5 段以上の輪積み痕あり。
194	3	104	4	弥生高坏 坏部 1/2 残	床 +20	19.8			5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
194	4	104	7	弥生壺 口縁 1/4 弱残	床 +20	(24.4)			10R4/4 赤褐～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と棒状工具によるキザミ目、頸部棒状工具によるキザミ目、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
194	5	104	8	弥生壺 頸部ほぼ完存	床直				7.5R4/6 赤色	良好	1㎜大の礫多量に含む	外　篦ミガキ、他剥離激しい。 内　剥離激しい。	外面赤彩。頸部外面に不規則な円形竹管を施した、円形浮文を連続的に施す。内面剥離激しいが残存部に赤彩が施される。
194	6	104	2	弥生壺 口縁全欠・胴部ほぼ完存　底部完存	床直		7.4		7.5R4/6 赤色 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。外面摩耗激しい。
194	7	104	6	弥生鉢 口縁～胴部 3/4 強残・底部 1/2 強残	床 +4	10.0	5.4	5.45	10R5/6 赤色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
194	8	104	5	弥生高坏 脚部 4/5 残	床直		14.8		7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
195	1	102	1	土師器甕 全体 1/2 強	床直	18.2			10YR6/8 明黄褐色	良好	密	外　剥離。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
195	2	102	3	土師器甕 口縁 1/5	床 +12	(15.4)			5YR6/8 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面輪積み痕をそのまま残す。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
195	3	102	6	土師器甕 底部完存	床 +46		9.6		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
195	4	102	7	土師器甑 全体 1/4 弱	床 +25	(24.2)			10YR6/6 明黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部篦ナデ、胴部篦ナデ。	
195	5	102	8	土師器甑 口縁 1/4	床 +3	(26.2)			10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。	
195	6	102	2	土師器甕 口縁 1/6	床直	(12.6)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、摩耗激しい。 内　口縁部ナデ、摩耗激しい。	
195	7	102	5	土師器甕 底部完存	床 +24		5.2		10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	小石含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
195	8	102	10	土師器鉢？ 底部完存	一括		4.2		5Y3/1 オリーブ黒色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	外面黒色処理。
195	9	102	9	土師器鉢 全体 1/2	床直	(12.6)			7.5YR5/6 明褐色 2.5Y3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ後一部篦ミガキ。	内面黒色処理。
195	10	102	11	土師器坏 口縁 1/8	一括	(12.0)			10YR3/1 黒褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部篦ナデ、体部篦ミガキ。	外面黒色処理。
195	11	102	12	土師器坏 口縁 1/5	一括	(12.4)			5YR4/3 にぶい赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	外面黒色処理。
195	12	102	19	須恵器坏身 完形	溝 +4	8.8		3.8	5GY5/1 オリーブ灰色	良好	密	外　底部回転篦ケズリ、ケズリ方向逆時計廻り。 内　ロクロナデ。	
195	15	102	13	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　左手による左から右への指頭押捺文３段。 内　ナデ。	
195	16	102	16	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、他櫛描き文。 内　ナデ。	
195	17	102	15	弥生鉢　口縁部	一括				2.5YR5/8 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部縄文。 内　ナデ。	
195	18	102	14	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR3/2 黒褐色 5YR5/6 赤褐色	良好	砂粒含む	外　口唇部縄文、口縁部連続刺突文間に竹管による円形竹管文。 内　ナデ。	
195	19	102	18	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　条痕文。	早期条痕文系土器。
196	1	127	1	土師器甕 口縁 1/2 ～胴部 3/4・底部全欠	土器群 -2	22.2			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。	
196	2	127	11	土師器甕 口縁 1/8	一括	(17.4)			10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ。	
196	3	127	6	土師器 S 字甕 口縁ほぼ完存	床直	12.5			2.5YR8/2 灰白色	良好	密	外　ハケ。 内　指ナデ。	
196	4	127	3	土師器壺 底部完存～口縁 1/4	床 +12	(12.0)			10R4/8 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部篦ナデ後棒状浮文貼り付け、頸部篦ミガキ、胴部上位 S 字状結節文間に羽状縄文、胴部中位以下はハケ後篦ミガキ。 内　口縁～頸部ハケ後篦ミガキ、胴部内面は完形の為肉眼ではよく見えない。	外面全面・内面口縁～頸部赤彩。
196	5	127	2	土師器甕 底部完存～口縁全欠	床直		5.8		10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
196	6	127	7	土師器甕 胴部 1/2	床 +10	16.8			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	器厚薄くかなり軽い土器。胎土も白っぽく航入品と考えられる。
196	7	127	12	土師器坩 口縁 1/4	床 +10	(9.8)			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
196	8	127	14	土師器甕 底部完存	一括		7.2		10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　粗い篦ナデ。 内　粗い篦ナデ。	
196	9	127	15	土師器甕 底部 3/4	床直		8.0		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ケズリ後一部指ナデ。 内　篦ナデ後一部指ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
196	10	127	4	土師器小型甕 底部完存～胴部 3/4 口縁全欠	床直		5.2		2.5YR3/6 暗赤褐～5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。
196	11	127	8	土師器鉢 全体 1/2 弱	一括	(5.4)	4.4	4.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	径 4㎜程の孔を焼成後穿孔。
196	12	127	5	小型結合器台 坏部完存・胴部全欠	床直	7.4			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
196	13	127	13	土師器高坏 脚部 1/6	一括		(14.8)		2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚部外面赤彩。脚の 3 方に穿孔。
197	1	103A	1	土師器甕 口縁 1/2～底部完存	床 +5	17.6	6.2	24.2	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	内面器面やや摩耗。胴部中央下位に径 1.2㎝程の焼成後穿孔。
197	2	103A	2	土師器甕 口縁 1/4	床 +4	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面かなり赤味強いが赤彩ではない。
197	3	103A	18	土師器台付甕 脚部 1/4	床直		(9.6)		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ナデ。	ホゾによる接合部全欠。
197	4	103A	3	土師器坩 口縁 3/4	一括	11.2			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ後ナデ。 内　篦ナデ後ナデ。	
197	5	103A	4	土師器坩 頸部 1/4～口縁一部	一括	(9.5)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	内外面赤彩。
197	6	103A	5	土師器器台 口縁 1/3	一括	(9.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
197	7	103A	7	土師器器台 脚部 1/8	一括		(8.6)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
198	1	103B	2	弥生壺 底部完存	床直		9.3		2.5YR4/6 赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂粒やや多	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。外面底部付近器面剥離。
198	2	103B	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	やや砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	内面頸部輪積み痕あり。
198	3	103B	8	弥生甕　口縁部	一括				10R4/2 灰黄褐色	良好	砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、一部指ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、一部指ナデ。	
198	4	103B	9	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部ハケ状工具によるナデ。	
198	5	103B	11	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部細縄文施文後棒状工具による羽状文。 内　ナデ。	
198	6	103B	10	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、口縁部に流水文状のナデ。 内　篦ナデ。	
198	7	103B	3	弥生壺　胴部	床 -2				2.5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　細縄文下に櫛描き文、胴部にハケ状工具によるナデ後篦ミガキ。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩の痕跡残る。
198	8	103B	12	弥生甕　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　S 字状結節文による山形文。 内　器面剥離激しい。	外面施文以外赤彩。
198	9	103B	5	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ハケ後篦ミガキ。	
199	1	101	14	土師器 S 字甕 口縁 1/8 残	ベット状遺構床面	(11.4)			5YR5/6 明赤褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　指ナデ後篦ナデ。	
199	2	101	5	土師器台付甕 底部完存	ベット状遺構床面		8.6		7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ、脚部ハケ後篦ナデ。	
199	3	101	12	土師器坩 口縁 1/6	一括	(12.4)			10YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
199	4	101	11	土師器台付甕 脚部 1/4	ベット状遺構床面		(8.6)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
199	5	101	8	土師器鉢 口縁 1/2 欠	ベット状遺構 床面	10.5	3.9	5.5	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、、胴部篦ナデ。	
199	6	101	13	土師器高坏 口縁 1/4	一括	（13.8）			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
199	7	101	3	土師器高坏 脚部 1/4	ベット状遺構 床面				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
199	8	101	1	土師器高坏 脚部全欠・坏部 1/2 強	ベット状遺構 床面	18.0			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
199	9	101	2	土師器高坏 裾部全欠	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	砂粒やや多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚の 4 方に穿孔。
199	10	101	6	土師器小型壺 口縁 2/3 欠	ベット状遺構 床面	（3.8）	4.0	5.9	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部指ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部不明。	
200	1	99	1	土師器甕 底部完存～口縁 1/12	床 +4	（21.0）	4.6	19.5	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ、胴部上位は篦ナデを施さない。	
200	2	99	6	土師器甕 口縁 4/5 ～胴部 1/2	床 +8・一括	16.2			10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、口縁～頸部細い篦状工具での篦ナデ、胴部ハケ。	
200	3	99	5	土師器甕 口縁 1/6	pit 上 +5	（18.0）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	外面ハケは太細の二種で調整される。
200	4	99	2	土師器甕 底部全欠	床 +1	16.0			7.5YR4/6 褐色	良好	2㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
200	5	99	7	土師器甕 口縁 1/4	床 +2	（17.2）			7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。	口唇部面取りにより窪む。
200	6	99	4	土師器甕 口縁完存	床直	17.1			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ。	
200	7	99	3	土師器壺 口縁・底部全欠・胴部上位ほぼ完存	床 +2				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	内外面口縁～頸部器面剥離激しい。
200	8	99	8	土師器坩 口縁・胴部一部欠	床直	8.8	4.8	14.5	2.5Y3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
200	9	99	11	土師器坩 胴部完存・口縁全欠	床 +10		2.7		10YR4/3 にぶい黄褐～ 10YR3/2 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	胴部下端に径 0.3cm程の焼成後穿孔。
200	10	99	14	土師器坩 胴部完存	床 +21		2.1		10R4/6 赤色 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
200	11	99	13	弥生甕 底部完存	床 +23		5.2		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
200	12	99	12	土師器甕 底部完存	床 +13		5.8		7.5YR4/4 褐色	良好	砂粒多	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
200	13	99	15	土師器器台 口縁 3/4	床直	（9.0）	9.7	8.8	10R4/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色（脚部内面）	良好	密	外　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	外面全面・脚内面以外赤彩。 脚の 3 方に穿孔。
200	14	99	10	土師器底脚高坏 ほぼ完形	床直	12.5	5.9	6.8	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部内面篦ナデ。	
201	1	86	1	土師器甑 全体 1/4 ？	床直 床 +1	（22.2）		（27.5）	7.5YR5/8 明褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	1 ～ 3㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
201	2	86	2-12	土師器甑 全体 1/4 弱	床 +8・13	（30.6）	（9.6）	（12.0）	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
201	4	86	8	須恵器甕 底部 1/2 強	床直				5Y7/1 灰白色	良好	密	外　平行敲き後ナデ。 内　当具痕磨り消し後ナデ。	底部内面自然釉付着。
201	5	86	9	須恵器蓋 口縁 1/2	一括	9.6			5Y6/2 灰オリーブ色	良好	密（自身強）	外　天井部回転篦ケズリ方向不明。 内　ロクロナデ。	湖西産。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
201	6	86	12	須恵器蓋？ 底部 1/4 弱	一括		(2.2)		7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　底部回転篦ケズリ、ケズリ方向逆時計回転。 内　ロクロナデ。	
201	7	86	11	須恵器長頸壺 頸部 1/4	一括				5Y5/1 灰色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	
201	8	86	10	須恵器長頸壺 頸部 1/2	一括				5Y6/1 灰色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	
201	9	86	17	土師器坩 底部完存	一括		2.4		2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR1/2 黒色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
201	10	86	6	土師器坏 口縁 1/8	床 +9	(12.2)			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
201	11	86	15	土師器坏 口縁 1/10	一括	(12.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。体部篦ナデ。	内外面赤彩。
201	12	86	16	比企型坏 口縁 1/16	一括	(12.0)			10R4/4 赤褐～ 10YR5/4 にぶい黄褐色 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ。体部篦ナデ。	外面上部・内面全面赤彩。
201	13	86	4	土師器坏 口縁 1/8	一括	(12.6)			7.5YR6/6 橙色 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内面黒色処理。
201	14	86	5	土師器坏 口縁 1/8	一括	(10.2)			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
201	15	86	24	土師器坏 口縁 1/5	カマド一括	(11.2)			7.5YR7/8 黄褐色	良好	密	外　摩耗。 内　篦ミガキ、摩耗激しい。	
201	16	86	14	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(10.4)			7.5YR6/6 橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。体部篦ナデ。	
201	17	86	3	土師器坏 口縁 1/3	一括	(14.2)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ケズリ、体部篦ケズリ。 内　口縁部篦ナデ、体部篦ナデ。	
201	18	86	19	弥生器台 脚部 1/6	一括		(6.5)		10YR6/6 明黄褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
201	19	86	20	土師器高坏 脚部 3/4	床 +26		(6.8)		5YR7/6 橙色 5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　粗い掻き取り。	
201	20	86	13	土師器高坏 全体 2/3	一括	3.8			10YR5/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面全面・脚内面以外赤彩。
201	21	86	21	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、他縄文。 内　ナデ。	加曽利 B 式土器。
201	22	86	22	縄文深鉢　胴部	一括				5YR2/1 黒褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　縄文間に沈線。 内　ナデ。	加曽利 B 式土器。
201	23	86	23	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　平行沈線間に細縄文。 内　ナデ。	加曽利 B 式土器。
202	1	148	5	土師器甕 口縁 1/4	一括	(16.6)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
202	2	148	3	土師器甕 底部完存	一括		6.8		5YR5/4 にぶい赤褐色 5YR4/2 灰褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	内面黒色処理。
202	3	148	2	土師器甕 底部完存	床直		6.8		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
202	4	148	6	土師器甕 底部 1/4 弱	カマド一括		(5.4)		10YR4/4 褐色	良好	砂含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
202	5	148	10	土師器坏 口縁 1/4 弱	一括	(14.1)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	1 ～ 2㎜大の小石含む	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
202	6	148	12	土師器坏 口縁部 1/8	一括	(10.6)			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
202	7	148	17	土師器鉢 口縁 1/4	床直	(15.4)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
202	8	148	1	土師器甕 底部全欠	床直	19.0			7.5YR5/4 にぶい褐～7.5YR2/1 黒色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	2～3㎜の赤褐色粒少し含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
202	9	148	7	土師器坏 口縁～体部 1/4 欠	カマド一括	14.5	7.8	5.2	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	内面黒色処理。
202	10	148	8	土師器坩 口縁～頸部 1/4 弱	一括	(9.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	内外面赤彩。
202	11	148	18	須恵器坏身 底部～受部 1/8	一括				2.5Y6/2 灰黄褐色 2.5Y6/3 にぶい黄色	良好	密	外　回転方向は時計廻りの回転篦ケズリ、底部は平坦に仕上がる（ケズリの範囲は底部の 1/2 以下）。　内　ロクロナデ。	
202	12	148	16	土師器坩 口縁 1/4 強	一括	(9.8)			10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
202	13	148	9	土師器高坏 脚裾部 1/2 弱	一括		(13.2)		10YR5/6 黄褐色	良好	1～5㎜大の小石含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
202	14	148	19	須恵器大甕 口縁極一部	一括				10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　自然釉掛かる。 内　ナデ。	口径は 48.0cm以上の大甕と考えられる。 外面に凸帯が付く。
203	1	147	3	弥生甕 口縁 1/3 残	一括	(14.6)			10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ縦方向の篦ナデは条線状。 内　篦ナデ。	
203	2	147	1	弥生甕 口縁～胴部 1/2 残・底部全欠	床 +16	16.4			10YR5/8 赤色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ（条線状）。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。	
203	3	147	50	弥生壺 口縁 1/2 残	一括	2.6			2.5Y6/2 灰黄色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	微砂粒含む	外　折り返し口縁、端部に棒状工具によるキザミ目、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
203	4	147	11	弥生壺 頸部のみ残	一括				10R4/6 赤～7.5YR6/6 橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　頸部羽状縄文、他篦ミガキ。 内　剥離激しい。	外面施文以外赤彩。内面頸部上位に赤彩痕あり。
203	5	147	2	弥生鉢 口縁 1/8 弱残胴部～底部 1/2 残	一括 床 +14・+16	(19.6)	(7.4)	19.3	10R4/6 赤～7.5YR3/1 黒褐色 2.5Y2/1 黒色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文、折り返し部に原体押捺、中位の篦ミガキ赤彩、胴部中位 2 段の羽状縄文、中間部に平行沈線入る、下段は篦ナデ後篦ミガキ、底部 9 段の抉り。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。口縁部 2 連一組の穿孔 2 ヶ所。
203	6	147	5	弥生甕 口縁 1/3 残	一括	(15.4)			10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	口縁部 2 連一組焼成後穿孔 2 ヶ所。
203	7	147	10	弥生壺 口縁 1/4 弱残	床直	(13.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文、頸部篦ミガキ。 内　篦ミガキ、摩耗。	内外面赤彩。 口縁部 2 連一組の棒状浮文 4 ヶ所、頸部 2 連一組の焼成後穿孔 2 ヶ所。
203	8	147	40	弥生壺 口縁 1/8 残	一括	(12.6)			10YR5/3 にぶい黄褐～2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文、2 連一組の棒状浮文、施文以外篦ミガキ。 内　口唇部細縄文と円形竹管による連続刺突文、他篦ミガキ	内外面施文以外赤彩。
203	9	147	7	弥生鉢 口縁 1/8 残	一括	(14.6)			10YR6/4 にぶい黄橙～2.5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文 内　口縁部篦ナデ、他篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。 口縁部 2 連一組の焼成後穿孔 2 ヶ所。
203	10	147	12	土師器甕 口縁～胴部上位ほぼ完存	床直	19.8			7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
203	11	147	57	弥生甕 底部 1/3 残	一括		(6.0)		7.5YR5/3 にぶい褐色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
203	12	147	53	弥生甕 底部 1/2 強残	一括		5.2		10R4/4 赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
203	13	147	56	弥生甕 底部 2/3 残	一括		5.6		2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
203	14	147	51	弥生甕 底部完存	一括		6.2		10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　摩耗。	
203	15	147	52	弥生甕 底部完存	床 +8		7.0		7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後櫛描き文。 内　摩耗。	
203	16	147	55	弥生甕 底部 3/4 残	一括		3.2		2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
203	17	147	4	弥生鉢 口縁 1/4 残	床 +14	(7.8)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部 10 段の S 字状結節文。 内　篦ナデ。	
203	18	147	54	弥生壺 底部 1/3 残	一括		(7.4)		2.5YR4/4 にぶい赤褐色 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
203	19	147	13	弥生甕 底部下位 1/2 弱残	床 +8		(5.6)		7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5YR5/8 明赤褐色	良好	微砂粒含む	外　細縄文。 内　篦ミガキ。	（北関東系土器）。
203	20	147	14	弥生甕　口縁部	床直				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	
203	21	147	15	弥生甕　口縁部	床 +2				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後ナデ。	
203	22	147	30	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ミガキ。	
203	23	147	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
203	24	147	27	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
203	25	147	18	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
203	26	147	21	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	爪の入りは右手交互押捺。
203	27	147	6	弥生甕　口縁部	一括・床直				7.5R4/4 にぶい赤色 10R4/1 暗赤灰色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、口縁部連続キザミ櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他摩耗。	
203	28	147	22	弥生甕　口縁部	床 +8				7.5YR5/6 明褐色 10YR3/1 黒褐～ 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	爪の入りは左右逆左手交互押捺。
203	29	147	23	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/3 暗褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	爪の入りは右手交互押捺。
203	30	147	19	弥生甕　口縁部	床 +2				2.5YR5/4 にぶい赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	爪の入りは右手交互押捺。
203	31	147	45	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部平行沈線文、頸部細縄文。 内　口縁部細縄文、他篦ナデ。	
203	32	147	25	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、他ハケ。 内　篦ナデ。	
203	33	147	32	弥生壺　口縁部	一括				5YR4/8 赤褐～ 7.5YR6/6 橙色	良好	微砂粒含む	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と 2 連の棒状浮文。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
203	34	147	29	弥生鉢　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、他ハケ。 内　篦ナデ。	2 連一組の穿孔。
203	35	147	44	弥生壺　胴部	床 +12				10R6/4 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　円形竹管による連続刺突文による区画上位に櫛描き文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
203	36	147	49	弥生壺　胴部	床 +8				7.5YR6/6 橙～ 10R4/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文と半載竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
203	37	147	35	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　櫛描き波状文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
203	38	147	24	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤～ 7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　S 字状結節文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
203	39	147	31	弥生壺　胴部	一括				10R4/4 赤褐 ～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　S 字結節文と細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
203	40	147	47	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
203	41	147	48	弥生壺　胴部	床直				7.5YR4/6 褐～ 7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
203	42	147	42	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 10YR5/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画内に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
203	43	147	34	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、頸部棒状工具による連続キザミ、他条線。 内　ハケ後篦ナデ。	
203	44	147	46	弥生壺　胴部	床 +14				10R4/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　櫛描き波状文と平行沈線による円弧文。 内　篦ナデ。	
203	45	147	20	弥生甕　胴部	床 +19				10YR4/4 褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　ハケ。	
203	46	147	39	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
203	47	147	38	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　沈線文による格子目文。 内　篦ナデ。	
205	1	82A	1	土師器壺 口縁 1/4	床 -7	(18.2)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、篦ナデ後指圧痕。 内　篦ミガキ。	
205	2	82A	4	土師器鉢 口縁 1/4 残	一括	(14.2)			10YR4/4 褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ミガキ。	
205	3	82A	3	土師器高坏 口縁 1/16 残	一括	(21.8)			7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面黒色処理。
205	4	82A	11	土師器甑 把手部分	床 +3				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。	
205	5	82A	2	土師器鉢 口縁 1/5 残	床直	(9.0)			7.5YR4/3 褐色	良好	微砂粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
205	6	82A	5	弥生鉢 底部 1/4 残	一括		(9.8)		2.5YR4/3 にぶい赤褐色 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。底部 U 字形抉り。
205	7	82A	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
205	8	82A	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文　他篦ナデ（左手爪入る）。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後ハケ。	
205	9	82A	9	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　頸部原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
205	10	82A	6	弥生甕　胴部	床 -5				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
205	11	82A	10	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　S 字状結節文下に細縄文。 内　篦ナデ。	
206	1	83	2	土師器壺 口縁 1/8 弱	床直	(17.0)			10YR6/6 明黄褐～ 2.5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
206	2	83	3	土師器鉢 口縁 1/4 弱	一括	(22.6)			10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	
206	3	83	4	土師器甕 底部 1/4 強	床直		(8.95)		10YR5/6 黄褐色	良好	2～ 3㎜の褐色粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
206	4	83	10	土師器坩 口縁 1/3 欠	一括	11.3	2.2	5.7	2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
206	5	83	1	土師器甑 口縁 1/8	一括	(13.4)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
206	6	83	5	須恵器甕　胴部	一括				10YR6/6 明黄褐～ 10YR7/1 灰白色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部平行敲き。 内　ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
206	7	83	9	弥生壺　口縁部	一括				10R4/6 赤～ 5YR5/4 にぶい赤褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部円形連続刺突文。 内　篦ミガキ。	
206	8	83	8	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR6/6 明黄褐～ 10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部 S 字状結節文と円形刺突文、下端に指頭押捺波状文。 内　円形連続刺突文、他篦ミガキ。	口唇部面取り。
206	9	83	6	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　S 字状結節文下に羽状縄文。 内　ナデ。	
206	10	83	7	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　S 字状結節文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
208	1	81	3	弥生甕 口縁 1/5	床 +3	（14.4）			10YR5/6 黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ、他ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
208	2	81	2	弥生甕 口縁 1/4 残	一括	（22.8）			2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	1㎜大の小石少し含む	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
208	3	81	1	弥生甕 底部欠	床直	19.9			10YR5/6 黄褐～ 10YR2/1 黒色 10YR6/6 明黄褐色	良好	1㎜大の小石多く含む	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
208	4	81	4	弥生甕 底部 1/4	床直		（5.8）		10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
208	5	81	5	弥生甕　口縁部	床直				10YR3/3 暗褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
209	1	80	8	土師器甕 口縁 1/4	炉内 -6	（21.8）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	外面口唇部面取り。
209	2	80	10	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/12	床 +1	（22.8）			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
209	3	80	7	土師器高坏 口縁 1/4	炉内 -6	（16.6）			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
209	4	80	3	土師器鉢 口縁 1/2 弱欠	床 +1・床直	11.8	3.1	7.6	7.5YR6/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
209	5	80	4	土師器鉢 口縁 1/4 ～底部 1/3	床 +5	（10.2）	（3.0）	8.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。	
209	6	80	5	土師器鉢 底部完存～口縁 1/4	床直	8.4	2.8	7.5	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
209	7	80	6	土師器坏 口縁 1/12	床 +5	（15.4）			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
209	8	80	1	土師器坩 口縁一部欠	床 +6	11.9	5.6	11.3	10R4/6 赤色 2.5YR4/6 赤褐色（胴部内面）	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁～胴部中位篦ナデ後篦ミガキ、胴部中位～底部篦ナデ。 内　口唇部ナデ、口縁部篦ミガキ、頸部指ナデ後篦ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。	外面全面・内面胴部以外赤彩。
209	9	80	2	土師器ミニチュア壺 底部完存～口縁 1/2	床直	（4.7）	2.8	3.9	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ、底部付近指ナデ。 内　指ナデ。	内面輪積み痕明瞭。
209	10	80	13	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ後櫛描き波状文。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ。	
209	11	80	12	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。	
209	12	80	11	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ後沈線による流水文。 内　篦ミガキ。	
209	13	80	14	弥生壺　胴部	床 -1				10R5/6 赤～ 7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	やや砂粒多	外　S 字状結節文間に沈線区画による山形文を配し文様は細縄文と S 字状結節文を施す、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ	
210	1	79	3	土師器甕 ほぼ完形	床 +7	18.2	6.2	27.7	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	3㎜大褐色粒多	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
210	2	79	1	土師器甕 口縁・底部全欠・胴部完存	カマド脇 +2				2.5YR5/8 明赤褐色	良好	1 ～ 3㎜大礫多い	外　口縁部ナデ、頸部弱い沈線、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	ハケ後細かいハケと粗いハケの二種を使い分ける。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
210	3	79	6	土師器直口壺 口縁 1/4 ～胴部 1/2 底部全欠	一括	(13.2)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後一部篦ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面輪積み痕明瞭。
210	4	79	10	土師器甕 口縁 1/4	床 +3・+8・+14・+18	(17.8)			10YR3/2 黒褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
210	5	79	8	土師器甕 口縁 1/2 弱	床直	(18.2)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面一部輪積み痕残る。
210	6	79	2	土師器甕 底部全欠	床 +3	14.7			2.5YR5/8 明赤褐色	良好	3㎜大褐色粒多	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
210	7	79	4	土師器甕 口縁全欠	床 +27		7.6		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
210	8	79	11	土師器二重口縁壺 口縁 1/4	床 +6	(16.2)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。	
210	9	79	9	土師器折り返し口縁壺 口縁 3/4	一括	15.2			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ。 内　ナデ。	
210	10	79	80	土師器小型甕 口縁 1/4	一括	10.8			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。	
210	11	79	7	土師器二重口縁壺 口縁完存	一括	16.2			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、頸部ハケ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部一部ハケ、胴部篦ナデ。	器面磨耗激しい。
210	12	79	5	土師器甑 ほぼ完形	床 +4	25.8	6.8	24.5	7.5YR4/6 褐色	良好	1 ～ 2㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
210	13	79	15	土師器鉢 口縁 1/3 強	床 +10	(15.4)		(6.9)	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。NO-14 に似るが別個体。
210	14	79	17	土師器鉢 口縁 1/2 強	床 +19	15.5		(6.5)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
210	15	79	14	土師器鉢 口縁 1/4	床 +13	(11.8)		(6.3)	10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
210	16	79	13	土師器鉢 口縁 1/6	床 +6	(11.8)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
210	17	79	18	土師器鉢 底部一部欠	一括	13.0		(6.4)	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ（光沢が出る程丁寧な篦ナデ）。	内外面赤彩。
210	18	79	19	土師器鉢 口縁 1/3	一括	(15.0)			5YR6/6 橙色	良好	5 ～ 3㎜大礫多	外　口縁部ナデ、胴部ザックリとした篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部光沢が出る程の丁寧な篦ナデ。	無彩。
210	19	79	16	土師器坏 or 埦 or 鉢 ほぼ完形	床直	15.3		7.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
210	20	79	30	土師器坏（埦） 口縁 1/3	一括	(14.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
210	21	79	27	土師器坏 全体 1/2	床 +18	14.4		5.9	2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。	内外面赤彩。
210	22	79	26	土師器坏 口縁 1/4 ～底部完存	床 +25	(14.6)		5.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。底部はやや平底ぎみ。
210	23	79	29	土師器坏 口縁 1/2 弱～底部完存	一括	(14.6)		5.8	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
210	24	79	25	土師器坏 底部 1/2 ～口縁 1/4	床 +16	(16.0)		5.5	10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
210	25	79	32	土師器坏 底部完存・口縁 1/3	一括	(16.6)		5.8	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	口縁部と同一個体であるが接合に至らない。
210	26	79	21	須恵器坏身 口縁の一部欠	床 +23	9.9		4.7	10Y5/1 灰色	良好	1㎜大白色粒含む	外　立ち上がりは内傾し端部に段をもたず丸く仕上げる。受部比較的シャープ、底部は体部の 1/2 程の範囲を丁寧な回転篦ケズリを二度施し、一文字の篦記号を認める。回転方向時計廻り。 内　回転ナデ、中央部のみ不整方向の指ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
210	27	79	36	土師器坏 口縁 1/3	床 +6	（15.4）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
210	28	79	55	土師器高坏 坏・裾部全欠	床 +2				10R4/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ（筆ナデに近い） 内　ホゾによる坏部との接合痕、指による掻き取り、裾部篦ナデ。	脚外面のみ赤彩。
210	29	79	50	土師器高坏 口縁 1/2 弱・脚部完存 裾部 1/10	床 +4	（16.6）	（12.4）	12.4	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ、脚部指掻き取り後裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
210	30	79	49	土師器高坏 口縁 1/3 ～脚部一部欠	一括	16.8	10.8	12.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部～脚部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚部内面指掻き取り、裾部篦ナデ。	坏部内外面赤彩。脚部外面赤彩。 脚部ホゾによる坏部との接合痕あり。
210	31	79	56	土師器高坏 坏部 1/2 弱～脚部完存 裾部全欠	床 +28	（17.6）	（11.0）	（13.6）	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ナデ、脚部縦篦ケズリ後横方向の篦ナデ（筆ナデに近い）。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ、脚部 4 段以上の輪積み痕残し指ナデ。	脚内面以外赤彩。
210	32	79	70	土師器高坏 口縁 1/6	一括	（19.1）			7.5YR6/6 橙色	良好	粉っぽい	外　摩耗激しい。 内　摩耗激しい。	
210	33	79	53	土師器高坏 坏・裾部全欠	床 +13				10YR4/6 赤色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　横方向ナデ（筆ナデに近い） 内　指掻き取り、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
210	34	79	66	土師器高坏 口縁 1/8	床 +28	（16.2）			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
210	35	79	71	土師器高坏 口縁 1/8	一括	16.6			5YR6/6 橙色	良好	密	外　摩耗一部篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
210	36	79	72	土師器高坏 口縁 1/4 強	床 +8・+28	（16.4）			10R4/6 赤色	良好	密	外　摩耗。 内　ハケ。	内外面赤彩。
210	37	79	51	土師器高坏 脚部完存・裾部 1/2 弱	床 +46		（14.4）		7.5YR5/6 明褐色 2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ（筆ナデに近い） 内　指掻き取り、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
210	38	79	47	土師器高坏 口縁ほぼ完存・脚部 1/2 裾部全欠	床直	15.7			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　坏部篦ナデ後篦ミガキによる放射状暗文。	脚内面以外赤彩。坏～脚部に粘土と灰付着。
210	39	79	67	土師器二重口縁壺 口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ハケ状工具による列点文、頸部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
210	40	79	23	須恵器大甕　口縁部	床 +21				7.5Y4/1 灰色	良好	白色粒含む	外　口唇部下に台形状のにぶい凸帯、口唇端部はシャープに仕上げる、口縁部ナデ。 内　ナデ、自然釉掛かる。	
210	41	79	22	須恵器大甕　頸部	床 +4				10Y4/1 灰色	良好	密	外　頸部に断面三角形の鋭い 2 本の凸帯が、櫛描き波状文帯を二分する。 内　ナデ、自然釉掛かる。	燻し銀の様な光沢を放つ。
210	42	79	24	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/1 灰色（白っぽい）	良好	密	外　格子敲き後回転ナデ。 内　横方向回転ナデ、青海波は見当たらない。	
211	1	84	3	土師器壺 口縁 1/8	床 -4	（19.6）			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	1～3㎜大の褐色の粒少し含む	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
211	2	84	2	土師器甕 頸部 1/4 弱	床 +10				5YR6/6 橙～ 10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐～ 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
211	3	84	1	土師器坩 口縁 1/4	床 +15	（10.3）			10R5/6 赤色 10R5/6 赤～ 5YR5/6 明赤褐色	良好	砂含む	外　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁～頸部赤彩。
211	4	84	4	土師器小型甕 底部 1/2 強	床 +2				2.5Y3/1 黒褐色 10YR5/6 黄褐～ 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
211	5	84	8	弥生鉢　口縁 1/8	一括	（10.0）			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁端部の 2 条の棒状工具による連続刺突文間にS字状結節文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
211	6	84	19	弥生鉢　底部 1/4 弱	一括		（7.4）		2.5YR4/6 赤褐～ 5YR3/1 黒褐色 10R5/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ、底部にU字形の抉りあり。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
211	7	84	20	弥生鉢　底部 1/4	一括		（13.1）		2.5YR4/3 にぶい赤褐～ 10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	砂含む	外　底部斜格子文とU字形の抉り、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
211	8	84	18	弥生甕　底部 1/3	一括		（5.8）		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　粗い篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
211	9	84	6	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
211	10	84	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
211	11	84	12	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y3/1 黒褐色 10YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
211	12	84	7	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y4/2 暗灰黄褐色 2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
211	13	84	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
211	14	84	10	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ。 内　篦ナデ。	
211	15	84	9	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状のハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
211	16	84	15	弥生壺　胴部	一括				10YR6/6 明黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	
211	17	84	16	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6 橙～ 10R4/6 赤色	良好	密	外　沈線区画内に施文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
211	18	84	14	弥生壺　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐～ 10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
211	19	84	13	弥生壺　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　S 字状結節文。 内　ナデ。	
211	20	84	21	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	砂含む	外　懸垂文内に縄文。 内　ナデ。	
211	21	84	17	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/4 暗赤褐色 2.5YR5/6 暗赤褐色	良好	砂含む	外　平行沈線による流水文。 内　ナデ。	外面赤彩。
212	1	85	6	弥生甕 全体 1/4 欠	床 +26	25.0			2.5YR4/6 赤褐～ 10YR3/2 黒褐色 7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　摩耗激しい。	
212	2	85	5	弥生甕 口縁 1/4 弱	床 +36	(20.6)			7.5YR4/4 褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状の篦ナデ、一部に沈線状の篦あて痕残る。 内　篦ナデ。	
212	3	85	8	弥生甕 口縁 1/4 強	床 +26	(19.0)			10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
212	4	85	9	弥生甕 口縁 1/4 強	一括	(22.8)			10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
212	5	85	7	弥生壺 胴部～底部 1/4 弱	床 +26		6.6		10R4/6 赤～ 10YR5/6 黄褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	砂含む	外　口縁部 S 字状結節文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
212	6	85	12	弥生高坏 脚部の裾部欠	P5 内				5YR5/6 明赤褐色（坏・脚部） 10R4/8 赤～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	坏部内面赤彩。脚の 4 方に穿孔。
212	7	85	1	弥生高坏 脚部のみ	床 +33				10R4/6 赤色（坏部のみ） 5YR5/6 明赤褐色（脚部）	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	坏部内外面・脚部外面赤彩。 坏部内面剥離激しい。
212	8	85	11	弥生甕 底部完存	P5 内		5.4		10YR5/6 黄褐～ 10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ、底部付近篦ナデ。 内　太めの篦ミガキ。	
212	9	85	4	弥生甕 底部完存	床 +34		7.6		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ 内　器面剥離。	
212	10	85	2	弥生甕 底部完存	床 +37		9.2		5YR5/6 明赤 褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	1 ～ 5㎜大の小石少し含む	外　篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
212	11	85	10	弥生甕 底部完存	P5 内		6.0		10YR5/6 黄褐～ 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ、底部付近篦ナデ。 内　篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
212	12	85	3	弥生甕 底部のみ	床 +32		7.4		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　器面剥離。	
212	13	85	13	弥生壺 底部 1/4 欠	一括		(5.0)		10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
212	14	85	14	弥生鉢 口縁 1/8 強	一括	(14.8)			10YR5/4 にぶい黄褐～ 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、胴部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
212	15	85	15	弥生甕　口縁部	床 +34				10YR3/2 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。	
212	16	85	17	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
212	17	85	16	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
212	18	85	18	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐～ 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　ナデ。	
212	19	85	19	土師器敲き甕　胴部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　敲き。 内　ハケ。	
213	1	87	1	土師器甕 ほぼ完形	床直	18.5	6.6	26.4	2.5YR4/6 赤褐色	良好	1㎜大礫含む	外　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
213	2	87	20	土師器二重口縁壺 口縁 1/4	一括	(18.8)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具による烈点文、口縁部放射状篦ミガキ。 内　口縁部放射状篦ミガキ。	H260-3 と同一個体？。
213	3	87	2	土師器坏 口縁 1/4	床直	(15.4)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
213	4	87	5	土師器壺 口縁 1/4 弱	一括	(12.2)			10R5/8 赤色 2.5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
213	5	87	8	弥生高杯 脚部 1/3 ～底部	床直		(11.4)		7.5YR6/8 橙色 2.5YR5/8 明赤褐色	良好	0.5㎜大の礫含む	外　裾部折り返し、細縄文と原体押捺、他摩耗。 内　篦ナデ	内面摩耗激しい。
213	6	87	4	土師器坩 底部～胴部 1/3 弱	一括		(3.0)		2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
213	7	87	7	手捏土器鉢 全体 2/3	一括		(2.4)		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
213	8	87	6	土師器敲き甕　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　敲き。 内　ナデ。	
213	9	87	9	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/3 暗褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他弱いハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
213	10	87	12	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
213	11	87	13	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
213	12	87	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　ハケ。	
213	13	87	11	弥生甕　口縁部	一括				22.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、他ハケ。 内　ハケ後ナデ。	
213	14	87	14	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　指頭押捺波状文、他ハケ。 内　折り返し口縁、他篦ナデ。	
213	15	87	21	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部の沈線下位に細縄文。 内　篦ミガキ。	
213	16	87	16	弥生壺　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　弱い沈線文を平行に施文し、上位は篦状工具による連続刺突文、下位に細縄文。 内　剥離激しい。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
213	17	87	17	弥生甕　胴部	一括				7.5YR3/2 黒褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
213	18	87	15	弥生壺　頸部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　頸部羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
213	19	87	18	弥生壺　胴部	注記なし				10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	0.5㎜大の礫含む	外　上位にＳ字状結節文、中位にハケ状工具による７条の沈線文と同じ工具による山形文。 内　剥離激しい。	
213	20	87	22	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
213	21	87	19	縄文浅鉢型土器 把手部分	一括				10YR6/6 明赤褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	把手部に径 0.7㎝の貫通孔有り。
214	1	100	3	土師器坩 底部 1/3	一括		(2.4)		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
214	2	100	2	土師器高坏 脚部のみ	床 +1				2.5YR4/6 赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
214	3	100	1	土師器高坏 底部 1/4	一括		(8.0)		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
215	1	159	1	土師器甑 口縁 1/3	床 +2・-3	(26.7)			5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ケズリ、一部ハケ残る。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
215	2	159	31	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/4 弱	床 +8	(18.4)			7.5YR6/6 橙色	良好	砂粒多	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、口縁部端部にキザミ目、頸部ハケ。 内　篦ミガキ。	外面器面摩耗・内面器面剥離激しい。
215	3	159	20	須恵器蓋 天井部一部	一括				7.5Y6/1 灰色	良好	密	外　ロクロケズリ後丁寧なロクロナデ、ケズリ方向は、時計回転。 内　ロクロナデ、天井部中心付近は手持ちナデ。	内面の丁寧な不整方向の篦ナデより、初期須恵器の部類に属する。H-83 号須恵器類似品。
215	4	159	47	須恵器坏蓋 口縁 1/12	一括	(12.6)			N5/0 灰色 N6/0 灰色	良好	密	外　ロクロナデ。 内　ロクロナデ、口唇端部は弱い凹状をなし、明瞭な段をなすまでに到らない。	
215	5	159	45	土師器甕 口縁 1/16	一括	(15.2)			10YR3/1 黒色 7.5YR4/1 褐灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	口縁部つまみ上がる。
215	6	159	19	須恵器高坏 脚部 1/4	一括		(9.2)		10Y5/1 灰色	良好	白色粒目立つ	外　ロクロ回転ナデ。 内　ロクロ回転ナデ。	残存する両側の透かし孔の幅から、脚部は長三角形４方透かしと考えられる。
215	7	159	58	須恵器壺 口縁 1/12	一括	(22.0)			5Y6/1 灰色 5Y7/2 灰オリーブ色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	
215	8	159	9	土師器坏 口縁 1/4	床 +12	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
215	9	159	38	土師器坏 口縁 1/2 弱	一括	(14.0)		6.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
215	10	159	37	土師器坏 口縁 1/3 弱	一括	(14.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
215	11	159	46	土師器坏 口縁 1/20	一括	(13.0)			10R5/4 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。内外面摩耗。
215	12	159	44	土師器高坏 口縁の 1/16 強	一括	(15.2)			10R4/6 赤色 10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
215	13	159	60	土師器高坏 脚部 1/2 強	一括		10.0		10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
215	14	159	34	土師器高坏 脚柱部 1/2 弱	床 +5				10R4/6 赤色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
215	15	159	4	土師器坏 口縁 1/3	床 +8	(13.4)			7.5YR6/6 橙～7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
215	16	159	2	土師器坏 口縁 3/4	床 +6・+9	12.4			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内面黒色処理。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
215	17	159	3	土師器高坏 口縁 1/4	床 +2	(14.8)			10YR3/3 暗褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。
215	18	159	36	土師器坏 口縁 1/3	一括	(14.0)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
215	21	159	15	須恵器甕　胴部	一括				7.5Y4/1 灰色	良好	1㎜大白色粒含む	外　平行敲き後ナデ。 内　青海波磨り消し。	
215	22	159	41	須恵器甕　胴部	一括				5Y7/1 灰白色 5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後横ナデ。 内　青海波磨り消し。	
215	23	159	39	須恵器甕　胴部	一括				5Y4/1 灰色	良好	密	外　自然釉により不明。 内　青海波磨り消し。	
215	24	159	43	須恵器甕　胴部	一括				5Y5/1 灰色 5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後横ナデ、一部指跡あり。 内　青海波磨り消し。	
215	25	159	16	須恵器甕　胴部	床 +12				5Y6/1 灰色	良好	極小白色粒目立つ	外　平行敲き後回転カキ目。 内　青海波半磨り消し。	NO-26・NO-29 と同一個体。
215	26	159	13	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/1 灰色	良好	極小白色粒目立つ	外　平行敲き後回転横カキ目。 内　青海波半磨り消し。	NO-29・NO-25 と同一個体。
215	27	159	61	須恵器蓋　天井部一部	一括				10Y4/1 灰色	良好	密	外　ケズリ方向時計回転。 内　回転ナデ、天井部付近不整方向ナデ。	非常に薄造り。
215	28	159	40	須恵器甕　胴部	一括				5Y5/1 灰色 5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後横ナデ。 内　青海波磨り消し。	
215	29	159	14	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/1 灰色	良好	極小白色粒目立つ	外　平行敲き。 内　青海波半磨り消し。	NO-26・NO-25 と同一個体。
215	30	159	42	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/1 灰色 5Y7/2 灰白色	良好	密	外　平行敲き、底部に粘土付着のまま焼成。 内　敲き後ナデ？自然釉がべっとり付着する。	
215	31	159	56	弥生甕　口縁部	一括				10YR7/3 にぶい黄橙色 10YR8/4 浅黄橙色	良好	密	外　口唇部原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面やや器面磨耗。
215	32	159	48	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
215	33	159	51	弥生甕　口縁部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺、他篦ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
215	34	159	53	弥生甕　頸部	一括				10YR4/1 褐灰色 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	密	外　頸部原体押捺。 内　篦ナデ。	
215	35	159	57	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
215	36	159	54	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
215	37	159	59	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き。 内　ナデ。	
215	38	159	49	弥生壺　口縁部	一括				10R5/3 赤色 10R5/6 赤色	やや不良	密	外　口唇部棒状浮文、細縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。内面磨耗。
215	39	159	55	弥生壺　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　羽状縄文施文後、S 字状結節文と円形刺突文。 内　篦ナデ。	
215	40	159	50	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
215	41	159	52	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 10YR5/3 にぶい黄褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　原体押捺と細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
217	1	160	2	土師器甕 口縁 1/3	床 +15	(15.2)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
217	2	160	21	土師器鉢 口縁 1/3	一括	(13.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	内外面赤彩。器面摩耗。
217	3	160	45	土師器甕 底部 1/3	一括		(8.2)		10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5Y4/1 黄灰色	良好	密	外　粗い篦ナデ。（篦ケズリに近い） 内　篦ナデ。	底部木葉痕あり。
217	4	160	35	土師器甕 口縁 1/4	一括	(12.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
217	5	160	1	土師器壺 口縁完存	床 +3	12.9			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
217	6	160	36	土師器坩 口縁 1/4 弱	一括	(13.0)			10R5/6 赤色 2.5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	内外面赤彩。
217	7	160	39	土師器坩 口縁 1/8 強	一括	(12.2)			2.5YR6/8 橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
217	8	160	38	土師器坩 口縁 1/8	一括	(9.6)			7.5YR6/6 橙色 7.5YR4/1 褐灰色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
217	9	160	40	土師器高坏 脚部 1/4	一括	(8.4)			7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
217	10	160	37	土師器坏 胴部 1/3 強	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ナデ。	外面全面・内面胴部以外赤彩。
217	11	160	42	ミニチュア坩 底部完存	一括		3.6		2.5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
217	12	160	44	土師器炉器台 口縁 1/4	一括	(5.0)			10YR5/2 灰黄褐色 2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　掻き取りに近いナデ。	内面赤彩。
217	13	160	43	土師器高坏 裾部全欠	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
217	14	160	6	土師器坩 口縁 3/4 ～底部完存	床 +16	9.0	3.6	6.9	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
217	15	160	46	土師器鉢 口縁 1/3	一括	(8.2)	4.8	6.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ。 内　口縁部ハケ、他篦ナデ。	
217	16	160	41	手捏土器鉢 口縁一部・底部 1/2 弱	一括	(6.0)	4.0	2.75	10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
217	17	160	24	弥生甕　口縁部	一括				10R3/3 暗褐色	良好	密	外　口唇部原体によるキザミ目、他ハケ。 内　ハケ。	
217	18	160	25	弥生鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部折り返し口縁、羽状縄文端部に原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
217	19	160	34	弥生壺　胴部	一括				10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　平行沈線による流水文。 内　器面剥離激しい。	
218	1	163	1	土師器甕 頸部 1/3	床直	(11.8)			7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
218	2	163	16	土師器壺 口縁 1/4	一括	15.2			10YR5/4 赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部一部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
218	3	163	18	弥生高坏 口縁 1/8	一括	(15.0)			2.5YR3/2 暗赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
218	4	163	9	土師器坩 胴部中位～底部付近 1/4	床 +8				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
218	5	163	17	土師器高坏 裾部全欠・坏部の一部残	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　剥離、摩耗激しい。 内　剥離、摩耗激しい。	
218	6	163	13	土師器坩 口縁～底部 1/4 強	一括		(13.5)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
218	7	163	20	土師器鉢 口縁 1/4 弱	一括	(9.6)			10YR6/4 にぶい黄橙色 7.5YR6/6 橙色	やや不良	微砂粒多	外　ハケ。 内　ナデ。	
218	8	163	21	土師器坏 口縁 1/8 弱	一括	(12.6)			10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
218	9	163	4	土師器坏 口縁 1/8	一括	(18.8)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	非常に丁寧な造りの模倣坏。
218	10	163	2	土師器高坏 脚部 3/4 残	床直	9.5			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
218	11	163	14	土師器高坏 脚部 1/2	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
218	12	163	8	土師器高坏 坏部下端 1/2 強	床 +9				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	ボソにより接合。
218	13	163	19	土師器鉢 口縁 1/4	一括	(4.6)			5YR4/3 にぶい赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
218	14	163	15	手捏土器鉢 完形	一括	2.6	2.2	1.6	5YR6/8 橙色 2.5YR6/8 橙色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
218	15	163	11	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	
218	16	163	12	弥生壺　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部羽状縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
218	17	163	10	弥生甕　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ミガキ。	径 0.3cm程の穿孔 2 ヶ所。
219	1	162	4	弥生甕 口縁 1/8 強	床直	(26.2)			10YR6/6 明黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	頸部 3 段の輪積み、輪積み 2 段目に指押さえの跡あり。
219	2	162	9	弥生壺 口縁 1/8	一括	(17.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺、他羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
219	3	162	2	土師器甑 底部 1/8	一括		(10.5)		7.5YR6/6 橙色 2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面やや摩耗。
219	4	162	1	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.9)			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
219	5	162	3	土師器坏 口縁 1/8 弱	一括	(12.0)			7.5YR6/6 橙 ～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/6 橙～ 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。	内外面黒色処理。
219	6	162	6	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/6 明 褐 ～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
219	7	162	11	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　粗い篦ナデ。 内　篦ナデ。	
219	8	162	8	土師器坩　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
219	9	162	12	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	やや不良	微砂粒多	外　原体押捺を施した棒状浮文 4 連。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
219	10	162	5	弥生壺　胴部	床直				5YR4/8 赤褐～ 7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	砂粒含む	外　羽状文縄文とＳ字状結節文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
219	11	162	13	弥生壺　胴部	一括				7.5R4/6 赤～ 10YR5/8 黄褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　沈線区画による幾何学文様帯内に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ	外面赤彩。
219	12	162	10	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に細縄文。 内　器面摩耗激しい。	
219	13	162	7	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤～ 5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒含む	外　平行沈線による幾何学文様帯内に細縄文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
219	14	162	14	弥生壺　胴部	一括				10YR4/4 赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　沈線区画による幾何学文様帯内に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ	外面赤彩。
219	15	162	15	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙～ 10YR4/4 赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ	外面赤彩。
219	16	162	16	弥生壺　胴部	一括				10YR4/4 赤褐色 2.5YR4/6 赤 褐 ～ 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　沈線区画による幾何学文様帯内に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ	外面赤彩。
219	17	162	17	弥生壺　胴部	一括				7.5R4/3 にぶい赤褐～ 7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　細縄文とＳ字状結節文、円形刺突文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
220	1	164	1	弥生壺 底部ほぼ完存	一括		6.2		7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5YR4/6 赤褐～ 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　底部篦ナデ、胴部篦ミガキ。	内外面赤彩。
220	2	164	5	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10R4/6 赤～ 7.5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　口唇～口縁部細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
220	3	164	6	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
220	4	164	7	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐色 2.5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	1㎜大の粒多く含む	外　折り返し口縁、口唇部細縄文施文後指頭押捺波状文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
220	5	164	2	弥生壺　胴部	床 -1				10YR6/6 明黄褐色	良好	砂含む	外　平行沈線による山形文内に細縄文。 内　篦ナデ。	
220	6	164	3	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙～ 2.5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線間に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
220	7	164	4	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ミガキ	内面赤彩。
221	1	161	2	弥生鉢 底部～胴部 1/4 強	床 +1		(7.4)		10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　口縁部下位棒状工具によるキザミ、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
221	2	161	1	土師器甕 口縁～頸部 1/4 弱	床 +1	(22.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
221	3	161	5	弥生鉢　口縁 1/6	一括	(14.0)			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部細縄文、体部篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
221	4	161	6	弥生壺　胴部	一括				2.5YR3/4 暗赤褐色 5YR4/4 褐色	良好	砂粒多	外　平行沈線区画内に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
222	1	149	1	土師器高坏 口縁 1/2 欠	床直	18.8	11.9	14.9	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ後篦ミガキ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部ハケ後篦ナデ。	正面側の脚の４方に穿孔（裏面側には孔なし）
222	2	149	2	土師器坩 口縁～胴部上位 1/2	床直	(9.0)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。	
222	3	149	3	土師器壺 口縁完存	炉内 -3	13.6			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ、頸部篦ナデ。	
222	4	149	6	手捏土器鉢 口縁 1/3	床直	(5.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　指ナデ。	
222	5	149	4	土師器高坏 口縁 1/2 弱	床 +9	(7.6)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	脚の６ヶ所に穿孔。
222	6	149	5	土師器埦 口縁 1/3	床 +3	(8.6)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
223	1	165	1	土師器甕 ほぼ完形	床 -3	19.0	6.8	32.0	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
223	2	165	3	土師器坩 口縁 1/2 欠	床直	(11.6)	5.0	19.1	7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
223	3	165	4	土師器小型壺 ほぼ完形	床 +20	9.6	4.8	14.3	10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ？（器面剥離詳細不明）	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
223	4	165	2	土師器高坏 口縁 1/2 ～脚部 2/3 欠	床直	(19.0)	(12.0)	9.9	10R3/6 暗赤色	良好	密	外　坏部篦ナデ、脚部篦ナデ後一部粗い篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚部内面除き赤彩。 脚の 3 方に穿孔。歪み補正して実測。
223	5	165	5	土師器鉢 or 坩 口縁 3/4	一括	10.4			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部粗い篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部粗い篦ナデ後粗い篦ミガキ。	
223	6	165	7	縄文深鉢　胴部	一括				5YR3/4 暗赤褐色	良好	繊維含む	外　貝殻条痕文。 内　貝殻条痕文。	早期条痕文系土器。
224	1	261	5	土師器甕 口縁 1/8	一括	(19.2)			7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
224	2	261	3	土師器壺 口縁 1/4	床 -2	(16.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁～頸部ナデ、他ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ。	
224	3	261	1	土師器二重口縁壺 口縁 1/8	一括	(13.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、口縁部下端ハケ原体によるキザミ目、頸部ハケ。 内　篦ナデ。	
224	4	261	2	土師器壺 口縁 1/4	一括	(12.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他ナデ。 内　篦ミガキ。	
224	5	261	6	土師器鉢 口縁 1/3 弱	一括	(12.4)	3.6	5.4	10YR3/2 黒褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	2㎜大礫多	外　粗い篦ナデ（篦ケズリに近い）。 内　ナデ後篦ミガキ。	
224	6	261	7	土師器高坏 坏部ほぼ完存	P 内 -2	12.8			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
224	7	261	8	土師器坩 口縁 1/8	一括	(9.1)			10R4/8 赤色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
224	8	261	10	弥生壺 底部ほぼ完存	床直		4.6		10YR4/6 ～ 5YR4/6 赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	微砂粒多	外　羽状縄文、円形竹管連続刺突文、篦ミガキ。 内　篦ナデ？器面磨耗激しい。	外面赤彩。
224	9	261	9	土師器坩 底部 1/2	一括		4.0		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
224	10	261	4	土師器小型甕 底部完存	床 -3		4.7		7.5YR2/1 黒褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	2㎜大礫含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
224	11	261	11	弥生高坏 脚部 1/4	一括		(10.4)		7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR4/1 褐灰色	良好	1㎜大礫多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
224	12	261	16	弥生壺　口縁部	一括				10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部細縄文とキザミ目。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
224	13	261	15	弥生壺　口縁部	一括				10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部細縄文と原体押捺。頸部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
224	14	261	17	縄文深鉢　胴部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外　貝殻条痕文。 内　貝殻条痕文。	早期条痕文系土器。
226	1	260	1	土師器坩 口縁 3/4 残	床 +2	10.0			5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部 3 連一組のキザミ、口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
226	2	260	2	土師器甕 底部 1/4 弱	一括		(6.8)		2.5Y3/1 黒褐色	良好	微 砂 粒 含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
226	3	260	6	土師器甕 底部 2/3 残	一括		7.4		5YR6/6 橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
226	4	260	13	弥生壺　胴部	一括				10R3/6 暗赤 ～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　Z 字状結節文と羽状縄文、他篦ミガキ。 内　器面剥離。	外面施文以外は赤彩。
226	5	260	14	弥生壺　胴部	一括				10R4/4 赤褐～ 10YR3/1 黒褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　沈線による山形文内を細縄文帯と無紋赤彩を交互に配置する。 内　篦ナデ。	外面一部赤彩。
226	6	260	7	土師器壺　胴部	一括				7.5R4/4 にぶい赤色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　Z 字状結節文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
227	1	262A	9	土師器甑 頸部 1/2 弱口縁部極一部	床 +1	(18.2)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　器面磨耗激しい。 内　器面磨耗激しい。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
227	2	262A	13	土師器甕 口縁 1/8	一括	（20.4）			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ　胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ　胴部篦ナデ。	
227	3	262A	11	土師器甕 口縁 1/5	一括	（19.0）			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ　胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ　胴部篦ナデ。	
227	4	262A	6	土師器甕 口縁 1/4 強	カマド	（17.8）			5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒多 3㎜台礫含む	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
227	5	262A	2	土師器甕 1/4 強	カマド	（23.0）	（10.2）	17.5	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
227	6	262A	3	土師器甕（甑） 口縁～頸部 1/4	床 +9	（21.8）			7.5YR6/6 橙色	良好	1 ～ 2㎜大の小礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
227	7	262A	5	土師器甕 底部 1/3	床 +12		（10.4）		10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　胴部篦ケズリ。 内　胴部篦ナデ。	
227	8	262A	12	土師器甕 口縁 1/4 弱	一括	（12.4）			7.5YR6/6 橙色	良好	密 茶褐色粒多含	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
227	9	262A	4	土師器甕 底部完存	床直		8.4		7.5YR5/6 明褐色	良好	1 ～ 2㎜大の小礫多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
227	10	262A	1	土師器甕 ほぼ完存	貯蔵穴より -46	12.2	7.3	8.3	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口部部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	228 号貯蔵穴上層からの出土で、図面上も 228 号に伴うものとして取り上げられているが、227 号に伴う遺物が 228 号の軟弱な床面に、くい込んで検出された結果と考えられる。（写真で確認）
227	11	262A	7	土師器高坏 脚部接合部のみ	P11-25				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　坏部篦ナデ、脚部篦ケズリ。	
227	12	262A	8	土師器坩 口縁 1/8	カマド	（12.0）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
227	13	262A	15	土師器坏 口縁 1/8	一括	（13.8）			10YR2/2 黒明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外体部摩耗の為不明、内外面黒色処理。
227	14	262A	14	土師器坏 口縁 1/5	一括	（13.8）			7.5YR3/3 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面黒色処理。
227	15	262A	16	土師器坏 口縁 1/8	一括	（13.8）			10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外体部摩耗の為不明、輪積み痕残る。 内外面黒色処理。
227	16	262A	17	土師器坏 口縁 1/8	一括	（13.8）			5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ　胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ。	内外摩耗の為単位不明、摩耗激しいが黒色処理の痕跡残る。
227	17	262A	19	土師器高坏 坏部 1/4	一括	（15.5）			10YR6/6 明黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
227	18	262A	26	須恵器蓋 口縁 1/3	一括	（11.6）			2.5Y6/3 にぶい黄色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	外面自然釉付着、逆り部に沈線。
227	19	262A	25	須恵器蓋 口縁 1/2 弱	床 -2	11.1			7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	内外面摩耗、逆り部に沈線。
227	20	262A	27	須恵器蓋 天井部 1/8	一括				2.5Y5/1 黄灰色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	
227	21	262A	28	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y5/2 暗黄灰色	良好	密	外　平行敲き。 内　篦ナデ。	
227	22	262A	29	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR6/6 橙色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　条痕文。	
227	23	262A	30	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　条痕文。	早期条痕文系土器。
228	1	262B	1	土師器高坏？ 口縁 1/12	一括	（19.0）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
228	2	262B	4	土師器坏 口縁 1/8	一括	（16.0）			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
228	3	262B	3	土師器坩 口縁 1/8	一括	(9.7)			10R4/8 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
228	4	262B	2	土師器高坏 脚部	一括				2.5YR4/8 赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦掻き取り。	外面赤彩。
228	5	262B	5	土師器高坏 脚部ほぼ完存	床直		9.8		10R5/8 赤色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
228	6	262B	7	須恵器甕　胴部	一括				5Y5/1 灰色	特に良好	密	外　ナデ。 内　青海波磨り消し。	
228	7	262B	8	須恵器甕　胴部	一括				5Y4/1 灰色 5Y5/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後ナデ。 内　青海波磨り消し。	
228	8	262B	6	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	密	外　平行敲き後回転カキ目。 内　青海波半磨り消し。	
228	9	262B	12	須恵器甕　胴部	一括				2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	密	外　平行敲き後横ナデ。 内　青海波磨り消し。	
228	10	262B	10	須恵器甕　胴部	一括				5Y5/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後横ナデ。 内　青海波磨り消し。	
228	11	262B	9	須恵器甕　胴部	一括				5Y3/1 オリーブ黒色	良好	密	外　平行敲き。 内　青海波磨り消し、粘土紐巻上げ痕あり。	
228	12	262B	11	須恵器甕　胴部	一括				5Y6/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後ナデ。 内　青海波磨り消し。	
230	1	259A	8	土師器壺 口縁 1/8・頸部 1/4 残	一括	(17.4)			10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口唇部弱いキザミ目、口縁部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
230	2	259A	3	土師器壺 頸部 3/4	床 +15				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
230	3	259A	4	土師器甕 底部完存	床 +8		8.0		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
230	4	259A	7	土師器甕 底部 1/2	一括		10.3		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
230	5	259A	1	土師器甕 ほぼ完形	床 +1	12.6	6.5	11.0	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
230	6	259A	2	土師器甕 底部完存	床直		8.6		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部木葉痕あり。
230	7	259A	6	土師器坩 底部完存	床直		4.0		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
230	8	259A	9	土師器坏 口縁 1/4	一括	(10.0)			10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	116 号に伴う。 内外面黒色処理。
230	9	259A	5	土師器高坏 脚部のみ	床直				10R6/4 赤色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩跡あり。 脚の 4 方に穿孔。
230	10	259A	11	手捏土器鉢 底部完存	一括		2.8		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
230	11	259A	12	弥生壺　口縁部	一括				10R3/6 暗褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、下端部棒状工具によるキザミ目、頸部 S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
231	1	258	3	弥生甕 口縁 1/2 弱	床直	(19.5)			7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。頸部輪積み痕間に指頭押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	6 段の輪積み。
231	2	258	5	弥生甕 口縁 1/2 弱	床直	(16.8)			10YR3/2 黒褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部原体押捺、頸部指頭押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
231	3	258	2	弥生壺 口縁完存	床直	13.4			7.5YR6/6 橙～ 5YR4/6 赤褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺。頸部 S 字状結節文間に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ他篦ナデ。	外面施文以外・内面頸部まで赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
231	4	258	4	弥生壺 口縁 1/8	一括	(19.2)			5YR5/6 明赤褐～2.5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/4 赤褐色	良好	微砂粒多	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文とＳ字状結節文。折り返し部に棒状工具によるキザミ目、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
231	5	258	1	弥生壺 胴部～底部 3/4	一括		6.6		7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙～2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　頸部羽状縄文と押捺文、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面石膏充填でよく見えない。
231	6	258	6	弥生甕 底部 2/3	床 +21		10.2		10YR4/1 褐灰色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　摩耗。	
231	7	258	7	弥生鉢 口縁 1/3	床直	(21.2)			2.5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	微砂粒多	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文と原体押捺。他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
231	8	258	8	土師器鉢 口縁 1/16	一括	(15.4)			5YR6/6 橙色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	口唇部内面に面取り。
231	9	258	9	土師器高坏 脚部の 1/4	床 +15		(10.0)		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
231	10	258	13	弥生壺　頸部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　頸部細縄文と２条のＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
231	11	258	12	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	繊維含む	外　条痕文。 内　条痕文。	早期条痕文系土器（茅山）。
231	12	258	10	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　沈線と斜縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器 。
231	13	258	11	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線下位に細縄文。 内　ナデ。	外面赤彩。加曽利Ｅ式土器 。
232	1	263	6	土師器甕 口縁 1/3	一括	(23.0)			5YR4/4 にぶい赤褐色 5YR3/3 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ。	
232	2	263	2	土師器甕 口縁 1/6	一括	(21.4)			7.5YR3/2 黒褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	NO-8 と同一個体。
232	3	263	8	土師器甕 口縁 1/2 弱	一括	(18.0)			5YR2/3 極暗赤褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
232	4	263	9	弥生壺 口縁完存	一括	15.7			10YR5/1 褐灰色 7.5YR5/6 明褐色	良好	白色微砂粒多	外　ナデ一部篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面器面磨耗、剥離激しいが赤彩残る。二次加熱受ける。
232	5	263	4	土師器甕 口縁完存	一括	18.2			5YR2/2 黒褐色 5YR3/3 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後粗い篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
232	6	263	5	土師器甕 口縁 3/4	一括	18.0			5YR3/4 暗赤褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
232	7	263	7	土師器甕 全体 1/4	一括	(21.4)			5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ。	
232	8	263	1	土師器甕 底部完存・胴部 1/4	一括		8.5		5YR2/2 黒褐色 5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
232	9	263	12	土師器坩 胴部一部	一括				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
232	10	263	3	土師器甕 底部完存	一括		5.8		7.5YR3/3 暗褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
232	11	263	10	土師器器台 脚部のみ	一括				2.5YR3/3 暗赤褐色 5YR2/4 極暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。脚の３方に穿孔。
232	12	263	11	土師器器台 脚部のみ	一括				2.5YR4/6 赤褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚内面以外赤彩。脚の３方に穿孔。
232	13	76	2	土師器高坏 坏部全欠・裾部欠	床直		(14.4)		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	脚の３方に穿孔。
233	1	76	1	弥生壺 底部 1/4	一括		(7.6)		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
233	2	76	3	弥生鉢　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部細縄文とＳ字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
233	3	76	6	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂粒多	外　沈線区画内に細縄文、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
233	4	76	7	弥生甕　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
233	5	76	5	弥生壺　胴部	床 +20				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂粒多	外　沈線による山形文内に羽状縄文。 内　篦ナデ。	
233	6	76	9	縄文深鉢　口縁部	一括				10R5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、他口縁部縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
234	1	75	3	土師器二重口縁壺 口縁 1/10	一括	(18.8)			7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下端原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
234	2	75	10	土師器坏 口縁 1/8	一括	(17.2)			5YR6/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
234	3	75	1	弥生壺 底部完存	一括		4.9		10R4/4 赤褐色 10R5/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
234	4	75	9	土師器高坏脚 底部 1/6 弱	一括		(7.6)		10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
234	5	75	2	弥生壺 底部 1/2 弱	一括		(4.6)		5YR6/6 橙色 10R8/6 赤橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
234	7	75	4	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文と細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
234	8	75	5	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
234	9	75	6	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	
234	10	75	7	弥生壺　胴部	一括				10YR5/2 灰黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　Ｓ字状結節文。 内　器面剥離激しい。	内面赤彩。
234	11	75	8	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
234	12	75	12	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線間に細縄文。 内　ナデ。	
235	1	77A	3	土師器甕 口縁 1/8	一括	(18.2)			7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ハケ後ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ。	
235	2	77A	2	土師器甕 口縁 1/3	一括	(13.4)			2.5YR5/6 明赤褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
235	3	77A	7	土師器坩 口縁 1/8	炉内 -8	(7.5)			7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
235	4	77A	1	土師器大型坩 口縁 1/5	一括	(18.0)			2.5YR5/6 明赤褐色 10YR4/1 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
235	5	77A	4-12	土師器坩 全体 1/5・底部完存	床 +2	(10.0)	3.8		7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
236	1	77B	13	弥生甕 口縁 1/5	一括	(19.6)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	3 段以上の輪積み。
236	2	77B	3	弥生壺 底部完存	床 +4		6.9		2.5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
236	3	77B	1	弥生甕 口縁 1/4	一括	(14.4)			10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　口縁部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
236	4	77B	12	土師器壺 口縁 1/8	一括	(14.6)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、器面磨耗。 内　口縁部ハケ後ナデ、他ハケ。	
236	5	77B	2	弥生小型壺 口縁 1/4	一括	(10.4)			10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　折り返し口縁部に指頭圧痕、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
236	6	77B	7	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他口縁部ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他口縁部ハケ。	
236	7	77B	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
236	8	77B	6	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇～口縁部に 2 段の指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
236	9	77B	5	弥生壺　口縁部	一括				10YR6/6 明黄褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　S 字状結節文施文後沈線による山形文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
236	10	77B	8	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　ナデ。	
236	11	77B	10	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　細縄文施文後沈線文。 内　ナデ。	
236	12	77B	9	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
236	13	77B	11	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　沈線文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
237	1	74	3	弥生鉢 口縁 1/8	床 +1	(17.2)			2.5YR5/6 明赤褐～7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	外面赤彩。
237	2	74	1	弥生甕 口縁 1/8 強・胴部 1/6	床 +4・+15	(24.8)			7.5YR5/6 明褐色 5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	頸部一段の輪積み。
237	3	74	4	弥生鉢 口縁 1/8	一括	(6.6)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　口唇部細縄文、他篦ナデ。	
237	4	74	5	縄文深鉢　胴部	床 +4				10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
238	1	73	3	土師器甕 口縁 1/4 ～胴部 3/4	床 +5	(18.6)	6.6	23.2	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
238	2	73	9	土師器小型甕 ほぼ完形	床 +33・床直	13.7		11.6	2.5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
238	3	73	6	土師器小型甕 口縁 1/2 強～胴部 1/2	床直	13.2			10R4/6 赤色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
238	4	73	8	土師器甕 ほぼ完形	床 +33	16.4	5.8	20.2	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
238	5	73	7	土師器甕 ほぼ完形	床 +33	13.8	3.8	18.3	5YR4/6 赤褐色	良好	1㎜大砂粒多	外　口縁部篦ナデ後ナデ、胴部篦ケズリ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
238	6	73	4	土師器坩 完形	床 +8	10.0	2.8	6.2	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後一部篦ミガキ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ後一部篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
238	7	73	10	土師器坩 胴部完存～口縁 1/2	床 +27	8.4	2.8	6.2	7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　ナデ。	外面全面・内面口縁部・胴部内面を除き赤彩。
238	8	73	14	土師器鉢 底部完存～口縁 1/4 強	一括	(9.6)	4.3	4.5	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
238	9	73	5	土師器鉢 完形	床直	10.5	5.3	3.6	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂粒含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
238	10	73	13	土師器坩 口縁 1/4 強	一括	(16.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
238	11	73	1	土師器高坏 脚部裾部全欠	床直	17.6			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面赤彩。脚の３方に穿孔。
238	12	73	21	土師器壺？ 底部完存	床 +25		8.8		10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
238	13	73	15	弥生甕 底部完存	床直		6.5		5YR5/6 明赤褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部径 1.0 ～ 0.5cmの焼成後穿孔。
238	15	73	17	弥生壺　胴部	床直				10R4/6 赤色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線区画内に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	胴部の２ヶ所に焼成後穿孔するが、いつの段階で穿孔されたか不明。
238	16	73	16	弥生甕　頸部	床直				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　頸部外面原体押捺、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面頸部輪積み痕。
239	1	78	14	弥生甕 口唇部・底部全欠	床直	(18.7)			5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒多	外　胴部篦ナデ後上位篦ミガキ。 内　篦ナデ。	頸部４段以上の輪積み。口唇部欠くが、弱い凹面を形成するものと推定復元。
239	2	78	1	土師器甕 底部全欠	炉右脇床直	17.0			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部篦ミガキ。	口唇部弱い凹面をなす。
239	3	78	3	土師器小型坩 底部全欠	床 +26	7.8			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、下位篦ミガキ。	
239	4	78	7	土師器器台 脚部完存	床 +11		9.7		2.5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚内面以外赤彩。脚の３方に穿孔。
239	5	78	6	土師器器台 口縁・裾一部欠	炉内火床密着	9.8	9.8	10.1	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚の３方に穿孔。
240	1	72	1	土師器壺 口縁 1/2 弱～胴部ほぼ完存	貯蔵穴内 -22	16.0	7.8	30.3	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	口唇部面取り。
240	2	72	2	土師器甕 完形	貯蔵穴内 -22	12.6	5.1	23.0	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部粗いハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	やや器面剥離あり。外面一部に煤付着。
240	3	72	16	土師器甕 口縁 1/8 ～胴部 1/4	床 +8	(24.0)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面器面剥離激しい。
240	4	72	13	土師器甕 口縁 1/2	床 +4	17.0			5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ。	
240	5	72	14	土師器折り返し口縁壺 口縁完存	床直	15.6			7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、ナデ。 内　ナデ。	内面赤彩。
240	6	72	3	土師器短頸壺 完形	カマド脇床直	8.9		9.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面赤彩。
240	7	72	27	土師器坏 口縁 1/4	一括	(15.6)		(7.0)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
240	9	72	4	土師器坏 口縁 1/4 欠	床 +6	14.3	1.6	6.0	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。底部は凹面を呈する平底。
240	10	72	6	土師器坏 口縁 1/3	貯蔵穴内 -22	(15.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
240	11	72	29	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.4)		(6.1)	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
240	12	72	28	土師器坏 口縁 1/4	床 +4	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	やや砂粒多	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
240	13	72	31	土師器坏 口縁 1/8	貯蔵穴内 -22	(17.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
240	14	72	30	土師器坏 口縁 1/6 強	一括	(16.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
240	15	72	17	須恵器蓋 口縁 1/4 ～天井部	床 +16	12.4		3.9	10BG2/1 青黒～ 5Y7/1 灰白色 10Y4/1 灰色	良好	密	外　天井部時計廻りの回転篦ケズリ、ケズリ幅は狭くて丁寧、天井部と立ち上がりを分ける稜は短く鋭い、口縁～天井部 1/2 に自然釉。 内　回転ナデ、天井部付近は不整方向のナデ、粘土紐巻き上げ手法の痕跡が天井部内面にわずかに残る。口縁端部は面を持つが明瞭な段をなすまで至っていない。	P3 付近の東壁側寄り、NO-15（床 +16）が出土するがドットもれ。
240	16	72	7	土師器高坏 接合部を除いてほぼ完形	床 +4	16.2	14.0	13.5	10R4/6 赤色	良好	1㎜大の礫多く含む	外　坏部篦ナデ、脚部縦篦ケズリ後篦ナデ。 内　坏部篦ナデ、脚部指掻き取り後ナデ、裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
240	17	72	26	土師器高坏 口縁 1/4	一括	(18.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
240	18	72	10	土師器高坏 脚柱部完存・裾部完存	カマド前 +2				10R4/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り、裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
240	19	72	11	土師器高坏 脚柱部完存～裾部 1/8	一括		(13.0)		10R4/6 赤色 7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指掻き取り、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
240	20	72	9	土師器高坏 底部 1/2 ～口縁全欠	一括		10.0		7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	密	外　摩耗。 内　摩耗。	脚内面以外赤彩痕あり。　全体的に摩耗激しい。
240	21	72	47	土師器坩 口縁 1/4	一括	(8.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
240	22	72	46	須恵器樽型甕 頸部接合部に一部	一括				5Y4/1 灰色 5Y6/1 灰色	良好	密	外　樽型体部外面櫛描き波状文。 内　ナデ。	
240	23	72	18	須恵器甕 口縁 1/3・頸部 1/2	一括	(10.1)			5Y5/1 灰色 5Y5/2 灰オリーブ色	良好	密	外　口縁部櫛描き波状文。 内　口縁～頸部自然釉密着の為不明。	131 号・140 号から出土する甕と同一個体。
240	24	72	40	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺文、他ナデ。	
240	25	72	44	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口唇部縄文による原体押捺、胴部ハケ。 内　ハケ後ナデ。	
240	26	72	43	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具による原体押捺、他ハケ。 内　ハケ。	
240	27	72	41	弥生広口壺　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部、口縁部細縄文、口唇部下は細縄文後ナデ。 内　細縄文。	北関東系土器。
240	28	72	35	弥生壺　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文以下細縄文。 内　篦ナデ。	
240	29	72	36	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文。 内　篦ナデ。	
240	30	72	39	弥生壺　胴部	一括				10R6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文下に 2 連の S 字状結節文。 内　ナデ。	
240	31	72	37	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ハケ。	
240	32	72	34	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線文下に細縄文。 内　ナデ。	
240	33	72	33	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	砂粒多	外　ハケ状の条線文。 内　ナデ。	
241	1	70	1	土師器甕 口縁 1/2 強～胴部 1/3 欠	床 +2	(16.8)	6.0	26.7	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部縦篦ケズリ後横方向篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
241	2	70	2	土師器甕 ほぼ完形	床 +1	14.8	6.4	23.7	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部上位篦ケズリ後横方向篦ナデ、胴部下位縦方向篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
241	3	70	3	土師器甕 口縁完存	床 +5	16.2			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部縦篦ケズリ後横方向篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面石膏でよく見えない。
241	4	70	21	土師器甕 底部完存	床 +18		7.8		7.5YR4/4 褐色	良好	1㎜大の褐色粒含む。	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
241	5	70	23	土師器多孔甑 底部一部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	底部外面４ヶ所以上の円孔。
241	6	70	20	土師器小型甕 口縁 1/4 ～胴部 1/2 強	床直	(13.8)	6.8	(14.1)	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面輪積み痕明瞭。
241	7	70	4	土師器坩 ほぼ完形	床 +13	10.7	5.3	10.5	10R4/6 赤色	良好	5㎜大褐色粒含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
241	8	70	18	土師器坏 口縁 1/4	床 +27	(15.4)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	無彩。
241	9	70	7	土師器坏 口縁一部欠	床 +11	15.6		5.2	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
241	10	70	11	土師器鉢（坏） 完形	床 +1	15.8	4.4	7.7	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	2㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	無彩。平底完形ではあるが焼成後ひび割れ歪む。
241	11	70	9	土師器坏 口縁 1/4	床 -5	14.8		5.0	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	5㎜大の礫目立つ	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後一部篦ミガキ。	外面 1/2・内面全面赤彩。
241	12	70	5	土師器坏 口縁一部欠	床 +2	14.7		5.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、底部一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面底部以外赤彩。内面の篦ナデに遊び心風の文様あり。
241	13	70	10	土師器坏 ほぼ完形	床 -2	14.4		5.7	2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後一部ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	無彩。
241	14	70	6	土師器坏 ほぼ完形	床 +2	16.2		6.2	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
241	15	70	8	土師器坏 口縁 1/3	一括	(16.4)			7.5YR4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	非常に丁寧な筆ナデに近いか、あるいは赤彩を筆で塗ったか？
241	16	70	15	土師器高坏 裾部全欠他完存	カマド火床密着	18.4	(12.8)	(13.0)	10R6/6 赤～ 2.5YR4/6 赤褐色 (脚部内面)	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ナデ、脚部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ、脚部指掻き取り後篦ナデ。	脚内面以外赤彩 カマド内支脚転用高坏、煤、灰、粘土がこびり付く。
241	17	70	14	土師器高坏 脚部完存～口縁極一部	床 +23	(20.0)	(14.0)	13.0	10R4/6 赤～ 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	砂粒多	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面器面磨耗。 脚内面以外赤彩、脚内面指ナデ。輪積み痕明瞭。
241	18	70	16	土師器高坏 柱状脚部のみ	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。外面器面剥離激しい。
241	19	70	12	土師器高坏 口縁 3/4	床 -8	18.0			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ後ナデ。 内　篦ナデ後ナデ。	内外面赤彩。
241	20	70	13	土師器高坏 坏部ほぼ完存	床 -5	16.4			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。内面やや器面剥離。
241	21	70	17	手捏土器鉢 全体 2/3	一括	(2.8)		2.3	2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
241	22	70	35	赤焼き須恵器 樽型甕 or 壺　胴部	床 +5				5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　櫛状工具による平行沈線と波状文、ただし波状文はいわゆる櫛描き波状文の様な滑らかさがなくぎこちない。 内　ナデ。	内面器形不明。
241	23	70	26	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　沈線文下に縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
241	24	70	27	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線文下に縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
241	25	70	29	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線文下に縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
241	26	70	24	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画内縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
241	27	70	28	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線文下に縄文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
242	1	71	2	弥生壺 底部完存	床 +5		7.4		10YR6/6 明黄褐色 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
242	2	71	1	弥生甕 底部 1/2	床直		7.8		10YR5/6 黄褐色 10YR6/6 明黄褐～ 10YR4/2 灰黄褐色	良好	1㎜大の黄褐色粒多含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
242	3	71	3	弥生器台 脚部 1/4 弱	一括		(7.2)		2.5YR5/6 明赤褐色 2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
242	4	71	4	弥生壺　口縁部	一括				10YR6/6 明黄褐色 2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文、頸部羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
242	5	71	6	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
242	6	71	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
242	7	71	7	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	砂含む	外　折り返し口縁、口唇部細縄文。 内　ナデ。	内面赤彩。
242	8	71	9	弥生甕　胴部	一括				10YR3/3 暗褐色 10YR4/4 褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　ハケ後篦ナデ。	
242	9	71	8	弥生甕　胴部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
242	10	71	11	弥生甕　胴部	一括				10YR4/3 暗褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
242	11	71	12	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　沈線による山形文、内に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
242	12	71	10	弥生広口壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　細縄文施文後磨り消し。 内　篦ナデ。	
243	1	106	1	土師器甕 口縁 1/4 ～胴部 1/2・底部 3/4	床 -2・一括		7.3	(23.7)	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面赤彩。
243	2	106	3	土師器甕 口縁 1/4 ～ 胴部・底部全欠	P6 一括	(17.4)			5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
243	3	106	2	土師器甕 口縁 1/4	床直	(17.2)			5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面器面剥離。
243	4	106	21	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/8	一括	(18.6)			10YR5・4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
243	5	106	19	土師器二重口縁壺 口縁 1/12	一括	(15.0)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
243	6	106	20	土師器折り返し口縁壺 口縁 1/8	一括	(9.1)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
243	7	106	4	土師器甕 底部完存	一括		7.8		5YR4/6 赤褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。（雑で篦ケズリに近い）	
243	8	106	13	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
243	9	106	8	土師器坏 底部完存～口縁 1/4	床 +1	(13.8)	4.8	6.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、。	内外面赤彩。内面器面剥離激しい。
243	10	106	9	土師器坏 口縁一部欠	一括	15.6		5.6	10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。底部外面無彩。
243	11	106	7	土師器坏 ほぼ完形	床直	17.0		5.8	10YR2/1 黒色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。底部外面無彩。
243	12	106	6	土師器坏 底部完存～体部 1/2・口縁 1/4	一括	(14.0)		5.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
243	13	106	15	土師器坏 口縁 1/4	P6 一括	(15.0)			10R3/6 暗赤色	良好	3 ～ 5㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。接合に至らないが同一個体他 3 点ある。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
243	14	106	12	土師器坏 口縁 1/8	一括	(17.4)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
243	15	106	10	土師器坏 口縁 1/4	一括	(15.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
243	16	106	11	土師器坏 口縁 1/8	一括	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
243	17	106	23	土師器高坏 口縁 1/6	一括	(16.8)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
243	18	106	26	土師器高坏 底部ほぼ完存～口縁一部	一括	(15.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
243	19	106	28	土師器高坏 脚部 1/2	一括				10R4/6 赤色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ケズリ。	外面赤彩。
243	20	106	38	須恵器甕 口縁 1/8	一括	(15.4)			10Y4/1 灰色	良好	密	外　口縁部に幅広の櫛描き波状文。 内　ロクロナデ。	堅緻に焼成されていない。
243	21	106	37	須恵器<u>瓶</u> 頸部 1/3	一括				5Y4/2 灰オリーブ 7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　頸部櫛描き波状文、肩部自然釉。 内　頸部自然釉、一部に指紋残る、肩部内面はロクロナデ明瞭。	
243	22	106	34	土師器手焙型土器 覆部極一部	一括				2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　鉢部凸帯～覆部下端部に櫛描き波状文的な文様帯、波状文間が一定ではなく所々とぎれることから、施文工具が櫛ではない様である。 内　ナデ。	内外面赤彩。器形は神門３号墳手焙り型土器参考。
243	26	106	39	須恵器甕　胴部	一括				5Y7/2 白灰色 7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後自然釉。 内　青海波を丁寧に磨り消す。	内面断面セピア 10YR3/4 暗褐色。
243	27	106	33	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
243	28	106	32	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文。	
243	29	106	31	弥生甕　胴部	床 -7（床直）				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
243	30	106	35	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
243	31	106	36	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　平行沈線文間に縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
244	1	107	1	須恵器高坏 口縁極一部欠 脚部全欠	床 +14	11.5			5Y4/1 灰色	良好	密	外　口縁部ロクロナデ、坏底部付近ハケ状工具によるキザミ目による羽状文。 内　手持ちナデ、ナデ方向は一方向、中央部のみ二方向。	脚の３方に長方形透かし。長脚二段透かし。
244	2	107	6	土師器坏　口縁 1/8	カマド一括	(13.8)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	砂粒多	外　器面やや摩耗。 内　器面やや摩耗。	内外面赤彩。
244	3	107	2	土師器高坏 口縁 1/8・脚部全欠	カマド一括	(14.4)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
244	4	107	5	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　折り返し口縁に棒状工具による連続刺突文、口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
244	5	107	7	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下に三角形の連続刺突文。 内　ナデ。	
246	1	105	5	土師器壺 頸部完存	床直				5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ、頸部に円形浮文が一周貼り付く。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
246	2	105	1	土師器壺 口縁全欠・胴部完存	P5 内一括		4.2		2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ、頸部列点文状の刺突文。 内　口縁部篦ミガキ、他不明。	外面赤彩。
246	3	105	6	土師器壺 底部完存	P5 内一括		4.2		5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
246	4	105	2	土師器鉢 口縁 1/2 欠	P5 内一括	14.0	4.5	8.4	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
246	5	105	24	弥生鉢 口縁 1/4	P3 上 +1	(11.0)			2.5YR4/6 赤褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部よじれたＳ字状結節文、体部篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
246	6	105	10	土師器坩 底部完存	床 +3		3.4		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
246	7	105	8	土師器甕 底部 1/2 強	床直		5.0		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
246	8	105	13	土師器高坏 口縁 1/2	一括	13.5			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
246	9	105	7	土師器高坏 脚部完存	床 +4		9.3		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	脚の 4 方に穿孔。
246	10	105	9	土師器高坏 脚部 1/2 弱	床 +3		(12.2)		10YR6/4 にぶい赤橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
246	11	105	11	土師器壺 口縁 1/4	一括	(7.6)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
246	12	105	4	土師器鉢 ほぼ完形	一括	9.6	3.5	5.4	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
246	13	105	3	土師器鉢 胴部一部欠	P5 内一括	9.6		6.1	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	やや砂粒多	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口唇部面取り、他篦ナデ。	
246	14	105	12	土師器二重口縁壺 口縁 1/6	一括	(13.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
246	15	105	41 44	弥生甕　口縁～胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部Ｓ字状結節文、頸部縄文。 内　ナデ。	
246	16	105	23	弥生壺　口縁部	P3 上 +1				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部に円形竹管による連続刺突文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。 内外面やや摩耗。
246	17	105	42	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁部に棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
246	18	105	30	弥生鉢　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。NO-26 と同一個体。
246	19	105	37	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
246	20	105	29	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	外面頸部 3 段以上の輪積み痕。
246	21	105	22	弥生甕　口縁部	床直				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具による原体押捺、頸部ハケ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
246	22	105	26	弥生壺　口縁部	一括				10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
246	23	105	25	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部棒状工具による連続刺突文、口縁部羽状縄文施文後 2 連一組の棒状浮文貼り付け、口縁部下端に原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
246	24	105	33	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
246	25	105	27	土師器鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　円形竹管文が篦ミガキによって磨り消される。 内　篦ナデ。	
246	26	105	35	弥生鉢　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　羽状縄文下に 3 連の Ｓ字結節文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。NO-18 と同一個体。
246	27	105	43	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5Y4/2 暗灰黄褐色	良好	密	外　沈線文に縄文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
246	28	105	45	縄文深鉢　胴部	床 +3				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
246	30	105	51	手捏ミニチュア器台 口縁一部欠・脚裾部全欠	床 +4	(4.0)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	暗赤褐色の粒含む	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
246	31	105	18	手捏ミニチュア壺 ほぼ完形	床直	4.5	3.5	5.1	5YR6/4 にぶい橙色	良好	暗赤褐色の粒含む	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	焼成前整形穿孔あり。
247	1	111	1	弥生甕 底部 1/4 弱	一括		(5.8)		5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
247	2	111	2	弥生壺　胴部	一括				10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	1～4㎜大の小石少し含む	外　細縄文。 内　剥離激しい。	
247	3	111	3	縄文深鉢　胴部	一括				10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　半截竹管による平行沈線文。 内　篦ナデ。	
248	1	114	2	土師器甕 口縁～胴部 3/4・底部全欠	カマド右脇	18.3			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
248	2	114	9	土師器甕 口縁 1/3	床 +5 +14・+23	(18.0)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
248	3	114	1	土師器甕 胴部中位 1/2 欠	床 -2	18.7	7.3	27.9	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
248	4	114	7	土師器広口壺 口縁 1/3	カマド上 (+35)	(18.2)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ？器面剥離激しい。	
248	5	114	15	土師器甕 口縁 1/3	一括	(15.2)			10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
248	6	114	3	土師器甕 口縁 3/4	床 +2	12.0			2.5YR4/4 にぶい赤褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面赤彩・内面口縁部赤彩。
248	7	114	29	土師器甑 口縁 1/4	一括	(20.4)			5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
248	8	114	8	土師器甕（模倣甕） 口縁～頸部 1/4	床 +32	(22.8)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、一部篦ナデ。	赤焼須恵器？
248	9	114	5	土師器甕 底部完存	床 +7		5.6		2.5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
248	10	114	16	土師器甕 底部 1/2	一括		7.8		10YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
248	11	114	6	弥生甕 底部完存	床 +46		5.0		10YR3/2 黒褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	出土位置から 249 号に伴う可能性大。
248	12	114	21	土師器坏 口縁 1/3	一括	(14.4)			2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
248	13	114	20	土師器坏 口縁 1/3	床 +11	(12.8)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
248	14	114	25	土師器坏 口縁～底部 1/4	一括	(13.8)		4.3	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
248	15	114	26	土師器坏 口縁 1/4 強	カマド一括	(14.2)		4.9	2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
248	16	114	4	土師器高坏 脚部全欠	カマド内	19.0			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。外面に粘土付着のまま焼成痕残存する（支脚として二次利用と判断される）。
248	17	114	17	土師器高坏 口唇部全欠	床 +14	(20.0)			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。（摩耗により不明瞭） 内　篦ナデ。（摩耗により不明瞭）	内外面赤彩。
248	18	114	10	土師器高坏 坏部裾部全欠	床直				2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　棒状工具による掻き取り。	外面赤彩。
248	19	114	14	土師器高坏 底部 1/3	カマド一括		(12.6)		7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
248	20	114	62	土師器敲き甕　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　敲き、一部ハケ。 内　ハケ。	
248	21	114	50	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
248	22	114	42	弥生甕　口縁部	床 +23				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇～口縁部に棒状工具による連続刺突文の直下にＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
248	23	114	49	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	白色粒多	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
248	24	114	51	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　頸部指頭押捺文と櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
248	25	114	48	弥生壺　頸部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	砂粒多	外　Ｓ字状結節文と羽状縄文。 内　器面剥離激しい。	
248	26	114	47	弥生壺　胴部	床 +28				5YR5/6 明赤褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　胴部羽状縄文とＳ字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
248	27	114	56	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線文と平行沈線による流水文。 内　篦ナデ。	
248	28	114	35	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部楕円形の区画文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
248	29	114	38	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
248	30	114	37	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　沈線区画内磨り消し縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
248	31	114	39	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　沈線区画内磨り消し縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
248	32	114	36	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　沈線区画内磨り消し縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
248	33	114	41	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	砂粒多	外　櫛状工具による平行沈線文。 内　ナデ。	
248	34	114	40	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂粒多	外　櫛状工具による平行沈線文。 内　ナデ。	
249	1	113	1	弥生壺 底部ほぼ完存	床直	19.3	7.0	23.9	7.5YR4/6 赤色	良好	白色の砂粒含む	外　口唇部細縄文、頸部篦ナデ後篦ミガキ、胴部羽状縄文と細縄文による山形文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外・内面全面赤彩。 2連一組の棒状浮文、口縁部６ヶ所。
249	2	113	2	弥生甕 口縁～胴部一部欠 底部1/3残	床直	20.1	(7.6)	21.5	10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、篦ナデ、底部付近篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
249	3	113	22	弥生広口壺 口縁1/2残弱・底部完存	床直 床 +39・+49	(10.3)	5.0	10.8	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、胴部羽状縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ、ハケ後篦ナデ（底部）	
249	4	113	4	弥生甕　口縁部	床直				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
249	5	113	6	弥生甕　口縁部	床直				10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
249	6	113	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
249	7	113	7	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
249	8	113	8	弥生甕　口縁部	床直				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇～口縁部細縄文？ 内　篦ナデ。	
249	9	113	10	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線間に細縄文。 内　剥離激しい。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
249	10	113	12	弥生甕　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
249	11	113	9	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒多	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
249	12	113	16	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
249	13	113	13	縄文深鉢　胴部	床直				7.5YR6/6 橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒多	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
249	14	113	15	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	礫含む	外　懸垂文と縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
249	15	113	14	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　条痕文。 内　ナデ。	撚糸文系土器。
252	1	115	1	土師器甕 口縁～頸部 1/6	床 +7	(15.8)			5YR5/6 明赤褐色 2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
252	2	115	2	土師器二重口縁壺 口縁 7/8	床 +1	18.6			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部ハケ後篦ナデ、頸部ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、頸部ハケ。	
252	3	115	4	土師器鉢 ほぼ完形	床 +5	15.0	3.0	6.4	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ミガキ、体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
252	4	115	6	土師器高坏 脚部 1/2 強	床直		10.0		2.5YR4/6 赤褐色 5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。脚の３方に穿孔。
252	5	115	5	土師器台付甕？ 脚部 1/4	一括		(9.0)		10R4/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
252	6	115	11	須恵器<u>瓶</u> 頸部 1/6	一括				10Y4/1 灰色 7.5Y5/1 灰色	良好	密	外　自然釉。 内　ロクロナデ。	
252	7	115	7	弥生甕　口縁部	床直				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺後ハケ状工具によるキザミ目、他ハケ。 内　篦ナデ。	
252	8	115	10	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線文と爪形文。 内　篦ナデ。	諸磯式土器。
252	9	115	8	縄文深鉢　胴部	床 +2				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　縄文と懸垂文。 内　篦ミガキ。	加曽利Ｅ式土器。
252	10	115	9	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　縄文と懸垂文。 内　篦ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
253	1	267	1	土師器鉢 ほぼ完形	床直	8.6	5.0	5.8	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
253	2	267	2	弥生甕　胴部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　器面剥離。	
253	3	267	5	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/2 にぶい黄褐色 2.5YR5/6 褐色	良好	密	外　口縁部文様帯以下縄文。 内　篦ミガキ。	
253	4	267	4	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/6 明褐色	良好	密	外　沈線による懸垂文間に縄文。 内　篦ミガキ。	
253	5	267	3	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色 2.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　沈線による懸垂文。磨り消し。 内　篦ナデ。	
254	1	94	4	土師器坏 口縁 1/16	一括	(15.0)			7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	無彩。内外面輪積み痕明瞭。
254	2	94	3	土師器甕 底部 1/2	床直		4.0		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
254	3	94	1	土師器高坏 口縁 1/8　脚部一部欠・裾部 1/6	一括	(15.8)	(6.0)	13.1	10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　坏部ナデ、脚部指掻き取り、裾部ナデ。	脚内面以外赤彩。接合に至らぬが、同一個体のパーツで復元実測。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
254	4	94	8	土師器折り返し口縁壺 口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ハケ。 内　ハケ。	
254	5	94	7	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
254	6	94	6	土師器甕　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ 内　篦ナデ。	外面Ｖの字の線刻。
254	7	94	12	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　横位一条の沈線。 内　ナデ。	内面輪積み痕あり。
254	8	94	10	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　円形刺突文と懸垂文、他一部に縄文が施される。 内　篦ミガキ。	後期堀ノ内式土器。
254	9	94	13	縄文深鉢　胴部	一括				2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	砂粒多	外　ハケ状の沈線文。 内　ナデ。	
255	1	36	2	弥生壺 口縁～頸部欠	床 +18		6.9		7.5YR4/6 褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂含む	外　頸部細縄文、胴部ハケ後篦ミガキ部分的にハケ残る。 内　篦ナデ？	
255	2	36	8	弥生甕 口縁～胴部 1/4 強	床 +8	(17.6)			5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR4/2 灰褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ハケ状工具による押捺文、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部上部ハケ、中位以下篦ナデ。	
255	3	36	1	弥生甕 口縁 1/4 欠	床 +20	20.1	5.8	22.5	7.5YR3/2 黒褐～ 5YR4/6 赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ、下端剥離ぎみ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	
255	4	36	11	弥生甕 口縁 1/8	床 +7	(25.0)			7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部原体押捺、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	胴部に煤付着。
255	5	36	5	弥生鉢 底部抉り部分 1/6 欠	一括		5.6		7.5R4/6 赤色 7.5R4/6 赤～ 5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ、底部に U 字形の抉りを持つ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
255	6	36	6	弥生小型甕 底部 1/4 欠	一括		(4.0)		7.5YR5/3 にぶい褐色 10YR5/2 灰褐色	良好	砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
255	7	36	7	弥生甕 底部 1/4 強	一括		(7.2)		5YR5/3 にぶい赤褐色	良好	砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
255	8	36	4	弥生壺 底部 1/4 欠	床直		6.6		7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	砂含む	外　胴部中位に細縄文、下端篦ナデ。 内　篦ナデ。	
255	10	36	10	弥生甕 口縁 1/4	床 +20	(17.2)			10YR4/1 褐灰色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	
255	11	36	12	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	1㎜大の小石含む	外　口唇部棒状工具による押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
255	12	36	19	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	砂含む	外　縄文。 内　篦ナデ。	
255	13	36	16	弥生壺　胴部	一括				7.5YR7/4 にぶい橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	1㎜大の小石含む	外　沈線間細縄文。 内　ナデ。	
255	14	36	14	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　頸部指尺流水文。 内　ナデ。	
255	15	36	18	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐～ 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	砂含む	外　細縄文間に沈線。 内　篦ナデ。	
255	16	36	13	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線の下に羽状縄文。 内　ナデ。	
255	17	36	15	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
255	18	36	22	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　縄文。 内　ナデ。	
255	19	36	17	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　条間の広い撚糸文。 内　ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
255	20	36	20	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線間に縄文。 内　ナデ。	
255	21	36	21	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	砂含む	外　縄文施文後沈線による山形文？ 内　摩耗激しい。	
256	1	93	1	弥生甕 口縁 1/2・胴部 3/4 残・底部完存	床直	22.1	7.0	20.0	5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部原体押捺、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	頸部に一段の輪積み。
256	2	93	2	弥生鉢 口縁 1/3 残・底部完存	床直		6.0	6.95	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
256	3	93	3	弥生高坏 脚部ほぼ完存	床直		11.8		5YR6/6 橙色	良好	密	外　脚端部折り返し、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	輪積み。
256	4	93	4	弥生甕 底部 1/2 残	一括		10.0		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
256	5	93	5	弥生甕 底部 1/3 残	一括		(5.1)		5YR5/4 にぶい赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
256	6	93	7	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇～口縁部Ｚ字状結節文。 内　ナデ。	
256	7	93	6	縄文深鉢　胴部	一括				10R5/6 赤色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　上下方向の懸垂文。 内　篦ナデ。	
257	1	92	2	土師器坩 底部全欠	床 +9	15.6			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	内面輪積み痕残る。
257	2	92	1	土師器坩 完形	床直				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部篦ナデ。	
257	3	92	3	土師器坩 底部完存	床 +3		4.0		10R4/6 赤色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	外面赤彩。
257	4	92	9	土師器坩 口縁 1/4 強	一括				7.5YR6/6 橙色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部円形竹管文、口縁部ナデ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
257	6	92	12	縄文深鉢　胴部	テラス密着				5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　懸垂文と縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
257	7	92	10	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　ナデ。	
257	8	92	11	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
258	1	98	4	土師器甕 口縁 1/8	P1-30	(14.8)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
258	2	98	3	土師器甕 口縁 1/5	P1-30	(14.8)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
258	3	98	1	土師器甕 底部完存	床 +5		(6.2)		7.5YR4/4 褐色 7.YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
258	4	98	7	土師器高杯 脚部・裾部欠	床直				2.5YR6/8 橙色	良好	密	外　篦ナデ、裾部ナデ。 内　指掻き取り後裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。⑤の西側ドットもれ。
258	5	98	2	弥生甕 底部完存	床 +3		(4.3)		5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/6 明褐色	やや不良	0.5㎜大の礫含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
258	6	98	5	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	0.5㎜大の礫含む	外　沈線区画内に縄文、上位に指頭押捺文。 内　ナデ。	
259	1	97	1	土師器甕 口縁 1/3 強	床直	(13.8)			7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部条線間隔の粗いハケと細かいハケを交互に使用する。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
259	2	97	2	土師器甕 底部 2/3	床 +25		6.6		7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	5㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ一部粗い篦ケズリ。	輪積み明瞭。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
259	3	97	7	土師器坩 ほぼ完形	床 -2	5.4	4.2	7.3	10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
259	4	97	6	土師器坩 口縁 5/6 欠	主柱穴上床直	(6.4)	4.6	7.9	10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
259	5	97	10	土師器坩 口縁 1/4 ～底部完存	一括	(6.6)	3.8	(8.0)	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂粒含む	外　口縁部ナデ、頸部ハケ、胴部篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ、頸部指ナデ、胴部篦ナデ。	
259	6	97	9	土師器鉢 口縁部全欠	床直				10YR3/2 黒褐色	良好	褐色粒含む	外　ハケ、底部篦ナデ。 内　指ナデ。	
259	7	97	3	土師器器台 底部 1/4	一括		(7.0)		7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
259	8	97	5	土師器坩 ほぼ完形	床 -2	7.5	4.4	10.5	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、胴部中位篦ナデ、他ハケ。 内　篦ナデ。	輪積み明瞭。
259	9	97	8	土師器ミニチュア有窓土器 胴部 3/4	床 -2				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指ナデ一部ハケ。	残長 5.9cm・最大幅（5.4）cm・重 72.8g。
260	1	89B	1	土師器壺 底部完存～胴部 2/3・口縁全欠	床 -3		7.0		10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ、底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
260	2	89B	3	土師器甕 口縁 1/4	床直	(19.0)			10YR3/1 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	
260	3	89B	4	土師器二重口縁壺 口縁 1/8	床直	(18.0)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具による列点文、口縁部放射状篦ミガキ。 内　口縁部放射状篦ミガキ。	213 号 -2 と同一個体。遺存度同一個体とあわせて 1/4。
261	1	96	9-1　2	弥生甕 口縁～胴部 1/5 残	一括	(17.0)			7.5YR4/3 褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	8 段の輪積み。
261	2	96	7	弥生甕 口縁 1/8 弱残	一括	(20.8)			7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	2 段の輪積み。
261	3	96	11	弥生甕 口縁 1/8 残	床直	(20.6)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
261	4	96	8	弥生甕 口縁 1/5 残	一括	(15.4)			5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
261	5	96	4	弥生鉢 口縁 1/4 弱残	床直	(14.8)			5YR6/6 橙～ 10R4/6 赤色 10R4/6 赤色	良好	黄褐色粒多量に含む	外　口唇部細縄文、口縁部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
261	6	96	10	弥生壺 口縁 1/5 残	一括	(13.6)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
261	7	96	1	弥生甕 底部完存	床 +4		8.4		10YR6/4 にぶい黄橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
261	8	96	2	弥生甕 底部完存	床 +13		6.2		7.5YR6/6 橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
261	9	96	3	弥生甕 底部完存	床 +2		7.6		2.5YR5/6 明赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	黄褐色粒多量に含む	外　篦ナデ。 内　器面磨耗激しい。	
261	10	96	6	弥生台付甕 接合部のみ	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	台部と胴部はホゾによって接合。
261	11	96	5	土師器台付甕 脚部 1/3 残	床直		(9.8)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
261	12	96	24	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR3/1 暗赤灰色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文施文後円形竹管文の連続刺突文、口縁端部原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
261	13	96	22	弥生壺　口縁部	床 +13				5YR6/6 橙色 10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～頸部に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
261	14	96	30	弥生甕　口縁部	床直				5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
261	15	96	14	土師器壺　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部棒状工具による連続キザミ、他篦ミガキ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
261	16	96	13	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒多	外　折り返し口縁端部に棒状工具による押捺文、胴部櫛描き文。 内　篦ナデ。	
261	17	96	21	弥生鉢　口縁部	床直				7.5YR6/6 橙色 10R4/6 赤色	良好	微砂粒含む	外　口唇～口縁部細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
261	18	96	12	弥生鉢　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙～ 10R3/4 暗赤色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部細縄文、沈線以下篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
261	19	96	18	弥生甕　胴部	一括				7.5YR4/2 灰褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
261	20	96	17	弥生甕　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ミガキ。	
261	21	96	20	弥生甕　胴部	一括				10YR3/2 黒褐色 7.5YR4/6 にぶい橙色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ミガキ。	
261	22	96	25	弥生壺　底部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛状工具による横方向への施文。 内　篦ナデ。	底部抉り。
261	23	96	16	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	微砂粒多	外　沈線による格子状文。 内　篦ナデ。	加曽利 B 式土器。
262	1	89A	6	土師器甕 口縁 1/8	一括	(16.2)			7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
262	2	89A	7	土師器二重口縁壺 口縁 1/8	一括	(13.2)			5YR5/6 明赤褐色	良好	0.1㎜大の礫含む	外　ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
262	3	89A	5	土師器二重口縁壺 口縁 1/5	一括	(18.2)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部指押さえ、頸部篦ナデ。 内　口縁部粗いハケ後篦ミガキ。	H-205-1 と同一個体の可能性あり。
262	4	89A	4	土師器甕 口縁 1/5	一括	(16.6)			7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ。	
262	5	89A	3	土師器坩 口縁 1/4 弱	一括	(12.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
262	6	89A	2	土師器坩 口縁 1/2	一括	(11.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ後篦ミガキ。	
262	7	89A	1	土師器坩 ほぼ完形	床直	9.0		5.2	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ後一部篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ナデ一部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	内面底部以外赤彩。
262	8	89A	16	土師器二重口縁壺 頸部	一括				7.5YR6/8 橙色	良好	密	外　櫛状工具による列点文による羽状文。 内　輪積み痕。	
262	9	89A	8	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色 5YR5/6 明赤褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　縄文。 内　ナデ。	
262	10	89A	13	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　懸垂文間は無文、他縄文。 内　ナデ。	
262	11	89A	9	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色 5YR5/6 明赤褐色	良好	0.5㎜大の礫含む	外　縄文。 内　ナデ。	
263	1	91	15	弥生甕 全体 1/3	床 +5・床直	(18.4)	6.75	17.8	7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	1㎜大の茶褐色粒含む	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面頸部に 1 段の輪積み痕あり。
263	2	91	24	弥生甕 頸部 1/4 弱	一括				2.5Y4/1 黄灰色 10YR7/6 明黄褐色	良好	密	外　頸部指押さえ、他篦ナデ。 内　横ナデ。	3 段以上の輪積み。
263	3	91	9	土師器甕 口縁 1/4	一括	(14.4)			2.5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
263	4	91	13	弥生甕 底部 1/3	床 +9		(9.0)		5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ、剥離激しい。	外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
263	5	91	7	土師器甕 底部 1/8	床 +30		(9.2)		5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	1 ～ 4㎜大の小石少し含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
263	6	91	14	弥生小鉢 底部ほぼ完存	床 +22		(4.8)		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ後意味不明な線刻。 内　篦ナデ。	
263	7	91	11	弥生甕 底部 1/2 弱	一括		(7.2)		10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
263	8	91	12	弥生甕 底部 1/4	一括		(6.2)		7.5YR5/6 明褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	0.5㎜大の粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
263	9	91	10	弥生甕 底部 1/2 弱	床直		(6.2)		10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
263	10	91	2	土師器高坏 坏部ほぼ完存	床 +30	17.8			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。脚の 3 方に焼成後穿孔。
263	11	91	1	土師器高坏 坏部 1/4 強	床 +30	(15.8)			10YR6/6 明黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	1 ～ 4㎜大の小石含む	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
263	12	91	5	土師器高坏 脚部 1/2	床 +30				2.5YR5/4 にぶい赤褐色 10R5/6 赤～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
263	13	91	6	土師器高坏 裾部 1/4	一括		(11.6)		10R5/6 赤～ 7.5YR5/6 明褐色 5YR4/6 赤褐～ 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
263	14	91	4	土師器高坏 裾部 1/2 強	床 +30		14.3		5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
263	15	91	16	弥生鉢 口縁 1/2	床 +9・一括	9.2			7.5YR6/8 橙～ 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
263	16	91	8	土師器壺 口縁 1/8 弱	一括	(10.2)			7.5YR5/4 にぶい褐～ 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	
263	17	91	23	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	外面全面・内面一部赤彩残る。
263	18	91	18	弥生壺　口縁部	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
263	19	91	20	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR7/6 黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　ナデ。	
263	20	91	17	弥生壺　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 2.5YR5/3 黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　ナデ。	
263	21	91	22	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　折り返し口縁、指頭押捺波状文、他ハケ。	
263	22	91	19	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/3 暗褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　ナデ。	
263	23	91	26	弥生鉢　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口唇～口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
263	24	91	28	弥生壺　胴部	一括				10YR4/1 褐灰色 10YR5/1 褐灰色	良好	密	外　S 字状結節文、棒状工具による連続刺突文。 内　篦ミガキ。	
263	25	91	25	弥生甕　胴部	一括				7.5YR7/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ、他頸部原体押捺。 内　ナデ後篦ミガキ。	
263	26	91	21	弥生壺　胴部	床直				10YR3/1 黒褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　羽状縄文と S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
263	27	91	27	弥生甕　胴部	一括				10YR5/1 褐灰色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　斜め篦ミガキ。	
263	28	91	29	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 2.5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利 B 式土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
263	29	91	30	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　沈線文と縄文。 内　ナデ。	
263	30	91	31	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利Ｂ式土器。
264	1	90	2	弥生甕 口縁 1/2 弱	一括	(14.9)			2.5YR5/6 明赤褐～7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
264	2	90	3	弥生甕 底部 1/2 強	一括		5.4		10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
264	3	90	1	弥生甕 底部完存	一括		5.4		2.5YR5/6 明赤褐～7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5YR4/6 赤褐～10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の小石多く含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
264	4	90	12	土師器器台 坏部ほぼ完存	一括	7.8			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ。	内外面赤彩。
264	5	90	9	土師器炉器台 口縁部付近 1/4	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR7/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
264	6	90	11	土師器高坏 坏部 1/2 強	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
264	7	90	10	土師器高坏 口縁全欠	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
264	8	90	5	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁～頸部細縄文。 内　篦ナデ。	
264	9	90	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
264	10	90	7	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
264	11	90	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
264	12	90	6	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 10R4/8 赤色	良好	0.5 ～ 1 ㎜大粒多く含む	外　口唇部、胴部細縄文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面赤彩。
264	13	90	15	弥生甕　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文を施した上にＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	
264	14	90	20	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　無文。 内　ナデ。	
264	15	90	23	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線下に縄文。 内　ナデ。	
264	16	90	19	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ミガキ。	
264	17	90	14	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　沈線文間に縄文。 内　ナデ。	加曽利Ｅ式土器。
264	18	90	18	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	0.1㎜大の小石多く含む	外　キザミ目。 内　篦ナデ。	
264	19	90	16	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ミガキ。	
268	1	52	1	弥生鉢 口縁 1/4	床 +4	(16.8)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	口縁部に穿孔。
268	2	52	3	弥生鉢 口縁 1/8	床直	(18.8)			10R5/8 赤色～7.5YR7/4 にぶい橙色 7.5R4/4 にぶい赤色	良好	密	外　口縁部細縄文、沈線より下に篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
268	3	52	2	弥生鉢 底部完存	炉内 -4		5.9		7.5YR4/6 褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
268	4	52	4	土師器甕 底部完存	床直		6.5		10YR3/1 黒褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
268	5	52	5	弥生甕　口縁部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
268	6	52	6	弥生壺 口縁 1/8	一括	(20.4)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺。 内　篦ナデ。	
268	7	52	10	縄文深鉢　胴部	一括				10R5/4 赤褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
268	8	52	8	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　沈線文。 内　器面磨耗。	
268	9	52	9	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/8 赤褐色 7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　平行沈線間に縄文。 内　篦ミガキ。	
268	10	52	7	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　懸垂文間の縄文磨り消し。 内　篦ナデ。	
268	11	52	11	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/3 にぶい黄橙色 7.5YR5/4 にぶい橙色	良好	密	外　縄文。 内　篦ミガキ。	
269	1	59	21	弥生甕（古式土師器） 胴中位～底部全欠	一括	21.0			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、頸部多段の段を指ナデ（明瞭に残るは最下段のみ） 胴部ハケ後篦ナデ、胴部上位は明瞭にハケ残る。 内　口縁部篦ナデ、胴部ハケ後一部篦ナデ。	
269	2	59	22	弥生甕 口縁 1/2 弱	床直	(22.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁～胴部篦ナデ、胴部下端篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、口縁～胴部中位篦ミガキ、胴部下端篦ナデ。	頸部一段の輪積み痕を残す。
269	3	59	17	土師器甕 口縁 1/4	一括	(18.2)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ハケ。 内　口縁部ハケ後ナデ、彫りの深いハケ残る、胴部篦ナデ。	
269	4	59	39	土師器大坩 口縁 1/4	一括	(19.8)			10R4/6 赤色 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部篦ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口唇部ナデ、口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁部赤彩。 内面口縁部以外 7.5YR4/4 褐色。
269	5	59	8	土師器壺 口縁 1/3 強	一括	(12.4)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ、口唇部付近ナデ。	
269	6	59	2	土師器直口壺 口縁部ほぼ完存	床直	13.8			7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ、頸～胴部ハケ。 内　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。	
269	7	59	23	土師器坩 口唇部欠・口縁部 3/4	一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
269	8	59	3	土師器坏 口縁一部欠	床直	14.5		6.4	10R4/6 赤色 2.5YR3/4 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ（筆状のナデ）	内外面赤彩。 内面赤彩を施した後、黒漆を塗布した痕跡があり赤黒味がある。
269	9	59	35	土師器敲き甕　底部 2/3	床直		4.2		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　底部付近敲き後胴部篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	底部中央径 1.2cm程円形に窪む。
269	10	59	4	土師器甕 底部完存・口縁全欠	床直	4.4			7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　ハケ。	
269	11	59	1	土師器器台鉢 口縁 1/4 強	一括	(8.8)			2.5Y3/2 黒褐色	良好	褐色粒多	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
269	12	59	9	土師器甕 底部 1/2 弱	一括		(6.8)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　底部付近篦ケズリ、胴部篦ミガキ。 内　細かいハケ。	
269	13	59	7	土師器台付甕 脚部 1/2 弱	一括		(14.0)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　粗い篦ナデ。	脚端部小さく折り返し。
269	14	59	5	土師器高杯 裾部 1/4 ～脚部	一括		(12.4)		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
269	15	59	19	土師器坩 底部 4/5	一括		3.4		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
269	16	59	12	土師器台付甕 脚部 1/5	一括		(10.0)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
269	17	59	6	土師器器台 脚部 2/3	一括		9.0		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
269	18	59	14	土師器高杯 裾部 1/8	一括		（14.8）		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
269	19	59	15	土師器甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	
269	20	59	43	土師器二重口縁壺 胴部	一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　頸部凸帯にキザミ目、肩部平行沈線文と櫛描き波状文。 内　頸部篦ミガキ、肩～胴部篦ナデ。	NO-21 と同一個体。
269	21	59	44	土師器二重口縁壺 胴部	一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　櫛描き波状文と平行沈線文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	NO-20 と同一個体（文様構成により下位と想定される）。
270	1	58	34	弥生壺 口縁 1/4 弱	一括	（21.8）			10R3/4 暗赤～ 5YR6/6 橙色 10R4/6 赤～ 5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文と円形浮文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
270	2	58	1	弥生壺 胴部 1/2・底部完欠	床 +51・+6				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面器面摩耗し調整痕が飛ぶ。 外面に赤彩痕あり。
270	3	58	5	弥生壺 底部 1/4 欠	床直		8.1		5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	1㎜大の小石含む	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
270	4	58	36	弥生壺 口縁 1/4	一括	（15.4）			10R4/4 赤褐～ 5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
270	5	58	4	弥生甕 底部完存	床 +1		9.9		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
270	6	58	6	弥生壺 底部 1/2	一括		（8.5）		10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	1㎜大の小石少し含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
270	7	58	8	弥生高杯 脚部 1/4	一括		（10.8）		5YR6/6 橙色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	砂含む	外　折り返し裾端部原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
270	8	58	2	弥生鉢 口縁 1/4 強	一括	（25.4）			2.5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文と原体押捺、胴部篦ミガキ。 内　胴部篦ミガキ。	
270	9	58	3	弥生鉢 全体 1/4 弱	一括	（22.5）	（9.0）	10.0	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、口縁端部指頭押捺、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口唇部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
270	10	58	31	弥生壺　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下端指頭押捺文。 内　篦ナデ。	
270	11	58	30	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐～ 2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
270	12	58	33	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐～ 5YR4/6 赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下端指頭押捺文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。
270	13	58	25-1	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文。 内　ナデ。	
270	14	58	32	弥生壺　口縁部	一括				10YR5/6 黄褐色	良好	1㎜大の淡黄色の粒含む	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文下端に原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
270	15	58	47	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部と口縁部下端に棒状工具による押捺文。 内　ナデ。	
270	16	58	37	弥生甕　口縁部	床 +10				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ。	頸部 2 段以上の輪積み痕あり。
270	17	58	48	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部押捺文、他ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
270	18	58	45	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺文、他ハケ後ナデ。 内　ナデ。	
270	19	58	39	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
270	20	58	38	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部ハケ後篦ナデ。 内　ハケ。	
270	21	58	54	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 10R4/4 赤褐～ 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文、下端部原体押捺。 内　篦ミガキ。	
270	22	58	41	弥生鉢　胴部	一括				7.5YR4/3 褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁端部原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
270	23	58	35	弥生壺　胴部	一括				7R4/6 赤～ 7.5YR6/6 橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	1㎜大の粒含む	外　S 字状結節文下に羽状縄文と指頭押捺、2 連一組の円形浮文貼り付け、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
270	24	58	53	弥生壺　頸部	一括				10YR5/6 赤～ 7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　3 段の S 字状結節文の上位に細縄文、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
270	25	58	64	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線文間に S 字状結節文、沈線による山形文内に羽状縄文。 内　器面剥離激しい。	NO-27・29・35 と同一個体。
270	26	58	55	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　S 字状結節文の下位に細縄文。 内　ナデ。	
270	27	58	61	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線文間に S 字状結節文、沈線による山形文内に羽状縄文。 内　器面剥離激しい。	NO-25・29・35 と同一個体。
270	28	58	58	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤～ 5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　S 字状結節文下に細縄文による格子目文。 内　器面剥離激しい。	
270	29	58	65	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線文間に S 字状結節文、沈線による幾何学文様帯内に羽状縄文。 内　器面剥離激しい。	NO-25・27・35 と同一個体。
270	30	58	56	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤～ 5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　平行沈線による山形文内に S 字状結節文。 内　器面剥離。	NO-36 と同一個体。
270	31	58	51	弥生壺　胴部	床 +3				2.5YR4/4 にぶい赤褐～ 7.5YR6/6 橙色 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	砂含む	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文。 内　器面剥離激しい。	
270	32	58	59	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線間に S 字状結節文と平行沈線による山形文、下位は羽状縄文。 内　器面剥離激しい。	
270	33	58	52	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤～ 5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	0.5㎜大の浅黄橙色粒含む	外　平行沈線間に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
270	34	58	50	弥生壺　胴部	床 +5・+6				5YR6/6 橙～ 10R4/4 赤褐色 7.5YR7/6 橙色	良好	1㎜大の砂粒多く含む	外　沈線の上位に羽状縄文、下位は篦ミガキ。 内　剥離激しい。	外面赤彩。
270	35	58	60	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線文間に S 字状結節文、沈線による山形文内に羽状縄文。 内　器面剥離激しい。	NO-25・27・29 と同一個体。
270	36	58	57	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤～ 5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	砂粒少し含む	外　平行沈線による山形文内に S 字状結節文。 内　剥離激しい。	NO-30 と同一個体。
270	37	58	63	弥生壺　胴部	一括				2.5YR6/8 橙～ 7.5YR6/6 橙色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線内に細縄文。 内　篦ナデ。	
270	38	58	62	弥生壺　胴部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文。 内　ナデ。	
270	39	58	44	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　平行沈線文。 内　粗い篦ナデ（単位は細）	
270	40	58	46	弥生壺　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR7/6 明黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ナデ。	
270	41	58	43	弥生甕　胴部	一括				7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　篦ミガキ。	
270	42	58	42	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後櫛描き波状文。 内　摩耗剥離やや激しい。	
270	43	58	40	弥生甕　胴部	床 +10				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR7/6 明黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　頸部輪積み痕なし、下端に原体押捺。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
270	44	58	29	縄文深鉢　口縁部	床 +2				10YR4/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　平行沈線間に縄文。 内　篦ミガキ。	
270	45	58	68	縄文深鉢　口縁部	一括				2.5YR5/8 明 赤 褐 ～ 10YRYR6/4 にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　一部縄文残る。 内　篦ミガキ。	
270	46	58	75	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、沈線下に縄文。 内　篦ミガキ。	
270	47	58	73	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR7/4 にぶい黄 橙～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部下に一条の沈線文。 内　ナデ。	
270	48	58	71	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	砂含む	外　沈線による格子目文。 内　口縁部内面に指による凹帯。	
270	49	58	25-3	縄文深鉢　胴部	一括				10YR3/1 黒褐～ 7.5YR4/2 灰褐色	良好	砂含む	外　粗い縄文施文後ナデ。 内　篦ナデ。	北関東系土器。NO-50 と同一個体。
270	50	58	25-2	縄文深鉢　胴部	床 +9				10YR3/1 黒褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	砂含む	外　粗い縄文施文後ナデ。 内　篦ナデ。	北関東系土器。NO-49 と同一個体。
271	1	69	1	弥生壺 胴部 1/4	炉内 -8				7.5YR5/6 明褐～ 10R3/6 暗赤色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　頸部平行沈線区画内羽状縄文、下位に沈線による山形文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
271	2	69	3	弥生甕 底部ほぼ完存・口縁 1/2 弱	一括	16.4	5.6		7.5YR4/3 褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　条線状のハケと篦ナデ。	頸部 1 段の輪積み痕。同一個体多あるも接合に至らず。
271	3	69	2	弥生甕 口縁～胴部 1/4	床 +21	17.2			10YR4/2 灰黄褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	口縁～頸部 5 段の輪積み。
271	4	69	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5Y3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、折り返し口縁篦ナデ。	
271	5	69	5	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　沈線区画の上位に細縄文。 内　篦ナデ。	
271	6	69	6	弥生鉢　胴部	一括				5YR4/6 赤褐色 7.5YR6/6 橙～ 5YR4/6 赤褐色	良好	0.5 ～ 1 ㎜大の小石含む	外　沈線区画の上位に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
271	8	69	8	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
271	9	69	7	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 5YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線文。 内　ナデ。	加曽利 B 式土器。
272	1	57	1	弥生甕 ほぼ完形	床直	24.9	6.2	32.1	5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ底部篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。	
272	2	57	2	弥生甕　口縁 1/2 強残 胴部ほぼ完存・底部全欠	床直・床 +24	16.6			5YR6/6 橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	1 ～ 5㎜大の礫含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	3	57	9	弥生甕 口縁 1/2 残	床直	17.0			7.5YR6/3 にぶい褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、口縁部篦ナデ。	
272	4	57	11	弥生甕 口縁 1/8 残	炉中	(17.8)			10R4/4 赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ一部篦ミガキ。	
272	5	57	6	弥生甕 口縁 1/3 残	炉内 -10	(25.2)			5YR5/6 明赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部下端に左親指による連続刺突文（爪入る）、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	6	57	8	弥生甕 口縁 1/4 残	炉中	(26.2)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部櫛状工具による連続刺突文、胴部篦ナデ後櫛描き波状文。 内　ナデ後篦ミガキ。	
272	7	57	3	弥生甕 口縁 3/4・胴部 1/2	床 -1	23.0			10YR4/2 灰黄褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、頸部横方向篦ミガキ、胴部縦方向篦ミガキ。	
272	8	57	7	弥生甕 口縁 1/4 弱残	一括	(20.0)			7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ後櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	9	57	10	弥生甕 口縁 1/6 残	床 +15	(16.4)			7.5YR5/2 灰褐色 7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、条線状の篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他条線状の篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
272	10	57	19	弥生甕 底部1/2残	一括		6.5		7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
272	11	57	20	弥生甕 底部1/3残	一括		(4.6)		10YR2/1 黒色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面器面摩耗。
272	12	57	22	弥生甕 底部1/3残	床 +9		(6.4)		5YR5/4 にぶい橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内面器面摩耗。
272	13	57	18	弥生甕 底部完存	一括		6.7		2.5YR5/4 にぶい赤褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
272	14	57	21	弥生甕 底部1/3残	床 +9		(6.6)		2.5YR5/6 明赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ一部篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内面器面剥離。
272	15	57	12	弥生壺 口縁全欠	床 +15		5.4		10R4/4 赤褐色 10YR6/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
272	16	57	4	弥生壺 口縁1/8残 頸部～底部完存	床 +6	(5.8)	7.8	25.9	10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後一部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内面輪積み痕あり。
272	17	57	13	弥生壺 口縁1/3残	一括	(12.4)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ後ハケ、頸部粘土紐貼り付け後指圧痕。 内　口縁部篦ナデ、頸部接合痕明瞭、指押さえ。	
272	18	57	17	弥生壺　胴部	一括				7.5R4/4 にぶい赤色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　頸部羽状縄文、他胴部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
272	19	57	15	ミニチュア壺 口縁完存	床 +4	3.6			7.5R4/6 赤色 2.5YR6/8 橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　折り返し口縁、他ナデ。	外面赤彩。
272	20	57	16	ミニチュア壺 頸部1/2弱残	床 +15				7.5R4/6 赤色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　頸部棒状工具によるキザミ目、下位に円形竹管文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
272	21	57	5	弥生甕 口縁全欠 胴部1/2弱・底部完存	床 +5		6.5		5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	1～3㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
272	22	57	14	弥生高坏 口縁～坏部1/2残	床 +20	15.6			10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。
272	23	57	43	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後櫛描き波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	24	57	34	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	25	57	35	弥生甕　口縁部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部棒状工具による連続刺突文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
272	26	57	45	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	27	57	46	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	28	57	29	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部細縄文、他篦ナデ。 内　他篦ナデ。	内面器面摩耗。
272	29	57	38	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	30	57	33	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	31	57	37	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による連続刺突文、他ハケ。 内　篦ナデ。	
272	32	57	39	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/1 褐灰色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、折り返し口縁部下端に左親指による連続刺突文（爪入る）。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
272	33	57	42	弥生甕　胴部	一括				5YR5/3 にぶい赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
272	34	57	48	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	
272	35	57	50	弥生甕　胴部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	
272	36	57	51	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	
272	37	57	30	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	
272	38	57	41	弥生甕　胴部	一括				5YR4/2 灰褐色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
272	39	57	40	弥生甕　胴部	一括				5YR4/2 灰褐色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
272	40	57	49	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　平行沈線。 内　篦ナデ。	
272	41	57	47	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	
272	42	57	56	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　平行沈線文。 内　ハケ。	
272	43	57	23	弥生壺　胴部	床直				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　細縄文と棒状工具による連続刺突文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
272	44	57	31	弥生壺　胴部	一括				5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
272	45	57	28	弥生壺　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　細縄文による斜格子文。 内　器面剥離激しい。	
272	46	57	27	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	
272	47	57	24	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	
272	48	57	26	弥生壺　胴部	一括				10YR4/6 赤色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　Ｓ字状結節文による山形文、他ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
273	1	60	1	土師器壺 頸部完存・口唇部全欠	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後一部篦ミガキ、頸部に径 1cm程の円形浮文を連続的に貼り付ける。 内　ハケ後篦ミガキ。	
273	2	60	12	土師器小型甕 口縁 1/4	一括	(11.2)			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
273	3	60	14	土師器小型甕 口縁 1/4	一括	(10.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
273	4	60	15	土師器坩 底部 1/4	一括		(3.6)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
273	5	60	17	土師器甕 底部 1/2	床 +35		8.0		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
273	6	60	16	弥生壺 底部 1/3	床 +3		(8.4)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　底部付近篦ナデ、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
273	7	60	11	土師器高坏 裾・坏部全欠	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
273	8	60	13	土師器台付甕 脚部 1/4	一括		(9.6)		10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
273	9	60	7	土師器鉢 口縁 1/6	一括	(12.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
273	10	60	2	土師器坏 口縁 1/3	一括	(13.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ（かなり丁寧）	内外面赤彩。
273	11	60	8	土師器高坏 口縁 1/8	一括	(14.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。内外面器面摩耗。
273	12	60	6	土師器高坏 口縁部 1/8	一括	(15.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
273	13	60	32	土師器坏 口縁 1/3	床直	(16.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。外面口縁下端に凹帯。
273	14	60	3	土師器坏 口縁 1/4	一括	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ（非常に丁寧）。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ（非常に丁寧）。	内外面赤彩。
273	15	60	4	土師器坏 口縁 1/4	一括	(13.8)			10R4/6 赤色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　器面摩耗。	内外面赤彩。
273	16	60	19	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文、口縁下端に原体押捺、体部に羽状縄文。 内　篦ナデ。	
273	17	60	28	弥生鉢　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部羽状縄文と指頭押捺文。 内　ナデ。	
273	18	60	23	弥生壺　頸部	一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　頸部に円形浮文、6 条平行沈線文下に撚糸原体による格子目文。 内　ナデ。	内面輪積み痕あり。
273	19	60	22	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後櫛描き波状文。 内　篦ミガキ。	
273	20	60	20	弥生壺　胴部	一括				2.5Y7/3 浅黄色 2.5Y7/2 灰黄色	良好	密	外　S 字状結節文下に羽状縄文と平行沈線文。 内　篦ナデ。	外面施文以外篦ミガキ赤彩。
273	21	60	21	弥生壺　胴部	一括				7.5YR4/4 褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　平行沈線による山形文内に細縄文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
274	1	62	11	土師器甑 口縁 1/8	一括	(24.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
274	2	62	1	土師器甕 底部完存	床直		5.3		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
274	3	62	10	土師器小型甕 口縁 1/4	一括	(10.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
274	4	62	4	土師器坏 口縁 1/8	一括	(16.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	外面に輪積み痕あり。
274	5	62	2	土師器高坏 坏部 1/3	床 +10	(17.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
274	6	62	7	土師器高坏 脚裾部全欠	床 +11				10R6/3 暗赤色 10R2/1 赤黒色（脚部内面）	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　指掻き取り後裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
274	7	62	6	土師器高坏 裾部全欠	床 +17				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　指掻き取り後篦ナデ、裾部ハケ。	外面赤彩。
274	8	62	8	土師器高坏 脚部 2/3 裾部全欠	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ケズリ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
274	9	62	15	弥生鉢　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、他羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。内外面器面磨耗激しい。
274	10	62	14	弥生壺　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　S 字状結節文。 内　篦ナデ。	外面 S 字状結節文以外赤彩。
274	11	62	13	弥生甕　胴部	床 +11				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　頸部篦ナデ、脚部篦ナデ。 内　篦ミガキ。	頸部 5 段以上の輪積み。
275	1	61	1	弥生壺 口縁 1/4 欠	床直	11.8			10R4/6 赤～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂含む	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文、頸部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後疎らな篦ミガキ。	内外面施文以外赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
275	2	61	4	土師器甕 底部 1/8 強	一括		(7.6)		10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
275	3	61	2	弥生壺？ 底部 1/4 弱	一括		(8.6)		7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
275	4	61	3	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐～7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂含む	外　二段の折り返し口縁、口唇部細縄文、一段目に原体押捺。 内　篦ミガキ。	
276	1	68	13	弥生壺　胴部	一括				10YR5/6 黄褐～5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	1～2㎜大の小石多く含む	外　沈線区画内羽状縄文、他篦ミガキ。 内　剥離激しい。	外面赤彩。
276	2	68	2	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後波状の線刻文。	
276	3	68	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による刺突文。 内　篦ミガキ。	
276	4	68	5	弥生甕　口縁部	床直				10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺文、口縁部平行沈線文。 内　口唇部指頭押捺文、他ナデ。	
276	5	68	3	土師器甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	1～2㎜大の小石少し含む	外　ナデ。 内　ナデ。	
276	6	68	6	弥生壺　胴部	一括				5YR4/4 にぶい赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　沈線区画上位に羽状縄文。 内　ナデ。	外面赤彩。
276	7	68	9	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　ナデ。	
276	8	68	8	弥生広口壺　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR6/4 黄橙色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
276	9	68	7	弥生広口壺　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	
276	10	68	12	弥生広口壺　胴部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	6㎜大の小石含む	外　細縄文。 内　ナデ。	
276	11	68	10	弥生広口壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	2～5㎜大の小石含む	外　縄文。 内　ナデ。	
276	12	68	11	弥生甕　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状平行沈線文。 内　ナデ。	
277	1	67	4	弥生甕 口縁 1/4 弱	一括	(20.6)			10YR5/6 黄褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
277	2	67	1	弥生甕 口縁 1/4 強	床 +2	(21.2)			10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他指押さえ後篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	頸部 3 段の輪積み痕あり。
277	3	67	6	土師器二重口縁壺 頸部 1/4	一括	(17.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　頸部ハケ。	内面剥離激しい。
277	4	67	2	弥生甕 底部～胴部 1/4	床 +15		(6.8)		10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	砂含む	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	頸部 1 段の輪積み。
277	5	67	3	弥生甕 底部完存	床直		5.9		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部径 6㎜程の焼成後穿孔。
277	6	67	18	土師器坏 底部 1/2	一括		6.4		7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　ロクロナデ後底部付近ケズリ。 内　ロクロナデ。	底部外面回転糸切り痕あり。
277	7	67	7	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～頸部細縄文。 内　ナデ。	内面赤彩。
277	8	67	5	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
277	9	67	16	弥生甕　頸部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐～2.5Y4/1 黄灰色	良好	1㎜大のにぶい橙色粒含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面頸部 3 段以上の輪積み痕あり。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
277	10	67	15	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面頸部１段の輪積み痕あり。
277	11	67	10	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐 ～ 2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　沈線上位にＳ字状結節文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
277	12	67	9	弥生壺　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　櫛状工具による羽状文と細縄文。 内　篦ナデ。	
277	13	67	12	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙～ 10R3/6 暗赤色	良好	砂含む	外　頸部沈線区画の上位に羽状縄文。 内　ナデ。	外面赤彩。
277	14	67	14	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　ナデ。	
277	15	67	13	弥生壺　胴部	一括				2.5Y3/2 黒褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　撚糸文系施文。 内　篦ナデ。	北関東系土器。内面輪積み痕あり。
278	1	266	1	弥生甕 口縁・底部全欠・胴部 2/3	炉内				10YR6/4 にぶい黄橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　摩耗。	外面頸部に２段以上の輪積み。内面器面磨耗。
278	2	266	4	弥生壺 口縁 1/3 残	P1 内 +18	(12.4)			7.5YR6/6 橙色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	微砂粒多含む	外　折り返し口縁、口唇部細縄文とハケ状工具による連続刺突文、頸部沈線区画内に細縄文一部はみ出す、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内面口縁部上位に赤彩。
278	3	266	2	土師器坩 口縁全欠・底部完存	炉内		(3.7)		10R4/6 赤色 10R4/6 赤～ 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
278	4	266	8	弥生甕 底部完存	一括		6.9		7.5YR5/6 明褐色 7.5YR3/2 黒褐色	良好	微砂粒多含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
278	5	266	9	弥生壺 底部 1/3 残	炉内		(7.4)		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　底部篦ケズリ後ハケ。 内　篦ナデ。	
278	6	266	7	土師器甕 底部完存	床 +9		7.0		5YR4/6 赤褐色 5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
278	7	266	6	土師器台付甕 脚部 1/4 残	一括		(8.6)		7.5YR6/6 橙色	良好	微砂粒多含む	外　摩耗。 内　摩耗、脚部折り返し。	
278	8	266	10	土師器器台 脚部全欠・口縁 1/3 残	床 +9		(7.7)		10R4/4 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
278	9	266	3	土師器高坏 脚部 1/3	炉内		(9.4)		2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　脚部篦ナデ、坏部篦ミガキ。	脚の３方に径 1.2cm穿孔。脚部外面赤彩。
278	10	266	5	弥生壺　口縁部	床 +9				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　頸部細縄文と原体押捺、下位に平行沈線文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
278	11	266	11	弥生壺　口縁部	一括				10R4/6 赤褐色 10R4/4 赤褐色	良好	微砂粒多含む	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、下位原体と指頭の交互押捺文。 内　摩耗。	内外面赤彩。
278	12	266	13	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　条痕文。 内　条痕文。	早期条痕文系土器（茅山系）。内面赤彩？
278	13	266	14	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/4 褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　条痕文。 内　条痕文。	早期条痕文系土器。内面赤彩？
279	1	66	1	弥生甕 頸部～胴部 1/4	炉内 -7・+6・+12 P3 内 -70				10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の小石多く含む	外　頸部一段の輪積み上位に棒状工具による連続刺突文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	頸部 32.8cm最大胴部 41.0cm。
279	2	66	2	弥生鉢 底部ほぼ完存	床 +9		6.4		10YR5/6 黄褐～ 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線区画の上部に羽状縄文、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	
279	3	66	5	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐色 7.5YR5/6 明 褐～ 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	1㎜大の砂粒多く含む	外　口唇部細縄文、沈線区画の上位に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
279	4	66	7	弥生鉢　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	1㎜大の砂粒多く含む	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　篦ナデ。	
279	5	66	3	弥生甕　口縁部	床 +9				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　ナデ後篦ミガキ。	口縁～頸部に５段以上の輪積み痕。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
279	6	66	6	弥生壺　口縁部	炉一括				10YR6/6 明黄褐色 10R4/4 赤褐～ 5YR6/8 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁～頸部羽状縄文。 内　ナデ。	内面赤彩。
279	7	66	4	弥生壺　口縁部	一括				5YR6/6 橙～ 2.5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	1㎜大の粒含む	外　折り返し口縁、口縁部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面口縁部以外・内面全面赤彩。
279	8	66	9	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙～ 10R4/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい橙～ 10R4/6 赤色	良好	密	外　沈線区画の下位細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
279	9	66	10	弥生壺　胴部	床 +8				10YR6/6 明黄褐～ 2.5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　沈線区画の上位に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
279	10	66	8	弥生壺　頸部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　頸部沈線区画の下位羽状縄文。 内　ナデ。	
280	1	27	2	土師器大型坩 口縁～頸部完存	床直	20.0			5YR6/6 橙～ 7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　頸部ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	口唇部凹状の面取り。
280	2	27	11	土師器坩 口縁 1/8	一括	（11.6）			7.5R4/6 赤色	良好	砂含む	外　口縁部ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
280	3	27	4	土師器小型甕 口縁～頸部 1/8	床 +12	（13.8）			5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/3 にぶい褐～ 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部ハケ後一部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ。	
280	4	27	3	土師器高杯 口縁 1/3	一括	（14.8）			7.5YR6/4 にぶい橙～ 10YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、ハケ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、ハケ後篦ミガキ。	
280	5	27	12	土師器埦 口縁 1/8	床直	（14.7）			2.5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
280	6	27	1	土師器壺 胴部 1/4 欠	床直	12.2	6.6	27.9	7.5YR6/6 橙～ 7.5YR2/1 黒色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部篦ミガキ、底部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
280	7	27	10	土師器坩 口縁 1/8	一括	（10.9）			5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	砂含む	外　口縁部ナデ、他篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	
280	8	27	8	土師器埦 口縁～胴部 1/6 強	一括	（8.8）			5YR5/4 にぶい赤褐～ 10YR3/1 黒褐色 5YR5/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
280	9	27	7	土師器埦 口縁 1/4 弱	一括	（11.2）			10YR7/3 にぶい黄橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
280	10	27	15	縄文深鉢 底部 1/8 強	一括		（5.1）		2.5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	砂含む	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
280	11	27	9	土師器高杯 脚裾部 1/8 強	一括		（11.2）		7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	砂含む	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
280	12	27	14	土師器高杯 脚部 1/2 弱	床直		（9.6）		5YR6/6 橙～ 10YR4/2 灰黄褐色	良好	砂含む	外　篦ナデ後篦ミガ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に径（1.0㎝）の焼成前穿孔。
280	13	27	6	土師器器台 口縁 1/4	床直	（6.8）			7.5YR5/3 にぶい褐色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	砂含む	外　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	脚の 3 方に径（1.0㎝）の焼成前穿孔。
280	14	27	5	土師器高杯 口縁 1/8	一括	（14.6）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	
282	1	34	1	土師器甕 ほぼ完形	床直	16.2	7.0	26.8	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ、中～下位篦ケズリに近い篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
282	2	34	8	土師器甕 口縁 1/2 弱	一括	（13.2）			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。	
282	3	34	6	土師器甕 胴部 1/2　口唇部・底部全欠	床 +4 粘土の上				5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　器面剥離。	輪積み明瞭に残る。
282	4	34	7	土師器壺 口縁 3/4	一括	14.4			5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部篦ナデ、頸部篦ナデ後指押さえ。 内　口縁部篦ナデ、頸部篦ナデ。	内外面輪積み痕明瞭で非常に雑な造り。
282	5	34	3	土師器二重口縁壺 口縁全欠・頸部 1/2 ～底部 1/2 強	床 +2		4.2		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　頸部細い篦ナデ、胴部篦ケズリに近い篦ナデ。 内　頸部ハケ、胴部篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
282	6	34	9	土師器甕 底部完存	床直		8.0		2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ケズリに近い篦ナデ。 内　篦ナデ。	
282	7	34	47	土師器坏 底部完存	床 +5 粘土上 ほぼ床直				10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ、底部篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。平底の坏。
282	8	34	2	土師器甕 口縁全欠 胴部ほぼ完存	床直		7.2		7.5YR3/3 暗褐色	良好	砂粒多	外　篦ナデ（篦ケズリに近い） 内　指ナデ指押さえ。	輪積み明瞭。底部は凹凸。器壁が厚く鈍重。
282	9	34	24	土師器鉢 底部完存	床 +24		4.4		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
282	10	34	25	土師器甕 底部完存	一括		2.3		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
282	11	34	23	土師器鉢 底部完存	一括		4.3		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
282	12	34	21	土師器甕 底部完存	床 +24		3.6		10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
282	13	34	10	ミニチュア鉢 底部完存～口縁 1/6	粘土上 +9	(4.0)	2.9	3.7	10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
282	14	34	5	土師器高杯 口縁 1/3	床 -1・床直	(15.8)			2.5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。脚部との接合はホゾ方式。
282	15	34	12	土師器坏 口縁 1/4 強	一括	(17.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
282	16	34	11	土師器坏 口縁 1/4	一括	(6.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
282	17	34	15	土師器坏 口縁 1/4	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面輪積み痕明瞭。
282	18	34	14	土師器鉢 口縁 1/3	一括	(12.2)			10YR5/6 黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ナデ一部篦ミガキ、体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
282	19	34	13	土師器坏 口縁 1/3	一括	(15.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ナデ。 内　口縁部ナデ、体部ナデ。	内外面赤彩。
282	20	34	4	土師器高杯 口縁 1/4 ～坏部 1/2	床 +5 焼土上床直	(15.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。脚部との接合はホゾ方式。
282	21	34	31	土師器高杯 坏・裾部欠	粘土上 +3 （床直に近い）		(10.0)		2.5YR4/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後裾部の一部篦ミガキ。 内　脚内面指ナデ、裾部篦ナデ。	外面全面・内面坏のみ赤彩。
282	22	34	40	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　沈線文と縄文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
282	23	34	41	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　沈線文間に縄文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
282	24	34	37	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　懸錘文と縄文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
282	25	34	42	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　懸錘文と縄文。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
283	1	35	2	土師器甕 口縁 1/8	一括	(25.1)			7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
283	2	35	3	土師器坏 全体 1/4	カマド一括	(14.6)	(4.7)	4.2	10YR7/4 にぶい黄橙～10YR5/2 灰黄褐色	良好	砂含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
283	3	35	6	土師器扁平坏 全体 1/4	一括	(11.6)	(8.0)	3.2	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	
283	4	35	5	土師器坏 口縁 1/8	一括	(11.0)			10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	黒色処理。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
283	5	35	4	土師器坏 口縁～体部 1/8	一括	(10.8)			7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	黒色処理。
283	6	35	12	須恵器蓋 口縁 1/4	一括	(9.7)			10Y5/1 灰色 N-5/0 灰色	良好	密	外　ロクロ、返り内に沈線。 内　ロクロ。	
283	7	35	13	須恵器蓋 全体 1/4	一括				5Y5/1 灰色 N-5/0 灰色	良好	密	外　天井部ロクロ整形後手持ち篦ケズリ。 内　ロクロ。	長さ（4.4cm）。
283	8	35	1	土師器坏 全体 1/3	一括	(13.0)		(5.3)	7.5R4/6 赤～7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、体部篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
283	9	35	7	土師器高杯 脚部裾全欠	一括				2.5Y5/2 暗灰黄色（坏内） 5YR6/6 橙色　7.5YR6/6 橙色（脚部）	良好	密	外　篦ナデ。 内　摩耗激しい。	
283	10	35	11	須恵器把手のみ	一括				5Y7/2 灰白色	良好	密	外　指ナデ、指整形。	長さ 4.5cm・幅 1.5cm・厚み 1.0cm。
283	14	35	14	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　平行沈線間に縄文。 内　ナデ。	
283	15	35	17	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　ナデ。	
283	16	35	19	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐～10YR3/1 黒褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	砂含む	外　懸垂文間に縄文。 内　ナデ。	
284	1	29	6	土師器二重口縁壺 口縁完存・胴部 1/3	周提帯 -2 床直	18.4		(19.6)	7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
284	2	29	5	土師器坩 胴部 1/3	床 +3				10R4/6 赤色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部指ナデ。	外面赤彩。
284	3	29	3	土師器甕 底部完存・胴部 1/3	床 +5		6.8		7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部キザミ、胴部ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
284	4	29	2	土師器甕 全体 4/5	周提帯 -2	14.9			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ハケ、胴部一部篦ナデ後篦ミガキ。	
284	5	29	1	土師器壺 ほぼ完形	床 -3	12.2	4.0	12.5	2.5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部一部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
284	6	29	4	土師器鉢 全体 1/2 弱	一括	(10.5)		(6.8)	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
284	7	29	16	土師器高杯 坏部 1/2	一括	(10.8)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
284	8	29	14	土師器鉢 底部完存・全体 1/4	一括		2.2	5.2	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
284	9	29	10	土師器甕 底部 1/3 弱	床 +5		4.8		2.5YR3/6 暗褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
284	10	29	11	土師器坩 口縁 1/8	一括	(13.0)			10R4/4 赤褐色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。外面煤付着、口唇部摩耗している。
284	11	29	12	土師器甕 口縁 1/8	一括	(13.6)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
284	12	29	9	土師器坏 口縁 1/8	一括	(14.2)			10R5/6 赤色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面赤彩。
284	13	29	15	土師器甕 口縁 1/12	一括	(16.4)			10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ。	
284	14	29	8	土師器坩 口縁 1/4	床直	(14.4)			7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
285	1	28	1	弥生甕　胴部	一括				7.5YR4/3 褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ミガキ。	頸部輪積み痕の一部をナデ消す。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
285	2	28	2	土師器甕　胴部	一括				7.5YR4/2 灰褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　敲き。 内　ナデ。	奈良・平安敲き甕。
286	1	番号なし	4	土師器甕 口縁 1/4	床直 +6	(15.0)			5YR5/4 にぶい赤褐色 2.5YR5/6 明 赤 褐 ～ 7.5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面赤彩？
286	2	番号なし	1	土師器甕 口縁 1/3 欠	床直 +6	13.7	7.6	24.9	5YR5/6 明赤褐～ 5YR2/1 黒褐色 7.5YR6/6 橙～ 7.5YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ、頸部指押さえ。	内面輪積み痕残る。
286	3	番号なし	2	土師器坩 全体 1/4	床直 +6	(13.0)		6.3	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
286	4	番号なし	3	土師器小型坩 口縁 1/4 欠	床直 +6	9.4			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	
286	5	番号なし	5	土師器甕　口縁部	床直 +6				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ナデ、頸部凸帯。 内　ナデ。	
286	6	番号なし	6	縄文深鉢　胴部	床直 +6				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　平行沈線間に細縄文。 内　ナデ。	
287	1	33	2	土師器甕 胴部 1/4	不明				5YR5/6 明赤褐色 10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	Po4 と注記されているが平面図に記載なし。
287	2	33	3	土師器鉢 底部完存	床直	(12.0)	3.7	6.7	5YR6/6 橙色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
287	3	33	7	土師器坩 底部完存	床 +8		3.0		10R5/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
287	4	33	8	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(9.4)			10R5/6 赤色 2.5YR5/4 にぶい赤褐～ 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他ナデ。 内　ナデ。	外面全面・内面口縁部のみ赤彩。
287	5	33	9	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/4 にぶい赤褐～ 7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　円形竹管による連続平行刺突文間に細縄文。 内　ナデ。	
287	6	33	11	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　縄文。 内　ナデ。	
288	1	32B	1	土師器甕 口縁～胴部ほぼ完存	床直	15.0			10YR6/6 明黄褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
288	2	32B	2	土師器甕 口縁 1/4・胴部 1/2	一括	(17.0)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面下部に煤が付着している。
288	3	32B	5	土師器甕 全体 1/2・底部完存	床直		4.0	17.0	5YR4/6 赤褐色 5YR6/8 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ一部に指押さえ。	
288	4	32B	4	土師器甕 底部完存 口縁～胴部の一部 全体の 1/3	カマド一括		5.8	16.2	10YR4/4 褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
288	5	32B	3	土師器甑 全体 3/4	カマド一括	17.7		18.8	7.5YR6/8 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部の一部に指押さえ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
288	6	32B	6	手捏土器鉢 口縁 4/5	カマド一括	9.1	7.1	4.8	5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　指ナデ指整形。	底部外面から径 0.4㎝の孔を穿つ。
288	7	32B	8	土師器坩 底部完存	一括				10R4/8 赤色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	0.5㎜大の礫含む	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
288	8	32B	7	土師器坏 口縁 1/4	一括	(14.6)			10R4/6 赤色（口縁部） 7.5YR6/6 橙色（体部）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面口縁部・内面全面赤彩。
289	1	32A	2	弥生甕 胴部 1/3	床直				2.5YR6/8 橙～ 7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR6/6 橙～ 7.5YR4/3 褐色	良好	1㎜大の小石多く含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
289	2	32A	1	弥生壺 頸部～胴部 1/2 弱	一括		(3.6)		2.5YR4/6 赤 褐 ～ 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂粒含む	外　頸部沈線の上位に細縄文、下位篦ミガキ。 内　不明。	外面施文以外赤彩。
289	3	32A	3	弥生甕　口縁部	床 +3				7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	砂粒含む	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
289	4	32A	4	弥生甕　口縁部	床直				10YR7/4 にぶい黄橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	砂粒含む	外　折り返し口縁。 内　ナデ。	
289	5	32A	5	弥生甕　口縁部	床直				10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	1㎜大の砂粒含む	外　折り返し口縁。 内　ナデ。	
289	6	32A	6	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	頸部に 2 段以上の輪積み。
290	1	30	6	土師器甕 口縁 1/4	一括	(12.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
290	2	30	1	土師器甕 底部完存	床 +4		4.4		5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
290	3	30	2	土師器坩 口縁 1/16	一括	(10.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
290	4	30	3	土師器坩 口縁部一部欠	床直	9.6	1.0	5.4	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ後篦ミガキ、体部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後篦ミガキ、体部篦ナデ後篦ミガキ。	
290	5	30	9	土師器高杯 口縁 1/3	一括	(11.6)			10R5/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
290	6	30	4	土師器甕 底部 1/4	一括		(6.1)		5YR5/6 明赤褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
290	7	30	8	土師器甕 底部 1/3	一括		(5.3)		7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面一部にハケが微かに残る。
290	8	30	7	土師器器台 脚部 1/8	一括		(9.6)		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
290	9	30	5	中世擂り鉢　胴部	一括				10R3/2 暗赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	内　櫛状工具による条間の広い凹凸面あり。	
291	1	26	4	土師器高杯 口唇部欠く	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　坏部篦ミガキ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	
291	2	26	3	土師器高杯 口縁一部～坏・底部残存・脚部大半欠く	一括	(16.3)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ、脚内面指掻き取り。	内外面赤彩。
291	3	26	1	土師器坏 口縁 1/3～底部 3/4	カマド一括	(15.0)			10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
291	4	26	5	土師器甕 底部完存	一括		5.0		10YR3/2 黒褐色	良好	砂粒多	外　粗い篦ナデ。 内　篦ナデ。	
291	5	26	6	弥生甕 底部完存	一括		5.2		10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部中央に径 2.2 ～ 0.8㎝程の楕円孔。
291	6	26	2	土師器ミニチュア鉢 底部～口縁極一部	一括	(5.6)	1.4	3.1	7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
291	7	26	7	弥生甕　頸部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　頸部原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
292	1	25	4	弥生甕 口縁 1/3 残	床 -2	(19.0)			2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸～胴部篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。	
292	2	25	1	弥生壺？ 口縁 1/2 弱・胴部 2/3 底部全欠	一括	(10.8)			2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部沈線後ハケ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ、胴部篦ナデ。	内面輪積み痕あり。
292	3	25	7	弥生鉢 口縁 1/6 残	床直	(27.2)			5YR6/6 橙色 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文間に S 字結節文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
292	4	25	5	土師器甕 口縁 1/8 弱残	一括	(14.6)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ。 内　口縁部篦ナデ、胴部篦ナデ。	
292	5	25	6	弥生甕 底部完存	床直		7.8		7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
292	6	25	2	土師器鉢 体部1/8残・底部3/4残	一括	（12.2）	4.0	7.7	7.5YR4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ、底部付近篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。口縁部面取り。
292	7	25	9	土師器高杯 裾部全欠・脚部1/2	床 +8				2.5YR6/6 橙色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	微砂粒多	外　ハケ。 内　篦ナデ。	
292	8	25	3	土師器高坏 脚部完存	床直		9.6		10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
292	9	25	8	弥生壺　口縁部	一括				10R4/4 赤褐色 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面施文以外赤彩。口縁部2連の棒状浮文。
293	1	23	11	土師器壺 口縁完存～胴部上位1/4強	床 +10	16.8			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。	
293	2	23	2	土師器壺 口縁完存	床 +1	16.5			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
293	3	23	1	土師器甕 口縁・底部完存 胴部1/3欠	床 +5	13.0	3.9	12.9	10YR3/3 暗褐色 7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ後一部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	
293	4	23	5	土師器坩 胴部1/8	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
293	5	23	4	土師器甕 底部1/2弱	一括		（6.2）		7.5YR6/6 橙色	良好	1～2㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
293	6	23	3	土師器高杯 全体1/2	一括	7.6	（10.2）	7.0	10R4/6 赤色 5YR5/6 赤褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ナデ、脚部篦ナデ。	外面赤彩。
293	7	23	7	土師器二重口縁壺 口縁1/16	一括	（10.0）			10R4/8 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。
293	8	23	6	土師器坩 胴部1/2弱	一括				5YR5/8 明赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ、下端部器面剥離。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
295	1	22B	8	土師器壺 底部全欠	床直	19.2			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ後一部篦ナデ、胴部篦ナデ。	内外面口縁部に弱い稜線、内面口縁部中央に一条の沈線。 NO-16と同一個体？。
295	2	22B	5	土師器甕 底部全欠	床直	17.6			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
295	3	22B	2	土師器甕 口縁完存	床直	17.4			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面輪積み明瞭。
295	4	22B	1	土師器甕 口縁一部欠	床直	18.6			2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR3/2 黒褐色	良好	2㎜大礫含む	外　口縁部ナデ、中位～胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、中位篦ナデ。	
295	5	22B	7	土師器甕 口縁1/4欠	床直	15.8			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、輪積みの段の丁寧なナデが折り返し口縁気味に残る、胴部篦ケズリ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
295	6	22B	4	土師器甕 底部全欠	床直	15.2			2.5YR4/8 赤褐色 5YR3/2 暗赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部粗いハケ後篦ケズリ。 内　口縁部ナデ後篦ナデ、胴部粗いハケ。	
295	7	22B	3	土師器甕 口縁1/6欠	床直	14.1			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
295	8	22B	12	土師器甕 口縁ほぼ完存	床 +3	15.4			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
295	9	22B	14	土師器甕 口縁1/4	床直	（18.6）			5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内面の輪積み痕が上方を向く珍しい例。
295	10	22B	11	土師器甑 口縁完存	床直	23.6			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ケズリに近い篦ナデ。	
295	11	22B	9	土師器甕 口縁1/2	一括	15.2			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
295	12	22B	23	土師器壺 口縁完存	一括	14.4			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	口唇部外面に沈線状に凹帯。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
295	13	22B	24	土師器S字甕 口縁1/8弱残	床+15	(14.6)			5YR3/1黒褐色 5YR6/6橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
295	14	22B	34	土師器甕 底部完存	カマド左脇+2　床　+3				2.5YR4/6赤褐色	良好	5㎜大の礫目立つ	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	丸底。
295	15	22B	15	土師器甕 底部1/3	床直		(5.0)		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
295	16	22B	16	土師器甕or壺 底部完存	カマド一括		7.6		5YR4/6赤褐色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ナデ、底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	NO-1と同一個体？。
295	17	22B	20	土師器高杯or坏 口縁1/3	一括				10R4/6赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部篦ナデ。 内　口唇部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。口唇部面取り水平に仕上げる。
295	18	22B	21	土師器坏 口縁1/3	床+1	(16.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面赤彩。
295	19	22B	19	土師器坏 口縁1/3	一括	(16.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。	内外面赤彩。
295	20	22B	6	土師器坩 口縁3/4・底部全欠・胴部完存	床直	(10.0)			2.5YR3/6暗赤褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部篦ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部篦ナデ、胴部篦ナデ。	胴部内面以外赤彩。
295	21	22B	22	土師器坩 口縁1/3	一括	(12.2)			10R4/6赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	内外面赤彩。
295	22	22B	27 28 29	土師器高杯 坏部1/4～裾部1/3	カマド一括	(18.4)	(12.4)	(12.0)	5YR4/6赤褐色	良好	密	外　坏部ナデ、脚部篦ナデ、裾部ナデ。 内　坏部ナデ、脚部篦ケズリ後篦ナデ、裾部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。　内外摩耗。
295	23	22B	30	土師器高杯 口縁1/4	一括	(16.0)			10R4/6赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
295	24	22B	18	土師器鉢 口縁一部欠	床直	6.0	4.6	4.8	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
295	25	22B	17	土師器鉢 底部完存	一括		4.0		5YR5/4にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
297	1	20	3	土師器壺 口縁1/4弱	一括	(16.0)			5YR6/6橙色	良好	密	外　折り返し口縁、他ナデ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
297	2	20	9	土師器甕 底部3/4強	床直		7.4		7.5YR5/4にぶい褐色 10YR4/2にぶい灰黄褐色	良好	砂粒多	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	外面の一部に粗いハケ残る。
297	3	20	2	土師器甕 胴部ほぼ完存・底部完存	床直		7.6		7.5YR6/6橙色	良好	密	外　胴部中位剥離、摩耗、篦ナデ。 内　篦ナデ。	
297	4	20	1	土師器壺 胴部3/4残	床直				5YR4/8赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
297	5	20	5	土師器坏 全体1/2強	床直	(12.8)	9.9	5.2	5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ一部篦ミガキ。	器形は舟形。
297	6	20	10	弥生甕　口縁部	床直				10YR6/4にぶい黄橙色	良好	微砂粒含む	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
297	7	20	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2灰黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
297	8	20	6	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　摩耗。	加曽利E式土器。
297	9	20	7	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR4/4褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　摩耗。	加曽利E式土器。
298	1	19	8	土師器甕 口縁3/4	床+1	17.2			7.5YR6/6橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ、他篦ナデ。	輪積み。
298	2	19	2	土師器甕 全体1/2弱	床直	16.0			7.5YR4/4褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
298	3	19	5	土師器甕 底部 1/2 弱	床 +1		(5.6)		10YR3/1 黒褐色 7.5YR6/6 にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
298	4	19	3	土師器甕 胴部一部欠	床 +1	12.1	4.6	13.1	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	外面下位は篦ナデ？磨耗。
298	5	19	4	土師器甕 底部完存	床 +4		6.7		10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
298	6	19	1	土師器甕 底部 3/4	床 +4		6.9		10YR3/2 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
298	7	19	7	縄文深鉢　胴部	床 +5				10YR3/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文、懸垂文間に縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 E 式土器。
299	1	18	1	土師器甕 胴部 1/2 欠	床 +2	14.2	4.8	18.0	10YR3/2 黒褐色 10YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後篦ナデ。	
299	2	18	2	土師器甕 口縁 1/3 残	一括	(13.8)			10YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	内面磨耗。
299	3	18	3	土師器坩 口縁 1/8 強・底部 1/2 弱	床 -2	(9.1)		6.5	10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
299	4	18	4	土師器器台 脚部全欠	一括	8.4			10YR4/6 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
300	1	24	1	弥生甕 口縁 1/8 強	床直・床 +10	(19.4)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸～胴部篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。	外面頸部一段の輪積み痕残る。
300	2	24	4	土師器甕 口縁 1/8 弱	床直	(23.4)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ミガキ。	
300	3	24	2	弥生甕 頸部～胴部 1/4 弱	床直・床 +10				7.5YR5/3 にぶい褐～7.5YR3/2 黒褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	砂含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面頸部二段の輪積み痕残る。
300	4	24	3	弥生壺 口縁 1/4 弱	床直	(21.0)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	砂含む	外　折り返し口縁部羽状縄文、棒状浮文 2 連。 内　篦ミガキ。	
300	5	24	5	土師器壺 口縁 1/8 強	床直	(16.1)			7.5YR7/6 橙色	良好	砂含む	外　折り返し口縁部ナデ、頸部ナデ。 内　折り返し口縁部ナデ、頸部ナデ。	
300	6	24	6	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(20.4)			7.5R4/6 赤色	良好	1㎜大の小石含む	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
300	7	24	13	土師器高杯	床直		10.8		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
300	8	24	10	弥生壺　胴部	床直				10R5/6 赤～7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	砂含む	外　沈線区画内に S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
300	9	24	9	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/6 赤褐～7.5YR5/3 にぶい褐色 5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	1㎜大の粒含む	外　沈線区画内に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
300	10	24	12	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	砂含む	外　羽状縄文後沈線による山形文。 内　篦ナデ。	
300	11	24	11	弥生壺　胴部	床直				5YR6/4 にぶい橙色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　羽状縄文後沈線による山形文。 内　篦ナデ。	
300	12	24	8	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/2 灰褐色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　篦ナデ。	
301	1	39	3	土師器甕 口縁 1/4	一括	(23.0)			5YR6/8 橙色	良好	礫多く含む	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
301	2	39	7	土師器坏 口縁 1/5	一括	(9.0)			5YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面黒色処理。外面器面磨耗激しく一部黒色処理飛ぶ。
301	3	39	5	土師器坏 口縁 1/8	一括	(12.2)			7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内面黒色処理。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
301	4	39	2	土師器坏 全体1/2	床＋9	(9.8)		4.5	5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面黒色処理。
301	5	39	6	土師器坏 全体1/4	一括	(9.6)			5YR3/1黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	外面口縁部・内面黒色処理。
301	6	39	1	土師器高坏 全体2/3	一括	8.0	11.9	8.0	5YR4/6赤褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ、脚部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ、脚部内面篦ナデ。	坏部全面・脚部外面赤彩。脚の3方に穿孔。
301	8	39	11	弥生壺　口縁部	カマド一括				7.5YR5/6明褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部下端ハケ状工具によるキザミ目。 内　篦ナデ。	
301	9	39	9	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色 5YR4/6赤褐色	良好	砂粒含む	外　折り返し口縁部原体押捺、以下沈線区画内に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	2.5YR3/3暗赤褐色（外面赤彩部）。
301	10	39	8	弥生壺　胴部	一括				10YR4/3にぶい黄褐色 2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	1㎜大の砂粒く含む	外　篦ナデ、沈線区画内細縄文。 内　篦ナデ。	
301	11	39	10	弥生壺　胴部	一括				5YR4/6赤褐色	良好	1㎜大の砂粒多く含む	外　沈線区画内羽状縄文。 内　篦ナデ。	
301	12	39	20	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/8橙色	良好	1㎜大の礫含む	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	
301	13	39	21	須恵器甕　胴部	一括				5Y4/1灰色	良好	密	外　平行敲き。 内　青海波磨り消す。	
301	14	39	14	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/6黄褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　沈線文。 内　ミガキ。	
301	15	39	12	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/6黄褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　ナデ。 内　篦ミガキ。	
301	16	39	15	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
301	17	39	13	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
301	18	39	16	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　粗いナデ。	
302	1	37	1	土師器壺 ほぼ完形	床＋5	11.7	5.7	22.4	7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ篦ケズリ、他篦ミガキ。 内　頸部篦ナデ。	
302	2	37	2	土師器坩 全体2/3・底部完存	一括	8.0	4.9	10.8	10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ。	
302	4	37	3	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/6明褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、口縁部ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、口縁部ナデ。	
302	5	37	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR3/1黒褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
302	6	37	6	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6橙色	良好	密	外　S字状結節文、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面赤彩。
302	7	37	5	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6橙色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	0.5㎜大の礫含む	外　沈線区画による山形文内に細縄文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
302	8	37	7	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/6明赤褐色	良好	密	外　沈線による懸垂文。 内　ナデ。	
303	1	38	1	弥生甕 口縁1/4	床直	(23.8)			10YR6/4にぶい黄橙色 10YR5/3にぶい黄橙色	良好	砂粒含む	外　折り返し口縁部指頭押捺文とナデ、他篦ナデ。 内　口縁部ナデ、他篦ナデ。	口縁部4段以上の輪積み。
303	2	38	2	弥生壺　胴部	床＋10				2.5YR5/6明赤褐～5YR6/6橙色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外　沈線上位篦ミガキ、沈線下位に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
303	3	38	3	弥生壺　胴部	一括				10YR5/3にぶい黄褐色 7.5YR6/6橙色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
303	4	38	5	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　平行沈線。 内　ナデ。	
303	5	38	4	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　縄文。 内　ナデ。	
303	6	38	6	縄文深鉢　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	1㎜大の礫含む	外　沈線下に縄文。 内　ナデ。	
304	1	48	21	土師器壺 口縁 1/16 残	一括	(22.2)			5YR6/6 橙色	良好	微砂粒多	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	口唇部面取り。内外面器面剥離やや激しい。 内外面輪積み痕あり。
304	2	48	22	土師器壺 口縁 1/8 残	一括				10R5/6 赤色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　頸部ハケ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	口唇部面取り。外面輪積み痕あり。
304	3	48	18	土師器壺 口縁 1/3 残	一括	(18.2)			5YR4/1 褐灰色 5YR5/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面輪積み痕あり。
304	4	48	15	土師器甕 口縁 1/4 弱残	一括	(18.6)			5YR6/6 橙色	良好	微砂粒含む	外　ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	
304	5	48	17	土師器甕 口縁 1/16 残	一括	(14.2)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
304	6	48	16	土師器甕 口縁 1/3 残	床 +3	(14.3)			5YR3/1 黒褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。	
304	7	48	19	土師器甕 口縁 1/3 残	床 +12	(18.4)			7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部上位ナデ、中位篦ナデ、下位篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
304	8	48	7	土師器甕 底部 1/3 残	焼土内 +14 床直・一括		(6.2)		7.5YR4/2 灰褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面輪積み痕あり。
304	9	48	1	土師器甕 口縁全欠	P9 内底面より +19 床 +12				5YR5/3 にぶい赤褐色	良好	2 ～ 10 ㎜大の礫含む	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	内面輪積み痕あり。
304	10	48	6	弥生広口壺 頸部～胴部 1/4 残	床 +12				5YR6/4 にぶい橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	微砂粒多	外　頸部輪積みによる隆帯上に細縄文と棒状浮文状の貼り付け文、胴部平行沈線による区画内に細縄文。 内　篦ナデ。（器面摩耗）	
304	11	48	2	土師器鉢 口縁 1/4 欠	P9 内 底面より +19	14.5	8.2	6.2	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、底部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。	内面器面剥離。
304	12	48	9	土師器鉢 全体 1/3 残	床直・一括	(15.2)		7.3	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
304	13	48	10	土師器鉢 口縁 1/3 残・胴部～底部 2/3 残	一括	(11.6)	6.2	4.8	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、底部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
304	14	48	3	土師器鉢 口縁一部欠	床直	13.8		7.3	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
304	15	48	8	土師器鉢 全体 2/3 残	床 +25	8.3	6.5	6.5	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	2 ～ 6㎜の礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ、底部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
304	16	48	5	土師器坏 完形	P9 一括	12.6		4.2	10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
304	17	48	12	土師器坏 口縁 1/5 残	一括	(12.5)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	8㎜大の礫含む	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　条線状の篦ナデ。	
304	18	48	4	土師器坏 口縁 1/2 弱欠	床 +16	15.2		4.8	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面質の悪い赤彩。
304	19	48	11	土師器坏 全体 1/3 残	床 +9	(12.6)		5.2	10YR5/6 赤色 7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面部分的に赤彩。
304	20	48	13	土師器坏 口縁 1/6 残	一括	(13.4)			5YR6/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
304	21	48	14	土師器高杯 坏部 1/3 残	P9 一括				10R5/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
304	22	48	72	須恵器樽形瓮 脚部極一部	一括				10YR3/1 黒褐色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ロクロナデ。	外面自然釉付着。
304	25	48	25	弥生甕　口縁部	一括				2.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
304	26	48	26	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による連続刺突文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
304	27	48	28	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部原体押捺による波状文。 内　篦ナデ。	
304	28	48	49	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部棒状工具による連続刺突文、他ハケ。 内　ハケ。	
304	29	48	56	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
304	30	48	58	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　篦ナデ。	
304	31	48	57	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR6/4 にぶい橙色	良好	1～4mm大の礫含む	外　櫛描き文。 内　篦ナデ。	
304	32	48	36	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部ハケ状工具によるキザミ、胴部櫛描き文。 内　ナデ。	
304	33	48	50	弥生甕？鉢　口縁部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、折り返し口縁部に羽状縄文、胴部篦ミガキ。 内　ナデ。	
305	1	49	6	土師器高杯 口縁 1/4 弱欠	一括	18.1			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部ハケ後篦ナデ。	内外面赤彩。
305	2	49	3	土師器高杯 脚部柱状脚部のみ	一括				10R4/6 赤色 7.5YR6/8 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
305	3	49	2	土師器高杯 脚部柱状脚部のみ	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　裾部付近篦ナデ。 内　篦による掻き取り後篦ナデ。	外面赤彩、摩耗激しい。
305	4	49	1	土師器高杯 脚部下端欠	一括				10R5/6 赤色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
306	1	50	1	弥生壺 頸部完存	床直				7.5Y6/6 橙色 7.5YR4/3 褐～ 10R4/8 赤色	良好	密	外　頸部篦ミガキ、沈線下位に羽状縄文。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
307	1	51	3-1	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/1 褐灰色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部原体によるキザミ目、胴部篦ナデ後ハケ。 内　口縁部ハケ、キザミ裏側に指押さえ、胴部篦ナデ。	NO-2・8・9 と同一個体。
307	2	51	3	弥生甕　口縁部	一括				10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部原体、胴部ハケ。 内　ハケ。	NO-1・8・9 と同一個体。
307	3	51	5	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部原体によるキザミ目、胴部櫛描き文。 内　横ハケ。	
307	4	51	2	弥生壺　口縁部	一括				10R5/8 赤～ 5YR6/8 橙色 10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺、他篦ナデ。 内　横篦ミガキ。	内外面赤彩。
307	5	51	1	弥生甕 底部完存	床 +10		6.3		5YR6/6 橙色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
307	6	51	4	縄文深鉢　胴部	一括				5YR4/3 にぶい赤褐色 5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　格子状の平行沈線文。 内　ナデ。	加曽利 B 式土器。
307	7	51	6	弥生鉢　胴部	一括				2.5YR6/6 橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	
307	8	51	3-2	弥生甕　胴部	一括				10YR4/1 褐灰色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ハケ。	NO-1・2・9 と同一個体。
307	9	51	3-3	弥生甕　胴部	一括				10YR4/1 褐灰色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ。	NO-1・2・8 と同一個体。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
308	1	44	1	土師器坩 口縁 2/3 ～胴部 1/2	床直	12.2			2.5YR4/6 赤褐色 10YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面口縁～頸部赤彩。内面輪積み明瞭。
308	2	44	7	土師器坩 底部完存～胴部 1/2	床直		4.0		10R4/6 赤色 5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ、底部付近篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
308	3	44	3	土師器坩 口縁全欠・底部 1/2 ～胴部 1/4	床直		3.8		10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　摩耗激しい。 内　篦ナデ。	内面輪積み痕明瞭。
308	4	44	2	弥生壺 口縁全欠・頸部～胴部 1/3 残・底部完存	床直		4.7		10R4/4 赤褐～ 10YR4/6 褐色 10R5/6 赤～ 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　頸部沈線上位に細縄文、胴部篦ミガキ一部摩耗、底部付近篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面頸部赤彩、篦ミガキ範囲に赤彩。
308	5	44	8	土師器小型甕 口縁 1/4	一括	(13.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	内外面赤彩。
308	7	44	5	土師器坏 口縁 1/8	一括	(12.2)			10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　摩耗激しい。 内　摩耗激しい。	内面僅かに篦ミガキの痕あり。
308	8	44	6	土師器高杯 脚部 1/4	一括		(10.4)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
308	9	44	4	弥生口唇部指頭押捺波状文、他 底部完存	床直		4.5		7.5R4/4 にぶい赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
308	11	44	13	須恵器樽型𤭯　胴部	一括				7.5Y3/1 オリーブ黒色 10Y4/1 灰色	良好	密	外　二条の沈線間に櫛描き波状文。 内　回転ナデ後指押さえ。（おそらく口縁部接合後の窪み痕）	
308	12	44	12	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	全雲母含む。	外　折り返し口縁部下位に粘土紐貼り付けによる隆帯文と角押文。 内　ナデ。	
309	1	47	2	弥生鉢 胴部 1/4	床 +5				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　胴部下位に棒状工具による連続刺突文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
309	2	47	1	弥生鉢 全体 3/4	床 +2	13.6	5.8	5.1	10YR6/6 明黄褐色 10YR5/8 黄褐色	良好	密	外　粗い篦ナデ。 内　篦ナデ。	
309	3	47	4	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/1 褐灰色 7.5Y6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
309	4	47	3	弥生鉢　口縁部	一括				5YR6/6 橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　ナデ。	焼成後穿孔。
310	1	45	1	弥生壺 完形	床直	8.7	5.25	15.9	10YR6/4 にぶい黄橙～ 10R4/4 赤褐色	良好	砂含む	外　折り返し口縁、口唇部細縄文直下に篦ナデ、頸～胴部区画内に羽状縄文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁～頸部篦ナデ。	外面頸部以下・内面口縁部赤彩。
310	2	45	3	弥生壺 口縁～頸部のみ	床直	14.8			10YR6/6 明黄褐～ 10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と指頭交互押捺、頸部に一条の沈線以下羽状縄文、他篦ミガキ。 内　頸部中位まで篦ミガキ。	外面全面・内面篦ミガキ範囲のみ赤彩。
310	3	45	4	弥生壺 底部ほぼ完存	一括		6.0		7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR4/2 にぶい灰黄褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
310	4	45	2	弥生鉢 口縁～胴部 1/4 強 底部 1/8 欠	床 +7	(22.8)	6.5	11.8	7.5YR7/6 橙～ 10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR7/6 橙～ 2.5YR4/8 赤褐色	良好	砂含む	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文と棒状工具による原体押捺文、体部沈線より上位は羽状縄文、以下篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ一部残るも剥離、摩耗激しく不明。	外面赤彩。
310	5	45	5	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR5/6 明褐～ 5YR4/4 にぶい赤褐色 2.5YR4/3 にぶい赤褐色	良好	1㎜大の粒含む	外　折り返し口縁、口唇部細縄文。 内　篦ミガキ。	内面全面・外面は頸部より赤彩。
310	6	45	8	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/2 灰黄褐色 10YR4/1 褐灰色	良好	砂含む	外　平行沈線文と半截竹管による爪形文。 内　ナデ。	
311	1	46	3	弥生壺 口縁 1/8	一括	(19.4)			5YR6/4 にぶい橙～ 10R5/6 赤色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と原体押捺、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面施文以外赤彩。
311	2	46	2	弥生甕 口縁 1/16	一括	(22.0)			2.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
311	3	46	4	弥生甕 口縁 1/16	床 +14	(20.0)			10YR4/1 褐灰色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
311	4	46	1	弥生壺 底部 1/3	一括		(5.6)		10YR7/4 にぶい黄橙～ 5YR5/1 褐灰色 10YR7/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ケズリ後篦ミガキ。 内　器面摩耗。	外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
311	5	46	6	弥生壺 底部 1/4	一括		(6.0)		10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
311	6	46	5	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/1 褐灰色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	
311	7	46	8	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　沈線区画による山形文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
311	8	46	7	弥生壺　胴部	一括				7.5R3/6 暗赤色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　S 字状結節文、他篦ミガキ。 内　器面剥離。	外面赤彩。
311	9	46	10	弥生壺　胴部	一括				5Y6/1 灰色 5Y4/1 灰色	良好	密	外　半截竹管状のキザミ目と沈線。 内　ナデ。	
311	10	46	9	弥生壺　胴部	一括				10YR6/3 にぶい黄橙色 10YR5/1 褐灰色	良好	密	外　平行沈線による山形文内に細縄文。 内　篦ミガキ。	
312	1	41	1	土師器甕 口縁～胴部一部欠	床直	17.5	6.8	21.0	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸～胴部篦ナデ。	底部径 6.4cmの円孔。
312	2	41	5	土師器小型甕 口縁 1/6	一括	(11.8)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部篦ナデ。 内　口縁部ナデ。	内外面赤彩。
312	3	41	2	土師器甕 底部 1/2 弱	床直 カマド一括		(9.2)		5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
312	4	41	3	土師器坏 口縁 1/2	カマド一括	14.4		7.7	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口唇部ナデ、体部篦ナデ。 内　口唇部ナデ、体部篦ナデ。	
312	5	41	17	土師器坏 口縁 1/3	床 +4	(16.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
312	6	41	4	手捏土器鉢 口縁 4/5	カマド一括	3.0	2.8	1.6	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　指ナデ指整形。 内　指ナデ指整形。	
312	7	41	7	弥生鉢　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文施文後円形竹管による連続刺突文。 内　ナデ。	口縁部 2 ヶ所に径 0.6cm程の焼成後穿孔。
312	8	41	9	弥生壺　口縁部	一括				5YR4/6 赤褐色 10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部 S 字状結節文と円形竹管文による連続刺突文。 内　ナデ。	外面赤彩。
312	9	41	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/4 褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、口縁部ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、口縁部篦ナデ。	
312	10	41	11	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
312	11	41	12	縄文深鉢　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　角押文による刺突文と隆帯文。 内　ナデ。	
313	1	43	2	弥生広口壺 全体 1/3	床直	17.2	(6.8)	16.2	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下端～頸部と脚部の堺目にハケ状工具による押捺文、脚部一段の段を持ち篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
313	2	43	4	弥生壺 胴部 3/4	床直		8.3		7.5YR5/6 明褐色	良好	1㎜大の小石含む	外　平行沈線間に羽状縄文。 内　篦ナデ。	
313	3	43	1	弥生壺 胴部～底部 1/4 欠	床直		(7.0)		10R4/8 赤～ 10YR5/4 にぶい黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　頸部羽状縄文、胴～底部篦ナデ後篦ミガキ。 内　器面剥離激しい。	外面胴部中位より上赤彩。
313	4	43	6	弥生壺 底部 1/2	床直		7.4		10R4/6 赤～ 10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面底部以外赤彩。
313	5	43	5	弥生鉢 口縁 1/4	床 +5	(13.2)			5YR5/6 明赤 褐～ 10YR6/6 明黄褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部に細縄文と羽状縄文、口縁端部に原体押捺、胴部篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	焼成前口縁下位に 2 ヶ所 3㎜程の穿孔。
313	6	43	3	弥生鉢 口縁 1/4 欠	床直	12.7	6.2	11.0	10R4/6 赤～ 2.5YR5/6 明赤褐色 10YR4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部端部押捺文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。外面やや摩耗激しい。 口縁部下の 2 ヶ所に 3㎜程の穿孔。
313	7	43	8	弥生甕　口縁部	床直				10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6./6 明黄褐色	良好	砂含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
313	8	43	7	弥生甕　口縁部	床 +5				10YR6/6 明黄褐～ 10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ナデ。	
313	9	43	10	弥生甕　口縁部	床直				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き文。 内　ナデ。	
313	10	43	9	弥生甕　口縁部	床直				2.5Y4/2 暗灰黄色 2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
313	11	43	13	弥生広口壺　胴部	床直				10YR3/2 黒褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	北関東系土器。
313	12	43	11	弥生壺　胴部	一括				10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　沈線による山形文の上位にＳ字状結節文と細縄文。 内　ナデ。	
313	13	43	12	弥生甕　胴部	注記なし				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ナデ。	
313	14	43	14	縄文深鉢　胴部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　懸垂文間に縄文。 内　ナデ。	
314	1	42	2	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y4/1 黄灰色 2.5YR5/3 黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
314	2	42	3	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺。 内　ナデ。	
314	3	42	1	弥生甕　口縁部	一括				2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ナデ。	
314	4	42	4	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
314	5	42	9	弥生壺　口縁部	注記なし				10R5/4 赤褐～ 10YR7/4 にぶい黄橙色 10R5/6 赤色	良好	砂含む	外　口唇部細縄文施文後円形竹管による３ヶ所の装飾を施した、円形浮文を２連貼り付ける。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
314	6	42	8	弥生壺　胴部	床 +6				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　羽状縄文。 内　摩耗激しい。	
314	7	42	5	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　沈線下に羽状縄文。 内　ナデ。	
314	8	42	6	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文。 内　ナデ。	外面赤彩。
314	9	42	7	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
314	11	42	10	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部下位に沈線文。 内　ナデ。	
315	1	40	2	弥生甕 口縁 1/5・胴部 1/2 弱	床 +8	(26.0)			5YR5/6 明赤褐～ 7.5YR4/3 褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
315	2	40	1	弥生甕 全体 2/3 弱（底部全欠）	炉内 -9	(29.1)			10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部条線上の篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後一部篦ミガキ。	
315	3	40	8	弥生甕 底部 1/4	一括		(8.1)		7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　剥離激しい。	
315	4	40	10	弥生甕 底部 1/4 弱	一括		(7.0)		10YR4/1 褐灰色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	1～ 5㎜大の小石含む	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
315	5	40	9	弥生甕 底部 1/4	一括		(5.8)		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
315	6	40	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
315	7	40	5	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　胴部Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
315	8	40	6	弥生壺　胴部	一括				7.5R4/6 赤～ 5YR5/4 にぶい赤褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　頸部 S 字状結節文の上位に細縄文。 内　ナデ。	外面赤彩。
315	9	40	7	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	
316	1	31	2	土師器甕 口縁 1/8	一括	(21.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸～胴部ハケ。 内　口縁部ハケ、他ハケ後篦ナデ。	
316	2	31	1	土師器坩 口縁 1/6	一括	(13.2)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後篦ナデ。 内　ナデ。	
316	3	31	5	弥生壺　胴部	一括				5YR5/6 明赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	1㎜大の礫含む	外　S 字状結節文の上位に細縄文。 内　ナデ。	
316	4	31	4	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　沈線の上下に細縄文。 内　篦ナデ。	
317	1	17	15	弥生甕 口縁底部完存・胴部 2/3	床直	18.2	6.5	21.3	5YR2/1 黒褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部キザミ目、他ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	全体的に歪み。
317	2	17	14	弥生甕 ほぼ完形	貯蔵穴底	13.8	6.2	18.7	2.5YR2/1 赤黒色 5YR4/6 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部弱い指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
317	3	17	2	土師器甕 3/4 完存	床直	14.9	6.4	14.6	10YR6/6 明黄褐色	良好	茶褐色粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
317	4	17	3	弥生甕 口縁 1/3・底部全欠	床直	(15.6)			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
317	5	17	6	土師器甕 口縁 3/4	火床密着	14.9			10YR3/1 黒褐色 10YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ミガキ。	
317	6	17	8	土師器甕 底部完存	床 -2		6.8		10YR3/1 黒褐色 10YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
317	7	17	17	弥生壺 頸部～底部完存	床直		8.3		10R4/8 赤色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
317	8	17	5	土師器坩 口縁～頸部完存	火床密着	16.0			10R4/6 赤色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
317	9	17	9	土師器坩 底部全欠	床 +3	9.0			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	外面全面・内面口縁部赤彩。
317	10	17	18	土師器鉢 口縁～胴部完存　底部全欠	床 -2	12.0			2.5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
317	11	17	4	土師器鉢 底部全欠	床直	16.1			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	内外面赤彩。
317	12	17	16	弥生甕 胴部 1/2 弱	床直				7.5YR6/6 橙色 7.5YR5/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ、一部に指押さえ残る。 内　丁寧な篦ナデ。	頸部 5 段以上の輪積み。
317	13	17	13	弥生壺 口縁全欠	床直		8.2		7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後一部篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
317	14	17	20	土師器高坏 口縁 1/8	貯蔵穴底	(20.2)			5YR5/6 明赤褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
317	15	17	7	土師器高坏 坏部ほぼ完存	pit 内 -14 （底 +0）	19.9			10R5/6 赤色 10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
317	16	17	10	土師器坩 口縁全欠 頸部～胴部完存	床直		4.4		10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。内面測定不明。
317	17	17	1	土師器高坏 全体 1/3 強	床直	(16.8)	(10.2)	14.3	2.5YR4/6 赤褐色 7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	脚の 4 方に 2 連一組の穿孔。
317	18	17	12	土師器高坏 坏部一部欠	床 +5	8.3	9.0	9.3	10R4/8 赤色	良好	密	外　口唇部キザミ目、篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面全面・内面坏部赤彩。内外面器面磨耗激しい。 脚の 3 方に穿孔。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
317	19	17	11	土師器高坏 坏部全欠	床 +4		8.7		5YR6/6 橙～10R6/6 赤色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。脚の三方に穿孔。
317	20	17	19	土師器高坏 脚部完存	床 +6		5.0		10R4/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
318	1	16	1	弥生甕 口縁～胴部 1/4 弱	床直	(21.6)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部に一段の輪積みを意識的に残す。 内　摩耗。	胴部 6 段以上の輪積み。外面磨耗。
318	2	16	3	弥生壺 頸部～胴部上位ほぼ完存	床 +9				7.5YR6/6 橙～2.5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線間に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
318	3	16	2	弥生壺 頸部～胴部 1/3	床 +9				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　沈線上位に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
318	4	16	4	弥生甕 胴部 3/4 強・底部完存	床 +9		5.6		2.5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
319	1	95	1	土師器甕 完形	床 -2	16.1	6.3	4.8	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、頸部指ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部上位にハケ、他篦ナデ。	胴部上位に輪積み痕あり、この付近に粘土紐貼り付け後粗い篦ナデを施す。
319	2	95	2	土師器坏 口縁 1/4 欠	床直	15.6		5.1	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
319	3	95	3	土師器坏 完形	床直	12.6		5.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、体部篦ミガキ。	内外面赤彩。
319	4	95	4	土師器坏 口縁 1/2 弱欠	床直	12.6		4.6	7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	無彩坏。底部は平底ぎみ。
319	5	95	5	土師器高杯 口縁 2/3・脚裾 2/3 欠	一括	(15.4)	(11.8)	9.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	脚内面以外赤彩。
319	6	95	6	土師器高杯 脚部 1/4	一括		(14.0)		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面・脚内面の稜線まで赤彩。
320	1	15	3	土師器甕 全体 1/2 強	床 +3	(15.6)	5.6	16.1	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ、他篦ナデ。	輪積み痕あり。
320	2	15	1	土師器坩 ほぼ完形	床 +4	19.0	2.3	14.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部ナデ、口縁部篦ミガキ、体部篦ナデ。 内　口唇部ナデ、口縁部篦ミガキ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
320	3	15	2	土師器鉢 ほぼ完存・口縁一部欠	床 +5	14.1	3.3	7.7	5YR5/6 明赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
320	4	15	4	土師器高坏 坏部 2/3 弱	床 +3	15.6			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
320	5	15	5	土師器坩 口縁 1/6	床直	(10.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
320	6	15	8	土師器台付甕 脚部 1/4	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
320	8	15	6	土師器坏 底部のみ	床直				5YR5/6 明赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内面赤彩。沈線による放射状暗文。
321	1	88	6	土師器甑 口縁 1/8	一括	(22.6)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
321	2	88	3	弥生甕 底部完存	床 +28		6.6		7.5YR5/8 明褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
321	3	88	4	土師器坏 口縁 1/4	床直	(12.8)			10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、体部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面漆仕上げの黒色処理。
321	4	88	7	土師器坏 全体 3/4 強	一括	11.6		3.9	5YR2/1 黒褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	内外面黒色処理。
321	5	88	8	土師器坏 口縁 1/3	一括	(13.0)			10R4/6 赤色	良好	0.5㎜大の小石含む	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。比企型坏。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
321	6	88	11	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/6 にぶい褐色	良好	1㎜大の褐色粒含む	外　口唇部棒状工具によるキザミ目、他ナデ。 内　ハケ後篦ミガキ。	
321	7	88	15	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、折り返し口縁部に棒状工具による連続刺突文、ハケ後櫛描き文。 内　篦ナデ。	
321	8	88	14	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	1㎜大の褐色粒含む	外　折り返し口縁、口唇～全面に細縄文。 内　器面剥離。	焼成前に 0.4cm程の穿孔。
321	9	88	10	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　沈線文。 内　ナデ。	
321	10	88	9	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　無文。 内　ナデ。	
321	11	88	12	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	
322	1	55A	2	土師器甕 胴部一部欠	床 -3	18.0	5.7	25.2	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
322	2	55A	1	土師器甕 ほぼ完形	床直	15.0	5.8	24.5	5YR3/2 暗赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後一部篦ナデ。 内　口縁部付近ハケ後ナデ。	
322	3	55A	20	弥生甕 口縁 1/4	一括	(17.6)			10YR3/2 黒褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
322	4	55A	9	土師器壺 底部全欠	床 +11	18.6			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、胴部篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ一部篦ミガキ。	
322	5	55A	6	土師器甕 口縁 1/3 ～胴部 2/3 底部完存	床直	(13.8)	5.6	19.4	5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ後ナデ。 内　摩耗。	輪積み痕あり。
322	6	55A	3	土師器甕 胴部一部欠	床直	12.4	3.0	17.5	7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ。	
322	7	55A	7	土師器甕 口縁 3/4	床直	13.5			2.5YR3/2 暗赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
322	8	55A	46	土師器甕 口縁 1/16・胴部 1/2 弱	床 +4	(15.6)			5YR6/6 橙色	良好	密	外　ハケ。 内　口縁部ハケ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。	
322	9	55A	5	土師器甕 口縁 1/3 ～胴部 2/3 底部全欠	床 +8	(15.8)			10Y3/2 黒褐色 7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
322	10	55A	4	土師器甕 口縁 1/2 欠	床直	21.5	5.0	18.9	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
322	11	55A	23	土師器甕 底部 2/1 弱	床 -1			8.4	10YR6/6 明黄褐色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	砂粒やや多い	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
322	12	55A	21	土師器甕 底部完存	床 +8		5.2		5YR5/4 にぶい赤褐色 10YR4/1 褐灰色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
322	13	55A	8	土師器坩 口縁～底部 1/3 欠	床 +5	13.4	3.0	10.5	10R4/8 赤色 10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	外面赤彩。
322	14	55A	10	土師器鉢 口縁胴部一部欠	床 -2	17.6	4.0	8.2	2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
322	15	55A	11	土師器鉢 ほぼ完形	床 +5	14.8	3.2	7.6	2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/6 赤 褐～ 7.5YR2/2 黒 褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。
322	16	55A	12	土師器鉢 口縁 1/4 弱	床直	(12.3)	2.6	8.0	10YR4/4 赤褐色 7.5YR4/6 赤～ 10YR6/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面全面・内面頸部まで赤彩。
322	17	55A	18	土師器脚付坩 口縁一部欠・脚部全欠	一括	9.6			5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
322	18	55A	22	土師器鉢 口縁 1/4	床 +8	9.6			10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　ハケ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
322	19	55A	13	土師器鉢 完形	床直	7.7	4.7	4.5	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
322	20	55A	14	土師器鉢 ほぼ完形	床直	7.0	4.3	4.2	5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
322	21	55A	15	土師器鉢 口縁一部欠	床直	5.7	4.0	4.3	7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	輪積み痕あり。
322	22	55A	16	土師器鉢 口縁一部欠	床直	6.5	4.2	4.9	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
322	23	55A	17	土師器鉢 口縁一部欠	床直	7.2	4.6	4.2	5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
322	24	55A	24	土師器器台 口縁一部・脚部 2/3	一括	(8.6)			10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　脚部篦ナデ、後篦ミガキ。 内　坏部篦ナデ、脚部ハケ。	脚の 3 方に穿孔。
322	25	55A	19	土師器高坏 全体 1/3 欠	床直	6.6	8.2	7.3	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　坏部篦ナデ、脚部篦ミガキ。 内　坏部篦ナデ。	脚部内面摩耗。
322	27	55A	25	弥生壺　口縁部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR6/5 明褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	
322	28	55A	26	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
322	29	55A	31	弥生鉢　口縁部	一括				5YR6/6 橙色	やや不良	微砂粒多	外　細縄文と棒状工具による刺突文。 内　磨耗。	
322	30	55A	36	弥生壺　頸部	一括				10YR7/3 にぶい黄橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　S 字状結節文。 内　篦ナデ。	
322	31	55A	27	弥生鉢　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　沈線上位に羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
322	32	55A	29	弥生壺　胴部	床直				5YR6/6 橙～ 2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　原体押捺の上部に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。NO-34 と同一個体。
322	33	55A	32	弥生壺　頸部	床 +1				5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ、沈線下位に細縄文。 内　篦ミガキ。	
322	34	55A	30	弥生壺　胴部	一括				5YR6/6 橙～ 2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　原体押捺の上部に羽状縄文。 内　篦ミガキ。	外面赤彩。NO-32 と同一個体。
322	35	55A	34	弥生壺　頸部	一括				10R4/6 赤色 7.5YR5/6 明褐色	やや不良	微砂粒多	外　S 字状結節文。 内　磨耗。	外面赤彩。
322	36	55A	33	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/1 黄灰～ 5YR5/3 にぶい赤褐色 2.5YR4/1 黄灰色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
322	37	55A	35	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　櫛描き波状文。 内　ナデ。	
322	38	55A	28	弥生壺　胴部	一括				10YR5/6 赤～ 7.5YR4/3 褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　S 字状結節文。 内　器面剥離。	外面赤彩。
322	39	55A	41	縄文深鉢　胴部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	早期撚糸系土器。
322	40	55A	39	縄文深鉢　口縁部	床 +1				5YR6/6 橙色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 B 式土器。
322	41	55A	37	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　2 条の沈線文。 内　篦ミガキ。	
322	42	55A	38	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR7/6 橙色 2.5Y4/1 黄灰色	良好	密	外　懸垂文と縄文。 内　篦ナデ。	加曽利 E 式土器。
322	43	55A	40	縄文深鉢　胴部	一括				10YR7/4 にぶい黄橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	早期撚糸系土器。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
322	44	55A	42	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	
324	1	54	2	弥生壺 底部完存	床 +3		8.6		2.5YR3/4 暗赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
324	2	54	4	弥生鉢 口縁・底部 1/8	一括	（21.2）	（7.0）		7.5R4/6 赤～ 10R5/6 赤色 7.5R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部下端に原体押捺、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
324	3	54	5	土師器坩 口縁 1/3	一括	（11.6）			5YR6/6 橙色 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
324	4	54	3	弥生壺 口縁 3/4 残	炉内 +7	15.5			5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺、頸部篦ナデ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ後篦ミガキ。	
324	5	54	6	土師器鉢 口縁 1/16	一括	（13.4）			2.5YR5/8 明赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　ハケ後篦ミガキ。 内　ハケ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
324	6	54	7	土師器坩 底部 1/2	一括		3.6		10YR1.7/1 黒色 10YR2/1 黒色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
324	7	54	13	弥生鉢　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
324	8	54	11	弥生壺　胴部	一括				10Y4/3 赤褐色 10YR4/1 灰褐色	良好	密	外　波状沈線と細縄文。 内　篦ナデ。	北関東系弥生土器。外面赤彩。
324	9	54	12	弥生甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄橙色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　条線状のハケ。 内　篦ナデ。	
324	10	54	14	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　斜行縄文。 内　ナデ。	
325	1	53	1	弥生甕 底部 1/3	一括		（7.0）		5YR5/4 にぶい赤褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　ナデ後篦ミガキ。 内　ナデ。	
325	2	53	2	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	やや不良	微砂粒多	外　羽状縄文。 内　ナデ。	
325	3	53	3	弥生壺　胴部	一括				2.5Y6/3 にぶい黄色 2.5Y6/1 黄灰色	良好	密	外　平行沈線間に細縄文。 内　ナデ。	
326	1	土壙 2	1	弥生壺 頸部 1/2 残	底 +21				7.5YR4/6 赤 ～ 2.5YR5/6 明赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキとＳ字状結節文。 内　器面剥離激しい。	外面施文以外・内面頸部中位まで赤彩。
326	2	土壙 2	2	弥生器台 脚部 1/4 残	一括		（5.5）		10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
326	3	土壙 2	4	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/1 褐灰色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。	
326	4	土壙 2	5	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR4/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他ハケ後櫛描き波状文。 内　ハケ後ナデ。	
326	5	土壙 2	7	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	2 連一組の焼成前穿孔あり。
326	6	土壙 2	10	弥生壺　頸部	一括				10YR4/1 褐灰色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　頸部隆帯に棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
326	7	土壙 2	6	弥生壺　胴部	一括				10YR5/2 灰黄褐色	良好	微砂粒多？	外　半截竹管による連続刺突文と沈線文、他細縄文。 内　篦ナデ。	縄文施文後筒所のみ赤彩。
326	8	土壙 2	9	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　棒状工具による連続刺突文と沈線文。 内　ナデ。	
326	9	土壙 2	11	弥生壺　胴部	一括				10R5/6 赤色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　沈線下位にＳ字結節文と円形浮文。 内　篦ナデ。	施文以外赤彩。円形浮文。
326	10	土壙 2	8	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキと細縄文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
327	1	土坑 20	6	土師器甕 口縁 1/12 ～胴部 1/4	一括	(12.2)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	外面全面 ・内面口縁部のみ赤彩。
327	2	土坑 20	1	土師器二重口縁壺 口縁 1/2 強	一括	16.0			7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、頸部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ、胴部篦ナデ。	外面頸部、内面口縁部剥離。
327	3	土坑 20	2	土師器高杯 口縁 1/4 ～坏部ほぼ完存	一括	(16.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
327	4	土坑 20	8	土師器坩 底部完存	一括		2.4		10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
327	5	土坑 20	9	土師器坩 口縁 1/8 ～底部完存	一括	(8.4)	1.3	4.7	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
327	6	土坑 20	4	土師器高杯 柱状脚部のみ	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　弱い篦ナデ。 内　指による掻き取り後裾部篦ナデ。	外面赤彩。
327	7	土坑 20	3	土師器高杯 柱状脚部のみ	一括				10R4/6 赤色	良好	密	外　弱い篦ナデ。 内　指による掻き取り後裾部篦ナデ。	外面赤彩。
328	1	11	8	土師器甕 底部完存～口縁 1/12	床 +16	(21.4)	6.6	26.5	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ、胴部下位篦ミガキ、底部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
328	2	11	1	土師器甕 口縁～胴部ほぼ完存	床直	16.1			5YR6/4 にぶい橙色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	1.5 ～ 4㎜の礫含む	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ハケ後ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	
328	3	11	10	土師器甕 口縁 1/4 残	一括	(14.4)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
328	4	11	11	土師器甕 口縁 1/4 強残	床面	(14.6)			5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
328	5	11	7	土師器壺 口縁 1/5 残	一括	15.0			7.5YR4/3 褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、頸部篦ミガキ。 内　ハケ後篦ナデ。	
328	6	11	3	土師器坏 全体 1/5 残	一括	(16.0)			2.5YR6/4 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
328	7	11	9	土師器坩 胴部 1/5 残	一括				10R4/6 赤色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面全面 ・内面頸部まで赤彩。
328	8	11	5	土師器高杯 口縁 1/10 ～脚裾部全欠	床直	(8.6)			5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色（坏部） 10YR5/2 灰黄褐色（脚部）	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ（坏部）、篦ナデ（脚部）。	現状では脚部穿孔は見当たらない。
328	9	11	2	土師器器台 口縁 1/3 残 ・脚部全欠	一括	(7.8)			10R4/4 赤褐色 5YR4/3 暗赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。内外面とも器面摩耗激しい。
328	10	11	6	土師器器台 坏・脚部裾部欠	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	脚の 4 方に 0.8mm 程の焼成前穿孔。
328	11	11	4	土師器高杯 脚部 1/2 残	一括				2.5YR5/4 にぶい赤褐色 10R4/4 赤褐色（坏部） 5YR3/1 黒褐色（脚部）	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ（坏部）、篦ナデ（脚部）。	外面全面・内面坏部赤彩。
328	14	11	16	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
328	15	11	20	弥生壺　胴部	一括				10R4/4 赤褐色 2.5Y4/2 暗灰黄色	良好	密	外　左～右方向の刺突文の上位に細縄文。 内　篦ナデ。	
328	16	11	15	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文。 内　器面摩耗激しい。	外面赤彩。
328	17	11	14	土師器二重口縁壺 頸部	一括				5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁下端部に棒状工具による原体押捺。 内　篦ナデ。	
328	18	11	13	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　羽状縄文と原体押捺。 内　篦ナデ。	
328	19	11	17	弥生甕　胴部	一括				2.5Y4/2 暗灰黄色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　胴部櫛描き波状文。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
328	20	11	18	弥生壺　胴部	一括				10R3/4 暗赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画の上位にＳ字状結節文と円形浮文を貼り付ける、他篦ミガキ。 内　ナデ	外面赤彩。
328	21	11	19	弥生壺　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　細縄文。 内　ナデ。	
329	1	12	14	弥生甕 口縁 1/3 残	一括	（18.4）			5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	4 段の輪積みあり。粘土紐の重なり明瞭。
329	2	12	4	弥生鉢 口縁 1/5 残	一括	（19.1）			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
329	3	12	2	弥生壺 底部 1/5 残	一括		（5.7）		10R3/6 暗赤色 10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
329	4	12	1	弥生壺 底部 1/2 弱残	一括		（5.8）		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
329	5	12	3	弥生台付甕 脚部 1/4 弱残	一括		（5.0）		7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
329	6	12	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文。 内　篦ナデ。	
329	7	12	9	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ、細縄文。 内　篦ナデ	
329	8	12	8	弥生壺　胴部	一括				7.5YR7/4 にぶい橙～ 7.5R4/4 にぶい赤色（赤彩部分） 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　羽状縄文。 内　器面剥離。	外面施文以外赤彩。
329	9	12	13	弥生壺　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　沈線の下位に縄文。 内　篦ナデ。	
329	10	12	12	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　羽状縄文。 内　摩耗？	
329	11	12	11	土師器甕　胴部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
330	1	13	2	土師器甕 底部完存	一括		6.0		5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
330	2	13	1	土師器小型短頸壺 口縁 1/2 弱～胴部 1/2	床面	（13.8）		（13.5）	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部上位指押さえ、他篦ナデ。	
330	3	13	4	土師器埦（鉢） 口縁 1/4 ～胴部 1/3	床面	（14.0）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
330	4	13	6	土師器坏 口縁 1/4 ～体部 1/2 強	床面	（14.8）			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
330	5	13	7	土師器坏 口縁 1/8	床直	（13.6）			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
330	6	13	3	土師器高杯 坏裾部全欠 ・柱状脚部完存	床面				10R4/6 赤色	良好	密	外　弱い篦ナデ。 内　指掻き取り、裾部ナデ。	外面赤彩。脚内面輪積み明瞭。
330	7	13	5	須恵器高杯 脚部柱部のみ	床面				2.5Y 灰白色	良好	密	外 内　摩耗。	胎土白っぽい。
331	1	14	1	土師器甕 全体 2/3	床直	16.0	5.0	20.3	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
331	2	14	2	土師器甕 口縁 1/2 弱	床直	（16.8）			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
331	3	14	7	土師器甕 口縁 1/10	一括	（14.8）			10R5/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。口唇部面取り。
331	4	14	3	土師器有段口縁鉢 口縁 1/8	一括	（16.0）			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
331	5	14	5	土師器坏 全体 2/3	一括	15.2		5.6	10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
331	6	14	4	土師器坏 全体 1/4	P5 内 -21.6	(16.2)		5.0	10R5/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
331	7	14	8	土師器高坏 口縁 1/16	一括	(17.0)			10R5/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内外面赤彩。
331	8	14	10	須恵器𤭯 底部 1/4 弱	一括		(2.0)		2.5Y5/1 黄灰色	良好	密	外　ロクロ後ナデ。	
331	9	14	6	土師器器台 脚部下半全欠	周溝 +5				10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　ナデ。	脚の 2 方に穿孔。
331	10	14	9	縄文深鉢　胴部	一括				10YR4/2 灰黄褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
332	1	10	10	土師器甕 ほぼ完形 口縁・胴部一部欠	床直	15.6	7.3	31.3	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ、胴部中位まで粗いハケ、他篦ケズリ。 内　口縁部粗いハケ後ナデ、胴部篦ナデ。	内面胴部に輪積み残る。
332	2	10	1	土師器甕 口縁・底部ほぼ完存 胴部一部欠	床直	17.6	7.4	30.0	2.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ケズリ。	数段の輪積み痕。
332	3	10	9	土師器甕 口縁一部欠底部全欠	カマド脇 床直	11.3			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
332	4	10	2	土師器甕 口縁 1/12・胴部 1/4	カマド内一括	(18.9)			10YR3/1 黒褐色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
332	5	10	8	土師器甕 口縁一部欠 胴部下位 1/3 欠	床 +20	17.9	6.2	18.8	5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	口縁の一部片口状。胴部下端に明瞭な段。
332	6	10	7	土師器坏 全体 4/5	カマド袖密着	16.6		7.5	2.5YR4/8 赤褐色 10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。写真図版 104 参照。
332	7	10	6	土師器坏 全体 5/6	カマド脇 床 +5	11.5	6.9	6.9	10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。内外面磨耗激しい。
332	8	10	3	土師器坩 口縁 1/8	一括	(9.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。内外面摩耗。
332	9	10	4	土師器高坏 脚部 1/2	床直				10R5/4 赤褐色 2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
333	1	7	6	土師器甕 口縁～胴部 1/4 弱	床 +25	(20.2)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部ハケ、胴部ハケ後篦ナデ一部指ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ後一部篦ミガキ。	
333	2	7	7	土師器鉢 口縁 1/8	一括	(17.2)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	
333	3	7	1	土師器坩 ほぼ完形	床 +9	13.4	3.1	8.3	7.5YR7/8 黄橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
333	4	7	2	土師器坏 全体 2/3	床 +7	13.7	3.0	5.6	10R4/4 赤褐色 10R4/8 赤色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
333	5	7	3	土師器坩 底部 1/2 ・口縁全欠	一括		3.9		7.5R4/6 赤色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
333	6	7	4	土師器器台 ほぼ完形	床直	8.2	10.1	7.5	10YR5/6 赤色 5YR6/6 橙色（脚部）	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　坏部篦ミガキ、脚部篦ナデ。	外面全面・脚内面以外赤彩。脚の 3 方に穿孔。
333	7	7	5	土師器坩 底部完存 ・口縁全欠	床 +5		3.8		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
334	1	9	2	土師器高坏 坏部 1/3 ～脚部 1/8	一括	13.0	16.7	(9.5)	10R4/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色（脚部）	良好	密	外　篦ナデ後丁寧な篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面全面 ・内面坏部のみ赤彩。 同一個体の他の破片より脚部穿孔 2 ヶ所以上。
334	2	9	1	土師器坩 底部完存	床 +7		3.6		7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
334	3	9	4	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 2.5YR4/4 にぶい褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
334	4	9	5	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR4/3 褐色	良好	白色微細粒多	外　S字状結節文間に羽状縄文。 内　篦ナデ。	
334	5	9	3	土師器壺　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面赤彩。
334	6	9	8	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙～10R3/6 暗褐色（赤彩部分） 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文内に羽状縄文。 内　篦ナデ	外面施文以外赤彩。
334	7	9	6	弥生広口壺？ 胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
335	1	8	1	弥生壺 頸部～胴部 3/4	床直				5YR6/6 橙～10R4/6 赤色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	頸部 6 段以上の輪積み。
335	2	8	2	弥生甕 口縁～胴部完存	一括	18.2			7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他ハケ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
335	3	8	4	土師器鉢 口縁 1/16	一括	(11.6)			7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部ナデ。 内　ナデ。	
335	4	8	3	弥生鉢 口縁～胴部 1/8	一括	(13.0)			7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
335	5	8	5	弥生壺　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部縄文。 内　ナデ。	内面赤彩。
335	6	8	10	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部原体押捺。 内　ナデ。	
335	7	8	7	弥生壺　胴部	一括				10R4/6 赤色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　平行沈線による山形文に細縄文。 内　ナデ	外面施文以外赤彩。
335	8	8	6	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　頸部に羽状縄文、他一段の沈線文。 内　ナデ。	
335	9	8	8	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　縄文。 内　ナデ。	
335	10	8	9	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　平行沈線文、他篦ミガキ。 内　ナデ。	加曽利 E 式土器。
336	1	63	5	弥生壺 口縁 2/3 残	床 +14・＋4	22.8			7.5R4/6 赤～10R5/6 赤色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁部に羽状縄文と 3 連の棒状浮文、口縁端部に原体押捺、頸部沈線区画内に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　頸部まで篦ミガキ、他篦ナデ。	外面施文以外 ・内面口縁～頸部上位まで赤彩。 3 連一組の棒状浮文 3 ヶ所。
336	2	63	2	弥生壺 胴部 1/3 残	一括				7.5R4/6 赤～5YR6/6 橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　羽状縄文以外篦ミガキ、胴部中位に円形浮文を貼り付ける。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。内面器面剥離。
336	3	63	33	弥生壺 口縁 1/4 残	一括	(19.5)			5YR6/4 にぶい橙色 10YR4/4 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。外面器面摩耗激しい。
336	4	63	30	弥生壺 口縁 1/8 残	床＋ 18	(20.8)			10YR6/4 にぶい黄橙色 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、他篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
336	5	63	4	弥生壺 胴部 2/3 残	床＋ 9				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　沈線区画内に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　摩耗。	外面赤彩。
336	6	63	80	弥生壺 口縁・底部全欠・胴部一部欠	床直				7.5YR6/4 にぶい橙～10YR4/6 赤褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	2～4㎜大の礫含む	外　羽状縄文施文後沈線による斜格子文、下位は沈線区画内を羽状縄文、舌状文内は細縄文、他篦ミガキ。 内　剥離激しい。	外面赤彩。
336	7	63	1	弥生壺 胴部 1/2 弱残	一括				7.5R4/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　胴部上位細縄文、他ハケ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
336	8	63	3	弥生壺 底部 1/2 残	床＋ 41		8.0		10R4/4 赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
336	9	63	81	弥生壺 胴部 2/3 残 ・ 底部 1/3 残	床 +10		6.6		10R3/2 暗赤褐色 10YR2/6 灰黄褐色	良好	密	外　沈線区画内に羽状縄文、底部篦ナデ、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。内面頸部輪積み痕あり。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
336	10	63	46	弥生甕 底部完存 ・胴部 2/3 残	床 +16 一括		7.0		2.5YR 明赤褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	1 ～ 2㎜大の礫含む	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部径 0.8cm 程の焼成後穿孔。
336	11	63	82	弥生壺 胴部～底部 1/2 残	床 +12・+18 一括		6.2		7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ、上位剥離。	
336	12	63	14	弥生壺 底部完存	床 +10		9.8		2.5YR5/6 明赤褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
336	13	63	24	弥生壺 底部完存	床 +28・+18		8.4		7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
336	14	63	21	弥生甕 底部完存	床 +14		6.5		10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　条線状の篦ナデ。 内　篦ナデ。	
336	15	63	75	弥生甕 底部 1/3 残	床 +12		(5.6)		7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
336	16	63	23	弥生甕 胴部～底部 2/3 残	一括		4.8		10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
336	17	63	10	弥生甕 口縁 1/16・胴部 1/3 残	一括	(20.6)			10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部棒状工具によるキザミ、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
336	18	63	32	弥生甕 口縁 1/8 残	床 +11	(17.2)			5YR6/6 橙色	良好	微砂粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　折り返し口縁に原体押捺、他篦ナデ。	
336	19	63	40	弥生鉢 口縁 1/4 残	床 +11・+15	(20.7)			7.5YR7/6 橙～ 10R4/4 赤褐色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文、沈線上位は羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外 ・内面全面赤彩。口縁部下に径 5㎜の 2 連孔 2 ヶ所。
336	20	63	47	弥生鉢 口縁 1/16 胴部 2/3 残・底部完存	床 +10・+15	(20.8)	6.4	(8.0)	10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部沈線上位に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
336	21	63	43	弥生鉢 口縁 1/5 残	一括	(13.8)			10YR6/4 にぶい黄橙～ 10R4/4 赤褐色 7.5R4/6 にぶい赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部沈線上位に羽状縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外 ・内面全面赤彩。
336	22	63	34	土師器鉢 口縁 1/4 残	一括	(12.4)			5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ？	内外面摩耗激しい。2 段以上の輪積み痕あり。
336	23	63	44	弥生鉢 口縁 1/16 残	一括	(9.4)			7.5R4/6 赤色 5YR6/4 にぶい橙色？	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部羽状縄文、胴部上位篦ミガキ、他羽状縄文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。 口縁部下に 2 連一組の円形浮文と径 0.5cm程の円孔を穿つ。
336	24	63	26	弥生壺 底部完存	床 +5		4.4		10R5/6 赤色 7.5R4/4 にぶい赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
336	25	63	17	弥生甕 底部完存	床 +14		7.2		7.5YR6/3 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　単位の広い篦ミガキ。 内　単位の広い篦ミガキ。	底部焼成後 8 mm程の穿孔。
336	26	63	18	弥生甕 底部完存	床 +18		6.0		5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR5/2 灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　器面剥離。	底部焼成後 8 mm程の穿孔。
336	27	63	19	弥生壺 底部完存	床 +15		6.4		7.5YR7/6 橙色 10YR5/2 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩の痕跡あり。
336	28	63	16	弥生甕 底部完存	床 +21		6.2		5YR5/6 明赤褐色 10YR3/6 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
336	29	63	37	弥生壺 底部完存	床 +18		6.0		10R5/6 赤色 2.5YR5/8 明赤褐色	良好	密	外　底部篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
336	30	63	13	弥生甕 頸部～胴部 1/2 残	床 +14				2.5 ＹＲ 6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	頸部 3 段以上の輪積み。
336	31	63	28	異形土器（高杯） 坏部 ・脚端部欠	床 +24				5YR6/6 橙～ 2.5YR5/6 明赤褐色 10R5/6 赤色（坏部） 10YR3/3 暗褐色（脚部）	良好	密	外　脚部沈線区画内に羽状縄文、他篦ナデ篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面突帯部分のみ赤彩。
336	32	63	31	弥生壺 口縁 1/3 残	一括	(8.2)			10YR3/1 黒褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部ナデ。 内　ハケ後篦ナデ。	
336	33	63	29	弥生台付甕 脚部のみ完存	床 +18		7.0		10R4/4 赤褐色 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。ホゾによる接合。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
336	34	63	42	弥生鉢　口縁部	床 +17				7.5YR5/4 にぶい褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、折り返し口縁部細縄文と原体押捺、他羽状縄文。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
336	35	63	12	弥生甕　口縁部	床 +10				2.5YR4/3 にぶい赤褐色 10YR5/2 灰黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。	
336	36	63	6	弥生甕　口縁部	床 +26				2.5YR6/5 明赤褐色 2.5YR4/5 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	頸部 6 段の輪積み。
336	37	63	41	弥生鉢　口縁部	一括				10R4/6 赤～ 7.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	微砂粒含む	外　口唇部細縄文？折り返し口縁部細縄文と原体押捺、他篦ナデ。 内　器面摩耗。	外面施文以外赤彩。
336	38	63	49	弥生甕　口縁部	床 +9				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部キザミ、他ハケ。 内　ハケ。	
336	39	63	48	弥生甕　口縁部	P4 内 床 -52				7.5YR3/1 黒褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他条線状の篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他条線状の篦ナデ。	
336	40	63	8	弥生甕　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい橙色 10YR5/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。	頸部と口縁部を一段の輪積みで分離する。
336	41	63	71	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口唇部撚り糸原体押捺、他ハケ後ナデ。 内　ハケ後ナデ。	
336	42	63	7	弥生甕　口縁部	床 +16				10YR5/3 にぶい黄褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	3 段の輪積み。
336	43	63	56	弥生壺　胴部	注記なし				7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　撚り糸原体押捺。 内　篦ナデ。	
336	44	63	50	弥生壺　胴部	注記なし				5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　平行沈線文。 内　篦ナデ。	
336	45	63	9	弥生甕　胴部 （ほぼ口縁に近い）？	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	微砂粒多	外　頸部原体押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	一段の輪積み。
336	46	63	63	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　円形竹管による連続刺突文と細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
336	47	63	69	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　細縄文と円形竹管文。 内　器面剥離激しい。	
336	48	63	53	弥生壺　胴部	注記なし				7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	7㎜大の礫含む	外　撚り糸原体押捺。 内　篦ナデ。	
336	49	63	54	弥生壺　胴部	注記なし				7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　撚り糸原体押捺。 内　篦ナデ。	
336	50	63	62	弥生壺　胴部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　円形竹管による連続刺突文と細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
336	51	63	55	弥生壺　胴部	注記なし				5YR3/1 褐灰色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　撚り糸原体押捺。 内　ハケ。	
336	52	63	74	縄文深鉢　口縁部	P2 内床 -31				5YR6/6 橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	金雲母含む	外　半截竹管による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
336	53	63	73	縄文深鉢　胴部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	金雲母含む	外　棒状工具による角押文。 内　篦ナデ。	
337	1	56	1	弥生甕 口縁 1/4	床 -8	（23.8）			5YR6/4 にぶい橙色 5YR7/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ後篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ミガキ。	
337	2	56	2	弥生甕 口縁 1/4	炉密着	（18.2）			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による連続刺突文、他ハケ後ナデ一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
337	3	56	6	弥生壺 底部完存	床 -2		7.4		10YR5/2 灰黄褐色 10YR5/1 褐灰色	やや不良	微砂粒多	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	底部木葉痕。
337	4	56	3	弥生高坏 底部 1/5	一括		（9.4）		10R5/6 赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
337	5	56	4	弥生甕 底部 1/2 強	一括		6.6		5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ。 内　器面剥離激しい。	
338	1	5	7	弥生壺 口縁 1/8 残	一括	(23.4)			7.5YR7/4 にぶい橙色 10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部細縄文と原体押捺、円形浮文を貼り付ける。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
338	2	5	4	弥生甕 口縁～胴部 3/4 ・底部 1/2 弱残	床 -1	16.2	(5.2)	(18.6)	5YR5/4 にぶい赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口唇部棒状押捺、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
338	3	5	1	弥生壺 胴部～底部 2/3	床 +5		(5.8)		5YR6/6 橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部 1.0 ～ 0.4cm の焼成後穿孔。
338	4	5	3	弥生甕 口縁 1/4	床 +4	(16.8)			5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ。	
338	5	5	2	弥生壺 胴部～底部 1/3	床 +5		6.2		10YR7/4 にぶい橙～ 10R4/6 赤色（赤彩部分） 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
338	6	5	12	弥生壺 底部完存 口縁～頸部全欠	床 +2		9.8		10YR7/6 明黄褐～ 10R4/8 赤色 2.5Y6/6 明黄褐色	やや不良	微砂粒多	外　頸部沈線区画に羽状縄文、胴部篦ミガキ、胴部下位篦ナデ。 内　器面磨耗激しい。	外面赤彩。
338	7	5	6	弥生壺 底部 1/4 残	一括		(4.9)		10YR5/3 にぶい黄褐色 10R5/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面赤彩。
338	8	5	5	土師器台付甕 脚部ほぼ完存	焼土内床 +8		10.0		10YR6/5 にぶい黄橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
338	10	5	8	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙～ 7.5R4/6 赤色（赤彩部分） 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　沈線による山形文と網目文。 内　ナデ	外面赤彩。
338	11	5	10	弥生壺　胴部	床 +7				7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線上位に羽状縄文。 内　器面磨耗。	外面赤彩。
338	12	5	9	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　沈線上位に羽状縄文。 内　篦ナデ。	
338	13	5	11	弥生壺　胴部	床 +5				5YR6/6 橙～ 10R4/4 赤褐色（赤彩部分） 10R4/4 赤褐色	良好	密	外　沈線下位に細縄文。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
339	1	S1	1	弥生壺 口縁・胴部一部欠・底部全欠	墓壙内	15.1			7.5YR4/6 褐色 5YR5/6 赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、他篦ミガキ。 内　口唇部指ナデ、頸部中位篦ミガキ、頸部下位～胴部篦ナデ。	内面器面剥離激しい。
339	2	S1	2	弥生壺 胴～底部一部欠	墓壙内		8.0		2.5YR4/6 赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　条線状の細かいハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ、底部付近剥離。	外面赤彩。
340	1	S2	1	弥生壺 口縁全欠・頸部～胴部 2/3 残 底部 1/2 残	墓壙内		10.0	(73.0)	5YR6/4 にぶい橙色 5YR3/1 黒褐色	良好	礫含む	外　頸部凸帯に円形竹管文、Z 字状結節文による文様帯で 2 段の山形文、底部付近のみ篦ケズリ、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
340	2	S2	2	弥生甕 底部ほぼ完存	墓壙内		10.4		7.5YR にぶい褐色	良好	2 ～ 4 mm 大の礫含む	外　篦ナデ後粗い篦ミガキ。 内　器面剥離。	蓋に転用。
340	3	S2	3	弥生壺　胴部	墓壙内				10R3/31 明赤褐～ 10YR4/2 灰黄褐色 5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	微砂粒含む	外　沈線による山形文内に羽状縄文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
341	1	S3	1	弥生甕 口縁 1/8 ～胴部 3/4 残	一括	(18.8)	7.7	24.0	7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部一条の凹帯、他ハケ。 内　ハケ後篦ナデ。	
342	1	6B	14	縄文深鉢 口縁 1/8 残	一括	(24.4)			7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部棒状工具による連続刺突文、下位に一条の沈線、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
342	2	6B	3	弥生鉢 口縁 1/8	一括	(25.2)			10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部沈線上位に細縄文、沈線下位に篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
342	3	6B	8	弥生甕 口縁 1/4 弱	一括	(12.2)			10YR6/3 にぶい黄橙色 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	
342	4	6B	11	土師器甕 口縁 1/8	一括	(22.2)			5YR4/6 赤褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
342	5	6B	12	弥生壺 口縁 1/8 残	一括	(13.8)			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
342	6	6B	7	土師器小型甕 口縁1/8	一括	(12.6)			7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR4/6 赤色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	内面赤彩。
342	7	6B	9	土師器甕 口縁1/8	一括	(16.6)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	
342	8	6B	4	弥生鉢 口縁1/8	カマド一括	(14.4)			10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5YR6/8 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と羽状縄文。 内　摩耗。	口縁部下に径 0.6cm程の焼成後穿孔。
342	9	6B	10	土師器壺 頸部1/4	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
342	10	6B	1	弥生壺 底部3/4	一括		7.2		7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後一部篦ミガキ。	
342	11	6B	13	土師器台付甕 脚部1/4	床 +1		(10.0)		10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
342	12	6B	2	土師器台付甕 脚部3/4	カマド一括		9.3		7.5YR4/3 褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
342	13	6B	18	手捏土器鉢 完形	一括	2.3	2.0	3.1	10YR3/2 黒褐色	良好	密	外　細い篦ナデ。 内　指ナデ。	
342	14	6B	17	手捏土器高坏 口縁2/3	一括	3.8			10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
342	16	6B	5	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部羽状縄文と原体押捺。 内　磨耗により不明。	外面施文以外赤彩。
342	17	6B	24	弥生壺　口縁部	カマド一括				7.5R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部棒状工具による押捺。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
342	18	6B	6	弥生鉢　口縁部	一括				2.5YR6/3 にぶい黄色 10R3/4 暗赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
342	19	6B	20	弥生鉢　胴部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙～10R4/4 赤褐色（赤彩部分） 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　2条の沈線間に羽状縄文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
342	20	6B	21	弥生壺 頸部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙～10R4/6 赤色（赤彩部分） 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線上位に羽状縄文。 内　篦ナデ	外面施文以外赤彩。
342	21	6B	22	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙～7.5R4/3 暗褐色（赤彩部分） 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　沈線下位に山形文。 内　篦ナデ。	外面施文以外・内面全面赤彩。
342	22	6B	23	弥生壺　胴部	一括				10YR4/1 褐灰色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　細縄文。 内　篦ナデ。	
342	23	6B	16	縄文深鉢　胴部	一括				10YR にぶい黄褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　棒状工具による沈線。 内　篦ナデ。	
342	24	6B	15	縄文深鉢　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　棒状工具による条線。 内　篦ナデ。	
343	1	6A	3	弥生甕 胴部1/2	床直				7.5YR6/6 橙色 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	密	外　頸部一段の輪積み。 内　篦ナデ。	外面磨耗。
343	2	6A	5	弥生甕 口縁1/8	床 +10	(21.3)			10YR6/3 にぶい黄橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、頸部指押さえ、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ後篦ミガキ、一部上下の篦ミガキ。	頸部輪積み。
343	3	6A	4	弥生甕 口縁1/8	床直	(19.0)			7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺、頸部指押さえ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	頸部輪積み。
343	4	6A	7	弥生甕 底部完存・口縁全欠	床 +10		5.1		7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	頸部輪積み。
343	5	6A	32	弥生壺 口縁2/3 残	床 +3	22.4			5YR6/6 橙～7.5YR4/6 赤色 7.5YR6/4 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と原体押捺、頸部沈線と篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	外面施文以外・内面口縁～頸部上位まで赤彩。 内面器面摩耗激しい。
343	6	6A	31	庄内併行期坩 ほぼ完存	床直	9.0	5.0	11.7	7.5R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
343	7	6A	27	弥生壺 底部 1/2 強残	床 +11	16.0	5.6	6.4	7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
343	8	6A	2	弥生鉢 全体 1/4 強	床 +8	（25.2）	6.8	8.5	2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　口縁部羽状縄文、体部との境目に 2 条の沈線、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
343	9	6A	39	弥生壺 口縁全欠 胴～底部完存	床 +4		4.2		10R4/4 赤褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。外面器面摩耗激しい。
343	10	6A	30	弥生特殊器台 脚部 1/4 残	床 +4	（10.4）			7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	庄内併行期？
343	11	6A	6	土師器坩 底部完存	一括		4.0		2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR にぶい 6/4 橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ。	
343	12	6A	33	弥生甕 胴部 1/3 残・底部 3/4	床 +10		6.0		7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	底部中央焼成後径 0.5 ～ 1.0cm 穿孔。
343	13	6A	36	弥生甕 底部完存	炉内 -7		7.6		7.5YR7/6 橙色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ、他摩耗激しい。	底部一部に木葉痕あり。
343	14	6A	35	土師器甕 底部完存	床 +4		6.3		5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
343	15	6A	34-1	弥生壺 底部 3/4 残	床 +5		6.1		7.5R4/6 赤色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　摩耗激しい。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
343	16	6A	37	弥生甕 底部完存	床 +31		7.8		5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	庄内併行期？
343	17	6A	38	弥生甕 底部完存	床 +4		5.8		2.5YR6/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
343	18	6A	19	弥生甕　口縁部	床 +12				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	4 段以上の輪積み。
343	19	6A	28	弥生甕　口縁部	一括				7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	微砂粒含む	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	
343	20	6A	25	弥生鉢　口縁部	床直				2.5YR3/4 暗赤褐色	良好	微砂粒多	外　折り返し口縁、口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
343	21	6A	15	弥生壺　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁。 内　器面摩耗激しい。	外面器面磨耗激しい。
343	22	6A	20	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/6 橙色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文。 内　篦ナデ。	内面赤彩
343	23	6A	9	弥生広口壺　口縁部	一括				5YR4/3 にぶい赤褐色 5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と指頭押捺。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
343	24	6A	23	弥生鉢　口縁部	床 +11				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部に羽状縄文と棒状（？）工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
343	25	6A	22	弥生鉢　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部羽状縄文。 内　篦ナデ。	内面赤彩。
343	26	6A	29	弥生鉢　口縁部	一括				5YR7/6 橙色 2.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文、口縁下端にキザミ目、他羽状縄文。 内　篦ナデ。	
343	27	6A	16	弥生広口壺　頸部	一括				2.5Y4/1 黄灰色 2.5Y6/3 にぶい黄色	良好	密	外　原体圧痕（?）と棒状工具による連続刺突文、他細縄文。 内　篦ナデ。	北関東系土器。
343	28	6A	10	弥生壺　胴部	床 +6				10YR5/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
343	29	6A	24	弥生広口壺　胴部	火床密着				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　ハケ。 内　ナデ。	北関東系土器。
343	30	6A	18	弥生壺　頸部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR5/4 にぶい黄橙～ 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　沈線上位に羽状縄文。	内面赤彩

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
343	31	6A	13	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線上位に羽状縄文。 内　篦ナデ。	
343	32	6A	17	弥生壺　胴部	一括				10YR5/1 褐灰色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ、棒状工具による連続刺突文。 内　篦ナデ。	
343	33	6A	11	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	
343	34	6A	21	弥生壺　胴部	一括				2.5YR6/3 にぶい黄～ 10YR4/4 赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　羽状縄文とＳ字状結節文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
343	35	6A	8	弥生壺　胴部	一括				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ミガキ、Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
343	36	6A	42	縄文深鉢　胴部	床 +17				7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外 縄文施文後、棒状工具による条線を施す。 内 篦ナデ。	
343	37	6A	41	縄文深鉢　胴部	一括				5YR5/4 にぶい赤褐色 2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　縄文。 内　篦ナデ。	
344	1	4	2	土師器坩 口縁 1/8	一括	(17.4)			2.5YR5/6 明赤褐色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
344	2	4	1	弥生壺 口縁 1/4	床 +1				10YR6/4 にぶい黄橙色 10R4/6 赤色	良好	密	外　口唇部細縄文、口縁部２段以上の羽状縄文。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
344	3	4	3	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR7/6 橙色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部２連の棒状浮文。 内　篦ミガキ	内面赤彩。
344	4	4	5	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	
344	5	4	9	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙 ～ 10R4/4 赤 褐 色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　沈線区画による山形文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
344	6	4	4	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線による山形文、一部細縄文。 内　篦ナデ。	
344	7	4	8	弥生壺　胴部	一括				10YR7/4 にぶい黄褐～ 10R4/4 赤褐色 10R4/4 赤褐色（赤彩部分）	良好	密	外　沈線上位に細縄文、他篦ミガキ。 内　ナデ。	外面全面赤彩、内面赤彩痕あり。
344	8	4	10	弥生壺　胴部	一括				7.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　Ｓ字状結節文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
344	9	4	6	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 2.5YR4/4 にぶい赤褐色（赤彩部分）	良好	白色微砂粒多	外　不規則な羽状縄文 内　篦ミガキ。	内面 2/3 の上位に赤彩。
345	1	3	1	弥生壺 口縁 1/6	一括	18.8			7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5YR6/4 にぶい橙～ 10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁､2連の棒状浮文内原体押捺､口縁部羽状縄文の下端に原体押捺。 内　剥離激しい。	内面一部赤彩が残る。
345	2	3	2	土師器甕 底部 2/3	一括		(5.0)		10YR4/2 灰黄褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
345	3	3	7	須恵器蓋 天井部 1/5	一括				5Y5/1 灰色	良好	密	外　ロクロ。 内　ロクロ。	
345	4	3	3	弥生壺　口縁部	一括				2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
345	5	3	4	弥生壺　口縁部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部細縄文と原体押捺。 内　摩耗激しい。	
345	6	3	5	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR7/6 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部にキザミ、口縁部細縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。
345	7	3	6	弥生甕　胴部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　４段以上の輪積み。 内　篦ナデ。	
346	1	2	1	弥生壺 底部完存 ・口縁全欠	床直		6.8		2.5YR6/6 橙～ 7.5R3/6 暗赤色 2.5YR6/6 橙色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面赤彩。内外面器面磨耗。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
346	2	2	8	弥生壺 胴部 1/2	床直				10R3/4 暗赤～ 5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ、2 条の沈線間に羽状縄文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
346	3	2	9	弥生甕 底部完存～口縁 1/2	床直	18.0	4.3	13.2	2.5YR5/4 にぶい赤褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　篦ナデ。	頸部に 6 段の輪積み。
346	4	2	3	弥生壺 胴部 1/2	床直				7.5R3/6 暗赤色 10YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ後篦ミガキ、2 条の沈線間に S 字状結節文。 内　篦ナデ。	外面赤彩。
346	5	2	4	弥生甕 頸部～胴部 1/4	床直				2.5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面頸部に 1 段の輪積み痕。
346	6	2	17	弥生壺 口縁 1/3	床直	13.6			7.5YR7/4 にぶい橙色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口縁部細縄文と原体押捺。 内　剥離。	
346	7	2	12	土師器甕 底部完存	一括		5.4		5YR5/4 にぶい赤褐色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
346	8	2	10	弥生甕 底部 1/3	床直		(9.0)		7.5YR6/6 橙色 7.5YR7/6 橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
346	9	2	13	弥生甕 底部のみ	一括		5.6		2.5YR6/6 橙色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
346	10	2	2	弥生壺 底部完存	一括		5.1		10.YR3/1 黒褐色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、一部篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
346	11	2	5	弥生高坏 口縁 1/6	一括	(25.4)			7.5YR5/4 にぶい褐色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　ナデ。 内　ナデ。	器面磨耗激しい。
346	12	2	15	土師器高坏 脚部裾全欠	一括				7.5R4/6 赤色 7.5YR6/6 橙色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　脚内面奥部掻き取り、裾部付近ハケ。	脚の 3 方に穿孔。外面赤彩。
346	13	2	19	弥生壺　口縁部	一括				10R4/6 赤色 2.5YR4/8 赤褐色	良好	密	外　折り返し口縁、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	
346	14	2	18	弥生壺　口縁部	床直				5YR6/8 橙色 5YR6/6 橙色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇部棒状浮文。 内　器面摩耗激しい。	
346	15	2	11	弥生壺　胴部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　頸部に円形竹管による連続刺突文、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	外面頸部に輪積み。
346	16	2	14	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部細縄文と円形連続刺突文、胴部篦ナデ。 内　篦ナデ。	口縁部に穿孔。
346	17	2	21	弥生甕　口縁部	一括				5YR6/8 橙色 2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　摩耗激しい。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩痕。
348	1	65	8	土師器甑 口縁・底部全欠 胴部 1/2	床 +5	(21.0)			7.5YR2/2 黒褐色 5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	No-3 同一個体。
348	2	65	7	土師器甕 胴部 1/2	床直	7.4			7.5YR3/4 暗褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	
348	3	65	15	土師器甑 底部 1/4	一括		(7.8)		7.5YR4/3 褐色	良好	砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
348	4	65	21	須恵器坏身 口縁 1/8	一括	(10.9)			5Y6/1 灰色	良好	精選	外　底部の 2/3 以上の範囲に回転篦ケズリ、回転方向時計廻り。受部は上方に伸び、端部は丸味を持つ。立ち上がりは 2cmを越え、端部は弱い凹面。 内　ロクロナデ（丁寧）	全体的に端部が鈍く、古相感のある須恵器である。
348	5	65	4	土師器坏 口縁の一部～底部	床直	(17.0)		5.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
348	6	65	5	土師器坏 口縁一部～底部	床 +2	(17.4)		6.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。器面剥離激しい。底部外面 T 字の篦記号。
348	7	65	6	土師器坏 口縁 1/4 ～底部 2/3	一括	(16.4)		6.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
348	8	65	3	土師器高坏 口縁一部欠・裾部全欠	カマド内	(17.0)	(10.0)	(11.4)	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏～脚部横篦ナデ、一部に灰、粘土付着。 内　口縁部ナデ、坏部篦ナデ、脚部指掻き取り後指ナデ、裾部篦ナデ。	脚部内面以外赤彩。二次加熱を受け赤彩の大半が飛ぶ。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
348	9	65	1	土師器高坏 裾部1/2欠・他ほぼ完存	床直	22.5	15.4	14.6	10R4/6 赤色	良好	3㎜大の礫目立つ	外　坏～脚部篦ナデ。 内　坏部粗いハケ後篦ナデ、脚部篦ケズリ、裾部篦ナデ。	脚部内面以外赤彩。口唇部面取り。 坏部と脚部の接合が幾内的な高坏。
348	10	65	2	土師器高坏 口縁の一部欠	床直	16.8	12.2	12.2	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、坏～脚部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、坏部指掻き取り後指ナデ、裾部篦ナデ。	脚部内面以外赤彩。坏部と脚部の接合が幾内通有型の無稜外反高坏と同じ。
348	11	65	10	土師器高坏 坏部1/3	一括	(16.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部ハケ。	内外面赤彩。
348	12	65	13	土師器高坏 坏部・脚裾部全欠	床+7		(11.5)		10R4/6 赤色	良好	密	外　横ナデ。 内　脚部内面指掻き取り後指ナデ、裾部篦ナデ。	外面赤彩。
348	13	65	14	土師器甑把手 先端部欠	一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　指ナデ。	赤彩。残長 5.2㎝・残幅 1.5㎝・重量 19.9g。
349	1	64	1	土師器甕 ほぼ完形	土器群+20	25.8	8.0	26.7	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	2～5㎜大礫含む	外　口縁部ナデ、胴部上位横方向篦ナデ、下位斜め方向篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
349	2	64	2	土師器甕 口縁・底部一部欠	床+14	15.2		25.6	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部上位ハケ、下位篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部ハケ後篦ナデ。	丸底土器。
349	3	64	3	土師器甕 口縁完存	床直	17.0			5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ一部篦ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
349	4	64	14	土師器甑 口縁1/4	床直	(21.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂粒多	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
349	5	64	7	土師器坏 口縁1/6～全体1/2	床+28	(13.4)		6.5	2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面1/2・内面全面赤彩。
349	6	64	6	土師器坏 口縁一部欠	床+14	16.2		6.6	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面1/2・内面全面赤彩。
349	7	64	8	土師器坏 口縁1/3	床+14	(15.6)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
349	8	64	10	土師器坏 口縁1/2弱	床+10	(14.8)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	外面1/2・内面全面赤彩。器面やや摩耗。
349	9	64	13	土師器坏 口縁1/3	床直	(13.4)			2.5YR5/6 明赤褐色	良好	微砂粒多	外　口縁部ナデ、体部ハケ後篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
349	10	64	9	土師器坏 口縁1/4強	一括	(16.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	
349	11	64	12	土師器坏 口縁1/4～底部1/2	カマド一括	(13.6)		4.9	10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。
349	12	64	5	土師器高坏 ほぼ完形	カマド一括	18.5	14.1	13.5	10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ、脚部内面指掻き取り。	内外面赤彩。粘土が土器に付着し二次加熱痕なし。カマド内に据え置かれた可能性が高い。
349	13	64	4	土師器坩 底部全欠	床+7	9.6			2.5YR3/6 暗赤褐色 7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　粗いハケ、頸部付近と胴部下端ハケ後篦ナデ。	外面赤彩。
350	1	1	3	弥生壺 口縁2/3～胴部1/2強	床+11	19.8			2.5YR3/6 暗赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　折り返し口縁部羽状縄文、頸部沈線区間に2段以上の羽状縄文、他篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ。	外面施文以外・内面口縁部まで赤彩。
350	2	1	2	弥生壺 胴部2/3	床+18				2.5YR3/6 暗赤褐色 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ後篦ミガキ、頸部2条の沈線間に羽状縄文。 内　篦ナデ。	外面施文以外赤彩。
350	3	1	9	弥生壺 胴部上半1/3	床+7				2.5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　平行沈線による菱形文の外側に細縄文、内側に篦ミガキ、文様帯以外は篦ミガキ。 内　丁寧な篦ナデ。	外面赤彩。
350	4	1	13	弥生壺 口縁1/8	一括	(16.8)			7.5YR5/4 にぶい褐色 2.5YR3/6 暗赤褐色	良好	密	外　口唇部2連の棒状文とキザミ、羽状縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。器面剥離激しい	内外面赤彩。
350	5	1	10	弥生壺 口縁1/4弱	一括	(21.4)			7.5YR4/6 赤色 7.5YR3/6 暗赤色	良好	密	外　口縁部羽状縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。
350	6	1	20	弥生甕 口縁2/3	一括	19.6			7.5YR6/4 にぶい橙色 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　ハケ状工具による篦ナデ。	頸部に1段の輪積み痕。

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
350	7	1	4	弥生甕 口縁1/4～胴部1/2	床-2	26.0	6.0	(25.0)	10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR7/6 明黄色	良好	褐色 微細粒多	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部篦ナデ、底部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	口縁～頸部8段の輪積み。底部中央に焼成後0.4～1.3cmの穿孔。 外面煤付着。
350	8	1	1	弥生甕 胴部3/4	炉内密着				10YR6/3 にぶい黄橙色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	頸部3段以上の輪積み。
350	9	1	5	弥生甕 胴部1/2	床-2	(20.6)			10YR6/4 にぶい黄橙色 10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口縁部指頭押捺波状文、胴～底部篦ナデ。 内　口縁～胴部篦ナデ、胴部中位～篦ナデ後篦ミガキ。	頸部7段以上の輪積み。
350	10	1	21	弥生甕 口縁1/4	一括	22.2			10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。 内　口唇部指頭押捺波状文、他篦ナデ。	頸部1段の輪積み痕。
350	11	1	6	弥生壺 口縁1/3	一括	(8.2)			5YR4/6 赤褐色 7.5R4/6 赤色	良好	密	外　細縄文、頸部に沈線。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内面赤彩。
350	12	1	8	弥生台付甕 脚部1/2強	一括		6.4		5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	微砂粒多	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
350	13	1	7	手捏土器 脚部3/4・口縁全欠	一括		2.3		7.5YR5/3 にぶい褐色 7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ。 内　指ナデ。	
350	14	1	14	弥生壺　口縁部	一括				10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
350	15	1	11	弥生壺　口縁部	一括				10YR3/6 暗赤色 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	1㎜大の砂粒多	外　折り返し口縁の外面に棒状工具によるキザミ。 内　器面剥離激しい。	外面赤彩。
350	16	1	15	弥生壺　口縁部	一括				7.5YR6/4 にぶい橙色 7.5R4/3 にぶい赤褐色	良好	密	外　口唇部細縄文と原体押捺。 内　篦ミガキ。	内面赤彩。外面器面の磨耗激しい。
350	17	1	16	弥生壺　口縁部	床+18				10R3/6 暗赤色	良好	密	外　口唇部に細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
350	18	1	19	弥生甕　口縁部	床+5				10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5YR4/2 暗灰黄色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、ハケ後櫛描き文。 内　口唇部指頭押捺波状文、他ハケ。	
350	19	1	18	弥生甕　口縁部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR3/1 黒褐色	良好	密	外　口唇部棒状工具による押捺。 内　篦ナデ。	
350	20	1	12	弥生鉢　口縁部	一括				7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	外　口唇～外面に細縄文、口縁部折り返しに原体押捺。 内　篦ナデ。	
350	21	1	22	弥生甕　頸部	一括				10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/6 明黄褐色	良好	密	外　篦ナデ、原体押捺。 内　篦ナデ。	頸部1段の輪積み痕。
350	22	1	17	弥生台付甕　脚部	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　羽状縄文。 内　篦ナデ。	
350	23	1	23	縄文甕　胴部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	密	外　平行沈線状の擦痕	
350	24	1	24	縄文甕　胴部	一括				5YR6/6 橙色 7.5YR4/1 褐灰色	良好	密	外　平行沈線状の擦痕	
351	1	4号溝	5	土師器鉢 口縁1/4	一括	(15.0)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。内面器面剥離やや激しい。
351	2	4号溝	1	土師器高坏 坏部ほぼ完形	一括	14.6			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。
351	3	4号溝	3	土師器坩 口縁1/4	一括	(10.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　口縁部ナデ、頸部篦ナデ。	内外面赤彩。
351	4	4号溝	4	土師器坏 口縁1/4	一括	(13.4)			2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ケズリ後横方向篦ナデ。	
351	5	4号溝	6	土師器鉢 口縁全欠	一括		4.2		2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面器面やや摩耗激しい。底部十字文の線刻。
351	6	4号溝	13	須恵器坏蓋 天井部1/12	一括				7.5Y5/1 灰色	良好	5㎜大の礫含む	外　ロクロ整形。 内　ロクロ整形。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
351	7	4 号溝	11	須恵器甕　底部	一括				10Y4/1 灰色	良好	密	外　平行敲き後平滑化、底部付近は平行敲きが摩擦される。 内　ロクロナデ後指ナデ。	
351	8	4 号溝	8	土師器坏 口縁 1/20 弱	一括	10.0			10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ケズリ。 内　篦ミガキ。	内面黒色処理。
351	9	4 号溝	2	土師器高坏 柱脚部のみ	一括				2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ナデ。	外面赤彩坏部との接合はホゾ方式。
351	10	4 号溝	9	手捏土器鉢 底部完存～口縁 1/2	一括	5.8	4.6	3.6	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　指ナデ、指整形。 内　指ナデ、指整形。	内面輪積み明瞭。不安定な土器。
351	11	4 号溝	12	須恵器甕　胴部	一括				10Y4/1 灰色	良好	密	外　平行敲き。 内　青海波磨り消し、一部指ナデ。	粘土紐輪積み痕あり。
352	1	3 号溝	1	弥生鉢 口縁 1/8	一括	(25.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　折り返し口縁、口唇～口縁部細縄文、他篦ミガキ。 内　篦ナデ後篦ミガキ。	内外面赤彩。口縁部直下に径 0.5cm程の焼成前穿孔 2 ヶ所あり。
352	2	3 号溝	8	須恵器坏蓋 稜部 1/8	一括				2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	密	外　天井部と口縁部を界する稜は鈍い突出、天井部の 3/4 以上に回転篦ケズリ、ケズリ方向は逆時計回転。 内　天井部中央付近は一方向の手持ち篦ナデ、口唇部不明。	
352	3	3 号溝	9	須恵器坏身 口縁 1/4	一括	(10.2)			5Y6/1 灰色	良好	密	外　立ち上がりはやや内傾し、端部はわずかに内傾し明瞭な段をなすまでに至っていない。受部は横方向に水平ぎみに伸びシャープに仕上がる、体部は丸く仕上がる。 内　受部との接合痕を確認できる。	
352	4	3 号溝	5	土師器坏 口縁 1/8	一括	(13.0)			7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　篦ミガキ。 内　篦ミガキ。	
352	5	3 号溝	2	土師器高杯 口縁 1/8	一括	(17.4)			7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部摩耗により不明。 内　摩耗により不明。	内外面黒色処理。
352	6	3 号溝	10	縄文深鉢　口縁部	一括				5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　条痕文。 内　ナデ。	掘ノ内式土器。
352	7	3 号溝	13	縄文深鉢　胴部	一括				2.5Y3/2 黒褐色	良好	密	外　半截竹管と平行沈線文、部分的に三角文を押捺する。 内　ナデ	
遺跡一括	3	表採	4	弥生甕 口縁 1/6 残 胴部一部欠・底部完存	一括	(33.8)	7.7	42.6	10YR7/41 にぶい黄橙色 7.5YR7/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口唇部指頭押捺波状文、胴部ハケ後篦ナデ。 内　篦ナデ。	輪積み痕あり。
遺跡一括	4	表採	19	土師器甑 口縁 1/2 弱欠	一括	27.2	9.1	27.5	10YR4/4 褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ後ナデ、胴部篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ナデ。	
遺跡一括	5	表採	9	土師器小型甕？鉢 完形	一括	12.4	4.9	10.5	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後一部篦ミガキ、胴部篦ミガキ。	全体的に非常に丁寧な篦ミガキが施される。
遺跡一括	6	表採	6	土師器甕 口縁完存～胴部 1/2	一括	16.3			7.5YR4/6 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、口縁部一部ナデ。 内　口縁部ハケ後一部ナデ、胴部篦ナデ。	
遺跡一括	7	表採	7	土師器坩 完形	一括	12.3	3.0	15.3	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ後篦ミガキ、胴部篦ナデ後篦ミガキ。 内　口縁部ナデ後篦ミガキ、胴部、底部ハケ、他篦ナデ。	
遺跡一括	8	表採	18	土師器甕 底部完存	一括		7.4		10YR3/3 暗褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ一部篦ミガキ状の細い篦ナデ。	器壁厚く鈍量か、底部明瞭に突出。
遺跡一括	9	表採	17	土師器甕 底部完存～胴部 1/2	一括		7.2		5YR4/6 赤褐色 5YR2/2 黒褐色	良好	密	外　篦ケズリ。 内　篦ナデ。	輪積み痕明瞭。
遺跡一括	10	表採	12	土師器鉢 口縁 1/4・底部完存	一括	(10.8)	1.8	9.7	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部上位ハケ、下位篦ナデ。 内　口縁部ナデ、胴部指ナデ指整形。	
遺跡一括	11	表採	27	土師器高杯 口縁 1/4 ～坏部完存 脚部全欠	一括	(20.0)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部横ナデ。 内　口唇部面取り、坏部横ナデ。	内外面赤彩。
遺跡一括	12	表採	25	土師器高杯 坏部一部欠	一括	15.2			10R4/6 赤色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	内外面赤彩。
遺跡一括	13	表採	21	土師器坏 口縁 1/2 弱	一括	(14.4)			10R4/6 赤色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 / 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	（外）色調 / （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
遺跡一括	14	表採	22	土師器坏 口縁 1/3	一括	（14.8）			10R4/6 赤色 7.5YR5/4 にぶい褐色（無彩部分）	良好	密	外　口縁部ナデ、体部丁寧な篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩・外面底部付近のみ無彩。
遺跡一括	15	土坑 1	72	土師器坏 口縁 1/4	一括	（14.2）			2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部篦ナデ。 内　口縁部ナデ、体部篦ナデ。	内外面赤彩。土坑 1 と注記があるが、出土遺構分からず一括扱い。
遺跡一括	16	表採	11	土師器台付甕 脚部 3/4	一括		10.0		7.5YR4/4 褐色	良好	密	外　ハケ後篦ナデ、脚裾部ハケ後ナデ一部ハケ残る。 内　ナデ、裾部横ナデ。	
遺跡一括	17	表採	10	土師器高杯 口縁 1/6・脚部 1/5	一括	（9.5）	11.6	7.7	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　口縁部篦ナデ、体部篦ミガキ、脚部篦ミガキ。 内　坏部摩耗により不明、脚部指ナデ後裾部ナデ。	脚の 3 方に穿孔。
遺跡一括	18	表採	13	土師器鉢 底部 1/2 ～口縁 1/10	一括	（7.2）	3.5	5.7	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　指ナデ、指整形。 内　指ナデ、指整形。	
遺跡一括	19	表採	15	土師器ミニチュア鉢 口縁一部欠	一括	8.0	4.5	3.6	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ一部指ナデ。 内　篦ナデ。	
遺跡一括	20	表採	14	土師器鉢 底部完存～口縁全欠	一括		3.4		7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	外　篦ナデ。 内　篦ナデ。	
遺跡一括	21	C	74	土師器坩 口縁 1/2 弱	一括				10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	外　粗いハケ後雑な篦ミガキ。 内　粗いハケ後雑な篦ミガキ。	OH-C と注記があるが出土遺構分からず一括扱い。
遺跡一括	22	溝	73	弥生壺 底部完存～胴部 1/2	一括		6.6		2.5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　篦ミガキ、底部付近篦ナデ。 内　篦ミガキ。	内外面赤彩。OH 溝と注記あるが出土遺構わからず一括扱い。
遺跡一括	23	166	25	須恵器甕 底部～胴部 1/2 強	床 +22				7.5Y5/1 灰色 7.5Y7/2 灰白色	良好	密	外　平行敲き後横ナデ、窯詰めの際媒による須恵器片付着。 内　径 12.8cmの粘土円盤を中心として、粘土紐貼り付け技法による輪積み整形。	182 号（H-166 号）に伴う。通常ならば製品として流通しない製品。
遺跡一括	24	表採	8	土師器坩 口縁一部欠	一括	14.3	3.0	11.4	10R4/6 赤色（口縁部分） 7.5YR5/4 にぶい褐色（内面・口縁以外）	良好	密	外　口縁部ハケ後ナデ、胴部篦ミガキ。 内　口縁部篦ミガキ、口唇部付近ナデ、胴部ハケ後篦ナデ中位以下ハケ。	146 号（H-137-Po22）と注記あり、188 号に伴うか？
遺跡一括	25	表採	24	土師器高杯 脚裾部全欠他完存	一括	17.8			10R4/6 赤色	良好	密	外　横ナデ。 内　坏部横ナデ、脚部指掻き取り後指ナデ。	内外面赤彩。カマド内支脚転用されたのか粘土が付着している。 写真より 159 号カマド内高杯と判明。
遺跡一括	26	表採	20	土師器甕 口縁～胴部 1/4 欠	一括	16.1	6.8	24.1	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	外　口縁部ナデ、胴部篦ケズリ。 内　ハケ後ナデ一部ハケ残る、胴部篦ナデ。	250 号の日誌にほぼ完形に近い土師器甕が出土したと記載あり？
遺跡一括	27	表採	16	土師器坏 口縁一部欠	一括	9.8	2.5	5.0	2.5Y2/1 黒色	良好	密	外　口縁部ナデ、体部ハケ後粗い篦ミガキ、底部付近篦ケズリ。 内　口縁部ナデ、胴部篦ミガキ。	内外面黒色処理。写真より 184 号に伴うか。
遺跡一括	28	表採	28	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	金雲母多量に含む	外　角押文。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
遺跡一括	29	表採	29	縄文深鉢　口縁部	一括				7.5YR4/3 褐色	良好	金雲母多量に含む	外　口唇～口縁部貝殻腹縁文状の施文あり。 内　ナデ。	阿玉台式土器。
遺跡一括	30	表採	39	土器片錘	一括				10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密		片側 5㎜前後？切り込まれる。

第15表　御林跡遺跡出土土製品観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm / g 径（幅）	孔（厚さ）	高さ（長）	重量	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
2	14	地下式土壙	4	布目瓦 極一部	一括	-	-	-	53.8	7.5Y6/1 灰色	良好	密	凹面布目、凸面敲き。	
3	41	方周 3	13	平瓦 極一部	一括	-	-	-	96.0	2.5Y6/1 黄灰色	良好	微砂粒含む	凹面布目、凸面無紋。	
13	21	265	20	釧状土製品 全体の 1/4	一括	長径 (9.2 ～ 8.0)	内径 (7.4 ～ 5.8)	1.1	5.8	5YR4/6 赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。指圧痕明瞭に残る。	厚さ 1.1cm。赤彩痕跡がある。 長径・内径の数値は復元値。
14	15	255	11	支脚 先端部 1/2 強	カマド		-	(7.6)	170.0	5YR5/6 明赤褐色	不良	砂粒多	指ナデ指整形。	
18	4	264	14	布目瓦 極一部	一括	-	-	-	54.0	10YR6/1 灰色	良好	密	凹面布目瓦	
20	30	236	22	支脚 側面の一部	一括	-	-	-	362.0	10YR5/6 黄褐色	やや不良	砂っぽい	外　篦ケズリ。	
20	31	236	37	土玉 1/2 弱	一括	残 (3.4)	0.4 (3.6)	3.2	12.0	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。	長径・内径の数値は復元値。
21	10	237	13	丸玉 完形	一括	1.3	0.1 ～ 0.3 (1.35)	1.2	2.4	10YR3/2 黒褐色	良好	密	板上の上を転がした様な光沢がある。	
26	9	221	14	支脚 先端部全欠下端部 1/3 欠	カマド内	-	-	(10.2)	935.0	7.5YR5/6 明褐色	不良	砂粒多	指ナデ指整形。	
33	12	224	23	支脚 下端部のみ	カマド内	-	-	(9.3)	738.0	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや不良	密	指ナデ指整形。	
36	20	229	20	土玉 完形	床 +16	4.0	0.9 ～ 0.7 (4.2)	3.6	68.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
37	31	227	39	支脚 底部 1/5	一括	-	-	(9.5)	176.0	7.5YR6/6 橙色	不良	砂含む	指ナデ指整形。	
37	35	227	35	土製　当て具 取手部分欠	一括	直径 5.1	(4.9)	3.0	60.0	5YR4/3 暗赤褐色	良好	砂含む	指ナデ指整形。	指紋の跡残る。
37	36	227	37	土玉 完形	一括	3.55	0.5 (3.75)	3.67	42.0	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
38	1	229	32	土玉 完形	床 +9	4.1	0.9 (3.6)	4.2	63.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
40	12	233A	16	土玉 完形	一括	3.65	0.9 ～ 0.4 (3.8)	3.5	42.0	10YR5/6 黄褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
46	22	200B	16	支脚 下端部欠	注記なし	-	-	(8.1)	360.0	7.5YR6/6 橙色	不良	微砂粒多	指ナデ指整形。	断面形は円形と推定される （太く短いタイプ）遺存度は全体の 1/4 以下。
46	23	200B	14	支脚 両端部欠	床 +3	-	-	(10.0)	289.0	7.5YR6/6 橙色	不良	微砂粒多	外面篦ケズリ。	断面形は隅丸方形を施す。
50	22	251	22	支脚 1/10	一括	-	-	(7.9)	153.0	7.5YR5/6 明褐色	良好	砂粒多	指ナデ。	
55	14	242	18	支脚 先端部欠	床 +3	-	-	-	450.0	5YR4/4 にぶい赤褐色	不良	微砂粒多	指ナデ指整形。	割れ口は非常に粗い。底部に粘土を貼り付けそのまま焼成される。遺存度は全体の 1/4 以下。
58	51	217A	47	転用鞴羽口 脚部のみ	一括	-	-	-	59.0	5YR3/1 黒褐色 5YR4/6 赤褐色	良好	密	内外面摩耗。残存する先端部にスラグが付着している。	
58	52	217A	24	支脚 完形	カマド内	最大径 9.0	(7.8)	8.9	755.0	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　粘土紐巻上げ後指ナデ、上下の端面篦ナデ後指ナデ。	
58	53	217A	23	支脚 下端部 1/4 欠	カマド内	最大径 (10.5)	(7.0)	9.4	890.0	5YR4/6 赤褐色	良好	密	外　両端部篦ナデ。胴部指ナデ。	外面灰付着
65	8	216	12	支脚 底部 1/2	一括	9.8	-	(8.9)	390.0	5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	砂粒多	指ナデ指整形。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm / g 径（幅）	孔（厚さ）	高さ（長）	重量	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
68	23	215A	41	支脚 全体 1/2 弱	床 +21	-	-	(11.0)	316.0	7.5YR5/6 明褐色	不良	微砂 粒多	指ナデ。	そんなに長大な脚ではない。
75	12	220	18	支脚 全体の 1/4	カマド内	-	-	-	270.0	7.5YR6/4 にぶい橙色	不良	砂っぽい	外　篦ケズリ。	
79	18	206	25・ 26	支脚片 両端部欠	カマド	-	-	(17.1)	970.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	やや不良	砂含む	外　篦ケズリ。	
79	19	206	24	支脚 下端部欠	カマド	6.6	-	残 13.7	520.0	7.5YR5/6 明褐色	やや不良	砂含む	外　篦ケズリ。	
81	20	211A	28	布目瓦 極一部	一括	-	(2.0)	-	84.0	10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	密	凹面布目瓦	
82	14	212A	28	支脚 下端 1/2 欠	カマド一括	(8.5)	(7.5)	残 10.5	370.0	7.5YR5/6 明褐色	不良	砂粒多	指ナデ	
87	15	205	27	布目瓦 極一部	一括	-	-	-	66.0	2.5Y6/3 にぶい黄色	良好	密	凹面に布目は殆ど認められない。 凸面に若干の布目。	
89	9	203	12	パン状土製品	床直	-	-	(12.6)	112.0	7.5YR4/6 褐色	不良	5㎜大 礫含む	手捏土器。指ナデ指整形。	かなりそり返っており、支脚等の土製品ではない。用途不明品、非状にもろい。
89	10	203	14	支脚 先端部のみ	床 +15	-	-	(5.4)	30.0	7.5YR4/6 褐色	不良	礫含む	指ナデ指整形。	
90	16	188	19	支脚 下端部欠	床 +5	-	-	(16.9)	470.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	砂含む	篦ケズリ。	
90	17	188	20	支脚 底部欠	床 +3	-	-	(10.4)	208.0	7.5YR5/6 明褐色	良好	砂含む	篦ケズリ。	
90	18	188	18	有孔方盤 一部欠	カマド一括	(2.7)	0.2 ～ 0.3 (2.7)	1.35	10.0	10YR5/6 黄褐色	良好	密	指ナデ指整形。	長さは復元値。
92	19	195	42	支脚 先端部のみ	一括	4.7	4.8	6.5	130.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	砂っぽい	指ナデ指整形。	指紋残る。
92	32	195	33	土玉 完形	一括	3.1	0.45 ～ 0.6 (3.15)	3.1	20.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
97	5	182	51	支脚 上部～体部 1/4	床直	-	-	(9.0)	195.0	7.5YR5/6 明褐色	不良	5㎜大 礫多	外　篦ケズリ後指ナデ。	
97	6	182	49	支脚 下端部欠	一括	4.6	(4.6)	(7.6)	180.0	7.5YR5/6 明褐色	良好	微砂粒多	外　指ナデ。	
97	7	182	50	支脚 上部～体部 1/2 欠	カマド	-	-	(10.2)	490.0	7.5YR5/6 明褐色	不良	5㎜大 礫多	外　篦ケズリ、四条の沈線あり。	
97	8	182	48	支脚 下端部欠	床 +16	6.0	(6.0)	(10.4)	290.0	7.5YR5/6 明褐色	良好	微砂粒多	外　指ナデ。	色範囲灰と粘土付着する。厚さは復元値。
97	38	182	38	管状土錘 完形	床 +2	2.5	0.6 ～ 0.5	3.0	25.5	7.5YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
97	40	182	45	布目瓦 極一部	一括	-	(2.1)	-	85.0	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	外　縄文。 内　布目文。	
99	33	180	57	土製支脚 両端部欠	一括	8.4	(6.8)	(13.7)	455.0	5YR5/6 明赤褐色	不良	砂粒多	指ナデ。	法量は残最大幅・厚さ・残長値。
99	35	180	46	土玉 完形	一括	(3.8)	1.0 ～ 0.7 (3.7)	3.3	40.0	5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
99	36	180	45	土玉 完形	一括	(3.2)	1.1 ～ 0.9 (3.2)	3.4	34.0	5YR4/6 赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
99	37	180	44	土玉 完形	一括	(3.4)	1.1 ～ 1.0 (3.6)	3.0	30.0	5YR4/6 赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
99	38	180	47	管状土錘 完形	一括	(5.1)	0.7 ～ 0.8 (3.1)	3.1	60.0	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。孔 2 ヶ所貫通する。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm / g 径（幅）	孔（厚さ）	高さ（長）	重量	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
102	27	197	33	支脚 先端部のみ	一括	-	-	-	510.0	5YR5/6 明赤褐色	やや不良	砂含む	指ナデ。	
108	15	125	27	土玉 1/2 強	一括	-	0.7 ～ 0.5	3.7	40.1	10YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
108	16	125	26	土玉 全体 1/2	床 +6	4.7	0.7 ～ 0.5 (3.6)	4.2	44.3	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
110	33	130	39	管状土錘 2/3 残	一括	-	1.6 ～ 1.8 (3.6)	(6.6)	132.4	7.5YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
110	34	130	37	土玉 1/4 欠	床 +22	(4.0)	0.7 ～ 1.0 (4.0)	(3.0)	39.0	10YR3/2 黒褐色	良好	砂粒多	指ナデ指整形。	法量については復元値。
110	35	130	38	土玉 ほぼ完形	一括	3.1	1.0 ～ 0.6 (3.0)	2.6	26.7	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
111	9	119	17	支脚 下端部欠	カマド	-	-	(13.5)	360.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	指ナデ。	法量については残存値。
111	10	119	16	支脚 下端部欠	カマド	-	-	9.6	196.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	指ナデ。	法量については残存値。
122	16	121	18	支脚 全体 1/2 強	一括	-	-	-	605.0	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	指ナデ？	
125	25	194	29	支脚 下端部欠	床直	-	-	8.5	142.0	10YR5/6 黄褐色	不良	砂粒多	外面篦ケズリ。	法量については残存値。
125	26	194	28	支脚 下端部欠	床 +12	-	-	12.3	238.0	7.5YR5/6 明褐色	不良	砂粒多	外面篦ケズリ。	
125	27	194	27	布目瓦 極一部	一括	-	-	-	500.0	2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	砂含む	凹面布目。	
125	33	194	30	紡錘車 完存	床直	4.4	0.7 ～ 1.2 (4.5)	2.9	49.8	10YR3/1 黒褐色	良好	密	外面篦ミガキ。	
130	23	190	15	支脚 全体 1/2	床直	-	-	-	238.0	2.5YR5/6 明赤褐色	不良	砂粒多	指ナデ指整形。	断面三角形、実測中に大半が崩壊。
131	35	142	58	支脚 下端部欠	床 +10	-	-	-	790.0	7.5YR4/6 褐色	不良	砂粒多	指ナデ指整形。	
131	36	142	54	土玉 完形	一括	3.5	0.6 ～ 0.7 (3.6)	3.6	43.1	7.5YR3/3 暗褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
140	13	133	17	土玉 完形	一括	3.5	0.6 ～ 0.8 (3.7)	3.8	46.2	10YR5/3 黄褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
144	33	135	48	支脚状土製品 1/2 強	床直	9.3	-	17.4	580.0	7.5YR4/4 褐色	不良	砂粒多	指ナデ指整形。	
144	35	135	47	支脚状土製品 ほぼ完形	床直	7.1	(5.6)	10.3	306.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	変形支脚？
159	51	173	118	支脚 全体 1/4 欠	床 +4+8	-	-	-	880.0	2.5YR5/6 明赤褐色	不良	微砂粒多	外　丁寧な篦ナデ。	
159	52	173	117	支脚 ほぼ完形	土器群 +26	9.6	(8.6)	13.4	740.0	7.5YR4/4 褐色	不良	5 ㎜ 大 礫含む	指ナデ指整形。	
159	55	173	132	土玉 1/3 欠	一括	3.6	0.7 ～ 0.4 (3.7)	3.2	30.0	7.5YR3/2 黒褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
160	19	177	24	土玉 完形	一括	3.7	0.8 ～ 0.9 (3.6)	3.6	42.0	2.5Y5/3 黄褐色	良好	密	指ナデ。	
160	20	177	23	土玉 完形	一括	3.3	1.1 ～ 0.8 (3.2)	3.4	30.7	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
170	44	154	67	土玉 1/8 欠	一括	3.5	0.6 ～ 0.7 (3.5)	3.5	41.8	7.5YR にぶい褐色	良好	密	指ナデ指整形。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm / g 径（幅）	孔（厚さ）	高さ（長）	重量	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
176	42	158	45	管状土錘 ほぼ完形	一括	3.3	0.7 ～ 0.3 (2.8)	3.9	49.4	10YR3/3 暗褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
176	43	158	44	土玉 完形	一括	3.3	0.7 ～ 0.5 (3.3)	3.3	31.88	10YR3/1 黒褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
176	46	158	46	布目瓦 極一部	一括	-	-	-	180.0	7.5Y5/1 灰色	良好	密	凹面布目。凸面縄文。	還元焼成に焼き上がる。 170 号出土瓦と接合。
178	12	178	21	支脚 上端部欠	カマド内	9.5	(8.5)	-	480.0	7.5YR4/4 褐色	やや不良	スサ状繊維質含む	指ナデ指整形。	断面円形。
182	32	166	33	土玉 完形	一括	3.8	0.8 ～ 0.9 (3.7)	4.0	53.0	10YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
183	4	257A	4	支脚 ほぼ完存	カマド脇	(9.9)	(8.7)	19.2	880.0	7.5YR5/8 明褐色	やや良好	砂っぽい	外面篦ケズリ。	
183	5	257A	5	支脚 底部 1/3 欠	カマド脇	(9.9)	(8.5)	19.1	840.0	10YR5/6 黄褐色	やや良好	砂っぽい	外面篦ケズリ。	
189	28	108	37	土玉 1/3 欠	一括	3.4	-	3.4	30.0	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	指整形。	法量は推定値。
195	13	102	23	支脚 下端部欠	一括	-	-	-	432.0	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	密	指ナデ一部指圧痕残る。	部分的に粘土付着のまま焼成。
195	14	102	20	支脚 下端部欠	床直	6.7	(6.0)	-	520.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	底部三角形。	
201	3	86	7	支脚 全体 1/3	床 +9	-	-	-	134.0	5YR5/6 明赤褐色	やや不良	0.5㎜大の礫含む	ナデ。	
202	17	148	20	土玉 1/4 欠	一括	-	0.6 ～ 1.0	3.3	29.0	2.5Y6/3 にぶい黄色	良好	砂粒含む	指ナデ指整形。	
210	45	79	75	管状土錘 完形	床 +27	2.1	0.7 ～ 0.6 (2.3)	2.9	18.2	7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
215	19	159	23	支脚 下端部欠	床 +14	-	-	-	377.0	7.5YR4/6 褐色	良好	砂粒多	指ナデ指整形。	
215	20	159	22	支脚 下端部欠	床 +15	-	-	-	118.0	7.5YR4/6 褐色	良好	砂粒多	指ナデ指整形。	
217	20	160	47	蓋の摘み	一括	14.5	-	1.4	3.0	10YR3/4 暗褐色	良好	密	指ナデ。	法量はつまみ部のみ。
221	5	161	4	管状土錘 完形	一括	2.9	0.9 ～ 1.0 (2.9)	2.8	30.0	5YR4/4 にぶい赤褐～ 10YR4/2 灰黄褐色	良好	密	篦ケズリ。	
240	8	72	12	鞴羽口　裾部 7/8 欠 以外完存	床 +10	-	1.5	8.0	180.0	7.5YR4/4 褐～ 5Y5/1 灰色（スラグ付着部分）	良好	密	外 ナデ。 内 指掻き取り、他篦ナデ。	高坏脚部に非常に似た造りである。 スラグ付着部分は紫灰色に変色している。
246	29	105	52	土製勾玉 完形	床 +7	(32.0)	0.3 (10.5)	10.7	5.5	7.5YR6/6 橙色	良好	密	指ナデ指整形。	表 0.3 ～裏 0.25㎜の孔を有するが貫通していない。
255	9	36	9	土玉 完形	一括	3.4	0.5 ～ 0.55	3.1	30.0	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
257	5	92	7	支脚 一部欠	床直	-	-	-	730.0	7.5YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
283	11	35	8	支脚 両端部欠	カマド	(5.8)	5.5	11.0	375.0	7.5YR4/6 にぶい褐～ 7.5YR4/4 褐色	やや不良	砂含む	指ナデ。	
283	12	35	9	円型土盤 ほぼ完形	一括	(3.35)	0.6 ～ 0.7 (6.0)	4.0	80.0	10YR7/4 にぶい黄橙～ 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	密	指ナデ指整形。	
283	13	35	10	土玉 ほぼ完形	一括	3.8	0.8 ～ 0.5	3.4	50.0	5YR6/6 橙色	良好	密	指ナデ指整形。	

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm / g 径（幅）	孔（厚さ）	高さ（長）	重量	（外）色調 （内）色調	焼成	胎土	特徴	備考
284	15	29	7	支脚 極一部欠	床直	(10.1)	(7.1)	(12.0)	565.0	7.5YR4/3 褐色	良好	密	指ナデ。	
288	9	32B	10	土玉 完形	一括	3.4	0.7 ～ 1.1 (2.0)	2.8	28.0	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
288	10	32B	9	土玉 完形	一括	3.3	0.6 ～ 0.8 (3.4)	3.1	25.0	2.5YR5/8 明赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
293	9	23	9	支脚ミニチュア 先端部一部欠	一括	(1.9)	(2.9)	(4.2)	30.0	7.5YR4/3 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
293	10	23	10	支脚 側面の一部	炉	-	-	-	730.0	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
295	26	22A	26	弥生土器片土錘	一括	-	-	-	30.0	7.5YR6/4 にぶい橙色 5YR6/4 にぶい橙色	良好	微砂 粒多	片側 5㎜前後？切り込まれる。	
309	5	47	5	甑の取手	一括	2.3 (3.0)	(2.3)	3.2	20.0	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	密	指ナデ。	法量は取手部のみ。
322	26	55A	45	支脚 底部の 1/4	床 +1	-	-	-	200.0	7.5YR5/6 明褐色	良好	密	指ナデ指整形。	最大径は隅丸方形となる。
333	9	7	8	支脚 一部欠	床 +11	10.8	6.6	11.4	480.0	10YR4/2 灰黄褐色	不良	砂粒多	指ナデ指整形。	
351	12	C4	14	土玉 完形	一括	3.9	3.7	4.0	49.7	10YR5/4 にぶい黄褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
遺跡一括	31	表採	38	土製紡錘車 一部欠	一括	4.8	0.7 (1.6)	1.6	40.5	7.5YR4/6 褐色	良好	密	篦ナデ。	
遺跡一括	32	表採	37	管状土錘 完形	一括	3.9	1.0 ～ 0.8 (3.8)	5.0	68.5	5YR5/6 明赤褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
遺跡一括	33	表採	32	土玉 完形	一括	3.4	0.6 ～ 0.8 (3.6)	3.3	36.6	7.5YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
遺跡一括	34	表採	36	土玉 完形	一括	3.5	0.6 ～ 0.5 (3.5)	3.0	32.1	7.5YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
遺跡一括	35	表採	34	土玉 完形	一括	3.3	0.9 ～ 0.6 (3.0)	2.8	26.8	7.5YR4/4 褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
遺跡一括	36	表採	33	土玉 完形	一括	2.9	0.6 ～ 0.5 (2.9)	2.7	20.1	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	密	指ナデ指整形。	
遺跡一括	37	表採	41	管状土錘 完形	一括	1.5	0.3 ～ 0.4 (1.4)	4.2	8.0	7.5YR4/2 灰褐色	良好	密	指ナデ指整形。	

第16表　御林跡遺跡出土金属器等観察表

新遺構	遺物	旧遺構	実測	器　種	出土位置	法　量　（推定）cm /g				特徴	備考
番号	番号	番号	番号	遺存度		長さ	幅	厚さ（高さ）	重量		
5	18	方周 7 号	85	板状鉄斧	主体部	全長 9.3	4.5 ～ 5.6	0.8	201.30	炭化した木質付着。	
25	15	222	18	刀子 片側直角関	床 +8	残長 9.5	刃部幅 0.8 茎部幅 1.4	0.2	8.60	刃部関部のときべり目立つ。木質付着。撫で関。 木質の下に横方向の糸巻き。	茎長 3.8cm 刃部長 5.7cm（7.5）cmに復元可。
37	37	227	40	片刃長頸鏃 茎部・関部欠	一括	全長 10.5	0.6	0.4	9.60	刃部長 2.3cm 頸部長 8.2cm	
46	24	200B	15	小柄（刀子） 茎尻部？	床 +3	残長 4.7	残幅 2.0	0.3	12.90	茎尻は若干斜めに切り込まれる。	
58	55	217A	83B	鉄鏃 鏃身部欠	床 +28	残長 4.4	0.6 ～ 0.4	0.4 ～ 0.3	4.80	関部不明　茎部断面は方形。	出土状況から A 鏃と同一固体と考えられたが、厚さ・幅から別個体と判断。
58	56	217A	83A	鉄鏃 鏃身部欠	床 +28	残長 3.3	0.5	0.4	3.19	茎部断面は方形。	出土状況から B 鏃と同一固体と考えられたが、厚さ・幅から別個体と判断。
62	7	250	9	刀子片	一括	残長 2.2	（1.5）	0.5	2.00	刃部欠存するも二等辺三角形状から刃部幅 1.5cmと推定。	
69	4	215B	2	柳葉鏃	一括	鏃身長 4.4 茎残長 2.3	鏃身幅 1.7 茎部幅 0.8	鏃身厚 0.4 茎厚　0.9	8.90	鋒よりふっくらを有し、斜関無頸鏃。 弱い稜がある様にみえる。	全長 6.7cm。茎部の外側には矢柄の一部が残存。
75	19	220	21	鉄製曲刃鎌 完形	床 +3	13.3	3.6	0.2 ～ 0.3	58.10	木質等の残存はない。	昭和 53 年以来放置。錆膨れ著しいが地金の遺存は比較的良好。
88	18	204	34	板状鉄斧	P3 付近床直	全長 14.8	3.4 ～ 5.3	0.7 ～ 0.8	310.20	炭化した木質及び紐状の繊維質付着。	
99	39	180	53	短頸鏃	一括	4.1	最大幅 1.9 復元値（2.1）	0.2	3.40	舌状・茎・平造。　茎部断面は長方形。	奈良五条猫塚古墳類例。
99	40	180	51	三角形鉄鏃	一括	6.1	最大幅 1.8	0.5	9.30	無関・両丸。茎部断面は方形。	圭頭鏃系。
99	41	180	52	長頸鏃 茎部	一括	残長 5.1	残幅 0.55	残厚 0.5	5.60	茎部断面は方形。	
100	6	179B	8	鉄鏃茎部	一括	残長 3.1	最大幅 0.4	最大高 0.4	1.30	茎部断面は円形。	
110	37	130	51	刀子片	一括	残長 4.7	残幅 1.0	残厚 0.2	3.90	関は茎に向かって小さく折れ込む。	刃部と思われる鉄片は袋の中でバラバラになる、34.6g 分あり。地金遺存は良好。
118	10	128	17-1	刀子	一括	残長 5.3 茎長 4.4	関幅 0.4	最大刃部厚 0.25	4.30	刃部長 0.9cm . 刃部幅 1.0cm 茎部厚 0.15 ～ 0.2cm	186 号 -10 と同一個体。
118	11	128	17-4	長頸鏃	一括	残長 4.4	茎残幅 0.4	茎残高 0.4	2.30	刃部長 2.1cm . 刃部幅 0.5cm 刃部厚 0.2cm	
118	12-A	128	17-3-A	鉄鏃 茎の一部	一括	残長 5.0	幅 0.5	高さ 0.4	A+B 6.00	錆により接合出来ない。	12-C・D と接合してもおかしくない程形状が近い。
118	12-B	128	17-3-B	鉄鏃 茎の一部	一括	残長 4.5	幅 0.4	高さ 0.5		錆により接合出来ない。	12-C・D と接合してもおかしくない程形状が近い。
118	12-C	128	17-2-C	鉄鏃 茎の一部	一括	残長 1.9	幅 0.5	高さ 0.4	C+D 4.90	錆により接合出来ない。	12-A・B と接合してもおかしくない程形状が近い。
118	12-D	128	17-2-D	鉄鏃 茎の一部	一括	残長 4.4	幅 0.5	高さ 0.4		錆により接合出来ない。	12-A・B と接合してもおかしくない程形状が近い。
122	17	121	19	袋状有肩鉄斧	カマド左袖上	全長 9.3	最大幅 （7.3）	最大刃部厚 1.2	221.20	袋部長 5.6cm 袋部幅 4.0cm 袋部最大高 2.2cm	地金の遺存良好。
125	34	194	37	寛永通宝	一括	2.3	2.3	0.1 ～ 0.15	2.00	孔は方形で幅 5.5㎜	裏面に文字等は見当たらない。
134	48	143	76	板状鉄斧 1/3	一括	全長（9.3） 残長　4.0	残幅 5.6	残厚 0.5	34.10	刃部先端部欠け端部に刃なし。	

新遺構	遺物	旧遺構	実測	器　種	出土位置	法　量　（推定）cm /g				特徴	備考
番号	番号	番号	番号	遺存度		長さ	幅	厚さ（高さ）	重量		
139	49	132	46	鉄鏃（方頭鏃） 完形	床 +3	全長 4.6	最大幅 1.0	最大刃部 0.2	5.10	鏃身長 3.0cm　茎長 1.6cm　茎部 0.2cm	
143	25	134	34	不明鉄器	床 -20	残長 9.1	最大幅 0.75	最大厚 0.35	7.90	断面は長方形。	
143	26	134	32	不明鉄器	一括	残長 12.6	最大幅 0.7	最大厚 0.45	10.90	断面は長方形。	NO-25 に似る。
153	10	185	16	有舌三角形鉄鏃	一括	身長　4.3 頸部長 0.2	幅　3.7 頸部幅 0.5	厚　0.2 頸部厚 0.2	6.00	逆刺部長 1.7cm　左 1.5cm	和泉期と考えられる。152 号に伴う可能性大。
174	1	151	21	内行花文鏡	床直	最大長 7.1	7.05	0.25	45.60	紐径 11㎜ 紐高 0.4cm	外区の一部欠存。
174	2	151	22	刀子	床直	全長 7.9 刃部 5.9 茎部 2.0	刃部幅 1.2 茎部幅 0.9	刃部厚 0.2 茎部厚 0.2	7.70	茎部に径 2.5㎜程の円孔 1 ヶ所あり。	やや左にそる。内行花文鏡と同一レベルで出土。
174	3	151	23	腸扶柳葉鏃 茎部全欠	床直	残長　4.2 刃部残 4.0 茎部　1.2	鏃身幅 2.0 茎部幅 0.5	鏃身厚 0.3 茎部厚 0.3	5.60	逆刺部長 1.5cm　頸部長 1.2cm	両角関 A 類・Ⅲ期。 （会津大塚山と同期）
177	12	156	29	長頸鏃　頸部	床直	残長 5.5	残幅 0.6	残厚 0.5	9.50	茎部は方形。	比較的地金の遺存は良好。
182	31	166	42	片刃長頸鏃	床 +7	全長 17.0	台関幅 0.8 刃部幅 0.9 頸部幅 0.5 茎部幅 0.5	頸部茎部高 0.4 茎部木質厚 0.9　高 0.9 茎部高 0.4	17.10	刃部長 3.8cm 片逆刺部長（0.8）cm 頸部長 7.2cm 茎部残長 4.0cm 茎部推定長 5.3cm。 茎部に木質付着。	
186	9	118	15	刀子	床直	全長　7.5 刃部長 5.6	刃部幅 1.4	棟厚 0.4	7.60	茎部長 1.9cm 茎幅最大 1.0cm 茎厚 0.3cm	片関完形。4 ～ 6 期併行。前期末～中期。
186	10	118	14	刀子	床直	残長 4.8	刃部幅 1.0	棟厚 0.4	3.80	刃部のみ残存	118 号 -12-1 と同一個体。
201	24	86	25	長頸鏃状鉄製品	カマド 一括	残長 6.2	残幅 0.5 ～ 0.3	0.5 ～ 0.2	3.80	二次変形し L 字状に曲がる。	
201	25	86	27	長三角形長頸鏃 関部欠存	床直	残長 6.6	鏃身幅 0.8 頸部幅 0.4	鏃身厚 0.2 頸部厚 0.3	4.50	刃部断面は片丸造り。	7C 末葉。
202	18	148	24	刀子片	一括	茎残長 4.3	最大幅 1.0	最大厚 0.2	2.80	茎部木質の上から糸巻き状の痕跡が残る。	一部木質付着。
203	51	147	66	たがね状鉄製品	床直	全長 6.4	幅 1.1	厚 0.7	15.10	茎端は刃部状に鋭い。	
203	52	147	67	棒状鉄製品	一括	残長 3.9	幅 0.9	厚 0.4	5.20	断面は長方形。	
227	25	262A	10	片刃長頸鏃	床 +2	全長 （13.8）	茎部幅 4.4 ～ 5.0	茎部厚 2 ～ 3.5	7.20	鏃身長 1.4cm 頸部長 8.4cm 茎部長（5.5）cm 他 3 片同一個体（茎部）あるが接合に至らない。	7C 中葉。
230	12	259A	14	鉄鏃片	一括	残長 4.5	残最大 0.60	0.35	2.80	茎部断面は長方形。	茎部のみ。鏃身部・茎尻部全欠。 おそらく 116 号に伴う。
261	24	96	28 29	板状鉄斧 中央部欠	床直	全長 （11.0）	幅 3.2	高さ 1.0	53.00	保存状況不良の為、欠存・剥離著しい。	大きく 2 分されて残存する。法量は復元値。
284	16	29	17	三角形式長頸鏃 完形	床直	全長 16.9 刃部　4.6 頸部　8.6 茎部　3.7	最大厚 刃部幅　1.1 頸部幅 0.71 幅茎部　0.7	最大厚 刃部厚 0.3 頸部厚 0.6 幅茎厚 0.6	21.80	刃部断面片丸造り。頸部断面は長方形。 茎部断面は内形。	角 or 台形関。
295	27	22A	31	刀子	床 +4	14.9	刃部最大幅 1.3　茎部最 大幅 1.6	刃部最大厚 0.5　茎部最 大厚 1.3	17.10	鋺部も鉄製で仕上げる。	茎部に木質が付着する。

新遺構	遺物	旧遺構	実測	器　種	出土位置	法　量　（推定）cm /g				特徴	備考
番号	番号	番号	番号	遺存度		長さ	幅	厚さ（高さ）	重量		
328	12	11	21-1	鉄器	一括	3.5	2.9	0.1	3.30	三角形の鉄板状を呈し、端部一面が袋状に捲れ上がる？	用途不明鉄器。
328	13	11	21-2	鉄器	一括	残長 3.2	最大幅 1.4	0.1	3.10	先端に向って端を減じ袋状を呈する。	用途不明鉄器。
332	10	10	11-1	長頸鏃 茎部のみ	床直	残長 5.2	0.4	0.3	3.20	茎部断面は方形～円形。	茎部のみ。いずれも関形状不明。木質付着。
332	11	10	11-2	長頸鏃 茎部のみ	床直	残長 4.3	0.5	0.4	2.40	茎部断面は長方形～円形。	茎部のみ。いずれも関形状不明。
342	15	6B	25	長頸鏃 茎部のみ	床直	3.2	0.5	0.4	2.20	茎部断面は長方形。	茎部のみ。いずれも関形状不明。
352	12	3 号溝	50	鏡片	一括	1.5	2.3	0.15	1.60	内行花文鏡片径（10.0）cmに復元。	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色
遺跡一括	1	表採	49	鏡片	一括	1.65	3.0	0.6	12.10	縁断面は蒲鉾形。	7.5Y3/1 オリーブ黒色。舶載鏡片、多紐細文鏡の類。 地金の遺存良好。
遺跡一括	2	表採	51	釧状銅製品	一括	0.7	1.0	0.1	0.30	表裏に 7 条の鋸歯状文。	5BG4/1 暗青灰色。釧ないしは車輪石状の銅板。
遺跡一括	102	表採	63	大観通宝	一括	2.45	2.45	0.1 ～ 0.2	1.80	孔は方形で幅 7.0㎜	觀の字部分欠。

第17表　御林跡遺跡出土玉類観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm /g 長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	備考
4	16	方周 4	2	管玉	2.5GY3/1 暗灰オリーブ	主体部	0.90	0.33	0.07 ～ 0.10	0.30	0.0812	碧玉　B 号主体部の底面付近
4	17	方周 4	1	管玉	2.5GY3/1 暗灰オリーブ	主体部	0.49	0.20	0.10 ～ 0.15	0.22	0.0298	碧玉　B 号主体部の底面付近
5	19	方周 7	1	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.33	0.32	0.07	0.30	0.04	底面付近
5	20	方周 7	2	ガラス玉　完形	淡いうぐいす色	主体部	0.37	0.35	0.07 ～ 0.01	0.19	0.03	底面付近
5	21	方周 7	3	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.35	0.36	0.09 ～ 0.10	0.20	0.03	底面付近
5	22	方周 7	4	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.32	0.32	0.07	0.20	0.03	底面付近
5	23	方周 7	5	ガラス玉　ごく一部剥落	淡水色	主体部	0.48	0.48	0.08	0.28	0.05	底面付近
5	24	方周 7	6	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.36	0.33	0.07	0.23	0.03	底面付近
5	25	方周 7	7	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.37	0.36	0.11 ～ 0.12	0.23	0.04	底面付近
5	26	方周 7	8	ガラス玉　完形	淡いうぐいす色	主体部	0.32	0.30	0.10 ～ 0.11	0.23	0.02	底面付近
5	27	方周 7	9	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.39	0.37	0.08 ～ 0.10	0.32	0.04	底面付近
5	28	方周 7	10	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.37	0.37	0.12	0.18	0.03	底面付近
5	29	方周 7	11	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.35	0.35	0.08	0.25	0.04	底面付近
5	30	方周 7	12	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.39	0.37	0.10 ～ 0.12	0.25	0.04	底面付近
5	31	方周 7	13	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.35	0.35	0.13	0.12	0.02	底面付近
5	32	方周 7	14	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.37	0.39	0.10 ～ 0.11	0.28	0.06	底面付近
5	33	方周 7	15	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.36	0.38	0.06	0.22	0.04	底面付近
5	34	方周 7	16	ガラス玉　完形	淡いうぐいす色	主体部	0.35	0.33	0.06	0.20	0.03	底面付近
5	35	方周 7	17	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.36	0.36	0.11	0.28	0.04	底面付近
5	36	方周 7	18	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.33	0.33	0.11	0.18	0.02	底面付近
5	37	方周 7	19	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.38	0.35	0.07 ～ 0.10	0.28	0.04	底面付近
5	38	方周 7	20	ガラス玉　完形	淡いうぐいす色	主体部	0.32	0.32	0.10	0.32	0.04	底面付近
5	39	方周 7	21	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.40	0.42	0.12 ～ 0.18	0.25	0.05	底面付近
5	40	方周 7	22	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.37	0.38	0.14	0.20	0.03	底面付近
5	41	方周 7	23	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.36	0.37	0.12	0.28	0.05	底面付近
5	42	方周 7	24	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.32	0.33	0.10	0.15	0.02	底面付近
5	43	方周 7	25	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.35	0.37	0.10 ～ 0.12	0.27	0.04	底面付近
5	44	方周 7	26	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.33	0.37	0.11 ～ 0.12	0.20	0.03	底面付近
5	45	方周 7	27	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.36	0.37	0.10	0.16	0.02	底面付近
5	46	方周 7	28	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.31	0.32	0.09	0.20	0.02	底面付近
5	47	方周 7	29	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.32	0.43	0.15	0.20	0.04	底面付近
5	48	方周 7	30	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.32	0.33	0.07	0.23	0.03	底面付近
5	49	方周 7	31	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.37	0.36	0.07 ～ 0.13	0.24	0.04	底面付近
5	50	方周 7	32	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.33	0.33	0.08 ～ 0.13	0.30	0.03	底面付近
5	51	方周 7	33	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.37	0.38	0.11 ～ 0.13	0.27	0.04	底面付近
5	52	方周 7	34	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.34	0.36	0.10 ～ 0.11	0.22	0.03	底面付近

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm /g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
5	53	方周 7	35	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.42	0.42	0.10 ～ 0.16	0.30	0.05	底面付近
5	54	方周 7	36	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.33	0.37	0.12 ～ 0.15	0.28	0.04	底面付近
5	55	方周 7	37	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.32	0.33	0.07 ～ 0.08	0.20	0.03	底面付近
5	56	方周 7	38	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.32	0.35	0.08 ～ 0.10	0.24	0.03	底面付近
5	57	方周 7	39	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.36	0.33	0.10 ～ 0.11	0.30	0.04	底面付近
5	58	方周 7	40	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.32	0.35	0.10 ～ 0.12	0.29	0.04	底面付近
5	59	方周 7	41	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.37	0.37	0.10 ～ 0.11	0.30	0.05	底面付近
5	60	方周 7	42	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.36	0.37	0.10 ～ 0.11	0.27	0.04	底面付近
5	61	方周 7	43	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.36	0.37	0.10 ～ 0.09	0.28	0.04	底面付近
5	62	方周 7	44	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.34	0.32	0.10 ～ 0.11	0.30	0.04	底面付近
5	63	方周 7	45	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.38	0.38	0.12 ～ 0.15	0.26	0.04	底面付近
5	64	方周 7	46	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.33	0.30	0.07 ～ 0.10	0.32	0.03	底面付近
5	65	方周 7	47	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.35	0.35	0.10 ～ 0.11	0.25	0.04	底面付近
5	66	方周 7	48	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.35	0.34	0.08 ～ 0.11	0.25	0.03	底面付近
5	67	方周 7	49	ガラス玉　完形	淡いうぐいす色	主体部	0.42	0.43	0.09 ～ 0.13	0.37	0.07	底面付近
5	68	方周 7	50	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.35	0.34	0.07 ～ 0.08	0.22	0.03	底面付近
5	69	方周 7	51	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.34	0.36	0.14 ～ 0.20	0.21	0.03	底面付近
5	70	方周 7	52	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.37	0.38	0.12 ～ 0.15	0.17	0.03	底面付近
5	71	方周 7	53	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.30	0.32	0.10 ～ 0.12	0.28	0.03	底面付近
5	72	方周 7	54	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.36	0.37	0.07 ～ 0.08	0.17	0.03	底面付近
5	73	方周 7	55	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.35	0.38	0.08 ～ 0.10	0.34	0.04	底面付近
5	74	方周 7	56	ガラス玉　3 片を接合	淡いうぐいす色	主体部	0.25	0.24	0.05 ～ 0.10	0.03	-	底面付近
5	75	方周 7	57	ガラス玉　1/2 欠	淡水色	主体部	0.37	0.41	0.11 ～ 0.13	0.33	0.06	底面付近
5	76	方周 7	58	ガラス玉　1/3 欠	淡水色	主体部	0.35	0.38	0.14 ～ 0.15	0.25	0.03	底面付近
5	77	方周 7	59	ガラス玉　1/3 欠	淡水色	主体部	0.32	0.33	0.11 ～ 0.12	0.18	0.02	底面付近
5	78	方周 7	60	ガラス玉　4 片を接合	淡いうぐいす色	主体部	0.37	0.38	0.10 ～ 0.11	0.26	-	底面付近
5	79	方周 7	61	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.37	0.37	0.12 ～ 0.17	0.30	0.54	底面付近
5	80	方周 7	62	ガラス玉　完形	淡水色	主体部	0.27	0.28	0.10 ～ 0.15	0.26	0.04	底面付近
6	1	方周 5	8	ガラス玉　完形	紺色	主体部	0.52	0.52	0.10 ～ 0.15	0.50	0.20	底面密着
6	2	方周 5	9	ガラス玉　1/3 欠	濃紺色	主体部	0.85	0.85	0.21 ～ 0.31	0.52	0.38	底面密着
6	3	方周 5	10	ガラス玉　完形	紺色	主体部	0.54	0.60	0.20 ～ 0.21	0.45	0.19	底面密着
7	1	方周 6	4-1	ガラス玉　完形	濃紺色	主体部	0.75	0.80	0.25 ～ 0.28	0.60	0.40	底面密着
7	2	方周 6	4-2	ガラス玉　完形	紺色	主体部	0.50	0.55	0.12 ～ 0.13	0.50	0.19	底面密着
7	3	方周 6	4-4	ガラス玉　完形	濃紺色	主体部	0.70	0.75	0.31 ～ 0.35	0.35	0.19	底面密着
7	4	方周 6	4-5	ガラス玉　完形	濃紺色	主体部	0.65	0.70	0.11 ～ 0.12	0.60	0.39	底面密着
7	5	方周 6	4-6	ガラス玉　完形	紺色	主体部	0.60	0.65	0.11 ～ 0.16	0.40	0.18	底面密着
7	6	方周 6	4-7	ガラス玉　完形	紺色	主体部	0.65	0.70	0.15 ～ 0.16	0.80	0.43	底面密着
7	7	方周 6	4-8	ガラス玉　完形	濃紺色	主体部	0.45	0.60	0.11	0.45	0.16	底面密着

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm /g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
7	8	方周 6	4-9	ガラス玉　完形	紺色	主体部	0.65	0.60	0.16 ～ 0.25	0.35	0.15	底面密着
7	9	方周 6	4-10	ガラス玉　完形	紺色	主体部	0.75	0.65	0.07 ～ 0.20	0.80	0.46	底面 +6cm
7	10	方周 6	4-11	ガラス玉　完形	濃紺色	主体部	0.65	0.70	0.11 ～ 0.24	0.65	0.37	底面密着
7	11	方周 6	4-12	ガラス玉　完形	紺色	主体部	0.65	0.65	0.18 ～ 0.23	0.35	0.17	底面密着
7	12	方周 6	4-3	ガラス玉　完形	紺色	主体部	0.50	0.55	0.15 ～ 0.19	0.50	0.16	底面密着
7	13	方周 6	3	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	溝一括	0.48	0.50	0.14 ～ 0.18	0.23	0.14	注記に東南溝南コーナーとあるが出土位置を特定できず
13	20	265	21	有孔円盤　一部欠	10GY4/1 暗緑灰色	一括	3.10	2.60	0.20 ～ 0.21 0.15 ～ 0.26	0.30	4.40	滑石
17	49	254	47	管玉　完形	7.5Y1/1 黒色	一括	2.00	0.60	0.20	0.60	1.40	滑石
17	50	254	46	管玉　完形	7.5Y1/1 黒色	一括	2.50	0.70	0.35 ～ 0.3	0.80	2.20	滑石
28	28	231A	33	有孔円盤　一部欠	7.5GY4/1 暗緑灰色	一括	3.10	3.00	0.20 ～ 0.25 0.21 ～ 0.25	0.50	8.30	滑石　27 号に伴う
28	29	231A	32	勾玉　完形	10GY7/1 暗緑灰色	一括	1.80	0.80	0.20 ～ 0.25	0.60	1.00	変質凝灰石
37	38	227	38	臼玉　一部欠	5Y5/1 灰色	一括	0.53	0.53	0.15 ～ 0.16	0.38	0.16	滑石
42	19	225	21	扁平勾玉　一部欠	2.5GY5/1 オリーブ灰色	床直	3.70	1.50	0.13 ～ 0.25	0.50	5.40	滑石
45	11	200A	1	臼玉　完形	5Y5/1 灰色	床直	0.42	0.42	0.15 ～ 0.16	0.25	0.07	注記に床面とあるがポイントなし
49	8	230	4	臼玉　完形	5Y4/1 灰色	一括	0.50	0.58	0.17 ～ 0.18	0.28	0.11	滑石
50	23	251	B-01	臼玉　1/3 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.50	0.15 ～ 0.16	0.20	0.08	滑石
50	24	251	B-02	臼玉　1/3 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.50	0.15 ～ 0.16	0.20	0.07	滑石
50	25	251	B-03	臼玉　1/3 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	B 床直	0.43	0.48	0.14 ～ 0.16	0.25	0.08	滑石
50	26	251	B-04	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.16	0.28	0.11	滑石
50	27	251	B-05	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.45	0.11 ～ 0.12	0.20	0.05	滑石
50	28	251	B-06	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.48	0.12 ～ 0.15	0.28	0.10	滑石
50	29	251	B-07	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	B 床直	0.45	0.50	0.13 ～ 0.16	0.20	0.06	滑石
50	30	251	B-08	臼玉　1/3 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.50	0.13 ～ 0.17	0.20	0.08	滑石
50	31	251	B-12	臼玉　1/2 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	B 床直	0.42	0.50	0.15 ～ 0.16	0.22	0.08	滑石
50	32	251	B-10	臼玉　1/3 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.18	0.22	0.07	滑石
50	33	251	B-11	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.16	0.28	0.10	滑石
50	34	251	B-09	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	B 床直	0.65	0.65	0.15 ～ 0.16	0.42	0.32	滑石
50	35	251	B-13	臼玉　1/3 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	B 床直	0.45	0.50	0.16 ～ 0.20	0.20	0.08	滑石
50	36	251	B-14	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.50	0.14 ～ 0.16	0.22	0.08	滑石
50	37	251	B-15	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	B 床直	0.48	0.50	0.15 ～ 0.16	0.22	0.08	滑石
50	38	251	A-01	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.13 ～ 0.14	0.20	0.07	滑石
50	39	251	A-02	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.15 ～ 0.17	0.28	0.10	滑石
50	40	251	A-03	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.14 ～ 0.17	0.20	0.07	滑石
50	41	251	A-04	臼玉　1/3 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.42	0.48	0.12 ～ 0.17	0.22	0.08	滑石
50	42	251	A-05	臼玉　1/3 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.43	0.45	0.12 ～ 0.16	0.19	0.09	滑石
50	43	251	A-06	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.17	0.28	0.10	滑石
50	44	251	A-07	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.14 ～ 0.15	0.28	0.10	滑石
50	45	251	A-08	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.42	0.13 ～ 0.16	0.25	0.09	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm/g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
50	46	251	A-09	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.16	0.25	0.09	滑石
50	47	251	A-10	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.17	0.22	0.09	滑石
50	48	251	A-11	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.17	0.15	0.05	滑石
50	49	251	A-12	臼玉　2/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.14 ～ 0.15	0.20	0.06	滑石
50	50	251	A-13	臼玉　1/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.49	0.15 ～ 0.19	0.20	0.05	滑石
50	51	251	A-14	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.44	0.48	0.13 ～ 0.15	0.28	0.07	滑石
50	52	251	A-15	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.14 ～ 0.16	0.20	0.05	滑石
50	53	251	A-16	臼玉　1/3 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.42	0.58	0.15 ～ 0.17	0.20	0.05	滑石
50	54	251	A-17	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.17	0.22	0.06	滑石
50	55	251	A-18	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.18	0.25	0.07	滑石
50	56	251	A-19	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.49	0.15 ～ 0.16	0.17	0.03	滑石
50	57	251	A-20	臼玉　1/3 欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.40	0.58	0.15 ～ 0.17	0.20	0.05	滑石
50	58	251	A-21	臼玉　1/2 欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.49	0.48	0.15 ～ 0.18	0.25	0.08	滑石
50	59	251	A-22	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.47	0.15 ～ 0.17	0.20	0.09	滑石
50	60	251	A-23	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.16	0.20	0.80	滑石
50	61	251	A-24	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.16	0.20	0.06	滑石
50	62	251	A-25	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.13 ～ 0.16	0.23	0.09	滑石
50	63	251	A-26	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.49	0.15 ～ 0.17	0.25	0.11	滑石
50	64	251	A-27	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.16	0.25	0.07	滑石
50	65	251	A-28	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.50	0.13 ～ 0.15	0.19	0.07	滑石
50	66	251	A-29	臼玉　ごく一部剥落	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.16 ～ 0.17	0.20	0.08	滑石
50	67	251	A-30	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.47	0.48	0.14 ～ 0.15	0.20	0.07	滑石
50	68	251	A-31	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.12 ～ 0.13	0.25	0.10	滑石
50	69	251	A-32	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.16	0.22	0.08	滑石
50	70	251	A-33	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.13 ～ 0.16	0.22	0.09	滑石
50	71	251	A-34	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.16	0.20	0.08	滑石
50	72	251	A-35	臼玉　1/6 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.12 ～ 0.16	0.22	0.07	滑石
50	73	251	A-36	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.13 ～ 0.16	0.12	0.06	滑石
50	74	251	A-3 7	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.48	0.16 ～ 0.18	0.28	0.10	滑石
50	75	251	A-38	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.14 ～ 0.16	0.18	0.06	滑石
50	76	251	A-39	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.17	0.25	0.09	滑石
50	77	251	A-40	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.15 ～ 0.18	0.21	0.07	滑石
50	78	251	A-41	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.14 ～ 0.19	0.24	0.11	滑石
50	79	251	A-42	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.17	0.20	0.08	滑石
50	80	251	A-43	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.16	0.22	0.09	滑石
50	81	251	A-44	臼玉　ごく一部剥落	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.16 ～ 0.17	0.30	0.14	滑石
50	82	251	A-45	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.16 ～ 0.17	0.20	0.08	滑石
50	83	251	A-46	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.46	0.50	0.14 ～ 0.17	0.25	0.09	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm /g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
50	84	251	A-47	臼玉　1/3 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.43	0.45	0.16	0.20	0.04	滑石
50	85	251	A-48	臼玉　1/6 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.49	0.15 ～ 0.18	0.23	0.08	滑石
50	86	251	A-49	臼玉　1/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.50	0.14 ～ 0.15	0.21	0,08	滑石
50	87	251	A-50	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.16	0.23	0.08	滑石
50	88	251	A-51	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.14 ～ 0.16	0.22	0.07	滑石
50	89	251	A-52	臼玉　1/3 欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.48	0.48	0.13 ～ 0.15	0.12	0.03	滑石
50	90	251	A-53	臼玉　一部欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.48	0.49	0.12 ～ 0.14	0.21	0.08	滑石
50	91	251	A-54	臼玉　ごく一部剥落	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.15 ～ 0.16	0.21	0.07	滑石
50	92	251	A-55	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.46	0.49	0.14 ～ 0.15	0.20	0.06	滑石
50	93	251	A-56	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.15	0.22	0.07	滑石
50	94	251	A-57	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.15 ～ 0.18	0.25	0.10	滑石
50	95	251	A-58	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.46	0.50	0.15 ～ 0.17	0.26	0.10	滑石
50	96	251	A-59	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.13 ～ 0.15	0.22	0.08	滑石
50	97	251	A-60	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.16 ～ 0.19	0.22	0.07	滑石
50	98	251	A-61	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.13 ～ 0.15	0.30	0.11	滑石
50	99	251	A-62	臼玉　ごく一部剥落	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.13 ～ 0.14	0.20	0.09	滑石
50	100	251	A-63	臼玉　1/6 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.42	0.50	0.13 ～ 0.14	0.11	0.06	滑石
50	101	251	A-64	臼玉　1/2 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.49	0.13	0.20	0.06	滑石
50	102	251	A-65	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.16	0.25	0.10	滑石
50	103	251	A-66	臼玉　1/3 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.50	0.13 ～ 0.18	0.20	0.07	滑石
50	104	251	A-67	臼玉　ごく一部剥落	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.16	0.26	0.10	滑石
50	105	251	A-68	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.14 ～ 0.16	0.23	0.10	滑石
50	106	251	A-69	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.16 ～ 0.18	0.30	0.13	滑石
50	107	251	A-70	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.43	0.50	0.14 ～ 0.16	0.19	0.07	滑石
50	108	251	A-71	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.13 ～ 0.16	0.27	0.12	滑石
50	109	251	A-72	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.13 ～ 0.16	0.20	0.06	滑石
50	110	251	A-73	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.13 ～ 0.16	0.25	0.11	滑石
50	111	251	A-74	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.49	0.13 ～ 0.15	0.25	0.10	滑石
50	112	251	A-75	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.49	0.15 ～ 0.17	0.25	0.09	滑石
50	113	251	A-76	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.49	0.15 ～ 0.17	0.29	0.10	滑石
50	114	251	A-77	臼玉　ごく一部剥落	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.47	0.49	0.15 ～ 0.17	0.24	0.07	滑石
50	115	251	A-78	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.16 ～ 0.17	0.23	0.09	滑石
50	116	251	A-79	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.14 ～ 0.16	0.25	0.07	滑石
50	117	251	A-80	臼玉　ごく一部剥落	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.47	0.13 ～ 0.15	0.22	0.07	滑石
50	118	251	A-81	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.47	0.14 ～ 0.15	0.22	0.10	滑石
50	119	251	A-82	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.15	0.22	0.11	滑石
50	120	251	A-83	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.16	0.30	0.10	滑石
50	121	251	A-84	臼玉　ごく一部剥落	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.16 ～ 0.18	0.23	0.10	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm/g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
50	122	251	A-85	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.17	0.21	0.08	滑石
50	123	251	A-86	臼玉　完形	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.49	0.49	0.15 ～ 0.18	0/20	0.07	滑石
50	124	251	A-87	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.17	0.25	0.09	滑石
50	125	251	A-88	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.17	0.30	0.12	滑石
50	126	251	A-89	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.15 ～ 0.16	0.22	0.11	滑石
50	127	251	A-90	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.49	0.12 ～ 0.14	0.20	0.08	滑石
50	128	251	A-91	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.16	0.22	0.09	滑石
50	129	251	A-92	臼玉　1/3 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.40	0.49	0.14 ～ 0.16	0.24	0.08	滑石
50	130	251	A-93	臼玉　1/6 欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.48	0.50	0.15 ～ 0.18	0.24	0.09	滑石
50	131	251	A-94	臼玉　ごく一部剥落	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.15	0.18	0.07	滑石
50	132	251	A-95	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.14 ～ 0.17	0.22	0.07	滑石
50	133	251	A-96	臼玉　ごく一部剥落	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.17	0.15	0.06	滑石
50	134	251	A-97	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.14 ～ 0.15	0.28	0.08	滑石
50	135	251	A-98	臼玉　1/3 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.13 ～ 0.15	0.17	0.04	滑石
50	136	251	A-99	臼玉　ごく一部剥落	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.16 ～ 0.18	0.26	0.09	滑石
50	137	251	A-100	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.15	0.25	0.09	滑石
50	138	251	A-101	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.48	0.16 ～ 0.18	0.25	0.09	滑石
50	139	251	A-102	臼玉　完形	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.45	0.45	0.13 ～ 0.15	0.20	0.07	滑石
50	140	251	A-103	臼玉　ごく一部剥落	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.18	0.28	0.10	滑石
50	141	251	A-104	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.17	0.25	0.10	滑石
50	142	251	A-105	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.14 ～ 0.17	0.25	0.08	滑石
50	143	251	A-107	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.13 ～ 0.15	0.20	0.08	滑石
50	144	251	A-108	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.13 ～ 0.15	0.20	0.07	滑石
50	145	251	A-109	臼玉　1/2 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.40	0.45	0.12 ～ 0.14	0.28	0.08	滑石
50	146	251	A-110	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.12 ～ 0.14	0.18	0.05	滑石
50	147	251	A-111	臼玉　一部欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.16	0.18	0.09	滑石
50	148	251	A-112	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.14 ～ 0.16	0.19	0.10	滑石
50	149	251	A-113	臼玉　一部欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.48	0.49	0.14 ～ 0.16	0.20	0.08	滑石
50	150	251	A-114	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.15 ～ 0.16	0.22	0.08	滑石
50	151	251	A-115	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.15 ～ 0.16	0.20	0.08	滑石
50	152	251	A-116	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.13 ～ 0.15	0.20	0.07	滑石
50	153	251	A-117	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.43	0.48	0.16 ～ 0.17	0.28	0.08	滑石
50	154	251	A-118	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.46	0.46	0.14 ～ 0.16	0.22	0.07	滑石
50	155	251	A-119	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.16	0.25	0.08	滑石
50	156	251	A-120	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.13 ～ 0.16	0.20	0.07	滑石
50	157	251	A-121	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.14 ～ 0.15	0.20	0.07	滑石
50	158	251	A-122	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.16	0.23	0.09	滑石
50	159	251	A-123	臼玉　1/6 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.50	0.12 ～ 0.13	0.11	0.03	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm/g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
50	160	251	A-124	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.49	0.14 ～ 0.18	0.18	0.05	滑石
50	161	251	A-125	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.15 ～ 0.16	0.21	0.08	滑石
50	162	251	A-126	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.49	0.13 ～ 0.15	0.18	0.07	滑石
50	163	251	A-127	臼玉　ごく一部剥落	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.51	0.50	0.15 ～ 0.18	0.25	0.12	滑石
50	164	251	A-128	臼玉　1/6 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.15 ～ 0.18	0.21	0.08	滑石
50	165	251	A-129	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.15	0.20	0.08	滑石
50	166	251	A-130	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.17 ～ 0.18	0.25	0.10	滑石
50	167	251	A-131	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.13 ～ 0.15	0.22	0.07	滑石
50	168	251	A-132	臼玉　1/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.12 ～ 0.15	0.28	0.09	滑石
50	169	251	A-133	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.12 ～ 0.14	0.25	0.08	滑石
50	170	251	A-134	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.13 ～ 0.15	0.22	0.06	滑石
50	171	251	A-135	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.15 ～ 0.16	0.20	0.06	滑石
50	172	251	A-136	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.13 ～ 0.16	0.18	0.07	滑石
50	173	251	A-137	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.16	0.25	0.10	滑石
50	174	251	A-138	臼玉　1/2 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.45	0.14	0.23	0.06	滑石
50	175	251	A-139	臼玉　ごく一部剥落	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.50	0.12 ～ 0.16	0.18	0.07	滑石
50	176	251	A-140	臼玉　完形	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.50	0.50	0.13 ～ 0.21	0.20	0.04	滑石
50	177	251	A-141	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.14 ～ 0.16	0.20	0.07	滑石
50	178	251	A-142	臼玉　1/2 欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.48	0.50	0.13 ～ 0.15	0.20	0.07	滑石
50	179	251	A-143	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.16	0.18	0.07	滑石
50	180	251	A-144	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.17	0.20	0.09	滑石
50	181	251	A-145	臼玉　1/3 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.14 ～ 0.16	0.21	0.07	滑石
50	182	251	A-146	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.50	0.16 ～ 0.18	0.25	0.10	滑石
50	183	251	A-147	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.15	0.18	0.06	滑石
50	184	251	A-148	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.49	0.49	0.14 ～ 0.15	0.21	0.08	滑石
50	185	251	A-149	臼玉　完形	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.16	0.28	0.11	滑石
50	186	251	A-150	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.48	0.14 ～ 0.16	0.30	0.11	滑石
50	187	251	A-151	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.12 ～ 0.16	0.22	0.10	滑石
50	188	251	A-152	臼玉　一部欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.48	0.50	0.13 ～ 0.16	0.18	0.08	滑石
50	189	251	A-153	臼玉　完形	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.45	0.45	0.13 ～ 0.16	0.22	0.09	滑石
50	190	251	A-154	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.50	0.13 ～ 0.17	0.25	0.10	滑石
50	191	251	A-155	臼玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.13 ～ 0.16	0.20	0.09	滑石
50	192	251	A-156	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.13 ～ 0.16	0.28	0.11	滑石
50	193	251	A-157	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.17	0.22	0.11	滑石
50	194	251	A-158	臼玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.16	0.25	0.12	滑石
50	195	251	A-159	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.16	0.20	0.08	滑石
50	196	251	A-160	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.12 ～ 0.17	0.22	0.10	滑石
50	197	251	A-161	臼玉　1/3 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.51	0.51	0.14 ～ 0.16	0.18	0.09	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm/g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
50	198	251	A-162	白玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.47	0.47	0.16 ～ 0.17	0.20	0.08	滑石
50	199	251	A-163	白玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.16	0.20	0.09	滑石
50	200	251	A-164	白玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.16	0.17	0.08	滑石
50	201	251	A-165	白玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.14 ～ 0.15	0.25	0.10	滑石
50	202	251	A-166	白玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.16	0.20	0.08	滑石
50	203	251	A-167	白玉　1/2 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.47	0.14 ～ 0.15	0.28	0.09	滑石
50	204	251	A-168	白玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.13 ～ 0.15	0.20	0.07	滑石
50	205	251	A-169	白玉　2/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.47	0.47	0.12 ～ 0.15	0.30	0.10	滑石
50	206	251	A-170	白玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.46	0.49	0.15 ～ 0.16	0.25	0.09	滑石
50	207	251	A-171	白玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.51	0.50	0.12 ～ 0.15	0.21	0.07	滑石
50	208	251	A-172	白玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.16	0.21	0.08	滑石
50	209	251	A-173	白玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.46	0.48	0.15 ～ 0.16	0.24	0.08	滑石
50	210	251	A-174	白玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.16 ～ 0.20	0.25	0.08	滑石
50	211	251	A-175	白玉　一部欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.50	0.50	0.16 ～ 0.17	0.23	0.10	滑石
50	212	251	A-176	白玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.17	0.20	0.08	滑石
50	213	251	A-177	白玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.46	0.49	0.15 ～ 0.17	0.24	0.07	滑石
50	214	251	A-178	白玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.47	0.50	0.17 ～ 0.18	0.28	0.06	滑石
50	215	251	A-179	白玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.14 ～ 0.15	0.24	0.07	滑石
50	216	251	A-180	白玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.14 ～ 0.16	0.21	0.05	滑石
50	217	251	A-181	白玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.16 ～ 0.18	0.12	0.06	滑石
50	218	251	A-182	白玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.16	0.21	0.10	滑石
50	219	251	A-183	白玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.16 ～ 0.18	0.20	0.09	滑石
50	220	251	A-184	白玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.47	0.48	0.14 ～ 0.16	0.21	0.08	滑石
50	221	251	A-185	白玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.16	0.24	0.10	滑石
50	222	251	A-186	白玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.16	0.21	0.08	滑石
50	223	251	A-187	白玉　一部欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.47	0.15 ～ 0.19	0.21	0.05	滑石
50	224	251	A-188	白玉　一部欠	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.49	0.51	0.15 ～ 0.16	0.21	0.10	滑石
50	225	251	A-189	白玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.15 ～ 0.16	0.21	0.09	滑石
50	226	251	A-190	白玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.49	0.15 ～ 0.18	0.21	0.07	滑石
50	227	251	A-191	白玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.50	0.13 ～ 0.15	0.22	0.09	滑石
50	228	251	A-192	白玉　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.14 ～ 0.17	0.25	0.09	滑石
50	229	251	A-193	白玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.14 ～ 0.16	0.28	0.13	滑石
50	230	251	A-194	白玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.14	0.32	0.14	滑石
50	231	251	A-195	白玉　1/6 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.13 ～ 0.14	0.20	0.08	滑石
50	232	251	A-196	白玉　1/2 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14	0.28	0.09	滑石
50	233	251	A-197	白玉　完形	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.48	0.45	0.15 ～ 0.16	0.25	0.09	滑石
50	234	251	A-198	白玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.16	0.32	0.10	滑石
50	235	251	A-199	白玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.48	0.15 ～ 0.16	0.32	0.11	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm /g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
50	236	251	A-200	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14	0.22	0.09	滑石
50	237	251	A-201	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.48	0.13 ～ 0.17	0.20	0.09	滑石
50	238	251	A-202	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.13 ～ 0.16	0.20	0.07	滑石
50	239	251	A-203	臼玉　1/6 欠	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.17	0.15	0.05	滑石
50	240	251	A-204	臼玉　1/6 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.13 ～ 0.18	0.18	0.07	滑石
50	241	251	A-205	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.13 ～ 0.17	0.22	0.07	滑石
50	242	251	A-206	臼玉　ごく一部剥落	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.48	0.15 ～ 0.19	0.22	0.09	滑石
50	243	251	A-207	臼玉　1/6 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.45	0.48	0.14 ～ 0.16	0.16	0.05	滑石
50	244	251	A-208	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.17	0.32	0.08	滑石
50	245	251	A-209	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.15	0.22	0.08	滑石
50	246	251	A-210	臼玉　1/2 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.14 ～ 0.15	0.22	0.07	滑石
50	247	251	A-211	臼玉　ごく一部剥落	7.5GY6/1 灰色	A 床直	0.48	0.49	0.16 ～ 0.18	0.19	0.07	滑石
50	248	251	A-212	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.16 ～ 0.18	0.25	0.09	滑石
50	249	251	A-213	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.48	0.14 ～ 0.18	0.25	0.11	滑石
50	250	251	A-214	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	A 床直	0.50	0.50	0.14 ～ 0.17	0.20	0.09	滑石
50	251	251	A-215	臼玉　1/2 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	A 床直	0.48	0.48	0.15 ～ 0.19	0.25	0.06	滑石
50	252	251	A-106	扁平勾玉　一部欠	7.5GY5/1 緑灰色	A 床直	4.75	2.40	0.15 ～ 0.20	0.55	10.32	滑石
57	3	243	17	勾玉未製品？	7.5GY7/1 明緑灰色	一括	2.95	1.50		1.40	7.80	変質凝灰石
57	4	243	16	勾玉　完形	7.5GY7/1 明緑灰色	一括	2.20	1.35	0.21 ～ 0.45	1.25	5.40	ヒスイ？
68	24	215A	42	勾玉　完形	2.5Y4/2 暗灰黄色	一括	1.50	1.10	0.20 ～ 0.25	0.70	2.60	輝石安山岩
75	25	220	20	臼玉　ごく一部剥落	7.5GY3/1 暗緑灰色	床直	0.47	0.46	0.14 ～ 0.15	0.42	0.12	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
84	31	209	37	有孔円盤　一部欠	10Y4/1 灰色	一括	2.10	2.40	0.20 ～ 0.25 0.20 ～ 0.21	0.30	2.90	滑石
86	10	207	9	臼玉　2/6 欠	5Y5/2 灰オリーブ色	一括	0.62	0.65	0.15 ～ 0.21	0.55	0.43	滑石
92	39	195	36	臼玉　完形	5Y5/1 灰色	不明	0.60	0.60	0.17 ～ 0.18	0.25	0.19	滑石　調査日誌に位置が示されるが 2 点の内どちらか不明
92	40	195	37	臼玉　一部欠	5Y5/1 灰色	不明	0.55	0.55	0.15 ～ 0.17	0.20	0.12	滑石　調査日誌に位置が示されるが 2 点の内どちらか不明
93	8	202	8	臼玉　2/6 欠	5Y5/1 灰色	床直	0.50	0.50	0.15 ～ 0.16	3.00	0.11	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
97	39	182A	39	有孔円盤　一部欠	5GY5/1 オリーブ灰色	カマド	3.80	4.00	0.15 ～ 0.20 0.11 ～ 0.22	0.45	11.00	滑石
99	42	180	48	有孔円盤　一部欠	2.5GY5/1 オリーブ灰色	一括	2.20	2.30	0.15 ～ 0.25 0.15 ～ 0.25	0.35	2.80	滑石
99	43	180	49	有孔円盤　一部欠	10G3/1 暗緑灰色	一括	2.20	2.70	0.20 ～ 0.40 0.21 ～ 0.50	0.50	3.10	滑石
100	7	179B	9	有孔円盤　1/2 強	10GY4/1 暗緑灰色	一括	2.15	3.40	0.11 ～ 0.20 0.12 ～ 0.26	0.35	4.70	滑石
103	8	198	15	有孔円盤　一部欠	2.5GY5/1 オリーブ灰色	床直	残長　1.80	2.10	0.25 ～ 0.26 0.17 ～ 0.25	0.50	3.30	滑石
110	38	130	45	扁平勾玉　一部欠	2.5Y5/2 暗灰黄色	一括	3.65	1.60	0.15 ～ 0.16	0.50	7.00	滑石　273 号 po.5 の位置出土扁平勾玉と接合
110	39	130	44	有孔円盤　一部欠	7.5Y1/5 灰色	一括	2.10	2.10	0.14 ～ 0.20 0.10 ～ 0.25	0.30	2.40	滑石
110	40	130	42	有孔円盤　一部欠	7.5Y1/5 灰色	床直	2.20	2.50	0.15 ～ 0.21 0.15 ～ 0.25	0.30	3.30	滑石
110	41	130	43	有孔円盤　一部欠	2.5GY4/2 暗灰黄色	床直	2.00	2.10	0.10 ～ 0.15 0.15 ～ 0.16	0.30	2.80	滑石
110	43	130	47	臼玉　一部欠	7.5Y6/2 灰オリーブ色	床ー 2	0.52	0.53	0.21 ～ 0.25	0.33	0.14	滑石
110	44	130	46	臼玉　1/6 欠	7.5Y6/2 灰オリーブ色	床ー 2	0.53	0.55	0.19 ～ 0.20	0.38	0.18	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm /g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
110	45	130	48	臼玉　1/6 欠	7.5Y6/2 灰オリーブ色	床ー 2	0.55	0.55	0.20 ～ 0.21	0.40	0.18	滑石
110	46	130	50	臼玉　完形	7.5Y6/2 灰オリーブ色	床直	0.55	0.55	0.20 ～ 0.22	0.20	0.10	滑石
110	47	130	49	臼玉　完形	7.5Y6/2 灰オリーブ色	床ー 2	0.55	0.53	0.19 ～ 0.21	0.40	0.20	滑石
112	6	123	10	有孔円盤　一部欠	2.5GY6/1 オリーブ灰色	床直	2	2.30	0.11 ～ 0.25 0.10 ～ 0.25	0.40	2.60	滑石
113	5	122	6	有孔円盤未製品	5GY5/1 オリーブ灰色	床 +10	3.40	3.70		0.35	7.60	滑石 孔は穿っていない
113	6	122	8	有孔円盤　1/4 欠	7.5Y5/1 灰色	床直	（2.70）	2.35	0.20	0.35	3.30	滑石
113	7	122	5	臼玉　完形	7.5Y6/2 灰オリーブ色	一括	0.4	0.40	0.13 ～ 0.17	0.20	0.06	滑石
117	15	126	20	勾玉　一部欠	10YR6/3 にぶい黄橙色	床直	2.80	1.20	0.20 ～ 0.34	0.65	6.60	ヒスイ
122	18	121	17	臼玉　完形	7.5Y6/2 灰オリーブ色	床直	0.50	0.50	0.16 ～ 0.17	0.25	0.09	滑石
123	10	120	10	有孔円盤　一部欠	7.5Y5/2 灰オリーブ色	一括	2.80	2.80	0.16 ～ 0.45 0.20 ～ 0.40	0.60	7.10	滑石　出土位置記載なし
125	35	194	31	有孔円盤　1/2 強	7.5Y1/5 灰色	床直	2.45	2.70	0.16 ～ 0.35 0.15 ～ 0.25	0.50	5.30	滑石　径 2㎜ほどの穿孔 2 ケ所　床直位置不明
130	24	190	18	勾玉　ほぼ完形	7.5Y3/1 オリーブ黒	床直	2.15	1.45	0.25 ～ 0.30	1.10	7.20	滑石　床直位置不明
131	42	142	56	扁平勾玉　一部欠	7.5Y1/5 灰色	一括	4.60	2.10	0.13 ～ 0.22	0.40	6.70	滑石
131	43	142	55	有孔円盤　ほぼ完形	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	一括	2.30	2.40	0.10 ～ 0.15 0.10 ～ 0.20	0.35	4.00	滑石
134	45	143A	74	有孔円盤　1/3 欠	10Y5/1 灰色	床 +5	1.70	2.40	0.28 ～ 0.40	0.45	2.90	滑石
134	46	143A	75	臼玉　完形	5Y6/2 灰オリーブ色	一括	0.53	0.53	0.15 ～ 0.16	0.27	0.10	滑石
139	34	132	47	臼玉　一部欠	5Y6/1 灰色	床面一括	0.48	0.49	0.13 ～ 0.15	0.25	0.12	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	35	132	48	臼玉　1/6 欠	5Y6/1 灰色	床面一括	0.48	0.50	0.17 ～ 0.18	0.28	0.12	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	36	132	49	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床面一括	0.49	0.48	0.16 ～ 0.18	0.35	0.18	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	37	132	50	臼玉　ごく一部剥落	5Y6/1 灰色	床面一括	0.48	0.48	0.16	0.34	0.15	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	38	132	51	臼玉　1/6 欠	5Y6/1 灰色	床面一括	0.47	0.48	0.17 ～ 0.19	0.25	0.11	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	39	132	52	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床面一括	0.48	0.48	0.14 ～ 0.16	0.30	0.16	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	40	132	53	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床面一括	0.47	0.48	0.13 ～ 0.15	0.26	0.12	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	41	132	54	臼玉　ごく一部剥落	5Y6/1 灰色	床面一括	0.48	0.50	0.15 ～ 0.16	0.36	0.16	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	42	132	55	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床面一括	0.50	0.50	0.17 ～ 0.20	0.34	0.17	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	43	132	56	臼玉　ごく一部剥落	5Y6/1 灰色	床面一括	0.50	0.50	0.16 ～ 0.19	0.35	0.12	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	44	132	57	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床面一括	0.48	0.49	0.17 ～ 0.20	0.28	0.13	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	45	132	58	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床面一括	0.49	0.48	0.14 ～ 0.15	0.28	0.13	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	46	132	59	臼玉　ごく一部剥落	5Y6/1 灰色	床面一括	0.48	0.48	0.18 ～ 0.19	0.35	0.16	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	47	132	60	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床面一括	0.50	0.50	0.16 ～ 0.17	0.35	0.15	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
139	48	132	61	臼玉　一部欠	5Y6/1 灰色	床面一括	0.48	0.49	0.16 ～ 0.20	0.27	0.12	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
140	14	133	18	勾玉　2/6 欠	5Y6/1 灰色	床面一括	2.60	1.75	0.15 ～ 0.16	0.60	3.21	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
140	15	133	21	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床面一括	0.45	0.46	0.14 ～ 0.16	0.48	0.14	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
140	16	133	20	臼玉　一部欠	5Y6/1 灰色	床面一括	0.51	0.52	0.12 ～ 0.13	0.53	0.36	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
140	17	133	19	臼玉　ごく一部剥落	5Y6/1 灰色	床面一括	0.51	0.49	0.15 ～ 0.16	0.52	0.26	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
142	13	138A	23	扁平勾玉　一部欠	7.5Y3/2 オリーブ黒色	床直	1.25	0.60		0.25	0.40	滑石　孔は計測不可
142	14	138A	25	管玉　一部欠	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色	床直	1.80	0.60	0.17 ～ 0.24	0.60	1.20	滑石
142	15	138A	24	管玉　一部欠	N1.5/ 黒色	床直	1.60	0.55	0.20 ～ 0.35	0.50	0.80	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm /g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
142	16	138A	22	有孔円盤未製品	5Y4/2 灰オリーブ色	床直	残長　1.90	2.40		0.40	3.40	滑石　孔は穿っていない
143	27	134	31	ガラス玉	スカイブルー	床直	0.48	0.50	0.17 ～ 0.21	0.29	0.09	
143	28	134	27	勾玉　完形	7.5Y6/2 灰オリーブ色	カマド前	2.45	0.90	0.17 ～ 0.22	0.70	3.20	ヒスイ　調査日誌にカマド前出土と記載
143	29	134	28	管玉　完形	10Y4/1 灰色	一括	2.10	1.05	0.24 ～ 0.40	1.00	4.60	滑石　出土位置記載なし
143	30	134	30	管玉　一部欠	2.5GY5/1 オリーブ灰色	一括	2.30	1.00	0.31 ～ 0.45	1.00	4.90	滑石　出土位置記載なし
143	31	134	29	管玉　完形	2.5GY5/1 オリーブ灰色	一括	2.35	1.10	0.30 ～ 0.37	1.05	5.70	滑石　出土位置記載なし
146	16	137A	25	有孔円盤　一部欠	5BG4/1 暗灰黄色	一括	3.20	3.80	0.11 ～ 0.20 0.20 ～ 0.25	0.45	8.50	滑石
154	7	184	8	大型有孔円盤　一部欠	7.5GY5/1 緑灰色	床 -6	4.60	4.80	0.20 ～ 0.28 0.20 ～ 0.21	0.45	16.60	滑石
159	61	173	39	有孔円盤　一部欠	7.5Y3/2 オリーブ黒色	一括	2.20	2.30	0.25　0.16 ～ 0.22	0.25	2.40	滑石
159	62	173	38	有孔円盤　一部欠	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	一括	2.80	3.00	0.12 ～ 0.20 0.20 ～ 0.28	0.40	5.10	滑石
170	46	154	27	石製模造品剣形品	5Y4/1 灰色	一括	3.35	1.30	0.10 ～ 0.20	0.40	3.30	滑石
170	47	154	26	扁平勾玉　ほぼ完形	10G5/1 緑灰色	一括	3.40	2.00	0.15 ～ 0.22	0.50	5.60	滑石
174	4	151	20	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	一括	0.57	0.57	0.17 ～ 0.19	0.22	0.13	滑石
176	47	158	48	有孔円盤　1/2 強	5GY5/1 オリーブ灰色	一括	残長　2.80	3.50	0.20 ～ 0.21 0.20 ～ 0.21	0.45	6.20	滑石
177	11	156	28	臼玉　一部欠	5Y6/1 灰色	床直	0.55	0.55	0.15 ～ 0.16	0.35	0.20	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
182	26	166	35	臼玉　1/6 欠	5Y6/1 灰色	床直一括	0.55	0.55	0.16 ～ 0.18	0.40	0.19	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
182	27	166	36	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床直一括	0.55	0.55	0.14 ～ 0.19	0.35	0.16	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
182	28	166	37	臼玉　2/6 欠	5Y6/1 灰色	床直一括	0.48	0.48	0.15 ～ 0.18	0.30	0.10	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
182	29	166	39	臼玉　1 /6 欠	5Y6/1 灰色	床直一括	0.42	0.43	0.16 ～ 0.18	0.43	0.05	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
182	30	166	38	臼玉　2/6 欠	5Y6/1 灰色	床直一括	0.52	0.55	0.17 ～ 0.21	0.45	0.17	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
182	34	166	34	有孔円盤　一部欠	2.5Y6/1 黄灰色	床直一括	2.00	2.10	0.11 ～ 0.22 0.15 ～ 0.24	0.25	1.40	滑石　注記に床面とあるがポイントなし
186	8	118A	13	臼玉　完形	5Y6/1 灰色	床直	0.45	0.48	0.15 ～ 0.16	0.25	0.10	滑石
189	31	108	30	有孔円盤　一部欠	10BG4/1 暗青灰色	床直	2.45	2.90	0.20 ～ 0.30 0.15 ～ 0.25	0.45	6.30	滑石
189	32	108	31	臼玉　一部欠	5Y6/1 灰色	カマド	0.45	0.45	0.19 ～ 0.21	0.45	0.12	滑石
190	31	110	24	有孔円盤　一部欠	5Y4/2 灰オリーブ色	一括	2.15	2.20	0.20 ～ 0.21 0.10 ～ 0.20	0.25	2.30	滑石　出土位置記載なし
190	32	110	25	臼玉　完形	10GY4/1 暗緑灰色	床直	0,45	0,45	0.06 ～ 0.07	0,35	0.10	滑石
202	19	148	22	有孔円盤　完形	5Y4/2 灰オリーブ色	一括	2.00	2.35	0.15 ～ 0.16 0.15 ～ 0.20	4.50	3.70	滑石
203	49	147	61	管玉　1/2 以下	5Y3/1 オリーブ黒	床直	4.00	1.70	0.25 ～ 0.45	残厚　1.15	10.40	滑石
203	50	147	60	管玉　ほぼ完形	5Y6/2 灰オリーブ色	床直	1.80	0.30	0.11 ～ 0.15	0.30	0.30	ヒスイ
210	48	79	82	有孔円盤未製品	2.5GY5/1 オリーブ灰色	一括	2.70	4.20		0.30	6.10	滑石　孔は穿っていない
210	49	79	74	扁平勾玉　一部欠	7.5Y5/1 灰色	一括	4.75	1.30	0.15 ～ 0.16	0.50	7.40	滑石
213	23	87	23	有孔円盤　一部欠	7.5GY5/1 緑灰色	床 -14	2.70	2.90	0.20 ～ 0.27 0.17 ～ 0.30	0.60	5.80	滑石
215	47	159	24	扁平勾玉　一部欠	5Y5/1 灰色	床 +4	3.10	1.60	0.13 ～ 0.45	0.75	6.50	滑石
215	48	159	26	臼玉　ごく一部剥落	5Y6/1 灰色	一括	0.50	0.55	0.18 ～ 0.20	0.40	0.15	滑石
215	49	159	25	ガラス玉	スカイブルー	壁構内一括	0.42	0.42	0.10 ～ 0.11	0.30	0.07	
222	7	149	11	有孔円盤　1/2 強	5Y5/1 灰色	一括	2.25	1.80	0.11 ～ 0.24	0.50	3.70	滑石
240	39	72	24	勾玉　完形	緑　土色帖になし	床直	1.60	0.65	0.20 ～ 0.24	0.55	1.20	ヒスイ
243	23	106	41	有孔円盤　一部欠	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	床直	2.20	2.25	0.20 ～ 0.25 0.15 ～ 0.25	0.30	3.20	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量　（推定）cm /g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
243	24	106	42	臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	床直	0.40	0.42	0.13 ～ 0.14	0.18	0.07	滑石
246	34	105	21	有孔円盤未製品	2.5GY5/1 オリーブ灰色	一括	4.10	2.70		0.70	10.00	滑石
248	38	114	71	臼玉　2/6 欠	5GY6/1 オリーブ灰色	床直	0.54	0.55	0.14 ～ 0.16	0.30	0.10	滑石
248	39	114	72	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	床直	0.50	0.50	0.17	0.33	0.10	滑石
248	40	114	70	臼玉　完形	5GY6/1 オリーブ灰色	床直	0.50	0.53	0.14 ～ 0.19	0.25	0.17	滑石
282	28	34	33	大型臼玉　完形	5GY5/1 オリーブ灰色	一括	0.15	0.15	0.15 ～ 0.20	0.25	0.89	滑石
288	12	32B	13	有孔円盤　一部欠	5GT3/1 暗オリーブ灰色	一括	2.10	2.20	0.10 ～ 0.15 0.11 ～ 0.16	0.40	3.30	滑石
304	23	48	32	管玉　完形	5GY5/1 緑灰色	一括	2.70	0.70	0.4 ～ 0.2	0.70	2.20	滑石
321	14	88	16	有孔円盤　1/2 以下	7.5Y1/5 灰色	一括	2.10	3.70	0.14 ～ 0.16	0.30	3.80	滑石
348	14	65	25	有孔円盤　1/3 欠	2.5GY6/1 オリーブ灰色	床 -6	1.55	1.90	0.10 ～ 0.20	0.35	1.40	滑石
349	16	64	17	有孔円盤　一部欠	2.5GY6/1 オリーブ灰色	床 +3	2.00	2.20	0.10 ～ 0.20 0.15 ～ 0.21	0.30	2.60	滑石
351	13	４号溝	15	扁平勾玉　一部欠	2.5GY5/1 オリーブ灰色	一括	2.50	1.30	0.13 ～ 0.15	0.55	3.90	滑石
遺跡一括	38	（表採）	43	ガラス玉　1/6 欠	紺色	遺跡一括	0.34	0.36	0.10 ～ 0.11	0.22	0.06	滑石
遺跡一括	39	（表採）	44	ガラス玉　完形	淡いうぐいす色	遺跡一括	0.40	0.38	0.10 ～ 0.12	0.24	0.07	滑石
遺跡一括	40	（表採）	45-01	臼玉　１/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.59	0.15 ～ 0.16	0.30	0.14	滑石
遺跡一括	41	（表採）	45-02	臼玉　片面欠損	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.55	0.58	0.15 ～ 0.16	0.28	0.10	滑石
遺跡一括	42	（表採）	45-03	臼玉　１/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.56	0.60	0.15 ～ 0.17	0.29	0.17	滑石
遺跡一括	43	（表採）	45-04	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.61	0.69	0.11 ～ 0.15	0.40	0.25	滑石
遺跡一括	44	（表採）	45-05	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.69	0.58	0.15 ～ 0.16	0.30	0.15	滑石
遺跡一括	45	（表採）	45-06	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.60	0.14 ～ 0.16	0.30	0.20	滑石
遺跡一括	46	（表採）	45-07	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.63	0.63	0.14 ～ 0.15	0.18	0.11	滑石
遺跡一括	47	（表採）	45-08	臼玉　１/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.52	0.59	0.14 ～ 0.15	0.23	0.13	滑石
遺跡一括	48	（表採）	45-09	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.59	0.60	0.14 ～ 0.15	0.40	0.23	滑石
遺跡一括	49	（表採）	45-10	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.56	0.58	0.16 ～ 0.18	0.20	0.08	滑石
遺跡一括	50	（表採）	45-11	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.64	0.60	0.12 ～ 0.15	0.30	0.19	滑石
遺跡一括	51	（表採）	45-12	臼玉　１/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.55	0.60	0.15 ～ 0.16	0.30	0.13	滑石
遺跡一括	52	（表採）	45-13	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.61	0.14 ～ 0.16	0.40	0.26	滑石
遺跡一括	53	（表採）	45-14	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.59	0.59	0.15 ～ 0.17	0.28	0.14	滑石
遺跡一括	54	（表採）	45-15	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.60	0.18 ～ 0.25	0.41	0.19	滑石
遺跡一括	55	（表採）	45-16	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.62	0.14 ～ 0.15	0.30	0.19	滑石
遺跡一括	56	（表採）	45-17	臼玉　1/2 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.57	0.60	0.14 ～ 0.15	0.36	0.17	滑石
遺跡一括	57	（表採）	45-18	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.60	0.15 ～ 0.17	0.20	0.08	滑石
遺跡一括	58	（表採）	45-19	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.59	0.15 ～ 0.16	0.20	0.12	滑石
遺跡一括	59	（表採）	45-20	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.65	0.53	0.11 ～ 0.12	0.40	0.21	滑石
遺跡一括	60	（表採）	45-21	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.53	0.14 ～ 0.16	0.20	0.10	滑石
遺跡一括	61	（表採）	45-22	臼玉　１/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.49	0.58	0.15 ～ 0.16	0.13	0.07	滑石
遺跡一括	62	（表採）	45-23	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.57	0.59	0.14 ～ 0.16	0.23	0.12	滑石
遺跡一括	63	（表採）	45-24	臼玉　1/2 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.60	0.13 ～ 0.20	0.30	0.16	滑石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別	色調	出土位置	法　量（推定）cm/g					備考
				遺存度			長さ（径）	幅	孔	厚さ（高さ）	重量	
遺跡一括	64	（表採）	45-25	臼玉　1/3 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.60	0.14 ～ 0.18	0.25	0.12	滑石
遺跡一括	65	（表採）	45-26	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.58	0.17 ～ 0.20	0.30	0.16	滑石
遺跡一括	66	（表採）	45-27	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.62	0.63	0.15 ～ 0.17	0.31	0.20	滑石
遺跡一括	67	（表採）	45-28	臼玉　1/2 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.59	0.15 ～ 0.17	0.30	0.16	滑石
遺跡一括	68	（表採）	45-29	臼玉　1/2 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.60	0.16 ～ 0.17	0.30	0.16	滑石
遺跡一括	69	（表採）	45-30	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.59	0.14 ～ 0.18	0.30	0.16	滑石
遺跡一括	70	（表採）	45-31	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.56	0.17 ～ 0.20	0.21	0.16	滑石
遺跡一括	71	（表採）	45-32	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.56	0.59	0.17 ～ 0.18	0.23	0.16	滑石
遺跡一括	72	（表採）	45-33	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.60	0.15 ～ 0.17	0.20	0.13	滑石
遺跡一括	73	（表採）	45-34	臼玉　1/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.57	0.60	0.16 ～ 0.17	0.35	0.18	滑石
遺跡一括	74	（表採）	45-35	臼玉　1/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.60	0.12 ～ 0.16	0.25	0.13	滑石
遺跡一括	75	（表採）	45-36	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.64	0.68	0.15 ～ 0.16	0.20	0.15	滑石
遺跡一括	76	（表採）	45-37	臼玉　1/2 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.50	0.15 ～ 0.20	0.20	0.09	滑石
遺跡一括	77	（表採）	45-38	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.59	0.12 ～ 0.15	0.30	0.19	滑石
遺跡一括	78	（表採）	45-39	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.59	0.14 ～ 0.17	0.40	0.22	滑石
遺跡一括	79	（表採）	45-40	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.59	0.16 ～ 0.17	0.40	0.22	滑石
遺跡一括	80	（表採）	45-41	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.63	0.64	0.15 ～ 0.18	0.30	0.19	滑石
遺跡一括	81	（表採）	45-42	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.59	0.14 ～ 0.15	0.40	0.23	滑石
遺跡一括	82	（表採）	45-43	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.60	0.15 ～ 0.17	0.36	0.21	滑石
遺跡一括	83	（表採）	45-44	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.63	0.54	0.15 ～ 0.20	0.30	0.11	滑石
遺跡一括	84	（表採）	45-45	臼玉　1/2 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.64	0.55	0.16	0.38	0.11	滑石
遺跡一括	85	（表採）	45-46	臼玉　1/6 欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.62	0.62	0.16 ～ 0.20	0.29	0.17	滑石
遺跡一括	86	（表採）	45-47	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.58	0.61	0.13 ～ 0.15	0.30	0.22	滑石
遺跡一括	87	（表採）	45-48	臼玉　一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.62	0.60	0.14 ～ 0.15	0.35	0.24	滑石
遺跡一括	88	（表採）	45-49	臼玉　ごく一部剥落	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.60	0.60	0.15 ～ 0.17	0.32	0.16	滑石
遺跡一括	89	（表採）	45-50	臼玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	0.62	0.60	0.18 ～ 0.20	0.33	0.18	滑石
遺跡一括	90	（表採）	55	臼玉　一部欠	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	遺跡一括	0.75	0.90	0.20 ～ 0.25	0.90	1.00	滑石
遺跡一括	91	（表採）	60	管玉　完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	遺跡一括	1.60	0.45	0.15 ～ 0.17	0.45	0.50	滑石
遺跡一括	92	（表採）	53	勾玉　一部欠	7.5GY2/1 緑黒色	遺跡一括	2.00	1.20	0.25 ～ 0.26	0.70	2.60	滑石
遺跡一括	93	（表採）	52	扁平勾玉　一部欠	5Y4/2 灰オリーブ色	遺跡一括	3.20	1.70	0.15 ～ 0.25	0.60	6.20	滑石
遺跡一括	94	（表採）	58	有孔円盤　一部欠	5Y5/1 灰色	遺跡一括	2.40	2.80	0.19 ～ 0.30 0.20 ～ 0.30	0.40	4.20	滑石
遺跡一括	95	（表採）	57	有孔円盤（4 つ穴）	5G5/1 緑灰色	遺跡一括	3.35	3.20	0.14 ～ 0.51	0.50	8.60	滑石
遺跡一括	96	（表採）	54	有孔円盤　1/2 以下	7.5Y7/1 灰白色	遺跡一括	残長　1.20	2.00	0.10 ～ 0.30	0.40	1.60	滑石
遺跡一括	97	（表採）	56	有孔円盤　1/2 欠	5Y5/1 灰色	遺跡一括	3.00	残幅　0.85	0.20 ～ 0.40	0.45	4.00	碧玉

第18表　御林跡遺跡出土石器等観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm / g 長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	備考
6	8	S4	7	磨石 完形	2.5Y6/4 にぶい黄色	一括	6.00	5.90	3.80	188.0	石英斑岩　方形周溝墓内　　S4 と注記あり。
13	16	265	22	磨石、敲石 完形	7.5Y6/1 灰色	床 +7	11.00	8.10	7.00	920.0	輝石安山岩　端部の一箇所に弱い敲痕。
13	17	265	19	磨石 —	2.5Y6/4 にぶい黄色	一括	5.90	5.10	3.00	14.0	軽石
13	18	265	20	砥石 —	7.5YR4/4 褐色	一括	6.50	3.50	1.60	43.9	流紋岩
15	16	253A	17	敲石 一部欠	10YR4/3 にぶい黄褐色	一括	7.80	5.20	3.00	170.0	石英斑岩
17	44	254	71	凹石 両端部欠	7.5YR4/6 褐色	床 +3	8.30	10.60	3.50	550.0	砂岩　表裏の 2 箇所に窪み痕　欠けた箇所以外は磨りこまれる。
17	45	254	70	砥石 —	10YR4/2 灰黄褐色	一括	3.90	0.20	1.90	26.0	輝石安山岩
17	46	254	69	砥石 —	5Y8/2 灰白色	床 +5	8.40	7.30	6.50	408.0	凝灰岩
17	47	254	72	磨石 ほぼ完形	10YR6/2 灰黄褐色	床 +23	19.60	18.00	3.70	2050.0	閃緑岩
17	48	254	45	紡錘車 完形	7.5Y1/1 黒色	床 -5	3.90	4.10	1.80	32.6	滑石　孔径 0.8 ～ 0.65cm
33	21	224	25	スクレイパー 完形	7.5Y6/3 オリーブ黄色	一括	7.40	2.30	1.20	30.0	含石英流紋岩　旧石器の可能性高い。
33	22	224	24	磨製石斧 完形	10YR4/1 灰色	床直	4.90	4.00	1.40	51.7	輝石安山岩　　扁平片刃石斧　注記は床直　出土地点を示す平面図なし。
36	19	229	21	磨石 完形	10YR7/6 明黄褐色	床 +1	9.40	5.80	2.30	199.0	石英斑岩
40	13	233A	17	磨石、凹石 1/6 欠	2.5Y6/4 にぶい黄色	カマド密着	10.60	7.00	5.50	600.0	菫青石ホルンフェルス
43	11	226	13	凹石 —	2.5Y7/4 浅黄色	一括	4.70	4.10	4.00	12.0	軽石
43	12	226	14	磨石 —	2.5Y8/3 淡黄色	一括	3.10	3.00	3.00	5.4	軽石
49	6	230	6	凹石 一部欠	5Y6/2 灰オリーブ色	床 +12	10.80	3.10	2.80	178.0	変質流紋岩　石皿転用凹石
49	7	230	5	磨石 完形	10 Y 6/1 灰色	床 +3	12.80	4.80	4.30	417.0	ひん岩
53	30	240	24	磨石 完形	2.5Y6/3 にぶい黄色	一括	6.40	4.70	4.60	174.0	砂岩
58	54	217A	82	磨石 —	5YR5/3 にぶい黄褐色	一括	5.70	3.40	2.60	12.0	軽石
61	68	248	72	有角石斧刃部	7.5Y3/2 オリーブ黒色	床 +3	残長 6.40	残幅 5.40	残厚 2.20	103.0	輝石安山岩　接合には至らぬが石材が同一であり刃部と胴部の幅，厚さとも一致。遺跡一括報告番号 103 と同一個体。
61	69	248	73	磨製石斧 完形	5G3/1 暗緑灰	床直	4.50	1.30	9.00	11.4	黄緑岩　柱状片刃石斧
61	70	248	74	磨製石斧 約 1/2	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	周溝内一括	残長 4.40	残幅 2.50	残厚 2.50	46.0	ひん岩　刃部形状より抉入磨製石斧か？
61	71	248	75	磨製石斧 一部欠	7.5Y4/2 灰オリーブ色	一括	4.80	2.70	1.30	23.0	変黄緑岩　扁平片刃石斧
61	72	248	70	磨石 一部欠	10Y4/1 灰色	床 +15	残長 7.3	残幅 4.5	残厚 2.3	110.0	砂岩
61	73	248	69	磨石 ごく一部	10YR5/3 にぶい黄褐色	床 +5	残長 3.30	残幅 3.40	残厚 3.30	43.0	砂岩
61	74	248	71	磨石 ごく一部	10RY4/2 灰黄褐色	一括	残長 5.60	残幅 3.50	残厚 2.00	55.0	砂岩
61	75	248	68	磨石 —	10YR7/2 にぶい黄橙色	一括	4.60	4.40	3.10	18.7	軽石
61	76	248	67	磨石 —	10YR7/2 にぶい黄橙色	床直	4.10	4.90	3.70	22.1	軽石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm / g 長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	備考
62	14	250	8	磨製石斧 完形	10YR3/1 黒褐色	床直	12.20	7.00	3.90	620.0	斑れい岩
65	9	216	20	磨石 1/2 前後	5RY2/3 極暗赤褐色	床 +8	残長 8.70	残幅 7.80	残厚 5.60	450.0	砂岩
66	8	244A	26	磨石 —	10YR7/2 にぶい黄橙色	一括	4.70	3.60	3.50	16.0	軽石
68	25	215A	45	有孔石製品 2/3 前後	7.5YR4/6 褐色	一括	残長 5.30	3.30	2.30	41.0	流紋岩　貫通していないが径 6㎜の孔が穿たれている。
68	26	215A	44	磨石 一部欠	10YR5/4 にぶい黄褐色	一括	5.30	5.80	3.50	167.0	輝石安山岩
68	27	215A	46	磨石 —	10YR8/2 灰白	一括	8.40	5.20	4.80	360.0	軽石
68	28	215A	43	磨石 1/2 前後	2.5Y5/4 黄褐色	一括	残長 8.00	残幅 7.00	残厚 6.60	471.0	石英斑岩
71	25	214	23	磨石 —	2.5Y7/2 灰黄色	一括	3.90	4.40	4.00	18.0	軽石
72	18	245	22	敲石 一部欠	7.5GY3/1 暗緑灰色	一括	6.70	3.80	2.70	120.0	ひん岩
72	19	245	23	砥石 —	10YR6/4 にぶい黄橙色	一括	4.90	5.10	2.30	41.0	凝灰岩
73	13	246	17	磨石 1/2	10YR5/6 黄褐色	一括	13.50	6.30	4.30	345.0	凝灰岩　石皿転用磨石　一部凹面有り。
77	16	219	19	磨石 一部欠	10YR5/2 灰黄褐色	一括	8.60	5.80	3.80	230.0	砂岩
80	22	210B	31	磨石 完形	2.5Y6/3 にぶい黄色	床 +7	10.80	6.00	4.20	347.0	ホルンフェルス
80	23	210B	30	砥石 一部欠	7.5YR5/3 にぶい褐色	一括	6.20	3.80	1.80	46.1	砂岩
80	24	210B	29	砥石 1/2	10YR6/4 にぶい黄橙色	一括	残長 5.20	残幅 4.70	残厚 1.80	30.0	砂岩
82	15	212A	29	分胴形石斧 完形	5GY5/1 オリーブ灰色	一括	10.6	5.60	2.10	169.5	珪質千枚岩
84	32	208	38	磨石 完形	2.5Y5/4 黄褐色	床 +5	9.60	3.80	2.70	61.0	砂岩
87	14	205	20	磨石 —	10YR7/2 にぶい黄橙色	一括	5.70	4.60	4.30	17.9	軽石
88	15	204	32	磨製石斧 完形	5Y4/2 灰オリーブ色	床直	14.30	7.30	3.90	721.0	黄緑岩　　太型蛤刃石斧
88	16	204	33	磨製石斧 完形	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	一括	15.70	7.00	4.00	840.0	斑れい岩　　太型蛤刃石斧
88	17	204	31	磨製石斧 刃部の一部欠	2.5Y4/2 暗灰黄色	床直	8.90	3.30	2.20	92.0	砂岩　両刃石斧
89	8	203	13	磨石 —	2.5Y8/3 淡黄色	一括	4.10	3.00	2.50	5.6	軽石
90	19	188	22	磨石 一部欠	7.5YR5/4 にぶい褐色	一括	5.30	4.50	1.80	6.2	軽石
90	20	188	21	磨石 —	2.5Y7/3 浅黄色	一括	3.60	2.60	1.60	2.2	軽石
92	33	195	28	凹石 一部欠	5Y5/1 灰色	周溝内一括	13.50	11.60	37.00	918.0	ひん岩
92	34	195	31	敲石 完形	2.5Y5/4 黄褐色	一括	10.00	5.10	3.60	295.0	石英斑岩　　po1 と注記されるが、平面図には遺物記載なし。
92	35	195	30	磨石 完形	10RY4/4 褐色	一括	9.70	6.30	3.40	261.0	多孔質安山岩
92	36	195	29	凹石 完形	5YR3/4 暗赤褐色	一括	9.50	8.10	3.00	348.0	砂岩
92	37	195	34	石製模造品未製品	5G5/1 緑灰色	一括	残長 2.40	残幅 1.85	0.45	3.5	石英斑岩
92	38	195	35	磨石 —	10YR6/3 にぶい黄橙色	一括	3.40	2.30	1.80	4.0	軽石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm / g				備考
							長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	
93	7	202	7	磨石 完形	10YR3/3 暗褐色	一括	6.70	5.30	3.30	149.0	砂岩
95	10	201	19	砥石 一部欠	10YR4/3 にぶい黄褐色	一括	残長 8.90	残幅 4.20	残厚 1.30	71.0	砂岩
97	41	182A	40	磨石 —	10YR8/2 灰白色	一括	4.70	6.80	2.80	15.7	軽石
99	44	180	55	砥石 一部欠	2.5Y8/2 灰白色	床 -2	5.30	4.10	4.10	84.7	凝灰岩
99	45	180	50	剣形未製品	7.5Y3/1 オリーブ黒色	一括	2.95	1.80	0.45	2.5	滑石
102	28	197	32	磨石 —	2.5Y7/4 浅黄色	一括	8.40	7.30	3.30	32.0	軽石
104	12	196	13	砥石 ごく一部	2.5Y6/3 にぶい黄色	一括	残長 4.30	残幅 2.30	残厚 4.00	4.9	凝灰岩
104	13	196	14	石斧未製品	5Y4/1 灰色	床 +17	8.80	4.80	2.00	112.0	砂岩
108	17	125	28	磨石 完形	5YR4/3 にぶい赤褐色	床 -2	13.20	7.40	6.00	890.0	石英斑岩
108	18	125	30	砥石 1/2 ？	7.5Y8/2 灰白色	床直	残長 10.4	3.10	3.70	91.0	流紋岩
108	19	125	31	剥片	N2/ 黒	一括	2.80	1.70	0.40	1.7	黒曜石
110	36	130	40	磨石 一部欠	10YR8/2 灰白色	一括	5.00	3.50	2.40	8.6	軽石
110	42	130	41	紡錘車 ほぼ完形	2.5GY5/1 オリーブ灰色	床 +21	4.00	3.90	0.80	29.2	滑石　孔径 0.65 ～ 0.80cm
114	8	124	11	磨石、敲石 約 3/4	2.5Y7/3 浅黄色	床 -3	9.80	5.90	3.50	276.0	石英斑岩　右側面に敲痕有り。
117	14	126	17	磨石 2/3 ？	7.5YR4/4 褐色	一括	12.30	6.30	4.70	484.0	石英斑岩
117	16	126	18	砥石 端部欠	2.5Y5/3 黄褐色	一括	残長 5.90	残幅 1.50	残厚 1.10	10.0	凝灰岩　石剣未製品点用砥石
117	17	126	19	砥石 不明	10YR6/3 にぶい黄橙色	一括	残長 3.80	残幅 4.30	残厚 1.70	30.0	軽石質流紋岩
122	15	121	16	磨石 —	10YR7/4 にぶい黄橙色	一括	2.70	4.00	2.10	3.7	軽石
124	7	溝 5	8	凹石	5Y5/1 灰色	一括	残長 6.65	残幅 8,10	3.10	278.0	大型石皿を二次的に利用
125	28	194	32	凹石 ほぼ完形	7.5Y6/1 灰色	床直	15.00	9.60	8.30	1170.0	輝石安山岩
125	29	194	38	砥石 一部欠	10RY6/6 明黄褐色	カマド内	残長 8.50	残幅 4.50	残厚 2.00	79.0	砂岩
125	30	194	34	凸石 完形	7.5YR5/6 明褐色	床 +5	10.60	6.60	5.30	591.0	石英斑岩
125	31	194	35	凹石 完形	5Y6/3 灰オリーブ色	床直	11.20	7.50	3.10	370.0	流紋岩
125	32	194	33	磨石 ほぼ完形	10YR4/2 灰黄褐色	床 +5	10.10	6.20	3.80	350.0	砂岩
128	16	131B	21	石製模造品未製品	2.5GY5/1 オリーブ灰色	一括	18.50	5.30	1.00	14.7	滑石　両サイドに面を有するが、製品として完成していない。
128	17	131B	23	砥石、敲石 一部欠	10Y6/2 オリーブ灰色	一括	17.50	5.60	2.70	408.0	変質流紋岩
128	18	131B	22	磨石 1/2 前後	10YR4/1 灰色	一括	5.30	6.00	2.70	228.0	輝石安山岩
128	19	131B	19	磨石 —	10YR7/3 にぶい黄橙色	一括	4.50	3.00	2.70	5.5	軽石
128	20	131B	20	磨石 —	10YR7/3 にぶい黄橙色	一括	2.50	3.20	2.80	3.9	軽石
131	37	142	50	磨石 一部欠	2.5Y5/4 黄褐色	床 ;8	残長 7.20	6.40	4.20	252.0	砂岩

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量（推定）cm / g 長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	備考
131	38	142	52	磨石 1/2 強	10YR4/4 褐色	床 +17	残長 7.0	残幅 6.20	残厚 3.90	238.0	輝石安山岩　周溝内底より +26
131	39	142	49	磨石 完形	10YR3/3 暗褐色	床 +21	7.60	5.10	1.20	79.0	砂岩　タール付着か？
133	14	192	15	石皿 2/3 欠	5Y6/2 灰オリーブ色	一括	残長 11.1	残幅 4.9	残厚 5.8	450.0	輝石安山岩
134	43	143A	77	磨製石斧 刃部の一部欠	7.5Y5/2 灰オリーブ色	床直	3.30	1.40	1.00	8.2	変質流紋岩　柱状片刃石斧
134	44	143A	70	磨石、敲石 完形	10YR5/4 にぶい黄褐色	床 +28	13.5	5.2	4.2	520.0	石英斑岩
134	47	143A	69	紡錘車 1/2 弱	7.5Y4/1 灰色	床 +20	残長 2.70	4.10	1.50	18.4	滑石　孔径 0.80㎝
134	49	143A	71	磨石 一	7.5YR6/4 にぶい橙色	床直	5.60	4.40	2.90	8.9	軽石
134	50	143A	72	磨石 一部欠	2.5Y7/3 浅黄色	一括	3.70	3.40	2.30	6.2	軽石
136	20	144	25	磨石、敲石 1/2 強	2.5Y7/4 浅黄色	一括	残長 6.00	残幅 6.00	残厚 2.90	170.0	ホルンフェルス
136	21	144	24	磨石 完形	2.5Y4/2 暗灰黄色	床 +3	8.50	6.40	3.60	290.0	砂岩
136	22	144	26	磨石 一部欠	5Y4/3 暗オリーブ色	床	残長 7.20	残幅 6.20	22.00	125.0	砂岩
136	23	144	27	磨石 一	10YR8/3 浅黄橙色	一括	5.40	4.20	3.20	14.8	軽石
136	24	144	23	磨石 一部欠	5YR3/3 暗赤褐色	床 +3	残長 13.10	7.20	6.00	812.0	礫質砂岩
137	13	146	14	砥石 端部欠	2.5Y6/3 にぶい黄色	一括	残長 5.20	残幅 4.30	残厚 2.60	88.0	砂岩
137	14	146	15	磨石 3/4	10YR4/4 褐色	一括	残長 6.10	残幅 6.80	残厚 2.00	118.0	砂岩
137	15	146	13	磨石、敲石 一部欠	10YR7/8 黄橙色	一括	13.50	7.00	5.50	471.0	砂岩
139	50	132	42	磨製石斧 一部欠	10YR4/3 にぶい黄褐色	ピット 4 内 床 -43	9.20	4.40	2.50	182.0	砂岩　片刃石斧　ピット底より +22 の位置より出土。
139	51	132	45	砥石 一部欠	2.5Y7/6 明黄褐色	床 +7	残長 6.60	残幅 4.80	残厚 2.40	90.0	砂岩
139	52	132	43	磨石、敲石 完形	10YR5/6 黄褐色	一括	9.90	6.00	4.70	350.0	石英斑岩
141	4	145	9	磨石、敲石 完形	10YR7/2 にぶい黄橙色	一括	8.50	5.90	4.60	322.0	砂岩
142	17	138A	20	磨石 約 1/2	10YR5/2 灰黄褐色	一括	6.20	5.80	4.50	225.0	石英斑岩　石皿転用磨石
142	18	138A	19	磨石 約 1/4	5YR3/3 暗赤褐色	床直	6.50	5.80	5.90	336.0	石英斑岩
142	19	138A	21	環状石斧？ 1/4	5Y5/2 灰オリーブ色	一括	残長 5.80	残幅 6.50	残厚 1.90	65.0	輝石安山岩
143	24	134	33	磨石、凹石 完形	5Y6/1 灰色	一括	11.10	8.00	5.30	810.0	輝石安山岩
144	34	135	39	敲石 完形	2.5GY6/1 オリーブ灰色	床 +1	8.80	6.90	6.10	691.0	安山岩
144	36	135	41	砥石 一部欠	10YR7/3 にぶい黄橙色	床直	6.50	3.40	2.90	73.0	砂岩　タール付着。
144	37	135	40	砥石 1/6	7.5Y6/1 灰色	床直	残長 6.40	残幅 5.80	残厚 1.20	60.0	貢石
145	23	136	24	磨石 一	2.5Y8/2 灰白色	一括	3.90	3.30	1.90	5.5	軽石
148	16	141A	17	敲石 2/3 前後	7.5YR5/6 明褐色	床直	残長 9.90	残幅 8.40	残厚 5.70	520.0	石英斑岩
150	7	140	8	磨製石斧 完形	5GY4/1 暗オリーブ灰色	床直	17.30	7.80	4.10	1081.0	輝緑岩　太型蛤刃石斧

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm / g 長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	備考
150	8	140	9	磨製石斧 完形	7.5GY4/1 暗緑灰色	一括	11.80	3.90	3.85	338.0	輝緑岩　抉入石斧（横斧）
150	9	140	10	磨石、凹石 完形	5Y5/2 灰オリーブ色	床直	11.30	4.80	4.90	476.0	ホルンフェルス
153	13	185	15	磨石 完形	2.5Y5/3 黄褐色	一括	6.40	6.50	2.40	162.0	砂岩
153	14	185	14	磨石 完形	5YR3/3 暗赤褐色	一括	9.30	6.20	4.00	370.0	チャート
157	30	176A	46	磨石 —	2.5Y7/3 浅黄色	一括	2.40	3.30	1.70	2.5	軽石
157	31	176A	45	磨石 1/2 前後	2.5Y4/2 暗灰黄色	一括	9.30	5.40	5.80	320.0	砂岩
159	58	173	134	磨石 完形	2.5YR7/3 浅黄色	床 -14	8.90	4.50	3.50	220.0	石英斑岩
159	59	173	35	磨石 —	2.5Y7/3 浅黄色	一括	8.10	4.10	3.70	20.0	軽石
159	60	173	40	磨石 一部欠	N3/ 暗灰色	床 +7	残長 14.4	7.10	5.40	1002.0	ホルンフェルス
161	19	172	26	砥石 完形	10YR6/3 にぶい黄橙色	床 +5	14.60	8.60	2.70	319.0	砂岩
161	20	172	25	磨石 1/2 前後	10GY5/1 緑灰色	床 +7	残長 10.40	残幅 6.30	残厚 4.50	378.0	火山礫凝灰岩
161	21	172	24	磨石 1/2 前後	10YR4/4 褐色	一括	残長 5.30	残幅 2.30	残厚 1.40	21.0	砂岩
166	9	169	29	凹石 ほぼ完形	7.5Y6/1 灰色	床直	7.20	6.10	2.80	230.0	砂岩ホルンフェルス
169	4	155	3	磨石、敲石 完形	10YR4/4 褐色	一括	7.50	3.80	3.50	154.0	砂岩
170	45	154	23	磨石 —	10YR6/2 灰黄褐色	一括	4.90	3.60	2.30	6.4	軽石
170	48	154	25	紡錘車 ごく一部欠	10Y5/1 灰色	床直	4.00	4.00	1.20	28.1	滑石　孔径 0.70 ～ 0.80cm
173	13	152	16	磨石、敲石 完形	2.5Y7/4 浅黄色	床 +3	9.60	5.70	3.90	264.0	含石英流紋岩
174	16	151	19	打製石斧 完形	5Y6/3 オリーブ黄色	床 +4	10.50	6.90	3.00	270.0	デイサイト
178	15	178	19	磨石、凹石 約 1/2	10YR7/2 にぶい黄橙色	床直	6.00	7.90	44.00	228.0	輝石安山岩　弱い敲痕有り。
178	16	178	20	磨石 完形	10YR5/2 灰黄褐色	床 +4	8.90	4.10	3.10	151.0	輝石安山岩
179	15	167	36	石錘 完形	10YR5/8 黄褐色	一括	5.30	2.80	1.80	40.0	輝石安山岩
180	13	168A	32	砥石 1/2 強	10RY7/6 明黄褐色	床直	残長 14.80	残幅 5.90	残厚 6.40	502.0	流紋岩
180	14	168A	31	石剣 基部 1/2	7.5YR5/3 にぶい褐色	床 +10	残長 9.60	残幅 4.20	残厚 1.40	83.0	ホルンフェルス
181	37	168B	47	磨石 一部欠	10YR6/3 にぶい黄橙色	床直	残長 9.3	5.20	残厚 3.10	200.0	石英斑岩
181	38	168B	48	磨石 3/5	10YR6/6 明黄褐色	一括	残長 7.9	残幅 5.5	残厚 3.5	200.0	凝灰岩
182	33	166	40	磨石 —	10YR6/3 にぶい黄橙色	床 +28	4.60	4.80	3.60	12.4	軽石
186	11	118A	11	磨石、敲石 約 1/2	2.5Y3/2 黒褐色	床 -4	11.30	4.10	3.90	210.0	砂岩
186	12	118A	12	石斧未製品 完形	10YR5/8 黄褐色	一括	残長 5.80	残幅 4.20	残厚 1.80	52.0	菫青石ホルンフェルス
186	13	118A	10	磨製石斧 刃部の一部欠	7.5Y5/1 灰色	一括	5.20	2.10	8.00	18.6	輝石安山岩　扁平片刃石斧
188	12	117	15	磨石 —	2.5Y8/2 灰白色	一括	4.10	3.80	3.80	14.3	軽石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm / g 長さ（径）	 幅（孔）	 厚さ（高さ）	 重量	備考
189	29	108	28	磨石、敲石 2/5	2.5Y5/2 暗灰黄色	床直	残長 10.6	残幅 7.8	3.60	380.0	砂岩　石皿転用磨石　一部凹面有り。
189	30	108	29	石斧未製品？ 原石の 3/4	5Y6/2 灰オリーブ色	床 +13	残長 10.6	残幅 2.90	残厚 3.10	83.0	凝灰岩　抉入磨製石斧未製品
190	30	110	22	磨石、敲石 完形	5Y3/2 オリーブ黒色	床 +2	11.40	6.20	4.20	383.0	砂岩
192	16	116	17	磨石 一部欠	10YR6/3 にぶい黄橙色	床 +3	残長 7.30	残幅 4.50	残厚 1.30	50.0	砂岩
192	17	116	16	磨石、敲石 完形	10YR6/4 にぶい黄橙色	床 +3	7.20	4.30	1.60	60.0	ひん岩
195	20	102	21	磨石、敲石 一部欠	2.5YR3/3 にぶい赤褐色	床直	9.60	4.60	4.00	280.0	砂岩　一部凹面有り。
195	21	102	22	磨石 完形	2.5Y6/2 灰黄色	床直	8.00	2.65	1.40	49.0	砂岩
196	14	127	16	磨石 —	10YR7/2 にぶい黄橙色	床直	7.50	4.60	3.00	22.8	軽石
199	11	101	16	磨石 一部欠	2.5Y6/3 にぶい黄色	床 +5	8.00	7.30	3.50	210.0	砂岩
199	12	101	15	磨石、凹石 一部欠	5Y7/2 灰色	床 +15	残長 10.4	6.00	4.40	320.0	砂岩
202	15	148	21	磨製石斧 完形	5Y4/1 灰色	床 -10	7.40	1.30	4.90	29.0	デイサイト　柱状片刃石斧　図面よりピット 1 より出土と判断した。
202	16	148	23	磨石 1/4 欠	10YR5/3 にぶい黄褐色	一括	残長 5.20	残幅 3.70	残厚 2.30	64.0	砂岩
203	48	147	62	磨製石斧 完形	N1.5/ 黒色	床直	3.20	11.50	10.50	8.4	珪質頁岩　柱状片刃石斧
203	53	147	65	砥石 一部欠	10YR6/3 にぶい黄橙色	一括	残長 5.00	残幅 7.00	残厚 4.70	206.0	砂岩
203	54	147	64	磨製石斧 2/3 前後	2.5Y5/2 暗灰黄色	床 +5	残長 7.10	残幅 3.20	残厚 11.0	30.0	流紋岩　扁平片刃石斧
203	55	147	63	磨石 一部欠	10YR4/4 褐色	床 +7	残長 6.30	残幅 3.80	残厚 1.20	42.0	砂岩
208	6	81	6	磨石 —	2.5Y7/4 浅黄色	一括	7.60	5.40	3.50	22.0	軽石
210	43	79	79	磨石 一部欠	2.5Y7/2 灰黄色	一括	5.10	4.20	3.00	9.2	軽石
210	44	79	76	磨石 完形	10YR6/4 にぶい黄橙色	床 +12	10.30	5.20	3.40	296.0	石英斑岩
210	46	79	81	磨石 一部欠	2.5Y7/3 浅黄色	一括	4.90	4.20	3.70	13.9	軽石
210	47	79	77	磨石 完形	2.5Y5/3 黄褐色	床直	10.8	7.10	4.50	520.0	砂岩
210	50	79	73	紡錘車 ごく一部欠	10YR5/3 にぶい黄褐色	一括	4.00	4.10	1.40	30.1	滑石　孔径 0.6cm
213	22	87	24	磨石 —	2.5Y3/4 オリーブ褐色	床直	6.30	6.90	5.50	50.0	軽石
215	42	159	27	磨石 一部欠	10YR4/4 褐色	床 +7	残長 6.60	残幅 4.10	残厚 9.00	29.0	砂岩
215	43	159	28	磨石 約 1/8	2.5Y4/2 暗灰黄色	床 +3	残長 5.60	残幅 5.5	2.90	123.0	輝石安山岩
215	44	159	29	磨石 両端部欠	2.5Y4/2 暗灰黄色	一括	6.40	6.00	3.80	226.0	砂岩
215	45	159	62	石剣？	5YR3/6 赤褐色		残長 216.0	残幅 61.0	残厚 36.0	521.0	頁岩　215 号住居跡より 54 点出土中 37 点接合。その他 336 号住居跡出土の 1 点、173 号住居跡出土の 1 点と接合する。
215	46	159	30	磨石 —	10YR7/2 にぶい黄橙色	床 +4	3.50	2.60	2.70	4.3	軽石
222	8	149	9	磨石 —	2.5Y7/2 灰黄色	一括	3.00	2.40	1.90	2.6	軽石
224	15	261	12	磨石 一部欠	5YR3/6 赤褐色	一括	9.10	5.50	1.90	151.0	砂岩

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm / g 長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	備考
224	16	261	14	尖頭器 先端部のみ	10YR5/6 黄褐色	一括	4.30	2.80	1.00	13.5	黒色緻密安山岩　旧石器
226	7	260	11	磨石 —	2.5Y7/3 浅黄色	一括	3.40	2.90	1.50	2.5	軽石
226	8	260	10	磨石 —	2.5Y7/3 浅黄色	一括	4.20	2.90	2.10	5.1	軽石
226	9	260	9	磨石 —	2.5Y7/3 浅黄色	一括	4.10	3.70	3.30	8.5	軽石
226	10	260	12	磨石 —	10YR8/2 灰白色	一括	3.30	3.30	2.30	6.5	軽石
227	24	262A	31	磨石 —	10YR7/4 にぶい黄橙色	一括	8.20	6.20	3.80	48.0	軽石
234	6	75	11	砥石 両端部欠	10YR6/3 にぶい黄橙色	一括	4.95	2.55	1.60	22.0	流紋岩
235	6	77A	5	磨製石斧 刃部の一部欠	7.5Y6/1 灰色	床 +21	9.20	3.50	2.30	148.0	黄緑岩　片刃石斧
235	7	77A	6	砥石 一部欠	7.5YR6/6 橙色	床 +6	5.10	5.60	2.30	72.4	流紋岩
238	14	73	20	凹石 1/2 以下	10YR6/3 にぶい黄橙色	一括	残長 4.30	5.70	3.50	62.8	軽石質流紋岩　石皿転用凹石
239	6	78	21	砥石 一部欠	10YR4/3 にぶい黄褐色	一括	11.50	4.80	3.10	218.0	凝灰質砂岩
239	7	78	22	磨石 —	10YR6/3 にぶい黄橙色	一括	6.30	5.30	2.40	15.1	軽石
240	34	72	19	砥石 1/2 以上	10YR6/4 にぶい黄橙色	一括	9.00	6.50	3.10	180.0	砂岩
240	35	72	22	磨石 一部欠	10YR8/2 浅黄橙色	カマド内	6.50	9.70	5.10	226.0	軽石質流紋岩　石皿転用磨石
240	36	72	23	敲石 一部欠	2.5YR4/6 赤褐色	床 +3	9.20	4.00	3.90	210.0	砂岩　石の欠けた部分と打痕との区別が非常につきにくいが、図面上では打痕として表現。
240	37	72	21	砥石 1/2 前後	2.5Y6/3 にぶい黄色	床直	8.60	4.20	3.30	114.0	砂岩
240	38	72	20	砥石 両端部欠	2.5Y6/3 にぶい黄色	床直	5.20	6.50	2.30	118.0	砂岩
241	28	70	30	石皿 —	10YR5/2 灰黄褐色	床 +5	（23.50）	（149.00）	10.40	3940.0	輝石安山岩
241	29	70	32	紡錘車 一部欠	10YR2/1 黒色	床 +9	4.80	4.80	1.30	39.9	滑石　孔径 0.90 ～ 0.95cm
241	30	70	34	紡錘車 ほぼ完形	10YR4/4 褐色	床直	4.60	4.50	1.50	41.5	滑石　孔径 0.60 ～ 0.75cm
241	31	70	31	紡錘車 一部欠	5Y5/2 灰オリーブ色	床直	4.00	4.05	14.50	39.3	滑石　孔径 0.60 ～ 0.70cm　床直出土位置不明
241	32	70	33	紡錘車 ほぼ完形	5Y3/1 オリーブ黒	床直	4.40	4.30	1.20	31.5	滑石　孔径 0.6cm
243	25	106	40	紡錘車 ほぼ完形	2.5GY5/3 黄褐色	土壙	4.70	4.70	0.90	29.4	滑石　孔径 0.75 ～ 0.85cm　H106 土壙内より出土
244	6	107	10	紡錘車 ごく一部欠	7.5GY5/1 緑灰色	床 +6	3.75	3.80	1.40	25.9	滑石　孔径 0.70 ～ 0.80cm
246	32	105	19	砥石 1/2 前後	2.5Y8/2 灰白色	一括	残長 101.0	5.60	5.00	372.0	流紋岩
246	33	105	20	磨石 一部欠	10YR5/3 にぶい黄褐色	一括	7.90	3.05	3.10	91.0	砂岩
248	35	114	67	紡錘車 1/2 弱	7.5GY5/1 緑灰色	床直	残長 2.70	残幅 4.40	0.90	13.0	滑石孔計測不可
248	36	114	63	磨石、敲石 完形	7.5YR4/4 褐色	床 +8	119.00	60.00	33.00	301.0	礫質砂岩
248	37	114	68	磨石 —	7.5YR4/6 褐色	一括	残長 3.80	残幅 3.90	残厚 19.50	37.0	砂岩
248	41	114	69	剥片	N2/ 黒	一括	3.20	2.00	0.85	4.1	黒曜石

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm / g 長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	備考
249	16	113	3	磨製石斧 刃部の一部欠	5GY4/1 暗オリーブ灰色	床 +7	5.20	2.90	1.40	42.0	黄緑岩　扁平片刃石斧
254	10	94	5	凹石 一	7.5YR4/4 褐色	床 +4	7.50	6.50	6.40	82.0	軽石
255	22	36	24	磨石　敲石 完形	5Y6/2 灰オリーブ色	一括	5.10	2.90	1.10	27.1	砂岩
255	23	36	27	磨石 一	5Y7/1 灰白色	一括	6.70	5.00	2.50	14.6	軽石
255	24	36	23	磨石 完形	7.5Y5/1 灰色	床直	11.80	5.50	4.90	460.0	石英斑岩
255	25	36	26	磨石 一	5Y7/2 灰白色	一括	10.60	6.80	4.50	68.0	軽石
258	7	98	6	紡錘車 ごく一部欠	5Y2/1 黒色	一括	4.35	4.50	1.05	34.5	滑石　孔径　0.70 ～ 0.80cm
260	4	89B	6	凹石 一部欠	2.5Y7/2 灰黄色	床直	4.60	4.00	3.70	46.7	軽石質流紋岩
261	25	96	27	磨石 完形	7.5Y6/2 灰オリーブ色	床 +12	9.90	3.80	2.80	174.4	砂岩
261	26	96	26	磨石、凹石 一	2.5Y7/3 浅黄色	床 +11	残長 14.00	残幅 6.80	5.00	421.0	軽石質流紋岩
262	12	89A	14	磨石、敲石 端部欠	7.7YR5/4 にぶい褐色	一括	残長 7.20	残幅 4.10	残厚 3.40	176.0	砂岩　石棒転用磨石
263	31	91	32	凹石 完形	10Y6/2 灰黄褐色	床 +30	11.00	7.00	3.90	490.0	石英班岩
264	20	90	28	磨石 両端欠	10YR5/3 にぶい黄褐色	一括	残長 6.00	2.50	1.50	24.1	軽石質流紋岩
264	21	90	27	磨石 一	10YR6/3 にぶい黄橙色	一括	5.30	5.10	3.40	59.1	軽石質流紋岩
270	51	58	14	磨石 完形	7.5YR3/2 黒褐色	一括	7.50	4.00	3.00	131.0	石英斑岩
270	52	58	20	凹石 一部欠	7.5Y3/3 暗褐色	床 +7	残長 7.30	残幅 7.60	残厚 4.80	147.0	砂質凝灰岩　石皿転用凹石
270	53	58	15	磨石、敲石 完形	2.5Y5/3 黄褐色	床 -23	8.40	4.10	3.30	197.0	砂岩　貯蔵穴底より +7
270	54	58	16	凹石 1/2 強	2.5Y5/2 暗灰黄色	一括	残長 5.40	残幅 5.20	残厚 3.60	161.0	輝石安山岩
270	55	58	17	磨石 一部欠	10YR7/3 にぶい黄橙色	一括	3.70	3.50	1.90	3.7	軽石
270	56	58	19	磨石 一部欠	2.5Y6/2 灰黄色	一括	6.90	4.60	3.10	20.0	軽石
270	57	58	18	磨石 一部欠	10YR8/3 浅黄橙色	一括	5.00	5.30	3.20	17.2	軽石
271	7	69	9	磨石 一	2.5Y7/3 浅黄色	一括	5.20	4.70	2.80	8.8	軽石
272	49	57	59	磨製石斧 一部欠	7.5Y3/2 オリーブ黒色	床直	15.50	残幅 80.0	2.20	210.0	輝石安山岩　有角石斧
272	50	57	58	砥石 部分的に欠	2.5Y4/3 オリーブ褐色	周溝内底より +10	残長 11.00	残幅 6.70	残厚 4.50	305.0	砂岩石皿転用砥石　同一個体 95g 含む
272	51	57	57	紡錘車 一部欠	5Y4/1 灰色	一括	4.60	4.75	1.20	32.9	滑石　孔径 0.60 ～ 0.65cm
273	22	60	30	磨石 完形	2.5YR6/3 にぶい黄色	床直	7.60	6.80	1.50	100.0	砂岩　石皿転用磨石
273	23	60	29	磨石、敲石 完形	5YR3/4 暗赤褐色	床直	12.50	7.40	6.40	800.0	石英斑岩
278	14	266	12	磨石 1/2 以下	10YR4/3 にぶい黄褐色	炉内 -10	残長 7.50	残幅 6.10	残厚 2.10	131.0	砂岩　石斧転用磨石
282	26	34	34	磨石、敲石 4/5	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	床直	8.70	6.20	残厚 5.4	420.0	石英斑岩
282	27	34	36	砥石 ごく一部	7.5YR6/4 にぶい橙色	一括	残長 3.90	残幅 4.90	残厚 2.70	40.0	流紋岩

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm / g 長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	備考
288	11	32B	12	砥石 端部欠	10YR5/3 にぶい黄褐色	一括	残長 6.60	残幅 4.20	残厚 3.30	119.0	流紋岩 32B
295	28	22A	25	磨石 一	10YR6/6 明黄褐色	床 -3	7.20	7.90	4.40	41.0	軽石
295	29	22A	33	磨石、敲石 1/2 ？	2.5Y4/3 オリーブ褐色	床 +6	残長 8.80	残幅 6.20	残厚 4.00	330.0	礫質砂岩カマド密着
295	30	22B	1	砥石 完形	2.5Y7/3 浅黄色	床 +1	残長 14.80	5.90	4.70	619.0	流紋岩
299	5	18	5	石皿 1/6 ？	2.5Y6/2 灰黄色	一括	6.90	5.90	5.45	120.0	軽石質流紋岩
301	7	39	19	凹石 約 3/5	2.5Y6/3 にぶい黄色	一括	7.20	6.20	3.60	158.0	軽石質流紋岩
302	3	37	12	磨石 ごく一部	2.5Y7/3 浅黄色	床 +13	残長 8.20	残幅 4.30	残厚 3.30	118.0	軽石質流紋岩　石皿転用磨石
304	24	48	65	磨石 一	10YR6/1 褐灰色	一括	8.00	4.00	3.50	19.4	軽石
306	2	50	2	砥石 先端部欠	2.5Y5/2 暗灰黄色	一括	5.20	2.75	1.20	20.0	軽石質流紋岩
308	6	44	11	石皿 完形	5Y5/2 灰オリーブ色	床 -5	23.80	17.00	8.20	4450.0	デイサイト
308	10	44	9	磨石、敲石 完形	5Y5/1 灰色	床 +6	8.90	6.80	4.40	385.0	砂岩
310	7	45	7	磨石 1/2 ？	10RY5/2 灰黄褐色	一括	残長 3.00	残幅 2.90	残厚 1.60	18.0	軽石質流紋岩
310	8	45	6	磨石 一	10YR5/2 灰黄褐色	一括	8.20	4.80	7.20	57.0	軽石
314	10	42	11	磨石 一	2.5Y8/4 淡黄色	床 +5	8.00	7.10	5.50	39.0	軽石
319	7	95	8	磨石 一部欠	10YR6/2 灰黄褐色	床直	残長 11.2	3.90	4.40	390.0	砂岩
319	8	95	7	磨石 3/4 前後	7.5YR5/4 にぶい褐色	床 +4	残長 7.80	残幅 4.80	残厚 3.30	162.0	砂岩
319	9	95	9	磨石、敲石 3/4	7.5YR5/4 にぶい褐色	床直	残長 8.70	残幅 5.40	残厚 4.50	196.0	砂岩
320	7	15	7	砥石 端部欠	2.5Y6/2 灰黄色	床 +9	8.25	5.50	1.85	100.0	砂岩
321	12	88	2	磨石 3/4	7.5Y6/2 灰オリーブ色	床	残長 8.90	残幅 5.40	残厚 3.20	180.0	砂岩
321	13	88	1	磨石、敲石 約 1/2	10YR3/1 黒褐色	床 +0	7.50	6.50	2.30	163.0	砂岩
322	45	55A	43	磨石、凹石 完形	10YR5/2 灰黄褐色	床 +25	7.25	7.35	4.20	320.0	安山岩　着色部に鋭利な刃物等を磨り込んだ痕跡がある。
322	46	55A	44	磨石、敲石 1/2 ？	7.5YR5/6 明褐色	床直	5.70	4.60	4.00	154.0	砂岩
324	11	54	8	磨石 完形	10Y7/1 灰白色	一括	4.90	3.50	2.70	45.0	軽石質流紋岩
324	12	54	9	磨石 完形	5Y6/2 灰オリーブ色	床 +3	7.70	5.10	4.50	200.0	砂岩
326	11	土壙 2	3	磨石 1/2 以下	7.5Y5/1 灰色	一括	3.90	4.80	1.50	50.2	輝緑岩
329	12	12	6	砥石 端部欠	5Y6/2 灰オリーブ色	一括	6.65	5.70	2.55	102.0	凝灰質砂岩
329	13	12	5	磨石 完形	5GY5/1 オリーブ灰色	一括	9.35	5.30	2.20	158.0	礫質砂岩　２点に割れるが接合。
329	14	12	7	磨石 端部欠	5Y7/2 灰白色	床直	3.60	3.50	1.55	20.0	砂岩
330	8	13	8	砥石 一部欠	2.5Y6/3 にぶい黄色	床直	残長 9.70	残幅 5.10	残厚 2.80	140.0	流紋岩
332	12	10	5	砥石 両端部欠	2.5Y7/3 浅黄色	床直	16.35	5.50	3.60	490.0	流紋岩

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別 遺存度	色調	出土位置	法　量　（推定）cm / g 長さ（径）	幅（孔）	厚さ（高さ）	重量	備考
333	8	7	9	磨石 一	10YR6/3 にぶい黄橙色	床直	9.15	5.30	4.10	35.6	軽石
336	54	63	76	砥石 ごく一部	10YR7/3 にぶい黄橙色	一括	5.00	5.20	3.50	90.0	軽石質流紋岩　石皿転用砥石
336	55	63	78	磨石 一部欠	2.5Y5/3 黄褐色	一括	3.90	3.50	2.70	9.9	軽石
336	56	63	79	凹石 ごく一部	10YR4/2 灰黄褐色	床 +4	10.2	9.2	7.5	470.0	多孔質安山岩　石皿転用凹石
336	57	63	77	磨石 一	10YR6/2 灰黄褐色	一括	4.00	2.30	2.00	7.3	軽石
338	9	5	13	磨石 完形	10YR5/3 にぶい黄褐色	床 +5	8.20	4.70	1.40	70.0	砂岩
342	25	6B	19	磨石 一	10YR5/2 灰黄褐色	一括	5.20	3.60	3.60	24.5	軽石
342	26	6B	26	砥石 端部欠	2.5Y6/3 にぶい黄色	一括	2.80	3.00	2.50	17.8	軽石質流紋岩
343	38	6A	43	磨石 一部欠	2.5Y6/2 灰黄色	床 +4	6.05	4.80	4.50	29.1	軽石
344	10	4	11	砥石 一部欠	2.5Y6/3 にぶい黄	床直	9.25	5.00	3.65	200.0	軽石質流紋岩
345	8	3	8	磨石 一	5GY6/1 オリーブ灰	一括	9.40	4.15	4.20	165.0	砂岩
346	18	2	20	磨石 両端部欠	10YR7/4 にぶい黄橙色	床直	3.35	3.10	3.05	27.5	軽石質流紋岩
349	14	64	15	石皿 1/2 以上	2.5Y 灰黄色	床直	7.80	5.60	3.20	170.0	軽石質流紋岩
349	15	64	16	磨石 約 1/2	2.5Y 灰黄色	床 +9	10.10	5.80	6.40	550.0	輝石安山岩　タール付着
352	8	3 号溝	21	凹石 一部欠	10YR3/2 黒褐色	一括	9.30	6.00	3.80	342.0	輝石安山岩
352	9	3 号溝	22	石皿 一部欠	2.5Y6/2 灰黄色	一括	7.80	5.60	3.30	113.0	砂岩
352	10	3 号溝	23	磨石、凹石 1/2 以下	2.5Y6/3 にぶい黄色	一括	残長 5.50	4.50	3.50	135.0	石英斑岩
352	11	3 号溝	20	磨石、凹石 約 1/2	2.5Y5/3 黄褐色	一括	11.20	4.00	4.30	324.0	砂岩　右側面に敲痕有り
遺跡一括	98	表採	59	紡錘車 一部欠	10Y5/1 灰色		4.20	4.30	11.00	26.8	滑石　孔径 0.70cm
遺跡一括	99	表採	47	スクレイパー 完形	10YR5/2 灰黄褐色		7.10	5.50	2.40	77.1	珪質頁岩　両面加工礫器
遺跡一括	100	表採	48	スクレイパー 完形	10YR4/4 褐色		4.80	5.80	1.00	33.3	黒色緻密安山岩　旧石器
遺跡一括	101	表採	46	ナイフ形石器	N2/ 黒		4.00	1.90	0.90	6.6	黒曜石　旧石器
遺跡一括	103	表採	61	有角石斧胴部	7.5Y3/2 オリーブ黒色		12.80	5.20	2.50	220.0	輝石安山岩　推定長 16.5, 推定幅 8.00, 推定厚 2.70cmに復元できる。
遺跡一括	104	表採	42	磨石 一部欠	2.5Y7/2 灰黄色		5.00	3.20	3.00	10.6	軽石

報告書抄録

ふりがな	いちはらしおはやしあといせき　に
書名	市原市御林跡遺跡Ⅱ
副書名	
巻次	
シリーズ名	市原市国分寺台遺跡調査報告書
シリーズ番号	ⅩⅧ
編著者名	木對和紀・藤根　久・長友純子・渡辺　新・鶴岡英一・上　奈穂美
編集機関	市原市教育委員会
所在地	〒290－0011　千葉県市原市能満1489番地　℡0436（41）9000
発行年月日	2008年　3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
御林跡遺跡 辺田古墳群	千葉県市原市 根田一丁目	12219	OH	35° 29′ 54″	140° 6′ 38″	19770401 ～ 19780331	12,000㎡	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
御林跡遺跡 辺田古墳群	集落 墳墓	縄文時代	土坑	2基	縄文土器（早期～前期・中期・後期）	弥生時代では太型蛤刃石斧・有角石斧・板状鉄斧などが検出された。 古墳時代では前期住居跡より内行花文鏡が検出された。中期和泉式期には、県内でも早い段階で住居にカマドが附設され、初期須恵器も豊富な標識的遺跡である。 終末期古墳主体部からは2体の人骨が検出されている。
		弥生中期	竪穴住居跡	35軒	弥生土器（中期～後期） 土師器・須恵器（古墳） 石器（縄文・弥生） 石製品（紡錘車・砥石・滑石製模造品など） 土製品（土製支脚・管状土錘・土玉など） 鉄製品（鏃･鎌･斧など） 青銅器（内行花文鏡など）	
			方形周溝墓	6基		
			土壙墓	1基		
			再葬墓	3基		
			溝	1条		
		弥生後期	竪穴住居跡	58軒		
			方形周溝墓	2基		
			土壙墓	3基		
		弥生終末期	竪穴住居跡	18軒		
		（古墳前期初頭）	方・円形周溝墓	3基		
		古墳前期	竪穴住居跡	84軒		
			土坑	2基		
		古墳中期前半	竪穴住居跡	71軒		
			土坑	3基		
		古墳中期後半	竪穴住居跡	21軒		
			土壙墓	1基		
		古墳終末期	古墳	1基		
			竪穴住居跡	21軒		
			土坑	1基		
		時期不詳	竪穴住居跡	1軒		
			土坑	12基		
			溝	2条		

要　約	弥生時代中期末葉～古墳時代中期後半まで連綿と栄えた集落跡で、有角石斧や板状鉄斧、内行花文鏡、初期須恵器などを検出した。特に初期須恵器は豊富に出土し、共伴する土師器との併行関係を検討できる重要な遺跡である。なお、更に詳細な検討を加えれば、弥生時代中期末葉～古墳時代中期後半までの土器変遷を掴むことができる数少ない遺跡の一つであり、古代房総を代表する集落跡といえる。 古墳時代後期初頭の段階には、これまで繁栄していた集落が突然消滅し、およそ１世紀の空白を隔て再び集落が営まれる。しかし、往来の繁栄を極めることなく、奈良時代の幕開けを前に集落は終焉を迎える。古墳時代終末期の方墳埋葬施設より検出された人骨２体は、まぎれも無くこの当時御林跡遺跡周辺で生活を営んでいた人々の埋葬遺体であり、当時の生活環境を検討する上で貴重な資料といえよう。 弥生時代終末期（古墳時代前期初頭）から古墳時代前期の敲甕やＳ字甕は、胎土分析の結果、その大半が在地的な胎土で整形されていたが、一部に非在地的な胎土で焼成されている製品が存在していた。今後この種の分析結果については、十分な留意が必要であろう。

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書　第５集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅧ

市原市御林跡遺跡Ⅱ

平成20年３月24日　　発行

編集発行　　市原市教育委員会
(市原市埋蔵文化財調査センター)
市原市能満1489番地
TEL 0436(41)9000

印　　刷　　㈱ぎょうせい